

# 日本医科大学研究業績年報

## 第 58 卷

Nippon Medical School Research Annual

Vol. 58

平成 23 (2011) 年度

April 2011 — March 2012



# ま え が き

学長 田 尻 孝

今年も研究業績年報が出来上がりました。これは本学の研究者の activity を公表するものであり、これを見れば研究機関としての本学の現状が一目瞭然であります。毎年この時期になると今年の業績は果たして増えたのか、内容はどうだったのかと通信簿をもらう前のような緊張感を覚えるものです。2011年の業績として、学会発表は4,499題と直近3年間では最も多かったのですが、論文数1,634篇と2005年以降最も少なく著書数も475篇と前年度より100篇以上減っており、満足できる結果ではありませんでした。研究機関の業績はもちろん数だけで評価できませんが次年度のより一層の努力を期待いたします。

今年も隣国との外交問題や政治に対する不信、いっこうに改善しない経済状況や震災からの復興の遅れや原発問題など暗い話題が多い中で、山中伸弥京都大学教授がノーベル医学・生理学賞を受賞したというニュースはわれわれに日本人としての誇りと自信を与えてくれました。挫折を繰り返しても諦めないという姿勢が歴史に残る大偉業につながったということですが、これは同じ研究者として大いに見習うべきことであると思います。また、まだまだ若い山中先生が受賞されたことによりノーベル賞自体を身近に感じるようになったのは私だけでしょうか。理想的な研究環境、卓越した発想力、強い意志と不断の努力に様々な幸運が加われば素晴らしい成果を上げることが出来るでしょう。本学の研究者の中から第2、第3の山中先生が出てくることは夢ではないと考えています。本学には優れた臨床医のみならず野口英世博士を始めとした数多の研究者を輩出したという歴史があります。この本学のDNAを引き継いだ研究者たちが次々と素晴らしい業績を上げてくれることを信じております。

最後にこの業績年報の編集にご尽力下さいました弦間昭彦研究委員会委員長ならびに関係各位に謝意を表します。

# 目 次

## 〔1〕基礎科学

1. 人文科学・社会科学	1
[心理学]	1
[文化人類学]	2
2. 自然科学	3
[数 学]	3
[物理学]	3
[化 学]	6
[生物学]	7
3. 外国語	12
[英語・ドイツ語]	12
4. スポーツ科学	14
[スポーツ科学]	14

## 〔2〕基礎医学

1. 解剖学講座 (分子解剖学)	19
2. 解剖学講座 (生体構造学)	24
3. 生理学講座 (システム生理学)	26
4. 生理学講座 (生体統御学)	30
5. 生化学・分子生物学講座 (代謝・栄養学)	33
6. 生化学・分子生物学講座 (分子遺伝学)	38
7. 薬理学講座	43
8. 病理学講座 (解析人体病理学)	47
9. 病理学講座 (統御機構・腫瘍学)	54
10. 微生物学・免疫学講座	62
11. 衛生学・公衆衛生学講座	66
12. 法医学講座	75
13. 医療管理学講座	78
14. 基礎医学共同研究利用施設	81
[実験動物管理室]	81
[形態解析共同研究施設]	81
[情報科学センター]	83

## 〔3〕臨床医学

1. 内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)	87
[付属病院一般内科, 循環器内科, 肝臓内科, 再生医療科]	87
[付属病院老年内科]	109
[多摩永山病院内科, 循環器内科]	112
[千葉北総病院循環器内科]	121
2. 内科学講座 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)	130

	[付属病院神経内科, 腎臓内科].....	130
	[千葉北総病院腎臓内科].....	140
	[千葉北総病院神経内科].....	140
3.	内科学講座(血液・消化器・内分泌代謝部門).....	142
	[付属病院血液内科, 消化器内科, 内分泌代謝内科].....	142
	[千葉北総病院血液内科].....	161
	[千葉北総病院消化器内科].....	164
	[千葉北総病院内分泌内科].....	165
4.	内科学講座(呼吸器・感染・腫瘍部門).....	167
	[付属病院呼吸器内科, 化学療法科].....	167
	[千葉北総病院呼吸器内科].....	176
5.	精神医学講座.....	178
	[付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科].....	178
6.	小児科学講座.....	186
	[付属病院小児科・武蔵小杉病院周産期・小児医療センター(小児科, 小児外科, 新生児科)・ 多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科].....	186
7.	放射線医学講座.....	196
	[付属病院放射線科, 放射線治療科].....	196
	[武蔵小杉病院放射線科].....	205
	[武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター].....	207
	[多摩永山病院放射線科].....	212
	[多摩永山病院放射線治療科].....	212
	[千葉北総病院放射線科].....	213
8.	皮膚科学講座.....	215
	[付属病院皮膚科].....	215
	[武蔵小杉病院皮膚科].....	225
	[多摩永山病院皮膚科].....	227
	[千葉北総病院皮膚科].....	228
9.	外科学講座(消化器・一般・乳腺・移植部門).....	230
	[付属病院消化器外科, 乳腺科, 一般外科, 移植外科].....	230
	[多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科].....	266
	[千葉北総病院外科].....	278
10.	外科学講座(内分泌・心臓血管・呼吸器部門).....	283
	[付属病院内分泌外科, 心臓血管外科, 呼吸器外科・千葉北総病院胸部・ 心臓血管・呼吸器外科].....	283
	[武蔵小杉病院心臓血管外科・呼吸器外科・乳腺外科, 内分泌外科].....	294
	[多摩永山病院呼吸器外科].....	296
11.	脳神経外科学講座.....	298
	[付属病院脳神経外科].....	298
	[武蔵小杉病院脳神経外科].....	312
	[多摩永山病院脳神経外科].....	316

	[千葉北総病院脳神経外科].....	317
12.	整形外科学講座.....	325
	[付属病院整形外科・武蔵小杉病院整形外科・多摩永山病院整形外科・ 千葉北総病院整形外科].....	325
	[付属病院リウマチ科].....	332
13.	産婦人科学講座.....	336
	[付属病院女性診療科・産科].....	336
	[武蔵小杉病院女性診療科・産科].....	344
	[多摩永山病院女性診療科・産科].....	347
	[千葉北総病院女性診療科・産科].....	352
14.	耳鼻咽喉科学講座.....	357
	[付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・ 多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科].....	357
15.	泌尿器科学講座.....	365
	[付属病院泌尿器科].....	365
	[武蔵小杉病院泌尿器科].....	370
	[多摩永山病院泌尿器科].....	371
	[千葉北総病院泌尿器科].....	372
16.	眼科学講座.....	373
	[付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科].....	373
	[千葉北総病院眼科].....	377
17.	麻酔科学講座.....	378
	[付属病院麻酔科].....	378
	[武蔵小杉病院麻酔科].....	385
	[多摩永山病院麻酔科].....	386
	[千葉北総病院麻酔科].....	387
18.	救急医学講座.....	390
	[付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・ 多摩永山病院救命救急センター].....	390
	[武蔵小杉病院救命救急センター].....	410
	[多摩永山病院救命救急センター].....	412
	[千葉北総病院救命救急センター].....	416
19.	形成外科学講座.....	426
	[付属病院形成外科・美容外科].....	426
	[武蔵小杉病院形成外科].....	445
	[千葉北総病院形成外科].....	448
20.	付属病院付置施設等.....	451
	[付属病院遺伝診療科].....	451
	[付属病院集中治療室].....	453
	[付属病院病理部].....	458
	[付属病院中央検査部].....	462

	[付属病院薬剤部] .....	464
	[付属病院生理機能センター] .....	467
	[付属病院看護部] .....	470
	[付属病院放射線科技師室] .....	473
	[付属病院 ME 部] .....	475
	[ワクチン療法研究施設] .....	476
	[付属病院東洋医学科] .....	477
	[ゲノム先端医療部] .....	481
21.	武蔵小杉病院付置施設等 .....	483
	[武蔵小杉病院消化器病センター] .....	483
	[武蔵小杉病院循環器内科, 呼吸器内科, 腎臓内科, 神経内科, 動脈硬化・糖尿病・内分泌内科, 消化器内科, 腫瘍内科] .....	491
	[武蔵小杉病院中央検査室] .....	496
	[武蔵小杉病院薬剤部] .....	496
	[武蔵小杉病院看護部] .....	497
22.	多摩永山病院付置施設等 .....	500
	[多摩永山病院病理部] .....	500
	[多摩永山病院中央検査室] .....	503
	[多摩永山病院薬剤部] .....	504
	[多摩永山病院看護部] .....	505
	[多摩永山病院消化器科] .....	507
23.	千葉北総病院付置施設等 .....	510
	[千葉北総病院集中治療室] .....	510
	[千葉北総病院リハビリテーション科] .....	513
	[千葉北総病院病理部] .....	515
	[千葉北総病院中央検査室] .....	516
	[千葉北総病院薬剤部] .....	517
	[千葉北総病院放射線センター] .....	518
	[千葉北総病院看護部] .....	518
[4]	付置研究施設	
1.	老人病研究所 .....	523
	[病理部門] .....	523
	[生化学部門] .....	525
	[疫学部門] .....	528
	[生体応答学部門] .....	530
2.	呼吸ケアクリニック .....	533
3.	健診医療センター .....	538
4.	成田国際空港クリニック .....	539
[5]	その他	
1.	教育推進室 .....	543
2.	図書館 .....	545

付表：1. 各種研究費補助金・研究助成金交付状況	549
1) 平成 23 年度科学研究費補助金交付決定一覧	549
2) 平成 23 年度科学研究費補助金研究分担の採択・交付状況	554
3) 平成 23 年度学術研究助成基金助成金交付決定一覧	555
4) 平成 23 年度学術研究助成基金助成金研究分担の採択・交付状況	558
5) 平成 23 年度補助・委託一覧	559
6) 平成 23 年度学術賞受賞一覧	577
7) 平成 23 年度知的財産一覧 (特許権)	580
2. 動物実験実施状況	581
1) 平成 23 年度動物実験実施予定者数および実験計画書 (課題) 数 (平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月)	581
2) 平成 23 年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別稼働率 (ケージ数を基に算出 (%))	582
3) 平成 23 年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別搬入数	583
4) 平成 23 年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別搬出数	584
5) 平成 23 年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別延べ飼育数	585

# 〔1〕 基 礎 科 学



# 1. 人文科学・社会科学

## [心理学]

### 研究概要

医療心理学および社会精神医学を主な研究領域としている。医療心理学領域では、東京大学やお茶の水女子大学の臨床心理学研究者と連携し、研究会を行っている。その成果はモノグラフや学会などで発表している。社会精神医学では、特に法と精神医療の関係に関心をもち、刑事施設での精神医療、刑事施設における高齢者問題に関して調査研究を行っている。また、精神障害による労働災害の認定に関する委員会に参加している。その他、学内では精神神経科の一員として診療に携わるとともに医学生に対するメンタルヘルス教育の在り方に関する共同研究を行っている。また、付属病院精神科および都心の精神科クリニックをフィールドとして大学生のメンタルヘルスに関する調査研究を継続している。老人病研究所街ぐるみ認知症相談センターの活動に参加し、調査研究と相談業務に従事している。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) 若松直樹<sup>1)</sup>, 根本留美<sup>1)</sup>, 石井知香<sup>1)</sup>, 野村俊明, 川並汪一<sup>2)</sup>, 北村 伸<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学老人病研究所街ぐるみ認知症相談センター, 2) 北海メディカルネットワーク, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院)：地域での認知症相談において認知機能低下を鑑別する評価指標。老年精神医学雑誌 2011；22 (12)：1423-1431.

##### (2) 総説：

- 1) 野村俊明：司法精神医学の臨床からみたパーソナリティ障害。現代のエスプリ 2011；(527)：147-159.
- 2) 野村俊明：基礎科学教育の今後。日医大医会誌 2011；7 (4)：166-168.
- 3) 野村俊明：青年期の精神的問題について。首都大学東京学生相談室レポート 2012；(6)：21-36.

##### (3) 症例報告：

- 1) 野村俊明：強迫性障害を対象とする認知行動療法を学ぶ。筑波大学臨床心理学論集 2011；(25)：13-14.

#### 著書

- 1) 奥村雄介<sup>1)</sup>, 野村俊明 (1) 府中刑務所)：〔分担〕非行精神医学。精神医学キーワード事典 (松下正明), 2011；pp416-417, 中山書店.
- 2) 鶴 光代<sup>1)</sup>, 岡田康伸<sup>2)</sup>, 小川俊樹<sup>3)</sup>, 堀越 勝<sup>4)</sup>, 溝口純二<sup>5)</sup>, 青木紀久代<sup>6)</sup>, 一丸藤太郎<sup>7)</sup>, 永井 徹<sup>8)</sup>, 野村俊明, 馬場礼子<sup>9)</sup> (1) 跡見学園女子大学, 2) 京都大学, 3) 筑波大学, 4) 国立精神神経医療研究センター, 5) 東京国際大学, 6) お茶の水女子大学, 7) 広島国際大学, 8) 首都大学東京, 10) 山梨英和大学)：〔編集〕心理臨床学事典, 2011；丸善出版.
- 3) 野村俊明：〔分担〕診断基準。心理臨床学事典 (鶴光代ほか), 2011；pp222-223, 丸善出版.
- 4) 野村俊明：〔分担〕神経症と精神病 (I)。心理臨床学事典 (鶴光代ほか), 2011；pp242-243, 丸善出版.
- 5) 野村俊明：〔分担〕司法・矯正と心理臨床。心理臨床学事典 (鶴光代ほか), 2011；pp394-395, 丸善出版.
- 6) 野村俊明, 下山晴彦<sup>1)</sup> (1) 東京大学大学院)：〔編集〕精神医療の最前線と心理職への期待, 2011；誠信書房.

#### 学会発表

##### (1) 一般講演：

- 1) 石渡明子<sup>1)</sup>, 北村 伸<sup>2)</sup>, 野村俊明, 若松直樹<sup>3)</sup>, 根本留美<sup>3)</sup>, 石井知香<sup>3)</sup>, 片山泰朗<sup>1)</sup>, 川並汪一<sup>4)</sup> (1) 日本医科

- 大学内科 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門, <sup>2)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院内科, <sup>3)</sup> 日本医科大学老人病研究所街ぐるみ認知症相談センター, <sup>4)</sup> 北海メディカルネットワーク): 街ぐるみ認知症相談センターにおける活動状況. 日本神経学会 (名古屋), 2011. 5.
- 2) 野村俊明, 奥村雄介<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 府中刑務所): 喜連川社会復帰促進センターにおける精神医療. 日本司法精神医学会 (第7回) (岡山), 2011. 6.
- 3) 若松直樹<sup>1)</sup>, 野村俊明, 石井知香<sup>1)</sup>, 根本留美<sup>1)</sup>, 北村 伸<sup>2)</sup>, 川並汪一<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学老人病研究所街ぐるみ認知症相談センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院, <sup>3)</sup> 北海メディカルネットワーク): 認知症高齢者が施設入所や医療機関入院を選択する背景要因. 日本老年精神医学会 (第26回) (東京), 2011. 6.
- 4) 野村俊明, 奥村雄介<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 府中刑務所): 刑事施設における高齢者問題. 日本認知症予防学会 (第1回) (米子), 2011. 9.
- 5) 並木香代子<sup>1)</sup>, 井上志津子<sup>1)</sup>, 長久美江子<sup>1)</sup>, 野村俊明, 北村 伸<sup>2)</sup>, 川並汪一<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学老人病研究所街ぐるみ認知症相談センター, <sup>2)</sup> 武蔵小杉病院内科, <sup>3)</sup> 北海メディカルネットワーク赤坂クリニック): 専門職向け公開講座実施による地域ネットワーク作りの試み. 日本認知症予防学会 (第1回) (米子), 2011. 9.
- 6) 根本留美<sup>1)</sup>, 石井知香<sup>1)</sup>, 若松直樹<sup>1)</sup>, 野村俊明, 北村 伸<sup>2)</sup>, 宗像一雄<sup>2)</sup>, 川並汪一<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学老人病研究所街ぐるみ認知症相談センター, <sup>2)</sup> 武蔵小杉病院内科, <sup>3)</sup> 北海メディカルネットワーク赤坂クリニック): 地域での相談活動における認知症早期発見のための評価指標. 日本認知症予防学会 (第1回) (米子), 2011. 9.
- 7) 平林恵美<sup>1)</sup>, 野村俊明, 伊藤滋朗<sup>2)</sup>, 岸 泰宏<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 東京大学大学院, <sup>2)</sup> 武蔵小杉病院精神科): 救命救急センターに搬送された自殺企図患者のフォローアップ研究. 日本総合病院精神医学会 (第24回) (福岡), 2011. 11.
- 8) 大塚 齊<sup>1)</sup>, 有山 惇<sup>1)</sup>, 福元祐紀<sup>1)</sup>, 伊藤 圭<sup>1)</sup>, 南山今日子<sup>2)</sup>, 田附あえか<sup>3)</sup>, 野村俊明 (<sup>1)</sup> 武蔵野児童学園, <sup>2)</sup> 子どもの虹情報研修センター, <sup>3)</sup> 筑波大学): 児童養護施設におけるケアワーカーの離職について. 日本こども虐待防止学会 (第17回) (筑波大学), 2011. 12.

## [文化人類学]

### 研究概要

日本文化の本質, 近代化における日本文化の変質等について究明している. 今年度は日本の国家観に注目し, 『究極の国家観・国体の本義』としてまとめた (未発表). 現代日本の政治は明確な国家観なしに動き, それ故に日本国は弱体化しつつあるように思われる. 活力ある国家復活のためには日本国の歴史を踏まえた確固たる国家観が必要不可欠であろう.

## 2. 自然科学

### [数学]

#### 研究概要

Chiral anomaly の格子構成論には様々なアプローチがあるが、どの方法においても、chiral current の保存則の破れそのものではなく、mass correction term の massless limit を見ている可能性がある。この観点から Ginsparg-Wilson fermion に関する知見を厳密に精査している。(渡辺)作用素不等式と majorization および logarithmic majorization についての関係を調べた。また作用素のべきに関する不等式も考えている。(儀我)

#### 研究業績

##### 論文

(1) 原著：

- 1) 儀我真理子：理論の流れの中で考える。数学教育学会発表論文集 2012；(臨時増刊)：174-176.
- 2) 儀我真理子：ピタゴラスの定理の拡張と逆不等式。数学教育学会発表論文集 2011；(臨時増刊)：118-119.

(2) 総説：

- 1) Watanabe H：Applications of statistics to medical science, I. J Nippon Med Sch 2011；78 (5)：274-279.
- 2) Watanabe H：Applications of statistics to medical science, II. J Nippon Med Sch 2012；79 (1)：31-36.

##### 学会発表

(1) 招待講演：

- 1) 儀我真理子：理論の流れの中で考える。数学教育学会春季年会（東京），2012. 3.

(2) 一般講演：

- 1) 儀我真理子：逆不等式とくに三角不等式について。数学教育の会（2011年夏の会）（東京），2011. 9.
- 2) 儀我真理子：ピタゴラスの定理の拡張と逆不等式。数学教育学会例会（長野），2011. 9.

### [物理学]

#### 研究概要

物理学教室は現在、教授、准教授、講師の3名で構成されており、連携しながら生物物理の理論的な側面に関して研究を行っている。今年度の研究内容は以下の通りである。1. ミオシンのATP加水分解に伴う構造変化について、QM/MM法などを用いて計算を行っている。また、リン脂質リポソームの相転移についても計算を行っている。(香川) 2. キサンチン酸化還元酵素に関する論文を書き、出版した。今年度から、この酵素の理論計算的な研究に関して、代表者として科研費基盤Cの助成を受けている。また、藤崎講師と量子ダイナミクス共同研究を行っている。(菊地) 3. 生体分子の量子ダイナミクスに関する理論研究で、代表者として科研費基盤Cの助成を受けており、また夏にはフンボルト財団からの支援によりフライブルグ大のGerhard Stock教授と共同研究を行った。現在は結果を論文にまとめているところである。キサンチン酸化還元酵素に関しても、菊地准教授と共同研究を行っており、科研費の分担者となっている。また、マルチスケールモデリングに関する科研費の支援を受けた、九州大学の高見准教授とも分担者として共同研究を行っており、癌のダイナミクスに関するモデル化も進めている。(藤崎)

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著 :

- 1) Kikuchi H, Fujisaki H, Furuta T<sup>1)</sup>, Okamoto K<sup>2)</sup>, Leimukuehler S<sup>3)</sup>, Nishino T<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Center for Biological Resources and Informatics, Tokyo Institute of Technology, <sup>2)</sup> Department of Biochemistry, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Department of Molecular Enzymology, Institute for Biochemistry and Biology, University of Potsdam, <sup>4)</sup> Department of Applied Biological Chemistry, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, University of Tokyo) : Different inhibitory potency of febuxostat towards mammalian and bacterial xanthine oxidoreductases : insight from molecular dynamics. Sci. Rep. 2012 ; 2 : 331-1-331-8.

#### (2) 研究報告書 :

- 1) 香川 浩 : 筋肉収縮の生物物理学的研究. 国士館大学情報科学センター紀要 2012 ; (33) : 43-47.
- 2) Nagai Y<sup>1)</sup>, Yura K<sup>2)</sup>, Kagawa H, Wako H<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Center for Information Science, Kokushikan University, <sup>2)</sup> Computational Biology, Graduate School of Humanities and Sciences, Ochanomizu University, <sup>3)</sup> School of Social Sciences, Waseda University) : Discretized Curvature Analysis for Ribose and Adenine Rings of ATP-Analogs Bound to Myosin. 国士館大学情報科学センター紀要 2012 ; (33) : 55-60.

### 著書

- 1) Fujisaki H, Zhang Y<sup>1)</sup>, Straub EJ<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Chemical and Biomolecular Engineering, University of Notre Dame, <sup>2)</sup> Department of Chemistry, Boston University) : [分担] Non-Markovian theory of vibrational energy relaxation and its application to biomolecular systems. Advances in Chemical Physics (A.R. Dinner, S.A. Rice), 2011 ; pp1-33, John Wiley & Sons.
- 2) Fuchigami S<sup>1)</sup>, Fujisaki H, Matsunaga Y<sup>2)</sup>, Kidera A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Supramolecular biology, Graduate School of Nanobioscience, Yokohama City University, <sup>2)</sup> Molecular Scale Team, Integrated Simulation of Living Matter Group, Computational Science Research Program, RIKEN) : [分担] Protein functional motions : Basic concepts and computational methodologies. Advances in Chemical Physics (A.R. Dinner, S.A. Rice), 2011 ; pp35-82, John Wiley & Sons.

### 学会発表

#### (1) 招待講演 :

- 1) 藤崎弘士 : 生体分子におけるパスサーチ・パスサンプリング. CMSI 若手技術交流会 (第3回) (東京大学先端科学技術研究センター), 2011. 11.

#### (2) シンポジウム :

- 1) 藤崎弘士 : 生体分子におけるパスサーチ・パスサンプリング (化学反応や生体高分子の構造変化における状態変化の起源を探る). 日本物理学会第67回年次大会 (関西学院大学), 2012. 3.
- 2) 藤崎弘士 : 主旨説明 (ハイパフォーマンスコンピューティングを使った生体分子のシミュレーション: その現状と課題). 日本物理学会 2011 年度秋季大会 (富山大学), 2011. 9.

#### (3) セミナー :

- 1) 藤崎弘士 : タンパク質科学の未来を語る : 実験・理論研究者の対話. 蛋白質研究所セミナー (大阪大学), 2011. 11.
- 2) 藤崎弘士 : Path sampling based on path integral : Quantum string method and Onsager-Machlup action functional approach. 高次元のサンプリングとデータ解析から見たシミュレーション科学 (統計数理研究所), 2012. 3.

- 3) Fujisaki H : Quantum dynamics in complex systems : Biomolecules, random matrix, and quantum chaotic systems. Quantum Efficiency Seminar (Freiburg Institute for Advanced Studies), 2011. 7.
- (4) 一般講演 :
- 1) Ogihara T<sup>1)</sup>, Gao Q<sup>2)</sup>, Shibata A<sup>3)</sup>, Kagawa H ( <sup>1)</sup> Department of General Science, Azabu University, <sup>2)</sup> Mitsubishi Chemical Group Science and Technology Reserch Center, Inc., <sup>3)</sup> Department of Clinical Laboratory Science, Nitobe-Bunka College) : A Study of the Phase Transition Temperature and Bilayer Structure Change of Phospholipid by MD Method. 9th Triennial Congress of the World Association of Theoretical and Computational Chemists (Santiago de Compostela, Spain), 2011. 7.
  - 2) 香川 浩, 藤崎弘士, 菊地浩人, 志賀基之<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 原子力研究開発機構) : ミオシン ATPase における加水分解の反応経路 : QM/MM 法による計算に向けて. 日本物理学会 2011 年秋季大会 (富山大学), 2011. 9.
  - 3) Kikuchi H, Fujisaki H, Furuta T<sup>1)</sup>, Okamoto K<sup>2)</sup>, Leimkuhler S<sup>3)</sup>, Nishino T<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Center for Biological Resources and Informatics, Tokyo Institute of Technology, <sup>2)</sup> Department of Biochemistry, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Department of Molecular Enzymology, Institute for Biochemistry and Biology, University of Potsdam, <sup>4)</sup> Department of Applied Biological Chemistry, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, University of Tokyo) : Structure-based inhibitor mechanism of febuxostat for xanthine oxidoreductase : molecular dynamics study. 9th Triennial Congress of the World Association of Theoretical and Computational Chemists (Santiago de Compostela, Spain), 2011. 7.
  - 4) 藤崎弘士, 菊地浩人, 戸田幹人<sup>1)</sup>, 高見利也<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 奈良女子大学 理学部 物理学科, <sup>2)</sup> 九州大学 情報基盤研究開発センター) : 分子階層モデルを使った生体分子の量子ダイナミクス. 日本物理学会秋季大会 (富山大学), 2011. 9.
  - 5) 戸田幹人<sup>1)</sup>, 高見利也<sup>2)</sup>, 福水健次<sup>3)</sup>, 菊地浩人, 藤崎弘士 ( <sup>1)</sup> 奈良女子大学理学部物理学科, <sup>2)</sup> 九州大学情報基盤研究開発センター, <sup>3)</sup> 統計数理研究所) : 生体分子の分子動力学時系列データに対する統計解析. 日本物理学会 2011 年度秋季大会 (富山大学), 2011. 9.
  - 6) 高見利也<sup>1)</sup>, 下川倫子<sup>2)</sup>, 藤崎弘士, 小林泰三<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 九州大学情報基盤研究開発センター, <sup>2)</sup> 千葉大学先進科学センター) : 遅いダイナミクスにより生成される表面パターン. 日本物理学会 2011 年度秋季大会 (富山大学), 2011. 9.
  - 7) 高見利也<sup>1)</sup>, 藤崎弘士 ( <sup>1)</sup> 九州大学情報基盤研究開発センター) : カオス系の最適制御における量子古典対応. 日本物理学会 2011 年度秋季大会 (富山大学), 2011. 9.
  - 8) 菊地浩人, 藤崎弘士, 古田忠臣<sup>1)</sup>, 岡本 研<sup>2)</sup>, 西野武士<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京工業大学大学院生命理工学研究科生体分子機能工学専攻, <sup>2)</sup> 日本医科大学学生化学・分子生物学講座生化学第一教室, <sup>3)</sup> 東京大学大学院農学生命科学科応用生命化学専攻) : キサンチン酸化還元酵素に対するフェブキシostat の阻害作用. 日本物理学会 2011 年度秋季大会 (富山大学), 2011. 9.
  - 9) 松永康佑<sup>1)</sup>, 藤崎弘士, 寺田 透<sup>2)</sup>, 木寺詔紀<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 理化学研究所, <sup>2)</sup> 東京大学大学院農学生命科学研究科, <sup>3)</sup> 横浜国立大学) : タンパク質構造変化における最少自由エネルギー経路の解析. 分子シミュレーション討論会 (第 25 回) (東京工業大学 大岡山キャンパス), 2011. 12.
  - 10) Fujisaki H, Shiga M<sup>1)</sup>, Kidera A<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Japan Atomic Energy Agency, <sup>2)</sup> Department of Supramolecular Biology, Graduate School of Nanobioscience, Yokohama City University) : A multiscale approach for path sampling : Application to peptides. 56th Annual Meeting of Biophysical Society (San Diego, USA), 2012. 2.
  - 11) 戸田幹人<sup>1)</sup>, 高見利也<sup>2)</sup>, 福水健次<sup>3)</sup>, 菊地浩人, 藤崎弘士 ( <sup>1)</sup> 奈良女子大学理学部物理学科, <sup>2)</sup> 九州大学情報基盤研究開発センター, <sup>3)</sup> 統計数理研究所) : 生体分子の分子動力学時系列データに対する統計解析 2. 日本物理学会第 67 回年次大会 (関西学院大学), 2012. 3.
  - 12) 富士香奈<sup>1)</sup>, 関嶋政和<sup>2)</sup>, 藤崎弘士, 戸田幹人<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 奈良女子大学理学部物理学科, <sup>2)</sup> 東京工業大学学術国際情

報センター)：生体分子の分子動力学に対する時系列解析：集団運動の揺らぎと構造変化の関係を探る. 日本物理学会第 67 回年次大会 (関西学院大学), 2012. 3.

13) 高見利也<sup>1)</sup>, 藤崎弘士<sup>(1)</sup> 九州大学情報基盤研究開発センター)：カオス系の最適制御問題における量子古典対応 2. 日本物理学会第 67 回年次大会 (関西学院大学), 2012. 3.

14) 下川倫子<sup>1)</sup>, 高見利也<sup>2)</sup>, 藤崎弘士, 小林泰三<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 千葉大学先進科学センター, <sup>2)</sup> 九州大学情報基盤研究開発センター)：粘性流体中を落下する滴の分離と変形. 日本物理学会第 67 回年次大会 (関西学院大学), 2012. 3.

15) 藤崎弘士, 菊地浩人, 戸田幹人<sup>1)</sup>, 高見利也<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 奈良女子大学理学部物理学科, <sup>2)</sup> 九州大学情報基盤研究開発センター)：分子階層モデルを使った量子ダイナミクス 2. 日本物理学会第 67 回年次大会 (関西学院大学), 2012. 3.

16) 志賀基之<sup>1)</sup>, 藤崎弘士<sup>(1)</sup> 原子力研究開発機構)：量子統計に従ったプロトン移動反応の経路探索. 日本物理学会第 67 回年次大会 (関西学院大学), 2012. 3.

## [化学]

### 研究概要

中村：(1) フラーレン誘導体の合成及び、その HIV 逆転写酵素阻害、アポトーシス誘導などの生物活性に関する研究。(2) 薬物代謝酵素シトクロム P450 によるフェノール類の代謝反応機構の解明及び、新規代謝物の探索。(3) 天然物を規範とした抗酸化物質のデザイン・合成及び、抗酸化作用との構造活性相関。菅原：アルカリ金属-ナフタレン錯体を用いたテルペン系化合物の合成及び、不飽和酸とジクロロカルベン反応によるジクロロシクロプロパンカルボン酸の合成。(1) 生理活性を有するラクトン類の合成。(2) カンファーなどの天然物ケトンを用いた不斉合成配位子の合成。永井：2,2'-ビピリジンまたは 1,10-フェナントロリンを持つルテニウム (II) 混合配位子錯体の溶液化学。(1) 錯体の合成。(2) 高速液体クロマトグラフィーによる錯体異性体の分離およびその機構。(3) 錯体イオンの溶媒和に関する研究。(4) 錯体イオンの溶液内反応および平衡に関する研究。武田：イオン交換体を用いる無機イオンのクロマトグラフィーに関する研究。(1) 弱酸性陽イオン交換体に対するアルカリ土類金属元素および希土類元素の吸着挙動。(2) 弱酸性陽イオン交換体を用いるジルコニウム (IV)、ハフニウム (IV)、および他の金属の三成分分離(3) 陰イオン交換樹脂を用いる貴金属元素の回収と定量。

### 研究業績

#### 論文

(1) 総説：

1) 中村成夫：フルラーレンの抗ウイルス薬としての可能性. BIO INDUSTRY 2012 ; 29 (3) : 33-38.

#### 著書

1) 中村成夫：〔分担〕第 9 章 酸と塩基. 基礎有機化学 (小林進, 三巻祥浩 編), 2012 ; pp77-82, 培風館.

#### 学会発表

(1) 特別講演：

1) 中村成夫：創薬を指向したフルラーレン誘導体の構造展開. 日本医科大学医学会総会 (第 79 回) (東京), 2011. 9.

(2) 一般講演：

1) Nakamura S, Takeuchi Y<sup>1)</sup>, Shinohara M<sup>1)</sup>, Takahashi K<sup>1)</sup>, Mashino T<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Dept Pharm Sci, Keio Univ) : Inhibition of HIV-Reverse Transcriptase by Amino Acid-type Fullerene Derivatives and Effect of Substituent

- on Pyrrolidine Ring. 8th AFMC International Medicinal Chemistry Symposium (AIMECS11) (Tokyo), 2011. 11.
- 2) Yasuda D<sup>1)</sup>, Tanaka Y<sup>1)</sup>, Kakinoki T<sup>1)</sup>, Takahashi K<sup>1)</sup>, Nakamura S, Mashino T<sup>1)</sup> (1) Dept Pharm Sci, Keio Univ) : Developing of the Novel Antioxidant Based on a Structure of Uric Acid, Potent Endogenous Antioxidant. 8th AFMC International Medicinal Chemistry Symposium (AIMECS11) (Tokyo), 2011. 11.
  - 3) 田中和之<sup>1)</sup>, 長田達明<sup>1)</sup>, 多胡めぐみ<sup>1)</sup>, 中村成夫, 増野匡彦<sup>1)</sup>, 笠原 忠<sup>1)</sup> (1) 慶應大・薬) : フラーレン誘導体を用いた慢性骨髄増殖性腫瘍の治療法の開発. Pharmacology-Hematology シンポジウム (第 12 回) (富山), 2011. 6.
  - 4) 安田大輔<sup>1)</sup>, 高橋恭子<sup>1)</sup>, 中村成夫, 増野匡彦<sup>1)</sup> (1) 慶應大・薬) : 置換 phenacyl 基を有する 5-hydroxyoxindole 誘導体のラジカル消去活性と XO 阻害活性. 日本酸化ストレス学会学術集会 (第 64 回) (北海道虻田郡), 2011. 7.
  - 5) 宮川知美<sup>1)</sup>, 高橋恭子<sup>1)</sup>, 中村成夫, 増野匡彦<sup>1)</sup> (1) 慶應大・薬) : アスコルビン酸のプロオキシダント効果に対するフラーレン誘導体の抑制効果. 日本薬学会関東支部大会 (第 55 回) (千葉), 2011. 10.
  - 6) 田中陽子<sup>1)</sup>, 安田大輔<sup>1)</sup>, 高橋恭子<sup>1)</sup>, 中村成夫, 増野匡彦<sup>1)</sup> (1) 慶應大・薬) : 尿酸アナログの抗酸化活性と構造活性相関 -2. 日本薬学会関東支部大会 (第 55 回) (千葉), 2011. 10.
  - 7) 塚田昌樹<sup>1)</sup>, 豆田有香<sup>1)</sup>, 多胡めぐみ<sup>1)</sup>, 中村成夫, 増野匡彦<sup>1)</sup>, 笠原 忠<sup>1)</sup> (1) 慶應大・薬) : ピロリジニウム型フラーレン誘導体の JAK2 変異体発現細胞のアポトーシス誘導効果. 日本薬学会関東支部大会 (第 55 回) (千葉), 2011. 10.
  - 8) 増野匡彦<sup>1)</sup>, 大江知之<sup>1)</sup>, 中村成夫 (1) 慶應大・薬) : 薬物代謝酵素シトクロム P450 によるフェノール類の代謝と機構解析. 生体触媒化学シンポジウム (第 15 回) (東京), 2011. 12.
  - 9) 大江知之<sup>1)</sup>, 清水香住<sup>1)</sup>, 土門 周<sup>1)</sup>, 高橋恭子<sup>1)</sup>, 中村成夫, 増野匡彦<sup>1)</sup> (1) 慶應大・薬) : シトクロム P450 による ipso 位代謝反応の医薬品への応用研究 : Salbutamol, salsalate 及び bisacodyl の新規代謝様式. 生体触媒化学シンポジウム (第 15 回) (東京), 2011. 12.
  - 10) 井田 悠<sup>1)</sup>, 高橋恭子<sup>1)</sup>, 大江知之<sup>1)</sup>, 中村成夫, 増野匡彦<sup>1)</sup> (1) 慶應大・薬) : フラーレン結合型シリカゲル担体の合成. 日本薬学会第 132 年会 (札幌), 2012. 3.
  - 11) 関 陽平<sup>1)</sup>, 高橋恭子<sup>1)</sup>, 大江知之<sup>1)</sup>, 中村成夫, 増野匡彦<sup>1)</sup> (1) 慶應大・薬) : フルバスタチン構造を基にした新規抗酸化化合物の創製. 日本薬学会第 132 年会 (札幌), 2012. 3.
  - 12) 沼館慧剛<sup>1)</sup>, 高橋恭子<sup>1)</sup>, 大江知之<sup>1)</sup>, 中村成夫, 増野匡彦<sup>1)</sup> (1) 慶應大・薬) : 抗酸化活性を有する環状ジペプチド誘導体の創製. 日本薬学会第 132 年会 (札幌), 2012. 3.
  - 13) 篠原 舞<sup>1)</sup>, 高橋恭子<sup>1)</sup>, 大江知之<sup>1)</sup>, 中村成夫, 下遠野久美子<sup>1)</sup>, 増野匡彦<sup>1)</sup> (1) 慶應大・薬) : HCV-RNA ポリメラーゼ及び HIV 逆転写酵素阻害活性を有する新規フラーレン誘導体の合成. 日本薬学会第 132 年会 (札幌), 2012. 3.
  - 14) 安田大輔<sup>1)</sup>, 高橋恭子<sup>1)</sup>, 大江知之<sup>1)</sup>, 中村成夫<sup>1)</sup>, 増野匡彦<sup>1)</sup> (1) 慶應大・薬) : 3 位置換 Oxindole 誘導体の Xanthine Oxidase 阻害活性と構造活性相関. 日本薬学会第 132 年会 (札幌), 2012. 3.
  - 15) 三科興太<sup>1)</sup>, 秋好健志<sup>1)</sup>, 小熊美帆<sup>1)</sup>, 倉富未来<sup>1)</sup>, 中村成夫, 木村真規<sup>1)</sup>, 増野匡彦<sup>1)</sup>, 松山賢治<sup>2)</sup>, 大谷壽一<sup>1)</sup> (1) 慶應大・薬, 2) 近畿大・薬) : ラットにおけるレプチンシグナル伝達に対する Olanzapine と Aripiprazole の影響. 日本薬学会第 132 年会 (札幌), 2012. 3.

## [生物学]

### 研究概要

本教室では、遺伝子操作が容易なアフリカツメガエルをモデル動物として用い、幹細胞に焦点を当てながら、器官

再生の分子メカニズムの研究に取り組んでいる。その他、微生物生理学と植物生態学の分野でも継続した研究を行っている。今年度の研究内容は以下の通りである。

1) ツメガエルの小腸では、甲状腺ホルモン (TH) を引き金として幹細胞ニッチが形成され、幼生型吸収上皮の一部が幹細胞へと脱分化することを昨年までに明らかにした。この脱分化機構の解明を目指して、現在、TH 応答遺伝子の解析を進めている。今年度は、ES 細胞の増殖を促進する NPM3 のホモログ NO29 や、体細胞のリプログラミングに関与する Lamin LIII が、TH に応答して幹細胞特異的に発現することを見出した。さらに、幹細胞特異的に発現する Shh がニッチ形成に果たす役割を調べるため、Shh シグナル経路に関わる Ptc-1, Smo, Gli の発現解析も行った。これら遺伝子の発現は、TH の他に Shh 自身によっても促進され、幹細胞直下の結合組織で一過性に高まること等を明らかにした。また、このモデル動物を用いて、血管形成の分子メカニズムの研究にも取り組んでいる (老人病研究所・藤原助教らとの共同研究)。(長谷部, 岡)

2) 光合成生物を中心に系統分類とカロテノイド分布の関係を研究している。藻類や植物における  $\alpha$ -カロテン類の異性体の分布を分析した結果、片方の異性体のみ存在していたが、唯一の例外がシアノバクテリアの中で特殊なクロロフィルをもつ *Acaryochloris* 属で立体異性が逆であった。関与する生合成酵素の同定と性質およびカロテノイドの機能を研究している。他にも国内外の数グループとカロテノイドに関連する共同研究を進めている。(高市)

3) 冬緑性草本であるヒガンバナを用いて、生理生態学的な研究を行っている (国内共同研究)。本種は、休眠期とみなされがちな葉の無い季節にも窒素を吸収する。その量は、展葉期に比して少ないにもかかわらず、初期成長に対してより大きな効果をもつことが明らかになった。(西谷)

## 研究業績

### 論文

(1) 原著:

- 1) Motoi N<sup>1</sup>), Hasebe T, Suzuki K<sup>2</sup>), Ishizuya-Oka A ( <sup>1</sup> Graduate Schl Sci, Hiroshima Univ, <sup>2</sup> Center Marine Environ Studies, Ehime Univ) : Spatiotemporal expression profile of no29/nucleophosmin3 in the intestine of *Xenopus laevis* during metamorphosis. *Cell Tissue Res* 2011 ; 344 (3) : 445-453.
- 2) Hasebe T, Kajita M<sup>1</sup>), Iwabuchi M<sup>2</sup>), Ohsumi K<sup>2</sup>), Ishizuya-Oka A ( <sup>1</sup> Dept Mol Biol, Inst Develop Aging Sci, Nippon Medical School, <sup>2</sup> Lab Mol Genetics, Div Biol Sci, Graduate Schl Sci, Nagoya Univ) : Thyroid hormone-regulated expression of nuclear lamins correlates with dedifferentiation of intestinal epithelial cells during *Xenopus laevis* metamorphosis. *Dev Genes Evol* 2011 ; 221 (4) : 199-208.
- 3) Hasebe T, Kajita M<sup>1</sup>), Fu L<sup>2</sup>), Shi Y<sup>2</sup>), Ishizuya-Oka A ( <sup>1</sup> Dept Mol Biol, Inst Develop Aging Sci, Nippon Medical School, <sup>2</sup> LGRD/NICHD/NIH) : Thyroid hormone-induced sonic hedgehog signal up-regulates its own pathway in a paracrine manner in the *Xenopus laevis* intestine during metamorphosis. *Dev Dyn* 2012 ; 241 (2) : 403-414.
- 4) Takaichi S, Maoka T<sup>1</sup>), Sasikala C<sup>2</sup>), Ramana C<sup>3</sup>), Shimada K<sup>4</sup>) ( <sup>1</sup> Inst Production Develop, <sup>2</sup> Inst Sci Technol, JNT Univ, <sup>3</sup> School Life Sci, Univ Hyderabad, <sup>4</sup> Dept Biology, Tokyo Metropolitan Univ) : Genus specific unusual carotenoids in purple bacteria, *Phaeospirillum* and *Roseospira* : structures and biosynthesis. *Curr Microbiol* 2011 ; 63 (1) : 75-80.
- 5) Lakshmi K<sup>1</sup>), Sasikala C<sup>1</sup>), Takaichi S, Ramana C<sup>2</sup>) ( <sup>1</sup> Inst Sci Technol, JNT Univ, <sup>2</sup> School Life Sci, Univ Hyderabad) : *Phaeospirillum oryzae* sp. nov., a spheroplast-forming, phototrophic alphaproteobacterium from a paddy soil. *Int J Syst Evol Microbiol* 2011 ; 61 (7) : 1656-1661.
- 6) Arima H<sup>1</sup>), Horiguchi N<sup>1</sup>), Takaichi S, Kofuji R<sup>1</sup>), Ishida K<sup>1</sup>), Wada K<sup>1</sup>), Sakamoto T<sup>1</sup>) ( <sup>1</sup> Biol Sci, Kanazawa Univ) : Molecular genetic and chemotaxonomic characterization of the terrestrial cyanobacterium *Nostoc commune* and its neighboring species. *FEMS Microbiol Ecol* 2012 ; 79 (1) : 34-45.

- 7) Yoshii H<sup>1,2)</sup>, Yoshii Y<sup>1,3)</sup>, Asai T<sup>4)</sup>, Furukawa T<sup>1,3)</sup>, Takaichi S, Fujibayashi Y<sup>1,3)</sup> (1) Natl Inst Radiological Sci, 2) Fac Medical Sci, Univ Fukui, 3) Biomedical Imaging Research Center, Univ Fukui, 4) Fac Engineering, Univ Fukui) : Photo-excitation of carotenoids causes cytotoxicity via singlet oxygen production. *Biochem Biophys Res Commu* 2012 ; 412 (1) : 640-645.
- (2) 総説 :
- 1) Shi Y<sup>1)</sup>, Hasebe T, Fu L<sup>1)</sup>, Fujimoto K<sup>1)</sup>, Ishizuya-Oka A (1) LGRD/NICHD/NIH) : The development of the adult intestinal stem cells : Insights from studies on thyroid hormone-dependent amphibian metamorphosis. *Cell Biosci* 2011 ; 1 (1) : 30-e9.
- 2) Takaichi S : Carotenoids in algae : distributions, biosyntheses and functions. *Mar Drugs* 2011 ; 9 (6) : 1101-1118.
- (3) Research Highlight :
- 1) Ishizuya-Oka A, Shi Y<sup>1)</sup> (1) LGRD/NICHD/NIH) : Evolutionary insights into postembryonic development of adult intestinal stem cells. *Cell Biosci* 2011 ; 1 (2) : 37-e3.
- (4) グラビア :
- 1) 長谷部孝, 岡 敦子 : 変態現象をモデルとした, 小腸上皮幹細胞の発生. *日医大医学会誌* 2012 ; 8 (1) : 4-5.

## 学会発表

- (1) 一般講演 :
- 1) 長谷部孝, 梶田満子<sup>1)</sup>, 岡 敦子 (1) 日本医科大老人病研分子生物学) : アフリカツメガエル変態期の消化管再構築における転写因子 Gli1-3 の発現解析. 日本動物学会大会 (第 82 回) (旭川), 2011. 9.
- 2) Fujiwara M<sup>1)</sup>, Hasebe T, Ishizuya-Oka A, Ghazizadeh M<sup>1)</sup> (1) Dept Mol Pathol, Inst Develop Aging Sci, Nippon Medical School) : Characterization of vascular morphology in the hindlimb, tentacle, and tail during *Xenopus laevis* development. 19 th Annual Meeting of the Japanese Vascular Biology and Medicine Organization (Tokyo), 2011. 12.
- 3) Nishitani S, Nakamura T<sup>1)</sup>, Kochi N<sup>1)</sup> (1) Tokyo Metropolitan Univ) : Effects of summer nitrogen uptake on winter growth in a winter-green perennial *Lycoris radiata*. 5th International Congress of East Asian Federation of Ecological Societies (Ohtsu), 2012. 3.
- 4) 高市真一, 持丸真里<sup>1)</sup>, 土屋 徹<sup>2)</sup>, 内田博子<sup>3)</sup>, 村上明男<sup>3)</sup>, 三室 守<sup>2)</sup> (1) 駒澤大・自然, 2) 京大院・人環, 3) 神戸大・内海域セ) : 酸素発生光合成生物の  $\alpha$ -カロテン : *Acaryochloris* の例外的な立体構造. 光合成の色素系と反応中心に関するセミナー (第 19 回) (豊中), 2011. 7.
- 5) Takaichi S, Murakami A<sup>1)</sup>, Mochimaru M<sup>2)</sup>, Yokoyama A<sup>3)</sup> (1) Kobe Univ, Res Cent Inland Seas, 2) Dept Natl Sci, Komazawa Univ, 3) Life Environment Sci, Univ Tsukuba) :  $\alpha$ -Carotene and its derivatives have a sole chirality in phototrophic organisms?. 16th International Symposium on Carotenoids (Krakow), 2011. 7.
- 6) Furubayashi M<sup>1)</sup>, Takaichi S, Misawa N<sup>2)</sup>, Umeno D<sup>1)</sup> (1) Dept Applied Chemistry Biotechnology, Chiba Univ, 2) Res Inst Bioresources Biotechnology, Ishikawa Pref Univ) : Specific non-natural C<sub>50</sub> carotenoid pathways constructed by the combinatorial expression of laboratory-evolved enzymes. 16th International Symposium on Carotenoids (Krakow), 2011. 7.
- 7) Wakahama T<sup>1)</sup>, Okuyama H<sup>1)</sup>, Maoka T<sup>2)</sup>, Takaichi S (1) Grad School Environmental Sci, Hokkaido Univ, 2) Inst Production Develop) : Unique carotenoid lactoside, P457, in *Symbiodinium* sp. of dinoflagellate. 16th International Symposium on Carotenoids (Krakow), 2011. 7.
- 8) Wakahama T<sup>1)</sup>, Takaichi S, Minami K<sup>2)</sup>, Okuyama H<sup>1)</sup> (1) Grad School Environmental Sci, Hokkaido Univ,

- 2) School Sci, Hokkaido Univ) : Lipid, fatty acid, and pigment compositions in two symbiotic dinoflagellates (zooxanthellae) isolated from scleractinian corals. International Union of Microbiological Societies 2011 Congress (IUMS2011) (Sapporo), 2011. 9.
- 9) 八波利恵<sup>1)</sup>, 安藤 藍<sup>1)</sup>, 高市真一, 福居俊昭<sup>1)</sup>, 仲宗根薫<sup>2)</sup>, 藤田信之<sup>3)</sup>, 関根光雄<sup>3)</sup>, 高品智典<sup>4)</sup>, 中村 聡<sup>1)</sup> (1) 東工大院生命理工, 2) 近畿大工, 3) 製品評価技術基盤機構, 4) 東洋大生命科) : *Haloarcula japonica* のレチナールおよびバクテリオルベリン生合成に関与する遺伝子の解析 : *brp* および *crtI* 遺伝子ホモログの同定. バイオ関連化学シンポジウム (第5回) (つくば), 2011. 9.
- 10) 高市真一, 持丸真里<sup>1)</sup>, 土屋 徹<sup>2)</sup>, 内田博子<sup>3)</sup>, 村上明男<sup>3)</sup>, 三室 守<sup>2)</sup> (1) 駒沢大自然, 2) 京大院人環, 3) 神戸大内海域セ) : シアノバクテリア *Acaryochloris* の  $\alpha$ -カロテン : 例外的な立体異性. カロテノイド研究談話会 (第25回) (つくば), 2011. 9.
- 11) 安藤 藍<sup>1)</sup>, 八波利恵<sup>1)</sup>, 高市真一, 福居俊昭<sup>1)</sup>, 仲宗根薫<sup>2)</sup>, 藤田光雄<sup>3)</sup>, 高品智典<sup>4)</sup>, 中村 聡<sup>1)</sup> (1) 東工大院生命理工, 2) 近畿大工, 3) 製品評価技術基盤機構, 4) 東洋大生命科) : 高度好塩性古細菌 *Haloarcula japonica* のカロテノイド分析および *crtI* 遺伝子ホモログの解析. カロテノイド研究談話会 (第25回) (つくば), 2011. 9.
- 12) 古林真衣子<sup>1)</sup>, 生悦住茉友<sup>1)</sup>, 高市真一, 斎藤恭一<sup>1)</sup>, 梅野太輔<sup>1)</sup> (1) 千葉大院・工・共生応化) : 人口代謝経路を用いた C<sub>50</sub>- $\beta$ -Carotene の全合成. カロテノイド研究談話会 (第25回) (つくば), 2011. 9.
- 13) 丸田 聡<sup>1,2)</sup>, 堀部智子<sup>1,2)</sup>, 小澄大輔<sup>2)</sup>, 須貝祐子<sup>2)</sup>, 藤井律子<sup>2)</sup>, 杉崎 満<sup>1,2)</sup>, 高市真一, 橋本秀樹<sup>1,2)</sup> (1) 大阪市立大理, 2) JST/CREST) : 紅色光合成細菌の光捕集アンテナにおけるカロテノイド-バクテリオクロロフィル間のエネルギー移動メカニズム. カロテノイド研究談話会 (第25回) (つくば), 2011. 9.
- 14) 高市真一 : 紅色光合成細菌のカロテノイドの多様性と生合成経路. 日本植物学会大会 (第75回) (東京), 2011. 9.
- 15) 齋藤 忍<sup>1)</sup>, 中村優介<sup>1)</sup>, 能木裕一<sup>2)</sup>, 高市真一, 浜本牧子<sup>1)</sup> (1) 明治大・農, 2) JAMSTEC) : 赤色系色素産生海洋酵母が産生する新しいカロテノイドの探索. 日本生物工学会大会 (第63回) (小金井), 2011. 9.
- 16) 古林真衣子<sup>1)</sup>, 生悦住茉友<sup>1)</sup>, 高市真一, 斎藤恭一<sup>1)</sup>, 梅野太輔<sup>1)</sup> (1) 千葉大院・工) : 人工代謝経路による C<sub>50</sub>- $\beta$ -Carotene の生合成. 日本農芸化学会 2011 年度大会 (群馬県, 板倉), 2011. 10.
- 17) 若浜貴宏<sup>1)</sup>, Taha A<sup>1)</sup>, 高市真一, 河地正伸<sup>2)</sup>, 吉田磨仁<sup>3)</sup>, 小亀一弘<sup>4)</sup>, 奥山英登志<sup>1)</sup> (1) 北海道大学院・環境科学, 2) 国立環境研, 3) 北海道大学院・地球環境科学, 4) 北海道大学院・理) : 渦鞭毛藻における脂肪酸組成と環境ストレスとの関係. 極域科学シンポジウム (第2回) (立川), 2011. 11.
- 18) 八波利恵<sup>1)</sup>, 安藤 藍<sup>1)</sup>, 高市真一, 福居俊昭<sup>1)</sup>, 仲宗根薫<sup>2)</sup>, 藤田信之<sup>3)</sup>, 関根光雄<sup>3)</sup>, 高品知典<sup>4)</sup>, 中村 聡<sup>1)</sup> (1) 東工大院生命理工, 2) 近畿大工, 3) 製品評価技術基盤機構, 4) 東洋大生命科) : *Haloarcula japonica* のゲノム上に見出された *brp* および *crtI* 遺伝子ホモログの役割. 極限環境生物学会大会 (第12回) (長崎), 2011. 11.
- 19) 井上修平<sup>1)</sup>, Appel J<sup>2)</sup>, 高市真一, 村田紀夫<sup>3)</sup>, 西山佳孝<sup>1)</sup> (1) 埼玉大院・理工, 2) Univ Kiel, 3) 基生研) : 光科学系 II の光阻害における酸化ストレスの作用機構. かずさ DNA 研究所研究会「ラン藻の分子生物学 2011」(木更津), 2011. 12.
- 20) 井上修平<sup>1)</sup>, Appel J<sup>2)</sup>, 高市真一, 村田紀夫<sup>3)</sup>, 西山佳孝<sup>1)</sup> (1) 埼玉大院・理工, 2) Univ Kiel, 3) 基生研) : 光化学系 II の光阻害に対する抗酸化物質の役割. 日本植物生理学会年会 (第53回) (京都), 2012. 3.
- 21) 高市真一, 内田博子<sup>1)</sup>, 村上明男<sup>1)</sup>, 広瀬裕一<sup>2)</sup>, 持丸真里<sup>3)</sup>, 土屋 徹<sup>4)</sup>, 三室 守<sup>4)</sup> (1) 神戸大内海域セ, 2) 琉球大, 3) 駒沢大自然, 4) 京大院人環) : シアノバクテリアの  $\alpha$ -カロテン : 分布と立体異性. 日本植物生理学会年会 (第53回) (京都), 2012. 3.
- 22) 佐藤諒一<sup>1)</sup>, 高市真一, 太田啓之<sup>2)</sup>, 増田真二<sup>2,3)</sup> (1) 東工大院・生命理工, 2) 東工大・バイオセンター, 3) JST・さきがけ) : 非光化学消光 (NPQ) に関与する遺伝子 *LAP1* の機能解析. 日本植物生理学会年会 (第53回) (京都), 2012. 3.
- 23) 古林真衣子<sup>1)</sup>, 李 伶<sup>1)</sup>, 高市真一, 斎藤恭一<sup>1)</sup>, 梅野太輔<sup>1)</sup> (1) 千葉大院・工・共生応化) : 非天然カロテノ

- イド経路における不飽和化酵素の進化分子工学. 日本農芸化学会 2012 年度大会 (京都), 2012. 3.
- 24) 安藤 藍<sup>1)</sup>, 八波利恵<sup>1)</sup>, 高市真一, 福居俊昭<sup>1)</sup>, 仲宗根薫<sup>2)</sup>, 藤田信之<sup>3)</sup>, 関根光雄<sup>3)</sup>, 高品知典<sup>4)</sup>, 中村 聡<sup>1)</sup>  
(<sup>1)</sup> 東工大大学院生命理工, <sup>2)</sup> 近畿大工, <sup>3)</sup> 製品評価技術基盤機構, <sup>4)</sup> 東洋大生命科): 高度好塩性古細菌 *Haloarcula japonica* のゲノム上に見出されたフィトエンデヒドロゲナーゼ遺伝子ホモログの解析. 日本農芸化学会 2012 年度大会 (京都), 2012. 3.
- 25) 古林真衣子<sup>1)</sup>, 生悦住茉友<sup>1)</sup>, 高市真一, 斎藤恭一<sup>1)</sup>, 梅野太輔<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 千葉大院・工・共生応化): 非天然カロテノイド合成経路の選択的と多様性の進化工学. 日本生物工学会大会 (第 63 回) (小金井), 2011. 9.
- 26) 古林真衣子<sup>1)</sup>, 生悦住茉友<sup>1)</sup>, 高市真一, 斎藤恭一<sup>1)</sup>, 梅野太輔<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 千葉大院・工): 人工代謝経路による非天然 C<sub>50</sub>-β-carotene の合成. 微生物研究会 (第 10 回) (松戸), 2011. 11.

### 3. 外国語

#### [英語・ドイツ語]

##### 研究概要

外国語教室（英語・ドイツ語）では、4名の専任教員が言語・言語教育、ならびに文化・文学に関わる研究活動を展開している。平成23年度の研究状況は次のとおりである。

＜言語・言語教育＞日本人による医学英語学習や論文執筆に関わる問題を検証・考察する研究を継続し、その成果の一部は本学および慶應義塾大学医学部における論文執筆に関する講演において示された。大学英語教育一般については、文学作品を活用した英語教育のあり方が継続中の研究テーマであり、学内の英語教育関連では、継続的に行っているTOEFL ITPの成績結果を踏まえ、自律的学習活動促進のあり方を検証・考察するとともに、語彙力向上とライティング活動との関連について研究を進めた。また、第二外国語を教える中で、文法教育と講読をとおして、いかに「聞く」「話す」「読む」「書く」という学習活動を総合的に扱うかを中心に、初級ドイツ語教育における諸問題を検討・考察した。ドイツ語側から日本語を見るという逆の作業も試みている。

＜文化・文学＞アイルランド小説および旅行記研究（科学研究費基盤研究C）を軸として展開した。新規採択研究の初年度にあたり、国内外の学会や学会誌において研究成果を発表した。なお、日本ジョージ・エリオット協会全国大会でのシンポジウム招聘講師として、文体論と談話分析の視点から初期小説を論じる機会を得た。日独文化交流関連の研究も継続している。

なお、次のような活動も展開した。日本医学英語教育学会理事、および日本医学英語検定試験制度・問題作成小委員会委員、東京工業大学外国語研究センター『ポリフォニア』査読委員、高円宮杯全日本中学校英語弁論大会、社会人英語ディベート大会、および東京大学ESS弁論大会における審査員。

##### 研究業績

###### 論文

###### (1) 原著：

- 1) 中村哲子：トラウマと物語：トレヴァーの『ルーシー・ゴールトの物語』（2002年）をめぐって。日医大医学会誌 2012；8（1）：22-25.
- 2) Nakamura T: 'Irish'Quest in Catholic-Oriented Novels of the 1820s and 1830s: The Banim Brothers and William Carleton. Journal of Irish Studies 2011；26：38-51.

###### (2) 総説：

- 1) 中村哲子：アングロ・アイリッシュの揺らぎと可能性。エール 2012；31：3-8.
- 2) Matsui Y<sup>1)</sup>, Nakamura T<sup>2)</sup>, Takakuwa H<sup>3)</sup> (1) Aoyama Gakuin University, (2) Nippon Medical School, (3) Senshu University) : British Identities in Scottish and Irish Contexts in Early Nineteenth-Century Fiction. Journal of Irish Studies 2011；26：3-6.

###### (3) 学会報告：

- 1) Nakamura T: Sharing 'Conflict and Resolution' in a Friendly Atmosphere at the IASIL Conference in Leuven. IASIL Japan Newsletter 2011；(2)：3.

##### 学会発表

###### (1) 招待講演：

- 1) Minton, T.D. : Has the Education Ministry's Focus on Aural/Oral Communication Skills in Secondary School

English Education Had the Desired Effect?. English-Speaking Union of Japan (123rd meeting) (Marunouchi Cafe (Tokyo)), 2011. 7.

2) Minton, T.D. : Can Japanese Students Speak Polite Japanese?. Institute for Research in International Communicative English (203rd meeting) (Tokyo Kasei University (Tokyo)), 2011. 7.

(2) シンポジウム :

1) 中村哲子 : 心の声を語る三人称の語り : 『アダム・ビード』を中心として <ジョージ・エリオットとポリフォニー>. 日本ジョージ・エリオット協会全国大会 (第15回) (フェリス女学院大学 (横浜)), 2011. 12.

(3) 一般講演 :

1) Nakamura T : Conflicting Images of Irishness : Travel Accounts of Connemara and Joyce Country in the 1830s. International Association for the Study of Irish Literatures (35th Conference) (Catholic University of Leuven, Leuven, Belgium), 2011. 7.

2) Nakamura T : The Irish as Seen through the Eyes of the British in the 1830s : Travel Writing and Controversy over the Irish Poor Law. The International Society for Travel Writing (7th Biennial Conference) (Georgetown University, Washington DC, USA), 2012. 3.

## 4. スポーツ科学

### [スポーツ科学]

#### 研究概要

三上：1) 日本医大5年生の学生が1年生のセミナーで行った実験結果を論文として発表することを指導して以下の内容の論文を発表した。継続的な身体運動がストレスを負荷したマウスのうつ様行動の発症を予防し、この予防効果には血管内皮細胞増殖因子（VEGF）を介した反応系により調節される海馬の神経新生と血管新生が関係する。2) 一過性の高強度運動による海馬歯状回での神経新生の増加が運動後2日間持続すること、および中強度の運動では2日間連続で運動することにより海馬の神経新生が増加することを明らかにした（共立女子短期大学との共同研究）。3) 一過性の高強度運動による海馬での神経新生の増加にはVEGFを介した反応経路が関与することを明らかにした（日本医大老人病研究所生化学部門との共同研究）。4) 還元型コエンザイムQ10の経口摂取が抗うつ効果をもたらすことについて明らかにした（すこやか食品との共同研究）5) 第153回日本体力医学会関東地方会を日本医科大学武蔵小杉キャンパスにて主催した。武藤：1) 「健康運動教室」に参加する高齢者を対象に、体格・生活活動力等を縦断的に調査している。運動習慣は生活活動力の維持または低下の遅延に役立ち、さらに脳の機能年齢にも好影響を及ぼすことが示唆された。2) 日本における健康づくりに貢献しているラジオ体操の更なる普及・推進を目的に、全国の建設業・運輸業関係企業を対象に、ラジオ体操の普及状況及び意向・ニーズ等に関する調査を実施した（（財）簡易保険加入協会より助成調査研究）。ラジオ体操を事故防止と健康管理のための大切な場と位置づけながらも、マンネリ化の改善のために現場に指導者を派遣し実技を含めラジオ体操の効果を伝えていくことが重要な課題であることが明らかになった。3) カンボジア・シェムリアップにおいて青少年の体格・体力、生活習慣、生活環境等の調査研究を継続的に行っている。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Kiuchi T<sup>1)</sup>, Lee H<sup>2)</sup>, Mikami T ( <sup>1)</sup> Nippon Medical School, Collegiate, <sup>2)</sup> Institute of Development and Aging Sciences, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Regular exercise cures depression-like behavior via VEGF-Flk-1 signaling in chronically stressed mice. Neuroscience 2012 ; 5 : 207-217.

##### (2) 研究報告書：

- 1) 武藤三千代, 渡部鎌二<sup>1)</sup>, 若山葉子<sup>2)</sup>, 渡部月子<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 神奈川県立保健福祉大学, <sup>2)</sup> 日本医科大学衛生学・公衆衛生学) : 形態計測・生活活動力測定結果について。平成23年度高齢者における健康維持増進のための総合的追跡研究 2011 ; 3-7.
- 2) 渡部鎌二<sup>1)</sup>, 武藤三千代 ( <sup>1)</sup> 神奈川県立保健福祉大学) : 健康体操教室における生活活動力の経年変化について。平成23年度高齢者における健康維持増進のための総合的追跡研究 2011 ; 8-11.
- 3) 若山葉子<sup>1)</sup>, 武藤三千代, 勝又聖夫<sup>1)</sup>, 伊藤博子<sup>1)</sup>, 渡部鎌二<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学衛生学・公衆衛生学, <sup>2)</sup> 神奈川県立保健福祉大学) : 高齢者の肥満・血液生化学値の検討－運動継続群と一般住民参加者との比較－。平成23年度高齢者における健康維持増進のための総合的追跡研究 2011 ; 12-14.
- 4) 勝又聖夫<sup>1)</sup>, 若山葉子<sup>1)</sup>, 伊藤博子<sup>1)</sup>, 川田智之<sup>1)</sup>, 武藤三千代, 森谷豊子<sup>2)</sup>, 渡部鎌二<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学衛生学・公衆衛生学, <sup>2)</sup> 神奈川県立保健福祉大学) : 2007年から2011年の5年間にわたる脳機能年齢の経年的推移。平成23年度高齢者における健康維持増進のための総合的追跡研究 2011 ; 36-40.

## 著 書

- 1) 武藤三千代：〔分担〕運動の実際 トレーニングと運動処方. 大学生の健康・スポーツ科学 (大学生の健康・スポーツ科学研究会編), 2012; pp134-149, 道和書院.

## 学会発表

### (1) シンポジウム：

- 1) 三上俊夫, 李ヒョンジン<sup>1)</sup>, 木内 拓<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学大学院医学研究科加齢科学系細胞生物学分野, <sup>2)</sup> 日本医科大学5年生)：運動による脳機能の改善と VEGF を介した神経新生の関係. 第153回日本体力医学会関東地方会 (武蔵小杉), 2011. 12.

### (2) 一般講演：

- 1) 武藤三千代, 勝又聖夫<sup>1)</sup>, 若山葉子<sup>1)</sup>, 渡部録二<sup>2)</sup>, 川守田千秋<sup>2)</sup>, 渡部月子<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学衛生学・公衆衛生学, <sup>2)</sup> 神奈川県立保健福祉大学)：高齢者における体操実施前後の脳機能年齢の変化. 日本運動・スポーツ科学学会第18回大会 (東京), 2011. 6.
- 2) 川守田千秋<sup>1)</sup>, 渡部録二<sup>1)</sup>, 武藤三千代 ( <sup>1)</sup> 神奈川県立保健福祉大学)：健康体操教室に参加している中高年女性の主観的健康感. 日本運動・スポーツ科学学会第18回大会 (東京), 2011. 6.
- 3) 武藤三千代, 渡部録二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 神奈川県立保健福祉大学)：カンボジア・シムリアップにおける小・中学生の形態について. 日本体育学会第62回大会 (鹿児島), 2011. 9.
- 4) 武藤三千代, 渡部録二<sup>1)</sup>, 若山葉子<sup>2)</sup>, 勝又聖夫<sup>2)</sup>, 川田智之<sup>2)</sup>, 川守田千秋<sup>1)</sup>, 渡部月子<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 神奈川県立保健福祉大学, <sup>2)</sup> 日本医科大学衛生学・公衆衛生学)：高齢者における運動と脳機能年齢について. 第70回日本公衆衛生学会総会 (秋田), 2011. 10.
- 5) 若山葉子<sup>1)</sup>, 伊藤博子<sup>1)</sup>, 勝又聖夫<sup>1)</sup>, 川田智之<sup>1)</sup>, 武藤三千代, 渡部録二<sup>2)</sup>, 川守田千秋<sup>2)</sup>, 渡部月子<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学衛生学・公衆衛生学, <sup>2)</sup> 神奈川県立保健福祉大学)：中高年を対象とした「運動教室」参加者の健康調査成績－運動継続群の推移－. 第70回日本公衆衛生学会総会 (秋田), 2011. 10.
- 6) 渡部月子<sup>1)</sup>, 渡部録二<sup>1)</sup>, 武藤三千代, 本田直子<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 神奈川県立保健福祉大学, <sup>2)</sup> 葛飾区葛飾保健所新小岩保健センター)：保健所・市町村保健センターにおけるラジオ体操・みんなの体操の普及状況. 第70回日本公衆衛生学会総会 (秋田), 2011. 10.
- 7) 若山葉子<sup>1)</sup>, 川田智之<sup>1)</sup>, 武藤三千代, 松井知子<sup>2)</sup>, 渡部録二<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学衛生学・公衆衛生学, <sup>2)</sup> 杏林大学保健学部, <sup>3)</sup> 神奈川県立保健福祉大学)：中高年を対象とした「運動教室」参加者の健康調査－一般地域住民との比較検討－. 第76回日本民族衛生学会総会 (福岡), 2011. 11.
- 8) 松井知子<sup>1)</sup>, 若山葉子<sup>2)</sup>, 武藤三千代, 大嶺智子<sup>1)</sup>, 朝野 聡<sup>1)</sup>, 渡部録二<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 杏林大学保健学部, <sup>2)</sup> 日本医科大学衛生学・公衆衛生学, <sup>3)</sup> 神奈川県立保健福祉大学)：高齢者の運動とメンタルヘルス－ラジオ体操励行者の場合－. 第76回日本民族英雨声学会総会 (福岡), 2011. 11.
- 9) 李ヒョンジン<sup>1)</sup>, 武藤順子<sup>2)</sup>, 李ホソン<sup>1)</sup>, 三上俊夫 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学老人病研究所生化学部門, <sup>2)</sup> 日本体育大学大学院体育研究科)：高強度運動及び中強度運動後の VEGF と VEGF 受容体のリン酸化の経時的な変化. 第77回日本体力医学会総会 (下関), 2011. 9.
- 10) 中島早苗<sup>1)</sup>, 三上俊夫 ( <sup>1)</sup> 共立女子短期大学)：一過性の高強度および中強度運動により増加する神経新生の比較について. 第77回日本体力医学会総会 (下関), 2011. 9.
- 11) 武藤順子<sup>1)</sup>, 李ヒョンジン<sup>2)</sup>, 李ホソン<sup>2)</sup>, 大野 誠<sup>1)</sup>, 三上俊夫 ( <sup>1)</sup> 日本体育大学大学院体育科学研究科, <sup>2)</sup> 日本医科大学老人病研究所生化学部門)：還元型および酸化型コエンザイム Q10 の抗うつ効果について. 第153回日本体力医学会関東地方会 (武蔵小杉), 2011. 12.



## 〔2〕基 礎 医 学



# 1. 解剖学講座（分子解剖学）

## 研究概要

(1) MicroRNA の分子解剖学的研究：a) 臓器・疾患における microRNA プロファイリングと機能解析（菊池講師，石川助教，瀧澤敬美助教，アリ助教，院生・軸園，院生・倉品，院生・篠塚，院生・神戸，院生・竹内真，院生・竹内純，国内留学生（自治医大）・高橋，国内留学生（自治医大）・石田，技術員・小管，技術員・日野原），b) exosome, P-body についての分子解剖学的解析（アリ，菊地），c) 卵巣における microRNA の機能解析（石橋講師，間瀬，瀧澤敬）を行った。（当大学院 臓器病態制御外科学，機能制御再生外科学，女性生殖発達病態学，疼痛制御麻酔科学，および東京大学・程久美子准教授，富山大学・齋藤滋教授との共同研究）(2) 胎盤の分子解剖学：a) ヒト胎盤胎児血管内皮細胞内の IIb 型 Fc 受容体-小胞の解析，b) 栄養膜細胞層の解析を進めた。分子生物学的解析（石川）を行った。（当大学院女性生殖発達病態学，米国オハイオ州立大学・John M. Robinson 教授，自治医科大学・松原茂樹教授，屋代隆教授，宮崎大学・片岡寛章教授との共同研究）(3) バイオイメージング・組織細胞化学法の開発と応用：GFP 融合分子発現ベクター作製と培養細胞での解析を行った（石川，アリ）。Stimulated emission depletion 顕微鏡を用いた小胞のバイオイメージング解析を行った（石川，瀧澤敬）。(4) 生殖細胞特異的分子 TEX101 の解析：石川，瀧澤敬，小管がエレクトロポレーションによる GFP 融合 shRNA ベクターのマウス精巢導入実験および組織化学的解析を行った。（順天堂大学・荒木慶彦准教授，長崎大学・小路武彦教授との共同研究）

## 研究業績

### 論文

#### 〔追加分〕

追加分総説：

- 1) 菊池邦生，石橋 幸，竹下俊行<sup>2)</sup>，瀧澤俊広<sup>(1)</sup> 日本医科大学産婦人科学講座）：絨毛と胎盤をめぐる新知見【絨毛研究最前線 4】絨毛細胞におけるマイクロ RNA. 臨床婦人科産科 2011；65（3）：254-259.

(1) 原著：

- 1) Ito T<sup>1)</sup>, Tsuruta S<sup>1)</sup>, Tomita K<sup>1)</sup>, Kikuchi K<sup>1)</sup>, Yokoi T<sup>1)</sup>, Aizawa Y<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> Graduate School of Bioscience and Biotechnology, Tokyo Institute of Technology, Yokohama, Japan) : Genes that integrate multiple adipogenic signaling pathways in human mesenchymal stem cells. *Biochem Biophys Res Commun* 2011 ; 409(4) : 786-791.
- 2) Kobayashi C<sup>1)</sup>, Shiina T<sup>2)</sup>, Tokioka A<sup>1)</sup>, Hattori Y<sup>1)</sup>, Komori T<sup>1)</sup>, Kobayashi-Miura M<sup>3)</sup>, Takizawa T, Takahara K<sup>4)</sup>, Inaba K<sup>4)</sup>, Inoko H<sup>2)</sup>, Takeya M<sup>5)</sup>, Dranoff G<sup>6)</sup>, Sugita M<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> Laboratory of Cell Regulation, Institute for Virus Research, Kyoto University, Kyoto, Japan, <sup>2)</sup> Department of Molecular Life Science, Tokai University School of Medicine, Isehara, Japan, <sup>3)</sup> Department of Public Health, Faculty of Medicine, Shimane University, Izumo, Japan, <sup>4)</sup> Laboratory of Immunobiology, Graduate School of Biostudies, Kyoto University, Kyoto, Japan, <sup>5)</sup> Department of Cell Pathology, Graduate School of Medical Sciences, Faculty of Life Sciences, Kumamoto University, Kumamoto, Japan, <sup>6)</sup> Department of Medical Oncology and Cancer Vaccine Center, Dana-Farber Cancer Institute, Boston, Massachusetts, USA) : GM-CSF-independent CD1a expression in epidermal Langerhans cells : evidence from human CD1A genome-transgenic mice. *J Invest Dermatol* 2011 ; 132 (1) : 241-244.
- 3) Nakagawa N, Yamamoto M, Imai Y, Sakaguchi Y, Takizawa T<sup>1)</sup>, Ohta N<sup>2)</sup>, Yagi N<sup>2)</sup>, Hatta I<sup>2)</sup>, Hitomi

- K<sup>3</sup>, Takizawa T<sup>1</sup>, Takeda J<sup>4</sup>, Tsuda T, Matsuki M, Yamanishi K ( <sup>1</sup> Department of Dermatology, Hyogo College of Medicine, Nishinomiya, Hyogo, Japan, <sup>2</sup> Japan Synchrotron Radiation Research Institute, Sayo-gun, Hyogo, Japan, <sup>3</sup> Department of Applied Molecular Biosciences, Graduate School of Bioagricultural Sciences, Nagoya University, Nagoya, Japan, <sup>4</sup> Department of Social and Environmental Medicine, Osaka University, Graduate School of Medicine, Suita, Osaka, Japan) : Knocking-in the R142C mutation in transglutaminase 1 disrupts the stratum corneum barrier and postnatal survival of mice. *J Dermatological Science* 2012 ; 65 (3) : 196-206.
- 4) 石川 源<sup>1</sup>, 相馬廣明<sup>2</sup>, 瀧澤俊広, 竹下俊行<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 日本医科大学産婦人科学講座, <sup>2</sup> 埼玉医科大学産婦人科) : 胎児死亡と胎盤病理学 2. 正常胎盤, 卵膜, 臍帯の組織所見. *産科と婦人科* 2011 ; 78 (6) : 655-663.
- 5) Takizawa T, Ishikawa T, Kosuge T, Mizuguchi Y<sup>3</sup>, Sato Y<sup>2</sup>, Koji T<sup>2</sup>, Araki Y<sup>3</sup>, Takizawa T ( <sup>1</sup> Department of Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Nippon Medical School, <sup>2</sup> Department of Histology and Cell Biology, Nagasaki University Graduate School of Biomedical Sciences, <sup>3</sup> Institute for Environmental and Gender-Specific Medicine, Juntendo University Graduate School of Medicine) : Gene suppression of mouse testis in vivo using small interfering RNA derived from plasmid vectors. *Acta Histochem Cytochem* 2012 ; 45 (1) : 77-81.
- 6) Mizuguchi Y<sup>1,2</sup>, Specht S<sup>1,2</sup>, Lunz Iii GJ<sup>2,3</sup>, Isse K<sup>1,2</sup>, Corbitt N<sup>1,2</sup>, Takizawa T, Demetris JA<sup>1,2</sup> ( <sup>1</sup> Thomas E. Starzl Transplantation Institute, University of Pittsburgh Medical Center, Pittsburgh, Pennsylvania, United States of America, <sup>2</sup> Department of Pathology, University of Pittsburgh Medical Center, Pittsburgh, Pennsylvania, United States of America, <sup>3</sup> Department of Surgery, University of Pittsburgh Medical Center, Pittsburgh, Pennsylvania, United States of America) : Cooperation of p300 and PCAF in the Control of MicroRNA 200c/141 Transcription and Epithelial Characteristics. *PLoS One* 2012 ; 7 (2) : e32449.
- 7) Ishibashi O, Ohkuchi A<sup>1</sup>, Ali MM, Kurashina R<sup>2</sup>, Luo S<sup>3</sup>, Ishikawa T, Takizawa T, Chikako H<sup>1</sup>, Kayo T<sup>1</sup>, Migita M<sup>4</sup>, Ishikawa G<sup>2</sup>, Yoneyama K<sup>2</sup>, Asakura H<sup>2</sup>, Izumi A<sup>1</sup>, Shigeki M<sup>1</sup>, et al. ( <sup>1</sup> Department of Obstetrics and Gynecology, Jichi Medical University, <sup>2</sup> Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, <sup>3</sup> Department of Cardiology, First Clinical College of Harbin Medical University, <sup>4</sup> Department of Pediatrics, Nippon Medical School) : Hydroxysteroid (17- $\beta$ ) dehydrogenase 1 is dysregulated by miR-210 and miR-518c that are aberrantly expressed in preeclamptic placentas : a novel marker for predicting preeclampsia. *Hypertension* 2012 ; 59 (2) : 265-273.
- 8) Ishibashi O, Ali MM, Luo S<sup>1</sup>, Ohba T<sup>2</sup>, Katabuchi H<sup>2</sup>, Takeshita T<sup>3</sup>, Takizawa T ( <sup>1</sup> Department of Cardiology, First Clinical College of Harbin Medical University, <sup>2</sup> Department of Gynecology, Faculty of Medical and Pharmaceutical Sciences, Kumamoto University, <sup>3</sup> Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School) : Short RNA duplexes elicit RIG-I-mediated apoptosis in a cell type- and length-dependent manner. *Sci Signal* 2011 ; 4 (198) : ra74.
- 9) Shigehara K<sup>1</sup>, Yokomuro S<sup>1</sup>, Ishibashi O, Mizuguchi Y<sup>1</sup>, Arima Y<sup>1</sup>, Kawahigashi Y<sup>1</sup>, Kanda T<sup>1</sup>, Akagi I<sup>1</sup>, Tajiri T<sup>1</sup>, Yoshida H<sup>1</sup>, Takizawa T, Uchida E<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> Department of Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Nippon Medical School) : Real-time PCR-based analysis of the human bile microRNAome identifies miR-9 as a potential diagnostic biomarker for biliary tract cancer. *PLoS One* 2011 ; 6 (8) : e23584.
- 10) Akagi I<sup>1</sup>, Miyashita M<sup>1</sup>, Ishibashi O, Mishima T, Kikuchi K, Makino H<sup>1</sup>, Nomura T<sup>1</sup>, Hagiwara N<sup>1</sup>, Uchida E<sup>1</sup>, Takizawa T ( <sup>1</sup> Department of Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Relationship between altered expression levels of MIR21, MIR143, MIR145, and MIR205 and clinicopathologic features of esophageal squamous cell carcinoma. *Dis Esophagus* 2011 ; 24

(7) : 523-530.

## 著 書

- 1) 中村澄夫, 山口正視, 瀧澤俊広, 山下修二 (1) 神奈川歯科大学生物化学教室, (2) 千葉大学真菌医学研究センター真菌症研究部門病原機能分野, (3) 慶應義塾大学医学部病理学教室) : [分担] 4章透過電顕試料作製法 II 5節 A. 酵素細胞化学. 電顕入門ガイドブック改訂版 ([社] 日本顕微鏡学会 電子顕微鏡技術認定委員会 編), 2011 : pp90-97, 国際文献印刷社.
- 2) Ackerman Iv EW<sup>1)</sup>, Takizawa T<sup>2)</sup>, Robinson MJ<sup>3)</sup> (1) Department of Obstetrics and Gynecology, Ohio State University, Columbus, OH, USA, (2) Department of Molecular Medicine and Anatomy, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (3) Department of Physiology and Cell Biology, Ohio State University, Columbus, OH, USA) : [分担] Microscopy and the Placenta. The Placenta : From Development to Disease (Helen Kay, D. Michael Nelson, Yuping Wang), 2011 : pp189-196, Wiley-Blackwell.

## 学会発表

### (1) 特別講演 :

- 1) 瀧澤俊広 : 医学に新たな展開をもたらすマイクロ RNA (microRNA) : 胎盤における発現・機能解析, 臨床応用 (2011年5月18日). 自治医科大学大学院特別講義 (栃木 (自治医科大学大学院)), 2011. 5.

### (2) シンポジウム :

- 1) 菊池邦生, アリモハメド, 羅 善順<sup>1)</sup>, 石橋 宰, 石川朋子, 瀧澤敬美, 倉品隆平<sup>2)</sup>, 石川 源<sup>2)</sup>, 右田 真<sup>3)</sup>, 大口昭英<sup>4)</sup>, 松原茂樹<sup>4)</sup>, 竹下俊行<sup>2)</sup>, 瀧澤俊広 (1) ハルピン医科大学附属第一病院 循環器内科学, (2) 日本医科大学産婦人科学講座, (3) 日本医科大学小児科学講座, (4) 自治医科大学産婦人科学講座) : 胎盤由来エクソソームを介した胎盤-母体間コミュニケーション (シンポジウム 2 S2-4 / 発表日 : 10月1日). 第19回日本胎盤学会学術集会 / 第29回日本絨毛性疾患研究会 (2011年9月30日 (金)~10月1日 (土)) (東京 (東京ステーションコンファレンス)), 2011. 9.
- 2) Robinson MJ<sup>1)</sup>, Takizawa T (1) Department of Physiology and Cell Biology, Ohio State University, Columbus OH) : Correlative fluorescence and electron microscopy in tissue (Session VI : Past-President Symposium, March 23,2012). Histochemistry 2012 (The Histochemical Society 63rd Annual Meeting) (The Marine Biological Laboratory, Woods Hole, MA 02543, USA (March 20-23,2012)), 2012. 3.
- 3) 瀧澤俊広, 石橋 宰, 菊池邦生, アリモハメド, 石川朋子, 瀧澤敬美, 大口昭英<sup>1)</sup>, 松原茂樹<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>2)</sup> (1) 自治医科大学産婦人科学講座, (2) 日本医科大学産婦人科学講座) : 胎盤特異的 microRNA (シンポジウム 1 small RNA と疾患 SY1-4 / 発表日 : 2011年11月10日). 第56回日本人類遺伝学会 (2011年11月9日 (水) -12日 (土)) (千葉 (幕張メッセ)), 2011. 11.
- 4) 瀧澤俊広, アリモハメド, 羅 善順<sup>1)</sup>, 石橋 宰, 菊池邦生, 石川朋子, 瀧澤敬美, 倉品隆平<sup>2)</sup>, 右田 真<sup>3)</sup>, 大口昭英<sup>4)</sup>, 松原茂樹<sup>4)</sup>, 竹下俊行<sup>2)</sup> (1) ハルピン医科大学附属第一病院循環器内科学, (2) 日本医科大学産婦人科学講座, (3) 日本医科大学小児科講座, (4) 自治医科大学産婦人科学講座) : 胎盤由来のエクソソーム : 胎盤特異的 microRNA はエクソソームを介して母体循環に分泌される (シンポジウム 2S4a 多彩な生命現象を伝搬するエクソソーム 2S4a-4 / 発表日 : 2011年9月22日). 第84回日本生化学会大会 (2011年9月21日 (水)~24日 (土)) (京都 (国立京都国際会館)), 2011. 9.

### (3) セミナー :

- 1) 瀧澤俊広 : microRNA : 胎盤における発現・機能解析と臨床応用 (2011年7月13日). 順天堂大学大学院環境医学研究所セミナー (千葉 (順天堂大学大学院環境医学研究所)), 2011. 7.

(4) 一般講演：

- 1) 軸菌智雄<sup>1)</sup>, 石橋 宰, 川本雅司<sup>3)</sup>, 天神敏博<sup>4)</sup>, 土屋眞一<sup>3)</sup>, 清水一雄<sup>1)</sup>, 瀧澤俊広 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 外科学講座 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門), <sup>2)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院 乳腺外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院 病理部) : ホルモン固定パラフィン標本からの microRNA 抽出条件の検討 (一般演題\_\_口演 4 microRNA : O44/発表日 : 2011 年 6 月 25 日). 第 21 回日本サイトメトリー学会学術集会 (京都 (京都市国際交流会館)), 2011. 6.
- 2) 軸菌智雄<sup>1)</sup>, 石橋 宰, 竹間由佳<sup>1)</sup>, ヘイムス規予美<sup>1)</sup>, 岡村律子<sup>1)</sup>, 五十嵐健人<sup>1)</sup>, 赤須東樹<sup>1)</sup>, 山下浩二<sup>2)</sup>, 廣川満良<sup>4)</sup>, 宮内 昭<sup>4)</sup>, 川本雅司<sup>3)</sup>, 土屋眞一<sup>3)</sup>, 瀧澤俊広, 清水一雄<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院外科学講座 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門), <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院 外科学講座 (消化器・一般・乳腺・移植部門), <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院病理部, <sup>4)</sup> 神甲会隈病院) : 甲状腺微小浸潤型濾胞癌の術後遠隔転移を予測するためのバイオマーカーの開発 : 初回手術時の病理標本を用いた microRNA 解析 (特別企画 2 SP2-1 / 発表日 : 2011 年 7 月 8 日). 第 23 回日本内分泌外科学会総会 (東京 (ホテルオークラ東京)), 2011. 7.
- 3) 高橋宏典<sup>1)</sup>, 菊池邦生, 松原茂樹<sup>1)</sup>, 鈴木光明<sup>1)</sup>, 瀧澤俊広 ( <sup>1)</sup> 自治医科大学産婦人科学講座) : 栄養膜浸潤における接着分子 CD44 の役割 : 浸潤能解析 (一般演題 5 5-3/発表日 : 10 月 1 日). 第 19 回日本胎盤学会学術集会 / 第 29 回日本絨毛性疾患研究会 (2011 年 9 月 30 日 (金)~10 月 1 日 (土)) (東京 (東京ステーションコンファレンス)), 2011. 9.
- 4) 高橋宏典<sup>1)</sup>, 菊池邦生, 大口昭英<sup>1)</sup>, 松原茂樹<sup>1)</sup>, 鈴木光明<sup>1)</sup>, 瀧澤俊広 ( <sup>1)</sup> 自治医科大学産婦人科学講座) : 胎盤栄養膜において浸潤能を制御する接着因子の同定と機能解析の試み (一般演題 session4 10/発表日 : 10 月 15 日). 日本解剖学会 関東支部 第 99 回学術集会 (千葉 (日本大学松戸歯学部 MD ホール)), 2011. 10.
- 5) 石橋 宰, 大口昭英<sup>1)</sup>, 石川 源<sup>2)</sup>, 平嶋周子<sup>1)</sup>, 高橋佳代<sup>1)</sup>, 松原茂樹<sup>2)</sup>, 竹下俊行<sup>2)</sup>, 瀧澤俊広 ( <sup>1)</sup> 自治医科大学産婦人科学講座, <sup>2)</sup> 日本医科大学産婦人科学講座) : 妊娠血漿中での HSD17B1 の検出と妊娠高血圧腎症発症例におけるその動態 (一般演題 基礎 (1) O-5/発表日 : 10 月 22 日). 第 32 回日本妊娠高血圧学会学術集会 (金沢 (金沢歌劇座)), 2011. 10.
- 6) 軸菌智雄<sup>1)</sup>, 村瀬幸宏<sup>2)</sup>, 渡会泰彦<sup>2)</sup>, 石橋 宰, 川本雅司<sup>2)</sup>, 土屋眞一<sup>2)</sup>, 清水一雄<sup>1)</sup>, 瀧澤俊広 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院外科学講座 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門), <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院病理部) : LMD によるパラフィン標本を用いた甲状腺腫瘍 microRNA 解析のための条件検討 (一般演題 甲状腺 I O-68/発表日 : 10 月 23 日). 第 50 回日本臨床細胞学会秋期大会 (東京 (京王プラザホテル新宿)), 2011. 10.
- 7) 石川朋子, 本多 新<sup>1)</sup>, 廣瀬美智子<sup>1)</sup>, 瀧澤敬美, 小倉淳郎<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>2)</sup>, 瀧澤俊広 ( <sup>1)</sup> 理化学研究所筑波研究所遺伝子工学基盤技術室, <sup>2)</sup> 日本医科大学産婦人科学講座) : マウス卵巣莢膜幹細胞のマикро RNA 解析 (第 1 報) : プロファイル解析 (セッション 2 : 卵子・卵巣 II 05 2011 年 12 月 2 日). 第 26 回 日本生殖免疫学会総会・学術集会 (2011 年 12 月 2 日 (金)~3 日 (土)) (名古屋 (ウインクあいち)), 2011. 12.
- 8) 間瀬有里<sup>1)</sup>, 石橋 宰, 石川 源<sup>1)</sup>, 木口一成<sup>2)</sup>, 片瀧秀隆<sup>3)</sup>, 大場 隆<sup>3)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup>, 瀧澤俊広 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学産婦人科学講座, <sup>2)</sup> 聖マリアンナ医科大学産婦人科, <sup>3)</sup> 熊本大学医学部産科婦人科) : ヒト卵巣顆粒膜細胞株に発現する microRNA の標的遺伝子の同定 (セッション 2 : 卵子・卵巣 II 07 2011 年 12 月 2 日). 第 26 回 日本生殖免疫学会総会・学術集会 (2011 年 12 月 2 日 (金)~3 日 (土)) (名古屋 (ウインクあいち)), 2011. 12.
- 9) アリモハメド, 菊池邦生, 石橋 宰, 石川朋子, 瀧澤敬美, 竹下俊行<sup>1)</sup>, 瀧澤俊広 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学産婦人科学講座) : エクソソーム microRNA を介した胎盤-リンパ球間コミュニケーション : 培養細胞を用いたモデル解析 (セッション 5 : 胚・絨毛 21 2011 年 12 月 3 日). 第 26 回 日本生殖免疫学会総会・学術集会 (2011 年 12 月 2 日 (金)~3 日 (土)) (名古屋 (ウインクあいち)), 2011. 12.
- 10) 高橋宏典<sup>1)</sup>, 菊池邦生, 松原茂樹<sup>1)</sup>, 鈴木光明<sup>1)</sup>, 瀧澤俊広 ( <sup>1)</sup> 自治医科大学産婦人科学講座) : 絨毛外栄養膜細胞に発現している CD44 の機能解析 : HTR8/SVneo を用いた浸潤能の検討 (セッション 5 : 胚・絨毛 22 2011

年12月3日). 第26回日本生殖免疫学会総会・学術集会(2011年12月2日(金)~3日(土))(名古屋(ウインクあいち)), 2011. 12.

- 11) 瀧澤俊広, 石橋 宰, 大口昭英<sup>1)</sup>, 倉品隆平<sup>2)</sup>, 羅 善順<sup>3)</sup>, 石川 源<sup>2)</sup>, 松原茂樹<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 自治医科大学産婦人科学講座, <sup>2)</sup> 日本医科大学産婦人科学講座, <sup>3)</sup> ハルピン医科大学附属第一病院循環器内科学): 妊娠高血圧腎症の胎盤において microRNA 発現異常が胎盤特異的エストロジオール合成酵素の調節不全を引き起こしている (10-IPM 生殖器: 10-IPM-6 / 発表日: 2012年3月26日). 第117回 日本解剖学会総会・全国学術集会(2012年3月26日(月)~28日(水))(甲府(山梨大学甲府キャンパス)), 2012. 3.
- 12) Ali MM, Song X<sup>2)</sup>, Ishibashi O, Kikuchi K, Ishikawa T, Takizawa T, Takizawa T (<sup>1)</sup> Department of Pharmaceutics, First Clinical College of Harbin Medical University, Harbin, China): Placenta specific miR-517a modulates gene expression in Jurkat cells (細胞生物学 I: 1P-062 / 発表日: 2012年3月26日). 第117回 日本解剖学会総会・全国学術集会(2012年3月26日(月)~28日(水))(甲府(山梨大学甲府キャンパス)), 2012. 3.
- 13) 菊池邦生, 曲 光瑾<sup>1)</sup>, 羅 善順<sup>2)</sup>, 瀧澤俊広 (<sup>1)</sup> ハルピン医科大学附属第一病院老年科, <sup>2)</sup> ハルピン医科大学附属第一病院循環器内科学): 胎盤特異的 microRNA の発現に關与する CpG 配列のメチル化解析 (細胞生物学 I: 1P-063 / 発表日: 2012年3月26日). 第117回 日本解剖学会総会・全国学術集会(2012年3月26日(月)~28日(水))(甲府(山梨大学甲府キャンパス)), 2012. 3.
- 14) 石川朋子, 片山 映<sup>1)</sup>, 石橋 宰, 程久美子<sup>2)</sup>, 瀧澤俊広 (<sup>1)</sup> 日本医科大学生生化学・分子生物学講座(代謝・栄養学), <sup>2)</sup> 東京大学大学院理学系研究科 生物化学専攻 生物情報科学): ヒト胎盤血管内皮細胞に発現している IgG 輸送体 "Iib 型 Fc 受容体 (FcRIIb) - 小胞" の制御機構の解明 (細胞生物学 I: 1P-064 / 発表日: 2012年3月26日). 第117回 日本解剖学会総会・全国学術集会(2012年3月26日(月)~28日(水))(甲府(山梨大学甲府キャンパス)), 2012. 3.
- 15) 瀧澤敬美, 石川朋子, 菊池邦生, アリモハメド, 石橋 宰, 竹下俊行<sup>1)</sup>, 瀧澤俊広 (<sup>1)</sup> 日本医科大学産婦人科学講座): 医学部低学年のチュートリアル教育のための解剖学に關連した教材の開発 (解剖学教育: 3P-082 / 発表日: 2012年3月28日). 第117回 日本解剖学会総会・全国学術集会(2012年3月26日(月)~28日(水))(甲府(山梨大学甲府キャンパス)), 2012. 3.
- 16) 瀧澤俊広, 石橋 宰, 大口昭英<sup>2)</sup>, 倉品隆平<sup>1)</sup>, 石川 源<sup>1)</sup>, 平嶋周子<sup>2)</sup>, 高橋佳代<sup>2)</sup>, 泉 章夫<sup>2)</sup>, 米山剛一<sup>1)</sup>, 朝倉啓文<sup>1)</sup>, 松原茂樹<sup>2)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学産婦人科学講座, <sup>2)</sup> 自治医科大学産婦人科学講座): 妊娠高血圧症候群に關連する microRNA とその標的遺伝子 HSD17B1 の同定: 新たな予知マーカーの開発 (優秀演題賞候補講演: 周産期 Y-20 / 発表日: 2011年8月30日). 第63回日本産科婦人科学会・学術講演会(2011年 8月29日(月)~31日(水))(大阪(リーガロイヤルホテル大阪, 大阪国際会議場)), 2011. 8.
- 17) 間瀬有里<sup>1)</sup>, 石橋 宰, 石川 源<sup>1)</sup>, 富山僚子<sup>1)</sup>, 木口一成<sup>2)</sup>, 片瀨秀隆<sup>3)</sup>, 大場 隆<sup>3)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup>, 瀧澤俊広 (<sup>1)</sup> 日本医科大学産婦人科学講座, <sup>2)</sup> 聖マリアンナ医科大学 産婦人科, <sup>3)</sup> 熊本大学 医学部 産科婦人科): ヒト卵巣顆粒膜細胞に発現している microRNA の標的としての遺伝子の解析 (ポスター P1-32-3 / 発表日: 2011年8月29日). 第63回日本産科婦人科学会・学術講演会(2011年 8月29日(月)~31日(水))(大阪(リーガロイヤルホテル大阪, 大阪国際会議場)), 2011. 8.

## 2. 解剖学講座（生体構造学）

### 研究概要

思春期「puberty」は子供から大人へのゲートであり、これを通り抜けることによって、身体的にも、精神的にも成熟し、大人としての社会活動、行動に適応する身体の仕組みが構築されると定義される。この思春期が誘発される詳細な神経機能メカニズムであるが、視床下部-下垂体-性腺系への強い抑制はネガティブフィードバック機構だけでは説明がつかず、中枢性の強い抑制性制御が関わっていると考えられていた。近年、オーファン受容体 GPR54 のリガンドとして、新規生理活性物質 kisspeptin が同定され、kisspeptin による GnRH ニューロンの活性誘導に注目が集まりつつある。「脳内の神経ネットワーク」による思春期発動機序の解明については、未だ多くの課題を残している。我々はこれまでに「脳とホルモン」、「脳における神経回路形成とホルモン」といった課題を中心に、ステロイドホルモンとその受容体によって調節される神経細胞の機能と形態の変動を多角的に調べてきた。特に性ステロイドホルモンは、脳における性機能調節系の制御に深く関わっており、性機能発動の大きなターニングポイントである思春期が生じるメカニズムにはステロイドホルモンの役割が大きな意味を持つ。我々はこれまでの研究アプローチをより具体的な生理作用解明に適用させ、思春期発動と関わる「性」、「摂食」、「ストレス」といった神経制御機構の3次元神経ネットワークを明らかにし、ネットワークの相互作用、ネットワークの乱れと思春期前後の精神的、身体的な不安定の発生の関連を探求することを目指す研究を行っている。また GPF などの蛍光遺伝子の発現を利用して無麻酔下の living animal の神経活動を可視化する試みを進めており、行動と神経活動を一本化して観察するシステムの構築に関する研究を進行している。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Tobari Y, Iijima N, Tsunekawa K, Osugi T, Haraguchi S, Ubuka T, Ukena K, Okanoya K, Tsutsui K, Ozawa H: Identification, Localisation and Functional Implication of 26RFa Orthologue Peptide in the Brain of Zebra Finch (*Taeniopygia guttata*). J Neuroendocrinology 2011; 23: 791-803.
- 2) Matsuzaki T, Inahata Y, Sawai N, Yang C, Kobayashi M, Takata K, Ozawa H: Immunohistochemical localization of water channels, AQP4 and AQP5 in the rat pituitary gland. Acta Histochem Cytochem 2011; 44 (6): 259-266.

##### (2) 総説：

- 1) 小澤一史, 託見 健, 澤井信彦, 岩田衣世, 中根 亮, 飯島典生: 新規生理活性物質キスペプチン Kisspeptin と性機能調節神経系: 新しい間脳(視床下部)-下垂体-性腺系機能概念の構築. 顕微鏡 2011; 46 (2): 111-118.

#### 学会発表

##### (1) シンポジウム：

- 1) 小澤一史: 思春期発動と性機能制御に関わる kisspeptin ニューロンと摂食, ストレスの連関. 日本解剖学会総会・全国学術集会(第117回)(甲府), 2012. 3.
- 2) 小澤一史: 思春期はいかにして現れるのか~脳の性機能調節神経系による思春期発現の制御機構~. 日本思春期学会総会・学術集会(第30回)(福岡), 2011. 8.

(2) 一般講演：

- 1) 岩田衣世, 小澤一史：ラット脳室上衣細胞に関するグルココルチコイド受容体の組織化学的解析. 日本組織細胞化学会総会・学術集会 (第 52 回) (金沢), 2011. 9.
- 2) 國村有弓, 岩田衣世, 飯島典生, 小林牧人, 小澤一史：生殖制御神経系におけるプロラクチン受容体 (PRL-R) の発現様式に関する組織化学的解析. 日本組織細胞化学会総会・学術集会 (第 52 回) (金沢), 2011. 9.
- 3) 飯島典生, 澤井信彦, 岩田衣世, 中根 亮, 松本恵介, 小澤一史：神経ペプチド kisspeptin 含有神経線維の視床下部 Tuberoinfundibular dopamine neurons への入力. 日本組織細胞化学会総会・学術集会 (第 52 回) (金沢), 2011. 9.
- 4) 託見 健, 飯島典生, 小澤一史：新生仔期の性ステロイドがラット弓状核 kisspeptin の発現に及ぼす効果. 日本組織細胞化学会総会・学術集会 (第 52 回) (金沢), 2011. 9.
- 5) 澤井信彦, 飯島典生, 松崎利行, 小澤一史：雌ラット視床下部の神経内分泌性ドーパミンニューロンへの kisspeptin/neurokinin B ニューロンの直接入力とその投射分布：第 52 回日本組織細胞化学会総会・学術集会 2011.9 (金沢). 日本組織細胞化学会総会・学術集会 (第 52 回) (金沢), 2011. 9.
- 6) Yang C, Takumi K, Ozawa H：Morphometric study on the change of glial cells in the rat hypothalamus around puberty onset. 日本組織細胞化学会総会・学術集会 (第 52 回) (金沢), 2011. 9.
- 7) 萩原めぐみ, 飯島典生, 坂本篤裕, 小澤一史：吸入麻酔薬 Sevoflurane による時計遺伝子 rat Per2 発現の抑制. 日本組織細胞化学会総会・学術集会 (第 52 回) (金沢), 2011. 9.
- 8) 楊 春英, 託見 健, 小澤一史：性成熟に伴うラット視床下部正中隆起及び弓状核の星状膠細胞の変化に関する形態計測的研究. 日本神経内分泌学会学術集会 (第 38 回) (東京), 2011. 11.
- 9) 託見 健, 飯島典生, 小澤一史：新生仔期のエストロゲンがラット弓状核 Kisspeptin 発現に及ぼす効果. 日本神経内分泌学会学術集会 (第 38 回) (東京), 2011. 11.
- 10) 飯島典生, 澤井信彦, 岩田衣世, 松本恵介, 小澤一史：視床下部 Tuberoinfundibular dopamine neurons による神経ペプチド kisspeptin 含有神経線維からの入力・応答. 日本神経内分泌学会学術集会 (第 38 回) (東京), 2011. 11.
- 11) 岩田衣世, 小澤一史：ラット脳室周囲の上衣細胞に対するグルココルチコイド受容体の組織化学的解析. 日本神経内分泌学会学術集会 (第 38 回) (東京), 2011. 11.
- 12) 託見 健, 飯島典生, 小澤一史：ラット弓状核 Kisspeptin 発現に対する新生仔期性ステロイドの影響. 日本解剖学会総会・全国学術集会 (第 117 回) (甲府), 2012. 3.
- 13) 楊 春英, 託見 健, 小澤一史：思春期発動前後におけるラット視床下部正中隆起領域の星状神経膠細胞の可塑性について. 日本解剖学会総会・全国学術集会 (第 117 回) (甲府), 2012. 3.
- 14) 飯島典生, 澤井信彦, 岩田衣世, 松本恵介, 小澤一史：Kisspeptin ニューロンによる視床下部 Tuberoinfundibular dopamine (TIDA) ニューロンの制御. 日本解剖学会総会・全国学術集会 (第 117 回) (甲府), 2012. 3.
- 15) 萩原めぐみ, 飯島典生, 坂本篤裕, 小澤一史：吸入麻酔薬 Sevoflurane による時計遺伝子 rat Per2 発現の抑制. 日本解剖学会総会・全国学術集会 (第 117 回) (甲府), 2012. 3.
- 16) 國村有弓, 岩田衣世, 飯島典生, 小林牧人, 小澤一史：生殖制御神経系におけるプロラクチン受容体 (PRL-R) の発現様式に関する組織細胞化学的解析. 日本解剖学会総会・全国学術集会 (第 117 回) (甲府), 2012. 3.
- 17) 岩田衣世, 小澤一史：グルココルチコイド受容体 (GR) の脳室周囲上衣細胞における発現に関する組織化学的解析. 日本解剖学会総会・全国学術集会 (第 117 回) (甲府), 2012. 3.
- 18) 澤井信彦, 飯島典生, 小澤一史, 松崎利行：キスペプチンによるラット視床下部神経内分泌性ドーパミンニューロンのドーパミン合成能変化. 日本解剖学会総会・全国学術集会 (第 117 回) (甲府), 2012. 3.

### 3. 生理学講座（システム生理学）

#### 研究概要

教室主任の勤務最終年度となった平成23年度は常に増して各種の行事があった。日本学術振興会の二国間交流事業の支援による日中二カ国交流事業として Symposium on Behavior and its Neuro-Mechanisms を7月に中国西安市、日米科学技術協力事業「脳分野」の情報交換セミナーとして、Biology of Prosocial Behavior を10月に米国アトランタ市、平成24年3月には Post AOSCE Satellite Symposium on Neuroendocrinology and Behaviour をマレーシアペナン島で開催した。この他、第15回行動神経内分泌学会（6月、メキシコ合衆国ケレタロ）、第8回 IBRO World Congress（フィレンツェ、7月）、第41回北米神経科学学会（ワシントンDC、11月）、ロックフェラー大学でのセミナー（ニューヨーク、12月）などに参加、国内では下垂体研究会（倉敷）、神経内分泌学会（神戸）、生理学会（松本）などに参加し、特別講演・招待講演5回を含め計34演題を発表した。このうち西安には2名の院生、アトランタには2名の学部学生、ペナン島には1名の学部学生を帯同し発表を行わせた。今年度の学術振興会の科学研究費補助金は継続5件に加え、2件が新規採択され、合計7件、計1020万円の助成を得た（他に間接経費306万円）。今年度内の原著論文は5篇に留まったが、このうち Endocrinology 誌に発表したソマトスタチンによる GnRH ニューロンの抑制についての論文は巻頭で注目すべき発見と紹介された。学生の意識の変化に対応できるよう工夫を加えてきた生理学実習も第19回目の本年度が最終となり終わりにあたって花束をいただいた。また2月には学生向けの最終講義を佐久間・加藤が行い、田尻学長にもご臨席いただき篤く感謝している。学外活動も昨年度に引き続き各種行っている。

#### 研究業績

##### 論文

(1) 原著：

- 1) Ishii H, Sakuma Y : Complex organization of the 5'-untranslated region of the mouse estrogen receptor  $\alpha$  gene : Identification of numerous mRNA transcripts with distinct 5'-ends. *Journal of Steroid Biochemistry and Molecular Biology* 2011 ; 125 (3/5) : 211-218.
- 2) Kiyama R<sup>1)</sup>, Wada-Kiyama Y ( <sup>1)</sup> Biomedical Research Institute, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology) : A Conserved Regulatory Element in the Mammalian  $\beta$ -Globin Promoters. *Journal of Molecular Evolution* 2011 ; 73 : 101-108.
- 3) Matsumoto J<sup>1)</sup>, Urakawa S<sup>1)</sup>, Hori E<sup>1)</sup>, De Araujo-Fp M<sup>1)</sup>, Sakuma Y, Ono T<sup>1)</sup>, Nishijo H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> University of Toyama) : Neuronal responses in the nucleus accumbens shell during sexual behavior in male rats. *Journal of Neuroscience* 2012 ; 32 (5) : 1672-1686.
- 4) Koyama M, Yin C, Ishii H, Sakuma Y, Kato M : Somatostatin inhibition of GnRH neuronal activity and the morphological relationship between GnRH and somatostatin neurons in rats. *Endocrinology* 2012 ; 153 (2) : 806-814.
- 5) Dhungel S, Masaoka M<sup>1)</sup>, Rai D, Kondo Y<sup>2)</sup>, Sakuma Y ( <sup>1)</sup> The University of Tokyo, <sup>2)</sup> Teikyo University of Science) : Both olfactory epithelial and vomeronasal inputs are essential for activation of the medial amygdala and preoptic neurons of male rats. *Neuroscience* 2011 ; 199 : 225-234.

##### 学会発表

(1) 特別講演：

- 1) Sakuma Y : Recent progress and future perspective in the study of neurobiology of social behavior. Japan

Society for the Promotion of Science Sino-Japanese Joint Seminar on Neurobiological Basis of Social Behavior/The First Aisa-Pacific Conference on Integrative Behavioral Science (Xi'an, China), 2011. 7.

2) 佐久間康夫：エストロゲンと脳。第17回「性と生殖」公開シンポジウム（東京都），2011. 12.

(2) 招待講演：

1) 佐久間康夫：生殖行動の分子過程。第15回日本行動神経内分泌研究会（東京都八王子市），2011. 6.

2) Sakuma Y：GnRH neurons in puberty：GABA, chloride transporter, neuroactive steroids. US-JAPAN Brain Research Cooperative Program Workshop on Prosocial Behavior at Emory University (Atlanta, GA, U.S.A), 2011. 10.

3) Sakuma Y：Sexual Dimorphism of the Preoptic Area. The 7th AOSCE Congress Satellite Symposium Neuroendocrinology and Behaviour (Penang, Malaysia), 2012. 3.

(3) 一般講演：

1) Orikasa C, Kondo Y, Usui S, Sakuma Y：Bromodeoxyuridine visualizes the rat sexually dimorphic nucleus of the preoptic area when given on embryonic day 18. The 15th Annual Meeting of the Society for Behavioral Neuroendocrinology (Queretaro, Mexico), 2011. 6.

2) 棟朝亜理紗：出産・育児経験によるオキシトシン・ニューロンの反応性と行動の変化。第15回日本行動神経内分泌研究会（東京都八王子市），2011. 6.

3) Munetomo A, Kondo Y, Miyamoto T<sup>1)</sup>, Sakuma Y<sup>(1)</sup> (Labratory of Behavioral Neuroscience, Japan Women's University)：Oxytocin is required for acquisition of odor preference in the female rat toward pups. The 8th IBRO World Congress of Neuroscience, International Brain Research Organization (Florence, Italy), 2011. 7.

4) Koyama M, Yin C, Sakuma Y, Kato M：Contacts of somatostatin neurons with GnRH neuron in the organum vasculosum of the lamina terminalis and its physiological meaning. Japan Society for the Promotion of Science Sino-Japanese Joint Seminar on Neurobiological Basis of Social Behavior/The First Aisa-Pacific Conference on Integrative Behavioral Science (Xi'an, China), 2011. 7.

5) Munetomo A, Kondo Y, Miyamoto T<sup>1)</sup>, Sakuma Y<sup>(1)</sup> (Labratory of Behavioral Neuroscience, Japan Women's University)：Pup exposure in virgin females is insufficient to be maternal：Parturition and parenting experience forms oxytocin responsiveness to pups. Japan Society for the Promotion of Science Sino-Japanese Joint Seminar on Neurobiological Basis of Social Behavior/The First Aisa-Pacific Conference on Integrative Behavioral Science (Xi'an, China), 2011. 7.

6) 石井寛高, 濱田知宏, 佐久間康夫：ラットN末端欠損型・C末端欠損型エストロゲン受容体 $\alpha$ の同定と機能解析。日本下垂体研究会第26回学術集会（岡山市），2011. 8.

7) 河東堤子, 石井寛高, 棟朝亜理紗, 濱田知宏, 佐久間康夫：マウスにおける新規C末端欠損型エストロゲン受容体 $\alpha$ の同定と機能解析。日本下垂体研究会第26回学術集会（岡山市），2011. 8.

8) Koyama M, Yin C, Ishii H, Sakuma Y, Kato M：Morphological relationship between gonadotropin-releasing hormone neurons and somatostatin neurons in the organum vasculosum of the lamina terminalis and its physiological meaning. The 34th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society (Yokohama), 2011. 9.

9) Rai D, Dhungel S, Nishimori K<sup>1)</sup>, Kondo Y, Sakuma Y<sup>(1)</sup> (Graduate School of Agricultural Science, Tohoku University)：Oxytocin regulates social interaction antecedent to sexual behavior of male and female mice. The 34th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society (Yokohama), 2011. 9.

10) Watanabe M<sup>1)</sup>, Kato M, Sakuma Y, Nabekura J<sup>2)</sup> (1) Advanced Scientific Research Leaders Development Unit, Gunma University, (2) Division of Homeostatic Development, National Institute for Physiological Sciences)：The role of excitatory action of GABA in adult GnRH neurons. The 34th Annual Meeting of the Japan

Neuroscience Society (Yokohama), 2011. 9.

- 11) Kawashima M, Kamijo K, Suzuki C, Hamada T, Kiyama R<sup>1)</sup>, Kiyama-Wada Y, Sakuma Y ( <sup>1)</sup> Biomedical Research Institute, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology, Tukuba, Ibaraki, Japan) : Actin dynamics involved in the development of sexual dimorphism of the preoptic area in the rat Brain by Estrogen. US-JAPAN Brain Research Cooperative Program Workshop on Prosocial Behavior at Emory University (Atlanta, GA, U.S.A.), 2011. 10.
- 12) 棟朝亜理紗, 近藤保彦, 宮本武典<sup>1)</sup>, 佐久間康夫 ( <sup>1)</sup> 日本女子大学大学院理学研究科・物質生物機能科学専攻) : 出産育児経験により獲得される仔ラットの匂いに対するオキシトシンニューロンの反応性. 第38回日本神経内分泌学会学術集会 (東京都), 2011. 11.
- 13) 石井寛高, 濱田知宏, 佐久間康夫 : ヒトC末端欠損型エストロゲン受容体  $\alpha$  の同定と機能解析. 第38回日本神経内分泌学会学術集会 (東京都), 2011. 11.
- 14) Kiyama-Wada Y, Kawashima M, Kamijo K, Suzuki C, Hamada T, Kiyama R<sup>1)</sup>, Sakuma Y ( <sup>1)</sup> Biomedical Research Institute, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology, Tukuba, Ibaraki, Japan) : Estrogen-induced phosphorylation status of cofilin cascade and the establishment of the male-phenotype of the sexually dimorphic nucleus of the rat preoptic area. Neuroscience 2011, The 41st Annual Meeting of the Society for Neuroscience (Washington, D.C., U.S.A.), 2011. 11.
- 15) Kiyama-Wada Y, Suzuki C, Hamada T, Kiyama R<sup>1)</sup>, Sakuma Y ( <sup>1)</sup> Biomedical Research Institute, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology, Tukuba, Ibaraki, Japan) : Signaling of estrogen to actin dynamics via cofilin controls sexually dimorphic formation of the rat preoptic area. The 34th Annual Meeting of the Molecular Biology Society of Japan (Yokohama), 2011. 12.
- 16) Kawahigashi T, Ishii H, Munetomo A, Hamada T, Sakuma Y : Identification of truncated estrogen receptor  $\alpha$  variants in the mouse. US-JAPAN Brain Research Cooperative Program Workshop on Prosocial Behavior at Emory University (Atlanta, GA, U.S.A.), 2011. 10.
- 17) 折笠千登世 : ラット脳内視索前野性的二型核及び分界条床核2領域の非連続的神経核形成. 第17回「性と生殖」公開シンポジウム (東京都), 2011. 12.
- 18) 濱田知宏 : 脳の性分化機構におけるエストロゲンの細胞移動調節. 第17回「性と生殖」公開シンポジウム (東京都), 2011. 12.
- 19) Yin C, Ishii H, Sakuma Y, Kato M : Slow afterhyperpolarization (sAHP) current in rat GnRH neurons is carried through SK and KCNQ channels. The 89th Annual Meeting of the Physiological Society of Japan (Nagano, Matsumoto), 2012. 3.
- 20) Ando R<sup>1)</sup>, Hamada T, Sakuma Y ( <sup>1)</sup> Tokyo Medical Treatment Welfare Vocational School, Tokyo, Japan) : Developmental pattern of EGFP expression under the control of estrogen receptor gene promoter 0 B in the BNST-POA region of the transgenic rat. The 89th Annual Meeting of the Physiological Society of Japan (Nagano, Matsumoto), 2012. 3.
- 21) Kohiyama T<sup>1)</sup>, Hamada T, Sakuma Y ( <sup>1)</sup> Tokyo Medical Treatment Welfare Vocational School, Tokyo, Japan) : Formation of the partner preference by sex steroid hormone exposure at puberty. The 89th Annual Meeting of the Physiological Society of Japan (Nagano, Matsumoto), 2012. 3.
- 22) Kiyama-Wada Y, Suzuki C, Hamada T, Kiyama R<sup>1)</sup>, Sakuma Y ( <sup>1)</sup> Biomedical Research Institute, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology, Tukuba, Ibaraki, Japan) : Actin dynamics in the sexually dimorphic nucleus of the rat preoptic area during the critical period. The 89th Annual Meeting of the Physiological Society of Japan (Nagano, Matsumoto), 2012. 3.
- 23) Hamada T, Sakuma Y : In vitro visualization of the sexual differentiation in the SDN-POA and BNST. The

- 89th Annual Meeting of the Physiological Society of Japan (Nagano, Matsumoto), 2012. 3.
- 24) Fujikake M<sup>1</sup>, Hamada T, Sakuma Y<sup>(1)</sup> Tokyo Medical Treatment Welfare Vocational School, Tokyo, Japan) : In vivo visualization of the principal nucleus of the bed nucleus of the stria terminalis in the estrogen receptor gene promoter transgenic rat. The 89th Annual Meeting of the Physiological Society of Japan (Nagano, Matsumoto), 2012. 3.
- 25) Ishii H, Munetomo A<sup>1</sup>, Hamada T, Sakuma Y<sup>(1)</sup> Division Behavioral Neuroscience, Japan Women's University, Tokyo, Japan) : Identification of C-terminally-truncated estrogen receptor  $\alpha$  variants in the human, mouse and rat. The 89th Annual Meeting of the Physiological Society of Japan (Nagano, Matsumoto), 2012. 3.
- 26) Orikasa C, Usui S, Kondo Y<sup>1</sup>, Sakuma Y<sup>(1)</sup> Teikyo University of Science, Tokyo, Japan) : Neurons in the two sexually dimorphic structures of the rat brain were born on different embryonic days. The 89th Annual Meeting of the Physiological Society of Japan (Nagano, Matsumoto), 2012. 3.
- 27) Rai D, Dhungel S, Nishimori K<sup>1</sup>, Sakuma Y, Kondo Y<sup>2</sup>)<sup>(1)</sup> Grad Sch of Agricultural Science, Tohoku University, Sendai, Miyagi, <sup>2</sup>) Teikyo University of Science, Tokyo, Japan) : Oxytocin is essential for odor preference but differentially influences the sexual interaction in male and female mice. The 89th Annual Meeting of the Physiological Society of Japan (Nagano, Matsumoto), 2012. 3.
- 28) Ishii H, Kobayashi M, Munetomo A<sup>1</sup>, Kajio M, Hamada T, Sakuma Y<sup>(1)</sup> Division Behavioral Neuroscience, Japan Women's University, Tokyo, Japan) : Complex organization of the estrogen receptor  $\alpha$  genes : identification of numerous estrogen receptor  $\alpha$  variants in the human, mouse and rat. The 7th AOSCE Congress Satellite Symposium Neuroendocrinology and Behaviour (Penang, Malaysia), 2012. 3.
- 29) Kato M : SK channels and KCNQ channels contribute to slow afterhyperpolarization current in rat GnRH neurons. The 7th AOSCE Congress Satellite Symposium Neuroendocrinology and Behaviour (Penang, Malaysia), 2012. 3.

## 4. 生理学講座（生体統御学）

### 研究概要

生理学講座（生体統御学）では、摂食、エネルギー調節機構、ストレス反応機構、神経情報伝達機構の解析、中枢性摂食異常症、てんかん、神経変性疾患の病態や発症機序の解明を中心に研究を進めている。ストレスに関する研究では以下の点を解析した。ストレス反応の出現機序において重要な働きをしている視床下部室傍核、扁桃体、分界条床核のニューロンのストレス時の賦活に関わっている corticotropin-releasing factor (CRF) の1型受容体と2型受容体の関与様式をそれぞれの特異的拮抗薬をラットに投与して明らかにした。拘束ストレスによりもたらされる摂食抑制には外側中隔と分界条床核のCRF2型受容体が関与していることをラットにおいて明らかにした。CRF1型受容体に対する特異的抗体を作製し、それを用いてラット下垂体の前葉、中葉、後葉におけるその免疫活性を解析し、ACTH分泌細胞のみならず、他のホルモン分泌細胞にもCRF1型受容体が発現していることを明らかにした。妊娠中のカロリー摂取制限により生じる出生時低体重ラット仔では成長後のストレス負荷に対して血中コルチコステロン値の上昇持続がみられ、この機序に下垂体でのマイクロRNA発現調節異常が関与していることを明らかにした。難治てんかんの治療法として迷走神経刺激（VNS）療法が広く用いられているが、その作用機序は不明である。海馬電気活動に対するVNSの効果を経験生理学的に検討した結果、VNSは興奮性シナプス伝達を持続的に増強すると共に、海馬神経細胞の興奮性を抑制することが明らかとなった。幼若ラットの脊髄では、細胞外二価イオンの除去により脊髄全体の神経細胞が同期して周期性興奮を生じることが知られているが、この発現機構に内在性アデノシンとアデノシンA1受容体が強く関与していることを明らかにした。神経変性に関する研究では、動物モデルおよびミクログリア培養細胞を用いた解析で、ミクログリアにおける $\beta 1$ および $\beta 2$ 型アドレナリン受容体発現を明らかにした。

### 研究業績

#### 論文

#### 〔追加分〕

追加分研究報告書：

- 1) 芝崎 保, 大畠久幸, 根本崇宏：CRF2型受容体に対する siRNA を用いた同受容体の機能解析：神経性食欲不振症の病態における CRF の役割の解析。厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 中枢性摂食異常症に関する調査研究 平成 22 年度総括分担研究報告書 2011：11-14.

#### (1) 原著：

- 1) Ohata H, Shibasaki T：Involvement of CRF2 receptor in the brain regions in restraint-induced anorexia. *Neuroreport* 2011；13 (22)：494-498.
- 2) Ohata H, Shibasaki T：Microinjection of Different Doses of Corticotropin-releasing Factor into the Medial Prefrontal Cortex Produces Effects Opposing Anxiety-related Behavior in Rats. *J Nippon Med Sch* 2011；78 (5)：286-292.
- 3) Takahashi C, Ohata H, Shibasaki T：Corticotropin-releasing factor (CRF) receptor subtypes in mediating neuronal activation of brain areas involved in responses to intracerebroventricular CRF and stress in rats. *Peptides* 2011；32 (12)：2384-2393.
- 4) Nemoto T, Sugihara H<sup>1)</sup>, Mano A, Kano T<sup>1)</sup>, Shibasaki T<sup>1)</sup> Department of Medicine, Nippon Medical School)：The effects of ghrelin/GHSs on AVP mRNA expression and release in cultured hypothalamic cells in rats. *Peptides* 2011；32 (6)：1281-1288.

- 5) 根本崇宏, 芝崎 保: ストレスによる性腺機能低下への視床下部 CRF- 下垂体 Ucn 2-LH 軸の関与. ACTH RELATED PEPTIDES 2012; 22: 12-13.
  - 6) Sugama S, Takenouchi T<sup>1)</sup>, Fujita M<sup>2)</sup>, Kitani H<sup>1)</sup>, Hashimoto M<sup>2)</sup> (1) Transgenic Animal Research Center, National Institute of Agrobiological Sciences, Ohwashi, Tsukuba, Ibaraki, Japan, 2) Division of Sensory and Motor Systems, Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science, Kamikitazawa, Setagaya, Tokyo, Japan): Cold stress induced morphological microglial activation and increased IL-1b expression in astroglial cells in rat brain. Journal of Neuroimmunology 2011; 233 (1-2): 29-36.
  - 7) Takenouchi T<sup>1)</sup>, Iwamaru Y<sup>2)</sup>, Sugama S, Tsukimoto M<sup>3)</sup>, Fujita M<sup>4)</sup>, Sekigawa A<sup>4)</sup>, Sekiyama K<sup>4)</sup>, Sato M<sup>1)</sup>, Kojima S<sup>3)</sup>, Conti B<sup>5)</sup>, Hashimoto M<sup>4)</sup> (1) Transgenic Animal Research Center, National Institute of Agrobiological Sciences, Ohwashi, Tsukuba, Ibaraki, Japan, 2) Research Center for Prion Diseases, National Institute of Animal Health, Kannondai, Tsukuba, Ibaraki, Japan, 3) Faculty of Pharmaceutical Sciences, Tokyo University of Sciences, Yamazaki, Noda, Chiba, Japan, 4) Division of Sensory and Motor Systems, Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science, Kamikitazawa, Setagaya, Tokyo, Japan, 5) Molecular and Integrative Neurosciences Department, The Scripps Research Institute, La Jolla, California, USA): The activation of P2X7 receptor induces cathepsin D-dependent production of a 20-kDa form of IL-1b under acidic extracellular pH in LPS-primed microglial cells. Journal of Neurochemistry 2011; 117 (4): 712-723.
  - 8) Sugama S, Takenouchi T<sup>1)</sup>, Sekiyama K<sup>2)</sup>, Kitani H<sup>1)</sup>, Hashimoto M<sup>2)</sup> (1) Transgenic Animal Research Center, National Institute of Agrobiological Sciences, Ohwashi, Tsukuba, Ibaraki, Japan, 2) Division of Sensory and Motor Systems, Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science, Kamikitazawa, Setagaya, Tokyo, Japan): Immunological responses of astroglia in the rat brain under acute stress: interleukin 1 beta co-localized in astroglia. Neuroscience 2011; 192: 429-437.
- (2) 研究報告書:
- 1) 芝崎 保, 根本崇宏, 大島久幸: 低栄養母体出生児の推測される神経内分泌学的異常: ラットモデルでみられた食餌パターンの変化とストレス負荷後の HPA 軸の活性化の延長. 厚生労働省科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 中枢性摂食異常症に関する調査研究 平成 23 年度総括分担研究報告書 2012; 10-13.

## 学会発表

- (1) シンポジウム:
- 1) 根本崇宏, 芝崎 保: ストレスによる性腺機能低下への視床下部 CRF- 下垂体 Ucn 2-LH 軸の関与. 間脳・下垂体・副腎系研究会 (第 22 回) (東京), 2011. 9.
  - 2) 根本崇宏, 山内直子, 眞野あすか, 芝崎 保: ストレスによる下垂体ホルモンの分泌調節機構とその異常. 日本内分泌学会総会 (第 84 回) (神戸), 2011. 4.
  - 3) 丸 栄一: -基礎の立場から-(てんかん治療医を増やすために何をなすべきか). 日本てんかん学会 (第 45 回) (新潟), 2011. 10.
  - 4) 根本崇宏, 芝崎 保: 低出生体重ラット仔のストレス時の HPA 軸反応の異常: 下垂体 miR-449a の CRF 1 型受容体下方制御への関与. 間脳・下垂体・副腎系研究会 (第 23 回) (東京都港区), 2012. 3.
- (2) ワークショップ:
- 1) 丸 栄一: 薬剤抵抗性の基礎. JEPICC ワークショップ (第 3 回) (京都), 2012. 1.
- (3) 一般講演:
- 1) 根本崇宏, 芝崎 保: 出生児低体重ラット仔におけるストレスによる HPA 軸活性化の異常の解析. 日本神経内分泌学会学術集会 (第 38 回) (東京), 2011. 11.
  - 2) 根本崇宏, 眞野あすか, 芝崎 保: 神経性食欲不振症でみられる性腺刺激ホルモン分泌低下への Ucn 2 の関与

- の可能性. 日本摂食障害学会学術集会 (第 15 回) (鹿児島), 2011. 9.
- 3) 眞野あすか, 根本崇宏, 山内直子, 芝崎 保: ストレスによる視床下部正中隆起におけるウロコルチン 2 免疫活性の変化について. 日本内分泌学会学術総会 (第 84 回) (神戸), 2011. 4.
  - 4) 眞野あすか, 根本崇宏, 芝崎 保: 下垂体における CRF1 型受容体様免疫活性に関する免疫組織化学的解析. 日本神経内分泌学会学術集会 (第 38 回) (東京), 2011. 11.
  - 5) 原田嘉夫: アデノシン A1 受容体拮抗薬による幼弱脊髄神経細胞の同期した周期性興奮に対する抑制作用. 第 89 回日本生理学会大会 (松本), 2012. 3.
  - 6) 洲鎌秀永: 急性ストレス下におけるアストログリア細胞の免疫学的反応. 第 89 回日本生理学会大会 (松本市), 2012. 3.

## 5. 生化学・分子生物学講座（代謝・栄養学）

### 研究概要

多くは学内外、国外との共同研究であるが、個々の表示は省略する。1. 石灰化の分子機構 厚労省科学研究費（難治性疾患克服研究事業）の助成を受け、組織非特異型アルカリフォスファターゼ（TNAP）の役割と欠損症（低フォスファターゼ症（HPP））を検討した。1) HPPの変異TNAPの強制発現系で石灰化能の解析と立体構造の検討。2) 日本人の変異アレル頻度の検討と、父由来ダイソミー症例の解析。3) 骨密度と相関するY246H多型で血清リンとの相関の検討。4) TNAPの転写活性促進を介したレチノイン酸による骨芽細胞の分化。5) 野生型TNAPの構造解析に向けた大量発現系の検討。6) 石灰化における基質小胞のプロテオーム解析。がん細胞や生殖細胞などのプロテオーム解析も行った。2. キサンチン酸化還元酵素（XOR）1) FADとAsp残基の相互作用の解析により、川口が日本生化学会鈴木絃一メモリアル賞を受賞。2) XORの活性変換におけるFADの反応性変化への周囲構造の影響。3) 新規抗痛風薬と標的酵素XORの複合体の解析。4) XORの基質、自殺基質と酵素反応中間体の基質結合モード、反応機構の解析。5) XORの酸化酵素、脱水素酵素型変異体遺伝子改変マウスの作製と、酸化ストレス応答や虚血再灌流障害抵抗性の検討。活性酸素に関連する神経変性疾患の新規治療薬の評価も行った。3. 好熱菌等の鉄硫黄酵素 構造機能進化の研究として、国際共同研究事業「国際化学研究協力事業」の補助を受け、金属クラスター電子構造に影響する周辺骨格領域の解析を目指し、アミノ酸要求性大腸菌株、残基特異的安定同位体ラベル導入酵素の作成を行った。4. 遺伝性聴覚障害の原因遺伝子（COCH）産物コクリン 内耳特異的 isoform であるCTP（cochlin-tomo protein）の構造、機能解析を行った。

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) Matsumoto T<sup>1,2)</sup>, Miyake K<sup>1)</sup>, Yamamoto S<sup>1,3)</sup>, Orimo H, Miyake N<sup>1)</sup>, Odagaki Y<sup>1)</sup>, Adachi K<sup>1)</sup>, Iijima O<sup>1)</sup>, Narisawa S<sup>3)</sup>, Millan J<sup>3)</sup>, Fukunaga Y<sup>2)</sup>, Shimada T<sup>1)</sup> (1) Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School, 2) Department of Pediatrics, Nippon Medical School, 3) Sanford Children's Health Research Center, Sanford-Burnham Medical Research Institute) : Rescue of severe infantile hypophosphatasia mice by AAV-mediated sustained expression of soluble alkaline phosphatase. *Hum Gene Ther* 2011 ; 22 (11) : 1355-1364.
- 2) Iwasaki T, Kappl R<sup>1)</sup>, Bracic G<sup>1)</sup>, Shimizu N<sup>2)</sup>, Ohmori D<sup>3)</sup>, Kumasaka T<sup>2)</sup> (1) Fachrichtung Biophysik, Univ. des Saarlandes, 2) SPring-8/JASRI, 3) Dept. of Chemistry, Juntendo University) : ISC-like [2Fe-2S] ferredoxin (FdxB) dimer from *Pseudomonas putida* JCM 20004 : structural and electron-nuclear double resonance characterization. *J Biol Inorg Chem* 2011 ; 16 (6) : 923-935.
- 3) Lin TM<sup>1)</sup>, Sperling JL<sup>2)</sup>, Frericks Schmidt LH<sup>2)</sup>, Tang M<sup>2)</sup>, SamoiloVA IR<sup>3)</sup>, Kumasaka T<sup>4)</sup>, Iwasaki T, Dikanov AS<sup>5)</sup>, Rienstra MC<sup>1,2)</sup>, Gennis BR<sup>1,2)</sup> (1) Dept. of Biochemistry, Univ. Illinois at Urbana-Champaign, 2) Dept. of Chemistry, Univ. Illinois at Urbana-Champaign, 3) Institute of Chemical Kinetics and Combustion, Russian Academy of Sciences, Novosibirsk, 4) SPring-8/JASRI, 5) Dept. of Veterinary Clinical Medicine, Univ. Illinois at Urbana-Champaign) : A rapid and robust method for selective isotope labeling of proteins. *Methods* 2011 ; 55 : 370-378.
- 4) Ishikita H<sup>1)</sup>, Eger B<sup>2)</sup>, Okamoto K<sup>3)</sup>, Nishino T<sup>4)</sup>, Pai E<sup>2)</sup> (1) Career-Path Promotion Unit for Young Life Scientists, Kyoto University, 2) Department of Biochemistry, University of Toronto, 3) Department of Bio-

chemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School, <sup>4)</sup> Department of Applied Biological Chemistry, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, University of Tokyo) : Protein conformational gating of enzymatic activity in xanthine oxidoreductase. *J Am Chem Soc* 2012 ; 134 : 999-1009.

- 5) Kikuchi H<sup>1)</sup>, Fujisaki H<sup>1)</sup>, Furuta T<sup>2, 3)</sup>, Okamoto K<sup>4)</sup>, Leimkühler S<sup>5)</sup>, Nishino T<sup>6, 7)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Physics, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Graduate School of Bioscience and Biotechnology, Tokyo Institute of Technology, <sup>3)</sup> Computational Science Research Program, RIKE, <sup>4)</sup> Department of Biochemistry, Nippon Medical School, <sup>5)</sup> Department of Molecular Enzymology, Institute for Biochemistry and Biology, University of Potsdam, <sup>6)</sup> Department of Biochemistry, University of California, <sup>7)</sup> Department of Applied Biological Chemistry, Graduate School of Agricultural and Life Sciences, University of Tokyo) : Different inhibitory potency of febuxostat towards mammalian and bacterial xanthine oxidoreductases : insight from molecular dynamics. *Scientific Reports* 2012 ; 2 (331).
- 6) Hori C<sup>1)</sup>, Igarashi K<sup>1)</sup>, Katayama A, Samejima M<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Graduate School of Agricultural and Life Sciences The Univ. of Tokyo) : Effects of xylan and starch on secretome of the basidiomycete *Phanerochaete chrysosporium* grown on cellulose. *FEMS Microbiol Lett* 2011 ; 321 (1) : 14-23.
- 7) Kuwabara Y, Katayama A, Igarashi T, Tomiyama R, Piao H, Kaneko R, Abe T, Mine K, Akira S, Orimo H, Takeshita T : Rapid and Transient Upregulation of CCL11 (Eotaxin-1) in Mouse Ovary During Terminal Stages of Follicular Development. *Am J Reprod Immunol* 2012 ; 67 (1) : 358-368.

(2) 総説 :

- 1) 折茂英生 : 遺伝子導入と発現シリーズ 遺伝子導入と発現 (1). *日医大医学会誌* 2011 ; 7 (2) : 92-96.
- 2) 折茂英生 : 貧血の病態と栄養素 (特集 : 貧血). *日本栄養士会雑誌* 2012 ; 55 (3) : 4 (55-188) -11 (55-195).
- 3) 松村智裕 : 遺伝子導入と発現シリーズ : バクテリアを利用した遺伝子導入とタンパク質の大量発現 (2). *日医大医学会誌* 2011 ; 7 (4) : 169-174.
- 4) 川口裕子, 岡本 研 : 遺伝子導入と発現シリーズ 昆虫細胞を利用した蛋白質の大量発現と解析 : キサンチン酸化還元酵素を例に (3). *日医大医学会誌* 2012 ; 8 (1) : 26-30.
- 5) 岡本 研 : 尿酸代謝酵素の分子進化と尿酸の antioxidant (抗酸化) 作用. *高尿酸血症と痛風* 2011 ; 19 (2) : 39-43.
- 6) 草野輝男, 岡本 研, 西野武士<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 東京大学大学院農学生命科学研究科) : 酵素のプリン分解触媒機能. *高尿酸血症と痛風* 2012 ; 20 (1) : 92-97.

**学会発表**

(1) 招待講演 :

- 1) 岡本 研 : キサンチンオキシダーゼの働きと尿酸生成抑制剤の作用機序. 第一回山梨痛風研究会 (山梨県甲府市), 2011. 9.

(2) シンポジウム :

- 1) 折茂英生 : 栄養状態によるエピジェネティック修飾 (「エピジェネティックと栄養」). 日本臨床栄養学会総会 (第33回)・日本臨床栄養協会総会 (第32回)・大連合大会 (第9回) (東京), 2011. 10.

(3) 一般講演 :

- 1) Matsumoto T<sup>1, 2)</sup>, Miyake K<sup>1)</sup>, Miyake N<sup>1)</sup>, Orimo H, Narisawa S<sup>3)</sup>, Millan J<sup>3)</sup>, Fukunaga Y<sup>2)</sup>, Shimada T<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Pediatrics, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Sanford Children's Health Research Center, Sanford-Burnham Medical Research Institute) : Successful treatment of hypophosphatasia model mice by a single intramuscular injection of AAV type 8 vector expressing tissue-nonspecific alkaline phosphatase. 14th Annual Meeting of American

Society of Gene & Cell Therapy (Seattle, WA), 2011. 5.

- 2) 渡邊 淳<sup>1)</sup>, 菅野華子<sup>1, 2)</sup>, 飯島 修<sup>1)</sup>, 折茂英生, 島田 隆<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学生化学・分子生物学講座 (分子遺伝学), <sup>2)</sup> 日本医科大学小児科学講座) : 日本における周産期型低フォスファターゼ症 高頻度変異部位 1559delT と周産期時期からの follow up の重要性. 日本骨代謝学会学術集会 (第 29 回) (大阪), 2011. 7.
- 3) Orimo H, Kiyama A, Matsumura T : Characteristics of a deletion of Phe327 (p.F327del) in tissue-nonspecific alkaline phosphatase from a hypophosphatasia patient. ALPS 研究会 (第 9 回) (大阪), 2011. 7.
- 4) Shimada T<sup>1)</sup>, Yamamoto S<sup>1)</sup>, Matsumoto T<sup>1)</sup>, Sugano H<sup>1)</sup>, Iijima O<sup>1)</sup>, Orimo H (<sup>1)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School) : Gene therapy for murine hypophosphatasia. ALPS 研究会 (第 9 回) (大阪), 2011. 7.
- 5) Watanabe A<sup>1, 2)</sup>, Sawai H<sup>3)</sup>, Banyar T<sup>1)</sup>, Orimo H, Shimada T<sup>1, 2)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Division of Clinical Genetics, Nippon Medical School Hospital, <sup>3)</sup> Department of Obstetrics and Gynecology, Hyogo College of Medicine) : Genotype frequency of 1559T deletion in the *ALPL* gene and clinical significance of hypophosphatasia in Japan. ALPS 研究会 (第 9 回) (大阪), 2011. 7.
- 6) 藤田京志<sup>1)</sup>, 佐藤秀平<sup>2)</sup>, Banyar T<sup>3)</sup>, 折茂英生, 島田 隆<sup>3)</sup>, 渡邊 淳<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学オーダーメイド医療室, <sup>2)</sup> 青森県立中央病院, <sup>3)</sup> 日本医科大学生化学・分子生物学講座 (分子遺伝学) : 父性片親性ダイソミーにより発症した周産期型低ホスファターゼ症の 1 例. 日本人類遺伝学会大会 (第 56 回) (千葉), 2011. 11.
- 7) Watanabe A<sup>1)</sup>, Satoh S<sup>2)</sup>, Fujita A<sup>3)</sup>, Orimo H, Shimada T<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Aomori Prefectural Central Hospital, <sup>3)</sup> Division of Personalized Genetic Medicine, Nippon Medical School Hospital) : Perinatal (lethal) type of hypophosphatasia resulting from paternal isodisomy of chromosome 1. 2012 ACMG Annual Clinical Genetic Meeting (Charlotte, NC), 2012. 3.
- 8) Iwasaki T, Samoilova IR<sup>1)</sup>, Dikanov AS<sup>2)</sup>, Miyajima-Nakano T, Kumasaka T<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> Inst. Chemical Kinetics and Combustion, Russian Acad. Sci., Novosibirsk, <sup>2)</sup> Dept. of Veterinary Clinical Med., Univ. of Illinois at Urbana-Champaign, <sup>3)</sup> SPring-8/JASRI) : Crystal structure and pulsed EPR characterization of hyperthermophilic archaeal Rieske [2Fe-2S] protein (sulredoxin). European Symposium of the Protein Society : Wonders and Disasters of the Protein World (第 9 回) (Stockholm, Sweden), 2011. 5.
- 9) Miyajima-Nakano Y, Iwasaki T, Shimizu N<sup>1)</sup>, Kumasaka T<sup>1)</sup>, Kappl R<sup>2)</sup>, Bracic G<sup>2)</sup>, Samoilova IR<sup>3)</sup>, Baldansuren A<sup>4)</sup>, Lin TM<sup>4)</sup>, Gennis BR<sup>4)</sup>, Ohmori D<sup>5)</sup>, Dikanov AS<sup>6)</sup> (<sup>1)</sup> SPring-8/JASRI, <sup>2)</sup> Fachrichtung Biophysik, Univ. des Saarlandes, <sup>3)</sup> Inst. of Chemical Kinetics and Combustion, Russian Acad. Sci. Novosibirsk, <sup>4)</sup> Dept. of Biochemistry, Univ. of Illinois at Urbana-Champaign, <sup>5)</sup> Dept. of Chemistry, Juntendo Univ., <sup>6)</sup> Dept. of Veterinary Clinical Med., Univ. of Illinois at Urbana-Champaign) : Crystal structure and pulsed EPR characterization of the hydrogen bond network around the [2Fe-2S] cluster of *Pseudomonas putida* ferredoxin (FdxB) involved in the iron-sulfur cluster biosynthesis system. European Symposium of the Protein Society : Wonders and Disasters of the Protein World (第 9 回) (Stockholm, Sweden), 2011. 5.
- 10) Iwasaki T, Miyajima-Nakano Y, Baldeansuren A<sup>1)</sup>, Dikanov AS<sup>2)</sup>, Hayashi-Iwasaki Y<sup>3)</sup>, Oshima T<sup>3)</sup>, Ohmori D<sup>4)</sup>, Kumasaka T<sup>5)</sup> (<sup>1)</sup> Dept. of Chemistry, Univ. Illinois at Urbana-Champaign, <sup>2)</sup> Dept. of Veterinary Clinical Med., Univ. Illinois at Urbana-Champaign, <sup>3)</sup> Inst. of Env. Microbiol., Kyowa Kako, <sup>4)</sup> Dept. of Chemistry, Juntendo Univ., <sup>5)</sup> SPring-8/JASRI) : Structure and metabolome analysis of thermophile "mitoNEET" homolog. International Conference on Bioinorganic Chemistry (第 15 回) (Vancouver, Canada), 2011. 8.
- 11) 鴻巣麻子, 岩崎俊雄 : 原核生物の呼吸鎖複合体 II SdhA サブユニットにおけるフラビニレーション. 日本分子生物学会年会 (第 34 回) (横浜), 2011. 12.
- 12) Kawaguchi Y, Nishino T, Matsumura T, Okamoto K, Nishino T : The role of Asp428 on the reactivity of

- FAD in Xanthine Dehydrogenase. 17th International Symposium on Flavins and Flavoproteins (UC Berkley, US), 2011. 7.
- 13) Kawaguchi Y, Nishino T, Matsumura T, Okamoto K, Nishino T : The role of Asp428 on the reactivity of FAD in xanthine dehydrogenase. Zing Enzymes, Coenzymes & Metabolic Pathways Conference (Riviera Maya, Mexico), 2011. 11.
  - 14) 川口裕子, 西野朋子, 松村智裕, 岡本 研, 西野武士 : 種々のラット変異体 XOR 酵素の NADH 複合体 X-線構造と機能変化. 第 84 回日本生化学会大会 (京都), 2011. 9.
  - 15) Okamoto K, Kawaguchi Y, Eger B<sup>1)</sup>, Pai E<sup>1, 2)</sup>, Nishino T<sup>3, 4)</sup> (1) Departments of Biochemistry, and 3Medical Biophysics, and Molecular Genetics, University of Toronto, Toronto, (2) The Campbell Family Cancer Research Institute, University Health Network, (3) Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo, (4) Department of Biochemistry, University of California) : Structural Analysis of the Hydroxylation Mechanism of Xanthine Oxidoreductase. 17th International Symposium on Flavins and Flavoproteins (UC Berkley, US), 2011. 7.
  - 16) Okamoto K, Kawaguchi Y, Eger B<sup>1)</sup>, Pai E<sup>1, 2)</sup>, Nishino T<sup>3, 4)</sup> (1) Departments of Biochemistry, and c, Medical Biophysics, and Molecular Genetics, University of Toronto, (2) The Campbell Family Cancer Research Institute, University Health Network, (3) Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo, (4) Department of Biochemistry, University of California, Riverside) : Structural Analysis of the Hydroxylation Mechanism of Xanthine Oxidoreductase. Zing Enzymes, Coenzymes & Metabolic Pathways Conference (Riviera Maya, Mexico), 2011. 11.
  - 17) Okamoto K, Kikuchi H<sup>1)</sup>, Fujisaki H<sup>1)</sup>, Furuta T<sup>2, 3)</sup>, Leimukuhler S<sup>4)</sup>, Nishino T<sup>5)</sup> (1) Department of Physics, Nippon Medical School, (2) Computational Science Research Program, RIKEN, (3) Center for Biological Resources and Informatics, Tokyo Institute of Technology, (4) Department of Molecular Enzymology, Institute of Biochemistry and Biology, University of Potsdam, (5) Department of Biochemistry, University of California, Riverside) : DM simulations elucidate the difference of active site movement of mammalian and bacterial xanthine oxidoreductase. 2011 Molybdenum and Tungsten Enzyme Conference (Ulberta, Canada), 2011. 8.
  - 18) 岡本 研, 草野輝男, 松村智裕, 川口裕子, 西野武士<sup>1, 2)</sup> (1) Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo, (2) 3Department of Biochemistry, University of California, Riverside) : ウシキシナンチン酸化還元酵素と天然, 人工基質との反応中間体結晶構造. 第 84 回日本生化学会大会 (京都), 2011. 9.
  - 19) Kusano T, Okamoto K, Matsumura T, Nishino T<sup>1, 2)</sup> (1) Graduate School of Argricualtural and Life Sciences, The University of Tokyo, (2) Department of Biochemistry, University of California, Riverside) : Development of Genetically Modified Mouse Expressing Xanthine Oxidase Mutant That Produces Higher Ratio of Superoxide. International Symposium on Flavins and Flavoproteins (17th) (Berkeley, CA, USA), 2011. 7.
  - 20) Kusano T, Okamoto K, Kato M<sup>1)</sup>, Kato S<sup>2)</sup>, Nishino T<sup>3)</sup> (1) Division of Molecular Pathology, Department of Microbiology and Pathology, Tottori University, (2) Division of Neuropathology, Department of Neurological Sciences, Faculty of Medicine, Tottori University, (3) Department of Biochemistry, University of California, Riverside) : Orally administered xanthine oxidoreductase inhibitors that are not substrates for the purine salvage pathway delay progression of amyotrophic lateral sclerosis in G1H-G93A transgenic mice. Molybdenum and Tungsten Enzyme Conference 2011 (Edmonton, Canada), 2011. 8.
  - 21) Kusano T, Okamoto K, Matsumura T, Nishino T<sup>1)</sup> (1) Graduate School of Argricualtural and Life Sciences, The University of Tokyo) : Characterization of Two Genetically Modified Mice Expressing Xanthine Oxidoreductase Mutants. Zing Enzymes, Coenzymes and Metabolic Conference (Riviera Maya, Mexico), 2011. 11.

- 22) 草野輝男, 松村智裕, 西野武士<sup>1, 2)</sup> (1) Department of Biochemistry, University of California, Riverside, 2) 東京大学院・農学生命科学科・応用生命化学) : SH 基修飾により酸化酵素型に変換しないキサンチン脱水素酵素変異体トランスジェニックマウスの作製. 日本生化学会大会 (第 84 回) (京都), 2011. 9.
- 23) 鈴木 剛<sup>1)</sup>, 布施 明<sup>1)</sup>, 松本 学<sup>1)</sup>, 金 史英<sup>1)</sup>, 辻井厚子<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>, 松村智裕, 草野輝男, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 松田陽子<sup>2)</sup>, 西野武士<sup>3)</sup> (1) 付属病院高度救命救急センター, 2) 病理学講座 (統御機構・腫瘍学), 3) 東京大学院・農学生命科学科・応用生命化学) : キサンチン酸化還元酵素変異トランスジェニックマウスの作成と 3-vessel occlusion model を用いたマウスの脳虚血性再灌流障害の解析. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 39 回) (東京), 2011. 10.
- 24) Kato S<sup>1)</sup>, Kato M<sup>2)</sup>, Kusano T, Nishino T<sup>3)</sup> (1) Div of Neuropathl., Tottori Univ., 2) Div. of Molecular Pathol., Tottori Univ., 3) Univ. of Calif.) : Orally administered xanthine oxidoreductase inhibitors that are not substrates for the purine salvage pathway delay progression of ALS mice. 日本神経病理学会総会学術研究会 (第 52 回) (京都), 2011. 6.

## 6. 生化学・分子生物学講座（分子遺伝学）

### 研究概要

分子遺伝学部門では遺伝子治療の基盤技術の開発を中心に、遺伝子解析や遺伝診療も含めた包括的ゲノム医学に取り組んでいる。遺伝子治療グループでは治療法のない重篤な遺伝病である、異染性白質ジストロフィー（MLD）と低フォスファターゼ症（HPP）の治療実験を進めている。血液脳関門（BBB）を越えてMLDの神経病変を治療する遺伝子治療法として、アデノ随伴ウイルス（AAV）ベクターを髄液経路で投与する方法と、BBBの未成熟な新生時期に血管内投与する方法の有用性をモデルマウスを使った実験で明らかにした。HPPモデルマウスの治療実験ではAAVベクターの新生児/胎児治療の可能性を検討した。出生直後のHPPモデルマウスの血管内に欠損酵素である組織非特異的アルカリフォスファターゼ（TNALP）遺伝子を発現するAAVベクターを投与することで臨床症状の改善と著明な延命効果が確認できた。又、妊娠15日目のマウス胎児の腹腔にAAVベクターを投与する実験でも、出生児の骨形成の改善と延命が認められた。これらの結果は日本で多い重篤な周産期型HPPの治療法の選択肢として注目されている。治療抵抗性で予後の極めて悪いMLL/AF4陽性ALLの治療法として新規抗腫瘍分子であるIL24を使った遺伝子治療法を開発した。ハイクオリティプロジェクトで設置されたゲノム解析室では全学的な遺伝子研究の共同利用施設としての機能に加え、遺伝診療科と協力して、日本全国から依頼された遺伝病の遺伝子解析を行っている。更に、ゲノム先端医療部と協力してオーダーメイド医療のための薬剤感受性遺伝子や易罹患性遺伝子の検査を行っている。

### 研究業績

#### 論文

#### 〔追加分〕

追加分原著：

- 1) Kubodera T<sup>1</sup>, Yamada H<sup>1</sup>, Anzai M<sup>2</sup>, Ohira S<sup>2</sup>, Yokota S<sup>1</sup>, Hirai Y, Mochizuki H<sup>3</sup>, Shimada T, Mitani T<sup>2</sup>, Mizusawa H<sup>1</sup>, Yokota T<sup>1</sup> (1) Department of Neurology and Neurological Science, Tokyo Medical and Dental University, (2) Institute of Advanced Technology, Kinki University, (3) Department of Neurology, School of Medicine, Kitasato University) : In Vivo Application of an RNAi Strategy for the Selective Suppression of a Mutant Allele. HUMAN GENE THERAPY 2011 ; 22 (1) : 27-34.
- 2) Mayra A<sup>1</sup>, Tomimitsu H<sup>1</sup>, Kubodera T<sup>1</sup>, Kobayashi M<sup>1</sup>, Piao W<sup>1</sup>, Sunaga F<sup>1</sup>, Hirai Y, Shimada T, Mizusawa H<sup>1</sup>, Yokota T<sup>1</sup> (1) Department of Neurology and Neurological Science, Graduate School, Tokyo Medical and Dental University) : Intraperitoneal AAV9-shRNA inhibits target expression in neonatal skeletal and cardiac muscles. Biochemical and Biophysical Research Communications 2011 ; 405 (2) : 204-209.
- 3) Miyake N, Miyake K, Yamamoto M, Hirai Y, Shimada T : Global gene transfer into the CNS across the BBB after neonatal systemic delivery of single-stranded AAV vectors. Brain Research 2011 ; 1389 (10) : 19-26.
- 4) Sugano H<sup>1</sup>, Matsumoto T<sup>1</sup>, Miyake K, Watanabe A, Iijima O, Migita M<sup>1</sup>, Narisawa S<sup>2</sup>, Millan J<sup>2</sup>, Fukunaga Y<sup>1</sup>, Shimada T (1) Department of Pediatrics, (2) Sanford Children's Health Research Center, Burnham Institute for Medical Research) : Successful gene therapy in utero for lethal murine hypophosphatasia. Human Gene Therapy 2012 ; 23 (4) : 399-406.

(1) 原著 :

- 1) Nihira T<sup>1)</sup>, Yasuda T<sup>1)</sup>, Hirai Y, Shimada T, Mizuno Y<sup>3)</sup>, Mochizuki H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurology, Kitasato University School of Medicine, <sup>2)</sup> Research Institute for Diseases of Old Age, Juntendo University School of Medicine ) : Adeno-associated viral vector-mediated gene transduction in mesencephalic slice culture. *Journal of Neuroscience Methods* 2011 ; 201 (1) : 55-60.
- 2) Uchida A<sup>1)</sup>, Sasaguri H<sup>1)</sup>, Kimura N<sup>2)</sup>, Tajiri M<sup>1)</sup>, Ohkubo T<sup>1)</sup>, Ono F<sup>3)</sup>, Sakaue F<sup>1)</sup>, Kanai K<sup>4)</sup>, Hirai T<sup>5)</sup>, Sano T<sup>1)</sup>, Shibuya K<sup>4)</sup>, Kobayashi M<sup>1)</sup>, Yamamoto M<sup>1)</sup>, Yokota S<sup>1)</sup>, Hirai Y, et al. ( <sup>1)</sup> Department of Neurology and Neurological Science, Graduate School of Medicine, Tokyo Medical and Dental University, <sup>2)</sup> Tsukuba Primate Research Centre, National Institute of Biomedical Innovation, <sup>3)</sup> Corporation for Production and Research of Laboratory Primates, <sup>4)</sup> Department of Neurology, Graduate School of Medicine, Chiba University, <sup>5)</sup> Department of Orthopaedic Surgery, Graduate School of Medicine, Tokyo Medical and Dental University ) : Non-human primate model of amyotrophic lateral sclerosis with cytoplasmic mislocalization of TDP-43. *Brain* 2012 ; 135 (3) : 833-846.
- 3) Isotani M<sup>1)</sup>, Miyake K, Miyake N, Hirai Y, Shimada T ( <sup>1)</sup> Department of Veterinary Clinical Pathology, Nippon Veterinary and Life Science University ) : Direct Comparison of Four Adeno-Associated Virus Serotypes in Mediating the Production of Antiangiogenic Proteins in Mouse Muscle. *Cancer Investigation* 2011 ; 29 (5) : 353-359.
- 4) Tamai H<sup>1)</sup>, Miyake K, Yamaguchi H<sup>1)</sup>, Takatori M<sup>2)</sup>, Dan K<sup>1)</sup>, Inokuchi K<sup>1)</sup>, Shimada T ( <sup>1)</sup> Department of Hematology, <sup>2)</sup> Research Center for Life Science ) : AAV8 vector expressing IL24 efficiently suppresses tumor growth mediated by specific mechanisms in MLL/AF4-positive ALL model mice. *Blood* 2012 ; 119 (1) : 64-71.
- 5) Yasuda T<sup>1)</sup>, Hayakawa H<sup>1)</sup>, Nihira T<sup>1)</sup>, Ren Y<sup>1)</sup>, Nakata Y<sup>1)</sup>, Nagai M<sup>1)</sup>, Hattori N<sup>1)</sup>, Miyake K, Takada M<sup>3)</sup>, Shimada T, Mizuno Y<sup>2, 3)</sup>, Mochizuki H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurology, Kitasato University School of Medicine, <sup>2)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology, <sup>3)</sup> Division of Gene Therapy Research, Center for Advanced Medical Technology ) : Parkin-mediated protection of dopaminergic neurons in a chronic MPTP-minipump mouse model of Parkinson disease. *J Neuropathol Exp Neurol* 2011 ; 70 (8) : 686-697.
- 6) Matsumoto T<sup>1)</sup>, Miyake K, Yamamoto S, Orimo H, Miyake N, Odagaki Y, Adachi K, Iijima O, Narisawa S<sup>2)</sup>, Millan J<sup>2)</sup>, Fukunaga Y<sup>1)</sup>, Shimada T ( <sup>1)</sup> Department of Pediatrics, <sup>2)</sup> Sanford Children's Health Research Center, Burnham Institute for Medical Research ) : Rescue of severe infantile hypophosphatasia mice by AAV-mediated sustained expression of soluble alkaline phosphatase. *Hum Gene Ther* 2011 ; 22 (11) : 1355-1364.
- 7) Tamai H<sup>1)</sup>, Miyake K, Takatori M<sup>2)</sup>, Miyake N, Yamaguchi H<sup>1)</sup>, Dan K<sup>1)</sup>, Shimada T, Inokuchi K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Hematology, <sup>2)</sup> Research Center for Life Science ) : Activated K-Ras protein accelerates human MLL/AF4-induced leukemo-lymphomogenicity in a transgenic mouse model. *Leukemia* 2011 ; 25 (5) : 888-891.

(2) 総説 :

- 1) 渡邊 淳<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院ゲノム先端医療部 ) : フェーマコゲノミクス (PGx) とオーダーメイド医療. *日医大医学会誌* 2012 ; 8 (1) : 9-17.
- 2) 渡邊 淳<sup>1)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院遺伝診療科 ) : Ehlers-Danlos 症候群の基礎. *日本胸部臨床* 2011 ; 70 (4) : 319-328.

## 著 書

- 1) Miyake K, Shimada T : [分担] Development and Application of HIV Vectors Pseudotyped with HIV Envelopes. *Viral Gene Therapy* (Edited by Ke Xu), 2011 ; pp355-370, INTECH.
- 2) 三宅紀子, 島田 隆 : [分担] 副腎白質ジストロフィー (ALD) に対する遺伝子治療. *医学のあゆみ* (Vol.237 No.3) (小澤 敬也), 2011 ; pp228-232, 医歯薬出版株式会社.

## 学会発表

### (1) シンポジウム :

- 1) Miyake K, Shimada T : Development of cell targeting strategy using HIV vector pseudotyped with HIV envelope. *日本遺伝子治療学会 (第 17 回)* (福岡), 2011. 7.
- 2) 渡邊 淳<sup>1)</sup> (1) 付属病院遺伝診療科) : 単一遺伝子病における出生前診断の課題. *日本人類遺伝学会大会 (第 56 回)* (幕張), 2011. 11.

### (2) セミナー :

- 1) 渡邊 淳<sup>1,2)</sup> (1) 付属病院遺伝診療科, <sup>2)</sup> 付属病院ゲノム先端医療部) : 遺伝子診療の現場では - 遺伝情報を医療現場で適切に扱うには 今, 臨床の現場で起こりつつあること. *遺伝医学夏期集中セミナー (第 3 回)* (東京), 2011. 7.

### (3) ポスター :

- 1) 升野光雄<sup>1,2)</sup>, 渡邊 淳, Naing B, 島田 隆, 藤本 亘<sup>3)</sup>, 二宮伸介<sup>4)</sup>, 上田恭典<sup>5)</sup>, 近藤英生<sup>6)</sup>, 山内泰子<sup>2)</sup>, 尾内一信<sup>1)</sup>, 黒木良和<sup>2)</sup> (1) 川崎医科大学 小児科, <sup>2)</sup> 川崎医療福祉大学 大学院医療福祉学研究所 遺伝カウンセリングコース, <sup>3)</sup> 川崎医科大学 皮膚科, <sup>4)</sup> 倉敷中央病院 遺伝診療部, <sup>5)</sup> 倉敷中央病院 血液内科, <sup>6)</sup> 岡山大学病院 血液・腫瘍内科) : COL3A1 遺伝子新規ミスセンス変異による血管型 Ehlers-Danlos 症候群の 1 例. *日本人類遺伝学会大会 (第 56 回)* (幕張), 2011. 11.

### (4) 一般講演 :

- 1) Sugano H<sup>1)</sup>, Iijima O, Watanabe A, Fukunaga Y<sup>1)</sup>, Shimada T (1) Department of Pediatrics) : Fetal gene therapy for lethal murine Hypophosphatasia. *日本遺伝子治療学会 (第 17 回)* (福岡), 2011. 7.
- 2) 菅野華子<sup>1, 2)</sup>, 飯島 修, 渡邊 淳<sup>2)</sup>, 島田 隆<sup>2)</sup> (1) 付属病院小児科, <sup>2)</sup> 付属病院遺伝診療科) : 低フォスファターゼ症モデルマウスの胎児期遺伝子治療. *日本骨代謝学会 (第 29 回)* (大阪), 2011. 7.
- 3) 菅野華子<sup>1, 2)</sup>, 渡邊 淳<sup>2)</sup>, 島田 隆<sup>2)</sup> (1) 付属病院小児科, <sup>2)</sup> 付属病院遺伝診療科) : 胎児期遺伝子治療 : 重症型低フォスファターゼ症マウス胎児への遺伝子導入. *遺伝医学合同学術集会 2011 日本遺伝子診療学会大会 (第 18 回)* *日本遺伝カウンセリング学会学術集会 (第 35 回)* *日本家族性腫瘍学会学術集会第 (第 17 回)* (京都), 2011. 6.
- 4) Sugano H<sup>1)</sup>, Iijima O, Watanabe A, Fukunaga Y<sup>1)</sup>, Shimada T (1) Department of Pediatrics) : Fetal gene therapy for lethal murine Hypophosphatasia. *日本先天代謝異常学会 (第 53 回)* (千葉), 2011. 11.
- 5) Sugano H<sup>2)</sup>, Matsumoto T<sup>2)</sup>, Miyake K, Watanabe A, Narisawa S<sup>1)</sup>, Millan J<sup>1)</sup>, Fukunaga Y<sup>2)</sup>, Shimada T (1) Sanford Children's Health Research Center, Burnham Institute for Medical Research, <sup>2)</sup> Department of Pediatrics) : Fetal gene therapy for lethal murine hypophosphatasia. *14th Annual Meeting of the American Society of Gene & Cell Therapy.*(Seattle), 2011. 5.
- 6) 五十嵐勉<sup>1)</sup>, 三宅弘一, 浅川なぎさ<sup>1)</sup>, 島田 隆, 高橋 浩<sup>1)</sup> (1) 付属病院眼科) : AAVtype8 ベクターの投与方法の違いによる遺伝子導入効率と発現期間の検討. *日本眼科学会総会 (第 115 回)* (東京), 2011. 5.
- 7) Miyake N, Miyake K, Sakai A<sup>1)</sup>, Yamamoto M, Endo A, Suzuki H<sup>1)</sup>, Shimada T (1) Department of Pharmacology) : Gene Therapy for MLD by Intrathecal Administration of Type 9 AAV Vector Expressing ASA. *日本遺伝子治療学会 (第 17 回)* (福岡), 2011. 7.

- 8) Miyake K, Matsumoto T<sup>1)</sup>, Miyake N, Orimo H, Fukunaga Y<sup>1)</sup>, Shimada T ( <sup>1)</sup> Department of Pediatrics) : AAV Type 8 Mediated Bone-Targeted and Muscle Directed Neonatal Gene Therapy for Hypophosphatasia. 日本遺伝子治療学会 (第 17 回) (福岡), 2011. 7.
- 9) Iijima O, Sugano H, Miyake K, Shimada T : Successful treatment of severe infantile hypophosphatasia by ex vivo gene therapy using bone marrow cells expressing bone targeted TNALP. 日本遺伝子治療学会 (第 17 回) (福岡), 2011. 7.
- 10) Asakawa N<sup>1)</sup>, Igarashi T<sup>1)</sup>, Miyake K, Shimada T, Takahashi H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Ophthalmology) : Direct comparison of administration routes for AAV8 mediated ocular gene therapy. 日本遺伝子治療学会 (第 17 回) (福岡), 2011. 7.
- 11) 渡邊 淳<sup>1)</sup>, 菅野華子<sup>1)</sup>, 飯島 修, 折茂英生, 島田 隆<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院遺伝診療科) : 日本における周産期型低フォスファターゼ症 高頻度変異部位 1559delT と周産期時期からの follow up の重要性. 日本骨代謝学会学 (第 29 回) (大阪), 2011. 7.
- 12) Tamai H<sup>1)</sup>, Miyake K, Yamaguchi H<sup>1)</sup>, Shimada T, Inokuchi K<sup>1)</sup>, Dan K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Hematology, <sup>2)</sup> Research Center for Life Science) : The effect and specific mechanisms of systemic gene therapy using AAV8-IL24 in MLL/AF4 Tg mice. 日本血液学会学術集会 (第 73 回) (名古屋), 2011. 10.
- 13) Matsumoto T<sup>2)</sup>, Miyake K, Miyake N, Orimo H, Narisawa S<sup>1)</sup>, Millan J<sup>1)</sup>, Fukunaga Y<sup>2)</sup>, Shimada T ( <sup>1)</sup> Sanford Children's Health Research Center, Burnham Institute for Medical Research, <sup>2)</sup> Department of Pediatrics) : Successful Treatment of Hypophosphatasia Model Mice by a Single Intramuscular Injection of AAV Type 8 Vector Expressing Tissue-Nonspecific Alkaline Phosphatase. 14th Annual Meeting of the American Society of Gene & Cell Therapy.(Seattle), 2011. 5.
- 14) Igarashi T<sup>1)</sup>, Miyake K, Asakawa N<sup>1)</sup>, Shimada T, Takahashi H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Ophthalmology) : Direct Comparison of Administration Routes for AAV 8 Mediated Ocular Gene Therapy. 14th Annual Meeting of the American Society of Gene & Cell Therapy.(Seattle), 2011. 5.
- 15) Miyake N, Miyake K, Sakai A<sup>1)</sup>, Yamamoto M, Endo A, Suzuki H<sup>1)</sup>, Shimada T ( <sup>1)</sup> Department of Pharmacology) : Intrathecal Administration of Type 9 AAV Vector Expressing Arylsulfatase A Is Effective for Reduction of Sulfatide Storage but Not for Correction of Neurological Deficits in Adult Metachromatic Leukodystrophy Model Mice with Overt Neurological Symptoms. 14th Annual Meeting of the American Society of Gene & Cell Therapy.(Seattle), 2011. 5.
- 16) Tamai H<sup>1)</sup>, Miyake K, Yamaguchi H<sup>1)</sup>, Inokuchi K<sup>1)</sup>, Shimada T, Dan K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Hematology) : A single injection of AAV-8 vector expressing IL-24 efficiently suppresses tumor growth mediated by multiple anti-tumor mechanisms in MLL/AF4 positive ALL model mice. 2011 European Hematology Association Congress.(London), 2011. 6.
- 17) 武藤香織<sup>1)</sup>, 渡部麻衣子<sup>1)</sup>, 洪 賢秀<sup>1)</sup>, 荒内貴子<sup>2)</sup>, 舞原佳子<sup>3)</sup>, 大森あゆみ<sup>3)</sup>, 畠山未来<sup>3)</sup>, 渡邊 淳<sup>3)</sup>, 島田隆<sup>3)</sup>, 南 史朗<sup>3,4)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京大学医科学研究所公共政策研究分野, <sup>2)</sup> 東京大学大学院新領域創成科学研究科, <sup>3)</sup> 付属病院, <sup>4)</sup> 老人病研究所) : 認識, 期待, 誤解 : 「バイオバンク・ジャパン」登録患者への意識調査から. 遺伝医学合同学術集会 2011 日本遺伝子診療学会大会 (第 18 回) 日本遺伝カウンセリング学会学術集会 (第 35 回) 日本家族性腫瘍学会学術集会第 (第 17 回) (京都), 2011. 6.
- 18) 渡邊 淳<sup>1)</sup>, 鈴木由美<sup>1)</sup>, 菅野華子<sup>1)</sup>, 峯 克也<sup>2)</sup>, 阿部 崇<sup>2)</sup>, Banyar T, 竹下俊行<sup>2)</sup>, 折茂英生, 澤井英明<sup>3)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院遺伝診療科, <sup>2)</sup> 付属病院女性診療科・産科, <sup>3)</sup> 兵庫医科大学産婦人科) : 周産期型低フォスファターゼ症の遺伝診療 : 周産期からの follow-up の必要性. 遺伝医学合同学術集会 2011 日本遺伝子診療学会大会 (第 18 回) 日本遺伝カウンセリング学会学術集会 (第 35 回) 日本家族性腫瘍学会学術集会第 (第 17 回) (京都), 2011. 6.

- 19) Watanabe A<sup>1)</sup>, Hatakeyama M<sup>1,2)</sup>, Kosho T<sup>3)</sup>, Kawame Y<sup>2)</sup>, Shimada T<sup>1)</sup> (1) Division of Clinical Genetics, 2) Ochanomizu University, Tokyo, Japan, 3) Division of Clinical Genetics, Sinshu University, Matsumoto, Japan) : Hypermobility syndrome in Japan. European Human Genetics Conference 2011 (Amsterdam RAI, The Netherlands), 2011. 5.
- 20) Watanabe A<sup>1)</sup>, Satoh S<sup>2)</sup>, Fujita A<sup>1)</sup>, Orimo H, Shimada T<sup>1)</sup> (1) Division of Clinical Genetics, 2) Aomori Prefectural Central Hospital, Aomori) : Perinatal (lethal) type of Hypophosphatasia Resulting From Paternal Isodisomy of Chromosome 1. 2012 ACMG Annual Clinical Genetics Meeting (Charlotte, North Carolina), 2012. 3.
- 21) 渡邊 淳<sup>1)</sup>, 畠山未来<sup>2)</sup>, 堤 正好<sup>3)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院ゲノム先端医療部, 2) お茶の水女子大学大学院ライフサイエンス専攻遺伝カウンセリング領域, 3) SRL) : ファーマコゲノミクス検査の現状と課題 : 調査研究を踏まえて. 日本臨床検査自動化学会大会 (第 43 回) (横浜), 2011. 10.
- 22) 渡邊 淳<sup>1)</sup>, 中谷 中<sup>2)</sup>, 中條聖子<sup>3)</sup>, 山口敏和<sup>4)</sup>, 横山士郎<sup>5)</sup>, 黒澤英俊<sup>6)</sup>, 藤本英也<sup>6)</sup>, 中山光二<sup>6)</sup>, 畠山未来<sup>1)</sup>, 山城祐子<sup>1)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup>, 堤 正好<sup>3)</sup> (1) 付属病院ゲノム先端医療部, 2) 三重大学付属病院オーダーメイド医療部, 3) エスアールエル, 4) ビー・エム・エル, 5) ファルコバイオシステムズ, 6) 三菱化学メディエンス) : 診療においてファーマコゲノミクス情報を活用するための課題. 日本人類遺伝学会大会 (第 56 回) (幕張), 2011. 11.
- 23) 古庄知己<sup>1,2)</sup>, 鳴海洋子<sup>1,2)</sup>, 関根良樹<sup>1)</sup>, 坂本明之<sup>3)</sup>, 成田信代<sup>4)</sup>, 高橋 淳<sup>4)</sup>, 加藤博之<sup>4)</sup>, 渡邊 淳<sup>5,6)</sup>, 三宅紀子<sup>7)</sup>, 松本直通<sup>7)</sup>, 福嶋義光<sup>1,2)</sup> (1) 信州大学医学部附属病院 遺伝子診療部, 2) 信州大学医学部遺伝医学・予防医学講座, 3) 信州大学医学部麻酔蘇生学講座, 4) 信州大学医学部運動機能学講座, 5) 付属病院遺伝診療科, 6) 付属病院ゲノム先端医療部, 7) 横浜市立大学大学院 医学研究科 遺伝学) : 下肢の痙攣, 発達障害を伴い急速進行性の経過をたどる重症関節型エーラスダンロス症候群. 日本人類遺伝学会大会 (第 56 回) (幕張), 2011. 11.
- 24) Naing B, 渡邊 淳<sup>1)</sup>, 佐々木元子<sup>2)</sup>, 坪 宏一<sup>3)</sup>, 小齊平聖治<sup>4)</sup>, 弦間昭彦<sup>4)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup> (1) 付属病院遺伝診療科, 2) お茶の水女子大学大学院研究院, 3) 付属病院集中治療室, 4) 付属病院呼吸器内科) : イントロンの塩基置換から新規スプライシングを来した血管型 Ehlers-Danlos 症候群の 1 例. 日本人類遺伝学会大会 (第 56 回) (幕張), 2011. 11.
- 25) 藤田京志<sup>1)</sup>, 佐藤秀平<sup>2)</sup>, Naing B, 折茂英生, 島田 隆<sup>1,3)</sup>, 渡邊 淳<sup>1,3)</sup> (1) 付属病院ゲノム先端医療部, 2) 青森県立中央病院総合周産期母子医療センター, 3) 付属病院遺伝診療科) : 父性片親性ダイソミーにより発症した周産期型低ホスファターゼ症の 1 例. 日本人類遺伝学会大会 (第 56 回) (幕張), 2011. 11.
- 26) 五十嵐勉<sup>1)</sup>, 藤本千明<sup>1)</sup>, 浅川なぎさ<sup>1)</sup>, 飯島 修, 高橋 浩<sup>1)</sup> (1) 付属病院眼科) : 高浸透圧に伴う角膜上皮細胞の IL-17 産生への影響. 第 65 回日本臨床眼科学会 (東京), 2011. 10.
- 27) 飯島 修, 菅野華子<sup>1,2)</sup>, 渡邊 淳<sup>2)</sup>, 島田 隆<sup>2)</sup> (1) 付属病院小児科, 2) 付属病院遺伝診療科) : 骨髄細胞移植による低ホスファターゼ症の遺伝子治療. 日本骨代謝学会 (第 29 回) (大阪), 2011. 7.

## 7. 薬理学講座

### 研究概要

23年度は以下の成果を得た。a) 神経障害性疼痛モデルラットにおいて、後根神経節における microRNA の発現変化をマイクロアレイにより網羅的に検討し、miR-7a は傷害を受けた神経細胞において発現低下することを明らかにした。関節炎モデルラットにおいて、NK<sub>1</sub> 受容体拮抗薬の関節内投与は痛覚過敏および関節軟骨破壊を著明に減弱することを見出した。b) 自閉症モデル動物の中脳背側縫線核におけるセロトニン含有神経細胞の特性を調べた。5-HT<sub>1A</sub> 受容体に対する感受性、膜特性などの異常が、低セロトニン状態を引き起す可能性を見いだした。c) 選択的セロトニン再取り込み阻害薬 (SSRI) の慢性投与によって、マウス海馬シナプス伝達のドパミンによる修飾が顕著かつ長期的 (>1 ヶ月) に亢進することを見出した。さらに、ドパミン D1 様受容体の発現が海馬選択的に上昇することを明らかにした。d) 妊娠期のデキサメタゾン投与によって、生まれた仔は発達期に 5-HT<sub>1A</sub> 受容体 mRNA と脳内セロトニン濃度の変化が先行し、不安様行動が成長後に出現することを見出した。この仔を出生直後に SSRI および 5-HT<sub>1A</sub> 受容体アゴニストで処置すると行動異常が回復した。e) p21 の細胞質局在に関わる Brap2 のノックアウトマウスは胎生致死であった。ヘテロマウスでは生化学的にはある情報伝達系の活性化がみられた。f) ヒトを対象にした脳機能画像研究において、NK<sub>1</sub> 受容体拮抗薬アプレピタントは、報酬予測に関わる内側線条体の脳活動を低下させた。注意機能に対しては、葛藤注意に関わる前部帯状回の脳活動が低下することを見いだした。g) サルのタキキニン受容体の 1 つである NK-2 について、内因性のタキキニンに対する結合能は同じ霊長類であるヒトのそれに近いこと、mRNA の分布は広く中枢に分布し、発現量は他のタキキニン受容体の NK-1, NK-3 よりも多いことを見いだした。

### 研究業績

#### 論文

#### 〔追加分〕

追加分原著：

- 1) Marutani T<sup>1, 2)</sup>, Yahata N<sup>3)</sup>, Ikeda Y, Ito T<sup>1)</sup>, Yamamoto M<sup>1)</sup>, Matsuura M<sup>2)</sup>, Matsushima E<sup>2)</sup>, Okubo Y<sup>4)</sup>, Suzuki H, Matsuda T<sup>1)</sup> (1) Tamagawa University, 2) Tokyo Medical and Dental University, 3) University of Tokyo, 4) Department of Neuropsychiatry, Nippon Medical School) : Functional magnetic resonance imaging study on the effects of acute single administration of paroxetine on motivation-related brain activity. *Psychiatry Clin Neurosci* 2011 ; 65 (2) : 191-198.

(1) 原著：

- 1) Mase H<sup>1)</sup>, Sakai A, Sakamoto A<sup>1)</sup>, Suzuki H (1) Department of Anesthesiology, Nippon Medical School) : A subset of  $\mu$ -opioid receptor-expressing cells in the rostral ventromedial medulla contribute to thermal hyperalgesia in experimental neuropathic pain. *Neurosci Res* 2011 ; 70 (1) : 35-43.
- 2) Kumagai M<sup>1)</sup>, Nagano M, Suzuki H, Kawana S<sup>1)</sup> (1) Department of Dermatology, Nippon Medical School) : Effects of stress memory by fear conditioning on nerve-mast cell circuit in skin. *J Dermatol* 2011 ; 38 (6) : 553-561.
- 3) Yu Y<sup>1)</sup>, Satoh H, Vila A<sup>1)</sup>, Wu SM<sup>2)</sup>, Marshak DW<sup>1)</sup> (1) University of Texas Medical School, 2) Baylor College of Medicine) : Effects of histamine on light responses of amacrine cells in tiger salamander retina. *Neurochem Res* 2011 ; 36 (4) : 645-654.
- 4) Takasu K, Sakai A, Hanawa H<sup>1)</sup>, Shimada T<sup>1)</sup>, Suzuki H (1) Department of Biochemistry and Molecular

Biology, Nippon Medical School) : Overexpression of GDNF in the uninjured DRG exerts analgesic effects on neuropathic pain following segmental spinal nerve ligation in mice. *J Pain* 2011 ; 12 (11) : 1130-1139.

- 5) Nagano M, Oishi T<sup>1)</sup>, Suzuki H (1) Primate Research Institute, Kyoto University) : Distribution and pharmacological characterization of primate NK-2 tachykinin receptor in the central nervous system of the rhesus monkey. *Neurosci Lett* 2011 ; 503 (1) : 23-26.
- 6) Uematsu T<sup>1)</sup>, Sakai A, Ito H<sup>1)</sup>, Suzuki H (1) Department of Orthopedics, Nippon Medical School) : Intra-articular administration of tachykinin NK<sub>1</sub> receptor antagonists reduces hyperalgesia and cartilage destruction in the inflammatory joint in rats with adjuvant-induced arthritis. *Eur J Pharmacol* 2011 ; 668 (1-2) : 163-168.
- 7) Akasaka Y<sup>1)</sup>, Sakai A, Takasu K, Tsukahara M<sup>1)</sup>, Hatta A<sup>1)</sup>, Suzuki H, Inoue H<sup>1)</sup> (1) Research Laboratory, Minophagen Pharmaceutical Co., Ltd.) : Suppressing effects of glycyrrhetic acid derivatives on tachykinin receptor activation and hyperalgesia. *J Pharmacol Sci* 2011 ; 117 (3) : 180-188.
- 8) Sakai A, Takasu K, Sawada M<sup>1)</sup>, Suzuki H (1) Nagoya University) : Hemokinin-1 gene expression is up-regulated in microglia activated by lipopolysaccharide through NF- $\kappa$ B and p38 MAPK signaling pathways. *PLoS ONE* 2012 ; 7 (2) : e32268.
- 9) Hirono M<sup>1)</sup>, Saitow F<sup>2)</sup>, Kudo M<sup>1)</sup>, Suzuki H<sup>2)</sup>, Yanagawa Y<sup>2, 3)</sup>, Yamada M<sup>1)</sup>, Nagao S<sup>1)</sup>, Konishi S<sup>4)</sup>, Obata K<sup>1)</sup> (1) RIKEN Brain Science Institute, 2) JST, CREST, 3) Gunma University, 4) Tokushima Bunri University) : Cerebellar globular cells receive monoaminergic excitation and monosynaptic inhibition from Purkinje cells. *PLoS ONE* 2012 ; 7 (1) : e29663.
- 10) Vila A<sup>1)</sup>, Satoh H, Rangel C<sup>1)</sup>, Mills SL<sup>1)</sup>, Hoshi H<sup>1)</sup>, O'Brien J<sup>1)</sup>, Marshak DR<sup>2)</sup>, Macleish PR<sup>3)</sup>, Marshak DW<sup>1)</sup> (1) University of Texas at Health Science Center, 2) PerkinElmer Inc, 3) Morehouse School of Medicine) : Histamine receptors of cones and horizontal cells in Old World monkey retinas. *J Comp Neurol* 2012 ; 520 (3) : 528-543.
- 11) 鈴木智弓<sup>1)</sup>, 赤間高雄<sup>1)</sup>, 小松 裕<sup>2)</sup>, 鈴木秀典, 武者春樹<sup>3)</sup>, 山澤文裕<sup>4)</sup>, 渡部厚一<sup>5)</sup>, 河野一郎<sup>5)</sup> (1) 早稲田大学, 2) 国立スポーツ科学センタ, 3) 聖マリアンナ医科大学, 4) 丸紅健康開発センター, 5) 筑波大学) : 我が国のスポーツドクターのドーピング防止活動の実態. *日本臨床スポーツ医学会誌* 2011 ; 19 (3) : 540-550.

## (2) 総説 :

- 1) 鈴木秀典 : アスリートと禁止表. *日本臨床スポーツ医学会誌* 2011 ; 19 (3) : 422-424.
- 2) 鈴木秀典 : 精神疾患治療薬とドーピング. *臨床精神医学* 2011 ; 40 (9) : 1195-1202.
- 3) 小林克典 : SSRI による海馬神経成熟の逆転. *医学のあゆみ* 2011 ; 237 (7) : 793-794.

## 学会発表

### (1) 一般講演 :

- 1) Miyake N<sup>1)</sup>, Miyake K<sup>1)</sup>, Sakai A, Yamamoto M<sup>1)</sup>, Endo A<sup>1)</sup>, Suzuki H, Shimada T<sup>1)</sup> (1) Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School) : Intrathecal administration of type 9 AAV vector expressing arylsulfatase A is effective for reduction of sulfatide storage but not for correction of neurological deficits in adult metachromatic leukodystrophy model mice with overt neurological symptoms. American society of gene & cell therapy, 14th Annual Meeting (Seattle, Washington, USA), 2011. 5.
- 2) Kobayashi K : Reversal of hippocampal neuronal maturation as a cellular mechanism of antidepressant action. 2011 International Summer Conference of Neurons and Brain Diseases (Toyama, Japan), 2011. 8.
- 3) Takao K<sup>1)</sup>, Kobayashi K, Hagihara H<sup>1)</sup>, Ohira K<sup>1)</sup>, Toyama K<sup>1)</sup>, Shoji H<sup>1)</sup>, Nakamura HK<sup>1)</sup>, Furuya S<sup>2)</sup>, Takagi T<sup>3)</sup>, Ishii S<sup>3)</sup>, Miyakawa T<sup>1)</sup> (1) Fujita Health University, 2) Kyushu University, 3) RIKEN) : Defi-

- ciency of Schnurri-2 confers schizophrenia-related phenotypes and inflammatory-like phenomenon in the brain. 2011 International Summer Conference of Neurons and Brain Diseases (Toyama, Japan), 2011. 8.
- 4) Sakai A, Suzuki H : Distinct expression changes of microRNAs in the dorsal root ganglion in the time course of neuropathic pain. Cell Symposia : Regulatory RNAs (Chicago, IL, USA), 2011. 10.
  - 5) Ito T<sup>1)</sup>, Marutani T<sup>2)</sup>, Yamamoto M<sup>1)</sup>, Suzuki H, Shimojo S<sup>3)</sup>, Matsuda T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Tamagawa University, <sup>2)</sup> Tokyo Medical and Dental University, <sup>3)</sup> Caltech, Pasadena, CA) : Neural basis of changing face preference decision by gaze manipulation. Neuroscience 2011, Society for Neuroscience 41st annual meeting (Washington DC, USA), 2011. 11.
  - 6) Karibe H<sup>1)</sup>, Aoyagi-Naka K<sup>1)</sup>, Koeda M<sup>2)</sup>, Yahata N<sup>3)</sup>, Tateno A<sup>2)</sup>, Koda A<sup>1)</sup>, Suzuki H, Okubo Y<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Nippon Dental University, <sup>2)</sup> Department of Neuropsychiatry, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> University of Tokyo) : Cerebral activation associated with sounds of dental treatment : an fMRI study. Neuroscience 2011, Society for Neuroscience 41st annual meeting (Washington DC, USA), 2011. 11.
  - 7) 武藤友美<sup>1)</sup>, 坂井 敦, 鈴木秀典, 坂本篤裕<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学疼痛制御麻酔科学) : 神経障害性疼痛モデルラットにおける青斑核へのサブスタンス P 投与による鎮痛効果. 日本麻酔科学会 第 58 回学術集会 (神戸), 2011. 5.
  - 8) 大槻孝之<sup>1)</sup>, 岸川佳史<sup>1)</sup>, 植木真琴<sup>1)</sup>, 鈴木秀典 ( <sup>1)</sup> 日本分析センター) : 飛行時間型 MS によるエリスロポエチン (EPO) の網羅的解析 (2). 日本法中毒学会第 30 年会 (長崎), 2011. 6.
  - 9) Miyake N<sup>1)</sup>, Miyake K<sup>1)</sup>, Sakai A, Yamamoto M<sup>1)</sup>, Endo A<sup>1)</sup>, Suzuki H, Shimada T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School) : Gene therapy for MLD by intrathecal administration of type 9 AAV vector expressing ASA. The 17th Annual meeting 2011 Japan Society of Gene therapy (Fukuoka), 2011. 7.
  - 10) 小林克典<sup>1)</sup>, 三ヶ原靖規, 長濱健一郎, 鈴木秀典<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> JST, CREST) : セロトニン 5-HT<sub>4</sub> 受容体欠損マウスにおける恐怖条件付けのメカニズム的特徴. 第 34 回日本神経科学大会 (横浜), 2011. 9.
  - 11) 坂井 敦, 鈴木秀典 : 神経障害性疼痛モデル動物の後根神経節におけるマイクロ RNA の発現解析. 第 34 回日本神経科学大会 (横浜), 2011. 9.
  - 12) 池田裕美子, 肥田道彦<sup>1)</sup>, Kim W<sup>1)</sup>, 八幡憲明<sup>2)</sup>, 高橋英彦<sup>3)</sup>, 館野 周<sup>1)</sup>, 大久保善朗<sup>1)</sup>, 鈴木秀典 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学精神医学講座, <sup>2)</sup> 東京大学, <sup>3)</sup> 京都大学) : 健常者における注意ネットワークに対するカフェインの効果 : 薬理的 fMRI 研究. 第 34 回日本神経科学大会 (横浜), 2011. 9.
  - 13) 佐藤寛榮, 齋藤文仁, 鈴木秀典 : プルキンエ細胞の脱分極による IPSC の抑制. 第 34 回日本神経科学大会 (横浜), 2011. 9.
  - 14) 武藤友美<sup>1)</sup>, 坂井 敦, 坂本篤裕<sup>1)</sup>, 鈴木秀典 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学麻酔科学講座) : 青斑核における NK-1 受容体の活性化は下行性抑制を介して神経障害性疼痛を緩和する. 第 34 回日本神経科学大会 (横浜), 2011. 9.
  - 15) 廣野守俊<sup>1)</sup>, 齋藤文仁, 工藤もゑこ<sup>1)</sup>, 鈴木秀典, 柳川右千夫<sup>2)</sup>, 山田真久<sup>1)</sup>, 永雄総一<sup>1)</sup>, 小西史朗<sup>3)</sup>, 小幡邦彦<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 理化学研究所, <sup>2)</sup> 群馬大学, <sup>3)</sup> 徳島文理大学) : 小脳グロビュラー細胞へのシナプス入力の研究. 第 34 回日本神経科学大会 (横浜), 2011. 9.
  - 16) 高雄啓三<sup>1)</sup>, 萩原英雄<sup>2)</sup>, 小林克典, 大平耕司<sup>2)</sup>, 遠山桂子<sup>2)</sup>, 高木 豪<sup>3)</sup>, 石井俊輔<sup>3)</sup>, 宮川 剛<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 生理学研究所, <sup>2)</sup> 藤田保健衛生大学, <sup>3)</sup> 理化学研究所) : Schnurri-2 ノックアウトマウスにおける統合失調症に関連した大脳皮質の異常. 第 34 回日本神経科学大会 (横浜), 2011. 9.
  - 17) 橋本亮太<sup>1)</sup>, 安田由華<sup>1)</sup>, 大井一高<sup>1)</sup>, 福本素由己<sup>1)</sup>, 山森英長<sup>1)</sup>, 梅田知美<sup>1)</sup>, 岡田武也<sup>1)</sup>, 高雄啓三<sup>2)</sup>, 小林克典, 楯林義孝<sup>3)</sup>, 宮川 剛<sup>2)</sup>, 貝淵弘三<sup>4)</sup>, 岩田伸生<sup>2)</sup>, 尾崎紀夫<sup>4)</sup>, 武田雅俊<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 大阪大学, <sup>2)</sup> 藤田保健衛生大学, <sup>3)</sup> 東京精神研究所, <sup>4)</sup> 名古屋大学) : 統合失調症の候補遺伝子の神経生物学. 第 54 回日本神経化学会大会 (石川), 2011. 9.

- 18) 佐治可奈子<sup>1)</sup>, 池田裕美子, 鈴木秀典, 深山治久<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 東京医科歯科大学): 健常成人を対象としてNK<sub>1</sub>受容体拮抗薬が報酬機能に及ぼす作用の検討: fMRI 研究. 第39回日本歯科麻酔学会総会・学術集会(神戸), 2011. 10.
- 19) 鈴木智弓<sup>1)</sup>, 赤間高雄<sup>2)</sup>, 奥脇 透<sup>3)</sup>, 川原 貴<sup>3)</sup>, 土肥美智子<sup>3)</sup>, 鈴木秀典, 山澤文裕<sup>4)</sup>, 渡部厚一<sup>1)</sup>, 和田野安良<sup>5)</sup>, 河野一郎<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 筑波大学, <sup>2)</sup> 早稲田大学, <sup>3)</sup> 国立スポーツ科学センター, <sup>4)</sup> 丸紅, <sup>5)</sup> 茨城県立医療大学): 我が国のTUE申請の推移. 第22回臨床スポーツ医学会学術集会(青森), 2011. 11.
- 20) 中山亜紀<sup>1)</sup>, 平賀香奈子<sup>1)</sup>, 香坂亜沙美<sup>1)</sup>, 片山 映<sup>2)</sup>, 鈴木秀典, 芝紀代子<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 文京学院大学, <sup>2)</sup> 日本医科大学大学生化学・分子生物学講座): 2次元電気泳動法を用いた健常人尿中エクソソームタンパク質の解析. 第62回日本電気泳動学会総会(横浜), 2011. 11.
- 21) 中山亜紀<sup>1)</sup>, 香坂亜沙美<sup>1)</sup>, 平賀香奈子<sup>1)</sup>, 片山 映<sup>2)</sup>, 鈴木秀典, 芝紀代子<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 文京学院大学, <sup>2)</sup> 日本医科大学大学生化学・分子生物学講座): 健常人尿中エクソソームタンパク質の基礎的解析. 第22回生物試料分析科学会年次学術集会(福岡), 2012. 3.
- 22) 中山亜紀<sup>1)</sup>, 香坂亜沙美<sup>1)</sup>, 平賀香奈子<sup>1)</sup>, 片山 映<sup>2)</sup>, 鈴木秀典, 芝紀代子<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 文京学院大学, <sup>2)</sup> 日本医科大学大学生化学・分子生物学講座): 尿の新たな成分: エクソソームの基礎的解析. 第8回腎・泌尿器検査研究会学術集会(東京), 2012. 3.
- 23) 坂井 敦, 鈴木秀典: 神経障害性疼痛モデルラットの傷害DRG神経におけるmicroRNAの発現低下. 第85回日本薬理学会年会(京都), 2012. 3.
- 24) 池田裕美子, 肥田道彦<sup>1)</sup>, Kim W<sup>1)</sup>, 八幡憲明<sup>2)</sup>, 高橋英彦<sup>3)</sup>, 館野 周<sup>1)</sup>, 大久保善朗<sup>1)</sup>, 鈴木秀典 (<sup>1)</sup> 日本医科大学精神医学講座, <sup>2)</sup> 東京大学, <sup>3)</sup> 京都大学): 注意ネットワークに及ぼすカフェインの効果: 薬理的fMRI研究. 第85回日本薬理学会年会(京都), 2012. 3.
- 25) 永野昌俊, 大石高生<sup>1)</sup>, 林 基治<sup>1)</sup>, 鈴木秀典 (<sup>1)</sup> 京都大学): マカクザル tachykinin 受容体NK-1, NK-2, NK-3の中枢での発現分布と薬理的性質. 第85回日本薬理学会年会(京都), 2012. 3.
- 26) 井本有基<sup>1)</sup>, 小林克典, 瀬木-西田恵里<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 京都大学): 電気けいれん刺激による海馬歯状回神経の成熟状態の変化. 第85回日本薬理学会年会(京都), 2012. 3.

## 8. 病理学講座（解析人体病理学）

### 研究概要

基礎的な研究としては肺、腎、移植、心、眼の病理を中心に行なわれた。肺では、放射線肺障害における水素分子の治療効果、特発性肺線維症の急性増悪、ゲフィニチブ・ボルテゾミブによる薬剤性肺障害、間質性肺炎のIV型コラーゲン $\alpha$ 鎖、LPS肺障害におけるsurvivinの役割、リンパ脈管筋腫症とプロラクチンなど、腎ではスタチンによる腎障害抑制、腎線維化におけるMMP-2の役割、急性肝不全に伴う急性腎障害、膜性腎症・骨髄増殖性疾患の巣状糸球体硬化、糸球体疾患のIV型コラーゲン $\alpha$ 鎖、IgA腎症の間質コラーゲン、膜性腎症の糸球体内皮細胞障害など、移植では腎移植後の巣状糸球体腎炎、肝移植の急性液性免疫拒絶、異種移植導入療法における抗CD3免疫阻害体の試み、糖尿病モデルの膵島腎移植など、心では動脈硬化性大動脈瘤における硬化性潰瘍、肥満心筋症の心筋生検病理など、眼では角膜アルカリ熱傷と角膜混濁など、その他に毒物病理学として、志賀毒素産生大腸菌による出血病変、フェニトロチオン経口曝露による脾所見などが報告された。診断病理学に関しては、ARDSの病態、びまん性肺疾患の病理分類、肺気腫の病理と形成過程、特発性間質性肺炎、肉芽腫性肺疾患、肺血管炎、薬剤性肺疾患、肺胞蛋白症、IgG4関連肺疾患、腎生検診断の標準化と新分類、糖尿病性腎症の病理分類、IgA腎症の組織学的重症度分類、巣状分節状糸球体硬化症、幹細胞移植後VGHD、学校検尿でみつかる腎疾患、高齢者の弁膜疾患などが報告された。学内外の臨床各科との共同研究による臨床病理学的研究、症例報告も行われた。肝硬変性糸球体腎症、悪性リンパ腫と脳梗塞、GVHDにおける腎血栓性微少血管症、Bowen病と悪性黒色腫、ANCA関連糸球体腎症、膜性腎症、消化管出血と成人紫斑病性腎炎などの報告が行われた。また、臨床各科との臨床病理検討会が行われ、報告としてまとめられた。

### 研究業績

#### 論文

##### 〔追加分〕

追加分総説：

- 1) 田村浩一<sup>1)</sup>、金子（富樫）真由子、福田 悠<sup>1)</sup> 東京通信病院病理部：高齢者の弁膜疾患。循環器病理II.3.循環器疾患をめぐるカレントトピックス。病理と臨床 2011；29（3）：257-262.

追加分原著：

- 1) Furukawa T<sup>1,2)</sup>、Yahiro K<sup>1)</sup>、Tsuji A<sup>3)</sup>、Terasaki Y、Morinaga N<sup>1)</sup>、Miyazaki M<sup>2)</sup>、Fukuda Y、Saga T<sup>3)</sup>、Moss J<sup>4)</sup>、Noda M<sup>1)</sup> <sup>1)</sup> Department of Molecular Infectiology, Graduate School of Medicine, Chiba University, <sup>2)</sup> Department of General Surgery, Graduate School of Medicine, Chiba University, <sup>3)</sup> Diagnostic Imaging Group, Molecular Imaging Center, National Institute of Radiological Sciences, <sup>4)</sup> Cardiovascular and Pulmonary Branch, National Heart, Lung, and Blood Institute, National Institutes of Health, Bethesda, USA)：Fatal hemorrhage induced by subtilase cytotoxin from Shiga-toxigenic Escherichia coli. Microb Pathog 2011；50（3-4）：159-167.

追加分症例報告：

- 1) 金子朋広<sup>1)</sup>、有馬留志<sup>1)</sup>、荒川裕輔<sup>1)</sup>、青木路子<sup>1)</sup>、福田久美子<sup>1)</sup>、福井めぐみ<sup>1)</sup>、平間章郎<sup>1)</sup>、藤田恵美子<sup>1)</sup>、三井亜希子<sup>1)</sup>、内海甲一<sup>1)</sup>、清水 章、飯野靖彦<sup>1)</sup> <sup>1)</sup> 内科（神経、腎臓、膠原病リウマチ部門）：アルコール性肝硬変に合併した急速進行性腎炎症候群の2例。日腎会誌 2011；53（1）：60-67.

追加分研究報告書：

- 1) 松尾清一<sup>1)</sup>、川村哲也<sup>2)</sup>、城 謙輔<sup>3)</sup>、宇都宮保典<sup>2)</sup>、小小木英男<sup>2)</sup>、宮崎陽一<sup>2)</sup>、吉村光弘<sup>4)</sup>、堀越 哲<sup>5)</sup>、古巢朗<sup>6)</sup>、木村健二郎<sup>7)</sup>、遠藤雅之<sup>8)</sup>、柴田孝則<sup>9)</sup>、横尾 隆<sup>2)</sup>、清水 章、富野康日己<sup>5)</sup>、その他13名 <sup>1)</sup> 名古屋大

学大学院医学系研究科腎臓内科, <sup>2)</sup> 東京慈恵会医科大学腎臓高血圧内科, <sup>3)</sup> 仙台社会保険病院病理部, <sup>4)</sup> 金沢医療センター第一内科, <sup>5)</sup> 順天堂大学医学部腎臓内科, <sup>6)</sup> 長崎大学医学部第二内科, <sup>7)</sup> 聖マリアンナ医科大学腎臓高血圧内科, <sup>8)</sup> 東海大学医学部腎代謝内科, <sup>9)</sup> 昭和大学医学部腎臓内科) : 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服事業 進行性腎障害に関わる調査研究班報告 IgA 腎症分科会 IgA 腎症診療指針 第3版, 日腎会誌 2011 ; 53 (2) : 123-35.

(1) 原著 :

- 1) Li Q<sup>1)</sup>, Kobayashi M<sup>1)</sup>, Inagaki H<sup>1)</sup>, Hirata Y<sup>1)</sup>, Sato S<sup>2)</sup>, Ishizaki M, Okamura A<sup>3)</sup>, Wang D<sup>3)</sup>, Nakajima T<sup>3)</sup>, Kamijima M<sup>4)</sup>, Kawada T<sup>4)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Hygiene and Public Health, <sup>2)</sup> Division of morphological and Biomolecular Research, <sup>3)</sup> Department of Occupational and Environmental Health, Nagoya University Graduate School of Medicine, Nagoya, Japan, <sup>4)</sup> Department of Occupational and Environmental Health, Nagoya City University Graduate School of Medical Sciences, Nagoya, Japan) : Effect of oral exposure to fenitrothion and 3-methyl-4-nitrophenol on splenic cell populations and histopathological alterations in spleen in Wistar rats. *Hum Exp Toxicol* 2011 ; 30 (7) : 665-74.
- 2) Terasaki Y, Ohsawa I<sup>1)</sup>, Terasaki M, Takahashi M, Kunugi S, Kang D, Urushiyama K, Amenomori S, Kaneko-Togashi M, Kuwahara N, Ishikawa A, Kamimura N<sup>2)</sup>, Ohta S<sup>2)</sup>, Fukuda Y (<sup>1)</sup> Environmental Gerontology, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, Tokyo, Japan, <sup>2)</sup> Department of Biochemistry and Cell Biology, Institute of Development and Aging Sciences, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, Kawasaki) : Hydrogen therapy attenuates irradiation-induced lung damage by reducing oxidative stress. *Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol* 2011 ; 301 (4) : 415-426.
- 3) Kunugi S, Shimizu A, Ishii E, Kuwahara N, Arai T, Kataoka M, Masuda Y, Nagasaka S, Fukuda Y : The pathological characteristics of acute antibody-mediated rejection in DA-to-Lewis rat orthotopic liver transplantation. *Transplant Proc* 2011 ; 43 (7) : 2737-40.
- 4) Yamada K<sup>1)</sup>, Hirakata A<sup>1)</sup>, Tchipashvili V<sup>1)</sup>, Shimizu A, Iwaki H<sup>1)</sup>, Griesemer A<sup>1)</sup>, Vallabhajosyula P<sup>1)</sup>, Moran S<sup>1)</sup>, Sachs D<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital/Harvard Medical School, Boston, MA, USA) : Composite islet-kidneys from single baboon donors cure diabetes across fully allogeneic barriers. *Am J Transplant* 2011 ; 11 (12) : 2603-2612.
- 5) Nishimura H<sup>1)</sup>, Scalea J<sup>1)</sup>, Wang Z<sup>1)</sup>, Shimizu A, Moran S<sup>1)</sup>, Gillon B<sup>1)</sup>, Sachs D<sup>1)</sup>, Yamada K<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital/Harvard Medical School, Boston, MA, USA) : First experience with the use of a recombinant CD3 immunotoxin as induction therapy in pig-to-primate xenotransplantation : the effect of T-cell depletion on outcome. *Transplantation* 2011 ; 92 (6) : 641-7.
- 6) Mii A<sup>1)</sup>, Shimizu A, Kaneko T<sup>1)</sup>, Fujita E<sup>1)</sup>, Fukui M<sup>1)</sup>, Fujino T<sup>1)</sup>, Utsumi K<sup>1)</sup>, Yamaguchi H<sup>2)</sup>, Tajika K<sup>2)</sup>, Tsuchiya S<sup>3)</sup>, Iino Y<sup>1)</sup>, Katayama Y<sup>1)</sup>, Fukuda Y (<sup>1)</sup> Department of Internal Medicine Division of Neurology, Nephrology and Rheumatology, <sup>2)</sup> Department of Internal Medicine Division of Hematology, <sup>3)</sup> Division of Diagnostic Pathology) : Renal thrombotic microangiopathy associated with chronic graft-versus-host disease after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. *Pathol Int* 2011 ; 61 (9) : 518-27.
- 7) 向井陽美<sup>1)</sup>, 大屋敷一馬<sup>2)</sup>, 加藤貴雄<sup>3)</sup>, 楠本昌彦<sup>4)</sup>, 弦間昭彦<sup>5)</sup>, 酒井文和<sup>6)</sup>, 杉山幸比古<sup>7)</sup>, 畠 清彦<sup>8)</sup>, 福田悠, 工藤翔二<sup>9)</sup> (<sup>1)</sup> ヤンセンファーマ株式会社サイエンティフィックアフェアーズ本部, <sup>2)</sup> 東京医科大学内科学第一講座, <sup>3)</sup> 内科学, 循環器・肝臓・老年・総合病態部門, <sup>4)</sup> 国立がんセンター中央病院放射線診断部, <sup>5)</sup> 内科学, 呼吸器・感染・腫瘍部門, <sup>6)</sup> 埼玉医科大学放射線科, <sup>7)</sup> 自治医科大学内科学講座呼吸器内科, <sup>8)</sup> 癌研有明病院化学療法科・血液腫瘍科, <sup>9)</sup> 結核予防会複十字病院) : 日本人におけるボルテゾミブ治療に関連した肺障害の発現状況. *臨床血液* 2011 ; 52 (12) : 1859-1869.

(2) 総説：

- 1) Shimizu A, Higo S, Fujita E<sup>1)</sup>, Mii A<sup>1)</sup>, Kaneko T<sup>1)</sup> (1) Department of Internal Medicine Division of Neurology, Nephrology and Rheumatology) : Focal segmental glomerulosclerosis after renal transplantation. Clin Transplant 2011 ; 25 (Suppl 23) : 6-14.
- 2) 清水 章, 神崎 剛, 梶本雄介, 肥後清一郎 : 腎生検診断の標準化と新分類, 巣状分節性糸球体硬化症の Columbia 分類. 病理と臨床 2011 ; 29 (11) : 1196-1202.
- 3) 功刀しのぶ, 福田 悠 : ゲフィチニブ肺障害の病理像 : 特集 分子標的薬剤・生物学的製剤と肺障害. 成人病と生活習慣病 2011 ; 41 (7) : 825-829.
- 4) 福田 悠 : ALI/ARDS の病態と病理形態. 特集 : 急性肺障害/急性呼吸窮迫症候群 (ALI/ARDS) : 診断と治療の進歩. 内科 2011 ; 100 (6) : 1536-1540.
- 5) 寺崎泰弘, 福田 悠 : びまん性肺疾患の病理分類. 特集 : びまん性肺疾患のマイル・ストーン. 総合臨牀 2011 ; 60 (12) : 2377-2384.
- 6) 福田 悠 : 肺気腫の病理と形成過程. 慈大呼吸器研究会誌 2012 ; 24 (1) : 7-11.

(3) 研究報告書：

- 1) 松尾清一<sup>1)</sup>, 川村哲也<sup>2)</sup>, 城 謙輔<sup>3)</sup>, 片渕律子<sup>4)</sup>, 久野 敏<sup>5)</sup>, 清水 章, 橋口明典<sup>6)</sup> (1) 名古屋大学大学院医学系研究科腎臓内科, 2) 東京慈恵会医科大学腎臓高血圧内科, 3) 仙台社会保険病院病理部, 4) 国立病院機構福岡東医療センター腎臓内科, 5) 福岡大学医学部病理学, 6) 慶応義塾大学医学部病理学) : 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服事業 進行性腎障害に関わる調査研究班報告 IgA 腎症分科会 IgA 腎症診療指針 第3版補追 IgA 腎症組織アトラス. 日腎会誌 2011 ; 53 (5) : 655-666.
- 2) 福田 悠, 福岡順也<sup>1)</sup> (1) 富山大学病院病理部) : 病理部会報告. UIP : 病理診断における標準化の試みとその問題点. 厚生労働科学研究補助金 難治性疾患克服研究事業 びまん性肺疾患に関する調査研究班 平成 23 年度研究報告書 2012 ; 93-98.
- 3) 寺崎泰弘, 寺崎美佳, 永坂真也, 漆山博和, 高橋美紀子, 功刀しのぶ, 若松恭子, 石川吾利美, 桑原尚美, 福田 悠 : 肺傷害における survivin の役割. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 びまん性肺疾患に関する調査研究 平成 23 年度研究報告書 2012 ; 325-331.

(4) 症例報告：

- 1) 駒場祐一<sup>1)</sup>, 西山 穰<sup>1)</sup>, 中村恭子<sup>2)</sup>, 福岡長知<sup>3)</sup>, 高橋美紀子, 福田 悠, 片山泰朗<sup>1)</sup>, 石川かほり, 功刀しのぶ, 安武正弘<sup>3)</sup>, 川本雅司<sup>4)</sup>, 勝又俊弥<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>3)</sup> (1) 内科 (神経, 腎臓, 膠原病リウマチ部門), 2) 内科 (血液部門), 3) 内科 (循環器部門), 4) 病理部) : Conference room 悪性リンパ腫治療中に脳梗塞を合併し, 遷延性の意識障害と発熱を呈した 1 例. 内科 2011 ; 108 (3) : 501-514.

(5) Correspondence：

- 1) Al-Ani B<sup>1)</sup>, Al Nuaimi H<sup>1)</sup>, Savage C<sup>1)</sup>, Little M<sup>1)</sup>, Shimizu A, Fjita E, Nagasaka S (1) The Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School, Boston, MA, USA) : Statin therapy may not apply to all forms of crescentic glomerulonephritis. Am J Pathol 2011 ; 178 (5) : 2447-2448.

著 書

- 1) 清水 章, 金子朋広<sup>1)</sup> (1) 内科 (神経, 腎臓, 膠原病リウマチ部門) : [分担] Q16 IgA 腎症にみられる尿細管間質病変の発生機序と腎予後への関与について教えてください. In IgA 腎症診療ガイド Q&A (松尾清一監, 富野康日己 川村哲也編), 2011 ; pp42-43, 診断と治療社.
- 2) 清水 章, 金子朋広<sup>1)</sup> (1) 内科 (神経, 腎臓, 膠原病リウマチ部門) : [分担] Q17 IgA 腎症にみられる血管病変の発生機序と腎予後への関与について教えてください. In IgA 腎症診療ガイド Q&A (松尾清一監, 富野康日

- 己 川村哲也編), 2011; pp44-45, 診断と治療社.
- 3) 清水 章, 神崎 剛, 梶本雄介, 肥後清一郎: [分担] 巣状分節性糸球体硬化症. 別冊日本臨床 新領域別症候群シリーズ No 17. 腎臓症候群 (第2版) 上巻, 2012; pp133-137, 日本臨床社.
  - 4) 吾妻安良太<sup>1)</sup>, 功刀しのぶ<sup>(1)</sup> 内科 (呼吸器・感染・腫瘍部門): [分担] 第1章 呼吸器内視鏡診断総論 フォーカス 特発性間質性肺炎 (IIPs) の診断における気管支鏡検査の役割. 呼吸器内視鏡診断 所見・病理からみたアプローチ (福田悠 弦間昭彦 池田徳彦), 2011; pp5-10, 南山堂.
  - 5) 吾妻安良太<sup>1)</sup>, 功刀しのぶ, 福田 悠<sup>(1)</sup> 内科 (呼吸器・感染・腫瘍部門): [分担] 第2章 呼吸器疾患と呼吸器内視鏡検査 I. 特発性間質性肺炎. 呼吸器内視鏡診断 所見・病理からみたアプローチ (福田悠 弦間昭彦 池田徳彦), 2011; pp20-27, 南山堂.
  - 6) 白杵二郎<sup>1)</sup>, 功刀しのぶ, 福田 悠<sup>(1)</sup> 内科 (呼吸器・感染・腫瘍部門): [分担] 第2章 呼吸器疾患と呼吸器内視鏡検査 III. 肉芽腫性肺炎 肺抗酸球形肉芽腫症 (肺ランゲルハンス細胞組織球症). 呼吸器内視鏡診断 所見・病理からみたアプローチ (福田悠 弦間昭彦 池田徳彦), 2011; pp59-62, 南山堂.
  - 7) 阿部信二<sup>1)</sup>, 功刀しのぶ, 福田 悠<sup>(1)</sup> 東京臨海病院呼吸器内科): [分担] 第2章 呼吸器疾患と呼吸器内視鏡検査 VI. 血管炎. 呼吸器内視鏡診断 所見・病理からみたアプローチ (福田悠 弦間昭彦 池田徳彦), 2011; pp63-66, 南山堂.
  - 8) 吉村明修<sup>1)</sup>, 功刀しのぶ, 福田 悠<sup>(1)</sup> 内科 (呼吸器・感染・腫瘍部門): [分担] 第2章 呼吸器疾患と呼吸器内視鏡検査 VII. その他の疾患 薬剤性肺障害. 呼吸器内視鏡診断 所見・病理からみたアプローチ (福田悠 弦間昭彦 池田徳彦), 2011; pp116-120, 南山堂.
  - 9) 白杵二郎<sup>1)</sup>, 功刀しのぶ, 福田 悠<sup>(1)</sup> 内科 (呼吸器・感染・腫瘍部門): [分担] 第2章 呼吸器疾患と呼吸器内視鏡検査 VII. その他の疾患 肺胞蛋白症. 呼吸器内視鏡診断 所見・病理からみたアプローチ (福田悠 弦間昭彦 池田徳彦), 2011; pp121-124, 南山堂.

## 学会発表

### (1) 特別講演:

- 1) 寺崎泰弘: IgG4 関連肺疾患について. 千駄木感染免疫アレルギー研究会 (第22回) (東京), 2012. 3.
- 2) 福田 悠, 福岡順也<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 富山大学病院病理部): 病理部会報告. UIP: 病理診断における標準化の試みとその問題点. 厚生労働科学研究補助金 難治性疾患克服研究事業 びまん性肺疾患に関する調査研究班班会議 (東京), 2012. 1.

### (2) 教育講演:

- 1) 清水 章, 五十嵐徹<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 付属病院小児科): 学校検尿で見つかる腎臓疾患の病理所見と治療について. 足立区医師会小児科医学会学術講演会 (東京), 2011. 11.
- 2) 清水 章, 五十嵐徹<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 付属病院小児科): 学校検尿で発見された疾患の診断と腎組織所見. 茨城小児腎フォーラム (水戸), 2011. 11.
- 3) 清水 章: 腎臓病理の基礎から腎炎まで. 東京都病理細胞診検査研究班・一般検査研究班合同研究会 (東京), 2011. 11.

### (3) シンポジウム:

- 1) 大沢郁郎<sup>1)</sup>, 寺崎泰弘, 村上弥生<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 東京都健康長寿医療センター・環境老化): 分子状水素による放射線障害抑制とその分子機構. 分子状水素医学シンポジウム (東京), 2012. 2.

### (4) ワークショップ:

- 1) 福田 悠: 薬剤性肺障害の病理像の特徴 テーマ: 薬剤性肺障害. 日本病理学会総会 (第100回) (東京), 2011. 4.

(5) 一般講演：

- 1) 斎藤恒徳, 浅井邦也<sup>1)</sup>, 高野仁司<sup>1)</sup>, 佐藤 茂<sup>2)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>, 福田 悠 ( <sup>1)</sup> 付属病院循環器内科, <sup>2)</sup> 形態解析共同研究施設)：心筋生検による肥満心筋症の臨床病理的検討。日本病理学会総会 (第100回) (東京), 2011. 4.
- 2) 清水 章, 石井永一, 益田幸成, 永坂真也, 福田 悠：急性肝不全にともなう急性腎障害の進展機序。日本病理学会総会 (第100回) (東京), 2011. 4.
- 3) 雨森俊介, 寺崎泰弘, 寺崎美佳, 漆山博和, 高橋美紀子, 功刀しのぶ, 福田 悠：LSPによるマウス急性肺障害モデルにおけるサバイビンの発現。日本病理学会総会 (第100回) (東京), 2011. 4.
- 4) 寺崎泰弘, 大澤郁郎<sup>1)</sup>, 寺崎美佳, 高橋美紀子, 功刀しのぶ, 康 徳東<sup>2)</sup>, 漆山博和, 雨森俊介, 富樫真由子, 福田 悠 ( <sup>1)</sup> 環境老化研究東京都健康長寿医療センター研究所, <sup>2)</sup> 山梨大学医学部分子病理学講座)：抗酸化力を利用した水素分子治療による放射線肺障害の抑制。日本病理学会総会 (第100回) (東京), 2011. 4.
- 5) 寺崎美佳, 寺崎泰弘, 雨森俊介, 漆山博和, 永坂真也, 高橋美紀子, 功刀しのぶ, 福田 悠：プレオマイシン肺傷害マウスモデルにおけるサバイビン発現の検討。日本病理学会総会 (第100回) (東京), 2011. 4.
- 6) 漆山博和, 寺崎泰弘, 雨森俊介, 寺崎美佳, 永坂真也, 高橋美紀子, 功刀しのぶ, 益田幸成, 清水 章, 福田 悠：間質性肺炎におけるIV型コラーゲン $\alpha$ 鎖(1-6)の局在と産生。日本病理学会総会 (第100回) (東京), 2011. 4.
- 7) 岸田由起子<sup>1)</sup>, 福田 悠, 田村浩一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京通信病院病理科)：動脈硬化性大動脈瘤における硬化性潰瘍の関与。日本病理学会総会 (第100回) (東京), 2011. 4.
- 8) 安田文彦<sup>1)</sup>, 清水 章, 藤田恵美子<sup>1)</sup>, 三井亜希子<sup>1)</sup>, 渡辺容子<sup>1)</sup>, 金子朋広<sup>1)</sup>, 内海甲一<sup>1)</sup>, 益田幸成, 飯野靖彦<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>1)</sup>, 福田 悠 ( <sup>1)</sup> 内科 (神経, 腎臓, 膠原病リウマチ部門))：高度蛋白尿を呈する糖尿病腎症の特徴。日本腎臓学会学術総会 (第54回) (横浜), 2011. 6.
- 9) 橋口明典<sup>1)</sup>, 城 謙輔<sup>2)</sup>, 小此木英男<sup>3)</sup>, 宇都宮保典<sup>3)</sup>, 清水 章, 片淵律子<sup>4)</sup>, 久野 敏<sup>5)</sup>, 宮崎陽一<sup>3)</sup>, 川村哲也<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 慶應義塾大学病理学教室, <sup>2)</sup> 仙台社会保険病院病理部, <sup>3)</sup> 東京慈恵会医科大学腎臓, 高血圧内科, <sup>4)</sup> 福岡東医療センター腎臓内科, <sup>5)</sup> 福岡大学病理学)：臨床情報との関連から見たIgA腎症組織学的重症度分類とOxford分類の比較：前向き研究118例の検証。日本腎臓学会学術総会 (第54回) (横浜), 2011. 6.
- 10) 清水 章, 石井永一, 金子朋広<sup>1)</sup>, 三井亜希子<sup>1)</sup>, 藤田恵美子<sup>1)</sup>, 益田幸成, 永坂真也, 飯野靖彦<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>1)</sup>, 福田 悠 ( <sup>1)</sup> 内科 (神経, 腎臓, 膠原病リウマチ部門))：急性肝不全に伴う急性腎障害(AKI)の特徴。日本腎臓学会学術総会 (第54回) (横浜), 2011. 6.
- 11) 藤田恵美子<sup>1)</sup>, 清水 章, 山口博樹<sup>2)</sup>, 藤野鉄平<sup>1)</sup>, 福井めぐみ<sup>1)</sup>, 青木路子<sup>1)</sup>, 益田幸成, 金子朋広<sup>1)</sup>, 内海甲一<sup>1)</sup>, 福田 悠, 飯野靖彦<sup>1)</sup>, 片山泰明<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 内科 (神経, 腎臓, 膠原病リウマチ部門), <sup>2)</sup> 内科 (血液, 消化器, 内分泌代謝部門))：古典的骨髄増殖生疾患に合併したFSGS病変の組織学的検討。日本腎臓学会学術総会 (第54回) (横浜), 2011. 6.
- 12) 吉田泰子<sup>1)</sup>, 高野秀樹<sup>1)</sup>, 黒澤美穂<sup>1)</sup>, 新井孝司, 若松恭子, 益田幸成, 佐藤 茂<sup>2)</sup>, 清水 章 ( <sup>1)</sup> 東京通信病院腎臓内科, <sup>2)</sup> 形態解析共同研究施設)：電子顕微鏡でメサングウム領域に多量の間質型コラーゲン沈着を認めたIgA腎症の1例。日本腎臓学会東部学術大会 (第41回) (東京), 2011. 10.
- 13) 岩堀 徹<sup>1)</sup>, 城島嘉磨<sup>2)</sup>, 清水 章 ( <sup>1)</sup> さくら記念病院, <sup>2)</sup> 東京医科大学第5外科)：ラジアルフロー型パイオリクターを用いた腎臓系細胞高機能培養の試み。日本腎臓学会学術総会 (第54回) (横浜), 2011. 6.
- 14) 伊東祐輔<sup>1)</sup>, 白田香織<sup>1)</sup>, 益田幸成, 清水 章, 福田 悠 ( <sup>1)</sup> 医学部第4学年)：IgA腎症の超微形態学的特徴。日本腎臓学会学術総会 (第54回) (横浜), 2011. 6.
- 15) 福井めぐみ<sup>1)</sup>, 三井亜希子<sup>1)</sup>, 藤田恵美子<sup>1)</sup>, 金子朋広<sup>1)</sup>, 内海甲一<sup>1)</sup>, 飯野靖彦<sup>1)</sup>, 片山泰明<sup>1)</sup>, 益田幸成, 清水 章, 福田 悠 ( <sup>1)</sup> 内科 (神経, 腎臓, 膠原病リウマチ部門))：特発性膜性腎症における糸球体内皮細胞障害と分節性硬化病変の形成。日本腎臓学会学術総会 (第54回) (横浜), 2011. 6.
- 16) 永坂真也, 清水 章, 藤田恵美子<sup>1)</sup>, 益田幸成, 福田 悠 ( <sup>1)</sup> 内科 (神経, 腎臓, 膠原病リウマチ部門))：スタ

チン (Atorvastatin) によるマクロファージを介した抗炎症機構の解析. 日本腎臓学会学術総会 (第 54 回) (横浜), 2011. 6.

- 17) 三井亜希子<sup>1)</sup>, 清水 章<sup>1)</sup>, 金子朋広<sup>1)</sup>, 内海甲一<sup>1)</sup>, 田近賢二<sup>2)</sup>, 山口博樹<sup>2)</sup>, 飯野靖彦<sup>1)</sup>, 片山泰明<sup>1)</sup>, 福田悠, 1 <sup>(1)</sup> 内科 (神経, 腎臓, 膠原病リウマチ部門), <sup>(2)</sup> 内科 (血液, 消化器, 内分泌代謝部門): 造血幹細胞移植後の腎血栓性微少血管症 (TMA) と移植片対宿主病 (GVHD) の関与. 日本腎臓学会学術総会 (第 54 回) (横浜), 2011. 6.
- 18) 藤野鉄平<sup>1)</sup>, 福井めぐみ<sup>1)</sup>, 金子朋広<sup>2)</sup>, 飯野靖彦<sup>2)</sup>, 山田剛久<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>2)</sup>, 清水 章 <sup>(1)</sup> 千葉北総病院内科, <sup>(2)</sup> 内科 (神経, 腎臓, 膠原病リウマチ部門): 混合性結合組織病に合併した ANCA 関連腎炎にたいして IVIG 療法を施行した 1 例. 日本腎臓学会東部学術大会 (第 41 回) (東京), 2011. 10.
- 19) 青木路子<sup>1)</sup>, 三井亜希子<sup>1)</sup>, 荒川裕輔<sup>1)</sup>, 山田剛久<sup>1)</sup>, 金子朋広<sup>1)</sup>, 内海甲一<sup>1)</sup>, 清水 章, 飯野靖彦<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 内科 (神経, 腎臓, 膠原病リウマチ部門): ステロイド治療が有効だった membranous nephropathy with monoclonal IgG deposit の 1 例. 日本腎臓学会東部学術大会 (第 41 回) (東京), 2011. 10.
- 20) 荒谷紗絵<sup>1)</sup>, 吉田泰子<sup>1)</sup>, 黒澤美穂<sup>1)</sup>, 糸山 智<sup>2)</sup>, 江藤隆史<sup>3)</sup>, 岸田由起子<sup>4)</sup>, 田村浩一<sup>4)</sup>, 清水 章, 南学正臣<sup>5)</sup>, 高野秀樹<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 東京通信病院腎臓内科, <sup>(2)</sup> 東京通信病院感染症内科, <sup>(3)</sup> 東京通信病院皮膚科, <sup>(4)</sup> 東京通信病院病理科, <sup>(5)</sup> 東京大学大学院腎臓内分泌内科: 成人発症紫斑病性腎炎に消化管出血を合併し, 感染症併発で治療に難渋した 1 救命例. 日本腎臓学会東部学術大会 (第 41 回) (東京), 2011. 10.
- 21) 三井亜希子<sup>1)</sup>, 有馬留志<sup>1)</sup>, 福田久美子<sup>1)</sup>, 金子朋広<sup>1)</sup>, 内海甲一<sup>1)</sup>, 高田大輔<sup>2)</sup>, 清水 章, 飯野靖彦<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 内科 (神経, 腎臓, 膠原病リウマチ部門), <sup>(2)</sup> さくら記念病院内科: 確定診断に苦慮した fibrillary glomerulonephritis の 1 例. 日本腎臓学会東部学術大会 (第 41 回) (東京), 2011. 10.
- 22) 葉山修陽<sup>1)</sup>, 栗原 怜<sup>1)</sup>, 青木路子<sup>1)</sup>, 渡辺容子<sup>1)</sup>, 添田 昇<sup>2)</sup>, 清水 章<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> さいたまつきの森クリニック, <sup>(2)</sup> 慈正会レインボークリニック: 偶然に腎機能障害を指摘され腎生検標本の約 40% に糸球体硬化を認めた 1 症例. 日本腎臓学会東部学術大会 (第 41 回) (東京), 2011. 10.
- 23) 伊東祐輔<sup>1)</sup>, 白田香織<sup>1)</sup>, 益田幸成, 清水 章, 福田 悠 <sup>(1)</sup> 医学部第 4 学年: IgA 腎症の超微形態学的特徴. 日本医科大学医学会総会 (第 79 回) (東京), 2011. 9.
- 24) 内山昌明, 益田幸成, 清水 章, 永坂真也, 福田 悠, 高橋 浩<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 付属病院眼科: ラット角膜アルカリ熱傷後の不完全創傷治癒による角膜混濁. 日本医科大学医学会総会 (第 79 回) (東京), 2011. 9.
- 25) 漆山博和, 寺崎泰弘, 雨森俊介, 寺崎美佳, 高橋美紀子, 功刀しのぶ, 幸山 正<sup>1)</sup>, 長瀬隆英<sup>1)</sup>, 福田 悠 <sup>(1)</sup> 東京大学大学院呼吸器内科: びまん性肺障害における IV 型コラーゲン  $\alpha$  鎖 (1~6) の局在と産生についての検討. 日本呼吸器学会総会 (第 51 回) (東京), 2011. 4.
- 26) 寺崎泰弘, 漆山博和, 雨森俊介, 寺崎美佳, 高橋美紀子, 功刀しのぶ, 福田 悠<sup>1)</sup>: LAM (Lymphangioliomyomatosis) の病態におけるプロラクチンの役割. 日本呼吸器学会総会 (第 51 回) (東京), 2011. 4.
- 27) Terasaki Y, Terasaki M, Urushiyama K, Amenomori S, Takahashi M, Kunugi S, Fukuda Y: The increased expression of survivin on lipopolysaccharide (LPS) -induced acute lung injury (ALI) in mice. ATS (American Thoracic Society) International Conference 2011 (Denver), 2011. 5.
- 28) Yasuda F<sup>1)</sup>, Shimizu A, Mii A<sup>1)</sup>, Fujita E<sup>1)</sup>, Kaneko T<sup>1)</sup>, Utsumi K<sup>1)</sup>, Masuda Y, Iino Y<sup>1)</sup>, Fukuda Y, Katayama Y<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> Department of Internal Medicine Division of Neurology, Nephrology and Rheumatology: The pathologic classification of diabetic nephropathy is correlated with the clinical characteristics of diabetes mellitus. ASN Kidney Week 2011 (Philadelphia), 2011. 11.
- 29) Du X<sup>1, 2)</sup>, Shimizu A, Masuda Y, Kuwahara N, Arai T, Kataoka M, Kaneko T<sup>1)</sup>, Iino Y<sup>1)</sup>, Fukuda Y <sup>(1)</sup> Department of Internal Medicine Division of Neurology, Nephrology and Rheumatology, <sup>(2)</sup> Division of Nephrology, 2nd Affiliated Hospital of Harbin Medical University, Harbin, China: Matrix metalloproteinases-2 was involved in the development of renal interstitial fibrosis through tubular epithelial-to-mesenchymal tran-

- sition. ASN Kidney Week 2011 (Philadelphia), 2011. 11.
- 30) Shimizu A, Ishii E, Masuda Y, Sato A<sup>1</sup>, Piao H<sup>1</sup>, Ishikawa A, Arai T, Morioka T<sup>1</sup>, Fukuda Y (1) Cellular Physiology, Institute of Nephrology, Niigata University School of Medicine, Niigata) : Renal tubular and peritubular capillary injury in hepatic failure induced acute kidney injury in rats. ASN Kidney Week 2011 (Philadelphia), 2011. 11.
- 31) Fukui M<sup>1</sup>, Mii A<sup>1</sup>, Shimizu A, Kaneko T<sup>1</sup>, Fujita E<sup>1</sup>, Masuda Y, Iino Y<sup>1</sup>, Katayama Y<sup>1</sup>, Fukuda Y (1) Department of Internal Medicine Division of Neurology, Nephrology and Rheumatology) : The mechanism of the development of segmental glomerular sclerosis in idiopathic membranous nephropathy. ASN Kidney Week 2011 (Philadelphia), 2011. 11.
- 32) 清水 章, 益田幸成, 山田剛久<sup>1</sup>, 青木路子<sup>1</sup>, 肥後清一郎, 梶本雄一, 神崎 剛, 金子朋広<sup>1</sup>, 内海甲一<sup>1</sup>, 飯野靖彦<sup>1</sup> (1) 内科 (神経, 腎臓, 膠原病リウマチ部門) : C型肝炎症例に認めた膜性腎症型の proliferative glomerulonephritis with monoclonal IgG deposits の1例. 日本腎病理協会研究会 (第10回) (東京), 2012. 1.
- 33) 池田洋一郎<sup>1</sup>, 是澤麻衣<sup>1</sup>, 広浜大五郎<sup>1</sup>, 大瀬貴元<sup>1</sup>, 南学正臣<sup>1</sup>, 藤乗嗣泰<sup>1</sup>, 宇於崎宏<sup>2</sup>, 石川 晃<sup>3</sup>, 藤田敏郎<sup>1</sup>, 清水 章 (1) 東京大学医学部附属病院 腎臓内分泌内科, 2) 東京大学医学部附属病院病理部, 3) 腎疾患総合医療学講座) : 下痢後グラフト機能増悪し強い細胞浸潤を認めた生体腎移植後3年の症例. 東京腎生検カンファランス (第64回) (東京), 2012. 3.
- 34) Fukuda Y, Terasaki M, Takahashi M, Kunugi S, Terasaki Y, Urushiyama H, Azuma A<sup>1</sup> (1) 内科学, 呼吸器・感染・腫瘍部門) : Pathological analysis of acute exacerbation of idiopathic pulmonary fibrosis (IPF). European Respiratory Society Annual Congress, Amsterdam 2011 (Amsterdam), 2011. 9.
- 35) 永坂真也, 清水 章, 益田幸成, 寺崎泰弘, 寺崎美佳, 高橋美紀子, 功刀しのぶ, 福田 悠 : スタチン処理マクロファージによる糸球体腎炎に対する抗炎症効果. 日本分子生物学会年会 (第34回) (横浜), 2011. 12.
- 36) 寺崎泰弘, 寺崎美佳, 永坂真也, 漆山博和, 高橋美紀子, 功刀しのぶ, 若松恭子, 石川吾利美, 桑原尚美, 福田悠 : 肺傷害における survivin の役割. 平成23年度びまん性肺疾患に関する調査研究会議総会 (東京), 2012. 1.
- 37) 寺崎泰弘, 漆山博和, 寺崎美佳, 高橋美紀子, 功刀しのぶ, 福田 悠 : DIP/RB-ILD の3例. 大阪呼吸器疾患シンポジウム (第5回) (大阪), 2011. 8.
- 38) 渋谷緯織<sup>1</sup>, 高見佳宏<sup>1</sup>, 百東比古<sup>1</sup>, 野呂佐知子<sup>2</sup>, 岡崎 静<sup>2</sup>, 高山良子<sup>2</sup>, 二神綾子<sup>2</sup>, 福田 悠, 石渡俊行<sup>3</sup>, 内藤善哉<sup>3</sup> (1) 付属病院形成外科・美容外科, 2) 付属病院皮膚科, 3) 統御機構・腫瘍病理学) : Bowen病との鑑別を要した背部悪性黒色腫の1例. 日本医科大学医学会総会 (第79回) (東京), 2011. 9.
- 39) 内山昌明, 益田幸成, 清水 章, 永坂真也, 高橋浩一<sup>1</sup>, 福田 悠 (1) 付属病院眼科) : ラット角膜アルカリ熱傷の創傷治癒過程における血管及びリンパ管新生. 日本病理学会総会 (第100回) (東京), 2011. 4.
- 40) Urushiyama H, Terasaki Y, Amenomori S, Terasaki M, Takahashi M, Kunugi S, Kohyama T<sup>1</sup>, Nagase T<sup>1</sup>, Fukuda Y (1) University of Tokyo) : The localization of  $\alpha$  chains of Type IV collagen in Diffuse Alveolar damage. ATS (American Thoracic Society) International Conference 2011 (Denver), 2011. 5.

## 9. 病理学講座（統御機構・腫瘍学）

### 研究概要

病理学講座（統御機構・腫瘍学）では消化器癌を中心とした腫瘍性疾患につき、近年明らかとなった腫瘍幹細胞に着目し、有効な診断法と新たな分子標的治療法の開発を目指し研究を行なっている。

1) 消化器腫瘍の増殖、転移機序の研究と治療への応用：膵臓癌と大腸癌について培養癌細胞、実験動物モデル、ヒト病理組織標本などを用いて総合的な癌研究を行なっている。膵外分泌系細胞の前駆細胞マーカーである中間径フィラメントの nestin が膵臓癌でも高発現しており、癌の遊走、浸潤に関与していることを明らかにした。培養膵臓癌細胞の nestin を short hairpin RNA (shRNA) で抑制することで、肝転移が著明に抑制されることを発見し、報告した。Nestin が癌幹細胞に豊富に局在していることから、nestin の癌幹細胞への関与について現在、研究を進めている。また、細胞増殖因子受容体の FGFR2 のアイソフォームの FGFR2 IIIb (KGFR) と IIIc 受容体の消化器癌での発現とその役割について検討を行ない、IIIc アイソフォームの発現が癌の増殖、浸潤に促進的に働いていることを確認した。さらに、これらのアイソフォームの発現パターンを調節している ESRP-1 についても研究を進め、癌治療への応用の可能性について検討している。

2) 婦人科腫瘍の増殖機序の研究と治療への応用：子宮頸部の異形成組織の進展に伴って、FGFR2 IIIc の発現が増加し、子宮頸癌組織で高度に FGFR2 IIIc の発現がみられた。FGFR2 IIIc 発現増加により培養頸癌細胞の増殖能が亢進したことから、ヒトパピローマウイルスとの関連や、中和抗体投与による FGFR2 IIIc の発現制御による子宮頸癌治療の可能性について検討している。

3) 腫瘍、炎症性疾患、変性疾患における増殖機序や病態進展の検討：腫瘍の増殖、転移や肉芽組織の形成における血管、リンパ管の増殖、分化や動脈硬化症の進展には細胞外基質や細胞増殖因子が関与しており、その制御について研究を行っている。特に nestin は膵臓癌、大腸癌の腫瘍新生血管で豊富に発現し、現在報告されている血管新生マーカーよりも鋭敏な新生血管マーカーと成り得ることを明らかにした。また、脳腫瘍や脳変性疾患についても nestin の発現や病態の伸展に関する役割について研究を行なっている。

今後も腫瘍性疾患の有効な診断、分子標的治療法の開発をめざして、一層の努力を続けて行きたい。

### 研究業績

#### 論文

#### 〔追加分〕

追加分研究報告書：

- 1) 松田陽子, 内藤善哉, 石渡俊行, 山本哲志：膵癌の浸潤・転移における Nestin の役割の解明と Nestin を標的とした膵癌治療の基礎的研究. 大和証券ヘルス財団研究業績集 2011 ; 34 : 40-44.

#### (1) 原著：

- 1) Ishiwata T, Teduka K, Yamamoto T, Kawahara K, Mastuda Y, Naito Z : Neuroepithelial stem cell marker nestin regulate the migration, invasion and growth of human gliomas. *Oncol Rep* 2011 ; 26 (1) : 91-99.
- 2) Mastuda Y, Ishiwata T, Yamahatsu K<sup>1)</sup>, Kawahara K, Hagio M, Peng W, Yamamoto T, Nakazawa N, Seya T<sup>2)</sup>, Ohaki Y<sup>2)</sup>, Naito Z <sup>(1) Surgery for Organ Function and Biological Regulation, <sup>2) Nippon Medical school Chiba Hokusou Hospital</sup> : Overexpressed fibroblast growth factor receptor 2 in the invasive front of colorectal cancer as a potential therapeutic target of colorectal cancer. *Cancer Letters* 2011 ; 309 (2) : 209-219.</sup>

- 3) Mastuda Y, Kawamoto Y, Teduka K, Peng W-X, Yamamoto T, Ishiwata T, Naito Z : Morphological and cytoskeletal alterations of nervous system tumor cells with different culturing methods. *Int J Oncol* 2011 ; 38 (5) : 1253-1258.
  - 4) Mastuda Y, Ishiwata T, Naito Z : Immunocytochemical analysis of a three-dimensional spheroidal culture systems. *J Nippon Med Sch* 2011 ; 78 (4) : 206-207.
  - 5) Yamamoto T, Mastuda Y, Kawahara K, Naito Z, Ishiwata T : Keratinocyte growth factor stimulates growth of MIA PaCa-2 cells through extracellular signal-regulated kinase phosphorylation. *Oncology Letters* 2012 ; 3 (2) : 307-310.
  - 6) Mastuda Y : Effectiveness of nestin-targeting therapy in pancreatic cancer. *J Nippon Med Sch* 2012 ; 79 (1) : 90-93.
  - 7) Ueda J<sup>1, 2)</sup>, Yoshida H<sup>1, 2)</sup>, Arima Y<sup>1, 2)</sup>, Mamada Y<sup>1, 2)</sup>, Taniai N<sup>1, 2)</sup>, Mineta S<sup>1, 2)</sup>, Yoshioka M<sup>1, 2)</sup>, Kawano Y<sup>1, 2)</sup>, Naito Z, Uchida E<sup>1)</sup> (1) Surgery for Organ Function and Biological Regulation, (2) Department of Surgery) : A Case of Xanthogranulomatous Cholecystitis Preoperatively Diagnosed with Contrast-enhanced Ultrasonography. *J Nippon Med Sch* 2011 ; 78 (3) : 194-198.
  - 8) Kurita J<sup>1)</sup>, Miyamoto M<sup>2)</sup>, Ishii Y<sup>1)</sup>, Aoyama J<sup>1)</sup>, Takagi G<sup>2)</sup>, Naito Z<sup>3)</sup>, Tabata Y<sup>4)</sup>, Ochi M<sup>1)</sup>, Shimizu K<sup>1)</sup> (1) Department of Biological Regulation and Regenerative Surgery, Cardiovascular Surgery, (2) Department of Regenerative Medicine, (3) Department of Pathology, (4) Institute for Frontier Medical Science, Kyoto University) : Enhanced vascularization by controlled release of platelet-rich plasma impregnated in biodegradable gelatin hydrogel. *Ann Thorac Surg*. 2011 ; 92 (3) : 837-844.
  - 9) Kato S<sup>1)</sup>, Naito Z, Matsuda N<sup>1)</sup>, Onodera H<sup>1)</sup>, Sakurazawa N<sup>1)</sup>, Yamashita N<sup>1)</sup>, Kanazawa Y<sup>1)</sup>, Fujita I<sup>1)</sup>, Makino H<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup> (1) Surgery for Organ Function and Biological Regulation) : Localization of cytochrome P4502E1 enzyme in normal and cancerous gastric mucosa and association with its genetic polymorphism in unoperated and remnant stomach. *J Nippon Med Sch* 2011 ; 78 (4) : 224-234.
  - 10) Tani A<sup>1)</sup>, Yoshida H<sup>2)</sup>, Mamada Y<sup>1)</sup>, Taniai N<sup>1)</sup>, Mineta S<sup>1)</sup>, Yoshioka M<sup>1)</sup>, Kawano Y<sup>1)</sup>, Ueda J<sup>1)</sup>, Naito Z, Uchida E<sup>1)</sup> (1) Surgery for Organ Function and Biological Regulation, (2) Tama Nagayama Hospital) : Hepatic angiomyolipoma with a giant hemangioma. *J Nippon Med Sch* 2011 ; 78 (5) : 317-21.
  - 11) Omi T<sup>1, 2)</sup>, Kawana S<sup>1)</sup>, Sato S<sup>3)</sup>, Bonan P<sup>4)</sup>, Naito Z (1) Source Department of Dermatology, (2) Queen's Square Medical Center, (3) Central Institute for Electron Microscopic Researches, (4) Department of Dermatology, University of Florence, Italy) : Fractional CO2 laser for the treatment of acne scars. *J Cosmet Dermatol* 2011 ; 10 (4) : 294-300.
  - 12) 松田陽子, 石渡俊行, 河本陽子, 川原清子, 彭 為霞, 山本哲志, 内藤善哉 : 臍癌細胞の3次元スフェロイド培養における形態構造と細胞骨格の変化. *未病と抗老化* 2011 ; 20 : 87-94.
  - 13) 内藤善哉, 彭 為霞, 上田純志<sup>1)</sup> (1) 外科学講座 (消化器・一般・乳腺・移植部門)) : 充満型胆嚢癌. *検査と技術* 2012 ; 40 (3) : 197.
  - 14) 内藤善哉, 片山博徳<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup> (1) 多摩永山病院病理部) : 限局性結節性過形成 (FNH). *検査と技術* 2011 ; 39 (12) : 1096.
  - 15) 内藤善哉, 彭 為霞, 上田純志<sup>1)</sup> (1) 外科学講座 (消化器・一般・乳腺・移植部門)) : 直腸癌の肝転移. *検査と技術* 2012 ; 39 (7) : 553.
- (2) 症例報告 :
- 1) 土屋恭子<sup>1)</sup>, 山本陽一郎<sup>2)</sup>, 松原美幸<sup>2)</sup>, 柳原恵子<sup>3)</sup>, 飯田信也<sup>3)</sup>, 芳賀駿介<sup>3)</sup>, 内藤善哉, 津川浩一郎<sup>1)</sup> (1) 聖マリアンナ医科大学 乳腺・内分泌外科, (2) 付属病院病理部, (3) 外科学講座 (消化器・一般・乳腺・移植部門)) : 痛みを伴い急速増大した原発性乳腺血管肉腫の1例. *日本臨床細胞学会雑誌* 2011 ; 50 (5) : 295-300.

## 著 書

- 1) 山川光徳<sup>1)</sup>, 内藤善哉, 吉野 正<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 山形大学医学部, <sup>2)</sup> 岡山大学大学院): [監訳] 「MASTER MEDICINE 自己評価型 病理学ノート」, 2011; 西村書店.
- 2) 内藤善哉: [分担] 代謝障害. 標準病理学 第4版 ((編者) 坂本穆彦, 北川昌伸, 仁木利郎), 2011; pp127-159, 医学書院.

## 学会発表

### (1) 一般講演:

- 1) 石渡俊行, 松田陽子, 上田純志<sup>1)</sup>, 山本哲志, 彭 為霞, 川原清子, 内田英二<sup>1)</sup>, Korc M<sup>2)</sup>, 内藤善哉 (<sup>1)</sup> 外科学講座(消化器・一般・乳腺・移植部門), <sup>2)</sup> Department of Medicine, Dartmouth Medical School and Dartmouth Hitchcock Medical Center): 線維芽細胞増殖因子受容体 (FGFR2) を標的とした膀胱治療の研究. 日本病理学会 (第100回) (横浜), 2011. 4.
- 2) 松田陽子, 内藤善哉, 鈴木妙子, 秋山美知子<sup>1)</sup>, Korc M<sup>2)</sup>, 石渡俊行 (<sup>1)</sup> 皮膚科学講座, <sup>2)</sup> Department of Medicine, Dartmouth Medical School and Dartmouth Hitchcock Medical Center): Sphere形成法を用いた膀胱幹細胞における nestin の役割の検討. 日本病理学会 (第100回) (横浜), 2011. 4.
- 3) 山本哲志, 松田陽子, 川原清子, 彭 為霞, 内藤善哉, 石渡俊行: 膀胱特異分泌型 lumican の細胞増殖への関与. 日本病理学会 (第100回) (横浜), 2011. 4.
- 4) 鈴木妙子, 松田陽子, 手塚 潔, 山本哲志, 内藤善哉, 石渡俊行: 膀胱培養細胞における nestin による E-cadherin の制御機構の解明. 日本病理学会 (第100回) (横浜), 2011. 4.
- 5) 秋山美知子<sup>1)</sup>, 松田陽子, 川原清子, 高山良子<sup>1)</sup>, 山本哲志, 石渡俊行, 川名誠司<sup>1)</sup>, 内藤善哉 (<sup>1)</sup> 皮膚科学講座): 幹細胞マーカーの nestin による悪性黒色腫の増殖と浸潤阻害. 日本病理学会 (第100回) (横浜), 2011. 4.
- 6) 上田純志<sup>1)</sup>, 松田陽子, 手塚 潔, 山初和也<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 内藤善哉, 石渡俊行 (<sup>1)</sup> 外科学講座 (消化器・一般・乳腺・移植部門)): 浸潤性膀胱癌における Epithelial splicing regulatory protein1 の発現と役割の検討. 日本病理学会 (第100回) (横浜), 2011. 4.
- 7) 高山良子<sup>1)</sup>, 石渡俊行, 安齋眞一<sup>1)</sup>, 山本哲志, 松田陽子, 藤井雄文, 鈴木妙子, 川名誠司<sup>1)</sup>, 内藤善哉 (<sup>1)</sup> 皮膚科学講座): 皮膚腫瘍組織における lumican とその mRNA の発現の検討. 日本病理学会 (第100回) (横浜), 2011. 4.
- 8) 工藤光洋, 齊藤あゆむ<sup>1)</sup>, 長崎正朗<sup>1)</sup>, 宮野 悟<sup>1)</sup>, 内藤善哉 (<sup>1)</sup> 東京大学医科学研究所): Cell Illustrator を用いたインスリン分泌機能のモデリングとシミュレーション解析. 日本病理学会 (第100回) (横浜), 2011. 4.
- 9) 川原清子, 松田陽子, 藤井雄文, 山初和也<sup>1)</sup>, 上田純志<sup>1)</sup>, 石渡俊行, 内藤善哉 (<sup>1)</sup> 外科学講座 (消化器・一般・乳腺・移植部門)): NOG マウス膀胱転移モデルの転移細胞株における細胞動態の検討. 日本病理学会 (第100回) (横浜), 2011. 4.
- 10) 藤井雄文, 内藤善哉, 山初和也<sup>1)</sup>, 上田純志<sup>1)</sup>, 川原清子, 松田陽子, 石渡俊行 (<sup>1)</sup> 外科学講座 (消化器・一般・乳腺・移植部門)): NOD/Shi-scid, IL-2R  $\gamma$  null (NOG) マウス転移モデルにおける上皮間葉転換 (EMT) マーカーの検討. 日本病理学会 (第100回) (横浜), 2011. 4.
- 11) 手塚 潔, 石渡俊行, 河本陽子, 山本哲志, 松田陽子, 内藤善哉: 神経膠芽腫の腫瘍幹細胞の維持に nestin が関わる可能性. 日本病理学会 (第100回) (横浜), 2011. 4.
- 12) 山初和也<sup>1)</sup>, 松田陽子, 藤井雄文, 川原清子, 河本陽子, 手塚 潔, 鈴木妙子, 山本哲志, 石渡俊行, 内藤善哉 (<sup>1)</sup> 外科学講座 (消化器・一般・乳腺・移植部門)): Nude mouse と NOG mouse を用いたヒト膀胱培養細胞転移モデルの比較検討. 日本病理学会 (第100回) (横浜), 2011. 4.
- 13) 佐藤杏月<sup>1)</sup>, 石渡俊行, 山本哲志, 河本陽子, 彭 為霞, 松田陽子, 恩田宗彦, 朝倉啓文<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup>, 内藤

- 善哉 (1) 産婦人科学講座) : 子宮頸部異形成および子宮頸癌における Nestin の発現. 日本病理学会 (第 100 回) (横浜), 2011. 4.
- 14) 吉田常恭<sup>1)</sup>, 手塚 潔, 川原清子, 山本哲志, 松田陽子, 石渡俊行, 内藤善哉 (1) 日本医科大学医学部) : 星細胞腫と神経膠芽腫における CD44 の発現と, 抗 CD44 モノクローナル抗体の投与効果の検討. 日本病理学会 (第 100 回) (横浜), 2011. 4.
- 15) 櫻井星羅<sup>1)</sup>, 黒田 涼<sup>1)</sup>, 石渡俊行, 松田陽子, 山本哲志, 河本陽子, 川原清子, 内藤善哉 (1) 日本医科大学医学部) : ヒト膀胱癌組織における, 酵素抗体法を用いた膀胱癌幹細胞マーカーの検討. 日本病理学会 (第 100 回) (横浜), 2011. 4.
- 16) 梶尾円香<sup>1)</sup>, 彭 為霞, 井内亜美<sup>2)</sup>, 松田陽子, 石渡俊行, 恩田宗彦, 山本哲志, 新井 悟<sup>2)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 内藤善哉 (1) 日本医科大学医学部, 2) 千葉北総病院病理部) : 振り子状の形態を呈した肝臓血管筋脂肪腫の 1 例. 日本病理学会 (第 100 回) (横浜), 2011. 4.
- 17) 片山博徳<sup>1)</sup>, 丹野正隆<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 劉 愛民<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 内藤善哉 (1) 多摩永山病院病理部, 2) 三菱化学メディエンス病理・細胞診センター) : 中皮腫における MAGE-1 の発現と局在. 日本病理学会 (第 100 回) (横浜), 2011. 4.
- 18) 劉 愛民<sup>1, 2)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 東 敬子<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 丹野正隆<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 内藤善哉 (1) 多摩永山病院病理部, 2) 形態解析共同研究施設) : 細胞診材料を用いた電顕検索の有用性. 日本病理学会 (第 100 回) (横浜), 2011. 4.
- 19) Naito Z, Matsuda Y, Peng W, Yamahatsu K<sup>1)</sup>, Ueda J<sup>1)</sup>, Kawamoto Y, Teduka K, Seya T<sup>2)</sup>, Ohaki Y<sup>2)</sup>, Ishiwata T (1) Surgery for Organ Function and Biological Regulation, 2) Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital) : Fibroblast growth factor receptor 2 as a novel therapeutic target for colorectal cancer cell growth. American association for cancer research (102th annual meeting 2011) (Orlando, FL, USA), 2011. 4.
- 20) Ishiwata T, Matsuda Y, Kawahara K, Yamamoto T, Teduka K, Suzuki T, Peng W, Korc M<sup>1)</sup>, Naito Z (1) Department of Medicine, Dartmouth Medical School and Dartmouth Hitchcock Medical Center) : Fibroblast growth factor receptor 2 as a novel therapeutic target for cancer cell growth and angiogenesis in Toshiyuki Ishiwata human pancreatic cancer. American association for cancer research (102th annual meeting 2011) (Orlando, FL, USA), 2011. 4.
- 21) Matsuda Y, Yamahatsu K<sup>1)</sup>, Kawahara K, Suzuki T, Fujii T, Yamamoto T, Murray K<sup>2)</sup>, Naito Z, Ishiwata T (1) Surgery for Organ Function and Biological Regulation, 2) Department of Medicine, Dartmouth Medical School and Dartmouth Hitchcock Medical Center) : Nestin regulates pancreatic cancer stem cell functions. American association for cancer research (102th annual meeting 2011) (Orlando, FL, USA), 2011. 4.
- 22) Yamahatsu K<sup>2)</sup>, Matsuda Y, Yamamoto T, Aimoto T<sup>1)</sup>, Nakamura Y<sup>1)</sup>, Hiroi M<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup>, Naito Z, Ishiwata T (1) Surgery for Organ Function and Biological Regulation) : Nestin as a novel angiogenic marker and target for anti-angiogenic therapy in human pancreatic cancer. American association for cancer research (102th annual meeting 2011) (Orlando, FL, USA), 2011. 4.
- 23) Akiyama M<sup>1)</sup>, Kawahara K, Matsuda Y, Suzuki T, Yamamoto T, Ishiwata T, Naito Z (1) Department of Dermatology) : The stem cell marker nestin is a novel therapeutic target to suppress tumor growth and invasion of malignant melanoma. American association for cancer research (102th annual meeting 2011) (Orlando, FL, USA), 2011. 4.
- 24) Ueda J<sup>1)</sup>, Kawahara K, Fujii T, Yamahatsu K<sup>1)</sup>, Suzuki T, Matsuda Y, Uchida E<sup>1)</sup>, Murray K<sup>2)</sup>, Naito Z, Ishiwata T (1) Surgery for Organ Function and Biological Regulation, 2) Department of Medicine, Dart-

- mouth Medical School and Dartmouth Hitchcock Medical Center) : Establishment of novel human pancreatic cancer cell lines from liver and lung metastases in NOD/SCID/yc (NOG) mice. American association for cancer research (102th annual meeting 2011) (Orlando, FL, USA), 2011. 4.
- 25) 松田陽子, 内藤善哉, 鈴木妙子, 山初和也<sup>2)</sup>, 上田純志<sup>2)</sup>, 秋山美知子<sup>1)</sup>, Korc M<sup>3)</sup>, 石渡俊行 ( <sup>1)</sup> 皮膚科学講座, <sup>2)</sup> 外科学講座 (消化器・一般・乳腺・移植部門), <sup>3)</sup> Department of Medicine, Dartmouth Medical School and Dartmouth Hitchcock Medical Center) : 膵癌幹細胞における nestin の発現と役割の検討. 日本膵臓学会 (第42回) (青森), 2011. 7.
  - 26) 山初和也<sup>1)</sup>, 松田陽子, 相本隆幸<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 内藤善哉, 石渡俊行 ( <sup>1)</sup> 外科学講座 (消化器・一般・乳腺・移植部門) : 腫瘍新生血管マーカー Nestin に対する膵癌分子標的治療戦略. 日本膵臓学会大会 (第42回) (青森), 2011. 7.
  - 27) 上田純志<sup>1)</sup>, 松田陽子, 手塚 潔, 山初和也<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 内藤善哉, 石渡俊行 ( <sup>1)</sup> 外科学講座 (消化器・一般・乳腺・移植部門) : 浸潤性膵管癌組織における epithelial splicing regulatory protein1 の発現の検討. 日本膵臓学会 (第42回) (青森), 2011. 7.
  - 28) 萩尾真人, 松田陽子, 内藤善哉, 石渡俊行 : ヒト膵癌培養細胞における nestin によって制御される遺伝子および microRNA の発現変化の網羅的解析. がん若手研究者ワークショップ (長野県蓼科), 2011. 8.
  - 29) Ishiwata T, Matsuda Y, Hagio M, Yamahatsu K<sup>1)</sup>, Yamamoto T, Naito Z ( <sup>1)</sup> Surgery for Organ Function and Biological Regulation) : Cancer stem cell markers in precancerous lesion and pancreatic cancer. 1st Nippon- Young Yonsei Pancreatic Tumor Study Group Joint Meeting (韓国 延世), 2011. 7.
  - 30) Ueda J<sup>1)</sup>, Matsuda Y, Yamahatsu K<sup>1)</sup>, Uchida E, Naito Z, Ishiwata T ( <sup>1)</sup> Surgery for Organ Function and Biological Regulation) : Epithelial splicing regulatory protein 1 regulates alternative splicing of FGFR2 in human pancreatic cancer. Annual Meeting of the Japanese Cancer Association (70th) (Nagoya), 2011. 10.
  - 31) Ishiwata T, Matsuda Y, Ueda J<sup>1)</sup>, Kawahara K, Hagio M, Yamamoto T, Uchida E<sup>1)</sup>, Murray K<sup>2)</sup>, Naito Z ( <sup>1)</sup> Surgery for Organ Function and Biological Regulation, <sup>2)</sup> Dartmouth Medical School and Dartmouth Hitchcock Medical Center, USA) : Fibroblast growth factor receptor 2 as a novel molecular target for human pancreatic cancer. Annual Meeting of the Japanese Cancer Association (70th) (Nagoya), 2011. 10.
  - 32) Matsuda Y, Kawahara K, Suzuki T, Teduka K, Hagio M, Yamahatsu K<sup>1)</sup>, Ueda J<sup>1)</sup>, Kure S, Korc M<sup>2)</sup>, Naito Z, Ishiwata T ( <sup>1)</sup> Surgery for Organ Function and Biological Regulation, <sup>2)</sup> Dartmouth Medical School and Dartmouth Hitchcock Medical Center, USA) : Nestin Regulates Pancreatic Cancer Cell Migration, Invasion and Metastasis. Annual Meeting of the Japanese Cancer Association (70th) (Nagoya), 2011. 10.
  - 33) Yamahatsu K<sup>1)</sup>, Matsuda Y, Ishiwata T, Yamamoto T, Hagio M, Aimoto T<sup>1)</sup>, Nakamura Y<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup>, Naito Z ( <sup>1)</sup> Surgery for Organ Function and Biological Regulation) : Expression and Roles of Nestin in Vascular Endothelial Cells in Pancreatic Cancer. Annual Meeting of the Japanese Cancer Association (70th) (Nagoya), 2011. 10.
  - 34) Takayama R<sup>1)</sup>, Ishiwata T, Anzai S<sup>1)</sup>, Yamamoto T, Matsuda Y, Kawana S<sup>1)</sup>, Naito Z ( <sup>1)</sup> Department of Dermatology) : Expression of lumican in in situ and invasive lesions of squamous cell carcinoma of the skin. Annual Meeting of the Japanese Cancer Association (70th) (Nagoya), 2011. 10.
  - 35) Matsuda Y, Yamahatsu K<sup>1)</sup>, Ueda J<sup>1)</sup>, Kawahara K, Akiyama M<sup>2)</sup>, Hagio M, Naito Z, Ishiwata T ( <sup>1)</sup> Surgery for Organ Function and Biological Regulation, <sup>2)</sup> Department of Dermatology) : Human pancreatic cancer cell line derived from metastatic tumor in NOG mice possesses high-stemness ability. American Pancreatic Association Meeting (42th) (Chicago, IL, USA), 2011. 11.
  - 36) Ueda J<sup>1)</sup>, Matsuda Y, Yamahatsu K<sup>1)</sup>, Uchida E, Naito Z, Ishiwata T ( <sup>1)</sup> Surgery for Organ Function and Biological Regulation) : Expression and roles of epithelial splicing regulatory protein 1 in human pancreatic

- cancer. American Pancreatic Association Meeting (42th) (Chicago, IL, USA), 2011. 11.
- 37) Hagio M, Matsuda Y, Suzuki T, Naito Z, Ishiwata T : Nestin modulates EMT molecules and transcription factors in human pancreatic cancer cells. American Pancreatic Association Meeting (42th) (Chicago, IL, USA), 2011. 11.
- 38) Yamahatsu K<sup>1</sup>, Matsuda Y, Hagio M, Aimoto T<sup>1</sup>, Nakamura K<sup>1</sup>, Uchida E<sup>1</sup>, Naito Z ( <sup>1</sup> Surgery for Organ Function and Biological Regulation ) : Nestin inhibits proliferation of vascular endothelial cells in vitro and tumor angiogenesis in pancreatic cancer in vivo. American Pancreatic Association Meeting (42th) (Chicago, IL, USA), 2011. 11.
- 39) Kudo M, Saito A<sup>1</sup>, Nagasaki M<sup>1</sup>, Miyano S<sup>1</sup>, Naito Z ( <sup>1</sup> Human Genomu Center, Institute of Medical Science, University of Tokyo ) : Modeling and Simulation Analysis of Insulin Secretory Functions of  $\beta$ -cells. The American Society for Cell Biology 2011 Annual Meetings (Denver, Colorado), 2011. 12.
- 40) 山本哲志, 松田陽子, 萩尾真人, 河本陽子, 川原清子, 内藤善哉, 石渡俊行 : ヒト膵癌組織における各種癌幹細胞マーカー発現の検討. 日本病理学会 秋期特別総会 (第57回) (東京), 2011. 11.
- 41) 上田純志<sup>1</sup>, 松田陽子, 山初和也<sup>1</sup>, 内田英二<sup>1</sup>, 内藤善哉, 石渡俊行 ( <sup>1</sup> 外科学講座 (消化器・一般・乳腺・移植部門) ) : 浸潤性膵管癌組織における epithelial splicing regulatory protein1 (ESRP1) の発現と役割の検討. 個体レベルでのがん研究支援活動ワークショップ (滋賀), 2012. 1.
- 42) 秋山美知子<sup>1</sup>, 松田陽子, 萩尾真人, 石渡俊行, 川名誠司<sup>1</sup>, 内藤善哉 ( <sup>1</sup> 皮膚科学 ) : 中間径フィラメントタンパク質 nestin の母斑細胞母斑および悪性黒色腫における発現の検討. 個体レベルでのがん研究支援活動ワークショップ (滋賀), 2012. 1.
- 43) 山初和也<sup>1</sup>, 松田陽子, 石渡俊行, 山本哲志, 河本陽子, 手塚 潔, 相本隆幸<sup>1</sup>, 中村慶春<sup>1</sup>, 廣井 信<sup>1</sup>, 上田純志<sup>1</sup>, 内田英二<sup>1</sup>, 内藤善哉 ( <sup>1</sup> 外科学講座 (消化器・一般・乳腺・移植部門) ) : 膵癌における各種瘍血管マーカーと臨床病理学的因子との関連 (会議録). 日本外科学会総会 (第111回) (東京), 2011. 5.
- 44) 細根 勝<sup>1</sup>, 丹野正隆<sup>1</sup>, 片山博徳<sup>1</sup>, 内藤善哉 ( <sup>1</sup> 多摩永山病院病理部 ) : 腹水中に多数の“印環細胞”が出現した濾胞性リンパ腫の1例. 日本リンパ網内系学会総会 (第52回) (福島), 2011. 6.
- 45) 片山博徳<sup>1</sup>, 丹野正隆<sup>1</sup>, 細根 勝<sup>1</sup>, 磯部宏昭<sup>1</sup>, 柳田裕美<sup>1</sup>, 岩瀬裕美<sup>1</sup>, 日吾美恵子<sup>1</sup>, 鈴木美紀<sup>1</sup>, 前田昭太郎<sup>1</sup>, 内藤善哉 ( <sup>1</sup> 多摩永山病院病理部 ) : 温故知新! これからの乳腺細胞診 One-day cytology 乳腺外来への細胞診の貢献. 日本臨床細胞学会秋期大会 (第50回) (東京), 2011. 10.
- 46) 吉村明修<sup>1</sup>, 阿曾亮子<sup>1</sup>, 志村俊郎<sup>1</sup>, 横田裕行<sup>2</sup>, 内藤善哉, 石川和信<sup>3</sup> ( <sup>1</sup> 教育推進室, <sup>2</sup> 救急医学講座, <sup>3</sup> 福島県立医科大学 医療人育成・支援センター ) : 第5学年臨床実習終了時における臨床技能修得に関する調査. 日本医学教育学会総会 (第43回) (広島), 2011. 7.
- 47) 清水秀樹<sup>1</sup>, 大秋美治<sup>1</sup>, 澁谷 誠<sup>1</sup>, 新井 悟<sup>1</sup>, 井内亜美<sup>1</sup>, 小黒辰夫<sup>1</sup>, 森 修<sup>1</sup>, 前田昭太郎<sup>2</sup>, 内藤善哉 ( <sup>1</sup> 千葉北総病院 病理部, <sup>2</sup> 三菱化学メディエンス ) : 脳腫瘍稀少症例における鑑別診断を目的とした細胞観察 (会議録). 日本臨床細胞学会秋期大会 (第52回) (福岡), 2011. 5.
- 48) 西田直子<sup>1</sup>, 土居大祐<sup>1</sup>, 斉藤良明<sup>2</sup>, 大塚俊司<sup>2</sup>, 佐藤杏月<sup>1</sup>, 朝倉啓文<sup>1</sup>, 内藤善哉 ( <sup>1</sup> 武蔵小杉病院 女性診療科・産科, <sup>2</sup> 武蔵小杉病院病理部 ) : 細胞診にて偽ロゼット様配列が認められた子宮頸部神経内分泌癌の1例. 日本臨床細胞学会秋期大会 (第52回) (福岡), 2011. 5.
- 49) 内藤善哉, 片山博徳<sup>1</sup>, 磯部宏昭<sup>1</sup>, 細根 勝<sup>1</sup>, 丹野正隆<sup>1</sup>, 前田昭太郎<sup>1</sup>, 彭 為霞, 土屋眞一<sup>2</sup>, 竹中明美<sup>3</sup>, 中泉明彦<sup>4</sup> ( <sup>1</sup> 多摩永山病院 病理部, <sup>2</sup> 付属病院病理部, <sup>3</sup> 大阪成人病センター, <sup>4</sup> 京都大学医学部人間健康科学科 ) : 膵臓細胞診における検体採取と組織型推定に有用な細胞所見 稀な膵疾患の細胞診と組織像. 日本臨床細胞学会秋期大会 (第52回) (福岡), 2011. 5.
- 50) 片山博徳<sup>1</sup>, 丹野正隆<sup>1</sup>, 細根 勝<sup>1</sup>, 岩瀬裕美<sup>1</sup>, 磯部宏昭<sup>1</sup>, 柳田裕美<sup>1</sup>, 日吾美恵子<sup>1</sup>, 鈴木美樹<sup>1</sup>, 前田昭太郎<sup>1</sup>, 内藤善哉 ( <sup>1</sup> 多摩永山病院病理部 ) : 各種臓器の術中迅速細胞診の応用と実際 各種臓器の術中迅速細胞

診の応用と実際 迅速免疫細胞染色の応用. 日本臨床細胞学会秋期大会 (第 52 回) (福岡), 2011. 5.

- 51) 片山博徳<sup>1)</sup>, 丹野正隆<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 東 敬子<sup>1)</sup>, 磯部宏昭<sup>1)</sup>, 益田裕美<sup>1)</sup>, 川野記代子<sup>1)</sup>, 岩瀬裕美<sup>1)</sup>, 日吾美栄子<sup>1)</sup>, 鈴木美紀<sup>1)</sup>, 劉 愛民<sup>1)</sup>, 平田知己<sup>2)</sup>, 吉野直之<sup>2)</sup>, 川島徹生<sup>2)</sup>, 内藤善哉 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup> 多摩永山病院呼吸器外科) : MAGE-1 の免疫染色に関する基礎的検討 中皮腫細胞と反応性中皮細胞における発現. 日本医科大学医学会総会 (第 79 回) (東京), 2011. 9.
- 52) 鈴木 剛<sup>1)</sup>, 布施 明<sup>1)</sup>, 松本 学<sup>1)</sup>, 金 史英<sup>1)</sup>, 辻井厚子<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>, 村松智裕<sup>2)</sup>, 草野輝男<sup>2)</sup>, 内藤善哉, 松田陽子, 西野武士<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院救急医学, <sup>2)</sup> 生化学・分子生物学 (分子遺伝学)) : キサンチン酸化還元酵素変異トランスジェニックマウスの作成と 3-vessel occlusion model を用いたマウスの脳虚血性再灌流障害の解析. 日本救急医学会総会 (第 39 回) (東京), 2011. 10.
- 53) 内藤善哉, 彭 為霞, 磯部宏昭<sup>1)</sup>, 丹野正隆<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 土屋真一<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup> 付属病院病理部) : 術前, 術中細胞診, 組織診の有用性 - 特に膵胆道系の術中迅速細胞診を中心に -. 日本外科病理学会 (第 16 回) (大阪), 2011. 9.
- 54) 渋谷偉織<sup>1)</sup>, 高見佳宏<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 野呂佐知子<sup>2)</sup>, 岡崎 静<sup>2)</sup>, 高山良子<sup>2)</sup>, 二神綾子<sup>2)</sup>, 福田 悠<sup>3)</sup>, 石渡俊行, 内藤善哉 ( <sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科, <sup>2)</sup> 付属病院皮膚科, <sup>3)</sup> 病理学講座 (解析人体病理学)) : Bowen 病との鑑別を要した背部悪性黒色腫の 1 例. 日本医科大学医学会総会 (第 79 回) (東京), 2011. 9.
- 55) 島田 学<sup>1)</sup>, 尾崎景子<sup>1)</sup>, 山本晃人<sup>1)</sup>, 黒瀬圭輔<sup>1)</sup>, 鴨井青龍<sup>1)</sup>, 安齋真一<sup>2)</sup>, 彭 為霞, 内藤善哉, 川本雅司<sup>3)</sup>, 土屋真一<sup>3)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 女性診療科・産科, <sup>2)</sup> 付属病院皮膚科, <sup>3)</sup> 付属病院病理部) : 円柱腫 (cylindroma) 様構造を認めた成熟嚢胞性奇形腫の 1 例. 関東連合産科婦人科学会総会 (第 122 回) (横浜), 2011. 11.
- 56) 町田 稔<sup>1)</sup>, 亀山孝二, 清水昭夫<sup>2)</sup>, 内藤善哉 ( <sup>1)</sup> 国立がん研究センターがん予防・検診研究センター, <sup>2)</sup> 創価大学工学部) : Hematoporphyrin による間質制御を目指した基底膜 IV 型コラーゲンの CD44 関連領域の会合と光照射の検討. 日本脈管学会総会 (第 52 回) (岐阜), 2011. 11.
- 57) 亀山孝二<sup>1)</sup>, 町田 稔, 清水昭夫<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立がん研究センターがん予防・検診研究センター, <sup>2)</sup> 創価大学工学部) : 血管障害における IV 型コラーゲンの自己組織化と  $\alpha 1$  (IV) (1263-1277) 機能領域発現の病理学的検討 (その 2). 日本脈管学会総会 (第 52 回) (岐阜), 2011. 11.
- 58) 磯部宏昭<sup>1)</sup>, 丹野正隆<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 柳田裕美<sup>1)</sup>, 岩瀬裕美<sup>1)</sup>, 日吾美栄子<sup>1)</sup>, 鈴木美紀<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 内藤善哉 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院病理部) : 膵臓細胞診における質的診断向上への試み 膵術中迅速細胞診 2 ポイント採取法. 日本臨床細胞学会秋期大会 (第 50 回) (東京), 2011. 11.
- 59) Naito Z, Weixia P, Isobe H<sup>1)</sup>, Katayama H<sup>1)</sup>, Hosone M<sup>1)</sup>, Tanno M<sup>1)</sup>, Maeda S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, Tama-Nagayama Hospital) : Availability of cytological diagnoses in pancreatic diseases and cytological slide seminar of pancreatic lesions. Thai-Japanese Diagnostic cytology workshop (19th) (Sukhothai, Thailand), 2012. 1.
- 60) Maeda S<sup>1, 2)</sup>, Katayama H<sup>2)</sup>, Hosone M<sup>2)</sup>, Tanno H<sup>3)</sup>, Naito Z ( <sup>1)</sup> Mitsubishi Chemical Medicine, Pathology and Cytology Center, <sup>2)</sup> Department of Pathology, Tama-Nagayama Hospital, NMS, <sup>3)</sup> Department of Surgery, Tama-Nagayama Hospital, NMS) : The importance of body fluid cytology in the diagnosis of malignant mesothelioma. Thai-Japanese Diagnostic cytology workshop (19th) (Sukhothai, Thailand), 2012. 1.
- 61) 嶺 貴彦<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 上田達夫<sup>1)</sup>, 山口英宣<sup>1)</sup>, 渋谷純子<sup>1)</sup>, 安井大祐<sup>1)</sup>, 恩田宗彦, 内藤善哉, 汲田伸一郎<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 放射線医学) : ウサギ VX2 肝腫瘍に対する肝動脈化学塞栓術 シスプラチン - サスペンションとエマルジョンの比較. 日本病理学会 (第 70 回) (震災のため WEB 開催), 2011. 5.
- 62) 上田達夫<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 嶺 貴彦<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 山口英宣<sup>1)</sup>, 渋谷純子<sup>1)</sup>, 恩田宗彦, 内藤善哉, 汲田伸一郎<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 放射線医学) : VX2 肝腫瘍ウサギにおけるエピルビシン - リピドール混合液を用いた抗腫瘍効果の検討. 日本病理学会 (第 70 回) (震災のため WEB 開催), 2011. 5.
- 63) 三枝英人<sup>1)</sup>, 山口 智<sup>1)</sup>, 門園 修<sup>1)</sup>, 中村 毅<sup>1)</sup>, 小町太郎<sup>1)</sup>, 大久保公裕<sup>1)</sup>, 彭 為霞, 内藤善哉 ( <sup>1)</sup> 耳鼻咽

喉科学)：両側同時性に感音難聴を発症した髄膜瘤腫症の1例. 日本音声言語医学会 (第56回) (東京), 2011.  
10.

## 10. 微生物学・免疫学講座

### 研究概要

当微生物学、免疫学講座では「生体防御システム制御法の開発」を主目的とし、「自然免疫」システム、特にその中枢担う樹状細胞との関わりに着目し研究を展開している。なお当教室の主宰者である高橋秀実が会長となり、教室メンバー全員で本年11月30日から12月2日3日間に亘り新宿のハイアットリージェンシー東京で「第25回日本エイズ学会総会」を開催した。感染症学および感染免疫学：[A]HIV感染伝播機構の解明とその制御法の開発：(1) HIVは従来考えられていたように獲得免疫系のCD4陽性ヘルパーT細胞のみならず自然免疫を担うCD4陽性樹状細胞群ならびにナチュラルキラーT(NKT)細胞群にも感染し、実際にはこの自然免疫を担当する細胞群に対する感染制御が重要であることを明らかにした。またHIV-1特異的キラーT細胞がウイルス抗原によってアポトーシスに陥ること、そしてそれが一部の免疫抑制剤によって回避できる可能性を明らかにした。(2) HTLV-Iの持続感染細胞株を用いてATL発症のメカニズムの一端を明らかにした。(3) ピロリ菌菌体表面に発現したウレアーゼが胃粘膜内のB-1細胞をTLR2を介して刺激し、その結果様々な自己抗体が誘発されることを明らかにした。(4) 表皮内に局在する樹状細胞であるランゲルハンス細胞は表皮内に存在するケラチノ細胞に発現しているE-cadherinによって統御されていることを明らかにした。腫瘍免疫学：[B]粘膜免疫を介した抗腫瘍免疫の誘導：(1) 抗腫瘍免疫誘導の鍵を腫瘍内に潜入した樹状細胞が握る可能性を明らかにした。(2) 微量の抗がん剤により樹状細胞が活性化され癌細胞に対する増殖抑制効果が誘発される可能性を明らかにした。(3) 樹状細胞亜群(DEC-205,33D1)が妊娠維持ホルモンの影響を受けることとしてそれらのバランスによって妊娠出産が担われその破綻によって流産が誘発されることを発見した。

### 研究業績

#### 論文

##### [追加分]

追加分原著：

- 1) Inagaki S, Takahashi M, Fukunaga Y<sup>1)</sup>, Takahashi H<sup>(1)</sup> Department of Pediatrics, Nippon Medical School) : HTLV-I-infected breast milk macrophages inhibit monocyte differentiation to dendritic cells. *Viral Immunol* 2012 ; 25 (2) : 106-116.
- 2) Negishi Y, Wakabayashi A, Shimizu M, Ichikawa T, Kumagai Y, Takeshita T<sup>1)</sup>, Takahashi H<sup>(1)</sup> Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School.) : Disruption of maternal immune balance maintained by innate DC subsets results in spontaneous pregnancy loss in mice. *Immunobiology* 2012; 217(10) : 951-961.

(1) 原著：

- 1) Nakagawa Y, Watari E, Shimizu M, Takahashi H : One-step simple assay to determine antigen-specific cytotoxic activities by single-color flow cytometry. *Biomedical Res* 2011 ; 32 (2) : 159-166.
- 2) Takahashi M, Matsumura J, Inagaki S, Takahashi H : Induction of CD56<sup>+</sup> T cells after prolonged activation of T cells in vitro : a possible mechanism for CD4<sup>+</sup> T-cell depletion in acquired immune deficiency syndrome patients. *Human Immunol* 2011 ; 72 (10) : 783-790.
- 3) Kobayashi F, Watanabe E, Nakagawa Y, Ymanishi S<sup>1)</sup>, Norose Y, Fukunaga Y<sup>1)</sup>, Takahashi H<sup>(1)</sup> Department of Pediatrics, Nippon Medical School) : Production of Auto-antibodies by Murine B-1a Cells Stimulated with *Helicobacter pylori* Urease through TLR2 Signaling. *Infect Immun* 2011 ; 79 (12) : 4791-4801.

- 4) Ohkuni H<sup>1)</sup>, Nagamune H<sup>2)</sup>, Ozaki N<sup>2)</sup>, Tabata A<sup>2)</sup>, Todome Y, Watanabe Y, Takahashi H, Ohkura K<sup>3)</sup>, Kourai H<sup>2)</sup>, Ohtsuka H<sup>1)</sup>, Fischetti V<sup>4)</sup>, Zabriskie J<sup>5)</sup> (1) Health Science Research Institute East Japan Co. Ltd., 2) Department of Biological Science and Technology, Institute of Technology and Science, The University of Tokushima Graduate School, 3) Faculty of Pharmacy, Chiba Institute of Science, 4) Laboratory of Bacterial Pathogenesis and Immunology, Rockefeller University, Rockefeller University, 5) Laboratory of Clinical Microbiology and Immunology, Rockefeller University) : Characterization of recombinant Streptococcus mitis-derived human platelet aggregation factor. *APMIS* 2012 ; 120 (1) : 56-71.
  - 5) Atsukawa M<sup>1)</sup>, Nakatsuka K<sup>1)</sup>, Kobayashi T<sup>1)</sup>, Shimizu M, Tamura H<sup>1)</sup>, Harimoto H<sup>1)</sup>, Takahashi H, Sakamoto C<sup>1)</sup> (1) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Ribavirin down-modulates ICOS on CD4<sup>+</sup> T-cells and their interleukin-10 secretion to assist clearance of hepatitis C virus. *J Gastroenterol Hepatol* 2011 ; 27 (4) : 823-831.
  - 6) Kumagai Y : Epitope-grafted and Antigenized Antibodies Can Be Used for Versatile Vaccination Strategies to Induce Epitope-specific Immune Responses. *J Nippon Med Sch* 2011 ; 78 (2) : 66-67.
  - 7) Hashiguchi M<sup>1, 2)</sup>, Hachimura S<sup>1, 3)</sup>, Ametani A<sup>1)</sup>, Sato T<sup>4)</sup>, Kojima H<sup>2)</sup>, Kumagai Y, Habu S<sup>4)</sup>, Kobata T<sup>2)</sup>, Kaminogawa S<sup>1, 5)</sup> (1) Department of Applied Biological Chemistry, The University of Tokyo, 2) Department of Immunology, Dokkyo Medical University School of Medicine, 3) Research Center for Food Safety, The University of Tokyo, 4) Department of Immunology, Tokai University School of Medicine, 5) Department of Food Science and Technology, College of Bioresource Sciences, Nihon University) : Naïve CD4<sup>+</sup> T cells of Peyer's patches produce more IL-6 than those of spleen in response to antigenic stimulation. *Immunology Letters* 2011 ; 141 (1) : 109-115.
- (2) 総説 :
- 1) 高橋秀実 : 免疫と漢方. *からだの科学* 2011 ; 増刊 : 55-61.
  - 2) 村上 努<sup>1)</sup>, 高橋秀実 (1) 国立感染症研究所・エイズ研究センター) : HIV と闘う宿主防御因子. *日本エイズ学会誌* 2012 ; 14 (1) : 1-2.
  - 3) 新谷英滋, 高橋秀実 : ヒト免疫不全ウイルス HIV-1 の Nef による樹状細胞 CD1 脂質抗原提示機能の低下. *臨床免疫・アレルギー科* 2012 ; 57 (3) : 269-274.
- (3) 研究報告書 :
- 1) 高橋秀実 : 粘膜免疫活性化による粘膜棲息型 HIV 制御法の開発 : HIV の初期感染標的である樹状細胞と NKT 細胞. 平成 23 年度厚生労働科学研究費補助金 (エイズ対策研究事業) 分担研究報告書 2012 ; 57-62.
  - 2) 高橋秀実 : HIV 感染の標的ならびに伝播媒体としての粘膜細胞群の実態解明 : 粘膜における HIV 持続感染制御法の開発. 平成 21-23 年度厚生労働科学研究費補助金 (エイズ対策研究事業) 総合研究報告書 2012 ; 72-80.
  - 3) 高橋秀実 : 高橋秀実 : HAART 治療中断により出現する HIV の起源とその制御法の開発. 平成 23 年度厚生労働科学研究費補助金 (地球規模保健課題推進研究事業) 分担研究報告書 2012 ; 22-27.

## 著 書

- 1) Takahashi H : [共著] Co-operation of innate and acquired immunity for controlling tumor cells. *Melanoma in The Clinic* (Murph, M.), 2011 ; pp107-114, INTEC.
- 2) 高橋秀実 : [分担] 第 17 章「免疫応答不全」. *微生物学*, 2012 ; pp343-364, メディカル・サイエンス・インターナショナル社.

## 学会発表

### 〔追加分〕

#### 追加分特別講演：

- 1) 高橋秀実：ピロリ菌と自己免疫. 第21回千駄木感染・免疫・アレルギー研究会（東京），2011. 3.

#### (1) 特別講演：

- 1) 高橋秀実：漢方医学と最新の免疫学. 東京女子医科大学東洋医学研究所特別講演（東京），2011. 10.

#### (2) 招待講演：

- 1) 高橋秀実：東洋医学入門：免疫と漢方. 平成23年度山形大学講演（山形），2011. 7.
- 2) 高橋秀実：日常診療における東洋医学の有用性. 漢方学術講演会（足利），2012. 2.

#### (3) シンポジウム：

- 1) 高橋秀実：日本医科大学における東洋医学教育の現状と展望. KAMPO MEDICAL SYMPOSIUM 2011（東京），2011. 5.
- 2) Takahashi H：Control of HIV infection and dissemination at the mucosal compartments. 第25回日本エイズ学会学術集会（東京），2011. 12.

#### (4) セミナー：

- 1) 若林あや子：栄養と食品を学ぶために. 第6期アレルギー大学（千葉），2011. 7.
- 2) 高橋秀実：丸山ワクチンの作用機序に対する新たな視点. ガンプロフェッショナル養成プランセミナー（東京），2011. 10.
- 3) 高橋秀実：母乳を介したHIV感染伝播に関する免疫学. 第25回日本エイズ学会学術集会（東京），2011. 12.
- 4) 高橋秀実：感染症と東洋医学. 第25回日本エイズ学会学術集会（東京），2011. 12.
- 5) 高橋秀実：感染症と漢方. 第12回愛宕漢方医学研究会（東京），2012. 3.

#### (5) ワークショップ：

- 1) Takahashi H：Uptake and Dissemination of HIV by Mucosal Innate Cells. The 25th Joint Scientific Meeting of AIDS Panels（Atlanta），2011. 9.

#### (6) 一般講演：

- 1) 高橋秀実, 廣田 薫<sup>1)</sup>, 高久 俊, 高久千鶴乃, 近江恭子, 福山耕治<sup>1)</sup>, 小野顕人<sup>1)</sup>, 吉永恵美<sup>1)</sup>, 平馬直樹<sup>1)</sup> (日本医科大学付属病院東洋医学科)：自己免疫性肝炎に合併した血小板減少性紫斑病に奏功した東洋医学的治療. 第62回日本東洋医学会学術総会（札幌），2011. 6.
- 2) 高久 俊, 大藪英一<sup>1)</sup>, 栗林秀樹<sup>1)</sup>, 高久千鶴乃, 廣田 薫<sup>2)</sup>, 吉永恵美<sup>2)</sup>, 近江恭子, 福山耕治<sup>2)</sup>, 小野顕人<sup>2)</sup>, 平馬直樹<sup>2)</sup>, 高橋秀実 (1) 越谷大袋クリニック, (2) 日本医科大学付属病院東洋医学科)：偏頭痛に対して三黄瀉心湯が著効した1例. 第62回日本東洋医学会学術総会（札幌），2011. 6.
- 3) 高久千鶴乃, 廣田 薫<sup>1)</sup>, 高久 俊, 吉永恵美<sup>1)</sup>, 近江恭子, 福永耕治<sup>1)</sup>, 小野顕人<sup>1)</sup>, 平馬直樹<sup>1)</sup>, 高橋秀実 (1) 日本医科大学付属病院東洋医学科)：随伴症状を治療することで改善した慢性蕁麻疹の3症例. 第62回日本東洋医学会学術総会（札幌），2011. 6.
- 4) 廣田 薫<sup>1)</sup>, 近江恭子, 小野顕人<sup>1)</sup>, 吉永恵美<sup>1)</sup>, 福山耕治<sup>1)</sup>, 高久 俊, 高久千鶴乃, 平馬直樹<sup>1)</sup>, 高橋秀実 (1) 日本医科大学付属病院東洋医学科)：難治性逆流性食道炎を伴い心因的ストレスにより増悪を繰り返した唾液分泌過多症の1例. 第62回日本東洋医学会学術総会（札幌），2011. 6.
- 5) 小野顕人<sup>1)</sup>, 福山耕治<sup>1)</sup>, 近江恭子, 廣田 薫<sup>1)</sup>, 近江恭子, 高久千鶴乃, 高久 俊, 平馬直樹<sup>1)</sup>, 高橋秀実 (1) 日本医科大学付属病院東洋医学科)：漢方治療にて呼吸状態が改善したCOPDの1例. 第62回日本東洋医学会学術総会（札幌），2011. 6.
- 6) Wakabayashi A, Nakagawa Y, Shimizu M, Takahashi H：Enhancement of co-stimulatory molecule-express-

- sion and cross-presentation of antigens in mucosal DCs after oral administration of antigenic molecules plus cholera toxin. 第40回日本免疫学会学術集会(千葉), 2011. 11.
- 7) Shinya E, Shimizu M, Owaki A, Watanabe E, Matsumura J, Takaku C, Takahashi H: HIV-1 Nef interferes with CD1a lipid antigen presentation via PAK2. 第40回日本免疫学会学術集会(千葉), 2011. 11.
  - 8) 新谷英滋, 清水真澄, 大脇敦子, 渡邊恵理, 松村次郎, 高久千鶴乃, 高橋秀実: Interaction of HIV-1 Nef and p21-Activated Kinase 2 (PAK2): Nef down-regulates CD1a lipid Ag presentation via PAK2. 第25回日本エイズ学会学術集会(東京), 2011. 12.
  - 9) 高久千鶴乃, 清水真澄, 大脇敦子, 渡邊恵理, 松村次郎, 近江恭子, 渡理英二, 新谷英滋, 高橋秀実: 樹状細胞上のCD1d発現の低下はHIV感染標的であるCD4陽性NKT細胞の誘導率を上昇させる. 第25回日本エイズ学会学術集会(東京), 2011. 11.
  - 10) 松村次郎, 大脇敦子, 清水真澄, 秋山純一<sup>1)</sup>, 新谷英滋, 岡 慎一<sup>1)</sup>, 高橋秀実<sup>(1)</sup> 国立国際医療研究センター): HIV患者の腸管粘膜感染細胞内におけるウイルス核酸の実態. 第25回日本エイズ学会学術集会(東京), 2011. 11.
  - 11) 高橋めぐみ, 松村次郎, 稲垣慎一郎, 高橋秀実: 長期培養の結果誘導されたHIV-1感染者由来CD56+T細胞のCD4+T細胞に対する細胞傷害活性. 第25回日本エイズ学会学術集会(東京), 2011. 11.
  - 12) 中川洋子, 清水真澄, 野呂瀬嘉彦, 若林あや子, 高橋めぐみ, 高橋秀実: エイズウイルス外被糖蛋白特異的CD8陽性細胞傷害性T細胞の遊離エピトープペプチドによるin vivoでのアポトーシス誘導とその制御. 第25回日本エイズ学会学術集会(東京), 2011. 11.
  - 13) 高久 俊, 中川洋子, 大脇敦子, 清水真澄, 新谷英滋, 高橋めぐみ, 高橋秀実: Induction and analysis of type 17-polarized murine CD8+ T cells specific for HIV-1 envelope protein. 第25回日本エイズ学会学術集会(東京), 2011. 11.

## 11. 衛生学・公衆衛生学講座

### 研究概要

各教室員は、衛生学・公衆衛生学諸領域から、社会医学関連のテーマを選択し実験および調査研究を行っている。それらの研究は、最終的には「人」を対象とした予防医学研究につながるものである。学部3年生基礎配属テーマを概観すると、各教室員の主要な研究テーマをうかがうことができる。外部研究資金の獲得については、本年度は所属教員およびテクニカルスタッフのうち、半数を超えるものが研究代表者として文科省科研費補助金等の補助金あるいは助成金を獲得している。研究テーマは、・交替制勤務者の睡眠習慣・インスリン抵抗性とメタボリック症候群に関する研究（基盤（C））（川田智之）・ヒト血漿中グランザイム3は炎症反応のマーカーとなるか（基盤（C））（稲垣弘文）・カーバメイト系農薬による免疫毒性及びその機序（基盤（C））（李卿）・職業性ストレスによる心血管疾患発症機序の解明：マルチバイオマーカーを用いた検討（若手（B））（大塚俊昭）・ディーゼル排気粒子による酸化ストレスの Maus 肺線維症病態への寄与に関する研究（基盤（C））（李英姫）・受動喫煙のストレス評価を唾液中カテコールアミン代謝物等で行う研究（基盤（C））（勝又聖夫）・女性、特に妊産婦に対する POCT を用いたインパクトのある禁煙支援法の構築（基盤（C））（平田紀美子）・血管炎症指標、インスリン抵抗性、抗動脈硬化指標と喫煙・勤務状況の相互関係（喫煙科学研究財団研究助成）（川田智之）獲得した研究費を、学術論文に仕上げることは、職員の高い使命であり、学会発表等で、専門家集団での議論をふまえつつ、中身の濃い業績を積み重ねることを期待したい。

### 研究業績

#### 論文

#### 〔追加分〕

追加分原著：

- 1) Kawada T, Otsuka T, Inagaki H, Wakayama Y, Li Q, Li Y, Katsumata M : Optimal cut-off levels of body mass index and waist circumference to predict each component of metabolic syndrome (MetS) and the number of MetS component. *Diabetes Metab Syndr* 2011 ; 5 (1) : 25-28.
- 2) 川田智之, 稲垣弘文, 笹澤吉明<sup>1)</sup>, 田村祐司<sup>2)</sup>, 鈴木庄亮<sup>3)</sup> (1) 琉球大学, (2) 東京海洋大学, (3) 国際エコヘルス研究会) : 環七沿いのホテルで収録した道路交通騒音の睡眠影響. *睡眠と環境* 2011 ; 8 (1) : 3-7.
- 3) Kawada T, Shimizu T, Kuratomi Y, Suto S, Kanai T, Nishime A, Nakano N : Monitoring of the sleep patterns of shift workers in the automotive industry. *Work* 2011 ; 38 (2) : 163-167.

(1) 原著：

- 1) Kawada T, Inagaki H, Kuratomi Y : The Alcohol Use Disorders Identification Test (AUDIT) : reliability study of the Japanese version. *Alcohol* 2011 ; 45 (3) : 205-207.
- 2) Kawada T, Otsuka T, Inagaki H, Wakayama Y, Katsumata M, Li Q, Li Y : Relationship among lifestyles, aging and psychological wellbeing using the general Health Questionnaire 12-items (GHQ12) in Japanese working men. *Aging Male* 2011 ; 14 (2) : 115-118.
- 3) Kawada T, Kuratomi Y, Kanai T : Depressive feelings, feelings of unhappiness, and subsequent psychological wellbeing among workers. *Work* 2011 ; 39 (3) : 315-319.
- 4) Kawada T, Otsuka T, Endo T<sup>1)</sup>, Kon Y<sup>1)</sup> (1) Division of Health Evaluation & Promotion, Ota General Hospital) : Prevalence of the metabolic syndrome and its relationship with diabetes mellitus by aging. *Aging Male* 2011 ; 14 (3) : 203-206.

- 5) Kawada T, Suzuki S<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> International Eco Health Study Group) : Cadmium, copper, and zinc in carrots in Japan. *Toxicol Environ Chem* 2011 ; 93 (10) : 1956-1959.
- 6) Kawada T, Otsuka T : Relationship between job stress, occupational position and job satisfaction using a brief job stress questionnaire (BJSQ). *Work* 2011 ; 40 (4) : 393-399.
- 7) Li Q, Kobayashi M, Inagaki H, Hirata Y, Sato S<sup>1)</sup>, Ishizaki M<sup>1)</sup>, Okamura A<sup>2)</sup>, Wang D<sup>2)</sup>, Nakajima T<sup>3)</sup>, Kamijima M<sup>2)</sup>, Kawada T (<sup>1)</sup> Department of Pathology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Occupational and Environmental Health, Nagoya University Graduate School of Medicine, <sup>3)</sup> Department of Occupational and Environmental Health, Nagoya City University Graduate School of Medical Sciences) : Effect of oral exposure to fenitrothion and 3-methyl-4-nitrophenol on splenic cell populations and histopathological alterations in spleen in Wistar rats. *Hum Exp Toxicol* 2011 ; 30 (7) : 665-674.
- 8) Li Q, Otsuka T, Kobayashi M, Wakayama Y, Inagaki H, Katsumata M, Hirata Y, Li Y, Hirata K, Shimizu T, Suzuki H, Kawada T, Kagawa T<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Forestry and Forest Products Research Institute) : Acute effects of walking in forest environments on cardiovascular and metabolic parameters. *Eur J Appl Physiol* 2011 ; 111 (11) : 2845-2853.
- 9) Li Q, Kobayashi M, Kawada T : Ziram induces apoptosis and necrosis in human immune cells. *Arch Toxicol* 2011 ; 85 (4) : 355-361.
- 10) Li Q, Kobayashi M, Inagaki H, Hirata Y, Hirata K, Shimizu T, Wang R<sup>1)</sup>, Suda M<sup>1)</sup>, Kawamoto T<sup>2)</sup>, Nakajima T<sup>3)</sup>, Kawada T (<sup>1)</sup> National Institute of Occupational Safety and Health, <sup>2)</sup> Department of Environmental Health, University of Occupational and Environmental Health, <sup>3)</sup> Department of Occupational and Environmental Health, Nagoya University) : Effects of subchronic inhalation exposure to ethyl tertiary butyl ether on splenocytes in mice. *Int J Immunopathol Pharmacol* 2011 ; 24 (4) : 837-847.
- 11) Kawada T, Otsuka T, Endo T<sup>1)</sup>, Kon Y<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Ota General Hospital) : Aging, components of metabolic syndrome and serum C-reactive protein showed significant relationship with carotid atherosclerosis. *Aging Male* 2012 ; 15 (1) : 42-47.
- 12) Kawada T, Hasegawa M : Predictive ability of serum high-molecular-weight adiponectin in combination with serum insulin and serum C-reactive protein for the presence of metabolic syndrome. *Ann Hum Biol* 2012 ; 39 (2) : 108-112.
- 13) Li Q, Kobayashi M, Kawada T : Effect of ziram on natural killer, lymphokine-activated killer, and cytotoxic T lymphocyte activity. *Arch Toxicol* 2012 ; 86 (3) : 475-481.
- 14) Kawada T : Predictors of the development of metabolic syndrome in male workers : a 3-year follow-up study. *J Occup Environ Med* 2012 ; 54 (3) : 292-295.
- 15) 大塚俊昭, 川田智之, 矢内美雪<sup>1)</sup>, 北川裕子<sup>1)</sup>, 菅 裕彦<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> キヤノン株式会社矢向事業所 健康支援室) : 一職域男性集団におけるメタボリックシンドロームの発症率およびメタボリックシンドローム発症に関連する生活習慣因子の検討. *産業衛生学雑誌* 2011 ; 53 (3) : 78-86.
- 16) Kodani E<sup>1)</sup>, Otsuka T, Kusama Y<sup>1)</sup>, Atarashi H<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Internal Medicine and Cardiology, Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital) : Beneficial effect of cilnidipine on morning hypertension : evaluation by home monitoring and ambulatory blood pressure monitoring. *Ther Res* 2011 ; 32 (7) : 925-935.
- 17) Minami M<sup>1)</sup>, Takahashi H<sup>2)</sup>, Sasaki T<sup>1)</sup>, Matsumoto S<sup>1)</sup>, Sakai K<sup>1)</sup>, Inagaki H, Yamano Y<sup>3)</sup>, Miyake H<sup>4)</sup> (<sup>1)</sup> Institute for Science of Labor, <sup>2)</sup> Teikyo University, <sup>3)</sup> Showa University, <sup>4)</sup> Hokkaido Industrial Health Promotion Center) : The effect of sleep restriction and psychological load on the diurnal metabolic changes in tryptamine-related compounds in human urine. *Environ Health Prev Med* 2012 ; 17 (2) : 87-98.

- 18) Sawada N, Nagahara N, Arisaka F<sup>1)</sup>, Mitsuoka K<sup>2)</sup>, Minami M ( <sup>1)</sup> Graduate School of Bioscience and Biotechnology, Tokyo Institute of Technology, <sup>2)</sup> Biomedical Information Research Center, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology) : Redox and metal-regulated oligomeric state for human porphobilinogen synthase activation. *Amino Acids* 2011 ; 41 (1) : 173-180.
- 19) Jurkowska H<sup>1)</sup>, Placha W<sup>1)</sup>, Nagahara N, Wrobel M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Jagiellonian University Medical College) : The expression and activity of cystathionine- $\gamma$ -lyase and 3-mercaptopyruvate sulfurtransferase in human neoplastic cell lines. *Amino Acids* 2011 ; 41 (1) : 151-158.
- 20) Mikami Y<sup>1)</sup>, Shibuya N<sup>1)</sup>, Kimura Y<sup>1)</sup>, Nagahara N, Ogasawara Y<sup>2)</sup>, Kimura H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Molecular Pharmacology, National Institute of Neuroscience, National Center of Neurology and Psychiatry, <sup>2)</sup> Department of Hygienic Chemistry, Meiji Pharmaceutical University) : Thioredoxin and dihydrolipoic acid are required for 3-mercaptopyruvate sulfurtransferase to produce hydrogen sulfide. *Biochem J* 2011 ; 439 (3) : 479-485.
- 21) Mikami Y<sup>1)</sup>, Shibuya N<sup>1)</sup>, Kimura Y<sup>1)</sup>, Nagahara N, Yamada M<sup>1)</sup>, Kimura H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Molecular Pharmacology, National Institute of Neuroscience, National Center of Neurology and Psychiatry) : Hydrogen sulfide protects the retina from light-induced degeneration by the modulation of Ca<sup>2+</sup> influx. *J Biol Chem* 2011 ; 286 (45) : 39379-39386.
- 22) Kanaji N<sup>1)</sup>, Nelson A<sup>2)</sup>, Allen-Gipson D<sup>2)</sup>, Sato T<sup>3)</sup>, Nakanishi M<sup>4)</sup>, Wang X<sup>2)</sup>, Li Y, Basma H<sup>2)</sup>, Michalski J<sup>2)</sup>, Farid M<sup>2)</sup>, Rennard S<sup>2)</sup>, Liu X<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Endocrinology and Metabolism, Hematology, Rheumatology and Respiratory Medicine, Kagawa University, Japan, <sup>2)</sup> Pulmonary, Critical Care, Sleep and Allergy Division, University of Nebraska Medical Center, USA, <sup>3)</sup> Department of Respiratory Medicine, Juntendo University, School of Medicine, Tokyo, Japan, <sup>4)</sup> Third Department of Internal Medicine, Wakayama Medical, University School of Medicine, Wakayama, Japan) : The p38 mitogen-activated protein kinases modulate endothelial cell survival and tissue repair. *Inflamm Res* 2012 ; 61 (3) : 233-244.
- 23) Kanaji N<sup>1)</sup>, Sato T<sup>2)</sup>, Nelson A<sup>3)</sup>, Wang X<sup>3)</sup>, Li Y, Kim M<sup>6)</sup>, Nakanishi M<sup>5)</sup>, Basma H<sup>3)</sup>, Michalski J<sup>3)</sup>, Farid M<sup>3)</sup>, Chandler M<sup>3)</sup>, Pease W<sup>3)</sup>, Patil A<sup>3)</sup>, Rennard S<sup>3)</sup>, Liu X<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Hematology, Rheumatology and Respiratory Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan, <sup>2)</sup> Department of Respiratory Medicine, Juntendo University School of Medicine, Tokyo, Japan, <sup>3)</sup> Pulmonary and Critical Care Medicine, University of Nebraska Medical Center, Omaha, Nebraska, <sup>4)</sup> Third Department of Internal Medicine, Wakayama Medical University School of Medicine, Wakayama, Japan, <sup>5)</sup> Department of Internal Medicine, Jeju Medical College, Jeju, Republic of Korea) : Inflammatory cytokines regulate endothelial cell survival and tissue repair functions via NF- $\kappa$ B signaling. *J Inflamm Res* 2011 ; 4 : 127-138.

(2) 総説 :

- 1) Kawada T : Noise and Health - Sleep Disturbance in Adults. *J Occup Health* 2011 ; 53 (6) : 413-416.
- 2) 李 卿, 川田智之 : 環境因子が生体の免疫機構に及ぼす影響 : プラス影響とマイナス影響の視点から. *職業・環境アレルギー誌* 2011 ; 18 (2) : 35-47.
- 3) 李 卿 : 第 81 回日本衛生学会学術総会 (東京) での森林医学研究会による企画シンポジウムに関連した特集について. *日本衛生学雑誌* 2011 ; 66 (4) : 643-644.
- 4) 李 卿, 川田智之 : 森林セラピーによる「精神心理・神経系—内分泌系—免疫系」ネットワークへの影響. *日本衛生学雑誌* 2011 ; 66 (4) : 645-650.
- 5) Li Q, Kawada T : Effect of forest environments on human natural killer (NK) activity. *Int J Immunopathol Pharmacol* 2011 ; 24 (1 Suppl) : 39-44.
- 6) Nagahara N : Intermolecular disulfide bond to modulate protein function as a redox-sensing switch. *Amino*

Acids 2011 ; 41 (1) : 59-72.

- 7) Wrobel M<sup>1)</sup>, Stipanuk M<sup>2)</sup>, Nagahara N ( <sup>1)</sup> agiellonian University Medical College, <sup>2)</sup> Division of Nutritional Science, Cornell University) : Sulfur- and seleno-containing amino acids. *Amino Acids* 2011 ; 41 (1) : 1-2.
- 8) Nagahara N : Catalytic site cysteines of thiol Enzymes : Sulfurtransferases. *J Amino Acids* 2011 ; 2011 : 1-7.

(3) 研究報告書 :

- 1) 若山葉子, 武藤三千代<sup>1)</sup>, 勝又 聖, 伊藤博子, 川田智之, 渡部鎌二<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学スポーツ科学, <sup>2)</sup> 神奈川県立保健福祉大学 人間総合・基礎) : 高齢者の肥満・血液生化学の検討 : 運動継続群と一般住民参加者との比較. 高齢者における健康維持増進のための総合的追跡研究 平成 23 年度報告書 2011 ; 12-14.
- 2) 勝又聖夫, 若山葉子, 伊藤博子, 川田智之, 武藤三千代<sup>1)</sup>, 森谷豊子<sup>2)</sup>, 渡部鎌二<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学スポーツ科学教室, <sup>2)</sup> 神奈川県立保健福祉大学) : 2007 年から 2011 年の 5 年間にわたる脳機能年齢の経時的推移. 高齢者における健康維持増進のための総合的追跡研究 平成 23 年度報告書 2011 ; 36-40.

(4) レター :

- 1) Kawada T : The association between physical data, mental status and blood rheology in special emphasis on smoking status, depressive state, and blood viscosity. *Circ J* 2011 ; 75 (5) : 1282.
- 2) Kawada T : Overtime Working Hours and Depression : Questionnaire Survey Using the Patient Health Questionnaire (PHQ-9). *Chronobiol Int* 2011 ; 28 (5) : 474-475.
- 3) Kawada T : Comment to "Risk factors for serum alanine aminotransferase elevation : A cross-sectional study of healthy adult males in Tokyo, Japan". *Dig Liver Dis* 2011 ; 43 (8) : 665-666.
- 4) Kawada T, Suzuki S : Mortality by cerebro-/cardio-vascular disease among middle-aged residents in Japan. *Int J Cardiol* 2011 ; 150 (3) : 360-361.
- 5) Kawada T : Prevalence of asthma in young children. *J Allergy Clin Immunol* 2011 ; 128 (2) : 432-433.
- 6) Kawada T, Otsuka T, Endo T<sup>1)</sup>, Kon Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Health Evaluation & Promotion, Ota General Hospital) : The metabolic syndrome, smoking, inflammatory markers and obesity. *Int J Cardiol* 2011 ; 151 (3) : 367-368.
- 7) Kawada T : Accuracy of wrist accelerometer during nap sleep in subjects with a variety of sleep efficiencies. *J Pain Symptom Manage* 2011 ; 42 (3) : e9-e10.
- 8) Kawada T : Liver enzymes, metabolic syndrome, and insulin resistance. *J Diabetes* 2011 ; 3 (3) : 182-183.
- 9) Kawada T : Multiple factors are required for the prediction of metabolic syndrome. *Clin Exp Pharmacol Physiol* 2011 ; 38 (10) : 724.
- 10) Kawada T : The appropriate number of endpoints to keep validity for Cox proportional hazard analysis. *Int J Cardiol* 2011 ; 153 (1) : 110-111.
- 11) Kawada T : Heart rate variability during nap sleep. *Cardiol Young* 2011 ; 21 (6) : 716-717.
- 12) Kawada T : Difficulties encountered by diabetic workers in a company trying to stop smoking. *J Diabetes* 2011 ; 3 (4) : 317.
- 13) Kawada T, Suzuki S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> International Eco Health Study Group) : Attention of salt awareness to prevent hypertension in the young. *J Clin Hypertens* 2011 ; 13 (12) : 933-934.
- 14) Kawada T, Suzuki S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> International Eco Health Study Group) : Depressive state, aging and prevalence of snacking : a preliminary study. *Psychogeriatrics* 2011 ; 11 (4) : 247-248.
- 15) Kawada T, Suzuki H, Shimizu T, Katsumata M : Polygraphic sleep latency and subjective sleepiness by visual analog scale (VAS) : the limitation of VAS. *Appl Ergol* 2012 ; 43 (1) : 266.
- 16) Kawada T : The handling of absolute values of activity counts by actigraphy. *J Neurol Sci* 2012 ; 312 (1-2) :

194.

- 17) Kawada T : Effect of metabolic components on the incidence of cerebrovascular/cardiovascular disease among male workers in Japan : 3-year follow-up study. *J Clin Hypertens (Greenwich)* 2012 ; 14 (1) : 67.
  - 18) Kawada T : Some caution when conducting long-term follow-up study on cardiovascular mortality. *Circ J* 2012 ; 76 (2) : 520.
  - 19) Kawada T : Sleep duration, sleep quality and cardiovascular risk. *Eur Heart J* 2012.
  - 20) Kawada T : Serum uric acid and ischemic heart disease incidence. *Int J Cardiol* 2012 ; 154 (3) : 381.
  - 21) Kawada T : Inflammatory and anti-inflammatory indicators as predictive biomarkers of metabolic syndrome. *Int J Cardiol* 2012 ; 155 (2) : 285-286.
  - 22) Kawada T : Sample size in receiver operating characteristic (ROC) curve analysis. *Circ J* 2012 ; 76 (3) : 768.
  - 23) Kawada T : Is there any ethnic difference in the prevalence of prediabetes?. *Am J Clin Pathol* 2012 ; 137 (3) : 500-501.
  - 24) Kawada T : Validation of sex difference in the trend of carotid artery intima media thickness by the number of metabolic components : Is this a result related to occupational factors?. *J Occup Environ Med* 2012 ; 54 (3) : 273-274.
  - 25) Kawada T : Random blood glucose measurement for epidemiological studies : its significance and limitations. *Curr Med Res Opin* 2012 ; 28 (3) : 447-448.
  - 26) Kawada T : Physical activity and coronary heart disease. *Eur Heart J* 2012.
- (5) 話題 :
- 1) 川田智之 : 自覚的健康度の規定要因. *日医大医学会誌* 2011 ; 7 (2) : 106.

## 著 書

### [追加分]

追加分 :

- 1) Okudera K<sup>1)</sup>, Nagahara N, Katayama A<sup>2)</sup>, Kitamura H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, Yokohama City University, <sup>2)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School) : [自著] Cancer stem cells in lung cancer : distinct differences between small cell lung carcinoma and non-small cell lung carcinoma. *Cancer stem cells*, 2011 ; pp105-134, Intech, New York, USA.
- 1) 川田智之 : [分担] 産業保健. *シンプル衛生公衆衛生学* 2012 (鈴木庄亮・久道茂), 2012 ; pp273-283, 南江堂.
- 2) Li Q, Kawada T : [分担] Effect of Forest Environments on Human Urinary Adrenaline. *Biochemistry Research Updates (Simon J. Baginski ed.)*, 2011 ; pp257-266, Nova Science Publishers, NY.
- 3) Li Q : [編集] *Forest Medicine (Li Q)*, 2012 ; Nova Science Publishers, Inc.
- 4) Li Q : [自著] Chapter 1. Introduction. *Forest Medicine (Li Q)*, 2012 ; pp1-8, Nova Science Publishers, Inc.
- 5) Li Q, Kawada T : [共著] Chapter 6. Effect of the forest environment on immune function. *Forest Medicine (Li Q)*, 2012 ; pp67-85, Nova Science Publishers, Inc.
- 6) Li Q, Kobayashi M, Kawada T : [共著] Chapter 7. Effect of forest environments on the human endocrine system. *Forest Medicine (Li Q ed)*, 2012 ; pp87-101, Nova Science Publishers, Inc., NY.
- 7) Li Q, Otsuka T, Kobayashi M, Wakayama Y, Inagaki H, Katsumata M, Hirata Y, Li Y, Hirata K, Shimizu T, Suzuki H, Kawada T, Kagawa T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Forestry and Forest Products Research Institute, Tsukuba, Japan) : [共著] Chapter 10. Effect of the forest environment on cardiovascular and metabolic parameters. *Forest Medicine (Li Q ed)*, 2012 ; pp115-133, Nova Science Publishers, Inc., NY.

- 8) Li Q, Kobayashi M, Wakayama Y, Inagaki H, Katsumata M, Hirata Y, Li Y, Hirata K, Shimizu T, Suzuki H, Otsuka T, Kawada T : [共著] Chapter 11. Effect of forest environments on psychological response evaluated by the POMS test. Forest Medicine (Li Q ed), 2012 ; pp135-144, Nova Science Publishers, Inc., NY.
- 9) Li Q : [自著] Chapter 12. Effect of the forest environment on the human psycho-neuro-endocrino-immune network. Forest Medicine (Li Q ed), 2012 ; pp145-153, Nova Science Publishers, Inc., NY.
- 10) Li Q, Kobayashi M, Inagaki H, Wakayama Y, Katsumata M, Hirata Y, Li Y, Hirata K, Shimizu T, Nakadai A, Kawada T : [共著] Chapter 13. Effect of phytoncides from forest environments on immune function. Forest Medicine (Li Q ed), 2012 ; pp157-167, Nova Science Publishers, Inc., NY.
- 11) Li Q, Kobayashi M, Kawada T : [共著] Chapter 17. Relationships between percentage of forest coverage and standardized mortality ratios (SMR) of cancers in all prefectures in Japan. Forest Medicine (Li Q ed), 2012 ; pp219-229, Nova Science Publishers, Inc., NY.
- 12) 真鍋宏美<sup>1)</sup>, 小谷英太郎<sup>1)</sup>, 大塚俊昭<sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院 内科・循環器内科) : [共著] 第二章 悪性腫瘍 I. 原発性心腫瘍 8. 線維肉腫／粘液線維肉腫. 心臓腫瘍学 (天野 純, 中山 淳, 池田 宇一), 2011 ; pp241-248, 南山堂.
- 13) Kawada T, Li Q, Nakadai A, Inagaki H, Katsumata M, Shimizu T, Hirata Y, Hirata K, Suzuki H : [共著] Chapter 8. Effect of forest bathing on sleep and physical activity. Forest Medicine (Li Q), 2012 ; pp103-107, Nova Science Publishers, Inc., NY.

## 学会発表

### [追加分]

追加分一般講演 :

- 1) Li Q, Kobayashi M, Kawada T : Ziram induces apoptosis in human immune cells. 50th annual meeting of SOT (Society of Toxicology of USA) (Washington DC, USA), 2011. 3.

(1) 教育講演 :

- 1) Nagahara N, Ito IT (<sup>1)</sup> Department of Pathology and Experimental Medicine, Kumamoto University Graduate School of Medical Sciences) : Mercaptopyruvate sulfurtransferase knockout mouse production : What is the physiological role of the enzyme?. 12th International Congress on Amino Acids, peptides and proteins (Beijing, China), 2011. 8.
- 2) Nagahara N : Antioxidative function of mercaptopyruvate sulfurtransferase. 2nd Polish Congress of Biochemistry and Cell Biology (Cracow, Poland), 2011. 9.

(2) シンポジウム :

- 1) Li Q : Forest Environment and Immune Function. Forest Therapy and Health Promotion (韓国山林治癒国際シンポジウム) (Seoul, Korea), 2011. 8.
- 2) Li Q : The beneficial effect of immune function in the forest. In : The health benefit of therapeutic activities in the forest. 21st World Congress on Psychosomatic Medicine (Seoul, Korea), 2011. 8.
- 3) Li Q : An overview of the research into forest therapy - recent trends worldwide and the collaboration between INFOM and the Japanese Society of Forest Medicine- In : Symposium : The establishment of INFOM and the collaboration with the Japanese Society of Forest Medicine. 日本衛生学会学術総会 (第 82 回) (京都), 2012. 3.
- 4) 永原則之 : H<sub>2</sub>S 合成 : mercaptopyruvate sulfurtransferase の新たな役割. NO 学会学術集会 (第 11 回) (町田),

2011. 5.

(3) セミナー :

- 1) Li Q : Does nature affect human immune function?. Nature Promoting Human Health Seminar (Helsinki, Finland), 2011. 5.

(4) 一般講演 :

- 1) Li Q, Kobayashi M, Kawada T : Effect of ziram on natural killer, lymphokine-activated killer and cytotoxic T lymphocyte activity. 51st annual meeting of SOT (Society of Toxicology of USA) (San Francisco, USA), 2012. 3.
- 2) Li Q, Kobayashi M, Kawada T : Ziram induces apoptosis in human T lymphocytes. 47th Congress of the European Societies of Toxicology (Paris, France), 2011. 8.
- 3) 李 卿, 小林麻衣子, 川田智之 : カーバメイト系農薬によるNK, CTL 及びLAK 活性への影響. 日本産業衛生学会総会 (第84回) (東京), 2011. 5.
- 4) 李 卿, 小林麻衣子, 川田智之 : 農薬 Ziram によるヒト T リンパ球アポトーシスのメカニズム. 日本免疫毒性学会 (第18回) (千葉), 2011. 9.
- 5) 李 卿, 小林麻衣子, 川田智之 : カーバメイト系農薬 Ziram によるヒトNK 細胞のアポトーシス. 日本衛生学会学術総会 (第82回) (京都), 2012. 3.
- 6) 小林麻衣子, 李 卿, 大塚俊昭, 平田幸代, 平田紀美子, 五月女孝子, 川田智之 : 森林浴による気分への影響. 日本衛生学会学術総会 (第82回) (京都), 2012. 3.
- 7) 大塚俊昭, 西山康裕<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学内科学講座 神経・リウマチ部門) : Asymmetric Dimethylarginine (ADMA) is Related to Atherosclerotic Risk Factors and the Estimated Risk of Cerebral Infarction in Women. 日本動脈硬化学会総会・学術集会 (第43回) (札幌), 2011. 7.
- 8) Otsuka T, Seino Y<sup>1)</sup>, Ibuki C<sup>1)</sup>, Kodani E<sup>2)</sup> (1) Cardiovascular Center, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital, 2) Department of Internal Medicine and Cardiology, Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital) : Detection of Minute Myocardial Damage in Middle-Aged Men with Untreated Hypertension : an Assessment using High-Sensitivity Cardiac Troponin T Assay. 日本循環器学会総会・学術集会 (第75回) (横浜), 2011. 8.
- 9) Tokita Y<sup>1)</sup>, Sato N<sup>1)</sup>, Otsuka T, Hosokawa Y<sup>1)</sup>, Munakata R<sup>1)</sup>, Akutsu K<sup>1)</sup>, Yamamoto T<sup>1)</sup>, Tanaka K<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>2)</sup> (1) Cardiac and Intensive Care Unit, Nippon Medical School, 2) Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Additional Rapid Bedside Measurement of N-terminal pro-BNP Improves the Diagnostic Ability for Acute Ischemic Heart Failure. 日本循環器学会総会・学術集会 (第75回) (横浜), 2011. 8.
- 10) Miyachi H<sup>1)</sup>, Yamamoto A<sup>2)</sup>, Otsuka T, Yoshikawa M<sup>1)</sup>, Kodani E<sup>1)</sup>, Endoh Y<sup>1)</sup>, Nakagomi A<sup>1)</sup>, Kusama Y<sup>1)</sup>, Atarashi H<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>3)</sup> (1) Department of Internal Medicine and Cardiology, Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital, 2) Department of Radiology, Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital, 3) Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Impact of Left Ventricular Dyssynchrony on Left Ventricular Function in Heart Failure Assessed by 99mTc-Sestamibi Gated Myocardial Scintigraphy. 60th American College of Cardiology's Annual Scientific Session (New Orleans, USA), 2011. 4.
- 11) 大塚俊昭, 加藤活人, 雪吹周生<sup>1)</sup>, 宗像 亮<sup>1)</sup>, 小谷英太郎<sup>2)</sup>, 草間芳樹<sup>2)</sup>, 川田智之 (1) 日本医科大学千葉北総病院循環器センター, 2) 日本医科大学多摩永山病院内科・循環器内科) : オシロメトリック法により測定した上腕動脈コンプライアンス指標を規定する動脈硬化危険因子の検討. 日本 AS 学会 (第11回) (東京), 2011. 10.
- 12) 大塚俊昭, 雪吹周生<sup>1)</sup>, 小谷英太郎<sup>2)</sup>, 草間芳樹<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院循環器センター, 2) 日本医科

大学多摩永山病院内科・循環器内科)：オシロメトリック法により測定した上腕動脈コンプライアンス指標の臨床的意義：動脈硬化危険因子との関連。日本高血圧学会総会(第34回)(宇都宮), 2011. 10.

- 13) 大塚俊昭, 勝又聖夫, 川田智之: 健康診断における生活習慣に関する問診から食塩過剰摂取者の識別は可能か?. 日本公衆衛生学会総会(第70回)(秋田), 2011. 10.
- 14) 小谷英太郎<sup>1)</sup>, 粟谷 透<sup>2)</sup>, 大塚俊昭, 草間芳樹<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院 内科・循環器内科, <sup>2)</sup> たま循環器科・内科): アンジオテンシンII受容体拮抗薬/利尿薬併用が有用な背景疾患の検討:TAMA SALT studyからの報告。日本高血圧学会総会(第34回)(宇都宮), 2011. 10.
- 15) 大塚俊昭, 川田智之, 小谷英太郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院 内科・循環器内科): 職域男性集団におけるメタボリックシンドロームの発症率およびメタボリックシンドローム発症に関連する生活習慣因子の検討。日本循環器病予防学会(第47回)(福岡), 2011. 6.
- 16) 小谷英太郎<sup>1)</sup>, 粟谷 透<sup>2)</sup>, 大塚俊昭, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 新 博次<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院内科・循環器内科, <sup>2)</sup> たま循環器科・内科): 半定量尿中食塩濃度測定による一日食塩摂取量の推定:TAMA SALT study。日本循環器病予防学会(第47回)(福岡), 2011. 6.
- 17) 加藤活人, 大塚俊昭, 遠藤宗臣<sup>1)</sup>, 今 陽一<sup>1)</sup>, 小谷英太郎<sup>2)</sup>, 川田智之 (1) 総合太田病院 総合健診部, <sup>2)</sup> 日本医科大学多摩永山病院 内科・循環器内科): 正常耐糖能者における5年後の耐糖能悪化リスクの予測:75g糖負荷試験による検討。日本成人病(生活習慣病)学会学術集会(第46回)(東京), 2012. 1.
- 18) Kato K, Otsuka T, Kobayashi N<sup>1)</sup>, Kodani E<sup>2)</sup> (1) Division of Health Evaluation & Promotion, Ota General Hospital, <sup>2)</sup> Department of Internal Medicine and Cardiology, Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital): Two-hour Post-load Plasma Glucose Levels are Associated with Carotid Intima-media Thickness in Subjects with Normal Glucose Tolerance。日本循環器学会総会・学術集会(第76回)(福岡), 2012. 3.
- 19) Otsuka T, Kato K, Kodani E<sup>1)</sup>, Ibuki C<sup>2)</sup>, Seino Y<sup>2)</sup> (1) Department of Internal Medicine and Cardiology, Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital, <sup>2)</sup> Cardiovascular Center, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital): Serum Cystatin C Predicts the 4-Year Risk of Incident Hypertension in Middle-Aged Subjects without Chronic Kidney Disease。日本循環器学会総会・学術集会(第76回)(福岡), 2012. 3.
- 20) 平田幸代, 稲垣弘文, 清水孝子, 川田智之:FRET基質ライブラリを用いたヒトGranzyme 3とGranzyme Aの活性比較。日本薬学会(第132年会)(札幌), 2012. 3.
- 21) 平田幸代, 稲垣弘文, 清水孝子, 川田智之:ヒトGranzyme 3の基質アミノ酸配列の検索。日本生化学会大会(第84回)(京都), 2011. 9.
- 22) 菅 裕彦<sup>1)</sup>, 矢内美雪<sup>1)</sup>, 北川裕子<sup>1)</sup>, 大塚俊昭 (1) キヤノン株式会社矢向事業所健康支援室): 職場復帰支援プログラムの期間と復職時の配慮, 再休職の課題について。日本産業衛生学会(第84回)(東京), 2011. 5.
- 23) 稲垣弘文, 平田幸代, 清水孝子, 川田智之:ヒト前駆体型Granzyme 3に特異的なsandwich ELISAの確立。日本生化学会大会(第84回)(京都), 2011. 9.
- 24) 稲垣弘文, 平田幸代, 清水孝子, 川田智之:抗ヒトGranzyme 3モノクローナル抗体の酵素活性への影響。日本薬学会(第132年会)(札幌), 2012. 3.
- 25) 若山葉子, 伊藤博子, 勝又聖夫, 川田智之, 武藤三千代<sup>1)</sup>, 渡部隼二<sup>2)</sup>, 川守田千秋<sup>3)</sup>, 渡部月子<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学 スポーツ科学教室, <sup>2)</sup> 神奈川県立保健福祉大学 人間総合・基礎, <sup>3)</sup> 神奈川県立保健福祉大学 看護学科): 中高年を対象とした「運動教室」参加者の健康調査成績:運動継続群の推移。日本公衆衛生学会総会(第70回)(秋田), 2011. 10.
- 26) 武藤三千代<sup>1)</sup>, 渡部隼二<sup>2)</sup>, 若山葉子, 勝又聖夫, 川田智之, 川守田千秋<sup>3)</sup>, 渡部月子<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学 スポーツ科学教室, <sup>2)</sup> 神奈川県立保健福祉大学人間総合・基礎, <sup>3)</sup> 神奈川県立保健福祉大学看護学科): 高齢者における運動と脳機能年齢について。日本公衆衛生学会総会(第70回)(秋田), 2011. 10.
- 27) 若山葉子, 川田智之, 武藤三千代<sup>1)</sup>, 松井知子<sup>2)</sup>, 渡部隼二<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学 スポーツ科学教室, <sup>2)</sup> 杏林大学

- 保健学部・健康教育学,<sup>3)</sup> 神奈川県立保健福祉大学人間総合・基礎): 中高年を対象とした「運動教室」参加者の健康調査: 一般地域住民との比較検討. 日本民族衛生学会総会 (第76回) (福岡), 2011. 11.
- 28) 松井知子<sup>1)</sup>, 若山葉子, 武藤三千代<sup>2)</sup>, 大嶺智子<sup>1)</sup>, 朝野 聡<sup>1)</sup>, 渡部鎌二<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> 杏林大学保健学部・健康教育学,<sup>2)</sup> 日本医科大学 スポーツ科学教室,<sup>3)</sup> 神奈川県立保健福祉大学 人間総合・基礎): 高齢者の運動とメンタルヘルス: ラジオ体操励行者の場合. 日本民族衛生学会総会 (第76回) (福岡), 2011. 11.
- 29) 若山葉子, 川田智之, 勝又聖夫: ウイルス肝炎地域流行既往者の長期追跡成績. 日本衛生学会学術総会 (第82回) (京都), 2012. 3.
- 30) 木村英雄<sup>1)</sup>, 三上義礼<sup>1)</sup>, 渋谷典広<sup>1)</sup>, 木村由佳<sup>1)</sup>, 永原則之, 小笠原裕樹<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 国立精神・神経医療研究センター神経研究所神経薬理研究部,<sup>2)</sup> 明治薬科大学・衛生化学): 3-メルカプトビルビン酸イオウ転移酵素の硫化水素産生補因子. 日本生化学会大会 (第84回) (京都), 2011. 9.
- 31) Nagahara N, Ito T<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Pathology and Experimental Medicine, Kumamoto University Graduate School of Medical Sciences): MST knockout mouse production and comprehensive analysis (2). 日本生化学会大会 (第84回) (京都), 2011. 9.
- 32) 勝又聖夫, 平田紀美子, 川田智之: 視覚的に捉えるためのタバコ煙の簡易な採取方法とガス成分の測定方法. 日本公衆衛生学会総会 (第70回) (秋田), 2011. 10.
- 33) 平田紀美子, 勝又聖夫, 川田智之: POCTを用いた防煙教育. 日本公衆衛生学会総会 (第70回) (秋田), 2011. 10.
- 34) 平田紀美子, 勝又聖夫, 稲垣弘文, 川田智之: カラムスイッチングシステムを用いた唾液中 Cotinine の測定. 日本薬学会 (第132年会) (札幌), 2012. 3.
- 35) Li Y, Shimizu T, Hirata Y, Inagaki H, Azuma A<sup>2)</sup>, Takizawa H<sup>3)</sup>, Takahashi S<sup>4)</sup>, Yamamoto M<sup>5)</sup>, Kawada T, Kudoh S<sup>6)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Pulmonary Medicine/Infection and Oncology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, <sup>2)</sup> Fourth Department of Internal Medicine, Teikyo University, School of Medicine, Kawasaki, Japan, <sup>3)</sup> Department of Anatomy and Embryology, Biomolecular and Integrated Medical Sciences, University of Tsukuba, Ibaragi, Japan, <sup>4)</sup> Department of Biochemistry, Tohoku University Graduate School of Medicine, Sendai, Japan, <sup>5)</sup> Fukujuji Hospital, Anti-Tuberculosis Association, Kiyose, Japan): Disruption of Nrf2 enhances susceptibility to pulmonary fibrosis induced by bleomycin in mice. 21st European Respiratory Society (Amsterdam, Netherlands), 2011. 9.
- 36) 李 英姫, 清水孝子, 平田幸代, 稲垣弘文, 吾妻安良太<sup>1)</sup>, 滝澤 始<sup>2)</sup>, 高橋 智<sup>3)</sup>, 山本雅之<sup>4)</sup>, 川田智之, 工藤翔二<sup>5)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学 呼吸器・感染・腫瘍内科,<sup>2)</sup> 帝京大学医学部 第四内科,<sup>3)</sup> 筑波大学 大学院 解剖学・発生学研究室,<sup>4)</sup> 東北大学大学院 医化学分野,<sup>5)</sup> 結核予防会複十字病院): Nrf2欠損マウスにおけるプレオマイシン肺線維症病態. 日本呼吸器学会学術講演会 (第51回) (東京), 2011. 4.
- 37) 李 英姫, 清水孝子, 平田幸代, 稲垣弘文, 新海雄介<sup>1)</sup>, 吾妻安良太<sup>2)</sup>, 滝澤 始<sup>3)</sup>, 武田 健<sup>1)</sup>, 川田智之, 工藤翔二<sup>4)</sup> (<sup>1)</sup> 東京理科大学 ナノ粒子センター,<sup>2)</sup> 日本医科大学 内科学 (呼吸器・感染・腫瘍部門), <sup>3)</sup> 杏林大学 呼吸器内科,<sup>4)</sup> 結核予防会複十字病院): ディーゼル排気粒子の気道上皮細胞の遊走, および上皮間葉移行 (EMT) に及ぼす影響. 日本衛生学会学術総会 (第82回) (京都), 2012. 3.

## 12. 法医学講座

### 研究概要

1. 法医中毒学・臨床中毒学急性薬毒物中毒の疑われる救急患者や法医鑑定の前検資料に対して、GC/MS, LC/MS, LC/MS/MS等を用いた薬毒物分析システムを運用し多くの成果を挙げている。また毛髪からの覚醒剤・パラコート等の分析、LC/MSを用いたアコニチン系アルカロイド・テトロドトキシン等の微量毒物検出法を開発した。トリカブト毒については、急性中毒・長期投与における生体内での代謝、心機能への影響等について、フグ毒との複合作用について実験的研究を行った。質量分析機器を用いた最新技法（LC-TOF, QTOF）を用いた薬毒物および代謝物の微量分析法の開発にも取り組んでいる。2. アルコールの代謝とその細胞および生体に及ぼす影響 Alc 脱水素酵素（ADH1・ADH3）のAlc代謝における役割を遺伝子、蛋白酵素、細胞、動物個体、ヒトの各レベルで検討し、Alc感受性の性および個体差、Alc関連障害の機序を研究している。またAlcの心臓への影響を、培養心筋細胞および蛍光色素を用いて、細胞内小器官および分子レベルで解析している。3. NMRおよびMRIを用いた研究共同利用のNMR装置を用いて死体の筋肉や脳の代謝物プロファイルと死後硬直などの死体現象の発現との関連を検索し、死後経過時間推定への応用をめざしている。動物用MRI装置を用いて、死亡時および死後画像診断への活用やMRIを用いた死体の温度マッピングに関する基礎的研究を行っている。美容医療後遺症と美容医療材料との関連について形成外科学と、また我々が開発中の臨床応用可能なNMRデータ解析の手法を用いて救急医学・小児医学と共同研究を進めている。4. 法医学実務の研究 2003年6月より千葉県警の司法解剖を受託している（日本大学医学部法医解剖室を借用）ので、前検例にかかわる具体的問題を病理組織学的検討を含めて研究している。またそれ以外の刑事・民事事件についても依頼があれば積極的に対応している。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) 大嶋俊二<sup>1)</sup>, 増田千晶<sup>1)</sup>, 垣見絵麻<sup>1)</sup>, 佐見 学<sup>1)</sup>, 神田智正<sup>1)</sup>, 長谷場健, 大野曜吉 (1) アサヒビール (株) 食の基盤技術研究所) : 飲酒時の食事摂取がもたらす血中アルコール濃度およびAUCの低下は胃内滞留によるFirst Pass Metabolism 亢進が関係する。アルコールと医学生物学雑誌 2011 ; 30 : 64-71.
- 2) Murabayashi M<sup>1)</sup>, Sugita T<sup>1)</sup>, Hirakawa K, Kuribayashi H<sup>2)</sup>, Mori I<sup>1)</sup>, Kubo K<sup>1)</sup>, Horiguchi T<sup>1)</sup>, Ueda M<sup>3)</sup>, Katayama Y<sup>3)</sup>, Ohno Y (1) Takeda Pharmaceutical Company Limited, 2) Varian Technologies Japan Ltd., 3) Division of Neurology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Detection of Atherosclerotic Lesions in Apolipoprotein E Knockout Mice Using USPIO-Enhanced Magnetic Resonance Imaging. J Nippon Med Sch 2011 ; 78 (3) : 136-137.
- 3) 大嶋俊二<sup>1)</sup>, 長谷場健, 増田千晶<sup>1)</sup>, 阿部裕子<sup>1)</sup>, 佐見 学<sup>1)</sup>, 神田智正<sup>1)</sup>, 大野曜吉 (1) アサヒビール (株) 食の基盤技術研究所) : 適量飲酒における諸飲酒条件がアルコール代謝動態に及ぼす影響 : 酒類, ALDH2 遺伝子多型ならびに食事の有無での比較。日本アルコール・薬物医学会雑誌 2011 ; 46 (3) : 357-367.
- 4) 阿部裕子<sup>1)</sup>, 長谷場健, 大嶋俊二<sup>1)</sup>, 神田智正<sup>1)</sup>, 大野曜吉 (1) アサヒグループホールディングス (株) 食の基盤技術研究所) : 飲酒条件がアルコール代謝動態および血液生化学検査値に及ぼす影響 : アルコール飲料の種類および食事の有無での比較。日本臨床栄養学会雑誌 2011 ; 33 (1) : 22-30.
- 5) Haseba T, Kameyama K<sup>1)</sup>, Mashimo K, Ohno Y (1) Department of Pathology, Nippon Medical School) : Dose-Dependent Change in Elimination Kinetics of Ethanol due to Shift of Dominant Metabolizing Enzyme from ADH1 (Class I) to ADH3 (Class III) in Mouse. International Journal of Hepatology 2011 ; 2012 : 1-8.

- 6) Kuribayashi H<sup>1)</sup>, Cui F, Hirakawa K, Kanawaku Y, Ohno Y (1) Varian Technologies Japan Ltd.) : Measurement of temperature changes in cooling dead rats using magnetic resonance thermometry. *Legal Medicine* 2011 ; 13 (6) : 314-317.
  - 7) Okuda T<sup>1)</sup>, Hirakawa K, Orbay H<sup>1)</sup>, Ohno Y, Hyakusoku H<sup>1)</sup> (1) Dept. of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School) : Nuclear Magnetic Resonance Spectroscopy as a Useful Tool for Ingredient Analysis of Synthetic Materials. *Plastic and Reconstructive Surgery* 2012 ; 129 (1) : 197e-198e.
- (2) 報告 :
- 1) 大野曜吉 : 東日本大震災における検案活動. *日医大医会誌* 2011 ; 7 (特集) : 26-29.

## 学会発表

### (1) 招待講演 :

- 1) 長谷場健 : アルコールの代謝とその体に及ぼす影響. アサヒビール (株) 研究セミナー (茨城), 2011. 7.
- 2) 大野曜吉 : 法医学講義. 中国浙江警察学院大学招待講演 (中国), 2011. 9.
- 3) 長谷場健 : アルコールの体に及ぼす影響と本邦における飲酒運転問題の現状. 中国浙江警察学院大学招待講演 (中国), 2011. 9.

### (2) 一般講演 :

- 1) Nakata K<sup>1)</sup>, Sato N<sup>2)</sup>, Hirakawa K, Asakura T<sup>1)</sup>, Okihara K, Konta T, Zhu R<sup>1)</sup>, Suzuki T<sup>1)</sup>, Ohno Y, Koike K<sup>2)</sup>, Yokota H<sup>1)</sup> (1) Dept. of Emergency and Critical Care Medicine Nippon Medical School, 2) Dept. of Primary Care and Emergency Medicine Kyoto University) : Pattern recognition using 1H-NMR of the intestinal epithelial cell (IEC-6) under oxidative stress. *Annual Conference on Shock (34th) (Norfolk, Virginia)*, 2011. 6.
- 2) Oshima S<sup>1)</sup>, Haseba T, Masuda C<sup>1)</sup>, Kakimi E<sup>1)</sup>, Sami M<sup>1)</sup>, Kanda T<sup>1)</sup>, Ohno Y (1) Reseach laboratories for fundamental technology of food, Asahi Group Holdings, Ltd.) : Individual differences in blood alcohol concentrations after moderate drinking are influences by both the gastric emptying rate and distribution volume. *European Society for Biomedical Research on Alcoholism (ESBRA 2011) (Vienna, Austria)*, 2011. 9.
- 3) 植草協子, 林田真喜子, 山口晃志, 大野曜吉 : Body packer syndrome における覚せい剤の血漿中濃度の経時変化について. *日本法医学会学術全国集会 (第 95 次) (福島)*, 2011. 6.
- 4) 金涌佳雅<sup>1)</sup>, 平川慶子, 森山 剛<sup>2)</sup>, 大野曜吉, 金武 潤<sup>1)</sup> (1) 防衛医大, 2) 東京工芸大工学部メディア画像学科) : プタ頭部の死後拡散強調画像の連続的撮像. *日本法医学会学術全国集会 (第 95 次) (福島)*, 2011. 6.
- 5) 引地和歌子<sup>1)</sup>, 山口晃志, 坂 幹樹<sup>2)</sup>, 柴田幹良<sup>1)</sup>, 加藤幸久<sup>1)</sup>, 林田真喜子, 大野曜吉, 福永龍繁<sup>1)</sup> (1) 東監医, 2) 東大) : トルフェンピラド剤による死亡事例. *日本法医学会学術全国集会 (第 95 次) (福島)*, 2011. 6.
- 6) 坂 幹樹<sup>1)</sup>, 工藤恵子<sup>2)</sup>, 林田真喜子, 栗崎恵美子<sup>3)</sup>, 新津ひさえ<sup>4)</sup>, 寺田 賢<sup>5)</sup>, 山口晃志, 吉田謙一<sup>1)</sup> (1) 東大・医, 2) 九大・医, 3) 福島医大, 4) 岩手医大, 5) 東邦大・医) : GC-MS 分析におけるマトリックス効果と物性値との関連性について. *日本法中毒学会 (第 30 年会) (長崎)*, 2011. 6.
- 7) 山口晃志, 引地和歌子<sup>1)</sup>, 林田真喜子, 滝埜昌彦<sup>2)</sup>, 植草協子, 坂 幹樹<sup>3)</sup>, 福永龍繁<sup>1)</sup>, 大野曜吉 (1) 東京都監察医務院, 2) アジレントテクノロジー (株), 3) 東大・法医) : トルフェンピラド中毒事例における血漿中トルフェンピラド及びその代謝物の分析. *日本法中毒学会 (第 30 年会) (長崎)*, 2011. 6.
- 8) 平川慶子 : 核磁気共鳴技術を用いた新しい医学検査と診断技法の開発. *バイオテクノロジー国際会議 (第 10 回) (東京)*, 2011. 6.
- 9) 吉澤智恵子<sup>1)</sup>, 林田真喜子, 安部寛子<sup>1)</sup>, 佐藤由依<sup>1)</sup>, 滝埜昌彦<sup>2)</sup>, 大野曜吉 (1) (財) 材料科学技術振興財団, 2) アジレント・テクノロジー (株)) : 中枢神経作用薬を中心とした LC/MS/MS ターゲットスクリーニングの臨床的応用. *日本中毒学会総会・学術集会 (第 33 回) (岐阜)*, 2011. 7.

- 10) 浅野 健<sup>1)</sup>, 平川慶子, 小池 薫<sup>2)</sup>, 大野曜吉, 宮武千晴<sup>1)</sup>, 小泉慎也<sup>1)</sup>, 海津聖彦<sup>1)</sup>, 檜崎秀彦<sup>1)</sup>, 藤野 修<sup>1)</sup>, 福永慶隆<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学小児科, 2) 京都大学大学院医学研究科初期診療・救急医学分野): 核磁気共鳴法を用いた小児の脳症・熱性けいれん児の髄液の代謝解析. 日本小児科学会学術集会 (第 114 回) (東京), 2011. 8.
- 11) 金涌佳雅<sup>1)</sup>, 森山 剛<sup>2)</sup>, 松岡雄一郎<sup>3)</sup>, 平川慶子, 小池 薫<sup>4)</sup>, 黒田 輝<sup>3,5)</sup>, 大野曜吉, 金武 潤<sup>1)</sup> (1) 防衛医科大学校法医学講座, 2) 東京工芸大学工学部メディア画像学科, 3) 神戸国際医療交流財団, 4) 京都大学大学院医学研究科初期診療・救急医学分野, 5) 東海大学大学院工学研究科情報理工学専攻): プタ頭部の死後拡散強調画像の連続撮像ならび同画像処理による死後変化の評価. 日本磁気共鳴医学会大会 (第 39 回) (福岡), 2011. 9.
- 12) 深田賢吾<sup>1)</sup>, 富田ゆかり, 崔 范来, 大野曜吉 (1) 日医大 3 年): 司法解剖で見出された病死: 高度脂肪肝による突然死. 日本医科大学医学会総会 (第 79 回) (東京), 2011. 9.
- 13) 滝埜昌彦<sup>1)</sup>, 林田真喜子, 吉澤智恵子<sup>2)</sup>, 安部寛子<sup>2)</sup> (1) アジレント・テクノロジー (株), 2) (財) 材料科学技術振興財団): トリガー MRM 法を用いた LC/MSMS によるベンゾジアゼピン系薬物の分析. 質量分析総合討論会 (第 59 回) (大阪), 2011. 9.
- 14) 真下啓子, Arthur GP<sup>1)</sup>, 大野曜吉 (1) Biochemistry & Molecular Biology, The University of Western Australia): 心筋細胞のミトコンドリア呼吸鎖タンパク質のエタノールによる増加. 日本アルコール・薬物医学会 (第 46 回) (愛知), 2011. 10.
- 15) 崔 范来, 大野曜吉, 霍 塞虎: 海外での溺死についての一鑑定例. 日本法医学会学術関東地方集会 (第 80 回) (栃木), 2011. 10.
- 16) 新谷 香<sup>1)</sup>, 坂 幹樹<sup>1)</sup>, 山口晃志, 林田真喜子, 石井康博<sup>1)</sup>, 大野曜吉, 吉田謙一<sup>1)</sup> (1) 東京大学): MDMA の心毒性について一実験的検討. 日本法医学会学術関東地方集会 (第 80 回) (栃木), 2011. 10.
- 17) 大嶋俊二<sup>1)</sup>, 長谷場健, 増田千晶<sup>1)</sup>, 垣見絵麻<sup>1)</sup>, 北川 泰<sup>1)</sup>, 大野曜吉 (1) アサヒグループホールディングス (株) 食の基盤技術研究所): 食事による消化管ホルモンの変動に及ぼす飲酒の影響. アルコール医学生物学研究会学術集会 (第 31 回) (石川), 2012. 1.

## 13. 医療管理学講座

### 研究概要

医療管理学教室では、医療システムの各レベル、即ち医療者対患者の「臨床」「病棟」「病院」「地域」「国」「世界」のマネジメントの研究を行ってきた。その対象を長期の未来課題におくと「政策」、短期の現在課題におくと「経営」となる。昨年は日本にとって最大の政策課題「未踏高齢社会の社会、医療」に焦点をあわせ、ここ数年の各研究を集大成した結果、人類の生存戦略の大転換が浮かび上がり「生存転換」の概念としてまとめた。転換は医療にとどまらず、「人生」「家庭」「社会」「都市」「経済」に及び、「近代そのものの終了」を意味していることが明らかとなった。それに対応した新たな医療は、「疾病の概念の改変」、「福祉とのシステム統合」を必至とし、それを空間として、包む新たな「まちづくり」が必須となる。新しいシステム作りには、これまで伝統的に抱えてきた「匠と女将の世界」や「未分化性」等日本特有の問題点の克服も同時に必要で、提供体制のあり方、所有形態やガバナンスが課題と考えられ、地域システムの中で再考する研究を進めている。それを支える人材の確保や育成も重要であり、医療人材全体のあり方や、医師需給の研究も完了した。今後は医学教育のあり方をまとめて行きたい。フィールドとしては今、未曾有な高齢化を迎えている大都市郊外を想定している。経営についてもアフリカ 15 カ国をフィールドに 5S / KAI-ZEN / TQM の全国的推進を試み、国内での調査研究を通して日本の病院への展開も計画している。10 年を越えた日本の医療安全のあり方についても「メタマネジメント」「コミュニケーション」「価値共創経営」など新たな提案をまとめている。あわせて新たな時代に適した新経営論「New Management Theory」を開発して行く計画である。

### 研究業績

#### 論文

#### 〔追加分〕

追加分原著：

- 1) 瀬戸加奈子<sup>1)</sup>、藤田 茂<sup>1)</sup>、松本邦愛<sup>1)</sup>、伊藤慎也<sup>1)</sup>、長谷川敏彦、長谷川友紀<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東邦大学医学部)：日本の急性期病院での医療安全文化の検討。日本医療マネジメント学会雑誌 2011；11 (4)：223-230.

(1) 原著：

- 1) Akiyama M<sup>1)</sup>, Koshio A ( <sup>1)</sup> The University of Tokyo)：IT Can Improve Healthcare Management for Patient Safety -Minimizing risk of blood transfusion with Point-of-Act-System. IEEM 2011；1：979-985.

(2) 総説：

- 1) 藤谷克己：「地域福祉は「施設」, 「在宅」, 「ボランティア」の三位一体で」, 病院設備 2011；5 (302)：44-47.
- 2) 長谷川敏彦：病院崩壊からの再生 - 「匠と女将の世界」から「チームとシステム」-. 病院 2011；70 (4)：296-299.
- 3) 長谷川敏彦：日本の社会と医療の未来 - 「生存転換」概念による予測」-. 病院 2011；70 (5)：382-385.
- 4) 長谷川敏彦：戦略としての医療安全 - 「価値共創組織」を目指して -. 病院 2011；70 (6)：466-469.
- 5) 長谷川敏彦：構造転換する連携 - 施設間の連携からケアの連携 -. 病院 2011；70 (7)：542-546.
- 6) 長谷川敏彦：ガバナンス, オーナーシップ再考 - 医療福祉システムの「仕組みと仕掛け」を「老人仕様」に -. 病院 2011；70 (8)：620-623.
- 7) 長谷川敏彦：新・病院経営戦略 - 21 世紀医療マネジメントの導きの糸 -. 病院 2011；70 (9)：702-709.
- 8) 長谷川敏彦：超高齢社会の新たな社会と医療 - 日本から発信する医療福祉を軸とするまちづくり -. 病院設備 2011；50 (5)：14-19.

- 9) 長谷川敏彦：病院が変わる アフリカの今① 病院変革戦略としての5S/KAIZEN/TQM. 病院 2012;70(1):6-7.
- 10) 長谷川敏彦：病院が変わる アフリカの今③ 5S/KAIZEN/TQMで経営革新. 病院 2012;70(3):6-7.

(3) 研究報告書：

- 1) 秋山憲一, 長谷川敏彦：感染症危機管理シミュレーション訓練の研究. 感染症危機管理シミュレーション訓練の研究 平成22年度厚生労働科学研究費補助金(健康安全・危機管理対策総合研究事業)2011.
- 2) 長谷川敏彦, 平尾智広<sup>1)</sup>, 小林美亜<sup>2)</sup>, 浅野昌彦<sup>3)</sup>, 田中啓広<sup>4)</sup>, 秋山昌範<sup>5)</sup>, 加藤尚子<sup>6)</sup>, 櫃本真事<sup>7)</sup> (1) 香川大学医学部, 2) 国立病院機構総合研究センター, 3) パブリックヘルスリサーチセンター, 4) 福島県立医科大学, 5) 東京大学政策ビジョン研究センター, 6) 国際医療福祉大学, 7) 愛媛大学医学部附属病院)：病院内の連携構築に係る病院管理マネジメントに関する研究. 病院内の連携構築に係る病院管理マネジメントに関する研究 平成22年度厚生労働科学研究費補助金(健康安全・危機管理対策総合研究事業)2011.
- 3) 大島伸一<sup>1)</sup>, 長谷川敏彦, 長谷川友紀<sup>2)</sup>, 平尾智広<sup>3)</sup>, 清水佐知子<sup>4)</sup>, 吉川 徹<sup>5)</sup>, 小塩篤史 (1) 国立長寿医療研究センター, 2) 東邦大学医学部, 3) 香川大学医学部, 4) 大阪大学大学院, 5) 労働科学研究所)：高齢社会の医療提供体制における必要医師数の推計に関する研究. 高齢社会の医療提供体制における必要医師数の推計に関する研究 平成22年度厚生労働科学研究費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業)2011.

著 書

- 1) 大川 淳, 藤谷和己, 内田英二, 寺本研一 (1) 東京医科歯科大学, 2) 昭和大学)：[共著] 第6章 事故対応とコミュニケーション. あなたの医療は安全か? (危機管理システム研究会, メディカルリスクマネジメント分科会), 2011; pp194-206, 南山堂.
- 2) 長谷川敏彦, 中川雅之, 豊田奈緒, 武田俊彦, 酒向正春, 斉藤徹史 (1) 日本大学経済学部, 2) 総合研究開発機構, 3) 世田谷記念病院, 4) 厚生労働省, 5) 総合研究開発機構)：[分担] 医療福祉の視点からまちづくりを考える - 今なぜ「医療・福祉」と「まちづくり」なのか -. 老いる都市と医療を再生する - まちなか集積医療の実現策の提示 -, 2012; pp1-14, 総合研究開発機構.
- 3) 長谷川友紀, 長谷川敏彦, 松本邦愛 (1) 東邦大学医学部)：[編集] 医療職のための公衆衛生・社会医学 第3版, 2012; 医学評論社.
- 4) 長谷川敏彦：[分担] 第1章 医療人材をめぐる現状と将来分析. 医療人材の確保・育成の課題Ⅱ 連合総研・同志社大学 ITEC 共同研究報告書(連合総合生活開発研究所, 同志社大学技術・企業・国際競争力研究センター), 2012; pp21-33, 連合総合生活開発研究所.
- 5) 長谷川敏彦：[分担] 第2章 地域療法・慢性期疾患管理システムの構築と, それに必要な急性期医療システムの再構築. 医療人材の確保・育成の課題Ⅱ 連合総研・同志社大学 ITEC 共同研究報告書(連合総合生活開発研究所), 2012; pp34-35, 連合総合生活開発研究所.

学会発表

[追加分]

追加分一般講演：

- 1) Hasegawa T : Key note speech : What is 5S-KAIZEN-TQM framework, Asia-Africa Knowledge Co-creation Programme 5S/KAIZEN/TQM Workshop : A breakthrough meeting for better operation., Centara Grand at CentralWorld, (Bangkok, Thailand), 2011. 1.

(1) シンポジウム：

- 1) 長谷川敏彦：IT技術革新を応用した新たな医療マネジメントの可能性」演題「問題提起-医療・病院崩壊から

- 医療・病院再構築に向けた IT 技術革新の役割. 第 13 回日本医療マネジメント学会学術総会, 2011. 6.
- 2) 長谷川敏彦:「美容皮膚科の混合診療を考える」超高齢社会の医療と医療費—日本の未来を予測する. 第 29 回日本美容皮膚科学会総会・学術大会, 2011. 9.
  - 3) 長谷川敏彦:「病棟と師長の崩壊・・・匠と女将の世界からチームとシステムへ」. 第 15 回日本看護管理学会年次大会, 2011. 8.
- (2) 一般講演:
- 1) 藤谷克己, 秋山憲一, 小塩篤史, 長谷川敏彦: PBL カリキュラム導入の日米比較研究. 第 43 回日本医学教育学会, 2011. 8.
  - 2) 小塩篤史, 長谷川敏彦: 医療需要の将来推計に関する研究. 第 13 回日本医療マネジメント学会, 2011. 6.
  - 3) Koshio A, Hasegawa T: Projecting future healthcare demand of physicians in Japan -Impacts of aging on health workforce policy & development. Health System Reform in Asia 2011 Conference (Hong Kong), 2011. 12.
  - 4) Tanaka A<sup>1)</sup>, Koshio A, Hasegawa T, Inagak S<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 福島県立医科大学, <sup>2)</sup> 一橋大学 ): Micro simulation modelling for understanding and projecting healthcare needs - utilizing electronic micro data by using a new computational methodology. Health Reform in Asia.(Hong Kong.), 2011. 6.
  - 5) 秋山憲一, 藤谷克己, 小塩篤史, 長谷川敏彦: 日本医科大学における診療所見学実習の試み. 第 13 回日本医療マネジメント学会, 2011. 6.
  - 6) 小塩篤史, 長谷川敏彦: 医療需要の将来推計に関する研究. 第 13 回日本医療マネジメント学会学術総会, 2011. 6.
  - 7) 鈴木修一, 長谷川敏彦, 秋山健一, 小塩篤史, 藤谷克己: 病院経営改善における途上国のボトルネック—途上国と先進国の事例比較—. 第 13 回日本医療マネジメント学会学術総会, 2011. 6.
  - 8) 藤谷克己, 秋山健一, 小塩篤史, 鈴木修一, 長谷川敏彦: 看護労働の職員満足度調査における外来勤務と病棟勤務の違いに関する一考察. 第 13 回日本医療マネジメント学会学術総会, 2011. 6.
  - 9) 林 正幸<sup>1)</sup>, 田中啓広<sup>1)</sup>, 長谷川敏彦 ( <sup>1)</sup> 福島県立医科大学 ): 健診受診者と非受診者におけるその後の医療と介護の関係. 第 70 回日本公衆衛生学会総会, 2011. 10.
  - 10) 長谷川敏彦, 小塩篤史, 藤谷克己: 公衆衛生のアイデンティ・クライシス・・・生存転換概念による生存転換. 第 70 回日本公衆衛生学会総会, 2011. 10.
  - 11) 藤谷克己: インフォームドコンセントにおける同意の法的位置付け. 第 70 回日本公衆衛生学会総会, 2011. 10.
  - 12) 藤谷克己: インフォームドコンセントにおける同意の法的位置付け. 第 70 回日本公衆衛生学会総会, 2011. 10.
  - 13) 吉岡 哲<sup>1)</sup>, 鈴江 毅<sup>1)</sup>, 依田健志<sup>1)</sup>, 宮武伸行<sup>1)</sup>, 坂野紀子<sup>1)</sup>, 藤川 愛<sup>2)</sup>, 星川洋一<sup>3)</sup>, 須那 滋<sup>4)</sup>, 長谷川敏彦, 平尾智広<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 香川大学医学部, <sup>2)</sup> 高松市保健所, <sup>3)</sup> 香川県保健福祉部, <sup>4)</sup> 香川県保健医療大 ): 若手医師の診療科選択の現状. 第 82 回日本衛生学会学術総会, 2012. 3.
  - 14) Hasegawa T: The Theory of Survival Transition. 2012 DRAGON NET MINI SYMPOSIUM (Taiwan), 2012. 3.

## 14. 基礎医学共同研究利用施設

### [実験動物管理室]

#### 研究概要

遺伝性疾患モデル動物の開発、病態解析および原因遺伝子の同定を目的として、現在は WBN/Kob ラットとそのコンジェニック系である WBN/11a-fatty ラットおよび WBN/kob-Ht ラットの病態解析を行っている。1. 肥満糖尿病モデル (WBN/Kob-fatty ラット) WBN/Kob ラットは、自然発症する膵炎が雄ラットにのみ加齢と共に膵臓全域に進展し、膵ラ氏島の機能障害を伴って糖尿病発症に至るものであり、自然発症「膵性糖尿病」のモデルとして広く利用されている。また、膵炎の進展経過がヒトの慢性膵炎の病態に似ているため、そのモデルとしても注目されている。このラットに肥満遺伝子を導入した肥満糖尿病モデルを用いて糖尿病および糖尿病性合併症の病態について検索している。2. ヘアレスラット (WBN/Kob-Ht ラット) 正常なラット (ウイスター系) の交配中に発見された突然変異の無毛ラットで、この被毛変異は第 10 染色体上にある *Trpv1* 遺伝子の突然変異に起因しており、ホモ個体はほぼ完全な無毛である。一方、このヘテロ個体は短い軟毛で被われている貧毛を呈する。このヘテロの貧毛個体はブドウ球菌性の皮膚炎を発症するため、その発症機序やブドウ球菌に対するホモ個体との感受性の差を検索している。

#### 研究業績

##### 論文

(1) 原著：

- 1) Akimoto T<sup>1)</sup>, Terada M<sup>1)</sup>, Shimizu A<sup>2)</sup> (1) Division of Laboratory Animal Science, Nippon Medical School, 2) Department of Analytic Human Pathology, Nippon Medical School) : Progression of Pancreatitis Prior to Diabetes Onset in WBN/Kob-*Lepr<sup>fa</sup>* Rats. *Journal of Veterinary Medical Science* 2012 ; 74 (1) : 65-70.

##### 学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 秋元敏雄<sup>1)</sup>, 寺田 節<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学実験動物管理室) : WBN/Kob - *Lepr<sup>fa</sup>* コンジェニック系ラットにおける糖尿病発症後の腎機能の加齢変化について. 第 25 回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会 (東京大学本郷キャンパス武田先端知ビル 5F 「武田ホール」), 2011. 11.

### [形態解析共同研究施設]

#### 研究概要

本研究施設は従来の電顕診断業務、共同研究、研究支援、ならびに電顕試料技術開発に加え、新たに形態解析に関する種々の機器の管理運営も業務の一つとなっている。1. 電子顕微鏡診断：平成 23 年度 (平成 23 年 4 月～平成 24 年 2 月末日) は付属 4 病院から 230 症例の検体を受託されており、その対象は腎臓 160 症例、心臓 54 症例、その他 16 症例 (腫瘍、神経、筋等) であった。主に内科、小児科、耳鼻咽喉科、脳神経外科、外部関連病院からの依頼であった。2. 独自の研究：臨床に役立つ電顕診断の発展を目指し生検材料を用いて診断のための新しい電顕指標を見出す研究を継続して行っている。腎生検から潜血と密接に関係する thin basement membrane disease や糖尿病性腎疾患の指標として基底膜の厚さを形態計測して標準化を試みている。その一端として生後 3 ヶ月から 70 歳までの 20 症例にわたり基底膜の厚さを電顕検索し、加齢に従いその厚さが変化することを報告した。3. 共同研究ならびに技術支援：平成 23 年度は 9 症例 (14 検体) を依頼された。これらの検体は電顕写真とし、電顕所見をつけて各研究者に返

却している。これらのうち皮膚科，解析人体病理学などと共同論文として報告している。4. 教育：付属病院病理部から8名の実習生，及び天理よろづ相談所病院（天理市）から1名の実習生を受け入れ電顕実習を実施した。5. 共同機器管理と運営：形態解析共同研究施設管理運営委員会を軸に本研究施設の管理，運営はなされており，関連部署から選出された各委員は定期的開催される委員会にて議案を検討し，委員長により教授会へ報告後，議事録として保管される。共同機器の稼働率は高く，保守や修理に占める経費の重要性は大きい。6. その他：教員の定年に伴い，新たに准教授1名が着任した。

## 研究業績

### 論文

#### 〔追加分〕

追加分原著：

- 1) Sato S, Adachi A, Ghazizadeh M<sup>1)</sup> (1) Department of Molecular Pathology, Institute of Development and Aging Sciences, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Validation of glomerular basement membrane thickness changes with aging in minimal change disease. *Pathobiology* 2010 ; 77 (6) : 315-319.
- 2) Mashimo K<sup>1)</sup>, Sato S, Adachi A, Arthur GP<sup>2)</sup> (1) Department of Legal Medicine, 2) Biochemistry and Molecular Biology, School of Biomedical, Biomolecular and Chemical Sciences, The University of Western Australia) : Ethanol decreases cellular protein content and mitochondrial membrane potential of cultured neonatal rat cardiomyocytes : microassays with fluorometric and spectrometric plate readers. *Jpn. J. Alcohol & Drug Dependence*. 2010 ; 45 (6) : 543-556.
- 3) 佐藤 茂, 安達彰子, 佐佐木喜広 : 酢酸ウランの代わりにウーロン茶抽出物 (OTE) を用いた電子染色. *病理と臨床* 2010 ; 28 (5) : 551-553.

(1) 原著：

- 1) Li Q<sup>1)</sup>, Kobayashi M<sup>1)</sup>, Inagaki H<sup>1)</sup>, Hirata Y<sup>1)</sup>, Sato S, Ishizaki M<sup>2)</sup>, Okamura A<sup>3)</sup>, Wang D<sup>3)</sup>, Nakajima T<sup>3)</sup>, Kamijima M<sup>4)</sup>, Kawada T<sup>1)</sup> (1) Department of Hygiene and Public Health, 2) Department of Pathology, 3) Department of Occupational and Environmental Health, Nagoya University Graduate School of Medicine, 4) Department of Occupational and Environmental Health, Nagoya City University Graduate School of Medicine) : Effect of oral exposure to fenitrothion and 3-methyl-4-nitrophenol on splenic cell populations and histopathological alterations in spleen in Wistar rats. *Human and Experimental Toxicology* 2011 ; 30 (7) : 665-674.
- 2) Omi T<sup>1)</sup>, Kawana S<sup>1)</sup>, Sato S, Bonan P<sup>1)</sup>, Naito Z (1) Department of Dermatology, Queen's Square Medical Center) : Fractional CO<sub>2</sub> laser for the treatment of acne scars. *J. Cosmet Dermatol.* 2011 ; 10 (4) : 294-300.

### 学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 佐藤 茂 : 「非ウラン染色液」ウーロン茶抽出物 (OTE). *医学生物学電子顕微鏡シンポジウム (第12回)* (浜松), 2011. 11.

(2) ワークショップ：

- 1) 安達彰子, 佐藤 茂, 佐佐木喜広, 内藤善哉 : 透過型電子顕微鏡における CCD 画像シャープネス機能の有用性 (技術研究・試料作製法・電顕観察とデジタル画像処理). *日本臨床分子形態学会 (第43回)* (大阪), 2011. 9.

(3) 一般講演：

- 1) 佐藤 茂, 佐佐木喜広, 安達彰子, 内藤善哉 : 正常ラット脾臓の電子顕微鏡観察. *日本臨床分子形態学会 (第*

43回) (大阪), 2011. 9.

- 2) 吉田泰子<sup>1)</sup>, 高野秀樹<sup>1)</sup>, 黒澤美穂<sup>1)</sup>, 新井孝司<sup>2)</sup>, 若松恭子<sup>2)</sup>, 益田幸成<sup>2)</sup>, 佐藤 茂<sup>2)</sup>, 清水 章<sup>(1)</sup> 東京通信病院, <sup>2)</sup> 解析人体病理学): 電子顕微鏡でメサンギウム領域に多量の間質型コラーゲン沈着を認めた IgA 腎症の 1 例. 日本腎臓学会東部学術大会 (第 41 回) (東京), 2011. 10.

(4) 指定教育ポスター:

- 1) 鈴木英紀: コロイド金を標識物とした免疫透過および走査電顕法. 日本顕微鏡学会関東支部講演会 (第 36 回) (東京), 2012. 3.

## [情報科学センター]

### 研究概要

医科大学における情報科学センターとしての主務としてインターネットと本学の学術ネットワークとの接続環境と学生の情報処理環境を構築している。したがって学内におけるインターネット利用環境の最善化と安全性に関しては、全般的に責任を負っている。この為、情報環境について、学内の情報環境を安全かつ最善に維持するには、調査研究が不可欠である。

情報科学センターはこの数年国際的な大学間無線ローミングシステム eduoam の学内でのアクセスポイントを増強するなど、情報サービスの発展に積極的に取り組んできており、先端技術の動向、獲得への研究活動は一定のレベルに立っていると考える。また情報科学の根幹である情報処理技術を元に他大学の生理系の研究者との共同研究を行っており、医学部の中の情報科学センターとして在るべき姿を示していると考ええる。

ネットワーク環境に対する研究の成果として「情報漏洩対策の一環とした公衆無線 LAN 導入の試み」(医療情報学連合大会 (第 31 回)), 「公衆無線 LAN を利用した eduroam 利用環境整備」(大学 ICT 推進協議会 2011 年度年次大会) を発表している。ほか情報処理と生理系との共同研究として「ラット 24 時間行動観察システムを用いた睡眠導入剤が脳波に及ぼす影響について」(平成 23 年度日本生体医工学会東海支部大会) と「ラット 24 時間行動観察システムを用いたサーカディアンリズムの研究」(平成 23 年度日本生体医工学会東海支部大会) を発表している。

学内向けの研究支援として、研究者へ統計処理ソフト SPSS の利用を勧めている他、統計処理利用相談も受けている。

先端情報技術の評価、導入を積極的に行い、安全で快適な学術情報環境の構築を継続する。

### 研究業績

#### 学会発表

(1) 一般講演:

- 1) 早坂明哲, 滋野恭子, 奥重秀彦, 伊藤高司: 情報漏洩対策の一環とした公衆無線 LAN 導入の試み. 医療情報学連合大会 (第 31 回) (鹿児島県鹿児島市), 2011. 11.
- 2) 早坂明哲, 滋野恭子, 奥重秀彦, 伊藤高司: 公衆無線 LAN を利用した eduroam 利用環境整備. 大学 ICT 推進協議会 2011 年度年次大会 (福岡県福岡市), 2011. 12.
- 3) 高田俊佑<sup>1)</sup>, 矢崎幸児<sup>1)</sup>, 見目拓也<sup>2)</sup>, 安藝史崇<sup>2)</sup>, 木村達洋<sup>3)</sup>, 岡本克郎<sup>1)</sup>, 早坂明哲, 伊藤高司, 山崎清行<sup>1)</sup>, 田所裕之<sup>1)</sup> (1) 東海大学開発工学部医用生体工学科, 2) 東海大学大学院医用生体工学専攻, 3) 東海大学開発工学部情報通信工学科): ラット 24 時間行動観察システムを用いたサーカディアンリズムの研究. 平成 23 年度日本生体医工学会東海支部大会 (愛知県名古屋市), 2011. 10.
- 4) 矢崎幸児<sup>1)</sup>, 高田俊佑<sup>1)</sup>, 見目拓也<sup>2)</sup>, 安藝史崇<sup>2)</sup>, 木村達洋<sup>3)</sup>, 早坂明哲, 伊藤高司, 岡本克郎<sup>1)</sup>, 山崎清行<sup>1)</sup>, 田所裕之<sup>1)</sup> (1) 東海大学開発工学部医用生体工学科, 2) 東海大学大学院医用生体工学専攻, 3) 東海大学開発工学部情報通信工学科): ラット 24 時間行動観察システムを用いた睡眠導入剤が脳波に及ぼす影響について. 平成

23 年度日本生体医工学会東海支部大会（愛知県名古屋市），2011. 10.

## 〔3〕臨 床 医 学



# 1. 内科学講座（循環器・肝臓・老年・総合病態部門）

## 〔付属病院一般内科，循環器内科，肝臓内科，再生医療科〕

### 研究概要

内科学第一教室では循環器病学，肝臓病学，再生医学，糖尿病学を中心に以下に示すような臨床的，基礎的研究を行った。

循環器病学では，不整脈に関する研究として，①心拍変動周波数解析などの数理学的手法，薬理学的手法を用いた自律神経系と不整脈，突然死発生との関連の検討，②抗不整脈薬の電気生理学的作用，臨床効果の検討，③各種不整脈に対するカテーテルアブレーション治療，④失神患者における自律神経機能の評価，⑤加算平均心電図法を用いた不整脈発生機序の検討。

虚血性心疾患，心筋疾患に関する研究として，①薬剤負荷心エコー図法による viable myocardium，心筋虚血の検出，②虚血性心疾患における圧受容体反射，③虚血性心疾患における血管反応性と自律神経機能との関連，④虚血心筋保護法の検討，⑤虚血性心疾患，心筋疾患における成長因子，細胞増殖因子の検討，⑥睡眠時無呼吸症候群と循環器疾患，⑦血管内視鏡や OCT による冠動脈内画像診断。

⑧肥満心筋症の電子顕微鏡的検討。

肝臓病学では，①門脈圧亢進症の病態，薬物療法に関する検討，②門脈圧亢進症における血管作動物質の動態，③SSM（丸山ワクチン）によるサイトカイン産生，④慢性肝疾患における肺循環異常，⑤2次性胆汁性肝硬変動物モデルで動脈血酸素化と NO の関係。

糖尿病学では，①冠動脈疾患とインスリン抵抗性，②糖尿病患者における自律神経機能，③無症候性心筋虚血の病態，を検討している。

再生医学は骨髄細胞移植を用いた末梢性血管疾患および重症心不全，虚血性心筋症の心臓へ骨髄細胞を移植する心筋再生療法を行っている。2008年日本医科大学は医療特区に認められ，再生医療の分野において基礎研究の成果がこれまで以上のスピードで臨床研究されることが期待される。さらに日本獣医畜産大学との共同研究で免疫抑制剤不要のバイオ人工臓の開発も研究中である。

### 研究業績

#### 論文

#### 〔追加分〕

追加分総説：

- 1) 福間長知，林 寛子，加藤和代，加藤祐子，土田貴也，高橋 啓，水野杏一：自律神経機能障害に対する介入を考える。心臓リハビリテーション 2011；16（1）：44-46.
- 2) 加藤祐子，福間長知：【睡眠時無呼吸と循環器疾患】 治す 循環器疾患に合併する中枢性睡眠時無呼吸の治療内科治療および酸素療法を中心に。Heart View 2010；14（5）：570-576.
- 3) 福間長知，林 寛子，水野杏一：【ガイドラインを基盤とした心不全の個別診療】 心不全の治療【慢性心不全の内科的治療】 非薬物療法 在宅酸素療法。Medicina 2009；46（8）：1304-1307.
- 4) 福間長知，兵働英也<sup>1)</sup>，功刀しのぶ<sup>2)</sup>，田村浩一<sup>3)</sup>，猪口孝一<sup>2)</sup>，安武正弘，斉藤好信<sup>4)</sup>，上野 亮，福田 悠<sup>1)</sup>，坂本静樹<sup>5)</sup>，清野精彦（<sup>1)</sup>血液内科，<sup>2)</sup>病理学一，<sup>3)</sup>病理部，<sup>4)</sup>呼吸器内科，<sup>5)</sup>神経内科）：難治性肺炎を合併し死亡した骨髄異形成症候群の1例。内科 2010；105（1）：127-139.
- 5) 中村恭子<sup>1)</sup>，塩井由美子<sup>1)</sup>，駒場祐一<sup>2)</sup>，内藤義哉<sup>3)</sup>，服部久弥子<sup>4)</sup>，檀 和夫<sup>1)</sup>，川本雅司<sup>5)</sup>，功刀しのぶ<sup>6)</sup>，上田雅之<sup>2)</sup>，福間長知，白杵二郎<sup>4)</sup>（<sup>1)</sup>血液内科，<sup>2)</sup>神経内科，<sup>3)</sup>統御機構病理，<sup>4)</sup>呼吸器内科，<sup>5)</sup>病理部，<sup>6)</sup>病

理学一)：急性骨髄性白血病，扁平上皮癌，脳梗塞を併発した慢性活動性EBウイルス感染症. 内科 2010；106 (4)：713-724.

- 6) 山本三幸<sup>1)</sup>，下田貴子<sup>1)</sup>，福岡長知，田野崎栄<sup>2)</sup>，川名誠司<sup>1)</sup> (1) 皮膚科，<sup>2)</sup> 血液内科)：無疹部での皮膚生検によって診断した全身性アミロイドーシスの1例. 皮膚科の臨床 2010；52 (4)：499-502.

追加分原著：

- 1) Ushijima A, Fukuma N, Kato Y, Aisu N, Mizuno K : Sympathetic excitation during exercise as a cause of attenuated heart rate recovery in patients with myocardial infarction. J Nippon Med Sch 2009；76 (2)：76-83.
- 2) 菅谷寿理<sup>1)</sup>，福岡長知，牛島明子，加藤祐子，愛須紀子，土田貴也，高橋 啓，岸田 浩，水野杏一 (1) 生理機能センター)：軽症心筋梗塞例の抑うつと予後規定因子の関係. 日本冠疾患学会 2009；15 (3)：198-201.

(1) 原著：

- 1) Takano M<sup>1)</sup>，Yamamoto M<sup>1)</sup>，Inami T<sup>1)</sup>，Murakami D<sup>1)</sup>，Seino Y<sup>1)</sup>，Mizuno K (1) Chiba-Hokusoh Hospital)：Delayed healing of a coronary stent graft. JACC 2011；4 (4)：466-469.
- 2) Kobayashi N<sup>1)</sup>，Hata N<sup>1)</sup>，Kume N<sup>2)</sup>，Seino Y<sup>3)</sup>，Inami T<sup>3)</sup>，Yokoyama S<sup>1)</sup>，Shinada T<sup>1)</sup>，Tomita K<sup>1)</sup>，Kaneshige T<sup>4)</sup>，Mizuno K (1) Intensive Care Unit, Chiba-Hokusoh Hospital, 2) Kyoto Univ., 3) Chiba-Hokusoh Hospital, 4) Shionogi&Co.Ltd.)：Soluble lectin-like oxidized low-density lipoprotein receptor-1 as an early biomarker For ST elevation myocardial infarction：Time dependent comparison with other biomarkers-. Circ J 2011；75 (6)：1433-1439.
- 3) Setsuta K<sup>1)</sup>，Kitahara Y<sup>1)</sup>，Arao M<sup>1)</sup>，Ohbayashi T<sup>1)</sup>，Seino Y<sup>2)</sup>，Mizuno K (1) Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, 2) Chiba-Hokusoh Hospital)：Elevated cardiac troponin t predicts adverse outcomes in hypertensive patients. Inter Heart J 2011；52 (3)：164-169.
- 4) Kato Y, Katsuta Y, Zhang X, Ohsuga M, Akimoto T<sup>1)</sup>，Miyamoto A, Komeichi H, Shimizu S, Mizuno K (1) Graduate School of Medicine, Nippon Medical School)：Inhibition of nitric oxide synthase in hyperdynamic circulation of rats with early of late cirrhosis secondary to common bile duct ligation. J Nippon Med Sch 2011；78 (3)：146-155.
- 5) Kiriya T<sup>1)</sup>，Toba M<sup>1)</sup>，Fukushima Y<sup>1)</sup>，Hayashi H<sup>1)</sup>，Takano H, Mizuno K, Kumita S<sup>1)</sup> (1) Department Radiology)：Discordance between the morphological and physiological information of 64-slice MSCT coronary angiography and myocardial perfusion imaging in patients with intermediate to high probability of coronary artery disease. Circ J 2011；75 (7)：1670-1677.
- 6) Nakagomi A<sup>1)</sup>，Kodani E<sup>1)</sup>，Takano H, Uchida T<sup>4)</sup>，Sato N<sup>2)</sup>，Ibuki C<sup>3)</sup>，Kusama Y<sup>1)</sup>，Seino Y<sup>3)</sup>，Munakata K<sup>4)</sup>，Mizuno K, Takano T (1) Tama-Nagayama Hospital, 2) Intensive and Care Unit, 3) Chiba-Hokusoh Hospital, 4) Musashikosugi Hospital)：Secondary preventive effects of a calcium antagonist for ischemic heart attack：Randomized parallel comparison with  $\beta$  blockers. Circ J 2011；75 (7)：1696-1705.
- 7) Nakagomi A<sup>1)</sup>，Sasaki M<sup>2)</sup>，Ishikawa Y<sup>2)</sup>，Shibui T<sup>1)</sup>，Kosugi M<sup>1)</sup>，Endoh Y<sup>1)</sup>，Morikawa M<sup>2)</sup>，Kusama Y<sup>1)</sup>，Atarashi H<sup>1)</sup>，Mizuno K (1) Tama Nagayama Hospital, 2) Tokyo Univ. of Pharmacy and Life Science)：Upregulation of monocyte tissue factor activity is significantly associated with carotid intima-media thickness in patients with metabolic syndrome. JAT 2011；18 (6)：475-486.
- 8) Kosugi M<sup>1)</sup>，Nakagomi A<sup>1)</sup>，Shibui T<sup>1)</sup>，Kato K<sup>1)</sup>，Kusama Y<sup>1)</sup>，Atarashi H<sup>1)</sup>，Mizuno K (1) Tama-Nagayama Hospital)：Effect of long-term nitrate treatment on cardiac events in patients with vasospastic angina. Circ J 2011；75 (9)：2196-2205.
- 9) 弓野 大<sup>1)</sup>，佐藤直樹，梶本克也<sup>1)</sup>，南雄一郎<sup>1)</sup>，水野雅之<sup>1)</sup>，浅井邦也，村井綱児，宗像 亮，青景聡之，坂田

- 泰史<sup>1)</sup>, 慶田毅彦<sup>1)</sup>, 田中啓治, 水野杏一, 萩原誠久, 笠貫 宏, その他1名 (1) ATTEND Investigator) : 急性心不全のすべての症例に NPPV は適応か? . 循環器専門医 2011 ; 19 (2) : 261-264.
- 10) Yodogawa K, Ohara T, Takayama H, Seino Y, Katoh T, Mizuno K : Detection of prior myocardial infarction patients prone to malignant ventricular arrhythmias using wavelet transform analysis. *Int Heart J* 2011 ; 52 (5) : 286-289.
  - 11) Inami S, Wang Z, Ming-Juan Z, Takano M<sup>1)</sup>, Mizuno K (1) Chiba-Hokusoh Hospital) : Current status of optical coherence tomography. *Cardiovasc.Interv and Ther* 2011 ; 26 (3) : 177-185.
  - 12) Kobayashi N<sup>1)</sup>, Hata N<sup>1)</sup>, Kume N<sup>1)</sup>, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Shinada T<sup>1)</sup>, Tomita K<sup>1)</sup>, Kitamura M<sup>1)</sup>, Shirakabe A<sup>1)</sup>, Inami T<sup>1)</sup>, Yamamoto M<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>1)</sup>, Mizuno K (1) Division of Intensive Care Unit, Department of Internal Medicine, Chiba-Hokusoh Hospital) : Matrix metalloproteinase-9 for the earliest stage acute coronary syndrome : comparison with high sensitivity troponin T. *Circ J* 2011 ; 75 (12) : 2853-2861.
  - 13) Kobayashi N<sup>1)</sup>, Hata N<sup>1)</sup>, Kume N<sup>1)</sup>, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Shinada T<sup>1)</sup>, Tomita K<sup>1)</sup>, Kitamura M<sup>1)</sup>, Nozaki A<sup>1)</sup>, Inami T<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>1)</sup>, Mizuno K (1) Division of Intensive Care Unit, Department of Internal Medicine, Chiba-Hokusoh Hospital) : Soluble lectin like oxidized LDL receptor-I and high-sensitivity troponin T as diagnostic biomarkers for acute coronary syndrome : Improved values with combination usage in emergency rooms. *Circ J* 2011 ; 75 (12) : 2862-2871.
  - 14) Kato K<sup>1)</sup>, Yasutake M, Yonetsu T<sup>1)</sup>, Kim S<sup>2)</sup>, Kratlian C<sup>1)</sup>, Takano M<sup>3)</sup>, Mizuno K, Jang I<sup>1)</sup> (1) MGH, 2) Kyung Hee Univ., 3) Chiba Hokusoh Hospital) : Intracoronary imaging modalities for vulnerable plaques. *J Nippon Med Sch* 2011 ; 78 (6) : 340-351.
  - 15) Takagi G, Miyamoto M, Tara S, Takagi I, Takano H, Yasutake M, Tabata Y<sup>1)</sup>, Mizuno K (1) Kyoto Univ.) : Controlled-release basic fibroblast growth factor for peripheral artery disease : comparison with autologous bone marrow-derived stem cell transfer. *Tissue Engineering* 2011 ; 17 (21-22) : 2787-2794.
  - 16) Tara S, Takagi G, Miyamoto M, Kirinoki S, Yamamoto T, Takano H, Takagi I, Yasutake M, Tabata Y<sup>1)</sup>, Mizuno K (1) Kyoto Univ.) : Novel approach to ischemic skin ulcer in systemic lupus erythematosus : therapeutic angiogenesis by controlled-release basic fibroblast growth factor. *Geriatr Gerontol Int* 2011 ; 11 (4) : 527-530.
  - 17) Murakami D<sup>1)</sup>, Takano M<sup>1)</sup>, Yamamoto M<sup>1)</sup>, Inami T<sup>1)</sup>, Inami S, Okamatsu K<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>1)</sup>, Mizuno K (1) Chiba-Hokusoh Hospital) : Intense yellow culprit plaque coloration is closely associated with troponin-t elevation and flow complications following elective coronary stenting. *JAT* 2011 ; 18 (10) : 906-913.
  - 18) Takano M<sup>1)</sup>, Murakami D<sup>1)</sup>, Yamamoto M<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>1)</sup>, Mizuno K (1) Chiba-Hokusoh Hospital) : Natural history of a thin cap fibroatheroma serial observations by optical coherence tomography. *Circ Cardiovasc Int* 2011 ; 4 (6) : 638-639.
  - 19) Hayashi M, Denjoy I<sup>1)</sup>, Hayashi M, Extramina F<sup>1)</sup>, Maltret A<sup>1)</sup>, Roux-Buisson N<sup>1)</sup>, Lupoglazoff J<sup>1)</sup>, Klug D<sup>1)</sup>, Maury P<sup>1)</sup>, Messali A<sup>1)</sup>, Guicheney P<sup>1)</sup>, Leenhardt A<sup>1)</sup> (1) Hôpital Lariboisière, Paris, France) : The role of stress test for predicting genetic mutations and future cardiac events in asymptomatic relatives of catecholaminergic polymorphic ventricular tachycardia probands. *Europace* 2012 ; 14 (in press).
  - 20) Yamamoto T, Hayashi M, Miyauchi Y, Horie T, Igawa O, Kato T, Mizuno K : Respiratory cycle-dependent atrial tachycardia : prevalence, electrocardiographic and electrophysiologic characteristics, and outcome after catheter ablation. *Heart Rhythm* 2011 ; 8 (10) : 1615-1621.
  - 21) 村田広茂<sup>1)</sup>, 宮内靖史, 田中啓治<sup>1)</sup>, 野間さつき<sup>1)</sup>, 有田淑恵<sup>1)</sup>, 高橋健太, 植竹俊介, 林 洋史, 坪井一平, 山本哲平, 岡崎怜子<sup>2)</sup>, 堀江 格, 林 明聡, 山本 剛, 小原俊彦, その他4名 (1) 集中治療室, 2) 多摩永山病

- 院) : VT storm に対するアミオダロン静注薬の有効性. *Progress in Medicine* 2012 ; 32 (Suppl) : 424-429.
- 22) Honma H, Ohno T, Tokita Y, Matsuzaki T, Fujimoto H, Yoshinaga A, Sato S, Yokoshima T, Ito K, Mizuno K : Aortic valve calcification and increased stiffness of the proximal thoracic ascending aorta : association with left ventricular diastolic dysfunction and early chronic kidney disease. *J Med Ultrasonics* 2011 ; 38 (4) : 179-186.
- 23) Kurita J<sup>1)</sup>, Miyamoto M, Ishii Y<sup>1)</sup>, Aoyama J<sup>1)</sup>, Takagi G, Naito Z<sup>1)</sup>, Tabata Y, Ochi M<sup>1)</sup>, Shimizu K<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Biological Regulation and Regenerative Surgery, Cardiovascular Surgery) : Enhanced vascularization by controlled release of platelet-rich plasma impregnated in biodegradable gelatin hydrogel. *Ann Thorac Surg* 2011 ; 92 (3) : 837-844.
- 24) Takano M<sup>1)</sup>, Murakami D<sup>1)</sup>, Yamamoto M<sup>1)</sup>, Kurihara O<sup>1)</sup>, Murai K<sup>1)</sup>, Inami T<sup>1)</sup>, Kimata N<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>1)</sup>, Mizuno K (<sup>1)</sup>Chiba-Hokusoh Hospital) : Six-month follow-up evaluation for everolimus-eluting stents by intracoronary optical coherence tomography : Comparison with paclitaxel-eluting stents. *Int J of Cardiol* 2012 ; in press.
- 25) Yodogawa K<sup>1)</sup>, Morita N<sup>2)</sup>, Kobayashi Y<sup>2)</sup>, Takayama H, Ohara T, Seino Y<sup>1)</sup>, Katoh T, Mizuno K (<sup>1)</sup> Chiba-Hokusoh Hospital, <sup>2)</sup> Tokai University Hachioji Hospital) : A New Approach for the Comparison of Conduction Abnormality between Arrhythmogenic Right Ventricular Cardiomyopathy/Dysplasia and Brugada Syndrome. *ANE* 2011 ; 16 (3) : 263-269.
- 26) Matsuzaki M<sup>1)</sup>, Ogihara T<sup>2)</sup>, Umemoto S<sup>1)</sup>, Rakugi H<sup>2)</sup>, Matsuoka H<sup>3)</sup>, Shimada K<sup>4)</sup>, Abe K<sup>5)</sup>, Suzuki N<sup>6)</sup>, Eto T<sup>7)</sup>, Higaki J<sup>8)</sup>, Ito S<sup>9)</sup>, Kamiya A<sup>1)</sup>, Kikuchi K<sup>10)</sup>, Mizuno K, et al. (<sup>1)</sup> Yamaguchi University, <sup>2)</sup> Osaka University, <sup>3)</sup> Dokkyo Medical University, <sup>4)</sup> Jichi Medical University, <sup>5)</sup> Sendai Social Insurance Hospital, <sup>6)</sup> Keio University, <sup>7)</sup> University of Miyazaki, <sup>8)</sup> Ehime University, <sup>9)</sup> Tohoku University, <sup>10)</sup> and others) : Prevention of Cardiovascular events with calcium channel blocker-based combination therapies in patients with hypertension : a randomized controlled trial. *J of Hypertension* 2011 ; 29 (8) : 1649-1659.
- 27) Yamamoto M<sup>1)</sup>, Takano M<sup>1)</sup>, Murakami D<sup>1)</sup>, Inami T<sup>1)</sup>, Kobayashi N<sup>2)</sup>, Inami S, Okamoto K<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Ibuki C<sup>1)</sup>, Hata N<sup>2)</sup>, Mizuno K (<sup>1)</sup> Cardiology, Dep. of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, <sup>2)</sup> Intensive Care Unit, Chiba Hokusoh Hospital Nippon Medical School) : The Possibility of delayed arterial healing 5 years after implantation of sirolimus-eluting stents : Serial observations by coronary angiography. *AHJ* 2011 ; 161 (6) : 1200-1206.
- 28) Kusunoki M, Miyakae K, Shindo T, Ueki N, Kawagoe T, Gudis K, Futagami S, Tsukui T, Takagi I, Hosaka J, Sakamoto C : The incidence of deep vein thrombosis in Japanese patients undergoing endoscopic submucosal dissection. *Gastrointest Endosc* 2011 ; 74 (4) : 798-804.

(2) 総説 :

- 1) Mizuno K, Wang Z, Inami S, Takano M<sup>1)</sup>, Yasutake M, Asai K, Takano H (<sup>1)</sup> Chiba-Hokusoh Hospital) : Coronary angiography : current topics and future direction. *Cardiovasc Interv and Ther* 2011 ; 26 (2) : 89-97.
- 2) 水野杏一 : 医学を選んだ君に問うを読んで. *日医大医学会誌* 2011 ; 7 (3) : 119-119.
- 3) 稲見茂信, 水野杏一 : 狭心症の発症機序. *日本臨床* 2011 ; 69 (Suppl9) : 14-18.
- 4) 稲見茂信, 水野杏一 : 血管内視鏡の画像から病態に迫る. *Heart View* 2011 ; 15 (13) : 38-43.
- 5) 高野仁司 : カルシウム拮抗薬. *月刊循環器* 2011 ; 1 (3) : 15-23.
- 6) Takano M<sup>1)</sup>, Inami S, Mizuno K (<sup>1)</sup> Chiba-Hokusoh Hospital) : Clear View, Clear Benefit. *Circ J* 2012 ; in press.
- 7) Murakami D<sup>1)</sup>, Negishi K<sup>1)</sup>, Yamamoto M<sup>1)</sup>, Tokuyama H<sup>2)</sup>, Kobayashi N<sup>2)</sup>, Takano M<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>1)</sup>,

Mizuno K (1) Chiba-Hokusoh Hospital, (2) Intensive Care Unit, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital) : Refractory coronary spastic angina may induce sudden cardiac death even in young patients under appropriate medication. *Int J of Cardiol* 2011 ; 153 (1) : e19-e21.

(3) 症例報告 :

- 1) Tara S, Takagi G, Kirinoki S, Yamamoto T, Takano H, Takagi I, Yasutake M, Miyamoto M, Tabata Y, Mizuno K : The Novel Approach to the Ischemic Skin Ulcer with Systemic Lupus Erythematosus : Therapeutic Angiogenesis by Controlled-Release Basic-Fibroblast Growth Factor. *Geriatrics & Gerontology International* 2011 ; 11 (4) : 527-530.
- 2) Tearney G<sup>1)</sup>, Regar E<sup>2)</sup>, Akasaka T<sup>3)</sup>, Mizuno K (1) Massachusetts General Hospital, (2) Erasmus Medical Center, (3) Wakayama Medical School) : Consensus standards for acquisition, measurement, and reporting of intravascular optical coherence tomography studies. *J Am Coll Cardiol* 2012 ; 59 (12) : 1058-1072.
- 3) Murakami D<sup>1)</sup>, Takano M<sup>1)</sup>, Kobayashi N<sup>2)</sup>, Yokoyama S<sup>2)</sup>, Seino Y<sup>1)</sup>, Mizuno K (1) Chiba-Hokusoh Hospital, (2) Intensive Care Unit, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital) : Complete disappearance of red thrombi in a drug-eluting stent despite discontinuation of antiplatelet therapy : angioscopic confirmation. *J of Cardiol Cases* 2012 ; in press.
- 4) Kobayashi N<sup>1)</sup>, Takano M<sup>2)</sup>, Shirakabe A<sup>1)</sup>, Hata N<sup>1)</sup>, Kawamata H<sup>3)</sup>, Mizuno K (1) Intensive Care Unit, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, (2) Cardiology, Dep.of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital, (3) Radiology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital) : Intravascular Ultrasound-guided endovascular stenting for celiac artery complicated with hepatic hypoperfusion following acute type B aortic dissection. *JACC* 2012 ; in press.
- 5) Yodogawa K<sup>1)</sup>, Seino K<sup>1)</sup>, Ohara T, Takayama H, Katoh T, Mizuno K (1) Chiba-Hokusoh Hospital) : Effect of Corticosteroid Therapy on Ventricular Arrhythmias in Patients with Cardiac Sarcoidosis. *ANE* 2011 ; 16 (2) : 140-147.

## 著 書

### [追加分]

#### 追加分 :

- 1) 高野仁司 : [分担] 発症から初期診断まで 冠動脈造影による診断. 新しい診断と治療の ABC 急性心筋梗塞 第二版 (高野照夫), 2011 ; pp103-113, 最新医学社.
- 2) 福間長知 : [分担] 循環器系の症候と検査 C. 検査. 指導士認定試験準拠 心臓リハビリテーション必携 (日本心臓リハビリテーション学会編), 2010 ; pp37-45, コンパス.
- 3) 福間長知, 水野杏一 : [分担] 狭心症状のない運動負荷心電図の ST 下降. 循環器病検査のグノーティセアウト (山科章), 2009 ; pp19-24, シナジー出版.
- 1) Takano M, Mizuno K : [分担] Coronary endoscopy. Coronary stent restenosis (Tintoiu I, Popma J, Bae J, Rivard A, Galassi A, Critstian G), 2011 ; pp437-446, The publishing house of the romanian aca.
- 2) 高野仁司 : [分担] バルーンカテーテル (薬剤溶出ステント) 循環器内科医の立場から. 医師の求める医療材料とは, 2011 ; pp4-9, 技術情報協会.
- 3) Takagi G, Miyamoto M, Tabata Y, Mizuno K : [共著] Therapeutic Vascular Angiogenesis for Vasculitis Related Peripheral Artery Disease. *Advances in the Diagnosis and Treatment of Vasculitis* (Luis M. Amezcua-Guerra (Ed.)), 2011 ; pp211-220, InTech.
- 4) 加藤貴雄, 安武正弘, 村松 光 : [翻訳] 心臓電気生理学エッセンス (加藤貴雄・安武正弘・村松 光), 2012 ; pp1-265, ワイリー・パブリッシング・ジャパン株式会社.

- 5) 時田祐吉, 水野杏一: [分担] 冠動脈バイパス手術後の外来管理. 循環器疾患最新の治療 (堀 正二・永井良三), 2012: pp151-152, 南江堂.

## 学会発表

### [追加分]

#### 追加分シンポジウム:

- 1) 福間長知, 加藤祐子, 水野杏一: 心筋梗塞後運動リハビリ症例において検討されるべき新たな冠危険因子について. 日本心臓病学会, 2010. 9.
- 2) 福間長知, 林 寛子, 加藤和代, 加藤祐子, 土田貴也, 高橋 啓, 水野杏一: 最新の方法とエビデンス 自律神経と心臓リハビリテーション 自律神経機能障害に対する介入を考える. 日本心臓リハビリテーション学会, 2010. 7.

#### 追加分ポスター:

- 1) Fukuma N, Hayashi H, Kato K, Kato Y, Takahashi H, Mabuchi K, Miyatake Y, Mizuno K: Alteration of Aldosterone Response to Salt Overload through Chronic Kidney Disease in Patients with Hypertension. ACC (NewOrleans), 2011. 3.
- 2) Aida T<sup>1)</sup>, Fukuma N, Sugaya J<sup>1)</sup>, Kato M<sup>1)</sup>, Hayashi H, Ushijima A, Katoh Y, Takahashi H, Honma H, Mizuno K ( <sup>1)</sup> Physiological examination center): Central and Obstructive Sleep Apnea Lead to Develop Abnormal Arterial Partial Pressure of Carbon Dioxide in Patients with Heart Disease. 日本循環器学会学術総会 (第74回) (京都), 2010. 3.
- 3) Kato M<sup>1)</sup>, Fukuma N, Sugaya J<sup>1)</sup>, Aida T<sup>1)</sup>, Hayashi H, Ushijima A, Katoh Y, Takahashi H, Honma H, Mizuno K ( <sup>1)</sup> Physiological examination center): Oscillatory Ventilation during Exercise Relates to Central Sleep Apnea but also to Obstructive Sleep Apnea in Patients with Heart Disease. 日本循環器学会学術総会 (第74回) (京都), 2010. 3.
- 4) Sugaya J<sup>1)</sup>, Fukuma N, Aida T<sup>1)</sup>, Kato M<sup>1)</sup>, Hayashi H, Ushijima A, Katoh Y, Takahashi H, Honma H, Mizuno K ( <sup>1)</sup> Physiological examination center): Development and Time Course of Psychological Disorder after Myocardial Infarction. 日本循環器学会学術総会 (第74回) (京都), 2010. 3.
- 5) Fukuma N, Sugaya J, Hayashi H, Ushijima A, Katoh Y, Tsuchida T, Aisu N, Takahashi H, Mizuno K: Sleep Apnea Leads to Hyper- and Hypo-capnea as a Risk Factor in Patients with Myocardial Infarction. 日本循環器学会学術総会 (第74回), 2010. 3.
- 6) Fukuma N, Sugaya J, Hayashi H, Ushijima A, Katoh Y, Tsuchida T, Aisu N, Takahashi H, Mizuno K: Sleep Apnea Syndrome Leads to Nighttime Hypertension through Hypercapnia in Patients with Acute Myocardial Infarction. 日本循環器学会学術総会 (第74回) (京都), 2010. 3.

#### (1) シンポジウム:

- 1) 高橋 啓, 福間長知, 加藤和代, 加藤祐子, 菅谷寿理<sup>1)</sup>, 佐藤淳子<sup>1)</sup>, 吉田由紀子<sup>1)</sup>, 平野美子<sup>1)</sup>, 加藤政利<sup>1)</sup>, 会田智弘<sup>1)</sup>, 吉澤剛幸<sup>2)</sup>, 水野杏一 ( <sup>1)</sup> 生理機能センター, <sup>2)</sup> リウマチ科理学療法室): 慢性心不全患者心臓リハビリにおける内皮機能改善効果について: 拡張性心不全と収縮性心不全の比較検討. 日本心臓リハビリテーション学会 (第17回), 2011. 7.
- 2) Nakagomi A<sup>1)</sup>, Kosugi M<sup>1)</sup>, Shibui T<sup>1)</sup>, Kusama Y<sup>1)</sup>, Atarashi H<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1)</sup> Tama-Nagayama Hospital): Prognostic Value of Exercise Stress Myocardial Perfusion Imaging in Patients with Vasospastic Angina. 日本循環器学会学術集會 (第75回) (横浜), 2011. 8.
- 3) 稲見 徹<sup>1)</sup>, 清野精彦<sup>1)</sup>, 水野杏一 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院): 睡眠時無呼吸症候群と大動脈解離における偽腔形成の関

- 連. 日本心臓病学会 (第 59 回), 2011. 9.
- 4) 福岡長知, 林 寛子, 菅谷寿理<sup>1)</sup>, 加藤和代, 加藤祐子, 高橋 啓, 水野杏一 ( <sup>1)</sup> 生理機能センター) : 心筋梗塞後の心血管リスクとしての睡眠時無呼吸. 日本心臓病学会 (第 59 回), 2011. 9.
  - 5) 太良修平, 宮本正章, 桐木園子, 高木 元, 高野仁司, 高木郁代, 安武正弘, 水野杏一 : 末梢動脈疾患に対する非侵襲的治療法の確立 : 低出力体外衝撃波の可能性. 日本心臓病学会 (第 59 回), 2011. 9.
  - 6) 鈴木浩臣<sup>1)</sup>, 坪 宏一<sup>1)</sup>, 青景聡之<sup>1)</sup>, 渋井俊之<sup>1)</sup>, 宮地秀樹<sup>1)</sup>, 村田広茂<sup>1)</sup>, 細川雄亮<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>2)</sup>, 水野杏一, 田中啓治<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 集中治療室, <sup>2)</sup> 武蔵小杉) : 大動脈解離発症に関する嚢胞性腎疾患の関与の検討. 日本脈管学会 (第 52 回), 2011. 10.
  - 7) 高野雅充<sup>1)</sup>, 村上大介<sup>1)</sup>, 清野精彦<sup>1)</sup>, 稲見茂信<sup>1)</sup>, 水野杏一 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院) : 血管内視鏡と OCT を用いた動脈硬化病変の観察. 日本心臓血管内視鏡学会 (第 25 回), 2011. 10.
  - 8) Hayashi M, Denjoy M<sup>1)</sup>, Hayashi M<sup>1)</sup>, Extramiana F<sup>1)</sup>, Katoh T, Leenhardt A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Hôpital Lariboisière, Paris, France) : Exercise-stress test for predicting genetic mutations and future cardiac events in asymptomatic young CPVT relatives. 日本心電学会 (第 28 回), 2011. 9.
  - 9) Takagi G, Miyamoto M, Tara S, Takano H, Takagi I, Kirinoki S, Yasutake M, Mizuno K : Total Management of Ischemic Wound in an Era of Therapeutic Angiogenesis. 日本循環器学会 (第 75 回) (横浜), 2011. 7.
  - 10) 稲見 徹<sup>1)</sup>, 清野精彦<sup>1)</sup>, 水野杏一 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院) : 睡眠時無呼吸症候群と大動脈解離における偽腔形成の関連性. 第日本心臓病学会 (第 59 回), 2011. 9.
  - 11) Takano H, Takayama M<sup>1)</sup>, Yasutake M, Mizuno K ( <sup>1)</sup> Sakakibara Heart Institute) : Economical Assessment of Transcatheter Aortic Valve Implantation. Cost-benefit Comparisons with Balloon Aortic Valvuloplasty and Medical Treatment. 日本循環器学会学術集会 (第 76 回), 2012. 3.
  - 12) Sato N<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1)</sup> Musashi-Kosugi Hospital) : Ideal Approaches to Improve the Managements of Cardiovascular Diseases in Japan : Consideration from Our Experiences. 日本循環器学会学術集会 (第 76 回), 2012. 3.
  - 13) Takahashi H, Fukuma N, Katoh Y, Katoh K, Hayashi H, Mizuno K : A New Treatment Strategy for Heart Failure with Preserved Ejection Fraction Patients by Introducing Cardiac Rehabilitations. 日本循環器学会学術集会 (第 76 回) (鹿児島), 2012. 3.
- (2) パネルディスカッション :
- 1) 高野仁司, 小宮山英徳, 山本良也, 羽田朋人, 水野杏一, 桐山智成<sup>1)</sup>, 福島善光<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 放射線科) : 負荷シンチグラムと冠動脈造影 CT 融合画像の臨床応用. 日本冠疾患学会 (第 25 回), 2011. 12.
  - 2) 高野雅充<sup>1)</sup>, 清野精彦<sup>1)</sup>, 水野杏一 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院) : 侵襲的冠動脈イメージング診断の臨床応用. 日本冠疾患学会 (第 25 回), 2011. 12.
- (3) ポスターセッション :
- 1) 時田祐吉, 大野忠明, 松崎つや子<sup>1)</sup>, 本間 博, 水野杏一 ( <sup>1)</sup> 生理機能センター) : 非心臓手術周術期リスク評価におけるドプタミン負荷心エコーと multidetector CT との比較. 日本心エコー図学会 (第 22 回), 2011. 4.
  - 2) 松崎つや子<sup>1)</sup>, 本間 博, 大野忠明, 時田祐吉, 藤本啓志, 佐藤丞子, 横島友子, 伊藤恵子, 水野杏一 ( <sup>1)</sup> 生理機能センター) : 経胸壁心エコー・ドプラ法による上行大動脈壁硬度の評価 : augmentation index との比較. 日本心エコー図学会 (第 22 回), 2011. 4.
  - 3) Tsuboi I, Miyauchi Y, Hayashi M, Takahashi K, Uetake S, Hayashi H, Nakatsuji A, Murata H, Yamamoto T, Horie T, Katoh T, Mizuno K : Intravenous Adenosine Reveals Arrhythmogenic Foci in Patients with Atrial Fibrillation Undergoing Radiofrequency Catheter Ablation. AHA 2011 (Orlando,USA), 2011. 11.

- 4) Kawamoto C, Manaka K<sup>1)</sup>, Yamauchi A<sup>2)</sup>, Kaneko K, Miyamoto A, Shimizu S, Mizuno K ( <sup>1)</sup> Institute of International Education and Research, Dokkyo Medical University, Tochigi, <sup>2)</sup> Saitama Yorii Hospital) : Observation of bubbles and detection of hepatocytes in portral vein during radiofrequency ablation. European Association for The Study of The Liver. The International Liver Congress 2011 (Berlin, Germany), 2011. 4.
- 5) Kawamoto C, Manaka K<sup>1)</sup>, Yamauchi A<sup>2)</sup>, Kaneko K, Miyamoto A, Shimizu S, Mizuno K ( <sup>1)</sup> Institute of International Education and Research, Dokkyo Medical University, Tochigi, <sup>2)</sup> Saitama Yorii Hospital) : Observation of bubbles and detection of hepatocytes in the portral vein during radiofrequency ablation. Digestive Disease Week and the Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases 2011 (Chicago, USA), 2011. 5.
- 6) Kawamoto C, Manaka K<sup>1)</sup>, Yamauchi A<sup>2)</sup>, Kaneko K, Miyamoto A, Shimizu S ( <sup>1)</sup> Institute of International Education and Research, Dokkyo Medical University, Tochigi, <sup>2)</sup> Saitama Yorii Hospital) : Observation of bubbles and detection of hepatocytes in the portral vein during radiofrequency ablation. The 2nd Asia-Pacific Primary Liver Cancer Expert Meeting., 2011. 7.
- 7) Kawamoto C, Manaka K<sup>1)</sup>, Yamauchi A<sup>2)</sup>, Kaneko K, Miyamoto A, Shimizu S ( <sup>1)</sup> Institute of International Education and Research, Dokkyo Medical University, Tochigi, <sup>2)</sup> Saitama Yorii Hospital) : Hepatocytes migration into the portal vein during Radiofrequency ablation in porcine liver. The 62nd Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (San Francisco, USA), 2011. 11.
- 8) Kawamoto C, Manaka K<sup>1)</sup>, Yamauchi A<sup>2)</sup>, Kaneko K, Miyamoto A, Shimizu S ( <sup>1)</sup> Institute of International Education and Research, Dokkyo Medical University, Tochigi, <sup>2)</sup> Saitama Yorii Hospital) : Observation of bubbles and detection of hepatocytes in the portral vein during radiofrequency ablation. 9th APASL STC (Jeju, Korea), 2011. 12.
- 9) 名越澄子<sup>1)</sup>, 甲嶋洋平<sup>2)</sup>, 関根忠一<sup>3)</sup>, 中村郁夫<sup>4)</sup>, 原田容治<sup>5)</sup>, 斎藤 晃<sup>6)</sup>, 西川 稿<sup>7)</sup>, 五月女直樹<sup>8)</sup>, 川本智章, 関塚永一<sup>9)</sup>, 福屋裕嗣<sup>10)</sup>, 三宅 洋, 藤原研司, 持田 智 ( <sup>1)</sup> 埼玉医科大学消化器内科肝臓内科, <sup>2)</sup> さいたま赤十字病院消化器内科, <sup>3)</sup> 済生会川口総合病院消化器内科, <sup>4)</sup> 東京医科大学消化器内科, <sup>5)</sup> 戸田中央病院消化器内科, <sup>6)</sup> 西埼玉中央病院消化器内科, <sup>7)</sup> 上尾中央総合病院消化器科, <sup>8)</sup> 熊谷総合病院消化器内科, <sup>9)</sup> 埼玉病院消化器科, <sup>10)</sup> その他) : Genotype 2型のC型慢性肝炎に対するリバビリン併用 Peg-IFN  $\alpha$  2b 療法における SVR と HCV-RNA 陰性化時期及び治療期間との関連性. 第 47 回日本肝臓学会総会 (第 47 回), 2011. 6.
- 10) 宮元亮子, 金子恵子, 清水秀治, 川本智章, 水野杏一 : 肝細胞癌の診断に LOGIQ E9 を用いたポリリューム・ナビゲーションが有用であった 3 症例. 日本肝臓研究会 (第 47 回), 2011. 7.
- 11) 川本智章, 間中研一<sup>1)</sup>, 山内 篤<sup>2)</sup>, 金子恵子 ( <sup>1)</sup> 獨協医科大学国際教育研究施設研究支援センター, <sup>2)</sup> 埼玉よりい病院) : ラジオ波焼灼療法 : 肝内圧, バブルと剥離肝細胞の関係. 日本肝臓研究会 (第 47 回), 2011. 8.
- 12) 川本智章, 山内 篤<sup>1)</sup>, 宮元亮子, 金子恵子, 清水秀治, 間中研一<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 埼玉よりい病院, <sup>2)</sup> 獨協医科大学国際教育研究施設研究支援センター) : Leveen needle を用いたより安全なラジオ波焼灼療法 : 肝内圧, バブルと剥離肝細胞の関係. 日本消化器病学会大会 (第 53 回), 2011. 10.
- 13) 清水秀治, 宮元亮子, 金子恵子, 川本智章 : Peg-IFN/Ribavirin 併用療法抵抗性 C 型慢性肝炎における IFN  $\beta$  分割/Ribavirin 併用ブースター治療の効果. 日本肝臓学会大会 (第 15 回), 2011. 10.
- 14) Miyachi H<sup>1)</sup>, Yamamoto A<sup>1)</sup>, Otsuka T<sup>1)</sup>, Yoshikawa M<sup>1)</sup>, Kodani E<sup>1)</sup>, Endo Y<sup>1)</sup>, Nakagomi A<sup>1)</sup>, Kusama Y<sup>1)</sup>, Atarashi H<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1)</sup> Tama-Nagayama Hospita) : Impact of left ventricular dyssynchrony on left ventricular function in heart failure assessed by 99mTc-sestamibi gated myocardial scintigraphy. ACC 2011 (New Orleans, USA), 2011. 4.
- 15) Maruyama M, Boyoung J<sup>1)</sup>, Su-Kiat C<sup>1)</sup>, Katoh T, Mizuno K, Shien-Fong L<sup>1)</sup>, Peng-Sheng C<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Krannet Institute of Cardiology, Indiana University School of Medicine) : Importance of Intracellular Calcium Mem-

- brace Voltage Coupling Gain in Post-shockMentricular Arrhythmias. 日本心電図学会 (第28回), 2011. 9.
- 16) Kobayashi N<sup>1)</sup>, Hata N<sup>1)</sup>, Kume N<sup>2)</sup>, Shinada T<sup>1)</sup>, Shirakabe A<sup>1)</sup>, Kitamura M<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>3)</sup>, Mizuno K (1) Intensive Care Unit, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 2) Cardiovascular Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto, 3) Internal Medicine, Div. of Cardiology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital) : Solble Lectin-like Oxidized LDL Receptor-1 and High Sensitivity Troponin T as Diagnostic Biomarkers for Acute Coronary Syndrome : Improve Values by Combination Usage in Emergency Rooms. AHA 2011 (Orlando,USA), 2011. 11.
- 17) Kurihara O<sup>1)</sup>, Yamamoto M<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>1)</sup>, Otsuka T<sup>2)</sup>, Negishi K<sup>1)</sup>, Inami T<sup>1)</sup>, Murakami D<sup>1)</sup>, Okamoto K<sup>1)</sup>, Takano M<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Ibuki C<sup>1)</sup>, Mizuno K (1) Chiba Hokusoh Hospital, 2) Hygiene and Public Health) : Detection of high risk plaque associated with periprocedural myocardial injury following percutaneous coronary intervention assessed by high-sensitivity troponin-T and optical coherence tomography. ESC (Paris), 2011. 8.
- 18) Munakata R, Sato N, Kajimoto K<sup>1)</sup>, Aokage T, Murai K<sup>2)</sup>, Asai K, Tanaka K, Mizuno K, Kasanuki H, Takano T (1) Sensouji Hospital, 2) Chiba Hokusoh Hospital, 3) Waseda University) : No Impact of revascularization on short term mortality in ischemic acute heart failure : a report from ATTEND registry. ESC (Paris), 2011. 8.
- (4) ポスター :
- 1) 宮地秀樹<sup>1)</sup>, 坏 宏一<sup>1)</sup>, 鈴木浩臣<sup>1)</sup>, 青景聡之<sup>1)</sup>, 村田広茂<sup>1)</sup>, 細川雄亮<sup>1)</sup>, 鈴木 学<sup>1)</sup>, 宗像 亮<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 水野杏一 (1) 集中治療室) : 短期間で著明な瘤径拡大が認められた感染性大動脈瘤に対しステントグラフト内挿術が有用であった2例. 日本血管内治療学会 (第17回), 2011. 6.
- 2) Itakura H<sup>1)</sup>, Nakaya N<sup>2)</sup>, Odawara N<sup>3)</sup>, Morishita R<sup>4)</sup>, Yoshida M<sup>5)</sup>, Ichihara A<sup>6)</sup>, Mizuno K, Kusunoki T<sup>7)</sup> (1) Ibaraki Christian Univ., 2) Nakaya Clinic, 3) Tokyo Medical Univ., 4) Osaka Univ., 5) Tokyo Medical and Dental Univ., 6) Keio Univ., 7) Japanese society for Pharmacoepidemiology) : Impact of accumulated factors for metabolic syndrome on cardiac and cerebral events in patients with hypercholesterolemia in a study of long-term administration of fluvastatin (LEM study). 日本動脈硬化学会 (第43回), 2011. 7.
- 3) 西城由之<sup>1)</sup>, 小谷英太郎<sup>1)</sup>, 小橋啓一<sup>1)</sup>, 小杉宗範<sup>1)</sup>, 加藤活人<sup>1)</sup>, 渋谷俊之<sup>1)</sup>, 進藤朝子<sup>1)</sup>, 吉川雅智<sup>1)</sup>, 中込明裕<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 新 博次<sup>1)</sup>, 水野杏一 (1) 多摩永山病院) : 発作時の緊急冠動脈造影にて一過性の側副血行を認めた冠攣縮性狭心症の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第221回), 2011. 9.
- 4) 高橋健太, 池田真利子, 黄 俊憲, 松下誠人, 久保田芳明, 中村俊一, 堀江 格, 稲見茂信, 小野卓哉, 加藤貴雄, 水野杏一 : 眩暈の鑑別診断に難渋した体位性起立頻脈症候群の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第221回), 2011. 9.
- 5) 加納誠士<sup>1)</sup>, 山本真功<sup>1)</sup>, 栗原 理<sup>1)</sup>, 木股伸恒<sup>1)</sup>, 白壁章宏<sup>1)</sup>, 稲見 徹<sup>1)</sup>, 村井綱児<sup>1)</sup>, 村上大介<sup>1)</sup>, 澁川顕司<sup>1)</sup>, 阿部純子<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 丸山光紀<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 雪吹周生<sup>1)</sup>, 清野精彦<sup>1)</sup>, その他1名 (1) 千葉北総病院) : 治療方針決定に難渋し肺血栓症を反復発症した外国人旅行男性の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第221回), 2011. 9.
- 6) 鈴木浩臣<sup>1)</sup>, 坏 宏一<sup>1)</sup>, 青景聡之<sup>1)</sup>, 村田広茂<sup>1)</sup>, 宮地秀樹<sup>1)</sup>, 鈴木 学<sup>1)</sup>, 細川雄亮<sup>1)</sup>, 宗像 亮<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 水野杏一 (1) 集中治療室) : 急性大動脈解離における嚢胞性腎疾患の関与の検討. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第221回), 2011. 9.
- 7) Inami T<sup>1)</sup>, Yamamoto M<sup>1)</sup>, Kurihara O<sup>1)</sup>, Kimata N<sup>1)</sup>, Murai K<sup>1)</sup>, Murakami D<sup>1)</sup>, Takano M<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Ibuki C<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>1)</sup>, Mizuno K (1) Chiba-Hokusoh Hospital) : Delayed endothelialization of polytetrafluoroethylene-covered stent by coronary angiography and oct. 日本心血管インターベンション治療学会 (第17回), 2011. 7.

- 8) Shimura T<sup>1)</sup>, Murakami D<sup>1)</sup>, Yamamoto M<sup>1)</sup>, Inami T<sup>1)</sup>, Murai K<sup>1)</sup>, Takano M<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Ibuki C<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1</sup> Chiba-Hokusoh Hospital) : A possibility of early stenotic progression due to lipidic plaque disruption underreceiving appropriate medical therapy. 日本心血管インターベンション治療学会 (第 17 回), 2011. 7.
- 9) Murakami D<sup>1)</sup>, Yamamoto M<sup>1)</sup>, Kimata N<sup>1)</sup>, Inami T<sup>1)</sup>, Murai K<sup>1)</sup>, Takano M<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Ibuki C<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1</sup> Chiba-Hokusoh Hospital) : Endothelial dysfunction after ses implantation remains even in long term follow-up. 日本心血管インターベンション治療学会 (第 17 回), 2011. 7.
- 10) Kobayashi N<sup>1)</sup>, Hata N<sup>1)</sup>, Kume N<sup>3)</sup>, Seino Y<sup>2)</sup>, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Shinada T<sup>1)</sup>, Tomita K<sup>1)</sup>, Kitamura M<sup>1)</sup>, Shirakabe A<sup>1)</sup>, Nozaki A<sup>1)</sup>, Tokuyama H<sup>1)</sup>, Inami T<sup>2)</sup>, Mizuno K ( <sup>1</sup> Intensive Care Unit, Chiba-Hokusoh Hospital, <sup>2)</sup> Chiba-Hokusoh Hospital, <sup>3)</sup> Cardiovasclar Medicine Graduate School of Medicine,Kyoto University) : Matrix Metalloproteinase-9 is a Sensitive and Specific Biomarker for Acute Coronary Syndrome at the Earliest Stage : Comparison with Troponin T. 日本循環器学会学術集会 (第 75 回) (横浜), 2011. 8.
- 11) Kurihara O<sup>1)</sup>, Yamamoto M<sup>1)</sup>, Takano M<sup>1)</sup>, Kimata N<sup>1)</sup>, Inami T<sup>1)</sup>, Murai K<sup>1)</sup>, Murakami D<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Ibuki C<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1</sup> Chiba-Hokusoh Hospital) : Continual Delayed Arterial Healing 5 Years after the Implantation of Sirolimus-Eluting Stents : Serial Observations by Coronary Angioscopy. 日本循環器学会学術集会 (第 75 回) (横浜), 2011. 8.
- 12) Saito T, Asai K, Takano H, Takahashi H, Takagi G, Saito S<sup>1)</sup>, Fukuda Y<sup>2)</sup>, Mizuno K ( <sup>1</sup> Central Instityute for Electron Microscopic Researches, <sup>2)</sup> Pathology) : Autophagic Myocardial Degeneration and Clinical Implication in Obesity Cardiomyopathy as an Appropriate Model of Load-induced Heart Disease. 日本循環器学会学術集会 (第 75 回) (横浜), 2011. 8.
- 13) Murakami D<sup>1)</sup>, Takano M<sup>1)</sup>, Yamamoto M<sup>1)</sup>, Kimata N<sup>1)</sup>, Inami T<sup>1)</sup>, Murai K<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Ibuki C<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>1)</sup> ( <sup>1</sup> Chiba-Hokusoh Hospital) : ACE-I or ARB Have a Potential Effect to Improve Endothelial Dysfunction 6 Months after SES Implantation. 日本循環器学会学術集会 (第 75 回) (横浜), 2011. 8.
- 14) Katoh K<sup>1)</sup>, Nakagomi A<sup>1)</sup>, Kosugi M<sup>1)</sup>, Shibui T<sup>1)</sup>, Kusama Y<sup>1)</sup>, Seino K<sup>2)</sup>, Atarashi H<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1</sup> Tama-Nagayama Hospital, <sup>2)</sup> Chiba-Hokusoh Hospital) : Relation of Serum Cholesterol and Monocvte Tumor Necrosis Factor Production to Long-term Prognosis in Patients with Chronic Heart Failure. 日本循環器学会学術集会 (第 75 回) (横浜), 2011. 8.
- 15) Tsuboi I, Miyauchi Y, Hayashi M, Horie T, Murata H, Yamamoto T, Hayashi H, Uetake S, Takahashi K, Nakatsuji A, Katoh T, Mizuno K : Intravenous Adenosine Quickly Reveals Arrhythmogenic Foci in Patients with Atrial Fibrillation Undergoing Radiofrequency Catheter Ablation. 日本循環器学会学術集会 (第 75 回) (横浜), 2011. 8.
- 16) Kitamura M<sup>1)</sup>, Takayama M<sup>2)</sup>, Amano Y<sup>3)</sup>, Nakamura S, Takano H, Asai K, Hirayama Y, Hata N<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1</sup> Intensive Care Unit, Chiba-Hokusoh Hospital, <sup>2)</sup> Sakakibara Heart Institute, <sup>3)</sup> Radiology) : Cardiac Magnetic Resonance Analysis Demonstrates Effectiveness of Cibenzoline for Modest Hypertrophy of the Left Ventricle in Symptomatic Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy. 日本循環器学会学術集会 (第 75 回) (横浜), 2011. 8.
- 17) Kato M<sup>1)</sup>, Fukuma N, Sugaya J<sup>1)</sup>, Aida T<sup>1)</sup>, Hayashi H, Katoh K, Katoh Y, Aisu N, Takahashi H, Honma H, Mizuno K ( <sup>1</sup> Physiological Examination Center) : Central Sleep Apnea Leads to Abnormal Time Course of Arterial Carbon Dioxide Pressure during Exercise in Patients with Heart Disease. 日本循環器学会学術集会 (第 75 回) (横浜), 2011. 8.
- 18) Ibuki C<sup>1)</sup>, Otsuka T<sup>2)</sup>, Seino Y<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1</sup> Chiba Hokusoh Hospital, <sup>2)</sup> Hygiene and Public Health) :

- Obesity is an Independent Determinant of Nocturnal Blood Pressure Lowering with Addition of Hydrochlorothiazide as the Fixed-dose Combination with Losartan. 日本循環器学会学術集会 (第75回) (横浜), 2011. 8.
- 19) Ogano M<sup>1)</sup>, Tanabe J<sup>1)</sup>, Shiiba K<sup>1)</sup>, Manabe H<sup>1)</sup>, Kawanaka H<sup>1)</sup>, Takagi H<sup>2)</sup>, Horie T, Hayashi M, Miyuchi Y, Katoh T, Mizuno K ( <sup>1</sup> Shizuoka Medical Center, <sup>2</sup> Cardiovascular Surgery Shizuoka Medical Center) : Effect of Cardiac Resynchronization Therapy on Myocardial Perfusion Assessed by ECD-gated SPECT in Patients with Left Bundle Branch Block. 日本循環器学会学術集会 (第75回) (横浜), 2011. 8.
- 20) Okazaki H, Inami S, Horibe A<sup>1)</sup>, Nakajima M<sup>1)</sup>, Asako T<sup>2)</sup>, Watanabe A<sup>3)</sup>, Takagi G, Takano H, Miyuchi Y, Asai K, Yasutake M, Takahashi H<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1</sup> Meiji Pharmaceutical University, <sup>2</sup> Pharmaceuticals, <sup>3</sup> Clinical Genetics) : The Determinant Factors to Influence on the Warfarin Adjustment Period. 日本循環器学会学術集会 (第75回) (横浜), 2011. 8.
- 21) Yoshida A, Takano H, Takagi G, Inami S, Tajika K, Tara S, Yasutake M, Amano Y<sup>1)</sup>, Kumita S<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1</sup> Radiology) : Evaluation of Abnormal Fatty-acid Metabolism and Myocardial Fibrosis by Cardiac Imagings in Patients with Dilated Cardiomyopathy. 日本循環器学会学術集会 (第75回) (横浜), 2011. 8.
- 22) Setsuta K<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>2)</sup>, Mizuno K ( <sup>1</sup> Komagome Hospital, <sup>2</sup> Chiba hokusoh Hospital) : Clinical Significance of Elevated Levels of High Sensitive Cardiac Troponin T in Hypertensive Patients. 日本循環器学会学術集会 (第75回) (横浜), 2011. 8.
- 23) Mizuno M<sup>1)</sup>, Kajimoto K<sup>2)</sup>, Satoh N<sup>3)</sup>, Yumino D<sup>4)</sup>, Minami Y<sup>4)</sup>, Asai K, Munakata R<sup>3)</sup>, Murai K<sup>3)</sup>, Aokage T<sup>3)</sup>, Keida T<sup>5)</sup>, Sakata Y<sup>6)</sup>, Tanaka K<sup>3)</sup>, Mizuno K, Kasanuki H<sup>4)</sup>, Takano T ( <sup>1</sup> Saitamaken Saiseikai Kurihashi Hospital, <sup>2</sup> Sensoji Hospital, <sup>3</sup> Intensive care unit, <sup>4</sup> Tokyo Women's Medical University, <sup>5</sup> Edogawa Hospital, <sup>6</sup> Osaka University Hospital) : Age-related Differences in Patients with Acute Decompensated Heart Failure Syndromes : A Report from the ATTEND registry. 日本循環器学会学術集会 (第75回) (横浜), 2011. 8.
- 24) Sangen H, Takano H, Tokita Y, Katoh K, Yamamoto T<sup>1)</sup>, Aoki S, Asai K, Satoh N<sup>1)</sup>, Yasutake M, Tanaka K<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1</sup> Intensive care unit) : Coronary Spastic Acute Myocardial Infarction. What is the Optimal Treatment for Secondary Prevention?. 日本循環器学会学術集会 (第75回), 2011. 8.
- 25) Miyatake Y, Fukumoto H, Mizuno K : Predictors of Sustained Smoking Cessation after Discharge in Patients with Cardiovascular Disease : Research on Outpatients and Rehospitalized Patients. 日本循環器学会学術集会 (第75回) (横浜), 2011. 8.
- 26) Tokita Y<sup>1)</sup>, Satoh N<sup>1)</sup>, Otsuka T<sup>2)</sup>, Hosokawa Y<sup>1)</sup>, Munakata R<sup>1)</sup>, Akutsu K<sup>1)</sup>, Yamamoto T<sup>1)</sup>, Tanaka K<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1</sup> Intensive care unit, <sup>2</sup> Hygiene and Public Health) : Additional Rapid Bedside Measurement of N-terminal pro-BNP Improves the Diagnostic Ability for Acute Ischemic Heart Failure on Admission. 日本循環器学会学術集会 (第75回) (横浜), 2011. 8.
- 27) Dai Y<sup>1)</sup>, Minami Y<sup>1)</sup>, Satoh N<sup>2)</sup>, Kajimoto K<sup>3)</sup>, Mizuno M<sup>1)</sup>, Asai K, Murai K<sup>2)</sup>, Munakata R<sup>2)</sup>, Aokage T<sup>2)</sup>, Sakata Y<sup>4)</sup>, Keida T<sup>5)</sup>, Tanaka K<sup>2)</sup>, Mizuno K, Hagiwara N<sup>1)</sup>, Kasanuki H<sup>6)</sup>, et al. ( <sup>1</sup> Tokyo Women's Medical University, <sup>2</sup> Intensive care unit, <sup>3</sup> Sensoji Hospital, <sup>4</sup> Osaka University, <sup>5</sup> Edogawa Hospital, <sup>6</sup> WASEDA University) : Does Any Case Require Intravenous Inotropic Agents in Acute Heart Failure Syndromes with Lower Blood Pressure?. 日本循環器学会学術集会 (第75回) (横浜), 2011. 8.
- 28) Hayashi H, Hayashi M, Miyuchi Y, Takahashi K, Tsuboi I, Uetake S, Nakatsuji A, Yamamoto T, Murata H, Horie T, Katoh T, Kyoichi M : Radiofrequency Catheter Ablation for Atrial Fibrillation in Patients with Hypertrophic Cardiomyopathy. 日本循環器学会学術集会 (第75回) (横浜), 2011. 8.
- 29) 大野忠明, 本間 博, 黄 俊憲, 吉永 綾, 田中貴久, 時田祐吉, 松崎つや子<sup>1)</sup>, 新田 隆<sup>2)</sup>, 水野杏一 ( <sup>1</sup> 生

- 理機能センター, <sup>2)</sup> 心臓血管外科) : 重症心不全に対する心臓再同期療法と僧帽弁外科治療法併用の有用性の検討. 日本心臓病学会 (第 59 回), 2011. 9.
- 30) 福岡長知, 菅谷寿理<sup>1)</sup>, 林 寛子, 加藤和代, 加藤祐子, 高橋 啓, 水野杏一 (<sup>1)</sup> 生理機能センター) : 心筋梗塞後の抑うつと介入に関する検討. 日本心臓病学会 (第 59 回), 2011. 9.
- 31) 久保田芳明, 高木 元, 青木 聡, 安武正弘, 宮本正章, 水野杏一 : 2 型糖尿病症例におけるシタグリプチンの血管内皮機能に及ぼす影響. 日本心臓病学会 (第 59 回), 2011. 9.
- 32) 加藤政利<sup>1)</sup>, 福岡長知, 菅谷寿理<sup>1)</sup>, 会田智弘<sup>1)</sup>, 斉藤公一<sup>1)</sup>, 林 寛子, 加藤和代, 加藤祐子, 愛須紀子, 高橋 啓, 水野杏一 (<sup>1)</sup> 生理機能センター) : 心疾患患者における中枢性睡眠時無呼吸は運動負荷中の炭酸ガス分圧と関連する. 日本心臓病学会 (第 59 回), 2011. 9.
- 33) 西城由之<sup>1)</sup>, 中込明裕<sup>1)</sup>, 小橋啓一<sup>1)</sup>, 小杉宗範<sup>1)</sup>, 進藤朝子<sup>1)</sup>, 吉川雅智<sup>1)</sup>, 小谷英太郎<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 新 博次<sup>1)</sup>, 水野杏一 (<sup>1)</sup> 多摩永山病院) : 異型狭心症患者における心事故増加には炎症反応が深く関与する. 日本心臓病学会 (第 59 回), 2011. 9.
- 34) 西郡綾子, 高橋 啓, 久保田芳明, 池田 健, 水野杏一 : 抜歯後リンパ節腫張を伴う発熱を来とし, 菊池病と診断した 1 例. 日本医科大学医学会総会 (第 79 回), 2011. 9.
- 35) 西城由之<sup>1)</sup>, 小谷英太郎<sup>1)</sup>, 小橋啓一<sup>1)</sup>, 森澤太一郎<sup>1)</sup>, 小杉宗範<sup>1)</sup>, 進藤朝子<sup>1)</sup>, 吉川雅智<sup>1)</sup>, 中込明裕<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 新 博次<sup>1)</sup>, 水野杏一 (<sup>1)</sup> 多摩永山病院) : 冠動脈 CT 撮影時に冠攣縮自然発作による冠動脈閉塞が確認された冠攣縮性狭心症の 1 例. 日本心血管画像動態学会 (第 22 回), 2012. 1.
- 36) Shirakabe A<sup>1)</sup>, Hata N<sup>1)</sup>, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Shinada T<sup>1)</sup>, Kobayashi N<sup>1)</sup>, Tomita K<sup>1)</sup>, Kitamura M<sup>1)</sup>, Nozaki A<sup>1)</sup>, Asai K, Mizuno K (<sup>1)</sup> Intensive Care Unit, Chiba Hokusoh Hospital) : Acid-base balance in the emergency setting can predict the prognosis of patients with acute heart failure. ESC Heart Failure (Gothenburg), 2011. 5.
- 37) Kobayashi N<sup>1)</sup>, Hata N<sup>1)</sup>, Takano M<sup>2)</sup>, Kume N<sup>3)</sup>, Yamamoto M<sup>2)</sup>, Shinada T<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>2)</sup>, Mizuno K (<sup>1)</sup> Cardiovascular Center, Chiba Hokusoh Hospital, <sup>2)</sup> Intensive Care Unit, Chiba Hokusoh Hospital, <sup>3)</sup> Department of Cardiovascular Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto Univ.) : Can Biomarker Predict Coronary Plaque Rupture? An Optical Coherence Tomography Study. ESC (Paris), 2011. 8.
- 38) Shirakabe A<sup>1)</sup>, Hata N<sup>1)</sup>, Shinada T<sup>1)</sup>, Kobayashi N<sup>1)</sup>, Tomita K<sup>1)</sup>, Kitamura M<sup>1)</sup>, Matsushita M<sup>1)</sup>, Asai K, Mizuno K (<sup>1)</sup> Intensive Care Unit, Chiba Hokusoh Hospital) : Prognostic Impact of Clinical Scenarios (CS) and Acid-Base Balance in Patients with Acute Heart Failure. 日本心不全学会 (第 15 回), 2011. 10.
- 39) Matsushita M<sup>1)</sup>, Shirakabe A<sup>1)</sup>, Izumi Y<sup>1)</sup>, Kitamura M<sup>1)</sup>, Tomita K<sup>1)</sup>, Kobayashi N<sup>1)</sup>, Shinada T<sup>1)</sup>, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Hata N<sup>1)</sup>, Mizuno K (<sup>1)</sup> Intensive Care Unit, Chiba Hokusoh Hospital) : Relationship between Clinical Findings on Admission and Visiting Time in Patients with Acute Heart Failure. 日本心不全学会 (第 15 回), 2011. 10.
- 40) Shirakabe A<sup>1)</sup>, Hata N<sup>1)</sup>, Shinada T<sup>1)</sup>, Kobayashi N<sup>1)</sup>, Tomita K<sup>1)</sup>, Kitamura M<sup>1)</sup>, Matsushita M<sup>1)</sup>, Asai K, Mizuno K (<sup>1)</sup> Intensive Care Unit, Chiba Hokusoh Hospital) : Prognostic Impact After Acute Kidney Injury in Patients with Acute Heart Failure : An evaluation of the RIFLE Criteria. AHA (Orlando), 2011. 11.
- 41) Kobayashi N<sup>1)</sup>, Hata N<sup>1)</sup>, Kume N<sup>2)</sup>, Shinada T<sup>1)</sup>, Kitamura M<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>3)</sup>, Mizuno K (<sup>1)</sup> Intensive Care Unit, Chiba Hokusoh Hospital, <sup>2)</sup> Cardiovascular Center, Chiba Hokusoh Hospital, <sup>3)</sup> Department of Cardiovascular Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto Univ.) : Biomarkers for Acute Coronary Syndrome : Improved Values by Combination Usage in Emergency Rooms. AHA (Orlando), 2011. 11.
- 42) 黄 俊憲, 大野忠明, 本間 博, 田中貴久, 時田祐吉, 佐藤丞子, 横島友子, 水野杏一, 松崎つや子<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 生理機能センター) : 脳梗塞症例における大動脈弁上に観察された索状構造物. 日本超音波学会 (第 84 回), 2011.

5.

- 43) 川本智章：ハンズオンセッション（ラジオ波焼灼療法）講師. 日本肝癌研究会（第47回），2011. 7.
- 44) 稲見茂信：抗血小板薬の最近の話題. 日本循環器心身医学会（第68回），2011. 11.
- 45) Tsukada Y, Tokita Y, Mizuno K, Yamamoto T<sup>1</sup>, Tanaka K<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> Intensive care unit ) : Recent Trends of Cardiovascular Disease in Women. A Twenty-Four Year Analysis of the Patients Hospitalized for Coronary Care Unit. 日本循環器学会学術集会（第76回）（鹿児島），2012. 3.
- 46) Shimura T<sup>1</sup>, Takano M<sup>1</sup>, Murakami D<sup>1</sup>, Yamamoto M<sup>1</sup>, Kurihara O<sup>1</sup>, Kimata N<sup>1</sup>, Inami T<sup>1</sup>, Munakata R<sup>1</sup>, Ohba T<sup>1</sup>, Seino Y<sup>1</sup>, Mizuno K ( <sup>1</sup> Chiba-Hokusoh Hospital ) : Six-month Follow-up Evaluation for Everolimus-Eluting Stents by Intracoronary Optical Coherence Tomography : Comparison with Paclitaxel-eluting Stents. 日本循環器学会学術集会（第76回）（鹿児島），2012. 3.
- 47) Horie T, Miyauchi Y, Takahashi K, Uetake S, Tsuboi I, Hayashi H, Yamamoto T, Murata H, Yodogawa K, Hayashi M, Katoh T, Mizuno K : Three Subtypes of Cavotricuspid Isthmus Dependent Atrial Flutter as Revealed by Threedimensional Post-pacing Interval Mapping. 日本循環器学会学術集会（第76回）（鹿児島），2012. 3.
- 48) Nakamura S, Yasutake M, Yoshida A, Tara S, Murai K, Tokita Y, Inami T, Takagi G, Takano H, Asai K, Mizuno K : Significance of Nonalcoholic Fatty Liver Disease in Patients with Acute Coronary Syndrome and Stable Angina Pectoris. 日本循環器学会学術集会（第76回）（鹿児島），2012. 3.
- 49) Takahashi N<sup>1</sup>, Ishikawa M<sup>1</sup>, Hanaoka D<sup>1</sup>, Nakama K<sup>1</sup>, Tokuyama H<sup>1</sup>, Tanaka T<sup>1</sup>, Kikuchi A<sup>1</sup>, Yamamoto E<sup>1</sup>, Amitani K<sup>1</sup>, Uchida T<sup>1</sup>, Satoh N<sup>1</sup>, Munakata K<sup>1</sup>, Mizuno K ( <sup>1</sup> Musashikosugi Hospital ) : Transient Myocardial Ischemia Induced Left Ventricular Dyssynchrony in Patients with Coronary Artery Disease. 日本循環器学会学術集会（第76回）（鹿児島），2012. 3.
- 50) Igawa O<sup>1</sup>, Okazaki R<sup>1</sup>, Kawaguchi N<sup>1</sup>, Kodani E<sup>1</sup>, Kusama Y<sup>1</sup>, Adachi M<sup>2</sup>, Atarashi H<sup>1</sup>, Mizuno K ( <sup>1</sup> Tama-Nagayama Hospital, <sup>2</sup> Tottori University ) : Possibility of the Treatment of Ventricular Tachycardia Originating from Right Ventricular Outflow Tract Using Catheter Ablation within Non-coronary Aortic Sinus. 日本循環器学会学術集会（第76回）（鹿児島），2012. 3.
- 51) Kosugi M<sup>1</sup>, Nakagomi A<sup>1</sup>, Akiya M<sup>1</sup>, Hara C<sup>1</sup>, Morisawa T<sup>1</sup>, Saiki Y<sup>1</sup>, Kohashi K<sup>1</sup>, Shindoh A<sup>1</sup>, Yoshikawa M<sup>1</sup>, Kodani E<sup>1</sup>, Kusama Y<sup>1</sup>, Atarashi H<sup>1</sup>, Mizuno K ( <sup>1</sup> Tama-Nagayama Hospital ) : Combined Prognostic Usefulness of C-Reactive Protein and Fibrinogen Levels in Patients with Vasospastic Angina. 日本循環器学会学術集会（第76回）（鹿児島），2012. 3.
- 52) Murai K, Satoh N<sup>1</sup>, Kajimoto K<sup>2</sup>, Asai K, Aokage M<sup>3</sup>, Munakata R<sup>3</sup>, Minami Y<sup>4</sup>, Yumino D<sup>4</sup>, Mizuno M<sup>4</sup>, Keida T<sup>5</sup>, Sakata Y<sup>6</sup>, Mizuno K, Takano T ( <sup>1</sup> Musashikosugi Hospital, <sup>2</sup> Sensouzi Hospital, <sup>3</sup> Tokyo Women's Medical University, <sup>4</sup> Edogawa Hospital, <sup>5</sup> Osaka University, <sup>6</sup> Intensive care unit ) : Importance of Checking Cool Extremities with Preserved Systolic Function in Acute Heart Failure Syndromes : A Report from ATTEND Registry. 日本循環器学会学術集会（第76回）（鹿児島），2012. 3.
- 53) Yodogawa K, Seino Y<sup>1</sup>, Tsuboi I, Takahashi K, Hayashi H, Uetake S, Murata H, Horie T, Hayashi M, Miyauchi Y, Ohara T, Katoh T, Mizuno K ( <sup>1</sup> Chiba Hokusoh Hospital ) : Prediction of Atrial Fibrillation after Ischemic Stroke Using High Resolution Electrocardiography. 日本循環器学会学術集会（第76回）（鹿児島），2012. 3.
- 54) Hayashi M, Murata H, Takahashi K, Tsuboi I, Uetake S, Hayashi H, Horie T, Yodogawa K, Katoh T, Mizuno K : Emergency Catheter Ablation for Ventricular Tachyarrhythmias in Patients with Acute Heart Failure Decompensation. 日本循環器学会学術集会（第76回）（鹿児島），2012. 3.
- 55) Igawa O<sup>1</sup>, Okazaki R<sup>1</sup>, Kawaguchi N<sup>1</sup>, Kodani E<sup>1</sup>, Kusama Y<sup>1</sup>, Adachi M<sup>2</sup>, Atarashi H<sup>1</sup>, Mizuno K

- (<sup>1</sup> Tama-Nagayama Hospital, <sup>2</sup> Tottori University) : Specific Histological Findings of the Left Atrial Posterior Wall in the Permanent Atrial Fibrillation, “Mosaic Myocyte Morphology”. 日本循環器学会学術集会 (第76回) (鹿児島), 2012. 3.
- 56) Kohashi K<sup>1</sup>, Nakagomi A<sup>1</sup>, Saiki Y<sup>1</sup>, Kosugi M<sup>1</sup>, Endoh I<sup>1</sup>, Endoh Y<sup>1</sup>, Kusama Y<sup>1</sup>, Atarashi H<sup>1</sup>, Mizuno K (<sup>1</sup> Tama-Nagayama Hospital) : Prognostic Value of the Serum Eicosapentaenoic Acid to Arachidonic Acid Ratio in Patients with Chronic Heart Failure. 日本循環器学会学術集会 (第76回) (鹿児島), 2012. 3.
- 57) Saitoh T, Asai K, Sato S<sup>1</sup>, Takano H, Takahashi H, Takagi G, Yasutake M, Mizuno K (<sup>1</sup> Central Institute for Electron Microscopic Researches) : Autophagic Vacuolization of Cardiomyocyte Predicts Good Prognosis in Early Phase of Dilated Cardiomyopathy. 日本循環器学会学術集会 (第76回) (鹿児島), 2012. 3.
- 58) Arao M<sup>1</sup>, Maruyama J<sup>1</sup>, Sekine M<sup>1</sup>, Setsuta K<sup>2</sup>, Mizuno K (<sup>1</sup> Tokyo Metropolitan Matsuzawa Hospital, <sup>2</sup> Komagome Hospital) : Trastuzumab-induced Cardiac Dysfunction is Predictable : A New Formula to Calculate Expected Reduction in Left Ventricular Ejection Fraction. 日本循環器学会学術集会 (第76回) (鹿児島), 2012. 3.
- 59) Nakamura S, Katoh K, Yoshida A, Tara S, Murai K, Tokita Y, Inami T, Takagi G, Takano H, Asai K, Yasutake M, Mizuno K, Ito H<sup>1</sup> (<sup>1</sup> National Institute of Mental Health) : Depression Comorbid with Anxiety Disorder Increase Cardiac Events and Mortality in Patients with Cardiac Diseases. 日本循環器学会学術集会 (第76回) (鹿児島), 2012. 3.
- 60) Ogano M<sup>1</sup>, Tanabe J<sup>1</sup>, Kawanaka H<sup>1</sup>, Takagi H<sup>1</sup>, Horie T, Iwasaki Y, Hayashi M, Miyauchi Y, Katoh T, Mizuno K (<sup>1</sup> Shizuoka Medical Center) : Is Triple-site Ventricular Stimulation Beneficial for All Candidates for Cardiac Resynchronization Therapy? Usefulness of Patient-tailored Assessment by Electrophysiological Study. 日本循環器学会学術集会 (第76回) (鹿児島), 2012. 3.
- 61) Murai K, Seino Y<sup>1</sup>, Kimata N<sup>1</sup>, Inami T<sup>1</sup>, Murakami D<sup>1</sup>, Abe J<sup>1</sup>, Yodogawa K, Takano M<sup>1</sup>, Ohba T<sup>1</sup>, Ibuki C<sup>1</sup>, Mizuno K (<sup>1</sup> Chiba Hokusoh Hospital) : Efficacy and Limitation of Oral Inotropic Agents for the Treatment of Chronic Heart Failure : Single Center Retrospective Analyses. 日本循環器学会学術集会 (第76回) (鹿児島), 2012. 3.
- 62) Kubota Y, Miyamoto M, Takagi G, Tanaka K, Yasutake M, Mizuno K : Sitagliptin Improves Endothelial Function with Increased Adiponectin and Decreased Asymmetric Dimethylarginine (ADMA) in Type 2 Diabetes. 日本循環器学会学術集会 (第76回) (鹿児島), 2012. 3.
- 63) Munakata R<sup>1</sup>, Satoh N<sup>2</sup>, Aokage T<sup>3</sup>, Murai K, Kajimoto K<sup>4</sup>, Minami Y<sup>5</sup>, Yumino D<sup>5</sup>, Mizuno M<sup>5</sup>, Keida T<sup>6</sup>, Mizuno K, Takano T (<sup>1</sup> Chiba-Hokusoh Hospital, <sup>2</sup> Musashikosugi Hospital, <sup>3</sup> Intensive Care Unit, <sup>4</sup> Sensouji Hospital, <sup>5</sup> Tokyo Women’s Medical University, <sup>6</sup> Edogawa Hospital) : Predictors of In-hospital Mortality in Ischemic Acute Heart Failure : A Report from the ATTEND Registry. 日本循環器学会学術集会 (第76回) (鹿児島), 2012. 3.
- 64) Kubota Y, Takahashi H, Yasutake M, Mizuno K : Direct Renin Inhibitor Improves Central Blood Pressure. 日本循環器学会学術集会 (第76回) (鹿児島), 2012. 3.
- 65) Igawa O<sup>1</sup>, Okazaki R<sup>1</sup>, Kawaguchi N<sup>1</sup>, Kodani E<sup>1</sup>, Kusama Y<sup>1</sup>, Adachi M<sup>2</sup>, Atarashi H<sup>1</sup>, Mizuno K (<sup>1</sup> Tama-Nagayama Hospital, <sup>2</sup> Tottori University) : The Rare Structure in the Left Atrium, “Myocardial Bridge”. 日本循環器学会学術集会 (第76回) (鹿児島), 2012. 3.
- 66) Setsuta K<sup>1</sup>, Seino Y<sup>2</sup>, Mizuno K (<sup>1</sup> Department of Cardiology and Clinical Laboratory, <sup>2</sup> Chiba Hokusoh Hospital) : Elevated Levels of Heart-Type Fatty Acid-Binding Protein Predict Adverse Outcomes in Hypertensive Patients. 日本循環器学会学術集会 (第76回) (鹿児島), 2012. 3.

- 67) Takahashi N<sup>1</sup>, Ishikawa M<sup>1</sup>, Kikuchi A<sup>1</sup>, Yamamoto E<sup>1</sup>, Amitani K<sup>1</sup>, Uchida T<sup>1</sup>, Sato N<sup>1</sup>, Munakata K<sup>1</sup>, Mizuno K (1 Musashikosugi Hospital) : Potential ability of hemodialysis therapy for improvement of left ventricular mechanical dyssynchrony in patients with end stage renal disease. ACC 2012 (Chicago, USA), 2012. 3.
- 68) Takahashi N<sup>1</sup>, Ishikawa M<sup>1</sup>, Kikuchi A<sup>1</sup>, Yamamoto E<sup>1</sup>, Amitani K<sup>1</sup>, Uchida T<sup>1</sup>, Sato N<sup>1</sup>, Munakata K<sup>1</sup>, Mizuno K (1 Musashikosugi Hospital) : Transient myocardial ischemia induced left ventricular mechanical dyssynchrony in patients with coronary artery disease. ACC 2012 (Chicago, USA), 2012. 3.
- 69) Kato K<sup>1</sup>, Yonetsu T<sup>1</sup>, Kim S<sup>1</sup>, Xing L<sup>1</sup>, McNulty I<sup>1</sup>, Yeh R<sup>1</sup>, Sakhuja R<sup>1</sup>, Lee H<sup>1</sup>, Zhang S<sup>1</sup>, Uemura S<sup>1</sup>, Yu B<sup>1</sup>, Mizuno K, Jang I<sup>1</sup> (1 Massachusetts General Hospital) : Non-culprit plaques in patients with acute coronary syndrome (ACS) have more vulnerable features compared to those with non-acs : a 3 vessel oct study. ACC 2012 (Chicago, USA), 2012. 3.
- 70) Kato K<sup>1</sup>, Yonetsu T<sup>1</sup>, Kim S<sup>1</sup>, Xing L<sup>1</sup>, McNulty I<sup>1</sup>, Yeh R<sup>1</sup>, Sakhuja R<sup>1</sup>, Lee H<sup>1</sup>, Zhang S<sup>1</sup>, Uemura S<sup>1</sup>, Yu B<sup>1</sup>, Mizuno K, Jang I<sup>1</sup> (1 Massachusetts General Hospital) : Coronary plaque characteristics in diabetic patients : a 3 vessel optical coherence tomography study. ACC 2012 (Chicago, USA), 2012. 3.
- 71) Kato K<sup>1</sup>, Yonetsu T<sup>1</sup>, Kim S<sup>1</sup>, Xing L<sup>1</sup>, McNulty I<sup>1</sup>, Yeh R<sup>1</sup>, Sakhuja R<sup>1</sup>, Lee H<sup>1</sup>, Zhang S<sup>1</sup>, Uemura S<sup>1</sup>, Yu B<sup>1</sup>, Mizuno K, Jang I<sup>1</sup> (1 Massachusetts General Hospital) : Optical coherence tomography findings immediately post-stent implantation and their clinical significance. ACC 2012 (Chicago, USA), 2012. 3.
- 72) Kimura Y<sup>1</sup>, Tanaka N<sup>1</sup>, Yamashina A<sup>1</sup>, Kawamoto T<sup>2</sup>, Yoshida K<sup>2</sup>, Tada T<sup>3</sup>, Kimura T<sup>3</sup>, Inami T<sup>4</sup>, Yoshino H<sup>4</sup>, Shindoh N<sup>5</sup>, Takano H, Mizuno K, Akabane M<sup>6</sup>, Takayama T<sup>6</sup>, Hirayama A<sup>6</sup> (1 Tokyō Medical University, 2 Kawasaki Medical School, 3 Kyoto University, 4 Kyorin University, 5 Niizashiki Chuo General Hospital, 6 Nippon University) : Unimprovable Fractional Flow Reserve (FFR) even after Drug Eluting Stent (DES) Implantation. 日本循環器学会学術集会 (第76回) (鹿児島), 2012. 3.
- 73) Kato M<sup>1</sup>, Fukuma N, Hayashi H, Katoh K, Aisu N, Takahashi H, Mizuno K (1 Physiological Examination Center) : Nighttime Decrease in Arterial Carbon Dioxide Pressure through Sleep Apnea Relates to Abnormality of CPX Parameters. 日本循環器学会学術集会 (第76回) (鹿児島), 2012. 3.
- 74) Aida T<sup>1</sup>, Fukuma N, Sugaya J<sup>1</sup>, Hayashi H, Katoh K, Aisu N, Takahashi H, Mizuno K (1 Physiological Examination Center) : Sleep Apnea Relates to Nighttime Arrhythmia through Abnormality of Arterial Pressure of Carbon Dioxide in Patients with Heart Disease. 日本循環器学会学術集会 (第76回) (鹿児島), 2012. 3.
- 75) 菅谷寿理<sup>1</sup>, 福岡長知, 会田智弘<sup>1</sup>, 加藤政利<sup>1</sup>, 齊藤公一<sup>1</sup>, 加藤和代, 高橋 啓, 水野杏一 (1 生理機能センター) : 多職種による食塩摂取量および関連する因子の管理. 日本循環器学会学術集会 (第76回) (鹿児島), 2012. 3.
- 76) Mizuno M<sup>1</sup>, Satoh N<sup>2</sup>, Kajimoto K<sup>3</sup>, Minami Y<sup>1</sup>, Yumino D<sup>1</sup>, Aokage T<sup>4</sup>, Munakata R<sup>4</sup>, Murai K<sup>4</sup>, Asai K, Keida T<sup>5</sup>, Sakata Y<sup>6</sup>, Tanaka K<sup>4</sup>, Mizuno K, Hagiwara N<sup>1</sup>, Kasanuki H<sup>1</sup>, et al.(1 Tokyo Women's Medical University, 2 Musashikosugi Hospital, 3 Sensoji Hospital, 4 Intensive Care Unit, 5 Edogawa Hospital, 6 Osaka University Hospital) : Intra Aortic Balloon Pump Counterpulsation for Acute Decompensated Heart Failure : An Analysis from the ATTEND Registry. 日本循環器学会学術集会 (第76回) (鹿児島), 2012. 3.
- 77) 会田智弘<sup>1</sup>, 福岡長知, 菅谷寿理<sup>1</sup>, 加藤政利<sup>1</sup>, 齊藤公一<sup>1</sup>, 林 寛子, 加藤和代, 愛須紀子, 高橋 啓, 水野杏一 (1 生理機能センター) : 急性心筋梗塞患者に対する尿中アルブミン検査の意義. 日本循環器学会学術集会 (第76回) (鹿児島), 2012. 3.

- 78) 加藤政利<sup>1)</sup>, 福岡長知, 菅谷寿理<sup>1)</sup>, 林 寛子, 加藤和代, 愛須紀子, 高橋 啓, 本間 博, 水野杏一<sup>(1)</sup> 生理機能センター): 心臓リハビリテーションとしての心疾患患者に対する呼吸機能のスクリーニング. 日本循環器学会学術集会 (第 76 回) (鹿児島), 2012. 3.
- (5) 一般講演:
- 1) 時田祐吉, 高野仁司, 中村俊一, 吉田明日香, 太良修平, 加藤浩司, 稲見茂信, 高木 元, 青木 聡, 浅井邦也, 安武正弘, 水野杏一: 冠動脈バイパス術後のグラフト不全患者のびまん性高度石灰化病変に対し Rotablator alone を施行した 1 例. 日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会 (第 38 回), 2011. 5.
  - 2) 丸山光紀<sup>1)</sup>, 淀川顕司<sup>1)</sup>, 阿部純子<sup>1)</sup>, 清野精彦<sup>1)</sup>, 山本哲平, 村田広茂, 堀江 格, 林 明聡, 宮内靖史, 小原俊彦, 八島正明, 加藤貴雄, 水野杏一, 新 博次<sup>2)</sup> (1) 千葉北総病院, 2) 多摩永山病院): QT 延長症候群モデルにおける第 3 相早期後脱分極の発生機序: 膜電位・細胞内カルシウム同時光学的マッピングによる検討. NNSJ CV Seminar (第 8 回), 2011. 5.
  - 3) 福岡長知, 菅谷寿理, 高橋 啓, 林 寛子, 加藤和代, 加藤祐子, 水野杏一: 心筋梗塞患者における食塩過量摂取による病態への影響と多種職による管理. 日本心臓リハビリテーション学会 (第 17 回), 2011. 7.
  - 4) 会田智弘<sup>1)</sup>, 福岡長知, 菅谷寿理<sup>1)</sup>, 加藤政利<sup>1)</sup>, 平野美子<sup>1)</sup>, 斉藤公一<sup>1)</sup>, 林 寛子, 加藤和代, 加藤祐子, 水野杏一<sup>(1)</sup> 生理機能センター): 心疾患患者に合併した睡眠時無呼吸に伴う炭酸ガス分圧異常と夜間不整脈との関係. 日本心臓リハビリテーション学会 (第 17 回), 2011. 7.
  - 5) 加藤政利<sup>1)</sup>, 福岡長知, 菅谷寿理<sup>1)</sup>, 会田智弘<sup>1)</sup>, 佐藤淳子<sup>1)</sup>, 斉藤公一<sup>1)</sup>, 加藤祐子, 愛須紀子, 高橋 啓, 水野杏一<sup>(1)</sup> 生理機能センター): 心疾患患者に合併した睡眠時無呼吸は運動負荷中の炭酸ガス分圧変化に影響する. 日本心臓リハビリテーション学会 (第 17 回), 2011. 7.
  - 6) 菅谷寿理<sup>1)</sup>, 福岡長知, 会田智弘<sup>1)</sup>, 加藤政利<sup>1)</sup>, 吉田由紀子<sup>1)</sup>, 竹田裕子<sup>1)</sup>, 林 寛子, 加藤和代, 高橋 啓, 本間 博, 水野杏一<sup>(1)</sup> 生理機能センター): 心筋梗塞後の抑うつに関連する因子の検討. 日本心臓リハビリテーション学会 (第 17 回), 2011. 7.
  - 7) 吉澤剛幸<sup>1)</sup>, 福岡長知, 高橋 啓, 加藤祐子, 加藤和代, 菅谷寿理<sup>2)</sup>, 加藤政利<sup>2)</sup>, 吉田由紀子<sup>2)</sup>, 会田智弘<sup>2)</sup>, 平野美子<sup>2)</sup>, 佐藤淳子<sup>2)</sup>, 水野杏一<sup>(1)</sup> リウマチ科理学療法室, 2) 生理機能センター): 肺移植待機中の重症肺動脈性肺高血圧症に対して運動療法を行った 1 症例. 日本心臓リハビリテーション学会 (第 17 回), 2011. 7.
  - 8) Kurihara O<sup>1)</sup>, Yamamoto M<sup>1)</sup>, Kimata N<sup>1)</sup>, Inami T<sup>1)</sup>, Murai K<sup>1)</sup>, Murakami D<sup>1)</sup>, Takano M<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>(1)</sup> Chiba-Hokusoh Hospital): Various lesion characteristics in drug-eluting stents restenosis: comparison of optical coherence tomography findings for bare-metal stents. 日本心血管インターベンション治療学会 (第 17 回), 2011. 7.
  - 9) Nakamura S, Takano H, Tara S, Tokita Y, Yoshida A, Kato K, Inami S, Takagi G, Aoki S, Asai K, Yasutake M, Mizuno K: The syntax score more accurately predicts future cardiovascular death after percutaneous coronary intervention by adding the inferiority of systemic status. 日本心血管インターベンション治療学会 (第 17 回), 2011. 7.
  - 10) Kobayashi N<sup>1)</sup>, Shirakabe A<sup>1)</sup>, Kawamata H, Tokuyama H<sup>1)</sup>, Nozaki A<sup>1)</sup>, Kitamura M<sup>1)</sup>, Tomita K<sup>1)</sup>, Shinada T<sup>1)</sup>, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Okada S<sup>2)</sup>, Hata N<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>(1)</sup> Intensive Care Unit, Chiba-Hokusoh Hospital, 2) Radiology, Chiba-Hokusoh Hospital): Percutaneous celiac artery stenting under intravascular ultrasound (IVUS) guidance in patient with acute type B aortic dissection with hepatic malperfusion. 日本心血管インターベンション治療学会 (第 17 回), 2011. 7.
  - 11) Kitamura M<sup>1)</sup>, Kobayashi N<sup>1)</sup>, Tokuyama H<sup>1)</sup>, Nozaki A<sup>1)</sup>, Tomita K<sup>1)</sup>, Shirakabe A<sup>1)</sup>, Shinada A<sup>1)</sup>, Hata N<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>(1)</sup> Intensive Care Unit, Chiba-Hokusoh Hospital): Repeating optical coherence tomography studies in acute thrombosis after primary stenting for st-segment elevation myocardial infarction. 日本心血管インターベンション治療学会 (第 17 回), 2011. 7.

- 12) 佐藤 明<sup>1)</sup>, 細川雄亮<sup>1)</sup>, 野間さつき<sup>1)</sup>, 三軒豪仁<sup>1)</sup>, 有田淑恵<sup>1)</sup>, 青景聡之<sup>1)</sup>, 村田広茂<sup>1)</sup>, 鈴木浩臣<sup>1)</sup>, 宮地秀樹<sup>1)</sup>, 宗像 亮<sup>1)</sup>, 坪 宏一<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 斎藤恒徳, その他3名<sup>(1)</sup> 集中治療室) : PCPS 導入の判断に苦慮しつつも IABP 補助のみにて救命し得た劇症型心筋炎の二例. 日本集中治療医学会関東甲信越地方会 (第 20 回), 2011. 7.
- 13) Murata H, Miyauchi Y, Kobayashi Y<sup>1)</sup>, Uetake S, Hayashi H, Tsboi I, Yamamoto T, Horie T, Hayashi M, Ohara T, Takayama M, Nitta T<sup>2)</sup>, Atarashi H<sup>3)</sup>, Katoh T, Mizuno K<sup>(1)</sup> Hachiouji Hospital Tokai University, <sup>2)</sup> Sakakibara Memorial Hospital, <sup>3)</sup> Tama-Nagayama Hospital) : Characteristics of Ventricular Tachycardia Associated with Hypertrophic Cardiomyopathy. 日本循環器学会学術集会 (第 75 回) (横浜), 2011. 8.
- 14) Kohashi K<sup>1)</sup>, Nakagomi A<sup>1)</sup>, Kosugi M<sup>1)</sup>, Shibui T<sup>1)</sup>, Sasaki A<sup>1)</sup>, Katoh K<sup>1)</sup>, Yoshikawa M<sup>1)</sup>, Kodani E<sup>1)</sup>, Kusama Y<sup>1)</sup>, Atarashi H<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>(1)</sup> Tama-Nagayama Hospital) : Impact of Chronic Kidney Disease on the Risk of Heart Failure in Patients with Acute Myocardial Infarction. 日本循環器学会学術集会 (第 75 回) (横浜), 2011. 8.
- 15) Takahashi Y<sup>1)</sup>, Okazaki H<sup>1)</sup>, Kamiya M<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>(1)</sup> Douai Memorial Hospital) : Transvenous Intravascular Ultrasound-guided Technique for Endovascular Treatment of Chronic Total Occlusion of a Lower Extremity Artery : A Novel Strategy. 日本循環器学会学術集会 (第 75 回) (横浜), 2011. 8.
- 16) Kosugi M<sup>1)</sup>, Nakagomi A<sup>1)</sup>, Sasaki A<sup>1)</sup>, Katoh K<sup>1)</sup>, Shibui T<sup>1)</sup>, Yoshikawa M<sup>1)</sup>, Kodani E<sup>1)</sup>, Kusama Y<sup>1)</sup>, Atarashi H<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>(1)</sup> Tama-Nagayama Hospital) : Impact of Insulin Resistance and Low-grade Inflammation on Long-term Prognosis in Patients with Vasospastic Angina. 日本循環器学会学術集会 (第 75 回) (横浜), 2011. 8.
- 17) Aokage T<sup>1)</sup>, Satoh N<sup>1)</sup>, Kajimoto K<sup>2)</sup>, Murai K, Munakata R<sup>1)</sup>, Minami Y<sup>4)</sup>, Mizuno M<sup>4)</sup>, Yumino D<sup>4)</sup>, Asai K, Sakata Y<sup>3)</sup>, Keida T<sup>6)</sup>, Mizuno K, Tanaka K<sup>1)</sup>, Kasanuki H<sup>5)</sup>, Takano T<sup>(1)</sup> Intensive care unit, <sup>2)</sup> Sensoji Hospital, <sup>3)</sup> Osaka University Hospital, <sup>4)</sup> Tokyo Women's Medical University, <sup>5)</sup> Waseda University, <sup>6)</sup> Edogawa Hospital) : Predictors of Worsening Renal Function during hospitalization for Acute Heart Failure Syn-dromes : A Report from the ATTEND registry. 日本循環器学会学術集会 (第 75 回) (横浜), 2011. 8.
- 18) Fukuma N, Hayashi H, Katoh K, Katoh Y, Takahashi H, Sugaya J<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>(1)</sup> Physiological Examination Center) : Importance of Daily Salt Management as a Comprehensive Cardiac Rehabilitation in Patients with Myocardial Infarction. 日本循環器学会学術集会 (第 75 回) (横浜), 2011. 8.
- 19) Takahashi H, Fukuma N, Katoh Y, Ushijima A, Hayashi H, Mizuno K : The Type of Heart Failure Affects the Improvement of the Endothelial Dysfunctions in Cardiac Rehabilitations. 日本循環器学会学術集会 (第 75 回) (横浜), 2011. 8.
- 20) Inami T<sup>1)</sup>, Seino K<sup>1)</sup>, Kurihara O<sup>1)</sup>, Yamamoto M<sup>1)</sup>, Kimata N<sup>1)</sup>, Murai K<sup>1)</sup>, Murakami D<sup>1)</sup>, Takano M<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Ibuki C<sup>1)</sup>, Hata N<sup>2)</sup>, Mizuno K<sup>(1)</sup> Chiba-Hokusou Hospital, <sup>2)</sup> Intensive Care Unit, Chiba-Hokusou Hospital) : Links between Sleep Apnea Syndrome and Aortic Dissection : Differences in Patent False Lu-men type versus Thrombosed Type. 日本循環器学会学術集会 (第 75 回) (横浜), 2011. 8.
- 21) 白壁章宏<sup>1)</sup>, 畑 典武<sup>1)</sup>, 品田卓郎<sup>1)</sup>, 小林宣明<sup>1)</sup>, 富田和憲<sup>1)</sup>, 北村光信<sup>1)</sup>, 松下誠人<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>(1)</sup> 千葉北総病院集中治療室) : 急性心不全における急性腎障害と長期予後の関係. 日本心臓病学会 (第 59 回), 2011. 9.
- 22) 小杉宗範<sup>1)</sup>, 中込明裕<sup>1)</sup>, 小橋啓一<sup>1)</sup>, 西城由之<sup>1)</sup>, 進藤朝子<sup>1)</sup>, 吉川雅智<sup>1)</sup>, 小谷英太郎<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 新 博次<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>(1)</sup> 多摩永山病院) : 冠攣縮性狭心症患者においてフィブリノーゲン高値は心事故を増加させる. 日本心臓病学会 (第 59 回), 2011. 9.
- 23) 菅谷寿理<sup>1)</sup>, 福岡長知, 会田智弘<sup>1)</sup>, 加藤政利<sup>1)</sup>, 加藤和代, 加藤祐子, 高橋 啓, 本間 博, 水野杏一<sup>(1)</sup> 生

- 理機能センター)：包括的心臓リハビリテーション実施中の心筋梗塞患者に見られる抑うつに関連する因子の検討。日本心臓病学会 (第 59 回), 2011. 9.
- 24) 福岡長知, 菅谷寿理<sup>1)</sup>, 林 寛子, 加藤和代, 高橋 啓, 馬淵浩輔, 福岡祐美子, 水野杏一<sup>(1)</sup> 生理機能センター)：虚血性心疾患におけるアルドステロン・レニン比に関する検討。日本臨床生理学会 (第 48 回), 2011. 11.
- 25) 福岡長知, 高橋 啓, 馬淵浩輔, 林 寛子, 加藤和代, 福岡祐美子, 水野杏一：高血圧症例の食塩摂取と背景因子。日本臨床生理学会 (第 48 回), 2011. 11.
- 26) 志村徹郎<sup>1)</sup>, 村上大介<sup>1)</sup>, 栗原 理<sup>1)</sup>, 木股仲恒<sup>1)</sup>, 山本真功<sup>1)</sup>, 稲見 徹<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 雪吹周生<sup>1)</sup>, 清野精彦<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>(1)</sup> 千葉北総病院)：SES 留置後長期にわたり抗血小板薬 2 剤を中止したのにも関わらずステント血栓症に至らなかった 1 例～なぜステント血栓症は生じなかったのか？。日本心臓血管内視鏡学会 (第 25 回), 2011. 10.
- 27) 時田祐吉, 稲見茂信, 中村俊一, 吉田明日香, 太良修平, 村井綱兄, 高野仁司, 浅井邦也, 安武正弘, 水野杏一：血管内視鏡所見にて冠攣縮部位に erosion を認めた薬剤抵抗性冠攣縮性狭心症の 1 例。日本心臓血管内視鏡学会 (第 25 回), 2011. 10.
- 28) 野崎文華<sup>1)</sup>, 高橋保裕<sup>1)</sup>, 岡崎大武<sup>1)</sup>, 神谷仁孝<sup>1)</sup>, 稲見茂信, 水野杏一<sup>(1)</sup> 同愛記念病院)：2 枝同時ステント血栓症を発症した 1 例。日本心臓血管内視鏡学会 (第 25 回), 2011. 10.
- 29) 栗原 理<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 清野精彦<sup>1)</sup>, 稲見茂信, 水野杏一<sup>(1)</sup> 千葉北総病院)：血管内視鏡からみた糖尿病の臨床的意義。日本心臓血管内視鏡学会 (第 25 回), 2011. 10.
- 30) 村上大介<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 志村徹郎<sup>1)</sup>, 栗原 理<sup>1)</sup>, 木股仲恒<sup>1)</sup>, 山本真功<sup>1)</sup>, 稲見 徹<sup>1)</sup>, 宗像 亮<sup>1)</sup>, 稲見茂信<sup>1)</sup>, 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 雪吹周生<sup>1)</sup>, 清野精彦<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>(1)</sup> 千葉北総病院)：プラーク黄色度は待機的 PCI における末梢塞栓による心筋傷害および一過性の造影遅延と強く相関する～血管内視鏡からの考察。日本心臓血管内視鏡学会 (第 25 回), 2011. 10.
- 31) 荒井恒憲<sup>1)</sup>, 島崎夏美<sup>1)</sup>, 伊神優香<sup>1)</sup>, 稲見茂信, 水野杏一<sup>(1)</sup> 慶應義塾大学大学院理工学研究科)：プラークの石灰化に伴う血管内視鏡画像の色調変化：OCT 画像解析による光散乱係数算出と 2 層光学モデルによる検討。日本心臓血管内視鏡学会 (第 25 回), 2011. 10.
- 32) 吉永 綾, 太良修平<sup>1)</sup>, 稲見茂信, 吉田明日香, 中村俊一, 村井綱兄, 時田祐吉, 高木 元<sup>1)</sup>, 高野仁司<sup>1)</sup>, 浅井邦也, 宮本正章<sup>1)</sup>, 安武正弘, 水野杏一<sup>(1)</sup> 再生医療科)：全身性強皮症に合併した冠動脈病変と下肢動脈病変, 動脈硬化か？血管炎か？。日本心臓血管内視鏡学会 (第 25 回), 2011. 10.
- 33) 野崎文華<sup>1)</sup>, 高橋保裕<sup>1)</sup>, 岡崎大武<sup>1)</sup>, 神谷仁孝<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>(1)</sup> 同愛記念病院)：腸骨静脈圧迫症候群による深部静脈血栓症に対して側副血行路を介した順行性アプローチにより浅大腿静脈閉塞部のガイドワイヤー通過に成功し血管内治療を施行した 1 例。日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会 (第 39 回), 2011. 10.
- 34) 宮地秀樹<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 青景聡之<sup>1)</sup>, 村田広茂<sup>1)</sup>, 鈴木浩臣<sup>1)</sup>, 細川雄亮<sup>1)</sup>, 宗像 亮<sup>1)</sup>, 坪 宏一<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>(1)</sup> 集中治療室)：診断カテーテルにて両側冠動脈近位部解離を起こした長期ステロイド療法中の不安定狭心症例。日本心血管インターベンション治療学会関東甲信越地方会 (第 39 回), 2011. 10.
- 35) 岡崎怜子<sup>1)</sup>, 井川 修<sup>1)</sup>, 小谷英太郎<sup>1)</sup>, 川口直美<sup>1)</sup>, 遠藤康美<sup>1)</sup>, 中込明裕<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 新 博次<sup>1)</sup>, 鈴木文男<sup>2)</sup>, 堀江 格, 宮内靖史, 水野杏一<sup>(1)</sup> 多摩永山病院, <sup>2)</sup> 複十字病院)：室房伝導の検討において HA 間隔の奇異的短縮が見られた slow-fast 型房室結節 reentry 性頻拍の 1 例。日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 222 回), 2011. 12.
- 36) 吉田明日香, 林 明聡, 坪井一平, 山本哲平, 太良修平, 高木 元, 高野仁司, 安武正弘, 水野杏一：心室細動からの蘇生後に早期再分極を認めた 1 例。日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 222 回), 2011. 12.

- 37) 栗原 理<sup>1)</sup>, 山本真功<sup>1)</sup>, 志村徹郎<sup>1)</sup>, 木股仲恒<sup>1)</sup>, 稲見 徹<sup>1)</sup>, 村井綱児<sup>1)</sup>, 村上大介<sup>1)</sup>, 阿部純子<sup>1)</sup>, 淀川顕司<sup>1)</sup>, 丸山光紀<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 雪吹周生<sup>1)</sup>, 清野精彦<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup> (千葉北総病院): FFRを指標にPCI治療適応外とした病変部に発症した急性冠症候群の1例: OCTからの考察. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第222回), 2011. 12.
- 38) 池田 健, 斎藤恒徳, 高木 元, 細川雄亮, 三軒豪仁, 水野 杏: 急性期の心筋生検にて細胞内に存在するウイルスを認めた劇症型心筋炎の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第222回), 2011. 12.
- 39) 谷田篤史<sup>1)</sup>, 細川雄亮<sup>1)</sup>, 加藤麻衣子<sup>1)</sup>, 富山 毅<sup>1)</sup>, 青景聡之<sup>1)</sup>, 鈴木浩臣<sup>1)</sup>, 村田広茂<sup>1)</sup>, 宮地秀樹<sup>1)</sup>, 洪井俊之<sup>1)</sup>, 根井貴仁<sup>1)</sup>, 坪 宏一<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 新田 隆<sup>2)</sup>, 水野杏一, その他1名<sup>1)</sup> (集中治療室, <sup>2)</sup> 外科学 (内分泌・心臓血管・呼吸部門)): 僧帽弁狭窄症に伴う巨大左房により広範な無気肺を合併するも僧帽弁置換術と左房形成術により軽快した1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第222回), 2011. 12.
- 40) 西城由之<sup>1)</sup>, 小谷英太郎<sup>1)</sup>, 小橋啓一<sup>1)</sup>, 小杉宗範<sup>1)</sup>, 進藤朝子<sup>1)</sup>, 岡崎怜子<sup>1)</sup>, 吉川雅智<sup>1)</sup>, 遠藤育子<sup>1)</sup>, 川口直美<sup>1)</sup>, 遠藤康美<sup>1)</sup>, 中込明裕<sup>1)</sup>, 井川 修<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 新 博次<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup> (多摩永山病院): 乳頭筋付着異常による僧帽弁閉鎖不全症と甲状腺機能亢進症の合併により心不全の急性増悪を来した1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第222回), 2011. 12.
- 41) 高木 元<sup>1)</sup>, 宮本正章<sup>1)</sup>, 太良修平<sup>1)</sup>, 高木郁代<sup>1)</sup>, 桐木園子<sup>1)</sup>, 田畑泰彦<sup>2)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup> (再生医療科, <sup>2)</sup> 京都大学再生医科学研究所): 徐放化再生誘導医療の基礎から実践的臨床応用へ. 徐放化再生医療研究会 (第1回), 2011. 12.
- 42) 野崎文華<sup>1)</sup>, 高橋保裕<sup>1)</sup>, 岡崎大武<sup>1)</sup>, 神谷仁孝<sup>1)</sup>, 稲見茂信, 水野杏一<sup>1)</sup> (同愛記念病院): 薬剤溶出性ステント留置後2枝同時発症の血栓性ステント閉塞の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第223回), 2012. 2.
- 43) 西城由之<sup>1)</sup>, 小谷英太郎<sup>1)</sup>, 小橋啓一<sup>1)</sup>, 森澤太一郎<sup>1)</sup>, 小杉宗範<sup>1)</sup>, 進藤朝子<sup>1)</sup>, 吉川雅智<sup>1)</sup>, 中込明裕<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 新 博次<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup> (多摩永山病院): 冠動脈CT撮影時に冠攣縮自然発作による冠動脈閉塞が確認された冠攣縮性狭心症の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第223回), 2012. 2.
- 44) 中摩健二<sup>1)</sup>, 山本英世<sup>1)</sup>, 徳山栄男<sup>1)</sup>, 田中貴久<sup>1)</sup>, 菊池有史<sup>1)</sup>, 石川昌弘<sup>1)</sup>, 網谷賢一<sup>1)</sup>, 高橋直人<sup>1)</sup>, 内田高浩<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup> (武蔵小杉病院, <sup>2)</sup> 武蔵小杉病院 血管内治療センター): StanfordB型偽腔開存型急性大動脈解離に合併した腸管・下肢虚血に対して経皮的開窓術を施行した1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第223回), 2012. 2.
- 45) 加納誠士<sup>1)</sup>, 山本真功<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 栗原 理<sup>1)</sup>, 木股仲恒<sup>1)</sup>, 稲見 徹<sup>1)</sup>, 村上大介<sup>1)</sup>, 阿部純子<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 丸山光紀<sup>1)</sup>, 雪吹周生<sup>1)</sup>, 清野精彦<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup> (千葉北総病院): 僧帽弁逸脱症に伴う比率を超える肺高血圧症: Pulmonary hypertension of out of proportionに関する検討. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第223回), 2012. 2.
- 46) 坪井一平, 佐藤直樹, 清水秀治, 宮内靖史, 水野杏一, 小林靖宏<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup> (放射線科): PETにより明確な治療効果判定を得た心サルコイドーシスの1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第223回), 2012. 2.
- 47) 有田淑恵<sup>1)</sup>, 坪 宏一<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 青景聡之<sup>1)</sup>, 鈴木浩臣<sup>1)</sup>, 村田広茂<sup>1)</sup>, 洪井俊之<sup>1)</sup>, 宮地秀樹<sup>1)</sup>, 細川雄亮<sup>1)</sup>, 水野杏一, 田中啓治<sup>1)</sup> (集中治療室): 発熱のある急性大動脈解離におけるプロカルシトニンの動態. 日本集中治療学会 (第39回), 2012. 2.
- 48) Kobayashi N<sup>1)</sup>, Shirakabe A<sup>1)</sup>, Kawamata H<sup>2)</sup>, Tokuyama H<sup>1)</sup>, Nozaki A<sup>1)</sup>, Kitamura M<sup>1)</sup>, Tomita K<sup>1)</sup>, Shinada T<sup>1)</sup>, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Osada S<sup>2)</sup>, Hata N<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>1)</sup> (Intensive Care Unit, Chiba Hokusoh Hospital, <sup>2)</sup> Department of Radiology, Chiba Hokusoh Hospital): Percutaneous celiac artery stenting under intravascular ultrasound (IVUS) guidance in patients with acute type B aortic dissection with hepatic malperfusion. 日本心血管インターベンション治療学会 (第20回), 2011. 7.
- 49) Kobayashi N<sup>1)</sup>, Hata N<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>2)</sup>, Kume N<sup>3)</sup>, Shinada T<sup>1)</sup>, Tomita K<sup>1)</sup>, Kitamura M<sup>1)</sup>, Shirakabe A<sup>1)</sup>,

- Mizuno K<sup>(1)</sup> Intensive Care Unit, Chiba Hokusoh Hospital, <sup>(2)</sup> Cardiovascular Center, Chiba Hokusoh Hospital, <sup>(3)</sup> Department of Cardiovascular Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto Univ.) : Matrix Metalloproteinase-9 is a Sensitive and Specific Biomarker for Acute Coronary Syndrome at the Earliest Stage : Comparison with High sensitivity Troponin T. ESC (Paris), 2011. 8.
- 50) Yoshida A, Sato N<sup>(1)</sup>, Kajimoto K<sup>(2)</sup>, Asai K, Murai R<sup>(1)</sup>, Yumino D<sup>(3)</sup>, Keida T<sup>(4)</sup>, Mizuno K<sup>(1)</sup> (CCU, <sup>(2)</sup> Sensoji Hospital, <sup>(3)</sup> Tokyo Woman's Medical Hospital, <sup>(4)</sup> Edogawa Hospital) : Clinical differences between the patients with valvular heart diseases in acute heart failure syndromes : a report from the ATTEND registry. ESC (Paris), 2011. 8.
- 51) 村田広茂<sup>(1)</sup>, 山本 剛<sup>(1)</sup>, 田中啓治<sup>(1)</sup>, 宮内靖史, 林 明聡, 高橋健太, 植竹俊介, 林 洋史, 坪井一平, 山本哲平, 堀江 格, 加藤貴雄, 水野杏一<sup>(1)</sup> (集中治療室) : Clinical Efficacy of Intravenous Amiodarone in Patients with Electrical Storm of Monomorphic Ventricular Tachycardia. 日本臨床薬理学会 (第32回), 2011. 12.
- 52) 村田広茂<sup>(1)</sup>, 山本 剛<sup>(1)</sup>, 田中啓治<sup>(1)</sup>, 宮内靖史, 林 明聡, 高橋健太, 植竹俊介, 林 洋史, 坪井一平, 山本哲平, 堀江 格, 加藤貴雄, 水野杏一<sup>(1)</sup> (集中治療室) : VT storm に対するアミオダロン静注薬の有効性. アミオダロン研究会 (第16回), 2011. 10.
- 53) Murata H<sup>(1)</sup>, Ohara T, Miyauchi Y, Uetake S, Yodogawa K, Takayama H, Kobayashi Y<sup>(2)</sup>, Tanaka K<sup>(1)</sup>, Katoh T, Mizuno K<sup>(1)</sup> (Intensive and Coronary Care Unit, <sup>(2)</sup> Hachioji Hospital, Tokai University) : Usefulness of Wavelet-transformed Electrocardiogram for Detection of Ventricular Tachyarrhythmias associated with Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy. 不整脈学会 (第26回), 2011. 9.
- 54) 大野忠明, 本間 博, 時田祐吉, 藤本啓志, 田中貴久, 佐藤丞子, 横島友子, 伊藤恵子, 水野杏一, 松崎つや子<sup>(1)</sup> (生理機能センター) : 経胸壁心エコー・ドプラ法による上行大動脈壁硬度の評価 : 心機能と腎機能との関わり. 日本超音波学会 (第84回), 2011. 5.
- 55) Tsuboi I, Miyauchi Y, Hayashi M, Takahashi K, Uetake S, Hayashi H, Nakatsuji A, Murata H, Yamamoto T, Horie T, Katoh T, Mizuno K : Significance of the Intravenous Adenosine Triphosphate for Revealing Arrhythmogenic Foci in Patients with Atrial Fibrillation Undergoing Radiofrequency Catheter Ablation. APHRS 2011 (Fukuoka, Japan), 2011. 9.
- 56) 坪井一平, 宮内靖史, 林 明聡, 高橋健太, 植竹俊介, 林 洋史, 中辻綾乃, 村田広茂, 山本哲平, 堀江 格, 淀川顕司, 加藤貴雄, 水野杏一, 山本英世<sup>(1)</sup>, 井川 修<sup>(2)</sup>, その他1名<sup>(1)</sup> (武蔵小杉病院, <sup>(2)</sup> 多摩永山病院) : Cox-Maze IV 術後に三尖弁輪・僧帽弁輪を同時に旋回する double loop reentry を同定し根治し得た1例. カテーテルアブレーション・関連秋季大会 2011, 2011. 10.
- 57) 太良修平, 高木 元, 宮本正章, 桐木園子, 水野杏一 : 慢性創傷への体外衝撃波治療の可能性. 日本創傷治療学会 (第41回), 2011. 12.
- 58) 久保田芳明 : 直接的レニン阻害薬が中心動脈圧に及ぼす影響. 日本高血圧学会総会 (第34回), 2011. 10.
- 59) Ogano M<sup>(1)</sup>, Tanabe J<sup>(1)</sup>, Takagi H<sup>(2)</sup>, Umemoto T<sup>(2)</sup>, Iwasaki Y, Hayashi M, Miyauchi Y, Kato T, Mizuno K<sup>(1)</sup> (Division of Cardiology, Shizuoka medical center, <sup>(2)</sup> Division of Cardiovascular Surgery, Shizuoka medical center) : Antiarrhythmic effect of cardiac resynchronization therapy with triple-site biventricular stimulation. APHRS 2011 (Fukuoka, Japan), 2011. 9.
- 60) 小鹿野道雄<sup>(1)</sup>, 田邊 潤<sup>(1)</sup>, 高木寿人<sup>(2)</sup>, 梅本琢也<sup>(2)</sup>, 堀江 格, 岩崎雄樹, 林 明聡, 宮内靖史, 加藤貴雄, 水野杏一<sup>(1)</sup> (静岡医療センター循環器科, <sup>(2)</sup> 静岡医療センター心臓血管外科) : 左脚ブロック患者における潜在的可逆性心筋障害と心臓再同期療法. 植込みデバイス関連冬季大会 (第4回), 2012. 2.
- 61) 太良修平, 高木 元, 宮本正章, 桐木園子, 水野杏一 : 非侵襲的組織再生法確立への挑戦 : 体外衝撃波治療の可能性. 日本創傷治療学会 (第41回), 2011. 12.
- 62) Kawamoto C : Measurement of intrahepatic pressure during radiofrequency ablation in porcine liver. Inter-

- ventional Hepatology 2011 (Ravello-Amalfi Coast, Italy), 2011. 5.
- 63) 山下美奈子<sup>1)</sup>, 田口香織<sup>1)</sup>, 瀬戸山昌宏<sup>1)</sup>, 真島康雄<sup>2)</sup>, 川本智章 ( <sup>1)</sup> 埼玉医科大学総合医療センター生理機能検査室, <sup>2)</sup> 真島消化器クリニック ): 右鎖骨下動脈及び頸動脈 IMT 計測の有用性. 日本超音波医学会 (第 84 回), 2011. 5.
- 64) 川本智章, 間中研一<sup>1)</sup>, 山内 篤<sup>2)</sup>, 金子恵子, 宮元亮子 ( <sup>1)</sup> 獨協医科大学国際教育研究施設研究支援センター, <sup>2)</sup> 埼玉よりい病院 ): ラジオ波焼灼療法施行中における門脈内剥離肝細胞の捕捉. 日本肝臓学会総会 (第 47 回), 2011. 6.
- 65) 宮元亮子, 林 洋史, 金子恵子, 清水秀治, 川本智章, 水野杏一: 肺転移, 門脈, 下大静脈, 右心房への浸潤を伴う多発肝細胞癌に対し, sorafenib を使用し有効であった 1 例. 日本分子標的治療研究会 (第 4 回), 2011. 6.
- 66) 川本智章, 金子恵子, 宮元亮子, 清水秀治, 水野杏一, 山内 篤<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 埼玉よりい病院 ): ラジオ波焼灼療法施行中の腫瘍内圧測定. Microwave Surgery 研究会 (第 30 回), 2011. 10.
- 67) 高野雅充<sup>1)</sup>, 清野精彦<sup>1)</sup>, 水野杏一 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院 ): FD-OCT の臨床応用. 日本心血管画像動態 (第 22 回), 2012. 1.
- 68) 淀川顕司<sup>1)</sup>, 清野精彦<sup>1)</sup>, 小原俊彦, 村田広茂, 堀江 格, 林 明聡, 宮内靖史, 加藤貴雄, 水野杏一 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院 ): 心サルコイドーシスに合併した心室頻拍にステロイドは有効か: 加算平均心電図を用いた検討. 日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会 (第 31 回), 2011. 10.
- 69) Yoshida A, Takano H, Nakamura S, Saitoh T, Tara S, Tokita Y, Takagi G, Yasutake M, Amano Y<sup>1)</sup>, Kumita S<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1)</sup> Radiology ): Additional Information of Abnormal Fatty-acid Metabolism Improves the Prognostic Value of Cardiac Magnetic Resonance Imaging in Patients with Dilated Cardiomyopathy. 日本循環器学会学術集会 (第 76 回) (鹿児島), 2012. 3.
- 70) Yodogawa K, Tsuboi I, Takahashi K, Hayashi H, Uetake S, Murata H, Horie T, Hayashi M, Miyauchi Y, Ohara T, Katoh T, Mizuno K: Recovery from Complete Atrioventricular Block Following Corticosteroid Therapy in Patients with Cardiac Sarcoidosis. 日本循環器学会学術集会 (第 76 回) (鹿児島), 2012. 3.
- 71) Nakagomi A<sup>1)</sup>, Kohashi K<sup>1)</sup>, Saiki Y<sup>1)</sup>, Kosugi M<sup>1)</sup>, Endoh I<sup>1)</sup>, Endoh Y<sup>1)</sup>, Kusama Y<sup>1)</sup>, Atarashi H<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1)</sup> Tama-Nagayama Hospital ): Fenofibrate Attenuates Monocyte Tissue Factor Activity and Slows Down Progression of Carotid Atherosclerosis in Patients with Metabolic Syndrome. 日本循環器学会学術集会 (第 76 回) (鹿児島), 2012. 3.
- 72) Igawa O<sup>1)</sup>, Okazaki R<sup>1)</sup>, Kawaguchi N<sup>1)</sup>, Kodani E<sup>1)</sup>, Kusama Y<sup>1)</sup>, Adachi M<sup>2)</sup>, Atarashi H<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1)</sup> Tama-Nagayama Hospital, <sup>2)</sup> Tottori University ): Specific Anatomical Characteristics in the Left Atrial Appendage: Abrupt Change of Muscle Thickness in the Left Atrial Appendage. 日本循環器学会学術集会 (第 76 回) (鹿児島), 2012. 3.
- 73) Asai K, Satoh N<sup>1)</sup>, Kajimoto K<sup>2)</sup>, Mizuno M<sup>3)</sup>, Murai K, Munakata R, Aokage T<sup>4)</sup>, Minami Y<sup>5)</sup>, Yumino D<sup>5)</sup>, Kasanuki H<sup>6)</sup>, Takano T, Tanaka K<sup>4)</sup>, Mizuno K ( <sup>1)</sup> Musashikosugi Hospital, <sup>2)</sup> Sensoji Hospital, <sup>3)</sup> Saitamaken Saiseikai Kurihashi Hospital, <sup>4)</sup> Intensive care unit, <sup>5)</sup> Tokyo Women's Medical University, <sup>6)</sup> Waseda University ): Heart Rhythm at Admission and Short-term Outcome in Acute Heart Failure: Atrial Fibrillation vs Sinus Rhythm. 日本循環器学会学術集会 (第 76 回) (鹿児島), 2012. 3.
- 74) Kosugi M<sup>1)</sup>, Nakagomi A<sup>1)</sup>, Akiya M<sup>1)</sup>, Hara C<sup>1)</sup>, Morisawa T<sup>1)</sup>, Saiki Y<sup>1)</sup>, Kohashi K<sup>1)</sup>, Shindoh A<sup>1)</sup>, Yoshikawa M<sup>1)</sup>, Kodani E<sup>1)</sup>, Kusama Y<sup>1)</sup>, Atarashi H<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1)</sup> Tama-Nagayama Hospital ): Impact of Refractory Response to Calcium Channel Blockers and Inflammation on the Incidence of Reduced Ejection Fraction in Vasospastic Angina. 日本循環器学会学術集会 (第 76 回) (鹿児島), 2012. 3.
- 75) Saiki Y<sup>1)</sup>, Nakagomi A<sup>1)</sup>, Akiya M<sup>1)</sup>, Hara C<sup>1)</sup>, Kohashi T<sup>1)</sup>, Morisawa T<sup>1)</sup>, Kosugi M<sup>1)</sup>, Shindoh A<sup>1)</sup>, Yoshikawa M<sup>1)</sup>, Kodani E<sup>1)</sup>, Kusama Y<sup>1)</sup>, Atarashi H<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1)</sup> Tama-Nagayama Hospital ): Variant

Angina is Associated with Inflammation and Increases the Risk of Cardiac Events in Patients with Vasospastic Angina. 日本循環器学会学術集会 (第76回) (鹿児島), 2012. 3.

- 76) Igawa O<sup>1)</sup>, Okazaki R<sup>1)</sup>, Kawaguchi N<sup>1)</sup>, Kodani E<sup>1)</sup>, Kusama Y<sup>1)</sup>, Adachi M<sup>2)</sup>, Atarashi H<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1)</sup> Tama-Nagayama Hospital, <sup>2)</sup> Tottori University) : Anatomical Characteristics of the Left Ventricular Outflow Tract Related to Catheter Ablation : Anatomical Investigation in 100 Autopsied Hearts. 日本循環器学会学術集会 (第76回) (鹿児島), 2012. 3.
- 77) Kurihara O<sup>1)</sup>, Yamamoto M<sup>1)</sup>, Shimura T<sup>1)</sup>, Kimata N<sup>1)</sup>, Yamamoto T<sup>1)</sup>, Inami T<sup>1)</sup>, Munakata R<sup>1)</sup>, Murakami D<sup>1)</sup>, Abe J<sup>1)</sup>, Maruyama M<sup>1)</sup>, Takano M<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Ibuki C<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1)</sup> Chiba-Hokusoh Hospital) : High-Risk Plaques Associated with Peri-procedural Myocardial Injury Following Percutaneous Coronary Intervention : Assessment by High-Sensitivity Troponin-T and Optical Coherence Tomography. 日本循環器学会学術集会 (第76回) (鹿児島), 2012. 3.
- 78) 保坂純郎<sup>1)</sup>, 大森裕也<sup>1)</sup>, 山内仁紫<sup>1)</sup>, 高木郁代 ( <sup>1)</sup> 四谷・血管クリニック) : 1次性下肢静脈瘤に対するEVLA 980nm と1470nm diode laser の比較. 日本脈管学会総会 (第52回), 2011. 10.
- 79) Nakata J, Takayama M<sup>1)</sup>, Matsuzaki T, Takagi I, Kawamoto M<sup>1)</sup>, Tsurumi M ( <sup>1)</sup> Sakakibara Memorial Hospita) : Hypoxia does affect left ventricular diastolic function together with significant pulmonary hypertension in acute mountain sickness syndrome. Symposium High Altitude Physiology (5th) (Berchtesgaden, Germany), 2011. 9.
- 80) Takahashi K, Miyauchi Y, Hayashi M, Uetake S, Hayashi H, Tsuboi I, Murata H, Yamamoto T, Horie T, Yodogawa K, Katoh T, Nitta T<sup>1)</sup>, Mizuno K ( <sup>1)</sup> Cardiovascular surgery) : Mechanisms and Ablation of Mitral-annular AT Occurring in Patients Post Full-Maze Surgery for Atrial Fibrillation. 日本循環器学会学術集会 (第76回) (鹿児島), 2012. 3.
- 81) Keida T<sup>1)</sup>, Asai K, Sato N, Kajimoto K, Mizuno M, Minami Y, Munakata R, Murai K, Aokage T, Yumino D, Sakata Y, Mizuno K, Takano T ( <sup>1)</sup> Edogawa Hospital) : Revealed Gap in Antithrombotic Therapy for Atrial Fibrillation in Acute Decompensated Heart-Failure Patients : A Report from the ATTEND Registry. 日本循環器学会学術集会 (第76回) (鹿児島), 2012. 3.

(6) Feature Research :

- 1) Yodogawa K<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>1)</sup>, Ohara T, Takayama H, Katoh T, Mizuno K ( <sup>1)</sup> Chiba-Hokusoh Hospital) : 微小心筋障害の進展と対策 : バイオマーカーで探る. 日本循環器学会 (第75回) (横浜), 2011. 8.

(7) Featured Research Session :

- 1) Yodogawa K<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>1)</sup>, Ohara T, Takayama H, Katoh T, Mizuno K ( <sup>1)</sup> Chiba-Hokusoh Hospital) : Effect of Corticosteroid Therapy on Ventricular Arrhythmias in Patients with Cardiac Sarcoidosis. 日本循環器学会学術集会 (第75回) (横浜), 2011. 8.
- 2) Tara S, Miyamoto M, Kirinoki S, Takagi G, Takano H, Takagi I, Yasutake M, Mizuno K : Potential of Non-invasive Therapeutic Angiogenesis for Peripheral Arterial Disease, Applied by Extracorporeal Shock Wave. 日本循環器学会学術集会 (第75回) (横浜), 2011. 8.

(8) セッション :

- 1) 泉 佑樹, 宮内靖史, 高木 元, 安武正弘, 加藤貴雄, 水野杏一, 落 雅美<sup>1)</sup>, 丸山雄二<sup>1)</sup>, 福田 悠<sup>2)</sup>, 功刀しのぶ<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 心臓血管外科, <sup>2)</sup> 解析人体病理学) : ムコ多糖症による連合弁膜症の一人手術例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第220回), 2011. 6.
- 2) 江瀬慧悟<sup>1)</sup>, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 山本真功<sup>1)</sup>, 栗原 理<sup>1)</sup>, 根岸経太<sup>1)</sup>, 木股伸恒<sup>1)</sup>, 稲見 徹<sup>1)</sup>, 村井綱児<sup>1)</sup>, 村上大介<sup>1)</sup>, 阿部純子<sup>1)</sup>, 淀川顕司<sup>1)</sup>, 大野則彦<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 雪吹周生<sup>1)</sup>, 清野精彦<sup>1)</sup>, その他1名 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院) : 冠動脈疾患と頸動脈疾患を合併した2例に対する治療体系構築の比較. 日本循環器学会関東甲信越地方会

(第 220 回), 2011. 6.

- 3) 鈴木浩臣<sup>1)</sup>, 坪 宏一<sup>1)</sup>, 青景聡之<sup>1)</sup>, 村田広茂<sup>1)</sup>, 宮地秀樹<sup>1)</sup>, 鈴木 学<sup>1)</sup>, 細川雄亮<sup>1)</sup>, 宗像 亮<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 吉田明日香, 水野杏一, その他 1 名 (<sup>1)</sup> 集中治療室): ステントグラフト内挿によって破裂の可能性を回避した感染性胸腹部大動脈瘤の 1 例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 220 回), 2011. 6.

## [付属病院老年内科]

### 研究概要

高齢者の糖尿病, 動脈硬化, 高血圧症, 脂質異常症および腎機能に関する臨床的研究を行った. 糖尿病に関して, 1) 大血管症の進展と危険因子との関連を頸動脈超音波所見の断面および経年観察より検討した. 2) 高齢者における腎症の存在の動脈硬化進展に及ぼす影響を検討した. 3) 食後高血糖の指標としての血中 1, 5-anhydroglucitol 値の耐糖能異常スクリーニングの指標としての臨床的意義を年代別, 性別に検討した. 4) 地域住人の追跡調査から加齢に伴う耐糖能異常進展の経時的変化の特徴を明らかにした. 5) 血糖コントロールと酸化ストレスの関連を Reactive Oxygen Metabolites (ROMs) および BAP 測定を行い検討した. 6) 食後高血糖が IGT の時期から尿細管機能異常を生じる可能性を明らかにした. 7) 血糖降下薬療法による低血糖発症リスクに及ぼす要因の解析とその対策に関する研究を行った. 動脈硬化に関して, 1) FMD への加齢の影響を断面調査により検討した. 2) 健常人における食後高血糖の血管内皮機能低下に及ぼす影響について検討した. 3) 血管内皮機能障害の機序を明らかにする目的で糖負荷後の代謝因子と FMD の経時的変動との関連を検討した. 高血圧症に関して, 1) 高血圧患者における年齢階層と動脈硬化度, 高血圧合併症との関連臨床コホート研究 (J-CHEARS) を行った. 2) 高血圧合併 2 型糖尿病におけるテルミサルタンの内臓脂肪減少効果を明らかにした. 脂質異常症に関して, 1) 陰イオン交換樹脂 (レジン) の 2 型糖尿病患者における血糖降下および内臓脂肪減少効果を明らかにした. 腎機能に関して, 1) 高齢者糖尿病における慢性腎臓病の臨床的意義を検討した. 2) 高齢者における尿中アルブミン指数の動脈硬化の進展指標としての意義を明らかにした.

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著:

- 1) Watanabe K, Oba K, Suzuki T, Ouchi M, Suzuki K, Futami-Suda S, Sekimizu K, Yamamoto F, Nakano H: Oral glucose loading attenuates endothelial function in normal individual. Eur J Clin Invest 2011; 41 (5): 465-473.

(2) 総説:

- 1) 大庭建三: 高齢者の血糖管理. ドクターサロン 2011; 55 (5): 334-338.  
2) 大庭建三: 糖尿病治療ガイド 2010. 日老医誌 2011; 48 (6): 640-643.  
3) 中野博司, 大庭建三: 高齢者の経口糖尿病薬療法. 月間糖尿病 2011; 3 (8): 54-64.  
4) 大庭建三: 高血圧症の診断と治療: 高齢者の診療を中心に. 東京都医師会雑誌 2012; 65 (1): 21-28.  
5) 大庭建三: 主な疾患の薬物療法: 糖尿病 - 高齢者糖尿病診療の薬物療法. Medicament News 2011; (2066): 11-13.  
6) 鈴木一成, 中野博司: 高齢者では  $\alpha$  グルコシダーゼ阻害薬 ( $\alpha$ -GI) をいかに使うか. Geriatr Med 2011; 49 (8): 911-913.  
7) 大庭建三, 渡邊健太郎, 松村典昭: 高齢者糖尿病の診断基準や治療目標の考え方. Geriatr Med 2011; 49 (8): 915-918.  
8) 大庭建三: 老年医学領域における新年の展望: 第 54 回日本老年医学会学術集会開催に向けて. ドクターサロン

2012 ; 56 (1) : 27-32.

- 9) 大庭建三：高齢者疾患の診断と治療：高齢者の糖尿病. クリニシアン 2012 ; (605) : 47-53.
  - 10) 大庭建三：夏を乗り切る脱水対策. けあ・ふる 2011 ; (68) : 2-4.
  - 11) 松村典昭：高齢者総合的機能評価. 日医大医会誌 2011 ; 7 (4) : 183.
  - 12) 中野博司：高齢者における生活習慣病指導のポイント. 内科 2011 ; 108 (6) : 1130-1133.
  - 13) 中野博司, 松村典昭：薬剤誘発性認知症 (状態) : ペンゾジアゼピン系抗不安薬と睡眠薬. 日本臨床 2011 ; 69 (増刊号 10) : 157-161.
  - 14) 大庭建三：超高齢社会における老年医学. Medicament News 2012 ; (2082) : 15.
  - 15) 中野博司：嚥下障害のある高齢者の栄養管理をどうするか : 認知症症例の胃瘻造設 : 「積極的に進めるべき」の立場から. Geriatr Med 2012 ; 50 (3) : 378-383.
  - 16) 大庭建三, 相磯嘉孝<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> あいそ内科) : プライマリケア医に必要な高齢糖尿病患者の血糖管理. 日本医事新報 2012 ; (4586) : C1-C8.
- (3) 研究報告書 :
- 1) 大内尉義<sup>1)</sup>, 小島太郎<sup>1)</sup>, 大橋靖雄<sup>2)</sup>, J-CHEARS study グループ ( <sup>1)</sup> 東京大学加齢医学, <sup>2)</sup> 東京大学疫学予防保健学) : J-CHEARS 研究. 公益信託日本動脈硬化予防研究基金平成 22 年度研究報告集 2011 ; 69-70.
- (4) その他 :
- 1) Iijima K<sup>1)</sup>, Shimokado K<sup>2)</sup>, Takahashi T<sup>3)</sup>, Morimoto S<sup>4)</sup>, Ouchi Y<sup>1)</sup>, Members of JGS Disaster Supportive Center ( <sup>1)</sup> Department of Geriatric Medicine, University of Tokyo, <sup>2)</sup> Department of Geriatric and Vascular Medicine, Tokyo Medical and Dental University, <sup>3)</sup> Laboratory of Infections Diseases, Graduate School of Infection Control Sciences, Kitasato University, <sup>4)</sup> Department of Geriatric Medicine, Kanazawa Medical University) : Actions of the Japan Geriatric Society in response to the 2011 of the Pacific Coast of Tohoku Earthquake : First report. Geriatr Gerontol Int 2011 ; 11 (4) : 525-526.
- (5) 症例報告 :
- 1) 矢野宏行, 角田美佐子, 大西哲郎, 水野重芳<sup>1)</sup>, 鯉渕 仁<sup>1)</sup>, 木川好章<sup>1)</sup>, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三 ( <sup>1)</sup> 飯能老年病センター) : 高齢認知症患者に発症した後天性血友病の 1 例. 日老医誌 2011 ; 48 (2) : 185-189.
  - 2) 矢野宏行, 角田美佐子, 関水憲一, 二見章子, 渡邊健太郎, 猪狩吉雅, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三 : 要介護高齢認知症患者に合併した糞石イレウスの 1 例. 日老医誌 2011 ; 48 (3) : 289-292.
  - 3) Hashimoto M, Ouchi M, Norose J, Futami-Suda S, Suzuki K, Matsumura N, Igari Y, Suzuki T, Nakano H, Mizuse M<sup>1)</sup>, Honma H<sup>2)</sup>, Oba K ( <sup>1)</sup> Ultrasonic Laboratory, <sup>2)</sup> Division of Cardiology) : Bile duct hamartomas (von Meyenburg complexes) associated with a bacterial infection : Case report of elderly diabetic patient. Geriatr Gerontol Int 2011 ; 11 (4) : 534-536.

## 学会発表

### (1) 教育講演 :

- 1) 大庭建三：高齢者の診療ガイドライン：糖尿病治療ガイド 2010. 第 53 回日本老年医学会学術集会 (東京), 2011. 6.
- 2) 中野博司：嚥下障害のある高齢者の栄養管理をどうするか : 認知症症例の胃瘻造設 : 「積極的に進めるべき」の立場から. 第 53 回日本老年医学会学術集会 (東京), 2011. 6.

### (2) シンポジウム :

- 1) 大庭建三, 大内基司, 中野博司：高齢者糖尿病診療の薬物療法とその治療基準 (高齢者糖尿病診療における医療と介護). 第 54 回日本糖尿病学会年次学術集会 (札幌), 2011. 5.
- 2) 大庭建三, 中野博司：食事と栄養と健康長寿社会 (健康長寿社会の構築へ向けたアプローチ). 第 53 回日本老年

医学会学術集会（東京），2011. 6.

- 3) 小原 信, 渡邊健太郎, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 糖尿病患者での血糖コントロール改善効果と酸化ストレス改善効果の関連: 血糖日内変動および d-ROMs を用いた検討. 第 14 回 Geriatric Medical Frontier Forum (東京), 2011. 10.

(3) セミナー:

- 1) 渡邊健太郎: 血管障害を早期に診る. 第 54 回日本糖尿病学会年次学術集会 (札幌), 2011. 5.

(4) 一般講演:

- 1) 岡崎 優, 橋本雅夫, 大西哲郎, 小原 信, 鈴木一成, 松村典昭, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: RS3PE 症候群の 2 例. 第 53 回日本老年医学会関東甲信越地方会 (東京), 2011. 6.
- 2) 鈴木一成, 渡邊健太郎, 二見章子, 角田美佐子, 大西哲郎, 矢野宏行, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 糖質含有量の差により食後血管内皮機能低下度および回復度に差がある: 75gOGTT およびカロリーメイトを用いた検討. 第 54 回日本糖尿病学会年次学術集会 (札幌), 2011. 5.
- 3) 小原 信, 渡邊健太郎, 橋本雅夫, 本山正幸, 澤井啓介, 石井一史, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 糖尿病における酸化ストレス: 血糖値との関連の検討. 第 54 回日本糖尿病学会年次学術集会 (札幌), 2011. 5.
- 4) 関水憲一, 小野寺直子, 鈴木一成, 大内基司, 松村典昭, 猪狩吉雅, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 高齢者糖尿病の慢性腎臓病の臨床的有用性: 尿蛋白陰性の臨床的意義. 第 54 回日本糖尿病学会年次学術集会 (札幌), 2011. 5.
- 5) 渡邊健太郎, 大内基司, 吉松寛臣, 山下英俊, 岡崎 優, 山本直史, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 2 型糖尿病の大血管症進展におよぼす加齢因子の影響: 頸動脈超音波検査を用いた経年観察. 第 54 回日本糖尿病学会年次学術集会 (札幌), 2011. 5.
- 6) 渡邊健太郎, 二見章子, 小原 信, 橋本雅夫, 矢野宏行, 石井一史, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 動脈硬化進展における加齢の影響: 頸動脈超音波指標を用いた検討. 第 53 回日本老年医学会学術集会 (東京), 2011. 6.
- 7) 関水憲一, 小野寺直子, 鈴木一成, 大内基司, 松村典昭, 猪狩吉雅, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 後期高齢者における尿アルブミン指数の動脈硬化の指標としての臨床的意義. 第 53 回日本老年医学会学術集会 (東京), 2011. 6.
- 8) 大西哲郎, 渡邊健太郎, 鈴木一成, 吉松寛臣, 山下英俊, 本山正幸, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 動脈硬化の加齢性変化に対する 2 型糖尿病の影響: 頸動脈超音波指標を用いた検討. 第 53 回日本老年医学会学術集会 (東京), 2011. 6.
- 9) 岡崎 優, 渡邊健太郎, 大内基司, 角田美佐子, 山本直史, 澤井啓介, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 血糖値の加齢性変化: 地域住民男性における OGTT の経年観察からの検討. 第 53 回日本老年医学会学術集会 (東京), 2011. 6.
- 10) Ouchi M, Suzuki K, Sekimizu K, Watanabe K, Suzuki T, Nakano H, Oba K: Relationship between Postprandial Hyperglycemia and Renal Tubular Function in Patients without Diabetes. American Diabetes Association's 71st Scientific Sessions (San Diego), 2011. 6.
- 11) Watanabe K, Suzuki T, Ouchi M, Suzuki K, Sekimizu K, Nakano H, Oba K: Effect of Aging on Progression of Atherosclerosis in Type 2 Diabetes Patients. American Diabetes Association's 71st Scientific Sessions (San Diego), 2011. 6.
- 12) Suzuki T, Watanabe K, Ouchi M, Suzuki K, Sekimizu K, Nakano H, Oba K: What Characteristics at Baseline Are Associated with the Glucose-Lowering Effect of Colestimide in Patients with Type 2 Diabetes with Hypercholesterolemia?. American Diabetes Association's 71st Scientific Sessions (San Diego), 2011. 6.
- 13) Sekimizu K, Watanabe K, Ouchi M, Suzuki K, Suzuki T, Nakano H, Oba K: Effect of Aging on Risk of

- Cardiovascular Disease in Type 2 Diabetes Patients with, or without Diabetic Nephropathy. American Diabetes Association's 71st Scientific Sessions (San Diego), 2011. 6.
- 14) Suzuki K, Watanabe K, Ouchi M, Sekimizu K, Suzuki T, Nakano H, Oba K : Differences in Dietary Carbohydrate Content Induce Differences in Postprandial Attenuation of Endothelial Function. American Diabetes Association's 71st Scientific Sessions (San Diego), 2011. 6.
  - 15) 石井一史, 本山正幸, 山下英俊, 関水憲一, 大内基司, 猪狩吉雅, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三 : 両側同時発症, 異なる組織型が疑われた高齢腎細胞癌の1例. 第53回日本老年医学会関東甲信越地方会 (東京), 2011. 6.
  - 16) 濱岡 巧<sup>1)</sup>, 稲垣弘文<sup>2)</sup>, 李 英姫<sup>2)</sup>, 川田智之<sup>2)</sup>, 大庭建三 <sup>1)</sup> 医学部第3学年, <sup>2)</sup> 衛生学・公衆衛生学 : 骨の健康維持に役立つとされている特定保険用食品の効果について. 第79回日本医科大学医学会総会 (東京), 2011. 9.
  - 17) 小林俊介<sup>1)</sup>, 渡邊健太郎, 小原 信, 鈴木一成, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三 <sup>1)</sup> 昼間開講制大学院内科系 : 低血糖出現と血糖コントロールおよび年齢の関連 : 血糖日内変動を用いた検討. 第79回日本医科大学医学会総会 (東京), 2011. 9.
  - 18) 大西哲郎, 石井一史, 橋本雅夫, 鈴木一成, 関水憲一, 松村典昭, 渡邊健太郎, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三 : 高齢原発性副甲状腺機能亢進症の1例. 第54回日本老年医学会関東甲信越地方会 (東京), 2011. 9.
  - 19) 矢野宏行, 石井一史, 小原 信, 鈴木一成, 猪狩吉雅, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三 : 認知症症状が低血糖の発見契機となった高齢2型糖尿病の1例. 第54回日本老年医学会関東甲信越地方会 (東京), 2011. 9.
  - 20) 小原 信, 矢野宏行, 関水憲一, 猪狩吉雅, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三 : 高齢ホモセクシャルの肝膿瘍の1例. 第54回日本老年医学会関東甲信越地方会 (東京), 2011. 9.
  - 21) Nakano H : The relationship of urinary albumin levels and cardiovascular disease in elderly Japanese patients. 9th Asia-Oceania Regional Congress of Gerontology and Geriatrics (Melbourne), 2011. 10.
  - 22) 渡邊健太郎, 小林俊介<sup>1)</sup>, 小原 信, 鈴木一成, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三 <sup>1)</sup> 昼夜開講制大学院, 内科系 : 低血糖出現と血糖コントロールおよび年齢の関連 : 血糖日内変動を用いた検討. 第46回日本成人病 (生活習慣病) 学会 (東京), 2012. 1.
  - 23) 小原 信, 石井一史, 矢野宏行, 鈴木一成, 大内基司, 猪狩吉雅, 渡邊健太郎, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三 : 肥満を有する抗GAD抗体弱陽性糖尿病にエキセナチド・グラルギン併用療法が有効であった1例. 第49回日本糖尿病学会関東甲信越地方会 (東京), 2012. 1.
  - 24) 橋本雅夫, 渡邊健太郎, 山下英俊, 澤井啓介, 小原 信, 鈴木一成, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三 : 高齢2型糖尿病患者の $\alpha$ -グルコシダーゼ阻害薬と低血糖出現の関連. 第55回日本老年医学会関東甲信越地方会 (東京), 2012. 3.
  - 25) 三枝太郎, 石井一史, 本山正幸, 大西哲郎, 橋本雅夫, 鈴木一成, 松村典昭, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三 : 高齢者Lemmel症候群の1例. 第55回日本老年医学会関東甲信越地方会 (東京), 2012. 3.
  - 26) 青山純也, 関水憲一, 矢野宏行, 岡崎 優, 小原 信, 大内基司, 猪狩吉雅, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三 : 特異な臨床経過を呈し, 剖検で器質性肺炎が考えられた高齢糖尿病患者の1例. 第55回日本老年医学会関東甲信越地方会 (東京), 2012. 3.

## [多摩永山病院内科, 循環器内科]

### 研究概要

当科は循環器専攻の内科医により構成され, 虚血性心疾患, 不整脈などの循環器疾患を中心に診療を行っているが, 多摩地区の中核病院としての機能を維持するため内科全般を診療対象とし, 専門領域の他, 高血圧, 糖尿病, 脂質異常症, メタボリックシンドローム, 慢性腎臓病 (CKD) などを対象に実地臨床に即した研究を行っている. 1) 急性

冠症候群の急性期治療および予後規定因子に関する研究 2) 冠攣縮性狭心症の病態と予後既定因子に関する研究 3) 冠攣縮性狭心症例の心室細動に対する植込み型除細動器の適応に関する研究 4) 慢性心不全患者におけるサイトカインと予後に関する研究 5) 日本心電学会主催の心房細動例の登録研究 (J-RHYTHM Registry) 6) 不整脈診断のための臨床電気生理とカテーテル治療 7) 不整脈治療に必要な臨床心臓解剖学の研究 8) 心筋 SPECT による心室同期不全の評価に関する研究 9) 高血圧における微小心筋障害に関する研究 10) 食塩感受性高血圧に対する薬物治療, 食塩摂取量に関する研究 11) インクレチン製剤の血糖非依存効果に関する研究 12) 日本循環器学会認定の多施設共同研究への参加 13) 多摩地区, 南多摩地区における多施設共同研究への参加 14) 高齢者医療に関する共同研究 以上を中心に研究を行い, 日本循環器学会, 日本心臓病学会, 日本心電学会, 日本成人病 (生活習慣病) 学会, 日本高血圧学会, 日本糖尿病学会, 日本老年医学会, 及び関連学会へ研究成果を報告するとともに, 内科総合診療部門として稀少例の症例報告も積極的に行っている。

## 研究業績

### 論文

(1) 原著 :

- 1) Yamashita T<sup>1)</sup>, Inoue H<sup>1)</sup>, Okumura K<sup>1)</sup>, Kodama I<sup>1)</sup>, Aizawa Y<sup>1)</sup>, Atarashi H<sup>1)</sup>, Ohe T<sup>1)</sup>, Ohtsu H<sup>1)</sup>, Kato T<sup>1)</sup>, Kamakura S<sup>1)</sup>, Kumagai K<sup>1)</sup>, Kurachi Y<sup>1)</sup>, Koretsune Y<sup>1)</sup>, Saikawa T<sup>1)</sup>, Sakurai M, et al.<sup>(1)</sup> J-RHYTHM II Investigators) : Randomized trial of angiotensin II-receptor blocker vs. dihydropyridine calcium channel blocker in the treatment of paroxysmal atrial fibrillation with hypertension (J-RHYTHM II Study). *Europace* 2011 ; 13 (4) : 473-479.
- 2) Atarashi H, Inoue H<sup>1)</sup>, Okumura K<sup>2)</sup>, Yamashita T<sup>3)</sup>, Kumagai N<sup>4)</sup>, Origasa H<sup>5)</sup>, for the J-RHYTHM Registry Investigators <sup>(1)</sup> The Second Department of Internal Medicine, University of Toyama, <sup>(2)</sup> Cardiology Respiratory Medicine and Nephrology, Hirosaki University Graduate School of, <sup>(3)</sup> The Cardiovascular Institute, <sup>(4)</sup> Kochi Medical School Clinical Research Center, Kochi University, <sup>(5)</sup> Division of Biostatistics and Clinical Epidemiology, University of Toyama, Graduate School of Medicine) : Present status of anticoagulation treatment in Japanese patients with atrial fibrillation : report from the J-RHYTHM Registry. *Circ J* 2011 ; 75 (6) : 1328-1333.
- 3) Nakagomi A, Sasaki M<sup>1)</sup>, Ishikawa Y<sup>1)</sup>, Shibui T, Kosugi M, Endoh Y, Morikawa M<sup>1)</sup>, Kusama Y, Atarashi H, Mizuno K<sup>2)</sup> <sup>(1)</sup> Department of Pharmaceuticals, Tokyo University of Pharmacy and Life Science, <sup>(2)</sup> Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine), Nippon Medical School) : Upregulation of monocyte tissue factor activity is significantly associated with carotid intima-media thickness in patients with metabolic syndrome. *J Atheroscler Thromb* 2011 ; 18 (6) : 475-486.
- 4) Nakagomi A, Kodani E, Takano H<sup>4)</sup>, Uchida T<sup>1)</sup>, Sato N<sup>2)</sup>, Ibuki C<sup>3)</sup>, Kusama Y, Seino Y<sup>3)</sup>, Munakata K<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>4)</sup>, Takano T<sup>4)</sup> <sup>(1)</sup> Department of Internal Medicine and Cardiology, Musashikosugi Hospital, <sup>(2)</sup> Intensive and Cardiac Unit, Nippon Medical School, <sup>(3)</sup> Department of Cardiology, Chiba-Hokuso Hospital, <sup>(4)</sup> Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine), Nippon Medical School) : Secondary preventive effects of a calcium antagonist for ischemic heart attack : randomized parallel comparison with  $\beta$ -blockers. *Circ J* 2011 ; 75 (7) : 1696-1705.
- 5) Kodani E, Otsuka T<sup>1)</sup>, Kusama Y, Atarashi H <sup>(1)</sup> Department of Hygiene and Public Health, Nippon Medical School) : Beneficial effect of cilnidipine on morning hypertension : evaluation by home monitoring and ambulatory blood pressure monitoring. *Ther Res* 2011 ; 32 (7) : 925-935.
- 6) Kosugi M, Nakagomi A, Shibui T, Kato K, Kusama Y, Atarashi H, Mizuno K<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> Department of Internal

Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine), Nippon Medical School) : Effect of long-term nitrate treatment on cardiac events in patients with vasospastic angina. *Circ J* 2011 ; 75 (9) : 2196-2205.

- 7) Kurita A<sup>1)</sup>, Takase B<sup>2)</sup>, Shinagawa N<sup>3)</sup>, Kodani E, Okada K, Iwahara S, Kusama Y, Atarashi H ( <sup>1)</sup> Special Nursing Home for Elderly, Fukuikai Clinic, <sup>2)</sup> Department of Emergency Medicine, National Defense Medical College, <sup>3)</sup> Shinagawa Clinic) : Spiritual activation in very elderly individuals assessed as heart rate variability and plasma IL-10/IL-6 ratios. *Int Heart J* 2011 ; 52 (5) : 299-303.
  - 8) 久保田将之<sup>1)</sup>, 吉田悠鳥<sup>1)</sup>, 鈴木 哲<sup>1)</sup>, 松井岳巳<sup>1)</sup>, 香川正幸<sup>2)</sup>, 小谷英太郎, 草間芳樹, 新 博次, 高瀬凡平<sup>3)</sup>, 栗田 明<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 首都大学東京システムデザイン学部, <sup>2)</sup> 富士通株式会社, <sup>3)</sup> 防衛医科大学校病院, <sup>4)</sup> 社会福祉法人福音会) : 高齢者見守りシステムの開発 : マイクロ波レーダーによる呼吸, 心拍の非接触計測. *Ther Res* 2011 ; 32 (9) : 1101-1104.
  - 9) 小谷英太郎, 奥村 謙<sup>1)</sup>, 井上 博<sup>1)</sup>, 山下武志<sup>1)</sup>, 新 博次<sup>1)</sup>, 折笠秀樹<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> J-RHYTHM Registry Investigators, <sup>2)</sup> 富山大学大学院医学薬学研究部バイオ統計学・臨床疫学) : 我が国で用いられているプロトンピン時間国際標準比 (INR) 測定用試薬の国際感度指数 (ISI) 値とその問題点 : J-RHYTHM Registry からの検討. *心電図* 2011 ; 31 (3) : 225-233.
  - 10) J-RHYTHM Registry Investigators : Determinants of warfarin use and international normalized ratio levels in atrial fibrillation patients in Japan : subanalysis of the J-RHYTHM Registry. *Circ J* 2011 ; 75 (10) : 2357-2362.
  - 11) 粟屋 透<sup>1)</sup>, 小山 憲<sup>2)</sup>, 山川 宙<sup>3)</sup>, 小谷英太郎 ( <sup>1)</sup> たま循環器科・内科, <sup>2)</sup> およま内科クリニック, <sup>3)</sup> 山川内科クリニック) : 脂質異常症患者を対象としたスタチン製剤の脂質改善効果と腎機能に対する調査. *Ther Res* 2011 ; 32 (12) : 1645-1651.
  - 12) 村田広茂<sup>1,2)</sup>, 宮内靖史<sup>2)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 野間さつき<sup>1,2)</sup>, 有田淑恵<sup>1,2)</sup>, 高橋健太<sup>2)</sup>, 植竹俊介<sup>2)</sup>, 林 洋史<sup>2)</sup>, 坪井一平<sup>2)</sup>, 山本哲平<sup>2)</sup>, 岡崎怜子, 堀江 格<sup>2)</sup>, 林 明聡<sup>2)</sup>, 山本 剛<sup>1,2)</sup>, 小原俊彦<sup>2)</sup>, その他4名 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院集中治療室, <sup>2)</sup> 日本医科大学内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)) : VT storm に対するアミオダロン静注薬の有効性. *Prog Med* 2012 ; 32 (suppl 1) : 424-429.
  - 13) 井川 修, 新 博次 : 構造学的にみた心房細動持続に伴うリモデリングとリバースリモデリングの可能性. *心電図* 2011 ; 31 (5) : 534-540.
- (2) 総説 :
- 1) Atarashi H : A new era in the pharmacological management of atrial fibrillation. *J Arrhythmia* 2011 ; 27 (2) : 105.
  - 2) Atarashi H : Thrombin inhibitor or factor Xa inhibitor? : Opening of a new era of antithrombotic management. *Circ J* 2011 ; 75 (8) : 1819-1820.
  - 3) Ogawa S<sup>1)</sup>, Koretsune Y<sup>2)</sup>, Yasaka M<sup>3)</sup>, Aizawa Y<sup>4)</sup>, Atarashi H, Inoue H<sup>5)</sup>, Kamakura S<sup>6)</sup>, Kumagai K<sup>7)</sup>, Mitamura H<sup>8)</sup>, Okumura K<sup>9)</sup>, Sugi K<sup>10)</sup>, Yamashita T<sup>10)</sup> ( <sup>1)</sup> Mita Hospital, International University of Health and Welfare, <sup>2)</sup> Institute for Clinical Research, Osaka National Hospital, <sup>3)</sup> Department of Cerebrovascular Medicine, National Hospital Organization, Kyushu Medical Center, <sup>4)</sup> Niigata University Graduate School of Medical and Dental Science Cardiology, <sup>5)</sup> The Second Department of Internal Medicine, University of Toyama, Graduate School of Medicine, <sup>6)</sup> Division of Arrhythmia and Electrophysiology, Department of Cardiovascular Medicine, National Cerebral and Cardiovascular Center, <sup>7)</sup> Heart Rhythm Center, Fukuoka Sanno Hospital, <sup>8)</sup> Cardiovascular Department, Saiseikai Central Hospital, <sup>9)</sup> Cardiology, Respiratory Medicine and Nephrology, Hirosaki University Graduate School of Medicine, <sup>10)</sup> and others) : Antithrombotic therapy in atrial fibrillation : evaluation and positioning of new oral anticoagulant agents. *Circ J* 2011 ; 75 (7) : 1539-

1547.

- 4) Endoh Y, Endoh I, Geczy C<sup>1</sup>, Nakagomi A, Kusama Y, Atarashi H ( <sup>1</sup> Inflammatory Diseases Research Unit, School of Medical Sciences, University of New South Wales) : Inflammation and atrial fibrillation. J Arrhythmia 2011 ; 27 ( 2 ) : 106-115.
  - 5) 小谷英太郎, 新 博次 : 心房細動治療ガイドラインに基づく診療戦略. 成人病と生活習慣病 2011 ; 41 ( 8 ) : 911-917.
  - 6) 中込明裕 : 心筋障害マーカー. 日本臨牀 2011 ; 69 ( 増刊号 7 ) : 159-163.
  - 7) 新 博次 : 日本における心房細動に対するワルファリン療法の現状 : J-RHYTHM Registry から. 医学のあゆみ 2011 ; 238 ( 12 ) : 1107-1110.
  - 8) 新 博次 : 毎夕食後の発作性心房細動と抗凝固療法. 日本医事新報 2011 ; 4565 : 54-55.
  - 9) 新 博次 : 治す : 発作性心房細動の治療目標はなにか, どこで妥協すべきか. Heart View 2011 ; 15 ( 10 ) : 1048-1051.
  - 10) 小谷英太郎, 新 博次 : 心房細動の疫学. Prog Med 2012 ; 32 ( 2 ) : 191-198.
  - 11) 小谷英太郎, 新 博次 : 血栓塞栓症のリスク評価はどこまで診るか : CHADS<sub>2</sub> スコアと CHA<sub>2</sub>DS<sub>2</sub>-VASc スコア. Mebio 2012 ; 29 ( 4 ) : 42-49.
  - 12) 新 博次, 井上 博<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 富山大学第二内科 ) : 日本における心房細動に対する warfarin 療法の現状 : J-RHYTHM Registry からの報告. 循環器専門医 2012 ; 20 ( 1 ) : 58-64.
  - 13) Igawa O : Focus on the atrial structure : Useful anatomical information for catheter ablation. J Arrhythmia 2011 ; 27 ( 4 ) : 268-288.
  - 14) 井川 修 : 心臓の解剖と刺激伝導系の役割. HEART 2011 ; 1 ( 1 ) : 11-20.
  - 15) 岡崎怜子, 新 博次 : 心房細動の管理・治療・診断. MEDICAMENT NEWS 2011 ; ( 2051 ) : 6-8.
- (3) 症例報告 :
- 1) 宮地秀樹, 小谷英太郎, 岡崎怜子, 吉川雅智, 松本 真, 遠藤康実, 中込明裕, 草間芳樹, 磯部光章<sup>1</sup>, 新 博次 ( <sup>1</sup> 東京医科歯科大学循環器内科 ) : 不明熱にて入院し FDG-PET/CT により診断し得た早期高安動脈炎の 1 例. 日本内科学会雑誌 2011 ; 100 ( 5 ) : 1388-1390.
  - 2) 本間英恵, 小谷英太郎, 菊池有史, 小杉宗範, 加藤活人, 進藤朝子, 渋谷俊之, 岡崎怜子, 吉川雅智, 遠藤育子, 松本 真, 遠藤康実, 中込明裕, 井川 修, 草間芳樹, その他 1 名 : 冠攣縮性狭心症を有するが, その他の不整脈原性基質が否定できない心室細動蘇生例に対する植込み型徐細動器 ( ICD ) の適応に関する検討. 心臓 2011 ; 43 ( Suppl 2 ) : 149-153.
  - 3) Endoh I, Kodani E, Yoshikawa M, Endoh Y, Kusama Y, Atarashi H : Olanzapine-related life-threatening hyperosmolar hyperglycemic syndrome : a case report. J Clin Psychopharmacol 2012 ; 32 ( 1 ) : 130-132.
  - 4) Kaneko Y<sup>1</sup>, Igawa O, Irie T<sup>1</sup>, Adachi M<sup>2</sup>, Nakajima T<sup>1</sup>, Yokoo H<sup>3</sup>, Nakazato Y<sup>3</sup>, Kurabayashi M<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> Department of Medicine and Biological Science, Gunma University Graduate School of Medicine, <sup>2</sup> Department of Cardiovascular Medicine, Tottori University Hospital, <sup>3</sup> Department of Human Pathology, Gunma University Graduate School of Medicine ) : Histopathological verification for successful ablation of mitral isthmus ventricular tachycardia complicated with cardiac sarcoidosis. Intern Med 2012 ; 51 ( 3 ) : 281-285.

## 著 書

[追加分]

追加分 :

- 1) 井川 修 : [分担] 不整脈起源と心臓・大血管の解剖. カテーテルアブレーション—基本から最新治療まで— 改訂 2 版 ( 相澤義房, 奥村 謙・編 ), 2010 ; pp52-61, メジカルビュー社.

- 1) 岡崎怜子, 新 博次:〔分担〕twiddler 症候群. 症候群ハンドブック (井村裕夫・総編), 2011; p183, 中山書店.
- 2) 新 博次:〔分担〕心房細動. そこが知りたい抗血栓療法 (後藤信哉・編), 2011; pp198-208, メジカルビュー社.
- 3) 真鍋宏美, 小谷英太郎, 大塚俊昭<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学衛生学・公衆衛生学講座):〔分担〕線維肉腫/粘液線維肉腫. 心臓腫瘍学 (天野 純・編), 2011; pp241-248, 南山堂.
- 4) 小谷英太郎, 新 博次:〔分担〕J-RHYTHM Registry からみた心原性塞栓症予防の現状と問題点:PT-INR と ISI の精度を見直す. 不整脈 2011 (井上 博・編), 2011; pp91-104, メディカルレビュー社.
- 5) 新 博次:〔分担〕治療方針決定の指標:なにを診てどう判断するか. もう迷わない!心房細動マネージメント (奥村 謙・編), 2012; pp52-59, メジカルビュー社.
- 6) 新 博次:〔分担〕不整脈のエビデンス. 循環器疾患最新の治療 2012-2013 (堀 正二, 永井良三・編), 2012; pp536-537, 南江堂.
- 7) 新 博次:〔分担〕心房細動患者における RAS 抑制の意義はどこにあるのか?. EBM 循環器疾患の治療 2012-2013 (小室一成, 横井宏佳, 山下武志, 柴木宏実・編), 2012; pp274-278, 中外医学社.
- 8) 井川 修:〔分担〕心房細動治療に関わる心房・肺静脈の解剖. 心房細動治療の真髄 (小室一成・監, 奥山裕司・編), 2012; pp13-24, 中外医学社.
- 9) 井川 修:〔分担〕3-D mapping と解剖. 3-D mapping アブレーションにどう活用するか (山根禎一・編), 2012; pp31-48, メジカルビュー社.
- 10) 新 博次:〔分担〕抗不整脈薬. 臨床薬理学 第 3 版 (日本臨床薬理学会編), 2011; pp262-267, 医学書院.

## 学会発表

### (1) 特別講演:

- 1) 井川 修:臨床不整脈領域における臨床心臓構造学の応用. 日本医科大学医学会総会 (第 79 回) (東京), 2011. 9.

### (2) シンポジウム:

- 1) Kodani E, Atarashi H<sup>1)</sup>, Okumura K<sup>1)</sup>, Inoue H<sup>1)</sup>, Yamashita T<sup>1)</sup>, Origasa H<sup>2)</sup> (1) J-RHYTHM Registry Investigators, (2) Division of Biostatistics and Clinical Epidemiology, University of Toyama Graduate School of Medicine): Influence of the high-International Sensitivity Index (ISI) reagents on the daily warfarin dose on anticoagulant therapy for atrial fibrillation. A report from J-RHYTHM Registry. The 4th Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session, the 26th Annual Meeting of the Japanese Heart Rhythm Society, the 28th Annual Meeting of the Japanese Society of Electrocardiology (Fukuoka, Japan), 2011. 9.
- 2) Igawa O, Atarashi H: Anatomy of the left ventricular outflow tract related to the idiopathic ventricular tachycardia (The relationship between the great cardiac vein and the coronary arteries). The 4th Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session, the 26th Annual Meeting of the Japanese Heart Rhythm Society, the 28th Annual Meeting of the Japanese Society of Electrocardiology (Fukuoka, Japan), 2011. 9.
- 3) Irie T<sup>1)</sup>, Kaneko Y<sup>1)</sup>, Igawa O, Nakajima T<sup>1)</sup>, Saito A<sup>1)</sup> (1) Department of Medicine and Biological Science, Gunma University Graduate School of Medicine): Ventricular tachycardia originating from apical septum in a case with dilated cardiomyopathy: Correlation of electroanatomical data with post-mortem history. The 4th Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session, the 26th Annual Meeting of the Japanese Heart Rhythm Society, the 28th Annual Meeting of the Japanese Society of Electrocardiology (Fukuoka, Japan), 2011. 9.
- 4) 新 博次:わが国の心原性脳塞栓予防の現状:J-RHYTHM Registry からの報告 (心房細動の脳梗塞予防:心と

脳からの新たな展開). 日本成人病 (生活習慣病) 学会学術集会 (第 46 回) (東京), 2012. 1.

- 5) 井川 修: ペーシング部位に関連する心房の解剖 (心房性不整脈と心房ペーシング部位: 心房ペーシング部位を考える). 植込みデバイス関連冬季学会 (第 4 回) (福岡), 2012. 2.

(3) 一般講演:

- 1) Miyachi H, Yamamoto A, Otsuka T, Yoshikawa M, Kodani E, Endoh Y, Nakagomi A, Kusama Y, Atarashi H, Mizuno K<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Nippon Medical School): Impact of left ventricular dyssynchrony on left ventricular function in heart failure assessed by <sup>99m</sup>Tc-sestamibi gated myocardial scintigraphy. ACC.11 60th Annual Scientific Session & Expo (New Orleans, USA), 2011. 4.
- 2) Igawa O, Okazaki R, Kodani E, Kawaguchi N, Endoh Y, Nakagomi A, Kusama Y, Adachi M<sup>1)</sup>, Atarashi H (<sup>1)</sup> Department of Cardiovascular Medicine, Tottori University Hospital): Possible mechanism of functional conduction block in the posterior wall of the right atrium. Heart Rhythm Society's 32nd Annual Scientific Session (San Francisco, USA), 2011. 5.
- 3) Igawa O, Okazaki R, Kodani E, Kawaguchi N, Endoh Y, Nakagomi A, Kusama Y, Adachi M<sup>1)</sup>, Atarashi H (<sup>1)</sup> Department of Cardiovascular Medicine, Tottori University Hospital): The effect of radiofrequency catheter ablation on the muscle connection between the left atrium and coronary sinus using open-tip irrigated catheter. Heart Rhythm Society's 32nd Annual Scientific Session (San Francisco, USA), 2011. 5.
- 4) Igawa O, Adachi M<sup>1)</sup>, Atarashi H, Kusama Y, Kodani E, Okazaki R, Nakagomi A, Endoh Y (<sup>1)</sup> Tottori University Hospital): Histological difference of the left atrial posterior wall in chronic atrial fibrillation. The Meeting of the European Heart Rhythm Association (EHRA-EUROPACE 2011) (Madrid, Spain), 2011. 6.
- 5) Igawa O, Adachi M<sup>1)</sup>, Atarashi H, Kusama Y, Kodani E, Okazaki R, Nakagomi A, Endoh Y (<sup>1)</sup> Tottori University Hospital): Mechanism of functional conduction block in the posterior wall of the right atrium. The Meeting of the European Heart Rhythm Association (EHRA-EUROPACE 2011) (Madrid, Spain), 2011. 6.
- 6) 栗田 明<sup>1)</sup>, 品川直介<sup>2)</sup>, 小谷英太郎, 高瀬凡平<sup>3)</sup>, 草間芳樹, 新 博次 (<sup>1)</sup> 社会福祉法人福音会医務室, <sup>2)</sup> 品川医院, <sup>3)</sup> 防衛医科大学校救急部): 特別養護老人ホームにおける看取り看護の経験: 殊に急性期病院での入院加療症例との比較について. 日本内科学会講演会 (第 108 回・開催中止), 2011. 4.
- 7) 中野博之, 小谷英太郎, 小橋啓一, 西城由之, 小杉宗範, 佐々木朝子, 渋井俊之, 吉川雅智, 中込明裕, 草間芳樹, 新 博次: LAD 病変のステント fracture を認めた症例. 多摩地区虚血性心疾患研究会 (第 34 回) (東京), 2011. 5.
- 8) 山本哲平<sup>1)</sup>, 宮内靖史<sup>1)</sup>, 林 明聡<sup>1)</sup>, 堀江 格<sup>1)</sup>, 植竹俊介<sup>1)</sup>, 坪井一平<sup>1)</sup>, 林 洋史<sup>1)</sup>, 高橋健太<sup>1)</sup>, 加藤貴雄<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>, 新田 隆<sup>2)</sup>, 大森裕也<sup>2)</sup>, 新 博次, 井川 修, 岡崎怜子 (<sup>1)</sup> 日本医科大学第一内科, <sup>2)</sup> 日本医科大学心臓血管外科): 心房細動外科手術後超遠隔期に僧帽弁輪ならびに三尖弁輪を旋回する 2 種類の心房頻拍が発生した 1 例. 臨床心臓電気生理研究会 (第 41 回) (大阪), 2011. 5.
- 9) 小谷英太郎, 栗屋 透<sup>1)</sup>, 大塚俊昭<sup>2)</sup>, 草間芳樹, 新 博次 (<sup>1)</sup> たま循環器科・内科, <sup>2)</sup> 日本医科大学衛生学・公衆衛生学講座): 半定量尿中食塩濃度測定による一日食塩摂取量の推定: TAMA SALT study. 日本循環器病予防学会・日本循環器管理研究協議会総会 (第 47 回) (福岡), 2011. 6.
- 10) 大塚俊昭<sup>1)</sup>, 川田智之<sup>1)</sup>, 小谷英太郎 (<sup>1)</sup> 日本医科大学衛生学・公衆衛生学講座): 職域男性集団におけるメタボリックシンドロームの発症率およびメタボリックシンドローム発症に関連する生活習慣因子の検討. 日本循環器病予防学会・日本循環器管理研究協議会総会 (第 47 回) (福岡), 2011. 6.
- 11) 栗田 明<sup>1)</sup>, 品川直介<sup>2)</sup>, 小谷英太郎, 岩原信一郎<sup>3)</sup>, 高瀬凡平<sup>4)</sup>, 草間芳樹, 新 博次 (<sup>1)</sup> 社会福祉法人福音会医務室, <sup>2)</sup> 品川クリニック, <sup>3)</sup> 南町田病院, <sup>4)</sup> 防衛医科大学校): 特別養護老人ホームにおける看取り介護ケアなどの現況 (第二報). 日本老年医学会学術集会 (第 53 回) (東京), 2011. 6.
- 12) 岡崎怜子, 井川 修, 川口直美, 井野 威, 新 博次, 堀江 格<sup>1)</sup>, 鈴木文男<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院第一

- 内科, <sup>2)</sup> 結核予防会・複十字病院): 房室伝導の検討において HA 間隔の奇異的短縮が見られた slow-fast 型房室結節 reentry 性頻拍の 1 例. 多摩不整脈研究会 (第 26 回) (東京), 2011. 6.
- 13) 高仲雅子<sup>1)</sup>, 布施谷綾子<sup>1)</sup>, 小谷英太郎 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院看護部): 大学病院に勤務する看護師の緩和ケアの意識と今後の課題. 日本緩和医療学会学術大会 (第 16 回) (北海道), 2011. 7.
- 14) 西城由之, 小谷英太郎, 小橋啓一, 小杉宗範, 加藤活人, 進藤朝子, 渋谷俊之, 吉川雅智, 中込明裕, 草間芳樹, 新 博次, 水野杏一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)): 発作時の緊急冠動脈造影にて一過性の側副血行を認めた冠攣縮性狭心症の 1 例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 221 回) (東京), 2011. 9.
- 15) 岡崎怜子, 井川 修, 小谷英太郎, 川口直美, 遠藤康実, 中込明裕, 草間芳樹, 中島正之<sup>1)</sup>, 渋谷 純<sup>2)</sup>, 新 博次 ( <sup>1)</sup> 公立八鹿病院検査科, <sup>2)</sup> 公立八鹿病院循環器内科): 構造的変化に先行して電気生理学的変化を認めた房室中隔腫瘍形成転移性心臓腫瘍の 1 例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 221 回) (東京), 2011. 9.
- 16) 高仲雅子, 小谷英太郎: A 病院の院内がん看護・緩和ケア研修の評価: 看護師への院内意識調査より. 日本看護学会学術集会 (成人看護) (第 42 回) (大阪), 2011. 9.
- 17) 小橋啓一, 中込明裕, 西城由之, 進藤朝子, 吉川雅智, 小谷英太郎, 草間芳樹, 新 博次, 水野杏一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)): 急性心筋梗塞患者においてメタボリックシンドロームは慢性期不全発症を増加させる. 日本心臓病学会学術集会 (第 59 回) (東京), 2011. 9.
- 18) 小杉宗範, 中込明裕, 小橋啓一, 西城由之, 進藤朝子, 吉川雅智, 小谷英太郎, 草間芳樹, 新 博次, 水野杏一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)): 冠攣縮性狭心症患者においてフィブリノーゲン高値は心事故を増加させる. 日本心臓病学会学術集会 (第 59 回) (東京), 2011. 9.
- 19) 西城由之, 中込明裕, 小橋啓一, 小杉宗範, 進藤朝子, 吉川雅智, 小谷英太郎, 草間芳樹, 新 博次, 水野杏一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)): 異型狭心症患者における心事故増加には炎症反応が深く関与する. 日本心臓病学会学術集会 (第 59 回) (東京), 2011. 9.
- 20) 大塚俊昭<sup>1)</sup>, 加藤活人<sup>1)</sup>, 雪吹周生<sup>2)</sup>, 宗像 亮<sup>2)</sup>, 小谷英太郎, 草間芳樹, 川田智之<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学衛生学・公衆衛生学講座, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院循環器センター): オシロメトリック法により測定した上腕動脈コンプライアンス指標を規定する動脈硬化危険因子の検討. 日本 AS 学会 (第 11 回) (東京), 2011. 10.
- 21) 小谷英太郎, 栗屋 透<sup>1)</sup>, 大塚俊昭<sup>2)</sup>, 草間芳樹 ( <sup>1)</sup> たま循環器科・内科, <sup>2)</sup> 日本医科大学衛生学・公衆衛生学講座): アンジオテンシン II 受容体拮抗薬/利尿薬併用が有用な背景疾患の検討: TAMA SALT study からの報告. 日本高血圧学会総会 (第 34 回) (栃木), 2011. 10.
- 22) 大塚俊昭<sup>1)</sup>, 雪吹周生<sup>2)</sup>, 小谷英太郎, 草間芳樹 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学衛生学・公衆衛生学講座, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院循環器センター): オシロメトリック法により測定した上腕動脈コンプライアンス指標の臨床的意義: 動脈硬化危険因子との関連. 日本高血圧学会総会 (第 34 回) (栃木), 2011. 10.
- 23) 柴田まり子<sup>1)</sup>, 関根史江<sup>1)</sup>, 山内紗弥佳<sup>1)</sup>, 小谷英太郎, 草間芳樹 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院内科病棟): 患者の感情, 生活に着目できる薬物療法支援ツールの開発に向けて: 薬物療法を受けている患者の語りから見えたもの. 多摩地区虚血性心疾患研究会 (第 35 回) (東京), 2011. 11.
- 24) 西城由之, 小谷英太郎, 原千鶴子, 秋谷麻衣, 小橋啓一, 森澤太郎, 小杉宗範, 進藤朝子, 吉川雅智, 中込明裕, 草間芳樹, 新 博次: 稀少な画像所見が得られた冠攣縮性狭心症の 2 例. 多摩地区虚血性心疾患研究会 (第 35 回) (東京), 2011. 11.
- 25) 栗田 明<sup>1)</sup>, 小谷英太郎, 岩原信一郎, 岡田 薫, 高瀬凡平<sup>2)</sup>, 品川直介<sup>3)</sup>, 草間芳樹, 新 博次 ( <sup>1)</sup> 社会福祉法人福音会医務室, <sup>2)</sup> 防衛医科大学校研究センター, <sup>3)</sup> 品川クリニック): 精神的説法は認知症を有する後期高齢者の免疫能や心臓の自律神経能に有効か?. 日本循環器心身医学総会 (第 68 回), 2011. 11.
- 26) 村田広茂<sup>1)</sup>, 宮内靖史<sup>2)</sup>, 加藤貴雄<sup>2)</sup>, 細川雄亮<sup>1)</sup>, 堀江 格<sup>2)</sup>, 林 明聡<sup>2)</sup>, 坪 宏一<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 新 博次, 田中啓治<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院集中治療室, <sup>2)</sup> 日本医科大学内科学 (循環器・肝臓・老

- 年・総合病態部門)：VT storm に対するアミオダロン静注薬の有効性。日本臨床薬理学会年会 (第 32 回) (静岡), 2011. 12.
- 27) 岡崎怜子, 井川 修, 小谷英太郎, 川口直美, 遠藤康実, 中込明裕, 草間芳樹, 新 博次, 鈴木文男<sup>1)</sup>, 堀江格<sup>2)</sup>, 宮内靖史<sup>2)</sup>, 水野杏一<sup>2)</sup> (1) 結核予防会複十字病院循環器内科, 2) 日本医科大学内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)：室房伝導の検討において HA 間隔の奇異的短縮が見られた slow-fast 型房室結節 reentry 性頻拍の 1 例。日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 222 回) (東京), 2011. 12.
- 28) 西城由之, 小谷英太郎, 小橋啓一, 小杉宗範, 進藤朝子, 岡崎怜子, 吉川雅智, 遠藤育子, 川口直美, 遠藤康実, 中込明裕, 井川 修, 草間芳樹, 新 博次, 水野杏一<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)：乳頭筋付着異常による僧帽弁閉鎖不全と甲状腺機能亢進症の合併により心不全の急性増悪を来した 1 例。日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 222 回) (東京), 2011. 12.
- 29) 栗田 明<sup>1)</sup>, 高瀬凡平<sup>2)</sup>, 小谷英太郎, 岩原信一郎, 岡田 薫, 品川直介<sup>3)</sup>, 草間芳樹, 新 博次 (1) 社会福祉法人福音会医務室, 2) 防衛医科大学校循環器内科研究センター, 3) 品川クリニック)：精神的説法は認知症を有する後期高齢者の免疫能や心臓の自律神経能に有効か?。埼玉不整脈ペーシング研究会 (第 39 回) (埼玉), 2011. 12.
- 30) 小谷英太郎, 井川 修, 草間芳樹, 新 博次, 長澤絃一：心房細動例の CHADS2 スコアと CHA2DS2-VASc スコアの関係。日本成人病 (生活習慣病) 学会学術集会 (第 46 回) (東京), 2012. 1.
- 31) 加藤活人<sup>1)</sup>, 大塚俊昭<sup>1)</sup>, 遠藤宗臣<sup>2)</sup>, 今 陽一<sup>2)</sup>, 小谷英太郎, 川田智之<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学大学院環境医学分野, 2) 総合太田病院総合健診部)：正常耐糖能者における 5 年後の耐糖能悪化リスクの予測：75g 糖負荷試験による検討。日本成人病 (生活習慣病) 学会学術集会 (第 46 回) (東京), 2012. 1.
- 32) 西城由之, 小谷英太郎, 小橋啓一, 森澤太一郎, 小杉宗範, 進藤朝子, 吉川雅智, 中込明裕, 草間芳樹, 新 博次, 水野杏一<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)：冠動脈 CT 撮影時に冠攣縮自然発作による冠動脈閉塞が確認された冠攣縮性狭心症の 1 例。日本心血管画像動態学会 (第 22 回) (愛知), 2012. 1.
- 33) 西城由之, 小谷英太郎, 小橋啓一, 森澤太一郎, 小杉宗範, 進藤朝子, 吉川雅智, 中込明裕, 草間芳樹, 新 博次, 水野杏一<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)：冠動脈 CT 撮影時に冠攣縮自然発作による冠動脈閉塞が確認された冠攣縮性狭心症の 1 例。日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 223 回) (東京), 2012. 2.
- 34) Nakagomi A, Kohashi K, Saiki Y, Kosugi M, Endoh I, Endoh Y, Kusama Y, Atarashi H, Mizuno K<sup>1)</sup> (1) Department of Cardiology, Nippon Medical School)：Fenofibrate attenuates monocyte tissue factor activity and slows down progression of carotid atherosclerosis in patients with metabolic syndrome. The Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (76th) (福岡), 2012. 3.
- 35) Igawa O, Okazaki R, Kawaguchi N, Kodani E, Kusama Y, Adachi M<sup>1)</sup>, Atarashi H, Mizuno K<sup>2)</sup> (1) Division of Cardiovascular Medicine, Department of Molecular Medicine and Therapeutics, Faculty of Medicine, Tottori University, 2) Department of Cardiology, Nippon Medical School)：Specific anatomical characteristics in the left atrial appendage：abrupt change of muscle thickness in the left atrial appendage. The Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (76th) (福岡), 2012. 3.
- 36) Kosugi M, Nakagomi A, Akiya M, Hara C, Morisawa T, Saiki Y, Kohashi K, Shindoh A, Yoshikawa M, Kodani E, Kusama Y, Atarashi H, Mizuno K<sup>1)</sup> (1) Department of Cardiology, Nippon Medical School)：Impact of refractory response to calcium channel blockers and inflammation on the incidence of reduced ejection fraction in vasospastic angina. The Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (76th) (福岡), 2012. 3.
- 37) Saiki Y, Nakagomi A, Akiya M, Hara C, Kohashi K, Morisawa T, Kosugi M, Shindoh A, Yoshikawa M,

- Kodani E, Kusama Y, Atarashi H, Mizuno K<sup>1)</sup> (1) Department of Cardiology, Nippon Medical School) : Variant angina is associated with inflammation and increases the risk of cardiac events in patients with vasospastic angina. The Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (76th) (福岡), 2012. 3.
- 38) Igawa O, Okazaki R, Kawaguchi N, Kodani E, Kusama Y, Adachi M<sup>1)</sup>, Atarashi H, Mizuno K<sup>2)</sup> (1) Division of Cardiovascular Medicine, Department of Molecular Medicine and Therapeutics, Faculty of Medicine, Tottori University, <sup>2)</sup> Department of Cardiology, Nippon Medical School) : Anatomical characteristics of the left ventricular outflow tract related to catheter ablation : anatomical investigation in 100 autopsied hearts. The Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (76th) (福岡), 2012. 3.
- 39) Kohashi K, Nakagomi A, Saiki Y, Kosugi M, Endoh I, Endoh Y, Kusama Y, Atarashi H, Mizuno K<sup>1)</sup> (1) Department of Cardiology, Nippon Medical School) : Prognostic value of the serum eicosapentaenoic acid to arachidonic acid ratio in patients with chronic heart failure. The Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (76th) (福岡), 2012. 3.
- 40) Igawa O, Okazaki R, Kawaguchi N, Kodani E, Kusama Y, Adachi M<sup>1)</sup>, Atarashi H, Mizuno K<sup>2)</sup> (1) Division of Cardiovascular Medicine, Department of Molecular Medicine and Therapeutics, Faculty of Medicine, Tottori University, <sup>2)</sup> Department of Cardiology, Nippon Medical School) : Possibility of the treatment of ventricular tachycardia originating from right ventricular outflow tract using catheter ablation within non-coronary aortic sinus. The Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (76th) (福岡), 2012. 3.
- 41) Kosugi M, Nakagomi A, Akiya M, Hara C, Morisawa T, Saiki Y, Kohashi K, Shindoh A, Yoshikawa M, Kodani E, Kusama Y, Atarashi H, Mizuno K<sup>1)</sup> (1) Department of Cardiology, Nippon Medical School) : Combined prognostic usefulness of C-reactive protein and fibrinogen levels in patients with vasospastic angina. The Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (76th) (福岡), 2012. 3.
- 42) Kurita A<sup>1)</sup>, Takase B<sup>2)</sup>, Kodani E, Okada K, Iwahara S, Kusama Y, Atarashi H (1) Fukuinkai Clinic, <sup>2)</sup> National Defense Medical College) : Spiritual activation is useful for regulation of autonomic nerve functions and proinflammatory cytokines in elderly congestive heart failure patients. The Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (76th) (福岡), 2012. 3.
- 43) Igawa O, Okazaki R, Kawaguchi N, Kodani E, Kusama Y, Adachi M<sup>1)</sup>, Atarashi H, Mizuno K<sup>2)</sup> (1) Division of Cardiovascular Medicine, Department of Molecular Medicine and Therapeutics, Faculty of Medicine, Tottori University, <sup>2)</sup> Department of Cardiology, Nippon Medical School) : The rare structure in the left atrium, "myocardial bridge". The Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (76th) (福岡), 2012. 3.
- 44) Endoh I, Endoh Y, Tedla N<sup>1)</sup>, Geczy C<sup>1)</sup> (1) Inflammation and Infection Research Center, School of Medical Sciences, University of New South Wales) : Apolipoprotein E is expressed in human mast cells and is modulated by interleukin 4 and interferon  $\gamma$ . The Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (76th) (福岡), 2012. 3.
- 45) Otsuka T<sup>1)</sup>, Kato K<sup>1)</sup>, Kodani E, Ibuki C<sup>2)</sup>, Seino Y<sup>2)</sup> (1) Department of Hygiene and Public Health, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Cardiovascular Center, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital) : Serum cystatin C predicts the 4-year risk of incident hypertension in middle-aged subjects without chronic kidney disease. The Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (76th) (福岡), 2012. 3.
- 46) Kato K<sup>1)</sup>, Otsuka T<sup>1)</sup>, Kobayashi N<sup>2)</sup>, Kodani E (1) Department of Hygiene and Public Health, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Cardiology, Fuji Heavy Industries Health Insurance Society Ota General Hospital) : Two-hour postload plasma glucose levels are associated with carotid intima-media thickness in

subjects with normal glucose tolerance. The Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (76th) (福岡), 2012. 3.

(4) Featured Research Session :

- 1) Kodani E<sup>1)</sup>, Atarashi H<sup>1)</sup>, Okumura K<sup>1)</sup>, Inoue H<sup>1)</sup>, Yamashita T<sup>1)</sup> (1) J-RHYTHM Registry Investigators) : Incidence of thrombotic and hemorrhagic events during two-year follow-up in patients with atrial fibrillation. A report from the J-RHYTHM Registry. The Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (76th) (福岡), 2012. 3.
- 2) Igawa O, Okazaki R, Kawaguchi N, Kodani E, Kusama Y, Adachi M<sup>1)</sup>, Atarashi H, Mizuno K<sup>2)</sup> (1) Division of Cardiovascular Medicine, Department of Molecular Medicine and Therapeutics, Faculty of Medicine, Tottori University, 2) Department of Cardiology, Nippon Medical School) : Specific histological findings of the left atrial posterior wall in the permanent atrial fibrillation, "Mosaic Myocyte Morphology". The Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (76th) (福岡), 2012. 3.

(5) Late Breaking Clinical Trials :

- 1) Takano H<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>2)</sup>, Yamamoto E<sup>3)</sup>, Miyachi H, Inui K<sup>4)</sup>, Kawanaka H<sup>5)</sup>, Kamiya M<sup>6)</sup>, Kikuchi A<sup>6)</sup>, Takahashi Y<sup>3)</sup>, Tanabe J<sup>5)</sup>, Inami S<sup>1)</sup>, Takagi G<sup>1)</sup>, Asai K<sup>1)</sup>, Yasutake M<sup>1)</sup>, Ibuki C<sup>2)</sup>, et al. (1) Division of Cardiology, Department of Medicine, Nippon Medical School, 2) Cardiology Center, Nippon Medical School Chiba-Hokusou Hospital, 3) Division of Cardiology, Department of Medicine, Nippon Medical School Musashi-Kosugi Hospital, 4) Division of Cardiology, Hakujuikai Memorial Hospital, 5) Division of Cardiology, Shizuoka Medical Center, 6) Division of Cardiology, Douai Memorial Hospital) : Prevention of myocardial injury with short-period and high-dose statin during coronary intervention : PRIMITIVE Study. The Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (76th) (福岡), 2012. 3.

## [千葉北総病院循環器内科]

### 研究概要

日本医科大学千葉北総病院循環器内科部長 循環器センター長 内科学教授 清野 精彦 (せい の よしひこ) [循環器内科] 循環器内科は、(1) 冠動脈疾患の最先端診療 (①外来対応の冠動脈マルチスライス CT 検査, ② 2 泊 3 日冠動脈造影検査, 冠動脈カテーテル治療パス, ③血管内超音波, 血管内視鏡, 光干渉断層法などの冠動脈先端画像診断, ④血液生化学バイオマーカーの臨床開発) や、(2) 不整脈の最先端治療 (カテーテル焼灼術, 重症心不全心室再同期 (CRT) 治療, 植え込み型除細動器治療), (3) 心不全の先駆的研究と診療などを主軸に臨床, 研究, 教育を構築しております。診療実績は年々増加しており 2010 年度冠動脈カテーテル治療は年間 400 例を不整脈カテーテル治療は年間 80 例を超えております。さらに (4) 循環器疾患と睡眠時無呼吸, (4) 高血圧・動脈硬化症の診断と治療などについても、地域医療との連携の中で効果的な診療の提供と臨床研究に努めております。平成 20 年度からは、全国に先駆けて「回復期心筋梗塞地域連携パス」「地域連携型高血圧治療研究 (INBA Study)」などを展開しております。また、大学医学部教育 (文部科学省特色 GP 選定), 研修医教育, 循環器専門医教育, 学位研究指導に精力的に取り組んでおり、特色ある研究成果を AHA, ESC などの国際学会や、日本循環器学会などで発表しており、トップジャーナルに多くの論文を発表しております。学会公務として部長は日本循環器学会各種ガイドライン (急性心不全 GL, 性差医療 GL, 睡眠時無呼吸 GL など) 作成委員を務めております。

## 研究業績

### 論文

#### 〔追加分〕

追加分総説：

- 1) 清野精彦, 木股仲恒：労作性狭心症・異型狭心症. レジデント 2011；4（5）：66-77.
- 2) Otsuka T<sup>1)</sup>, Miyachi H<sup>1)</sup>, Ibuki C, Toba M<sup>2)</sup>, Tokuyama K<sup>1)</sup>, Ishii K<sup>1)</sup>, Kodani E<sup>1)</sup>, Kusama Y<sup>1)</sup>, Atarashi H<sup>1)</sup>, Kishida H<sup>3)</sup>, Mizuno K<sup>3)</sup> (1) Dep. of Internal Medicine and Cardiology, Tama Nagayama Hospital, 2) Dep. of Radiology, Chiba Hokusoh Hospital, 3) Dep. of Internal Medicine, Div. of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine)：Atypical Exercise Stress Myocardial Perfusion SPECT Imaging in a Patient With Effort Angina Pectoris. Circulation Journal 2011；75（1）：218-220.
- 3) 稲見 徹, 佐藤 越, 清野精彦：慢性心不全の薬物療法, 非薬物療法（CRT など）は睡眠時呼吸障害を改善するか・慢性心不全における睡眠時無呼吸症候群の病態と治療. CARDIAC PRACTICE 2009；20（1）：85-90.

追加分原著：

- 1) Aoki S<sup>1)</sup>, Nakagomi A<sup>2)</sup>, Aasai K<sup>1)</sup>, Takano H<sup>1)</sup>, Yasutake M<sup>1)</sup>, Seino Y, Mizuno K<sup>1)</sup> (1) The Dep. of Medicine, Div. of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine, 2) The Dep. of Internal Medicine, Tama Nagayama Hospital)：Elevated peripheral blood mononuclear cell count is an independent predictor of left ventricular remodeling in patients with acute myocardial infarction. Journal of Cardiology 2011；57（2）：202-207.
- 2) Murakami D, Takano M, Kobayashi N<sup>1)</sup>, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Seino Y, Mizuno K<sup>2)</sup> (1) Div. of Intensive Care Unit, Chiba Hokusoh Hospital, 2) Dep. of Internal Medicine, Div. of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine)：Complete disappearance of red thrombi in a drug-eluting stent despite discontinuation of antiplatelet therapy：angiographic confirmation. Journal of Cardiology cases 2011；5（1）：e4-e7.

(1) 原著：

- 1) Yodogawa K, Seino Y, Ohara T<sup>1)</sup>, Takayama H<sup>1)</sup>, Katoh T<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>1)</sup> (1) Dep. of Internal Medicine, Div. of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine)：Effect of Corticosteroid Therapy on Ventricular Arrhythmias in Patients with Cardiac Sarcoidosis. Ann Noninvasive Electrocardiology 2011；16（2）：140-147.
- 2) Yamamoto M, Takano M, Murakami D, Inami T, Kobayashi N<sup>1)</sup>, Inami S<sup>2)</sup>, Okamoto K, Ohba T, Ibuki C, Hata N<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>2)</sup> (1) Intensive Care Unit, Chiba Hokusoh Hospital, 2) Dep. of Internal Medicine, Div. of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine)：The Possibility of delayed arterial healing 5 years after implantation of sirolimus-eluting stents：Serial observations by coronary angiography. American Heart Journal 2011；161（6）：1200-1206.
- 3) Nakagomi A<sup>1)</sup>, Kodani E<sup>1)</sup>, Takano H<sup>2)</sup>, Uchida T<sup>3)</sup>, Sato N<sup>4)</sup>, Ibuki C, Kusama Y<sup>1)</sup>, Seino Y, Munakata K<sup>3)</sup>, Mizuno K<sup>2)</sup>, Takano T<sup>2)</sup> (1) Dep. of Internal Medicine and Cardiology, Tama-Nagayama Hospital, 2) Dep. of Internal Medicine, Div. of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine, 3) Dep. of Internal Medicine and Cardiology, Musashikosugi Hospital, 4) Intensive and Cardiac Unit, Chiba Hokusoh Hospital)：Secondary Preventive Effects of a Calcium Antagonist for Ischemic Heart Attack：Randomized Parallel Comparison With  $\beta$ -Blocker. Circulation Journal 2011；75（7）：1696-1705.
- 4) Matsuzaki M<sup>1)</sup>, Ogihara T<sup>2)</sup>, Umemoto S<sup>1)</sup>, Rakugi H<sup>2)</sup>, Matsuoka H<sup>3)</sup>, Shimada K<sup>4)</sup>, Abe K<sup>5)</sup>, Suzuki N<sup>6)</sup>, Tei C<sup>7)</sup>, Seino Y, et.al (1) Yamaguchi University, 2) Osaka University, 3) Dokkyo Medical University, 4) Jichi Medical University, 5) Sendai Social Insurance Hospital, 6) Keio University, 7) Kagoshima University)：

Prevention of Cardiovascular events with calcium channel blocker-based combination therapies in patients with hypertension : a randomized controlled trial. *Journal of Hypertension* 2011 ; 29 (8) : 1649-1659.

- 5) Kobayashi N<sup>1)</sup>, Hata N<sup>1)</sup>, Kume N<sup>2)</sup>, Seino Y, Inami T, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Shinada T<sup>1)</sup>, Tomita K<sup>1)</sup>, Kaneshige T<sup>3)</sup>, Mizuno K<sup>4)</sup> (1) Div. of Intensive Care Unit, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 2) Dep. of Cardiovascular Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto University, 3) Diagnostics Div.,Shionogi & CO., Ltd., 4) Div. of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine Nippon Medical School) : Soluble Lectin-Like Oxidized Low-Density Lipoprotein Receptor-1, as an Early Biomarker for ST Elevation Myocardial Infarction : Time-Dependent Comparison With Other Biomarkers. *Circulation Journal* 2011 ; 75 (6) : 1433-1439.
- 6) Yodogawa K, Morita N<sup>1)</sup>, Kobayashi Y<sup>1)</sup>, Takayama H<sup>1)</sup>, Ohara T<sup>1)</sup>, Seino Y, Katoh T<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>2)</sup> (1) Dep. of Cardiology, Tokai University Hachioji Hospital, 2) Dep. of Internal Medicine, Div. of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine, Nippon Medical School) : A New Approach for the Comparison of Conduction Abnormality between Arrhythmogenic Right Ventricular Cardiomyopathy / Dysplasia and Brugada Syndrome. *ANE* 2011 ; 16 (3) : 263-269.
- 7) Murakami D, Takano M, Yamamoto M, Inami T, Inami S<sup>1)</sup>, Okamoto K, Ohba T, Seino Y, Mizuno K<sup>1)</sup> (1) Dep. of Internal Medicine, Div. of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine) : Intense Yellow Culprit Plaque Coloration is Closely Associated with Troponin-T Elevation and Flow Complications Following Elective Coronary Stenting. *Journal of Atherosclerosis and Thrombosis* 2011 ; 18 (10) : 906-913.
- 8) Yodogawa K, Ohara T<sup>1)</sup>, Takayama H<sup>1)</sup>, Seino Y, Katoh T<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>1)</sup> (1) Dep. of Internal Medicine, Div. of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine) : Detection of Prior Myocardial Infarction Patients Prone to Malignant Ventricular : Arrhythmias Using Wavelet Transform Analysis. *International Heart Journal* 2011 ; 52 (5) : 286-289.
- 9) Kobayashi N<sup>1)</sup>, Hata N<sup>1)</sup>, Kume N<sup>2)</sup>, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Shinada T<sup>1)</sup>, Tomita K<sup>1)</sup>, Kitamura M<sup>1)</sup>, Shiakabe A<sup>1)</sup>, Inami T, Yamamoto M, Seino Y, Mizuno K<sup>3)</sup> (1) Div. of Intensive Care Unit, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 2) Dep. of Cardiovascular Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto University, 3) Div. of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine Nippon Medical School) : Matrix Metalloproteinase-9 for the Earliest Stage Acute Coronary Syndrome : Comparison With High-Sensitivity Troponin T. *Circulation Journal* 2011 ; 75 (12) : 2853-2861.
- 10) Takano M, Murakami D, Yamamoto M, Seino Y, Mizuno K<sup>1)</sup> (1) Dep. of Medicine, Div. of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine) : Natural History of a Thin-Cap Fibroatheroma Serial Observations by Optical Coherence Tomography. *Circulation Cardiovascular Interventions* 2011 ; 4 (6) : 638-639.
- 11) Kobayashi N<sup>1)</sup>, Hata N<sup>1)</sup>, Kume N<sup>2)</sup>, Shinada T<sup>1)</sup>, Tomita K<sup>1)</sup>, Shirakabe A<sup>1)</sup>, Kitamura M<sup>1)</sup>, Nozaki A<sup>1)</sup>, Inami T, Seino Y, Mizuno K<sup>3)</sup> (1) Div. of Intensive Care Unit, Chiba Hokusoh Hospital Nippon Medical School, 2) Dep. of Cardiovascular Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto University, 3) Dep. of Internal Medicine, Div. of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine, Nippon Medical School) : Soluble Lectin-Like Oxidized LDL Receptor-1 and High-Sensitivity Troponin T as Diagnostic Biomarkers for Acute Coronary Syndrome : Improve Values With Combination Usage in Emergency Rooms. *Circulation Journal* 2011 ; 75 (12) : 2862-2871.
- 12) Takano M, Murakami D, Yamamoto M, Kurihara O, Murai K, Inami T, Kimata N, Ohba T, Seino Y, Mizuno K<sup>1)</sup> (1) Div. of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine, Dep. of Internal Medicine) : Six-month follow-up evaluation for everolimus-eluting stents by intracoronary optical coherence tomography : Comparison with paclitaxel-eluting stents. *International Journal of Cardiology* 2011 ; (9).

13) Setsuta K<sup>1</sup>, Kitahara Y<sup>1</sup>, Arao M<sup>1</sup>, Ohbayashi T<sup>1</sup>, Seino Y, Mizuno K<sup>2</sup> (1) Dep. of Cardiology and Clinical Laboratory, Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, (2) Dep. of Medicine, Div. of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine, Nippon Medical School) : Elevated Cardiac Troponin T Predicts Adverse Outcomes in Hypertensive Patients. *International Heart Journal* 2011 ; 52 (13) : 164-169.

(2) 総説 :

- 1) Takano M, Yamamoto M, Inami T, Murakami D, Seino Y, Mizuno K<sup>1</sup> (1) Dep of Medicine, Div of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine) : Delayed Healing of a Coronary Stent Graft. *JACC : Cardiovascular Interventions* 2011 ; 4 (4) : 466-467.
- 2) Murakami D, Negishi K, Yamamoto M, Tokuyama H<sup>1</sup>, Kobayashi N<sup>1</sup>, Takano M, Seino Y, Mizuno K<sup>2</sup> (1)Intensive Care Unit, Chiba Hokusoh Hospital, (2)Dep. of Medicine, Div. of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine) : Refractory coronary spastic angina may induce sudden cardiac death even in young patients under appropriate medication. *International Journal of Cardiology* 2011 ; 153 (1) : e19-e21.
- 3) Seino Y : Beta-Blocker Therapy for Patients With Acute Myocardial Infarction. *Circulation Journal* 2011 ; 75 (8) : 1829-1830.
- 4) 清野精彦 : 不安定プラーク : 冠動脈疾患における検査・診断法 血液検査 (新しい心疾患マーカー). *日本臨床 : 冠動脈疾患 上* 2011 ; 69 (7) : 154-157.
- 5) 雪吹周生, 清野清彦 : 急性心不全. *救急医学* 2011 ; 35 (10) : 1245-1251.
- 6) 清野清彦 : 心不全における睡眠呼吸障害の診断 : 検査の適応とタイミング. *PROGRESS IN MEDICINE* 2011 ; 31 (9) : 2069-2075.
- 7) 稲見 徹, 清野清彦 : 睡眠呼吸障害 (SDB) と虚血性心疾患 (IHD) の関連性. *総合臨床* 2011 ; 60 (8) : 1735-1739.
- 8) Maisel SA<sup>1</sup>, Nakao K<sup>2</sup>, Ponikowski P<sup>3</sup>, Peacock WF<sup>4</sup>, Yoshimura M<sup>5</sup>, Suzuki T<sup>6</sup>, Tsutamoto T<sup>7</sup>, Filippatos G<sup>8</sup>, Saito Y<sup>9</sup>, Seino Y, Minamino N, Hirata Y<sup>6</sup>, Mukoyama S<sup>2</sup>, Nishikimi T<sup>2</sup>, Nagai R<sup>6</sup>, et al. (1) Div. of Cardiology, Dep. of Medicine, University of California, (2) Dep. of Medicine and Clinical Science, Kyoto University Graduate School of Medicine, (3) Dep. of Heart Disease Medical University, Clinical Military Hospital, (4) Dep. of Emergency Medicine, Cleveland Clinic, (5) Div. of Cardiology, Dep. of Internal Medicine, The Jikei University School of Medicine, (6) Dep. of Cardiovascular Medicine, Graduate School Medicine, The University of Tokyo, (7) Toyosato Hospital, (8) University of Athens, (9) First Dep. of Internal Medicine, Nara Medicalo University) : Japanese-Western Consensus Meeting on Biomarkers. *International Heart Journal* 2011 ; 52 (4) : 253-265.
- 9) 清野精彦, 高野照夫<sup>1</sup> (1) 日本医科大学) : 救急外来での初期診断・治療 : 急性心筋梗塞 急性心筋梗塞の1次救命治療法. *日本臨床 : 冠動脈疾患 下* 2011 ; 69 (9) : 148-155.
- 10) 大場崇芳, 清野精彦 : Current-OASIS7 試験での冠動脈インターベンションが施行され急性冠症候群症例への2倍量と通常量クロピドグレルと高用量と低用量アスピリン投与の比較検討. *THROMBOSIS and Circulation* 2011 ; 19 (3) : 393-395.
- 11) 清野精彦, 志村徹郎, 加納誠二 : ACS バイオマーカーの現状と将来性. *Heart View* 2011 ; 15 (13) : 1232-1235.
- 12) 清野精彦 : 心不全における心筋障害マーカー (トロポニン T, トロポニン I, H-FABP). *Fluid Management Renaissance* 2011 ; 1 (2) : 178-182.
- 13) Iname S<sup>1</sup>, Zuoyan WJ<sup>1</sup>, Takano M, Mizuno K<sup>1</sup> (1) Dep. of Internal Medicine, Div. of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine) : Current status of optical coherence tomography. *Cardiovascular Intervention and Therapeutics* 2011 ; 26 (3) : 177-185.
- 14) Mizuno K<sup>1</sup>, Wang Z<sup>1</sup>, Inami S<sup>1</sup>, Takano M, Yasutake M<sup>1</sup> (1) Div. of Cardiology, Hepatology, Geriatrics,

and Integrated Medicine, Dep. of Internal Medicine) : Coronary angiography current topics and future direction. Cardiovascular Intervention and Therapeutics 2011 ; 26 (2) : 89-97.

- 15) Takano M, Inami S<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>1)</sup> (1) Dep. of Internal Medicine Div. of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine) : Clear View, Clear Benefit. Circulation Journal 2012 ; 76 (4) : 816-817.

## 著書

- 1) 清野精彦 : [分担] 急性心不全・心臓・脈管疾患. Year note TOPICS 2012 (医療情報科学研究所), 2011 ; pp51-53, メディックメディア.
- 2) Takano M, Mizuno K<sup>1)</sup> (1) Div. of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine, Dep. of Internal Medicine) : [分担] Coronary endoscopy. Coronary stent restenosis, 2011 ; pp437-446, Publishing House of the Romanian Academy.
- 3) 清野精彦 : [分担] 慢性心不全・心臓・脈管疾患. Year note TOPICS 2012 (医療情報科学研究所), 2011 ; pp54-56, メディックメディア.
- 4) 高野雅充 : [分担] DES 留置後の OCT による観察. Coronary Intervention, 2011 ; pp55-62, メディアルファ.
- 5) 高野雅充 : [分担] OCT によってなにが見えるか. Heart View, 2011 ; pp23-31, メジカルビュー社.

## 学会発表

### [追加分]

追加分シンポジウム :

- 1) Takano M : Using OCT to make clinical decisions : Identification of vulnerable plaque and stent by OCT. TOPIC 2010 (Tokyo), 2010. 7.

追加分一般講演 :

- 1) 中込明裕<sup>1)</sup>, 浅井俊之<sup>1)</sup>, 小杉宗範<sup>1)</sup>, 吉川雅智<sup>1)</sup>, 小谷栄太郎<sup>1)</sup>, 清野精彦, 新 博次<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>2)</sup> (1) 多摩永山病院循環器内科, 2) 内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)) : 慢性心不全患者における単球の産生するサイトカインと血清脂質値, 長期予後との関係. 第 58 回日本心臓病学会 (東京), 2010. 9.

(1) シンポジウム :

- 1) 稲見 徹, 清野精彦, 水野杏一<sup>1)</sup> (1) 内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)) : 睡眠時無呼吸症候群と大動脈解離における偽腔形成の関連性. 第 109 回日本心臓病学会 (神戸), 2011. 9.
- 2) 高野雅充, 村上大介, 清野精彦, 稲見茂信<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup> (1) 内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)) : 血管内視鏡と OCT を用いた動脈硬化病変の観察. 第 25 回日本心臓血管内視鏡学会 (京都), 2011. 10.
- 3) 栗原 理, 高野雅充, 清野精彦, 稲見茂信<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup> (1) 内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)) : 血管内視鏡からみた糖尿病の臨床的意義. 第 25 回日本心臓血管内視鏡学会 (京都), 2011. 10.
- 4) 高野雅充 : 冠動脈ステント内部の性状ならびに経時的变化 : 光干渉断層法による観察. 第 24 回日本冠疾患学会 (大阪), 2011. 12.

(2) パネルディスカッション :

- 1) 高野雅充, 清野精彦, 水野杏一<sup>1)</sup> (1) 内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)) : 侵襲的冠動脈イメージング診断の臨床応用. 第 25 回日本冠疾患学会 (大阪), 2011. 12.

(3) ポスターセッション :

- 1) Murakami D, Yamamoto M, Kimata N, Inami T, Murai K, Takano M, Ohba T, Ibuki C, Seino Y, Mizuno K<sup>1)</sup> (1) Dep. of Medicine, Div. of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine) : Endothelial dysfunction after SES Implantation remains even in long-term follow-up. 第 20 回日本心臓血管インター

ベンション治療学会 (大阪), 2011. 7.

- 2) Shimra T, Murakami D, Yamamoto M, Inami T, Murai K, Takano M, Ohba T, Ibuki C, Seino Y, Mizuno K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dep. of Medicine, Div. of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine) : A possibility of early stenotic progression due to lipidic plaque disruption underreceiving appropriate medical therapy. 第20回日本心血管インターベンション治療学会 (大阪), 2011. 7.
- 3) Kobayashi N<sup>1)</sup>, Hata N<sup>1)</sup>, Seino Y, Kume N<sup>2)</sup>, Shinada T<sup>1)</sup>, Tomita T<sup>1)</sup>, Kitamura M<sup>1)</sup>, Shirakabe A<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Div. of Intensive Care Unit Chiba Hokusoh Hospital, <sup>2)</sup> Dep. of Medicine, Div. of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine) : Matrix Metalloproteinase-9 is a Sensitive and Specific Biomarker for Acute Coronary Syndrome at the Earliest Stage : Comparison with High Sensitivity Troponin T. ESC Congress 2011 (Paris), 2011. 8.
- 4) Kurihara O, Yamamoto M, Seino Y, Otsuka T<sup>1)</sup>, Negishi K, Inami T, Murakami D, Okamatsu K, Takano M, Ohba T, Ibuki C, Mizuno K<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Dep. of Hygiene and Public Health, <sup>2)</sup> Dep. of Medicine, Div. of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine) : Detection of high risk plaque associated with periprocedural myocardial injury following percutaneous coronary intervention assessed by high-sensitivity troponin-T and optical coherence tomography. ESC Congress 2011 (Paris), 2011. 8.
- 5) Hata N<sup>1)</sup>, Kume N<sup>1)</sup>, Seino Y, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Shinada T<sup>1)</sup>, Tomita K<sup>1)</sup>, Kitamura M<sup>1)</sup>, Shirakabe A<sup>1)</sup>, Inami T, Mizuno K<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Div. of Intensive Care Unit, Chiba Hokusoh Hospital, <sup>2)</sup> Dep. of Medicine, Div. of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine) : Matrix Metalloprotenase-9 is a Sensitive and Specific Biomarker for Acute Coronary Syndrome at the Earliest Stage : Comparison with Troponin T. 第75回日本循環器学会 (横浜), 2011. 8.
- 6) Maruyama M<sup>1)</sup>, F-R S<sup>2)</sup>, S-C P<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Dep. of Internal Medicine, Div. of Cardiology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, <sup>2)</sup> Institute of Cardiology, Dep of Medicine, India University School of Medicine) : Mechanisms of Phase-2 and Phase-3 Early After depolarizations in Acquired Long QT Syndrome : Role of Intracellular Calcium and Electrotonic Interaction. 第75回日本循環器学会 (横浜), 2011. 8.
- 7) Kobayashi N<sup>1)</sup>, Hata N<sup>1)</sup>, Takano M<sup>2)</sup>, Kume N<sup>3)</sup>, Yamamoto M<sup>2)</sup>, Shinada T<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>2)</sup>, Mizuno K<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Div. of Intensive Care Unit, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, <sup>2)</sup> Dep. of Internal Medicine, Div. of Cardiology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, <sup>3)</sup> Dep. of Cardiovascular Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto, <sup>4)</sup> Dep. of Medicine, Div. of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine Nippon Medical School.) : Can Biomarker Predict Coronary Plaque Rupture? : An Optical Coherence Tomography Study. ESC COngress 2011 (Paris), 2011. 8.
- 8) 北村光信<sup>1)</sup>, 畑 典武<sup>1)</sup>, 高山忠輝<sup>2)</sup>, 平山篤志<sup>2)</sup>, 小川 雅<sup>3)</sup>, 山科 章<sup>3)</sup>, 米良尚晃<sup>4)</sup>, 吉野秀朗<sup>3)</sup>, 中村文隆<sup>5)</sup>, 清野精彦 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院集中治療室, <sup>2)</sup> 日本医科大学循環器内科学講座循環器・肝臓・老年・総合病態部門, <sup>3)</sup> 東京医科大学内科学第二講座, <sup>4)</sup> 杏林大学医学部第二内科学, <sup>5)</sup> 帝京大学総合医療センター第三内科) : 初診時トロポニン T 陰性例における高感度と, トロポニン T 摘出動態と急性心筋梗塞診断. 第56回日本心臓病学会 (神戸), 2011. 9.
- 9) Kobayashi N<sup>1)</sup>, Hata N<sup>1)</sup>, Kume N<sup>2)</sup>, Shinada T<sup>1)</sup>, Shirakabe A<sup>1)</sup>, Kitamura M<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>3)</sup>, Mizuno K<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> Div. of Intensive Care Unit, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, <sup>2)</sup> Dep. of Cardiovascular Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto, <sup>3)</sup> Dep. of Internal Medicine, Div. of Cardiology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, <sup>4)</sup> Dep. of Medicine, Div. of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine, Nippon Medical School) : Solble Lectin-like Oxidized LDL Receptor-1 and High Sensitivity Trponin T as Diagnostic Biomarkers for Acute Coronary Syndrome : Improve Values by Combination Usage in EmergencyRooms. AHA Scientific Session 2011 (Orlando), 2011. 11.

- 10) Maruyama M<sup>1)</sup>, Joung B<sup>2)</sup>, Chua-K S<sup>2)</sup>, Kato T<sup>3)</sup>, Mizuno K<sup>3)</sup> (1) Dep. of Medicine, Div. of Cardiology Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 2) Krannet Institute of Cardiology, Indiana University School of Medicine, 3) Dep. of Internal Medicine, Div. of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, Integrated Medicine, Nippon Medical School) : Importance of Intracellular Calcium Membrane Voltage Coupling Gain in Post-shock Ventricular Arrhythmias. 第28回日本心電図学会 (福岡), 2011. 9.
- 11) Yodogawa K<sup>1)</sup>, Seino Y, Tsuboi I<sup>1)</sup>, Takahashi K<sup>1)</sup>, Hayashi H<sup>1)</sup>, Uetake S<sup>1)</sup>, Murata H<sup>1)</sup>, Horie T<sup>1)</sup>, Hayashi M<sup>1)</sup>, Miyauchi Y<sup>1)</sup>, Ohara T<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>1)</sup> (1) Dep. of Internal Medicine, Div. of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine) : Prediction of Atrial Fibrillation After Ischemic Stroke Using High Resolution Electrocardiography. 第76回日本循環器学会 (福岡), 2012. 3.
- 12) Shimura T, Takano M, Murakami D, Yamamoto M, Kurihara O, Kimata N, Inami T, Munakata R, Ohba T, Seino Y, Mizuno K<sup>1)</sup> (1) Dep. of Internal Medicine, Div. of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine) : Six-month Follow-up Evaluation for Everolimus-Eluting Stents by Intracoronary Optical Coherence Tomography : Comparison with Paclitaxel eluting stents. 第76回日本循環器学会 (福岡), 2012. 3.
- 13) Setsuta K<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>2)</sup>, Mizuno K<sup>3)</sup> (1) Dep. of Cardiology and Clinical Laboratory, Komagome Hospital, 2) Dep. of Cardiology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 3) Dep. of Internal Medicine, Div. of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine, Nippon Medical School) : Elevated Levels of Heart-Type Fatty Acid-Binding Protein Predict Adverse Outcomes in Hypertensive Patients. 第76回日本循環器学会 (福岡), 2012. 3.
- 14) Murai K<sup>1)</sup>, Seino Y, Kimata N, Inami T, Murakami D, Abe J, Yodogawa K<sup>1)</sup>, Ohba T, Ibuki C, Mizuno K<sup>1)</sup> (1) Dep. of Internal Medicine, Div. of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine) : Efficacy and Limitation of Oral Inotropic Agents for the Treatment of Chronic Heart Failure : Single Center Retrospective Analyses. 第76回日本循環器学会 (福岡), 2012. 3.
- (4) ランチョンセミナー :
  - 1) 清野精彦 : 心疾患バイオマーカートロポニン T 測定の新展開. 第59回日本心臓病学会 (神戸), 2011. 9.
- (5) 一般講演 :
  - 1) 江渕慧悟, 大場崇芳, 山本真功, 根岸経太, 木股伸恒, 稲見 徹, 村井綱児, 村上大介, 阿部純子, 淀川顕司, 高野雅充, 大野則彦, 雪吹周生, 清野精彦 : 冠動脈疾患と頸動脈疾患を合併した2例に対する治療体系構築の比較. 第220回日本循環器学会関東甲信越地方会 (東京), 2011. 6.
  - 2) Inami T, Seino Y, Kurihara N, Yamamoto M, Kimata N, Murai K, Murakami D, Takano M, Ohara T<sup>1)</sup>, Ibuki C, Hata N<sup>2)</sup>, Mizuno K<sup>1)</sup> (1) Dep. of Medicine, Div. of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine, 2) Div. of Intensive Care Unit, Chiba Hokusoh Hospital) : Links between Sleep Apnea Syndrome and Aortic Dissection : Differences in Patient False Lumen Type versus Thrombosed Type. 第75回日本循環器学会 (横浜), 2011. 8.
  - 3) Kurihara O, Seino Y, Mizuno K<sup>1)</sup> (1) Dep. of Medicine, Div. of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine) : Continual Delayed Arterial Healing 5 years after the Implantation of Sirolimus-eluting stents Serial Observation by Coronary Angioscopy. 第75回日本循環器学会 (横浜), 2011. 8.
  - 4) Ibuki C, Seino Y, Mizuno K<sup>1)</sup> (1) Dep. of Medicine, Div. of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine) : Obesity is an Independent Determinant of Nocturnal Blood Pressure Lowering with Addition of Hydrochlorothiazide as the Fixed-dose Combination with Losartan. 第75回日本循環器学会 (横浜), 2011. 8.
  - 5) Murakami D, Seino Y, Mizuno K<sup>1)</sup> (1) Dep. of Medicine, Div. of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine) : ACE-I or ARB Have a Potential Effect to Improve Endothelial Dysfunction 6 months after

- SES Implantation. 第75回日本循環器学会(横浜), 2011. 8.
- 6) 加納誠二, 山本真功, 栗原 理, 木股伸恒, 白壁章宏<sup>1)</sup>, 稲見 徹, 村井綱児, 村上大介, 淀川顕司, 阿部純子, 高野雅充, 丸山光紀, 大場崇芳, 雪吹周生, 清野精彦, その他1名<sup>(1)</sup> 千葉北総病院集中治療室): 治療方針決定に難渋し肺血栓塞栓症を反復発症した外国人旅行男性の1例. 第221回日本循環器学会関東甲信越地方会(東京), 2011. 9.
  - 7) 村上大介, 高野雅充, 志村徹郎, 栗原 理, 木股伸恒, 山本真功, 稲見 徹, 宗像 亮, 稲見茂信<sup>1)</sup>, 岡松健太郎, 大場崇芳, 雪吹周生, 清野精彦, 水野杏一<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup>内科学講座(循環器・肝臓・老年・総合病態部門)): プラーク黄色度は待機的PCIにおける末梢塞栓による心筋傷害および一過性の造影遅延と強く相関する: 血管内視鏡からの考察. 第25回日本心臓血管内視鏡学会(京都), 2011. 10.
  - 8) 志村徹郎, 村上大介, 木股伸恒, 稲見 徹, 高野雅充, 大場崇芳, 雪吹周生, 清野精彦, 水野杏一<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup>内科学講座(循環器・肝臓・老年・総合病態部門)): SES留置後, 長期にわたり抗血小板薬を2剤を中止したにもかかわらず, ステント血栓症に至らなかった1例: なぜステント血栓症は生じたのか?. 第25回日本心臓血管内視鏡学会(京都), 2011. 10.
  - 9) 淀川顕司, 清野精彦, 小原俊彦<sup>1)</sup>, 村田広茂<sup>2)</sup>, 堀江 格<sup>2)</sup>, 林 明聡<sup>2)</sup>, 宮内靖史<sup>2)</sup>, 加藤貴雄<sup>2)</sup>, 水野杏一<sup>2)</sup> <sup>(1)</sup>内科学講座(循環器・肝臓・老年・総合病態部門)): 心サルコイドーシスに併発した心室頻拍にステロイドは有効か: 加算平均心電図を用いた検討. 第31回日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会(名古屋), 2011. 10.
  - 10) 高野雅充, 清野精彦, 水野杏一<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup>内科学講座(循環器・肝臓・老年・総合病態部門)): FD-OCTの臨床応用. 第22回日本心臓血管画像動態学会(名古屋), 2012. 1.
  - 11) 加納誠二, 清野精彦, 水野杏一<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup>内科学講座(循環器・肝臓・老年・総合病態部門)): 僧帽弁逸脱症に伴う肺高血圧症: Pulmonary hypertension out of proportionに関する検討. 223回日本循環器学会関東甲信越地方会(東京), 2012. 2.
  - 12) Momomura S<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>2)</sup>, Kihara Y<sup>3)</sup>, Yasumura Y<sup>4)</sup>, Adachi H<sup>5)</sup>, Yokoyama H<sup>6)</sup> <sup>(1)</sup>Saitama Medical Center Jichi Medical University, <sup>2)</sup>Cardio Vascular Cent Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, <sup>3)</sup>Dep. of Cardiovascular Medicine, Hiroshima University, <sup>4)</sup>Cardiovascular Div. National Hospital, <sup>5)</sup>Gunma Prefectural Cardiovascular Center, <sup>6)</sup>Dep. of Cardiovascular Medicine, National and Cardiovascular Center): Adaptive Servo Ventilation Improved Symptoms and Cardiac Function in Patients with Chronic Heart Failure Regardless of Accompanying Sleep Disorder Breathing. 第76回日本循環器学会(福岡), 2012. 3.
  - 13) Yodogawa K<sup>1)</sup>, Seino Y, Takahashi K<sup>1)</sup>, Hayashi H<sup>1)</sup>, Uetake S<sup>1)</sup>, Murata H<sup>1)</sup>, Horie T<sup>1)</sup>, Hayashi M<sup>1)</sup>, Miyauchi Y<sup>1)</sup>, Ohara T<sup>1)</sup>, Katoh T<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup>Dep. of Internal Medicine, Div. of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine): Recovery from Complete Atrioventricular Block Following Corticosteroid Therapy in Patients with Cardiac Sarcoidosis. 第76回日本循環器学会(福岡), 2012. 3.
  - 14) Otuka T<sup>1)</sup>, Kato K<sup>1)</sup>, Kodani E<sup>2)</sup>, Ibuki C, Seino Y <sup>(1)</sup>Dep. of Hygiene and Public Health, <sup>2)</sup>Dep. of Internal Medicine and Cardiology, Tama-Nagayama Hospital): Serum Cystatin C Predicts the 4-Year Risk of Incident Hypertension in Middle-aged Subjects without Chronic Kidney Disease. 第76回日本循環器学会(福岡), 2012. 3.
  - 15) Kurihara O, Yamamoto M, Shimura T, Kimata N, Yamamoto T, Inami T, Munakata R, Murakami D, Abe J, Maruyama M, Takano M, Ohba T, Ibuki C, Seino Y, Mizuno K<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup>Dep. of Internal Medicine, Div. of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine): High-Risk Plaques Associated with Periprocedural Myocardial Injury Following Percutaneous Coronary Intervention: Assessment by High-Sensitivity Troponin-T and Optical Coherence Tomography. 第76回日本循環器学会(福岡), 2012. 3.
  - 16) 栗原 理, 山本真功, 志村徹郎, 木股伸恒, 稲見 徹, 村井綱児, 村上大介, 阿部純子, 淀川顕司, 丸山光紀,

高野雅充, 大場崇芳, 雪吹周生, 清野精彦, 水野杏一<sup>1)</sup> (1) 内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門) : FFRを指標にPCI治療適応外とした病変部に発症した急性冠症候群の1例. 第222回日本循環器学会関東甲信越地方会 (東京), 2011. 12.

17) Inami T, Yamamoto M, Kimata N, Murakami D, Takano M, Ohba T, Ibuki C, Seino Y, Mizuno K<sup>1)</sup> (1) Dep. of Medicine, Div. of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine) : Links between sleep apnoea syndrome, coronary atherosclerotic burden and cardiac biomarkers in patients with stable coronary artery disease. ESC Congress 2011 (Paris), 2011. 8.

18) Munakata R<sup>1)</sup>, Sato N<sup>1)</sup>, Kajimoto K<sup>2)</sup>, Aokage T<sup>1)</sup>, Murai K<sup>3)</sup>, Asai K<sup>1)</sup>, Tanaka K<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>1)</sup>, Kasanuki H<sup>4)</sup>, Takano T<sup>1)</sup> (1) Dep. of Medicine, Div. of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine, Nippon Medical School, 2) Sensouji Hospital, 3) Dep. of Internal Medicine, Div. of Cardiology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 4) Waseda University, 5) : No Impact of revascularization on short term mortality in sschemic acute heart failure : a report from ATTEND registry. ESC Congress 2011 (Paris), 2011. 8.

(6) 症例報告 :

1) Inami T : Delayed endothelialization of polytetrafluoroethylene covered stent by coronary angiography and OCT. 第20回日本心血管インターベンション治療学会 (大阪), 2011. 7.

(7) Featured Research :

1) Yodogawa K, Seino Y, Ohara T<sup>1)</sup>, Takayama H<sup>1)</sup>, Katoh T<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>1)</sup> (1) Dep. of Internal Medicine, Div. of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine) : Effect of Corticosteroid Therapy on Ventricular Arrhythmias in Patients with Cardiac Sarcoidosis. 第75回日本循環器学会 (横浜), 2011. 8.

(8) Rate Braking Clinical Trials :

1) Takano H<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>2)</sup>, Yamamoto E<sup>3)</sup>, Miyachi H<sup>4)</sup>, Inui K<sup>5)</sup>, Kawanaka H<sup>6)</sup>, Kamiya M<sup>7)</sup>, Kikuchi A<sup>7)</sup>, Takahashi Y<sup>3)</sup>, Tanabe J<sup>5)</sup>, Inami S<sup>1)</sup>, Takagi G<sup>1)</sup>, Asai K<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>2)</sup>, Mizuno K<sup>1)</sup>, et al. (1) Div. of Cardiology, Dep. of Medicine, Nippon Medical School, 2) Dep. of Internal Medicine, Div. of Cardiology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, 3) Div. of Cardiology, Dep. of Medicine, Nippon Medical School Musashi-Kosugi Hospital, 4) Div. of Cardiology, Dep. of Medicine, Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital, 5) Div. of Cardiology, Hakujuikai Memorial Hospital, 6) Div. of Cardiology, Shizuoka Medical Center, 7) Div. of Cardiology, Douai Memorial Hospital) : Prevention of Myocardial Injury with Short-period and High-dose Statin During Coronary Intervention : PRIMITIVE Study. 第76回日本循環器学会 (福岡), 2012. 3.

(9) 一般演題 :

1) Kurihara O, Seino Y, Mizuno K<sup>1)</sup> (1) Dep. of Medicine, Div. of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine) : Various Lesion Characteristics in Drug-eluting stent Restenosis Comparison of Optical Coherence Tomography Findings to Bare-Metal Stent. 第20回日本心血管インターベンション治療学会 (大阪), 2011. 7.

## 2. 内科学講座（神経・腎臓・膠原病リウマチ部門）

### 〔付属病院神経内科，腎臓内科〕

#### 研究概要

当内科学講座は，神経内科学および腎臓内科学を主たる診療科目としている。神経内科では脳卒中，特に脳梗塞の病態解明および治療を主要課題として取り組んでいる。基礎研究では，脳梗塞に対する骨髄幹細胞移植による脳保護・神経再生を主な研究テーマの一つとして行っているが，骨髄幹細胞を脳梗塞モデルに投与して脳梗塞の体積や神経徴候に及ぼす影響およびその保護効果のメカニズムについて検討を行っている。骨髄幹細胞移植はヒトにおいて既に試みられており，当教室においても臨床実施を目指して研究を行っている。また，種々の新規脳保護薬を始め，免疫抑制薬，抗酸化薬，スタチン等の脳保護効果について検討を行っている。さらに，近年，脂質異常症治療薬であるスタチンの脳卒中予防作用に注目が集まっているが，我々の教室では脳卒中易発症高血圧自然発症ラット（SHRSP）を用いてその予防効果やメカニズムについて検討を行っている。臨床研究では，SCU（Stroke Care Unit）が運営されており，脳卒中超急性期の治療ではt-PA治療の他，最先端技術を用いた血管内治療が行われているが，診断・治療成績の向上に関する研究や脳卒中における頭痛の解析がなされている。その他，脳血管性認知症やアルツハイマー型認知症等の認知症やパーキンソン病に対し，PET・MRI・SPECT等の画像診断機器を利用した研究を活発に行っている。腎臓内科では，従来から行われてきた透析を中心とした研究に加え，糸球体腎炎に対するサイトカインの役割やARBおよびスタチンの投与の影響についても研究を進めている。また，腎クリニック，千葉北総病院および武蔵小杉病院内科に教室員の派遣を行い，各施設での診療・研究に貢献している。以上，当教室では神経および腎臓内科学領域において，国内外の関係学会で幅広く活発な活動を行い，多くの優れた論文を発表している。

#### 研究業績

##### 論文

##### 〔追加分〕

追加分総説：

- 1) 永山 寛：3. MIBG 心筋シンチグラフィと神経疾患. 脳循環代謝 Cerebral Blood Flow and Metabolism 2011；22（2）：91-96.

追加分原著：

- 1) Ueda K, Watanabe Y, Katsumata T, Kaneko T, Otori T, Utsumi K, Iino Y, Katayama Y：Carotid intima-media thickness and cerebral white matter lesions are more advanced in acute ischemic stroke patients with renal dysfunction. Clinical nephrology 2011；76（4）：290-295.

(1) 原著：

- 1) Suda S, Shimazaki K<sup>1)</sup>, Ueda M, Inaba T, Kamiya N, Katsura K, Katayama Y（<sup>1)</sup> 自治医科大学脳神経生理学教室）：Combination therapy with bone marrow stromal cells and FK506 enhanced amelioration of ischemic brain damage in rats. Life Sciences 2011；89（1-2）：50-56.
- 2) Mishina M, Ishii K<sup>1)</sup>, Suzuki M<sup>1, 2)</sup>, Kitamura S, Ishibashi K<sup>1, 3)</sup>, Sakata M<sup>1)</sup>, Oda K<sup>1)</sup>, Hamamoto M, Kominami S<sup>4)</sup>, Kobayashi S<sup>4)</sup>, Katayama Y, Ishiwata K<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, <sup>2)</sup> Department of Neurology, The Jikei University School of Medicine, <sup>3)</sup> Department of Neurology and Neurological Science Graduate School, <sup>4)</sup> Department of Neurosurgery Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital）：Striatal Distribution of Dopamine Transporters and Dopa-

mine D<sub>2</sub>Receptors at Different Stages of Parkinson's Disease A CFT and RAC PET Study. The Neuroradiology Journal 2011 ; 24 (2) : 235-241.

- 3) Nito C, Ueda M, Inaba T, Katsura K, Katayama Y : FK506 ameliorates oxidative damage and protects rat brain following transient focal cerebral ischemia. Neurological Research 2011 ; 33 (8) : 881-889.
- 4) Kim K<sup>1)</sup>, Isu T<sup>2)</sup>, Sugawara A<sup>3)</sup>, Morimoto D<sup>2)</sup>, Matsumoto R<sup>2)</sup>, Isobe M<sup>2)</sup>, Mishina M<sup>1)</sup>, Kobayashi S<sup>1)</sup>, Teramoto A<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital, Nippon Medical School, <sup>2)</sup>Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, <sup>3)</sup> Department of Neurosurgery, Iwate Medical University, <sup>4)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Detailed study of graft sinking and worsening of the fused segment angle in patients with cervical disease treated with the williams-isu method. Neurol Med Chir 2011 ; 51 (3) : 208-213.
- 5) Utsumi K, Yasuda F, Watanabe Y, Higo S, Hiramata A, Fujita E, Ueda K, Mii A, Kaneko T, Mishina M, Iino Y, Katayama Y : Effects of olmesartan and imidapril on the plasma adiponectin, P-selectin, and MDA-LDL levels of diabetic nephropathy patients. Clin Chim Acta 413 (1-2), 2012 2011 ; 413 (1-2) : 348-349.
- 6) 片山泰朗 : 当科 SCU における虚血性脳血管障害の頭痛の検討. 日本頭痛学会誌 2011 ; 38 (1) : 1-6.
- 7) Sakurazawa M, Katsura K, Saito M, Asoh S<sup>1)</sup>, Ohta S<sup>1)</sup>, Katayama Y ( <sup>1)</sup> Department of Biochemistry and Cell Biology, Institute of Development and Aging Sciences, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, Kawasaki) : Mild hypothermia enhanced the protective effect of protein therapy with transductive anti-death FNK protein using a rat focal transient cerebral ischemia model. Brain research 2012 ; 1430 : 86-92.
- 8) Mii A, Shimizu A, Kaneko T, Fujita E, Fukui M, Fujino T, Utsumi K, Yamaguchi H, Tajika K, Tsuchiya S, Iino Y, Katayama Y, Fukuda Y : Renal thrombotic microangiopathy associated with chronic graft-versus-host disease after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. Pathology International 2011 ; 9 (61) : 518-527.

(2) 座談会 :

- 1) 片山泰朗, 内山真一郎<sup>1)</sup>, 鈴木倫保<sup>2)</sup>, 塩川芳昭<sup>3)</sup>, 松本昌泰<sup>4)</sup>, 阿部康二<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京女子医科大学医学部神経科学, <sup>2)</sup> 山口大学大学院医学系研究科 システム統制医学系学域 脳神経病態制御講座 脳神経外科, <sup>3)</sup> 杏林大学医学部脳神経外科・脳卒中センター, <sup>4)</sup> 広島大学大学院病態探求医科学脳神経内科, <sup>5)</sup> 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科脳神経内科学) : 脳卒中治療のつぎの扉は開かれた. 分子脳血管病 2012 ; 11 (1) : 1-9.
- 2) 桂研一郎, 後藤信哉<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 東海大学医学部内科学系循環器内科, <sup>2)</sup> 日本医科大学消化器内科) : 抗血小板薬のリスクとベネフィットを考える. Progress in Medicine 2011 ; 31 (7) : 1811-1816.

(3) 総説 :

- 1) 勝又俊弥, 片山泰朗 : 3. シロスタゾールの脳卒中再発予防効果に関する試験 : アスピリンを対照とした脳卒中再発予防における 2 重盲検非劣性試験. THROMBOSIS and Circulation 2011 ; 19 (3) : 143-145.
- 2) 駒場祐一, 西山 稔, 中村恭子<sup>1)</sup>, 福岡長知<sup>2)</sup>, 高橋美紀子<sup>3)</sup>, 福田 悠<sup>3)</sup>, 片山泰朗, 石川かほり<sup>3)</sup>, 功刀しのぶ<sup>3)</sup>, 安武正弘<sup>2)</sup>, 川本雅司<sup>4)</sup>, 勝又俊弥, 水野杏一<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 血液内科, <sup>2)</sup> 日本医科大学 循環器内科, <sup>3)</sup> 日本医科大学 第一病理, <sup>4)</sup> 日本医科大学 病理部) : 悪性リンパ腫治療中に脳梗塞を合併し, 遷延性の意識障害と発熱を呈した 1 例 (日本医科大学 CPC). 臨床雑誌「内科」 2011 ; 108 (3) : 501-514.
- 3) 酒寄 修<sup>1)</sup>, 三品雅洋 ( <sup>1)</sup> 酒寄医院) : 特集 老年精神医学と脳循環代謝 脳循環代謝測定の意義. 老年精神医学雑誌 2011 ; 22 (9) : 1001-1007.
- 4) 須田 智, 大久保誠二, 阿部 新, 金丸拓也, 斉藤智成, 神谷信雄, 酒巻雅典, 三品雅洋, 上田雅之, 桂研一郎, 片山泰朗 : 椎骨動脈解離による Wallenberg 症候群. 日医大医会誌 2011 ; 7 (4) : 175-178.
- 5) 片山泰朗 : 脳梗塞再発予防の重要知見とその対策 : 高血圧, 脂質異常症, 糖尿病. Medical Practice 2011 ; 28

(4) : 668-672.

- 6) 片山泰朗：脳梗塞治療の新展開. 神経治療学 2011 ; 28 (4) : 339-341.
  - 7) Murabayashi M, Sugita T, Hirakawa K, Kuribayashi H, Mori I, Kubo K, Horiguchi T, Ueda M, Katayama Y, Ohno Y (1) Takeda Pharmaceutical Company Limited, (2) NMR and Small Animal MRI Laboratory, Nippon Medical School, (3) Department of Legal Medicine, Nippon Medical School, (4) Varian Technologies Japan Ltd.) : Detection of Atherosclerotic Lesions in Apolipoprotein E Knockout Mice Using USPIO-Enhanced Magnetic Resonance Imaging. J Nippon Med Sch 2011 ; 78 (3) : 136-137.
  - 8) 片山泰朗：脳卒中のガイドラインをめぐって. 神経内科 2011 ; 75 (1) : 18-23.
  - 9) 桂研一郎：脳循環・環代謝の特徴. 救急・集中治療 2011 ; 23 (7-8) : 1008-1012.
  - 10) 桂研一郎：K<sub>ATP</sub> チャンネル. 分子脳血管病 2012 ; 11 (1) : 75-78.
  - 11) 桂研一郎：アテローム血栓性脳梗塞. レジデント 2011 ; 4 (10) : 30-41.
  - 12) 金子朋広：1 次性ネフローゼ症候群の治療. Modern Physician 2011 ; 31 (12) : 1523-1523.
  - 13) 遠藤英俊<sup>1)</sup>, 中村 祐<sup>2)</sup>, 山崎峰雄, 和田健二<sup>3)</sup> (1) 国立長寿医療研究センター内科総合診療部, (2) 香川大学医学部精神神経医学, (3) 鳥取大学医学部脳神経医科学) : アルツハイマー型認知症 AD 薬物治療の新しい展開. 日本医事新報 2011 ; (4549) : C1-C8.
  - 14) 山崎峰雄：認知症の薬物治療の工夫：服薬コンプライアンスをあげるために. 治療 2011 ; 93 (9) : 1835-1838.
  - 15) 上田雅之, 片山泰朗：特集「スタンダード透析療法」合併症と管理基準, 管理法, 脳血管障害. 腎と透析 2011 ; 70 (増刊号) : 258-260.
  - 16) 上田雅之, 片山泰朗：特集「分子レベルからみた血管破綻」脳梗塞慢性期の脂質管理と血管破綻. 分子脳血管病 2011 ; 10 (3) : 297-301.
  - 17) 白田和弘, 片山泰朗：頭痛. 総合臨牀 2011 ; 60 (増刊) : 142-151.
  - 18) 石渡明子：特集 脳疾患画像独英のコツと pitfall : 認知症における脳血流 SPECT の役割 加齢による記憶障害とアルツハイマー病との鑑別. メディカルリハビリテーション 2011 ; 133 (増刊) : 123-129.
  - 19) 片山泰朗：脳卒中治療ガイドラインの改訂をめぐって. 神経治療学 2011 ; 27 (6) : 835-839.
- (4) 症例報告：
- 1) Suda S, Yamazaki M, Katsura K, Fukuchi T, Kaneko N<sup>1)</sup>, Ueda M, Nagayama H, Katayama Y (1) Department of Neurosurgery, Fuchu-Keijinkai Hospital) : Dramatic response to zonisamide of post-subarachnoid hemorrhage Holmes'tremor. Journal of Neurology 2012 ; 259 (1) : 185-187.
  - 2) 神谷信雄<sup>1)</sup>, 濱本 真<sup>1)</sup>, 斎藤智成<sup>1)</sup>, 上田雅之, 片山泰朗 (1) 日本医科大学千葉北総病院 神経内科) : Pyridostigmine の投与にて起立性低血圧症状の著明な改善を認め, 123I-MIBG 心筋シンチグラフィーにて自律神経機能障害の改善を評価し得た pure autonomic failure の 80 歳男性例. 神経治療学 2011 ; 28 (4) : 425-428.
  - 3) Higo S, Hirama A, Ueda K, Mii A, Kaneko T, Utsumi K, Iino Y, Katayama Y : A Patient with Idiopathic Cholesterol Crystal Embolization : Effectiveness of Early Detection and Treatment. J Nippon Med Sch 2011 ; 78 (4) : 252-256.
- (5) 著書：
- 1) Katayama Y, Ueda M : Cerebral Infarction in the Chronic Stage. Antidepressants. Prevention of aspiration pneumonia. The Joint Committee on Guideline for The Management of Stroke. Journal of Stroke & Cerebrovascular Diseases 2011 ; 20 (4) : S68-S69.

## 著書

### 〔追加分〕

#### 追加分：

- 1) 小出 徹, 森本 眞：〔監修〕 治験英語ハンドブック. 国際共同治験 Q & A と英文モニタリング報告書の書き方例：英訳文例収載編 (監修 桂 研一郎, 久保田馨), 2011；pp1-185, メディファーマ パブリッシング.
- 1) 坂本静樹<sup>1)</sup> (1) 東京総合保健福祉センター江古田の森)：〔分担〕 レイモン・セスタン症候群 (橋上部被殻蓋症候群). 症候群ハンドブック (井村裕夫：総編集, 福井次夫, 辻 省次：編集), 2011；pp10-10, 中山書店.
- 2) 桂研一郎：〔分担〕 脳血管障害の合併症 (誤嚥性肺炎を中心に). 今日の治療指針 2012年版 (山口徹, 北原光夫, 福井次夫), 2012；pp762-762, 株式会社 医学書院.
- 3) Oyanagi K<sup>1)</sup>, Hashimoto T<sup>2)</sup>, Yamazaki M (1) Division of Neuropathology, Department of Brain Disease Research, Shinshu University School of Medicine, (2) Deoartment of Neuropathology, Tokyo Metropolitan Institute for Neuroscience)：〔分担〕 Parkinsonism-Dementia Complex of Guam. Neurodegeneration：The Molecular Pathology of Dementia and Movement Disorders (Dickson D.W.), 2011；pp171-178, Wiley-Blackwell.
- 4) 山崎峰雄：〔分担〕 アルツハイマー病の診断と治療の現状. 別冊・医学のあゆみ 認知症：研究・臨床の最先端, 2011；pp91-96, 医歯薬出版.
- 5) 大久保誠二, 片山泰朗：〔分担〕 腎機能低下のある脳卒中の治療. 成人病と生活習慣病 (成人病と生活習慣病編集委員会), 2011；pp459-462, 東京医学社.
- 6) 酒巻雅典, 片山泰朗：〔分担〕 アテローム血栓性脳梗塞の再発予防のため, クロビドグレル 75mg/日投与中でしたが脳梗塞の再発がみられました. 抗血小板薬はどうしますか?. 脳卒中診療こんなときどうする Q&A 2版 (棚橋 紀夫), 2012；pp204-206, 中外医学社.
- 7) 白田和弘, 片山泰朗：〔分担〕 III 疾患別各論 <脳疾患> 22 頭痛：片頭痛, 緊張型頭痛, 群発頭痛, 慢性連日性頭痛. 神経疾患最新の治療 2012-2014 (小林祥泰, 水澤英洋), 2012；pp183-190, 南江堂.

## 学会発表

### 〔追加分〕

#### 追加分一般講演：

- 1) Ishiwata A, Mizumura S<sup>1)</sup>, Yamazaki M, Hanyu H<sup>2)</sup>, Kitamura S, Katayama Y (1) Department of Radiology, Toho University, Tokyo, Japan, (2) Department of Neurology, Tokyo Medical University, Tokyo, Japan)：Efficacy of the Prevention of Hippocampal Atrophy by Treatment with Donepezil in Alzheimer's Disease. Alzheimer's Conference/Parkinson's Conference：ADPD 2011 (Barcelona), 2011. 3.
- 2) 水村 直<sup>1)</sup>, 石渡明子, 山崎峰雄, 佐藤英尊<sup>2)</sup>, 桑子智之<sup>1)</sup>, 桐山智成<sup>2)</sup>, 福嶋善光<sup>2)</sup>, 汲田伸一郎<sup>2)</sup>, 甲田英一<sup>1)</sup> (1) 東邦大学医療センター大森病院放射線科, (2) 日本医科大学放射線科)：認知症性疾患における脳萎縮と血流低下の関連と乖離：vbSEEによる機能形態画像の同時評価と相互作用. 日本核医学会総会 (第49回) (旭川), 2009. 10.
- 3) 高山洋平<sup>1)</sup>, 神谷信雄<sup>1)</sup>, 鈴木健太郎<sup>1)</sup>, 濱本 真<sup>1)</sup>, 片山泰朗 (1) 日本医科大学千葉北総病院 神経内科)：両側下腿後面筋萎縮を認め, CKの高度上昇を認めた腰部脊柱管狭窄症の62歳男性例. 日本神経学会関東・甲信越地方会 (東京), 2011. 3.

#### (1) 特別講演：

- 1) Iino Y：Management of Anemia in CKD：New Strategy. Japan-China Expert Meeting in CKD (ニンポー, 中国), 2011. 4.
- 2) 片山泰朗：脳梗塞急性期の脳保護療法：将来展望を含めて. Acute Stroke Seminar (軽井沢), 2011. 6.

- 3) 大久保誠二：当院における脳梗塞急性期治療. Acute Stroke Seminar (軽井沢), 2011. 6.
  - 4) 三品雅洋：脳梗塞急性期治療：抗血小板薬中心に. 千駄木 Stroke カンファレンス (第2回) (東京), 2011. 6.
  - 5) 北村 伸：川崎市における認知症ネットワーク. 老年期認知症研究会 (第25回) (川崎), 2011. 7.
  - 6) 片山泰朗：脳血管障害と頭痛. 神戸頭痛セミナー (第12回) (神戸), 2011. 7.
  - 7) 片山泰朗：EPA 投与の脳梗塞に対する効果：JELIS および基礎研究より. 盛岡 EPA クリニカルセミナー (盛岡), 2011. 10.
  - 8) 三品雅洋：認知症最新情報. 神経疾患懇話会 (第10回) (東京), 2011. 9.
  - 9) 片山泰朗：虚血性脳血管障害における頭痛の検討. 岡山神経内科勉強会 (第9回) (岡山), 2011. 10.
  - 10) 片山泰朗：脳卒中の危険因子とその対策：最近の話題を含めて. かずさ脳血管障害談話会 (第26回) (千葉), 2012. 2.
  - 11) 山崎峰雄：アルツハイマー型認知症の治療戦略：新薬の使い分け. 相模原市医師会第5部会学術講演会 (相模原), 2012. 2.
  - 12) 山崎峰雄：アルツハイマー型認知症の治療戦略：新薬の使い分け. 和歌山県医師会内科医会学術講演会 (和歌山), 2011. 12.
  - 13) 山崎峰雄：アルツハイマー型認知症の最新薬物治療. さいたま認知症薬剤師セミナー (埼玉), 2012. 2.
  - 14) 山崎峰雄：アルツハイマー型認知症治療薬の使い方を考える：disease-modifying drugs の展望も含めて. 江戸川区医師会総合臨床研究会 (東京), 2012. 2.
  - 15) 大久保誠二：当院 SCU での抗血小板剤使用経験. 第2回 Stroke Seminar (東京), 2011. 6.
  - 16) 大久保誠二：脳梗塞急性期治療：エダラボンの併用療法の効果. STROKE Prevention Now!! (東京), 2011. 9.
- (2) 教育講演：
- 1) 三品雅洋：脳卒中 rtPA 適正使用講習会：画像診断の要点. 日本脳卒中学会総会 (第36回) (京都), 2011. 7.
  - 2) 三品雅洋：脳卒中における核医学画像の役割. 東京脳卒中診断治療研究会 (第8回) (東京), 2012. 2.
- (3) シンポジウム：
- 1) 片山泰朗：脳卒中のガイドラインの国際比較 (神経疾患治療ガイドライン国際比較からみた本邦の特徴). 神経治療学会 (第29回) (福井), 2011. 11.
- (4) セミナー：
- 1) 上田雅之：抗血小板薬による治療とその取り扱い - 神経内科 -. 抗血小板薬を考える会 (東京), 2011. 7.
- (5) 一般講演：
- 1) Kamiya F, Ueda M, Nito C, Kamiya N, Inaba T, Suda S, Katayama Y : Transplantation of allogeneic bone marrow mononuclear cells ameliorates brain injury following transient focal ischemia in rats. XXVth International Symposium on Cerebral Blood Flow, Metabolism and Function and the Xth International Conference on Quantification of Brain Function with PET (Barcelona, Spain), 2011. 5.
  - 2) 中嶋信人, 鈴木健太郎, 塚本和久, 野村浩一, 上田雅之, 片山泰朗：Cilostazol による瀕脈を軽減することを目的とした Bisoprolol 投与の有効性に関する検討. 日本神経治療学会総会 (第29回) (福井), 2011. 11.
  - 3) 三品雅洋, 小林士郎<sup>1)</sup>, 大久保誠二, 酒巻雅典, 須田 智, 桜澤 誠, 神谷信雄, 阿部 新, 平間章郎, 熊谷智昭, 福地孝明, 駒場祐一, 片山泰朗 (<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院 脳神経センター)：脳卒中ホットラインの運用実績. 日本神経治療学会総会 (第29回) (福井), 2011. 11.
  - 4) 金丸拓也, 阿部 新, 大久保誠二, 村賀香名子, 齋藤智成, 野村浩一, 須田 智, 上田雅之, 桂研一郎, 片山泰朗：当院 SCU における椎骨脳底動脈の特徴的な症状・頭痛・後頭部痛. 日本神経学会学術大会 (第52回) (名古屋), 2011. 5.
  - 5) 戸田諭補, 桂研一郎, 桜澤 誠, 金丸拓也, 稲葉俊東, 齋藤萌子, 片山泰朗：抗血小板薬前投与の脳保護効果：ラット一過性局所脳虚血モデルを用いた検討. 日本神経学会学術大会 (第52回) (名古屋), 2011. 5.

- 6) 永山 寛, YJ-EXPANDS<sup>1)</sup> (1) The Young Japanese Expert Group for Parkinson's Disease and Movement Disorders) : Snaith-Hamilton Pleasure Scale 日本語版の妥当性・信頼性の検討. 日本神経学会学術大会 (第 52 回) (名古屋), 2011. 5.
- 7) 阿部 新, 西山康裕, 須田 智, 村賀香名子, 原田未那, 金丸拓也, 大久保誠二, 上田雅之, 桂研一郎, 片山泰朗: 脳塞栓症における大動脈内膜肥厚の意義. 日本神経学会学術大会 (第 52 回) (名古屋), 2011. 5.
- 8) 三品雅洋, 石渡喜一<sup>1)</sup>, 石井賢二<sup>1)</sup>, 北村 伸, 鈴木正彦<sup>2)</sup>, 橋本昌也<sup>2)</sup>, 石橋賢士<sup>3)</sup>, 織田圭一<sup>1)</sup>, 坂田宗之<sup>1)</sup>, 豊原 潤<sup>1)</sup>, 濱本 真, 小林士郎<sup>4)</sup>, 片山泰朗 (1) 東京都健康長寿医療センター研究所神経画像研究チーム, 2) 東京慈恵会医科大学附属青戸病院神経内科, 3) 東京医科歯科大学神経内科, 4) 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科) : パーキンソン病における被殻ドパミントランスポーター・ドパミン D<sub>2</sub> 受容体分布の病期による変化. 日本神経学会学術大会 (第 52 回) (名古屋), 2011. 5.
- 9) 熊谷智昭, 永山 寛, 上田雅之, 濱本 真, 片山泰朗: Levodopa 動態への及ぼす腸管変性の影響. 日本神経学会学術大会 (第 52 回) (名古屋), 2011. 5.
- 10) 白田和弘, 石渡明子, 片山泰朗: 薬物乱用頭痛と精神疾患による頭痛におけるうつ病性障害の検討. 日本神経学会学術大会 (第 52 回) (名古屋), 2011. 5.
- 11) 永田智香子, 上田雅之, 稲葉俊東, 太田成男<sup>1)</sup>, 片山泰朗 (1) 日本医科大学大学院医学研究科 加齢科学系専攻細胞生物学分野) : 局所脳虚血モデルにおける脳保護薬 edaravone と軽微低体温併用療法による MMP-9 抑制効果の増強. 日本神経学会学術大会 (第 52 回) (名古屋), 2011. 5.
- 12) 酒巻雅典, 齋藤智成, 水越元気, 鈴木健太郎, 高山洋平, 大久保誠二, 福地孝明, 白田和弘, 片山泰朗: 頭痛を訴えて来院した, 前大脳動脈, 中大脳動脈領域の脳梗塞についての検討. 日本神経学会学術大会 (第 52 回) (名古屋), 2011. 5.
- 13) 石渡明子<sup>1)</sup>, 北村 伸<sup>1)</sup>, 野村俊明<sup>2)</sup>, 若松直樹<sup>3)</sup>, 根本留美<sup>3)</sup>, 石井知香<sup>3)</sup>, 片山泰朗<sup>1)</sup>, 川並汪一<sup>3, 4)</sup> (1) 日本医科大学 内科 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門, 2) 日本医科大学 心理学, 3) 日本医科大学 老人病研究所 街ぐるみ認知症相談センター, 4) 北海メディカルネットワーク) : 街ぐるみ認知症相談センターにおける状況. 日本神経学会学術大会 (第 52 回) (名古屋), 2011. 5.
- 14) 鈴木健太郎, 須田 智, 中嶋信人, 塚本和久, 大久保誠二, 勝又俊弥, 片山泰朗: 急性期脳梗塞患者における血清 EPA と頸動脈プラークの検討. 日本神経学会学術大会 (第 52 回) (名古屋), 2011. 5.
- 15) 原田未那, 菅原俊佑<sup>1)</sup>, 井田正博<sup>1)</sup>, 横地正之<sup>2)</sup>, 片山泰朗, 田久保秀樹<sup>2)</sup> (1) 東京都保健医療公社 荏原病院神経内科, 2) 東京都保健医療公社 荏原病院 放射線科) : レビー小体型認知症における 3T-MR Neuromelanin Imaging. 日本神経学会学術大会 (第 52 回) (名古屋), 2011. 5.
- 16) 齋藤智成, 金丸拓也, 阿部 新, 野村浩一, 須田 智, 桜澤 誠, 酒巻雅典, 大久保誠二, 上田雅之, 片山泰朗: 内視鏡検査時のワーファリン中止を契機に発症した脳梗塞症例の検討. 日本神経学会学術大会 (第 52 回) (名古屋), 2011. 5.
- 17) 中嶋信人, 野本達也, 水越元気, 村賀香名子, 鈴木健太郎, 塚本和久, 上田雅之, 白田和弘, 片山泰朗: 電子カルテ導入による VDT 作業増加が頭痛に与える影響. 日本神経学会学術大会 (第 52 回) (名古屋), 2011. 5.
- 18) 滝沢まどか, 永山 寛, 上田雅之, 濱本 真, 片山泰朗: レボドパ動態への腎機能の影響. 日本神経学会学術大会 (第 52 回) (名古屋), 2011. 5.
- 19) 齋藤智成, 大久保誠二, 上田雅之, 三品雅洋, 片山泰朗: 多発性脳病巣を呈し, GVHD 関連脳症が疑われた 42 歳男性例. 日本神経学会関東・甲信越地方会 (東京), 2011. 6.
- 20) Ueda M, Inaba T, Nito C, Okubo S, Suda S, Kamiya F, Kamiya N, Nishiyama Y, Nagayama H, Katayama Y: Impact of pretreatment and withdrawal intervals on neuroprotection by ethyl eicosapentaenoic acid in a rat transient focal ischemia model. XXVth International Symposium on Cerebral Blood Flow Metabolism and Function & Xth International Conference on Quantification of Brain Function with PET (Barcelona,

Spain), 2011. 5.

- 21) Toda Y, Katsura K, Sakurazawa M, Kanamaru T, Inaba T, Saito T, Katayama Y : Protective effects of pre-medicated anti-platelet combination therapy in focal cerebral ischemia rat model. XXVth International Symposium on Cerebral Blood Flow Metabolism and Function & Xth International Conference on Quantification of Brain Function with PET (Barcelona, Spain), 2011. 5.
- 22) Nomura K, Muraga K, Kastumata T, Ueda M, Nito C, Katsura K, Katayama Y : Effects of long-term administration of HMG-COA reductase inhibitor, atorvastatin, on microvessels in the brain of stroke-prone. XXVth International Symposium on Cerebral Blood Flow Metabolism and Function & Xth International Conference on Quantification of Brain Function with PET (Barcelona, Spain), 2011. 5.
- 23) Nito C, Ueda M, Inaba T, Okubo S, Nomura K, Kamiya F, Ohta S<sup>1)</sup>, Katayama Y <sup>(1) Department of Biochemistry and Cell Biology, Institute of Development and Aging Sciences, Nippon Medical School</sup> : Combination therapy with edaravone and mild hypothermia prevents MMP-9 activation and neurovascular injury after focal cerebral ischemia in rats. XXVth International Symposium on Cerebral Blood Flow Metabolism and Function & Xth International Conference on Quantification of Brain Function with PET (Barcelona, Spain), 2011. 5.
- 24) 渡辺容子, 上田佳恵, 須田 智, 金子朋広, 内海甲一, 勝又俊弥, 飯野靖彦, 片山泰朗 : 蛋白尿の有無による脳梗塞患者の検討. 日本腎臓学会学術総会 (第54回) (横浜), 2011. 6.
- 25) 平間章郎, 内海甲一, 金子朋広, 上田佳恵, 三井亜希子, 有馬留志, 藤野鉄平, 飯野靖彦, 片山泰朗 : 当科における腹膜透析導入患者の検討. 日本腎臓学会学術総会 (第54回) (横浜), 2011. 6.
- 26) 三井亜希子, 清水 章<sup>1)</sup>, 金子朋広, 内海甲一, 田近賢二<sup>2)</sup>, 山口博樹<sup>2)</sup>, 飯野靖彦, 片山泰朗, 福田 悠<sup>1)</sup> <sup>(1) 日本医科大学解析人体病理学, 2) 日本医科大学血液内科</sup> : 造血幹細胞移植後の腎血栓性小血管症 (TMA) と移植片対宿主病 (GVHD) の関与. 日本腎臓学会学術総会 (第54回) (横浜), 2011. 6.
- 27) 安田文彦 : 高度蛋白尿を呈する糖尿病性腎症の特徴. 日本腎臓学会学術総会 (第54回) (横浜), 2011. 6.
- 28) 渡辺容子, 福田久美子, 葉山修陽<sup>1)</sup>, 栗原 怜<sup>1)</sup>, 湯浅譲治<sup>2)</sup>, 飯野靖彦 <sup>(1) さいたまつきの森クリニック 腎臓内科, 2) 幸手総合病院 泌尿器科</sup> : 塩酸シナカルセット (Clin) 投与患者における骨代謝マーカーの長期推移. 日本透析医学会学術集会・総会 (第56回) (横浜), 2011. 6.
- 29) 須田 智, 島崎久仁子<sup>1)</sup>, 上田雅之, 稲葉俊東, 神谷信雄, 桂研一郎, 片山泰朗 <sup>(1) 自治医科大学 神経能生理学</sup> : 脳虚血モデルにおける骨髄間葉系幹細胞移植・免疫抑制薬 FK506 併用療法の脳保護増強効果の検討. 千駄木血管研究会 (第6回) (東京), 2011. 6.
- 30) 大久保誠二, 阿部 新, 須田 智, 神谷信雄, 原田未那, 三品雅洋, 片山泰朗 : 急性期虚血性脳血管障害患者における右左シャントの検討. 日本脳ドック学会総会 (第20回) (東京), 2011. 7.
- 31) 須田 智, 勝又俊弥, 鈴木健太郎, 大久保誠二, 阿部 新, 中嶋信人, 三品雅洋, 上田雅之, 桂研一郎, 片山泰朗 : 急性期脳梗塞患者における EPA/AA 比の検討. 日本脳ドック学会総会 (第20回) (東京), 2011. 7.
- 32) 戸田諭補, 桂研一郎, 桜澤 誠, 金丸拓也, 稲葉俊東, 齊藤萌子, 片山泰朗 : ラット脳梗塞モデルにおける抗血小板薬併用前投与の効果の検討. 日本脳卒中学会総会 (第36回) (京都), 2011. 7.
- 33) 大久保誠二, 阿部 新, 須田 智, 金丸拓也, 齊藤智成, 野村浩一, 櫻澤 誠, 酒巻雅典, 上田雅之, 片山泰朗 : 虚血性脳血管障害発症前の抗血栓薬内服の検討. 日本脳卒中学会総会 (第36回) (京都), 2011. 7.
- 34) 三品雅洋, 小林士郎<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 金 景成<sup>1)</sup>, 片山泰朗 <sup>(1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科</sup> : 脳梗塞3病型における発症直後のイコサペンタエン酸と予後の関係. 日本脳卒中学会総会 (第36回) (京都), 2011. 7.
- 35) 上田雅之, 永田智香子, 大久保誠二, 須田 智, 神谷文雄, 神谷信雄, 阿部 新, 西山康裕, 永山 寛, 片山泰朗 : ラット一過性脳虚血に対する EPA-E の脳保護効果 : 投与期間, 投与中断後の影響. 日本脳卒中学会総会 (第

- 36回) (京都), 2011. 7.
- 36) 酒巻雅典, 齊藤智成, 水越元気, 鈴木健太郎, 高山洋平, 大久保誠二, 福地孝明, 白田和弘, 片山泰朗: 頭痛を主訴に来院した前大脳動脈, 中大脳動脈領域の脳梗塞についての検討. 日本脳卒中学会総会 (第36回) (京都), 2011. 7.
- 37) 太田智大, 永山 寛, 酒巻雅典, 上田雅之, 片山泰朗: 2回のγグロブリン大量療法が奏功した多発性筋炎の61歳男性例. 日本神経学会関東・甲信越地方会 (第198回) (東京), 2011. 9.
- 38) 小澤明子, 熊谷智昭, 永山 寛, 太田智大, 滝沢まどか, 上田雅之, 山崎峰雄, 片山泰朗: 意識障害を主訴としたHHV6関連辺縁系脳炎と考えられた1例. 日本医科大学医学会総会 (第79回) (東京), 2011. 9.
- 39) 神谷文雄, 上田雅之, 仁藤智香子, 稲葉俊東, 須田 智, 神谷信雄, 斎藤智成, 片山泰朗: ラット一過性脳虚血モデルにおける他家骨髄単核球体細胞移植による脳保護効果の検討. 日本医科大学医学会総会 (第79回) (東京), 2011. 9.
- 40) 戸田論補, 桂研一郎, 桜澤 誠, 金丸拓也, 稲葉俊東, 斎藤萌子, 片山泰朗: 抗血小板薬併用による脳保護効果のメカニズム: ラット一過性脳虚血モデルを用いた検討. 日本医科大学医学会総会 (第79回) (東京), 2011. 9.
- 41) 三品雅洋, 大久保誠二, 上田雅之, 酒巻雅典, 須田 智, 神谷信雄, 阿部 新, 金丸拓也, 斎藤智成, 片山泰朗, 妹尾麻代<sup>1)</sup>, 白銀一貴<sup>1)</sup>, 額綱健太<sup>1)</sup>, 岩本直高<sup>1)</sup>, 大村朋子<sup>1)</sup>, その他6名<sup>(1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科: 日本医科大学付属病院と千葉北総病院における入院患者の虚血性脳卒中病型の違い. 日本医科大学医学会総会 (第79回) (東京), 2011. 9.
- 42) 渡辺容子, 上田佳恵, 須田 智, 金子朋広, 内海甲一, 勝又俊弥, 飯野靖彦, 片山泰朗: 蛋白尿の有無と急性期脳梗塞患者の病態. 日本医科大学医学会総会 (第79回) (東京), 2011. 9.
- 43) 山崎峰雄, 林 俊行<sup>1)</sup>, 西岡 慧<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学医学部第5学年): アルツハイマー病における脳萎縮の左右差: MRI VSRADを用いた解析. 日本医科大学医学会総会 (第79回) (東京), 2011. 9.
- 44) Nito C, Ueda M, Inaba T, Kamiya F, Saito T, Katayama Y: Combined threatment with edaravone and mild hypothermia attenuates ischemic brain damage by suppressing matrix metalloproteinase 9 after ischemic stroke. The 5th Japanese Korean Joint Stroke Conference (Gyeongju, Korea), 2011. 10.
- 45) Kamiya F, Ueda M, Nito C, Kamiya N, Inaba T, Suda S, Saito T, Katayama Y: Transplantation of allogeneic bone marrow mononuclear cells ameliorates brain injury following transient focal ischemia in rats same as autologous cells. The 5th Japanese Korean Joint Stroke Conference (Gyeongju, Korea), 2011. 10.
- 46) Toda Y, Okubo S, Saitou T, Sunami E, Suzuki K, Harada M, Kanamaru T, Muraga K, Abe A, Nishiyama Y, Otori T, Ueda M, Katayama Y: Case analysis of brain infarction in patients with active cancer. The 5th Japanese Korean Joint Stroke Conference (Gyeongju, Korea), 2011. 10.
- 47) 大久保誠二, 阿部 新, 上田雅之, 三品雅洋, 片山泰朗: t-PA 静注療法を施行した前大脳動脈解離の2症例. 日本神経治療学会総会 (第29回) (福井), 2011. 11.
- 48) 永山 寛, 熊谷智昭, 上田雅之, 浜本 真, 片山片山: 消化管切除前後の levodopa 動態の比較を行った72歳男性例. 日本神経治療学会総会 (第29回) (福井), 2011. 11.
- 49) 酒巻雅典, 野上 茜, 熊谷智昭, 永山 寛, 上田雅之, 山崎峰雄, 片山泰朗: IVIG後に症状が改善したと考えられる, Acute idiopathic pandysautonomiaの1例. 日本神経治療学会総会 (第29回) (福井), 2011. 11.
- 50) 角南英子, 西山 穰 穰, 片山泰朗: 頭部不快感を主訴とした女性患者と抑うつ状態, 服薬歴, 頭部MRI所見との関連. 日本神経治療学会総会 (第29回) (福井), 2011. 11.
- 51) 水越元気<sup>2,3)</sup>, 中嶋信人<sup>1,3)</sup>, 野本達也<sup>1)</sup>, 村賀香名子<sup>3)</sup>, 片山泰朗<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> 北村山公立病院 神経内科, <sup>2)</sup> 府中恵仁会病院 脳神経内科, <sup>3)</sup> 日本医科大学内科 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門): Infliximabが著効した neuro-sarcoidosisの1例. 日本神経治療学会総会 (第29回) (福井), 2011. 11.

- 52) 三井亜希子, 有馬留志, 福田久美子, 金子朋広, 内海甲一, 高田大輔<sup>1)</sup>, 清水 章<sup>2)</sup>, 飯野靖彦 ( <sup>1)</sup> さくら記念病院, <sup>2)</sup> 日本医科大学 解析人体病理): 確定診断に苦慮した fibrillary glomerulonephritis の1例. 日本腎臓学会東部学術大会 (第41回) (東京), 2011. 10.
- 53) 青木路子, 三井亜希子, 荒川裕輔, 山田剛久, 金子朋広, 内海甲一, 清水 章<sup>1)</sup>, 飯野靖彦 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 解析人体病理学): ステロイド治療が有効だった membranous nephropathy with monoclonal IgG deposit の1例. 日本腎臓学会東部学術大会 (第41回) (東京), 2011. 10.
- 54) 戸田諭補, 桂研一郎, 桜沢 誠, 金丸拓也, 稲葉俊東, 斎藤萌子, 片山泰朗: 免疫染色を用いた抗血小板薬併用による脳保護効果の検討: ラット一過性脳虚血モデルを用いて. 日本脳循環代謝学会総会 (第23回) (東京), 2011. 11.
- 55) 神谷文雄, 上田雅之, 仁藤智香子, 稲葉俊東, 須田 智, 齋藤智成, 神谷信雄, 片山泰朗: ラット一過性局所脳虚血モデルにおける骨髄単核球細胞移植の therapeutic window の検討. 日本脳循環代謝学会総会 (第23回) (東京), 2011. 11.
- 56) 三品雅洋<sup>1)</sup>, 石渡喜一<sup>1)</sup>, 木村裕一<sup>1,2)</sup>, 坂田宗之<sup>1)</sup>, 織田圭一<sup>1)</sup>, 石井賢二<sup>1)</sup>, 片山泰朗 ( <sup>1)</sup> 東京都健康長寿医療センター研究所神経画像研究チーム, <sup>2)</sup> 放射線医学総合研究所分子イメージング研究センター): 被殻アデノシン A<sub>1</sub> 受容体分布の加齢変化: [<sup>11</sup>C] MPDX PET を用いた検討. 日本脳循環代謝学会総会 (第23回) (東京), 2011. 11.
- 57) 林 俊行<sup>1)</sup>, 西岡 慧<sup>1)</sup>, 石渡明子<sup>2)</sup>, 水村 直<sup>3)</sup>, 佐藤英尊<sup>4)</sup>, 新井裕至<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>1)</sup>, 山崎峰雄<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学医学部5年, <sup>2)</sup> 日本医科大学 内科 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門, <sup>3)</sup> 東邦大学医療センター大森病院 放射線科, <sup>4)</sup> 日本医科大学 放射線科): アルツハイマー病における脳萎縮の左右差: MRI VSRAD を用いた解析. 日本認知症学会学術集会 (第30回) (千葉), 2011. 11.
- 58) 小澤明子, 熊谷智昭, 永山 寛, 上田雅之, 片山泰朗: HHV-6 関連辺縁系脳炎の37歳男性例. 日本神経学会関東・甲信越地方会 (第199回) (東京), 2011. 11.
- 59) 高山洋平, 野原千洋子<sup>1)</sup>, 朝本俊司<sup>2)</sup>, 土居 浩<sup>3)</sup>, 田久保秀樹<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京都保健医療公社荏原病院 神経内科, <sup>2)</sup> 国際医療福祉大学 脳神経外科, <sup>3)</sup> 東京都保健医療公社荏原病院 脳神経外科): 幼虫移行症に伴う脊髄炎と考えられた57歳男性例. 日本神経学会関東・甲信越地方会 (第199回) (東京), 2011. 11.
- 60) Mishina M, Kyongsong K<sup>1)</sup>, Kobayashi S<sup>1)</sup>, Katayama Y ( <sup>1)</sup> Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hosp.): Relationship between Outcome and Polyunsaturated Fatty Acids level in Acute Ischemic Stroke. International Stroke Conference 2012 (New Orleans, USA), 2012. 1.
- 61) 白田和弘, 石渡明子, 片山泰朗: 薬物乱用頭痛におけるうつ病性障害の検討. 日本頭痛学会総会 (第39回) (埼玉), 2011. 11.
- 62) 大久保誠二, 須田 智, 阿部 新, 神谷信雄, 片山泰朗: 急性期虚血性脳血管障害患者における頭痛と左右シヤントの関連. 日本頭痛学会総会 (第39回) (埼玉), 2011. 11.
- 63) 古口徳雄<sup>1)</sup>, 小林繁樹<sup>1)</sup>, 小野純一<sup>2)</sup>, 三品雅洋, 荷堂 謙<sup>3)</sup>, 柏戸孝一<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉県救急医療センター神経系治療科, <sup>2)</sup> 千葉県循環器病センター脳神経外科, <sup>3)</sup> 千葉中央メディカルセンターリハビリテーション科, <sup>4)</sup> 柏戸病院): 千葉県における脳卒中動向調査: 患者居住地と医療機関所在地の検討. 日本脳卒中学会総会 (第36回) (京都), 2011. 7.
- 64) Mishina M<sup>1)</sup>, Ishiwata K<sup>1)</sup>, Kimura Y<sup>1,2)</sup>, Naganawa M<sup>1,3)</sup>, Sakata M<sup>1)</sup>, Oda K<sup>1)</sup>, Toyohara J<sup>1)</sup>, Kobayashi S<sup>4)</sup>, Katayama Y, Ishii K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, <sup>2)</sup> Molecular Imaging Center, National Institute of Radiological Sciences, <sup>3)</sup> PET Center, Department of Diagnostic Radiology, Yale University, <sup>4)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital): Age-related changes on adenosine A<sub>1</sub> and A<sub>2A</sub> receptors in human striata measured with PET. Society for Neuroscience's 41st annual meeting (Washington DC.), 2011. 11.

- 65) 齋藤桃子, 須田 智, 阿部 新, 大久保誠二, 酒巻雅典, 神谷信雄, 三品雅洋, 上田雅之, 桂研一郎, 片山泰朗: ANCA 陽性の潰瘍性大腸炎に脳静脈洞血栓症を合併した1例. 日本頭痛学会総会 (第39回) (埼玉), 2011. 11.
- 66) 須田 智, 島崎久仁子<sup>1)</sup>, 上田雅之, 稲葉俊東, 神谷信雄, 桂研一郎, 片山泰朗 (1) 自治医科大学 神経生理学): 一過性脳虚血モデルにおける骨髄間葉系幹細胞移植・免疫抑制薬 FK506 併用療法の脳保護増強効果の検討. Brain Protection Forum (第8回) (東京), 2011. 10.
- 67) 須田 智, 大久保誠二, 阿部 新, 金丸拓也, 上田雅之, 桂研一郎, 片山泰朗: 睡眠中の後頭部痛を呈した頭蓋頸椎移行部硬膜動静脈瘻の1例. 文京ニューロサイエンス (第7回) (東京), 2012. 2.
- 68) 須田 智, 鈴木健太郎, 勝又俊弥, 大久保誠二, 阿部 新, 金丸拓也, 齊藤智成, 上田雅之, 桂研一郎, 片山泰朗: 急性期脳梗塞患者におけるEPA/AA比の検討. 日本脳卒中学会総会 (第36回) (京都), 2011. 8.
- 69) 須田 智, 大久保誠二, 上田雅之, 桂研一郎, 片山泰朗: PR-3 ANCA 陽性の潰瘍性大腸炎に脳静脈洞血栓症を合併した36歳男性例. 日本神経学会関東・甲信越地方会 (第200回) (東京), 2012. 3.
- 70) 戸田論補, 桂研一郎, 桜沢 誠, 金丸拓也, 稲葉俊東, 斎藤萌子, 片山泰朗: 抗血小板薬前投与の脳保護効果. 日本神経治療学会 (第29回) (埼玉), 2011. 11.
- 71) 金子朋広, 柏木哲也, 荒川裕輔, 青木路子, 安田文彦, 平間章郎, 石原 力, 有馬留志, 藤田恵美子, 三井亜希子, 上田佳恵, 内海甲一, 飯野靖彦, 片山泰朗, 木村和義<sup>1)</sup> (1) 町立八丈病院内科): 離島における腎代替療法の選択. 日本透析医学会学術集会・総会 (第56回) (横浜), 2011. 6.
- 72) 金子朋広, 平間章郎, 有馬留志, 石原 力, 上田佳恵, 木村和義<sup>1)</sup>, 飯野靖彦 (1) 町立八丈病院 内科): 離島における血液浄化療法. 日本腹膜透析医学会学術集会・総会 (第17回) (大宮), 2011. 9.
- 73) 神谷信雄, 濱本 真<sup>1)</sup>, 鈴木健太郎, 原田未那, 高山洋平, 高橋幸利<sup>2)</sup>, 片山泰朗 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 神経内科, 2) 静岡てんかん・神経医療センター 臨床研究部): 髄液抗GluRε2抗体高値を呈し治療により低下したautoimmune epilepsyの1例. 日本神経治療学会総会 (第29回) (福井), 2011. 11.
- 74) 野上 茜<sup>1,2)</sup>, 高尾昌樹<sup>1)</sup>, 伊藤慎治<sup>1)</sup>, 舟辺さやか<sup>1)</sup>, 初田裕幸<sup>1)</sup>, 新井富生<sup>3)</sup>, 長谷川成人<sup>4)</sup>, 村山繁雄<sup>1)</sup> (1) 東京都健康長寿医療センター高齢者ブレインバンク, 2) 日本医科大学内科 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門), 3) 東京都健康長寿医療センター病理診断科, 4) 東京都医学総合研究所認知症プロジェクト病態細胞生物学研究室): 進行性非流暢性失語を呈した大脳皮質基底核変性症の87歳女性例. 日本神経病理学会関東地方会 (第99回) (東京), 2012. 1.
- 75) 野上 茜<sup>1,2)</sup>, 椎名盟子<sup>3)</sup>, 高尾昌樹<sup>1)</sup>, 伊藤慎治<sup>1)</sup>, 舟辺さやか<sup>1)</sup>, 初田裕幸<sup>1)</sup>, 沢辺元司<sup>4)</sup>, 村山繁雄<sup>1)</sup> (1) 東京都健康長寿医療センター研究所高齢者ブレインバンク, 2) 日本医科大学内科 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門), 3) 東京都健康長寿医療センター神経内科, 4) 東京都健康長寿医療センター病理診断科): 呼吸筋麻痺が急速に進行した筋萎縮性側索硬化症の1例. 第98回日本神経病理学会関東地方会 (東京 (東京医科歯科大学)), 2011. 8.
- 76) Okubo S, Inaba T, Nito C, Ueda M, Katayama Y: Combined therapy of mild hypothermia and Edaravone enhances the effect of thrombolysis on embolic ischemic model in rats. XXVth International Symposium on Cerebral Blood Flow Metabolism and Function & Xth International Conference on Quantification of Brain Function with PET (Barcelona, Spain), 2011. 5.
- 77) 大久保誠二: 当院SCUの現状. 女子医大・日本医大 Neuro-Conference (東京), 2012. 2.
- 78) 酒巻雅典, 齊藤智成, 水越元気, 鈴木健太郎, 高山洋平, 大久保誠二, 福地孝明, 白田和弘, 片山泰朗: 頭痛を訴えて来院した, 前大脳動脈, 中大脳動脈の領域の脳梗塞についての検討. 日本神経学会学術大会 (第52回) (名古屋), 2011. 5.

## [千葉北総病院腎臓内科]

### 研究概要

腎臓内科は持続性蛋白尿，血尿に対し腎生検を施行し積極的に診断，治療を行い外来での長期観察を行っている。腎生検症例は千駄木腎カンファランス，東葛腎カンファランスに提示し治療方針や識別診断，予後推測に役立てている。CKD，慢性腎不全の保存期は外来にて経過観察し時期を判断し計画性を持って血液浄化への導入を施行している。慢性腎不全の合併症にも各科の協力を得て急性発症の合併症は救急センター，ICU，SCUにて積極的に対処している。成田，印旛地区の慢性腎不全の合併症セミナーを年に2回行い各施設間の意見交換，患者さんのQOLの向上に努めている。対外循環治療（血漿交換・IDL アフェレーシス）も各科よりの依頼があれば積極的に対応している。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 総説：

- 1) 山田剛久：透析患者への薬剤使用の原則と注意点. 腎と透析 2011；70（4）：468-471.

#### 学会発表

##### (1) 一般講演：

- 1) 藤野鉄平，福井めぐみ，金子朋広<sup>1)</sup>，飯野靖彦<sup>1)</sup>，山田剛久，片岡泰朗<sup>1)</sup>，清水 章<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 付属病院内科学（神経・腎臓・膠原病リウマチ部門）：混合性結合織病に合併した ANCA 関連腎炎に対して IVIG 療法を施行した 1 例. 日本腎臓学会東部学術大会（第 41 回）（東京），2011. 10.

## [千葉北総病院神経内科]

### 研究概要

北総病院神経内科においては，倫理委員会，IRB の承認の基，以下の臨床研究を行っている。(1) 脳血管疾患の再発に対する高脂血症治療薬 HMG-CoA 還元酵素阻害薬の予防効果に関する研究 (J-STARS) 2006- (2) 脳卒中既往患者を対象とした厳格降圧法の二次予防効果を研究する大規模臨床研究 (RESPECT 研究) 2010-

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) 三品雅洋<sup>1)</sup>，小林士郎<sup>2)</sup>，大久保誠<sup>2)</sup>，坂巻雅典<sup>1)</sup>，須田 智<sup>1)</sup>，櫻澤 誠<sup>1)</sup>，神谷信雄<sup>1)</sup>，阿部 新<sup>1)</sup>，平間章郎<sup>1)</sup>，熊谷智昭<sup>1)</sup>，福地孝明<sup>1)</sup>，駒場祐一，片山泰朗<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 付属病院 内科学（神経・腎臓・膠原病リウマチ部門），<sup>2)</sup> 千葉北総病院 脳神経外科）：1. 卒中ホットラインの運用実績. 神経治療学 2011；28（5）：582.
- 2) Terao T<sup>1)</sup>，Mishina M<sup>2, 3)</sup>，Takumi I<sup>4, 5)</sup>，Komaba Y，Mizunari T<sup>1)</sup>，Kobayashi S<sup>1)</sup>，Yoshida D<sup>4)</sup>，Tera-moto A<sup>4)</sup>（<sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, Chiba-Hokusoh Hospital, <sup>2)</sup> Departments of Neurology, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital, <sup>3)</sup> The Second Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, <sup>4)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, <sup>5)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital）：Early computed tomography signs as early predictors of hemorrhagic transformation under heparinization in patients with cardiogenic embolism. Geriatr Gerontol Int. 2011；12（3）：418-424.

(2) 症例報告：

- 1) 駒場祐一，西山 穰，中村恭子<sup>3)</sup>，福間長知<sup>1)</sup>，高橋美紀子<sup>5)</sup>，福田 悠<sup>5)</sup>，片山泰朗<sup>2)</sup>，石川かほり<sup>4)</sup>，功刀しのぶ<sup>4)</sup>，安武正弘<sup>1)</sup>，川本雅司<sup>4)</sup>，勝又俊弥<sup>2)</sup>，水野杏一<sup>1)</sup> (1) 付属病院 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)，2) 付属病院 内科学 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)，3) 付属病院 内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門)，4) 千葉北総病院 脳神経外科，5) 付属病院 解析人体病理部)：悪性リンパ腫治療中に脳梗塞を合併し，遷延性の意識障害と発熱を呈した1例. 内科 2011；108 (3)：501-514.

### 3. 内科学講座（血液・消化器・内分泌代謝部門）

#### 〔付属病院血液内科，消化器内科，内分泌代謝内科〕

##### 研究概要

＜血液内科＞血液病学の基礎的研究では，昨年度に引き続き急性白血病，慢性骨髄性白血病，骨髄異形成症候群，多発性骨髄腫など重要な造血器腫瘍性疾患の発症機序，病態解析，治療法開発などに関して分子生物学，細胞生物学，腫瘍免疫学などの方法論を駆使して検討を行い，さらに骨髄不全症候群の原因遺伝子の解明および病態解析を行った．また真性多血症，本態性血小板血症などの骨髄増殖性疾患の発癌機構，病態についても解析をすすめた．臨床的研究では，急性白血球の臨床病態解析，悪性リンパ腫の病態に関する解析などを行い，造血幹細胞移植では臍帯血移植，骨髄非破壊的移植の治療成績改善に関する治療研究を行った．＜消化器内科＞昨年に続いて非ステロイド性消炎鎮痛薬＜NSAID＞に関する臨床研究で成果が得られ，本邦のデータをまとめた総説やNSAIDによる小腸粘膜傷害予防試験データが国際誌に掲載された．さらに，非びらん性胃食道逆流症に関する臨床研究データや難治性腹水治療に対する経頸静脈的肝内門脈大循環短絡術の有用性に関する論文も，国際誌に掲載されている．厚生労働省研究班における好酸球性食道炎に関する協同研究，及び原因不明消化管出血＜OGIB＞に関する協同研究にも進捗を認めた．＜内分泌代謝内科＞以下の課題に沿った業績を上げている．基礎：1）成長ホルモンの代謝調節作用，2）過酸化リン脂質とマクロファージ接着能，3）選抜交配による高脂肪食負荷後の耐糖能異常マウスの系統樹立（JDI，2012 in press）．臨床：1）下垂体，副腎機能検査，インスリノーマ症例に対するGHRP試験の有用性，2）原発性アルドステロン症の診断病態に関する検討，3）血清PCOOHと冠動脈硬化，4）急性冠症候群と家族性高コレステロール血症，5）DPP4阻害剤の脂質代謝への影響，6）糖尿病合併症に対する糖化蛋白影響．

##### 研究業績

###### 論文

###### 〔追加分〕

追加分総説：

- 1) 緒方清行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学血液内科)：MDSの新しい展望：フローサイトメトリーを用いた診断と免疫調節分子の病勢進展への関与．臨床血液 2011；52 (3)：106-110.
- 2) 中島 泰，及川眞一：実践肥満攻略法 超低カロリーダイエット指導法．糖尿病診療マスター 2011；9 (1)：45-51.
- 3) 佐藤友紀，及川眞一：日本の臨床介入試験 JELIS (サブ解析も含めて)．The Lipid 2011；22 (1)：58-64.
- 4) 竹光秀司，及川眞一：スタチンとコレステロール吸収．Medical Practice 2011；28 (3)：542-544.

追加分原著：

- 1) Asai A, Okajima F, Nakajima Y, Nagao M, Nakagawa K<sup>1)</sup>, Miyazawa T<sup>1)</sup>, Oikawa S (1) Food and Biodynamic Chemistry Laboratory, Graduate School of Agricultural Science, Tohoku University)：Involvement of Rac GTPase activation in phosphatidylcholine hydroperoxide-induced THP-1 cell adhesion to ICAM-1. Biochemical and Biophysical Research Communications 2011；406 (2)：273-277.
- 2) Itakura H<sup>1)</sup>, Yokoyama M<sup>2)</sup>, Matsuzaki M<sup>3)</sup>, Saito Y<sup>4)</sup>, Origasa H<sup>5)</sup>, Ishikawa Y<sup>6)</sup>, Oikawa S, Sasaki J<sup>7)</sup>, Hishida H<sup>8)</sup>, Kita T<sup>9)</sup>, Kitabatake A<sup>10)</sup>, Nakaya N, Sakata T, Shimada K, Shirato K, et al. (1) Shinagawa East One Medical Clinic, 2) Hyogo Prefectural Awaji Hospital, 3) Division of Cardiology, Department of Medicine and Clinical Science, Yamaguchi University Graduate School of Medicine, 4) Chiba University, 5) Division of Biostatistics and Clinical Epidemiology, University of Toyama, 6) Kakogawa Municipal Hospital,

- 7) International University of Health and Welfare Graduate School of Public Health Medicine, 8) Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Fujita Health University School of Medicine, 9) Kobe City Medical Center General Hospital, 10) and others) : Relationships between Plasma Fatty Acid Composition and Coronary Artery Disease. *Journal of Atherosclerosis and Thrombosis* 2011 ; 18 (2) : 99-107.
- 3) Arai H<sup>1)</sup>, Yamamoto A<sup>2)</sup>, Matsuzawa Y<sup>3)</sup>, Saito Y<sup>4)</sup>, Yamada N<sup>5)</sup>, Oikawa S, Mabuchi H<sup>6)</sup>, Teramoto T<sup>7)</sup>, Sasaki J<sup>8)</sup>, Nakaya N<sup>9)</sup>, Itakura H<sup>10)</sup>, Ishikawa Y, Ouchi Y, Horibe H, Kita T (1) Department of Human Health Sciences, Kyoto University Graduate School of Medicine, 2) National Cardiovascular Center, 3) Sumitomo Hospital, 4) Chiba University, 5) Tsukuba University, 6) Kanazawa University, 7) Department of Internal Medicine, Teikyo University, 8) International University of Health and Welfare, 9) Nakaya Clinic, 10) and others) : Prevalence of the metabolic syndrome in elderly and middle-aged Japanese. *Journal of Clinical Gerontology and Geriatrics* 2010 ; 1 (2) : 42-47.
- 4) Kojima Y<sup>1, 2)</sup>, Kimura T<sup>3)</sup>, Nakagawa K<sup>4)</sup>, Asai A, Hasumi K<sup>1)</sup>, Oikawa S, Miyazawa T<sup>4)</sup> (1) United Graduate School of Agricultural Science, Tokyo University of Agriculture and Technology, 2) Minato Pharmaceutical Co., Ltd., 3) National Agricultural Research Center for Tohoku Region, 4) Food and Biodynamic Chemistry Laboratory, Graduate School of Agricultural Science, Tohoku University) : Effects of mulberry leaf extract rich in 1-deoxynojirimycin on blood lipid profiles in humans. *Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition* 2010 ; 47 (2) : 155-161.
- 5) Nakajima Y, Sato K<sup>1)</sup>, Sudo M, Nagao M, Kano T, Harada T, Ishizaki A, Tanimura K, Okajima F, Tamura H, Sugihara H, Tsuda K<sup>2)</sup>, Oikawa S (1) Department of Nutrition, Nippon Medical School Hospital, 2) Graduate School of Pharmaceutical Sciences, Kyoto University) : Practical dietary calorie management, body weight control and energy expenditure of diabetic patients in short-term hospitalization. *Journal of Atherosclerosis and Thrombosis* 2010 ; 17 (6) : 558-567.
- 6) Shoji N<sup>1, 2)</sup>, Nakagawa K<sup>1)</sup>, Asai A, Fujita I<sup>1)</sup>, Hashiura A<sup>1)</sup>, Nakajima Y, Oikawa S, Miyazawa T<sup>1)</sup> (1) Food and Biodynamic Chemistry Laboratory, Graduate School of Agricultural Science, Tohoku University, 2) Industrial Technology Institute, Miyagi Prefectural Government) : LC-MS/MS analysis of carboxymethylated and carboxyethylated phosphatidylethanolamines in human erythrocytes and blood plasma. *Journal of Lipid Research* 2010 ; 55 (8) : 2445-2453.
- 7) Ishikawa Y<sup>1)</sup>, Yokoyawa M<sup>2)</sup>, Saito Y<sup>3)</sup>, Matsuzaki M<sup>4)</sup>, Origasa H<sup>5)</sup>, Oikawa S, Sasaki J<sup>6)</sup>, Hishida H<sup>7)</sup>, Itakura H<sup>8)</sup>, Kita T<sup>9)</sup>, Kitabatake A<sup>10)</sup>, Nakaya N, Sakata T, Shimada K, Shirato K, et al. (1) Kakogawa Municipal Hospital, 2) Hyogo Prefectural Awaji Hospital, 3) Chiba University, 4) Division of Cardiology, Department of Medicine and Clinical Science, Yamaguchi University Graduate School of Medicine, 5) Division of Biostatistics and Clinical Epidemiology, University of Toyama, 6) International University of Health and Welfare Graduate School of Public Health Medicine, 7) Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Fujita Health University School of Medicine, 8) Department of Food Science, Ibaraki Christian University, College of Life Science, 9) Kobe City Medical Center General Hospital, 10) and others) : Preventive effects of eicosapentaenoic acid on coronary artery disease in patients with peripheral artery disease. *Circulation Journal* 2010 ; 74 (7) : 1451-1457.
- 8) Saito Y<sup>1)</sup>, Kita T<sup>2)</sup>, Mabuchi H<sup>3)</sup>, Matsuzaki M<sup>4)</sup>, Matsuzawa Y<sup>5)</sup>, Nakaya N<sup>6)</sup>, Oikawa S, Sasaki J<sup>7)</sup>, Shimamoto K<sup>8)</sup>, Itakura H<sup>9)</sup> (1) Chiba University Graduate School of Medicine, 2) Kobe City Medical Center General Hospital, 3) Kanazawa University Graduate School of Medicine, 4) Yamaguchi University Graduate School of Medicine, 5) Sumitomo Hospital, 6) Nakaya Clinic, 7) International University of Health and Welfare Graduate School of Clinical Trial Management, 8) Sapporo Medical University School of Medicine, 9) Ibaraki

Christian University) : Obesity as a risk factor for coronary events in Japanese patients with hypercholesterolemia on low-dose simvastatin therapy. *Journal of Atherosclerosis and Thrombosis* 2010 ; 17 (3) : 270-277.

- 9) Teramoto T<sup>1)</sup>, Shimada K<sup>2)</sup>, Uchiyama S<sup>3)</sup>, Sugawara M<sup>4)</sup>, Goto Y<sup>4)</sup>, Yamada N<sup>5)</sup>, Oikawa S, Ando K<sup>6)</sup>, Ishizaka N<sup>7)</sup>, Yamazaki T<sup>8)</sup>, Yokoyama K<sup>9)</sup>, Murata M<sup>10)</sup>, Ikeba Y (1) Internal Medicine, Teikyo University School of Medicine, 2) Department of Cardiology, Jichi Medical University Hospital, 3) Department of Neurology, Tokyo Women's Medical University, 4) Japan Physicians Association, 5) Tsukuba University Hospital, Institute of Clinical Medicine, University of Tsukuba, 6) Division of Molecular Cardiovascular Metabolism, Department of Nephrology and Endocrinology, University of Tokyo Graduate School of Medicine, 7) Division of Preventive Medicine, Department of Community Health and Medicine, Research Institute, International Medical Center of Japan, 8) Faculty of Medicine, Department of Clinical Epidemiology and Systems, Graduate School of Medicine, Center for Epidemiology and Preventive Medicine, Th, 9) Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Keio University School of Medicine, 10) and others) : Rationale, design, and baseline data of the Japanese Primary Prevention Project (JPPP) : A randomized, open-label, controlled trial of aspirin versus no aspirin in patients with multiple risk factors for vascular events. *American Heart Journal* 2010 ; 159 (3) : 361-369.
- 10) Sone H<sup>1)</sup>, Tanaka S<sup>2)</sup>, Iimura S<sup>3)</sup>, Tanaka S<sup>4)</sup>, Yamasaki Y<sup>5)</sup>, Oikawa S, Ishibashi S<sup>6)</sup>, Katayama S<sup>7)</sup>, Yamashita H<sup>8)</sup>, Ito H<sup>9)</sup>, Yoshimura Y<sup>10)</sup>, Ohashi Y, Akanuma Y, Yamada N, Japan Diabetes Complications Study Group (1) Department of Internal Medicine, University of Tsukuba Institute of Clinical Medicine, 2) Laboratory of Biostatistics, Tokyo University of Science, 3) Department of Biostatistics, University of Tokyo School of Medicine, 4) Translational Research Center, Kyoto University, 5) Fukui Chuo Clinic, Fukui, 6) Center for Advanced Science and Innovation, Osaka University, 7) Department of Endocrinology and Metabolism, Jichi Medical College, 8) The Fourth Department of Medicine, Saitama Medical School, 9) Department of Ophthalmology, Yamagata University School of Medicine, 10) and others) : Long-term lifestyle intervention lowers the incidence of stroke in Japanese patients with type 2 diabetes : a nationwide multicentre randomised controlled trial (the Japan Diabetes Complications Study). *Diabetologia* 2010 ; 53 (3) : 419-428.

#### 追加分症例報告 :

- 1) 稲葉基之<sup>1)</sup>, 小坂祥子<sup>1)</sup>, 二神綾子<sup>1)</sup>, 安齋真一<sup>1)</sup>, 田村秀人<sup>2)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学皮膚科, 2) 日本医科大学血液内科) : 病理組織学的に毛包向性が顕著な mycosis fungoides の 1 例. *Skin Cancer* 2011 ; 26 (2) : 206-209.

#### (1) 原著 :

- 1) Fujimori S, Gudis K, Takahashi Y, Kotoyori M, Tatsuguchi A, Ohaki Y, Sakamoto C : Determination of the minimal essential serum folate concentration for reduced risk of colorectal adenoma. *Clin Nutr.* 2011 ; 30 (5) : 653-658.
- 2) Kusunoki M, Miyake K, Shindo T, Ueki N, Kawagoe T, Gudis K, Futagami S, Tsukui T, Takagi I, Hosaka J, Sakamoto C : The incidence of deep vein thrombosis in Japanese patients undergoing endoscopic submucosal dissection. *Gastrointestinal Endoscopy* 2011 ; 74 (4) : 798-804.
- 3) Shimpuku M, Futagami S, Kawagoe T, Nagoya H, Shindo T, Horie A, Kodaka Y, Itoh T, Sakamoto C : G-protein  $\beta 3$  subunit 825CC genotype is associated with postprandial distress syndrome with impaired gastric emptying and with the feeling of hunger in Japanese. *Neurogastroenterol Motility* 2011 ; 23 (12) : 1073-1080.
- 4) Futagami S, Shimpuku M, Yin Y<sup>1)</sup>, Shindo T, Kodaka Y, Nagoya H, Nakazawa S, Fujimoto S, Izumi

- N, Ohishi N, Kawagoe T, Horie A, Iwakiri K, Sakamoto C <sup>(1)</sup> Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, First Affiliated Hospital of Xi'an Jiaotong University, Xi'an, Shaanxi Province, China) : Pathophysiology of functional dyspepsia. *J Nippon Med Sch* 2011 ; 78 (5) : 280-285.
- 5) Narahara Y, Kanazawa H, Sakamoto C, Maruyama H, Yokosuka O, Mochida S, Uemura M, Fukui H, Sumino Y, Matsuzaki Y, Masaki N, Kokubu S, Okita K : The efficacy and safety of terlipressin and albumin in patients with type 1 hepatorenal syndrome : a multicenter, open-label, explorative study. *Journal of Gastroenterology* 2012 ; 47 (3) : 313-320.
  - 6) Fujimori S, Gudis K, Takhashi Y, Kotoyori M, Tatsuguchi A, Ohaki Y, Sakamoto C : Determination of the minimal essential serum folate concentration for reduced risk of colorectal adenoma. *Clinical Nutrition* 2011 ; 30 (5) : 653-658.
  - 7) Itokawa N, Atsukawa M, Nishino T, Kondo C, Fukuda T, Matsusita Y, Kidokoro H, Katakura T, Narahara Y, Tanaka S, Nakatsuka K, Oaki Y, Sakamoto C : A case of IgG4-related disease with rectal cancer. *Clinical Journal of Gastroenterology* 2011 ; 4 (6) : 374-380.
  - 8) Iwakiri K, Kawami N, Sano H, Tanaka Y, Umezawa M, Futagami S, Hoshihara Y<sup>1)</sup>, Sakamoto C <sup>(1)</sup> Clinic of the Ministry of Economy, Trade and Industry, Japan) : The effects of nizatidine on transient lower esophageal sphincter relaxations (TLESRs) and acid reflux in healthy subjects. *J Smooth Muscle Res* 2012 ; 47 (6) : 157-166.
  - 9) Nemoto T<sup>1)</sup>, Sugihara H, Mano A<sup>1)</sup>, Kano T, Shibasaki T<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> Department of Physiology, Nippon Medical School) : The effects of ghrelin/GHSs on AVP mRNA expression and release in cultured hypothalamic cells in rats. *Peptides* 2011 ; 32 (6) : 1281-1288.
  - 10) Futagami S, Kawagoe T, Kodaka Y, Nagoya H, Shimpuku M, Ueki N, Horie A, Kusunoki M, Miyake K, Sakamoto C : Migration of CD133-positive cells in human gastric cancer tissues. *J Nippon Med Sch* 2012 ; 79 (1) : 100-100.
  - 11) Wakita S<sup>1)</sup>, Yamaguchi H<sup>1)</sup>, Miyake K<sup>2)</sup>, Mitamura Y<sup>1)</sup>, Kosaka F<sup>1)</sup>, Dan K<sup>1)</sup>, Inokuchi K<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology, Division of Gene Therapy Research Center for Advanced Medical Technology, Nippon Medical School) : Importance of c-kit mutation detection method sensitivity in prognostic analyses of t (8 ; 21) (q22 ; q22) acute myeloid leukemia. *Leukemia* 2011 ; 25 (9) : 1423-1432.
  - 12) Mii A<sup>2, 1)</sup>, Shimizu A<sup>1)</sup>, Kaneko T<sup>2)</sup>, Fujita E<sup>2)</sup>, Fukui M<sup>2)</sup>, Fujino T<sup>2)</sup>, Utsumi K<sup>2)</sup>, Yamaguchi H<sup>3)</sup>, Tajika K<sup>3)</sup>, Tsuchiya S<sup>4)</sup>, Iino Y<sup>2)</sup>, Katayama Y<sup>2)</sup>, Fukuda Y<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> Analytic Human Pathology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Internal Medicine (Division of Neurology, Nephrology and Rheumatology, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, <sup>4)</sup> 4Division of Diagnostic Pathology, Nippon Medical School) : Renal thrombotic microangiopathy associated with chronic graft-versus-host disease after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. *Pathol Int* 2011 ; 61 (9) : 518-527.
  - 13) Tamai H<sup>1, 2)</sup>, Miyake K<sup>2)</sup>, Yamaguchi H<sup>1)</sup>, Takatori M<sup>1)</sup>, Dan K<sup>1)</sup>, Inokuchi K<sup>1)</sup>, Shimada T<sup>2)</sup> <sup>(1)</sup> Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology, Division of Gene Therapy Research Center for Advanced Medical Technology, Nippon Medical School) : AAV-8 vector expressing IL-24 efficiently suppresses tumor growth mediated by specific mechanisms in MLL/AF4-positive ALL model mice. *Blood* 2012 ; 119 (1) : 64-71.
  - 14) Tamai H<sup>1, 2)</sup>, Miyake K<sup>2)</sup>, Yamaguchi H<sup>1)</sup>, Takatori M<sup>1)</sup>, Dan K<sup>1)</sup>, Inokuchi K<sup>1)</sup>, Shimada T<sup>2)</sup> <sup>(1)</sup> Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Biochemistry and

- Molecular Biology, Division of Gene Therapy Research Center for Advanced Medical Technology, Nippon Medical School) : Resistance of MLL-AFF1-positive acute lymphoblastic leukemia to tumor necrosis factor- $\alpha$  is mediated by S100A6 upregulation. *Blood Cancer Journal* 2011 ; 1 : e38.
- 15) Ogata K<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical ) : Flow cytometry will be a routine tool in clinical practice in myelodysplastic syndromes : A real story. *Leuk Res* 2011 ; 35 (7) : 848-849.
- 16) Nakagawa Y<sup>1</sup>, Suzuki K<sup>1</sup>, Dan K<sup>2</sup>, Urabe A<sup>3</sup>, et al. ( <sup>1</sup> Dept. of Oncology and Hematology, Japanese Red Cross Medical Center, <sup>2</sup> Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical, <sup>3</sup> Division of Hematology, NTT Kanto Medical Center ) : Clinical efficacy and safety of biapenem for febrile neutropenia in patients with underlying hematopoietic diseases : a multi-institutional study. *J Infect Chemother* 2011 ; 17 (1) : 58-64.
- 17) Tauchi T<sup>1</sup>, Kizaki M<sup>2</sup>, Okamoto S<sup>3</sup>, Tanaka H<sup>4</sup>, Tanimoto M<sup>5</sup>, Inokuchi K<sup>6</sup>, Murayama T<sup>7</sup>, Saburi Y<sup>8</sup>, Hino M<sup>9</sup>, Tsudo M<sup>10</sup>, Dan K<sup>6</sup>, Ohyashiki K<sup>1</sup>, et al. ( <sup>1</sup> First Department of Internal Medicine, Tokyo Medical University, <sup>2</sup> Department of Hematology, Saitama Medical Center, Saitama Medical University, <sup>3</sup> Division of Hematology, Keio University School of Medicine, <sup>4</sup> Department of Hematology and Oncology, Research Institute for Radiation Biology and Medicine, Hiroshima University, <sup>5</sup> Department of Hematology, Oncology and Respiratory Medicine, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences, <sup>6</sup> Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, <sup>7</sup> Hematology Division, Department of Medicine, Hyogo Cancer Center, <sup>8</sup> Department of Hematology, Oita Prefectural Hospital, <sup>9</sup> Clinical Hematology and Clinical Diagnosis, Graduate School of Medicine, Osaka City University, <sup>10</sup> and others ) : Seven-year follow-up of patients receiving imatinib for the treatment of newly diagnosed chronic myelogenous leukemia by the TARGET system. *Leuk Res* 2011 ; 35 (5) : 585-590.
- 18) Sone H<sup>1</sup>, Tanaka S<sup>2</sup>, Tanaka S<sup>3</sup>, Iimuro S<sup>4</sup>, Oida K<sup>5</sup>, Yamasaki Y<sup>6</sup>, Oikawa S, Ishibashi S<sup>7</sup>, Katayama S<sup>8</sup>, Ohashi Y<sup>4</sup>, Akanuma Y<sup>9</sup>, Yamada N<sup>10</sup>, Japan Diabetes Complications Study Group ( <sup>1</sup> Department of Internal Medicine, University of Tsukuba Institute of Clinical Medicine, <sup>2</sup> EBM Research Center, Kyoto University School of Medicine, <sup>3</sup> Translational Research Center, Kyoto University School of Medicine, <sup>4</sup> Department of Biostatistics and Epidemiology, University of Tokyo School of Medicine, <sup>5</sup> Fukui Chuo Clinic, <sup>6</sup> Center for Advanced Science and Innovation, Osaka University, <sup>7</sup> Department of Endocrinology and Metabolism, Jichi Medical College, <sup>8</sup> The Fourth Department of Medicine, Saitama Medical School, <sup>9</sup> The Institute for Adult Diseases Asahi Life Foundation, <sup>10</sup> and others ) : Serum Level of Triglycerides Is a Potent Risk Factor Comparable to LDL Cholesterol for Coronary Heart Disease in Japanese Patients with Type 2 Diabetes : Subanalysis of the Japan Diabetes Complications Study (JDACS). *The Journal of Clinical Endocrinology & Metabolism* 2011 ; 96 (11) : 3448-3456.
- 19) Asai A, Nakagawa K<sup>1</sup>, Higuchi O<sup>2</sup>, Kimura T<sup>3</sup>, Kojima Y<sup>4</sup>, Kariya J<sup>2</sup>, Miyazawa T<sup>1</sup>, Oikawa S ( <sup>1</sup> Food and Biodynamic Chemistry Laboratory, Graduate School of Agricultural Science, Tohoku University, <sup>2</sup> Project M Co., Ltd, <sup>3</sup> National Agricultural Research Center for Tohoku Region, <sup>4</sup> Minato Pharmaceutical Co., Ltd. ) : Effect of meberry leaf extract with enriched l-deoxynojirimycin content on postprandial glycemic control in subjects with impaired glucose metabolism. *Journal of Diabetes Investigation* 2011 ; 2 (4) : 318-323.
- 20) 加藤俊治<sup>1</sup>, 仲川清隆<sup>1</sup>, 及川眞一, 宮澤陽夫<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 東北大学大学院農学研究科 機能分子解析学分野 ) : ヒト血中ホスファチジルコリンヒドロペルオキシド (PCOOH) の LC-MS/MS 分析. *脂質生化学研究* 2011 ; 53 : 70-73.

- 21) 及川真一：健康食品，私はこう指導する 患者の思いとスタッフの思い. 糖尿病診療マスター 2012；10（1）：52-53.
- 22) Inokuchi K<sup>1</sup>， Wakita S<sup>1</sup>， Hirakawa T<sup>1</sup>， Tamai H<sup>1</sup>， Yokose N<sup>1</sup>， Yamaguchi H<sup>1</sup>， Dan K<sup>1</sup>（<sup>1</sup> Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School）：RCS D1-ABL1-positive B lymphoblastic leukemia is sensitive to dexamethasone and tyrosine kinase inhibitors and rapidly evolves clonally by chromosomal translocations. *Int J Hematol* 2011；94：255-260.
- 23) Tamai H<sup>1,2)</sup>， Miyake K<sup>2)</sup>， Takatori M<sup>1)</sup>， Miyake N<sup>2)</sup>， Yamaguchi H<sup>1)</sup>， Dan K<sup>1)</sup>， Simada T<sup>2)</sup>， Inokuchi K<sup>1)</sup>（<sup>1</sup> Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, <sup>2</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology, Division of Gene Therapy Research Center for Advanced Medical Technology, Nippon Medical School）：Activated K-Ras protein accelerates human MLL/AF4-induced leukemolymphomagenicity in a transgenic mouse model. *Leukemia* 2011；25（5）：888-891.
- (2) 総説：
- 1) 藤森俊二，坂本長逸：NSAIDsによる下部消化管粘膜傷害の現状と展望. *日本臨床* 2011；69（6）：1075-1082.
- 2) 三宅一昌，坂本長逸：我が国におけるNSAIDs潰瘍の疫学. *日本臨床* 2011；69（6）：982-987.
- 3) 藤森俊二，坂本長逸：アスピリンとNSAIDsの併用がもたらす影響とその対策. *消化器の臨床* 2011；14（2）：174-178.
- 4) 三宅一昌，坂本長逸：ビスホスホネートによる粘膜傷害と消化器癌のリスク. *消化器内視鏡* 2011；23（7）：1212-1213.
- 5) 三宅一昌，坂本長逸：ビスホスホネート製剤は食道癌のリスクを上げるのか？. *リウマチ科* 2011；45（6）：638-642.
- 6) 三宅一昌，楠 正典，名見耶浩幸，小高康裕，進藤智隆，植木信江，河越哲郎，二神生爾，坂本長逸：Expertに学ぶ画像診断7 画像強調観察：FICE（上部）. *臨床外科* 2011；66（9）：1230-1235.
- 7) 藤森俊二，遠坂由紀子，小杉友紀，豊田将大，馬來康太郎，春日祐介，山田祐希江，高橋陽子，江原彰仁，小林剛，瀬尾継彦，三井啓吾，米澤真興，田中 周，坂本長逸，その他1名：アスピリンによる小腸消化管粘膜傷害の特徴：カプセル内視鏡. *消化器内視鏡* 2011；23（7）：1201-1206.
- 8) 岩切勝彦，坂本長逸：胸やけ. 症状からアプローチするプライマリケア 2011；140（2）：78-81.
- 9) 岩切勝彦，川見典之，佐野弘仁，田中由理子，梅澤まり子，星原芳雄<sup>1)</sup>，坂本長逸（<sup>1</sup> 経済産業省診療所）：NERDに知覚異常は存在するか. *分子消化器病* 2011；8（4）：334-339.
- 10) 新福摩弓，二神生爾，北村忠弘<sup>1)</sup>，坂本長逸（<sup>1</sup> 群馬大学生体調節研究所代謝シグナル解析分野）：機能性ディスペプシアの病態生理：胃排出能と遺伝子多型. *日本臨床生理学会雑誌* 2011；41（3）：87-93.
- 11) 藤森俊二，坂本長逸：小腸病変の画像アトラス NSAIDs関連病変. *Mebio* 2012；29（2）：82-83.
- 12) 藤森俊二，高橋陽子，江原彰仁，小林 剛，三井啓吾，米澤真興，田中 周，辰口篤志，坂本長逸：NSAIDsによる小腸病変（アスピリンを除く）. *INTESTINE* 2012；16（1）：19-25.
- 13) 辰口篤志，坂本長逸：全身疾患に伴う便通異常. *medicina* 2012；49（2）：312-314.
- 14) 植原義之，金沢秀典，坂本長逸：門脈圧亢進症に対する外科治療とIVR（3）TIPS. *臨床消化器内科* 2012；27（2）：203-209.
- 15) 藤森俊二，坂本長逸：NSAIDs起因性小腸・大腸粘膜傷害. *日本臨床* 2012；70（増刊号1）：614-618.
- 16) 小野澤志郎<sup>1)</sup>，田島廣之<sup>2)</sup>，嶺 貴彦<sup>1)</sup>，村田 智<sup>1)</sup>，杉原 仁，内田高浩<sup>3)</sup>（<sup>1</sup> 日本医科大学付属病院放射線科，<sup>2</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター，<sup>3</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院循環器内科）：Current Topics：副腎静脈サンプリング 2手技の実際. *臨床画像* 2011；27（6）：758-63.
- 17) 藤森俊二：カプセル内視鏡 現代テクノロジーの結晶. *日本医事新報* 2011；（4555）：73-76.
- 18) 藤森俊二：カプセル内視鏡 検査方法と画像解析. *日本医事新報* 2011；（4559）：73-76.

- 19) 藤森俊二：カプセル内視鏡 原因不明消化管出血の診断と治療. 日本医事新報 2011；(4563)：69-72.
- 20) 藤森俊二：カプセル内視鏡 明らかになった非ステロイド性抗炎症薬起因性小腸粘膜傷害. 日本医事新報 2011；(4568)：69-72.
- 21) 藤森俊二：カプセル内視鏡 [ 完 ] カプセル内視鏡の将来. 日本医事新報 2011；(4572)：69-72.
- 22) 三井啓吾, 小林 剛, 藤森俊二, 田中 周, 小杉友紀, 鈴木将大, 馬來康太郎, 遠坂由紀子, 春日裕介, 玉木祐希江, 高橋陽子, 江原彰仁, 瀬尾継彦, 米澤真興, 坂本長逸, その他1名：特集：内視鏡が変えた, Crohn病診療 鑑別診断：NSAID腸炎. 消化器内視鏡 2012；24(2)：217-222.
- 23) Ishibashi M<sup>1)</sup>, Tamura H<sup>1)</sup>, Ogata K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical ) : Disease progression mechanism in myelodysplastic syndromes : insight into the role of the micro-environment. Leuk Res 2011；35(11)：1449-1552.
- 24) Kondo A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical ) : T-cell Immune Abnormality and Novel Immunotherapeutic Approach by Blocking the B7-H1-PD-1 Pathway Combined with WT1 Tumor Vaccine in Myelodysplastic Syndromes. J Nippon Med Sch 2012；79(1)：93-94.
- 25) 近藤麻加<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学血液内科 ) : 骨髄異形成症候群における芽球上 B7-H1 発現と T 細胞免疫に及ぼす影響：B7-H1 経路遮断と制御性 T 細胞抑制を用いた免疫治療の開発. 日医大医学会誌 2011；7(4)：198-198.
- 26) 岩切勝彦, 川見典之, 佐野弘仁, 田中由理子, 梅澤まり子, 飯泉 匡, 星原芳雄<sup>1)</sup>, 坂本長逸 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学消化器内科, 経済産業省診療所 ) : Achalasia 診断の新知見. 消化器内視鏡 2011；23(12)：2159-2165.
- 27) 星原芳雄<sup>1)</sup>, 飯泉 匡, 岩切勝彦, 坂本長逸 ( <sup>1)</sup> 経済産業省診療所 ) : 咽喉頭・食道における表在型扁平上皮癌診断の新時代 表在型食道扁平上皮癌の診断 通常観察による拾い上げ診断. Modern Physician 2011；31(増刊号)：12-14.
- 28) 野村 務<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 赤城一郎<sup>1)</sup>, 塩田吉宣<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 岩切勝彦, 内田英二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 大学院医学研究科臓器病態制御外科学 ) : 臨床医のために 巨大食道裂孔ヘルニアに対する腹腔鏡下手術. 日本医科大学医学会雑誌 2011；7(3)：119-123.
- 29) 三宅一昌, 坂本長逸：消化管障害：NSAID やビスフォスフォネート製剤との関連. Bone Joint Nerve 2011；1(1)：50-55.
- 30) 及川真一：肥満症とその合併症 肥満症と脂質異常症. 日本内科学会雑誌 2011；100(4)：98-104.
- 31) 及川真一：糖尿病に合併した脂質異常症. 動脈硬化予防 2011；10(1)：76-84.
- 32) 及川真一：動脈硬化の責任リポ蛋白. 月刊レジデント 2011；2011(8)：22-26.
- 33) 長尾元嗣, 及川真一：CGM のパターンから学ぶ適切な薬物療法 インスリン抗体陽性糖尿病の血糖パターンを教えてください. 糖尿病レクチャー 2011；2(3)：573-576.
- 34) 浅井 明, 及川真一：動脈硬化性疾患におけるリン脂質フォスファチジルコリンの酸化変性. オレオサイエンス 2011；11(11)：419-424.
- 35) 中島 泰, 佐藤和美, 及川真一：脂肪摂取制限の方策と指導. 成人病と生活習慣病 2011；41(11)：1315-1322.
- 36) 及川真一：糖代謝異常合併脂質異常症例の治療に及ぼす JELIS 結果の意義について. 循環 plus 2012；12(4)：10-12.
- 37) 山口博樹<sup>1)</sup>, 猪口孝一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学血液内科 ) : MDS に対する新規治療薬開発の現状. 血液内科 2011；63(2)：195-201.
- 38) 猪口孝一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学血液内科 ) : MPN と血栓症メカニズム. 最新医学 2011；66(11)：68-74.
- 39) Yamaguchi H<sup>1)</sup>, Hirakawa T<sup>1)</sup>, Inokuchi K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School ) : Importance of relative dose intensity in chemotherapy for diffuse large B-cell lymphoma. J Clin Exp Hematop. 2011；51(1)：1-5.

### (3) 症例報告：

- 1) 福田 健, 檜原義之, 金沢秀典, 糸川典夫, 近藤千紗, 張本滉智, 松下洋子, 城所秀子, 小林玲樹, 厚川正則, 中塚雄久, 坂本長逸：TIPSを行った肝内びまん性動脈門脈短絡を合併したアルコール性肝硬変の2症例. 肝臓 2011；52 (10)：662-670.
- 2) 武市奈緒美, 杉原 仁, 若栗稔子, 石崎 晃, 中島 泰, 田村秀樹, 熊谷智昭<sup>1)</sup>, 坪 宏一<sup>2)</sup>, 田中啓治<sup>2)</sup>, 及川眞一 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学内科学 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門), <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院集中治療室)：症例から学ぶ：甲状腺クリーゼの治療中に, 甲状腺中毒性ミオパチーと思われる筋力低下が顕在化した1例. 日医大医会誌 2012；8 (1)：38-43.
- 3) Ishii Y<sup>1)</sup>, Harada K<sup>1)</sup>, Kuroda Y<sup>1)</sup>, Nagai H<sup>1)</sup>, Nakajima M<sup>2)</sup>, Saito N<sup>3)</sup>, Ogata K<sup>1)</sup>, Yoshida K ( <sup>1)</sup> 東京大学法医学教室, <sup>2)</sup> 東京大学脳神経外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学血液内科)：Bilateral thalamic hemorrhage and intracranial injuries related to alcohol-induced thrombocytopenia. J Clin Pathol 2011；64 (11)：1034-1035.
- 4) 浜田泰子<sup>1)</sup>, 中山一隆<sup>1)</sup>, 兵働英也<sup>1)</sup>, 山口博樹<sup>1)</sup>, 中村恭子<sup>1)</sup>, 檀 和夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学血液内科)：呼吸不全で発症したCastleman病の1例. 老年者造血器疾患研究会誌 2011；20 (1)：12-14.
- 5) 奥山奈美子<sup>1)</sup>, 近藤麻加<sup>1)</sup>, 兵働英也<sup>1)</sup>, 中村恭子<sup>1)</sup>, 檀 和夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学血液内科)：多発骨病変を主病変として発症した慢性間接リウマチ合併悪性リンパ腫の1例. 老年者造血器疾患研究会誌 2011；20：49-52.

### 著 書

- 1) 三宅一昌, 坂本長逸：〔分担〕NSAIDs投与による消化性潰瘍とその合併症. 整形外科 治療と手術の合併症 (編集：富士武史), 2011；pp67-72, 金原出版株式会社.
- 2) 田中 周, 遠坂由紀子, 坂本長逸：〔分担〕アレルギー性紫斑病. 画像と流れで理解できる Visual小腸疾患診療マニュアル 診療のポイントとコツ (監修：山本博徳 編集：山本博徳, 砂田圭二郎, 矢野智則), 2011；pp144-153, 株式会社 メジカルビュー社.
- 3) 新福摩弓, 二神生爾, 坂本長逸：〔分担〕FDの原因：粘膜② 酸分泌は症状の原因になりますか？なるとしたら酸分泌亢進のためですか, それとも酸分泌低下のためですか？. FDの診療Q&A (本郷道夫), 2011；pp25-32, 日本医事新報社.
- 4) 田村秀人<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学血液内科)：〔自著〕原発性マクログロブリン血症. 内科, 2011；pp291-295.
- 5) 緒方清行<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学血液内科)：〔分担〕MDSのフローサイトメトリー. 骨髓異形成症候群診療 up-to-data (松田晃), 2011；pp49-56, 中外医学社.
- 6) 田野崎榮<sup>1)</sup>, 檀 和夫<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 同愛記念病院 血液内科, <sup>2)</sup> 日本医科大学 血液内科)：〔分担〕リンパ節腫脹. 鑑別診断ロジカルシンキング (後藤英司), 2011；pp280-283, メジカルビュー社.
- 7) 檀 和夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学血液内科)：〔分担〕本態性血小板血症. 専門医のための薬物療法 Q & A (小松則夫, 片山直之, 富山佳昭), 2011；pp110-115, 中外医学社.
- 8) 檀 和夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学血液内科)：〔分担〕血小板増加症・減少症の鑑別. 血液専門医テキスト (日本血液学会), 2011；pp38-39, 南江堂.
- 9) 檀 和夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学血液内科)：〔分担〕本態性血小板血症. 血液専門医テキスト (日本血液学会), 2011；pp225-228, 南江堂.
- 10) 水木太郎<sup>1)</sup>, 檀 和夫<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 同愛記念病院 血液内科, <sup>2)</sup> 日本医科大学 血液内科)：〔分担〕貧血. 緊急度・重症度からみた症状別看護過程+病態関連図 (井上智子, 佐藤千史), 2011；pp256-263, 医学書院.
- 11) 檀 和夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学血液内科)：〔分担〕治療方針と患者管理. 新しい診断と治療のABC 再生不良性貧血, 2011；pp101-107, 最新医学社.
- 12) 中村恭子<sup>1)</sup>, 檀 和夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学血液内科)：〔分担〕Pure erythroid leukemiaの1例. 標本に学ぶ血液疾患症例 (溝口秀昭), 2012；pp97-101, 医薬ジャーナル社.

- 13) 岩切勝彦：〔分担〕GERD, NERDの病態：胃酸はどのような機序で食道内に逆流するのですか？. GERD+NERD診療（草野 元康），2011；pp19-24, 日本医事新報社.
- 14) 山口博樹<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学血液内科）：〔分担〕病理・病態生理：病因と病型分類. 新しい診断と治療のABC 再生不良性貧血，2011；pp39-43, 最新医学社.
- 15) 山口博樹<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学血液内科）：〔共著〕血液・造血器疾患のマネージメント. 血液・造血器疾患のマネージメント（山川光徳, 猪口孝一, 室井一男），2011；医薬ジャーナル社.

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) 岩切勝彦：重症GERDの病態と治療. 田園調布医師会学術講演会（東京），2011. 4.
- 2) 岩切勝彦：重症GERDの病態と治療. 調布市医師会学術講演会（東京），2011. 6.
- 3) 岩切勝彦：PPI抵抗性NERDの病態. Digestive Disease Osaka Meeting（第8回）（大阪），2011. 8.
- 4) 岩切勝彦：重症GERDの病態と治療. 阿讃消化器疾患研究会（第28回）（徳島），2011. 8.
- 5) 岩切勝彦：重症GERDの病態と治療. 函館市医師会学術講演会（函館），2011. 9.
- 6) 岩切勝彦：GERDの病態とガイドラインを含めた治療. 横須賀地区消化器疾患カンファレンス（第20回）（横須賀），2011. 9.
- 7) 岩切勝彦：重症GERDの病態と治療. 京都胃腸勉強会（第101回）（京都），2012. 1.
- 8) 岩切勝彦：重症GERDの病態と治療. 上十三医師会学術講演会（十和田市），2012. 3.

### (2) 招待講演：

- 1) 岩切勝彦：GERDの病態と治療. けやきGIカンファレンス（第15回）（大宮），2012. 3.
- 2) 緒方清行<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学血液内科）：MDS：病態とFlow Cytometryの診断価値. 第100回日本病理学会総会（横浜），2011. 4.
- 3) 緒方清行<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学血液内科）：MDSの病態と診断. 第13回新潟血液研究会（新潟），2011. 5.
- 4) 緒方清行<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学血液内科）：骨髄異形成症候群（MDS）の病態と診断. 第24回博多シンポジウム（博多），2011. 10.
- 5) 近藤麻加<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学血液内科）：骨髄異形成症候群における芽球上B7-H1発現とT細胞免疫に及ぼす影響および免疫治療の検討. 第79回日本医科大学医学会総会（東京），2011. 9.
- 6) 山口博樹<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学血液内科）：加齢とテロメア制御異常による造血障害. 第95回 新都心血液研究会, 第30回 東京脈管研究会（東京），2011. 11.
- 7) Tamai H<sup>1,2)</sup>, Miyake K<sup>1)</sup>, Yamaguchi H<sup>2)</sup>, Inokuchi K<sup>2)</sup>, Shimada T<sup>1)</sup>, Dan K<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>Department of Biochemistry and Molecular Biology, Division of Gene Therapy Research Center for Advanced Medical Technology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup>Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School）：A single injection of AAV-8 vector expressing IL-24 efficiently suppresses tumor growth mediated by multiple anti-tumor mechanisms in MLL/AF4 positive ALL model mice. 16th Congress of European Hematology Association（London, United Kingdom），2011. 6.

### (3) 教育講演：

- 1) 坂本長逸：NSAID起因性消化管傷害の現状と対策. 平成23年度日本内科学会生涯教育講演会Aセッション（第2回）（山形市），2011. 9.
- 2) 坂本長逸：「消化器画像診断の進歩」小腸. 日本消化器病学会大会（第53回）（福岡），2011. 10.
- 3) 坂本長逸：消化管粘膜傷害とシクロオキシゲナーゼ（COX）-2の役割. 日本臨床生理学会総会（第48回）（東京），2011. 11.

(4) シンポジウム：

- 1) 三井啓吾, 田中 周, 坂本長逸：原因不明の消化管出血において、カプセル内視鏡の後、早期にダブルバルーン内視鏡を施行することの有用性（新規診断技術の有効性評価：得られたエビデンスと今後の展望 4）小腸内視鏡。日本消化器内視鏡学会総会（第81回）（名古屋），2011. 8.
- 2) 二神生爾, 新福摩弓, 小高康裕, 名兄耶浩幸, 進藤智隆, 河越哲郎, 堀江 茜, 楠 正典, 三宅一昌, 岩切勝彦, 坂本長逸：感染後FD患者における十二指腸粘膜局所の炎症細胞浸潤と胃排出能の解析。胃病態機能研究会（第43回）（大阪），2011. 7.
- 3) 三宅一昌, 楠 正典, 坂本長逸：長期低用量アスピリン服用者における出血性消化性潰瘍の検討。日本消化器病学会大会（第53回）（福岡市），2011. 10.
- 4) 岩切勝彦, 川見典之, 坂本長逸：PPI抵抗性NERDの原因。日本消化器病学会大会（第53回）（福岡市），2011. 10.
- 5) 藤森俊二, 高橋陽子, 坂本長逸：カプセル内視鏡による小腸浮腫所見から肝静脈圧較差を推定する試み。日本消化器病学会大会（第53回）（福岡市），2011. 10.
- 6) 三井啓吾, 田中 周<sup>1)</sup>, 小林 剛, 小林友紀, 鈴木将大, 馬來康太郎<sup>2)</sup>, 遠坂由紀子<sup>1)</sup>, 春日裕介<sup>2)</sup>, 玉木祐希江, 高橋陽子<sup>2)</sup>, 江原彰仁<sup>3)</sup>, 米澤真興, 辰口篤志, 藤森俊二, 坂本長逸（<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院内科, <sup>2)</sup>日本医科大学多摩永山病院消化器科, <sup>3)</sup>社会福祉法人同愛記念病院内科）：ダブルバルーン内視鏡による小腸GIST診断。日本消化管学会総会学術集会（第8回）（宮城県仙台市），2012. 2.
- 7) 植原義之, 金沢秀典, 坂本長逸：1型肝腎症候群の病態と治療成績。日本門脈圧亢進症学会（第18回）（福岡），2011. 9.
- 8) 岩切勝彦, 川見典之, 佐野弘仁, 田中由理子, 梅澤まり子, 琴寄 誠, 星原芳雄<sup>1)</sup>, 坂本長逸（<sup>1)</sup>日本医科大学消化器内科, 経済産業省診療所）：High-resolution manometry（HRM）によるLES弛緩・食道裂孔ヘルニアの評価。日本食道学会学術集会（第65回）（仙台），2011. 9.
- 9) 藤城光弘<sup>1)</sup>, 岩切龍一<sup>2)</sup>, 坂本長逸（<sup>1)</sup>東京大学附属病院・光学医療診療部, <sup>2)</sup>佐賀大学・内科）：抗血栓薬服用者に対する消化器内視鏡診療ガイドライン：出血高危険度手技を中心に。日本消化器病学会大会（第53回）（福岡），2011. 10.
- 10) 三宅一昌, 植木信江, 楠 正典, 藤森俊二, 坂本長逸：長期低用量アスピリン服用者における出血性消化管病変の検討。日本潰瘍学会（第39回）（つくば市），2011. 11.
- 11) Asai A, Nakagawa K<sup>1)</sup>, Nagashima K<sup>2)</sup>, Miyazawa T<sup>1)</sup>, Shinichi O（<sup>1)</sup> Food and Biodynamic Chemistry Laboratory, Graduate School of Agricultural Science, Tohoku University, <sup>2)</sup> The Cardiovascular Institute）：Biochemistry and measurement of phosphatidylcholine hydroperoxide（PCOOH）：implications for atherosclerosis. 日本動脈硬化学会総会学術集会（第43回）（札幌），2011. 7.
- 12) Nakajima Y, Makiyo T, Takemitsu S, Sato Y, Nagao M, Tanimura K, Okajima F, Sugihara H, Oikawa S：Practice of diet therapy for metabolic syndrome. 日本動脈硬化学会総会学術集会（第43回）（札幌），2011. 7.

(5) パネルディスカッション：

- 1) 二神生爾, 新福摩弓, 坂本長逸：感染後FD患者における十二指腸粘膜局所の炎症細胞浸潤と胃排出能の解析（機能的消化管障害へのアプローチ）。日本消化器病学会総会（第97回）（東京），2011. 5.
- 2) 三宅一昌, 楠 正典, 名兄耶浩幸, 小高康裕, 進藤智隆, 植木信江, 河越哲郎, 二神生爾, 津久井拓, 坂本長逸：高齢が長期NSAID服用に関連する消化性潰瘍のリスクに与える影響。日本高齢消化器病学会（第14回）（東京），2011. 7.
- 3) 三井啓吾, 田中 周, 小林 剛, 小杉友紀, 鈴木将大, 馬來康太郎, 遠坂由紀子, 春日祐介, 玉木祐希江, 高橋陽子, 江原彰仁, 米澤真興, 辰口篤志, 藤森俊二, 坂本長逸：ダブルバルーン内視鏡による小腸腫瘍診療の現

況. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第 93 回) (東京), 2011. 12.

- 4) 三井啓吾, 豊田将大, 小杉友紀, 馬來康太郎, 遠坂由紀子, 春日祐介, 玉木祐希江, 高橋陽子, 江原彰仁, 小林剛, 米澤真興, 田中 周, 辰口篤志, 藤森俊二, 坂本長逸: 貧血を契機に発見された原因不明の回腸潰瘍の 1 例. 小腸研究会 (第 49 回) (東京), 2011. 11.
- 5) 岩切勝彦, 川見典之, 佐野弘仁, 田中由理子, 梅澤まり子, 琴寄 誠, 坂本長逸: High-resolution manometry (HRM) による LES 弛緩不全の評価. 日本平滑筋学会総会 (第 53 回) (東京), 2011. 8.

(6) セミナー:

- 1) 岩切勝彦: GERD 診療ガイドラインから読みとる PPI 用法・用量戦略. 日本消化器病学会大会 (第 53 回) (福岡市), 2011. 10.
- 2) 岩切勝彦: 重症 GERD の病態と治療. 潰瘍病態研究会 フォーラム (第 20 回) (東京), 2011. 8.
- 3) 岩切勝彦: PPI 治療を再考する. 日本消化管学会総会学術集会 (第 8 回) (仙台), 2012. 2.

(7) ポスターセッション:

- 1) Mitsui K, Fujimori S, Ehara A, Maki K, Toyoda M, Kosugi Y, Ensaka Y, Kasuga Y, Tamaki Y, Takahashi Y, Kobayashi T, Yonezawa M, Tanaka S, Tatsuguchi A, Sakamoto C: The Characteristics of Patients Who Diagnose by Double Balloon Endoscopy But Missed by Prior Capsule Endoscopy in Obscure Gastrointestinal Bleeding. United European Gastroenterology Week (19th) (Stockholm, Sweden), 2011. 10.

(8) ワークショップ:

- 1) 福田 健, 金沢秀典, 榎原義之: 難治性腹水の全身血行動態の特徴と TIPS による変化 (門脈圧亢進症の血行動態と治療の進歩). 日本消化器病学会総会 (第 97 回) (東京), 2011. 5.
- 2) 城所秀子, 榎原義之, 坂本長逸: 難治性肝性胸水に対する TIPS の治療経験 (非代償性肝硬変の合併症とその対策). 日本消化器病学会総会 (第 97 回) (東京), 2011. 5.
- 3) 藤森俊二, 高橋陽子, 坂本長逸: 当院におけるアスピリン起因性小腸潰瘍症の治療経過 (抗血小板療法による消化管傷害). 日本消化器病学会総会 (第 97 回) (東京), 2011. 5.
- 4) 榎原義之, 金沢秀典, 坂本長逸: 当科における 1 型肝腎症候群の実態と治療成績 (非代償性肝硬変の合併症とその対策). 日本消化器病学会総会 (第 97 回) (東京), 2011. 5.
- 5) 福田 健, 榎原義之, 糸川典夫, 近藤千紗, 張本滉智, 松下洋子, 城所秀子, 厚川正典, 中塚雄久, 金沢秀典, 坂本長逸: 内視鏡治療抵抗性食道静脈瘤に対する vasopressin 併用硬化療法 of 2 例. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第 93 回) (東京), 2011. 12.
- 6) 田中由理子, 岩切勝彦, 川見典之, 佐野弘仁, 梅澤まり子, 星原芳雄<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>(1)</sup> 経済産業省診療所): アカシアの新分類からみたバルーン拡張術の成績. 日本消化管学会総会学術集会 (第 8 回) (宮城県仙台市), 2012. 2.
- 7) 岩切勝彦: High Resolution Manometry (HRM) の実際. 日本消化管学会総会学術集会 (第 8 回) (宮城県仙台市), 2012. 2.
- 8) 二神生爾, 新福摩弓, 坂本長逸: 機能性ディスペプシア患者における空腹感スコアと ghrelin, preproghrelin の遺伝子多型との相関関係の検討. 日本消化管学会総会学術集会 (第 8 回) (宮城県仙台市), 2012. 2.
- 9) 川見典之, 岩切勝彦, 佐野弘仁, 田中由理子, 梅澤まり子, 星原芳雄<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>(1)</sup> 経済産業省診療所): 一過性 LES 弛緩終了後に出現する蠕動派, LES は強収縮を有する. 日本消化管学会総会学術集会 (第 8 回) (宮城県仙台市), 2012. 2.
- 10) 松下洋子, 榎原義之, 金沢秀典, 藤森俊二, 糸川典夫, 近藤千紗, 福田 健, 城所秀子, 小林玲樹, 厚川正則, 中塚雄久, 坂本長逸: 門脈圧亢進症における小腸粘膜病変と門脈圧との関係. 日本門脈圧亢進症学会 (第 18 回) (福岡), 2011. 9.
- 11) 川見典之, 岩切勝彦, 田中由理子, 佐野弘仁, 梅澤まり子, 琴寄 誠, 星原芳雄<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>(1)</sup> 日本医科大学

消化器内科, 経済産業省診療所) : 当科におけるアカラシアバルーン拡張術有効例の検討. 日本食道学会学術集会 (第 65 回) (仙台), 2011. 9.

- 12) Ogata K<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical) : Diagnostic flow scoring system. Fourth international ELN Workshop on Standardization of Flow Cytometry in MDS.(Pavia, Italy), 2011. 11.

(9) ポスター :

- 1) 野村 務<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>2)</sup>, 丸山 弘<sup>2)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 岩切勝彦, 内田英二<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学大学院・臓器病態制御外科学, <sup>2)</sup> 日本医科大学多摩永山病院・外科) : 食道癌術後逆流性食道炎に影響を及ぼす因子についての検討. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 82 回) (福岡), 2011. 10.
- 2) 飯泉 匡, 星原芳雄<sup>1)</sup>, 岩切勝彦, 坂本長逸 (<sup>1)</sup> 日本医科大学消化器内科, 経済産業省診療所) : 下部食道柵状血管の白色混濁の程度と頻度の検討. 日本消化管学会総会学術集会 (第 8 回) (仙台), 2012. 2.

(10) 一般講演 :

- 1) Iwakiri K, Hoshihara Y, Kawami N, Sano H, Umezawa M, Futagami S, Sakamoto C : The relationship between the distal margin of the esophageal palisade vessels and the distal margin of the lower esophageal sphincter. Digestive Disease Week 2011 (Chicago, USA), 2011. 5.
- 2) Futagami S, Shimpuku M, Kawagoe T, Kusunoki M, Ueki N, Miyake K, Iwakiri K, Sakamoto C : Nizatidine administration improves clinical symptoms and gastric emptying of the patients with functional dyspepsia accompanying with impaired gastric emptying. Digestive Disease Week 2011 (Chicago, UA), 2011. 5.
- 3) Miyake K, Kusunoki M, Ueki N, Shindo T, Kawagoe T, Gudis K, Futagami S, Tsukui T, Sakamoto C : Impact of anithrombotic agents on potential bleeding from endoscopically-determined peptic ulcers in rheumatoid arthritis patients (RA) treated with long-term nonsteroidal anti-inflammatory drug (NSAIDs) therapy. Digestive Disease Week 2011 (Chicago, USA), 2011. 5.
- 4) Tatsuguchi A, Mitsui K, Yonezawa M, Gudis K, Takahashi Y, Ehara A, Tanaka S, Fujimori S, Sakamoto C : Clinical significance of heregulin and phosphorylated ERBB receptor family expression in colorectal cancer. Digestive Disease Week 2011 (Chicago, USA), 2011. 5.
- 5) Futagami S, Shimpuku M, Kawagoe T, Kusunoki M, Gudis K, Miyake K, Iwakiri K, Crowe S, Sakamoto C : Migration of eosinophils and CCR-2/Cd68-double positive cells into the duodenal mucosa of patients with post-infectious functional dyspepsia. Digestive Disease Week 2011 (Chicago, USA), 2011. 5.
- 6) Kawami N, Iwakiri K, Hoshihara Y, Sano H, Tanaka Y, Umezawa M, Futagami S, Sakamoto C : Characteristic endoscopic findings of achalasia without esophageal dilatation. Digestive Disease Week 2011 (Chicago, USA), 2011. 5.
- 7) Sakamoto C, Kawai T, Nakamura S, Tabira J : Incidence of gastroduodenal ulcers in healthy subjects on celecoxib or loxoprofen : A randomized, placebo-controlled, double-blind 2-week trial in Japan. Digestive Disease Week 2011 (Chicago, USA), 2011. 5.
- 8) Kawami N, Iwakiri K, Sano H, Tanaka Y, Umezawa M, Futagami S, Hoshihara Y, Sakamoto C : The effects of gas reflux on the perception of proximal reflux in patients with non-erosive reflux disease (NERD) who have a positive symptom index while on proton pump inhibitor therapy. Digestive Disease Week 2011 (Chicago,USA), 2011. 5.
- 9) Fujimori S, Toyoda M, Ensaka Y, Maki K, Kasuga Y, Takahashi Y, Yamada Y, Ehara A, Mitsui K, Yonezawa M, Tanaka S, Tatsuguchi A, Gudis K, Sakamoto C : Clinical course of patients with aspirin

- induced small intestinal ulcers detected by capsule endoscopy. Digestive Disease Week 2011(Chicago,USA), 2011. 5.
- 10) Kodaka Y, Futagami S, Nagoya H, Shimpuku M, Kawagoe T, Shindo T, Kusunoki M, Gudis K, Miyake K, Sakamoto C : Celecoxib inhibits CD133-positive cell migration via reduction of CCR2 in *Helicobacter pylori*-infected mongolian gerbils. Digestive Disease Week 2011 (Chicago, USA), 2011. 5.
  - 11) 江原彰仁, 三井啓吾, 田中 周, 豊田将大, 馬來康太郎, 遠坂由紀子, 春日祐介, 玉木祐希江, 高橋陽子, 小林剛, 瀬尾継彦, 米澤正興, 辰口篤志, 藤森俊二, 坂本長逸 : ダブルバルーン内視鏡で病変範囲をマーキング後, カプセル内視鏡で経過観察している回腸リンパ管腫の1例. 日本消化器内視鏡学会総会 (第81回) (名古屋), 2011. 8.
  - 12) 馬來康太郎, 藤森俊二, 遠坂由紀子, 高橋陽子, 豊田将大, 春日裕介, 山田祐希江, 江原彰仁, 小林 剛, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 田中 周, 辰口篤志, 坂本長逸 : 位置確認しない場合の適切なカプセル内視鏡の検査時間. 日本消化器内視鏡学会総会 (第81回) (名古屋), 2011. 8.
  - 13) 中川 愛, 岩切勝彦, 川見典之, 梅澤まり子, 佐野弘仁, 田中由理子, 琴寄 誠, 坂本長逸, 星原芳雄<sup>1)</sup> (1) 経済産業省診療所) : Functional Esophagogastric Junction (EGJ) Obstruction with Intact Peristalsis の1例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第315回) (東京), 2011. 7.
  - 14) 佐藤 航, 小杉友紀, 豊田将大, 馬來康太郎, 遠坂由紀子, 春日裕介, 玉木祐希江, 高橋陽子, 江原彰仁, 小林剛, 瀬尾継彦, 玉井啓吾, 米澤真興, 田中 周, 坂本長逸, その他2名 : 虫垂に潰瘍性病変をきたした原発不明の腺癌の1例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第316回) (東京), 2011. 9.
  - 15) 辰口篤志, 三井啓吾, 進士誠一, 米澤真興, 瀬尾継彦, 小林 剛, 江原彰仁, 高橋陽子, 田中 周, 藤森俊二, 坂本長逸 : 大腸癌における Heregulin とその受容体 ErbB3 の発現と臨床病理学的意義. 日本消化器病学会大会 (第53回) (福岡市), 2011. 10.
  - 16) 川見典之, 岩切勝彦, 梅澤まり子, 佐野弘仁, 田中由理子, 琴寄 誠, 星原芳雄<sup>1)</sup>, 坂本長逸 (1) 経済産業省診療所) : 当科におけるアカラシアバルーン拡張術の最新の治療成績と有効例の特徴. 日本消化器内視鏡学会総会 (第82回) (福岡市), 2011. 10.
  - 17) 楠 正典, 三宅一昌, 小高康裕, 新福摩弓, 名児耶浩幸, 進藤智隆, 植木信江, 河越哲郎, 二神生爾, 津久井拓, 坂本長逸 : 長時間鎮静が必要な ESD 患者における深部静脈血栓症のリスクと予測因子の検討. 日本消化器内視鏡学会総会 (第82回) (福岡市), 2011. 10.
  - 18) 川見典之, 岩切勝彦, 佐野弘仁, 田中由理子, 梅沢まり子, 星原芳雄<sup>1)</sup>, 坂本長逸 (1) 経済産業省診療所) : 加齢の食道運動機能に及ぼす影響. 日本臨床生理学会総会 (第48回) (東京), 2011. 11.
  - 19) 大石典子, 泉 日輝, 新福摩弓, 二神生爾, 小高康裕, 名児耶浩幸, 川見典之, 楠 正典, 河越哲郎, 三宅一昌, 岩切勝彦, 坂本長逸 : FD 患者における胃排出能と胃食道逆流症状および睡眠障害の検討. 日本臨床生理学会総会 (第48回) (東京), 2011. 11.
  - 20) 川見典之, 岩切勝彦, 佐野弘仁, 田中由理子, 梅沢まり子, 星原芳雄<sup>1)</sup>, 坂本長逸 (1) 経済産業省診療所) : PPI 抵抗性 NERD の原因. 日本臨床生理学会総会 (第48回) (東京), 2011. 11.
  - 21) 泉 日輝, 二神生爾, 新福摩弓, 小高康裕, 堀江 茜, 河越哲郎, 進藤智隆, 名児耶浩幸, 植木信江, 楠 正典, 川見典之, 三宅一昌, 岩切勝彦, 伊藤高司, 坂本長逸 : FD 患者の随伴症状としての胃食道逆流症状, 睡眠障害と胃排出能との相関関係の解析. 日本消化器病学会大会 (第53回) (福岡), 2011. 10.
  - 22) 新福摩弓, 二神生爾, 泉 日輝, 田島なつき<sup>1)</sup>, 北村忠弘<sup>2)</sup>, 坂本長逸 (1) 伊利医院, 2) 群馬大学 生体調節研究所) : 機能性ディスペプシアの疫学調査. 日本神経消化器病学会 (第13回) (宇都宮市), 2011. 11.
  - 23) 坂本 壮<sup>1)</sup>, 藤森俊二, 坂本文夫<sup>2)</sup> (1) 順天堂大学医学部附属練馬病院 救急・集中治療科, 2) 坂本医院) : PPI/AM 療法と PPI/AC 療法の1次, 2次除菌率の比較検討. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第93回) (東京), 2011. 12.

- 24) 佐野弘仁, 岩切勝彦, 川見典之, 梅澤まり子, 田中由理子, 飯泉 匡, 星原芳雄<sup>1)</sup>, 坂本長逸 ( <sup>1)</sup> 経済産業省診療所) : PPI 抵抗性 NERD の原因. 日本消化管学会総会学術集会 (第 8 回) (宮城県仙台市), 2012. 2.
- 25) 名見耶浩幸, 二神生爾, 河越哲郎, 小高康裕, 新福摩弓, 堀江 茜, 川見典之, 岩切勝彦, 飯泉 匡, 星原芳雄<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>2)</sup>, 宮下正夫<sup>2)</sup>, 土屋真一<sup>3)</sup>, 坂本長逸 ( <sup>1)</sup> 経済産業省診療所, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院消化器外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院病理部) : 食道癌組織における Apurinic/aprimidinic endonuclease-1 (APE-1) 発現意義の解析. 日本消化管学会総会学術集会 (第 8 回) (宮城県仙台市), 2012. 2.
- 26) 辰口篤志<sup>1)</sup>, 三井啓吾, 進士誠一<sup>2)</sup>, 米澤真興, 瀬尾継彦, 小林 剛, 江原彰仁, 高橋陽子, 田中 周, 藤森俊二, 坂本長逸 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学消化器内科, 日本医科大学解析人体病理, <sup>2)</sup> 日本医科大学臓器病態制御外科) : 大腸癌における Heregulin とその受容体 ErbB3 および ErbB2 の発現と臨床病理的意義. 日本消化管学会総会学術集会 (第 8 回) (宮城県仙台市), 2012. 2.
- 27) 高橋陽子, 藤森俊二, 鈴木将大, 馬來康太郎, 小杉友紀, 遠坂由紀子, 春日裕介, 玉木祐希江, 瀬尾継彦, 江原彰仁, 小林 剛, 三井啓吾, 米澤真興, 田中 周, 坂本長逸, その他 3 名 : カプセル内視鏡による小腸浮腫所見と肝静脈圧較差の関係の解明. 日本消化管学会総会学術集会 (第 8 回) (宮城県仙台市), 2012. 2.
- 28) 佐藤 航, 小高康裕, 名見耶浩幸, 新福摩弓, 進藤智隆, 植木信江, 楠 正典, 河越哲郎, 二神生爾, 三宅一昌, 坂本長逸 : 胃十二指腸潰瘍における血中水溶性ビタミン濃度の探索的検討. 日本消化管学会総会学術集会 (第 8 回) (宮城県仙台市), 2012. 2.
- 29) 河越哲郎, 川見典之, 小杉友紀, 名見耶浩幸, 梅澤まり子, 小林 剛, 植木信江, 楠 正典, 二神生爾, 三宅一昌, 岩切勝彦, 坂本長逸 : 当科における stageIV B 食道がんの治療成績. 日本消化管学会総会学術集会 (第 8 回) (宮城県仙台市), 2012. 2.
- 30) 川見典之, 岩切勝彦, 梅澤まり子, 佐野弘仁, 田中由理子, 坂本長逸 : 食道運動機能に及ぼす加齢の影響. 日本消化管学会総会学術集会 (第 8 回) (宮城県仙台市), 2012. 2.
- 31) 山脇博士, 二神生爾, 小高康裕, 名見耶浩幸, 新福摩弓, 植木信江, 進藤智隆, 楠 正典, 河越哲郎, 三宅一昌, 坂本長逸 : 胃排出能測定が治療方針の有益な情報をもたらした巨大裂孔ヘルニアの 1 例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第 318 回) (東京都), 2012. 2.
- 32) 橋本知実, 金沢秀典, 榎原義之, 福田 健, 糸川典夫, 近藤千紗, 松下洋子, 城所秀子, 小林玲樹, 厚川正則, 中塚雄久, 坂本長逸 : 肝硬変症におけるレニン活性値に関する検討. 日本門脈圧亢進症学会 (第 18 回) (福岡), 2011. 9.
- 33) 糸川典夫, 金沢秀典, 榎原義之, 福田 健, 近藤千紗, 松下洋子, 城所秀子, 小林玲樹, 中塚雄久, 坂本長逸 : 肝硬変における肝線維化マーカーの動態 門脈圧との関係. 日本門脈圧亢進症学会 (第 18 回) (福岡), 2011. 9.
- 34) 近藤千紗, 厚川正則, 糸川典夫, 松下洋子, 福田 健, 城所秀子, 小林玲樹, 榎原義之, 中塚雄久, 金沢秀典, 坂本長逸 : C 型慢性肝炎に対する Fluvastatin 併用 PEG-IFN, RBV 療法の有益性についての検討. 日本肝臓学会総会 (第 47 回) (東京), 2011. 6.
- 35) 糸川典夫, 厚川正則, 近藤千紗, 松下洋子, 福田 健, 城所秀子, 小林玲樹, 榎原義之, 中塚雄久, 金沢秀典, 坂本長逸 : C 型慢性肝炎に対する IFN  $\beta$ , Ribavirin 併用療法先行後 PEG-IFN, Ribavirin 併用療法の有用性についての検討. 日本肝臓学会総会 (第 47 回) (東京), 2011. 6.
- 36) 糸川典夫, 厚川正則, 近藤千紗, 松下洋子, 福田 健, 城所秀子, 小林玲樹, 榎原義之, 中塚雄久, 金沢秀典, 坂本長逸 : C 型慢性肝炎に対する IFN  $\beta$ , RBV 併用療法先行 PEG-IFN, RBV 併用療法における IL28B 近傍の SNPs の相違による有効性の検討. 日本肝臓学会大会 (第 15 回) (福岡), 2011. 10.
- 37) 近藤千紗, 厚川正則, 糸川典夫, 松下洋子, 福田 健, 城所秀子, 小林玲樹, 榎原義之, 中塚雄久, 金沢秀典, 坂本長逸 : C 型慢性肝炎に対する PEG-IFN, Ribavirin 療法の成績に Fluvastatin 併用が及ぼす影響. 日本肝臓学会大会 (第 15 回) (福岡), 2011. 10.

- 38) Narahara Y, Kanazawa H, Matsushita Y, Fukuda T, Itokawa N, Kondo C, Kidokoro H, Katakura T, Atsukawa M, Nakatsuka K, Fujimori S, Sakamoto C : Capsule endoscopic findings of the small intestine and their relation to portal pressure in patients with cirrhosis and portal hypertension. American Association for the Study of Liver Diseases (62nd) (San Francisco, USA), 2011. 11.
- 39) Kondo C<sup>1</sup>, Atsukawa M<sup>1</sup>, Itokawa N<sup>1</sup>, Hashimoto S<sup>1</sup>, Fukuda T<sup>2</sup>, Matsushita Y<sup>2</sup>, Kidokoro H<sup>2</sup>, Katakura T<sup>2</sup>, Narahara Y<sup>2</sup>, Nakatsuka K<sup>2</sup>, Kanazawa H<sup>2</sup>, Tsubota A<sup>3</sup>, Sakamoto C<sup>1</sup> (1) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Chiba, Japan, 2) Division of Gastroenterology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 3) Institute of Clinical Medicine and Research, Jikei University School of Medicine, Chiba, Japan) : Effect of fluvastatin-combined pegylatedinterferon/ribavirin combination therapy on chronic hepatitis c. American Association for the Study of Liver Diseases (62nd) (San Francisco, USA), 2011. 11.
- 40) Fukuda T, Narahara Y, Kanazawa H, Itokawa N, Kondo C, Harimoto H, Matsushita Y, Kidokoro H, Katakura T, Atsukawa M, Nakatsuka K, Sakamoto C : Characteristics of the systemic hemodynamics of patients with cirrhosis and refractory ascites. American Association for the Study of Liver Diseases (62nd) (San Francisco, USA), 2011. 11.
- 41) 糸川典夫, 厚川正則, 西野隆義, 近藤千紗, 松下洋子, 福田 健, 神戸秀子, 小林玲樹, 植原義之, 中塚雄久, 大秋美治, 坂本長逸 : 多彩な経過を辿った IgG4 関連硬化性疾患の 3 例. 日本臓器学会大会 (第 42 回) (青森), 2011. 7.
- 42) 石崎 晃, 杉原 仁, 武市奈緒美, 高谷磨紀代, 佐藤友紀, 竹光秀司, 首藤真理子, 長尾元嗣, 加納稔子, 原田太郎, 中島 泰, 谷村恭子, 岡島史宜, 田村秀樹, 及川眞一 : 当院での原発性アルドステロン症の片側病変と両側病変とにおける検討. 日本内分泌学会学術総会 (第 84 回) (神戸), 2011. 4.
- 43) 武市奈緒美, 杉原 仁, 加納稔子, 石崎 晃, 竹光秀司, 佐藤友紀, 長尾元嗣, 首藤真理子, 原田太郎, 中島泰, 岡島史宜, 田村秀樹, 芝崎 保<sup>1</sup>, 及川眞一 (1) 日本医科大学生理学講座 (生態統御学) : GHRP 試験とインスリン低血糖試験によるコルチゾールの反応性についての比較検討. 日本内分泌学会学術総会 (第 84 回) (神戸), 2011. 4.
- 44) 杉原 仁, 加納稔子, 武市奈緒美, 石崎 晃, 竹光秀司, 佐藤友紀, 長尾元嗣, 首藤真理子, 原田太郎, 中島泰, 岡島史宜, 田村秀樹, 芝崎 保<sup>1</sup>, 及川眞一 (1) 日本医科大学生理学講座 (生態統御学) : GHRP の視床下部一下垂体一副腎系に対する作用点についての検討. 日本内分泌学会学術総会 (第 84 回) (神戸), 2011. 4.
- 45) 武市奈緒美, 田村秀樹, 加納稔子, 石崎 晃, 杉原 仁, 渡辺 淳<sup>1</sup>, 五十嵐健人<sup>2</sup>, 赤須東樹<sup>2</sup>, 島田 隆<sup>1</sup>, 清水一雄<sup>2</sup>, 磯部和正<sup>3</sup>, 新里寿美子<sup>3</sup>, 竹越一博<sup>3</sup>, 及川眞一 (1) 日本医科大学, 2) 日本医科大学, 3) 筑波) : TMEM127 遺伝子に新規生殖細胞変異を認めた両側褐色細胞腫の 1 症例. 日本家族性腫瘍学会学術集会 (第 18 回) (京都), 2011. 6.
- 46) 加納稔子, 根本崇宏<sup>1</sup>, 石崎 晃, 杉原 仁, 及川眞一, 芝崎 保<sup>1</sup> (1) 日本医科大学) : ラット初代培養視床下部細胞を用いた GHRP-2 の HPA 軸に対する作用機序の解明 (2). 日本神経内分泌学会 (第 38 回) (東京), 2011. 11.
- 47) 武市奈緒美, 田村秀樹, 若栗稔子, 石崎 晃, 杉原 仁, 渡辺 淳<sup>1</sup>, 五十嵐健人<sup>2</sup>, 赤須東樹<sup>2</sup>, 島田 隆<sup>1</sup>, 清水一雄<sup>2</sup>, 磯部和正<sup>3</sup>, 新里寿美子<sup>3</sup>, 竹越一博<sup>3</sup>, 及川眞一 (1) 日本医科大学付属病院 遺伝診療科, 2) 日本医科大学付属病院 内分泌外科, 3) 筑波大学大学院 人間総合科学研究科 臨床医学系分子検査医学) : TMEM127 遺伝子に生殖細胞変異を認め LOH を確認した両側褐色細胞腫. 臨床内分泌代謝 Update (第 21 回) (浜松), 2012. 1.
- 48) 長峯朋子, 岡島史宜, 武市奈緒美, 高谷磨紀代, 佐藤友紀, 首藤真理子, 長尾元嗣, 若栗稔子, 石崎 晃, 原田太郎, 中島 泰, 五十嵐健人<sup>1</sup>, 清水一雄<sup>1</sup>, 杉原 仁, 及川眞一 (1) 日本医科大学付属病院 内分泌外科) :

- CVD療法が無効であった下大静脈内浸潤を伴う褐色細胞腫の1例. 臨床内分泌代謝 Update (第21回) (浜松), 2012. 1.
- 49) 高野綾子, 中島 泰, 岡本宗男, 武市奈緒美, 若栗稔子, 石崎 晃, 田村秀人, 杉原 仁, 及川眞一: 急性副腎不全を契機に診断された両側副腎原発悪性リンパ腫の1例. 臨床内分泌代謝 Update (第21回) (浜松), 2012. 1.
- 50) 武市奈緒美, 杉原 仁, 若栗稔子, 石崎 晃, 竹光秀司, 佐藤友紀, 長尾元嗣, 近藤麻加, 原田太郎, 中島 泰, 岡島史宜, 田村秀樹, 中村恭子, 檀 和夫, 及川眞一: 急速に副腎不全を来した両側副腎悪性リンパ腫. 日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会 (第12回) (さいたま), 2012. 3.
- 51) 竹之内菜菜, 辰口篤志, 小杉友紀, 鈴木将大, 馬來康太郎, 遠坂由紀子, 春日裕介, 玉木祐希江, 高橋陽子, 江原章仁, 小林 剛, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 坂本長逸, その他2名: 多彩な内視鏡所見を呈したコラーゲン性大腸炎の1例. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第93回) (東京), 2011. 12.
- 52) 伊勢雄也<sup>1)</sup>, 久志本成樹<sup>2)</sup>, 田近賢二<sup>3)</sup>, 緒方清行<sup>4)</sup>, 片山志郎<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院薬剤部, <sup>2)</sup> 東北大学病院高度救命救急センター, <sup>3)</sup> 横浜南病院血液内科, <sup>4)</sup> 日本医科大学 血液内科): アルブミン適正使用の介入によるアルブミン製剤の使用減が患者アウトカムに及ぼす影響. 第59回 日本輸血・細胞治療学会 総会 (東京), 2011. 4.
- 53) 小川早恵子<sup>1)</sup>, 植田貴子<sup>1)</sup>, 亀山澄子<sup>1)</sup>, 福田高久<sup>1)</sup>, 橋本政子<sup>2)</sup>, 飯野幸永<sup>2)</sup>, 緒方清行<sup>1,3)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院輸血部, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院検査部, <sup>3)</sup> 日本医科大学 血液内科): 当院における未交差緊急輸血の現状. 第59回 日本輸血・細胞治療学会 総会 (東京), 2011. 4.
- 54) 石橋真理子<sup>1)</sup>, 田村秀人<sup>1)</sup>, 山下泰史<sup>1)</sup>, 近藤麻加<sup>1)</sup>, 奥山奈美子<sup>1)</sup>, 兵働英也<sup>1)</sup>, 檀 和夫<sup>1)</sup>, 緒方清行<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学血液内科): Mechanism of disease progression in multiple myeloma cells via the bone marrow microenvironment. 第34回 日本分子生物学会 (横浜), 2011. 12.
- 55) Okuyama N<sup>1)</sup>, Tamura H<sup>1)</sup>, Hyodo H<sup>1)</sup>, Ishibashi M<sup>1)</sup>, Kondo A<sup>1)</sup>, Dan K<sup>1)</sup>, Ogata K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical): Differences between low-grade myelodysplastic syndromes and idiopathic cytopenia of uncertain significance: A single institution study. The 2nd JSH International Symposium (長崎), 2011. 4.
- 56) Kondo A<sup>1)</sup>, Tamura H<sup>1)</sup>, Ishibashi M<sup>1)</sup>, Okuyama N<sup>1)</sup>, Hyodo H<sup>1)</sup>, Dan K<sup>1)</sup>, Ogata K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical): B7-H1+ blasts in myelodysplastic syndromes: morphological and genetic features and association with patient characteristics. The 11th MDS Symposium (Edinburgh, Scotland), 2011. 5.
- 57) Okuyama N<sup>1)</sup>, Tamura H<sup>1)</sup>, Hyodo H<sup>1)</sup>, Ishibashi M<sup>1)</sup>, Kondo A<sup>1)</sup>, Dan K<sup>1)</sup>, Ogata K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical): Differences in patient characteristics between low-grade myelodysplastic syndromes and idiopathic cytopenia of uncertain significance. The 11th MDS Symposium (Edinburgh, Scotland), 2011. 5.
- 58) 田村秀人<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学血液内科): Interferon-gamma and tumor necrosis factor-alpha induce an immunoinhibitory molecule, B7-H1, via nuclear factor-kappaB activation in blasts in myelodysplastic syndromes. 第7回麒麟塾 (東京), 2011. 6.
- 59) 兵働英也<sup>1)</sup>, 田村秀人<sup>1)</sup>, 奥山奈美子<sup>1)</sup>, 近藤麻加<sup>1)</sup>, 石橋真理子<sup>1)</sup>, 中村恭子<sup>1)</sup>, 檀 和夫<sup>1)</sup>, 緒方清行<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学血液内科): 骨髄異形成症候群におけるフローサイトメトリープロトコールによる予後予測. 第73回 日本血液学会学術集会 (名古屋), 2011. 10.
- 60) Hamada Y<sup>1)</sup>, Tamura H<sup>1)</sup>, Igarashi T<sup>2)</sup>, Onose H<sup>3)</sup>, Yokose N<sup>4)</sup>, Tanosaki S<sup>5)</sup>, Okuyama N<sup>1)</sup>, Kondo A<sup>1)</sup>, Hyodo H<sup>1)</sup>, Shimizu K<sup>2)</sup>, Dan K<sup>1)</sup>, Ogata K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical, <sup>2)</sup> Division of Endocrine Surgery, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Division of Endocrinology,

- Kanaji Thyroid Hospital, <sup>4</sup>)Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, <sup>5</sup>) Division of Hematology, Fraternity Memorial Hospital) : Clinical characteristics of primary thyroid lymphoma in our institutions. 第73回日本血液学会学術集会 (名古屋), 2011. 10.
- 61) Kondo A<sup>1</sup>), Tamura H<sup>1</sup>), Yamashita T<sup>1</sup>), Ishibashi M<sup>1</sup>), Okuyama N<sup>1</sup>), Hyodo H<sup>1</sup>), Dan K<sup>1</sup>), Ogata K<sup>1</sup>) (<sup>1</sup>) Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical) : Morphological and genetic features of B7-H1+ blasts and characteristics of B7-H1+ patients in myelodysplastic syndromes. 第73回日本血液学会学術集会 (名古屋), 2011. 10.
- 62) Ishibashi M<sup>1</sup>), Tamura H<sup>1</sup>), Yamashita T<sup>1</sup>), Kondo A<sup>1</sup>), Okuyama N<sup>1</sup>), Hyodo H<sup>1</sup>), Dan K<sup>1</sup>), Ogata K<sup>1</sup>) (<sup>1</sup>) Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical) : IL-6 can induce B7-H1 expression on multiple myeloma with aggressive characteristics. 第73回日本血液学会学術集会 (名古屋), 2011. 10.
- 63) Okuyama N<sup>1</sup>), Tamura H<sup>1</sup>), Hyodo H<sup>1</sup>), Ishibashi M<sup>1</sup>), Kondo A<sup>1</sup>), Dan K<sup>1</sup>), Ogata K<sup>1</sup>) (<sup>1</sup>) Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical) : Differences in patient characteristics between low-grade myelodysplastic syndromes and idiopathic cytopenia of uncertain significance. 第73回日本血液学会学術集会 (名古屋), 2011. 10.
- 64) Tamura H<sup>1</sup>), Ishibashi M<sup>1</sup>), Yamashita T<sup>1</sup>), Kondo A<sup>1</sup>), Okuyama N<sup>1</sup>), Hyodo H<sup>1</sup>), Hamada Y<sup>1</sup>), Kamei N<sup>1</sup>), Dan K<sup>1</sup>), Ogata K<sup>1</sup>) (<sup>1</sup>) Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical) : B7-H1 molecules on myeloma cells can be induced by bone marrow microenvironment and show aggressive cell behavior. 第36回骨髓腫研究会総会 (東京), 2011. 10.
- 65) Tamura H<sup>1</sup>), Ishibashi M<sup>1</sup>), Yamashita T<sup>1</sup>), Kondo A<sup>1</sup>), Okuyama N<sup>1</sup>), Hyodo H<sup>1</sup>), Hamada Y<sup>1</sup>), Dan K<sup>1</sup>), Lieping C<sup>2</sup>), Ogata K<sup>1</sup>) (<sup>1</sup>) Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical, <sup>2</sup>) Department of Immunobiology, Yale University School of Medicine, New Haven, CT, USA) : B7-H1 molecules on myeloma cells induce aggressive cell behavior. 53th Annual Meeting, American Society of Hematology (SanDiego, USA), 2011. 12.
- 66) Ishibashi M<sup>1</sup>), Tamura H<sup>1</sup>), Yamashita T<sup>1</sup>), Kondo A<sup>1</sup>), Okuyama N<sup>1</sup>), Hyodo H<sup>1</sup>), Dan K<sup>1</sup>), Ogata K<sup>1</sup>) (<sup>1</sup>) Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical) : Mechanism of disease progression in multiple myeloma cells via the bone marrow microenvironment. 第34回日本分子生物学会年会 (横浜), 2011. 12.
- 67) 了徳寺剛<sup>1</sup>), 脇田知志<sup>1</sup>), 岡本宗雄<sup>1</sup>), 竹内純子<sup>1</sup>), 中村恭子<sup>1</sup>), 檀 和夫<sup>1</sup>) (<sup>1</sup>) 日本医科大学血液内科) : Sweet 症候群と Behcet 病を合併した骨髄異形成症候群 (RAEB-1). 日本血液学会第166回例会 (東京), 2011. 7.
- 68) 富永直<sup>1</sup>), 山口博<sup>1</sup>), 浜田泰<sup>1</sup>), 中山一<sup>1</sup>), 中村恭<sup>1</sup>), 檀 和<sup>1</sup>) (<sup>1</sup>) 日本医科大学血液内科) : 多発中枢神経病変を伴い治療抵抗性を示した MALT リンパ腫. 日本血液学会第167回例会 (東京), 2012. 3.
- 69) 中村恭子<sup>1</sup>), 浜田泰子<sup>1</sup>), 岡部雅弘<sup>1</sup>), 脇田知志<sup>1</sup>), 緒方清行<sup>1</sup>), 檀 和夫<sup>1</sup>) (<sup>1</sup>) 日本医科大学血液内科) : Efficacy and safety of Bendamustine hydrochloride for refractory/relapsed low-grade B-cell lymphoma. 第73回日本血液学会学術集会 (名古屋), 2011. 10.
- 70) 長尾元嗣, 浅井 明, 佐藤友紀, 中島 泰, 高谷磨紀代, 竹光秀司, 首藤真理子, 原田太郎, 岡島史宜, 杉原仁, 及川眞一 : 選抜交配により作成した高脂肪食感受性肥満糖尿病マウスと高脂肪食抵抗性マウスの耐糖能に関する検討. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第54回) (札幌), 2011. 5.
- 71) Nagao M, Asai A, Sato Y, Nakajima Y, Takaya M, Takemitsu S, Sudo M, Harada T, Tanimura K, Okajima F, Sugihara H, Oikawa S : Analysis for the Lipid Profiles of Selectively Bred High Fat Diet Induced Obese and Diabetes Prone Mice (SOD-P) and Resistant Mice (SOD-R) Strains. 日本動脈硬化学会総会学術集会 (第43回) (札幌), 2011. 7.

- 72) Sato Y, Nagao M, Asai A, Nakajima Y, Takaya M, Takemitsu S, Sudo M, Harada T, Tanimura K, Okajima F, Sugihara H, Oikawa S : Selective breeding of mice which are prone and resistant to high fat diet-induced obesity and hyperglycemia. EASD Annual Meeting (47th) (Lisbon, Portugal), 2011. 9.
- 73) 小林俊介, 長尾元嗣, 中島 泰, 谷村恭子, 岡島史宜, 及川眞一 : 選抜交配により作成した高脂肪食誘導性耐糖能異常マウスと高脂肪食抵抗性マウスの生下時体重と乳児期体重の推移に関する検討. 日本肥満学会 (第32回) (淡路島), 2011. 9.
- 74) 長尾元嗣, 浅井 明, 佐藤友紀, 中島 泰, 高谷磨紀代, 竹光秀司, 首藤真理子, 谷村恭子, 岡島史宜, 杉原仁, 及川眞一 : 選抜交配により作成した高脂肪食誘導性耐糖能異常マウスと高脂肪食抵抗性マウスのランゲルハンス島形態に関する検討. 日本糖尿病合併症学会 (第26回) (大宮), 2011. 10.
- 75) 高谷磨紀代, 中島 泰, 武市奈緒美, 佐藤友紀, 竹光秀司, 長尾元嗣, 原田太郎, 石崎 晃, 岡島史宜, 杉原仁, 及川眞一 : ステロイド治療が奏功した好酸球増多症合併の抗インスリン抗体陽性2型糖尿病患者の1例. 日本糖尿病学会関東甲信越地方会 (第49回) (東京), 2012. 1.
- 76) Sato Y, Nakajima Y, Takaya M, Takeichi N, Takemitsu S, Sudo M, Nagao M, Wakaguri T, Ishizaki A, Harada T, Tanimura K, Okajima F, Sugihara H, Oikawa S : Relationship between carotid intima-media thickness (IMT) and serum level of glycated-albumin (GA) in type 2 diabetes mellitus (T2D). 日本動脈硬化学会総会学術集会 (第43回) (札幌), 2011. 7.
- 77) Asai A, Nakagawa K<sup>1)</sup>, Okajima F, Nakajima Y, Nagao M, Miyazawa T<sup>1)</sup>, Oikawa S (<sup>1)</sup> Food and Biodynamic Chemistry Laboratory, Graduate School of Agricultural Science, Tohoku University) : Phosphatidylcholine hydroperoxide-induced Rac activation : its involvement in THP-1 cell adhesion to ICAM-1 via actin polymerization. EAS Congress (79th) (Göteborg, Sweden), 2011. 6.
- 78) Asai A, Sato Y, Nakajima Y, Takaya M, Takeichi N, Takemitsu S, Sudo M, Nagao M, Kano T, Ishizaki A, Harada T, Tanimura K, Okajima F, Sugihara H, Oikawa S : Glycated albumin to glycated hemoglobin ratio (GA/HbA1c) is associated with the presence of carotid plaque in patients with type 2 diabetes mellitus. EASD Annual Meeting (47th) (Lisbon, Portugal), 2011. 9.
- 79) 浅井 明, 仲川清隆<sup>1)</sup>, 宮澤陽夫<sup>1)</sup>, 及川眞一 (<sup>1)</sup> 東北大学大学院農学研究所 機能分子解析学分野) : フォスファチジルセリンは THP-1 細胞の ICAM-1 への接着を亢進する. 日本過酸化脂質・抗酸化物質学会 (第19回) (仙台), 2011. 12.
- 80) 中島 泰, 長尾元嗣, 浅井 明, 武市奈緒美, 高谷磨紀代, 佐藤友紀, 竹光秀司, 首藤真理子, 原田太郎, 谷村恭子, 岡島史宜, 杉原 仁, 及川眞一 : 選抜交配により作成した高脂肪食感受性肥満糖尿病マウスと高脂肪食抵抗性マウスの基礎代謝量に関する検討. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第54回) (札幌), 2011. 5.
- 81) 中島 泰, 高谷磨紀代, 武市奈緒美, 竹光秀司, 首藤真理子, 長尾元嗣, 石崎 晃, 原田太郎, 岡島史宜, 杉原仁, 及川眞一 : 短期糖尿病教育入院におけるリポ蛋白の質的变化について. 日本糖尿病合併症学会 (第26回) (大宮), 2011. 10.
- 82) 原田太郎, 中島 泰, 武市奈緒美, 高谷磨紀代, 竹光秀司, 首藤真理子, 長尾元嗣, 加納稔子, 石崎 晃, 谷村恭子, 岡島史宜, 杉原 仁, 及川眞一 : 冠動脈バイパス術 (CABG) における術後インスリン必要量の増加と尿中カテコラミンの関連. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第54回) (札幌), 2011. 5.
- 83) Harada T, Nakajima Y, Takemitsu S, Sato Y, Sudo M, Nagao M, Tanimura K, Okajima F, Oikawa S : Changes of endothelial function and arterial stiffness during hospitalization for diabetes control. 日本動脈硬化学会総会学術集会 (第43回) (札幌), 2011. 7.
- 84) 竹光秀司, 武市奈緒美, 高谷磨紀代, 佐藤友紀, 首藤真理子, 長尾元嗣, 加納稔子, 原田太郎, 石崎 晃, 中島泰, 岡島史宜, 杉原 仁, 及川眞一 : 頸動脈エコーにおけるプラークの存在部位とその関連因子との検討. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第54回) (札幌), 2011. 5.

- 85) Wakita S<sup>1)</sup>, Hirakawa T<sup>1)</sup>, Yamaguchi H<sup>1)</sup>, Yokose N<sup>1)</sup>, Dan K<sup>1)</sup>, Inokuchi K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学血液内科) : Clinical course and molecular characteristics of RCSD1-ABL1 positive pre-B lymphoblastic leukemia. 日本血液学会学術集会 (第73回) (名古屋), 2011. 10.
- 86) Yokose N<sup>1)</sup>, Hirakawa T<sup>1)</sup>, Dan K<sup>1)</sup>, Inokuchi K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学血液内科) : Burkitt leukemia with der (14) t (8 : 14) (q24.1 : q32) t (8 : 22) (q24.1 : q11.2). 日本血液学会学術集会 (第73回) (名古屋), 2011. 10.
- 87) Okamoto M<sup>1)</sup>, Yamaguchi H<sup>1)</sup>, Hirakawa T<sup>1)</sup>, Wakita S<sup>1)</sup>, Yokose N<sup>1)</sup>, Dan K<sup>1)</sup>, Inokuchi K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学血液内科) : Chrinical characteristics of CML with a complex three-way translocation in an era of TKIs therapy. 日本血液学会学術集会 (第73回) (名古屋), 2011. 10.
- 88) Hirakawa T<sup>1)</sup>, Yamaguchi H<sup>1)</sup>, Iida S<sup>1)</sup>, Ibaraki T<sup>1)</sup>, Mitamura Y<sup>1)</sup>, Kosaka F<sup>1)</sup>, Inokuchi K<sup>1)</sup>, Dan K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学血液内科) : Frequency and prognostic analysis that have TET2 mutation in AML from MDS. 日本血液学会学術集会 (第73回) (名古屋), 2011.10.
- 89) Tauchi T<sup>1)</sup>, Kizaki M<sup>2)</sup>, Inokuchi K<sup>3)</sup>, Dan K<sup>3)</sup>, Ohyashiki K<sup>1)</sup>, Ikeda Y<sup>4)</sup>, その他7名 ( <sup>1)</sup> First Department of Internal Medicine, Tokyo Medical University, <sup>2)</sup> Department of Hematology, Saitama Medical Center, Saitama Medical University, <sup>3)</sup> Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, <sup>4)</sup> Department of Science and Engineering, Waseda University) : The TARGET system provides more practical and general features compared with the IRIS study. 日本血液学会学術集会 (第73回) (名古屋), 2011. 10.
- 90) Omori I<sup>1)</sup>, Yamaguchi H<sup>1)</sup>, Ibaraki T<sup>1)</sup>, Iida S<sup>1)</sup>, Mitamura Y<sup>1)</sup>, Kosaka F<sup>1)</sup>, Hirakawa T<sup>1)</sup>, Wakita S<sup>1)</sup>, Inokuchi K<sup>1)</sup>, Dan K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学血液内科) : Clinical features of de novo acute myeloid leukemia patients with IDH gene mutation. 日本血液学会学術集会 (第73回) (名古屋), 2011. 10.
- 91) Tamai H<sup>1,2)</sup>, Miyake K<sup>1)</sup>, Yamaguchi H<sup>1)</sup>, Shimada T<sup>2)</sup>, Inokuchi K<sup>1)</sup>, Dan K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology, Division of Gene Therapy Research Center for Advanced Medical Technology, Nippon Medical School) : The effect and specific mechanisms of systemic gene therapy using AAV8-IL24 in MLL/AF4 Tg mice. 日本血液学会学術集会 (第73回) (名古屋), 2011. 10.
- 92) Takeuchi J<sup>1)</sup>, Yamaguchi H<sup>1)</sup>, Tamai H<sup>1)</sup>, Mitamura Y<sup>1)</sup>, Kosaka F<sup>1)</sup>, Inokuchi K<sup>1)</sup>, Dan K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学血液内科) : Telomerase activity is useful for the screening and evaluation of treatment response in cryptic DKC. 日本血液学会学術集会 (第73回) (名古屋), 2011. 10.
- 93) 岡部雅弘<sup>1)</sup>, 山口博樹<sup>1)</sup>, 白杵憲祐<sup>2)</sup>, 小林 裕<sup>3)</sup>, 黒田純也<sup>4)</sup>, 田近賢二<sup>5)</sup>, 五味聖二<sup>5)</sup>, 三田村勇佳<sup>1)</sup>, 小坂文子<sup>1)</sup>, 猪口孝一<sup>1)</sup>, 檀 和夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学血液内科, <sup>2)</sup> NTT東日本関東病院血液内科, <sup>3)</sup> 京都第二赤十字病院血液内科, <sup>4)</sup> 京都府立医科大学血液内科, <sup>5)</sup> 横浜南共済病院血液内科) : 本邦の骨髓増殖性腫瘍における JAK2 遺伝子ハプロタイプの解析. 日本血液学会学術集会 (第73回) (名古屋), 2011. 10.
- 94) Ryotokuji T<sup>1)</sup>, Yamaguchi H<sup>1)</sup>, Omori I<sup>1)</sup>, Hirakawa T<sup>1)</sup>, Wakita S<sup>1)</sup>, Kitano T<sup>1)</sup>, Mitamura Y<sup>1)</sup>, Kosaka F<sup>1)</sup>, Shimada T<sup>2)</sup>, Inokuchi K<sup>1)</sup>, Dan K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology, Division of Gene Therapy Research Center for Advanced Medical Technology, Nippon Medical School) : The Clinical Features and Prognostic Impact of DNMT3A Gene Mutation in Japanese Patients with De Novo AML. 53th Annual Meeting, American Society of Hematology (SanDiego, USA), 2011. 12.
- 95) Wakita S<sup>1)</sup>, Yamaguchi H<sup>1)</sup>, Mitamura Y<sup>1)</sup>, Kosaka F<sup>1)</sup>, Shimada T<sup>2)</sup>, Inokuchi K<sup>1)</sup>, Dan K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology, Division of Gene Therapy Research Center for Advanced Medical Technology, Nippon

- Medical School) : Gene Mutations in Paired Initial Presentation and Relapse Samples From Acute Myeloid Leukemia Patients. 53th Annual Meeting, American Society of Hematology (SanDiego, USA), 2011. 12.
- 96) Takeuchi J<sup>1)</sup>, Yamaguchi H<sup>1)</sup>, Tamai H<sup>1)</sup>, Mitamura Y<sup>1)</sup>, Kosaka F<sup>1)</sup>, Inokuchi K<sup>1)</sup>, Dan K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Telomerase activity is useful for the screening of cryptic and late onset Dyskeratosis Congenita and the evaluation of the treatment response to anabolic steroids for their bone marrow failure. 16th Congress of European Hematology Association (London, United Kingdom), 2011. 6.
- 97) 福永景子<sup>1)</sup>, 中山一隆<sup>1)</sup>, 了徳寺剛<sup>1)</sup>, 脇田知志<sup>1)</sup>, 岡部雅弘<sup>1)</sup>, 竹内純子<sup>1)</sup>, 近藤麻加<sup>1)</sup>, 岡本宗雄<sup>1)</sup>, 守屋慶一<sup>1)</sup>, 中村恭子<sup>1)</sup>, 山口博樹<sup>1)</sup>, 檀 和夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学血液内科) : 過去 10 年間に当科で経験された Calcineurin 阻害剤による脳症発症 6 症例についての検討. 第 34 回日本造血細胞移植学会総会 (大阪), 2012. 2.
- 98) 了徳寺剛<sup>1)</sup>, 中山一隆<sup>1)</sup>, 脇田知志<sup>1)</sup>, 岡本宗雄<sup>1)</sup>, 竹内純子<sup>1)</sup>, 中村恭子<sup>1)</sup>, 山口博樹<sup>1)</sup>, 檀 和夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学血液内科) : Sweet 症候群と bchet 病を合併した骨髓異形成症候群 (RAEB-1) に対して非血縁者間同種骨髓移植を施行した 1 例. 第 34 回日本造血細胞移植学会総会 (大阪), 2012. 2.
- 99) 亀山真理<sup>1)</sup>, 山口博樹<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 看護部, <sup>2)</sup> 日本医科大学 血液内科) : 再発した造血管腫瘍患者における造血幹細胞移植の精神的な意味づけ. 第 34 回日本造血細胞移植学会総会 (大阪), 2012. 2.
- (11) ミニシンポジウム :
- 1) 辰口篤志, 三井啓吾, 進士誠一<sup>1)</sup>, 米澤真典, 瀬尾継彦, 小林 剛, 江原彰仁, 高橋陽子, 田中 周, 藤森俊二, 坂本長逸 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学臓器病態制御外科学) : 大腸癌における Heregulin の発現と臨床病理学的意義. 日本消化器病学会総会 (第 97 回) (東京), 2011. 5.
  - 2) 川見典之, 岩切勝彦, 佐野弘仁, 田中由理子, 梅澤まり子, 琴寄 誠, 星原芳雄<sup>1)</sup>, 坂本長逸 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学消化器内科, 経済産業省診療所) : Symptom index 陽性の PPI 抵抗性 NERD 患者における空気逆流と逆流症状との関連. 日本消化器病学会総会 (第 97 回) (東京), 2011. 5.
  - 3) 小高康裕, 二神生爾, 新福摩弓, 堀江 茜, 河越哲郎, 進藤智隆, 名見耶浩幸, 植木信江, 楠 正典, 三宅一昌, 坂本長逸 : H.pylori 陽性胃炎患者に対する COX-2 遺伝子多型を用いたハイリスク群絞り込みの検討. 日本消化器病学会総会 (第 97 回) (東京), 2011. 5.
  - 4) 橋本知実, 飯泉 匡, 星原芳雄<sup>1)</sup>, 岩切勝彦, 川見典之, 佐野弘仁, 梅澤まり子, 田中由理子, 坂本長逸 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学消化器内科, 経済産業省診療所) : SCJ の限局性炎症と逆流性食道炎との関連について. 日本消化器病学会総会 (第 97 回) (東京), 2011. 5.
  - 5) 名見耶浩幸, 二神生爾, 河越哲郎, 堀江 茜, 宋 軍民, 進藤智隆, 小高康裕, 新福摩弓, 梅澤まり子, 川見典之, 岩切勝彦, 星原芳雄<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>2)</sup>, 宮下正夫<sup>2)</sup>, 土屋真一<sup>3)</sup>, その他 1 名 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学消化器内科, 経済産業省診療所, <sup>2)</sup> 日本医科大学消化器外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学病理部) : 食道癌組織における apurinic/aprimidinic endonuclease-1 (APE-1) 発現の解析. 日本消化器病学会総会 (第 97 回) (東京), 2011. 5.
- (12) 日本消化器病学会との共同企画 :
- 1) 岩切勝彦 : GERD の病態. 日本呼吸器学会学術講演会 (第 51 回) (東京), 2011. 4.

## [千葉北総病院血液内科]

### 研究概要

血液内科 白血病, 悪性リンパ腫, 再生不良性貧血, 多発性骨髓腫など血液疾患全般の診療に当たっています. 個々の患者さんにとってのベストの治療法を, 御本人・御家族とともに考え, 治癒のみならず, 患者満足度の高い医療を目指しています. 本年度に 3 例の自家末梢血幹細胞移植と 1 例の同種末梢血幹細胞移植を実施しました. 今後症例数の蓄積を予定しています. 慢性骨髄性白血病 (CML) の分子標的薬の多施設共同研究と悪性リンパ腫 R-CHOP 治療に

関する多施設共同研究に関する多施設共同研究に参加しています。骨髄増殖性疾患の JAK2 遺伝子変異解析や M2AML における c-kit 遺伝子変異解析を行って Leukemia に発表しました。MLL/AF4 遺伝子導入マウスの作成に成功し、リンパ腫が発生することを確認し、この病態生理の解析を行い、これも Leukemia に発表しました。RCS D1-ABL1 融合遺伝子を新規に発見しそのクローニングを行いました。RCS D1-ABL1 融合遺伝子の in vitro での白血病化能を研究中で、中途報告を International Journal of Hematology に報告いたしました。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Inokuchi K, Wakita S, Hirakawa T, Tamai H<sup>1)</sup>, Yokose N, Yamaguchi H<sup>1)</sup>, Dan K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine (Divisions of Hematology, Gastroenterology, and Endocrinology and Metabolism) : RCS D1-ABL1-positive B lymphoblastic leukemia is sensitive to dexamethasone and tyrosine kinase inhibitors and rapidly evolves clonally by chromosomal translocations. *Int J Hematol* 2011 ; 94 : 255-260.
- 2) Tamai H<sup>1, 2)</sup>, Miyake K<sup>1)</sup>, Yamaguchi H<sup>2)</sup>, Takatori M<sup>3)</sup>, Dan K<sup>2)</sup>, Inokuchi K, Shimada T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology, Division of Gene Therapy Research Center for Advanced Medical Technology, <sup>2)</sup> Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Research Center for Life Science, Nippon Medical School) : AAV8 vector expressing IL24 efficiently suppresses tumor growth mediated by specific mechanisms in MLL/AF4-positive ALL model mice. *Blood* 2012 ; 5 (119) : 64-71.
- 3) Wakita S<sup>1, 3)</sup>, Yamaguchi H<sup>1, 3)</sup>, Miyake K<sup>2)</sup>, Mitamura Y<sup>1)</sup>, Kosaka F<sup>1)</sup>, Dan K<sup>1)</sup>, Inokuchi K ( <sup>1)</sup> Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology, <sup>3)</sup> These authors contributed equally to this work) : Importance of c-kit mutation detection method sensitivity in prognostic analyses of t (8 ; 21) (q22 ; q22) acute myeloid leukemia. *Leukemia* 2011 ; 25 (9) : 1423-1432.
- 4) Tamai H<sup>1, 2)</sup>, Miyake K<sup>1)</sup>, Takatori M<sup>3)</sup>, Miyake N<sup>1)</sup>, Yamaguchi H<sup>2)</sup>, Dan K<sup>2)</sup>, Simada T<sup>1)</sup>, Inokuchi K ( <sup>1)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology, <sup>2)</sup> Division of Hematology, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Research Center for Life Science, Nippon Medical School) : Activated K-Ras protein accelerates human MLL/AF4-induced leukemo-lymphomogenicity in a transgenic mouse model. *Leukemia* 2011 ; 25 (5) : 888-891.
- 5) Tauchi T<sup>1)</sup>, Kizaki M<sup>2)</sup>, Okamoto S<sup>3)</sup>, Tanaka H<sup>4)</sup>, Tanimoto M<sup>5)</sup>, Inokuchi K, Murayama T<sup>7)</sup>, Saburi Y<sup>8)</sup>, Hino M<sup>9)</sup>, Tsuda M<sup>10)</sup>, Dan K<sup>6)</sup>, Yokose N, et al. ( <sup>1)</sup> First Department of Internal Medicine, Tokyo Medical University, <sup>2)</sup> Department of Hematology, Saitama Medical Center, Saitama Medical University, <sup>3)</sup> Division of Hematology, Keio University School of Medicine, <sup>4)</sup> Department of Hematology and Oncology, Research Institute for Radiation Biology and Medicine, Hiroshima University, <sup>5)</sup> Department of Hematology, Oncology and Respiratory Medicine, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences, <sup>6)</sup> Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, <sup>7)</sup> Hematology Division, Department of Medicine, Hyogo Cancer Center, <sup>8)</sup> Department of Hematology, Oita Prefectural Hospital, <sup>9)</sup> Clinical Hematology and Clinical Diagnosis, Graduate School of Medicine, Osaka City University, <sup>10)</sup> and others) : Seven-year follow-up of patients receiving imatinib for the treatment of newly diagnosed chronic myelogenous leukemia by the TARGET system. *Leuk Res* 2011 ; 35 (5) : 585-590.

#### (2) 総説：

- 1) 山口博樹<sup>1)</sup>, 猪口孝一 ( <sup>1)</sup> 付属病院内科学 (血液・消化器・内分泌部門) : MDS に対する新規治療薬開発の現

状. 血液内科 2011 : 63 (2) : 195-201.

2) 猪口孝一 : MPN と血栓症メカニズム. 最新医学 2011 : 66 (11) : 68-74.

3) Yamaguchi H<sup>1)</sup>, Hirakawa T, Inokuchi K ( <sup>1)</sup> Division of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Importance of relative dose intensity in chemotherapy for diffuse large B-cell lymphoma. J Clin Exp Hematop 2011 : 51 (1) : 1-5.

## 学会発表

### (1) ポスター :

1) Wakita S<sup>1)</sup>, Hirakawa T<sup>1)</sup>, Yamaguchi H<sup>1)</sup>, Yokose N, Dan K<sup>1)</sup>, Inokuchi K ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine (Divisions of Hematology, Gastroenterology, and Endocrinology and Metabolism)) : Clinical course and molecular characteristics of RCSD1-ABL1 positive pre-B lymphoblastic leukemia. 日本血液学会学術集会 (第 73 回) (名古屋市), 2011. 10.

2) Yokose N, Hirakawa T, Dan K<sup>1)</sup>, Inokuchi K ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine (Divisions of Hematology, Gastroenterology, and Endocrinology and Metabolism)) : Burkitt leukemia with der (14) t (8 : 14) (q24.1 ; q32) t (8 : 22) (q24.1 ; q11.2). 日本血液学会学術集会 (第 73 回) (名古屋市), 2011. 10.

3) Okamoto M<sup>1)</sup>, Yamaguchi H<sup>1)</sup>, Hirakawa T, Wakita S<sup>1)</sup>, Yokose N, Dan K<sup>1)</sup>, Inokuchi K ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine (Divisions of Hematology, Gastroenterology, and Endocrinology and Metabolism)) : Chronical characteristics of CML with a complex three-way translocation in an era of TKIs therapy. 日本血液学会学術集会 (第 73 回) (名古屋市), 2011. 10.

4) Hirakawa T, Yamaguchi H<sup>1)</sup>, Iida S<sup>1)</sup>, Ibaraki T<sup>1)</sup>, Mitamura Y<sup>1,2)</sup>, Kosaka F<sup>1)</sup>, Inokuchi K, Dan K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Divisions of Hematology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Sekino Clinical Pharmacology Clinic) : Frequency and prognostic analysis that have TET2 mutation in AML from MDS. 日本血液学会学術集会 (第 73 回) (名古屋市), 2011. 10.

5) Tamai H<sup>1)</sup>, Miyake K<sup>2)</sup>, Yamaguchi H<sup>1)</sup>, Shimada T<sup>2)</sup>, Inokuchi K, Dan K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Hematology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology, Division of Gene Therapy Research Center for Advanced Medical Technology, Nippon Medical School) : The effect and specific mechanisms of systemic gene therapy using AAV8-IL24 in MLL/AF4 Tg mice. 日本血液学会学術集会 (第 73 回) (名古屋市), 2011. 10.

6) Takeuchi J<sup>1)</sup>, Yamaguchi H<sup>1)</sup>, Tamai H<sup>1)</sup>, Mitamura Y<sup>1)</sup>, Kosaka F<sup>1)</sup>, Inokuchi K, Dan K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine (Divisions of Hematology, Gastroenterology, and Endocrinology and Metabolism)) : Telomerase activity is useful for the screening and evaluation of treatment response in cryptic DKC. 日本血液学会学術集会 (第 73 回) (名古屋市), 2011. 10.

7) Hamada Y<sup>1)</sup>, Tamura H<sup>1)</sup>, Igarashi T<sup>2)</sup>, Onose H<sup>3)</sup>, Yokose N, Tanosaki S<sup>4)</sup>, Okuyama N<sup>1)</sup>, Kondo A<sup>1)</sup>, Hyodo H<sup>1)</sup>, Shimizu K<sup>2)</sup>, Dan K<sup>1)</sup>, Ogata K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Hematology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Division of Endocrine Surgery Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Division of Endocrinology, Kanaji Thyroid Hospital, <sup>4)</sup> Division of Hematology, Fraternity Memorial Hospital) : Clinical characteristics of primary thyroid lymphoma in our institutions. 日本血液学会学術集会 (第 73 回) (名古屋市), 2011. 10.

### (2) 一般講演 :

1) Tauchi T<sup>1)</sup>, Kizaki M<sup>2)</sup>, Okamoto S<sup>3)</sup>, Hanaka H<sup>4)</sup>, Tanimoto M<sup>5)</sup>, Inokuchi K, Saburi Y<sup>7)</sup>, Hino M<sup>8)</sup>, Isode Y<sup>9)</sup>, Oshimi Z<sup>9)</sup>, Dan K<sup>6)</sup>, Ohyashiki K<sup>1)</sup>, Ikeda Y<sup>10)</sup> ( <sup>1)</sup> 1st Dept.Int.Med.Tokyo Medical Univ, <sup>2)</sup> Dept. Int. Med.,Saitama Medical Center,Saitama Medical Univ, <sup>3)</sup> Dev. Hematol. Keio Univ, <sup>4)</sup> Dept. Hematol. Oncol. Hiroshima Univ, <sup>5)</sup> Dept. hematol. Oncol. Resp,Okayama Univ, <sup>6)</sup> Dev. Hematol. Nippon Medical School, <sup>7)</sup>

Dev. Hematol. Oita Prefectural Hospital, <sup>8)</sup> Dept. Hematol. Osaka City Univ, <sup>9)</sup> Dev. Hematol. Juntendo Univ, <sup>10)</sup> and others) : The TARGET system provides more practical and general features compared with the IRIS study. 日本血液学会学術集会 (第73回) (名古屋市), 2011. 10.

- 2) Omori I<sup>1)</sup>, Yamaguchi H<sup>1)</sup>, Ibaraki T<sup>1)</sup>, Iida S<sup>1)</sup>, Mitamura Y<sup>1)</sup>, Kosaka F<sup>1)</sup>, Hirakawa T, Wakita S<sup>1)</sup>, Inokuchi K, Dan K<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Internal Medicine (Divisions of Hematology, Gastroenterology, and Endocrinology and Metabolism) : Clinical features of de novo acute myeloid leukemia patients with IDH gene mutation. 日本血液学会学術集会 (第73回) (名古屋市), 2011. 10.

## [千葉北総病院消化器内科]

### 研究概要

(消化器内科) 上部消化管領域では, 食道癌・胃癌の化学療法, 早期胃癌・胃腺腫の内視鏡的治療を行っている. 下部消化管領域では, 早期大腸癌・大腸腺腫の内視鏡的治療を行っており, 原因不明の消化管出血患者に対するカプセル内視鏡検査も施行している. 肝・胆・膵領域では, 肝臓癌に対するラジオ波焼灼療法, C型慢性肝炎に対するインターフェロン療法, 総胆管結石に対する内視鏡的治療などを積極的に行っている.

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著 :

- 1) Kusunoki M, Miyake K<sup>1)</sup>, Shindo T<sup>1)</sup>, Ueki N<sup>1)</sup>, Kawagoe T<sup>1)</sup>, Gudis K<sup>1)</sup>, Futagami S<sup>1)</sup>, Tsukui T<sup>1)</sup>, Takagi I<sup>1)</sup>, Hosaka J<sup>1)</sup>, Sakamoto C<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : The incidence of deep vein thrombosis in Japanese patients undergoing endoscopic submucosal dissection. *Gastrointest Endosc* 2011 ; 74 (4) : 798-804.

#### 学会発表

##### (1) ポスター :

- 1) 糸川典夫<sup>1)</sup>, 厚川正則, 近藤千紗, 松下洋子<sup>1)</sup>, 福田 健<sup>1)</sup>, 城所秀子<sup>1)</sup>, 小林玲樹<sup>1)</sup>, 榎原義之<sup>1)</sup>, 中塚雄久<sup>1)</sup>, 金澤秀典<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 付属病院内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門) : C型慢性肝炎に対するIFN $\beta$ , RBV併用療法先行PEG-IFN, RBV併用療法におけるIL28B近傍のSNPsの相違による有効性の検討. 日本肝臓学会大会 (第15回) (福岡市), 2011. 10.
- 2) 近藤千紗, 厚川正則, 糸川典夫<sup>1)</sup>, 松下洋子<sup>1)</sup>, 福田 健<sup>1)</sup>, 城所秀子<sup>1)</sup>, 小林玲樹<sup>1)</sup>, 榎原義之<sup>1)</sup>, 中塚雄久<sup>1)</sup>, 金澤秀典<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 付属病院内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門) : C型慢性肝炎に対するPEG-IFN, Ribavirin療法の成績にFluvastatin併用が及ぼす影響. 日本肝臓学会大会 (第15回) (福岡市), 2011. 10.
- 3) Kondo C, Atsukawa M, Itokawa N, Hashimoto S, Fukuda T<sup>1)</sup>, Matsushita Y<sup>1)</sup>, Kidokoro H<sup>1)</sup>, Katakura T<sup>1)</sup>, Narahara Y<sup>1)</sup>, Nakatsuka K<sup>1)</sup>, Kanazawa H<sup>1)</sup>, Tsubota A<sup>2)</sup>, Sakamoto C<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Internal Medicine (Divisions of Hematology, Gastroenterology, and Endocrinology and Metabolism), Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Institute of Clinical Medicine and Research, Jikei University School of Medicine) : Effect of Fluvastatin-combined Pegylated-Interferon/Ribavirin combination therapy on Chronic Hepatitis C. *American Association for the Study of Liver Diseases (The 62nd)* (San Francisco), 2011. 11.

##### (2) 一般講演 :

- 1) 糸川典夫<sup>1)</sup>, 厚川正則, 近藤千紗, 松下洋子<sup>1)</sup>, 福田 健<sup>1)</sup>, 城所秀子<sup>1)</sup>, 小林玲樹<sup>1)</sup>, 榎原義之<sup>1)</sup>, 中塚雄久<sup>1)</sup>, 金澤秀典<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 付属病院内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門) : C型慢性肝炎に対するIFN

$\beta$ -Ribavirin 併用療法先行後 PEG-IFN,Ribavirin 併用療法の有用性についての検討. 日本肝臓学会 (第 47 回) (東京), 2011. 6.

- 2) 近藤千紗, 厚川正則, 糸川典夫<sup>1)</sup>, 松下洋子<sup>1)</sup>, 福田 健<sup>1)</sup>, 城所秀子<sup>1)</sup>, 小林玲樹<sup>1)</sup>, 榎原義之<sup>1)</sup>, 中塚雄久<sup>1)</sup>, 金澤秀典<sup>1)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (1) 付属病院内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門): C 型慢性肝炎に対する Fluvastatin 併用 PEG-IFN,RBV 療法の有益性についての検討. 日本肝臓学会 (第 47 回) (東京), 2011. 6.
- 3) 糸川典夫<sup>1)</sup>, 厚川正則, 西野隆義<sup>2)</sup>, 近藤千紗, 松下洋子<sup>1)</sup>, 福田 健<sup>1)</sup>, 神戸秀子<sup>1)</sup>, 小林玲樹<sup>1)</sup>, 榎原義之<sup>1)</sup>, 中塚雄久<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>3)</sup>, 坂本長逸<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門), <sup>2)</sup> 東京女子医科大学八千代医療センター消化器内科, <sup>3)</sup> 日本医科大学千葉北総病院病理部: 多彩な経過を辿った IgG4 関連硬化性疾患の 3 例. 日本肝臓学会 (第 42 回) (青森県弘前市), 2011. 7.
- 4) 江淵慧悟, 田中 周, 厚川正則, 星野慎太郎, 橋本知美, 遠坂由紀子, 近藤千紗, 坂本長逸<sup>1)</sup> (1) 付属病院 (血液・消化器・内分泌代謝部門): 高齢発症のアメーバ性肝膿瘍の 1 例. 日本消化器病学会 (第 316 回) 関東支部例会 (東京都), 2011. 9.

## [千葉北総病院内分泌内科]

### 研究概要

2001 年から取り組んできた糖尿病地域医療連携の有用性のエビデンスを日本医大千葉北総病院糖尿病診療対策小委員会として, 日本糖尿病学会雑誌「糖尿病」に原著論文「当院糖尿病地域連携における基幹病院から診療所への紹介システムの有用性に関する検討」(糖尿病 54 (8): 675-680, 2011) として報告した. 日本医大千葉北総病院糖尿病診療対策小委員会は千葉北総病院の内分泌内科, 眼科, 看護部, 栄養科, 薬剤部ならびに印旛市郡医師会, 印旛郡市薬剤師会からの外部委員などからなる多職種委員会であり, この報告は 10 年にわたる糖尿病地域医療連携システム構築の有用性を示す集大成となった. さらに第 54 回日本糖尿病学会年次学術集会 (札幌) にて, 糖尿病診療対策小委員会として, 「地域医療連携基幹病院の糖尿病外来における医療資源配分の定量的分析」および「一方向型糖尿病地域医療連携を支える登録医療機関の糖尿病医療状況の分析」を報告し, 糖尿病の地域疾病管理の構築に向け, さらなる研究に取り組んでいる. また現時点で, 世界的に行き詰まっている血糖コントロールが困難な糖尿病患者への新しいアプローチ方法として, 行動経済学的分析手法を導入し, 研究を開始した. この研究は平成 23 年度科学研究費補助金, 挑戦的萌芽研究として採択された. これは経済学的手法を臨床医学に応用した最初の研究であり, 人文科学部門 (経済学) での科研費の採択は日本医大としては初めてのことであり, 今後, 日本医大として進むべき学際的研究の重要な嚆矢となるものと考えられる.

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著:

- 1) 江本直也, 岩橋美奈子<sup>1)</sup>, 鈴木千賀子<sup>1)</sup>, 亀谷修平<sup>2)</sup>, 金井良幸<sup>3)</sup>, 福田恵子<sup>4)</sup>, 鈴木光子<sup>5)</sup>, 金城邦彦<sup>5)</sup>, 眞鍋知史<sup>6)</sup> (1) 千葉北総病院看護部, 2) 千葉北総病院眼科, 3) 千葉北総病院栄養科, 4) 千葉北総病院薬剤部, 5) 印旛郡市医師会, 6) 印旛郡市薬剤師会): 当院糖尿病地域連携における基幹病院から診療所への紹介システムの有用性に関する検討. 糖尿病 2011; 54 (8): 675-680.

(2) 総説:

- 1) 江本直也: 自治体主導の千葉県共用連携パス作成過程からみえてくる糖尿病治療戦略の課題 (I 地域における糖尿病医療連携パスの現状). Diabetes Frontier 2011; 22 (2): 149-153.

(3) 症例報告:

- 1) 青木悠人, 江本直也, 加納稔子, 石崎 晃, 小野 靖<sup>1)</sup>, 石井雄道<sup>2)</sup> (1) 千葉北総病院 呼吸器内科, 2) 千葉北

総病院 脳神経外科)：低 Na 血症から橋中心髄鞘崩壊症に進展し回復した肺癌合併鞍上部腫瘍の 1 例. 日本内分泌学会雑誌 臨床内分泌代謝 (第 20 回) Update Proceeding 2011 ; 87 : 98-100.

## 学会発表

### (1) 一般講演：

- 1) 岡崎智子<sup>1)</sup>, 林あづさ<sup>1)</sup>, 鈴木千賀子<sup>1)</sup>, 坂田真純<sup>1)</sup>, 岩橋美奈子<sup>1)</sup>, 小川和泉<sup>1)</sup>, 江本直也<sup>1)</sup> (日本医科大学千葉北総病院糖尿病診療対策小委員会)：地域医療連携基幹病院の糖尿病外来における医療資源配分の定量的分析. 日本糖尿病学会 (第 54 回) (札幌市), 2011. 5.
- 2) 小谷野肇<sup>1)</sup>, 栗林伸一<sup>1)</sup>, 篠宮正樹<sup>1)</sup>, 江本直也, 関谷貞三郎<sup>1)</sup>, 平井愛山<sup>1)</sup>, 青柳和美<sup>1)</sup>, 藤田伸輔<sup>1)</sup>, 松田一郎<sup>1)</sup>, 忍足和浩<sup>1)</sup>, 伊勢田洋彰<sup>1)</sup>, 石出 広<sup>1)</sup>, 杉戸一寿<sup>1)</sup>, 原 徹<sup>1)</sup>, 田畑陽一郎<sup>1)</sup> (1) 千葉県共用地域医療連携バスワーキンググループ糖尿病部会)：全県共用型地域医療連携バスを中心にした糖尿病地域医療ネットワークシステム構築のための基礎調査. 日本糖尿病学会 (第 54 回) (札幌市), 2011. 5.
- 3) 岩橋美奈子<sup>1)</sup>, 鈴木千賀子<sup>1)</sup>, 亀谷修平<sup>1)</sup>, 鈴木光子<sup>1)</sup>, 金城邦彦<sup>1)</sup>, 眞鍋智史<sup>1)</sup>, 江本直也<sup>1)</sup> (千葉北総病院糖尿病診療対策小委員会)：一方向型糖尿病地域医療連携を支える登録医療機関の糖尿病医療状況の分析. 日本糖尿病学会 (第 54 回) (札幌市), 2011. 5.
- 4) 中島 泰<sup>1)</sup>, 長尾元嗣<sup>1)</sup>, 浅井 明<sup>1)</sup>, 佐藤友紀<sup>1)</sup>, 高谷磨紀代<sup>1)</sup>, 竹光秀司, 首藤真理子<sup>1)</sup>, 原田太郎<sup>1)</sup>, 谷村恭子<sup>1)</sup>, 岡島史宜<sup>1)</sup>, 杉原 仁<sup>1)</sup>, 及川眞一<sup>1)</sup> (1) 付属病院内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門))：選抜交配により作成した高脂肪食感受性肥満糖尿病マウスと高脂肪食抵抗性マウスの基礎代謝量に関する検討. 日本糖尿病学会 (第 54 回) (札幌市), 2011. 5.
- 5) 長尾元嗣<sup>1)</sup>, 浅井 明<sup>1)</sup>, 佐藤友紀<sup>1)</sup>, 中島 泰<sup>1)</sup>, 高谷磨紀代<sup>1)</sup>, 竹光秀司, 首藤真理子<sup>1)</sup>, 原田太郎<sup>1)</sup>, 谷村恭子<sup>1)</sup>, 岡島史宜<sup>1)</sup>, 杉原 仁<sup>1)</sup>, 及川眞一<sup>1)</sup> (1) 付属病院内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門))：選抜交配により作成した高脂肪食感受性肥満糖尿病マウスと高脂肪食抵抗性マウスの耐糖能に関する検討. 日本糖尿病学会 (第 54 回) (札幌市), 2011. 5.
- 6) 竹光秀司, 武市奈緒美<sup>1)</sup>, 高谷磨紀代<sup>1)</sup>, 佐藤友紀<sup>1)</sup>, 首藤真理子<sup>1)</sup>, 長尾元嗣<sup>1)</sup>, 加納稔子<sup>1)</sup>, 原田太郎<sup>1)</sup>, 石崎晃<sup>1)</sup>, 中島 泰<sup>1)</sup>, 岡島史宜<sup>1)</sup>, 杉原 仁<sup>1)</sup>, 及川眞一<sup>1)</sup> (1) 付属病院内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門))：頸動脈エコーにおけるプラークの存在部位とその関連因子との検討. 日本糖尿病学会 (第 54 回) (札幌市), 2011. 5.
- 7) 山根由唯, 竹光秀司, 江本直也：遷延する高ビリルビン血症を呈し回復した甲状腺機能亢進症の 1 例. 臨床内分泌代謝 Update (浜松市), 2012. 1.

## 4. 内科学講座（呼吸器・感染・腫瘍部門）

### 〔付属病院呼吸器内科，化学療法科〕

#### 研究概要

癌：肺癌の個別化治療に向け，抗癌剤感受性と遺伝子発現に基づくレジメン開発，遺伝子多型解析による CPT-11 の副作用予測，新薬開発を含む臨床試験等を行っている。ゲフィチニブ感受性に関する遺伝子変異結果に基づいた多施設臨床試験は評価され，国際的に影響を与えた。間質性肺炎合併肺癌や薬剤性肺障害の臨床研究においては我国の中心的施設として役割を果たしている。基礎的研究は感受性，副作用予測研究を展開している。肺癌の発癌，増殖に関わる研究を遺伝子や蛋白レベルで行ない，発癌の母地として特発性間質性肺炎（IIPs）に注目し，特殊な発癌機構の理解と予防法の開発を目指している。また，各薬剤の肺障害とその予防について基礎的な検討を行っている。炎症：炎症性疾患，感染症を中心に研究を展開し，特に厚労省研究班を軸に IIPs についてビルフェニドンの市販後評価，NAC，CSA，治験薬の評価，疾患活動性と予後，びまん性肺疾患，サルコイドーシスの臨床，難治性気道病変の病態・治療研究，急性肺障害や薬剤性肺障害の国際比較，PMX 吸着療法の研究を推進している。基礎研究では肺障害，線維化病態を中心に，骨髄由来線維細胞，上皮間葉形質転換，熱ショック蛋白，サーファクタント，メカニカルストレス，組織再生，マクロライドの作用機序と新規化合物 EM900 の評価を行っている。大気環境関連健康障害に関し，ディーゼル排気粒子の影響を呼気凝集液にて検討している。呼吸ケア：COPD に関する基礎研究を大阪大学，理化学研究所，谷口直之教授らとの研究として，独立行政法人医薬基盤研究所からの助成を受け創薬の開発を進めている。フコースを付加する酵素 Fut8 の欠損マウスでは肺気腫が発症する。今年度はヒトの血清中の Fut8 活性が COPD の病態に与える影響と遺伝子との関係について研究を進めた。本研究班は 2014 年まで継続予定である。

#### 研究業績

##### 論文

##### 〔追加分〕

追加分原著：

- 1) Minegishi Y : The safety and efficacy of weekly paclitaxel in combination with carboplatin for advanced non-small cell lung cancer with idiopathic interstitial pneumonias. *Lung cancer* 2011 ; 71 : 70-74.
- 2) Yamada M<sup>1)</sup>, Ishii T, Ikeda S<sup>1)</sup>, Naka-Mieno M<sup>2)</sup>, Tanaka N<sup>3)</sup>, Arai T<sup>4)</sup>, Kumasaka T<sup>5)</sup>, Gemma A, Kida K, Muramatsu M, Sawabe M <sup>1)</sup> Department of Molecular Epidemiology, Medical Research Institute, Tokyo Medical and Dental University, <sup>2)</sup> Department of Medical Informatics/Center for Information, Jichi Medical University, <sup>3)</sup> Computation Biology, Bioinformatics Specialist National Surgical Adjuvant Breast and Bowel Project, <sup>4)</sup> Department of Pathology, Tokyo Metropolitan Geriatric Medical Center, <sup>5)</sup> Department of Pathology, Japanese Red Cross Medical Center) : Association of fucosyltransferase 8 (FUT8) polymorphism Thr267Lys with pulmonary emphysema. *J Hum Genet* 2011 ; 56 (12) : 857-860.

(1) 原著：

- 1) Chen Y, Kang J, Wu M, Azuma A, Zhao L : Differential Association between HLA and Diffuse Panbronchiolitis in Northern and Southern Chinese. *Intern Med* 2012 ; 51 (3) : 271-276.
- 2) Homma Ogura S, Azuma A, Taniguchi H, Ogura T, Mochiduki Y, Sugiyama Y, Nakata K, Yoshimura K, Takeuchi M, Kudoh S, the Japan NAC. Clinical Study Group. : Efficacy of inhaled N-acetylcysteine monotherapy in patients with early stage idiopathic pulmonary fibrosis. *Respirology* 2012.

- 3) Abe S, Hayashi H, Seo Y, Matsuda K, Kamio K, Saito Y, Usuki J, Azuma A, Kudo S, Gemma A : Reduction in Serum High Mobility Group Box-1 Level by Polymyxin B-Immobilized Fiber Column in Patients with Idiopathic Pulmonary Fibrosis with Acute Exacerbation. *Blood Purif* 2011 ; 32 (4) : 310-316.
- 4) Taniguchi H, Kondoh Y, Ebina M, Azuma A, Ogura T, Taguchi Y, Suga M, Takahashi H, Nakata K, Sato A, Sugiyama Y, Kudoh S, Nukiwa T, Pirfenidone Clinical Study Group I : The clinical significance of 5% change in vital capacity in patients with idiopathic pulmonary fibrosis : extended analysis of the pirfenidone trial. *Respiratory Research* 2011 ; 12 : 93.
- 5) Tanaka K, Tanaka Y, Miyazaki Y, Namba T, Sato K, Aoshiba K, Azuma A, Mizushima T : Therapeutic effect of lecithinized superoxide dismutase on pulmonary emphysema. *J Pharma Exp Ther* 2011 ; 338 (3) : 810-818.
- 6) Kono C, Yamaguchi T, Yamada Y, Uchiyama H, Kono M, Takeuchi M, Sugiyama Y, Azuma A, Kudoh S, Sakurai T, Tatsumi K : Historical Change of Epidemiology in Diffuse Panbronchiolitis. *Sarcoidosis Vasculitis and Diffuse Lung Diseases* 2011.
- 7) Namba T, Tanaka K, Hoshino T, Azuma A, Mizushima T : Suppression of expression of heat shock protein 70 by gefitinib and its contribution to pulmonary fibrosis. *Public Library of Science (PLoS) One* 2011 ; 6 (11).
- 8) Azuma A, Taguchi Y, Ogura T, Ebina M, Taniguchi H, Kondoh Y, Suga M, Takahashi H, Nakata K, Sato A, Kudoh S, Nukiwa T : Pirfenidone Clinical Study Group in Japan. Exploratory analysis of a phase III trial of pirfenidone identifies a subpopulation of patients with idiopathic pulmonary fibrosis as benefiting from treatment. *Respiratory Research* 2011 ; 12 : 143.
- 9) 朝比奈肇<sup>1)</sup>, 関根郁夫<sup>2)</sup>, 堀之内秀仁<sup>2)</sup>, 軒原 浩<sup>2)</sup>, 山本 昇<sup>2)</sup>, 久保田馨<sup>3)</sup>, 田村友秀 ( <sup>1)</sup> 北海道大学病院, <sup>2)</sup> 国立がん研究センター中央病院, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院) : T. Retrospective of Third-Line and Fourth-Line Chemotherapy for Advanced Non-Small-cell Lung Cancer. *Clinical Lung Cancer* 2012 ; 13 (1) : 39-43.
- 10) Shimokawa T<sup>1)</sup>, Seike M<sup>1)</sup>, Soeno C<sup>1)</sup>, Uesaka H<sup>2)</sup>, Miyanaga A<sup>1)</sup>, Mizutani H<sup>1)</sup>, Kitamura K<sup>1)</sup>, Minegishi Y<sup>1)</sup>, Noro R<sup>1)</sup>, Yoshimura A<sup>1)</sup>, Gemma A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine, Division of Pulmonary Medicine/Infection and Oncology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> MediBIC) : Enzastaurin has anti-tumour effects in lung cancers with overexpressed JAK pathway molecules. *Br J Cancer* 2012 ; 106 (5) : 867-875.
- 11) Minegishi Y<sup>1)</sup>, Kuribayashi H<sup>1)</sup>, Kitamura K<sup>1)</sup>, Mizutani H<sup>1)</sup>, Kosaihiira S<sup>1)</sup>, Okano T<sup>1)</sup>, Seike M<sup>1)</sup>, Azuma A<sup>1)</sup>, Yoshimura A<sup>1)</sup>, Kudoh S<sup>1)</sup>, Gemma A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Pulmonary medicine, Infectious disease, and Oncology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : The feasibility study of Carboplatin plus Etoposide for advanced small cell lung cancer with idiopathic interstitial pneumonias. *J Thorac Oncol* 2011 ; 6 : 801-807.
- 12) Wakabayashi R, Motegi T, Yamada K, Ishii T, Jones CR<sup>1)</sup>, Hyland EM<sup>2)</sup>, Gemma A, Kida K ( <sup>1)</sup> Respiratory Research Unit, Peninsula Medical School, <sup>2)</sup> Psychology Department, University of Plymouth) : Efficient integrated education for older patients with chronic obstructive pulmonary disease using the Lung Information Needs Questionnaire. *Geriatr Gerontol Int* 2011 ; 11 (4) : 422-430.
- 13) Furutate R<sup>1)</sup>, Ishii T, Wakabayashi R<sup>1)</sup>, Motegi T, Yamada K, Gemma A, Kida K ( <sup>1)</sup> Respiratory Care Clinic, Nippon Medical School) : Excessive visceral fat accumulation in advanced chronic obstructive pulmonary disease. *Int J Chron Obstruct Pulmon Dis* 2011 ; 6 : 423-430.
- 14) Ishii T, Hagiwara K<sup>1)</sup>, Kamio K, Ikeda S<sup>2)</sup>, Arai T<sup>3)</sup>, Mieno-Naka M<sup>4)</sup>, Kumasaka T<sup>5)</sup>, Muramatsu M<sup>2)</sup>, Sawabe M<sup>3)</sup>, Gemma A, Kida K ( <sup>1)</sup> Department of Respiratory Medicine, Saitama Medical University, <sup>2)</sup> Department of Molecular Epidemiology, Medical Research Institute, <sup>3)</sup> Department of Pathology, Tokyo Met-

- ropolitan Geriatric Hospital, <sup>4</sup>) Department of Medical Informatics/Center for Information, Jichi Medical University, <sup>5</sup>) Department of Pathology, Japanese Red Cross Medical Center) : Involvement of surfactant protein D in emphysema revealed by genetic association study. *Eur J Hum Genet* 2012 ; 20 (2) : 230-235.
- 15) Kimura K, Kurosaki H, Wakabayashi R<sup>1</sup>), Motegi T, Ishii T, Yamada K, Gemma A, Kida K (<sup>1</sup>) Respiratory Care Clinic, Nippon Medical School) : Concerns with the Health Check-up System for Chronic Obstructive Pulmonary Disease on two Japanese Islands. *Intern Med* 2011 ; 50 (19) : 2135-2141.
- 16) Morii K, Yoshimori K<sup>1</sup>), Sudo M<sup>1</sup>), Ogata H<sup>1</sup>), Okumura M<sup>1</sup>), Gemma A, Kudoh S<sup>1</sup>), Kida K (<sup>1</sup>) Department of Pulmonary Diseases, Fukujiji Hospital) : Interaction between Primary Care Physicians and Specialists for Diagnosis and Management of Hypersensitivity Pneumonitis. *International Journal of Clinical Medicine* 2011 ; 2 : 444-451.
- 17) Kimjura K, Kurosaki H, Wakabayashi R, Motegi T, Ishii T, Yamada K, Gemma A, Kida K : Concerns with the Health Check-up System for Chronic Obstructive Pulmonary Disease on two Japanese Islands. *Internal Medicine* 2011 ; 50 : 2135-2141.
- 18) Katsumata N, Hirai Y, Kamiura S, Sugiyama T, Kokawa K, Hatae M, Nishimura R, Ochiai K : Phase II study of S-1, an oral fluoropyrimidine, in patients with advanced or recurrent cervical cancer. *Ann Oncol* 2011 ; 22 (6) : 1353-1357.
- 19) Katsumata N : Dose-dense therapy is of benefit in primary treatment of ovarian cancer? In favor. *Ann Oncol* 2011 ; 22 (8) : viii29-viii32.
- 20) Harano K, Ando A, Sasajima Y, Yunokawa M, Yonemori K, Shimizu C, Tamura K, Katsumata N, Tsyda H, Fujiwara Y : Primary Yolk Sac Tumor of the Omentum : A Case Report and Literature Review. *Case Rep in Oncol* 2012.
- 21) Usuki J, Matsuda K, Azuma A, Kudoh S, Gemma A : Sequential Analysis of Myofibroblast Differentiation and Transforming Growth Factor- $\beta$ 1/Smad Pathway Activation in Murine Pulmonary Fibrosis. *J Nippon Med Sch* 2012 ; 79 (1) : 46-59.
- 22) Imamura F<sup>1</sup>), Nishio M<sup>2</sup>), Noro R<sup>4</sup>), Tsuboi M<sup>3</sup>), Ikeda N<sup>3</sup>), Inoue A<sup>5</sup>), Ohsaki Y<sup>6</sup>), Kimura Y<sup>7</sup>), Nishino K<sup>2</sup>), Uchida J<sup>1</sup>), Horai T<sup>2</sup>) (<sup>1</sup>) Department of Thoracic Oncology, Osaka Medical Center for Cancer and Cardiovascular Diseases, Osaka, <sup>2</sup>) Department of Medical Oncology, Cancer Institute Hospital, <sup>3</sup>) Department of Thoracic Surgery and Oncology, Tokyo Medical University, <sup>4</sup>) Division of Pulmonary Medicine, Infectious Diseases and Oncology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, <sup>5</sup>) Respiratory Medicine, Tohoku University Hospital, Sendai, <sup>6</sup>) Respiratory Center, Asahikawa Medical University, Asahikawa, <sup>7</sup>) Respiratory Surgery, Iwakuni Medical Center) : Randomized phase II study of two schedules of carboplatin and gemcitabine for stage IIIB and IV advanced non-small cell lung cancer (JACCRO LC-01 study). *Chemotherapy* 2011 ; 57 (4) : 357-362.
- 23) 野呂林太郎, 弦間昭彦 : 非小細胞肺癌の個別化治療 (総説). *呼吸* 2011 ; 30 (5) : 419-427.
- 24) Abe S, Hayashi H, Seo Y, Matsuda K, Kamio K, Saito Y, Usuki J, Azuma A, Kudoh S, Gemma A : Reduction in serum high mobility group box-1 level by polymyxin B-immobilized fiber column in patients with idiopathic pulmonary fibrosis with acute exacerbation. *Blood Purif* 2011 ; 32 (4) : 310-316.
- 25) Azuma A, Taguchi Y<sup>1</sup>), Ogura Y<sup>2</sup>), Ebina M<sup>3</sup>), Taniguchi H<sup>4</sup>), Kondoh Y<sup>4</sup>), Suga M<sup>5</sup>), Takahashi H<sup>6</sup>), Nakata K<sup>7</sup>), Sato A<sup>8</sup>), Kudoh S, Nukiwa T<sup>3</sup>) (<sup>1</sup>) Dept. of Respiratory Medicine, Tenri Hospital, <sup>2</sup>) Dept. of Respiratory Medicine, Kanagawa Cardiovascular and Respiratory Center, <sup>3</sup>) Dept. of Respiratory Medicine, Tohoku University Graduate School of Medicine, <sup>4</sup>) Respiratory Medicine and Allergy, Tosei General Hospital, <sup>5</sup>) Dept. of Respiratory Medicine, Saiseikai Kumamoto Hospital, <sup>6</sup>) Third Dept. of Internal Medicine, Sap-

poro Medical University Hospital, <sup>7)</sup> Nakata Clinic, <sup>8)</sup> Kyoto Preventive Medical Center) : Exploratory analysis of a phase III trial of pirfenidone identifies a subpopulation of patients with idiopathic pulmonary fibrosis as benefiting from treatment. Taguchi Y, Ogura T, Ebina M, Taniguchi H, Kondoh Y, Suga M, Takahashi H, Nakata K, Sato A, Kudoh S, Nukiwa T. *Respir Res* 2011; 28 (12) : 143.

(2) 総説 :

- 1) 齋藤好信, 弦間昭彦 : 【肺癌化学療法の副作用対策 - その常識と解釈 -】 肺毒性. *日本胸部臨床* 2011; 70 (7) : 708-717.
- 2) 齋藤好信, 弦間昭彦 : 【分子標的薬剤・生物学的製剤と肺障害】 mTOR 阻害薬 (エベロリムス, テムシロリムス) による肺障害. *成人病と生活習慣病* 2011; 41 (7) : 849-854.
- 3) 齋藤好信, 弦間昭彦 : 【薬剤性肺障害】 抗がん薬 (分子標的治療薬も含む) による肺障害. *呼吸器内科* 2011; 20 (2) : 124-130.
- 4) 齋藤好信, 弦間昭彦 : 副作用対策のコツとピットフォール 薬剤性肺障害. *外来癌化学療法* 2011; 2 (3) : 184-185.
- 5) 齋藤好信, 弦間昭彦 : QOL を考えた支持療法のすべて 間質性肺炎への対応. *臨床腫瘍プラクティス* 2011; 7 (4) : 420-423.
- 6) 齋藤好信, 弦間昭彦 : がん化学療法・分子標的治療薬と間質性肺炎 : 診断と治療. *癌と化学療法* 2011; 38 (13) : 2531-2537.
- 7) Yamaya M, Azuma A, Takizawa H, Kadota J, Tamaoki J, Kudoh S : Effects of macrolides to prevent chronic obstructive pulmonary disease exacerbation : Possible mechanisms.(Review). *Eur Respir J* 2012.
- 8) Azuma A : Pirfenidone Treatment of Idiopathic Pulmonary Fibrosis.(Invited Review). *Current Opinion in Pulmonary Medicine* 2012.
- 9) Shigemitsu H, Azuma A : Sarcoidosis and interstitial pulmonary fibrosis : two distinct disorders or two ends of the same spectrum.(Invited Review). *Current Opinion in Pulmonary Medicine* 2011; 17 (5) : 303-307.
- 10) 久保田馨 : 悪い知らせの伝え方. *Medicina* 2011; 48 (13) : 2137-2139.
- 11) 弦間昭彦 : 肺癌治療薬による薬剤性肺障害とその対策. *Medical Practice* 2010 2010.
- 12) 服部久弥子, 木田厚瑞 : 慢性低酸素血症における高次機能障害. *The LUNG : perspectives* 2011; 19 (3) : 297-302.
- 13) 木田厚瑞 : 教育講演 4. 肺の生活習慣病 COPD と肺年齢. *日内会誌* 2011; 100 (9) : 2605-2611.
- 14) 木田厚瑞 : 医療連携による COPD の診断と治療の考え方. *日本臨床* 2011; 69 (10) : 1879-1885.
- 15) 木田厚瑞 : 役割分担・医療連携 2. 医療連携. *日本胸部臨床* 2011; 70 (増刊号) : S254-S261.
- 16) 服部久弥子, 木田厚瑞 : 【内科 疾患インストラクションガイド 何をどう説明するか】 呼吸器疾患 気管支喘息. *Medicina* 2011; 48 (11) : 136-139.
- 17) 木田厚瑞 : 呼吸リハビリテーションの現状と訪問リハビリテーション. *訪問リハビリテーション* 2012; 1 (6) : 385-391.
- 18) 木田厚瑞 : COPD の包括的呼吸リハビリテーション : 併存する循環器疾患の考え方. *心臓リハビリテーション* 2012; 17 (1) : 17-23.
- 19) 茂木 孝 : 【内科 疾患インストラクションガイド 何をどう説明するか】 呼吸器疾患 気管支拡張症. *Medicina* 2011; 48 (11) : 144-147.
- 20) 茂木 孝 : 【COPD の諸問題】 診断基準の妥当性. *呼吸器内科* 2011; 20 (3) : 173-178.
- 21) 石井健男 : 遺伝子からみた効果判定予測 (LABA, SABA, ステロイド) とバイオマーカー. *The LUNG : perspectives* 2011; 19 (2) : 48-52.
- 22) 石井健男 : 【内科 疾患インストラクションガイド 何をどう説明するか】 呼吸器疾患 慢性閉塞性肺疾患.

Medicina 2011; 48 (11): 140-143.

- 23) 原野謙一：婦人科がんの最新の薬物療法 6. 再発・進行子宮体がんの化学療法. 腫瘍内科 2011; 8 (6): 580-585.
- 24) 勝保範之：「座談会」がん診療と内科医の役割：プライマリケアから抗がん剤治療，緩和ケアまで. medicalne 2011; 8 (6).
- 25) 白杵二郎：気管支鏡検査による呼吸器疾患へのアプローチ：肺蛋白症 (I). 日医大医学会誌 2012; 8 (1): 6-8.
- 26) 藤田和恵：【慢性副鼻腔炎の病態と気道・中耳疾患】副鼻腔炎に伴う喘息以外の呼吸器疾患. アレルギー・免疫 2011; 18 (11): 1675-1682.
- 27) 勝保範之<sup>1)</sup>，岡田唯男<sup>2)</sup>，高野利実<sup>3)</sup>，木澤義之<sup>4)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科，<sup>2)</sup> 亀田メディカルセンター 家庭医療科，<sup>3)</sup> 虎の門病院 臨床腫瘍科，<sup>4)</sup> つくば大学大学院 人間総合研修科 (総合診療科)：「座談会」がん診療と内科医の役割—プライマリケアから抗がん剤治療，緩和まで. medicine 2011; 48 (13): 2170-2181.
- 28) 西島伸彦，久保田馨：小細胞肺癌の化学療法. 成人病と生活習慣病 2012; 42 (1): 77-79.
  - 1) 三浦由記子，斎藤武文，吾妻安良太：特発性肺線維症の病態と治療. 最新医学 2011; 66 (6): 1160-1166.
  - 2) 野呂林太郎，本田一文，山田哲司 (1) 国立がん研究センター研究所 (化学療法部)：肺癌診療 Q & A 肺癌の腫瘍マーカーと新しい試みについて教えてください. 肺癌診療 Q&A 2011.
  - 3) 清家正博：電解質異常への対応を教えてください. 肺癌診療 Q&A 2011; 309-311.

## 著書

### 〔追加分〕

#### 追加分：

- 1) 寺本民生，清水隆之，北田光一，斎藤嘉朗，上田志朗，望月眞弓，橋口正行，俵木登美子，宮崎生子，足立幸彦，榊間昌哲，岡本真一郎，伊崎誠一，金澤 實，弦間昭彦，その他 45 名 (1) 慶応義塾大学 血液内科学，<sup>2)</sup> 千葉大学病院 薬剤部，<sup>3)</sup> 国立医薬品食品衛生研究所 医薬安全科学部，<sup>4)</sup> 上田医院，<sup>5)</sup> 慶応義塾大学 薬学研究科 医薬品情報学，<sup>6)</sup> 慶応義塾大学 薬学研究科 医薬品情報学，<sup>7)</sup> 厚生労働省 医薬食品局 安全対策課，<sup>8)</sup> 医薬品医療機器総合機構 健康被害救済部，<sup>9)</sup> 桑名市民病院，<sup>10)</sup> その他)：〔共著〕分子標的薬の副作用. 『日本臨牀』2012年8月増刊「医薬品副作用学 (第2版) - 薬剤の安全性使用アップデート -」(河内 秀治)，2012; 日本臨牀社.
- 1) 齋藤好信，弦間昭彦：〔分担〕12. がん治療に伴う救急疾患 ②化学療法有害事象 c. 抗がん剤による肺障害. Oncologic Emergency がん救急マニュアル (大江裕一郎，新海 哲，高橋俊二)，2011; pp213-216, メジカルビュー.
- 2) 久保田馨：〔共著〕血管新生阻害薬—病態の観点から/5. 肺癌. 血管新生阻害薬のベストマネジメント—癌治療と副作用対策— (西田俊朗・大津敦・土井俊彦)，2011; pp43-46, 金原出版株式会社.
- 3) 弦間昭彦：〔共著〕分子標的薬の副作用とその対策肺毒性. 癌の臨床 (清原祥夫 三嶋裕子 山口研成 藤井博文 相羽恵介)，2011; 篠原出版新社.
- 4) 弦間昭彦：〔共著〕抗腫瘍剤による間質性肺炎の管理. 血液腫瘍科 (弦間昭彦)，2010.
- 5) 弦間昭彦：〔共著〕I 章 分子標的治療薬による副作用の特殊性と対応 1 分子標的薬による副作用の特殊性. 分子標的薬の副作用マネージメント; 南江堂.
- 6) Shimokawa T, Seike M, Soeno C, Uesaka, Miyanaga A, Mizutani H, Kitamura K, Minegishi Y, Noro R, Okano T, Yoshimura A, Gemma A :〔監修〕Enzastaurin has anti-tumour effects in lung cancers with over-expressed JAK pathway molecules. Br J Cancer, 2012; pp867-875.
- 7) Mukai H, Ohyashiki K, Katoh T, Gemma A, Sakai H, Sugiyama Y, Hatake K, Fukuda Y, Kudoh S :〔共著〕Lung injury associated with bortezomib therapy in Japan. Rinsho Ketsueki, 2011; pp1859-1869.

- 8) Abe S, Hayashi H, Seo Y, Matsuda K, Kamio K, Saito Y, Usuki J, Azuma A, Kudo S, Gemma A : [共著] Reduction in high mobility group box-1 level by polymyxin B-immobilized fiber column in patients with idiopathic pulmonary fibrosis with acute exacerbation. *Blood Purif*, 2011 ; pp310-316.
- 9) Satoh H, Inoue A, Kobayashi K, Maemondo M, Oizumi S, Isobe H, Gemma A, Saijyo Y, Yoshimura H, Hagiwara K, Nukiwa T : [共著] Low-dose gefitinib treatment for patients with advanced non-small cell lung cancer harboring sensitive epidermal growth factor receptor mutations. *J Thorac Oncol*, 2011 ; pp1413-1420.
- 10) Yoshii N, Suzuki T, Nagashima M, Kon A, Kakihara K, Gemma A : [共著] Clarification of clinical features of interstitial lung disease irinotecan based on postmarketing surveillance data and spontaneous reports. *Anticancer Drugs*, 2011 ; pp563-571.
- 11) Miyanaga A, Gemma A : [共著] Pleuritis carcinomatosa. *Gan to Kagaku Ryoho*, 2011 ; pp524-531.
- 12) Minegishi Y, Kuribayashi H, Kitamura K, Mizutani H, Kosaihiira S, Okano T, Seike M, Azuma A, Yoshimura A, Kudoh S, Gemma A : [共著] The feasibility study of Carboplatin plus Etoposide for advanced small cell lung cancer with idiopathic interstitial pneumonias. *J Thorac Oncol*, 2011 ; pp801-808.
- 13) 清原祥夫, 三嶋裕子, 山口研成, 藤井博文, 弦間昭彦, 相羽恵介<sup>1)</sup> 静岡県立静岡がんセンター皮膚科, <sup>2)</sup> がん研有明病院血液腫瘍科, <sup>3)</sup> 埼玉県立がんセンター消化器内科, <sup>4)</sup> 自治医科大学附属病院臨床腫瘍科, <sup>5)</sup> 日本医科大学付属病院呼吸器内科, <sup>6)</sup> 東京慈恵医科大学血液・腫瘍内科) : [共著] 肺毒性. 『癌の臨床』特集 「分子標的薬の副作用とその対策」(藤原 大), 2011 ; 篠原出版新社.
- 14) 林 宏紀, 吾妻安良太 : [共著] 【最新の呼吸器疾患ガイドライン】 間質性肺炎のガイドライン. 呼吸と循環, 2011 ; pp367-373, 医学書院.
- 15) 弦間昭彦 : [共著] 1 肺癌 2 パンコースト腫瘍 3 細気管支肺胞上皮癌 4 胸膜中皮腫 5 癌性胸膜炎 6 薬剤誘起性肺炎 7 胸骨下痛 8 胸膜生研 9 胸膜癒着術 10 呼吸器科学. 「南山堂医学大辞典」, 2012 ; 南山堂.
- 16) 石井健男 : [分担] C. 慢性気道炎症を原因とする疾患. 2. 慢性閉塞性肺疾患. 第10章 各疾患の見方と対応. 呼吸器研修ノート (総監修 : 永井良三, 責任編集 : 萩原弘一, 編集 : 芦沢和人, 大泉聡史, 沖永壮治, 服部 登, 星川 康), 2011 ; pp463-469, 診断と治療社.
- 17) 石井健男 : [分担] II. 疾患の病因と病態 7. COPDとセロトニントランスポーター. *Annual Review 呼吸器 2012* (編集 : 永井厚志, 巽 浩一郎, 桑野和善, 高橋和久), 2012 ; pp107-112, 中外医学社.
- 18) 白杵二郎, 功刀しのぶ<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学病理学講座 (解析人体病理学) : [分担] 肺胞蛋白症. 呼吸器内視鏡診断 (弦間昭彦, 池田徳彦 編), 2011 ; 南山堂.
- 19) 白杵二郎, 功刀しのぶ<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学病理学講座 (解析人体病理学) : [分担] リンパ脈管筋腫症. 呼吸器内視鏡診断 (弦間昭彦, 池田徳彦 編), 2011 ; 南山堂.
- 20) 白杵二郎, 功刀しのぶ<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学病理学講座 (解析人体病理学) : [分担] 気管・気管支アミロイドーシス. 呼吸器内視鏡診断 (弦間昭彦, 池田徳彦 編), 2011 ; 南山堂.
- 21) 白杵二郎 : [分担] 気管気管支軟化症. 呼吸器内視鏡診断 (弦間昭彦, 池田徳彦 編), 2011 ; 南山堂.
- 22) 藤田和恵 : [分担] 第2章 呼吸器疾患と呼吸器内視鏡検査 IV 感染性疾患第4章 呼吸器内視鏡検査時の検体処理方法 IV 培養検体処理法. 呼吸器内視鏡診断 所見・病理から見たアプローチ (弦間 昭彦, 池田 徳彦), 2011 ; 南山堂.

## 学会発表

### [追加分]

追加分一般講演 :

- 1) 清家正博, 野呂林太郎, 峯岸裕司, 添野千絵, 吉村明修, 弦間昭彦 : MiR-23a Regulates TGF- $\beta$ -induced Epithelial-Mesenchymal Transition in Lung Cancer Cells in a Smad-dependent manner. 日本癌学会学術総会 (第

70回) (名古屋), 2012. 10.

- 2) 豊川 優, 野呂林太郎, 清家正博, 菅野哲平, 西島伸彦, 小齋平聖治, 峯岸裕司, 添野千絵, 松田久仁子, 吉村明修, 弦間昭彦: 小細胞肺癌に対する mTOR 阻害剤の感受性因子の探索. 日本肺癌学会総会 (第 52 回) (大阪), 2111. 11.

(1) 特別講演:

- 1) 木田厚瑞: 基調講演「Activity promotion: A new focus for pulmonary rehabilitation」(座長). 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 (第 21 回) (松本市), 2011. 11.
- 2) 木田厚瑞: 呼吸リハビリテーションの現状と訪問リハビリテーション. 呼吸ケアと誤嚥ケア学会学術集会 (第 4 回) (津市), 2012. 2.

(2) 招待講演:

- 1) 齋藤好信: がん薬物療法における支持療法の新しい展開 呼吸器系副作用に対する支持療法. 日本臨床腫瘍学会学術集会 (第 9 回) (横浜), 2011. 7.

(3) 教育講演:

- 1) 久保田馨: 21 世紀の臨床現場からみた Oncology 領域の問題点. オンコロジー JAPAN 2011 (第 2 回) (東京), 2011. 11.
- 2) 久保田馨: 進展型小細胞肺癌. 日本肺癌学会 (第 52 回) (大阪), 2011. 11.
- 3) 久保田馨: IV 期非小細胞肺癌患者の management. 日本肺癌学会 (第 52 回) (大阪), 2011. 11.

(4) シンポジウム:

- 1) 茂木 孝: COPD の臨床的諸問題 診断基準の妥当性. 日本呼吸器学会学術講演会 (第 51 回) (東京), 2011. 4.

(5) セミナー:

- 1) 勝俣範之: 考えよう, 標準治療, PAL. 日本癌治療学会学術集会 (第 49 回), 2011. 10.
- 2) 勝俣範之: 発熱性好中球減少症の対処法: 知っておくべきエビデンスとその実績. 日本癌治療学会学術集会 (第 49 回) (名古屋), 2011. 10.
- 3) 勝俣範之: プラチナ感受性再発卵巣がんに対する標準的化学療法は?. 日本癌治療学会学術集会 (第 49 回), 2011. 10.
- 4) 原野謙一: RECIST の解説と有効性評価の実際, 抗がん剤開発における臨床試験実施のポイント. 2012. 3.

(6) ワークショップ:

- 1) 清家正博: 肺癌の発生と薬剤感受性に関する miRNA 研究. 日本癌病態治療研究会 (第 20 回) (東京), 2011. 6.
- 2) 茂木 孝: COPD の早期発見・早期治療を目指して 地域の医療機関との連携・啓発活動. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 (第 21 回) (松本市), 2011. 11.

(7) 一般講演:

- 1) 成田宏介, 野呂林太郎, 豊川 優, 西島伸彦, 菅野哲平, 小齋平聖治, 峯岸裕司, 清家正博, 吉村明修, 久保田馨, 高橋美紀子, 功刀しのぶ, 原田 大, 土屋真一, 弦間昭彦: 両側肺多発結節影を契機に診断に至った HIV 感染合併 histiocytic sarcoma の 1 例. 日本肺癌学会関東支部会 (第 162 回) (東京), 2011. 12.
- 2) 清家正博: 肺癌の個別化治療とトランスレーショナルリサーチの現状. 日本医科大学オーダーメイド医療講演会, 2011. 9.
- 3) 武内 進, 清家正博, 野呂林太郎, 添野千絵, 小齋平聖治, 峯岸裕司, 吉村明修, 弦間昭彦: 悪性中皮腫のペムトレキセド感受性に関する標的遺伝子と microRNA の検討. 日本肺癌学会総会 (第 52 回) (大阪), 2011. 11.
- 4) 都築早美, 楠 裕司, 坂本 徹, 小齋平聖治, 根井貴仁, 齋藤好信, 清家正博, 吾妻安良太, 弦間昭彦, 小林研一<sup>1)</sup>, 阿部信二<sup>1)</sup>, 川本雅司<sup>2)</sup>, 恩田宗彦<sup>2)</sup>, 土屋真一<sup>2)</sup> (1) 東京臨海病院 呼吸器内科, 2) 日本医科大学付属病

- 院 病理部)：緊急 IVR にて救命かつ診断しえた胚細胞性腫瘍による腫瘍性肺塞栓症の 1 例. 日本呼吸器学会関東地方会 (第 196 回) (千葉市中央区), 2011. 9.
- 5) 都築早美, 楠 裕司, 國保成暁, 坂本 徹, 林 宏紀, 小齊平聖治, 齊藤好信, 清家正博, 久保田馨, 吾妻安良太, 弦間昭彦, 渡邊 淳<sup>1)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 遺伝診療科)：EWS による気管支充填術で寛解に至った血管型 Ehlers-Danlos 症候群による難治性気胸の 1 例. 日本呼吸器内視鏡学会関東支部会 (第 139 回) (東京都新宿区), 2011. 12.
  - 6) Minegishi Y, Gemma A : The feasibility of chemotherapy for advanced lung cancer with idiopathic interstitial pneumonias. The European Multidisciplinary Cancer Congress 2011 (Stockholm), 2011. 9.
  - 7) 高橋 聡<sup>1)</sup>, 北村和広<sup>1)</sup>, 恩田直美<sup>1)</sup>, 菅野哲平<sup>1)</sup>, 西島伸彦<sup>1)</sup>, 武内 進<sup>1)</sup>, 豊川 優<sup>1)</sup>, 小齊平聖治<sup>1)</sup>, 野呂林太郎<sup>1)</sup>, 峯岸裕司<sup>1)</sup>, 清家正博<sup>1)</sup>, 吉村明修<sup>1)</sup>, 弦間昭彦<sup>1)</sup>, 高橋美紀子<sup>2)</sup>, 川本雅司<sup>2)</sup>, その他 1 名 (<sup>1)</sup> 日本医科大学 内科学講座呼吸器感染腫瘍部門, <sup>2)</sup> 日本医科大学 病理部)：clear cell differentiation を呈した原発不明癌に Bevacizumab が奏効した 1 例. 日本肺癌学会関東支部会 (第 161 回) (東京), 2011. 6.
  - 8) 長山美貴恵, 國保成暁, 三浦由記子, 林 宏紀, 藤田和恵, 神尾孝一郎, 齋藤好信, 吾妻安良太, 弦間昭彦：IPF 経過中に発症した下葉結核の 2 例. 第 161 回日本結核病学会関東支部学会第 198 回日本呼吸器学会関東地方会合同学会 (エーザイ株式会社本社本館 5 階ホール), 2012. 2.
  - 9) 林 宏紀, 石井健男, 國保成暁, 蔵原美鈴, 茂木 孝, 服部久弥子, 山田浩一, 神尾孝一郎, 弦間昭彦, 木田厚瑞：Cluster analysis revealed differences on quality of life and susceptibility to exacerbation between subpopulations of smokers including COPD. European Respiratory Society (Amsterdam), 2011. 9.
  - 10) 林 宏紀, 白杵二郎, 松田久仁子, 阿部信二, 弦間昭彦, 吾妻安良太：実験的プレオマイシン肺線維症に対する EM900 の効果の検討. マクロライド新作用研究会 (第 18 回) (東京), 2011. 7.
  - 11) Motegi T, Ishii T, Hattori K, Kamio K, Yamada K, Kurahara M, Gemma A, Kida K : Comparison of multidimensional assessment systems with regard to risk prediction for exacerbations of COPD. European Respiratory Society Annual Congress 2011 (Amsterdam), 2011. 9.
  - 12) Hayashi H, Ishii T, Kokuho N, Kurahara M, Motegi T, Hattori K, Yamada K, Kamio K, Gemma A, Kida K : Cluster analysis revealed differences on quality of life and susceptibility to exacerbation between subpopulations of smokers including COPD. European Respiratory Society Annual Congress 2011 (Amsterdam), 2011. 9.
  - 13) Kurahara M, Kokuho N, Hayashi H, Ishii T, Motegi T, Hattori K, Yamada K, Kamio K, Gemma A, Kida K : Clinical characteristics of COPD with mild bronchiectasis. European Respiratory Society Annual Congress 2011 (Amsterdam), 2011. 9.
  - 14) Kokuho N, Ishii T, Hayashi H, Kurahara M, Motegi T, Hattori K, Yamada K, Kamio K, Gemma A, Kida K : Fibrotic component in patients with emphysema reduces both exercise capacity and quality of life and increases exacerbations. European Respiratory Society Annual Congress 2011 (Amsterdam), 2011. 9.
  - 15) Hattori K, Ishii T, Sato N<sup>1)</sup>, Motegi T, Yamada K, Gemma A, Kida K (<sup>1)</sup> Department of Medicine, Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine, Nippon Medical School) : Association between cardiothoracic ratio on plain chest roentgenogram and cardiopulmonary function in patients with chronic obstructive pulmonary disease. American Thoracic Society International Conference 2011 (Denver), 2011. 5.
  - 16) Kamio K, Ishii T, Gao C<sup>1)</sup>, Ota F<sup>1)</sup>, Motegi T, Abe S, Usuki J, Azuma A, Taniguchi N<sup>1)</sup>, Gemma A, Kida K (<sup>1)</sup> Department of Disease Glycomics, Scientific and Industrial Research Institute, Osaka University) : Correlation between Fut8 activity and airflow limitation in patients with chronic obstructive pulmonary disease (COPD) accompanied by the emphysematous phenotype. American Thoracic Society International

Conference 2011 (Denver), 2011. 5.

- 17) Ishii T, Gemma A, Kida K : Association Between Emphysema And Genetic Variations Of Chrna3. American Thoracic Society International Conference 2011 (Denver), 2011. 5.
- 18) 石井健男, 弦間昭彦, 木田厚瑞 : COPD におけるニコチン受容体の遺伝子多型. 日本呼吸器学会学術講演会 (第 51 回) (東京), 2011. 4.
- 19) 服部久弥子, 石井健男, 茂木 孝, 蔵原美鈴, 神尾孝一郎, 山田浩一, 弦間昭彦, 木田厚瑞 : COPD における心胸郭比 (CTR) と心肺機能との関連性に関する検討. 日本呼吸器学会学術講演会 (第 51 回) (東京), 2011. 4.
- 20) 神尾孝一郎, 石井健男, 高 叢笑<sup>1)</sup>, 是金宏昭<sup>1)</sup>, 茂木 孝, 阿部信二, 白杵二郎, 吾妻安良太, 谷口直之<sup>1)</sup>, 弦間昭彦, 木田厚瑞 ( <sup>1)</sup> 大阪大学産業科学研究所疾患糖鎖学寄附研究部門) : COPD と糖転移酵素 Fut8 活性の関係に関する研究 : 第 2 報. 日本呼吸器学会学術講演会 (第 51 回) (東京), 2011. 4.
- 21) 茂木 孝, 石井健男, 服部久弥子, 神尾孝一郎, 蔵原美鈴, 若林律子, 山田浩一, 弦間昭彦, 木田厚瑞 : COPD 増悪における ADO index の有用性の検討. 日本呼吸器学会学術講演会 (第 51 回) (東京), 2011. 4.
- 22) 古籟隆子<sup>1)</sup>, 石井健男, 茂木 孝, 山田浩一, 弦間昭彦, 木田厚瑞 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学呼吸ケアクリニック) : 安定期の慢性閉塞性肺疾患における食思不振の要因に関する研究. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 (第 21 回) (松本市), 2011. 11.
- 23) 國保成暁, 石井健男, 林 宏紀, 蔵原美鈴, 茂木 孝, 服部久弥子, 山田浩一, 神尾孝一郎, 弦間昭彦, 木田厚瑞 : 気腫合併肺線維症 (CPFE) における息苦しさ及び運動耐容能の研究. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 (第 21 回) (松本市), 2011. 11.
- 24) 田鎖幸江<sup>1)</sup>, 瀬川佳余<sup>1)</sup>, 伊藤亜紀<sup>1)</sup>, 山口敬子<sup>1)</sup>, 服部久弥子, 石井健男, 茂木 孝, 木田厚瑞 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学呼吸ケアクリニック) : COPD 増悪におけるアクションプランの効果に関する研究. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 (第 21 回) (松本市), 2011. 11.
- 25) 中村利枝<sup>1)</sup>, 茂木 孝, 楠 祐司, 服部久弥子, 石井健男, 山田浩一, 弦間昭彦, 木田厚瑞 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学呼吸ケアクリニック) : 肺機能検査実施患者のアンケートによる実態調査. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 (第 21 回) (松本市), 2011. 11.
- 26) 國保成暁, 石井健男, 林 宏紀, 蔵原美鈴, 茂木 孝, 服部久弥子, 山田浩一, 神尾孝一郎, 弦間昭彦, 木田厚瑞 : 線維化病変を伴う肺気腫の臨床的研究 : 高齢者の特徴. 日本老年医学会関東甲信越地方会 (第 54 回) (東京), 2011. 9.
- 27) 茂木 孝, 浦西郁哉<sup>1)</sup>, 加藤省吾<sup>1)</sup>, 堀江健夫<sup>2)</sup>, 桂 秀樹<sup>3)</sup>, 水流聡子<sup>1)</sup>, 飯塚悦功<sup>1)</sup>, 木田厚瑞 ( <sup>1)</sup> 東京大学大学院工学系研究科, <sup>2)</sup> 前橋赤十字病院呼吸器科, <sup>3)</sup> 東京女子医大八千代医療センター) : COPD 増悪の治療パス作成に向けた多施設間の治療比較調査. 医療の質・安全学会学術集会 (第 6 回) (東京), 2011. 11.
- 28) 若林律子<sup>1)</sup>, 茂木 孝, 山口敬子<sup>2)</sup>, 瀬川佳余<sup>2)</sup>, 伊藤亜紀<sup>2)</sup>, 田鎖幸江<sup>2)</sup>, 木田厚瑞 ( <sup>1)</sup> 東海大学 健康科学部看護学科, <sup>2)</sup> 日本医科大学呼吸ケアクリニック) : LINQ を用いた慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 患者の情報量の変化に関する研究. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 (第 21 回) (松本市), 2011. 11.
- 29) Yamada M<sup>1)</sup>, Ishii T, Ikeda S<sup>1)</sup>, Sawabe M<sup>2)</sup>, Muramatsu M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Molecular Epidemiology, Moedical Research Institute, Tokyo Medical and Dental University, <sup>2)</sup> Department of Pathology, Tokyo Metropolitan Geriatric Medical Center) : Fucosyltransferase 8 (FUT 8) polymorphism, Thr267Lys, is associated with pulmonary emphysema. Chest 2011 (Honolulu), 2011. 10.
- 30) Yamada M<sup>1)</sup>, Ishii T, Ikeda S<sup>1)</sup>, Sawabe M<sup>2)</sup>, Muramatsu M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Molecular Epidemiology, Moedical Research Institute, Tokyo Medical and Dental University, <sup>2)</sup> Department of Pathology, Tokyo Metropolitan Geriatric Medical Center) : Fucosyltransferase 8 (FUT 8) polymorphism, Thr267Lys, is associated with pulmonary emphysema. 日本人類遺伝学会大会 (第 56 回) (幕張), 2011. 11.

- 31) 石井健男, 萩原弘<sup>1)</sup>, 池田仁子<sup>2)</sup>, 新井富生<sup>3)</sup>, 三重野牧子<sup>4)</sup>, 熊坂利夫<sup>5)</sup>, 村松正明<sup>2)</sup>, 沢辺元司<sup>3)</sup>, 弦間昭彦, 木田厚瑠 ( <sup>1)</sup> 埼玉医科大学呼吸器内科, <sup>2)</sup> 東京医科歯科大学難治疾患研究所分子疫学講座, <sup>3)</sup> 東京都健康長寿医療センター病理部, <sup>4)</sup> 自治医科大学情報センター・医学情報学, <sup>5)</sup> 日本赤十字医療センター病理部) : サーファクタント蛋白SFTPDの遺伝子多型とCT評価の肺気腫重症度との関連. 呼吸機能イメージング研究会学術集会 (第4回) (大津市), 2012. 2.
- 32) 北村和広, 安藤真弘<sup>1)</sup>, 高橋 聡<sup>1)</sup>, 菅野哲平, 西島伸彦, 豊川 優, 小斎平聖治, 野呂林太郎, 峯岸裕司, 清家正博, 吉村明修, 弦間昭彦 ( <sup>1)</sup> 慈山会医学研究所坪井病院) : 胸腔ドレナージ, 胸膜癒着後難治性癌性胸水症例に対するベバシズマブ包括化学療法. 日本肺癌学会総会 (第52回) (大阪), 2011. 11.
- 33) 坂井浩佑, 峯岸裕司, 菅野哲平, 西島伸彦, 三浦由記子, 北村和広, 小斎平聖治, 野呂林太郎, 齋藤好信, 清家正博, 吉村明修, 久保田馨, 弦間昭彦 : EGFR 遺伝子変異陽性既治療進行肺癌症例に発症した癌性髄膜炎に対してV-P シェント術とerlotinib 導入にて良好な予後を得た1症例. 日本肺癌学会関東支部会 (第163回) (東京), 2012. 3.
- 34) Kokuho N, Ishii T, Hayashi H, Motegi T, Hattori K, Yamada K, Kamio K, Gemma A, Kida K : Fibrotic component in patients with emphysema reduces both exercise capacity and quality of life and increases exacerbations. European Respiratory Society (Amsterdam), 2011. 9.
- 35) 板倉潮人<sup>1)</sup>, 春原沙織<sup>1)</sup>, 木下賀央里<sup>1)</sup>, 本郷公英<sup>1)</sup>, 山口朋禎<sup>1)</sup>, 白杵二郎 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院 内科) : CBDCA + TS-1 の化学療法に伴い Stevens-Johnson 症候群を発症し, ステロイド剤大量投与により寛解した1例. 日本呼吸器学会関東地方会 (第197回) (東京都), 2011. 11.
- 36) 三浦由記子, 角田義弥, 蛸井浩行, 田中 徹, 沼田岳士, 清水 圭, 塩澤利博, 松山政史, 谷田貝洋平, 林 士元, 國保成暁, 関根朗雅, 宮崎邦彦, 大塚茂雄, 際本拓未, その他3名 : Pirfenidone の自覚症状に対する効果について. 間質性肺疾患研究会 (第83回) (東京都), 2011. 6.
- 37) 藤田和恵, 林 宏紀, 吾妻安良太 : 関節リウマチの治療中に合併した呼吸器感染症に関する検討. 日本化学療法学会総会 (第59回) (札幌), 2011. 6.
- 38) 清水久実, 清家正博, 恩田直美, 豊川 優, 宮永晃彦, 北村和広, 小斎平聖治, 野呂林太郎, 峯岸裕司, 吉村明修, 弦間昭彦 : FDF-PET を用いた進行非小細胞肺癌の治療効果についての検討. 日本呼吸器学会学術講演会 (第51回) (東京), 2011. 4.
- 39) 久保田馨, 仁保誠治, 関根郁夫, 角美奈子, 二瓶圭二, 関口理砂, 江夏総太郎, 大江裕一郎, 田村友秀友秀 : 局所進行非小細胞肺癌 (扁平上皮癌を除く) に対する PEM/CDDP と胸部放射線同時併用の忍容性確認試験. 日本肺癌学会総会 (第52回) (大阪), 2011. 10.

## [千葉北総病院呼吸器内科]

### 研究概要

[千葉北総病院呼吸器内科] 研究概要 [千葉北総病院呼吸器内科] 研究概要内科学(呼吸器, 感染, 腫瘍部門)を担当し大学付属病院として教育, 臨床研究を担う以外に地域の中核病院として, 以上の三分野について多くの臨床研究実績を持つ。(1) 呼吸器病学: 特発性間質性肺炎の治療法の開発, 慢性閉塞性肺疾患にともなう肺高血症治療, 睡眠時無呼吸症候群の肺循環の超音波評価, 気管支拡張症に対する血清診断分類の開発, 気管支喘息重責発作時の非侵襲的陽圧換気法の評価, 呼吸困難感の評価, 呼吸器疾患に対する大うつ, 閾値下うつ病の潜在診断, 咳喘息の治療評価慢性閉塞性肺疾患の地域連携の方法論の確立, 新しい呼吸抵抗の評価(RINT, MOSTGRAPHを用いた)(2) 感染症学: 市井肺炎の診断と経口抗生剤治療, 肺炎入院治療パスの開発, 病院感染対策, 各種院内感染サーベイランス, 院内肺炎の予防, 特殊感染症診断制御, 結核による院内感染制御, 肺非定型抗酸菌症の治療, RST:呼吸サポートチームの運営と人工呼吸器肺炎の評価, 医療関係者および看護学生に対する麻疹, インフルエンザ, 風疹の抗体価測定と

予防接種, 病院内耐性菌サーベイランス, マクロライドによる各種慢性肺疾患の急性増悪の制御, マクロライド抗菌薬の新作用開発 (3) 臨床腫瘍学: 肺癌抗癌剤化学療法と副作用対策, 肺癌の分子生物学的治療標的に対する至適治療法の確立, 肺癌の超音波気管支内視鏡 (EBUS) 診断, 抗癌剤による副作用としての薬剤性肺臓炎の診断と治療, 以上につき臨床研究を継続中である.

## 研究業績

### 学会発表

(1) 一般講演:

- 1) Hino M, Ono Y, Tanaka Y, Kuribayashi H, Atsumi K, Onda N, Ishikawa S<sup>1)</sup>, Kanabako S<sup>1)</sup> (1) Take-mura Manufacturing CO. Ltd.) : Practical application of photocatalytic air purifier (RAYMAC-BE-005) in negative-pressure room of respiratory disease center. Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology (16th) (Shanghai), 2011. 11.
- 2) Hino M, Ono Y, Tanaka Y, Kuribayashi H, Atsumi K, Onda N : A phaseII trial of carboplatin,paclitaxel plus UFT (cpu regimen) in chemo-naïve patients with advanced non-small-cell lung cancer. Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology (16th) (Shanghai), 2011. 11.
- 3) Tanaka Y, Hino M, Onda N, Atsumi K, Kuribayashi H, Ono Y, Gemma A<sup>1)</sup> (1) Department of Internal Medicine (Divisions of Pulmonary Medicine,Infectious Diseases,and Oncology),Nippon Medical School) : Evaluation of right ventricular function assessed in awakened patients with obstructive sleep disordered breathing. Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology (16th) (Shanghai), 2011. 11.
- 4) Atsumi K, Tanaka Y, Hino M, Onda N, Kuribayashi H, Ono Y, Gemma A<sup>1)</sup> (1) Department of Internal Medicine (Divisions of Pulmonary Medicine,Infectious Diseases,and Oncology),Nippon Medical School) : Study of pulmonary thromboembolism (PTE) in patients with lung cancer. Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology (16th) (Shanghai), 2011. 11.

## 5. 精神医学講座

### [付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科]

#### 研究概要

精神疾患の病態を解明し、より科学的で適切な治療法を開発することを目的に、診療場面で遭遇する症例を対象とする臨床研究を中心に行った。その際に、標準化された精神科診断学、症状評価法とともに各種の画像解析法を駆使し、精神障害の症状や病態を可能な限り科学的に捉えることに心がけた。今年度は以下の研究を行った。1. 分子イメージングを用いた精神疾患の病態研究：ポジトロン CT (PET) による神経伝達機能イメージングを用いて、統合失調症および気分障害など精神疾患の神経伝達機能異常を調べた。アルツハイマー病の早期診断法の確立を目指して、アミロイドイメージングの開発研究を行った。さらにドーパミントランスポーターイメージングを新規に開発導入した。2. 分子イメージングを用いた向精神薬の評価に関する研究：PET を用いて、抗精神病薬・抗うつ薬の作用・副作用と脳内特異的作用点の変化の関連を調べ、治療効果の客観的評価法の開発を目指した。3. 向知性薬によるドーピング効果の検出法の開発研究：PET および fMRI を用いて、ドーパミン放出、ドーパミントランスポーター阻害作用、高次脳機能賦活に対する脳血流反応を調べ、向知性薬によるドーピング効果の脳内基盤を調べ、向知性薬によるドーピング効果の検出法の開発研究を行った。4. 血管性うつ病の研究：血管性うつ病に対し脳画像、治療など様々な検討を行った。5. 老年期精神障害および認知症に関する臨床研究を行った。6. 高度救命救急センターに搬送された自殺未遂例に対する介入研究を行った。また厚生労働省による自殺関連戦略研究にもコア施設として参加した。7. 児童思春期の精神障害に関する研究：子どものうつ病に関する研究を行った。さらに、子どもの精神症状および問題行動について質問紙を用い横断的、縦断的な理解を深める研究を行った。8. コンサルテーション・リエゾンや緩和ケアに関する研究や調査を行った。

#### 研究業績

##### 論文

##### [追加分]

追加分総説：

- 1) 木村真人：脳卒中に伴う精神障害。特集 身体疾患に伴う精神障害 update。総合病院精神医学 2011；23 (1)：2-10.

追加分研究報告書：

- 1) 関根瑞穂，荒川亮介，奥村正紀，一宮哲哉，館野 周，斎藤卓弥，伊藤 浩，須原哲也，大久保善朗：抗うつ薬による脳内ノルエピネフリントランスポーター占有率に関する PET 研究。精神薬療研究年報 2011；43：25-26.

(1) 原著：

- 1) Kunishige T<sup>1)</sup>, Omori A, Tateno A, Yahata N<sup>2)</sup>, Hori J<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Ophthalmology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Neuropsychiatry, Graduate School of Medicine, University of Tokyo) : Cortical blindness caused by hypoxemia following an asthma attack. Jpn J Ophthalmol 2011；55：588-590.
- 2) 肥田道彦，滝沢勇一，皆川 薫，山本正浩，一宮哲哉，館野 周，大久保善朗：fMRI が診断に有用であった器質性健忘症候群の 1 症例。臨床精神医学 2011；40 (10)：1347-1351.
- 3) Kishi Y, Kurosawa H, Morimura H, Hatta K, Thurber S : Attitudes of Japanese nursing personnel toward

- patients who have attempted suicide. *Gen Hosp Psychiatry* 2011 ; 33 (4) : 393-397.
- 4) Takahashi H<sup>1)</sup>, Sassa T<sup>2)</sup>, Shibuya T<sup>3)</sup>, Kato M<sup>4)</sup>, Koeda M<sup>5)</sup>, Murai T<sup>1)</sup>, Matsuura M<sup>6)</sup>, Asai K<sup>2)</sup>, Suhara T<sup>7)</sup>, Okubo Y<sup>5)</sup> (1) Department of psychiatry, Kyoto University, 2) Asai Hospital, 3) Department of Human Science, Toyo Gakuen University, 4) Department of Neuropsychiatry, Keio University, 5) Department of Neuropsychiatry, Nippon Medical School, 6) Department of Life Sciences and Bio-informatics, Tokyo Medical and Dental University, 7) Department of Molecular Neuroimaging, National Institute of Radiological Sciences) : Effects of sports participation on psychiatric symptoms and brain activations during sports observation in schizophrenia. *Translational Psychiatry* 2012 ; 2 (e96) : 1-6.
  - 5) 本橋伸高, 一瀬邦弘, 鮫島達夫, 粟田主一, 奥村正紀, 大久保善朗, 川寄弘詔, 澤 温, 分島 徹, 和田健, 山口成良 : 修正型電気けいれん療法 (mECT) 地域連携・麻酔科との連携をどのように行うか : ECT 実態調査の報告. *精神神経学雑誌* 2011 ; 113 : SS233-SS237.
  - 6) 一瀬邦弘, 鮫島達夫, 粟田主一, 奥村正紀, 鹿島晴雄, 本橋伸高, 澤 温, 和田 健, 分島 徹, 川寄弘詔, 山口成良, 大久保善朗 : わが国の電気けいれん療法 (ECT) の現況 日本精神神経学会 ECT 検討委員会の全国実態調査から. *精神神経学雑誌* 2011 ; 113 (9) : 939-951.
  - 7) 伊藤滋朗, 川島義高, 野村俊明, 大久保善朗 : 医学生を対象とする精神障害に関するチュートリアル教育の試み 精神障害に関する知識と偏見. *日本社会精神医学会雑誌* 2011 ; 20 (3) : 271.
  - 8) 宮本聖也, 熊田貴之, 大久保善朗, 平安良雄 : 今日の統合失調症薬物治療における blonanserin の位置付け 神奈川県下におけるアンケート調査の結果より. *臨床精神薬理* 2011 ; 14 (7) : 1257-1267.
  - 9) Takahashi H, Takano H, Yamada M, Eguchi Y, Murai T, Okubo Y, Kato M, Ito H, Suhara T : Honesty mediates the relationship between serotonin and reaction to unfairness. *Proc Natl Acad Sci USA* 2012 ; 109 (11) : 4281-4284.
  - 10) Suzuki M, Takahashi S, Matsushima E, Tsunoda T, Kurachi M, Okada T, Hayashi T, Ishii Y, Morita K, Maeda H, Otsuka T, Hirayasu Y, Sekine M, Okubo Y, Motoshita M, et al : Relationships between exploratory eye movement dysfunction and clinical symptoms in schizophrenia. *Psychiatry Clin Neurosci* 2012 ; 66 (3) : 187-194.
  - 11) Takahashi H, Fujie S, Camerer C, Arakawa R, Takano H, Kodaka F, Matsui H, Ideno T, Okubo S, Takemura K, Yamada M, Eguchi Y, Murai T, Okubo Y, Kato M, et al : Norepinephrine in the brain is associated with aversion to financial loss. *Mol Psychiatry* 2012 ; 1-2.
  - 12) Adachi N, Onuma T, Kato M, Ito M, Akanuma N, Hara T, Oana Y, Okubo Y, Matsuura M : Analogy between psychosis antedating epilepsy and epilepsy antedating psychosis. *Epilepsia* 2011 ; 52 (7) : 1239-1244.
  - 13) Marutani T, Yahata N, Ikeda Y, Ito T, Yamamoto M, Matsuura M, Matsushima E, Okubo Y, Suzuki H, Matsuda T : Functional magnetic resonance imaging study on the effects of acute single administration of paroxetine on motivation-related brain activity. *Psychiatry Clin Neurosci* 2011 ; 65 (2) : 191-198.
  - 14) 木村真人 : Escitalopram の薬理学的特徴. 特集 新規抗うつ薬 escitalopram. *臨床精神薬理* 2011 ; 14 (8) : 1323-1331.
  - 15) 成重竜一郎, 川島義高, 齊藤卓弥, 大久保善朗 : 児童・青年期の自殺未遂者の原因・動機に関する検討. *児童青年精神医学とその近接領域* 2012 ; 53 (1) : 46-53.
- (2) 総説 :
- 1) 館野 周, 大久保善朗 : [18F]AV-45 によるアミロイドイメージング 日本臨牀増刊号 認知症学 (前) : その解明と治療の最新知見. *日本臨牀増刊号* 2011 ; 1008 : 561-564.
  - 2) 金 禹瑱, 大久保善朗 : オーバートレーニング症候群とうつ病. *臨床精神医学* 2011 ; 40 (9) : 1171-1178.

- 3) 岸 泰宏：救急薬剤プラクティカルガイド 悪性症候群・セロトニン症候群. 救急医学 2011；35 (10)：1473-1476.
- 4) 岸 泰宏：一般救急における精神科医の役割：脊髄損傷患者への対応. 精神科治療学 2011；26 (10)：1263-1270.
- 5) 岸 泰宏：神経症性障害の治療ガイドライン：(第I章) 疾患別項目 これまでの治療ガイドライン ストレス関連障害. 精神科治療学 2011；26 (増刊)：292-296.
- 6) 岸 泰宏：認知症の臨床的診断-薬物投与の前に鑑別を要する病態：せん妄. 認知症の最新医療 2011；1 (3)：112-118.
- 7) 上田 諭：電気けいれん療法は必須の精神科治療である：「電気ショック」批判にこたえる. こころの科学増刊 精神科臨床はどこへいく 2011；52-58.
- 8) 上田 諭：高齢者の妄想性障害：特徴とその周辺. 老年精神医学雑誌 2011；22 (8)：906-913.
- 9) 上田 諭：ECTの有効な「方法」を問う一歩：「発作時脳波を用いた急性期 m-ECT 施行アルゴリズム作成の試み」(本誌 53：263-270, 2011)によせて. 精神医学 2011；53 (10)：1027-1028.
- 10) 上田 諭：レビー小体型認知症の精神症状への問いかけ：塚本壇, 山本健治, 畠山佳久ほか：「アンモニア臭」を呈したレビー小体型認知症の1例. 精神科治療学, 25；1097-1103, 2010. に寄せて. 精神科治療学 2012；27 (3)：406-407.
- 11) 下田健吾, 木村真人：身体疾患と向精神薬：身体疾患に伴う精神障害治療 各科疾患における向精神薬の使用法 脳血管障害. 日本臨床 2012；70 (1)：89-93.
- 12) 下田健吾, 木村真人：うつ状態を理解する：うつ病だけでなく！さまざまな疾患に付随する「うつ状態」を正しく診る トピックス 若年性認知症とうつ状態. 治療 2011；93 (12)：2401-2405.
- 13) 下田健吾：精神医学のトピックス うつ病はアルツハイマー病のリスクファクターか？. 認知症の最新医療 2011；1 (1)：34-37.
- 14) 伊藤滋朗：てんかんのPET研究. epilepsy てんかんの総合学術誌 2011；5 (1)：4-7.
- 15) 大久保善朗：この40年と精神医学. カテゴリーモデルからディメンジョンモデルへ. 臨床精神医学 2011；40 (12)：1631-1634.
- 16) 大久保善朗：分子イメージングによる抗精神病薬の評価. 精神科治療学 2011；26 (11)：1449-1455.
- 17) 大久保善朗：画像診断のより上手な使い方 幻覚妄想の分子イメージング 統合失調症とパーキンソン病の精神病症状. Frontiers in Parkinson Disease 2011；4 (4)：208-211.
- 18) 大久保善朗：PET 所見を中心にしたパリペリドン徐放錠の薬理的考察. 精神科 2011；19 (2)：152-159.
- 19) 木村真人：「超高齢化社会における精神病像の新しい側面」高齢者のうつ状態 多面的アプローチ. 老年精神医学雑誌 2011；22 (8)：920-927.
- 20) 木村真人：脳卒中後のうつとアパシー. 神経心理学 2011；27 (3)：205-212.
- 21) 木村真人：脳卒中とうつ病：Post-stroke Depression. 分子精神医学 2011；11 (3)：74-76.
- 22) 伊藤敬雄<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学精神医学)：精神疾患 3) 急性精神疾患 (自殺企図後の薬物療法を中心に). 救急医学 2011；35 (10)：1482-1486.
- 23) 伊藤敬雄<sup>1,2)</sup> (1) 小平駅前クリニック, 2) 日本医科大学精神医学教室)：認知症と睡眠障害 認知症に見られる睡眠障害への非薬物療法. ねむりと医療 2012；5 (1)：24-28.
- 24) 伊藤敬雄<sup>1,2)</sup> (1) 小平駅前クリニック, 2) 日本医科大学精神医学教室)：救急に必要となる精神科的知識と対応 過量服薬 (Overdose) を繰り返すリピーターの患者を精神科医はちゃんと治療しているの？. 救急・集中治療 2012；24 (1・2)：254-260.

(3) 症例報告：

- 1) Ueda S, Sakayori T, Nobuyuki Y, Okubo Y：Successful switching from sine-wave to pulse-wave with oral

theophylline the night before electroconvulsive therapy for depression. *Psychiatry and Clinical Neurosciences* 2011 ; 65 : 604-605.

- 2) 上田 諭, 肥田道彦, 大久保善朗: H2 ブロッカー lafutidine による薬剤誘発性せん妄: 癌術後の3症例. *臨床精神医学* 2011 ; 40 (10) : 1359-1363.
- 3) 上田 諭, 大久保善朗: 「Kitwood の公式」の有用性: 対人心理要因への介入でBPSDが著明に改善したAD症例. *精神医学* 2011 ; 53 (9) : 907-913.
- 4) 小川耕平, 大久保善朗: 地域に埋もれる社交不安障害患者. *病院・地域精神医学* 2011 ; 54 (1) : 39-41.
- 1) 下田健吾: 統合失調症の開放病棟からの転落受傷につき, 病院側の管理瑕疵が問われた事例. *医事判例解説* 2011 ; (31) : 134-139.

(4) 話題のくすり :

- 1) 木村真人: エスシタロプラムシュウ酸塩. *日病薬誌* 2012 ; 48 (3) : 371-375.

## 著 書

### 〔追加分〕

#### 追加分 :

- 1) 伊藤敬雄: 高齢者の不眠症. 新「名医」の最新治療 2011 (週刊朝日編集室), 2010 ; pp118-122, 朝日新聞出版.
- 1) 館野 周, 大久保善朗: [分担] 脳内イメージングからみた心身医学: 疼痛障害の画像所見. 専門医のための精神科臨床リュミエール (石津 宏), 2011 ; pp95-99, 中山書店.
- 2) 松木秀幸<sup>1)</sup>, 岸 泰宏<sup>1)</sup> 埼玉医科大学総合医療センター): [分担] 妊娠・周産期・授乳期の向精神薬の使用. 向精神薬・身体疾患治療薬の相互作用に関する指針 (日本総合病院精神医学会治療治療戦略検討委員会), 2011 ; pp115-164, 星和書店.
- 3) 下田健吾, 木村真人: [分担] 精神科領域からみた心身症 身体表現性障害の心身医学. 専門医のための精神科臨床リュミエール 27 (石津宏), 2011 ; pp230-238, 中山書店.
- 4) 大久保善朗: [分担] 脳血流量, 関心領域など. *精神医学事典* (加藤敏 他), 2011 ; 弘文社.
- 5) 大久保善朗: [分担] PET による薬効評価からみた非定型高精神病薬の投与方法. 統合失調症治療の新たなストラテジー (石郷岡純 他), 2011 ; pp159-164, 先端医学者.

## 学会発表

### (1) 特別講演 :

- 1) 大久保善朗: Paliperidone 徐放錠の脳内動態特性. 大分県精神科医学会学術講演会 (別府), 2011. 5.
- 2) 大久保善朗: PET 研究からみた統合失調症の病態. *1st Psychiatry Frontier*, 2011. 7.
- 3) 大久保善朗: うつ病の治療と画像診断. *城北臨床精神医学会* (第17回), 2011. 11.
- 4) 大久保善朗: 精神科医から見た循環器心身医学診療. *日本循環器心身医学会* (東京), 2011. 11.

### (2) 招待講演 :

- 1) Kishi Y : Management of delirium. *Korean Society of Psychosomatic Medicine Annual Meeting* (Seoul, Korea), 2011. 6.
- 2) Okubo Y : Molecular imaging of antipsychotic drug action using positron emission tomography. *The Annual Meeting of Schizophrenia Society in Korea* (Tegu), 2011. 10.

### (3) 教育講演 :

- 1) 岸 泰宏: 妊娠・周産期・授乳期の向精神薬使用. 第107回日本精神神経学会 (東京), 2011. 10.

(4) シンポジウム：

- 1) Tateno A : Brain imaging study for mood disorder. International Conference of Affective Disorder (Tokyo), 2011. 10.
- 2) 三宅康史, 有賀 徹, 大塚耕太郎, 大橋寛子, 河西千秋, 岸 泰宏, 坂本由美子, 守村 洋, 柳澤八重子, 山田朋樹: 救急関連 training course の現状と展望 救急医療における精神科的評価 PEEC コースについて. 第 14 回日本臨床救急医学会総会 (札幌), 2011. 6.
- 3) 岸 泰宏: せん妄の診断・現象学と今後の課題. 第 24 回日本総合病院精神医学会 (福岡), 2011. 11.
- 4) 上田 諭: 【ECT の有効な「方法」を問う】 治療閾値を超える刺激設定が必要: 「方法」総論. 日本精神神経学会学術総会 (第 107 回) (東京), 2011. 10.
- 5) 上田 諭: 【ECT の新しい展開—パルス波導入 10 年を迎えて】 パルス波の方法論の進歩. 日本総合病院精神医学会 (第 24 回) (福岡), 2011. 11.
- 6) 大久保善朗: ICD-10 における「depression」の翻訳問題. 日本うつ病学会総会 (第 8 回), 2011. 7.
- 7) 大久保善朗: 分子イメージングからみた向精神薬の薬効評価. 日本臨床薬理学会年会 (第 32 回) (浜松), 2011. 12.
- 8) 原 義明<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 木村真人, 横田裕行<sup>1)</sup> (1) 救命救急医学): 救命救急センターにおける IC の現状と工夫. 第 107 回日本精神神経学会学術大会総会 (東京), 2011. 10.
- 9) 木村真人: 高齢者うつ病の多面的側面. シンポジウム 1 うつ病「増加」の実態を考える. 第 8 回日本うつ病学会総会 (大阪), 2011. 7.
- 10) 伊藤敬雄<sup>2) 1)</sup> (1) 小平駅前クリニック, 2) 日本医科大学精神医学教室): 認知症にみられる睡眠障害とその治療に関して. 第 24 回日本総合病院精神医学会総会 (福岡), 2011. 11.

(5) セミナー：

- 1) 大久保善朗: 分子イメージングからみた精神疾患の病態と治療. 日本精神科診断学会 (第 31 回) (松本), 2011. 11.
- 2) 木村真人: 脳卒中後のうつとアパシー. 第 11 回日本外来精神医学医療学会 (東京), 2011. 7.
- 3) 木村真人: 脳卒中後のうつとアパシー. 第 8 回日本うつ病学会総会 (大阪), 2011. 7.
- 4) 木村真人: 脳卒中後のうつとアパシー. 第 25 回日本神経救急学会学術集会 (東京), 2011. 6.

(6) 一般講演：

- 1) 川島義高, 成重竜一郎, 館野 周, 伊藤敬雄, 本間房恵, 大久保善朗: 自殺未遂者に対する神経心理学検査の有用性: 当院入院中に施行した 1 症例. 第 107 回日本精神神経学会 (東京), 2011. 10.
- 2) Yoshitaka K, Takao I, Ryuichiro N, Takuya S, Yoshiro O : Gender differences in suicide attempts among adolescents in Japan. The International Association for Suicide Prevention XXVI IASP World Congress (Beijing, China), 2011. 9.
- 3) 川島義高, 伊藤敬雄, 成重竜一郎, 大高靖史, 齊藤卓弥, 大久保善朗: 精神科未治療の自殺未遂者: 思春期症例を対象として. 第 35 回日本自殺予防学会 (沖縄), 2011. 12.
- 4) Sabri O<sup>1)</sup>, Ischihara K<sup>2)</sup>, Tateno A, Drzezga A<sup>3)</sup>, Grimmer T<sup>3)</sup>, Senda M<sup>4)</sup>, Yamamoto Y<sup>5)</sup>, Hiemeyer F<sup>6)</sup>, Reininger C<sup>6)</sup>, Barthel H<sup>1)</sup> (1) University of Leipzig, 2) Department of Radiology, Nippon Medical School, 3) Technical University Munich, 4) Institute of Biomedical Research and Innovation, 5) Kobe University Hospital, 6) Bayer Healthcare) : Global phase 2b trial on Florbetaben for  $\beta$ -amyloid brain PET in Alzheimer's disease. SNM Annual Meeting (58th) (San Antonio, Texas, U.S.A.), 2011. 6.
- 5) Osama S<sup>1)</sup>, Gertz H<sup>1)</sup>, Ischihara K<sup>2)</sup>, Tateno A, Drzezga A<sup>3)</sup>, Grimmer T<sup>3)</sup>, Senda M<sup>4)</sup>, Yamamoto Y<sup>5)</sup>, Hiemeyer F<sup>6)</sup>, Mckieth I<sup>6)</sup>, O'brien J<sup>6)</sup>, Walker Z<sup>6)</sup>, Reininger C<sup>6)</sup>, Seibyl J<sup>6)</sup>, Barthel H<sup>1)</sup> (1) University of Leipzig, 2) Department of Radiology, Nippon Medical School, 3) Technical University Munich, 4) Institute

- of Biomedical Research and Innovation, <sup>5</sup> Kobe University Hospital, <sup>6</sup> Bayer Healthcare) : Efficacy and safety of florbetaben for beta-amyloid brain positron emission tomography in Alzheimer's disease : results from a global phase 2b trial. Alzheimer's Association International Conference on Alzheimer's Disease 2011 (Paris, France), 2011. 7.
- 6) Sabri O<sup>1</sup>), Gertz H<sup>1</sup>), Ischihara K<sup>2</sup>), Tateno A, Drzezga A<sup>3</sup>), Grimmer T<sup>3</sup>), Senda M<sup>4</sup>), Yamamoto Y<sup>5</sup>), Reininger C<sup>6</sup>), Barthel H<sup>1</sup>) (<sup>1</sup> University of Leipzig, <sup>2</sup> Nippon Medical School, Department of Radiology, <sup>3</sup> Technical University Munich, <sup>4</sup> IBRI, <sup>5</sup> Kobe University Hospital, <sup>6</sup> Bayer Healthcare) : Global phase 2b efficacy and safety trial of florbetaben for beta-amyloid brain positron emission tomography in Alzheimer's disease. Annual Congress of the European Association of Nuclear Medicine (11) (Birmingham, UK), 2011. 10.
- 7) Sabri O<sup>1</sup>), Gertz H<sup>1</sup>), Ischihara K<sup>2</sup>), Tateno A, Drzezga A<sup>3</sup>), Grimmer T<sup>3</sup>), Senda M<sup>4</sup>), Yamamoto Y<sup>5</sup>), Reininger C<sup>6</sup>), Barthel H<sup>1</sup>) (<sup>1</sup> University of Leipzig, <sup>2</sup> Nippon Medical School, Department of Radiology, <sup>3</sup> Technical University Munich, <sup>4</sup> IBRI, <sup>5</sup> Kobe University Hospital, <sup>6</sup> Bayer Healthcare) : A Global phase 2b efficacy and safety trial to investigate florbetaben beta-amyloid brain positron emission tomography in Alzheimer's disease. Human Amyloid Imaging (Miami, Florida, U.S.A.), 2012. 1.
- 8) Karibe H<sup>1</sup>), Aoyagi-Naka K<sup>1</sup>), Koeda M, Yahata N<sup>2</sup>), Tateno A, Suzuki H<sup>3</sup>), Okubo Y (<sup>1</sup> Department of Pediatric Dentistry, School of Life Dentistry, Nippon Dental University, <sup>2</sup> Department of Psychiatry, University of Tokyo, <sup>3</sup> Department of Pharmacology, Nippon Medical School) : Cerebral activation associated with sounds of dental treatment : an fMRI study. Neuroscience 2011 (Washington, DC, U.S.A.), 2011. 11.
- 9) 富澤大佑<sup>1</sup>), 川島正人<sup>1</sup>), 嶋田昌彦<sup>1</sup>), 館野 周, 大久保善朗 (<sup>1</sup> 東京医科歯科大学歯学部) : 歯科領域における精神科コンサルテーション・リエゾン (CL) 診療での M.I.N.I.(精神疾患簡易構造化面接) の使用の試み. 日本歯科心身医学会総会 (第 26 回) (札幌, 北海道), 2011. 7.
- 10) 長濱健一郎<sup>1</sup>), 戸田由美子<sup>1</sup>), 原真由美<sup>1</sup>), 野々垣香織<sup>1</sup>), 園木健太郎<sup>1</sup>), 肥田道彦, 館野 周, 大久保善朗 (<sup>1</sup> 日本医科大学) : 精神疾患の臨床病態評価に向けた音声感情認知評価法の開発. 日本医科大学医学会総会 (第 79 回) (東京), 2011. 9.
- 11) 池田裕美子<sup>1</sup>), 肥田道彦, 金禹 & #29897 ; , 八幡憲明<sup>2</sup>), 高橋英彦<sup>3</sup>), 館野 周, 大久保善朗, 鈴木秀典<sup>3</sup>) (<sup>1</sup> 日本医科大学薬理学教室, <sup>2</sup> 東京大学精神科, <sup>3</sup> 京都大学精神科) : 健常者における注意ネットワークに対するカフェインの効果 : 薬理的 fMRI 研究. 日本神経科学学会大会 (第 34 回) (神奈川), 2011. 9.
- 12) 川島義高, 成重竜一郎, 館野 周, 伊藤敬雄, 本間房恵, 大久保善朗 : 自殺未遂者に対する神経心理学検査の有用性 : 当院入院中に施行した 1 症例. 日本精神神経学会学術総会 (第 107 回) (東京), 2011. 10.
- 13) 富澤大佑<sup>1</sup>), 川島正人<sup>1</sup>), 嶋田昌彦<sup>1</sup>), 館野 周, 大久保善朗 (<sup>1</sup> 東京医科歯科大学歯学部) : 歯科領域におけるコンサルテーション・リエゾン精神医療の検討. 日本総合病院精神医学会総会 (第 24 回) (福岡), 2011. 11.
- 14) 富田理紗子, 山本正浩, 館野 周, 大久保善朗 : 精神病症状を神秘体験として了解し, 未治療のまま二十数年を経過した統合失調症の 1 例. 日本統合失調症学会 (第 7 回) (名古屋), 2012. 3.
- 15) 平林恵美, 野村俊明, 伊藤滋朗, 岸 泰宏 : 救命救急センターに搬送された自殺企図患者のフォローアップ研究. 第 24 回日本総合病院精神医学会 (福岡), 2011. 11.
- 16) Koeda M<sup>1</sup>), Yukari N<sup>2</sup>), Yumiko I<sup>3</sup>), Amane T<sup>1</sup>), Kim W<sup>1</sup>), Hidehiko T<sup>4</sup>), Hidenori S<sup>3</sup>), Masato M<sup>5</sup>), Yoshiro O<sup>1</sup>) (<sup>1</sup> Department of Neuropsychiatry, Nippon Medical School, <sup>2</sup> Department of Bioinformatics, Tokyo Medical and Dental University, <sup>3</sup> Department of Pharmacology, Nippon Medical School, <sup>4</sup> Department of Neuropsychiatry, Kyoto University, <sup>5</sup> Department of Biofunctional Informatics, Tokyo Medical and Dental University) : Effect of Caffeine and Placebo on Cerebral Response to Vocal Emotional Sounds and Working Memory : An fMRI Study. 17th Annual Meeting of the Organization on Human Brain Mapping (Centre des

- Congres de Quebec, Canada), 2011. 6.
- 17) Michihiko K<sup>1)</sup>, Pascal B<sup>2)</sup>, Tomoko H<sup>3)</sup>, Tadashi M<sup>4)</sup>, Masato M<sup>3)</sup>, Yoshiro O<sup>1)</sup> (1) Department of Neuropsychiatry, Nippon Medical School, 2) Voice Neurocognition Laboratory, Center for Cognitive Neuroimaging and Department of Psychology, University of Glasgow, UK, 3) Department of Functional Bioinformatics, Tokyo Medical and Dental University, 4) Division of Human Support System, Faculty of Symbiotic Systems Science, Fukushima University) : Cultural Effects on the Perception of Non-linguistic Affective Vocalization by Japanese and Canadian Subjects. British Neuropsychiatry Association 25th Anniversary AGM (Institute of Child Health, London), 2012. 2.
  - 18) 肥田道彦<sup>1)</sup>, 高橋英彦<sup>2)</sup>, 八幡憲明<sup>3)</sup>, 松浦雅人<sup>4)</sup>, 浅井邦彦<sup>5)</sup>, 大久保善朗<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 精神神経科, 2) 京都大学 精神神経科, 3) 東京大学 精神神経科, 4) 東京医科歯科大学 生命機能情報解析学, 5) 医療法人 静和会 浅井病院) : 統合失調症患者の音声プロソディー認知に関する機能的 MRI 研究. 日本統合失調症学会 (第 6 回) (札幌コンベンションセンター), 2011. 7.
  - 19) Ueda S, Sakayori T, Yamaoka N, Okubo Y : Successful augmentation of seizure induction with oral theophylline in electroconvulsive therapy for depression. International Psychogeriatric Association 15th International Congress (オランダ・ハーグ), 2011. 9.
  - 20) 上田 諭, 大久保善朗 : 「Kitwood の公式」対人心理要因への介入で BPSD が著明に改善した AD 症例. 日本精神神経学会学術総会 (第 107 回) (東京), 2011. 10.
  - 21) 上田 諭 : 抗精神病薬による欠陥症候群 (NIDS) の重畳がうつ病相をわかりにくくする : 慢性化または認知症化との鑑別を要す精神病性双極性障害の 2 症例. 日本精神病理・精神療法学会 (第 33 回), 2011. 10.
  - 22) 上田 諭, 坂寄 健, 山岡宣行, 大久保善朗 : ECT 前夜の theophylline 内服でサイン波からパルス波へ移行してきた高齢者うつ病症例. 日本総合病院精神医学会 (第 24 回) (福岡), 2011. 11.
  - 23) 下田健吾, 木村真人 : うつ病と睡眠時無呼吸症候群の併発例の経過および治療 : 自験例を通じて. 第 8 回日本うつ病学会総会 (大阪), 2011. 7.
  - 24) 下田健吾, 木村真人, 池森紀夫 : 急増している認知症の初診患者数. 第 24 回日本総合病院精神医学会総会 (福岡), 2011. 11.
  - 25) 大久保善朗, 館野 周, 坂寄 健 : アミロイドイメージングによる高齢者うつ病性仮性認知症の病態診断. 精神神経系薬物治療研究報告会 (第 44 回) (大阪), 2011. 12.
  - 26) 小野紘子, 鎌田悠里, 秋山友美, 横田雅美, 水成隆之<sup>1)</sup>, 木村真人 (1) 脳神経外科) : 脳血管障害後のうつとアパシーについて : 損傷部位の検討. 第 24 回日本総合病院精神医学会総会 (福岡), 2011. 11.
  - 27) 秋山友美, 小野紘子, 横田雅美, 池森紀夫, 下田健吾, 木村真人 : 健常者における軽躁的性格傾向と光トポグラフィによる検討. 第 24 回日本総合病院精神医学会総会 (福岡), 2011. 11.
  - 28) 横田雅美, 木村真人 : 疼痛性障害を伴う顎関節症患者に対するリラクゼーションの応用について. 第 27 回日本催眠学会学術大会 (東京), 2011. 10.
  - 29) 鎌田悠里, 菅野朋子, 柳町公美, 中山菜央, 横田雅美, 木村真人 : うつ状態患者における L-SAS-J 評価による SAD の併存. 第 107 回日本精神神経学会学術大会総会 (東京), 2011. 10.
  - 30) 山岡宣行, 石坂公介, 中尾泰崇, 鮫島達夫, 池森紀夫, 下田健吾, 木村真人 : 過量服薬の背景に他院での大量処方方が問題となった 1 例. 第 16 回千葉総合病院精神科研究会 (千葉), 2011. 10.
  - 31) 横田雅美, 古山めぐみ, 池森紀夫, 下田健吾, 木村真人 : 緩和ケアにおける口腔ケアの重要性. 第 16 回千葉総合病院精神科研究会 (千葉), 2011. 10.
  - 32) 寺西美佳, 栗田征武<sup>1)</sup>, 西野 敏<sup>1)</sup>, 武吉健児<sup>1)</sup>, 沼田由紀夫<sup>1)</sup>, 佐藤忠宏<sup>1)</sup>, 池森紀夫, 下田健吾, 館野 周, 木村真人, 大久保善朗 (1) 公徳会 佐藤病院) : 認知症の BPSD に対する薬物療法 : RCT を用いた検討. 第 30 回北総精神科医会 (千葉), 2011. 10.

- 33) 木村真人：反復性の産後うつ病で混合状態を呈した症例. 第30回北総精神科医会（千葉），2011. 10.
- 34) 今井希依，鎌田悠里，太田杏奈，秋山友美，横田雅美，池森紀夫，下田健吾，木村真人：うつ状態患者に併存する社交不安障害の心理学的特徴：L-SAS-Jによる検討. 第119回日本心身医学会関東地方会（東京），2011. 10.
- 35) 秋山友美，小野紘子，横田雅美，中山菜央，池森紀夫，下田健吾，木村真人：うつ病の治療経過中にSSRI誘発性アパシーを呈した患者の光トポグラフィによる検討. 第8回日本うつ病学会総会（大阪），2011. 7.
- 36) 横田雅美，秋山友美，小野紘子，池森紀夫，下田健吾，木村真人：高齢者MCIとうつに対するVSRADによる検討. 第8回日本うつ病学会総会（大阪），2011. 7.
- 37) 鎌田悠里，中山菜央，横田雅美，池森紀夫，下田健吾，木村真人：うつ状態患者におけるLSAS-Jと他の心理検査による検討. 第8回日本うつ病学会総会（大阪），2011. 7.
- 38) 小野紘子，横田雅美，鎌田悠里，水成隆之<sup>1)</sup>，木村真人<sup>1)</sup>（脳神経外科）：脳血管障害後のうつとアパシーの関連及び破局反応について. 第8回日本うつ病学会総会（大阪），2011. 7.
- 39) 成重竜一郎，齊藤卓弥：ゾルピデムによるせん妄を呈した児童思春期症例の検討. 日本精神神経学会学術総会（第107回）（東京），2011. 10.
- 40) 成重竜一郎，鈴木砂由里<sup>1)</sup>，高取祐子<sup>1)</sup>，柴崎 哲<sup>1)</sup>，大島 希<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 社会医療法人公徳会若宮病院）：地域医療としての児童思春期精神科医療を目指す取組：若宮病院児童思春期部門開設1年間の診療統計から. 日本児童青年精神医学会総会（第52回）（徳島），2011. 11.
- 41) 高取祐子<sup>1)</sup>，成重竜一郎，鈴木砂由里<sup>1)</sup>，柴崎 哲<sup>1)</sup>，大島 希<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 社会医療法人公徳会若宮病院）：医療機関における児童思春期を対象とした精神保健相談の有用性に関する検討. 日本児童青年精神医学会総会（第52回）（徳島），2011. 11.
- 42) 大高靖史，伊藤敬雄，成重竜一郎，川島義高，大久保義朗：飛び降り自殺を企図した重症自殺未遂例のマネジメントについて：チームアプローチを活用した自殺再発予防の取り組み. 日本自殺予防学会総会（第35回）（沖縄），2011. 12.
- 43) 鈴木砂由里<sup>1)</sup>，成重竜一郎，高取祐子<sup>1)</sup>，柴崎 哲<sup>1)</sup>，大島 希<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 社会医療法人公徳会若宮病院）：児童思春期専門ユニットを用いた治療のあり方の検討：山形県に新規開設した児童思春期ユニットにおける経験から. 日本児童青年精神医学会総会（第52回）（徳島），2011. 11.
- 44) 伊藤敬雄<sup>2,1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学精神医学教室，<sup>2)</sup> 小平駅前クリニック）：自殺未遂者ケアのための医学生教育の検討. 第107回 日本精神神経学会学術総会（東京），2011. 10.

## 6. 小児科学講座

[付属病院小児科・武蔵小杉病院周産期・小児医療センター（小児科，小児外科，新生児科）・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科]

### 研究業績

#### 論文

[追加分]

追加分原著：

- 1) Narazaki H<sup>1)</sup>, Zhu Y<sup>1)</sup>, Luo L<sup>1)</sup>, Zhu G<sup>1)</sup>, Chen L<sup>1)</sup> (1) Department of Oncology and the Sidney Kimmel Comprehensive Cancer Center, Johns Hopkins University School of Medicine, Baltimore, MD) : CD137 agonist antibody prevents cancer recurrence : contribution of CD137 on both hematopoietic and nonhematopoietic cells. *Blood* 2010 ; 115 (10) : 1941-1948.
- 2) Park J<sup>1)</sup>, Omiya R<sup>1)</sup>, Matsumura Y<sup>1)</sup>, Sakoda Y<sup>1)</sup>, Kuramasu A<sup>1)</sup>, Augustine M<sup>2)</sup>, Yao S<sup>2)</sup>, Tsushima F<sup>2)</sup>, Narazaki H<sup>2)</sup>, Anand S<sup>2)</sup>, Liu Y<sup>1)</sup>, Strome S<sup>1, 3)</sup>, Chen L<sup>2)</sup>, Tamada K<sup>1, 3)</sup> (1) Marlene and Stewart Greenebaum Cancer Center, University of Maryland, Baltimore, MD, 2) Department of Oncology and Institute for Cell Engineering, Johns Hopkins University School of Medicine, Baltimore, MD, 3) Department of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery, University of Maryland School of Medicine, Baltimore, MD) : B7-H1/CD80 interaction is required for the induction and maintenance of peripheral T-cell tolerance. *Blood* 2010 ; 116 (8) : 1291-1298.

(1) 原著：

- 1) Fukazawa R<sup>1, 2)</sup>, Tamai J<sup>3, 4)</sup>, Imai T<sup>1, 2)</sup>, Takeda S<sup>1, 2)</sup>, Hayakawa J<sup>1, 2)</sup>, Narazaki H<sup>1, 2)</sup>, Shimizu K<sup>1, 2)</sup>, Takase M<sup>1, 2)</sup> (1) Department of Pediatrics, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 2) Department of Pediatrics, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, 3) Department of Clinical Radiology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 4) Department of Radiology, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital) : Multi-row detector computed tomography coronary angiogram image of an anomalous left coronary artery from the pulmonary artery. *J Nippon Med Sch* 2011 ; 78 (1) : 2-3.
- 2) Hayakawa J, Migita M, Ueda T, Ito Y, Fukunaga Y : An infantile case of SLE-like symptoms in complete C1q deficiency. *J Nippon Med Sch* 2011 ; 78 (5) : 322-328.
- 3) Hayakawa J, Migita M, Ueda T, Ito Y, Fukunaga Y : An infantile case of early manifestation of SLE-like symptoms in complete C1q deficiency. *J Nippon Med Sch* 2011 ; 78 (5) : 322-328.
- 4) Uchida N, Hsieh M, Hayakawa J, Madison C, Washington K, Tisdale J : Optimal conditions for lentiviral transduction of engrafting human CD34 (+) cells. *Gene Ther* 2011 ; 18 (11) : 1078-1086.
- 5) 早川 潤, 峯 牧子 : Beals 症候群の 1 例. *小児科* 2011 ; 52 (12) : 1571-1572.
- 6) 植田高弘 : どのようなときに乳児の貧血を疑って検査すべきですか. *小児内科* 2011 ; 43 (増刊号) : 232-234.
- 7) 植田高弘, 前田美穂 : 先天性中胚葉性腎腫. 腎臓症候群 (第 2 版)—その他の腎臓疾患を含めて— 2012 ; 17 (17) : 664-667.
- 8) 植田高弘 : 注射の仕方. *小児科* 2011 ; 52 (5) : 759-764.
- 9) Ueda T<sup>1)</sup>, Migita M<sup>1)</sup>, Yamanishi M<sup>1)</sup>, Maeda M<sup>1)</sup>, Harano K<sup>2)</sup>, Fukunaga Y<sup>1)</sup> (1) Department of Pediatrics,

- Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Clinical Nutrition, Faculty of Medical Health Science and Technology, Kawasaki University of Medical Welfare): A 6-year-old Girl with Hemoglobin H Disease. *J Nippon Med Sch* 2011; 78 (2) : 101-104.
- 10) 阿部正徳<sup>1,2)</sup>, 渡辺 誠<sup>1,2)</sup>, 山内仁紫<sup>3)</sup>, 落 雅美<sup>3)</sup>, 小川俊一<sup>1,2)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学大学院医学研究科小児医学, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院小児科, <sup>3)</sup> 日本医科大学外科学 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門): 待機術直前に無症候性大動脈解離をきたしたと思われる Marfan 症候群の 1 例. *日医大医学会誌* 2011; 4 (4) : 179-182.
  - 11) 小川俊一: 川崎病後遺症の診断と治療ガイドラインのポイント. *日本臨版 冠動脈疾患—診断と治療の進歩—* 2011; 69 (9) : 529-535.
  - 12) 小川俊一: II. 検査にせまる (検査結果から本態にせまる) 冠循環. *小児科診療* 2011; 81 (8) : 1163-1170.
  - 13) 中澤 誠, 新垣義夫, 上村 茂, 小川俊一, 長嶋正實, 柳川幸重, 吉永正夫: 日本小児循環器第一期学会専門医試験の検証と展望. *日本小児循環器学会雑誌* 2011; 27 (3) : 134-140.
  - 14) Kawakami Y<sup>1,2)</sup>, Tsukimoto M<sup>3)</sup>, Kuwabara K<sup>1,4)</sup>, Fujita T<sup>1,5)</sup>, Fujino O<sup>1,6)</sup>, Kojima S<sup>3)</sup>, Fukunaga Y<sup>1,4)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Pediatrics, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Pediatrics, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, <sup>3)</sup> Department of Radiation Biology, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Tokyo University of Science, <sup>4)</sup> Department of Pediatrics, Nippon Medical School Hospital, <sup>5)</sup> Department of Pediatrics, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, <sup>6)</sup> Department of Pediatrics, Nippon School China Hokusoh Hospital): Tumor Necrosis Factor- $\alpha$ -induced Mononuclear Cell Death May Contribute to Polymorphonuclear Cell Predominance in the Cerebrospinal Fluid of Patients with Bacterial Meningitis. *J Nippon Med Sch* 2011; 78 (6) : 359-366.
  - 15) 五十嵐徹: 採尿・浣腸. *小児科* 2011; 52 (5) : 743-748.
  - 16) 高木篤史<sup>1)</sup>, 右田 真<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学小児科学, <sup>2)</sup> 日本医科大学小児科学/同 遺伝診療科): マルチプルスルファターゼ欠損症. *ライソゾーム病* 2011; 173-176.
  - 17) Asano T, Kogawa K, Morimoto A, Ishida Y, Suzuki N, Ohga S, Kudo K, Ohta S, Wakiguchi H, Tabuchi K, Kato S, Ishii E: Hemophagocytic Lymphohistiocytosis After Hematopoietic Stem Cell Transplantation in Children: A Nationwide Survey in Japan. *Pediatr Blood Cancer* 2011.
  - 18) Asano T, Koizumi S, Takagi A, Hatori T, Kuwabara K, Fujino O, Fukunaga Y: Identification of a novel biomarker candidate, a 4.8-kDa peptide fragment from a neurosecretory protein VGF precursor, by proteomic analysis of cerebrospinal fluid from children with acute encephalopathy using SELDI-TOF-MS. *BMC Neurol* 11, 101. SELDI-TOF-MS. *BMC Neurol* 2011; 11 (12) : 101.
  - 19) Asano T, Ichiki K, Koizumi S, Kaizu K, Hatori T, Mashiko K, Sakamoto Y, Miyasho T, Fujino O, Fukunaga Y: High Mobility Group Box 1 in Cerebrospinal Fluid from several neurological diseases at Early Time Points. *Int J Neurosci* 2011; 121 (8) : 480-484.
  - 20) Asano T, Ichiki K, Koizumi S, Kaizu K, Hatori T, Fujino O, Mashiko K, Sakamoto Y, Miyasho T, Fukunaga Y: Increased cytokines and chemokines in cerebrospinal fluids in mumps meningitis in children. *Pediatr Int* 2011; 53 (2) : 143-146.
  - 21) 浅野 健: 中腎腫瘍 (mesonephric tumor), 中腎癌 (mesonephric carcinoma); 腎臓症候群: その他の腎臓疾患を含めて. *日本臨床* 2011 年別冊 2011.
  - 22) 植崎秀彦, 伊藤保彦: クローズアップ 小児リウマチ・膠原病 (小児リウマチ性疾患の診断へのアプローチ) 長引く発熱の鑑別診断. *小児内科* 2012; 44 (1) : 19-23.
  - 23) Tsuji N, Kakee N, Ishida Y, Asami K, Tabuchi K, Nakadate H, Iwai T, Maeda M, Okamura J, Kazama T, Terada Y, Ohyama W, Yuza Y, Kaneko T, Manabe A, et al.: Validation of the Japanese version of the Pediatric Quality of Life Inventory (PedsQL) Cancer Module. *Health Qual Life Outcomes*. 2011; 9 (22) :

178-193.

- 24) 河上智美<sup>1)</sup>, 前田美穂<sup>2)</sup>, 阿部勝巳<sup>3)</sup>, 山内邦昭<sup>3)</sup>, 荻部洋行<sup>1)</sup>, 福永慶隆<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本歯科大学生命歯学部小児歯科学講座 (歯科医師/小児歯科), <sup>2)</sup> 日本医科大学小児科 (医師/小児科), <sup>3)</sup> 東京都予防医学協会 (団体役員) ): 鉄欠乏と異食症の関係: 第1報 思春期の鉄欠乏性貧血における異食症の実態. 小児保健研究 2011; 70 (4): 472-478.
- 25) Hasegawa H<sup>1)</sup>, Kawasaki K<sup>2)</sup>, Umehara M<sup>3)</sup>, Takase M<sup>4)</sup>, Inoue H<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Neonatal Intensive Care, Tokyo Women's Medical University Medical Center East, <sup>2)</sup> Division of Pediatric Pulmonology, National Center for Child Health and Development, <sup>3)</sup> Umehara Children's Clinic, <sup>4)</sup> Department of Pediatrics, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, <sup>5)</sup> Department of Pediatrics, Sumitomo Hospital ): Epidemiologic survey of patients with congenital central hypoventilation syndrome in Japan. Pediatrics International 2012; 54 (1): 123-126.
- 26) Kawakami Y, Tsukimoto M, Kuwabara K<sup>1)</sup>, Fujita T, Fujino O, Kojima S<sup>1)</sup>, Fukunaga Y ( <sup>1)</sup> Department of Radiation Biology, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Tokyo University of Science ): Tumor Necrosis Factor- $\alpha$ -induced Mononuclear Cell Death May Contribute to Polymorphonuclear Cell Predominance in the Cerebrospinal Fluid of Patients with Bacterial Meningitis. J Nippon Med Sch 2011; 78 (6): 360-366.
- 27) Kawakami Y, Tsukimoto M<sup>1)</sup>, Kuwabara K, Fujita T, Fujino O, Kojima S<sup>1)</sup>, Fukunaga Y ( <sup>1)</sup> Department of Radiation Biology, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Tokyo University of Science ): Neopterin May Enhance TNF- $\alpha$ -mediated Mononuclear Cell Death in the Cerebrospinal Fluid of Patients with Bacterial Meningitis. Pteridines 2011; 22 (4): 91-96.
- 28) Nishida S<sup>1)</sup>, Fukazawa R<sup>1)</sup>, Imai T<sup>1)</sup>, Takeda S<sup>1)</sup>, Hayakawa J<sup>1)</sup>, Takeuchi H<sup>1)</sup>, Shimizu K<sup>1)</sup>, Kawakami Y<sup>1)</sup>, Takase M<sup>1)</sup> : Serum KL-6 and surfactant protein D in children with 2009 pandemic H1N1 influenza infection. Pediatr Int 2011; 53 (6): 910-914.
- 29) Fukazawa R<sup>1)</sup>, Tamai J<sup>2)</sup>, Imai T<sup>1)</sup>, Takeda S<sup>1)</sup>, Hayakawa J<sup>1)</sup>, Narazaki H<sup>1)</sup>, Shimizu K<sup>1)</sup>, Takase M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pediatrics, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Radiology, Nippon Medical School ): Multi-row detector computed tomography coronary angiogram image of an anomalous left coronary artery from the pulmonary artery. J Nippon Med Sch 2011; 78 (1): 2-3.
- 30) Hayashi M<sup>1, 2)</sup>, Denjoy I<sup>2)</sup>, Hayashi M<sup>3, 2)</sup>, Extramiana F<sup>2)</sup>, Maltret A<sup>4)</sup>, Roux-Buisson N<sup>5)</sup>, Lupoglazoff J<sup>6)</sup>, Klug D<sup>7)</sup>, Maury P<sup>8)</sup>, Messali A<sup>2)</sup>, Guicheney P<sup>9)</sup>, Leenhardt A<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pediatrics, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, <sup>2)</sup> Service de Cardiologie, Hopital Bichat, Assistance Publique - Hopitaux de Paris, Universite Paris Diderot, INSERM U942, Paris, France, <sup>3)</sup> Department of Cardiology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, <sup>4)</sup> Cardiologie Pediatrique, Hopital Necker-Enfants-Malades, Paris, France, <sup>5)</sup> Laboratoire de Biochimie et Genetique Moleculaire, CHU Grenoble, France, <sup>6)</sup> Unite de Cardiologie Neonatale, Hopital Robert-Debre, Paris, France, <sup>7)</sup> Service de Cardiologie A, Hopital Cardiologique de Lille, Lille, France, <sup>8)</sup> Unite de rythmologie et de stimulation cardiaque, federation de cardiologie, CHU Rangueil, Toulouse, France, <sup>9)</sup> INSERM-UPMC UMR\_S956, Genetique, pharmacologie et physiopathologie des maladies cardiovasculaires, Faculte de Medecine Pierre et Marie Curie, Paris) : The role of stress test for predicting genetic mutations and future cardiac events in asymptomatic relatives of catecholaminergic polymorphic ventricular tachycardia probands. Europace 2011; 14 (9): 1344-1351.
- 31) Hayashi M<sup>1, 2)</sup>, Denjoy I<sup>2)</sup>, Hayashi A<sup>3, 2)</sup>, Extramiana F<sup>2)</sup>, Maltret A<sup>4)</sup>, Roux-Buisson N<sup>5)</sup>, Lupoglazoff J<sup>6)</sup>, Klug D<sup>7)</sup>, Maury P<sup>8)</sup>, Messali A<sup>2)</sup>, Guicheney P<sup>9)</sup>, Leenhardt A<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pediatrics, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, <sup>2)</sup> Service de Cardiologie, Hopital Bichat, Assistance Publique - Hopitaux de Paris, Universite Paris Diderot, INSERM U942, Paris, France, <sup>3)</sup> Department of Cardiology, Nippon Medical

School, Tokyo, Japan, <sup>4)</sup>Cardiologie Pédiatrique, Hopital Necker-Enfants-Malades, Paris, France, <sup>5)</sup>Laboratoire de Biochimie et Genetique Moleculaire, CHU Grenoble, France, <sup>6)</sup> Unite de Cardiologie Neonatale, Hopital Robert-Debre, Paris, France, <sup>7)</sup>Service de Cardiologie A, Hopital Cardiologique de Lille, Lille, France, <sup>8)</sup> Unite de rythmologie et de stimulation cardiaque, federation de cardiologie, CHU Rangueil, Toulouse, France, <sup>9)</sup>INSERM-UPMC UMR\_S956, Genetique, pharmacologie et physiopathologie des maladies cardiovasculaires, Faculte de Medecine Pierre et Marie Curie, Paris) : The role of stress test for predicting genetic mutations and future cardiac events in asymptomatic relatives of catecholaminergic polymorphic ventricular tachycardia probands. *Europace* 2012 ; 14 : inpress.

(2) 総説 :

- 1) 大木由加志 : 低身長. 乳幼児診療 A to Z. II. 乳幼児における症状・症候—診察所見を中心にした診断へのアプローチ 33 2011 ; 52 (5) : 693-696.
- 2) 大木由加志, 折茂裕美 : 小児・思春期糖尿病におけるシックデいの管理 (国際小児思春期糖尿病学会診療ガイドライン 2006~2008. 日本小児科学会雑誌 2008 ; 112 (9) : 1471-1478.
- 3) 小川俊一<sup>1)</sup>, 落 雅美<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>日本医科大学小児科, <sup>2)</sup>同心臓血管外科) : 冠動脈障害を有する川崎病既往者の冠循環動態および侵襲的治療前後の冠循環動態を考察する. 冠疾患誌 2011 ; 17 : 66-74.
- 4) 前田美穂 : 治療後, 将来妊娠への影響はありますか?. がんサポートガイド 治療増刊号 2011 ; 93 (4) : 1187-1189.
- 5) 前田美穂 (<sup>1)</sup>日本医科大学小児科) : ライフパンから見た小児診療. 腫瘍疾患 : 晩期合併症血液腫瘍性疾患. 小児内科 2011 ; 43 (9) : 1481-1485.
- 6) 高瀬真人 : 乳幼児診療 A to Z 診察法の基本 身体所見の取り方 胸郭・呼吸器系. 小児科 2011 ; 52 (5) : 546-550.
- 7) 川上康彦, 藤野 修 : 小児におけるけいれんと間違えやすい病態の鑑別. 小児科 2011 ; 52 (8) : 1177-1183.

(3) 症例報告 :

- 1) 阿部正徳, 渡辺 誠, 山内仁紫<sup>1)</sup>, 落 雅美<sup>1)</sup>, 小川俊一 (<sup>1)</sup>日本医科大学外科学 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門)) : 待機術直前に無症候性大動脈解離をきたしたと思われる Marfan 症候群の 1 例. 日医大医会誌 2011 ; 7 (4) : 179-182.

## 著 書

[追加分]

追加分 :

- 1) 大木由加志 : [分担] 内分泌代謝疾患. 総合診療マニュアル・疾患編 XV131. 内分泌疾患 (上原譽志夫, 他 編), 2010 ; pp910-914, 金芳堂.
- 1) 大木由加志 : [分担] 2型糖尿病の治療. 小児内分泌学・初版 II. 各論 10. 糖・脂質代謝異常症 B. 糖尿病 .2 型糖尿病 2 (日本小児内分泌学会編), 2010 ; pp468-471, 診断と治療社.
- 2) 大木由加志 : [分担] 小児・思春期糖尿病管理の手引き (第3版). 診療コンセンサス・ガイドライン II.1 型糖尿病 .7. シックデイ A (日本糖尿病学会編), 2011 ; pp146-150, 南江堂.
- 3) 大木由加志 : [分担] インスリン療法. 小児・思春期糖尿病管理の手引き (第3版) 診療コンセンサス・ガイドライン III.2 型糖尿病 .5 (日本糖尿病学会編), 2011 ; pp195-1197.
- 4) 柳原 剛 (<sup>1)</sup>日本医科大学武蔵小杉病院小児科) : [分担] 特集 小児腎疾患への対応 1 学校検尿の目的と意義. 小児科, 2011 ; pp1843-1850, 金原出版株式会社.
- 5) 前田美穂 : [分担] 小児の鉄欠乏性貧血. 今日の治療指針 (山口徹・北原光夫・福井次矢), 2012 ; pp1164-1165, 医学書院.

- 6) 前田美穂：〔分担〕長期フォローアップガイドライン概説。よくわかる小児がん経験者のために（加藤俊一・石田也寸志・前田美穂），2011；pp15-19，医薬ジャーナル。
- 7) 前田美穂：〔分担〕急性リンパ性白血病 疾患別のポイント。よくわかる小児がん経験者のために（加藤俊一・石田也寸志・前田美穂），2011；pp20-24，医薬ジャーナル。
- 8) 前田美穂：〔分担〕輸血 治療法による注意点。よくわかる小児がん経験者のために（加藤俊一・石田也寸志・前田美穂），2011；p78，医薬ジャーナル。
- 9) 前田美穂：〔分担〕循環器・臓器別・機能別のポイント。よくわかる小児がん経験者のために（加藤俊一・石田也寸志・前田美穂），2011；pp110-112，医薬ジャーナル。
- 10) 前田美穂：〔分担〕小児血液・腫瘍性疾患のキャリアオーバーと長期フォローアップ（第15版）。今日の小児治療指針，2012；pp552-553，医学書院。
- 11) 前田美穂：〔分担〕晩期合併症対策。小児がん診療ハンドブック，2011；pp314-322，医薬ジャーナル。
- 12) 前田美穂：〔分担〕赤血球輸血の適応と輸血量の目安は何か。小児白血病・リンパ腫の診療ガイドライン，2011；pp107-108，金原出版。
- 13) 藤田武久<sup>(1)</sup>（日本医科大学武蔵小杉病院小児科）：〔分担〕医療シリーズ，てんかんの診断と検査—1—。ともしび，2011；pp18-21。
- 14) 藤田武久<sup>(1)</sup>（日本医科大学武蔵小杉病院小児科）：〔分担〕医療シリーズ，てんかんの診断と検査—2—。ともしび，2011；pp18-21。
- 15) 藤田武久<sup>(1)</sup>（日本医科大学武蔵小杉病院小児科）：〔分担〕医療シリーズ，てんかんの診断と検査—3—。ともしび，2011；pp18-21。
- 16) 大谷尚子，大西文子，五十嵐徹，砂村京子：〔共著〕養護教諭のためのフィジカルアセスメント。見て学ぶ応急処置の基礎基本，2011；pp1-8，日本小児医事出版社。
- 17) 五十嵐徹：〔分担〕MTXと生物学的製剤で広がるJIA治療。Japan Medicine MONTHLY，2011；p3，じほう。

## 学会発表

### 〔追加分〕

#### 追加分一般講演：

- 1) 浅野 健，平川慶子，小池 薫，大野曜吉，宮武千晴，小泉慎也，海津聖彦，榎崎秀彦，藤野 修，福永慶隆：核磁気共鳴法を用いた小児の脳症・熱性けいれん児の髄液の代謝解析。日本小児科学会学術集会（第114回）（東京），2011。3。

#### (1) 招待講演：

- 1) Fukazawa R<sup>(1)</sup>（Department of Pediatrics, Nippon Medical School）：Analysis of the Etiology of Kawasaki Disease：from the Genetic Standpoint. Kawasaki Disease Symposium (10th) (Kyoto), 2012。2。
- 2) Fukazawa R<sup>(1)</sup>（Department of Pediatrics, Nippon Medical School）：Analysis of the Etiology of Kawasaki Disease：from the Genetic Standpoint. International Kawasaki Symposium (10th) (Kyoto), 2012。2。

#### (2) シンポジウム：

- 1) 高瀬真人：乳児喘息に吸入ステロイド薬は有用か？ Con の立場から。日本小児呼吸器疾患学会（第44回）（栃木県宇都宮市），2011。10。
- 2) 高瀬真人：肺音の現状と応用 軽度気道狭窄に伴う正常呼吸音のスペクトル変化。日本小児アレルギー学会（第48回）（福岡県福岡市），2011。10。
- 3) 高瀬真人：小児咳嗽診断・治療のストラテジ：学童・思春期のポイント。日本小児呼吸器疾患学会（第44回）（栃木県宇都宮市），2011。10。

- 4) 増田愛菜<sup>1)</sup>, 川上康彦, 齊藤賢一<sup>1)</sup> (1) 日本獣医生命科学大学食品健康環境学教室) : 抗ヒスタミン剤 (dexchlorpheniramine) 投与によるマウス脳波の変化. 智のシンポジウム (第4回) (東京都), 2011. 11.
- (3) 一般講演 :
- 1) 板橋寿和, 大塚雅美, 山西未穂, 赤尾見春, 柳原 剛, 藤松真理子, 上砂光裕, 右田 真, 藤田武久, 勝部康弘 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院小児科) : 診断に苦慮した Guillain-Barre 症候群の1例. 川崎市小児科医会症例検討会 (第321回) (川崎), 2011. 4.
  - 2) 矢代健太郎, 松村好克 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院新生児内科) : 当院 NICU の拡張と活動について. 川崎市小児科医会症例検討会 (第321回) (川崎), 2011. 4.
  - 3) 高橋 翼 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院小児外科) : 日常よくみられる小児外科疾患. 川崎市小児科医会症例検討会 (第321回) (川崎), 2011. 4.
  - 4) 藤松真理子, 藤田武久 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院小児科) : RS ウイルスによる肺炎が重症化および遷延化した West 症候群の1例. 日本小児神経学会総会 (第53回) (横浜), 2011. 5.
  - 5) Takeshi Y<sup>1)</sup>, Kaoru A<sup>1)</sup>, Nao T<sup>1)</sup>, Toru I<sup>2)</sup>, Yasuhiko I<sup>2)</sup>, Yoshitaka F<sup>2)</sup> (1) Department of Pediatrics, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, Kanagawa, Japan, 2) Department of Pediatrics, Nippon Medical School Tokyo, Japan) : Evaluation of the renal histological findings in immunoglobulin A nephropathy patients without any immunosuppressive treatment. Asian Congress of Pediatric Nephrology (The 11th) 日本小児腎臓病学会学術集会 (第46回) (福岡), 2011. 6.
  - 6) 大塚雅美<sup>1)</sup>, 田辺雄次郎<sup>1)</sup>, 安藝 薫<sup>1)</sup>, 小林史子<sup>1)</sup>, 柳原 剛<sup>1)</sup>, 藤松真理子<sup>1)</sup>, 上砂光裕<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 山崎浩<sup>2)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院小児科, 2) 国立感染症研究所寄生動物部) : 日本海裂頭条虫の兄弟例. 日本小児科学会学術集会 (第114回) (品川), 2011. 8.
  - 7) 田辺雄次郎<sup>1)</sup>, 藤松真理子<sup>1)</sup>, 小林史子<sup>1)</sup>, 安藝 薫<sup>1)</sup>, 柳原 剛<sup>1)</sup>, 上砂光裕<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 北野良博<sup>2)</sup>, 黒田達夫<sup>2)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院小児科, 2) 国立成育医療研究センター病院外科) : 生後2か月で発症した骨盤内神経芽種の1例. 日本小児科学会学術集会 (第114回) (品川), 2011. 8.
  - 8) 勝部康弘<sup>1)</sup>, 赤尾見春<sup>1)</sup>, 渡辺 誠<sup>2)</sup>, 阿部正徳<sup>2)</sup>, 上砂光裕<sup>1)</sup>, 深澤隆治<sup>2)</sup>, 小川俊一<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院小児科, 2) 日本医科大学) : バイオマーカーは症状の揃わない川崎病の診断補助となり得るか?. 日本小児科学会学術集会 (第114回) (品川), 2011. 8.
  - 9) 松川昇平<sup>1)</sup>, 小林史子<sup>1)</sup>, 花岡央泰<sup>2)</sup>, 大塚雅美<sup>1)</sup>, 西脇レイ<sup>1)</sup>, 藤松真理子<sup>1)</sup>, 柳原 剛<sup>1)</sup>, 上砂光裕<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院周産期・小児医療センター小児科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院整形外科) : 多発骨折を契機に発見された被虐待児症候群の1例. 日本医科大学医学会総会 (第79回) (東京), 2011. 9.
  - 10) 矢代健太郎<sup>1)</sup>, 松村好克<sup>1)</sup>, 右田 真<sup>2)</sup>, 勝部康弘<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院新生児内科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院小児科) : 日本医科大学武蔵小杉病院 NICU の拡張について. 日本医科大学医学会総会 (第79回) (東京), 2011. 9.
  - 11) 矢代健太郎 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院新生児内科) : 当院 NICU・GCU の拡張について. 神奈川新生児研究会 (第10回) (川崎), 2011. 10.
  - 12) 赤尾見春<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup>, 上砂光裕<sup>1)</sup>, 大塚雅美<sup>1)</sup>, 佐藤潤一郎<sup>2)</sup>, 朴 仁三<sup>2)</sup>, 安藤 誠<sup>3)</sup>, 長谷川久弥<sup>4)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院小児科, 2) 榊原記念病院小児科, 3) 榊原記念病院外科, 4) 東京女子医科大学東医療センター新生児科) : 部分閉鎖を伴う重複大動脈弓による血管輪の1乳児例. 神奈川小児循環器研究会 (第7回) (横浜), 2011. 10.
  - 13) 赤尾見春<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院小児科) : 先天性心疾患根治術後の肺高血圧残存症例について. 神奈川小児肺高血圧研究会 (第4回) (横浜), 2011. 10.
  - 14) 大塚雅美<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院小児科) : 部分閉鎖を伴う重複大動脈弓による血管輪の1乳児例. 川

- 崎市小児科医会症例検討会（第326回）（川崎），2011. 10.
- 15) 右田 真<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院小児科)：母由来 H19-DMR の高メチル化により発症した Beckwith-Wiedemann 症候群の1例：遺伝子診断が教えてくれること. 川崎市小児科医会症例検討会（第326回）（川崎），2011. 10.
  - 16) 島 義雄<sup>1,2)</sup> (1) 葛飾赤十字産院小児科, 2) 日本医科大学小児科)：LatePreterm Baby：少しでも早産の新生児. 川崎市小児科医会症例検討会（第326回）（川崎），2011. 10.
  - 17) 赤尾見春<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup>, 上砂光裕<sup>1)</sup>, 渡邊 誠<sup>2)</sup>, 阿部正徳<sup>2)</sup>, 大久保隆志<sup>2)</sup>, 深澤隆治<sup>2)</sup>, 小川俊一<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院小児科, 2) 日本医科大学小児科)：冠動脈バイパス術後15年程経過した川崎病の2症例. 日本循環器学会関東甲信越地方会（第222回）（東京），2011. 12.
  - 18) 藤井秀一, 重盛朋子, 伊藤保彦, 福永慶隆 (1) 日本医科大学小児科)：著名な肝機能障害と円盤状ループを生じたコクサッキー A6 感染症の1例. 日本小児科学会東京都地方会講和会（第588回）（東京），2012. 1.
  - 19) 山西未穂, 藤田武久, 藤松真理子, 右田 真, 勝部康弘, 田島廣之<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター)：結節性硬化症に伴う腎血管筋脂肪腫が自然破裂した1例. 神奈川神経懇話会（第49回）（横浜），2012. 1.
  - 20) Shigemori T, Kuwabara K, Itoh Y, Fukunaga Y (1) Department of pediatrics, Nippon Medical School)：Erythromelalgia Managed with Carbamazepine and Gabapentin. 7th Asian Society for Pediatric Research (Denver, Colorado, USA), 2011. 5.
  - 21) Ueda T, Yamanishi M, Hayakawa J, Maeda M, Fukunaga Y：Efficacy of eculizumab in PNH patient requiring transfusion after 14 yrs of diagnosis in childhood. 日本血液学会学術集会（第73）（名古屋），2011. 10.
  - 22) 岡田 創, 宮武千晴, 小泉慎也, 海津聖彦, 榑崎秀彦, 浅野 健, 藤野 修：治療終了後再燃を認めた細菌性赤痢の1例. 日本小児科学会千葉地方会（第191回）（千葉），2012. 2.
  - 23) 浅野 健, 藤井博文, 山西未穂, 午腸義宏, 藤田敦士, 小林史子, 海津聖彦, 早川 潤, 植田高広, 前田美穂, 福永慶隆：薬剤耐性白血病細胞の網羅的メチル化と遺伝子発現に関する Gene Ontology 解析. 日本小児血液・癌学会（第51回）（東京），2011. 11.
  - 24) 竹間友紀, 海津聖彦, 榑崎秀彦, 早川 潤, 植田高広, 浅野 健, 前田美穂, 藤野 修, 福永慶隆：深部静脈血栓症を伴い術前に下大静脈フィルター留置を必要とした巨大卵巣腫瘍の2例. 日本小児血液・癌学会（第51回）（東京），2011. 11.
  - 25) 宮武千晴, 松川昇平, 小泉慎也, 海津聖彦, 榑崎秀彦, 浅野 健, 藤野 修, 小坂 仁, 黒澤健司, 高梨潤一：Pelizaeus-Merzbacher 病の1例. 日本小児科学会千葉地方会（第190回）（千葉），2011. 9.
  - 26) 竹間友紀, 徐 東博, 藤井秀一, 海津聖彦, 榑崎秀彦, 宮武千晴, 小泉慎也, 浅野 健, 藤野 修, 神戸沙織, 米山剛一：腹痛を主訴に発見された深部静脈血栓症を伴った粘性性嚢胞腺癌の14歳女児例. 日本小児科学会千葉地方会（第189回）（千葉），2011. 6.
  - 27) 榑崎秀彦, 宮武千晴, 小泉慎也, 海津聖彦, 浅野 健, 伊藤保彦, 藤野 修：慢性特発性血小板減少性紫斑病と診断されていた抗リン脂質抗体症候群の1例. 日本医科大学医学会総会（第79回）（東京），2011. 9.
  - 28) Asano T, Fujii H, Fujita A, Inagaki S, Yamanishi M, Gocho Y, Kaizu K, Kobayashi F, Hayakawa J, Narazaki H, Ueda T, Maeda M, Fukunaga Y：Methylation of immune response and gene silencing are corresponded to drug resistant leukemic cells. 日本血液学会総会（第73回）（名古屋），2011. 10.
  - 29) Kaizu K, Asano T, Narazaki H, Miyasho T, Fujii S, Jo T, Fujino O, Maeda M, Fukunaga Y：Cerebrospinal fluid IL6 and IL8 in childhood ALL with therapy-induced encephalopathy. 日本血液学会総会（第73回）（名古屋），2011. 10.
  - 30) 桑原健太郎：大病院小児科頭痛外来における心理相談の臨床的検討. 日本頭痛学会（第39回）（大宮ソニックシティ），2011. 11.

- 31) 田辺雄次郎<sup>1)</sup>, 藤松真理子<sup>1)</sup>, 小林史子<sup>1)</sup>, 安藝 薫<sup>1)</sup>, 柳原 剛<sup>1)</sup>, 上砂光裕<sup>1)</sup>, 藤田武久<sup>1)</sup>, 北野良博<sup>2)</sup>, 黒田達夫<sup>2)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院小児科, (2) 国立成育医療研究センター-外科): 生後2ヵ月で発症した骨盤内神経芽種の1例. 日本小児科学会学術集会 (第114回) (東京・高輪), 2011. 8.
- 32) 吉野美緒<sup>1)</sup>, 増野智彦<sup>2)</sup>, 稲本絵里<sup>3)</sup>, 重村朋子<sup>4)</sup>, 松井 豊<sup>5)</sup>, 市村美帆<sup>6)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学小児科, (2) 日本医科大学附属病院高度救命救急センター, (3) 日本医科大学多摩永山病院, (4) 日本医科大学侵襲生体管理学教室, (5) 筑波大学, (6) 東洋大学): 病院前診療活動に伴う医師の心的外傷に関する研究 活動中の体験・周囲の状況と心的外傷との関連. 日本救急医学会 (第39回) (東京都 (京王プラザホテル)), 2011. 11.
- 33) 宮地麻衣, 高木篤史, 前田美穂, 福永慶隆, 三橋 太: 日本海裂頭条虫の1例. 日本小児科学会東京地方会講話会 (第582回) (東京), 2011. 5.
- 34) 森川浩子, 犬塚 学, 前田美穂: 高校1年生女子における貧血スクリーニング実態調査. 福井県母性衛生学会 (第24回) (福井), 2011. 6.
- 35) 前田美穂, 福永慶隆, 阿部勝己, 山内邦昭, 北川昭男: 思春期貧血の増加に関する検討. 日本小児科学会学術集会 (第114回) (東京), 2011. 8.
- 36) Toki T, Eri K, Kanezaki R, Runan Wang-Terui K, Kanegane H, Koike T, Endo M, Adachi S, Hayashi Y, Shimuzu R, Yamamoto M, Ito E: Novel GATA1 mutations with internal deletion in transient abnormal myelopoiesis in Down syndrome. 日本血液学会学術集会 (名古屋), 2011. 10.
- 37) 川上康彦, 桑原健太郎, 藤田武久, 藤野 修, 福永慶隆: 細菌性髄膜炎における脳脊髄液中の多核球優位性発現に対するTNF- $\alpha$ の作用. 日本小児神経学会 (第53回) (神奈川県横浜市), 2011. 5.
- 38) 川上康彦, 齊藤賢一<sup>1)</sup>, 小泉慎也, 桑原健太郎, 藤田武久, 藤野 修 (1) 日本獣医生命科学大学食品健康環境学教室): リン酸オセルタミビル経口投与によるELマウス脳内ドパミンニューロンの発現変化. 日本てんかん学会 (第45回) (新潟県新潟市), 2011. 10.
- 39) Asano T, Fuji H, Fujita A, Inagaki S, Yamanishi M, Gocho Y, Kaizu K, Kobayashi F, Hayakawa J, Narazaki H, Ueda T, Maeda M, Fukunaga Y: Methylation of immune response and gene silencing are correspond to drug resistant leukemic cells. 日本血液学会学術集会 (第73回) (名古屋), 2011. 10.
- 40) 石井榮一, 鈴木信寛, 前田美穂, 石田也寸志, 金兼弘和, 岡村隆行, 鬼頭敏幸, 太田 茂, 森本 哲, 浅野 健, 大賀正一, 脇口 宏, 永井功造: 日本におけるChediak-Higashi症候群の疫学とその臨床像. 日本小児血液・がん学会 (前橋), 2011. 11.
- 41) 牧本 敦, 小原 明, 花田良二, 角南勝介, 金子 隆, 熊谷昌明, 真部 淳, 福島 敬, 磯山恵一, 康勝 好, 井田孔明, 前田美穂, 黒沢秀光, 後藤裕明, 松井 敦, その他2名: TCCSG-L416臨床試験にみる換算寛解の定義が寛解割合に及ぼす影響. 日本小児血液・がん学会 (第53回) (前橋), 2011. 11.
- 42) 橋本康司, 早川 潤, 植田高弘, 前田美穂, 福永慶隆, 古木裕泰, 野村 務: 寛解導入療法中に虫垂炎を合併し内視鏡か虫垂切除術で究明したAML (M2) の1例. 日本小児科学会東京地方会 (第590回) (東京), 2012. 3.
- 43) 藤田昌久, 中川仁美, 三浦義彦, 野呂瀬嘉彦, 前田美穂, 古川清憲, 篠山明宏, 園部一成: Clostridium Difficile院内感染時における遺伝子解析の基礎的検討. 日本医科大学医学会総会 (第79回) (東京), 2011. 9.
- 44) Kaizu K, Asano T, Narazaki H, Miyasho T, Fujii S, Tanabe Y, Jo T, Fujino O, Maeda M, Fukunaga Y: Cerebrospinal fluid IL6 and IL8 in childhood ALL with therapy-induced encephalopathy. 日本血液学会学術集会 (名古屋), 2011. 10.
- 45) Ueda T, Yamanishi M, Hayakawa J, Maeda M, Fukunaga Y: Efficacy of Eculizumab in PNH patient requiring transfusion after 14 yr of diagnosis in childhood. 日本血液学会学術集会 (第73回) (名古屋), 2011. 10.
- 46) 竹間友紀, 海津聖彦, 植崎秀彦, 早川 潤, 植田高弘, 浅野 健, 前田美穂, 藤野 修, 福永慶隆: 深部静脈血

- 栓に伴い術前に下大静脈フィルター留置を必要とした巨大卵巣腫瘍の2例. 日本小児血液・がん学会 (前橋), 2011. 11.
- 47) 浅野 健, 藤井博文, 山西未穂, 牛腸義宏, 藤田敦士, 小林史子, 海津聖彦, 早川 潤, 植田高弘, 前田美穂, 福永慶隆: 薬剤耐性白血病細胞の網羅的メチル化と遺伝子発現に関する Gene Ontology 解析. 日本小児血液・がん学会 (前橋), 2011. 11.
- 48) Maeda M: The present situation of childhood cancer survivor study in Japan: Topics of our research. Asan Medical Center Pediatric Ground Round (Korea), 2011. 6.
- 49) Maeda M: A model project of long-term follow-up clinics and long-term risk-based follow-up guidelines for childhood cancer survivors in Japan and Japanese government supports for childhood cancer survivor study. Cancer Forum on Childhood Cancer Survivors (Korea), 2011. 6.
- 50) 前田美穂: 小児がんの長期フォローアップ. がんの子どもを守会 (福島), 2011. 6.
- 51) 前田美穂: ウィルス性下痢症と感染防御: ロタウイルス, ノロウイルス. さいたま市民医療センター講演会 (埼玉県), 2011. 10.
- 52) 深澤隆治<sup>1)</sup>, 藪部友良<sup>2)</sup>, 濱岡建城<sup>3)</sup>, 濱本邦洋<sup>4)</sup>, 渡邊 誠<sup>1)</sup>, 阿部正徳<sup>1)</sup>, 上砂光裕<sup>1)</sup>, 勝部康弘<sup>1)</sup>, 小川俊一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学小児科, <sup>2)</sup> 日本赤十字医療センター小児科, <sup>3)</sup> 京都府立医科大学大学院医学研究科発達循環病態学, <sup>4)</sup> 国際福祉医療大学リハビリテーション学部): Data Mining 法を用いた川崎病遺伝子多型解析. 日本小児循環器学会 (福岡), 2011. 7.
- 53) 市村美帆<sup>1)</sup>, 吉野美緒, 増野智彦<sup>2)</sup>, 稲本絵里<sup>3)</sup>, 重村朋子<sup>4)</sup>, 松井 豊<sup>5)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 東洋大学, <sup>2)</sup> 日本医科大学高度救命救急センター, <sup>3)</sup> 日本医科大学多摩永山病院, <sup>4)</sup> 日本医科大学侵襲生体管理学教室, <sup>5)</sup> 筑波大学): 病院前診療活動に伴う医師の心的外傷に関する研究 出場形態および役職別の心的外傷. 日本救急医学会 (第39回) (東京 (京王プラザホテル)), 2011. 11.
- 54) 板橋寿和, 藤田武久, 藤松真理子, 上砂光裕, 右田 真, 勝部康弘 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院小児科): 診断に苦慮した Guillain-Barre 症候群の1例. 神奈川小児神経懇話会 (第48回) (横浜), 2011. 7.
- 55) 藤田武久 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院小児科): 3か月児の精神運動発達: 乳幼児健診の現状と課題. 川崎市母子保健研修会 (川崎), 2012. 1.
- 56) 藤田武久 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院小児科): 乳健でみられる境界児. 川崎市乳幼児健康診査受託研修会 (川崎), 2012. 2.
- 57) 五十嵐徹: Dent 病の尿所見. 腎・泌尿器研究会学術集会 (第8回) (東京), 2012. 3.
- 58) 五十嵐徹, 伊藤保彦, 安藝 薫, 多田奈緒, 柳原 剛, 福永慶隆: Mass urinary screening for school children. 日本小児腎臓病学会 (福岡), 2011. 6.
- 59) 五十嵐徹, 伊藤保彦, 竹内淳子, 重盛朋子, 本田光芳, 川名誠司, 福永慶隆: 小児全身性エリテマトーデスに対するシクロスファミドパルス療法の長期使用例に関する検討. 日本小児皮膚科学会 (横浜), 2011. 7.
- 60) 五十嵐徹, 竹田幸代, 伊藤保彦, 福永慶隆: 茨城県鹿島・行方地域で流行した麻疹の治療経験とその後の麻疹予防に関する地域の取り組みについて. 日本小児保健協会学術集会 (名古屋), 2011. 9.
- 61) 五十嵐徹, 伊藤保彦, 重盛朋子, 福永慶隆: 滑膜切除を実施した単関節型若年性特発性関節炎の一女児例. 日本小児リウマチ学会 (神戸), 2011. 10.
- 62) 五十嵐徹, 伊藤保彦, 福永慶隆: ミルクアレルギーをもつ乳児への調整粉末大豆乳ボンラクトiの使用経験. 日本アレルギー学会 (東京), 2011. 11.
- 63) 五十嵐徹, 清水 章, 伊藤保彦, 吉崎 薫, 福永慶隆: 間質性腎炎を伴うシェーグレン症候群の一女児例. 埼玉小児腎・膠原病研究会 (第7回) (大宮市), 2011. 11.
- 64) 大平賢太郎, 久保田亮, 澤田久美子, 金森きよ子, 五十嵐徹, 五十嵐隆, 三浦健一郎, 松山 健, 芝紀代子: デント病患者における種々尿中蛋白の解析. 日本臨床検査医学会 (第58回) (岡山), 2011. 11.

- 65) 久保田亮, 大平賢太郎, 堀口 翠, 五十嵐徹, 金森きよ子, 芝紀代子: 体位性蛋白尿を判定するための前弯負荷試験の標準化. 日本臨床検査医学会学術集会 (第 58 回) (岡山), 2011. 11.

## 7. 放射線医学講座

### [付属病院放射線科, 放射線治療科]

#### 研究概要

(放射線診断) CT では非侵襲的三次元 CT の分野で国内外の指導的立場にある。冠動脈 CT による血管狭窄：血管壁性状評価、三次元血管造影法、脳灌流画像、腫瘍病変の血行動態解析などの開発：研究を進めている。MRI では 3 テスラ MRI 装置を用いた臨床研究が行われており、特に心疾患や血管病変に対する画像：機能解析、ナビゲーションシステムや高速撮像法に関する研究は高く評価されている。一般撮影ではデジタル撮影による乳房撮影の診断精度及びマンモトームの研究が行われている。造影剤に関する研究や遠隔システムを含めて画像ネットワークの研究も行われている。(核医学) 三次元動態解析法を用いた虚血性心疾患の病態解析や SPECT；CT 融合画像の研究など循環器核医学領域において高く評価されている。中枢神経領域では認知症の画像統計学的診断や脳虚血性疾患に関する解析プログラムの開発が進んでいる。新たに SPECT；CT 一体機を導入し、甲状腺、副腎、センチネルリンパ節等の小病変の診断、様々な領域における形態：機能融合画像を用いた診断を行っている。最新の PET；CT を用いた腫瘍核医学や脳内受容体イメージングの研究、PET；CT 融合画像や新しい PET 製剤に関する研究も行われている。(血管造影：IVR) 血管性病変や悪性腫瘍に対する治療及び救急疾患に対する IVR 治療では国内外での評価は高く、腹部悪性腫瘍に対する閉鎖循環下超高濃度抗癌剤治療などの基礎的、臨床研究が行われている。肺動脈血栓塞栓症に対する血栓破砕吸引療法や動脈内ステント療法や CT ガイド下生検や肺癌：肝癌に対するラジオ波治療の研究も行われている。(放射線治療) 頭頸部腫瘍：肺癌における化学療法併用療法はその良好な治療成績が目されている。頭頸部腫瘍における治療計画や治療効果判定についての超音波検査の研究は高く評価されている。さらに、皮膚良性疾患に対する放射線治療や前立腺癌小線源療法の研究も進んでいる。

#### 研究業績

##### 論文

##### [追加分]

追加分総説：

- 1) Hayashi H, Kiriya T, Shiiba M, Tachi M, Kuwako T, Ueda T, Yamaguchi H, Sekine T, Kobayashi Y, Takagi R, Kumita S : Diagnostic imaging of pulmonary thromboembolism by multidetector-row CT. Ann Vasc Dis 2010 ; 3 (3) : 190-195.
- 2) 林 宏光 : 非侵襲的冠動脈イメージング (CT, MRI, SPECT) の進歩と新たな可能性. 心臓 2011 ; 43 (3) : 301-302.
- 3) 林 宏光 : 第 6 回脈管専門医認定試験対策ゼミナール. Vascular Lab 2010 ; 7 (6) : 64-66.

追加分原著：

- 1) Ono S<sup>1)</sup>, Chung K<sup>2)</sup>, Hayashi H, Ogawa R<sup>1)</sup>, Takami Y<sup>1)</sup>, Hyakusoku H<sup>1)</sup> (1) Plastic, Reconstructive, and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School, 2) Section of Plastic Surgery, Department of Surgery, University of Michigan Health System) : Application of multidetector-row computed tomography in propeller flap planning. Plast Reconstr Surg 2011 ; 127 (2) : 703-11.
- 2) Ueno A<sup>1)</sup>, Takagi R, Hayashi H, Tanaka K<sup>1)</sup> (1) Intensive and Cardiac Care Unit, Nippon Medical School) : Computed tomographic demonstration of an acquired aortopulmonary fistula. Intern Med 2010 ; 49 (22) : 2523-2524.
- 3) 小野真平<sup>1)</sup>, 林 宏光, 小川 令<sup>1)</sup>, 百東比古<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学形成外科) : “プロペラ皮弁法” の術前穿通枝評

価における Multidetector-row CT (MDCT) の有用性. 創傷 2010 ; 1 (3) : 125-132.

- 4) Ueno A<sup>1)</sup>, Takagi R, Hayashi H, Tanaka K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Intensive and Cardiac Care Unit, Nippon Medical School) : Computed tomographic demonstration of an acquired aortopulmonary fistula. Intern Med 2010 ; 49 (22) : 2523-2524.

(1) 原著 :

- 1) Kiriya T, Toba M, Fukushima Y, Hayashi H, Takano H, Mizuno K, Kumita S : Discordance between the Morphological and Physiological Information of 64-Slice MSCT Coronary Angiography and Myocardial Perfusion Imaging in Patients with Intermediate to High Probability of Coronary Artery Disease. Circ J 2011 ; 75 (7) : 1670-1677.
- 2) Ono S<sup>1)</sup>, Hayashi H, Nakao J<sup>1)</sup>, Imura T<sup>1)</sup>, Ogawa R<sup>1)</sup>, Takami Y<sup>1)</sup>, Hyakusoku H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Plastic, Reconstructive, and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School) : Usefulness of the portable DICOM viewer system for facial bone fractures. Eplasty 2011 ; 11 : 50.
- 3) 飯村剛史<sup>1)</sup>, 小野真平<sup>1)</sup>, 林 宏光, 百束比古<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学形成外科) : 動脈静脈吻合 (arterio-venous anastomosis) のみにより再接着し得た指尖部完全切断の1例. 創傷 2011 ; 2 (2) : 78-81.
- 4) Amano Y, Kiriya T, Kobayashi Y, Tachi M, Matsumura Y, Kumita S : Simultaneous assessment of myocardial scar and coronary arteries using navigator-gated three-dimensional fat-suppressed delayed-enhancement MRI at 3.0 T : a technical feasibility study. J Comput Assist Tomogr 2012 ; 36 (1) : 72-76.
- 5) Amano Y, Takayama M<sup>1)</sup>, Kitamura M<sup>2)</sup>, Fukushima Y, Kumita S ( <sup>1)</sup> Cardiology, Sakakibara Heart Institute, <sup>2)</sup> Intensive and Cardiac Care Unit, Nippon Medical School Hokusou Hospital) : Delayed-enhancement MRI of apical hypertrophic cardiomyopathy : assessment of the intramural distribution and comparison with clinical symptoms, ventricular arrhythmias, and cine MRI. Acta Radiol 2011 ; 52 (6) : 613-618.
- 6) Amano Y, Sekine T, Suzuki Y<sup>1)</sup>, Tanaka K<sup>2)</sup>, Takagi R, Kumita S ( <sup>1)</sup> Philips Electronics Japan, <sup>2)</sup> Intensive and Cardiac Care Unit, Nippon Medical School) : Time-resolved three-dimensional magnetic resonance velocity mapping of chronic thoracic aortic dissection : a preliminary investigation. Magn Reson Med Sci 2011 ; 10 (2) : 93-99.
- 7) Hidaka F, Amano Y, Takahama K, Takagi R, Murakami R, Onozawa S, Kumita S : Assessment of renal impairment by non-contrast-enhanced conventional magnetic resonance imaging : comparison with 99mTc-DTPA Renography. Japanese Journal of Radiology 2011 ; 29 (6) : 378-385.
- 8) Murakami R, Kumita S, Yoshida T, Ishihara K, Kiriya T, Hakozaki K, Yanagihara K, Iida S, Tsuchiya S : FDG-PET/CT in the diagnosis of recurrent breast cancer. Acta Radiol 2012 ; 53 (1) : 12-6.
- 9) Tara S<sup>1)</sup>, Miyamoto M<sup>1)</sup>, Tkagi G<sup>1)</sup>, Fukushima Y<sup>2)</sup>, Ichikawa S<sup>1)</sup>, Tkano H<sup>1)</sup>, Takagi I<sup>1)</sup>, Mizuno H<sup>1)</sup>, Yasutake M<sup>1)</sup>, Kumita S<sup>2)</sup>, Mizuno K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Radiology Nippon Medical School) : Prediction of limb salvage after therapeutic angiogenesis by auto-logous bone marrow cell implantation in patients with critical limb ischemia. Ann Vasc Diseases 2011 ; 4 : 24-31.
- 10) Murata S, Onozawa S, Oda T, Mine T, Ueda T, Kumita S, Nomura K : Pharmacologic Advantages of Negative-Balance Isolated Pelvic Perfusion : Achievement of Intensive Exposure of the Pelvis to Platinum without Systemic Leakage. Radiology 2012 ; 262 (2) : 503-10.
- 11) Mine T, Murata S, Ueda T, Onozawa S, Onda M, Naito Z, Kumita S : Comparative study of cisplatin-iodized oil suspension and emulsion for transcatheter arterial chemoembolization of rabbit VX2 liver tumors. Hepatol Res. doi : 10.1111/j.1872-034X.2011.00942.x. [Epub ahead of print] 2011 ; Epub.

- 12) Murata S, Onozawa S, Nakazawa K, Mine T, Ueda T, Tajima H, Yoshida H, Kumita S : Glue Embolization for Endoscopically Unmanageable Gastrointestinal Haemorrhage. *Hepatogastroenterology* 2011 ; 59 : 115-116.
  - 13) Ishihara K, Kobayashi Y, Iwano M, Shiiba M, Yoshihara H, Satoh H, Akiyama K, Kumita S : Performance of Fluorodeoxyglucose : Positron-Emission Tomography/Computed Tomography for Evaluating Tumor Response to Nonsurgical Treatment. *J Nippon Med Sch* 2011 ; 78 (5) : 272-273.
  - 14) Kuribayashi S, Miyashita T, Ozawa Y, Iwano M, Ogawa R, Akaishi S, Dohi T, Hyakusoku H, Kumita S : Post-keleoidectomy Irradiation Using High-dose-rate Superficial Brachytherapy. *Journal of Radiation Research* 2011 ; 52 (3) : 365-368.
  - 15) Shiiba M, Ishihara K, Kimura G<sup>1)</sup>, Kuwako T, Yoshihara N, Sato H, Kondo Y, Tsuchiya S<sup>2)</sup>, Kumita S ( <sup>1)</sup> Department of Urology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Diagnostic Pathology, Nippon Medical School Hospital) : Evaluation of primary prostate cancer using 11C-methionine-PETCT. *Annals of Nuclear Medicine* 2012 ; 26 (2) : 138-145.
  - 16) Kiriyaama T, Toba M, Fukushima Y, Hayashi H, Takano H, Mizuno K, Kumita S : Discordance between the morphological and physiological information of 64-slice MSCT coronary angiography and myocardial perfusion imaging in patients with intermediate to high probability of coronary artery disease. *Circ J* 2011 ; 75 (7) : 1670-7.
- (2) 総説 :
- 1) Hayashi H, Machida T, Takagi R, Kumita S, Hidenaga S, Tsuchihashi T : 64-slice CT, SCENARIA-Outstanding technological features and clinical impact. *MEDIX* 2011 ; 55 : 8-13.
  - 2) 林 宏光, 種本和雄<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 川崎医科大学心臓血管外科) : 各種脈管画像診断の進歩と将来展望. *脈管学* 2011 ; 51 : 461.
  - 3) 林 宏光, 上田達夫, 町田 幹, 嶺 貴彦, 杉崎健一, 小林靖宏, 関根鉄朗, 山口英宣, 吉原尚志, 日高史貴, 村上隆介, 高木 亮, 汲田伸一郎 : 大動脈瘤・大動脈解離診療ガイドライン : 大動脈解離. *画像診断* 2011 ; 31 (13) : 1234-1247.
  - 4) 林 宏光, 高木 亮, 杉崎健一, 町田 幹, 日高史貴, 吉原尚志, 桑子智之, 桐山智成, 城 正樹, 山口英宣, 関根鉄朗, 小林靖宏, 汲田伸一郎 : 救急放射線領域. *日独医報* 2011 ; 56 (1) : 72-77.
  - 5) 林 宏光 :  $\beta$ 遮断薬で冠動脈CT鮮明. *日経メディカル* 2011 ; 8 : 26-27.
  - 6) 林 宏光 : 大動脈解離の診断 : MDCT・MRI. *最新医学* 2011 ; 66 (7) : 1590-1596.
  - 7) 清水一雄<sup>1)</sup>, 佐藤英尊, 汲田伸一郎 ( <sup>1)</sup> 日本医大内分科) : 東日本大震災により発生した福島原発事故の実態と風評被害 : チェルノブイリ原発事故後の甲状腺癌発症の現況と比較して. *日本医大誌* 2011 ; 7 (3) : 135-137.
  - 8) 時田祐吉<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 福嶋善光, 汲田伸一郎 ( <sup>1)</sup> 日本医大循環器内科) : ニコランジル単回静注を用いた難治性虚血性心不全の評価 : ニコランジル負荷 MIBI 心筋シンチグラムによる検討. *Therapeutic Research* 2011 ; 32 (3) : 326-332.
  - 9) 上田達夫, 林 宏光, 汲田伸一郎 : 呼吸器科医が知っておくと役立つ肺外疾患の画像診断 第9回 大動脈. *日本胸部臨床* 70 2011 ; 70 (12) : 1272-1288.
  - 10) 高木 亮 : 頭部外傷. *臨床画像* 2011 ; 127 : 46-55.
  - 11) 村田 智, 嶺 貴彦, 中澤 賢, 上田達夫, 秋葉絢子, 安井大祐, 汲田伸一郎 : 下大静脈フィルター留置と回収. *臨床放射線 (静脈のIVR)* 2012 ; 57 (2) : 235-243.
  - 12) 杉原史恵<sup>1)</sup>, 村田 智, 内山史生<sup>1)</sup>, 渡 潤<sup>1)</sup>, 中澤 賢, 嶺 貴彦, 上田達夫, 山口英宣, 秋葉絢子, 安井大祐, 岡部 格<sup>2)</sup>, 汲田伸一郎 ( <sup>1)</sup> 海老名総合病院放射線科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院麻酔科) : 閉鎖循環下骨

盤内灌流化学療法 (NIPP) の現状について Rad Fan. Rad Fan 2011 ; 9 (9) : 58-60.

- 13) Ueda T, Murata S, Mine T, Onozawa S, Onda M<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup>, Amano Y, Kumita S ( <sup>1)</sup> Department of Integrative Oncological Pathology, Nippon Medical School) : Comparison of Epirubicin-Iodized Oil Suspension and Emulsion for Transcatheter Arterial Chemoembolization in VX2 Tumor. The ScientificWorld Journal.10.1100/2012/961986 2012 ; Epub.

(3) 症例報告 :

- 1) Akiyama M<sup>1)</sup>, Ueno T<sup>1)</sup>, Noro S<sup>1)</sup>, Kumita S<sup>2)</sup>, Kawana S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Dermatology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Radiology, Nippon Medical School) : Three-dimensional image fusion of SPECT and CT Scans for locating sentinel lymph nodes in malignant melanomas. Case Rep Dermatol 2011 ; 25 (3) : 74-79.
- 2) Narita K<sup>1)</sup>, Akutsu K<sup>1)</sup>, Yamamoto T<sup>1)</sup>, Sato N<sup>1)</sup>, Murata S, Mizuno K<sup>2)</sup>, Tanaka K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Intensive and Cardiac Care Unit, Nippon Medical School Hospital, Tokyo, Japan, <sup>2)</sup> Department of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Simultaneous Fenestration with Stent Implantation for Acute Limb Ischemia due to Type B Acute Aortic Dissection Complicated with Both Static and Dynamic Obstructions. Ann Thorac Cardiovasc Surg.10.5761/atcs.cr.11.01712JOI JST.JSTAGE/atcs/cr.11.01712[Epub ahead of print] 2011 ; Epub.
- 3) 岡部 格<sup>1)</sup>, 佐藤千代<sup>1)</sup>, 荒井雅江<sup>1)</sup>, 幸田修典<sup>1)</sup>, 河原祐泰<sup>1)</sup>, 鈴木規仁<sup>1)</sup>, 中西一浩<sup>1)</sup>, 村田 智, 坂本篤祐<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院麻酔科) : 横行結腸癌の仙骨浸潤による痛みに negative in-out flow による閉鎖循環下骨盤内抗がん薬灌流療法が有効であった 1 症例. 日本ペインクリニック学会誌 2012 ; 19 : 52-55.
- 4) Osada S<sup>1)</sup>, Akiyama M<sup>1)</sup>, Takasaki M<sup>1)</sup>, Takagawa S<sup>2)</sup>, Nakazawa K, Murata S, Sawada Y<sup>2)</sup>, Kawana S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Dermatology , Tokyo Metropolitan Bokuto Hospital, Tokyo, Japan, <sup>2)</sup> Department of Dermatology Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Revascularization by percutaneous transluminal angioplasty improved abruptly deteriorated ischaemic symptoms in cutaneous polyarteritis nodosa. Clin Exp Dermatol.10.1111/j.1365-2230.2011.04050.x 2011 ; 36 (5) : 502-505.

(4) 報告書・ポスター :

- 1) 林 宏光, 鳴海善文<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 大阪医科大学放射線医学教室) : ACR Manual on Contrast Media Version7, 2010 (日本語版) 8. 造影剤の腎毒性, 9. メトホルミン. メディアート 2011 ; 3 : 4-15.

## 著 書

### [追加分]

#### 追加分 :

- 1) 桐山智成, 汲田伸一郎 : [共著] 心筋シンチグラフィの原理. 循環器内科学 (水野杏一・安武正弘・平山悦之編), 2010 ; pp110-114, シュプリンガー・ジャパン.
- 2) 林 宏光, 上田達夫, 汲田伸一郎 : [分担] 画像診断 : CT, MRI. AKI と CKD のすべて (腎と透析編集委員会(編)), 2010 ; pp56-58, 東京医学社.
- 3) 林 宏光 : [分担] ヨード造影剤とビグアナイド系糖尿病薬との併用注意について. 心 CT 07 (小室一成, 栗林幸夫 (監)), 2010 ; pp123-127, 文光堂.
- 1) 林 宏光 : [分担] 急性大動脈解離の MDCT 診断. 心 CT 10 (小室一成, 栗林幸夫 (監)), 2011 ; pp58-66, 文光堂.
- 2) 村田 智 : [自著] 最新動注化学療法. がんサポート (村田 智), 2011 ; エビデンス社.
- 3) 村田 智 : [自著] 骨盤内灌流化学療法. がんに克つ 最新治療 2012 年版 (村田 智), 2012 ; 宝島社.

## 学会発表

### 〔追加分〕

#### 追加分一般講演：

- 1) 桑子智之, 水村 直<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎 ( <sup>1)</sup> 東邦大学医療センター大森病院放射線科) : TLCL 脳腫瘍 SPECT における Voxel-Based 解析. 第 8 回脳核医学画像解析研究会, 2010. 9.

#### (1) 特別講演：

- 1) 林 宏光 : 心臓 CT の実践的活用 : 症例から学ぶ. 第 1 回心臓画像診断研究会 (東京), 2011. 11.
- 2) 林 宏光 : マルチスライス CT による脈管疾患の低侵襲的診断. 第 11 回群馬血管疾患治療懇話会 (前橋), 2011. 11.
- 3) 林 宏光 : 64ch マルチスライス CT “SCENARIA” : その特長を活かした実践的活用. 第 1 回 MEDICONNECTION 講演会 (大阪), 2011. 9.
- 4) 林 宏光 : 腎機能と造影検査 : JRS/JCR 合同造影剤安全性委員会からの最新情報も含めて. 埼玉県立循環器・呼吸器病センター 医療安全講習会 (熊谷), 2011. 6.
- 5) 汲田伸一郎 : 心臓核医学の新しい展開. 第 40 回多摩核医学技術検討会, 2011. 6.
- 6) 汲田伸一郎 : 心臓核医学の新しい展開 : MDCT/SPECT フュージョンイメージを含めて. 第 19 回信州核医学研究会, 2011. 7.
- 7) 汲田伸一郎 : 心臓核医学の臨床検査 protocol. 東邦大大橋病院勉強会, 2011. 10.
- 8) 高木 亮 : 4D-flow MRI を用いた脳血流評価. 第 17 回つくば MR 懇話会, 2011. 11.
- 9) 高木 亮 : CT 装置の進歩と現状 MD-CT の違いと使いわけ. 豊島健康診査センター症例検討会,
- 10) 村田 智 : 肝がん治療の現状と今後の展望. 肝細胞癌治療研究会, 2012. 3.
- 11) 村田 智 : イブニングセミナー 難治性肝がんに対する IVR : 現状から将来の展望について. 第 40 回日本 IVR 学会総会 (青森), 2011. 5.

#### (2) 招待講演：

- 1) 佐藤英尊 : 放射線の種類と単位. 第 439 回日本医学放射線学会関東地方会, 2011. 6.
- 2) 佐藤英尊 : 放射線とは. 文京区 区民と医師会の集い『放射線をもっと知ろう!』, 2011. 11.

#### (3) 教育講演：

- 1) 林 宏光 : SCCT : 心臓 CT ガイドラインから. 第 70 回日本医学放射線学会総会, 2011. 4.
- 2) 村田 智 : 下大静脈フィルター留置. 第 70 回日本医学放射線学会総会, 2011. 4.
- 3) 林 宏光 : SCCT 心臓 CT ガイドラインの紹介とその解説. 東京 (第 5 回 SCCT 研究会), 2011. 9.
- 4) 林 宏光 : より安全な造影検査を行うために : 依頼医・看護師・co-medical stuff へのメッセージ. 第 37 回呼吸器セミナー (川越), 2011. 7.
- 5) 天野康雄 : 胆管・膵臓病変の MRI-MRCP (MR 胆管膵管撮影を中心に). 第 7 回豊島健康診査センター MRI/CT 症例検討会 (東京), 2011. 11.
- 6) 天野康雄 : 空間の工夫を用いた循環器 MRI につかえる高速化技術. 第 246 回関東 MR 画像研究会 (東京), 2011. 11.
- 7) 天野康雄 : 非虚血性心疾患における MRI の役割 : 非虚血性心筋症に対する MRI 撮像と読影法の実践. 第 47 回日本医学放射線学会秋季臨床大会 (下関), 2011. 10.
- 8) 天野康雄 : 大動脈疾患の MR 診断. 第 39 回日本磁気共鳴医学会大会 (小倉), 2011. 9.
- 9) 天野康雄 : 動脈硬化症を MRA/MRI で診る. 第 6 回豊島健康診査センター MRI/CT 症例検討会 (東京), 2011. 6.
- 10) 汲田伸一郎 : 画像モニタリングの展望. 第 22 回日本臨床モニター学会, 2011. 4.

- 11) 汲田伸一郎：マルチモダリティ時代の循環器画像診断. 第267回新潟循環器談話会, 2011. 6.
  - 12) 村田 智：下大静脈フィルター留置. 第70回日本医学放射線学会総会, 2011. 4.
  - 13) 桐山智成：核医学：ここまでわかる Fusion 画像「心臓」. JCR ミッドサマーセミナー（神戸）, 2011. 7.
  - 14) 桐山智成：総論. 心臓核医学地域別研修会, 2011.
- (4) シンポジウム：
- 1) 櫻井 実, 石原圭一, 汲田伸一郎：Time-of-Flight PET の臨床応用. 第70回日本医学放射線学会総会, 2011. 4.
  - 2) 桐山智成：心筋 SPECT-MDCT 融合画像の有用性. 第51回日本核医学会学術総会（つくば）, 2011. 10.
  - 3) 林 宏光, 山科 章<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 東京医科大学第二内科）：Controversy：虚血の証明における Best Choice は？. 第2回 Multimodality Cardiovascular Imaging（東京）, 2011. 10.
  - 4) 林 宏光, 吉野秀朗<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 杏林大学循環器内科）：Cardiac Plaque Imaging 2011. 第11回循環器 MDCT 研究会（東京）, 2011. 10.
  - 5) 工藤 祥<sup>1)</sup>, 林 宏光（<sup>1)</sup> 佐賀大学放射線科）：他科から求められる画像診断：腎不全に必要な知識と画像診断. 第47回日本医学放射線学会秋季臨床大会（下関）, 2011. 10.
  - 6) 林 宏光：マルチスライス CT による動脈硬化性疾患の診断：治療支援画像としての可能性：脈管疾患の画像診断と機能診断. 第52回日本脈管学会（長良川）, 2011. 10.
  - 7) Murata S：Management of HCC with marked arterio-portal shunts. The 2nd Asia-Pacific Conference on Interventional Oncology (APCIO) and The 12th Chinese National Congress on Interventional Oncology (CNCIO) (Hangzhou China), 2011. 10.
  - 8) 洪川絢子, 村田 智, 中澤 賢, 嶺 貴彦, 上田達夫, 山口英宜, 安井大祐, 三樹いずみ, 森谷 愛, 汲田伸一郎：重症門脈血栓症に対する IVR 治療戦略. 第40回日本 IVR 学会総会（青森）, 2011. 5.
- (5) パネルディスカッション：
- 1) 林 宏光, 吉田 清<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 川崎医科大学循環器内科）：私ならこうする：心臓イメージングの臨床現場での活用方法. 第24回日本心血管画像動態学会（愛媛）, 2012. 1.
- (6) セミナー：
- 1) 林 宏光：マルチスライス CT による糖尿病性大血管症の画像診断とその留意点. 第70回日本医学放射線学会総会, 2011. 4.
- (7) ワークショップ：
- 1) 林 宏光：マルチスライス CT による腎疾患の画像診断：ここまで見える腎疾患イメージングの最前線. 第54回日本腎臓学会（横浜）, 2011. 6.
- (8) 指名講演：
- 1) 汲田伸一郎<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医大放射線科, NPO 法人放射線医学啓蒙研究センター）：「放射線をよく知ろう」総括：現状と今後の対応. 文京区民公開講座, 2011. 11.
  - 2) 汲田伸一郎：SPECT/CT の臨床応用：どのような検査で有効なのか. TOKYO MDCT FORUM 2012, 2012. 2.
- (9) 一般講演：
- 1) 椎葉真人, 石原圭一, 吉原尚志, 桑子智之, 佐藤英尊, 箱崎謙太, 汲田伸一郎：11C-Methionine, 18F-FDG PET/CT および MRI を用いた前立腺癌の評価. 第70回日本医学放射線学会総会（横浜）, 2011. 4.
  - 2) 安井大祐, 村田 智, 中澤 賢, 嶺 貴彦, 上田達夫, 山口英宜, 洪川絢子, 汲田伸一郎：iliacal compression syndrome に伴う難治性腸骨静脈狭窄に対するステント留置術. 第70回日本医学放射線学会総会（横浜）, 2011. 4.
  - 3) 高木 亮, 関根鉄朗, 天野康雄, 日高史貴, 城 正樹, 鈴木由里子<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎（<sup>1)</sup> フィリップス）：4D-flow

- MRIを用いた High flow graft bypass 術後の血流評価. 第70回日本医学放射線学会総会(横浜), 2011. 4.
- 4) 山口英宣, 鳥羽正浩, 三好永哲<sup>1)</sup>, 新田浩一<sup>1)</sup>, 桐山智成, 趙 圭一, 汲田伸一郎 ( <sup>1)</sup>日立メディコ): Tc-99m 心筋 SPECT 画像を用いた心筋壁厚推定法の臨床応用. 第70回日本医学放射線学会総会(横浜), 2011. 4.
  - 5) 福嶋善光, 天野康雄, 石原圭一, 鳥羽正浩, 桐山智成, 山口英宣, 小林靖宏, 汲田伸一郎: 急性心不全の原因疾患鑑別における心筋 SPECT, 心臓 MRI 併用診断の有用性. 第70回日本医学放射線学会総会(横浜), 2011. 4.
  - 6) 上田達夫, 村田 智, 嶺 貴彦, 中澤 賢, 小野澤志郎, 山口英宣, 渋川絢子, 恩田宗彦<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎 ( <sup>1)</sup>日本医科大学病理学): VX2 肝腫瘍ウサギにおけるエピルピシン: リピオドール混合液を用いた抗腫瘍効果の検討. 第70回日本医学放射線学会総会(横浜), 2011. 4.
  - 7) 嶺 貴彦, 村田 智, 中澤 賢, 上田達夫, 山口英宣, 渋川絢子, 安井大祐, 恩田宗彦<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎 ( <sup>1)</sup>日本医科大学病理学講座統御機構・腫瘍): ウサギ VX2 肝腫瘍に対する肝動脈化学塞栓術: シスプラチン-サスペンションとエマルジョンの比較. 第70回日本医学放射線学会総会(横浜), 2011. 4.
  - 8) 桐山智成, 鳥羽正浩, 福嶋善光, 林 宏光, 汲田伸一郎: ルーチンの胸部 CT で認められる lipomatous metaplasia の頻度および心筋灌流異常との関係. 第70回日本医学放射線学会総会(横浜), 2011. 4.
  - 9) 渋川絢子, 村田 智, 中澤 賢, 嶺 貴彦, 上田達夫, 山口英宣, 安井大祐, 汲田伸一郎: 重症門脈血栓症に対する IVR 治療. 第70回日本医学放射線学会総会(横浜), 2011. 4.
  - 10) 関根鉄朗, 天野康雄, 高木 亮, 松村善雄<sup>1)</sup>, 鈴木由里子<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎 ( <sup>1)</sup>フィリップス): 4D-Flow MRI の頭部血管領域への応用. 第47回医学放射線学会秋季大会(下関市), 2011. 10.
  - 11) 関根鉄朗, 天野康雄, 高木 亮, 松村善雄, 日高史貴, 鈴木由里子, 汲田伸一郎: 脳血管における 4D-Flow MRI の高速撮像法についての検討. 第39回磁気共鳴医学会大会(北九州市), 2011. 9.
  - 12) 関根鉄朗, 高木 亮, 天野康雄, 松村善雄, 日高史貴, 鈴木由里子, 汲田伸一郎: 4D-Flow MRI による眼動脈血流評価: 内頸動脈狭窄患者における検討. 第70回医学放射線学会総会(横浜市), 2011. 4.
  - 13) Sekine T, Amano Y, Takagi R, Matsumura Y, Suzuki Y, Kumita S: 4D-Flow assessment of cerebral hemodynamic in patients with post EC-IC bypass. SCMR/ISMRM Jointly Sponsored Workshop in 15th meeting of SCMR (Orland), 2012. 2.
  - 14) Sekine T, Amano Y, Takagi R, Kobayashi Y, Kumita S, Shibukawa A, Yasui D: Optimizing 4D Flow MRI for Cerebral Arteries: Principle, Clinical Impacts, and Acceleration Techniques. 97th annual meeting of RSNA (Chicago), 2011. 11.
  - 15) Sekine T, Amano Y, Kobayashi Y, Miki I, Matsumura Y, Suzuki Y, Kumita S: Effectiveness of acceleration techniques combined with 4D Flow MRI in the brain: radial sampling and k-t SENSE. 97th annual meeting of RSNA (Chicago), 2011. 11.
  - 16) 林 宏光, 高木 亮, 桐山智成, 吉原尚志, 小林靖広, 城 正樹, 町田 幹, 汲田伸一郎, 小野真平<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>日本医科大学形成外科): 軟部組織欠損の閉創・再建のための MDCT による動脈穿通枝の同定. 第72回心臓血管放射線研究会(愛媛), 2012. 1.
  - 17) Amano Y, Kiriyama T, Tachi M, Kobayashi Y, Sekine T, Kumita S: Simultaneous assessment of myocardial scar and coronary artery disease by navigator-gated 3D fat-suppressed delayed-enhancement CMR: comparison with 2D delayed-enhancement CMR, CT and CAG. 15th scientific session of Society of Cardiovascular Magnetic Resonance (Orlando), 2012. 2.
  - 18) Amano Y, Kitamura M<sup>1)</sup>, Takayama M<sup>2)</sup>, Tachi M, Kobayashi Y, Kumita S ( <sup>1)</sup>Intensive and Cardiac Care Unit, Nippon Medical School Hokusou Hospital, <sup>2)</sup>Cardiology, Sakakibara Heart Institute): MRI classification of asymmetrical septal hypertrophic cardiomyopathy and its relation with risk factors. 97th annual meeting of Radiological Society of North America (Chicago), 2011. 11.

- 19) 天野康雄, 桐山智成, 小林靖弘, 城 正樹, 松村善雄, 関根鉄朗, 汲田伸一郎: 3.0-T を用いた脂肪抑制・ナビゲーター同期 3D 遅延造影 MRI: 心筋瘢痕と冠動脈の描出の試み. 第 39 回日本磁気共鳴医学会大会 (小倉), 2011. 9.
- 20) 天野康雄, 北村光信<sup>1)</sup>, 高山守正<sup>2)</sup>, 城 正樹, 小林靖弘, 汲田伸一郎 (<sup>1)</sup> 日本医大北総病院集中治療室, <sup>2)</sup> 榊原記念病院循環器内科): MRI を用いた肥大型心筋症における非対称性中隔肥大の形態分類とリスク因子との関連. 第 73 回心臓血管放射線研究会 (新潟), 2011. 7.
- 21) Amano Y, Kiriya T, Matsumura Y, Tachi M, Sekine T, Kumita S: Scar-coronary MR imaging acquired by navigator-gated 3D fat-suppressed delayed-enhancement imaging technique. 19th annual meeting of International Society of Magnetic Resonance in Medicine (Montreal), 2011. 5.
- 22) 古崎治子, 小林宏之, 村上隆介, 前里美和子, 佐藤久弥, 中村瑞穂, 川又郁夫: CD-MAM 解析を用いた FFDM (Full-Field-Digital-Mammography) の画像評価. 第 67 回日本放射線技術学会総会学術大会 (横浜), 2011. 4.
- 23) 谷 瞳, 岩野茉莉絵, 村上隆介, 汲田伸一郎, 柳原恵子<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 芳賀駿介<sup>1)</sup>, 松原美幸<sup>2)</sup>, 原田 大<sup>2)</sup>, 土屋眞一<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 乳腺科, <sup>2)</sup> 病理部): 画像上良性を疑わせた粗大石灰化を有する乳癌の 1 例. 第 19 回日本乳癌学会学術総会 (仙台), 2011. 9.
- 24) 柳原恵子<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 栗田智子, 樋口勝美, 山下浩二, 芳賀駿介<sup>1)</sup>, 村上隆介, 山本陽一郎<sup>2)</sup>, 土屋眞一<sup>2)</sup>, 古川清憲<sup>3)</sup>, 内田英二<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学附属病院乳腺科, <sup>2)</sup> 病理部, <sup>3)</sup> 第一外科): カペシタビンとシクロホスファミドの併用療法 (XC 療法) が奏功した 1 例. 第 19 回日本乳癌学会学術総会 (仙台), 2011. 9.
- 25) 飯田信也<sup>1)</sup>, 芳賀駿介<sup>1)</sup>, 山下浩二<sup>1)</sup>, 柳原恵子<sup>1)</sup>, 奥平かおり<sup>1)</sup>, 栗田智子<sup>1)</sup>, 鈴木えりか<sup>1)</sup>, 村上隆介, 土屋眞一<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学附属病院乳腺科, <sup>2)</sup> 病理部): 当科におけるセンチネルリンパ節生検の評価と問題点の検討. 第 19 回日本乳癌学会学術総会 (仙台), 2011. 9.
- 26) 村上隆介, 岩野茉莉絵, 谷 瞳, 小澤由季子, 汲田伸一郎, 柳原恵子<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 土屋眞一<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 乳腺科, <sup>2)</sup> 病理部): マンモグラフィ検診遠隔読影システムの構築と運用. 第 19 回日本乳癌学会学術総会 (仙台), 2011. 9.
- 27) 小林宏之, 古崎治子, 村上隆介, 前里美和子, 小山智美, 川久保衣里子, 佐藤香菜, 尾川松義, 佐藤久弥, 長嶋千恵子, 内山菜智子, 小林由紀枝, 中村瑞穂: 国内で臨床使用されている FFDM の画像評価 (第 2 報). 第 21 回日本乳癌検診学会学術総会 (岡山), 2011. 10.
- 28) 古崎治子, 小林宏之, 村上隆介, 佐藤久弥, 小山智美, 川久保衣里子, 内山菜智子, 長嶋千恵子, 佐藤香菜, 尾川松義, 前里美和子, 小林由紀枝, 中村瑞穂: 国内で臨床使用されている FFDM の画像評価 (第 1 報). 第 21 回日本乳癌検診学会学術総会 (岡山), 2011. 10.
- 29) 上田達夫, 村田 智, 嶺 貴彦, 中澤 賢, 小野澤志郎, 山口英宣, 渋川絢子, 安井大祐, 恩田宗彦<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎 (<sup>1)</sup> 日本医科大学病理学): エピルピシン: リピオドール suspension を用いた VX2 肝腫瘍ウサギにおける抗腫瘍効果の検討. 第 40 回日本 IVR 学会総会 (青森), 2011. 5.
- 30) 上田達夫, 村田 智, 中澤 賢, 嶺 貴彦, 山口英宣, 渋川絢子, 安井大祐, 林 宏光, 汲田伸一郎: 偽腔開存型 SMA 解離に対してバルーン閉塞下偽腔コイル塞栓術を行った 1 例. 第 17 回日本血管内治療学会総会 (沖縄), 2011. 6.
- 31) 新妻美紗<sup>1)</sup>, 町田 幹, 林 宏光, 汲田伸一郎 (<sup>1)</sup> 日本医科大学 医学部): 64 列 MDCT を用いた結腸動脈の検討. 第 47 回日本医科大学医学会総会, 2011. 10.
- 32) 吉原尚志, 石原圭一, 石原真木子, 箱崎謙太, 小林靖宏, 佐藤英尊, 椎葉真人, 桑子智之, 清水康弘, 岡崎恵美, 汲田伸一郎: 子宮体癌における FDG - PET 後期相の有用性. 第 51 回日本核医学会学術総会 (つくば), 2011. 10.
- 33) 岩野茉莉絵, 村上隆介, 石原圭一, 福嶋善光, 桐山智成, 武田美那子, 三樹いずみ, 谷 瞳, 森谷 愛, 杉原康朗, 汲田伸一郎: 乳癌センチネルリンパ節診断における SPECT-CT の有用性. 第 51 回日本核医学会学術総会

(つくば), 2011. 10.

- 34) 岩野茉莉絵, 栗林茂彦, 小澤由季子, 宮下次廣, 汲田伸一郎, 土肥輝之<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学形成外科): ケロイドに対する術後放射線治療の治療成績と再発予測因子の検討. 日本放射線腫瘍学会 第24回学術大会 (神戸), 2011. 11.
- 35) Machida T: Radiologic diagnosis of pancreatic neoplasm including small cancer detection. 1st Nippon- Young Yousei Pancreatic Tumor Study Group Joint Meeting (seoul Korea), 2011. 7.
- 36) 三樹いずみ, 関根鉄朗, 高木 亮, 天野康雄, 町田 幹, 村上隆介, 林 宏光, 菅谷正範, 野矢雅浩, 秀永慎一, 萩原 純<sup>1)</sup>, 松本 学<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎 (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院高度救命救急センター): 菜箸のS状結腸穿通により腹膜炎を来した敗血症性ショックとなった1例. 第21回日本救急放射線研究会 (下関), 2011. 10.
- 37) 谷 瞳, 岩野茉莉絵, 村上隆介, 汲田伸一郎, 柳原恵子<sup>1)</sup>, 飯田信也<sup>1)</sup>, 芳賀駿介<sup>1)</sup>, 松原美幸<sup>2)</sup>, 原田 大<sup>2)</sup>, 土屋真一<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学乳腺科, <sup>2)</sup> 日本医科大学病理部): 画像上, 良性を疑わせた粗大石灰化を有する乳癌の1例. 第19回日本乳癌学会学術総会 (仙台), 2011. 9.
- 38) 谷 瞳, 天野康雄, 城 正樹, 町田 幹, 汲田伸一郎, 水野杏一<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学循環器内科): 日本医学放射線学会関東地方会定期大会. 好酸球性心筋炎のMRI, 2011. 12.
- 39) 箱崎謙太, 石原圭一, 清水康弘, 佐藤英尊, 吉原尚志, 椎葉真人, 桑子智之, 桐山智成, 汲田伸一郎: 胃癌に対するFDG-PETの有用性. 第51回日本核医学会学術総会 (つくば), 2011. 10.
- 40) 椎葉真人, 石原圭一<sup>1)</sup>, 櫻井 実<sup>1)</sup>, 金谷浩司<sup>1)</sup>, 長谷康二<sup>1)</sup>, 箱崎謙太<sup>1)</sup>, 佐藤英尊, 吉原尚志, 汲田伸一郎 (<sup>1)</sup> 日本医科大学健診医療センター): TOF装置における呼吸停止下収集の検討. 第51回日本核医学会学術総会 (つくば), 2011. 10.
- 41) 佐藤英尊, 水村 直<sup>1)</sup>, 桑子智之, 汲田伸一郎 (<sup>1)</sup> 東邦大医放): Parkinson病, DLBD/PDDの統計解析診断におけるSPECT単独診断vsSPECT-CT併用診断. 第51回日本核医学会学術総会 (つくば), 2011. 10.
- 42) 山口英宣, 鳥羽正浩, 三好永哲<sup>1)</sup>, 新田浩一<sup>1)</sup>, 水村 直<sup>2)</sup>, 趙 圭一, 汲田伸一郎 (<sup>1)</sup> 日立メディコ, <sup>2)</sup> 東邦大医放): Tc-99m心筋SPECT画像より局所心筋壁厚を推定する方法を考案し, 肥大型心筋症症例で有用性について検討した. 第51回日本核医学会学術総会 (つくば), 2011. 10.
- 43) 武田美那子, 天野康雄, 町田 幹, 日高史貴, 汲田伸一郎, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院第一外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学第二病理学): 胃神経鞘腫の1例: CT, MRIを中心に. 第440回日医放関東地方会 (大宮), 2011. 12.
- 44) 福嶋善光, 鳥羽正浩, 桐山智成, 小林靖宏, 時田祐吉, 佐藤直樹, 田中啓治, 汲田伸一郎: 急性虚血性心不全例におけるニコランジル負荷心筋血流SPECTの有用性. 第51回日本核医学会学術総会 (つくば), 2011. 10.
- 45) 嶺 貴彦, 村田 智, 中澤 賢, 上田達夫, 山口英宣, 渋川絢子, 安井大祐, 汲田伸一郎: 下肢表層のhigh flow AVMの治療において, nidusの直接穿刺硬化療法を施行した1例. 第40回日本IVR学会総会 (青森), 2011. 5.
- 46) 嶺 貴彦, 村田 智, 中澤 賢, 上田達夫, 山口英宣, 安井大祐, 林 宏光, 汲田伸一郎, 福田令雄<sup>1)</sup>, 金 史英<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学救急医学): 外傷性内膜損傷に伴う膝窩動脈閉塞に対し, 経皮的血管形成術により開通を得た1例. 第17回日本血管内治療学会総会 (沖縄), 2011. 6.
- 47) 嶺 貴彦, 村田 智, 林 宏光, 中澤 賢, 上田達夫, 山口英宣, 秋葉絢子, 安井大祐, 隈崎達夫, 汲田伸一郎, 尾本健一郎<sup>1)</sup>, 金 史英<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学救急医学): 外傷性内膜損傷に伴う膝窩動脈閉塞に対する経皮的血管形成術. 第52回日本脈管学会総会 (岐阜県), 2011. 10.
- 48) 城 正樹, 天野康雄, 林 宏光, 小林靖宏, 汲田伸一郎: 心臓造影Look-Locker MRIを用いた拡張型心筋症におけるびまん性心筋障害の評価. 第73回日本心臓放射線研究会 (新潟), 2011. 7.
- 49) Amano Y, Tachi M, Kobayashi Y, Machida T, Suzuki Y<sup>1)</sup>, Kumita S (<sup>1)</sup> Philips electronics Japan): Post-

contrast Look-Locker and Late Gadolinium Enhancement MRI of Idiopathic Dilated Cardiomyopathy and Nonischemic Cardiomyopathies showing Congestive Heart Failure. 97th annual meeting of Radiological Society of North America (Chicago), 2011. 11.

- 50) Tachi M, Amano Y, Kobayashi Y, Kumita S: Evaluation of diffuse myocardial fibrosis using contrast-enhanced Look-Locker cardiac MRI and its relation with cardiac function in dilated cardiomyopathy: Comparison between 1.5T and 3T. SCMR/ISMRM Jointly Sponsored Workshop in 15th meeting of SCMR (Orlando), 2012. 2.
- 51) 佐藤英尊, 桑子智之, 水村 直, 汲田伸一郎: Parkinson 病, DLBD/PDD の統計解析診断における SPECT 単独診断 vs SPECT-CT 併用診断. 第 51 回日本核医学会学術総会 (つくば), 2011. 10.
- 52) 安井大祐, 村田 智, 中澤 賢, 嶺 貴彦, 上田達夫, 山口英宣, 洪川絢子, 汲田伸一郎: Iliacaval compression syndrome に伴う腸骨静脈血栓症に対する治療戦略: ステント留置術に関する. 第 40 回日本 IVR 学会総会 (青森), 2011. 5.
- 53) 安井大祐, 村田 智, 中澤 賢, 嶺 貴彦, 上田達夫, 山口英宣, 洪川絢子, 林 宏光, 汲田伸一郎: SAM による多発内臓動脈瘤破裂に対し IVR 治療にて止血し得た 1 例. 第 17 回日本血管内治療学会総会 (沖縄), 2011. 6.
- 54) 小澤由季子, 宮下次廣, 栗林茂彦, 岩野茉莉絵, 汲田伸一郎, 百束比古<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 土肥輝之<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院形成外科): ケロイドに対する高線量率小線源治療装置による術後照射の急性毒性の評価. 日本放射線腫瘍学会小線源部会第 13 回研究会 (沖縄), 2011. 5.
- 55) 小澤由季子, 宮下次廣, 栗林茂彦, 岩野茉莉絵, 汲田伸一郎, 百束比古<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup>, 土肥輝之<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院形成外科): 高線量率小線源治療装置によるケロイドの術後照射の治療成績: 電子線治療との比較. 日本放射線腫瘍学会第 24 回学術大会 (神戸), 2011. 11.
- 56) 小林靖宏, 天野康雄, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 林 宏光, 汲田伸一郎 (<sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院内科): IgG4 関連症候群を契機に発症したと考えられた冠動脈瘤と心筋障害の 1 例. 第 73 回心臓血管放射線研究会 (新潟), 2011. 7.
- 57) 小林靖宏, 石原圭一, 秋山一義, 佐藤英尊, 須田匡也<sup>1)</sup>, 櫻井 実<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎 (<sup>1)</sup> 日本医科大学健診医療センター): 24 時間超の糖質制限を加えた低糖高脂肪食による心筋 FDG 集積抑制効果の検討. 第 51 回日本核医学会学術総会 (つくば), 2011. 10.
- 58) 小林靖宏, 福島善光, 杉原康朗, 汲田伸一郎: MIBI/BMIPP dual SPECT を用いた拡張型心筋症の障害心筋分布の検討: 弁膜症性心不全との比較. 第 14 回心世代核医学研究会, 2011. 11.
- 59) 小林靖宏, 天野康雄, 石原圭一, 秋山一義, 佐藤英尊, 林 宏光, 汲田伸一郎, 高野仁司<sup>1)</sup>, 松田淳也<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学第 1 内科): 多発性 IgG4 関連疾患に伴う冠動脈・心病変の活動性評価に FDG-PET/CT が有用であった 1 例. 第 74 回日本心臓血管放射線研究会 (愛知県), 2012. 1.
- 60) 小林靖宏: 低糖高脂肪食負荷による心筋 FDG 集積の抑制. 第 866 回放射線診療研究会, 2012. 2.
- (10) イブニングセミナー:
  - 1) 林 宏光: 安全な造影検査を実施するための戦略と戦術: 同意文書はインフォームドコンセントの証憑か. 第 24 回ミッドウインターセミナー (福岡), 2012. 1.

## [武蔵小杉病院放射線科]

### 研究概要

放射線診断学: 1) 呼吸器疾患に対し, MDCT により高精細画像を作成し, 画像診断の向上に力を注いでいる. 肺切除病理標本と CT 画像の比較検討から, 詳細な画像所見の分析を試みている. 2) 川崎市からの依頼により地域住民の胃癌計画検査業務に参画し, より効率の良い, より制度の高い集検体系の確立をめざし研究中である. 3) MRI に

よる乳腺疾患の質的診断における dynamic study の応用, 乳腺浸潤判定における高分解能 MRI の撮像最適化に取り組んでいる。また, ステレオガイド下マンモトーム生検を行い, マンモグラフィ上, 微小石灰化を伴う乳癌診断にも力を注いでいる。Interventional Radiology: 1) 悪性肝臓腫瘍の治療として経皮的肝動脈塞栓術, 経皮的肝動脈動注療法を集学的治療に取り組んでいる。放射線治療学: 1) 肺癌に対して, 放射線治療を集学的治療の一つとして積極的に取り組んでいる。2) 形成外科とともに, ケロイド治療に取り組んでいる。核医学: 1) 各種放射性医薬品を用いて虚血性心疾患の評価に取り組んでいる。2) 脳腫瘍 SPECT を用いて腫瘍の局在などの検出率の評価に取り組んでいる。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 総説:

- 1) 金城忠志<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 竹ノ下尚子<sup>1)</sup>, 一色彩子, 市川太郎 (1) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター): 研修医が知らなくてはならない救急疾患の CT・MRI. 心大血管. 臨床画像増刊号 2011; 27 (10): 108-117.
- 2) 田島廣之<sup>1)</sup>, 金城忠志<sup>1)</sup>, 竹ノ下尚子<sup>1)</sup>, 市川太郎, 織井恒安<sup>2)</sup>, 保科淑子<sup>2)</sup>, 井村 肇<sup>2)</sup>, 村田 智<sup>3)</sup>, 中澤賢<sup>3)</sup>, 小野澤志郎<sup>3)</sup>, 嶺 貴彦<sup>3)</sup>, 川保博志<sup>4)</sup> (1) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, 2) 武蔵小杉病院心臓血管外科, 3) 付属病院放射線科, 4) 千葉北総病院放射線科): 救急大動脈疾患に対するステントグラフト (破裂・解離・外傷を含めて). 臨床画像 2011; 27 (11): 1398-1405.
- 3) 田島廣之<sup>1)</sup>, 金城忠志<sup>1)</sup>, 竹ノ下尚子<sup>1)</sup>, 市川太郎, 山本英世<sup>2)</sup>, 村田 智<sup>3)</sup>, 中澤賢<sup>3)</sup>, 小野澤志郎<sup>3)</sup>, 嶺 貴彦<sup>3)</sup>, 上田達夫<sup>3)</sup>, 山本 剛<sup>4)</sup>, 田中啓治<sup>4)</sup> (1) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, 2) 武蔵小杉病院循環器内科, 3) 付属病院放射線科, 4) 付属病院集中治療室): 静脈の IVR. 急性肺血栓塞栓症の IVR. 臨床放射線 2012; 57 (2): 245-252.

### 著書

- 1) 橋和聡文, 竹ノ下尚子<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup> (1) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター): [分担] 腎損傷. 「できる救急 IVR. 手技のコツとポイント」(中島康雄・田島廣之・西巻博・大友康裕), 2012; pp38-39, メジカルビュー社.
- 2) 橋和聡文, 金城忠志<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup> (1) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター): [分担] 後腹膜出血: 腎血管筋脂肪腫破裂. 「できる救急 IVR. 手技のコツとポイント」(中島康雄・田島廣之・西巻博・大友康裕), 2012; pp142-143, メジカルビュー社.

### 学会発表

#### (1) 特別講演:

- 1) 田島廣之<sup>1)</sup>, 金城忠志<sup>1)</sup>, 市川太郎, 中澤賢<sup>2)</sup>, 村田 智<sup>2)</sup> (1) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, 2) 付属病院放射線科): 急性肺血栓塞栓症の IVR. 日本医学放射線学会総会 (第 70 回) (WEB 開催), 2011. 5.
- 2) 田島廣之<sup>1)</sup>, 金城忠志<sup>1)</sup>, 竹ノ下尚子<sup>1)</sup>, 橋和聡文, 市川太郎, 織井恒安<sup>2)</sup>, 保科淑子<sup>2)</sup>, 白川 真<sup>2)</sup>, 丸山雄二<sup>2)</sup>, 井村 肇<sup>2)</sup> (1) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, 2) 武蔵小杉病院心臓血管外科): Pin hole, peri-graft leak, and intra-graft thrombosis. ゼニス症例検討会. 日本 IVR 学会 (第 40 回) (青森), 2011. 5.

#### (2) 一般講演:

- 1) Isshiki S, Ando J, Shimizu Y, Kaneshiro T<sup>1)</sup>, Kitsuwawa A, Tajima H<sup>1)</sup>, Ichikawa T (1) Center for minimally invasive treatment): A Practical strategy for the detection of malrotation in CT examination (22nd). ESGAR (VENICE), 2011. 5.
- 2) 橋和聡文, 田島廣之<sup>1)</sup>, 一色彩子, 山口香織, 清水康弘, 安藤 順, 市川太郎, 金城忠志<sup>1)</sup>, 村澤恒夫<sup>2)</sup>, 畝本

- 恭子<sup>3)</sup> (1) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, <sup>2)</sup> 武蔵小杉病院内科, <sup>3)</sup> 武蔵小杉病院救命救急センター): 腎出血: 出血血管の解剖学的認識について. 日本医学放射線学会 (第 70 回) (WEB 開催), 2011. 5.
- 3) 田島廣之<sup>1)</sup>, 金城忠志<sup>1)</sup>, 竹ノ下尚子<sup>1)</sup>, 橘和聡文, 市川太郎, 織井恒安<sup>2)</sup>, 保科淑子<sup>2)</sup>, 井村 肇<sup>2)</sup>, 尾藤博保<sup>3)</sup>, 村田 智<sup>4)</sup>, 市川和雄<sup>4)</sup>, 中澤 賢<sup>4)</sup>, 小野澤志郎<sup>4)</sup>, 嶺 貴彦<sup>4)</sup>, 上田達夫<sup>4)</sup>, その他 4 名 (1) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, <sup>2)</sup> 武蔵小杉病院心臓血管外科, <sup>3)</sup> 武蔵小杉病院麻酔科, <sup>4)</sup> 付属病院放射線科): 腹部大動脈瘤に対するステントグラフト治療: Zenith AAA エンドバスキュラーグラフトの中期成績. 日本 IVR 学会総会 (第 40 回) (青森), 2011. 5.
- 4) 橘和聡文, 田島廣之<sup>1)</sup>, 金城忠志<sup>1)</sup>, 竹ノ下尚子<sup>1)</sup>, 一色彩子, 山口香織, 清水康弘, 安藤 順, 市川太郎, 村澤恒夫<sup>2)</sup>, 牧 真彦<sup>3)</sup>, 畝本恭子<sup>3)</sup> (1) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, <sup>2)</sup> 武蔵小杉病院内科, <sup>3)</sup> 武蔵小杉病院救命救急センター): 腎出血: CT・血管造影による出血血管の同定と IVR. 日本 IVR 学会総会 (第 40 回) (青森), 2011. 5.
- 5) 金城忠志<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 橘和聡文, 一色彩子, 山口香織, 清水康弘, 安藤 順, 市川太郎, 上田達夫<sup>2)</sup>, 織井恒安<sup>3)</sup>, 土佐真美子<sup>4)</sup> (1) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, <sup>2)</sup> 付属病院放射線科, <sup>3)</sup> 武蔵小杉病院心臓血管外科, <sup>4)</sup> 武蔵小杉病院形成外科): 血管内治療が奏功した耳下腺領域 AVM の 1 例. 日本血管内治療学会 (第 17 回) (沖縄), 2011. 6.
- 6) 橘和聡文, 一色彩子, 清水康弘, 安藤 順, 市川太郎, 竹ノ下尚子<sup>1)</sup>, 金城忠志<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 松信哲朗<sup>2)</sup>, 水谷 聡<sup>2)</sup> (1) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, <sup>2)</sup> 武蔵小杉病院消化器病センター): 腸重積を発症した小腸脂肪筋肉腫の 1 例. 神奈川放射線医会例会 (第 52 回) (横浜), 2011. 9.
- 7) 竹ノ下尚子<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 金城忠志<sup>1)</sup>, 市川太郎, 安藤 順, 清水康弘, 一色彩子, 橘和聡文, 目原久美<sup>2)</sup>, 牧真彦<sup>2)</sup>, 畝本恭子<sup>2)</sup> (1) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, <sup>2)</sup> 武蔵小杉病院救命救急センター): Von Recklinghausen 病に合併した下脛十二指腸動脈瘤破裂の 1 例. 救急放射線研究会 (第 21 回) (下関), 2011. 10.
- 8) 竹ノ下尚子<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 金城忠志<sup>1)</sup>, 市川太郎, 一色彩子, 橘和聡文, 中塚雄久<sup>2)</sup>, 松下洋子<sup>2)</sup>, 柁 卓史<sup>2)</sup>, 鈴木英之<sup>3)</sup>, 畝本恭子<sup>4)</sup> (1) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, <sup>2)</sup> 武蔵小杉病院消化器内科, <sup>3)</sup> 武蔵小杉病院消化器病センター, <sup>4)</sup> 武蔵小杉病院救命救急センター): 睪炎と腹腔動脈解離に伴う下脛十二指腸仮性動脈瘤破裂に対し NBCA を用いて止血に成功した 1 例. 腹部救急医学会総会 (第 48 回) (金沢), 2012. 3.
- 9) 竹ノ下尚子<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 金城忠志<sup>1)</sup>, 橘和聡文, 市川太郎, 安藤 順, 清水康弘, 一色彩子, 畝本恭子<sup>2)</sup>, 牧真彦<sup>2)</sup>, 目原久美<sup>2)</sup>, 上笹 宙<sup>2)</sup>, 遠藤広史<sup>2)</sup> (1) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, <sup>2)</sup> 武蔵小杉病院救命救急センター): NBCA による塞栓術が有効であった上顎癌術後仮性動脈瘤破裂の 1 例. 日本 IVR 学会 (第 6 回) 関東地方会 (品川), 2011. 7.

## [武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター]

### 研究概要

臨床・基礎各科との協調・連携の下, 血管内・低侵襲治療に関する広範な領域の臨床研究を展開しており, 「急性疾患の血管内治療」と「全身血管性病変の血管内治療」をメインテーマとしている. 前者に関しては, 「静脈血栓塞栓症」と「外傷」を 2 本の研究の柱としている. 文部科学省の科学研究費を獲得し, 国際学会のシンポジウムに採択されるなど, 国内外で高い評価を得ている. 喀血・消化管出血・後腹膜出血などの「出血」に関する研究も進んでいる. 後者に関しては, 胸部・腹部大動脈瘤/解離のステントグラフト, 閉塞性動脈硬化症のステント, 膝下動脈狭窄・閉塞のバルン PTA, 腎動脈狭窄のステントなどの低侵襲血行再建や動静脈奇形の血管塞栓術などに関する研究を行っているが, その良好な治療成績が目立っている. 一方, 非血管低侵襲治療については, 肺癌の CT ガイド下生検・ラジオ波焼灼治療, 術後トラブルに対する CT ガイド下ドレナージ, 乳癌のステレオタクティック・マンモトーム生検な

どを中心とした臨床研究を行っている。血管内・低侵襲治療をより安全に効果的に施行する目的で、先端画像診断に関する解析や新規デバイスの開発もおこなっており、「東京アンギオ・IVR会」の事務局を担当している。なお、これらと平行して、以前より肺癌・乳癌・胃癌などの癌検診や造影剤に関する研究も継続している。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 総説：

- 1) Ando M<sup>1)</sup>, Fukuda I<sup>2)</sup>, Ito M<sup>3)</sup>, Kobayashi T<sup>4)</sup>, Masuda M<sup>5)</sup>, Miyahara Y<sup>6)</sup>, Nakanishi N<sup>7)</sup>, Niwa A<sup>8)</sup>, Ohgi S<sup>9)</sup>, Tajima H (1) Fujita Health University, 2) Hiroasaki University, 3) Mie University, 4) Hamamatsu Medical Center, 5) Chiba Medical Center, 6) Nagasaki Memorial Hospital, 7) National Cerebral and Cardiovascular Center, 8) Hiratsuka Kyosai Hospital, 9) Hitachi Memorial Hospital) : Guidelines for the diagnosis, treatment and prevention of pulmonary thromboembolism and deep vein thrombosis. Circulation Journal 2011 ; 175 (5) : 1258-1281.
- 2) 田島廣之, 小林由子<sup>1)</sup> (1) 多摩永山病院放射線科) : Learning from foreign journals and books. 特集アドバンスドコース. 臨床画像 2011 ; 27 (5) : 658-659.
- 3) 田島廣之 : 副腎静脈サンプリング. 序説. 臨床画像 2011 ; 27 (6) : 747.
- 4) 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 田島廣之, 嶺 貴彦<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>1)</sup>, 杉原 仁<sup>2)</sup>, 内田高浩<sup>3)</sup> (1) 付属病院放射線科, 2) 付属病院内分泌内科, 3) 武蔵小杉病院内科) : 副腎静脈サンプリング. 2. 手技の実際. 臨床画像 2011 ; 27 (6) : 758-763.
- 5) 金城忠志, 田島廣之, 竹ノ下尚子, 一色彩子<sup>1)</sup>, 市川太郎<sup>1)</sup> (1) 武蔵小杉病院放射線科) : 研修医が知らなくてはならない救急疾患のCT・MRI. 心大血管. 臨床画像 2011 ; 27 (10) : 108-117.
- 6) 田島廣之, 金城忠志, 竹ノ下尚子, 市川太郎<sup>1)</sup>, 織井恒安<sup>2)</sup>, 保科淑子<sup>2)</sup>, 井村 肇<sup>2)</sup>, 村田 智<sup>3)</sup>, 中澤 賢<sup>3)</sup>, 小野澤志郎<sup>3)</sup>, 嶺 貴彦<sup>3)</sup>, 川俣博志<sup>4)</sup> (1) 武蔵小杉病院放射線科, 2) 武蔵小杉病院心臓血管外科, 3) 付属病院放射線科, 4) 千葉北総病院放射線科) : 救急大動脈疾患に対するステントグラフト (破裂・解離・外傷を含めて). 臨床画像 2011 ; 27 (11) : 1398-1405.
- 7) 田島廣之, 金城忠志, 竹ノ下尚子, 市川太郎<sup>1)</sup>, 山本英世<sup>2)</sup>, 村田 智<sup>3)</sup>, 中澤 賢<sup>3)</sup>, 小野澤志郎<sup>3)</sup>, 嶺 貴彦<sup>3)</sup>, 上田達夫<sup>3)</sup>, 山本 剛<sup>4)</sup>, 田中啓治<sup>4)</sup> (1) 武蔵小杉病院放射線科, 2) 武蔵小杉病院循環器内科, 3) 付属病院放射線科, 4) 付属病院集中治療室) : 静脈のIVR. 急性肺血栓塞栓症のIVR. 臨床放射線 2012 ; 57 (2) : 245-252.
- 8) 田島廣之 : 急性肺血栓塞栓症のカテーテル的治療 (下大動脈フィルターを含む). 循環器専門医 2012 ; 19 : 73-78.

#### (2) 書評. ソフトウェア紹介：

- 1) 田島廣之 : CT/MRI 断面図ウォーカー. 臨床画像 2011 ; 27 (8) : 947.

### 著書

- 1) 田島廣之 : [分担] 血栓溶解療法 : 肺動脈 (急性肺血栓塞栓症). IVR マニュアル第二版 (栗林幸夫ら編), 2011 ; pp67-68, 医学書院.
- 2) 田島廣之 : [分担] 末梢肺癌のラジオ波治療 (RFA) の適応や注意点を教えてください. 肺癌診療 Q & A. 一つ上を行く診療の実践, 2011 ; pp148-150, 中外医学社.
- 3) 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 上田達夫<sup>1)</sup>, 田島廣之 (1) 付属病院放射線科) : [分担] 肺実質損傷 : 外傷性肺動脈損傷. 「できる救急IVR. 手技のコツとポイント」 (中島康雄・田島廣之・西巻博・大友康裕), 2012 ; pp12-13, メジカルビュー社.

- 4) 嶺 貴彦<sup>1)</sup>, 福永 毅<sup>2)</sup>, 田島廣之 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup> 博慈会記念病院放射線科) : [分担] 胸壁損傷・肋間動脈損傷. 「できる救急 IVR. 手技のコツとポイント」(中島康雄・田島廣之・西巻博・大友康裕), 2012 ; pp14-15, メジカルビュー社.
- 5) 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 秋葉絢子<sup>1)</sup>, 田島廣之 ( <sup>1)</sup> 付属病院放射線科) : [分担] 骨盤動脈損傷 : 下腹壁動脈損傷. 「できる救急 IVR. 手技のコツとポイント」(中島康雄・田島廣之・西巻博・大友康裕), 2012 ; pp26-27, メジカルビュー社.
- 6) 橋和聡文<sup>1)</sup>, 竹ノ下尚子, 田島廣之 ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院放射線科) : [分担] 腎損傷. 「できる救急 IVR. 手技のコツとポイント」(中島康雄・田島廣之・西巻博・大友康裕), 2012 ; pp38-39, メジカルビュー社.
- 7) 嶺 貴彦<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>2)</sup>, 田島廣之 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup> 付属病院放射線科) : [分担] 副腎損傷. 「できる救急 IVR. 手技のコツとポイント」(中島康雄・田島廣之・西巻博・大友康裕), 2012 ; pp40-41, メジカルビュー社.
- 8) 上田達夫<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 田島廣之 ( <sup>1)</sup> 付属病院放射線科) : [分担] 鎖骨下動脈損傷. 「できる救急 IVR. 手技のコツとポイント」(中島康雄・田島廣之・西巻博・大友康裕), 2012 ; pp56-57, メジカルビュー社.
- 9) 嶺 貴彦<sup>1)</sup>, 小野澤志郎<sup>2)</sup>, 田島廣之 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup> 付属病院放射線科) : [分担] 癌血管浸潤 (ステントグラフト). 「できる救急 IVR. 手技のコツとポイント」(中島康雄・田島廣之・西巻博・大友康裕), 2012 ; pp72-73, メジカルビュー社.
- 10) 竹ノ下尚子, 金城忠志, 田島廣之 : [分担] 癌血管浸潤 (コイリング, NBCA). 「できる救急 IVR. 手技のコツとポイント」(中島康雄・田島廣之・西巻博・大友康裕), 2012 ; pp74-76, メジカルビュー社.
- 11) 金城忠志, 竹ノ下尚子, 田島廣之 : [分担] 咯血 (気管支動脈塞栓術 : BAE). 「できる救急 IVR. 手技のコツとポイント」(中島康雄・田島廣之・西巻博・大友康裕), 2012 ; pp78-79, メジカルビュー社.
- 12) 中澤 賢<sup>1)</sup>, 秋葉絢子<sup>1)</sup>, 田島廣之 ( <sup>1)</sup> 付属病院放射線科) : [分担] 急性肺血栓塞栓症 (血栓溶解・破碎・吸引療法). 「できる救急 IVR. 手技のコツとポイント」(中島康雄・田島廣之・西巻博・大友康裕), 2012 ; pp80-83, メジカルビュー社.
- 13) 田島廣之, 金城忠志, 竹ノ下尚子 : [分担] 肺動脈損傷 : 医原性. 「できる救急 IVR. 手技のコツとポイント」(中島康雄・田島廣之・西巻博・大友康裕), 2012 ; pp84-85, メジカルビュー社.
- 14) 山本英世<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田島廣之 ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院内科) : [分担] 急性心筋梗塞に対する PCI. 「できる救急 IVR. 手技のコツとポイント」(中島康雄・田島廣之・西巻博・大友康裕), 2012 ; pp86-88, メジカルビュー社.
- 15) 田島廣之 : [分担] 虚血に陥った分枝血管に対するステント留置. 「できる救急 IVR. 手技のコツとポイント」(中島康雄・田島廣之・西巻博・大友康裕), 2012 ; p103, メジカルビュー社.
- 16) 田島廣之, 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 嶺 貴彦<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院放射線科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院放射線科) : [分担] 胸部大動脈瘤破裂 (ステントグラフト). 「できる救急 IVR. 手技のコツとポイント」(中島康雄・田島廣之・西巻博・大友康裕), 2012 ; pp104-105, メジカルビュー社.
- 17) 田島廣之, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 嶺 貴彦<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院放射線科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院放射線科) : [分担] 腹部大動脈瘤破裂 (ステントグラフト). 「できる救急 IVR. 手技のコツとポイント」(中島康雄・田島廣之・西巻博・大友康裕), 2012 ; pp106-107, メジカルビュー社.
- 18) 川俣博志<sup>1)</sup>, 嶺 貴彦<sup>1)</sup>, 田島廣之 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院放射線科) : [分担] 腸骨動脈瘤破裂 (ステントグラフト). 「できる救急 IVR. 手技のコツとポイント」(中島康雄・田島廣之・西巻博・大友康裕), 2012 ; pp108-109, メジカルビュー社.
- 19) 橋和聡文<sup>1)</sup>, 金城忠志, 田島廣之 ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院放射線科) : [分担] 後腹膜出血 : 腎血管筋脂肪腫破裂. 「できる救急 IVR. 手技のコツとポイント」(中島康雄・田島廣之・西巻博・大友康裕), 2012 ; pp142-143, メジカルビュー社.
- 20) 金城忠志, 嶺 貴彦<sup>1)</sup>, 田島廣之 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院放射線科) : [分担] 上腸間膜動脈血栓塞栓症. 「できる救急

- IVR.手技のコツとポイント」(中島康雄・田島廣之・西巻博・大友康裕), 2012; pp148-149, メジカルビュー社.
- 21) 竹ノ下尚子, 金城忠志, 田島廣之: [分担] 産科出血に対する動脈塞栓術. 「できる救急 IVR. 手技のコツとポイント」(中島康雄・田島廣之・西巻博・大友康裕), 2012; pp156-159, メジカルビュー社.
  - 22) 上田達夫<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>1)</sup>, 田島廣之 ( <sup>1</sup> 付属病院放射線科 ): [分担] 急性四肢動脈閉塞症. 「できる救急 IVR. 手技のコツとポイント」(中島康雄・田島廣之・西巻博・大友康裕), 2012; pp162-164, メジカルビュー社.
  - 23) 中澤 賢<sup>1)</sup>, 小野澤志郎<sup>1)</sup>, 田島廣之 ( <sup>1</sup> 付属病院放射線科 ): [分担] 深部静脈血栓症 (血栓溶解・破碎・吸引療法・IVC フィルター留置術). 「できる救急 IVR. 手技のコツとポイント」(中島康雄・田島廣之・西巻博・大友康裕), 2012; pp165-169, メジカルビュー社.
  - 24) 山本英世<sup>1)</sup>, 菊池有史<sup>1)</sup>, 田島廣之 ( <sup>1</sup> 武蔵小杉病院内科 ): [分担] 急性心筋梗塞に対する PCI. 「できる救急 IVR. 手技のコツとポイント」(中島康雄・田島廣之・西巻博・大友康裕), 2012; pp176-177, メジカルビュー社.

## 学会発表

### (1) 特別講演:

- 1) 田島廣之, 金城忠志, 市川太郎<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>2)</sup>, 村田 智<sup>2)</sup> ( <sup>1</sup> 武蔵小杉病院放射線科, <sup>2</sup> 付属病院放射線科 ): 急性肺血栓塞栓症の IVR. 日本医学放射線学会総会 (第 70 回) (WEB 開催), 2011. 5.
- 2) 田島廣之, 金城忠志, 竹ノ下尚子, 橘和聡文<sup>1)</sup>, 市川太郎<sup>1)</sup>, 織井恒安<sup>2)</sup>, 保科淑子<sup>2)</sup>, 白川 真<sup>2)</sup>, 丸山雄二<sup>2)</sup>, 井村 肇<sup>2)</sup> ( <sup>1</sup> 武蔵小杉病院放射線科, <sup>2</sup> 武蔵小杉病院心臓血管外科 ): Pin hole, peri-graft leak, and intra-graft thrombosis. ゼニス症例検討会. 日本 IVR 学会総会 (第 40 回), 2011. 5.
- 3) 田島廣之: 救急疾患の IVR: 外傷を中心として. 和歌山 Research and IVR カンファレンス, 2011. 5.
- 4) 田島廣之: 放射線の体にも与える影響. コープとうきょう学習会, 2011. 10.
- 5) 田島廣之: 放射線の体にも与える影響 (1). 興和不動産ファシリティーズ. 衛生講和, 2011. 10.
- 6) 田島廣之: 血管内・低侵襲治療の実際と保険請求. 相模医療保険事務研究会特別講演会 (第 211 回), 2011. 12.
- 7) 田島廣之: 放射線の体にも与える影響 (2). 興和不動産ファシリティーズ. 衛生講和, 2012. 2.
- 8) 田島廣之: 救急疾患の放射線診断と IVR. 川崎市放射線医科講演会, 2012. 2.
- 9) 金城忠志, 田島廣之: レントゲンクイズ解説. 川崎市放射線医会講演会, 2012. 2.

### (2) 教育講演:

- 1) 田島廣之: 救急疾患の IVR. 救命救急士講習会, 2011. 8.
- 2) 田島廣之: 血管系 IVR の基本. IVR 認定看護師講習会 (第 9 回), 2011. 10.
- 3) 田島廣之: 急性肺血栓塞栓症のカテーテル的治療 (下大静脈フィルターを含む). 日本循環器学会学術集会 (第 76 回), 2012. 3.

### (3) シンポジウム:

- 1) 野村 聡<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 星野有哉<sup>1)</sup>, 田島廣之, 相本隆幸<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> ( <sup>1</sup> 武蔵小杉病院消化器病センター, <sup>2</sup> 付属病院消化器外科 ): 臍頭十二指腸切除早期に発症した上腸間膜動脈血栓症の 1 例. 日本腹部救急医学会総会 (第 47 回) (福岡), 2011. 8.

### (4) 一般講演:

- 1) Isshiki S<sup>1)</sup>, Andoh J<sup>1)</sup>, Shimizu Y<sup>1)</sup>, Kaneshiro T, Kitsuwawa A<sup>1)</sup>, Tajima H, Ichikawa T<sup>1)</sup> ( <sup>1</sup> Department of Radiology ): A Practical strategy for the detection of malrotation in routine CT examination. ESGAR (22nd) (VENICE), 2011. 5.
- 2) 橘和聡文<sup>1)</sup>, 田島廣之, 一色彩子<sup>1)</sup>, 山口香織<sup>1)</sup>, 清水康弘<sup>1)</sup>, 安藤 順<sup>1)</sup>, 市川太郎<sup>1)</sup>, 金城忠志, 村澤恒夫<sup>2)</sup>, 畝本恭子<sup>3)</sup> ( <sup>1</sup> 武蔵小杉病院放射線科, <sup>2</sup> 武蔵小杉病院内科, <sup>3</sup> 武蔵小杉病院救命救急センター ): 腎出血: 出血血管の解剖学的認識について. 日本医学放射線学会総会 (第 70 回) (WEB 開催), 2011. 5.
- 3) 田島廣之, 金城忠志, 竹ノ下尚子, 橘和聡文<sup>1)</sup>, 市川太郎<sup>1)</sup>, 織井恒安<sup>2)</sup>, 保科淑子<sup>2)</sup>, 井村 肇<sup>2)</sup>, 尾藤博保<sup>3)</sup>,

- 村田 智<sup>4)</sup>, 市川和雄<sup>4)</sup>, 中澤 賢<sup>4)</sup>, 小野澤志郎<sup>4)</sup>, 嶺 貴彦<sup>4)</sup>, 上田達夫<sup>4)</sup>, その他 4 名 (1) 武蔵小杉病院放射線科, 2) 武蔵小杉病院心臓血管外科, 3) 武蔵小杉病院麻酔科, 4) 付属病院放射線科, 5) 付属心臓血管外科, 6) 千葉北総病院放射線科, 7) 千葉北総病院心臓血管外科): 腹部大動脈瘤に対するステントグラフト治療: Zenith AAA エンドバスキュラーグラフトの中期成績. 日本 IVR 学会総会 (第 40 回), 2011. 5.
- 4) 橘和聡文<sup>1)</sup>, 田島廣之, 金城忠志, 竹ノ下尚子, 一色彩子<sup>1)</sup>, 山口香織<sup>1)</sup>, 清水康弘<sup>1)</sup>, 安藤 順<sup>1)</sup>, 市川太郎<sup>1)</sup>, 村澤恒夫<sup>2)</sup>, 牧 真彦<sup>3)</sup>, 畝本恭子<sup>3)</sup> (1) 武蔵小杉病院放射線科, 2) 武蔵小杉病院内科, 3) 武蔵小杉病院救命救急センター): 腎出血: CT・血管造影による出血血管の同定と IVR. 日本 IVR 学会総会 (第 40 回), 2011. 5.
- 5) 金城忠志, 田島廣之, 橘和聡文<sup>1)</sup>, 一色彩子<sup>1)</sup>, 山口香織<sup>1)</sup>, 清水康弘<sup>1)</sup>, 安藤 順<sup>1)</sup>, 市川太郎<sup>1)</sup>, 上田達夫<sup>2)</sup>, 織井恒安<sup>3)</sup>, 土佐真美子<sup>4)</sup> (1) 武蔵小杉病院放射線科, 2) 付属病院放射線科, 3) 武蔵小杉病院心臓血管外科, 4) 武蔵小杉病院形成外科): 血管内治療が奏功した耳下腺領域 AVM の 1 例. 日本血管内治療学会総会 (第 17 回), 2011. 6.
- 6) 竹ノ下尚子, 田島廣之, 金城忠志, 橘和聡文<sup>1)</sup>, 市川太郎<sup>1)</sup>, 安藤 順<sup>1)</sup>, 清水康弘<sup>1)</sup>, 一色彩子<sup>1)</sup>, 畝本恭子<sup>2)</sup>, 牧 真彦<sup>2)</sup>, 目原久美<sup>2)</sup>, 上笹 宙<sup>2)</sup>, 遠藤広史<sup>2)</sup> (1) 武蔵小杉病院放射線科, 2) 武蔵小杉病院救命救急センター): NBCA による塞栓術が有効であった上顎癌術後仮性動脈瘤破裂の 1 例. 日本 IVR 学会関東地方会 (第 6 回), 2011. 7.
- 7) 橘和聡文<sup>1)</sup>, 一色彩子<sup>1)</sup>, 清水康弘<sup>1)</sup>, 安藤 順<sup>1)</sup>, 市川太郎<sup>1)</sup>, 竹ノ下尚子, 金城忠志, 田島廣之, 松信哲朗<sup>2)</sup>, 水谷 聡<sup>2)</sup> (1) 武蔵小杉病院放射線科, 2) 武蔵小杉病院消化器病センター): 腸重積を発症した小腸脂肪肉腫の 1 例. 神奈川放射線医学会例会 (第 52 回), 2011. 9.
- 8) 竹ノ下尚子, 田島廣之, 金城忠志, 市川太郎<sup>1)</sup>, 安藤 順<sup>1)</sup>, 清水康弘<sup>1)</sup>, 一色彩子<sup>1)</sup>, 橘和聡文<sup>1)</sup>, 目原久美<sup>2)</sup>, 牧 真彦<sup>2)</sup>, 畝本恭子<sup>2)</sup> (1) 武蔵小杉病院放射線科, 2) 武蔵小杉病院救命救急センター): Von Recklinghausen 病に合併した下脛十二指腸動脈瘤破裂の 1 例. 日本医学放射線学会秋季臨床大会 (第 47 回) 救急放射線研究会 (第 21 回), 2011. 10.
- 9) 保科淑子<sup>1)</sup>, 田島廣之, 金城忠志, 竹ノ下尚子, 鈴木大悟<sup>1)</sup>, 白川 真<sup>1)</sup>, 丸山雄二<sup>1)</sup>, 井村 肇<sup>1)</sup> (1) 武蔵小杉病院心臓血管外科): 1%ポリドカノールを用いて硬化療法を行った右第 5 指先天性動静脈奇形. 東京血管外科画像診断治療研究会, 2012. 2.
- 10) 竹ノ下尚子, 田島廣之, 金城忠志, 市川太郎<sup>1)</sup>, 一色彩子<sup>1)</sup>, 橘和聡文<sup>1)</sup>, 中塚雄久<sup>2)</sup>, 松下洋子<sup>2)</sup>, 栢 卓史<sup>2)</sup>, 鈴木英之<sup>3)</sup>, 畝本恭子<sup>4)</sup> (1) 武蔵小杉病院放射線科, 2) 武蔵小杉病院消化器内科, 3) 武蔵小杉病院消化器病センター, 4) 武蔵小杉病院救命救急センター): 膵炎と腹腔動脈解離に伴う下脛十二指腸仮性動脈瘤破裂に対し NBCA を用いて止血に成功した 1 例. 腹部救急医学会総会 (第 48 回), 2012. 3.
- 11) 和田由大<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 坊 秀樹<sup>1)</sup>, 小峰 修<sup>1)</sup>, 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 黒田誠司<sup>1)</sup>, 田島廣之, 竹ノ下尚子, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 付属病院消化器外科): 胃癌に合併した右胃動脈仮性動脈瘤出血に対して IVR が奏功した 1 例. 腹部救急医学会総会 (第 48 回), 2012. 3.
- 12) 清水貴夫<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 黒田誠司<sup>1)</sup>, 越智友洋<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 田島廣之, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 武蔵小杉病院消化器病センター, 2) 付属病院消化器外科): 潰瘍底の動脈瘤破裂に対して NBCA を用いた塞栓術が有効であった出血性胃潰瘍の 1 例. 腹部救急医学会総会 (第 48 回), 2012. 3.
- 13) 中摩健二<sup>1)</sup>, 山本英世<sup>1)</sup>, 徳山榮男<sup>1)</sup>, 田中貴久<sup>1)</sup>, 菊池有史<sup>1)</sup>, 石川昌弘<sup>1)</sup>, 網谷賢一<sup>1)</sup>, 高橋直人<sup>1)</sup>, 内田高浩<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 田島廣之, 水野杏一<sup>2)</sup> (1) 武蔵小杉病院循環器内科, 2) 付属病院循環器内科): Stanford B 型偽腔開存型急性大動脈解離に合併した腸管・下肢虚血に対して経皮的開窓術を施行した 1 例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 223 回), 2012. 2.

## [多摩永山病院放射線科]

### 研究概要

CTでは、ワークステーションを活用した医用画像処理の研究・マルチスライスCTを用いた心疾患の診断・造影剤の腎機能に及ぼす影響について検討を続けている。また高濃度ヨード造影剤を用いた肝腫瘍の抽出能についての検討も行っている。MRIではEOBによる肝腫瘍の抽出能に関する検討を行っている。また、局所の心機能解析の検討を行っている。今後は核医学的検査との比較を予定している。核医学では、これまで外部企業と共同で心電図同期SPECTの解析プログラムを開発し、現在は新たなプログラムを開発中である。また、これらを用いて種々の心疾患における心筋の血流・代謝と壁運動・同期性の関係や心筋虚血と壁運動の同期性の関係について検討を重ねている。また、左室壁運動の同期性を用いた予後予測についてもデータを蓄積中である。さらにサーバー型画像解析装置を用いて、CT、MRI、RI画像の統合を行い、診断精度の向上を目的とした研究を準備中である。

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) 山本 彰, 宮地秀樹<sup>1)</sup>, 阿部和也, 小林由子, 玉井 仁, 草間芳樹<sup>2)</sup>, 新 博次<sup>2)</sup>, 汲田伸一郎<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学付属病院集中治療室, 2) 日本医科大学多摩永山病院内科・循環器内科, 3) 日本医科大学付属病院放射線科) : 二核種同時SPECTと心電図同期SPECTを用いた心筋梗塞における心筋血流・脂肪酸代謝, 収縮能, 同期生の関係の検討 : 血流脂肪酸代謝ミスマッチの有無を含め, 臨床放射線 2012 ; 57 (1) : 123-135.

(2) 総説：

- 1) 田島廣之<sup>1)</sup>, 小林由子 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター) : Cystic lesion : 画像診断のkey point. 「臨床画像」 2011 ; 27 (5) : 658-659.

#### 学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 山本 彰, 宮地秀樹<sup>1)</sup>, 阿部和也, 小林由子, 玉井 仁, 能勢隆之<sup>2)</sup>, 汲田伸一郎<sup>3)</sup> (1) 多摩永山病院内科, 2) 多摩永山病院放射線治療科, 3) 付属病院放射線科) : 心筋梗塞後の時期と血流脂肪酸代謝ミスマッチの血流代謝・心機能・壁運動同期性の関係への影響. 日本医学放射線学会総会 (第70回) (横浜), 2011. 4.
- 2) Miyachi H<sup>1)</sup>, Yamamoto A (1) Nippon Medical School Tama-Nagayama Hospital, Tokyo, Japan) : Impact of Left Ventricular Dyssynchrony on Left Ventricular Systolic Function in Chronic Heart Failure Assessed by 99mTc-Sestamibi Gated Myocardial Scintigraphy. 60th Annual Scientific Session & Expo (NEW ORLEANS), 2011. 4.

## [多摩永山病院放射線治療科]

### 研究概要

3次元治療計画を全症例に適用している。研究, 業績の両者に利用できるよう受付, 医師, 技師間のイントラネットデータベースを構築し運用している。一昨年から準備を行ってきた体幹部定位照射を昨年後半から開始した。

## 研究業績

### 論文

#### 〔追加分〕

追加分原著：

- 1) Otani Y<sup>1)</sup>, Fukuda I<sup>2)</sup>, Tsukamoto N<sup>2)</sup>, Kumazaki Y<sup>2)</sup>, Sekine H<sup>2)</sup>, Imabayashi E<sup>3)</sup>, Kawaguchi O<sup>4)</sup>, Nose T, Teshima T<sup>1)</sup>, Dokiya T<sup>2)</sup> (1) Department of Medical Physics and Engineering, Osaka University Graduate School of Medicine, Osaka, 2) Department of Radiation Oncology, Saitama Medical University, Saitama, 3) Department of Nuclear Medicine, Saitama Medical University, Saitama, 4) Department of Radiology, Keio University, Tokyo) : A comparison of the respiratory signals acquired by different respiratory monitoring systems used in respiratory gated radiotherapy. Med Phys 2010 ; 37 (12) : 6178-6286.
- 2) Yoshida K<sup>1)</sup>, Yamazaki H<sup>2)</sup>, Nose T<sup>3)</sup>, Shiomi H<sup>4)</sup>, Yoshida M<sup>1)</sup>, Mikami M<sup>1)</sup>, Takenaka T<sup>1)</sup>, Kotsuma T<sup>1)</sup>, Tanaka E<sup>1)</sup>, Kuriyama K<sup>1)</sup>, Harada Y<sup>5)</sup>, Tohda A<sup>5)</sup>, Yasunaga Y<sup>5)</sup>, Oka T<sup>5)</sup> (1) Department of Radiology, National Hospital Organization Osaka National Hospital, Osaka City Japan, 2) Department of Radiology, Kyoto Prefectural University of Medicine, Kyoto, Japan, 3) Department of Radiation Oncology Cancer Institute Hospital, Tokyo, Japan, 4) Department of Radiation Oncology Osaka University Graduate School of Medicine, Osaka, Japan, 5) Department of Urology, National Hospital Organization Osaka National Hospital, Osaka City, Japan) : Needle applicator displacement during high-dose-rate interstitial brachytherapy for prostate cancer. Brachytherapy 2010 ; 9 (1) : 36-41.

### 学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 能勢隆之：組織内照射を使った加速乳房部分照射法。お茶の水乳腺研究会（第23回）（東京・順天堂大学），2011. 5.

(2) 教育講演：

- 1) 能勢隆之：ABS 参加報告：APBI について。小線源治療部会研究会（第13回）（宜野湾），2011. 5.
- 2) 能勢隆之：ERT vs Brachytherapy, 組織内照射を用いた加速乳房部分照射。小線源治療部会研究会（第13回）（宜野湾），2011. 5.
- 3) 能勢隆之, 大谷侑輝<sup>1)</sup>, 土器屋卓志<sup>1)</sup>, 吉田 謙<sup>2)</sup>, 小口正彦<sup>2)</sup>, 築山 巖<sup>3)</sup>, 余田栄作<sup>4)</sup>, 松村泰成<sup>5)</sup>, 立入誠司<sup>6)</sup>, 伊丹 純<sup>7)</sup> (1) 埼玉医大国際医療センター, 2) 大阪医療センター, 3) 会津中央病院, 4) 川崎医大, 5) 九州医療センター, 6) 京都市立病院, 7) 国立がん研究センター) : 小口班乳癌 APBI 臨床試験の中間解析時点における臨床結果。日本放射線腫瘍学会（第24回）（神戸），2011. 11.

(3) パネルディスカッション：

- 1) Nose T, Ootani Y<sup>1)</sup>, Sekine H<sup>1)</sup>, Tsukiyama I<sup>1)</sup>, Asahi S<sup>1)</sup>, Yosida K<sup>1)</sup>, Masuda N<sup>1)</sup>, Yoden E<sup>1)</sup>, Nakasima K<sup>1)</sup>, Matsumura Y<sup>1)</sup>, Fujii T<sup>1)</sup>, Tachiiri S<sup>1)</sup>, Moriguchi Y<sup>1)</sup>, Oguchi M<sup>1)</sup>, Iwase T<sup>1)</sup>, et al. (1) Japanese Multi-institutional APBI group) : Japanese multi-institutional feasibility study of APBI using interstitial brachytherapy. American Brachytherapy Society 2011 annual meeting (San Diego/USA), 2011. 4.

## 〔千葉北総病院放射線科〕

### 研究概要

婦人科系の腫瘍について、女性診療科および病理部とのカンファレンスを通じて、画像と臨床所見や病理像との比較検討を行っており、子宮や卵巣の稀な腫瘍や炎症性疾患などについて、症例を重ねて検討している。救命救急分野

において、救命救急部とのカンファランスを毎週行い、臨床像と画像との対比検討を行っている。緊急 IVR の症例などについて、臨床像とあわせて検討している。消化器疾患については、外科・内科・病理部と合同で、術前症例および術後症例についてのカンファランスを行っている。画像と癌の深達度、転移・浸潤所見などについて、手術所見・病理所見と画像所見との比較検討を行っている。IVR 領域においては、外傷症例、悪性腫瘍、ASO、深部静脈血栓症、大動脈ステント、透析シャントトラブルなどの多くの症例に対して治療を行い、良好な成績を得ている。大動脈ステントについては、症例が増加し、いずれも良好な成績をえている。内腸骨動脈瘤の IVR について、詳細な検討を行っている。MRI 領域では、シーケンスについての基礎的検討などを行っている。3 テスラ装置が導入され、それに合わせた条件の検討を行っている。CT 領域では、64 列マルチスライス CT を用いた CTA について症例を重ねて検討している。情報処理・PACS 分野では、システムの改善の努力を続けている。また、今後はさらに学術的な部分での強化をはかる予定である。

## 研究業績

### 論文

#### 〔追加分〕

追加分総説：

- 1) 嶺 貴彦<sup>1)</sup>、川俣博志、田島廣之<sup>2)</sup> (1) 付属病院放射線科、<sup>2)</sup> 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター)：心・大血管損傷。救急医学 2011；35 (2)：233-235.

(1) 原著：

- 1) Nemoto K<sup>1)</sup>、Tsuboi N<sup>1)</sup>、Miura T<sup>1)</sup>、Shioji G<sup>1)</sup>、Kawamata H、Okada S、Ohaki Y<sup>2)</sup>、Kimata R<sup>3)</sup>、Kondo Y<sup>3)</sup> (1) Dept of Urology、<sup>2)</sup> Dept of Pathology、<sup>3)</sup> Dept of Urology, Nippon Medical School)：Intra-arterial Combination Chemotherapy with Maximum Transurethral Resection of Bladder Tumour for T1 Grade 3 and T2-3NOMO Bladder Cancers. Journal of Cancer Science & Therapy 2011；3 (10)：235-238.

### 学会発表

(1) ポスター：

- 1) 貝津俊英：耳下腺悪性リンパ腫の2例。日本放射線腫瘍学会学術大会（第24回）（神戸），2011. 11.

(2) 一般講演：

- 1) 阿部雅志<sup>1)</sup>、池亀 敏<sup>1)</sup>、加藤丈司<sup>1)</sup>、河原崎昇<sup>1)</sup>、菊池陽子<sup>2)</sup>、伊藤里美<sup>2)</sup>、鈴木千夏<sup>2)</sup>、菅澤真純<sup>2)</sup>、富田尚樹<sup>1)</sup>、横山雪乃<sup>1)</sup>、岡田 進、小林士郎<sup>3)</sup> (1) 放射線センター、<sup>2)</sup> 看護部、<sup>3)</sup> 脳神経外科)：MRI 検査に対する当院教育プログラムと認定制度。日本脳神経外科学会学術総会（第70回）（横浜），2011. 10.

(3) ポスター展示：

- 1) 中塚智也<sup>1)</sup>、稲岡 努<sup>1)</sup>、工藤秀康<sup>1)</sup>、笠井ルミ子<sup>1)</sup>、粕谷秀輔<sup>1)</sup>、北村範子<sup>1)</sup>、岡田 進、吉田友英<sup>2)</sup>、蛭田啓之<sup>3)</sup>、長谷部光泉<sup>1)</sup>、寺田一志<sup>1)</sup> (1) 東邦大学医療センター佐倉病院放射線科、<sup>2)</sup> 東邦大学医療センター佐倉病院耳鼻咽喉科、<sup>3)</sup> 東邦大学医療センター佐倉病院病理診断科)：左中耳発生と考えられた pyogenic granuloma の1例。日本医学放射線学会秋季臨床大会（第47回）（下関），2011. 10.

## 8. 皮膚科学講座

### [付属病院皮膚科]

#### 研究概要

1. 皮膚の神経内分泌免疫学
  - ・免疫担当細胞におよぼす CRH の作用メカニズム.
  - ・CRH がおよぼす毛周期への影響.
  - ・サブスタンス P, NGF, GDNF の皮膚における作用.
2. 自己免疫性水疱症の発症機序
  - ・免疫担当細胞の動態, 細胞外基質分解酵素 (matrix metalloproteinase) の表現解析.
3. 皮質抗原の認識機構の解析
4. センチネルリンパ節生検法の応用と開発
5. 薬疹, 接触性皮膚炎の原因抗原の解析
6. メラニン産生の制御機構
  - ・尋常性白斑の治療法の開発.
7. ウイルス性疣贅におけるテロメース活性の解析
8. 酸化ストレスが炎症病態成立に果たす役割の解析, 新たな治療法の開発
9. 美容皮膚科学
  - ・ケミカルピーリング, 活性型ビタミン C, レチノイン酸, レーザー療法, photodynamictherapy の基礎的研究.
10. レーザー光を応用した治療
  - ・診断の開発.
  - ・skin optics, selective photothermolysis の理論に基づき, 生体に対する光の反応の臨床応用を目的とする.
11. アトピー性皮膚炎の病態のメカニズム解明と新たな治療法の開発
12. 難治性皮膚疾患 (脱毛症, 痒疹など) に対する治療戦略
  - ・脱毛症に対する免疫療法, 痒疹などに対する紫外線療法.
13. 皮膚疾患における遺伝子治療の基礎的研究
  - ・幹細胞研究・再生工学を駆使した皮膚再生治療, 表遺伝子治療の開発.
14. 心療皮膚科
  - ・患者医師関係において, 皮膚疾患患者に生じる転移 transference や投影同一視, および医師側に生じる逆転移 conufertransference などを利用して行う心身医学的治療戦略.

#### 研究業績

##### 論文

##### [追加分]

追加分原著:

- 1) 川名誠司: 皮膚血管炎の診断の進め方. SEMINARIA DERMATOLOGY 2011; 210: 39-43.

(1) 原著:

- 1) 二神綾子: 海綿状態を呈する炎症性皮膚疾患: わかりやすい! How to 皮膚病理. Derma 2011; 177: 34-39.
- 2) Omi T, Kawana S, Sato S, Bonan P, Naito Z: Fractional CO2 laser for the treatment of acne scars. J Cos-

met Dermatol 2011 ; 10 (4) : 294-300.

- 3) Ansai S, Takeichi H<sup>1)</sup>, Arase S<sup>1)</sup>, Kawana S, Kimura T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Dermatology, Department of Pathologic Medicine for Cutaneo-Motoric System, Institute of Health Biosciences, University of Tokushima Gradua, <sup>2)</sup> Sapporo Dermatopathology Institute) : Sebaceous carcinoma : an immunohistochemical reappraisal. Am J Dermatopathol 2011 ; 33 (6) : 597-587.
- 4) Mitsuishi T, Kabashima K<sup>1)</sup>, Tanizaki H<sup>1)</sup>, Ohsawa I<sup>2)</sup>, Oda F, Yamada Y, Halifu Y, Kawana S, Kato T<sup>3)</sup>, Iida K<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Dermatology, Faculty of Medicine, Kyoto University, <sup>2)</sup> Department of Environmental Gerontology Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, <sup>3)</sup> The Research Insitityute of Vaccine Therapy for Tumors and Infectious Diseases, Nippon Medical School) : Specific substance of Maruyama (SSM) suppresses immune responses in atopic dermatitis-like skin lesions in DS-Nh mice by modulating dendritic cell functions. J Dermatol Sci 2011 ; 63 (3) : 184-190.
- 5) Kosaka S, Miyoshi N<sup>1)</sup>, Akilov O<sup>2)</sup>, Hasan T<sup>2)</sup>, Kawana S ( <sup>1)</sup> Division of Tumor Pathology, Department of Pathology, Faculty of Medicine, University of Fukui, <sup>2)</sup> Wellman Center for Photomedicine, Department of Dermatology, Massachusetts General Hospital) : Targeting of sebaceous glands by  $\delta$ -aminolevulinic acid-based photodynamic therapy : An in vivo study. Lasers Surg Med 2011 ; 43 (5) : 376-381.
- 6) Ohishi K<sup>1)</sup>, Nakayama Y<sup>1)</sup>, Ohishi Y<sup>1)</sup>, Yokomizo E<sup>1)</sup>, Ohara K<sup>1)</sup>, Takasaki M, Ueno T, Kawana S, Mitsuishi T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Dermatology, Toranomon Hospital, <sup>2)</sup> Department of Dermatology, Tokyo Women's Medical University) : Bowen's disease of the nail apparatus and association with various high-risk human papillomavirus types. J Dermatol Sci 2011 ; 63 (1) : 69-72.
- 7) Ansai S, Arase S<sup>1)</sup>, Kawana S, Kimura T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Dermatology, Department of Pathologic Medicine for Cutaneo-Motoric System, Institute of Health Biosciences, University of Tokushima Gradua, <sup>2)</sup> Sapporo Dermatopathology Institute) : Immunohistochemical findings of sebaceous carcinoma and sebaceoma : retrieval of cytokeratin expression by a panel of anti-cytokeratin monoclonal antibodies. J Dermatopathol 2011 ; 38 (10) : 951-958.
- 8) Osada S, Akiyama M, Takasaki M, Takagawa S<sup>1)</sup>, Nakazawa K<sup>2)</sup>, Murata S<sup>2)</sup>, Sawada Y<sup>1)</sup>, Kawana S ( <sup>1)</sup> Department of Dermatology, Tokyo Metropolitan Bokuto Hospital, <sup>2)</sup> Department of Radiology, Nippon Medical School) : Revascularization by percutaneous transluminal angioplasty improved abruptly deteriorated ischaemic symptoms in cutaneous polyarteritis nodosa. Clin Exp Dermatol 2011 ; 36 (5) : 502-505.
- 9) Kumagai M, Nagano M<sup>1)</sup>, Suzuki H<sup>1)</sup>, Kawana S ( <sup>1)</sup> Department of Pharmacology, Nippon Medical School) : Effects of stress memory by fear conditioning on nerve-mast cell circuit in skin. J Dermatol 2011 ; 38 (6) : 553-561.
- 10) Ansai S, Takayama R, Kimura T<sup>1)</sup>, Kawana S ( <sup>1)</sup> Sapporo Dermatopathology Institute) : Ber-EP4 is a useful marker for follicular germinative cell differentiation of cutaneous epithelial neoplasms. J Dermatol 2012.
- 11) 菊地伊豆実, 田沼弘之, 森本健介, 川名誠司 : 角質増殖型足白癬に対する経口抗真菌剤テルビナフィン内服後の塩酸ブテナフィンクリーム外洋の有用性. 皮膚臨床 2011 ; 53 (8) : 1123-1129.
- 12) 原田輝一<sup>1)</sup>, 浅井真太郎<sup>2)</sup>, 川名誠司, 提橋義則<sup>3)</sup>, 松本 梓<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 大阪市立大学附属病院形成外科, <sup>2)</sup> 社会保険中京病院形成外科, <sup>3)</sup> 資生堂リサーチセンター) : 瘢痕カバー用ファンデーション使用による熱傷・外傷・ざそう後瘢痕患者のQOL改善効果. 日形会誌 2011 ; 31 (9) : 605-612.
- 13) 川名誠司 : 顔面播種状粟粒性狼瘡. Visual Dermatology 2011 ; 10 (10) : 1069-1071.
- 14) 川名誠司 : HSPの診断, 治療に関するワンポイント・レッスン. 日皮会誌 2011 ; 121 (13) : 3019-3021.
- 15) 船坂陽子 : しみ治療. 皮膚病診療 2011 ; 33 (増) : 93-98.
- 16) 安齋真一 : 皮膚上皮腫瘍総論 : わかりやすい ! How to 皮膚病理. Derma 2011 ; 177 : 191-200.

- 17) 安齋眞一：皮膚上皮腫瘍各論：わかりやすい！ How to 皮膚病理. *Derma* 2011 ; 177 : 201-215.
- 18) 岡崎 静, 川名誠司：成人の伝染性紅斑 (Q&A). *日本医事新報* 2011 ; 4562 : 55-56.
- 19) Kawaguchi M<sup>1)</sup>, Hayashi M<sup>1)</sup>, Murata I<sup>1)</sup>, Hozumi Y<sup>1)</sup>, Suzuki N<sup>2)</sup>, Ishii Y<sup>3)</sup>, Wataya-Kaneda M<sup>4)</sup>, Funasaka Y<sup>5)</sup>, Kawakami T<sup>6)</sup>, Fukai K<sup>7)</sup>, Ochiai T<sup>8)</sup>, Nishigori C<sup>9)</sup>, Mitsuhashi Y<sup>1)</sup>, Suzuki T ( <sup>1)</sup> Department of Dermatology, Yamagata University School of Medicine, <sup>2)</sup> Department of Dermatology, Toyohashi Municipal Hospital, <sup>3)</sup> Department of Dermatology, Institute of Clinical Medicine, University of Tsukuba, <sup>4)</sup> Department of Dermatology, Graduate School of Medicine, Osaka University, <sup>5)</sup> Department of Dermatology, St.Marianna University School of Medicine, <sup>6)</sup> Department of Dermatology, Osaka City University Graduate School of Medicine, <sup>7)</sup> Department of Dermatology, Surugadai Nihon University Hospital, <sup>8)</sup> Department of Dermatology, Kobe University Graduate School of Medicine, <sup>9)</sup> Department of Dermatology, Tokyo Medical University) : Eleven novel mutations of the ADAR1 gene in dyschromatosis symmetricahereditaria. *J Dermatol Sci* 2012 ; 66 (3) : 244-245.
- 20) 船坂陽子：ケミカルピーリングによる rejuvenation : 美容皮膚科 最新の治療戦略. *日皮会誌* 2011 ; 121 (13) : 2821-2823.
- 21) Yamamoto Y<sup>1)</sup>, Funasaka Y, Matsunaga K<sup>2)</sup>, Akita H<sup>2)</sup>, Ueda S<sup>3)</sup>, Usuki A<sup>3)</sup>, Kikuchi K<sup>4)</sup>, Kono T, Hayashi N<sup>5)</sup>, Moroi Y<sup>6)</sup>, Yonei N<sup>1)</sup>, Furukawa F<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Dermatology, Wakayama Medical University, <sup>2)</sup> Fujita Health University, <sup>3)</sup> Fukuoka-shi, <sup>4)</sup> Tohoku University, <sup>5)</sup> Toranomon Hospital, <sup>6)</sup> Kyusyu University) : Guidelines for chemical peeling in Japan (3rd edition). *J Dermatol* 2011 ; 38 (10) : 1-5.
- 22) Omi T, Yamashita R<sup>1)</sup>, Kawana S, Sato S<sup>2)</sup>, Naito Z<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Yokohama-shi, <sup>2)</sup> Central Institute for Electron Microscopic Research, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Departments of Pathology and Integrative Oncological Pathology, Nippon Medical School) : Low fluence Q-switched Nd : YAG laser toning and Q-switched RUBY laser in the treatment of melasma : a comparative split-face ultrastructural study. *Laser Therapy* 2012 ; 21 (1) : 15-21.
- (2) 総説 :
- 1) 船坂陽子, 岡崎 静, 大山聡美, 川名誠司：近赤外線 of 光老化に対する作用. *Aesthetic Dermatology* 2011 ; 21 (3) : 224-229.
- 2) 船坂陽子：UVA および UVB による発癌. *太陽紫外線防御研究委員会学術報告* 2011 ; 21 : 11-13.
- 3) 船坂陽子：最新論文 Pick up 皮膚科医が知っておきたい論文. *Dermatol Today* 2012 ; 7 : 18-19.
- (3) 症例報告 :
- 1) Kosaka S, Kawana S : Case of necrobiosis lipidica diabetorum successfully treated by photodynamic therapy. *J Dermatol* 2012 ; 39 (5) : 497-499.
- 2) Ueno T, Ansai S, Omi T, Kawana S : Extraskeletal osteochondroma arising on the plantar region. *Case Rep Dermatol* 2011 ; 3 (2) : 147-150.
- 3) Kume H, Yamazaki T, Togano T, Abe M, Tanuma H, Kawana S, Okudaira M : Epidemiology of visceral mycoses in autopsy cases in Japan : comparison of the data from 1989, 1993, 1997, 2001, 2005 and 2007 in Annual of Pathological Autopsy Cases in Japan. *Med Mycol J* 2011 ; 52 (2) : 117-127.
- 4) Ueno T, Ansai S, Omi T, Kawana S : A child with giant cell tumor of tendon sheath. *Dermatol Online J* 2011 ; 17 (5) : 9.
- 5) Noro S, Futagami A, Ansai S, Kawana S : Folliculosebaceous cystic hamartoma associated with melanocytic nevus. *J Dermatol* 2011 ; 38 (4) : 396-398.
- 6) Li M, Ansai S, Ueno T, Kawasaki S : Meningothelial hamartoma of the scalp in a 78-year-old man. *Eur J Dermatol* 2011 ; 21 (2) : 255-256.

- 7) Osada S, Ueno T, Inai S<sup>1)</sup>, Niimi Y, Nakamizo M<sup>1)</sup>, Ansai S, Kawana S ( <sup>1)</sup> Head and Neck Surgery, Nippon Medical School) : Sebaceouscarcinoma of the nose with a regional metastasis following false-negative sentinel lymph node biopsy. *Acta Derm Venereol* 2011 ; 91 (3) : 367-368.
- 8) Akiyama M, Ueno T, Niimi Y, Sakai N, Kawana S : Leg ulcer in a patient with 49, XXXXY syndrome. *J Dermatol* 2011 ; 38 (8) : 808-810.
- 9) Noro S, Ansai S, Nakamizo M<sup>1)</sup>, Sekine K, Amagai K, Kawana S ( <sup>1)</sup> Head and Neck Surgery, Nippon Medical School) : Malignant melanoma of the nasal vestibule. *J Dermatol* 2011 ; 38 (8) : 808-810.
- 10) Ogita A, Takada K, Kawana S : of anaphylaxis due to tetracyclinehydrochloride. *J Dermatol* 2011 ; 38 (6) : 597-599.
- 11) Kato T, Kawana S : An ulceronecrotic foot lesion in a patient with essential thrombocythemia : successful treatment with hydroxyurea. *Case Rep Dermatol* 2012 ; 4 (1) : 10-13.
- 12) 山本三幸, 安齋眞一, 赤野蓉子, 上野 孝, 川名誠司 : 小児の頭部に生じた澄明細胞汗腺腫. *皮膚病診療* 2011 ; 33 (4) : 407-410.
- 13) 秋山美知子, 高田香織, 若林俊輝, 三石 剛, 川名誠司 : コチニール色素によるアナフィラキシーの1例. *皮膚臨床* 2011 ; 53 (5) : 701-704.
- 14) 岡崎 静, 安齋眞一, 高崎真理子, 長田真一, 川名誠司 : 大量ガンマグロブリン静注療法が有効であった水疱性類天疱瘡の1例. *皮膚臨床* 2011 ; 53 (7) : 975-978.
- 15) 岡崎 静, 小坂祥子, 安齋眞一, 川名誠司 : 両眼に黄斑変性症を伴った弾性線維性仮性黄色腫の1例. *皮膚臨床* 2011 ; 53 (8) : 1162-1164.
- 16) 稲葉基之, 小坂祥子, 二神綾子, 安齋眞一, 田村秀人<sup>1)</sup>, 川名誠司 ( <sup>1)</sup> 血液内科) : 病理組織学的に毛包向性が顕著な mycosis fungoides の1例. *Skin Cancer* 2011 ; 26 (2) : 206-209.
- 17) 福本 瞳, 朝山祥子, 高田香織, 二神綾子, 塩見一雄<sup>1)</sup>, 川名誠司 ( <sup>1)</sup> 東京海洋大学食品生産科学科) : パルプアルブミンによる口腔アレルギー症候群 : 手の職業性接触皮膚炎を合併した例. *皮膚病診療* 2011 ; 33 (10) : 1035-1038.
- 18) 赤野蓉子, 二神綾子, 安齋眞一, 川名誠司 : 特発性後天性全身性無汗症の1例 : 脳下垂体部腫瘍との関連性について. *皮膚臨床* 2011 ; 53 (10) : 1379-1382.
- 19) 田村奈渚, 上野 孝, 安齋眞一, 川名誠司 : 外陰部に生じた悪性黒色腫の1例. *皮膚臨床* 2011 ; 53 (10) : 1474-1475.
- 20) 伊藤路子, 青木見佳子, 黒澤真澄<sup>1)</sup>, 新井栄一<sup>2)</sup>, 川名誠司 ( <sup>1)</sup> 川崎市, <sup>2)</sup> 埼玉医科大学病理学教室) : Primary cutaneous CD4<sup>+</sup> small/medium-sized pleomorphic T-cell lymphoma の1例. *臨皮* 2011 ; 65 (13) : 1085-1088.
- 21) 町田未央<sup>1)</sup>, 飛田泰斗史<sup>1)</sup>, 久保宣明<sup>1)</sup>, 荒瀬誠治<sup>1)</sup>, 安齋眞一 ( <sup>1)</sup> 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部皮膚科学分野) : 低悪性度脂腺癌および基底細胞癌を併発した脂腺母斑. *西日皮膚* 2011 ; 73 (1) : 152-155.
- 22) Takeichi S<sup>1)</sup>, Kubo Y<sup>1)</sup>, Murao K<sup>1)</sup>, Inoue N<sup>1)</sup>, Ansai S, Arase S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Dermatology, Institute of Health Biosciences, University of Tokushima Graduate School) : Coexistence of giant blue nevus of the scalp with hair loss and alopecia areata. *J Dermatol* 2011 ; 38 (4) : 377-381.
- 23) 野呂佐知子, 安齋眞一, 川名誠司 : 悪性黒色腫の肝転移に対しシスプラチンを用いて冠動脈化学塞栓療法を施工した1例. *Skin Cancer* 2011 ; 26 (2) : 219-222.
- 24) 伊澤有香, 二神綾子, 高崎真理子, 小坂素子, 上野 孝, 川名誠司 : 耳垂部に生じた悪性黒色腫の1例. *皮膚臨床* 2011 ; 53 (9) : 1329-1332.
- 25) 狩野律子, 東 直行, 川名誠司 : Folliculosebaceous Cystic Hamartoma と Neurofollicular Hamartoma の合併と考えた1例. *皮膚臨床* 2011 ; 53 (9) : 1311-1314.
- 26) 上野 孝, 安齋眞一, 尾見徳弥, 川名誠司 : 上腕に生じた Clear Cell Acanthoma の1例. *皮膚臨床* 2011 ; 53

- (8) : 1173-1176.
- 27) 小坂素子, 上野 孝, 安齋眞一, 川名誠司: 足底に生じた単発性肥満細胞腫の1例. 皮膚臨床 2011; 53 (7) : 1082-1083.
- 28) 二宮里紗, 安齋眞一, 野呂佐知子, 二神綾子, 川名誠司: 全身に多発した壊疽性膿皮症の1例. 皮膚臨床 2011; 53 (7) : 1034-1038.
- 29) 李 民, 上野 孝, 安齋眞一, 川名誠司: 2重幕濾過血漿交換療法が奏効した高齢者重症水疱性類天疱瘡の1例. 皮膚臨床 2011; 53 (7) : 979-983.
- 30) 李 民, 上野 孝, 安齋眞一, 川名誠司: CTで明瞭な二相性吸収域を呈したSpindle Cell Lipomaの1例. 皮膚臨床 2011; 53 (5) : 769-772.
- 31) 紺野亜希子, 荻田あづさ, 加藤篤衛, 新見やよい, 川名誠司: ベタメゾン吉草酸エステルによる接触性皮膚炎. 皮膚病診療 2011; 33 (7) : 715-718.
- 32) 森田 孝, 東 直行, 岩本直高<sup>1)</sup>, 玉置智規<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 川名誠司 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科): 医療用ステープルによるアレルギー性接触皮膚炎. 皮膚病診療 2011; 33 (7) : 719-722.
- 33) 堺 則康<sup>1)</sup>, 二神綾子, 川名誠司 ( <sup>1)</sup> 大田区): 小児に発症した肉芽腫性口唇炎. 皮膚病診療 2011; 33 (4) : 395-398.
- 34) 二宮里紗, 東 直行, 細根 勝<sup>1)</sup>, 川名誠司, 小澤雅邦<sup>2)</sup>, 森 鉄也<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup> 多摩市, <sup>3)</sup> 国立成育医療センター血液腫瘍科): 原発性皮膚型未分化大細胞リンパ腫. 皮膚病診療 2011; 33 (4) : 391-394.
- 35) 渡邊宏美, 東 直行, 細根 勝<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 川名誠司 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院病理部): Tufted Hair Folliculitisの2例. 皮膚臨床 2011; 53 (13) : 1926-1929.
- 36) 山下裕子, 上野 孝, 安齋眞一, 牧三樹子<sup>1)</sup>, 川名誠司 ( <sup>1)</sup> 川崎市): Apocrin Hidradenomaの1例. 皮膚臨床 2011; 53 (13) : 1976-1977.
- 37) 畠山真弓<sup>1)</sup>, 長野 徹<sup>1)</sup>, 船坂陽子, 錦織千佳子<sup>1)</sup>, 曾東洋平<sup>2)</sup>, 藤川昌和<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 神戸大学皮膚科, <sup>2)</sup> 大阪府立急性期・総合医療センター形成外科): 3通りのレジメンによる抗癌剤治療を行ったメルケル細胞癌の1例. Skin Cancer 2011; 26 (2) : 179-183.
- 38) 芝山慶継<sup>1)</sup>, 並川健二郎<sup>1)</sup>, 丸山 浩<sup>1)</sup>, 黒岡定浩<sup>1)</sup>, 秋山美知子, 山崎直也<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立がん研究センター中央病院皮膚腫瘍科): 化学療法が奏効したメルケル細胞癌の1例. Skin Cancer 2011; 26 (2) : 174-178.

## 著 書

- 1) 川名誠司: [分担] ヘーノッホ (ヘノッホ)・シェーンライン症候群. 症候群ハンドブック (井村裕夫・福井次矢・辻 省次), 2011; p516, 中山書店.
- 2) 川名誠司: [分担] 慢性色素性紫斑. 今日の治療指針 私はこう治療している (山口 徹・北原光夫・福井次矢), 2011; p1007, 医学書院.
- 3) 川名誠司: [分担] 蕁麻疹様血管炎: III章多彩な皮膚アレルギー疾患を理解する 3) 蕁麻疹. 1冊でわかる皮膚アレルギー (塩原哲夫・宮地良樹・清水 宏), 2012; pp175-177, 文光堂.
- 4) 安齋眞一: [分担] ミュア・トール症候群. 症候群ハンドブック (井村裕夫・福井次矢・辻 省次), 2011; p546, 中山書店.
- 5) 川名誠司: [分担] 見逃されている抗リン脂質抗体症候群. WHAT'S NEW in 皮膚科学 2012-2013 (宮地良樹), 2012; pp98-99, メディカルレビュー社.
- 6) 船坂陽子, 大山聡美: [分担] トラネキサム酸の奏効機序. WHAT'S NEW in 皮膚科学 2012-2013 (宮地良樹), 2012; pp138-139, メディカルレビュー社.
- 7) 川名誠司: [分担] 22 Henoch-Schönlein 紫斑病の治療: I. 皮膚の血管炎. 皮膚科臨床アセット 5. 皮膚の血管炎・血行障害 (勝岡憲生), 2011; pp129-133, 中山書店.

- 8) 川名誠司：〔分担〕 21 Henoch-Schönlein 紫斑病の診断と臨床症状：I. 皮膚の血管炎. 皮膚科臨床アセット 5. 皮膚の血管炎・血行障害 (勝岡憲生), 2011；pp123-128, 中山書店.
- 9) 川名誠司：〔分担〕 23 Henoch-Schönlein 紫斑病の臨床経過・予後：I. 皮膚の血管炎. 皮膚科臨床アセット 5. 皮膚の血管炎・血行障害 (勝岡憲生), 2011；pp134-137, 中山書店.
- 10) 船坂陽子：〔分担〕 顔面の色素斑をきたす疾患：1. プライマリケアのための鑑別診断のポイント. 今日の皮膚疾患治療指針第4版 (塩原哲夫・宮地良樹・渡辺晋一・佐藤伸一), 2012；pp48-50, 医学書院.
- 11) 川名誠司：〔分担〕 網状皮斑 (リベド) を生じる疾患：1. プライマリケアのための鑑別診断のポイント. 今日の皮膚疾患治療指針第4版 (塩原哲夫・宮地良樹・渡辺晋一・佐藤伸一), 2012；pp87-90, 医学書院.
- 12) 船坂陽子：〔分担〕 脱色素性母斑：20. 色素異常症. 今日の皮膚疾患治療指針第4版 (塩原哲夫・宮地良樹・渡辺晋一・佐藤伸一), 2012；pp608-609, 医学書院.
- 13) 安齋眞一：〔分担〕 表皮母斑：21. 母斑, 母斑症. 今日の皮膚疾患治療指針第4版 (塩原哲夫・宮地良樹・渡辺晋一・佐藤伸一), 2012；pp625-626, 医学書院.
- 14) 安齋眞一：〔分担〕 脂腺母斑：21. 母斑, 母斑症. 今日の皮膚疾患治療指針第4版 (塩原哲夫・宮地良樹・渡辺晋一・佐藤伸一), 2012；pp626-629, 医学書院.
- 15) 安齋眞一：〔分担〕 面皰母斑：21. 母斑, 母斑症. 今日の皮膚疾患治療指針第4版 (塩原哲夫・宮地良樹・渡辺晋一・佐藤伸一), 2012；pp629-629, 医学書院.
- 16) 安齋眞一：〔分担〕 副乳：21. 母斑, 母斑症. 今日の皮膚疾患治療指針第4版 (塩原哲夫・宮地良樹・渡辺晋一・佐藤伸一), 2012；pp630-631, 医学書院.
- 17) 安齋眞一：〔分担〕 脂漏性角化症：22. 上皮性皮膚腫瘍 A 良性腫瘍. 今日の皮膚疾患治療指針第4版 (塩原哲夫・宮地良樹・渡辺晋一・佐藤伸一), 2012；pp661-663, 医学書院.
- 18) 安齋眞一：〔分担〕 毛孔腫 (反転性毛包角化症)：22. 上皮性皮膚腫瘍 A 良性腫瘍. 今日の皮膚疾患治療指針第4版 (塩原哲夫・宮地良樹・渡辺晋一・佐藤伸一), 2012；pp663-664, 医学書院.
- 19) 船坂陽子：〔分担〕 老人性白斑：20. 色素異常症. 今日の皮膚疾患治療指針第4版 (塩原哲夫・宮地良樹・渡辺晋一・佐藤伸一), 2012；pp612-613, 医学書院.
- 20) 船坂陽子：〔分担〕 そばかず (雀卵斑), 肝斑, 黒皮症. 今日の治療指針 2012 年版 (山口 徹・北原光夫・福井次矢), 2012；pp1028-1-28, 医学書院.
- 21) 船坂陽子：〔分担〕 臨床現場における課題と問題点. 医師の立場から, 化粧品・医薬品における次世代経皮吸収剤 (杉林堅次), 2011；pp271-275, 株式会社シーエムシー出版.
- 22) 船坂陽子：〔分担〕 温熱, 赤外線は光老化を促進するか, 改善するか その2. 皮膚科生涯学習シリーズ3 皮膚科医のための美容講座 (川島 眞・川端康浩・林 伸和・船坂陽子), 2011；pp1-3, Medical Professional Relations Co.,.
- 23) 船坂陽子：〔分担〕 皮膚における Heat shock protein. 皮膚科生涯学習シリーズ3 皮膚科医のための美容講座 (川島 眞・川端康浩・林 伸和・船坂陽子), 2011；pp4-4, Medical Professional Relations Co.,.
- 24) 尾見徳弥, 佐藤 茂<sup>1)</sup> (1) 電子顕微鏡センター)：〔分担〕 Q11 セルライトとは? 第1章総論. 女性の皮膚トラブル FAQ (宮地良樹), 2012；pp64-70, 診断と治療社.
- 25) 尾見徳弥：〔分担〕 Q5 パーマ・縮毛矯正などが毛髪に与える影響は? 第3章女性に多くみられる皮膚疾患. 女性の皮膚トラブル FAQ (宮地良樹), 2012；pp205-210, 診断と治療社.
- 26) 尾見徳弥：〔分担〕 Q13 タトゥーによる皮膚トラブルとは? 第3章女性に多くみられる皮膚疾患. 女性の皮膚トラブル FAQ (宮地良樹), 2012；pp251-257, 診断と治療社.
- 27) 尾見徳弥：〔分担〕 Q38 剃毛・脱毛の皮膚に与える影響とは? 第3章女性に多くみられる皮膚疾患. 女性の皮膚トラブル FAQ (宮地良樹), 2012；pp433-437, 診断と治療社.
- 28) 尾見徳弥：〔分担〕 Q40 ネイルによる爪のトラブルにはどう対処する? 第3章女性に多くみられる皮膚疾患. 女

性の皮膚トラブルFAQ (宮地良樹), 2012; pp443-446, 診断と治療社.

## 学会発表

### (1) 特別講演:

- 1) 安齋真一: 悪性黒色腫における病理診断の考え方と問題点. 日本抗加齢美容医療学会 MBF 青山セミナー (東京), 2011. 8.
- 2) 川名誠司: 基礎からわかる血管炎. 平成 23 年度日皮会研修講習会 (東京), 2011. 8.
- 3) 船坂陽子: 光老化の発症機序とその対処法. ポーラファルマシンポジウム (京都), 2011. 6.
- 4) 船坂陽子: Metabotropic glutamate receptor subtype-1 is essential for in vivo growth of melanoma. 神戸大学医学部皮膚科同窓会学術賞受賞記念講演 (神戸), 2011. 6.
- 5) 船坂陽子: 紫外線によるメラノサイトの増殖および分化制御. 皮膚基礎研究クラスターフォーラム第 6 回教育セミナー (東京), 2011. 7.
- 6) 船坂陽子: 美容皮膚科: ざ瘡治療を含めた最新の美容皮膚科治療. 癬痕・ケロイド治療研究会 (第 6 回) (東京), 2011. 7.
- 7) 船坂陽子: 光老化の対処法. PFJ 勉強会 (第 1 回) (東京), 2011. 10.
- 8) 船坂陽子: 光老化の発症機序とその対処法. 北河内女医の会 (第 23 回) (大阪), 2011. 10.
- 9) 船坂陽子: 紫外線と皮膚疾患. 渋谷区皮膚科女医の会 (第 18 回) (東京), 2012. 2.

### (2) 招待講演:

- 1) 川名誠司: 膠原病の皮膚症状. 千駄木リウマチ膠原病セミナー (東京), 2011. 6.
- 2) 川名誠司: 蕁麻疹診療のポイント. 蕁麻疹治療座談会 (東京), 2011. 7.

### (3) 教育講演:

- 1) 船坂陽子: ケミカルピーリングによる rejuvenation (ガイドラインを含む). 日皮会総会 (第 110 回) (横浜), 2011. 4.
- 2) 川名誠司: HSP の診断, 治療に関するワンポイント・レッスン. 日皮会総会 (第 110 回) (横浜), 2011. 4.

### (4) シンポジウム:

- 1) 幸野 健: モンスターベイシメント・子どもを甘やかし注意しない親への対処法. 日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会 (第 27 回) (大阪), 2011. 6.
- 2) 秋山美知子, 松田陽子<sup>1)</sup>, 萩尾真人<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 川名誠司, 内藤善哉<sup>1)</sup> (1) 病理学講座 (統御機構・腫瘍学): 幹細胞マーカー nestin を標的とした悪性黒色腫の新規治療法開発へ向けた研究. 超異分野学会 (第一回) (東京), 2012. 3.

### (5) セミナー:

- 1) 安齋真一: 皮膚病理診断クイズ (皮膚病理自己診断コース) 症例解説. 日皮会西部支部学術大会 (第 63 回) (沖縄), 2011. 10.
- 2) 船坂陽子: ケミカルピーリング. 日皮会西部支部学術大会 (第 63 回) (沖縄), 2011. 10.
- 3) 尾見徳弥: スイッチ Nd: YAG レーザー・Q スイッチ Ruby レーザーによる色素性皮膚疾患の治療. 日皮会東京支部学術大会 (第 75 回) (東京), 2012. 2.
- 4) Asayama S: PDT aesthetic purposes. IMCAS (singapore), 2011. 7.

### (6) ワークショップ:

- 1) 秋山美知子, 松田陽子<sup>1)</sup>, 萩尾真人<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 川名誠司, 内藤善哉<sup>1)</sup> (1) 病理学講座 (統御機構・腫瘍学): 中間径フィラメントタンパク質 nestin の母斑細胞母斑および悪性黒色腫における発現の検討. 平成 23 年度個体レベルでのがん研究支援活動ワークショップ (大津市), 2012. 1.

(7) 一般講演：

- 1) 幸野 健, 石田 勲<sup>1)</sup>, 高橋祐史<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>(1)</sup> 関西労災病院皮膚科)：慢性蕁麻疹患者に対する抗ヒスタミン薬の系統変換法 (いわゆる森田療法) の評価. 日皮会総会 (第 110 回) (横浜), 2011. 4.
- 2) 川崎裕史, 藤本和久, 森本健介, 稲葉基之, 井手路子<sup>1)</sup>, 蛸井浩之<sup>2)</sup>, 日野光紀<sup>2)</sup>, 菊池さち子<sup>3)</sup>, 川名誠司<sup>(1)</sup> 千葉北総病院耳鼻咽喉科, <sup>2)</sup> 同内科, <sup>3)</sup> 同眼科)：Cogan 症候群の 1 例. 日皮会総会 (第 110 回) (横浜), 2011. 4.
- 3) 長田真一, 安齋眞一<sup>1)</sup>, 野呂佐知子<sup>1)</sup>, 池田麻純, 川名誠司<sup>(1)</sup> 関西労災病院皮膚科)：成人発症ダリエ病の 1 例. 日皮会総会 (第 110 回) (横浜), 2011. 4.
- 4) 岡崎 静, 安齋眞一, 長田真一, 川名誠司<sup>(1)</sup> 関西労災病院皮膚科)：尋常性乾癬に合併した水疱性類天疱瘡の 1 例. 日皮会総会 (第 110 回) (横浜), 2011. 4.
- 5) 山下裕子, 上野 孝, 安齋眞一, 川名誠司<sup>(1)</sup> 関西労災病院皮膚科)：Muir-Torre 症候群の 1 例. 日皮会総会 (第 110 回) (横浜), 2011. 4.
- 6) 川原崎麻以, 上野 孝, 安齋眞一, 川名誠司<sup>(1)</sup> 関西労災病院皮膚科)：背部に発生した Lipoblastoma. 日皮会総会 (第 110 回) (横浜), 2011. 4.
- 7) 東 直行, 森田 孝, 吉川雅智<sup>1)</sup>, 熊谷雅昭<sup>2)</sup>, 川名誠司, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 新 博次<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 多摩永山病院内科・循環器内科, <sup>2)</sup> 付属病院神経内科)：有痛性紅斑と発熱を主訴とし意識障害を起こした 1 例. 日皮会総会 (第 110 回) (横浜), 2011. 4.
- 8) 幸野 健, 唐沢信安<sup>1)</sup>, 山本 鼎<sup>2)</sup>, 志村俊郎<sup>3)</sup>, 殿崎正明<sup>4)</sup> (, <sup>3)</sup> 教育推進室, <sup>4)</sup> 中央図書館)：フーフエラントの「医戒」と済生学舎の建学の精神について. 日本医史学総会・学術大会 (第 112 回) (東京), 2011. 6.
- 9) 紺野亜希子, 加藤篤衛, 野呂佐知子, 安齋眞一, 川名誠司：肺及びリンパ節転移に CA 療法を施行した巨大基底細胞癌の 1 例. 日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 (第 27 回) (東京), 2011. 6.
- 10) 本木智輝, 安齋眞一, 川名誠司：Mucinous carcinoma of the skin の 1 例. 日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 (第 27 回) (東京), 2011. 6.
- 11) 吉田流音, 安齋眞一, 長田真一, 菊地伊豆実, 川名誠司：両側肩甲下部に生じた弾性線維腫の 1 例. 日皮会東京地方会 (第 836 回) (東京), 2011. 6.
- 12) 大塚洋平, 加藤篤衛, 安齋眞一, 川名誠司：成人女性の仙骨部に生じた毛巣洞の 2 例. 日皮会東京地方会 (第 836 回) (東京), 2011. 6.
- 13) 篠原理恵, 船坂陽子, 安齋眞一, 川名誠司：Interstitial granuloma annulare の 1 例. 日皮会東京地方会 (第 836 回) (東京), 2011. 6.
- 14) 田村奈渚, 船坂陽子, 川名誠司：原発性胆汁性肝硬変を合併した lupus erythematosus tumidus の 1 例. 日皮会東京地方会 (第 836 回) (東京), 2011. 6.
- 15) 長田真一, 安齋眞一, 吉田流音, 菊地伊豆実, 朝山祥子, 鶴田大輔<sup>1)</sup>, 橋本 隆<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>(1)</sup> 久留米大皮膚科)：免疫グロブリン大量静注療法 (IVIG) が奏功した後天性表皮水疱症の 1 例. 日皮会東京地方会・合同臨床地方会 (第 837 回) (東京), 2011. 7.
- 16) 川原崎麻以, 高崎真理子, 池田麻純, 上野 孝, 安齋眞一, 川名誠司：Churg-Strauss 症候群の 1 例. 日皮会東京地方会・合同臨床地方会 (第 837 回) (東京), 2011. 7.
- 17) 荻田あづさ, 船坂陽子, 安齋眞一, 川名誠司：女性ホルモン内服中に生じた男性肝斑の 1 例. 日本美容皮膚科学会学術大会 (第 29 回) (山口), 2011. 7.
- 18) 野呂佐知子, 安齋眞一, 荻田あづさ, 篠原理恵, 福本 瞳, 川名誠司, 片野晴隆<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 国立感染症研究所感染病理部)：右中指に有棘細胞癌とともに発生したメルケル細胞癌. 日皮会西部支部学術大会 (第 63 回) (沖縄), 2011. 10.
- 19) 上野 孝, 川名誠司：日本医科大付属病院における Stevens-Johnson 症候群および中毒性表皮壊死症症例の検

- 討. 日皮会西部支部学術大会 (第 63 回) (沖縄), 2011. 10.
- 20) 上野 孝, 山下裕子, 川原崎麻以, 松岡保子, 池田麻純, 高崎真理子, 安齋眞一, 川名誠司: 足部脂肪腫の 2 例. 日皮会西部支部学術大会 (第 63 回) (沖縄), 2011. 10.
- 21) 東 直行, 森田 孝, 吉川雅智<sup>1)</sup>, 高山洋平<sup>2)</sup>, 熊谷智昭<sup>2)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 新 博次<sup>1)</sup>, 川名誠司 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院内科・循環器内科, <sup>2)</sup> 付属病院神経内科): 有痛性紅斑と発熱を主訴とし意識障害を起こした 1 例. 日皮会西部支部学術大会 (第 63 回) (沖縄), 2011. 10.
- 22) 川崎裕史, 藤本和久, 森本健介, 井手路子<sup>1)</sup>, 上原隆志<sup>2)</sup>, 菊池さち子<sup>3)</sup>, 川名誠司 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院耳鼻科, <sup>2)</sup> 横浜労災病院呼吸器内科, <sup>3)</sup> 多摩永山病院眼科): Cogan 症候群の非典型例の 1 例. 日皮会西部支部学術大会 (第 63 回) (沖縄), 2011. 10.
- 23) 長田眞一, 安齋眞一, 川名誠司: 頭部に皮疹が限局した AL アミロイドーシスの 1 例. 日皮会西部支部学術大会 (第 63 回) (沖縄), 2011. 10.
- 24) 森田 孝, 東 直行, 二宮里紗, 川名誠司, 明石のぞみ<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩市): ツロブテロール含有貼布剤によるアレルギー性接触皮膚炎の 1 例. 日皮会西部支部学術大会 (第 63 回) (沖縄), 2011. 10.
- 25) 荻田あづさ, 安齋眞一, 紺野亜希子, 川名誠司: 大量のステロイド投与を要した成人 Still 病の 1 例. 日皮会中部支部学術大会 (第 62 回) (四日市), 2011. 11.
- 26) 船坂陽子, 大山聡美, 岡崎 静, 川名誠司, 錦織千佳子<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 神戸大学皮膚科): Ultraviolet B, but not ultraviolet A initiates and promotes melanoma formation in metabotropic glutamate receptor 1 transgenic mouse. 日本研究皮膚科学会学術大会 (第 36 回) (京都), 2011. 12.
- 27) 尾見徳弥, 佐藤 繁<sup>1)</sup>, 川名誠司 ( <sup>1)</sup> 中央電子顕微鏡室): Acne scar treatment by using fractional CO2 laser. 日本研究皮膚科学会学術大会 (第 36 回) (京都), 2011. 12.
- 28) 紺野亜希子, 船坂陽子, 川名誠司: サイトメガロウイルス感染による Papular-purpuric gloves and socks syndrome の 1 例. 日皮会東京地方会 (第 840 回) (東京), 2011. 12.
- 29) 大塚洋平, 荻田あづさ, 渡邊宏美, 本木智輝, 岡崎 静, 安齋眞一, 川名誠司: 経過中好酸球増多を伴った蕁麻疹様紅斑の 1 例. 日皮会東京地方会 (第 840 回) (東京), 2011. 12.
- 30) 金子 綾, 加藤篤衛, 伊藤路子, 安齋眞一, 川名誠司: エキシマライトで治療した毛孔性好色秕糠疹の 1 例. 日皮会東京地方会 (第 840 回) (東京), 2011. 12.
- 31) 稲葉基之, 船坂陽子, 荻田あづさ, 茂木千紗都, 藤田和恵<sup>1)</sup>, 川名誠司 ( <sup>1)</sup> 呼吸器内科): 胸部 CT にて細気管支炎の像を呈した全身性エリテマトーデスの 1 例. 日皮会東京支部学術大会 (第 75 回) (東京), 2012. 2.
- 32) 篠原理恵, 荻田あづさ, 茂木千紗都, 安齋眞一, 川名誠司: 骨髄病変に先行した myeloid sarcoma の 1 例. 日皮会東京支部学術大会 (第 75 回) (東京), 2012. 2.
- 33) 伊藤路子, 船坂陽子, 紺野亜希子, 川名誠司: パラフェニレンジアミンによる接触性皮膚炎症候群の 1 例. 日皮会東京支部学術大会 (第 75 回) (東京), 2012. 2.
- 34) 田村奈渚, 船坂陽子, 長田眞一, 吉田流音, 菊地伊豆実, 橋本 隆<sup>1)</sup>, 川名誠司 ( <sup>1)</sup> 久留米大学皮膚科): ピコスルファートナトリウムによる薬剤誘発性類天疱瘡の 1 例. 日皮会東京支部学術大会 (第 75 回) (東京), 2012. 2.
- 35) 本木智輝, 東 直行, 松村佳代子<sup>1)</sup>, 永迫さゆり<sup>1)</sup>, 中村順子<sup>1)</sup>, 桑田敬子<sup>1)</sup>, 川名誠司 ( <sup>1)</sup> 多摩永山看護部): 当院における医療器具による医原性皮膚障害の統計的観察. 日皮会東京支部学術大会 (第 75 回) (東京), 2012. 2.
- 36) 吉田流音, 船坂陽子, 藤本和久, 長田眞一, 菊地伊豆実, 原田 晋<sup>1)</sup>, 松尾裕彰<sup>2)</sup>, 川名誠司 ( <sup>1)</sup> 西宮市, <sup>2)</sup> 広島大学病態解析治療学): ミソプロストールとクロモグリク酸ナトリウムで症状誘発が抑制されたエビによる食物依存性運動誘発アナフィラキシーの 1 例. 日皮会東京支部学術大会 (第 75 回) (東京), 2012. 2.
- 37) 真弓暢子, 加藤篤衛, 渡邊宏美, 福本 瞳, 竹崎伸一朗, 林 浩紀<sup>1)</sup>, 川名誠司 ( <sup>1)</sup> 呼吸器内科): ANCA 陰性

- 全身型 Wegener 肉芽腫症の 1 例. 皮膚脈管膠原病研究会 (第 35 回) (東京), 2012. 2.
- 38) 長田真一, 吉田流音, 菊地伊豆実, 安齋眞一, 川名誠司, 古賀浩嗣<sup>1)</sup>, 橋本 隆<sup>1)</sup> (久留米大学皮膚科): Lichen planus pemphigoides の 1 例. 水疱症研究会 (第 33 回) (久留米), 2011. 10.
- 39) 亦野蓉子, 真弓暢子, 川名誠司: ムコ多糖症 IS 型 (Scheie 症候群) 症例の皮膚症状. 日皮会東京地方会 (第 839 回) (東京), 2011. 11.
- 40) 李 民, 藤本和久, 田村奈渚, 川名誠司: PEG-IFN  $\alpha$ -2b 注射部位に生じた皮膚潰瘍の 1 例. 日皮会東京地方会 (第 841 回) (東京), 2012. 1.
- 41) 田村奈渚, 小坂祥子, 安齋眞一, 船坂陽子, 川名誠司: 手掌に生じた Palisaded Encapsulated Neuroma の 1 例. 日皮会東京地方会 (第 839 回) (東京), 2011. 11.
- 42) 川崎裕史, 藤本和久, 川名誠司: カーボン懸濁液塗布を併用した褐色色素病変に対する IPL 治療の経験. 日本美容皮膚科学会総会・学術大会 (第 29 回) (下関), 2011. 9.
- 43) 伊藤路子, 荻田あづさ, 安齋眞一, 川名誠司: ソラフェニブ投与患者に生じたケラアkantoma 様病変の 1 例. 日皮会東部支部学術大会 (第 76 回) (前橋), 2011. 9.
- 44) 伊藤路子, 安齋眞一, 川名誠司: アダリムマブによると考えられた薬剤性血管炎の 1 例. 皮膚脈管膠原病研究会 (第 35 回) (東京), 2012. 2.
- 45) 真弓暢子, 加藤篤衛, 伊藤路子, 安齋眞一, 川名誠司: 指先部に生じた原発性皮膚骨腫の 1 例. 日皮会東京地方会 (第 838 回) (東京), 2011. 9.
- 46) 吉田流音, 船坂陽子, 川名誠司: Sjögren 症候群を合併した尋常性白斑の 1 例. 日皮会東京地方会 (第 840 回) (東京), 2011. 12.
- 47) 上野 孝, 横田裕行<sup>1)</sup>, 川名誠司 (高度救命救急センター): 中毒性表皮壊死 (TEN) 症例の検討. 日本救急医学会・学術集会 (第 39 回) (東京), 2011. 10.
- 48) Omi T: Fractional CO<sub>2</sub> laser for the treatment of Acne Scars. ESLD (European Society for Laser Dermatology) Annual Scientific Meeting (Lisbon, Portugal), 2011. 10.
- 49) 高橋寛樹<sup>1)</sup>, 盛田 剛<sup>1)</sup>, 秋本眞喜雄<sup>2)</sup>, 野本真由美<sup>3)</sup>, 尾見徳弥, 前田憲寿<sup>1)</sup> (東京工科大学大学院バイオニクス専攻, <sup>2)</sup> 関東学院大学工学総合研究所, <sup>3)</sup> 新潟市): エレクトロポレーションとイオントフォーレーションの一体型機器を用いたヒアルロン酸の経皮吸収の試み. 日本美容皮膚科学会総会学術大会 (第 29 回) (下関市), 2011. 9.
- 50) 茂木千紗都, 菊地伊豆実, 船坂陽子, 安齋眞一, 川名誠司: アダバレン外用が奏効した Favre-Racouchot 症候群の 2 例. 日皮会東京地方会 (第 839 回) (東京), 2011. 11.
- 51) Funasaka Y, Oyama S, Okazaki S, Kawana S, Nishigori C<sup>1)</sup> (Department of Dermatology, Kobe University): Ultraviolet B, but not ultraviolet A initiates and promotes melanoma formation in metabotropic glutamate receptor 1 transgenic mouse. International Pigment Cell Conference (21st) (Bordeaux, France), 2011. 9.
- 52) 中島暁子<sup>1)</sup>, 船坂陽子, 川名誠司 (P&SCPC 研究開発本部): In vivo 共焦点顕微鏡による日光黒子の辺縁部におけるメラノサイトの観察. 光老化研究会 (第 12 回) (大阪), 2011. 7.
- 53) 船坂陽子, モハメドアブデルダイム<sup>1)</sup>, 大江昌彦<sup>2)</sup>, 松中 浩<sup>2)</sup>, 川名誠司, 錦織千佳子<sup>1)</sup> (神戸大学皮膚科, <sup>2)</sup> 常盤薬品工業株式会社): UVA および UVB により作成した光老化マウスに対するケミカルピーリングの効果. 光老化研究会 (第 12 回) (大阪), 2011. 7.
- 54) 伊藤路子, 荻田あづさ, 船坂陽子, 安齋眞一, 川名誠司: ソラフェニブ投与患者に生じたケラトアkantoma 様病変の 1 例. 日皮会東部支部学術大会 (第 75 回) (群馬), 2011. 9.
- 55) 白川典子, 菊地伊豆実, 吉田流音, 船坂陽子, 橋本 隆<sup>1)</sup>, 川名誠司 (久留米大学皮膚科): 原発性マクログロブリン血症に合併した腫瘍随伴性天疱瘡の 1 例. 日皮会東京地方会 (第 841 回) (東京), 2012. 1.

- 56) Akiyama M, Kawahara K<sup>1)</sup>, Matsuda Y<sup>1)</sup>, Suzuki T<sup>1)</sup>, Yamamoto T<sup>1)</sup>, Ishiwata T<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup> (1) Department of Pathology, Nippon medical school): The stem cell marker nestin is a novel therapeutic target to suppress tumor growth and invasion of malignant melanoma. American association for cancer research, annual meeting 2011 (102th) (Orlando, FL, USA), 2011. 4.
- 57) 橋爪志保, 上野 孝, 安齋眞一, 川名誠司: 右恥骨前部に生じた異所性子宮内膜症の1例. 日皮会東京地方会 (第838回) (東京), 2011. 9.
- 58) 秋山美知子, 松田陽子<sup>1)</sup>, 川原清子<sup>1)</sup>, 高山良子, 山本哲志<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 川名誠司, 内藤善哉<sup>1)</sup> (1) 病理学講座 (統御機構・腫瘍学)): 幹細胞マーカーの nestin による悪性黒色腫の増殖と浸潤阻害. 日本病理学会総会 (第100回) (横浜), 2011. 4.
- 59) 高山良子, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 安齋眞一, 山本哲志<sup>1)</sup>, 松田陽子<sup>1)</sup>, 川名誠司, 内藤善哉<sup>1)</sup> (1) 病理学講座 (統御機構・腫瘍学)): Expression of lumican in in situ and invasive lesions of squamous cell carcinoma of the skin. 日本癌学会学術総会 (第70回) (名古屋), 2011. 11.
- 60) 高山良子, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 安齋眞一, 山本哲志<sup>1)</sup>, 松田陽子<sup>1)</sup>, 鈴木妙子<sup>1)</sup>, 藤井雄文<sup>1)</sup>, 川名誠司, 内藤善哉<sup>1)</sup> (1) 病理学講座 (統御機構・腫瘍学)): 皮膚腫瘍組織における lumican とその mRNA の発現の検討. 日本病理学会総会 (第100回) (横浜), 2011. 4.
- (8) 平成22年度日皮会基礎医学研究賞受領者研究発表:
- 1) 長田真一, 松本和憲<sup>1)</sup>, 大野茂男<sup>1)</sup>, 川名誠司 (1) 関西労災病院皮膚科): 表皮の極性形成のメカニズム. 日皮会総会 (第110回) (横浜), 2011. 4.

## [武蔵小杉病院皮膚科]

### 研究概要

1 皮膚悪性腫瘍の病理学的診断研究 2 センチネルリンパ節生検法の確立と応用 3 薬疹接触皮膚炎 食物アレルギー: 皮膚テストによる原因物質の確認と交叉感作抗原の検索 4 皮膚創傷治癒機転における神経ペプチドの関与: gastrin releasing peptide receptor ノックアウトマウスにおける創傷治癒

### 研究業績

#### 論文

[追加分]

追加分原著:

- 1) Machida M, Ansai S, Hida Y, Kubo Y, Arase S, Kuramoto K: Basal cell carcinoma arising on the palm. J Dermatol 2011; 38 (1): 94-96.

追加分症例報告:

- 1) Ishigami T, Kubo Y, Matsudate Y, Ansai S, Arase S, Ohyama B, Hashimoto T: Paraneoplastic pemphigus associated with non-Hodgkin's lymphoma. Eur J Dermatol 2011; 21 (1): 122-124.
- 2) 安齋眞一: CPC Muir-Torre syndrome. Visual Dermatology 2011; 10 (2): 188-192.

(1) 原著:

- 1) 上野 孝, 安齋眞一<sup>1)</sup>, 尾見徳弥<sup>2)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup> (1) 付属病院, 2) クイーンズスクエアメディカルセンター皮膚科): 上腕に生じた Clear Cell Acanthoma の1例. 皮膚科の臨床 2011; 53 (8): 1173-1176.

(2) 総説:

- 1) 安齋眞一: 皮膚上皮性腫瘍 (総論). Monthly book Derma わかりやすい! How to 皮膚病理 2011; (177):

191-200.

- 2) 安齋眞一：皮膚上皮性腫瘍（総論）. Monthly book Derma わかりやすい！ How to 皮膚病理 2011；(177)：201-215.

(3) その他：

- 1) 安齋眞一：第8陣に参加して. 日本臨床皮膚科医会雑誌 2011；(28)：806-807.

(4) 症例報告：

- 1) 山本三幸, 亦野蓉子<sup>1)</sup>, 上野 孝<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup> (1) 付属病院 皮膚科)：小児の頭部に生じた澄明細胞汗腺腫. 皮膚病診療 2011；33 (4)：409-410.
- 2) 山本三幸, 小坂素子, 安齋眞一, 川名誠司<sup>1)</sup>, 山手 剛<sup>2)</sup>, 秋谷麻衣<sup>2)</sup> (1) 付属病院 皮膚科, 2) 付属病院 内科)：サルコイドーシスにソポイド類壊死症が合併した1例. 皮膚科の臨床 2011；53 (3)：445-448.
- 3) Takeichi S, Kubo Y, Murao K, Inoue N, Ansai S, Arase S：Coexistence of giant blue nevus of the scalp with hair loss and alopecia areata. J Dermatol 2011；38 (4)：377-381.
- 4) 町田未央, 飛田泰斗史, 久保宜明, 荒瀬誠治, 安齋眞一：低悪性度脂腺癌及び基底細胞癌を併発した脂腺母斑. 西日本皮膚科 2011；73 (2)：152-155.
- 5) Ansai S, Arase S, Kawana S, Kimura T：Immunohistochemical Findings of Sebaceous Carcinoma：Retrieval of Cytokeratin Expression by a Panel of Anti-cytokeratin Monoclonal Antibodies. J Dermatol 2011；38 (10)：951-958.
- 6) Ansai S, Takeichi H, Arase S, Kawana S, Kimura T：Sebaceous carcinoma：An immunohistochemical reappraisal. Am J Dermatopathol 2011；33 (6)：579-587.
- 7) 福本大輔, 安齋眞一, 福本実扶子, 久保宜明, 荒瀬誠治, 中西秀樹：皮膚原発浸潤性有棘細胞癌 (Primary Cutaneous Invasive Squamous cell carcinoma) の臨床病理学的検討：臨床病理学的新分類と予後の関係. 日本皮膚科学会誌 2011；121 (11)：2247-2256.

## 著 書

- 1) 安齋眞一：〔自著〕基底細胞癌. 皮膚疾患最新の治療, 2011；pp2011-2012.
- 2) 安齋眞一：〔自著〕9) ミュアートル症候群 Muir-Torre syndrome. 症候群ハンドブック (井村裕夫, 福井次矢, 辻省次), 2011；p546, 中山書店.

## 学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 松岡保子, 川名誠司<sup>1)</sup> (1) 付属病院 皮膚科)：trichoblastoma の1例. 日本皮膚科学会東京地方会 (第835回) (横浜), 2011. 4.
- 2) 松岡保子, 安齋眞一, 川名誠司<sup>1)</sup> (1) 付属病院皮膚科)：肛囲に局限した Haily-Haily 病の1例. 日本皮膚科学会東京地方会 (横浜), 2011. 12.
- 3) 川原崎麻以, 高崎真理子, 池田麻純, 上野 孝, 安齋眞一<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup> (1) 付属病院皮膚科)：Churg-Strauss 症候群の1例. 日本皮膚科学会東京地方会 (第837回) (横浜), 2011. 7.
- 4) 安齋眞一：色素細胞性腫瘍およびそれとの鑑別が問題となる皮膚腫瘍性病変の病理診断. 日本形成外科学会総会 (第54回) (徳島), 2011. 4.
- 5) 安齋眞一：炎症性皮膚疾患の病理診断：診断の手がかりから考える. 日本皮膚科学会岩手地方会 (第355回) (盛岡), 2011. 10.
- 6) 安齋眞一：悪性黒色腫における病理診断の考え方と問題点：誤診例から考える. 抗加齢美容医療学会青山セミナー (東京), 2011. 8.

- 7) 町田未央, 廣瀬憲志, 村尾和俊, 久保宜明, 浦野芳夫, 安齋眞一: Folliculosebaceous cystic hamartoma の所見をともなった色素性母斑の1例. 日本皮膚科学会西部支部学術大会 (第63回) (沖縄), 2011. 10.
- 8) 橋爪志保, 上野 孝, 安齋眞一, 川名誠司: 右恥骨前部に生じた異所性子宮内膜症の1例. 日本皮膚科学会東京地方会 (第838回) (横浜), 2011. 9.

## [多摩永山病院皮膚科]

### 研究概要

1. アトピー性皮膚炎の病態におけるケモカイン, サイトカインの発現解析と治療戦略. 2. アトピー性皮膚炎の病態における抗核抗体, 抗DFS70抗体の発現解析. 3. 乳児期湿疹の統計的観察. 4. アナフィラクトイド紫斑, 掌蹠膿疱症, 自己免疫水疱症の病態におけるケモカイン, サイトカインの発現解析. 5. 薬疹, 接触皮膚炎, 食物アレルギー, 全身性金属アレルギー: 皮膚テストによる原因物質の確認, 血清中抗原の解析, DLST 検査. 6. 皮膚腫瘍, 皮膚悪性腫瘍の病理学的診断と研究. 7. アミノ酸の経皮吸収.

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 症例報告:

- 1) 二宮里紗, 東 直行, 細根 勝<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>2)</sup>, 小澤雅邦<sup>3)</sup>, 森 鉄也<sup>4)</sup> (1) 多摩永山病院病理部, 2) 付属病院皮膚科, 3) 多摩市, 4) 国立成育医療センター血液腫瘍科): 原発性皮膚型未分化大細胞リンパ腫 (PCALCL). 皮膚病診療 2011; 33 (4): 391-394.
- 2) 森田 孝, 東 直行, 岩本直高<sup>1)</sup>, 玉置智規<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>2)</sup> (1) 多摩永山病院脳神経外科, 2) 付属病院皮膚科): 医療用ステープルによるアレルギー性接触皮膚炎. 皮膚病診療 2011; 33 (7): 719-722.
- 3) 狩野律子<sup>1)</sup>, 東 直行, 川名誠司<sup>1)</sup> (1) 付属病院皮膚科): Folliculosebaceous Cystic Hamartoma と Neurofollicular Hamartoma の合併と考えた1例. 皮膚臨床 2011; 53 (9): 1311-1314.
- 4) 渡邊宏美, 東 直行, 細根 勝<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>2)</sup> (1) 多摩永山病院病理部, 2) 付属病院皮膚科): Tufted Hair Folliculitis の2例. 皮膚臨床 2011; 53 (13): 1926-1929.
- 5) 東 直行, 狩野律子, 松下 晃<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 津久井拓<sup>2)</sup> (1) 多摩永山病院外科, 2) 多摩永山病院消化器内科): 多形慢性痒疹: 近傍に無菌性膿瘍を伴った carcinoma polyarthritidis も随伴した食道癌症例. 皮膚病診療 2011; 33 (12): 1231-1234.
- 6) 東 直行, 狩野律子: 断食療法で悪化したアトピー性皮膚炎. 皮膚病診療 2012; 34 (1): 29-32.

#### 学会発表

##### (1) パネルディスカッション:

- 1) 東 直行, 森田 孝, 吉川雅智<sup>1)</sup>, 熊谷智昭<sup>2)</sup>, 川名誠司<sup>3)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 新 博次<sup>1)</sup> (1) 多摩永山病院内科・循環器内科, 2) 付属病院神経内科, 3) 付属病院皮膚科): 有痛性紅斑と発熱を主訴とし意識障害を起こした1例. 日本皮膚科学会総会 (第110回) (横浜), 2011. 4.
- 2) 東 直行: 当科におけるアトピー性皮膚炎治療での外用剤処方量の調査. 日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会 (第41回) (甲府), 2011. 7.
- 3) 東 直行, 森田 孝, 吉川雅智<sup>1)</sup>, 熊谷智昭<sup>2)</sup>, 川名誠司<sup>3)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 新 博次<sup>1)</sup> (1) 多摩永山病院内科・循環器内科, 2) 付属病院神経内科, 3) 付属病院皮膚科): 有痛性紅斑と発熱を主訴とし意識障害を起こした1例. 日皮会西部支部学術大会 (第63回) (那覇), 2011. 10.
- 4) 森田 孝, 東 直行, 二宮里紗, 川名誠司<sup>1)</sup>, 明石のぞみ<sup>2)</sup> (1) 付属病院皮膚科, 2) 多摩市): ツロブテロール含

有貼布剤によるアレルギー性接触皮膚炎の1例. 日皮会西部支部学術大会(第63回)(那覇), 2011. 10.

- 5) 長田真一, 安斎真一<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup> (1) 付属病院皮膚科): 頭部に皮疹が限局したALアミロイドーシスの1例. 日皮会西部支部学術大会(第63回)(那覇), 2011. 10.
- 6) Sakai N<sup>1,2)</sup>, Nakabayashi I<sup>1)</sup>, Sasaki M<sup>1)</sup>, Higashi N, Yamada M<sup>1)</sup>, Yoshida M<sup>1)</sup> (1) Dept. of Renal Unit of Internal Medicine, Hachioji Medical Center of Tokyo Medical University, <sup>2)</sup> Dept. of Dermatology, Tokyo Medical University): Cutaneous Manifestations in 39 patients with MPO-ANCA associated Vasculitis. The Asia Pacific Meeting of Vasculitis and ANCA Workshop 2012 (Tokyo), 2012. 2.
- 7) 渡邊幸夫<sup>1)</sup>, 東 直行, 塩谷和音<sup>1)</sup>, 宍戸真実<sup>1)</sup>, 高橋理恵<sup>1)</sup>, 鈴木晴江<sup>2)</sup>, 上田豊甫<sup>1)</sup> (1) 明星大学理工学部, <sup>2)</sup> 京都市): アルギニン, プロリンによるアミノ酸イオンの経皮吸収とHydrophile Lipophile Balanceに関する研究. 日本化学会春季年会(第92回)(東京), 2012. 3.

(2) 一般講演:

- 1) 東 直行: 当科におけるアトピー性皮膚炎治療での外用剤処方量の調査. 日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会(第41回)(甲府), 2011. 7.
- 2) 本木智輝, 安斎真一<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup> (1) 付属病院皮膚科): Mucinous carcinoma of the skin の1例. 日本皮膚悪性腫瘍学会(第27回)(東京), 2011. 6.
- 3) 東 直行, 森田 孝, 吉川雅智<sup>1)</sup>, 熊谷智昭<sup>2)</sup>, 川名誠司<sup>3)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 新 博次<sup>1)</sup> (1) 多摩永山病院内科・循環器内科, <sup>2)</sup> 付属病院神経内科, <sup>3)</sup> 付属病院皮膚科): 有痛性紅斑と発熱を主訴とし意識障害を起こした1例. 日皮会西部支部学術大会(第63回)(那覇), 2011. 10.
- 4) 森田 孝, 東 直行, 二宮里紗, 川名誠司<sup>1)</sup>, 明石のぞみ<sup>2)</sup> (1) 付属病院皮膚科, <sup>2)</sup> 多摩市): ツロプテロール含有貼布剤によるアレルギー性接触皮膚炎の1例. 日皮会西部支部学術大会(第63回)(那覇), 2011. 10.
- 5) 長田真一, 吉田流音<sup>1)</sup>, 菊地伊豆実<sup>1)</sup>, 安斎真一<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup>, 古賀浩嗣<sup>2)</sup>, 橋本 隆<sup>2)</sup> (1) 付属病院皮膚科, <sup>2)</sup> 久留米大学皮膚科): Lichen planus pemphigoides の1例. 水疱症研究会(第33回)(久留米), 2011. 10.
- 6) 長田真一, 安斎真一<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup> (1) 付属病院皮膚科): 頭部に皮疹が限局したALアミロイドーシスの1例. 日皮会西部支部学術大会(第63回)(那覇), 2011. 10.
- 7) 東 直行: 掻破性脱毛を伴ったアトピー性皮膚炎の1例. アトピー性皮膚炎治療研究会(第17回)(東京), 2012. 2.
- 8) 本木智輝, 東 直行, 松村佳世子<sup>1)</sup>, 永迫さゆり<sup>1)</sup>, 中村順子<sup>1)</sup>, 桑田敬子<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>2)</sup> (1) 多摩永山病院看護部, <sup>2)</sup> 付属病院皮膚科): 当院における医療器具による医原性皮膚障害の統計的観察. 日本皮膚科学会東京支部(第75回)(東京), 2012. 2.

## [千葉北総病院皮膚科]

### 研究概要

1) 薬疹, 接触性皮膚炎, 食物アレルギー: パッチテスト, プリックテスト, チャレンジテスト, 光パッチテストによる原因物質の確認と, 交叉感作, 抗原決定基の検索, アレルギーカードの発行. 2) 皮膚腫瘍の臨床診断, 形成外科学的治療・再建術および病理学的研究: 特に電顕, 酵素抗体法を用いた研究. 3) 動物性皮膚疾患: 疥癬, Creeping disease 等に対する新しい内服治療・外用治療法の研究. 4) 褥瘡, 難治性潰瘍: 新しい素材, 薬剤を用いた保命的, 外科的治療, および糖尿病性壊疽の患者管理と治療法の研究. 5) 皮膚真菌症: 白癬菌の寄生形態に関する電顕学的研究, 白癬に対する効果的な外用・内服治療法の研究. 6) 水疱症: 尋常性天疱瘡, 水疱性類天疱瘡に対する, 血漿交換療法を含めた集学的治療法の研究. 7) 円形脱毛症: 難治性円形脱毛症の病態の解明, 免疫療法など新しい治療法の研究.

## 研究業績

### 学会発表

#### [追加分]

追加分一般講演：

- 1) 川崎裕史, 大島 玄, 藤本和久, 安齋眞一<sup>1)</sup>, 川名誠司<sup>1)</sup> (1) 日医大付属病院皮膚科) : Infundibulocystic basal carcinoma の1例. 第73回日本皮膚科学会東京支部 (東京), 2010. 2.
- 2) 川崎裕史, 藤本和久, 川名誠司<sup>1)</sup>, 安齋眞一<sup>1)</sup> (1) 日医大付属病院皮膚科) : 腰部脂肪肉腫の1例. 第74回日本皮膚科学会東京支部 (東京), 2011. 2.
- 3) 川崎裕史, 川崎広明<sup>1)</sup> (1) 株) ジーンサイエンス) : ゲノム検査の技術と臨床応用における成果データに関して. 第一回臨床ゲノム研究会 (東京), 2010. 4.
- 4) 川崎裕史 : 下腿と腋窩に生じた圧痛性皮下結節. 第4回インターネット皮膚病理診断検討会 (札幌), 2011. 2.
- 5) 川崎裕史 : 生活習慣病と下腿潰瘍 (糖尿病). 千葉北総病院 タウン講座 (千葉), 2010. 7.

(1) 一般講演：

- 1) 川崎裕史, 藤本和久, 川名誠司<sup>1)</sup> (1) 付属病院皮膚科) : カーボン懸濁液塗布を併用した褐色色素性病変に対する IPL 治療の経験. 日本美容皮膚学会総会・学術大会 (第29回), 2011. 9.
- 2) 川崎裕史, 井手 路<sup>1)</sup>, 上原隆志<sup>2)</sup>, 幸野 健, 川名誠司<sup>3)</sup>, 藤本和久, 菊池さち子<sup>4)</sup>, 森本健介 (1) 日医大千葉北総病院耳鼻科, 2) 横浜労災病院呼吸器内科, 3) 日医大付属病院皮膚科, 4) 日医大千葉北総病院眼科) : 非典型的 cogan 症候群の1例. 第63回日本皮膚科学会西部支部学術大会 (沖縄), 2011. 10.
- 3) 川崎裕史, 井手路子<sup>1)</sup>, 上原隆志<sup>2)</sup>, 幸野 健, 川名誠司<sup>3)</sup>, 藤本和久, 菊池さち子<sup>4)</sup>, 森本健介 (1) 日医大千葉北総病院耳鼻科, 2) 横浜労災病院呼吸器内科, 3) 日医大付属病院皮膚科, 4) 日医大付属病院眼科) : Cogan 症候群の非典型的1例. 第110回日本皮膚科学会総会 (震災のため非開催) (横浜), 2011. 4.

## 9. 外科学講座（消化器・一般・乳腺・移植部門）

### [付属病院消化器外科，乳腺科，一般外科，移植外科]

#### 研究業績

##### 追加分原著：

- 1) 野村 聡<sup>1,3)</sup>，塩谷 猛<sup>1)</sup>，渋谷哲男<sup>1)</sup>，内間久隆<sup>2)</sup>，鈴木英之<sup>3)</sup>，内田英二<sup>(1)</sup>（さいたま市民医療センター外科，  
2) さいたま市民医療センター病理，3) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター）：S 状結腸憩室炎による結腸膀胱瘻の1例。日本外科系連合学会誌 2011；36（1）：50-54.

##### 追加分症例報告：

- 1) 松谷 毅<sup>1)</sup>，内田英二，吉田 寛<sup>1)</sup>，鈴木成治<sup>1)</sup>，丸山 弘<sup>1)</sup>，横山 正<sup>1)</sup>，松下 晃<sup>1)</sup>，平方敦史<sup>1)</sup>，川本聖郎<sup>1)</sup>，新井洋紀<sup>1)</sup>，馬越通信<sup>1)</sup>，若林秀幸<sup>1)</sup>，笹島耕二<sup>1)</sup>（<sup>(1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院外科）：ネフローゼ症候群を合併した高齢者進行食道癌に対し Docetaxel/Nedaplatin/5-Fluorouracil 併用化学療法で CR が得られた1例。癌と化学療法 2011；38（3）：439-441.
- 2) Makino H, Miyashita M, Nomura T, Hagiwara N, Takahashi K<sup>1)</sup>, Matsuno K<sup>1)</sup>, Sumiyoshi H<sup>1)</sup>, Iwamoto M<sup>1)</sup>, Yokoi K<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup>（<sup>(1)</sup> Department of Surgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital）：Successful endoscopic clipping and application of fibrin glue for an esophago-mediastinal fistula after an esophagectomy. Esophagus 2011；8（1）：113-117.

##### (1) 原著：

- 1) 牧野浩司，宮下正夫，野村 務，萩原信敏，中溝宗永<sup>1)</sup>，横島一彦<sup>1)</sup>，三枝英人<sup>1)</sup>，高橋 健<sup>2)</sup>，勝田美和子<sup>2)</sup>，堀場光二<sup>2)</sup>，横井公良<sup>2)</sup>，内田英二（<sup>(1)</sup> 日本医科大学頭頸部外科，<sup>(2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院外科）：気管・食道・縦隔瘻の治療 食道癌術後の縫合不全に続発した難治性縦隔瘻の治療。日本気管食道科学会会報 2011；62（2）：183-189.
- 2) 若林秀幸<sup>1)</sup>，内田英二，松谷 毅<sup>1)</sup>，鈴木成治<sup>1)</sup>，丸山 弘<sup>1)</sup>，横山 正<sup>1)</sup>，吉田 寛<sup>1)</sup>，片山博徳<sup>2)</sup>，細根 勝<sup>2)</sup>，笹島耕二<sup>1)</sup>（<sup>(1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院外科，<sup>(2)</sup> 日本医科大学多摩永山病院病理部）：S1/CDDP 化学療法で CR 後 14 ヶ月に両側腸腰筋転移をきたした高度進行胃癌の1例。癌の臨床 2011；56（7）：557-562.
- 3) Katsuno A, Aimoto T, Uchida E, Tabata Y<sup>1)</sup>, Miyamoto M<sup>2)</sup>, Tajiri T（<sup>(1)</sup> Department of Biomafor Frontier Medical Schiencs, Kyoto Universityterials, Institute, <sup>(2)</sup> Department of Medicine, Nippon Medical School）：The Controlled Release of Basic Fibroblast Growth Factor Promotes a Rapid Healing of Pancreaticojejunal Anastomosis with Potent Angiogenesis and Accelearates Apoptosis in Granulation Tissue. J of Surgical Research 2011；167（1）：166-172.
- 4) Kato S, Naito Z<sup>1)</sup>, Matsuda N, Onodera H, Sakurazawa N, Yamashita N, Kanazawa Y, Fujita I, Makino H, Uchida E（<sup>(1)</sup> Integrative Pathology, Nippon Medical School）：Localization of Cytochrome P4502E1 Enzyme in Normal and Cancerous Gastric Mucosa and Association with Its Genetic Polymorphism in Unoperated and Remanant Stomach. J Nippon Med Sch 2011；78（4）：224-234.
- 5) 金沢義一，古川清憲，山田岳史，白川 毅<sup>1)</sup>，藤田逸郎，加藤俊二，横井公良<sup>1)</sup>，内田英二（<sup>(1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院外科）：StageIV 胃癌における S-1 投与による治療成績の検討。癌と化学療法 2011；38（10）：1619-1622.

(2) 総説：

- 1) 野村 務, 宮下正夫, 牧野浩司, 萩原信敏, 赤城一郎, 松本智司, 藤田逸郎, 中村慶春, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 内田英二  
(<sup>1)</sup> 日本医科大学大学院医学研究科病態制御腫瘍内科学)：消化器疾患に対する単孔式腹腔鏡下手術 食道アカ  
ラシアに対する単孔式腹腔鏡下 Heller-Dor 法 (II). 日本医科大学医学会雑誌 2011；7 (2)：48-49.
- 2) 吉田 寛<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 真々田裕宏, 谷合信彦, 内田英二 (<sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院外科)：  
術後患者のチューブ管理について学ぼう！異常と正常を見極める 排液カラーチャートつき】肝切除術後の  
チューブ. 消化器外科 Nursing 2011；16 (6)：555-563.
- 3) 山田岳史, 内田英二：地域がん診療連携拠点病院におけるがん診療に必要な『連携』とは？：特に大腸癌診療に  
関して. 日医大医学会誌 2011；7 (3)：133-134.
- 4) 中村慶春, 有馬保生, 真々田裕宏, 野村 務, 牧野浩司, 松本智司, 吉岡正人, 水口義昭, 重原健吾, 内田英  
二：消化器疾患に対する単孔式腹腔鏡下手術 胆嚢：単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術 (III). 日医大医学会誌 2011；  
7 (3)：110-112.
- 5) Iida S, Haga S, Yamashita K<sup>1)</sup>, Yanagihara K, Kurita T, Murakami R<sup>2)</sup>, Kumita S<sup>2)</sup>, Tsuchiya S<sup>3)</sup>, Fu-  
rukawa K, Uchida E (<sup>1)</sup> Department of Biological Regulation and Regenerative Suregery, Nippon Medical  
School, <sup>2)</sup> Department of Clinical Radiology, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Department of Diagnostic  
Pathology, Nippon Medical School)：Evaluation of Sentinel Lymph Node Biopsy in Clinically Node-Negative  
Breast Cancer. J Nippon Med Sch 2011；78 (2)：96-100.
- 6) 中村慶春, 松本智司, 吉岡正人, 田尻 孝, 内田英二：腹腔鏡下腓体尾部切除術. 外科治療 2011；105 (1)：  
88-92.
- 7) 野村 務, 牧野浩司, 宮下正夫, 萩原信敏, 赤城一郎, 塩田吉宣, 加藤俊二, 藤田逸郎, 岩切勝彦, 内田英二：  
臨床医のために 巨大食道裂孔ヘルニアに対する腹腔鏡下手術. 日医大医学会誌 2011；7 (3)：119-123.
- 8) 上田純志, 内田英二：当科における腹部救急手術の現状：大学病院外科の立場から, 大規模病院への集中, 日本  
腹部救急医学会雑誌 2011；31 (5)：733-737.
- 9) 松下 晃, 相本隆幸, 中村慶春, 山初和也, 内田英二：特集 重症急性膵炎・重傷急性胆道炎に対する診療の最  
前線 I. 重症急性膵炎の診療 重症急性膵炎の診断基準と重症度判定. ICUとCCU 2012；36 (1)：3-7.
- 10) 中村慶春, 松本智司, 吉岡正人, 清水哲也, 田尻 孝, 内田英二：特集 消化器内視鏡外科手術手技の常識 II.  
肝胆膵 6. 腹腔鏡下膵切除術における標準化を目指した手術手技の工夫. 手術 2011；65 (12)：1789-1794.
- 11) 中村慶春, 松本智司, 吉岡正人, 田尻 孝, 内田英二：腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術：術式の標準化と膵癌への  
応用の可能性. 外科治療 2011；105 (3)：222-228.
- 12) 松本智司, 野村 務, 牧野 浩, 菅 隼人, 中村慶春, 山田岳史, 小泉岐博, 佐々木順平, 内田英二 (<sup>1)</sup> 日本  
医科大学大学院医学研究科臓器病態制御外科学)：消化器疾患に対する単孔式腹腔鏡下手術 虫垂 (VI). 日医  
大医学会誌 2011；7 (4)：148-149.
- 13) 相本隆幸, 内田英二, 中村慶春：その他の膵症候群および膵疾患に伴う病態 膵動静脈奇形. 日本臨床 2011；  
別冊：417-419.
- 14) 相本隆幸, 内田英二, 中村慶春：膵神経内分泌腫瘍 膵カルチノイド腫瘍. 日本臨床 2011；別冊：382-383.
- 15) Aimoto T, Uchida E, Nakamura Y, Yamahatsu K, Matsushita A, Cho K, Kawamoto M：Current Surgical  
Treatment for Chronic Pancreatitis. J Nippon Med Sch 2011；78 (6)：352-359.
- 16) 加藤俊二, 松倉則夫, 藤田逸郎, 小野寺浩之, 櫻澤信行, 萩原信敏, 金沢義一, 野村 務, 内田英二：背景胃粘  
膜の内視鏡所見と胃癌発生リスク, 除菌の効果. 臨床消化器内科 2012；27 (3)：351-356.
- 17) 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 吉岡正人, 平方敦史, 内田英二 (<sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院外科)：門脈  
圧亢進症に対する外科治療と IVR (4) 部分的脾動脈塞栓術. 臨床消化器内科 2012；27 (2)：211-215.
- 18) Tsujimura Y<sup>1)</sup>, Matsutani T, Matsuda A, Kutsukake M, Uchida E, Sasajima K, Tamura K (<sup>1)</sup> Department

of Endocrine Pharmacology, Tokyo University of Pharmacy and Life Science) : Effects of Pioglitazone on Survival and Omental Adipocyte Function in Mice with Sepsis Induced by Cecal Ligation and Puncture. Journal of Surgical Research 2011 ; 171 (2) : e215-e221.

- 19) 中村慶春, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学大学院医学研究科臓器病態制御外科学病態制御外科学) : 腹腔鏡下臍切除術の標準化を目指して 腫瘍核出から臍頭十二指腸切除まで. 日医大医会誌 2012 ; 8 (1) : 50-53.
- 20) Kurita T, Tsuchiya S, Watarai Y, Yamamoto Y, Harada O, Yanagihara K, Iida S, Haga S, Uchida E<sup>(1)</sup> Surgery for Organ Function and Biology Regulation, Nippon Medical School) : Roles of fine-needle aspiration and core needle biopsy in the diagnosis of breast cancer. Breast Cancer 2012 ; 19 (1) : 23-29.
- 21) 山田岳史, 菅 隼人, 松本智司, 小泉岐博, 鈴木英之, 内田英二 : I. 機械的イレウス 2. 複雑性または紋扼性イレウス a) 紋扼性イレウス : 早期診断の重要性. 外科 2012 ; 74 (3) : 250-254.
- 22) Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Yoshioka M, Hirakata A, Kawano Y, Mizuguchi Y, Shimizu T, Ueda J, Uchida E<sup>(1)</sup> Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Treatment Modalities for Bleeding Esophagogastric Varices. J Nippon Med Sch 2012 ; 79 (1) : 19-30.

(3) 症例報告 :

- 1) 櫻澤信行, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金沢義一, 小野寺浩之, 内田英二 : 腹腔鏡補助下胃切除で hemidouble stapling technique にて吻合後の狭窄に対し内視鏡的バルーン拡張術後に穿孔と穿通を来した2例. 手術 2011 ; 65 (8) : 1197-1200.
- 2) Iwai T<sup>1)</sup>, Yoshida H<sup>1)</sup>, Yokoyama T<sup>1)</sup>, Maruyama H<sup>1)</sup>, Suzuki S<sup>1)</sup>, Matsutani T<sup>1)</sup>, Matsushita A<sup>1)</sup>, Hirakata A<sup>1)</sup>, Sasajima K<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>(1)</sup> Department of Surgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital) : Migration of a Fish Bone into the Right Renal Vein. J Nippon Med Sch 2011 ; 78 (3) : 189-193.
- 3) Kaneya Y<sup>1)</sup>, Yoshida H<sup>1)</sup>, Matsutani T<sup>1)</sup>, Hirakata A<sup>1)</sup>, Matsushita A<sup>1)</sup>, Suzuki S<sup>1)</sup>, Yokoyama T<sup>1)</sup>, Maruyama H<sup>1)</sup>, Sasajima K<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>(1)</sup> Department of Surgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital) : Biliary Obstruction Due to a Huge Simple Hepatic Cyst Treated with Laparoscopic Resection. J Nippon Med Sch 2011 ; 78 (2) : 105-109.
- 4) Ueda J, Yoshida H, Arima Y, Mamada Y, Taniai N, Mineta S, Yoshioka M, Kawano Y, Naito Z<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>(1)</sup> Department of Pathology, Nippon Medical School) : A Case of Xanthogranulomatous Cholecystitis Preoperatively Diagnosed with Contrast-enhanced Ultrasonography. J Nippon Med Sch 2011 ; 78 (3) : 194-198.
- 5) Makino H, Nomura T, Miyashita M, Okawa K, Hagiwara N, Uchida E : Esophageal Stripping Creates a Clear Operative Field for Lymph Node Dissection along the Left Recurrent Laryngeal Nerve in Prone Video-Assisted Thoracoscopic Surgery. J Nippon Med Sch 2011 ; 78 (6) : 199-204.
- 6) 牧野浩司, 宮下正夫, 野村 務, 萩原信敏, 中溝宗永<sup>1)</sup>, 横島一彦<sup>1)</sup>, 三枝英人<sup>1)</sup>, 高橋 健<sup>2)</sup>, 勝田美和子<sup>2)</sup>, 堀場光二<sup>2)</sup>, 横井公良<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学頭頸部外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院外科) : 食道癌術後の縫合不全に続発した難治性縦隔瘻の治療. 日本気管食道科学会会報 2011 ; 62 (2) : 183-189.
- 7) 杉浦 篤<sup>1)</sup>, 内田英二, 松谷 毅<sup>2)</sup>, 丸山 弘<sup>2)</sup>, 横山 正<sup>2)</sup>, 鈴木成治<sup>2)</sup>, 吉田 寛<sup>2)</sup>, 笹島耕二<sup>2)</sup> <sup>(1)</sup> 東京リバーサイド病院外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学多摩永山病院外科) : 盲腸腺扁平上皮癌の1例. 日本医科大学医学会雑誌 2011 ; 7 (3) : 129-132.
- 8) Harada J, Yoshida H<sup>1)</sup>, Ueda J, Mamada Y, Taniai N, Mineta S, Yoshioka M, Kawano Y, Shioda Y<sup>2)</sup>, Uchida E<sup>(1)</sup> Department of Surgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, <sup>2)</sup> Shioda Hospital) : Malignant Hepatic Epithelioid Hemangioendothelioma with Abdominal Pain due to Rapid Progression. J Nippon Med Sch 2011 ; 78 (4) : 246-251.

- 9) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 内田英二, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院外科) : 単孔式内視鏡手術で腹腔鏡下胃瘻造設術を行った癌性食道狭窄の1例. 日本内視鏡外科学会雑誌 2011 ; 16 (4) : 501-505.
- 10) 馬越通信<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 内田英二 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院外科) : 十二指腸用 self expandable metallic stent 留置の経験. Gastroenterological Endoscopy 2011 ; 53 (6) : 1648-1649.
- 11) Tani A, Yoshida H<sup>1)</sup>, Mamada Y, Tani N, Mineta S, Yoshioka M, Kawano Y, Ueda J, Naito Z<sup>2)</sup>, Uchida E ( <sup>1)</sup> Department of Surgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, <sup>2)</sup> Department of Pathology, Nippon Medical School) : Hepatic Angiomyolipoma with a Giant Hemangioma. J Nippon Med Sch 2011 ; 78 (5) : 317-321.
- 12) Nakamura Y, Matsumoto S, Tajiri T, Uchida E : A Safe technique for Laparoscopic Distal Pancreatectomy Involving a Large Cystic Tumor. J Nippon Med Sch 2011 ; 78 (6) : 374-378.
- 13) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 内田英二, 川本聖郎<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院外科) : 胃癌術後の空腸癌性狭窄と Schnitzler 転移に対し self-expandable metallic stent 留置によって quality of life が改善しえた1例. 外科 2011 ; 73 (13) : 1509-1512.
- 14) 八木亜記, 水谷 聡, 鈴木英之, 千原直人, 野村 聡, 小峯 修, 吉野雅則, 星野有哉, 尾形昌男, 渡邊昌則, 内田英二 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター) : 臍頭十二指腸切除術・child 再建後の輸入脚狭窄に対する内視鏡的治療. Progress of Digestive Endoscopy 2011 ; 79 (2) : 118-119.
- 15) 菅野仁士, 山下直行, 柿沼大輔, 住吉 宏, 小澤俊文, 内田英二 ( <sup>1)</sup> 慈恵会医学研究所附属坪井病院外科) : 下部消化管内視鏡検査食摂食後に発生し, 保存的に加療しえた特発性食道破裂の1例. Gastroenterological Endoscopy 2011 ; 53 (11) : 3518-3522.
- 16) 若林秀幸, 松谷 毅, 吉田 寛, 笹島耕二, 内田英二 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院/外科) : CA19-9 産生癌および非産生癌による多発胃癌の1例. 日本臨床外科学会雑誌 2011 ; 72 (12) : 3056-3060.
- 17) 新井洋紀, 内田英二, 松谷 毅, 丸山 弘, 吉田 寛, 笹島耕二 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院外科) : 直腸 S 状結腸に発生した子宮内膜症の3例. 外科 2011 ; 73 (11) : 1245-1248.
- 18) 松谷 毅, 吉田 寛, 松下 晃, 丸山 弘, 笹島耕二, 内田英二 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院外科) : 食道空腸吻合部狭窄に対する内視鏡的バルーン拡張術後に生じた緊張性気胸を伴った食道破裂の1例. 日本腹部救急医学会雑誌 2012 ; 32 (1) : 109-113.
- 19) Kawano Y, Yoshida H<sup>1)</sup>, Mamada Y, Tani N, Mineta S, Yoshioka M, Mizuguchi Y, Katsuta Y, Kawamoto C<sup>2)</sup>, Uchida E ( <sup>1)</sup> Department of Surgery, Nippon Medical School) : Intracystic Hemorrhage Required No Treatment from One of Multiple Hepatic Cysts. J Nippon Med Sch 2011 ; 78 (5) : 312-316.
- 20) Ueda J, Yoshida H<sup>1)</sup>, Mamada Y, Tani N, Mineta S, Yoshioka M, Kawano Y, Furuki H, Koizumi K<sup>2)</sup>, Uchida E ( <sup>1)</sup> Department of Surgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, <sup>2)</sup> Department of Thoracic Surgery, Nippon Medical School) : Surgical Resection of Solitary Metastatic Liver Tumor Arising From Lung Cancer : A Case Series. Hepato-Gastroenterology 2012 ; 59 (119).

## 著 書

- 1) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 宮下正夫, 内田英二 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院外科) : [分担] 性差によって外傷の治療成績は変わるか?. 侵襲と免疫 (宮下正夫), 2011 ; pp36-38, メジカルビュー社.
- 2) 吉田 寛<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 真々田裕宏, 谷合信彦, 内田英二 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院外科) : [分担] 特集:術後患者のチューブ管理について学ぼう 5 肝切除術後のチューブ. 消化器外科 NURSING, 2011 ; pp35-43, メディカ出版.
- 3) 吉田 寛<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 真々田裕宏, 谷合信彦, 川野陽一, 内田英二, 田尻 孝 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院外科) : [分担] II 臨床 脾臓と関連した疾患

続発性脾臓機能亢進症 25. 特発性門脈圧亢進症. 脾臓 基礎と臨床 (沖永功太), 2011; pp159-164. へるす出版.

- 4) 中村慶春: [特集] 特集 がんの先進医療 肝・胆・膵がんの治療 腹腔鏡下膵体尾部切除術・核出術: がん化する可能性のある良性～低悪性度膵腫瘍に対する低侵襲治療. ライフライン 21 がんの先進医療, 2012; pp22-25. 露書房.

## 学会発表

### (1) 特別講演:

- 1) 中村慶春: 膵臓の腹腔鏡下切除術. 広島肝胆膵外科手術研究会 (第 37 回) (広島), 2011. 6.
- 2) 中村慶春: 腹腔鏡下膵切除術. 滋賀消化器外科カンファレンス (第 6 回) (草津), 2012. 2.

### (2) シンポジウム:

- 1) 山田岳史, 内田英二, 菅 隼人: 消化器病における漢方治療のエビデンスを目指して Oxaliplatin による末梢神経障害に対する附子の効果. 日本消化器病学会総会 (第 97 回) (東京), 2011. 5.
- 2) 菅 隼人, 内田英二, 松本智司, 山田岳史, 小泉岐博, 佐々木順平, 谷 杏彌, 古川清憲: 鏡視下結腸癌術後における大建中湯の影響: X 線不透過マーカーを用いた検討を中心に. 日本外科系連合学会学術集会 (第 36 回) (浦安), 2011. 6.
- 3) 山田岳史, 菅 隼人, 松本智司, 小泉岐博, 内田英二: 胃癌, 大腸癌における最大大腰筋比の栄養指標としての意義. 日本消化管学会総会学術集会 (第 8 回) (宮城県), 2012. 2.
- 4) 牧野浩司, 野村 務, 吉田 寛, 萩原信敏, 藤田逸郎, 中村慶春, 宮下正夫, 勝田美和子, 内田英二 <sup>(1)</sup> 日本医科大学医学部消化器外科: 安全と合理性を追求した腹臥位食道切除術と食道ストリッピングで術野展開後の 106recL リンパ節郭清. 日本内視鏡外科学会総会 (第 24 回) (大阪府), 2011. 12.
- 5) 谷合信彦, 吉田 寛, 真々田裕宏, 吉岡正人, 川野陽一, 清水哲也, 上田純志, 水口義昭, 内田英二 <sup>(1)</sup> 日本医科大学 外科: 門脈血栓症に対する門脈系 IVR の適応と限界. 日本腹部救急医学会総会 (第 48 回) (石川県), 2012. 3.
- 6) 山田岳史, 藤田逸郎, 金沢義一, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 加藤俊二, 内田英二 <sup>(1)</sup> 日本医科大学 外科: 胃癌におけるクリニカルパスを用いた早期緩和医療の導入と継続. 日本胃癌学会総会 (第 84 回) (大阪府), 2012. 2.

### (3) パネルディスカッション:

- 1) 谷合信彦, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 真々田裕宏, 吉岡正人, 川野陽一, 上田純志, 内田英二 <sup>(1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院 外科: 慢性肝疾患治療における部分脾動脈塞栓術 (PSE) の位置づけ. 日本門脈圧亢進症学会総会 (第 18 回) (福岡), 2011. 9.
- 2) 牧野浩司, 野村 務, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 萩原信敏, 藤田逸郎, 金沢義一, 桜澤信行, 小野寺浩之, 中村慶春, 松本智司, 加藤俊二, 勝田美和子<sup>2)</sup>, 横井公良<sup>2)</sup>, 宮下正夫, 内田英二 <sup>(1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院 外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院 外科: 当科で試行してきた左側臥位・腹臥位胸腔鏡下食道切除術からみたメリット・デメリット. 日本臨床外科学会総会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 3) 谷合信彦, 真々田裕宏, 吉岡正人, 川野陽一, 清水哲也, 上田純志, 吉田 寛, 古川清憲, 内田英二 <sup>(1)</sup> 日本医科大学 外科: 肝胆膵手術の新しい周術期感染管理 (肝) 肝管空腸吻合を伴う肝切除後胆汁漏対策 ショートステントと Blake ドレーンの有用性. 日本外科感染症学会総会学術集会 (第 24 回) (三重県), 2011. 12.
- 4) 中村慶春, 松本智司, 相本隆幸, 吉岡正人, 松下 晃, 川野陽一, 清水哲也, 山初和也, 田尻 孝, 内田英二 <sup>(1)</sup> 日本医科大学 消化器・一般・乳腺・移植外科: 腹腔鏡下膵切除術における適応疾患に配慮した手術手技の基本方針とその工夫について. 膵臓内視鏡外科研究会 (第 3 回) (宮城県), 2011. 10.
- 5) 山田岳史, 松本智司, 菅 隼人, 小泉岐博, 進士誠一, 佐々木順平, 谷 杏彌, 中村慶春, 内田英二 <sup>(1)</sup> 日本

医科大学 外科)：教育機関で行う双孔式腹腔鏡補助下虫垂切除術の安全性と限界. 日本腹部救急医学会総会 (第 48 回) (石川県), 2012. 3.

- 6) 山田岳史, 藤田逸郎, 金沢義一, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 加藤俊二, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学 外科)：胃癌における最大大腰筋比の栄養指標としての意義. 日本胃癌学会総会 (第 84 回) (大阪府), 2012. 2.

(4) セミナー：

- 1) 谷合信彦：よりよい論文作成を目指してだれにでもできる医学雑誌への論文投稿. 日本手術医学会総会 (第 33 回) (鹿児島県), 2011. 10.

(5) ワークショップ：

- 1) 峯田 章, 谷合信彦, 内田英二：非代償性肝硬変の合併症とその対策 肝硬変に伴う難治性腹水症例に対する腹腔-静脈シャント術の効果と課題. 日本消化器病学会総会 (第 97 回) (東京), 2011. 5.

- 2) 山田岳史, 内田英二, 菅 隼人, 松本智司, 小泉岐博：大腸癌抗体療法における oncology emergency. 日本腹部救急医学会総会 (第 47 回) (福岡), 2011. 8.

- 3) 菅 隼人, 内田英二, 松本智司, 山田岳史, 小泉岐博, 佐々木順平, 谷 杏彌, 古川清憲：腹部救急領域における漢方の役割 大建中湯 (TJ-100) の術後腸管運動への効果 鏡視下 S 状結腸癌術後の検討を中心に. 日本腹部救急医学会総会 (第 47 回) (福岡), 2011. 8.

- 4) 谷合信彦, 吉田 寛, 真々田裕宏, 吉岡正人, 峯田 章, 川野陽一, 上田純志, 内田英二：劇症肝炎・重症肺炎の治療としての血液浄化 劇症肝炎に対する高速持続的血液濾過透析 (HFCHDF) の効果と問題点. 日本腹部救急医学会総会 (第 47 回) (福岡), 2011. 8.

- 5) 横山 正<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 高尾嘉宗<sup>1)</sup>, 馬越通信<sup>1)</sup>, 堀田正啓<sup>1)</sup>, 早川朋宏<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院 外科)：我々の臍頭十二指腸切除術のドレーン管理と検討. 日本臨床外科学会総会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.

- 6) 吉田 寛<sup>1)</sup>, 真々田裕宏, 谷合信彦, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 馬越通信<sup>1)</sup>, 高尾嘉宗<sup>1)</sup>, 堀田正啓<sup>1)</sup>, 早川朋宏<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院 外科)：当科における肝切除のクリニカルパスの変遷とその効果. 日本臨床外科学会総会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.

- 7) 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 松下 晃, 平方敦史, 高尾嘉宗, 馬越通信, 堀田正啓, 早川朋宏, 宮下正夫, 野村 務, 松谷 毅, 萩原信敏, 岩切勝彦, その他 2 名<sup>(1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院外科)：経鼻内視鏡の検査と治療における多様な可能性と鼻痛・鼻出血のデメリットを軽減するデバイスの開発. 日本消化管学会総会学術集会 (第 8 回) (宮城県), 2012. 2.

- 8) 谷合信彦, 吉田 寛, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学外科)：高齢者 (75 歳以上) における肝細胞癌切除術の意義. 日本消化器病学会大会 (第 53 回) (福岡県), 2011. 10.

- 9) 谷合信彦, 吉田 寛, 真々田裕宏, 吉岡正人, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 上田純志, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学 外科)：劇症肝炎に対する高速持続的血液濾過透析 (HFCHDF). 日本腹部救急医学会総会 (第 48 回) (石川県), 2012. 3.

(6) ポスター：

- 1) 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 工藤秀徳<sup>1)</sup>, 高橋由至<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 向後英樹<sup>1)</sup>, 若林秀幸<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, 2) 日本医科大学第一外科)：遠隔転移を有する大腸癌における EMMPRIN, VEGF, VEGFR2, VEGFR3 の発現. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 66 回) (東京都), 2011. 11.

(7) サージカルフォーラム：

- 1) 谷合信彦, 吉田 寛, 内田英二：外科周術期における適正輸血をめざした当院での試み. 日本外科学会定期学術集会 (第 111 回) (誌上開催), 2011. 5.

(8) 一般講演：

- 1) 松谷 毅, 宮下正夫, 丸山 弘, 松田明久, 杵掛真彦<sup>1)</sup>, 田村和弘<sup>1)</sup>, 内田英二 ( <sup>1)</sup> 東京薬科大学内分泌分子薬理学) : マウス敗血症モデルにおける脂肪細胞の炎症性サイトカイン産生とピオグリタゾンの効果. 日本 shock 学会 (第 26 回) (浜松), 2011. 5.
- 2) 石渡俊行<sup>1)</sup>, 松田陽子<sup>1)</sup>, 上田純志, 山本哲志<sup>1)</sup>, 彭 為霞<sup>1)</sup>, 川原清子<sup>1)</sup>, 内田英二, Murray K<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 病理学第二講座) : 線維芽細胞増殖因子受容体 (FGFR2) を標的とした膀胱癌治療の研究. 日本病理学会総会 (第 100 回) (横浜), 2011. 4.
- 3) 山初和也, 松田陽子<sup>1)</sup>, 藤井雄文<sup>1)</sup>, 川原清子<sup>1)</sup>, 河本陽子<sup>1)</sup>, 手塚 潔<sup>1)</sup>, 鈴木妙子<sup>1)</sup>, 山本哲志<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 病理学第二講座) : Nude mouse と NOG mouse を用いたヒト膀胱癌培養細胞転移モデルの比較検討. 日本病理学会総会 (第 100 回) (横浜), 2011. 4.
- 4) 上田純志, 松田陽子<sup>1)</sup>, 手塚 潔<sup>1)</sup>, 山初和也, 内田英二, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 病理学第二講座) : 浸潤性膀胱癌における Epithelial splicing regulatory protein1 の発現と役割の検討. 日本病理学会総会 (第 100 回) (横浜), 2011. 4.
- 5) Yamahatsu K, Matsuda Y<sup>1)</sup>, Aimoto T, Nakamura Y, Hiroi M, Uchida E, Naito Z<sup>1)</sup>, Ishiwata T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, Nippon Medical School) : Nestin as a novel angiogenic marker and target for anti-angiogenic therapy in human pancreatic cancer. AACR 102nd ANNUAL MEETING (Orlando, USA), 2011. 4.
- 6) Ueda J, Kawahara K<sup>1)</sup>, Fujii T<sup>1)</sup>, Yamahatsu K<sup>1)</sup>, Suzuki T<sup>1)</sup>, Matsuda Y<sup>1)</sup>, Uchida E, Korc M<sup>2)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup>, Ishiwata T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Pathology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Medicine, Dartmouth Medical School and Dartmouth Hitchcock Medical Center, Lebanon, NH) : Detection of Tumors, Metastases, and Circulation Tumor Cells. AACR 102nd ANNUAL MEETING (Orlando, USA), 2011. 4.
- 7) Hagiwara N, Miyashita M, Yamashita N<sup>1)</sup>, Iida S, Nomura T, Makino H, Okawa K, Takahashi K, Akagi I, Shinozuka E, Fujita I, Kanazawa Y, Sakurazawa N, Onodera H, Uchida E ( <sup>1)</sup> Tsuboi Hospital) : Utility of serum p53 antibodies in patients with various types of malignant tumors. AACR 102nd ANNUAL MEETING (Orlando, USA), 2011. 4.
- 8) 山田岳史, 内田英二, 菅 隼人, 松本智司, 小泉岐博, 佐々木順平 : 大腸癌手術パスの変遷 統一パスか術式別パスか?. 日本医療マネジメント学会学術総会 (第 13 回) (京都), 2011. 6.
- 9) 坊 英樹<sup>1)</sup>, 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 内田英二 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター) : 消化器癌手術における手術部位感染防止に対する真皮縫合. 日本外科学会定期学術集会 (第 111 回) (誌上開催), 2011. 5.
- 10) 菅 隼人, 内田英二, 松本智司, 山田岳史, 小泉岐博, 佐々木順平, 古川清憲 : 進行直腸癌に対する S-1 併用術前化学放射線療法の検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 111 回) (誌上開催), 2011. 5.
- 11) 山田岳史, 内田英二, 松本智司, 横井公良<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院外科) : 消化器癌術後患者におけるオキシコドンの悪心に対するプロクラルペラジンの予防効果とその限界 クリニカルパスを用いた評価. 日本外科学会定期学術集会 (第 111 回) (誌上開催), 2011. 5.
- 12) 萩原信敏, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 飯田信也, 山下直行<sup>1)</sup>, 大川敬一, 高橋 健, 赤城一郎, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金沢義一, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 内田英二 ( <sup>1)</sup> 坪井病院外科) : 消化器癌および乳癌における血中抗 p53 抗体の臨床的有用性の検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 111 回) (誌上開催), 2011. 5.
- 13) 山初和也, 松田陽子<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 山本哲志<sup>1)</sup>, 河本陽子<sup>1)</sup>, 手塚 潔<sup>1)</sup>, 相本隆幸, 中村慶春, 廣井 信, 上田純志, 内田英二, 内藤善哉<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 第二病理) : 膀胱癌における各腫瘍血管マーカーと臨床病理学的因子との関連. 日本外科学会定期学術集会 (第 111 回) (誌上開催), 2011. 5.
- 14) 加藤俊二, 小野寺浩之, 櫻澤信行, 萩原信敏, 金沢義一, 山下直行<sup>1)</sup>, 牧野浩司, 野村 務, 木山輝郎, 藤田逸

- 郎, 内田英二, 安東克征<sup>2)</sup> (1) 坪井病院外科, <sup>2)</sup> 安東病院): 胃癌術後の Oncologic Emergency の詳細とその対策. 日本外科学会定期学術集会 (第 111 回) (誌上開催), 2011. 5.
- 15) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 高尾嘉宗<sup>1)</sup>, 馬越通信<sup>1)</sup>, 早川朋宏<sup>1)</sup>, 津久井拓<sup>2)</sup>, 松久威史<sup>2)</sup>, 内田英二 (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学多摩永山病院消化器科): S1 併用全身化学療法を 1 次治療で施行した切除不能・再発胃癌症例の検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 111 回) (誌上開催), 2011. 5.
- 16) 野村 務, 宮下正夫, 牧野浩司, 萩原信敏, 赤城一郎, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金沢義一, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 内田英二 (1) 日本医科大学多摩永山病院外科): 食道癌術後逆流性食道炎に影響を及ぼす因子. 日本外科学会定期学術集会 (第 111 回) (誌上開催), 2011. 5.
- 17) 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 内田英二 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター): 食道癌術後 mortality とその原因 morbidity のリスク因子. 日本外科学会定期学術集会 (第 111 回) (誌上開催), 2011. 5.
- 18) 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 横室茂樹<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 工藤秀徳<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 川東 豊<sup>1)</sup>, 進士誠一<sup>1)</sup>, 高橋由至<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 内田英二 (1) 日本医科大学千葉北総病院): 肝転移を有する大腸癌における EMMPRIN, VEGF, VEGFR2,3 の発現. 日本外科学会定期学術集会 (第 111 回) (誌上開催), 2011. 5.
- 19) 白川 毅<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 横室茂樹<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 工藤秀徳<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 川東 豊<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 内田英二 (1) 日本医科大学千葉北総病院外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院病理部): Epstein-Barr virus (EBV) 関連胃癌症例の臨床病理学的検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 111 回) (誌上開催), 2011. 5.
- 20) 横山 正<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 高尾嘉宗<sup>1)</sup>, 馬越通信<sup>1)</sup>, 早川朋宏<sup>1)</sup>, 内田英二 (1) 日本医科大学多摩永山病院外科): 当施設の膵頭十二指腸切除術クリニカルパスへの取り組み. 日本外科学会定期学術集会 (第 111 回) (誌上開催), 2011. 5.
- 21) 上田純志, 谷合信彦, 吉田 寛, 真々田裕宏, 吉岡正人, 峯田 章, 川野陽一, 内田英二: 高分化型肝細胞癌の術前画像診断と病理学的検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 111 回) (誌上開催), 2011. 5.
- 22) 藤田逸郎, 木山輝郎, 菅野仁士, 小野寺浩之, 櫻澤信行, 金沢義一, 萩原信敏, 牧野浩司, 野村 務, 加藤俊二, 吉行俊郎, 内田英二: 当科における cT1~cT2 (MP) N0 胃癌症例における長期成績 腹腔鏡補助下胃切除症例における検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 111 回) (誌上開催), 2011. 5.
- 23) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 内田英二, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 高尾嘉宗<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院外科): 腹臥位胸腔鏡下食道切除術の術中管理と工夫. 日本外科学会定期学術集会 (第 111 回) (誌上開催), 2011. 5.
- 24) 小峯 修<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>1)</sup>, 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 星野有哉<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 内田英二 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター): 食道癌手術における術後早期経腸栄養法の検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 111 回) (誌上開催), 2011. 5.
- 25) 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 豊田哲鎬<sup>1)</sup>, 渡邊善正<sup>1)</sup>, 南部弘太郎<sup>1)</sup>, 山田太郎<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>2)</sup>, 鈴木英之<sup>2)</sup>, 内田英二 (1) さいたま市民医療センター外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター): 真皮埋没縫合は腹部緊急手術の SSI 発症を減少させる. 日本外科学会定期学術集会 (第 111 回) (誌上開催), 2011. 5.
- 26) 山下直行<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 菅野仁士<sup>1)</sup>, 新井洋紀<sup>1)</sup>, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金沢義一, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 萩原信敏, 牧野浩司, 宮下正夫, 内田英二 (1) 坪井病院外科): 上部限局胃癌に対する迷走神経温存漿膜筋層縦切開噴門形成術 施行後 10 年の評価. 日本外科学会定期学術集会 (第 111 回) (誌上開催), 2011. 5.
- 27) 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 松信哲朗<sup>1)</sup>, 千原直人<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 星野有哉<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 内田英二 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター): 80 歳以上高齢者胃

癌手術症例における E-PASS スコアと術後合併症の検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 111 回) (誌上開催), 2011. 5.

- 28) 松下 晃<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 高尾嘉宗<sup>1)</sup>, 馬越通信<sup>1)</sup>, 早川朋宏<sup>1)</sup>, 岩井拓磨<sup>1)</sup>, 内田英二 (1) 日本医科大学多摩永山病院外科): 十二指腸水平脚の巨大憩室により Lemmel 症候群様徴候を呈した 1 例. 日本消化器病学会総会 (第 57 回) (東京), 2011. 5.
- 29) 牧野浩司, 野村 務, 宮下正夫, 萩原信敏, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 二神生爾<sup>1)</sup>, 河越哲郎<sup>1)</sup>, 川見典之<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>2)</sup>, 横井公良<sup>2)</sup>, 内田英二 (1) 日本医科大学 消化器内科, 2) 日本医科大学千葉北総病院 外科): 5Fu, CDGP を用いた Definitive CRT を施行し CR が得られ, chemotherapy の追加を継続し再発を認めていない 2 例. 日本消化器病学会総会 (第 97 回) (東京), 2011. 5.
- 30) 馬越通信<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 高尾嘉宗<sup>1)</sup>, 早川朋宏<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 内田英二 (1) 日本医科大学多摩永山病院外科): 胃原発性 GIST と鑑別を要した胃異所性腺の一手術例. 日本消化器病学会総会 (第 97 回) (東京), 2011. 5.
- 31) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 高尾嘉宗<sup>1)</sup>, 馬越通信<sup>1)</sup>, 早川朋宏<sup>1)</sup>, 内田英二 (1) 日本医科大学多摩永山病院外科): ネフローゼ症候群を合併した高齢者進行食道癌に対し docetaxel/nedaplatin/5-fluorouracil 併用化学療法で CR が得られた 1 例. 日本消化器病学会総会 (第 97 回) (東京), 2011. 5.
- 32) 菅野仁士<sup>1)</sup>, 山下直行<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 新井洋紀<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 内田英二 (1) 坪井病院外科): Cetuximab/CPT-11 併用療法によって大動脈周囲リンパ節転移が消失し, 肝切除を施行しえた進行再発直腸癌の 1 例. 日本消化器病学会総会 (第 97 回) (東京), 2011. 5.
- 33) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 高尾嘉宗<sup>1)</sup>, 馬越通信<sup>1)</sup>, 早川朋宏<sup>1)</sup>, 松久威史<sup>2)</sup>, 津久井拓<sup>2)</sup>, 内田英二 (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院消化器科): 当科における高度進行・再発大腸癌症例における抗 EGFR 抗体薬の投与状況と継続投与の意義. 日本消化器病学会総会 (第 97 回) (東京), 2011. 5.
- 34) 山下直行<sup>1)</sup>, 柿沼大輔<sup>1)</sup>, 菅野仁士<sup>1)</sup>, 新井洋紀, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金澤義一, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 萩原信敏, 宮下正夫, 牧野浩司, 内田英二 (1) 坪井病院外科): 髄膜播種をきたした胃癌の 2 例. 日本消化器病学会総会 (第 97 回) (東京), 2011. 5.
- 35) 谷合信彦, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 内田英二 (1) 日本医科大学多摩永山病院外科): 急性肝不全の治療戦略と移植医療 劇症肝炎に対する高速持続的血液濾過透析 (HFCHDF) の効果と問題点. 日本消化器病学会総会 (第 97 回) (東京), 2011. 5.
- 36) 野村 務, 宮下正夫, 内田英二: 食道癌術後胃管再建症例からみた Barrett 上皮発生に関する検討. 日本消化器病学会総会 (第 97 回) (東京), 2011. 5.
- 37) 名兄耶浩幸<sup>1)</sup>, 二神生爾<sup>1)</sup>, 河越哲郎<sup>1)</sup>, 堀江 茜<sup>1)</sup>, 宋 軍民<sup>1)</sup>, 進藤智隆<sup>1)</sup>, 小高康裕<sup>1)</sup>, 新福摩弓<sup>1)</sup>, 梅沢まり子<sup>1)</sup>, 岩切勝彦<sup>1)</sup>, 星原芳雄<sup>2)</sup>, 牧野浩司, 宮下正夫, 土屋真一<sup>3)</sup>, 坂本長逸 (1) 日本医科大学 消化器内科, 2) 経済産業省診療所, 3) 日本医科大学 病理部): 食道癌組織における apurinic/apyrimidinic endonuclease-1 (APE-1) 発現の解析. 日本消化器病学会総会 (第 97 回) (東京), 2011. 5.
- 38) 黒田誠司<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 千原直人<sup>1)</sup>, 松信哲朗<sup>1)</sup>, 三浦克洋<sup>1)</sup>, 内田英二 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター): 異食 (菌ブラシ) による消化管穿孔の 1 例. 日本腹部救急医学会総会 (第 47 回) (福岡), 2011. 8.
- 39) 勝田美和子<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 横室茂樹<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 工藤秀徳<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 川東 豊<sup>1)</sup>, 向後英樹<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 宮下正夫, 内田英二, その他 1 名 (1) 日本医科大学千葉北総病院外科): 外傷性肝損傷による腹腔内出血にて発症した肝血管筋脂肪腫の 1 例. 日本腹部救急医学会総会 (第 47 回) (福岡), 2011. 8.

- 40) 豊田哲鎬<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 渡邊善正<sup>1)</sup>, 南部弘太郎<sup>1)</sup>, 山田太郎<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 内間久隆<sup>2)</sup>, 鈴木英之, 内田英二  
(<sup>1)</sup> さいたま市民医療センター外科, <sup>2)</sup> さいたま市民医療センター病理診断科) : 虫垂炎を契機に発見された虫垂杯細胞カルチノイドの1例. 日本腹謬救急医学会総会 (第47回) (福岡), 2011. 8.
- 41) 原絵津子, 内田英二, 菅 隼人, 松本智司, 山田岳史, 小泉岐博, 佐々木順平 : 小腸鏡で診断し, 腹腔鏡下にて手術を施行した異所性子宮内膜症の1例. 日本腹部救急医学会総会 (第47回) (福岡), 2011. 8.
- 42) 三島圭介<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 千原直人<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>1)</sup>, 八木亜紀<sup>1)</sup>, 黒田誠司<sup>1)</sup>, 和田由大<sup>1)</sup>, 内田英二 (<sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター) : 腹腔鏡下切除を行った腸回転異常を伴った成人急性虫垂炎の1例. 日本腹部救急医学会総会 (第47回) (福岡), 2011. 8.
- 43) 森末 遼<sup>1)</sup>, 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 水谷聡<sup>1)</sup>, 松信哲朗<sup>1)</sup>, 内田英二 (<sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター) : 診断に難渋し集学的治療により救命しえた絞扼性イレウスの1例. 日本腹部救急医学会総会 (第47回) (福岡), 2011. 8.
- 44) 八木亜記<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>1)</sup>, 千原直人<sup>1)</sup>, 星野有哉<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 相本隆幸, 内田英二 (<sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター) : 臍頭十二指腸切除・Child 再建後輸入脚狭窄により急性胆管炎を来たした1例. 日本腹部救急医学会総会 (第47回) (福岡), 2011. 8.
- 45) 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 松信哲朗<sup>1)</sup>, 森末 遼<sup>1)</sup>, 内田英二 (<sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター) : 脱落した胆道ステントに便塊を形成しイレウスを呈した1例. 日本腹部救急医学会総会 (第47回) (福岡), 2011. 8.
- 46) 星野有哉<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 内田英二 (<sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター) : 80歳以上高齢者と80歳未満の経皮経肝胆道ドレナージ症例の検討. 日本腹部救急医学会総会 (第47回) (福岡), 2011. 8.
- 47) 篠塚恵理子, 山田岳史, 松本智司, 菅 隼人, 小泉岐博, 内田英二 : コレステロール塞栓による小腸穿孔の1症例. 日本腹部救急医学会総会 (第47回) (福岡), 2011. 8.
- 48) 早川朋宏<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 高尾嘉宗<sup>1)</sup>, 馬越通信<sup>1)</sup>, 岩井拓磨<sup>1)</sup>, 富田理紗子<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 内田英二, 笹島耕二<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院外科) : 後腹膜腔から縦隔まで気腫症を認めた直腸穿孔の1例. 日本腹部救急医学会総会 (第47回) (福岡), 2011. 8.
- 49) 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 千原直人<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 内田英二 (<sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター) : 大腸緊急手術のSSI危険因子. 日本腹部救急医学会総会 (第47回) (福岡), 2011. 8.
- 50) 水谷 聡<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>1)</sup>, 星野有哉<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 内田英二 (<sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター) : 急性胆管炎に対する当院の臨床経験とガイドラインの実地評価. 日本腹部救急医学会総会 (第47回) (福岡), 2011. 8.
- 51) 千原直人<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 松信哲朗<sup>1)</sup>, 和田由大<sup>1)</sup>, 内田英二 (<sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター) : 大腸憩室出血症例に対する内視鏡的治療の検討. 日本腹部救急医学会総会 (第47回) (福岡), 2011. 8.
- 52) 上田純志, 峯田 章, 古木裕康, 島田 学, 周東祐樹, 内田英二 : 術前に診断しえた虫垂が嵌頓した男性大腿ヘルニアの1例. 日本腹部救急医学会総会 (第47回) (福岡), 2011. 8.
- 53) 野村 聡<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 星野有哉<sup>1)</sup>, 相本隆幸<sup>1)</sup>, 内田英二 (<sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター) : 臍頭十二指腸切除・早期に発症した上腸間膜動脈血栓症の1例. 日本腹部救急医学会総会 (第47回) (福岡), 2011. 8.
- 54) 松信哲朗<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 三浦克洋<sup>1)</sup>, 三島圭介<sup>1)</sup>, 八木亜記<sup>1)</sup>, 大山莉奈<sup>1)</sup>, 内田英二 (<sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター) : 腹部救急診療における Oncology emergency (小児, 成人) 高齢者大腸癌 Oncologic Emergencies の検討. 日本腹部救急医学会総会 (第47回) (福岡), 2011. 8.

- 55) 吉野雅則<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 千原直人<sup>1)</sup>, 松信哲朗<sup>1)</sup>, 三浦克洋<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>1)</sup>, 三島圭介<sup>1)</sup>, 内田英二 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター) : 大腸癌イレウスの対策 大腸癌イレウスにおける治療戦略. 日本腹部救急医学会総会 (第 47 回) (福岡), 2011. 8.
- 56) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 内田英二, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 高尾嘉宗<sup>1)</sup>, 馬越通信<sup>1)</sup>, 早川朋宏<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院外科) : 食道空腸吻合部狭窄に対する内視鏡的バルーン拡張術後に食道破裂から緊張性気胸を起こしたと考えられた 1 例. 日本腹部救急医学会総会 (第 47 回) (福岡), 2011. 8.
- 57) 鈴木英之<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 松信哲朗<sup>1)</sup>, 三浦克洋<sup>1)</sup>, 三島圭介<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 内田英二 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター) : イレウス管挿入と管理のコツ. 日本腹部救急医学会総会 (第 47 回) (福岡), 2011. 8.
- 58) 大山莉奈<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 松信哲朗<sup>1)</sup>, 三浦克洋<sup>1)</sup>, 三島圭介<sup>1)</sup>, 黒田誠司<sup>1)</sup>, 内田英二 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター) : 腹腔鏡下切除を施行した遺残虫垂炎の 1 例. 日本腹部救急医学会総会 (第 47 回) (福岡), 2011. 8.
- 59) Makino H, Nomura T, Miyashita M, Hagiwara N, Matsumoto S, Nakamura Y, Sakurazawa N, Uchida E : Video Assisted Thoracoscopic Surgery of Esophagus (VATS-E) in Left Lateral and Prone Position : Our Methods and Divices and at Our Hospital. Digestive Disease Week 2011 (Chicago,USA), 2011. 5.
- 60) 横山 正<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 高尾嘉宗<sup>1)</sup>, 馬越通信<sup>1)</sup>, 早川朋宏<sup>1)</sup>, 内田英二 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院外科) : 臍頭十二指腸切除後の臍液瘻対策としての臍管外瘻チューブ低圧持続吸引の有用性について. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第 23 回) (東京), 2011. 6.
- 61) 吉岡正人, 谷合信彦, 峯田 章, 川野陽一, 上田純志, 真々田裕宏, 内田英二 : 化学療法後に切除し得た, 大腸癌巨大肝転移に対する肝中央 2 区域切除の 1 例. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第 23 回) (東京), 2011. 6.
- 62) 金谷洋平, 谷合信彦, 峯田 章, 吉岡正人, 川野陽一, 上田純志, 真々田裕宏, 吉田 寛, 内田英二 : 日本住血吸虫症に合併した肝細胞癌の 1 例. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第 23 回) (東京), 2011. 6.
- 63) 山初和也, 中村慶春, 相本隆幸, 廣井 信, 内田英二 : 腫瘍新生血管マーカー Nestin に対する臍癌分子標的治療戦略. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第 23 回) (東京), 2011. 6.
- 64) 松下 晃<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 高尾嘉宗<sup>1)</sup>, 馬越通信<sup>1)</sup>, 早川朋宏<sup>1)</sup>, 岩井拓磨<sup>1)</sup>, 内田英二 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院外科) : 憩室内翻縫縮術, 十二指腸乳頭形成術を施行した Lemmel 症候群 4 例の検討. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第 23 回) (東京), 2011. 6.
- 65) 川野陽一, 谷合信彦, 松本智司, 中村慶春, 峯田 章, 吉岡正人, 上田純志, 真々田裕宏, 吉田 寛, 内田英二 : 安全な鏡視下肝切除術を行うための当科での工夫 (スポンジスペーサーと Glove fingers assisted method 下 Pringle maneuver の有用性). 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第 23 回) (東京), 2011. 6.
- 66) 相本隆幸, 内田英二, 中村慶春, 廣井 信, 山初和也, 松下 晃, 勝野 暁, 張 一光, 川本聖郎, 小林 匡<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 小林病院) : PD 術後臍液瘻に対するドレーン管理 : 基礎的実験と臨床例の検討から. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第 23 回) (東京), 2011. 6.
- 67) 相本隆幸, 内田英二, 中村慶春, 廣井 信, 山初和也, 松下 晃, 勝野 暁, 張 一光, 川本聖郎, 小林 匡<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 小林病院外科) : 臍頭十二指腸切除術に対する教育プログラム. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第 23 回) (東京), 2011. 6.
- 68) 谷合信彦, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 吉岡正人, 峯田 章, 川野陽一, 上田純志, 真々田裕宏, 内田英二 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院外科) : 肝細胞癌術後横隔膜・後腹膜再発の 1 症例. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第 23 回) (東京), 2011. 6.
- 69) 中村慶春, 相本隆幸, 松本智司, 松下 晃, 吉岡正人, 山初和也, 田尻 孝, 内田英二 : 腹腔鏡下臍中央切除術

- (Lap-CP) の手術手技について. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第 23 回) (東京), 2011. 6.
- 70) 中村慶春, 相本隆幸, 松本智司, 松下 晃, 吉岡正人, 山初和也, 田尻 孝, 内田英二: 安全に腹腔鏡下膵切除術を施行するための手術手技の工夫. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第 23 回) (東京), 2011. 6.
- 71) 平方敦史<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 高尾嘉宗<sup>1)</sup>, 馬越通信<sup>1)</sup>, 早川朋宏<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 内田英二 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院外科): 転移性肝臓に対する術前化学療法の影響についての検討. 日本肝胆膵外科学会・学術集会 (第 23 回) (東京), 2011. 6.
- 72) 川野陽一, 相本隆幸, 谷合信彦, 真々田裕宏, 中村慶春, 廣井 信, 峯田 章, 吉岡正人, 上田純志, 村田智<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 吉田 寛, 内田英二 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 放射線科): 当科における膵切除後動脈性出欠に対する緊急 IVR の位置づけ. 日本外科系連合学会学術集会 (第 36 回) (浦安), 2011. 6.
- 73) 谷合信彦, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 真々田裕宏, 吉岡正人, 峯田 章, 川野陽一, 上田純志, 内田英二 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院外科): 外科に置いて肝細胞癌術後残肝再発に対し再切除が first choice であるべきなのか?. 日本肝臓学会総会 (第 47 回) (東京), 2011. 6.
- 74) 関口久美子, 萩原信敏, 藤田逸郎, 加藤俊二, 金沢義一, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 原田潤一郎, 保田智彦, 内田英二: 胃癌術後に小腸捻転による広範囲の虚血性腸管壊死をきたした 1 例. 外科集談会 (第 821 回) (千葉), 2011. 6.
- 75) 山初和也, 松田陽子<sup>1)</sup>, 相本隆幸, 中村慶春, 松下 晃<sup>1)</sup>, 内田英二, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学病理学第二講座): 腫瘍新生血管マーカー Nestin に対する膵癌分子標的治療戦略. 日本膵臓学会大会 (第 42 回) (青森), 2011. 7.
- 76) 松下 晃<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 川本聖郎, 中村慶春, 相本隆幸, 内田英二 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学病理学第二講座): Neuropilin-1 を標的とした新たな膵癌治療法の開発. 日本膵臓学会大会 (第 42 回) (青森), 2011. 7.
- 77) 上田純志, 松田陽子<sup>1)</sup>, 手塚 潔<sup>1)</sup>, 山初和也, 内田英二, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 病理学第二講座): 浸潤性膵管癌組織における epithelial splicing regulatory protein1 の発現の検討. 日本膵臓学会大会 (第 42 回) (青森), 2011. 7.
- 78) 松田陽子<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 鈴木妙子<sup>1)</sup>, 山初和也, 上田純志, 秋山美知子<sup>1)</sup>, Murray K<sup>2)</sup>, 石渡俊行<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学病理学第二講座, <sup>2)</sup> Department of Medicine, Dartmouth Medical School and Dartmouth Hitchcock Medical Center): 膵癌幹細胞における nestin の発現と役割の検討. 日本膵臓学会大会 (第 42 回) (青森), 2011. 7.
- 79) 相本隆幸, 内田英二, 中村慶春, 廣井 信, 松下 晃, 勝野 暁, 張 一光, 川本聖郎, 小林 匡<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 小林病院): 切除可能膵癌に対する gemcitabine を用いた術前化学療法. 日本膵臓学会大会 (第 42 回) (青森), 2011. 7.
- 80) 武田幸樹, 中村慶春, 有馬保生, 真々田裕宏, 水口義昭, 内田英二: 当科における単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術. 日本消化器病学会関東支部例会 (第 315 回) (東京), 2011. 7.
- 81) 山田岳史, 内田英二, 横井公良, 中西一浩 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学緩和ケア科): クリニカルパスを使用した初期疾病治療の標準化. 日本緩和医療学会学術大会 (第 16 回) (札幌), 2011. 7.
- 82) Nomura T, Miyashita M, Makino H, Hagiwara N, Nakamura Y, Uchida E: LAOARISCOPIIC OPERATION FOR MORGAGNI HERNIA: A CASE REPORT. Asia Pacific Congress of Endoscopic Suregery (10th) (Singapore), 2011. 8.
- 83) Nomura T, Miyashita M, Makino H, Hagiwara N, Nakamura Y, Uchida E: SINGLE-INCISION LAPAROSCOPIIC SURGERY (SILS) FOR ESOPHAGEAL ACHALASIA: A CASE REPORT. Asia Pacific Congress of Endoscopic Suregery (10th) (Singapore), 2011. 8.
- 84) Makino H, Nomura T, Katsuta M, Yoshida H, Tajiri T, Uchida E: LYMPH NODE DISSECTION ALONG

THE LEFT RECURRENT LARYNGEAL NERVE AFTER ESOPHAGEAL STRIPPING AND VIDEO ASSISTED THORACOSCOPIC SURGERY OF ESOPHAGUS (VATS-E) USING SPONGE SPACER IN PRONE POSITION. Asia Pacific Congress of Endoscopic Suregery (10th) (Singapore), 2011. 8.

- 85) Nomura T, Miyashita M, Makino H, Hagiwara N, Nakamura Y, Uchida E : LAPAROSCOPIC OPERATION FOR A GIANT HIATAL HERNIA. Asia Pacific Congress of Endoscopic Suregery (10th) (Singapore), 2011. 8.
- 86) 山下直行<sup>1)</sup>, 菅野仁士<sup>1)</sup>, 新井洋紀<sup>1)</sup>, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金澤義一, 宮下正夫, 牧野浩司, 萩原信敏, 内田英二 ( <sup>1)</sup> 坪井病院 外科) : 上部限局胃癌に対する迷走神経温存漿筋層縦節開噴門形成術 : 第3版ガイドラインをふまえて. 日本消化器外科学会総会 (第66回) (名古屋), 2011. 7.
- 87) 内田英二 : 消化器外科専門医育成の現状と問題点 : 私立医科大学外科としてのわれわれの考え. 日本消化器外科学会総会 (第66回) (名古屋), 2011. 7.
- 88) 塙 秀暁<sup>1)</sup>, 内山喜一郎<sup>1)</sup>, 小笠原康夫<sup>1)</sup>, 鈴木洋一<sup>1)</sup>, 加藤恒久<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 廣田 淳<sup>1)</sup>, 萩原英之<sup>1)</sup>, 名取穰治<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 海老名総合病院 外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター) : BillrothII法再健幽門輪温存胃切除術40年後に発生した幽門側残胃癌の1例. 日本消化器外科学会総会 (第66回) (名古屋), 2011. 7.
- 89) 前島颯太郎, 坊 英樹, 鈴木英之, 渡辺昌則, 尾形昌男, 吉野雅則, 小峯 修, 水谷 聡, 千原直人, 内田英二 : 腹腔鏡補助下幽門即胃切除術における肥満が与える影響. 日本消化器外科学会総会 (第66回) (名古屋), 2011. 7.
- 90) 原絵津子, 内田英二, 古川清憲, 菅 隼人, 松本智司, 山田岳史, 小泉岐博, 佐々木順平, 谷 杏彌 : 腹腔鏡補助下結腸切除術における術後予防的抗菌薬の検討. 日本消化器外科学会総会 (第66回) (名古屋), 2011. 7.
- 91) 加藤俊二, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 金澤義一, 山下直行<sup>1)</sup>, 藤田逸郎, 萩原信敏, 牧野浩司, 野村 務, 内田英二 ( <sup>1)</sup> 坪井病院 外科) : 内視鏡的背景胃粘膜の個別評価による胃癌発生高リスク群で早期発見, ESD治療が可能であった1例. 日本消化器外科学会総会 (第66回) (名古屋), 2011. 7.
- 92) 菅野仁士<sup>1)</sup>, 山下直行<sup>1)</sup>, 新井洋紀<sup>1)</sup>, 宮下正夫, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金澤義一, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 内田英二 ( <sup>1)</sup> 坪井病院 外科) : 胃切除後の再建法手技とその成績 : 切除, 郭清, 術後フォローアップの観点から. 日本消化器外科学会総会 (第66回) (名古屋), 2011. 7.
- 93) 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 前島颯太郎<sup>1)</sup>, 松信哲朗<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 内田英二 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター) : 危険因子から見た大腸手術におけるSSIの個別化対策. 日本消化器外科学会総会 (第66回) (名古屋), 2011. 7.
- 94) 中村慶春, 松本智司, 相本隆幸, 山初和也, 田尻 孝, 内田英二 : 腹腔鏡下脾切除術の手術成績とその工夫. 日本消化器外科学会総会 (第66回) (名古屋), 2011. 7.
- 95) 吉岡正人, 中村慶春, 相本隆幸, 谷合信彦, 山初和也, 松本智司, 田尻 孝, 内田英二 : 腹腔鏡下脾臓・脾動脈温存尾側脾切除術の適応と意義. 日本消化器外科学会総会 (第66回) (名古屋), 2011. 7.
- 96) 藤田逸郎, 木山輝郎, 小野寺浩之, 櫻澤信行, 野村 務, 中村慶春, 松本智司, 牧野浩司, 加藤俊二, 内田英二 : 当科における腹腔鏡補助下胃切除術の定型化 : 視野展開の工夫. 日本消化器外科学会総会 (第66回) (名古屋), 2011. 7.
- 97) 廣井 信, 中村慶春, 松本智司, 相本隆幸, 山初和也, 田尻 孝, 内田英二 : 機能温存を考慮した腹腔鏡下脾縮小手術の有用性. 日本消化器外科学会総会 (第66回) (名古屋), 2011. 7.
- 98) 山初和也, 中村慶春, 松本智司, 相本隆幸, 田尻 孝, 内田英二 : 膵内分泌腫瘍に対する腹腔鏡下脾切除術. 日本消化器外科学会総会 (第66回) (名古屋), 2011. 7.
- 99) 相本隆幸, 内田英二, 中村慶春, 松下 晃, 勝野 暁, 張 一光, 川本聖郎, 山初和也, 小林 匡<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 小林病院) : 脾頭十二指腸切除術後の脾液瘻に対するドレーン管理. 日本消化器外科学会総会 (第66回) (名古屋),

2011. 7.

- 100) 小泉岐博, 内田英二, 古川清憲, 菅 隼人, 松本智司, 山田岳史, 佐々木順平, 谷 杏彌: 下部進行直腸癌に対する腹腔鏡下側方郭清術. 日本消化器外科学会総会 (第 66 回) (名古屋), 2011. 7.
- 101) 谷合信彦, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 吉岡正人, 峯田 章, 川野陽一, 上田純志, 真々田裕宏, 内田英二 (<sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院 外科): 教室における肝細胞癌術後残肝再発に対する治療戦略. 日本消化器外科学会総会 (第 66 回) (名古屋), 2011. 7.
- 102) 萩原信敏, 野村 務, 宮下正夫, 牧野浩司, 大川敬一, 赤城一郎, 篠塚恵理子, 藤田逸郎, 櫻澤信行, 内田英二: 食道アカラシアに対する腹腔鏡下 Heller-Dor 法: 筋層切開時粘膜損傷への対応. 日本消化器外科学会総会 (第 66 回) (名古屋), 2011. 7.
- 103) 星野有哉<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 中村慶春, 水谷 聡, 内田英二 (<sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター): 十二指腸乳頭部腫瘍に対する経十二指腸の乳頭部切除術の有用性. 日本消化器外科学会総会 (第 66 回) (名古屋), 2011. 7.
- 104) 篠塚恵理子, 牧野浩司, 萩原信敏, 野村 務, 宮下正夫, 松本智司, 中村慶春, 山下直行<sup>1)</sup>, 赤城一郎, 内田英二 (<sup>1)</sup> 坪井病院 外科): 単孔式腹腔鏡下手術 (手袋法) による遊離空腸採取手技. 日本消化器外科学会総会 (第 66 回) (名古屋), 2011. 7.
- 105) 尾形昌男<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 星野有哉<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 前島頭太郎<sup>1)</sup>, 内田英二 (<sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター): 当科における消化器外科専門医育成プログラムの現状. 日本消化器外科学会総会 (第 66 回) (名古屋), 2011. 7.
- 106) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 内田英二 (<sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院 外科): 当科における腹臥位胸腔鏡下食道切除術の工夫と成績. 日本消化器外科学会総会 (第 66 回) (名古屋), 2011. 7.
- 107) 牧野浩司, 宮下正夫, 野村 務, 萩原信敏, 藤田逸郎, 加藤俊二, 中村慶春, 山下直行, 横井公良<sup>1)</sup>, 内田英二 (<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院 外科): 当科の工夫: 食道巣トリッピングが, 腹臥位 VATS-E における左反回神経リンパ節郭清を簡便にする. 日本消化器外科学会総会 (第 66 回) (名古屋), 2011. 7.
- 108) 山田岳史, 内田英二, 菅 隼人, 松本智司, 小泉岐博, 佐々木順平, 金澤義一, 横井公良<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院 外科): 消化器外科における緩和医療の在り方: 外科医の力で緩和医療の標準化を目指す. 日本消化器外科学会総会 (第 66 回) (名古屋), 2011. 7.
- 109) 川野陽一, 谷合信彦, 中村慶春, 松本智司, 峯田 章, 吉岡正人, 上田純志, 真々田裕宏, 吉田 寛, 内田英二: 当科での安全な完全鏡視下肝切除術を行うための工夫 (セクレアとグローブ併用下プリングル法の有用性). 日本消化器外科学会総会 (第 66 回) (名古屋), 2011. 7.
- 110) 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 高尾嘉宗<sup>1)</sup>, 馬越通信<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 内田英二 (<sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院 外科): 消化管手術における SSI 対策: 治療投与抗菌薬の選択. 日本消化器外科学会総会 (第 66 回) (名古屋), 2011. 7.
- 111) 坊 英樹<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 内田英二 (<sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター): 消化器癌手術における手術部位感染防止に対する真皮縫合. 日本消化器外科学会総会 (第 66 回) (名古屋), 2011. 7.
- 112) 松本智司, 菅 隼人, 山田岳史, 小泉岐博, 佐々木順平, 内田英二: 腹腔鏡下低位前方切除におけるセクレアの有用性. 日本消化器外科学会総会 (第 66 回) (名古屋), 2011. 7.
- 113) 菅 隼人, 内田英二, 松本智司, 山田岳史, 小泉岐博, 佐々木順平, 谷 杏彌, 古川清憲: X 線不透過マーカーを用いた鏡視下 S 状結腸癌術後の腸管運動に対する大建中湯 (DKT) の影響についての検討. 日本消化器外科学会総会 (第 66 回) (名古屋), 2011. 7.
- 114) 松下 晃<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 相本隆

- 幸, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院 外科): Gemcitabine,S-1 不応性胆道癌術後再発に対する Gemcitabine,CDDP 併用療法 (GC 療法) の施行経験. 日本消化器外科学会総会 (第 66 回) (名古屋), 2011. 7.
- 115) 千原直人<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 渡邊昌則<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 山川達郎<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, <sup>2)</sup> 京浜総合病院外科): 当科における腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術 (TAPP) の手技と工夫. 日本消化器外科学会総会 (第 66 回) (名古屋), 2011. 7.
- 116) 小峯 修<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 野村聡<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター): 食道癌術後における免疫調整栄養療法の検討. 日本消化器外科学会総会 (第 66 回) (名古屋), 2011. 7.
- 117) 櫻澤信行, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金澤義一, 小野寺浩之, 野村 務, 牧野浩司, 萩原信敏, 宮下正夫, 内田英二: 同時性 II 病変の粘膜胃癌に対し ESD を施行後, 狭窄を生じ追加手術を施行した 1 例. 日本消化器外科学会総会 (第 66 回) (名古屋), 2011. 7.
- 118) 小野寺浩之, 加藤俊二, 櫻澤信行, 金澤義一, 山下直行, 藤田逸郎, 萩原信敏, 牧野浩司, 野村 務, 内田英二: 複数回治療したピロリ菌除菌後胃癌の特徴と治療法. 日本消化器外科学会総会 (第 66 回) (名古屋), 2011. 7.
- 119) 上田純志, 松本智司, 菅 隼人, 小泉岐博, 山初和也, 内田英二: 原発性小腸癌 10 例の病理学的所見と予後の検討. 日本消化器外科学会総会 (第 66 回) (名古屋), 2011. 7.
- 120) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 津久井拓<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院 外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学多摩永山病院 消化器科): 高度進行・再発大腸癌症例における Cetuximab の増悪後継続投与の意義. 日本消化器外科学会総会 (第 66 回) (名古屋), 2011. 7.
- 121) 早川朋宏<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院 外科): 完全に自然壊死したと考えられる肝細胞癌の 1 例. 日本消化器外科学会総会 (第 66 回) (名古屋), 2011. 7.
- 122) 水口義昭, 有馬保生, 峯田 章, 川野陽一, 吉岡正人, 重原健吾, 真々田裕宏, 谷合信彦, 内田英二: 術前 PET 陽性で胆嚢癌との鑑別の困難であった良性胆嚢病変 2 例の経験. 日本消化器外科学会総会 (第 66 回) (名古屋), 2011. 7.
- 123) 水谷 聡<sup>1)</sup>, 相本隆幸, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 星野有哉<sup>1)</sup>, 野村 聡<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター): 全胃温存腹腔動脈幹合併脾体尾部切除 (DP-CAR) の手術経験. 日本消化器外科学会総会 (第 66 回) (名古屋), 2011. 7.
- 124) 野村 聡<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 千原直人<sup>1)</sup>, 松信哲朗<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター): 腹腔鏡下尿管管遺残摘出術, 臍形成術の有用性. 日本消化器外科学会総会 (第 66 回) (名古屋), 2011. 7.
- 125) 上田仁美: 初めての外科症例: 術前化学療法の完遂と外科手術の狭間で悩んだ 4 型胃癌の 1 例. 日本消化器外科学会総会 (第 66 回) (名古屋), 2011. 7.
- 126) 相本隆幸, 内田英二, 中村慶春: 臍頭十二指腸切除術に対する教育プログラム. 日本瘻切研究会 (第 38 回) (久留米), 2011. 8.
- 127) 中村慶春, 有馬保生, 内田英二: 腹腔鏡下胆道手術における再建術式の工夫. 日本胆道学会学術集会 (第 47 回) (宮崎), 2011. 9.
- 128) 重原健吾, 有馬保生, 横室茂樹, 相本隆幸, 吉岡正人, 水口義昭, 清水哲也, 川東 豊, 新井政男, 神田知洋, 岩井拓磨, 内田英二: ERCP 関連後腹膜穿孔の 4 例: 発症後のマネージメントについて. 日本胆道学会学術集会 (第 47 回) (宮崎), 2011. 9.
- 129) 吉岡正人, 谷合信彦, 真々田裕宏, 峯田 章, 川野陽一, 上田純志, 内田英二: 肝門部胆管癌と鑑別困難であった, Mirizzi 症候群の 1 切除例. 日本胆道学会学術集会 (第 47 回) (宮崎), 2011. 9.

- 130) 水口義昭, 有馬保生, 横室茂樹, 清水哲也, 重原健吾, 川東 豊, 神田知洋, 新井政男, 瀧澤俊広<sup>1)</sup>, デメトリ スアンソニー<sup>2)</sup>, 内田英二 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 分子解剖学, <sup>2)</sup> ピッツバーグ大学メディアルセンター 病理学) : 胆管癌細胞において SPRR2a は p300p53 の相互作用を抑制することで P21 の転写をコントロールする. 日本胆道学会学術集会 (第 47 回) (宮崎), 2011. 9.
- 131) 平方敦史<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 馬越通信<sup>1)</sup>, 高尾嘉宗<sup>1)</sup>, 早川朋宏<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 内田英二 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院 外科) : 当科における女性ヘルニア症例の現状と手術術式. 日本ヘルニア学会学術集会 (第 9 回) (福岡), 2011. 8.
- 132) 丸山 弘<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 高尾嘉宗<sup>1)</sup>, 馬越通信<sup>1)</sup>, 早川朋宏<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 内田英二 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院 外科) : ソケイヘルニア修復術を用いた外科医習熟度の検討. 日本ヘルニア学会学術集会 (第 9 回) (福岡), 2011. 8.
- 133) 松下 晃<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 高尾嘉宗<sup>1)</sup>, 馬越通信<sup>1)</sup>, 早川朋宏<sup>1)</sup>, 鈴木えりか<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 内田英二 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院 外科) : 併存する鼠径および大腿ヘルニアの確認と Prolene Herinia System を用いた修復方法. 日本ヘルニア学会学術集会 (第 9 回) (福岡), 2011. 8.
- 134) 馬越通信<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 高尾嘉宗<sup>1)</sup>, 早川朋宏<sup>1)</sup>, 鈴木えりか<sup>1)</sup>, 原田潤一郎<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 内田英二 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院 外科) : 卵巣囊腫摘出術後のポートサイトヘルニアに腹腔鏡下腹壁ヘルニア修復術を施行した 1 例. 日本ヘルニア学会学術集会 (第 9 回) (福岡), 2011. 8.
- 135) Kan H, Uchida E, Matsumoto S, Yamada T, Koizumi M, Sasaki J, Tani A, Furukawa K : A case of retroperitoneal recurrence of sigmoid colon cancer successfully treated by S-I combination chemoradiotherapy. THE 57TH ANNUAL CONGRESS OF THE JAPAN SECTION AND THE 27TH COLORECTAL CONFERENCE IN AICHI (名古屋), 2011. 6.
- 136) 川野陽一, 谷合信彦, 真々田裕宏, 峯田 章, 吉岡正人, 上田純志, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 小原勝敏<sup>2)</sup>, 田尻 孝, 内田英二 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院 外科, <sup>2)</sup> 福島県立医科大学附属病院 内視鏡診療部) : 十二指腸静脈瘤出血を繰り返した原因不明肝外門脈閉塞症への治療例. 日本門脈圧亢進症学会総会 (第 18 回) (福岡), 2011. 9.
- 137) 野村 務, 宮下正夫, 牧野浩司, 萩原信敏, 加藤俊二, 藤田逸郎, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 内田英二 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院 外科) : 当施設における食道再建術の工夫 : 縫合不全の発症率を低下させるために. 日本消化器外科学会総会 (第 66 回) (名古屋), 2011. 7.
- 138) Wakabayashi T, Yoshida H, Ueda J, Mamada Y, Taniai N, Yoshioka M, Kawano Y, Mizuguchi Y, Shimizu T, Uchida E : A case of liver metastasis arising from gastric GIST 12years after resectiona primary GIST. Asian Pacific Association for the study of the Liver (22nd) (Taipei,Taiwan), 2012. 2.
- 139) Takada H, Yoshida H, Ueda J, Taniai N, Mamada Y, Yoshioka M, Kawano Y, Mizuguchi Y, Shimizu T, Uchida E : Surgical resection of solitary metastatic liver tumor arising from lung cancer : a case sereies. Asian Pacific Association for the study of the Liver (22nd) (Taipei,Taiwan), 2012. 2.
- 140) Ando F, Yoshida H, Ueda J, Taniai N, Mamada Y, Yoshioka M, Kawano Y, Mizuguchi Y, Shimizu T, Uchida E : A case of xanthogranulomatous cholecystitis preoperatively diagnosed with contrast-enhanced ultrasonography. Asian Pacific Association for the study of the Liver (22nd) (Taipei,Taiwan), 2012. 2.
- 141) Kawano Y, Taniai N, Yoshioka M, Matsushita A, Mizuguchi Y, Shimizu T, Ueda J, Yoshida H, Uchida E : A hepatocellular carcinoma developed following 12 years from sustained virologic response to interferon therapy in a patient with Hepatitis C. Asian Pacific Association for the study of the Liver (22nd) (Taipei,Taiwan), 2012. 2.
- 142) Kawano Y, Taniai N, Yoshioka M, Matsushita A, Mizuguchi Y, Shimizu T, Ueda J, Yoshida H, Uchida

- E : A case of resected by laparoscopic procedure with accessory spleen at the liver hilum which was difficult to distinguish to the hepatocellular carcinoma. Asian Pacific Association for the study of the Liver (22nd) (Taipei,Taiwan), 2012. 2.
- 143) Taniai N, Yoshida H, Mamada Y, Yoshioka M, Kawano Y, Mizuguchi Y, Shimizu T, Ueda J, Takada H, Uchida E : Partial splenic embolization (PSE) for patients of hepatocellular carcinoma (HCC) with portal hypertension (splenectomy vs. PSE). Asian Pacific Association for the study of the Liver (22nd) (Taipei,Taiwan), 2012. 2.
- 144) Kawano Y, Taniai N, Yoshioka M, Matsushita A, Mizuguchi Y, Shimizu T, Ueda J, Yoshida H, Uchida E : Our experience of portal vein embolization before major hepatectomy for the liver with obstructive jaundice. Asian Pacific Association for the study of the Liver (22nd) (Taipei,Taiwan), 2012. 2.
- 145) Shimizu T, Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Yoshioka M, Kawano Y, Mizuguchi Y, Ueda J, Uchida E : Postoperative bile leakage manage successfully by intrahepatic biliary ablation with ethanol. Asian Pacific Association for the study of the Liver (22nd) (Taipei,Taiwan), 2012. 2.
- 146) Kawano Y, Taniai N, Yoshioka M, Matsushita A, Mizuguchi Y, Shimizu T, Ueda J, Yoshida H, Uchida E : Our ingenious techniques for laparoscopic hepatectomy. Asian Pacific Association for the study of the Liver (22nd) (Taipei,Taiwan), 2012. 2.
- 147) Ueda J, Yoshida H, Taniai N, Mamada Y, Yoshioka M, Kawano Y, Mizuguchi Y, Shimizu T, Uchida E : Surgical resection of a solitary para-aortic lymph node metastasis from hepatocellular carcinoma : a case report. Asian Pacific Association for the study of the Liver (22nd) (Taipei,Taiwan), 2012. 2.
- 148) Taniai N, Yoshida H, Mamada Y, Yoshioka M, Kawano Y, Mizuguchi Y, Shimizu T, Ueda J, Takada H, Uchida E : What is re-treatment for recurrent patients with hepatocellular carcinoma undergoing hepatectomy?. Asian Pacific Association for the study of the Liver (22nd) (Taipei,Taiwan), 2012. 2.
- 149) Uchida E, Aimoto T, Nakamura Y, Yamahatsu K, Katsuno A : PAMCREATIC FISTULA AFTER PANCREATIC RESECTION : EFFICIENCY OF A FLUTED DRAIN WITH CONTINUOUS SUCTION. World Congress of the International Association of Surgeons,Gastroenterologists and Oncologists (21st) (東京), 2011. 11.
- 150) Nakamura Y, Matsumoto S, Tajiri T, Uchida E : LAPAROSCOPIC PANCREATIC RESECTION : SURGICAL TECHNIQUES FOR STANDARDIZATION. World Congress of the International Association of Surgeons,Gastroenterologists and Oncologists (21st) (東京), 2011. 11.
- 151) Matsutani T, Yoshida H<sup>1)</sup>, Maruyama H<sup>1)</sup>, Suzuki S, Yokoyama T<sup>1)</sup>, Matsushita A<sup>1)</sup>, Hirakata A<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Surgery,Nippon Medical School Tamanagahama Hospital) : SINGLE-PORT LAPAROSCOPIC GASTROSTOMY AND JEJUNOSTOMY IN PATIENTS UNABLE TO RECEIVE PERCUTANEOUS ENDOSCOPIC GASTROSTOMY FOR FAR-ADVANCED ESOPHAGEAL CANCER. World Congress of the International Association of Surgeons,Gastroenterologists and Oncologists (21st) (東京), 2011. 11.
- 152) Matsutani T, Nomura T, Hagiwara N, Maruyama H<sup>1)</sup>, Makino H<sup>1)</sup>, Takao Y<sup>1)</sup>, Yoshida H<sup>1)</sup>, Miyashita M, Uchida E ( <sup>1)</sup> Department of Surgery,Nippon Medical School Tamanagayama Hospital) : LAPAROSCOPY ASSISTED ESOPHAGEAL BYPASS OPERATION FOR REMNANT ESOPHAGEAL CANCER AFTER DEFINITIVE CHEMORADIOTHERAPY. World Congress of the International Association of Surgeons,Gastroenterologists and Oncologists (21st) (東京), 2011. 11.
- 153) Hirakata A<sup>1)</sup>, Yoshida H<sup>1)</sup>, Makino H<sup>1)</sup>, Yokoyama T<sup>1)</sup>, Maruyama H<sup>1)</sup>, Matsushita A<sup>1)</sup>, Takao Y<sup>1)</sup>, Umakoshi N<sup>1)</sup>, Hotta M<sup>1)</sup>, Hayakawa T<sup>1)</sup>, Uchida E ( <sup>1)</sup> Department of Surgery,Tamanagayama Hospital) :

- A SYMPTOMATIC GIANT HEPATIC HEMANGIOMA TREATED WITH HEPATECTOMY. World Congress of the International Association of Surgeons,Gastroenterologists and Oncologists (21st) (東京), 2011. 11.
- 154) Hirakata A<sup>1)</sup>, Yoshida H<sup>1)</sup>, Mamada Y, Tani N, Yoshioka M, Kawano Y, Mizuguchi Y, Ueda J, Kikuchi Y, Uchida E ( <sup>1)</sup> Department of Surgery,Nippon Medical School Tamanagayama Hospital) : HUGE CAUSATE LOBE OF THE LIVER DUE TO BUDD-CHIARI SYNDROME. World Congress of the International Association of Surgeons,Gastroenterologists and Oncologists (21st) (東京), 2011. 11.
- 155) Hirakata A<sup>1)</sup>, Yoshida H<sup>1)</sup>, Makino H<sup>1)</sup>, Yokoyama T<sup>1)</sup>, Maruyama H<sup>1)</sup>, Matsushita A<sup>1)</sup>, Takao Y<sup>1)</sup>, Umakoshi N<sup>1)</sup>, Hotta M<sup>1)</sup>, Hayakawa T<sup>1)</sup>, Kikuchi Y<sup>1)</sup>, Uchida E ( <sup>1)</sup> Department of Surgery,Nippon Medical School Tamanagayama Hospital) : SURGICAL TREATMENT OF A PATIENT WITH DIAPHRAGMATIC INVASION BY A RUPTURED HEPATOCELLULAR CARCINOMA WITH BILIARY AND PORTAL VENOUS TUMOR THRONBI. World Congress of the International Association of Surgeons,Gastroenterologists and Oncologists (21st) (東京), 2011. 11.
- 156) Kawano Y, Tani N, Mamada Y, Yoshioka M, Mizuguchi Y, Shimizu T, Ueda J, Yoshida H<sup>1)</sup>, Uchida E ( <sup>1)</sup> Department of Surgery,Nippon Medical School Tamanagayama Hospital) : OUR EXPERIENCES OF USAGE OF THE ENDOCSCOPIC SURGICAL SPACER (SECREA TM) AND PRINGLE MANEUVER DURING LAPAROSCOPIC LIVER RESECTION. World Congress of the International Association of Surgeons,Gastroenterologists and Oncologists (21st) (東京), 2011. 11.
- 157) Matsutani T, Maruyama H<sup>1)</sup>, Szuki S, Yokoyama T<sup>1)</sup>, Hirakata A<sup>1)</sup>, Yoshida H<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Surgery,Nippon Medical School Tamanagayama Hospital) : CARCINOSARCOMA OF THE ESOPHAGUS DETECTED BY FLUORODEOXYGLUCOSE POSITRON EMISSION TOMOGTAPHY/COMPUTED TOMOGRAPHY : A CASE REPORT. World Congress of the International Association of Surgeons,Gastroenterologists and Oncologists (21st) (東京), 2011. 11.
- 158) Kawano Y, Yoshida H<sup>1)</sup>, Tani N, Yoshioka M, Mizuguchi Y, Shimizu T, Ueda J, Mamada Y, Tajiri T, Uchida E ( <sup>1)</sup> Department of Surgery, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital) : INTRACYSTIC HEMORRHAGE REQUIRED NO TREATMENT FROM ONE OF MULTIPLE HEPATIC CYSTS. World Congress of the International Association of Surgeons,Gastroenterologists and Oncologists (21st) (東京), 2011. 11.
- 159) 近藤亮太, 菅 隼人, 松本智司, 山田岳史, 小泉岐博, 谷 杏彌, 原 敬介, 原田潤一郎, 古川清憲, 内田英二 : 直腸癌術後7年目に Double stapling technique 吻合部に再発をきたした1例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第317回) (東京), 2011. 12.
- 160) 中村慶春, 松本智司, 吉岡正人, 田尻 孝, 内田英二 : 安全に腹腔鏡下膀胱切除術を施行するための留意点. 日本臨床外科学会総会 (第73回) (東京), 2011. 11.
- 161) 中村慶春, 松本智司, 吉岡正人, 田尻 孝, 内田英二 : 次世代での発展に向けた腹腔鏡下膀胱切除術 : 腫瘍核出から膀胱頭12指腸切除術までの標準化. 日本臨床外科学会総会 (第73回) (東京), 2011. 11.
- 162) 山田岳史, 菅 隼人, 松本智司, 小泉岐博, 佐々木順平, 谷 杏彌, 内田英二 : 術別式パスによる大腸癌周術期治療の進歩. 日本臨床外科学会総会 (第73回) (東京), 2011. 11.
- 163) 小泉岐博, 内田英二, 菅 隼人, 松本智司, 山田岳史, 佐々木順平, 谷 杏彌, 原 敬介 : 内視鏡下直腸癌手術における小開腹創から腹膜外アプローチを併用した側方郭清. 日本臨床外科学会総会 (第73回) (東京), 2011. 11.
- 164) 吉岡正人, 中村慶春, 松本智司, 田尻 孝, 内田英二 : 腹腔鏡下膀胱切除術における膀胱消化管吻合. 日本臨床外科学会総会 (第73回) (東京), 2011. 11.

- 165) 中村慶春, 松本智司, 吉岡正人, 田尻 孝, 内田英二: 腹腔鏡下瘻切除術の適応拡大に向けた中長期的な手術成績の検討. 日本臨床外科学会総会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 166) 吉岡正人, 谷合信彦, 川野陽一, 上田純志, 真々田裕宏, 吉田 寛, 田尻 孝, 内田英二: 巨大肝腫瘍に対する前方アプローチによる肝切除術. 日本臨床外科学会総会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 167) 萩原信敏, 牧野浩司, 宮下正夫, 野村 務, 松本智司, 中溝宗永<sup>1)</sup>, 横島一彦<sup>1)</sup>, 稲井俊太<sup>1)</sup>, 酒主敦子<sup>1)</sup>, 赤城一郎, 篠塚恵理子, 内田英二 (<sup>1)</sup> 日本医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科): 遊離空腸採取における臍部単孔式腹腔鏡下手術. 日本臨床外科学会総会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 168) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 高尾嘉宗<sup>1)</sup>, 馬越通信<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 早川朋宏<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 内田英二 (<sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院外科): 単孔式腹腔鏡補助下胃瘻造設術. 日本臨床外科学会総会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 169) 木山輝郎, 藤田逸郎, 小野寺浩之, 櫻澤信行, 加藤俊二, 内田英二: 腹腔鏡補助下噴門側胃切除におけるオーバーラップ法による再建. 日本臨床外科学会総会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 170) 松本智司, 菅 隼人, 山田岳史, 小泉岐博, 佐々木順平, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>2)</sup>, 内田英二 (<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院 外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 進行横行結腸癌に対する鏡視下 D3 郭清. 日本臨床外科学会総会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 171) 菅 隼人, 内田英二, 松本智司, 山田岳史, 小泉岐博, 佐々木順平, 谷 杏彌, 古川清憲: 当施設における初初・再発直腸癌に対する化学放射線療法. 日本臨床外科学会総会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 172) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 高尾嘉宗<sup>1)</sup>, 馬越通信<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 早川朋宏<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 内田英二 (<sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院 外科): 腹腔鏡補助下食道バイパス術. 日本臨床外科学会総会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 173) 牧野浩司, 野村 務, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 萩原信敏, 藤田逸郎, 金沢義一, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 中村慶春, 松本智司, 加藤俊二, 勝田美和子<sup>2)</sup>, 横井公良<sup>2)</sup>, 宮下正夫, 内田英二 (<sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院 外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院 外科): 腹臥位 VATS-E における食道ストリッピングによる 106 recL 郭清の工夫. 日本臨床外科学会総会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 174) 萩原信敏, 牧野浩司, 宮下正夫, 野村 務, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金沢義一, 山下直行<sup>1)</sup>, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 赤城一郎, 篠塚恵理子, 内田英二 (<sup>1)</sup> 坪井病院 外科): 食道癌 stageI 症例に対する術式による治療成績の検討. 日本臨床外科学会総会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 175) 川野陽一, 谷合信彦, 峯田 章, 吉岡正人, 上田純志, 真々田裕宏, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 村田 智<sup>2)</sup>, 汲田伸一郎<sup>2)</sup>, 内田英二 (<sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院 外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学 放射線科): 門脈塞栓術を施行した閉塞性黄疸肝に対する術前減黄処置の検討. 日本臨床外科学会総会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 176) 山下直行<sup>1)</sup>, 湖山信篤<sup>1)</sup>, 菅野仁士<sup>1)</sup>, 岩井拓磨<sup>1)</sup>, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金沢義一, 萩原信敏, 宮下正夫, 牧野浩司, 内田英二 (<sup>1)</sup> 坪井病院 外科): 上部限局胃癌 (U) に胃全摘は必要か?. 日本臨床外科学会総会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 177) 鈴木英之<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 松信哲朗<sup>1)</sup>, 三浦克洋<sup>1)</sup>, 中田亮輔<sup>1)</sup>, 越智友洋<sup>1)</sup>, 菅 隼人, 内田英二 (<sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 一時的回腸人工肛門造設・閉鎖法の工夫. 日本臨床外科学会総会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 178) 松下 晃<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 高尾嘉宗<sup>1)</sup>, 馬越通信<sup>1)</sup>, 堀田正啓<sup>1)</sup>, 早川朋宏<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 内田英二 (<sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院 外科): 再発鼠径ヘルニアに対する BARDPOLYSOFT を用いた TAPP 法. 日本臨床外科学会総会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 179) 松信哲朗, 鈴木英之, 尾形昌男, 吉野雅則, 千原直人, 三浦克洋, 中田亮輔, 八木亜記, 内田英二 (<sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 診断に難渋した直腸異物肉芽腫の 1 例. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第 93 回) (東京都), 2011. 12.

- 180) 保田智彦, 櫻澤信行, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金沢義一, 小野寺浩之, 新井洋紀, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学附属病院 消化器外科): 幽門側胃切除後再建空腸に PEJ を施行した 1 例. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第 93 回) (東京都), 2011. 12.
- 181) 中田亮輔, 鈴木英之, 尾形昌男, 吉野雅則, 千原直人, 松信哲朗, 三浦克洋, 桥 卓史, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 経肛門イレウス管挿入後早期に穿孔をきたした横行結腸癌の 1 例. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第 93 回) (東京都), 2011. 12.
- 182) 丸山 弘, 横山 正, 松下 晃, 平方敦史, 高尾嘉宗, 小泉里奈, 吉田 寛, 古川清憲, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院 外科): 耐性菌をどうする? 耐性菌に対するカルバペネム系抗菌薬届け出制の効果. 日本外科感染症学会総会学術集会 (第 24 回) (三重), 2011. 12.
- 183) 小峯 修, 渡辺昌則, 鈴木英之, 尾形昌男, 坊 英樹, 吉野雅則, 水谷 聡, 前島顕太郎, 和田由大, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 食道癌術後早期経腸栄養における免疫調整栄養剤の有用性. 日本外科感染症学会総会学術集会 (第 24 回) (三重県), 2011. 12.
- 184) 川野陽一, 谷合信彦, 吉岡正人, 水口義昭, 清水哲也, 上田純志, 真々田裕宏, 吉田 寛, 古川清憲, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学 外科): 当科における肝切除術時の創部合併症の検討 持続吸引式皮下ドレーン留置の有用性. 日本外科感染症学会総会学術集会 (第 24 回) (三重県), 2011. 12.
- 185) 小泉里奈, 丸山 弘, 横山 正, 松下 晃, 平方敦史, 高尾嘉宗, 吉田 寛, 古川清憲, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院 外科): 消化管手術の新しい周術期感染管理 腹腔鏡補助下大腸切除術における SSI の検討. 日本外科感染症学会総会学術集会 (第 24 回) (三重県), 2011. 12.
- 186) 渡辺昌則, 小峯 修, 水谷 聡, 吉野雅則, 前島顕太郎, 松信哲朗, 坊 英樹, 尾形昌男, 鈴木英之, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 消化管手術の新しい周術期感染管理 大腸手術の SSI 対策. 日本外科感染症学会総会学術集会 (第 24 回) (三重県), 2011. 12.
- 187) 山田岳史, 内田英二, 横井公良, 中西一浩<sup>(1)</sup> 日本医科大学 外科消化器・一般・乳腺・移植部門): クリニカルパスを使用した初期疼痛治療の標準化. 日本緩和医療学会学術大会 (第 16 回) (北海道), 2011. 7.
- 188) 坊 英樹, 渡辺昌則, 尾形昌男, 鈴木英之, 徳永 昭, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 消化器癌手術における閉創の工夫. 日本創傷治癒学会 (第 41 回) (愛知県), 2011. 12.
- 189) 松田範子, 豊富達智, 中山拓也, 鈴木健一, 木山輝郎, 内田英二, 桐木園子, 太良修平, 高木 元, 宮本正章, 坂本篤裕, 徳永 昭<sup>(1)</sup> 日本医科大学附属病院 ME 部): 末梢動脈疾患による難治性潰瘍・壊死治療の進歩: 高気圧酸素療法と再生医療の併用による創傷治癒促進効果. 日本高気圧環境・潜水医学会学術総会 (第 46 回) (東京都), 2011. 10.
- 190) 瀬谷知子, 田中宣威, 横井公良, 堀場光二, 鶴田宏之, 白川 毅, 工藤秀徳, 高橋由至, 進士誠一, 勝田美和子, 勝野 暁, 向後英樹, 若林幸幸, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院 外科): 遠隔転移を有する大腸癌における EMMPRIN, VEGF, VEGFR2, VEGFR3 の発現. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 66 回) (東京都), 2011. 11.
- 191) 松本智司, 菅 隼人, 山田岳史, 小泉岐博, 佐々木順平, 鶴田宏之, 鈴木英之, 金沢義一, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学附属病院 外科): 進行左側横行結腸癌に対する腹腔鏡下 D3 郭清. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 66 回) (東京都), 2011. 11.
- 192) 原絵津子, 山田岳史, 菅 隼人, 松本智司, 小泉岐博, 佐々木順平, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学 消化器外科): 大腸癌術式別クリニカルパスの問題点. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 66 回) (東京都), 2011. 11.
- 193) 小泉岐博, 内田英二, 古川清憲, 菅 隼人, 松本智司, 山田岳史, 佐々木順平<sup>(1)</sup> 日本医科大学 消化器外科): 肝彎曲部結腸癌に対する腹腔鏡下手術. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 66 回) (東京都), 2011. 11.
- 194) 小泉里奈, 佐々木順平, 山田岳史, 菅 隼人, 松本智司, 小泉岐博, 原絵津子, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学 外科): 高齢者術後腸管麻痺に与える術前機械的腸管洗浄の影響 X 線不透過マーカーによる評価. 日本大腸肛門

- 病学会学術集会（第 66 回）（東京都），2011. 11.
- 195) 菅 隼人, 内田英二, 松本智司, 山田岳史, 小泉岐博, 佐々木順平, 谷 杏彌, 原絵津子, 古川清憲<sup>(1)</sup> 日本医科大学 外科)：当施設での進行直腸癌に対する S-1 併用術前化学放射線療法の検討. 日本大腸肛門病学会学術集会（第 66 回）（東京都），2011. 11.
- 196) 山田岳史, 菅 隼人, 松本智司, 小泉岐博, 佐々木順平, 谷 杏彌, 横井公良, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学 外科)：大腸癌補助化学療法における末梢神経障害の予防と Oxaliplatin 減量の影響. 日本大腸肛門病学会学術集会（第 66 回）（東京都），2011. 11.
- 197) 鈴木英之, 尾形昌男, 吉野雅則, 松信哲朗, 三浦克洋, 菅 隼人, 松本智司, 小泉岐博, 渡辺昌則, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター)：大腸癌腹腔鏡下手術における開腹移行因子の検討. 日本大腸肛門病学会学術集会（第 66 回）（東京都），2011. 11.
- 198) 八木亜記, 鈴木英之, 坊 英樹, 渡邊昌則, 尾形昌男, 星野有哉, 小峯 修, 前島顕太郎, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター)：当科における上部消化管穿孔症例に対する治療法の検討. 胃病態機能研究会（第 43 回）（大阪府），2011. 7.
- 199) 吉野雅則, 松信哲朗, 三浦克洋, 和田由大, 野村 聡, 千原直人, 尾形昌男, 渡辺昌則, 鈴木英之, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター)：大腸癌イレウスに対する経肛門的イレウス管の有用性と問題点. 日本大腸肛門病学会学術集会（第 66 回）（東京都），2011. 11.
- 200) 松信哲朗, 鈴木英之, 尾形昌男, 渡辺昌則, 小原邦彦, 吉野雅則, 前島顕太郎, 三浦克洋, 近藤恭司, 野村 聡, 八木亜記, 和田由大, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター)：高齢者における大腸癌 Oncologic Emergencies の検討. 日本大腸肛門病学会学術集会（第 66 回）（東京都），2011. 11.
- 201) 相本隆幸, 内田英二, 中村慶春, 山初 和, 松下 晃, 勝野 暁, 張 一光, 川本聖郎, 小林 匡<sup>(1)</sup> 日本医科大学附属病院 消化器外科)：切除可能膀胱癌に対する術前化学療法. 日本癌治療学会学術集会（第 49 回）（愛知県），2011. 10.
- 202) 松谷 毅, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 松下 晃, 平方敦史, 高尾嘉宗, 馬越通信, 早川朋宏, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院 外科)：化学放射線療法後の遺残食道癌に対するサルベージ治療としての腹腔鏡下食道バイパス術. 日本癌治療学会学術集会（第 49 回）（愛知県），2011. 10.
- 203) 吉野雅則, 鈴木英之, 渡辺昌則, 尾形昌男, 水谷 聡, 松信哲朗, 前島顕太郎, 三浦克洋, 村木 輝, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター)：Panitumumab 投与症例における低 Mg 血症対策. 日本癌治療学会学術集会（第 49 回）（愛知県），2011. 10.
- 204) 八木亜記, 鈴木英之, 松信哲朗, 渡邊昌則, 尾形昌男, 吉野雅則, 千原直人, 三浦克洋, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター)：化学療法にて ClinicalCR を得た後, 原発巣切除を行った高度進行大腸癌の 1 例. 日本癌治療学会学術集会（第 49 回）（愛知県），2011. 10.
- 205) 菅 隼人, 内田英二, 松本智司, 山田岳史, 小泉岐博, 佐々木順平, 谷 杏彌, 古川清憲<sup>(1)</sup> 日本医科大学 院医・臓器病態制御外科学)：術前化学放射線療法を行った進行直腸癌症例の検討. 日本癌治療学会学術集会（第 49 回）（愛知県），2011. 10.
- 206) 山田岳史, 菅 隼人, 松本智司, 小泉岐博, 佐々木順平, 谷 杏彌, 横井公良, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学 院医・臓器病態制御外科学)：大腸癌術後補助化学療法時における末梢神経障害の予防. 日本癌治療学会学術集会（第 49 回）（愛知県），2011. 10.
- 207) 山下直行, 湖山信篤, 菅野仁士, 岩井琢磨, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金澤義一, 萩原信敏, 宮下正夫, 内田英二<sup>(1)</sup> 坪井病院 外科)：播種の制御を主とした First Line の選別と局所療法の介入. 日本癌治療学会学術集会（第 49 回）（愛知県），2011. 10.
- 208) 八木亜記, 鈴木英之, 吉野雅則, 渡邊昌則, 尾形昌男, 星野有哉, 坊 英樹, 小峯 修, 水谷 聡, 千原直人, 松信哲朗, 前島顕太郎, 三浦克洋, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター)：手術を必要と

- した消化管異物症例の検討. 日本消化器病学会大会 (第 53 回) (福岡県), 2011. 10.
- 209) 上田純志, 谷合信彦, 吉田 寛, 真々田裕宏, 峯田 章, 吉岡正人, 川野陽一, 水瀬 学, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学 外科): 肝細胞癌に対するソナゾイド造影超音波検査と病理学的分化度の関連性. 日本消化器病学会大会 (第 53 回) (福岡県), 2011. 10.
- 210) 吉岡正人, 中村慶春, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学附属病院 1 外科): 標準化を目指した腹腔鏡下臍中央切除術式の工夫. 日本消化器病学会大会 (第 53 回) (福岡県), 2011. 10.
- 211) 重原健吾, 横室茂樹, 石橋 宰, 水口義昭, 有馬保生, 清水哲也, 川東 豊, 神田知洋, 田尻 孝, 瀧澤俊広, 吉田 寛, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学 外科): 胆汁マイクロ RNA の胆道癌バイオマーカーとしての有用性の検討. 日本消化器病学会大会 (第 53 回) (福岡県), 2011. 10.
- 212) 丸山 弘, 松谷 毅, 横山 正, 松下 晃, 平方敦司, 吉田 寛, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院 外科): 腹腔鏡下胃瘻造設術後に腹腔鏡下食道バイパス術を施行した 1 例. 日本消化器病学会大会 (第 53 回) (福岡県), 2011. 10.
- 213) 牧野浩司, 宮下正夫, 野村 務, 萩原信敏, 岩切勝彦, 河越哲郎, 川見典之, 二神生爾, 吉田 寛, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学 外科): 食道癌術後頸部リンパ節再発に対し CDGP を用いた CRT と追加化学療法で CR 継続の 2 例. 日本消化器病学会大会 (第 53 回) (福岡県), 2011. 10.
- 214) 松谷 毅, 吉田 寛, 丸山 弘, 鈴木成治, 横山 正, 松下 晃, 平方敦史, 早川朋宏, 高尾嘉宗, 馬越通信, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院 外科): 喉頭摘出術を回避した多発食道癌および重複食道癌への治療戦略. 日本消化器病学会大会 (第 53 回) (福岡県), 2011. 10.
- 215) 平方敦史, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 鈴木成治, 松谷 毅, 松下 晃, 高尾嘉宗, 馬越通信, 早川朋宏, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院 外科): 肝特異性造影 MRI による転移性肝腫瘍の評価. 日本肝臓学会大会 (第 15 回) (福岡県), 2011. 10.
- 216) 水口義昭, 有馬保生, 横室茂樹, 重原健吾, 吉田 寛, 谷合信彦, 真々田裕宏, 瀧澤俊広, 田尻 孝, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学 大学院臓器病態制御外科学): B 型肝炎肝細胞癌に対する microRNA の網羅的シークエンス解析. 日本肝臓学会大会 (第 15 回) (福岡県), 2011. 10.
- 217) 谷合信彦, 吉田 寛, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学 外科): 高齢者における消化器疾患の診断と治療 高齢者 (75 歳以上) における肝細胞癌切除術の意義. 日本肝臓学会大会 (第 15 回) (福岡県), 2011. 10.
- 218) 菅野仁士, 山下直行, 新井洋紀, 湖山信篤, 藤田逸郎, 内田英二<sup>(1)</sup> 坪井病院 外科): PEG におけるインフォームド・コンセント 主治医・看護師への教育・連携そして偶発症対策. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 82 回) (福岡県), 2011. 10.
- 219) 牧野浩司, 桜澤信行, 萩原信敏, 野村 務, 中溝宗永, 横島一彦, 岩切勝彦, 河越哲郎, 吉田 寛, 宮下正夫, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学 外科): GAVE と食道表在癌に対し, APC と ESD で治療後に胸腔鏡補助下食道切除術 (VATS-E) と再建胃管の静脈吻合を追加し GAVE の再発を認めてない 1 例. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 82 回) (福岡県), 2011. 10.
- 220) 櫻澤信行, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金沢義一, 小野寺浩之, 野村 務, 牧野浩司, 萩原信敏, 宮下正夫, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学 外科): カウンタートラクションを利用して内視鏡的粘膜炎下層切開剥離術にて一括切除しえた胃脂肪腫の 2 例. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 82 回) (福岡県), 2011. 10.
- 221) 中村慶春, 松本智司, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学 外科): 標準化を目指した腹腔鏡下臍頭十二指腸切除術式の工夫. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 82 回) (福岡県), 2011. 10.
- 222) 水谷 聡, 鈴木英之, 相本隆幸, 星野有哉, 尾形昌男, 渡辺昌則, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 臍頭十二指腸切除後に発症した上腸間膜動脈血栓症患者の経時的内視鏡像. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 82 回) (福岡県), 2011. 10.
- 223) 菅 隼人, 内田英二, 鈴木英之, 松本智司, 山田岳史, 小泉岐博, 佐々木順平, 谷 杏彌, 古川清憲<sup>(1)</sup> 日本

- 医科大学 外科)：回腸狭窄に対する内視鏡的バルーン拡張術により QOL の改善がえられた結腸全摘後 UC の 1 例。日本消化器内視鏡学会総会 (第 82 回) (福岡県), 2011. 10.
- 224) 山下直行, 湖山信篤, 菅野仁士, 新井洋紀, 小澤俊文, 萩原信敏, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金澤義一, 牧野浩司, 宮下正夫, 和知栄子, 内田英二<sup>(1)</sup> 坪井病院 外科)：予後不良因子のある 5 型胃癌に対し術前 DCS 療法を施行した 1 例。日本消化器内視鏡学会総会 (第 82 回) (福岡県), 2011. 10.
- 225) 萩原信敏, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 中溝宗永, 横島一彦, 三枝英人, 稲井俊太, 酒主敦子, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金澤義一, 桜澤信行, 小野寺浩之, 赤城一郎, その他 2 名<sup>(1)</sup> 日本医科大学 外科)：下咽頭喉頭全摘・食道全切除後の頸胸部の胃管狭窄に対して食道用ステント挿入が有効であった 1 例。日本消化器内視鏡学会総会 (第 82 回) (福岡県), 2011. 10.
- 226) 松谷 毅, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 松下 晃, 平方敦史, 高尾嘉宗, 馬越通信, 早川朋宏, 鈴木成治, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院 外科)：進行食道癌に対する化学放射線療法後の遺残癌性狭窄に対するアルゴンプラズマ凝固療法。日本消化器内視鏡学会総会 (第 82 回) (福岡県), 2011. 10.
- 227) 野村 務, 宮下正夫, 牧野浩司, 萩原信敏, 松谷 毅, 丸山 弘, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金澤義一, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 岩切勝彦, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学 大学院臓器病態制御外科学)：食道癌術後逆流性食道炎に影響を及ぼす因子についての検討。日本消化器内視鏡学会総会 (第 82 回) (福岡県), 2011. 10.
- 228) 中村慶春, 内田英二, 田尻 孝<sup>(1)</sup> 日本医科大学 外科)：嚢胞性膀胱癌の病態からみた治療 嚢胞性膀胱癌に対する腹腔鏡下膀胱切除術の有用性。日本消化器内視鏡学会総会 (第 82 回) (福岡県), 2011. 10.
- 229) 上田純志<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 佐々木順平<sup>1)</sup>, 重原健吾<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>1)</sup>, 谷 杏彌<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器一般外科)：汎用性鏡視下手術用スポンジスペーサーを用いた腹腔鏡下再発鼠径ヘルニア修復術。日本臨床外科学会総会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 230) 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金澤義一<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学附属病院消化器外科)：胃癌に対するループ付き細径スプリングと脱着式牽引力可変スプリングによるカウンタートラクション法。日本臨床外科学会総会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 231) 山初和也<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 相本隆幸<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科)：当科における腹腔鏡下膀胱切除術の現況。日本臨床外科学会総会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 232) 萩原信敏<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金澤義一<sup>1)</sup>, 山下直行, 桜澤信行<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 赤城一郎<sup>1)</sup>, 篠塚恵理子<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 外科)：巨大食道憩室に対する胸腔鏡下手術。日本臨床外科学会総会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 233) 野村 務<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金澤義一<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 丸山 弘, 松谷 毅, 岩切勝彦, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学 消化器外科)：食道アカラシアに対する外科治療 当施設における現状。日本臨床外科学会総会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 234) 原絵津子<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 佐々木順平<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 消化器外科)：子宮内膜症を合併したメッケル憩室によりイレウスを発症し急激に敗血症となった 1 例。日本臨床外科学会総会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 235) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 馬越通信<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 高尾嘉宗<sup>1)</sup>, 早川朋宏<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院 外科)：食道癌術後の胸管損傷部位の同定に ICG 蛍光法が有効であった 1 例。日本臨床外科学会総会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 236) 相本隆幸<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 張 一光<sup>1)</sup>, 川本聖郎<sup>1)</sup>, 小林 匡<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科)：切除可能膀胱癌に対する術前化学療法。日本臨床外科学会総会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 237) 松下 晃<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 高尾嘉宗<sup>1)</sup>, 馬越通

- 信<sup>1)</sup>, 堀田正啓<sup>1)</sup>, 早川朋宏<sup>1)</sup>, 岩井琢磨, 中村慶春, 相本隆幸, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院 外科): GEM, S1 による術前化学療法施行後, R0 手術を施行した stage IVb 膵頭部癌の 1 例. 日本臨床外科学会総会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 238) 馬越通信<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 高尾嘉宗<sup>1)</sup>, 堀田正啓<sup>1)</sup>, 早川朋宏<sup>1)</sup>, 小泉里奈, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院 外科): 虫垂炎を契機に偶然発見され, 術前診断に難渋した膵尾側腫瘍の 1 例. 日本臨床外科学会総会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 239) 清田裕子<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 横室茂樹<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 金子昌裕<sup>1)</sup>, 高橋由至<sup>1)</sup>, 工藤秀徳<sup>1)</sup>, 進士誠一, 勝田美和子, 川東 豊, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学): 抗凝固・血小板薬服用中に発生した大腸癌症例の検討. 日本臨床外科学会総会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 240) 向後英樹<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 横室茂樹<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 工藤秀徳<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 川東 豊<sup>1)</sup>, 高田英志, 坂田義則, 田中宣威, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院 外科): 直腸原発神経内分泌細胞癌多発性肝転移症例に対して腹会陰式直腸切断術+mFOLFOX6 を施行した 1 例. 日本臨床外科学会総会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 241) 早川朋宏<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 高尾嘉宗<sup>1)</sup>, 馬越通信<sup>1)</sup>, 堀田正啓<sup>1)</sup>, 小泉里奈<sup>1)</sup>, 森末 遼<sup>1)</sup>, 吉田 寛, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院 外科): ネフローゼ症候群を契機に診断された胃癌の 1 例. 日本臨床外科学会総会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 242) 高田英志<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 横室茂樹<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 工藤秀徳<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 川東 豊<sup>1)</sup>, 向後英樹, 坂田義則, 田中宣威, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院 外科): 胃穿孔にて緊急手術を行った胃癌症例の検討. 日本臨床外科学会総会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 243) 坂田義則<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 横室茂樹<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 工藤秀徳<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 川東 豊<sup>1)</sup>, 向後英樹, 高田英志, 田中宣威, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院 外科): 2 度にわたる再発をきたした S 状結腸癌の 1 例. 日本臨床外科学会総会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 244) 菅野仁士<sup>1)</sup>, 山下直行<sup>1)</sup>, 岩井拓磨<sup>1)</sup>, 湖山信篤<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>(1)</sup> 坪井病院 外科): 肺癌の小腸転移による成人腸重積症の 1 例. 日本臨床外科学会総会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 245) 保田智彦<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 桜澤信行<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学附属病院 消化器外科): 胃 GIST の再発に対し複数回の手術と化学療法を施行した 1 例. 日本臨床外科学会総会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 246) 高尾嘉宗<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 平方敦史<sup>1)</sup>, 馬越通信<sup>1)</sup>, 早川朋宏<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院 外科): 化学放射線療法後の食道癌狭窄と胆嚢結石に対し一期的に腹腔鏡補助下食道バイパス術と胆嚢摘出術を施行した 1 例. 日本臨床外科学会総会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 247) 新井洋紀<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 相本隆幸<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学一般・消化器・乳腺・移植外科): 脛体部のインスリノーマに対し腹腔鏡下脛中央切除術を施行した 1 例. 日本臨床外科学会総会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 248) 和田由大<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 三浦克洋<sup>1)</sup>, 黒田誠司<sup>1)</sup>, 三島圭介<sup>1)</sup>, 八木亜記<sup>1)</sup>, 北山康彦<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 多彩な組織成分から構成された gastric heterotopia の 1 例. 日本臨床外科学会総会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 249) 堀場光二<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 横室茂樹<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 工藤秀徳<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院外科): 術前化学放射線療法が奏効した直腸癌の 2 症例. 日本臨床外科学会総会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 250) 若林秀幸<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 横室茂樹<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 工藤秀徳<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 川東 豊<sup>1)</sup>, 向後英樹, 高田英志, 坂田義則, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院 外科): 腹腔鏡下胆嚢摘出術後のクリップ迷入による総胆管結石の 1 例. 日本臨床外科学会総会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.

- 京), 2011. 11.
- 251) 相本隆幸<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 吉岡正人<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 山初和也<sup>1)</sup>, 松下 晃<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 張 一光<sup>1)</sup>, 川本聖郎<sup>1)</sup>, 小林 匡 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 外科): 門脈・右肝動脈切除により R0 切除となった腓頭部癌の 1 例. 日本臨床外科学会総会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 252) 青木悠人<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 佐々木順平<sup>1)</sup>, 谷 杏彌<sup>1)</sup>, 松野邦彦<sup>1)</sup>, 原絵津子<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 消化器外科): 上腸間膜動脈塞栓症に対し血栓吸引療法が奏功し, 腸切を回避し, 救命しえた 1 例. 日本臨床外科学会総会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 253) 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 横室茂樹<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 工藤秀徳<sup>1)</sup>, 勝田美和子<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 川東 豊<sup>1)</sup>, 向後英樹, 高田英志, 坂田義則, 内田英二 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院 外科): 地域中核病院で外科医が行う外来化学療法. 日本臨床外科学会総会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 254) 山田岳史<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 佐々木順平<sup>1)</sup>, 谷 杏彌<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学外科): FOLFOX adjuvant 治療における桂枝加朮附湯と附子の末梢神経予防効果. 日本臨床外科学会総会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 255) 八木重記, 鈴木英之, 千原直人, 渡辺昌則, 尾形昌男, 吉野雅則, 内田英二 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター): 小腸出血を繰り返した平滑筋過誤腫の 1 例. 日本消化管学会総会学術集会 (第 8 回) (宮城県), 2012. 2.
- 256) 菅 隼人, 内田英二, 松本智司, 山田岳史, 小泉岐博, 佐々木順平, 谷 杏彌, 古川清憲 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学外科): 鏡視下結腸癌術後症例における大建中湯の効果. 日本消化管学会総会学術集会 (第 8 回) (宮城県), 2012. 2.
- 257) 和田由大, 鈴木英之, 尾形昌男, 吉野雅則, 千原直人, 松信哲朗, 中田亮輔, 黒田誠司, 八木重記, 内田英二 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター): Adalimumab を用いた Top-down 療法が奏功した初発クローン病の 2 例. 日本消化管学会総会学術集会 (第 8 回) (宮城県), 2012. 2.
- 258) Suzuki H, Ogata M, Uchida E ( <sup>1)</sup> Nippon Medical School Musashikosugi Hospital): Conversion factors of laparoscopic colectomy for colorectal cancer. International Surgical Week ISW 2011 (Yokohama, Japan), 2011. 8.
- 259) 小泉岐博, 内田英二, 古川清憲, 菅 隼人, 松本智司, 山田岳史, 進士誠一, 谷 杏彌, 原 敬介 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院消化器外科): 外科的介入を行った大腸がん腹膜播種による腸閉塞症例の検討. 大腸癌研究会 (第 76 回) (栃木県), 2012. 1.
- 260) Iwai T, Yoshida H, Yokoyama T, Maruyama H, Suzuki S, Matsushita A, Sasajima K, Uchida E ( <sup>1)</sup> Department of Surgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital): Fish bone migrating into the right renal vein. International Surgical Week ISW 2011 (Yokohama, Japan), 2011. 8.
- 261) Kan H, Uchida E, Matsumoto S, Yamada T, Koizumi M, Sasaki J, Tani A, Furukawa K ( <sup>1)</sup> Nippon Medical School): Influence of Dai-kenchu-to (DKT) on postoperative intestinal motility in patients who had undergone radical surgery for sigmoid colon cancer. International Surgical Week ISW 2011 (Yokohama, Japan), 2011. 8.
- 262) Nomura T, Miyashita M, Makino H, Hagiwara N, Kato S, Fujita I, Akagi I, Uchida E ( <sup>1)</sup> Nippon Medical School): Reflux disease in patients after surgery for esophageal cancer. International Surgical Week ISW 2011 (Yokohama, Japan), 2011. 8.
- 263) Makino H, Nomura T, Hagiwara N, Nakamura Y, Katsuta M, Yokoi K, Miyashita M, Uchida E ( <sup>1)</sup> Nippon Medical School): Esophageal stripping creates a clear operative field for lymph node dissection along the left recurrent nerve in prone video-assisted thoracoscopic surgery: a case report. International Surgical Week ISW 2011 (Yokohama, Japan), 2011. 8.

- 264) Makino H, Hagiwara N, Matsumoto S, Nomura T, Nakamizo M, Yokoshima K, Miyashita M, Uchida E (1)Nippon Medical School) : Single incisional laparoscopic jejunal flap harvesting for the reconstruction following laryngo-pharyngo-esophagectomy. International Surgical Week ISW 2011 (Yokohama, Japan), 2011. 8.
- 265) Matsutani T, Yoshida H, Maruyama H, Suzuki S, Yokoyama T, Matsushita A, Hirakata A, Uchida E (1) Department of Surgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital) : Successful laparoscopy assisted esophageal bypass operation for esophagobronchial fistula following migration of self-expandable metallic esophageal stent : a case report. International Surgical Week ISW 2011 (Yokohama, Japan), 2011. 8.
- 266) Matsutani T, Hirakata A, Maruyama H, Umakoshi M, Suzuki S, Yokoyama T, Yoshida H, Uchida E (1) Department of Surgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital) : Fluorescence navigation with indocyanine green for detecting the site of chylothorax after esophagectomy : report of a case. International Surgical Week ISW 2011 (Yokohama, Japan), 2011. 8.
- 267) Nomura T, Miyashita M, Makino H, Hagiwara N, Fujita I, Nakamura Y, Matsumoto S, Uchida E (1) Nippon Medical School) : Laparoscopic construction of gastric conduit for esophageal cancer. International Surgical Week ISW 2011 (Yokohama, Japan), 2011. 8.
- 268) Kaneya Y, Yoshida H, Matsutani T, Yokoyama T, Suzuki S, Maruyama H, Sasajima K, Uchida E (1) Department of Surgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital) : Biliary obstruction due to a huge simple hepatic cyst treated with laparoscopic resection. International Surgical Week ISW 2011 (Yokohama, Japan), 2011. 8.
- 269) Hayakawa T, Yoshida H, Yokoyama T, Maruyama H, Suzuki S, Hirakata A, Sasajima K, Uchida E (1) Department of Surgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital) : Spontaneous complete necrosis of advanced hepatocellular carcinoma. International Surgical Week ISW 2011 (Yokohama, Japan), 2011. 8.
- 270) Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Mineta S, Yoshioka M, Hirakata A, Kawano Y, Uchida E (1) Department of Surgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital) : Shunting and nonshunting procedures for the treatment of esophageal varices in patients with idiopathic portal hypertension. International Surgical Week ISW 2011 (Yokohama, Japan), 2011. 8.
- 271) Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Mineta S, Yoshioka M, Hirakata A, Kawano Y, Uchida E (1) Department of Surgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital) : Hepaticoduodenostomy in hepatectomy for perihilar cholangiocarcinoma : a preliminary report. International Surgical Week ISW 2011 (Yokohama, Japan), 2011. 8.
- 272) Nakamura Y, Matsumoto S, Tajiri T, Arima Y, Uchida E (1) Nippon Medical School) : Our novel techniques of single-incision laparoscopic cholecystectomy using a sponge spacer. International Surgical Week ISW 2011 (Yokohama, Japan), 2011. 8.
- 273) 中村慶春, 内田英二, 田尻 孝 (1) 日本医科大学外科) : 嚢胞性脾腫瘍に対する腹腔鏡下脾切除術の有用性. 日本消化器病学会大会 (第 53 回) (福岡県), 2011. 10.
- 274) 横山 正, 新井洋紀, 丹野正隆, 細根 勝, 片山博徳, 内田英二 (1) 日本医科大学多摩永山病院外科) : CEX 療法による術前化学療法の試み. 日本乳癌学会学術総会 (第 19 回) (宮城県), 2011. 9.
- 275) 飯田信也, 芳賀駿介, 山下浩二, 柳原恵子, 奥平かおり, 栗田智子, 鈴木えりか, 村上隆介, 土屋眞一, 内田英二 (1) 日本医科大学附属病院 乳腺科) : 当科におけるセンチネルリンパ節生検の評価と問題点の検討. 日本乳癌学会学術総会 (第 19 回) (宮城県), 2011. 9.
- 276) 柳原恵子, 飯田信也, 栗田智子, 樋口勝美, 山本陽一郎, 村上隆介, 山下浩二, 古川清憲, 土屋眞一, 芳賀駿介, 内田英二 (1) 日本医科大学附属病院 乳腺科) : カペシタピンとシクロホスファミドの併用療法 (XC 療法) が著効した 1 例. 日本乳癌学会学術総会 (第 19 回) (宮城県), 2011. 9.

- 277) Hoshino A, Suzuki H, Aimoto T, Mizutani S, Nomura S, Uchida E : Single-institution experience of laparoscopic pancreatic surgery. 43rd Meeting 2011 European Pancreatic Club (Germany), 2011. 6.
- 278) Aimoto T, Uchida E, Nakamura Y, Yamahatsu K, Matsushita A, Katsuno A, Cho K, Kawamoto M <sup>(1)</sup> Department of Surgery, Nippon Medical School) : Efficacy of a Black Drain® on Pancreatic Fistula after Pancreaticoduodenectomy. American Pancreatic Association (42nd Annual Meeting) (USA), 2011. 11.
- 279) Matsushita A, Gotze T, Kawamoto M, Nakamura Y, Aimoto T, Ishiwata T, Naito Z, Uchida E, Korc M <sup>(1)</sup> Department of Surgery, Nippon Medical School) : Neuropilin-1 Is an Important Therapeutic Target in Pancreatic Cancer. American Pancreatic Association (42nd Annual Meeting) (USA), 2011. 11.
- 280) Uchida E, Matsushita A, Nakamura Y, Yamahatsu K, Aimoto T, Ueda J, Matsuda Y, Ishiwata T, Naito Z <sup>(1)</sup> Department of Surgery, Nippon Medical School) : Hamster Pancreatic Cancer Model for Research on Metastasis and its *in vivo* Imaging. American Pancreatic Association (42nd Annual Meeting) (USA), 2011. 11.
- 281) Ueda J, Matsuda Y, Yamahatsu K, Uchida E, Naito Z, Ishiwata T <sup>(1)</sup> Departments of Pathology and Integrative Oncological Pathology, Nippon Medical School) : Expression and Role of Epithelial Splicing Regulatory Protein 1 in Human Pancreatic Cancer. American Pancreatic Association (42nd Annual Meeting) (USA), 2011. 11.
- 282) Yamahatsu K, Matsuda Y, Hagio M, Aimoto T, Nakamura Y, Uchida E, Naito Z, Ishiwata T <sup>(1)</sup> Departments of Pathology and Integrative Oncological Pathology, Nippon Medical School) : Nestin Inhibits Proliferation of Vascular Endothelial Cells *in vivo* And Tumor Angiogenesis in Pancreatic Cancer *in vivo*. American Pancreatic Association (42nd Annual Meeting) (USA), 2011. 11.
- 283) Uchida E, Aimoto T, Nakamura Y, Yamahatsu K, Matsuno A <sup>(1)</sup> Department of Surgery, Nippon Medical School) : Pancreatic fistula after pancreatic resection : Efficacy of a fluted drain with continuous suction. IASGO 2011 (Tokyo), 2011. 11.
- 284) Nakamura Y, Matsumoto S, Tajiri T, Uchida E <sup>(1)</sup> Department of Surgery, Nippon Medical School) : Laparoscopic pancreatic resection : surgical techniques for standardization. IASGO 2011 (Tokyo), 2011. 11.
- 285) Hirakata A, Yoshida H, Makino H, Yokoyama T, Maruyama H, Matsushita A, Takao Y, Umakoshi N, Hotta M, Hayakawa T, Uchida E <sup>(1)</sup> Department of Surgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital) : A symptomatic giant hepatic hemangioma treated with hepatectomy. IASGO 2011 (Tokyo), 2011. 11.
- 286) Hirakata A, Yoshida H, Mamada Y, Tani ai N, Yoshioka M, Kawano Y, Mizuguchi Y, Ueda J, Kikuchi Y, Uchida E <sup>(1)</sup> Department of Surgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital) : Huge caudate lobe of the liver due to Budd-Chiari syndrome. IASGO 2011 (Tokyo), 2011. 11.
- 287) Hirakata A, Yoshida H, Makino H, Yokoyama T, Maruyama H, Matsushita A, Takao Y, Umakoshi N, Hotta M, Hayakawa T, Kikuchi Y, Uchida E <sup>(1)</sup> Department of Surgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital) : Surgical treatment of a patient with diaphragmatic invasion by a ruptured hepatocellular carcinoma with biliary and portal venous tumor thrombi. IASGO 2011 (Tokyo), 2011. 11.
- 288) Kawano Y, Tani ai N, Mamada Y, Yoshioka M, Mizuguchi Y, Shimizu T, Ueda J, Yoshida H, Uchida E <sup>(1)</sup> Department of Surgery, Nippon Medical School) : Our experiences of usage of the endoscopic surgical spacer (SECREA TM) and Pringle maneuver during laparoscopic liver resection. IASGO 2011 (Tokyo), 2011. 11.
- 289) Takao Y, Matsutani T, Maruyama H, Suzuki S, Yokoyama T, Matsushita A, Yoshida H, Uchida E <sup>(1)</sup>

- Department of Surgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital) : Basaloid-squamous carcinoma of the esophagus treated by thoracoscopy assisted esophagectomy in the prone position : a case report. World Congress of the International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists (21st) (Tokyo), 2011. 11.
- 290) Kawano Y, Yoshida H, Tani ai N, Yoshioka M, Mizuguchi Y, Shimizu T, Ueda J, Mamada Y, Tajiri T, Uchida E <sup>(1)</sup> Department of Surgery, Nippon Medical School) : Intracystic hemorrhage required no treatment from one of multiple hepatic cysts. IASGO 2011 (Tokyo), 2011. 11.
- 291) Wakabayashi T, Yoshida I H, Ueda J, Mamada Y, Tani ai N, Yoshioka M, Kawano Y, Mizuguchi Y, Shimizu T, Uchida E <sup>(1)</sup> Nippon Medical School) : A case of liver metastasis arising from gastric GIST 12 years after resection of primary GIST. Asian Pacific Association for the Study of the Liver APASL 2012 (Taiwan), 2012. 2.
- 292) Takada H, Yoshida H, Ueda J, Tani ai N, Mamada Y, Yoshioka M, Kawano Y, Mizuguchi Y, Shimizu T, Uchida E <sup>(1)</sup> Nippon Medical School) : Surgical resection of solitary metastatic liver tumor arising from lung cancer : a case series. Asian Pacific Association for the Study of the Liver APASL 2012 (Taiwan), 2012. 2.
- 293) Ando F, Yoshida H, Ueda J, Tani ai N, Mamada Y, Yoshioka M, Kawano Y, Mizuguchi Y, Shimizu T, Uchida E <sup>(1)</sup> Nippon Medical School) : A case of xanthogranulomatous cholecystitis preoperatively diagnosed with contrast-enhanced ultrasonography. Asian Pacific Association for the Study of the Liver APASL 2012 (Taiwan), 2012. 2.
- 294) Kawano Y, Tani ai N, Yoshioka M, Matsushita A, Mizuguchi Y, Shimizu T, Ueda J, Yoshida H, Uchida E <sup>(1)</sup> Nippon Medical School) : Our experience of portal vein embolization before major hepatectomy for hepatocellular carcinoma. Asian Pacific Association for the Study of the Liver APASL 2012 (Taiwan), 2012. 2.
- 295) Shimizu T, Yoshida H, Mamada Y, Tani ai N, Yoshioka M, Kawano Y, Mizuguchi Y, Ueda J, Uchida E <sup>(1)</sup> Nippon Medical School) : Postoperative bile leakage managed successfully by intrahepatic biliary ablation with ethanol. Asian Pacific Association for the Study of the Liver APASL 2012 (Taiwan), 2012. 2.
- 296) Tani ai N, Yoshida H, Mamada Y, Yoshioka M, Kawano Y, Mizuguchi Y, Shimizu T, Ueda J, Takada H, Uchida E <sup>(1)</sup> Nippon Medical School) : What is re-treatment for recurrent patients with hepatocellular carcinoma undergoing hepatectomy?. Asian Pacific Association for the Study of the Liver APASL 2012 (Taiwan), 2012. 2.
- 297) 橋本佳亮, 谷合信彦, 松本智司, 水口義昭, 川野陽一, 上田純志, 住吉宏樹, 青木悠人, 内田英二 <sup>(1)</sup> 日本医科大学附属病院外科学講座) : 穿孔性小腸悪性リンパ腫による汎発性腹膜炎の1例. 外科集談会 (第822回) (群馬県), 2011. 9.
- 298) 原田潤一郎, 藤田逸郎, 萩原信敏, 小野寺浩之, 櫻澤信行, 金沢義一, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 内田英二 <sup>(1)</sup> 日本医科大学附属病院消化器一般・移植外科) : 早期胃癌術後骨転移症例の1例. 外科集談会 (第823回) (東京都), 2011. 12.
- 299) 清水哲也, 中村慶春, 松本智司, 吉岡正人, 田尻 孝, 内田英二 <sup>(1)</sup> 日本医科大学消化器外科) : 安全に腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術 (Lap-PD) を行うために: 膵臓のち離法と再建術におけるわれわれの工夫. 小切開・鏡視外科学会 (第3回) (東京都), 2011. 11.
- 300) 千原直人, 鈴木英之, 渡辺昌則, 星野有哉, 小峯 修, 吉野雅則, 水谷 聡, 松信哲朗, 村木 輝, 中田亮輔, 内田英二 <sup>(1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター) : 当院における単孔式腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術の導入と評価. 小切開・鏡視外科学会 (第3回) (東京都), 2011. 11.

- 301) 小峯 修, 鈴木英之, 渡辺昌則, 水谷 聡, 吉野雅則, 千原直人, 松信哲朗, 村木 輝, 和田由大, 越智友洋, 内田英二<sup>(1)</sup>日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター): 腹腔鏡下胆嚢摘出術における Reduced port surgery (RPS) の工夫. 小切開・鏡視外科学会 (第3回) (東京都), 2011. 11.
- 302) 関 奈紀, 平方敦史, 丸山 弘, 牧野浩司, 横山 正, 高尾嘉宗, 住吉宏樹, 馬越通信, 堀田正啓, 早川朋宏, 吉田 寛, 内田英二<sup>(1)</sup>日本医科大学多摩永山病院外科): 子宮体部癌肉腫による肝転移に対し肝切除術を施行し得た1例. 外科集談会 (第823回) (東京都), 2011. 12.
- 303) 吉岡正人, 中村慶春, 松本智司, 相本隆幸, 松下 晃, 清水哲也, 田尻 孝, 内田英二<sup>(1)</sup>日本医科大学 外科): 腹腔鏡下脛中央切除術 (Lap-CP) の手術手技の工夫. 肝臓内視鏡外科研究会 (第3回) (宮城県), 2011. 10.
- 304) 上田純志, 松田陽子, 山初和也, 内田英二, 内藤善哉, 石渡俊行<sup>(1)</sup>日本医科大学臓器病態制御外科学): ESRP1 による FGFR2 の選択的スプライシングの膀胱癌における役割. 日本癌学会学術総会 (第70回) (愛知県), 2011. 10.
- 305) 石渡俊行, 松田陽子, 上田純志, 川原清子, 萩尾真人, 山本哲志, 内田英二, コークマレー, 内藤善哉<sup>(1)</sup>日本医科大学病理学講座(統御機構・腫瘍学)): 膀胱癌の新規分子標的としての線維芽細胞増殖因子受容体2 (FGFR2). 日本癌学会学術総会 (第70回) (愛知県), 2011. 10.
- 306) 山初和也, 松田陽子, 石渡俊行, 山本哲志, 萩尾真人, 相本隆幸, 中村慶春, 内田英二, 内藤善哉<sup>(1)</sup>日本医科大学外科): 膀胱癌血管内皮細胞における Nestin の発現と役割. 日本癌学会学術総会 (第70回) (愛知県), 2011. 10.
- 307) 相本隆幸, 内田英二, 中村慶春, 山初和也, 松下 晃, 勝野 暁, 張 一光, 川本聖郎, 小林 匡<sup>(1)</sup>日本医科大学外科): グループ膀胱がん. 日本癌学会学術総会 (第70回) (愛知県), 2011. 10.
- 308) 山田岳史, 内田英二, 横井公良<sup>(1)</sup>日本医科大学外科): 緩和ケアにおけるオンコロジストの役割: オピオイドの速やかな導入と吐き気予防. 日本癌学会学術総会 (第70回) (愛知県), 2011. 10.
- 309) 川野陽一, 谷合信彦, 吉岡正人, 水口義昭, 清水哲也, 上田純志, 真々田裕宏, 吉田 寛, 内田英二<sup>(1)</sup>日本医科大学 外科): 当科における鏡視下肝切除術での様々な工夫. 肝臓内視鏡外科研究会 (第5回) (東京都), 2011. 11.
- 310) 川野陽一, 谷合信彦, 中村慶春, 内田英二<sup>(1)</sup>日本医科大学付属病院 外科): 術前診断に難渋し腹腔鏡にて切除した肝門部副脾の1例. 日本内視鏡外科学会総会 (第24回) (大阪府), 2011. 12.
- 311) 小泉岐博, 内田英二, 古川清憲, 菅 隼人, 松本智司, 山田岳史, 佐々木順平, 谷 杏彌<sup>(1)</sup>日本医科大学付属病院消化器外科): FOLFOX/FOLFIRI 導入後症例による大腸癌 stage IV の細分類. 大腸癌研究会 (第75回) (東京都), 2011. 7.
- 312) 松谷 毅, 丸山 弘, 松下 晃, 高尾嘉宗, 馬越通信, 平方敦史, 鈴木成治, 横山 正, 吉田 寛, 内田英二<sup>(1)</sup>日本医科大学多摩永山病院 外科): 単孔式内視鏡手術で腹腔鏡胃瘻造設術を行った癌性食道狭窄の1例. 日本食道学会学術集会 (第65回) (宮城県), 2011. 9.
- 313) 丸山 弘, 松谷 毅, 鈴木成治, 横山 正, 松下 晃, 平方敦史, 高尾嘉宗, 馬越通信, 吉田 寛, 内田英二<sup>(1)</sup>日本医科大学多摩永山病院 外科): 腹腔鏡下胃瘻造設術後に腹腔鏡下食道バイパス術を施行した1例. 日本食道学会学術集会 (第65回) (宮城県), 2011. 9.
- 314) 松谷 毅, 丸山 弘, 高尾嘉宗, 松下 晃, 平方敦史, 馬越通信, 鈴木成治, 横山 正, 吉田 寛, 内田英二<sup>(1)</sup>日本医科大学多摩永山病院 外科): 食道気管支瘻合併食道癌症例に対する胸腔鏡補助下食道バイパス手術. 日本食道学会学術集会 (第65回) (宮城県), 2011. 9.
- 315) 馬越通信, 松谷 毅, 丸山 弘, 鈴木成治, 横山 正, 松下 晃, 平方敦史, 高尾嘉宗, 吉田 寛, 内田英二<sup>(1)</sup>日本医科大学多摩永山病院 外科): Positron emission tomography/CT で発見した“いわゆる食道癌肉腫”の1症例. 日本食道学会学術集会 (第65回) (宮城県), 2011. 9.

- 316) 野村 務, 宮下正夫, 牧野浩司, 萩原信敏, 赤城一郎, 丸山 弘, 松谷 毅, 川見典之, 岩切勝彦, 内田英二  
(<sup>1</sup> 日本医科大学 消化器外科): III型食道裂孔ヘルニアに対する腹腔鏡下逆流防止術 (LARS) 当施設における  
経験. 日本食道学会学術集会 (第65回) (宮城県), 2011. 9.
- 317) 松谷 毅, 丸山 弘, 鈴木成治, 横山 正, 松下 晃, 平方敦史, 高尾嘉宗, 馬越通信, 吉田 寛, 内田英二  
(<sup>1</sup> 日本医科大学多摩永山病院 外科): 腹臥位胸腔鏡下食道切除術の定型化への工夫. 日本食道学会学術集会 (第  
65回) (宮城県), 2011. 9.
- 318) 小峯 修, 渡辺昌則, 鈴木英之, 尾形昌男, 坊 英樹, 吉野雅則, 水谷 聡, 前島顕太郎, 野村 聡, 内田英二  
(<sup>1</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 食道癌術後早期経腸における免疫増強栄養剤と免疫調整栄  
養剤の比較検討. 日本食道学会学術集会 (第65回) (宮城県), 2011. 9.
- 319) 渡辺昌則, 小峯 修, 前島顕太郎, 千原直人, 水谷 聡, 吉野雅則, 坊 英樹, 尾形昌男, 鈴木英之, 内田英二  
(<sup>1</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 食道癌術後 mortality に関する危険因子の解析. 日本食道  
学会学術集会 (第65回) (宮城県), 2011. 9.
- 320) 萩原信敏, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 藤田逸郎, 松本智司, 中村慶春, 山下直行, 篠塚恵理子, 内田英  
二: 腹腔鏡下胃管作成における鏡視下手術用スポンジスペーサーの有用性. 日本食道学会学術集会 (第65回)  
(宮城県), 2011. 9.
- 321) 篠塚恵理子, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 萩原信敏, 内田英二 (<sup>1</sup> 日本医科大学 外科): 他臓器へのステン  
ト挿入後, 食道穿孔を発症した2症例. 日本食道学会学術集会 (第65回) (宮城県), 2011. 9.
- 322) 萩原信敏, 牧野浩司, 野村 務, 宮下正夫, 大川敬一, 上田純志, 鈴木えりか, 赤城一郎, 篠塚恵理子, 内田英  
二: 再建胃管先端部壊死に対して, ED チューブを用いて保存的治療が可能であった1例. 日本食道学会学術集  
会 (第65回) (宮城県), 2011. 9.
- 323) 勝田美和子, 牧野浩司, 白川 毅, 高田英志, 勝野 暁, 川東 豊, 瀬谷知子, 横室茂樹, 横井公良, 内田英二  
(<sup>1</sup> 日本医科大学千葉北総病院 外科): 食道癌術後の胃管断端の縫合不全に対して内視鏡下クリッピングにて閉  
鎖しえた症例. 日本食道学会学術集会 (第65回) (宮城県), 2011. 9.
- 324) 坂田義則, 牧野浩司, 勝田美和子, 白川 毅, 工藤秀徳, 瀬谷知子, 堀場光二, 横室茂樹, 横井公良, 内田英二  
(<sup>1</sup> 日本医科大学千葉北総病院 外科): 食道扁平上皮癌に対してCRT施行にてCRが得られたが, タグラス窩転  
移をきたした1症例. 日本食道学会学術集会 (第65回) (宮城県), 2011. 9.
- 325) 牧野浩司, 野村 務, 萩原信敏, 勝田美和子, 横井公良, 宮下正夫, 内田英二 (<sup>1</sup> 日本医科大学 医学部消化器  
外科): 食道ストリッピングによる腹臥位 VATS-E における左反回神経周囲リンパ節郭清の工夫. 日本食道学会  
学術集会 (第65回) (宮城県), 2011. 9.
- 326) 佐々木順平, 山田岳史, 内田英二 (<sup>1</sup> 日本医科大学 外科): ERAS プロトコールにおける術前機械的腸管洗浄  
の必要性についての検討: X線不透過マーカーによる術後腸管運動の評価. 日本消化器外科学会大会 (第9回)  
(福岡県), 2011. 10.
- 327) 星野有哉, 中村慶春, 鈴木英之, 水谷 聡, 内田英二 (<sup>1</sup> 日本医科大学 武蔵小杉病院 消化器病センター):  
腹腔鏡下脾切除術を施行した7例の検討. 日本消化器外科学会大会 (第9回) (福岡県), 2011. 10.
- 328) 野村 務, 宮下正夫, 牧野浩司, 萩原信敏, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金沢義一, 松本智司, 櫻澤信行, 小野寺浩  
之, 岩切勝彦, 内田英二 (<sup>1</sup> 日本医科大学大学院 臓器病態制御外科学): III型食道裂孔ヘルニアに対する腹腔  
鏡下逆流防止術 (LARS): 当施設における経験. 日本消化器外科学会大会 (第9回) (福岡県), 2011. 10.
- 329) 松下 晃, 吉田 寛, 横山 正, 鈴木成治, 丸山 弘, 松谷 毅, 平方敦史, 高尾嘉宗, 馬越通信, 早川朋宏,  
中村慶春, 相本隆幸, 内田英二 (<sup>1</sup> 日本医科大学 多摩永山病院 外科): 当科における Lemmel 症候群に対す  
る治療とその成績. 日本消化器外科学会大会 (第9回) (福岡県), 2011. 10.
- 330) 松谷 毅, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 鈴木成治, 松下 晃, 平方敦史, 高尾嘉宗, 馬越通信, 早川朋宏,  
内田英二 (<sup>1</sup> 日本医科大学 多摩永山病院 外科): 食道癌に対する化学放射線療法後の内科的治療と外科治療

- の選択. 日本消化器外科学会大会 (第9回) (福岡県), 2011. 10.
- 331) 金沢義一, 藤田逸郎 r, 山田岳史, 加藤俊二, 桜澤信行, 小野寺浩之, 山下直行, 牧野浩司, 野村 務, 横井公良, 内田英二 (1) 日本医科大学 外科: 進行胃癌予後因子としての抗癌剤感受性試験 CD-DST の役割. 日本消化器外科学会大会 (第9回) (福岡県), 2011. 10.
- 332) 吉野雅則, 鈴木英之, 尾形昌男, 渡辺昌則, 千原直人, 松信哲朗, 三浦克洋, 中田亮輔, 越智友洋, 内田英二 (1) 日本医科大学 武蔵小杉病院 消化器病センター: 大腸癌イレウスにおける治療方針の検討. 日本消化器外科学会大会 (第9回) (福岡県), 2011. 10.
- 333) 山田岳史, 菅 隼人, 松本智司, 小泉岐博, 谷 杏彌, 辰口篤志, 横井公良, 内田英二 (1) 日本医科大学 外科: 大腸癌における irinotecan および oxaliplatin の効果予測. 日本消化器外科学会大会 (第9回) (福岡県), 2011. 10.
- 334) 沖野哲也, 吉安正行, 吉村和泰, 二見良平, 川本聖郎, 内田英二 (1) 博慈会記念総合病院: S 状結腸癌術後の腸管皮膚瘻に対し FOLFOX+cetuximab 療法が奏功した1例. 日本消化器外科学会大会 (第9回) (福岡県), 2011. 10.
- 335) 菅 隼人, 内田英二, 松本智司, 山田岳史, 小泉岐博, 佐々木順平, 谷 杏彌, 古川清憲 (1) 日本医科大学 外科: 大建中湯の鏡視下結腸癌術後症例における影響: X 線不透過マーカーを用いた腸管運動についての検討を中心に. 日本消化器外科学会大会 (第9回) (福岡県), 2011. 10.
- 336) 牧野浩司, 野村 務, 萩原信敏, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金沢義一, 櫻澤信行, 中村慶春, 勝田美和子, 吉田 寛, 宮下正夫, 内田英二 (1) 日本医科大学 外科: 腹臥位 VATS-E 標準化を目指した当科の工夫: セクレアを使用した食道切除術と食道 stripping による No.106 recL 郭清. 日本消化器外科学会大会 (第9回) (福岡県), 2011. 10.
- 337) 藤田逸郎, 木山輝郎, 菅野仁士, 小野寺浩之, 櫻澤信行, 金沢義一, 萩原信敏, 牧野浩司, 野村 務, 加藤俊二, 内田英二 (1) 日本医科大学 外科: 胃癌治療ガイドライン (第3版) からみた cT1NO に対する腹腔鏡補助下胃切除の問題点. 日本消化器外科学会大会 (第9回) (福岡県), 2011. 10.
- 338) 金谷洋平, 櫻澤信行, 藤田逸郎, 小野寺浩之, 金沢義一, 谷合信彦, 木山輝郎, 有馬保生, 加藤俊二, 内田英二 (1) 日本医科大学 外科: 胆道経路変更術後の胃癌発生の可能性: 総胆管十二指腸側々吻合後, 早期に胃癌をきたした2症例. 日本消化器外科学会大会 (第9回) (福岡県), 2011. 10.
- 339) 山下直行, 湖山信篤, 菅野仁士, 新井洋紀, 萩原信敏, 宮下正夫, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金沢義一, 内田英二 (1) 坪井病院 外科: 播種を中心とした根治不能胃癌に対する治療戦略. 日本消化器外科学会大会 (第9回) (福岡県), 2011. 10.
- 340) 豊田哲鎬, 塩谷 猛, 渡邊善正, 南部弘太郎, 山田太郎, 渋谷哲男, 鈴木英之, 内田英二 (1) さいたま市民医療センター 外科: 当院における Oncologic emergency 手術症例の検討. 日本消化器外科学会大会 (第9回) (福岡県), 2011. 10.
- 341) 栗山 翔, 水口義昭, 松本智司, 菅 隼人, 山田岳史, 小泉岐博, 佐々木順平, 谷 杏彌, 内田英二 (1) 日本医科大学付属病院 第一外科: 直腸癌術後遺残部より右下腿へ発症した壊死性筋膜炎に対して早期デブリドマン, 陰圧閉鎖療法 (VAC) にて救命し得た1症例. 日本消化器外科学会大会 (第9回) (福岡県), 2011. 10.
- 342) 加藤俊二, 小野寺浩之, 櫻澤信行, 金沢義一, 萩原信敏, 山下直行, 牧野浩司, 野村 務, 藤田逸郎, 内田英二 (1) 日本医科大学 外科: 在宅および転院支援のための PTEG (Percutaneous Trans-Esophageal Gastro-tubing) の有用性と問題点. 日本消化器外科学会大会 (第9回) (福岡県), 2011. 10.
- 343) 原絵津子, 山田岳史, 内田英二 (1) 日本医科大学 外科: 消火器癌患者に対するオキシコドン投与時の副作用防止に対する検討. 日本消化器外科学会大会 (第9回) (福岡県), 2011. 10.
- 344) 白川 毅, 横井公良, 横室茂樹, 瀬谷知子, 堀場光二, 鶴田宏之, 工藤秀徳, 勝田美和子, 勝野 暁, 川東 豊, 向後英樹, 高田英志, 坂田義則, 内田英二 (1) 日本医科大学 千葉北総病院 外科: 胃全摘術後, 器械吻合に

- よる Roux-en-Y 再建後合併症例の検討. 日本消化器外科学会大会 (第 9 回) (福岡県), 2011. 10.
- 345) 相本隆幸, 内田英二, 中村慶春, 廣井 信, 山初和也, 松下 晃, 勝野 暁, 張 一光, 川本聖郎<sup>(1)</sup> 日本医科大学 外科): 当科における膵頭十二指腸切除術に対する教育プログラム. 日本消化器外科学会大会 (第 9 回) (福岡県), 2011. 10.
- 346) 高尾嘉宗, 松谷 毅, 丸山 弘, 鈴木成治, 横山 正, 松下 晃, 平方敦史, 馬越通信, 吉田 寛, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院 外科): 腹臥位胸腔鏡下食道亜全摘術を施行した食道類基底細胞癌の 1 例. 日本食道学会学術集会 (第 65 回) (宮城県), 2011. 9.
- 347) 小泉里奈, 中村慶春, 吉岡正人, 清水哲也, 山初和也, 相本隆幸, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学消化器外科): 腎細胞癌の膵転移に対し, 腹腔鏡下脾温存膵尾部切除術を施行した 1 例. 外科集談会 (第 824 回) (東京都), 2012. 3.
- 348) 野村 務, 宮下正夫, 牧野浩司, 萩原信敏, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金沢義一, 中村慶春, 松本智司, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 丸山 弘, 松谷 毅, 岩切勝彦, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学 消化器外科): NERD 症例に対する腹腔鏡下逆流防止手術: 24 時間食道 pH・多チャンネルインピーダンス測定による適応の判断. 日本内視鏡外科学会総会 (第 24 回) (大阪府), 2011. 12.
- 349) 中村慶春, 松本智司, 田尻 孝, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学 外科): 腹腔鏡下膵切除術の定型化の可能性. 日本内視鏡外科学会総会 (第 24 回) (大阪府), 2011. 12.
- 350) 藤田逸郎, 木山輝郎, 小野寺浩之, 櫻澤信行, 萩原信敏, 金沢義一, 牧野浩司, 野村 務, 加藤俊二, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学付属病院 外科): 腹腔鏡補助下胃切除術の定型化における問題点. 日本内視鏡外科学会総会 (第 24 回) (大阪府), 2011. 12.
- 351) 松谷 毅, 丸山 弘, 横山 正, 松下 晃, 平方敦史, 高尾嘉宗, 馬越通信, 堀田正啓, 早川朋宏, 吉田 寛, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院 外科): 高度進行食道癌に対する腹腔鏡補助下食道バイパス手術. 日本内視鏡外科学会総会 (第 24 回) (大阪府), 2011. 12.
- 352) 山下直行, 赤須東樹, 五十嵐健人, 岡村律子, 軸智留雄, 竹間由佳, 栗田智子, 柳原恵子, 飯田信也, 芳賀駿介, 清水一雄<sup>(1)</sup> 日本医科大学 外科 乳腺科): 腋窩単孔・乳腺内視鏡手術における手術手技・器具の工夫. 日本内視鏡外科学会総会 (第 24 回) (大阪府), 2011. 12.
- 353) 小泉岐博, 内田英二, 菅 隼人, 松本智司, 山田岳史, 佐々木順平, 谷 杏彌, 原 敬介<sup>(1)</sup> 日本医科大学付属病院 消化器外科): 腹腔鏡下直腸癌手術における小開腹創から腹膜外アプローチを併用した側方郭清術. 日本内視鏡外科学会総会 (第 24 回) (大阪府), 2011. 12.
- 354) 鈴木英之, 尾形昌男, 吉野雅則, 松信哲朗, 三浦克洋, 菅 隼人, 松本智司, 小泉岐博, 渡辺昌則, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 大腸癌腹腔鏡下手術における肥満症例対策. 日本内視鏡外科学会総会 (第 24 回) (大阪府), 2011. 12.
- 355) 吉岡正人, 中村慶春, 松本智司, 山初和也, 野村 務, 牧野浩司, 田尻 孝, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学付属病院 外科): 腹腔鏡下尾側膵切除術 (Lap-DP) における自動縫合器を用いた膵切離法. 日本内視鏡外科学会総会 (第 24 回) (大阪府), 2011. 12.
- 356) 中村慶春, 松本智司, 吉岡正人, 野村 務, 牧野浩司, 田尻 孝, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学 外科): 腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術における膵臓の切離と吻合操作の工夫. 日本内視鏡外科学会総会 (第 24 回) (大阪府), 2011. 12.
- 357) 千原直人, 鈴木英之, 渡辺昌則, 星野有哉, 吉野雅則, 水谷 聡, 小峯 修, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院 消化器病センター): 標準術式としての TAPP の有用性と今後. 日本内視鏡外科学会総会 (第 24 回) (大阪府), 2011. 12.
- 358) 松下 晃, 松谷 毅, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 高尾嘉宗, 馬越通信, 堀田正啓, 早川朋宏, 鈴木成治, 吉田 寛, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学 多摩永山病院 外科): 当科における腹腔鏡下ヘルニア修復術の新たな

- 試み：BARD POLYSOFT を用いた TAPP 法. 日本内視鏡外科学会総会（第 24 回）（大阪府），2011. 12.
- 359) 松本智司, 菅 隼人, 鶴田宏之, 山田岳史, 小泉岐博, 佐々木順平, 鈴木英之, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学付属病院 外科)：右側結腸がんにおける単孔式手術の位置づけ. 日本内視鏡外科学会総会（第 24 回）（大阪府），2011. 12.
- 360) 松下 晃, 吉田 寛, 松谷 毅, 横山 正, 丸山 弘, 平方敦史, 高尾嘉宗, 馬越通信, 堀田正哲, 早川朋宏, 鈴木えりか, 中村慶春, 相本隆幸, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学 多摩永山病院 外科)：腹腔鏡下脾臓摘出術, 血行郭清術にて治療し得た胃静脈瘤の 1 例. 日本内視鏡外科学会総会（第 24 回）（大阪府），2011. 12.
- 361) 萩原信敏, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 藤田逸郎, 松本智司, 中村慶春, 金沢義一, 山下直行, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 篠塚恵理子, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学 外科)：スポンジスペンサー（セクレア<sup>®</sup>）使用による腹腔鏡補助下胃管作成の工夫. 日本内視鏡外科学会総会（第 24 回）（大阪府），2011. 12.
- 362) 上田純志, 野村 務, 山初和也, 重原健吾, 佐々木順平, 谷 杏彌, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学 消化器一般外科)：S 状結腸がヘルニア内容であった 3 回目の左鼠径ヘルニア再発に対して腹腔鏡下ヘルニア修復術を施行した 1 例. 日本内視鏡外科学会総会（第 24 回）（大阪府），2011. 12.
- 363) 平方敦史, 吉田 寛, 堀田正啓, 横山 正, 丸山 弘, 松谷 毅, 松下 晃, 高尾嘉宗, 馬越通信, 早川朋宏, 小泉里奈, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院 外科)：転移性横隔膜腫瘍に対し胸腔鏡下にて肺・横隔膜合併切除した 1 例. 日本内視鏡外科学会総会（第 24 回）（大阪府），2011. 12.
- 364) 新井洋紀, 山初和也, 中村慶春, 松本智司, 吉岡正人, 野村 務, 牧野浩司, 田尻 孝, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学 消化器・一般・乳腺・移植外科)：腹腔鏡下尾側膵切除術を施行した多発性 insulinoma の 1 例. 日本内視鏡外科学会総会（第 24 回）（大阪府），2011. 12.
- 365) 菅 隼人, 内田英二, 松本智司, 山田岳史, 小泉岐博, 佐々木順平, 谷 杏彌, 原 敬介, 古川清憲<sup>(1)</sup> 日本医科大学 外科)：結腸癌に対する鏡視下結腸切除術後の X 線不透過マーカーを用いた腸管運動の検討：回復手術との比較. 日本内視鏡外科学会総会（第 24 回）（大阪府），2011. 12.
- 366) 松谷 毅, 丸山 弘, 横山 正, 松下 晃, 平方敦史, 高尾嘉宗, 馬越通信, 堀田正啓, 早川朋宏, 吉田 寛, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院 外科)：腹臥位胸腔鏡下食道切除術における合併症軽減の工夫. 日本内視鏡外科学会総会（第 24 回）（大阪府），2011. 12.
- 367) 渡辺昌則, 小峯 修, 前島顕太郎, 村木 輝, 千原直人, 水谷 聡, 吉野雅則, 坊 英樹, 鈴木英之, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学 武蔵小杉病院 消化器病センター)：大腸緊急手術の SSI 対策. 日本腹部救急医学会総会（第 48 回）（石川県），2012. 3.
- 368) 中田亮輔, 鈴木英之, 千原直人, 渡辺昌則, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学 武蔵小杉病院 消化器病センター)：鼠径ヘルニア嵌頓に対する腹腔鏡を用いた治療戦略の構築. 日本腹部救急医学会総会（第 48 回）（石川県），2012. 3.
- 369) 清水貴夫, 水谷 聡, 鈴木英之, 黒田誠司, 越智友洋, 渡辺昌則, 田島廣之, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学 武蔵小杉病院 消化器病センター)：潰瘍底の動脈瘤破裂に対して NBCA を用いた血管閉栓術が有効であった出血性胃潰瘍の 1 例. 日本腹部救急医学会総会（第 48 回）（石川県），2012. 3.
- 370) 曾根教子, 吉野雅則, 鈴木英之, 渡辺昌則, 松信哲朗, 三浦克洋, 黒田誠司, 八木亜記, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学 武蔵小杉病院 消化器病センター)：術前に診断し, 腹腔鏡下虫垂切除術を施行した虫垂憩室炎の 1 例. 日本腹部救急医学会総会（第 48 回）（石川県），2012. 3.
- 371) 大山莉奈, 鈴木英之, 松信哲朗, 吉野雅則, 水谷 聡, 千原直人, 三浦克洋, 中田亮輔, 三島圭介, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学 武蔵小杉病院 消化器病センター)：治療に難渋した S 状結腸癌による閉塞性大腸炎穿孔の 1 例. 日本腹部救急医学会総会（第 48 回）（石川県），2012. 3.
- 372) 上田仁美, 吉田 寛, 上田純志, 牧野浩司, 横山 正, 丸山 弘, 平方敦史, 渡辺 学, 内田英一, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学付属病院 研修医)：術前に診断しえた上行結腸間膜裂孔ヘルニアの 1 例. 日本腹部救急医学

- 会総会（第48回）（石川県），2012. 3.
- 373) 松谷 毅, 野村 務, 萩原信敏, 宮下正夫, 丸山 弘, 牧野浩司, 吉田 寛, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学 医学部 外科): 胸腔鏡下食道癌術後早期に生じた横隔膜ヘルニアの1例. 日本腹部救急医学会総会（第48回）（石川県），2012. 3.
- 374) 関口久美子, 水口義昭, 有馬保生, 原田潤一郎, 真々田裕宏, 菅 隼人, 松本智司, 山田岳史, 小泉岐博, 進士誠一, 古川清憲, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学 消化器外科): 鼠径ヘルニア修復術13年後に難治性皮下腫瘍で発症した, メッシュプラグが盲腸へ遊走, 穿通した1例. 日本腹部救急医学会総会（第48回）（石川県），2012. 3.
- 375) 鈴木英之, 渡辺昌則, 吉野雅則, 坊 英樹, 松信哲朗, 三浦克洋, 小峯 修, 菅 隼人, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学 武蔵小杉病院 消化器病センター): 腹部救急疾患における人工肛門造設術. 日本腹部救急医学会総会（第48回）（石川県），2012. 3.
- 376) 青木悠人, 山田岳史, 菅 隼人, 松本智司, 小泉岐博, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学付属病院 外科学): 絞扼性イレウスの造影CT診断. 日本腹部救急医学会総会（第48回）（石川県），2012. 3.
- 377) 岩本美樹, 秋丸琥甫, 土屋喜一, 菅 隼人, 山田岳史, 小泉岐博, 清水哲也, 進士誠一, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学付属病院 外科): 内翻した空腸憩室を先進部とした腸重積症の1例. 日本腹部救急医学会総会（第48回）（石川県），2012. 3.
- 378) 吉野雅則, 鈴木英之, 渡辺昌則, 小峯 修, 水谷 聡, 松信哲朗, 中田亮輔, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学 武蔵小杉病院 消化器病センター): Bevacizumabの影響が考えられた術後縫合不全の2例. 日本腹部救急医学会総会（第48回）（石川県），2012. 3.
- 379) 水口義昭, 有馬保生, 真々田裕宏, 中村慶春, 谷合信彦, 内田英二, 清水哲也, 吉岡正人, 川野陽一, 横室茂樹<sup>(1)</sup> 日本医科大学 消化器外科): 開腹移行へのリスク因子分析から見た腹腔鏡下胆嚢摘出術の適応と限界. 日本腹部救急医学会総会（第48回）（石川県），2012. 3.
- 380) 村木 輝, 鈴木英之, 千原直人, 渡辺昌則, 星野有哉, 小峯 修, 前島顕太郎, 松信哲朗, 中田亮輔, 松本智司, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学 武蔵小杉病院 消化器病センター): 当院における虫垂炎に対する単孔式腹腔鏡下虫垂切除術の導入. 日本腹部救急医学会総会（第48回）（石川県），2012. 3.
- 381) 鈴木えりか, 吉田 寛, 丸山 弘, 松下 晃, 馬越通信<sup>(1)</sup> 日本医科大学外科): Meckel憩室に起因した絞扼性イレウスの1例. 日本腹部救急医学会総会（第48回）（石川県），2012. 3.
- 382) 松信哲朗, 鈴木英之, 水谷 聡, 渡辺昌則, 吉野雅則, 三浦克洋, 村木 輝, 中田亮輔, 八木亜記, 大山莉奈, 相本隆幸, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学 武蔵小杉病院): 腸重積穿孔にて発症した脂肪肉腫の1例. 日本腹部救急医学会総会（第48回）（石川県），2012. 3.
- 383) 菅 隼人, 内田英二, 松本智司, 山田岳史, 小泉岐博, 進士誠一, 佐々木順平, 谷 杏彌, 原 敬介, 古川清憲: 憩室炎によるS状結腸膀胱瘻症例の検討. 日本腹部救急医学会総会（第48回）（石川県），2012. 3.
- 384) 星野有哉, 鈴木英之, 水谷 聡, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学 武蔵小杉病院 消化器病センター): 高齢者内視鏡的経鼻胆道デレナージ (ENDB) 症例の検討. 日本腹部救急医学会総会（第48回）（石川県），2012. 3.
- 385) 原絵津子, 山田岳史, 菅 隼人, 松本智司, 小泉岐博, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学 消化器外科): CT値からみた壊死性絞扼性イレウスと非壊死性絞扼性イレウス. 日本腹部救急医学会総会（第48回）（石川県），2012. 3.
- 386) 堀場光二, 横井公良, 田中宣威, 横室茂樹, 瀬谷知子, 工藤秀徳, 佐々木順平, 若林秀幸, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学 千葉北総病院 外科): 下腸間膜動脈瘤破裂の影響が示唆されたS状結腸間膜血腫の1例. 日本腹部救急医学会総会（第48回）（石川県），2012. 3.
- 387) 黒田誠司, 鈴木英之, 尾形昌男, 吉野雅則, 水谷 聡, 千原直人, 松信哲朗, 野村 務, 内田英二<sup>(1)</sup> 日本医科大学 武蔵小杉病院 消化器病センター): 尿道バルーン閉塞による膀胱破裂の1例. 日本腹部救急医学会総

- 会 (第 48 回) (石川県), 2012. 3.
- 388) 古木裕康, 松本智司, 山田岳史, 野村 務, 菅 隼人, 中村慶春, 小泉岐博, 内田英二 (1) 日本医科大学付属病院 外科): 急性白血病寛解導入中の小児急性虫垂炎に対して腹腔鏡下虫垂切除術を施行した 1 例. 日本腹部救急医学会総会 (第 48 回) (石川県), 2012. 3.
- 389) 青木悠人, 中村慶春, 松本智司, 水口義昭, 清水哲也, 内田英二 (1) 日本医科大学付属病院 外科学): 虫垂炎術後の皮膚瘻に回盲部が嵌服頓した 1 例. 日本腹部救急医学会総会 (第 48 回) (石川県), 2012. 3.
- 390) 和田由大, 鈴木英之, 渡辺昌則, 坊 英樹, 小峯 修, 前島顕太郎, 黒田誠司, 田島廣之, 竹ノ下尚子, 内田英二 (1) 日本医科大学 武蔵小杉病院 消化器病センター): 胃癌に合併した右胃動脈仮性動脈瘤出血に対して IVR が奏功した 1 例. 日本腹部救急医学会総会 (第 48 回) (石川県), 2012. 3.
- 391) 中田亮輔, 鈴木英之, 吉野雅則, 松信哲朗, 三浦克洋, 内田英二 (1) 日本医科大学 武蔵小杉病院 消化器病センター): 径肛門イレウス管挿入 4 日目に穿孔を来した横行結腸癌の 1 例. 日本腹部救急医学会総会 (第 48 回) (石川県), 2012. 3.
- 392) 水谷 聡, 鈴木英之, 星野有哉, 黒田誠司, 村木 輝, 前島顕太郎, 吉野雅則, 小峯 修, 渡辺昌則, 内田英二 (1) 日本医科大学 武蔵小杉病院 消化器病センター): 成人における総肝管腹腔内穿孔の 1 例. 日本腹部救急医学会総会 (第 48 回) (石川県), 2012. 3.
- 393) 八木重記, 鈴木英之, 松信哲朗, 星野有哉, 吉野雅則, 三浦克洋, 村木 輝, 中田亮輔, 内田英二 (1) 日本医科大学 武蔵小杉病院 消化器病センター): 潰瘍穿通を来した CMV 腸炎の 1 例. 日本腹部救急医学会総会 (第 48 回) (石川県), 2012. 3.
- 394) 保田智彦, 真々田裕宏, 相本隆幸, 松下 晃, 川野陽一, 上田純志, 内田英二 (1) 日本医科大学 消化器外科): 胸腔トロッカーによる穿通性脾損傷を部分脾動脈塞栓術 (PSE) にて治療した 1 例. 日本腹部救急医学会総会 (第 48 回) (石川県), 2012. 3.
- 395) 松本智司, 中村慶春, 野村 務, 菅 隼人, 山田岳史, 小泉岐博, 内田英二 (1) 日本医科大学付属病院 外科): 単孔式虫垂切除術の限界と双孔式虫垂切除術の標準化への取り組み. 単孔式内視鏡手術研究会 (第 5 回) (広島県), 2012. 2.
- 396) 松谷 毅, 藤田逸郎, 金沢義一, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 加藤俊二, 野村 務, 萩原信敏, 馬越通信, 吉田 寛, 内田英二 (1) 日本医科大学 医学部 外科): 胃癌術後局所再発に対するステント治療. 日本胃癌学会総会 (第 84 回) (大阪府), 2012. 2.
- 397) 菅野仁士, 山下直行, 岩井琢磨, 湖山信篤, 小野寺浩之, 櫻澤信行, 金沢義一, 藤田逸郎, 木山輝郎, 加藤俊二, 萩原信敏, 野村 務, 宮下正夫, 内田英二 (1) 坪井病院 外科): 幽門側胃切除における迷走神経温存の残胃環境に対する効果. 日本胃癌学会総会 (第 84 回) (大阪府), 2012. 2.
- 398) 萩原信敏, 宮下正夫, 加藤俊二, 野村 務, 牧野浩司, 松谷 毅, 藤田逸郎, 金沢義一, 山下直行, 丸山 弘, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 赤城一郎, 篠塚恵理子, 内田英二 (1) 日本医科大学 外科): 当科における食道癌術後の胃管癌の発生と治療. 日本胃癌学会総会 (第 84 回) (大阪府), 2012. 2.
- 399) 藤田逸郎, 木山輝郎, 小野寺浩之, 櫻澤信行, 菅野仁士, 金沢義一, 萩原信敏, 松谷 毅, 牧野浩司, 野村 務, 加藤俊二, 内田英二 (1) 日本医科大学付属病院 外科): 腹腔鏡下幽門側胃切除における D2 郭清. 日本胃癌学会総会 (第 84 回) (大阪府), 2012. 2.
- 400) 櫻澤信行, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金沢義一, 小野寺浩之, 野村 務, 牧野浩司, 松谷 毅, 萩原信敏, 内田英二 (1) 日本医科大学付属病院 消化器外科): 低身長症の粘膜炎癌にマルチベンディングスコープとスプリングトラクション法で切除しえた ESD の 1 症例. 日本胃癌学会総会 (第 84 回) (大阪府), 2012. 2.
- 401) 山下直行, 湖山信篤, 菅野仁士, 岩井琢磨, 吉田初雄, 萩原信敏, 櫻澤信行, 藤田逸郎, 加藤俊二, 宮下正夫, 牧野浩司, 内田英二 (1) 坪井病院 外科): 上部限局胃癌に対する噴門側胃切除術 (迷走神経温存胃漿膜筋層縦切開噴門形成): その中長期的評価. 日本胃癌学会総会 (第 84 回) (大阪府), 2012. 2.

- 402) 松谷 毅, 藤田逸郎, 金沢義一, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 加藤俊二, 野村 務, 萩原信敏, 丸山 弘, 吉田 寛, 内田英二 <sup>(1)</sup> 日本医科大学 医学部 外科) : 腹腔鏡下胃全摘術における開腹用 Circular stapler 型自動吻合器を用いた吻合法 : 直針を用いた巾着吻合. 日本胃癌学会総会 (第 84 回) (大阪府), 2012. 2.
- 403) 牧野浩司, 藤田逸郎, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 松下 晃, 平方敦史, 高尾嘉宗, 馬越通信, 堀田正啓, 早川朋宏, 野村 務, 松谷 毅, 萩原信敏, 内田英二 <sup>(1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院 外科) : 胃癌腹腔鏡下手術の食道癌における腹腔鏡下胃管作成術への応用・導入. 日本胃癌学会総会 (第 84 回) (大阪府), 2012. 2.
- 404) 小野寺浩之, 加藤俊二, 櫻澤信行, 金沢義一, 萩原信敏, 山下直行, 松谷 毅, 牧野浩司, 野村 務, 藤田逸郎, 内田英二 <sup>(1)</sup> 日本医科大学 外科) : 在宅治療を困難にさせる癌性腹膜炎への対応 : 在宅支援のための PTEG の有用性. 日本胃癌学会総会 (第 84 回) (大阪府), 2012. 2.
- 405) 金沢義一, 藤田逸郎, 山田岳史, 加藤俊二, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 松谷 毅, 白川 毅, 山下直行, 横井公良, 内田英二 <sup>(1)</sup> 日本医科大学付属病院 外科) : 進行胃癌における抗癌剤感受性試験と予後の関連. 日本胃癌学会総会 (第 84 回) (大阪府), 2012. 2.
- 406) 山下直行, 湖山信篤, 菅野仁士, 岩井琢磨, 内田英二 <sup>(1)</sup> 坪井病院 外科) : 進行再発胃癌の治療における経腸栄養 (経口摂取) の重要性. 日本胃癌学会総会 (第 84 回) (大阪府), 2012. 2.
- 407) 前島顕太郎, 坊 英樹, 鈴木英之, 渡辺昌則, 尾形昌男, 吉野雅則, 小峯 修, 水谷 聡, 千原直人, 内田英二 <sup>(1)</sup> 日本医科大学 武蔵小杉病院 消化器病センター) : 当科における胃 GIST 手術症例の検討. 日本胃癌学会総会 (第 84 回) (大阪府), 2012. 2.
- 408) 住吉宏樹, 藤田逸郎, 加藤俊二, 金沢義一, 萩原信敏, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 新井洋紀, 保田智彦, 野村 務, 松谷 毅, 内田英二 <sup>(1)</sup> 日本医科大学付属病院 消化器・一般・乳腺・移植外科学) : 胃消化管間質腫瘍 (GIST) において, 核分裂数と MIB-1 陽性細胞率に相関が認められなかった 1 例. 日本胃癌学会総会 (第 84 回) (大阪府), 2012. 2.
- 409) Makino H, Nomura T, Katsuta M, Yoshida H, Tajiri T, Uchida E <sup>(1)</sup> Nippon Medical School) : Lymph Node Dissection Along The Left Recurrent Laryngeal Nerve After Esophageal Stripping And Video Assisted Thoracoscopic Surgery Of Esophagus (VATS-E) Using Sponge Spacer In Prone Position. 10th Asia Pacific Congress of Endoscopic Surgery (Singapore), 2011. 8.
- 410) Nomura T, Miyashita M, Makino H, Hagiwara N, Nakamura Y, Uchida E <sup>(1)</sup> Nippon Medical School) : Single-Incision Laparoscopic Surgery (SILS) for Esophageal Achalasia : A Case Report. 10th Asia Pacific Congress of Endoscopic Surgery (Singapore), 2011. 8.
- 411) Nomura T, Miyashita M, Makino H, Hagiwara N, Nakamura Y, Uchida E <sup>(1)</sup> Nippon Medical School) : Laparoscopic Operation for a Giant Hiatal Hernia. 10th Asia Pacific Congress of Endoscopic Surgery (Singapore), 2011. 8.
- 412) 牧野浩司, 宮下正夫, 野村 務, 萩原信敏, 岩切勝彦, 河越哲郎, 川見典之, 内田英二, 田尻 孝 <sup>(1)</sup> 日本医科大学 医学部 消化器外科) : 鼻痛と鼻出血を軽減する経鼻内視鏡用のオーバーチューブ<ノーズ・ピース>の使用経験. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 81 回) (福岡県), 2011. 10.
- 413) 牧野浩司, 野村 務, 萩原信敏, 勝田美和子, 吉田 寛, 横井公良, 宮下正夫, 内田英二 <sup>(1)</sup> 日本医科大学 第一外科) : 当科の食道癌鏡視下手術における術式の変遷と体位とデバイス使用の工夫. 日本胸部外科学会定期学術集会 (第 64 回) (愛知県), 2011. 10.
- (9) ビデオワークショップ :
- 1) 牧野浩司, 宮下正夫, 野村 務, 萩原信敏, 藤田逸郎, 金沢義一, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 加藤俊二, 横井公良<sup>1)</sup>, 内田英二 <sup>(1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院外科) : 食道鏡視下手術の工夫 当科の食道癌鏡視下手術における術式の変遷と体位とデバイス使用の工夫. 日本外科学会定期学術集会 (第 111 回) (誌上開催), 2011. 5.

(10) ランチョン：

- 1) 中村慶春：扉は開かれた：肝・膵腹腔鏡下手術。日本肝胆膵外科学会・学術集会（第23回）（東京），2011. 6.
- 2) 中村慶春：腹腔鏡下膵切除術：標準化に向けた戦略。内視鏡外科フォーラム東北（第22回）（山形），2011. 6.
- 3) 山田岳史：抗癌治療と同時に行う初期緩和治療：クリニカルパスを活用したオピオイド導入の標準化。日本消化器外科学会総会（第66回）（名古屋），2011. 7.

## [多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科]

### 研究概要

「研究体制とその現状」研究目的臨床上の疑問点をテーマとし臨床研究で得られた結果をフィードバックさせ、治療成績の向上を目指す。研究体制消化器系臓器別に上部消化管、下部消化管、肝胆膵の3領域における病態生理、臨床病理的研究を行う体制をとっている。研究課題は癌に関連するものが多い。手術手技、腹腔鏡下手術など外科特有のものもある。研究者は自分の診療における専門領域に関する研究課題を見出しテーマとしている。研究材料、方法診療業務から得た臨床データ、血液、組織、臓器等を材料としている。病理組織学的方法を用いる場合には、当院病理部との共同研究となる。分子生物学的手法を用いる場合は、武蔵小杉病院老人病研究所と協力している。文部科学省、厚生労働省の科学研究補助金による研究、多施設共同研究、日本がん臨床試験推進機構主導の臨床試験にも参画している。研究結果の公表各医学会、多摩地域の研究会等で発表する。さらに原著、症例報告、著書等に論文として公表する。

### 研究業績

#### 論文

#### 〔追加分〕

#### 追加分総説：

- 1) 谷合信彦, 吉田 寛, 真々田裕宏, 峯田 章, 川野陽一, 田尻 孝, 内田英二：門脈圧亢進症合併肝細胞癌における部分脾動脈塞栓術（PSE）の意義（脾摘 vs PSE）。日本門脈圧亢進症学会雑誌 2010；16（3）：127-133.
- 2) 谷合信彦, 田尻 孝, 吉田 寛, 内田英二：部分脾動脈塞栓術。肝胆膵 2010；61（4）：579-584.

#### 追加分原著：

- 1) Mizuguchi Y, Mishima T, Yokomuro S, Arima Y, Kawahigashi Y, Shigehara K, Kanda T, Yoshida H, Uchida E, Tajiri T, Takizawa T : Sequencing and Bioinformatics-Based Analyses of the microRNA Transcriptome in Hepatitis B-Related Hepatocellular Carcinoma. PLoS One 2011 ; 6 (1) : e15304-e15304.
- 2) Ishikawa Y, Yoshida H, Mamada Y, Taniiai N, Matsumoto S, Bando K, Mizuguchi Y, Kakinuma D, Kanda T, Tajiri T : Prospective randomized controlled study of short-term perioperative enteral nutrition with branched chain amino acids in patients undergoing liver surgery. Hepato-Gastroenterology 2010 ; 57 (99-100) : 583-590.
- 3) Kanda T, Ishibashi O, Kawahigashi Y, Mishima T, Takuji K, Mizuguchi Y, Shimizu T, Arima Y, Yokomuro S, Yoshida H, Tajiri T, Uchida E, Takizawa T : Identification of Obstructive Jaundice-related MicroRNAs in Mouse Liver. Hepato-Gastroenterology 2010 ; 57 (102-103) : 1013-1023.
- 4) Yoshida H, Mamada Y, Taniiai N, Mineta S, Kawano Y, Mizuguchi Y, Kanda T, Tajiri T : Shunting and nonshunting procedures for the treatment of esophageal varices in patients with idiopathic portal hypertension. Hepato-Gastroenterology 2010 ; 57 (102-103) : 1139-1144.

#### 追加分症例報告：

- 1) 松谷 毅, 内田英二, 吉田 寛, 鈴木成治, 丸山 弘, 横山 正, 松下 晃, 平方敦史, 川本聖郎, 新井洋紀,

馬越通信, 若林秀幸, 笹島耕二: ネフローゼ症候群を合併した高齢者進行食道がんに対し Docetaxel/ Nedaplatin/5-Fluorouracil 併用科学療法で CR が得られた 1 例. 癌と化学療法 2011; 38 (3): 439-441.

- 2) Ueda J, Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Mineta S, Yoshioka M, Hirakata A, Kawano Y, Kanda T, Uchida E: Resection of hepatocellular carcinoma recurring in the diaphragm after right hepatic lobectomy. J Nippon Med Sch 2011; 78 (1): 30-33.
- 3) Uetama T, Yoshida H, Hirakata A, Yokoyama T, Maruyama H, Suzuki S, Matsutani T, Matsushita A, Sasajima K, Uchida E: A symptomatic giant hepatic hemangioma treated by hepatectomy. J Nippon Med Sch 2011; 78 (1): 34-39.
- 4) Ueda J, Yoshida H, Taniai N, Mineta S, Kawano Y, Uchida E: A case of spontaneous rupture of a simple hepatic cyst. J Nippon Med Sch 2010; 77 (3): 181-185.
- 5) 松谷 毅, 内田英二, 丸山 弘, 若林秀幸, 吉田 寛, 笹島耕二: 経皮内視鏡的胃瘻造設術が困難な高度進行食道癌に対し腹腔鏡下胃瘻造設術を施行した 1 例. 日本医科大学医学会雑誌 2010; 6 (4): 190-192.
- 6) Tani A, Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Kawano Y, Uchida E: Extrahepatic portal venous obstruction due to a giant hepatic hemangioma associated with Kasabach-Merritt syndrome. J Nippon Med Sch 2010; 77 (5): 269-272.
- 7) Kikuchi Y, Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Mineta S, Yoshioka M, Hirakata A, Kawano Y, Ueda J, Uchida E: Huge caudate lobe of the liver due to Budd-Chiari syndrome. J Nippon Med Sch 2010; 77 (6): 328-332.

(1) 原著:

- 1) 馬越通信, 松谷 毅, 内田英二: 十二指腸用 self expandable metallic stent 留置の経験. Gastroenterological Endoscopy 2011; 53 (6): 1648-1649.
- 2) Shigehara K, Yokomuro S, Ishibashi O, Mizuguchi Y, Arima Y, Kawahigashi Y, Kanda T, Akagi I, Tajiri T, Yoshida H, Takizawa T, Uchida E: Real-Time PCR-Based Analysis of the Human Bile MicroRNAome Identifies miR-9 as a Potential Diagnostic Biomarker for Biliary Tract Cancer. PLoS One 2011; 6 (8): e23584.

(2) 総説:

- 1) 吉田 寛, 笹島耕二, 平方敦史, 真々田裕宏, 谷合信彦, 内田英二: 「術後患者のチューブ管理について学ぼう!」肝切除術後のチューブ. 消化器外科ナーシング 2011; 16 (6): 35-43.
- 2) 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 吉岡正人, 平方敦史, 内田英二: 門脈圧亢進症の治療 update 2. 門脈圧亢進症に対する外科治療と IVR (4) 部分的脾動脈塞栓術. 臨床消化器内科 2012; 27 (2): 211-215.
- 3) Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Yoshioka M, Hirakata A, Kawano Y, Mizuguchi Y, Shimizu T, Ueda J, Uchida E: Treatment modalities for bleeding esophagogastric varices. J Nippon Med Sch 2012; 79 (1): 19-30.

(3) 症例報告:

- 1) 松谷 毅, 内田英二, 川本聖郎, 鈴木成治, 吉田 寛, 笹島耕二: 胃癌術後の空腸癌性狭窄と Schnitzler 転移に対し self-expandable metallic stent 留置によって quality of life が改善しえた 1 例. 外科 2011; 73 (13): 1509-1512.
- 2) 松谷 毅, 内田英二, 丸山 弘, 吉田 寛, 笹島耕二: 単孔式内視鏡手術で腹腔鏡下胃瘻造設術を行った癌性食道狭窄の 1 例. 日本内視鏡外科学会雑誌 2011; 16 (4): 501-505.
- 3) Tani A, Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Mineta S, Yoshioka M, Kawano Y, Ueda J, Naito Z, Uchida E: Hepatic angiomyolipoma with a giant hemangioma. J Nippon Med Sch 2011; 78 (5): 317-321.

- 4) Iwai T, Yoshida H, Yokoyama T, Maruyama H, Suzuki S, Matsutani T, Matsushita A, Hirakata A, Sasajima K, Uchida E : Migration of a Fish Bone into the Right Renal Vein. J Nippon Med Sch 2011 ; 78 (3) : 189-193.
- 5) 杉浦 篤, 内田英二, 松谷 毅, 丸山 弘, 横山 正, 鈴木成治, 吉田 寛, 笹島耕二 : 盲腸腺扁平上皮癌の1例. 日医大医会誌 2011 ; 7 (3) : 129-132.
- 6) Kaneya Y, Yoshida H, Matsutani T, Hirakata A, Matsushita A, Suzuki S, Yokoyama T, Maruyama H, Sasajima K, Uchida E : Biliary Obstruction due to a Huge Simple Hepatic Cyst Treated with Laparoscopic Resection. J Nippon Med Sch 2011 ; 78 (2) : 105-109.
- 7) 若林秀幸, 内田英二, 松谷 毅, 鈴木成治, 丸山 弘, 横山 正, 吉田 寛, 片山博徳, 細根 勝, 笹島耕二 : S1/CDDP 化学療法でCR後14ヵ月に両側腸腰筋転移をきたした高度進行胃癌の1例. 癌の臨床 2011 ; 56 (7) : 557-562.
- 8) Ueda J, Yoshida H, Mamada Y, Tani ai N, Mineta S, Yoshioka M, Kawano Y, Narita K, Naito Z, Uchida E : A case of xanthogranulomatous cholecystitis preoperatively diagnosed by contrast-enhanced ultrasonography. J Nippon Med Sch 2011 ; 78 (3) : 194-198.
- 9) Harada J, Yoshida H, Ueda J, Mamada Y, Tani ai N, Mineta S, Yoshioka M, Kawano Y, Shioda Y, Uchida E : Malignant hepatic epithelioid hemangioendothelioma with abdominal pain due to rapid progression. J Nippon Med Sch 2011 ; 78 (4) : 246-251.
- 10) Kawano Y, Yoshida H, Mamada Y, Tani ai N, Katsuta Y, Uchida E : Intracystic hemorrhage from one of multiple hepatic cysts. J Nippon Med Sch 2011 ; 78 (5) : 312-316.
- 11) 新井洋紀, 内田英二, 松谷 毅, 丸山 弘, 吉田 寛, 笹島耕二 : 直腸S状結腸に発生した子宮内膜症の3例. 外科 2011 ; 73 (11) : 1245-1248.
- 12) 若林秀幸, 松谷 毅, 吉田 寛, 笹島耕二, 内田英二 : CA19-9産生癌および非産生癌による多発胃癌の1例. 日本臨床外科学会誌 2011 ; 72 (12) : 3056-3060.
- 13) 松谷 毅, 吉田 寛, 松下 晃, 丸山 弘, 笹島耕二, 内田英二 : 食道空腸吻合部狭窄に対する内視鏡的バルーン拡張術後に生じた緊張性気胸を伴った食道破裂の1例. 日本腹部救急医学会雑誌 2012 ; 32 (1) : 109-113.

## 著 書

### 〔追加分〕

追加分 :

- 1) 吉田 寛, 谷合信彦, 真々田裕宏, 内田英二 : 〔分担〕 XII 肝動脈, 肝静脈, 門脈系異常 門脈海綿状変形. 新領域別症候群シリーズ No.14 肝・胆道系症候群 (第2版) II 肝臓編 (下), 2010 ; pp84-86, 日本臨社.
- 1) 吉田 寛, 平方敦史, 横山 正, 鈴木成治, 丸山 弘, 松谷 毅, 笹島耕二, 真々田裕宏, 谷合信彦, 川野陽一, 内田英二, 田尻 孝 : 〔分担〕 特発性門脈圧亢進症. 脾臓—基礎と臨床—(沖永功太), 2011 ; pp159-164, へるす出版.
- 2) 吉田 寛 : 〔分担〕 門脈圧亢進症. 平成23年度 日本肝臓学会教育講演会テキスト (日本肝臓学会生涯教育委員会), 2011 ; pp93-103, 日本肝臓学会.
- 3) 吉田 寛 : 〔分担〕 門脈圧亢進症 (食道・胃静脈瘤を含む). 今日の治療指針 (山口 徹, 北原 光夫, 福井 次矢), 2012 ; pp470-471, 医学書院.

## 学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) 丸山 弘, 横山 正, 松下 晃, 平方敦史, 高尾嘉宗, 小泉里奈, 吉田 寛, 古川清憲, 内田英二 : 耐性菌に対

- するカルバペネム系抗菌薬届け出制の効果. 日本外科感染症学会総会学術集会 (第 24 回) (三重), 2011. 12.
- 2) 谷合信彦, 吉田 寛, 真々田裕宏, 吉岡正人, 川野陽一, 清水哲也, 上田純志, 水口義昭, 内田英二: 門脈血栓症に対する門脈系 IVR の適応と限界. 日本腹部救急医学会総会 (第 48 回) (石川), 2012. 3.
- (2) パネルディスカッション:
- 1) 牧野浩司, 野村 務, 吉田 寛, 萩原信敏, 藤田逸郎, 金沢義一, 桜澤信行, 小野寺浩之, 中村慶春, 松本智司, 加藤俊二, 勝田美和子, 横井公良, 宮下正夫, 内田英二: 当科で施行してきた左側臥位・腹臥位胸腔鏡下食道切除術からみたメリット・デメリット. 日本臨床外科学会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 2) 川野陽一, 相本隆幸, 谷合信彦, 真々田裕宏, 中村慶春, 廣井 信, 峯田 章, 吉岡正人, 上田純志, 村田 智, 汲田伸一郎, 吉田 寛, 内田英二: 当科における脾切除後動脈性出血に対する緊急 IVR の位置づけ. 日本外科系連合学会学術集会 (第 36 回) (千葉), 2011. 6.
- (3) ワークショップ:
- 1) 谷合信彦, 吉田 寛, 内田英二: 劇症肝炎に対する高速持続的血液濾過透析 (HFCHDF) の効果と問題点. 日本消化器病学会総会 (第 97 回) (東京), 2011. 5.
- 2) 横山 正, 吉田 寛, 丸山 弘, 松谷 毅, 松下 晃, 平方敦史, 高尾嘉宗, 馬越通信, 堀田正啓, 早川朋宏, 内田英二: 我々の脾頭十二指腸切除術のドレーン管理と検討. 日本臨床外科学会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 3) 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 横山 正, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 松下 晃, 平方敦史, 馬越通信, 高尾嘉宗, 堀田正啓, 早川朋宏, 内田英二: 当科における肝切除のクリニカルパスの変遷とその効果. 日本臨床外科学会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 4) 谷合信彦, 吉田 寛, 真々田裕宏, 吉岡正人, 川野陽一, 水口義昭, 清水哲也, 上田純志, 内田英二: 劇症肝炎に対する高速持続的血液濾過透析 (HFCHDF). 日本腹部救急医学会総会 (第 48 回) (石川), 2012. 3.
- (4) 一般講演:
- 1) 馬越通信, 吉田 寛, 鈴木成治, 松谷 毅, 丸山 弘, 横山 正, 松下 晃, 平方敦史, 高尾嘉宗, 早川朋宏, 細根 勝, 内田英二: 胃原発性 GIST と鑑別を要した胃異所性脾の一手術例. 日本消化器病学会総会 (第 97 回) (東京), 2011. 5.
- 2) 松谷 毅, 吉田 寛, 鈴木成治, 丸山 弘, 横山 正, 松下 晃, 平方敦史, 高尾嘉宗, 馬越通信, 早川朋宏, 内田英二: ネフローゼ症候群を合併した高齢者進行食道癌に対し docetaxel/nedaplatin/5-fluorouracil 併用化学療法で CR が得られた 1 例. 日本消化器病学会総会 (第 97 回) (東京), 2011. 5.
- 3) 鈴木成治, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 松谷 毅, 松下 晃, 平方敦史, 高尾嘉宗, 馬越通信, 早川朋宏, 松久威史, 津久井拓, 内田英二: 当科における高度進行・再発大腸癌症例における抗 EGFR 抗体薬の投与状況と継続投与の意義. 日本消化器病学会総会 (第 97 回) (東京), 2011. 5.
- 4) 松下 晃, 笹島耕二, 吉田 寛, 横山 正, 鈴木成治, 丸山 弘, 松谷 毅, 平方敦史, 高尾嘉宗, 馬越通信, 早川朋宏, 岩井拓磨, 内田英二: 十二指腸水平脚の巨大憩室により Lemmel 症候群様徴候を呈した 1 例. 日本消化器病学会総会 (第 97 回) (東京), 2011. 5.
- 5) 松谷 毅, 宮下正夫, 丸山 弘, 松田明久, 沓掛真彦, 田村和広, 内田英二: マウス敗血症モデルにおける脂肪細胞の炎症性サイトカイン産生とピオグリタゾンの効果. 日本 Shock 学会総会 (第 26 回) (静岡県), 2011. 5.
- 6) 牧野浩司, 宮下正夫, 野村 務, 萩原信敏, 藤田逸郎, 加藤俊二, 中村慶春, 山下直行, 横井公良, 内田英二: 当科の工夫: 食道ストリップングが, 腹臥位 VATS-E における左反回神経リンパ節郭清を簡便にする. 日本消化器外科学会総会 (第 66 回) (名古屋), 2011. 7.
- 7) 平方敦史, 松谷 毅, 松下 晃, 馬越通信, 高尾嘉宗, 早川朋宏, 横山 正, 鈴木成治, 吉田 寛, 内田英二: 当科における女性ヘルニア症例の現状と手術術式. 日本ヘルニア学会学術集会 (第 9 回) (福岡), 2011. 8.
- 8) 丸山 弘, 松谷 毅, 松下 晃, 平方敦史, 横山 正, 鈴木成治, 高尾嘉宗, 馬越通信, 早川朋宏, 吉田 寛, 内田英二: ソケイヘルニア修復術を用いた外科医習熟度の検討. 日本ヘルニア学会学術集会 (第 9 回) (福岡),

2011. 8.

- 9) 松下 晃, 松谷 毅, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 高尾嘉宗, 馬越通信, 早川朋宏, 鈴木えりか, 鈴木成治, 吉田 寛, 内田英二: 併存する鼠径および大腿ヘルニアの確認と Prolene Hernia System を用いた修復方法. 日本ヘルニア学会学術集会 (第9回) (福岡), 2011. 8.
- 10) 馬越通信, 松谷 毅, 松下 晃, 平方敦史, 丸山 弘, 横山 正, 高尾嘉宗, 早川朋宏, 鈴木えりか, 原田潤一郎, 鈴木成治, 吉田 寛, 笹島耕二, 内田英二: 卵巣嚢腫摘出術後のポートサイトヘルニアに腹腔鏡下腹壁ヘルニア修復術を施行した1例. 日本ヘルニア学会学術集会 (第9回) (福岡), 2011. 8.
- 11) 早川朋宏, 丸山 弘, 平方敦史, 横山 正, 鈴木成治, 松谷 毅, 松下 晃, 高尾嘉宗, 馬越通信, 岩井琢磨, 富田理紗子, 吉田 寛, 内田英二, 笹島耕二: 後腹膜腔から横隔膜まで気腫症を認めた直腸穿孔の1例. 日本腹部救急医学会総会 (第47回) (福岡), 2011. 8.
- 12) 松谷 毅, 内田英二, 吉田 寛, 松下 晃, 鈴木成治, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 高尾嘉宗, 馬越通信, 早川朋宏, 笹島耕二: 食道空腸吻合部狭窄に対する内視鏡的バルーン拡張術後に食道破裂から緊張性気胸を起こしたと考えられた1例. 日本腹部救急医学会総会 (第47回) (福岡), 2011. 8.
- 13) Makino H, Nomura T, Katsuta M, Yoshida H, Tajiri T, Uchida E: Lymph Node Dissection Along The Left Recurrent Laryngeal Nerve After Esophageal Stripping And Video Assisted Thoracoscopic Surgery Of Esophagus (VATS-E) Using Sponge Spacer In Prone Position. 10th Asia Pacific Congress of Endoscopic Surgery/11-13 August 2011 (Singapore), 2011. 8.
- 14) 牧野浩司, 宮下正夫, 野村 務, 萩原信敏, 岩切勝彦, 河越哲郎, 川見典之, 内田英二, 田尻 孝: 鼻痛と鼻出血を軽減する経鼻内視鏡用のオーバーチューブ<ノーズ・ピース>の使用経験. 日本消化器内視鏡学会総会 (第81回) (名古屋), 2011. 8.
- 15) Makino H, Nomura T, Hagiwara N, Nakamura Y, Katsuta M, Yokoi K, Miyashita M, Uchida E: Esophageal stripping creates a clear operative field for lymph node dissection along the left recurrent nerve in prone videoassisted thoracoscopic surgery: a case report. INTERNATIONAL SURGICAL WEEK/ISW2011 28 August-1 September, 2011 (Pacifco Yokohama, Japan), 2011. 8.
- 16) Makino H, Hagiwara N, Matsumoto S, Nomura T, Nakamizo M, Yokoshima K, Miyashita M, Uchida E: Single incisional laparoscopic jejunal flap harvesting for the reconstruction following laryngo-pharyngo-esophagectomy. INTERNATIONAL SURGICAL WEEK/ISW2011 28 August-1 September, 2011 (Pacifco Yokohama, Japan), 2011. 8.
- 17) Matsutani T, Yoshida H, Maruyama H, Suzuki S, Yokoyama T, Matsushita A, Hirakata A, Uchida E: Successful laparoscopy assisted esophageal bypass operation for esophagobronchial fistula following migration of self-expandable metallic esophageal stent: a case report. INTERNATIONAL SURGICAL WEEK/ISW2011 28 August-1 September, 2011 (Pacifco Yokohama, Japan), 2011. 8.
- 18) Matsutani T, Hirakata A, Maruyama H, Suzuki S, Yokoyama T, Umakoshi M, Yoshida H, Uchida E: Fluorescence navigation with indocyanine green for detecting the site of chylothorax after esophagectomy: report of a case. INTERNATIONAL SURGICAL WEEK/ISW2011 28 August-1 September, 2011 (Pacifco Yokohama, Japan), 2011. 8.
- 19) Hayakawa T, Yoshida H, Yokoyama T, Maruyama H, Suzuki S, Hirakata A, Sasajima K, Uchida E: Spontaneous complete necrosis of advanced hepatocellular carcinoma. INTERNATIONAL SURGICAL WEEK/ISW2011 28 August-1 September, 2011 (Pacifco Yokohama, Japan), 2011. 8.
- 20) Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Mineta S, Yoshioka M, Hirakata A, Kawano Y, Uchida E: Shunting and nonshunting procedures for the treatment of esophageal varices in patients with idiopathic portal hypertension. INTERNATIONAL SURGICAL WEEK/ISW2011 28 August-1 September, 2011 (Pacifco Yokohama,

Japan), 2011. 8.

- 21) Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Mineta S, Yoshioka M, Hirakata A, Kawano Y, Uchida E : Hepatico-duodenostomy in hepatectomy for perihilar cholangiocarcinoma : a preliminary report. INTERNATIONAL SURGICAL WEEK/ISW2011 28 August-1 September, 2011 (Pacifco Yokohama, Japan), 2011. 8.
- 22) 松谷 毅, 内田英二, 丸山 弘, 鈴木成治, 横山 正, 松下 晃, 平方敦史, 高尾嘉宗, 馬越通信, 早川朋宏, 吉田 寛, 笹島耕二 : 腹臥位胸腔鏡下食道切除術の術中管理と工夫. 日本外科学会的學術集会 (第 111 回) (紙上開催), 2011. 5.
- 23) 横山 正, 笹島耕二, 吉田 寛, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 松下 晃, 平方敦史, 高尾嘉宗, 馬越通信, 早川朋宏, 内田英二 : 当施設の臍頭十二指腸切除術クリニカルパスへの取り組み. 日本外科学会的學術集会 (第 111 回) (紙上開催), 2011. 5.
- 24) 鈴木成治, 吉田 寛, 松谷 毅, 丸山 弘, 横山 正, 松下 晃, 平方敦史, 高尾嘉宗, 馬越通信, 早川朋宏, 津久井拓, 松久威史, 内田英二 : S1 併用全身化学療法を 1 次治療で施行した切除不能・再発胃癌症例の検討. 日本外科学会的學術集会 (第 111 回) (紙上開催), 2011. 5.
- 25) 横山 正, 吉田 寛, 松下 晃, 平方敦史, 高尾嘉宗, 馬越通信, 早川朋宏, 内田英二 : 臍頭十二指腸切除術後の臍液瘻対策としての臍管外瘻チューブ低圧持続吸引の有用性について. 日本肝胆膵外科学会・學術集会 (第 23 回) (東京), 2011. 6.
- 26) 平方敦史, 吉田 寛, 丸山 弘, 鈴木成治, 横山 正, 松谷 毅, 高尾嘉宗, 馬越通信, 早川朋宏, 笹島耕二 : 転移性肝癌に対する術前化学療法の影響についての検討. 日本肝胆膵外科学会・學術集会 (第 23 回) (東京), 2011. 6.
- 27) 松下 晃, 笹島耕二, 吉田 寛, 横山 正, 鈴木成治, 丸山 弘, 松谷 毅, 平方敦史, 高尾嘉宗, 馬越通信 : 憩室内翻縫縮術, 十二指腸乳頭形成術を施行した Lemmel 症候群 4 例の検討. 日本肝胆膵外科学会・學術集会 (第 23 回) (東京), 2011. 6.
- 28) 松下 晃, 吉田 寛, 横山 正, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 平方敦史, 石渡俊行, 内藤善哉, 川本聖郎 : Neuropilin-1 を標的とした新たな臍癌治療法の開発. 日本臍臓学会大会 (第 42 回) (青森), 2011. 7.
- 29) 牧野浩司, 野村 務, 萩原信敏, 勝田美和子, 横井公良, 宮下正夫, 内田英二 : 食道ストリップングによる腹臥位 VATS-E における左反回神経周囲リンパ節郭清の工夫. 日本食道学会學術集会 (第 65 回) (仙台), 2011. 9.
- 30) 松谷 毅, 丸山 弘, 鈴木成治, 横山 正, 松下 晃, 平方敦史, 高尾嘉宗, 馬越通信, 吉田 寛, 内田英二 : 腹臥位胸腔鏡下食道切除術の定型化への工夫. 日本食道学会學術集会 (第 65 回) (仙台), 2011. 9.
- 31) 馬越通信, 松谷 毅, 丸山 弘, 鈴木成治, 横山 正, 松下 晃, 平方敦史, 高尾嘉宗, 吉田 寛, 内田英二 : Positron emission tomography/CT で発見した“いわゆる食道癌肉腫”の 1 例. 日本食道学会學術集会 (第 65 回) (仙台), 2011. 9.
- 32) 松谷 毅, 丸山 弘, 高尾嘉宗, 松下 晃, 平方敦史, 馬越通信, 鈴木成治, 横山 正, 吉田 寛, 内田英二 : 食道気管支瘻合併食道癌症例に対する胸腔鏡補助下食道バイパス手術. 日本食道学会學術集会 (第 65 回) (仙台), 2011. 9.
- 33) 高尾嘉宗, 松谷 毅, 丸山 弘, 鈴木成治, 横山 正, 松下 晃, 平方敦史, 馬越通信, 吉田 寛, 内田英二 : 腹臥位胸腔下食道亜全摘術を施行した食道類基底細胞癌の 1 例. 日本食道学会學術集会 (第 65 回) (仙台), 2011. 9.
- 34) 牧野浩司, 野村 務, 萩原信敏, 勝田美和子, 吉田 寛, 横井公良, 宮下正夫, 内田英二 : 当科の食道癌鏡視下手術における術式の変遷と体位とデバイス使用の工夫. General Thoracic and Cardiovascular Surgery (名古屋), 2011. 10.
- 35) Hirakata A, Yoshida H, Makino H, Yokoyama T, Maruyama H, Matsushita A, Takao Y, Umakoshi M, Hotta M, Hayakawa T, Uchida E : A symptomatic giant hepatic hemangioma treated with hepatectomy.

- 21st World Congress of the International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists (Tokyo), 2011. 11.
- 36) Hirakata A, Yoshida H, Mamada Y, Tani N, Yoshioka M, Kawano Y, Mizuguchi Y, Ueda J, Kikuchi Y, Uchida E : Huge caudate lobe of the liver due to Budd-Chiari syndrome. 21st World Congress of the International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists (Tokyo), 2011. 11.
- 37) Hirakata A, Yoshida H, Makino H, Yokoyama T, Maruyama H, Matsushita A, Takao Y, Umakoshi M, Hotta M, Hayakawa T, Kikuchi Y, Uchida E : Surgical treatment of a patient with diaphragmatic invasion by a ruptured hepatocellular carcinoma with biliary and portal venous tumor thrombi. 21st World Congress of the International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists (Tokyo), 2011. 11.
- 38) Takao Y, Matsutani T, Maruyama H, Yokoyama T, Matsushita A, Hirakata A, Umakoshi M, Hayakawa T, Yoshida H, Uchida E : Basaloid-squamous carcinoma of the esophagus treated by thoracoscopy assisted esophagectomy in the prone position : a case report. 21st World Congress of the International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists (Tokyo), 2011. 11.
- 39) 牧野浩司, 野村 務, 吉田 寛, 萩原信敏, 藤田逸郎, 金沢義一, 桜澤信行, 小野寺浩之, 中村慶春, 松本智司, 加藤俊二, 勝田美和子, 横井公良, 宮下正夫, 内田英二 : 腹臥位 VATS-E における食道ストリッピングによる 106 recL 郭清の工夫. 日本臨床外科学会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 40) 松谷 毅, 平方敦史, 丸山 弘, 横山 正, 松下 晃, 高尾嘉宗, 馬越通信, 早川朋宏, 吉田 寛, 内田英二 : 食道癌術後の胸管損傷部位の同定に ICG 蛍光法が有効であった 1 例. 日本臨床外科学会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 41) 松下 晃, 吉田 寛, 横山 正, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 平方敦史, 高尾嘉宗, 馬越通信, 堀田正啓, 早川朋宏, 岩井琢磨, 中村慶春, 相本隆幸, 内田英二 : GEM, S1 による術前化学療法施行後, R0 手術を施行した stageIVb 腭頭部癌の 1 例. 日本臨床外科学会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 42) 馬越通信, 吉田 寛, 横山 正, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 松下 晃, 平方敦史, 高尾嘉宗, 堀田正啓, 早川朋宏, 小泉里奈, 内田英二 : 虫垂炎を契機に偶然発見され, 術前診断に難渋した腭尾側腫瘍の 1 例. 日本臨床外科学会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 43) 早川朋宏, 松谷 毅, 丸山 弘, 横山 正, 松下 晃, 平方敦史, 高尾嘉宗, 馬越通信, 堀田正啓, 小泉里奈, 森末 遼, 吉田 寛, 内田英二 : ネフローゼ症候群を契機に診断された胃癌の 1 例. 日本臨床外科学会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 44) 高尾嘉宗, 松谷 毅, 丸山 弘, 横山 正, 松下 晃, 平方敦史, 馬越通信, 早川朋宏, 吉田 寛, 内田英二 : 化学放射線療法後の食道癌狭窄と胆嚢結石に対し一期的に腹腔鏡補助下食道バイパス術と胆嚢摘出術を施行した 1 例. 日本臨床外科学会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 45) 横山 正, 丹野正隆, 細根 勝, 片山博徳 : 細胞診材料が有用であった HER-2 陽性転移性乳癌の 1 例. 日本乳癌学会関東地方会 (第 8 回) (埼玉), 2011. 12.
- 46) 牧野浩司, 野村 務, 吉田 寛, 萩原信敏, 藤田逸郎, 中村慶春, 宮下正夫, 勝田美和子, 内田英二 : 安全と合理性を追求した腹臥位食道切除術と食道ストリッピングで術野展開後の 106recL リンパ節郭清. 日本内視鏡外科学会総会 (第 24 回) (大阪), 2011. 12.
- 47) 吉岡正人, 谷合信彦, 川野陽一, 上田純次, 真々田裕宏, 吉田 寛, 田尻 孝, 内田英二 : 巨大肝腫瘍に対する前方アプローチによる肝切除術. 日本臨床外科学会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 48) 萩原信敏, 牧野浩司, 宮下正夫, 野村 務, 松本智司, 中溝宗永, 横島一彦, 稲井俊太, 酒主敦子, 赤城一郎, 篠塚恵理子, 内田英二 : 遊離空腸採取における臍部単孔式腹腔鏡下手術. 日本臨床外科学会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 49) 松谷 毅, 丸山 弘, 高尾嘉宗, 馬越通信, 松下 晃, 平方敦史, 早川朋宏, 横山 正, 吉田 寛, 内田英二 :

- 単孔式腹腔鏡補助下胃瘻造設術. 日本臨床外科学会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 50) 松谷 毅, 丸山 弘, 高尾嘉宗, 馬越通信, 横山 正, 松下 晃, 平方敦史, 早川朋宏, 吉田 寛, 内田英二: 腹腔鏡補助下食道バイパス術. 日本臨床外科学会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 51) 萩原信敏, 牧野浩司, 宮下正夫, 野村 務, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金沢義一, 山下直行, 桜澤信行, 小野寺浩之, 赤城一郎, 篠塚恵里子, 内田英二: 食道癌 stage I 症例に対する術式による治療成績の検討. 日本臨床外科学会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 52) 山下直行, 湖山信篤, 菅野仁士, 岩井拓磨, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金澤義一, 萩原信敏, 宮下正夫, 牧野浩司, 内田英二: 上部限局胃癌 (U) に胃全摘は必要か?. 日本臨床外科学会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 53) 松下 晃, 松谷 毅, 丸山 弘, 横山 正, 平方敦史, 高尾嘉宗, 馬越通信, 堀田正啓, 早川朋宏, 鈴木成治, 吉田 寛, 内田英二: 再発鼠径ヘルニアに対する BARDPOLYSOFT を用いた TAPP 法. 日本臨床外科学会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 54) 桜澤信行, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金澤義一, 小野寺浩之, 野村 務, 牧野浩司, 萩原信敏, 宮下正夫, 内田英二: 胃癌に対するループ付き細径スプリングと脱着式牽引力可変スプリングによるカウンタートラクション法. 日本臨床外科学会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 55) 萩原信敏, 野村 務, 宮下正夫, 牧野浩司, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金澤義一, 山下直行, 桜澤信行, 小野寺浩之, 赤城一郎, 篠塚恵理子, 内田英二: 巨大食道憩室に対する腹腔鏡下手術. 日本臨床外科学会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 56) 野村 務, 宮下正夫, 牧野浩司, 萩原信敏, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金沢義一, 中村慶春, 松本智司, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 丸山 弘, 松谷 毅, 岩切勝彦, 内田英二: 食道アカラシアに対する外科治療: 当施設における現状. 日本臨床外科学会 (第 73 回) (東京), 2011. 11.
- 57) 野村 務, 宮下正夫, 牧野浩司, 萩原信敏, 赤城一郎, 丸山 弘, 松谷 毅, 川見典之, 岩切勝彦, 内田英二: III 型食道裂孔ヘルニアに対する腹腔鏡下逆流防止術 (LARS): 当施設における経験. 日本食道学会学術集会 (第 65 回) (仙台), 2011. 9.
- 58) 勝田美和子, 牧野浩司, 白川 毅, 高田英志, 勝野 暁, 川東 豊, 瀬谷知子, 横室茂樹, 横井公良, 内田英二: 食道癌術後の胃管断端の縫合不全に対して内視鏡下クリッピングにて閉鎖しえた症例. 日本食道学会学術集会 (第 65 回) (仙台), 2011. 9.
- 59) 萩原信敏, 牧野浩司, 野村 務, 宮下正夫, 大川敬一, 上田純志, 鈴木えりか, 赤城一郎, 篠塚恵理子, 内田英二: 再建胃管先端部壊死に対して, ED チューブを用いて保存的治療が可能であった 1 例. 日本食道学会学術集会 (第 65 回) (仙台), 2011. 9.
- 60) 篠塚恵理子, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 萩原信敏, 内田英二: 他臓器へのステント挿入後, 食道穿孔を発症した 2 症例. 日本食道学会学術集会 (第 65 回) (仙台), 2011. 9.
- 61) 丸山 弘, 松谷 毅, 鈴木成治, 横山 正, 松下 晃, 平方敦史, 高尾嘉宗, 馬越通信, 吉田 寛, 内田英二: 腹腔鏡下胃瘻造設術後に腹腔鏡下食道バイパス術を施行した 1 例. 日本食道学会学術集会 (第 65 回) (仙台), 2011. 9.
- 62) 松谷 毅, 丸山 弘, 松下 晃, 高尾嘉宗, 馬越通信, 平方敦史, 横山 正, 鈴木成治, 吉田 寛, 内田英二: 単孔式内視鏡手術で腹腔鏡胃瘻造設術を行った癌性食道狭窄の 1 例. 日本食道学会学術集会 (第 65 回) (仙台), 2011. 9.
- 63) 坂田義則, 牧野浩司, 勝田美和子, 白川 毅, 工藤秀徳, 瀬谷知子, 堀場光二, 横室茂樹, 横井公良, 内田英二: 食道扁平上皮癌に対して CRT 施行にて CR が得られたが, ダグラス窩転移をきたした 1 症例. 日本食道学会学術集会 (第 65 回) (仙台), 2011. 9.
- 64) 萩原信敏, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 藤田逸郎, 松本智司, 中村慶春, 山下直行, 篠塚恵理子, 内田英二: 腹腔鏡下胃管作成における鏡視下手術用スポンジスペーサーの有用性. 日本食道学会学術集会 (第 65 回)

(仙台), 2011. 9.

- 65) 藤田逸郎, 木山輝郎, 小野寺浩之, 櫻澤信行, 野村 務, 中村慶春, 松本智司, 牧野浩司, 加藤俊二, 内田英二: 当科における腹腔鏡補助下胃切除術の定型化: 視野展開の工夫. 日本消化器外科学会総会 (第 66 回) (名古屋), 2011. 7.
- 66) 山下直行, 菅野仁士, 新井洋紀, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金澤義一, 宮下正夫, 牧野浩司, 萩原信敏, 内田英二: 上部限局胃癌に対する迷走神経温存漿膜筋層縦切開噴門形成術: 第 3 版ガイドラインをふまえて. 日本消化器外科学会総会 (第 66 回) (名古屋), 2011. 7.
- 67) 相本隆幸, 内田英二, 中村慶春, 松下 晃, 勝野 暁, 張 一光, 川本聖郎, 山初和也, 小林 匡: 脾頭十二指腸切除術後の脾液瘻に対するドレーン管理. 日本消化器外科学会総会 (第 66 回) (名古屋), 2011. 7.
- 68) 谷合信彦, 吉田 寛, 吉岡正人, 峯田 章, 川野陽一, 上田純志, 真々田裕宏, 内田英二: 教室における肝細胞癌術後残肝再発に対する治療戦略. 日本消化器外科学会総会 (第 66 回) (名古屋), 2011. 7.
- 69) 萩原信敏, 野村 務, 宮下正夫, 牧野浩司, 大川敬一, 赤城一郎, 篠塚恵里子, 藤田逸郎, 櫻澤信行, 内田英二: 食道アカラシアに対する腹腔鏡下 heller-Dor 法: 筋層切開時粘膜損傷への対応. 日本消化器外科学会総会 (第 66 回) (名古屋), 2011. 7.
- 70) 篠塚恵理子, 牧野浩司, 萩原信敏, 野村 務, 宮下正夫, 松本智司, 中村慶春, 山下直行, 赤城一郎, 内田英二: 単孔式腹腔鏡下手術 (手袋法) による遊離空腸採取手技. 日本消化器外科学会総会 (第 66 回) (名古屋), 2011. 7.
- 71) 松谷 毅, 丸山 弘, 鈴木成治, 横山 正, 松下 晃, 平方敦史, 吉田 寛, 内田英二: 当科における腹臥位胸腔鏡下食道切除術の工夫と成績. 日本消化器外科学会総会 (第 66 回) (名古屋), 2011. 7.
- 72) 川野陽一, 谷合信彦, 中村慶春, 松本智司, 峯田 章, 吉岡正人, 上田純志, 真々田裕宏, 吉田 寛, 内田英二: 当科での安全な完全鏡視下肝切除術を行うための工夫 (セクレアとグローブ併用下プリングル法の有用性). 日本消化器外科学会総会 (第 66 回) (名古屋), 2011. 7.
- 73) 野村 務, 宮下正夫, 牧野浩司, 萩原信敏, 加藤俊二, 藤田逸郎, 松谷 毅, 丸山 弘, 笹島耕二, 内田英二: 当施設における食道再建術の工夫: 縫合不全の発症率を低下させるために. 日本消化器外科学会総会 (第 66 回) (名古屋), 2011. 7.
- 74) 丸山 弘, 松谷 毅, 鈴木成治, 横山 正, 松下 晃, 平方敦史, 高尾嘉宗, 馬越通信, 吉田 寛, 内田英二: 消化管手術における SSI 対策: 治療投与抗菌薬の選択. 日本消化器外科学会総会 (第 66 回) (名古屋), 2011. 7.
- 75) 松下 晃, 吉田 寛, 横山 正, 鈴木成治, 丸山 弘, 松谷 毅, 平方敦史, 中村慶春, 相本隆幸, 内田英二: Gemcitabine, S-1 不応性胆道癌術後再発に対する Gemcitabine, CDDP 併用療法 (GC 療法) の施行経験. 日本消化器外科学会総会 (第 66 回) (名古屋), 2011. 7.
- 76) 加藤俊二, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 金沢義一, 山下直行, 藤田逸郎, 萩原信敏, 牧野浩司, 野村 務, 内田英二: 内視鏡的背景胃粘膜の個別評価による胃癌発生高リスク群で早期発見, ESD 治療が可能であった 1 例. 日本消化器外科学会総会 (第 66 回) (名古屋), 2011. 7.
- 77) 櫻澤信行, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金沢義一, 小野寺浩之, 野村 務, 牧野浩司, 萩原信敏, 宮下正夫, 内田英二: 同時性 2 病変の粘膜胃癌に対し ESD を施行後, 狭窄を生じ追加手術を施行した 1 例. 日本消化器外科学会総会 (第 66 回) (名古屋), 2011. 7.
- 78) 小野寺浩之, 加藤俊二, 櫻澤信行, 金沢義一, 山下直行, 藤田逸郎, 萩原信敏, 牧野浩司, 野村 務, 内田英二: 複数回治療したピロリ菌除菌後胃癌の特徴と治療法. 日本消化器外科学会総会 (第 66 回) (名古屋), 2011. 7.
- 79) 鈴木成治, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 松谷 毅, 松下 晃, 平方敦史, 津久井拓, 内田英二: 高度進行・再発大腸癌症例における Cetuximab の増悪後継続投与の意義. 日本消化器外科学会総会 (第 66 回) (名古屋),

2011. 7.

- 80) 早川朋宏, 吉田 寛, 平方敦史, 鈴木成治, 丸山 弘, 横山 正, 松谷 毅, 松下 晃, 笹島耕二, 内田英二: 完全に壊死したと考えられる肝細胞癌の1例. 日本消化器外科学会総会(第66回)(名古屋), 2011. 7.
- 81) 上田純志, 谷合信彦, 吉田 寛, 真々田裕宏, 吉岡正人, 峯田 章, 川野陽一, 内田英二: 高分化型肝細胞癌の術前画像診断と病理学的検討/ Evaluation of image diagnosis and pathological findings in well differentiated hepatocellular carcinoma. 日本外科学会定期学術集会(第111回)(紙上開催), 2011. 5.
- 82) 野村 務, 宮下正夫, 牧野浩司, 萩原信敏, 赤城一郎, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金沢義一, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 松谷 毅, 丸山 弘, 笹島耕二, 内田英二: 食道癌術後逆流性食道炎に影響を及ぼす因子/ Gastroesophageal Reglux after esophagectomy. 日本外科学会定期学術集会(第111回)(紙上開催), 2011. 5.
- 83) 小泉里奈, 丸山 弘, 横山 正, 松下 晃, 平方敦史, 高尾嘉宗, 吉田 寛, 古川清憲, 内田英二: 腹腔鏡補助下大腸切除術における SSI の検討. 日本外科感染症学会総会学術集会(第24回)(三重), 2011. 12.
- 84) 岩井拓磨, 吉田 寛, 横山 正, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 松下 晃, 平方敦史, 高尾嘉宗, 馬越通信, 早川朋宏, 笹島耕二, 内田英二: 右腎静脈内への迷入を認めた魚骨の1例. 腹部エコー研究会(東京), 2011. 5.
- 85) 松谷 毅, 丸山 弘, 横山 正, 松下 晃, 平方敦史, 高尾嘉宗, 馬越通信, 堀田正啓, 早川朋宏, 吉田 寛, 内田英二: 腹臥位胸腔鏡下食道切除術における合併症軽減の工夫. 日本内視鏡外科学会総会(第24回)(大阪), 2011. 12.
- 86) 野村 務, 宮下正夫, 牧野浩司, 萩原信敏, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金沢義一, 中村慶春, 松本智司, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 丸山 弘, 松谷 毅, 岩切勝彦, 内田英二: NERD 症例に対する腹腔鏡下逆流防止手術: 24時間食道 pH・多チャンネルインピーダンス測定による適応の判断. 日本内視鏡外科学会総会(第24回)(大阪), 2011. 12.
- 87) 中村慶春, 松本智司, 吉岡正人, 野村 務, 牧野浩司, 田尻 孝, 内田英二: 腹腔鏡下膝頭十二指腸切除術における臍臓の切離と吻合操作の工夫. 日本内視鏡外科学会総会(第24回)(大阪), 2011. 12.
- 88) 萩原信敏, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 藤田逸郎, 松本智司, 中村慶春, 金沢義一, 山下直行, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 篠塚恵理子, 内田英二: スポンジスパーサー(セクレア)使用による腹腔鏡補助下胃管作成の工夫. 日本内視鏡外科学会総会(第24回)(大阪), 2011. 12.
- 89) 関 奈紀, 平方敦史, 丸山敦史, 牧野浩司, 横山 正, 高尾嘉宗, 住吉宏樹, 馬越通信, 堀田正啓, 早川朋宏, 吉田 寛, 内田英二: 子宮体部癌肉腫による肝転移に対し肝切除術を施行し得た1例. 外科集談会(823回)(東京), 2011. 12.
- 90) Matsutani T, Hagiwara N, Maruyama H, Makino H, Takao Y, Yoshida H, Miyashita M, Uchida E: Laparoscopy assisted esophageal bypass operation for remnant esophageal cancer after definitive chemoradiotherapy. 21st World Congress of the International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists (Tokyo), 2011. 11.
- 91) Matsutani T, Nomura T, Hagiwara N, Maruyama H, Makino H: Single-port laparoscopic gastrostomy and jejunostomy in patients unable to receive percutaneous endoscopic gastrostomy for far-advanced esophageal cancer. 21st World Congress of the International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists (Tokyo), 2011. 11.
- 92) Matsutani T, Maruyama H, Yokoyama T, Matsushita A, Hirakata A, Takao Y, Umakoshi M, Hayakawa T, Yoshida H, Uchida E: Carcinosarcoma of the esophagus detected by fluorodeoxyglucose positron emission tomography/computed tomography: a case report. 21st World Congress of the International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists (Tokyo), 2011. 11.
- 93) Kawano Y, Tani ai N, Mamada Y, Yoshioka M, Mizuguchi Y, Shimizu T, Ueda J, Yoshida H, Uchida E:

- Our experiences of usage of the endoscopic surgical spacer (SECREA TM) and pringle maneuver during laparoscopic liver resection. 21st World Congress of the International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists (Tokyo), 2011. 11.
- 94) Kawano Y, Yoshida H, Taniai N, Yoshioka M, Mizuguchi Y, Shimizu T, Ueda J, Mamada Y, Tajiri T, Uchida E: Intracystic hemorrhage required no treatment from one of multiple hepaticcysts. 21st World Congress of the International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists (Tokyo), 2011. 11.
- 95) 丸山 弘, 菅谷量俊, 関根 愛, 城戸竜一: カルバペネム系抗菌薬適正使用の効果. 日本環境感染学会総会 (第 27 回) (福岡), 2012. 2.
- 96) 松谷 毅, 藤田逸郎, 金沢義一, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 加藤俊二, 野村 務, 萩原信敏, 馬越通信, 吉田 寛, 内田英二: 胃癌術後局所再発に対するステント治療. 日本胃癌学会総会 (第 84 回) (大阪), 2012. 2.
- 97) 萩原信敏, 宮下正夫, 加藤俊二, 野村 務, 牧野浩司, 松谷 毅, 藤田逸郎, 金沢義一, 山下直行, 丸山 弘, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 赤城一郎, 篠塚恵理子, 内田英二: 当科における食道癌術後の胃管癌の発生と治療. 日本胃癌学会総会 (第 84 回) (大阪), 2012. 2.
- 98) 藤田逸郎, 木山輝郎, 小野寺浩之, 櫻澤信行, 菅野仁士, 金沢義一, 萩原信敏, 松谷 毅, 牧野浩司, 野村 務, 加藤俊二, 内田英二: 腹腔鏡下幽門側胃切除における D2 郭清. 日本胃癌学会総会 (第 84 回) (大阪), 2012. 2.
- 99) 櫻澤信行, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金沢義一, 小野寺浩之, 野村 務, 牧野浩司, 松谷 毅, 萩原信敏, 内田英二: 低身長症の粘膜胃癌にマルチベンディングスコープとスプリングトラクション法で切除しえた ESD の 1 症例. 日本胃癌学会総会 (第 84 回) (大阪), 2012. 2.
- 100) 山下直行, 湖山信篤, 菅野仁士, 岩井拓磨, 吉田初雄, 萩原信敏, 櫻澤信行, 藤田逸郎, 加藤俊二, 宮下正夫, 牧野浩司, 内田英二: 上部限局胃癌に対する噴門側胃切除術 (迷走神経温存胃漿膜筋層縦切開噴門形成): その中長期的評価. 日本胃癌学会総会 (第 84 回) (大阪), 2012. 2.
- 101) 松谷 毅, 藤田逸郎, 金沢義一, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 加藤俊二, 野村 務, 萩原信敏, 丸山 弘, 吉田 寛, 内田英二: 腹腔鏡下胃全摘術における開腹用 Circular stapler 型自動吻合器を用いた吻合法: 直針を用いた巾着吻合. 日本胃癌学会総会 (第 84 回) (大阪), 2012. 2.
- 102) 牧野浩司, 藤田逸郎, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 松下 晃, 平方敦史, 高尾嘉宗, 馬越通信, 堀田正啓, 早川朋宏, 野村 務, 松谷 毅, 萩原信敏, 内田英二: 胃癌腹腔鏡下手術の食道癌における腹腔鏡下胃管作成術への応用・導入. 日本胃癌学会総会 (第 84 回) (大阪), 2012. 2.
- 103) 小野寺浩之, 加藤俊二, 櫻澤信行, 金沢義一, 萩原信敏, 山下直行, 松谷 毅, 牧野浩司, 野村 務, 藤田逸郎, 内田英二: 在宅治療を困難にさせる癌性腹膜炎への対応: 在宅支援のための PTEG の有用性. 日本胃癌学会総会 (第 84 回) (大阪), 2012. 2.
- 104) 住吉宏樹, 藤田逸郎, 加藤俊二, 金澤義一, 萩原信敏, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 新井洋紀, 保田智彦, 野村 務, 松谷 毅, 内田英二: 胃消化管間質腫瘍 (GIST) において, 核分裂数と MIB-1 陽性細胞率に相関が認められなかった 1 例. 日本胃癌学会総会 (第 84 回) (大阪), 2012. 2.
- 105) 名兄耶浩幸, 二神生爾, 河越哲郎, 小高康裕, 新福摩弓, 堀江 茜, 川見典之, 岩切勝彦, 飯泉 匡, 星原芳雄, 牧野浩司, 宮下正夫, 土屋真一, 坂本長逸: 食道癌組織における Apurinic/aprimidinic endonuclease-1 (APE-1) 発現意義の解析. 日本消化管学会総会学術集会 (第 8 回) (仙台), 2012. 2.
- 106) 牧野浩司, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 松下 晃, 平方敦史, 高尾嘉宗, 馬越通信, 堀田正啓, 早川朋宏, 宮下正夫, 野村 務, 松谷 毅, 萩原信敏, 岩切勝彦, その他 2 名: 経鼻内視鏡の検査と治療における多様な可能性と鼻痛・鼻出血のデメリットを軽減するデバイスの開発. 日本消化管学会総会学術集会 (第 8 回) (仙台), 2012. 2.
- 107) 金谷洋平, 谷合信彦, 峯田 章, 吉岡正人, 川野陽一, 上田純志, 真々田裕宏, 吉田 寛, 内田英二: 日本住血

- 吸虫症に合併した肝細胞癌の1例. 日本肝胆膵外科学会・学術集会(第23回)(東京), 2011. 6.
- 108) 川野陽一, 谷合信彦, 松本智司, 中村慶春, 峯田 章, 吉岡正人, 上田純志, 真々田裕宏, 吉田 寛, 内田英二:安全な鏡視下肝切除術を行うための当科での工夫(スポンジスペーサーとGlove fingers assisted method下Pringle maneuverの有用性). 日本肝胆膵外科学会・学術集会(第23回)(東京), 2011. 6.
- 109) 谷合信彦, 吉田 寛, 吉岡正人, 峯田 章, 川野陽一, 上田純志, 真々田裕宏, 内田英二:肝細胞癌術後横隔膜・後腹膜再発の1症例. 日本肝胆膵外科学会・学術集会(第23回)(東京), 2011. 6.
- 110) Nomura T, Miyashita M, Makino H, Hagiwara N, Nakamura Y, Uchida E: Laparoscopic operation for a giant hiatal hernia. 10th Asia Pacific Congress of Endoscopic Surgery/11-13 August 2011 (Singapore), 2011. 8.
- 111) Nomura T, Miyashita M, Makino H, Hagiwara N, Nakamura Y, Uchida E: Single-incision laparoscopic surgery (SILS) for esophageal achalasia: A case report. 10th Asia Pacific Congress of Endoscopic Surgery/11-13 August 2011 (Singapore), 2011. 8.
- 112) Nomura T, Miyashita M, Makino H, Hagiwara N, Nakamura Y, Uchida E: Laparoscopic operation for morgagni hernia: A case report. 10th Asia Pacific Congress of Endoscopic Surgery/11-13 August 2011 (Singapore), 2011. 8.
- 113) Iwai T, Yoshida H, Yokoyama T, Maruyama H, Suzuki S, Matsushita A, Sasajima K, Uchida E: Fish bone migrating into the right renal vein. INTERNATIONAL SURGICAL WEEK/ISW2011 28 August-1 September, 2011 (Pacifco Yokohama, Japan), 2011. 8.
- 114) Kaneya Y, Yoshida H, Matsutani T, Yokoyama T, Suzuki S, Maruyama H, Sasajima K, Uchida E: Biliary obstruction due to a huge simple hepatic cyst treated with laparoscopic resection. INTERNATIONAL SURGICAL WEEK/ISW2011 28 August-1 September, 2011 (Pacifco Yokohama, Japan), 2011. 8.
- 115) Kawano Y, Yoshida H, Taniai N, Mamada Y, Mineta S, Yoshioka M, Ueda J, Uchida E: Hepatic angiolipoma with giant hemangioma. INTERNATIONAL SURGICAL WEEK/ISW2011 28 August-1 September, 2011 (Pacifco Yokohama, Japan), 2011. 8.
- 116) Kawano Y, Taniai N, Yoshida H, Nakamura Y, Matsumoto S, Mineta S, Yoshioka M, Uchida E: Laparoscopic liver resection using the pringle maneuver under a surgical glove. INTERNATIONAL SURGICAL WEEK/ISW2011 28 August-1 September, 2011 (Pacifco Yokohama, Japan), 2011. 8.
- 117) 谷合信彦, 吉田 寛, 真々田裕宏, 吉岡正人, 峯田 章, 川野陽一, 上田純志, 内田英二:劇症肝炎に対する高速持続的血液濾過透析(HFCHDF)の効果と問題点. 日本腹部救急医学会総会(第47回)(福岡), 2011. 8.
- 118) 谷合信彦, 吉田 寛, 内田英二:高齢者(75歳以上)における肝細胞癌切除術の意義. 日本消化器内視鏡学会総会(第81回)(名古屋), 2011. 8.
- 119) 野村 務, 宮下正夫, 牧野浩司, 萩原信敏, 松谷 毅, 丸山 弘, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金沢義一, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 岩切勝彦, 内田英二:食道癌術後逆流性食道炎に影響を及ぼす因子についての検討. 日本消化器内視鏡学会総会(第81回)(名古屋), 2011. 8.
- 120) 松谷 毅, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山 正, 松下 晃, 平方敦史, 高尾嘉宗, 馬越通信, 早川朋宏, 鈴木成治, 内田英二:進行食道癌に対する化学放射線療法後の遺残癌性狭窄に対するアルゴンプラズマ凝固療法. 日本消化器内視鏡学会総会(第81回)(名古屋), 2011. 8.
- 121) 萩原信敏, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 中溝宗永, 横島一彦, 三枝英人, 稲井俊太, 酒主敦子, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金沢義一, 櫻澤信行, 小野寺浩之, 赤城一郎, その他2名:下咽頭喉頭全摘・食道全切除後の頸胸部の胃管狭窄に対して食道用ステント挿入が有効であった1例. 日本消化器内視鏡学会総会(第81回)(名古屋), 2011. 8.
- 122) 山下直行, 湖山信篤, 菅野仁士, 新井洋紀, 小澤俊文, 萩原信敏, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金沢義一, 牧野浩司,

- 宮下正夫, 和知栄子, 内田英二: 予後不良因子のある5型胃癌に対し術前DCS療法を施行した1例. 日本消化器内視鏡学会総会(第81回)(名古屋), 2011. 8.
- 123) 櫻澤信行, 加藤俊二, 藤田逸郎, 金沢義一, 小野寺浩之, 野村 務, 牧野浩司, 萩原信敏, 宮下正夫, 内田英二: カウンタートラクションを利用して内視鏡の粘膜下層切開剥離術にて一括切除しえた胃脂肪腫の2例. 日本消化器内視鏡学会総会(第81回)(名古屋), 2011. 8.
- 124) 牧野浩司, 櫻澤信行, 萩原信敏, 野村 務, 中溝宗永, 横島一彦, 岩切勝彦, 河越哲郎, 吉田 寛, 宮下正夫, 内田英二: GAVEと食道表在癌に対し, APCとESDで治療後に胸腔鏡補助下食道切除術(VATS-E)と再建胃管の静脈吻合を追加しGAVEの再発を認めていない1例. 日本消化器内視鏡学会総会(第81回)(名古屋), 2011. 8.
- 125) 上田仁美, 吉田 寛, 上田純志, 牧野浩司, 横山 正, 丸山 弘, 平方敦史, 渡辺 学, 内田英一, 内田英二: 術前に診断しえた上行結腸間膜裂孔ヘルニアの1例. 日本腹部救急医学会総会(第48回)(石川), 2012. 3.
- 126) 松谷 毅, 野村 務, 萩原信敏, 宮下正夫, 丸山 弘, 牧野浩司, 吉田 寛, 内田英二: 胸腔鏡下食道癌術後早期に生じた横隔膜ヘルニアの1例. 日本腹部救急医学会総会(第48回)(石川), 2012. 3.
- 127) 鈴木えりか, 吉田 寛, 丸山 弘, 松下 晃, 馬越通信: Meckel憩室に起因した絞扼性イレウスの1例. 日本腹部救急医学会総会(第48回)(石川), 2012. 3.
- 128) Nomura T, Miyashita M, Makino H, Hagiwara N, Kato S, Fujita I, Akagi I, Uchida E: Reflux disease in patients after surgery for esophageal cancer. INTERNATIONAL SURGICAL WEEK/ISW2011 28 August-1 September, 2011 (Pacifco Yokohama, Japan), 2011. 8.
- 129) Nomura T, Miyashita M, Makino H, Hagiwara N, Fujita I, Nakamura Y, Matsumoto S, Uchida E: Laparoscopic construction of gastric conduit for esophageal cancer. INTERNATIONAL SURGICAL WEEK/ISW2011 28 August-1 September, 2011 (Pacifco Yokohama, Japan), 2011. 8.
- 130) 谷合信彦, 吉田 寛, 内田英二: 外科周術期における適正輸血をめざした当院での試み. 日本外科学会定期学術集会(第111回)(紙上開催), 2011. 5.
- 131) 川野陽一, 谷合信彦, 吉岡正人, 水口義昭, 清水哲也, 上田純志, 真々田裕宏, 吉田 寛, 古川清憲, 内田英二: 当科における肝切除術時の創部合併症の検討 持続吸引式皮下ドレーン留置の有用性. 日本外科感染症学会総会学術集会(第24回)(三重), 2011. 12.
- 132) 谷合信彦, 真々田裕宏, 吉岡正人, 川野陽一, 清水哲也, 上田純志, 吉田 寛, 古川清憲, 内田英二: 肝胆膵手術の新しい周術期感染管理(肝) 肝管空腸吻合を伴う肝切除後胆汁漏対策 ショートステントとBlakeドレーンの有用性. 日本外科感染症学会総会学術集会(第24回)(三重), 2011. 12.

## [千葉北総病院外科]

### 研究概要

消化器外科および一般外科領域における基礎的, 臨床的研究を行い, その成果を学会や学会誌等で報告しており, 食道癌, 胃癌, 大腸癌をはじめとする消化器癌に対して, 外科的治療とともに術前, 術後の化学療法, 放射線療法などを併用した集学的治療も行っている. 1. 消化器疾患に対する内視鏡治療, 特に早期胃癌に対するEMR, ESD 早期大腸癌に対するEMR, 胆道疾患に対する内視鏡治療, 閉塞性黄疸や癌再発に対する消化管狭窄に対する内視鏡的ステント挿入等, さらには食道静脈瘤に対する内視鏡的治療や内視鏡的胃瘻設術も行っている. 2. 腹腔鏡手術は胆嚢摘出術のみならず, 早期胃癌に対しても行っており, 大腸癌では早期から進行癌まで適応拡大しつつあります. 3. 開腹手術はエビデンスに基づき食道癌や肝胆膵の悪性腫瘍を含めた消化器癌全般に対し積極的に行い, 若い外科医の経験, 育成に力を注いでいる. 各種学会の修練施設としての機能を十分に発揮すべく努力している. 4. EBMに基づいた医療を行うのみならず, 新たなEBMを作るべく, 癌化学療法を中心に臨床試験を積極的に行っている. 5. 基礎研究と

しては、(1) 大腸癌リンパ節微小転移の臨床的意義とメカニズム、(2) 大腸内分泌細胞癌の培養細胞を作成し、その特性と治療方法、(3) 抗癌剤感受性試験の有用性、消化器癌化学療法を中心とする5-FUについて、臨床材料を用いた胃癌、大腸癌における5-FU代謝酵素の役割、(4) 多剤併用療法が行われる胃癌、大腸癌における等において研究を行っている。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Katsuno A<sup>1)</sup>, Aimoto T<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup>, Tabata Y<sup>3)</sup>, Miyamoto M<sup>2)</sup>, Tajiri T<sup>1)</sup> (1) Department of Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 2) Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, 3) Department of Biomaterials, Institute for Frontier Medical Sciences, Kyoto University, Kyoto, Japan) : The Controlled Release of Basic Fibroblast Growth Factor Promotes a Rapid Healing of Pancreaticojunal Anastomosis with Potent Angiogenesis and Accelerates Apoptosis in Granulation Tissue. *Journal of Surgical Research* 2011 ; 167 (1) : 166-172.

#### (2) 症例報告：

- 1) 若林秀幸<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 笹島耕二<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, 2) 日本医科大学外科) : CA19-9 産生癌および非産生癌による多発胃癌の1例. *日本臨床外科学会雑誌* 2011 ; 72 (12) : 3056-3060.

### 学会発表

#### (1) ワークショップ：

- 1) Matsumoto S<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup> (1) Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Laparoscopic D3 LNs dissection for locally advanced colon cancer. *Cadaverice Workshop on Minimal Invasive Gastrointestinal Tract Surgery (Thailand Chiang Mai)*, 2012. 3.

#### (2) 一般講演：

- 1) 白川 毅, 横井公良, 横室茂樹, 瀬谷知子, 堀場光二, 鶴田宏之, 工藤秀徳, 勝田美和子, 勝野 暁, 川東 豊, 田中宣威<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 内田英二 (1) 日本医科大学千葉北総病院病理部, 2) 日本医科大学外科) : Epstein-Barr virus (EBV) 関連胃癌症例の臨床病理的検討. *日本外科学会定期学術集会 (第111回) (誌上開催 (平成23年5月25日付) 震災の影響により)*, 2011. 5.
- 2) 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>2)</sup>, 横井公良<sup>2)</sup>, 横室茂樹<sup>2)</sup>, 堀場光二<sup>2)</sup>, 鶴田宏之<sup>2)</sup>, 白川 毅<sup>2)</sup>, 工藤秀徳<sup>2)</sup>, 勝田美和子<sup>2)</sup>, 勝野 暁<sup>2)</sup>, 川東 豊<sup>2)</sup>, 進士誠一<sup>2)</sup>, 高橋由至<sup>2)</sup>, 大秋美治<sup>3)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学第一外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科, 3) 日本医科大学千葉北総病院) : 肝転移を有する大腸癌におけるEMMPRIN, VEGF, VEGFR2,3の発見. *日本外科学会定期学術集会 (第111回) (誌上開催 (震災の影響により))*, 2011. 5.
- 3) 勝田美和子<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 横室茂樹<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 堀場光二<sup>1)</sup>, 鶴田宏之<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 工藤秀徳<sup>1)</sup>, 勝野 暁<sup>1)</sup>, 川東 豊<sup>1)</sup>, 向後英樹<sup>1)</sup>, 高田英志<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>2)</sup>, その他1名 (1) 日本医科大学千葉北総病院, 2) 日本医科大学付属病院 消化器外科) : 外傷性肝損傷による腹腔内出血にて発症した肝血管脂肪腫の1例. *日本腹部救急医学会総会 (第47回) (福岡)*, 2011. 8.
- 4) 向後英樹, 横井公良, 横室茂樹, 瀬谷知子, 堀場光二, 鶴田宏之, 白川 毅, 工藤秀徳, 勝田美和子, 勝野 暁, 川東 豊, 高田英志, 坂田義則, 田中宣威, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院外科) : 直腸原発神経内分泌細胞癌多発性肝転移症例に対して腹会陰式切除術+mFOLFOX6を施行した1例. *日本臨床外科学会総会 (第73回) (東京)*, 2011. 11.

- 5) 高田英志, 横井公良, 横室茂樹, 瀬谷知子, 堀場光二, 鶴田宏之, 白川 毅, 工藤秀徳, 勝田美和子, 勝野 暁, 川東 豊, 向後英樹, 坂田義則, 田中宣威, 内田英二<sup>1)</sup> (, <sup>2)</sup> 日本医科大学外科): 胃穿孔にて緊急手術を行った胃癌症例の検討. 日本臨床外科学会 (第73回) (東京), 2011. 11.
- 6) 堀場光二, 横井公良, 横室茂樹, 瀬谷知子, 鶴田宏之, 白川 毅, 工藤秀徳, 勝田美和子, 内田英二<sup>1)</sup> (日本医科大学付属病院臓器病態制御外科): 術前化学放射線療法が奏効した直腸癌の2症例. 日本臨床外科学会総会 (第73回) (東京), 2011. 11.
- 7) 坂田義則, 横井公良, 横室茂樹, 瀬谷知子, 堀場光二, 鶴田宏之, 白川 毅, 工藤秀徳, 勝田美和子, 勝野 暁, 川東 豊, 向後英樹, 高田英志, 田中宣威, 内田英二<sup>1)</sup> (日本医科大学付属病院外科): 2度にわたる再発をきたしたS状結腸癌の1例. 日本臨床外科学会総会 (第73回) (東京), 2011. 11.
- 8) 若林秀幸, 横井公良, 横室茂樹, 瀬谷知子, 堀場光二, 鶴田宏之, 白川 毅, 工藤秀徳, 勝田美和子, 勝野 暁, 川東 豊, 向後英樹, 高田英志, 坂田義則, 内田英二<sup>1)</sup> (日本医科大学付属病院外科): 腹腔鏡下胆嚢摘出術後のクリップ迷入による総胆管結石の1例. 日本臨床外科学会総会 (第73回) (東京), 2011. 11.
- 9) 幸田圭史<sup>1)</sup>, 海保 隆<sup>2)</sup>, 柳沢真司<sup>2)</sup>, 松原久裕<sup>3)</sup>, 宮内英聡<sup>3)</sup>, 滝口伸浩<sup>4)</sup>, 小林 進<sup>5)</sup>, 丸山尚嗣<sup>6)</sup>, 加藤良二<sup>7)</sup>, 横井公良, 小池直人<sup>8)</sup>, 大枝良夫<sup>9)</sup>, 鈴木孝雄<sup>3)</sup>, 落合武徳<sup>3)</sup> (1) 帝京大・千葉医療セ・外科, (2) 君津中央病院外科, (3) 千葉大・院医・先端応用外科学, (4) 千葉県がんセ・消化器外科, (5) 千葉県佐原病・外科, (6) 船橋市医療セ・外科, (7) 東邦大・医療セ佐倉病・外科, (8) 聖隷佐倉市民病・外科, (9) 千葉市海浜病・外科): StageIII大腸癌治療切除例へのUFT/LV療法とTS-1療法の検討 (BCOG-CC02中間解析). 日本癌治療学会学術集会 (第49回) (名古屋), 2011. 10.
- 10) 宮内英嗣<sup>1)</sup>, 落合武徳<sup>1)</sup>, 松原久裕<sup>1)</sup>, 田中宣威, 横井公良, 安田秀喜<sup>2)</sup>, 幸田圭史<sup>2)</sup>, 小林 進<sup>3)</sup>, 田中信孝<sup>4)</sup>, 海保 隆<sup>5)</sup> (1) 千葉大・院医・先端応用外科学, (2) 帝京大・ちば医療セ・外科, (3) 千葉県・佐原病・外科, (4) 国保旭中央病・外科, (5) 君津中央病・外科): Dukes C大腸癌に対する術後補助化学療法 (BCOG-CC01最終解析). 日本癌治療学会学術集会 (第49回) (名古屋), 2011. 10.
- 11) 白川 毅, 横井公良, 横室茂樹, 瀬谷知子, 堀場光二, 鶴田宏之, 工藤秀徳, 勝田美和子, 勝野 暁, 川東 豊, 向後英樹, 高田英志, 坂田義則, 内田英二<sup>1)</sup> (日本医大付属病院・1外科): 胃全摘術後, 器械吻合によるRoux-en-Y再建後合併症例の検討. JDDW日本消化器関連学会集会 (第19回) (福岡), 2011. 10.
- 12) 佐々木順平<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (日本医大・外科): ERSプロトコルにおける術前機械的腸管洗浄の必要性についての検討: X腺不透過マーカーによる術後腸管運動の評価. JDDW日本消化器関連学会集会 (第19回) (福岡), 2011. 10.
- 13) 金沢義一<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 桜澤信行<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 山下直行<sup>2)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 野村務<sup>1)</sup>, 横井公良, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医大・外科, (2) 坪井病院・外科): 進行胃癌予後因子としての抗癌剤感受性試験CD-DSTの役割. JDDW日本消化器関連学会集会 (第19回) (福岡), 2011. 10.
- 14) 重原健吾<sup>1)</sup>, 横室茂樹, 石橋 宰<sup>2)</sup>, 水口義昭<sup>1)</sup>, 有馬保生<sup>1)</sup>, 清水哲也<sup>1)</sup>, 川東 豊<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 瀧澤俊広<sup>2)</sup>, 吉田 寛<sup>3)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医大・外科, (2) 日本医大大学院・分子解剖学, (3) 日本医大多摩永山病院・外科): 胆汁マイクロRNAの胆道癌バイオマーカーとしての有用性の検討. JDDW日本消化器関連学会集会 (第19回) (福岡), 2011. 10.
- 15) 山田岳史<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 佐々木順平<sup>1)</sup>, 谷 杏彌<sup>1)</sup>, 辰口篤志<sup>2)</sup>, 横井公良, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医大・外科, (2) 日本医大・消化器内科): 大腸癌におけるirinotecanおよびoxaliplatinの効果予測. JDDW日本消化器関連学会集会 (第19回) (福岡), 2011. 10.
- 16) 牧野浩司<sup>2,3)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 桜澤信行<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1,3)</sup>, 勝田美和子<sup>3)</sup>, 吉田 寛<sup>2)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医大・外科, (2) 日本医大多摩永山病院・外科, (3) 日本医大千葉北総病院): 腹臥位VATS-Eの標準化を目指した当科の工夫: セクレアを使用した食道切除術と食道strippingによるNo.106recL郭清. JDDW日本消化器関連学会集会 (第19回) (福岡), 2011. 10.

- 17) 瀬谷知子, 田中宣威, 横井公良, 堀場光二, 鶴田宏之, 白川 毅, 工藤秀徳, 高橋由至, 進士誠一, 勝田美和子, 勝野 暁, 向後英樹, 若林秀幸, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学第一外科): 遠隔転移を有する大腸癌における EMMPRIN, VEGF, VEGFR2, VEGFR3 の発現. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 66 回) (東京), 2011. 11.
- 18) 堀場光二, 横井公良, 瀬谷知子, 鶴田宏之, 工藤秀徳, 勝田美和子, 勝野 暁, 田中宣威: 術前化学放射線療法が奏効した直腸癌の 1 症例. 日本大腸肛門病学会学術集会 (第 66 回) (東京), 2011. 11.
- 19) Horiba K<sup>1)</sup>, Tanaka N<sup>1)</sup>, Seya T<sup>1)</sup>, Yokoi K<sup>1)</sup>, Shirakawa T<sup>1)</sup>, Katsuta M<sup>1)</sup>, Makino H<sup>2)</sup>, Miyashita M<sup>2)</sup>, Uchida E<sup>2)</sup> (1) Surgery, Nippon Medical School, Chiba, 2) Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan): METALLOPROTEINASE-9 AND MONOCARBOXYLATE TRANSPORTER 1 IN ESOPHAGEAL SQUAMOUS CELL CARCINOMA. United European Gastroenterology Week (19th) (Stockholm), 2011. 10.
- 20) 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 荻原信敏<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医大付属病院消化器外科): 低身長症の粘膜胃癌にマルチベンディングスコープとスプリングトラクション法で切除しえた ESD の 1 症例. 日本胃癌学会総会 (第 84 回) (大阪), 2012. 2.
- 21) 住吉宏樹<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 荻原信敏<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 新井洋紀<sup>1)</sup>, 保田智彦<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 消化器・一般・乳腺・移植外科学): 胃消化管間質腫瘍 (GIST) において, 核分裂数と MIB-1 陽性細胞率に相関が認められなかった 1 例. 日本胃癌学会総会 (第 84 回) (大阪), 2012. 2.
- 22) 金沢義一<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 山田岳史<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>2, 3)</sup>, 山下直行<sup>3)</sup>, 横井公良<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院外科, 2) 坪井病院外科): 進行胃癌における抗癌剤感受性試験と予後の関連. 日本胃癌学会総会 (第 84 回) (大阪), 2012. 2.
- 23) 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 荻原信敏<sup>1)</sup>, 山下直行<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 野村務<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科): 在宅治療を困難にさせる癌性腹膜炎への対応: 在宅支援のための PTEG の有用性. 日本胃癌学会総会 (第 84 回) (大阪), 2012. 2.
- 24) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 荻原信敏<sup>1)</sup>, 丸山弘<sup>2)</sup>, 吉田 寛<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 医学部 外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 外科): 腹腔鏡下胃全摘術における開腹用 Circular stapler 型自動吻合器を用いた吻合法: 直針を用いた巾着吻合. 日本胃癌学会総会 (第 84 回) (大阪), 2012. 2.
- 25) 山下直行<sup>1)</sup>, 湖山信篤<sup>1)</sup>, 菅野仁士<sup>1)</sup>, 岩井拓磨<sup>1)</sup>, 吉田初雄<sup>2)</sup>, 荻原信敏<sup>2)</sup>, 櫻澤信行<sup>3)</sup>, 藤田逸郎<sup>3)</sup>, 加藤俊二<sup>3)</sup>, 宮下正夫<sup>3)</sup>, 牧野浩司<sup>3)</sup>, 内田英二<sup>3)</sup> (1) 坪井病院 外科, 2) 今泉西病院, 3) 日本医科大学 外科): 上部限局胃癌に対する噴門側胃切除術 (迷走神経温存胃漿膜筋層縦切開噴門形成): その中長期的評価. 日本胃癌学会総会 (第 84 回) (大阪), 2012. 2.
- 26) 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 菅野仁士<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 荻原信敏<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>2)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 外科, 2) 日本医科大学 多摩永山病院 外科): 腹腔鏡下幽門側胃切除における D2 郭清. 日本胃癌学会総会 (第 84 回) (大阪), 2012. 2.
- 27) 荻原信敏<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 山下直行<sup>2)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 赤城一郎<sup>1)</sup>, 篠塚恵理子<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 外科, 2) 坪井病院 外科): 当科における食道癌術後の胃管癌の発生と治療. 日本胃癌学会総会 (第 84 回) (大阪), 2012. 2.
- 28) 菅野仁士<sup>1)</sup>, 山下直行<sup>1)</sup>, 岩井拓磨<sup>1)</sup>, 湖山信篤<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>2)</sup>, 櫻澤信行<sup>2)</sup>, 金沢義一<sup>2)</sup>, 藤田逸郎<sup>2)</sup>, 木山輝郎<sup>2)</sup>, 加藤俊二<sup>2)</sup>, 荻原信敏<sup>2)</sup>, 野村 務<sup>2)</sup>, 宮下正夫<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 坪井病院 外科, 2) 日本医科大学 外科): 幽門側胃切除における迷走神経温存の残胃環境に対する効果. 日本胃癌学会総会 (第 84 回) (大阪), 2012. 2.

- 29) 松谷 毅<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 荻原信敏<sup>1)</sup>, 馬越通信<sup>2)</sup>, 吉田 寛<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 医学部 外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 外科) : 胃癌術後局所再発に対するステント治療. 日本胃癌学会総会 (第 84 回) (大阪), 2012. 2.
- 30) 山田岳史<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 外科) : 胃癌における最大大腰筋比の栄養指標としての意義. 日本胃癌学会総会 (第 84 回) (大阪), 2012. 2.
- 31) 山田岳史<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 櫻澤信行<sup>1)</sup>, 小野寺浩之<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 外科) : 胃癌におけるクリニカルパスを用いた早期緩和医療の導入と継続. 日本胃癌学会総会 (大阪), 2012. 2.
- 32) 松本智司<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 山田岳士<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 外科 (消化器・一般) : 単孔式虫垂切除術の限界と双孔式虫垂切除術の標準化への取り組み. 単孔式内視鏡手術研究会 (第 5 回) (広島), 2012. 2.
- 33) Takata H<sup>1)</sup>, Ueda J<sup>1)</sup>, Yoshida H<sup>1, 2)</sup>, Mamada Y<sup>1)</sup>, Taniai N<sup>1)</sup>, Mineta S<sup>1)</sup>, Yoshida M<sup>1)</sup>, Kawano Y<sup>1)</sup>, Mizuguchi Y<sup>1)</sup>, Simizu T<sup>1)</sup>, Furuki H<sup>1)</sup>, Koizumi K<sup>3)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup> (1) Surgery for Organ Function and Biological Regulation, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 2) Department of Surgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, 3) Department of Thoracic Surgery) : Surgical resection of solitary metastatic liver tumor arising from lung cancer : case series. Asian Pacific Association for the Study of the Liver (22nd) (Taipei), 2012. 2.
- 34) 松本智司<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 山田岳士<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 外科 (消化器・一般) : 単孔式虫垂切除術の限界と双孔式虫垂切除術の標準化への取り組み. 単孔式内視鏡手術研究会 (第 5 回) (広島), 2012. 2.
- 35) 堀場光二, 横井公良, 田中宣威, 横室茂樹, 瀬谷知子, 工藤秀徳, 佐々木順平, 若林秀幸, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院臓器病態制御外科) : 下腸間膜動脈瘤波裂の影響が示唆された S 状結腸間膜血腫の 1 例. 日本腹部救急医学会総会 (第 48 回) (金沢), 2012. 3.

## 10. 外科学講座（内分泌・心臓血管・呼吸器部門）

### [付属病院内分泌外科，心臓血管外科，呼吸器外科・千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科]

#### 研究概要

外科学当講座は付属病院外科，武蔵小杉病院心臓血管・呼吸器・乳腺内分泌外科，千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科，多摩永山病院呼吸器外科の各施設において教育，研究，診療を担っている。付属病院外科では，以下の項目を重点的に研究している。(1) 心臓血管外科部門では，冠動脈バイパス術・後天性弁膜疾患・先天性心疾患・胸部および腹部大動脈瘤・末梢血管疾患・不整脈等年間 600 例以上の手術を行っている。虚血性心疾患外科治療の長期予後，心房細動に対する外科治療を中心とした不整脈外科，心筋保護法，小児開心術術後の肺機能等に関する研究を主体としている。胸部大動脈瘤手術成績の向上，重症虚血肢に対する治療法として基礎的・臨床的研究にも積極的に取り組んでいる。(2) 呼吸器外科領域では，肺癌外科治療を中心に年間約 200 例の手術を施行している。肺癌では 1994 年より低侵襲性手術である胸腔鏡手術を他に先駆けて導入し，高齢者，低身体機能予備力低下症例に応用し良好な成果をあげ，国内外で評価を受けている。併せて分子生物学，遺伝子解析による肺癌に対するオーダーメイド治療などの研究に国内外で従事している。肺縦隔良性疾患は胸腔鏡下手術を標準とし短期入院での治療による早い社会復帰に貢献している。(3) 内分泌外科領域では，甲状腺，副甲状腺，副腎疾患を中心に年間 300 例近くの手術を行っている。1998 年から内視鏡下手術として，副腎はもとより甲状腺，副甲状腺腫瘍摘出術に新しい術式の Video-assisted neck surgery (VANS 法) を国内外で最も早く取り組み，現在まで 600 例を越えており，この症例数は国内で最も多い。また 1999 年から，本術式は高度先進医療として国から許可されている。全国各地からの紹介患者も多く，また，海外からの評価も高く，毎年留学生を受け入れている。国際学会での発表，ライブ手術も頻回に行っている。さらには，分子生物学的研究を中心に最新の基礎研究も積極的に行っている。毎年，「チェルノブイリ原発事故後の甲状腺癌に対する医療支援活動」が 1999 年からおこなわれている。診断・治療支援の一環として，当地での甲状腺内視鏡手術が 2009 年から実施されている。毎年，学生・研修医も複数参加し，卒前卒後教育に貢献している。

#### 研究業績

##### 論文

##### [追加分]

追加分総説：

- 1) 清水一雄：副甲状腺切除術。臨床雑誌『外科』 2011；73 (1)：6-11.
- 2) 清水一雄：内分泌腺腫瘍：基礎・臨床研究のアップデート。日本臨牀 2011；69 (増刊号 2)：368-375.
- 3) 清水一雄：甲状腺内視鏡下手術。臨床外科 2012；67 (4)：458-463.

追加分原著：

- 1) Yamauchi H, Imura H, Maruyama Y, Sakamoto S, Saji Y, Ishii Y, Iwaki H, Uchikoba Y, Fukami D, Fukazawa R, Ogawa S, Tanaka S : Evolution of staged approach for Fontan operation. J Nippon Med Sch 2002；69 (2)：154-159.
- 2) Ochi M, Hatori N, Saji Y, Sakamoto S, Nishina D, Tanaka S : Application of off-pump coronary artery bypass grafting for patients with acute coronary syndrome requiring emergency surgery. Ann Thorac Cardiovasc Surg 2003；9 (1)：29-35.
- 3) Ishii Y, Nitta T, Sakamoto S, Tanaka S, Asano G : Incisional atrial reentrant tachycardia : experimental study on the conduction property through the isthmus. J Thorac Cardiovasc Surg 2003；126 (1)：254-262.

- 4) Nitta T, Ohmori H, Sakamoto S, Miyagi Y, Kannno S, Shimizu K : Map-guided surgery for atrial fibrillation. *J Thorac Cardiovasc Surg* 2005 ; 129 (2) : 291-299.
- 5) Sakamoto S, Nitta T, Ishii Y, Miyagi Y, Ohmori H, Shimizu K : Interatrial electrical connections : the precise location and preferential conduction. *J Cardiovasc Electrophysiol* 2005 ; 16 (10) : 1077-1086.
- 6) Sakamoto S, Yamauchi S, Yamashita H, Imura H, Maruyama Y, Ogasawara H, Hatori N, Shimizu K : Intraoperative mapping of the right atrial free wall during sinus rhythm : variety of activation patterns and incidence of postoperative atrial fibrillation. *Eur J Cardiothorac Surg* 2006 ; 30 (1) : 132-139.
- 7) Voeller R, Bailey M, Zierer A, Lall S, Sakamoto S, Aubuchon K, Lawton J, Moazami N, Huddleston C, Munfakh N, Moon M, Schuessler R, Damiano R <sup>(1)</sup> Division of Cardiothoracic Surgery, Department of Surgery, Washington University in Saint Louis) : Isolating the entire posterior left atrium improves surgical outcomes after the Cox maze procedure. *J Thorac Cardiovasc Surg* 2008 ; 135 (4) : 870-877.
- 8) Lall S, Foyil K, Sakamoto S, Voeller R, Boineau J, Damiano R, Schuessler R <sup>(1)</sup> Division of Cardiothoracic Surgery, Department of Surgery, Washington University in Saint Louis) : Pulmonary vein isolation and the Cox maze procedure only partially denervate the atrium. *J Thorac Cardiovasc Surg* 2008 ; 135 (4) : 894-900.
- 9) Fukushima M<sup>1)</sup>, Ito Y<sup>1)</sup>, Hirokawa M<sup>2)</sup>, Miya A<sup>1)</sup>, Shimizu K<sup>3)</sup>, Miyauchi A<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup>Department of Surgery, Kuma Hospital, <sup>2)</sup> Department of Pathology, Kuma Hospital, <sup>3)</sup> Department of Surgery, Nippon Medical School) : Prognostic Impact of Extrathyroid Extension and Clinical Lymph Node Metastasis in Papillary Thyroid Carcinoma Depend on Carcinoma Size. *World Journal of Surgery* 2010 ; (34) : 3007-3014.

(1) 原著 :

- 1) Nitta T, Ishii Y, Ogasawara H, Sakamoto S, Miyagi Y, Yamada K, Kannno S, Tanaka S : Initial experience with the radial incision approach for atrial fibrillation. *Ann Thorac Surg* 1999 ; 68 : 805-810.
- 2) Ochi M, Hatori N, Saji Y, Sakamoto S, Nishina D, Tanaka S : Application of Off-pump Coronary Artery Bypass Grafting for Patients with Acute Coronary Syndrome Requiring Emergency Surgery. *Ann Thorac Cardiovasc Surg* 2003 ; 9 : 29-35.
- 3) Nitta T, Ishii Y, Miyagi Y, Ohmori H, Sakamoto S, Tanaka S : Concurrent multiple left atrial focal activations with fibrillatory conduction and right atrial focal or reentrant activation as the mechanism in atrial fibrillation. *J Thorac Cardiovasc Surg* 2004 ; 127 (3) : 770-778.
- 4) Shuji H, Kiyoshi K, Tomomi H, Kyoji H, Iwao M, Hirotohi K, Kazuo S : Surgical results of completion pneumonectomy. *Ann Thorac Cardiovasc Surg* 2011 ; 17 : 24-28.
- 5) Haraguchi S, Koizumi K, Akiyama H, Mikami I, Okada D, Yoshino N, Shimizu K : Unification of T2a and T2b Tumors to T2 Tumors in Non-Small Cell Lung Cancer Staging. *Ann Thorac Cardiovasc Surg* 2011 ; 17 (6) : 559-564.
- 6) Haraguchi S, Koizumi K, Mikami I, Okamoto J, Iijima Y, Ibi T, Shimizu K : Clinicopathological characteristics and prognosis of non-small cell lung cancer patients with a family history of lung cancer. *Int J Med Sci* 2011 ; 9 (1) : 68-73.
- 7) Haraguchi S, Koizumi K, Hirata T, Hirai K, Mikami I, Kubokura H, Nakajima Y, Shimizu K : Surgical treatment of metachronous non-small cell lung cancer. *Ann Thorac Cardiovasc Surg* 2010 ; 16 : 319-325.
- 8) Schuessler R, Ishii Y, Khagi Y, Diabagate K, Boineau J, Damiano R <sup>(1)</sup> Washington University) : The effects of inflammation on heart rate and rhythm in a canine model of cardiac surgery. *Heart Rhythm* 2012 ; 9 : 432-439.

- 9) Akaishi J<sup>1)</sup>, Sugino K<sup>1)</sup>, Kitagawa W<sup>1)</sup>, Nagahama M<sup>1)</sup>, Kameyama K<sup>2)</sup>, Ito K<sup>1)</sup>, Ito K<sup>1)</sup>, Shimizu K<sup>3)</sup> (1) Department of Surgery, Ito Hospital, Tokyo Japan., 2) Department of Surgery, Keio Hospital, Tokyo, Japan, 3) Department of Endocrine Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Prognostic Factors and Treatment Outcomes of 100 Cases of Anaplastic Thyroid Carcinoma. THYROID CANCER AND NODULES 2011 ; 21 : 1183-1189.
  - 10) Okamura R, Akasu H, Igarashi T, Hames K, Jikuzono T, Takema Y, Shimizu K : Cosmetic Benefits of the Central Approach by Video-assisted Neck Surgery (VANS) in Graves'disease. JOURNAL OF NIPPON MEDICAL SCHOOL 2012 ; 79 (1) : 2-3.
  - 11) 五十嵐健人 : 内分泌性高血圧の診断と外科的治療. 東京都医師会雑誌 2012 ; 65 (1) : 29-33.
  - 12) 五十嵐健人, 清水一雄 : 内分泌外科領域における低侵襲手術の現状. 日医大医会誌 2012 ; 8 (1) : 54-57.
  - 13) 清水一雄 : 甲状腺良性腫瘍. Modern Physician 2011 ; 31 (4) : 433-437.
  - 14) Nitta T : Invited Commentary on Left Atrial Expansion Index for Predicting Atrial Fibrillation and In-Hospital Mortality After Coronary Artery Bypass Graft Surgery. Wang WH, et. al. Ann Thorac Surg 2012 ; 93 : 796-803. Ann Thorac Surg 2012 ; 93 : 803-803.
  - 15) Kurita J<sup>1)</sup>, Miyamoto M<sup>2)</sup>, Ishii Y<sup>1)</sup>, Aoyama J<sup>1)</sup>, Takagi G<sup>2)</sup>, Naito Z<sup>3)</sup>, Tabata Y<sup>4)</sup>, Ochi M<sup>1)</sup>, Shimizu K<sup>1)</sup> (1) Nippon Medical School Graduate School of Medicine, Department of Biological Regulation and Regenerative Surgery, Cardiovascular Surgery, 2) Nippon Medical School, Cardiology, 3) Nippon Medical School, Pathology, 4) Kyoto University, Institute for Frontier Medical Science) : Enhanced Vascularization by Controlled Release of Platelet-Rich Plasma Impregnated in Biodegradable Gelatin Hydrogel. The annals of thoracic surgery 2011 ; 92 (3) : 837-844.
- (2) 総説 :
- 1) 石井庸介 : 心臓外科手術後の心房細動に対する amiodarone の予防的投与. 胸部外科 2011 ; 64 (3) : 179-186.
  - 2) Ishii Y : Is pulmonary vein isolation effective for permanent atrial fibrillation?. Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2012 ; 60 : 68-70.
  - 3) 丸山雄二, 落 雅美 : 川崎病冠動脈疾患に対する冠動脈バイパス術. 循環器内科 2011 ; 69 (4) : 359-363.
  - 4) 清水一雄, 佐藤英尊<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学放射線医学) : 東日本大震災により発生した福島原発事故の実際と風評被害 : チェルノブイリ原発事故後の甲状腺癌発生の現況と比較して. 日医大医会誌 2011 ; 7 (3) : 135-137.
  - 5) 山本英喜<sup>1)</sup>, 内田一徳<sup>1)</sup>, 春田直樹<sup>1)</sup>, 小川喜輝<sup>2)</sup>, 清水一雄<sup>3)</sup> (1) 医療法人社団仁鷹会たかの橋中央病院外科, 2) 因島医師会病院外科, 3) 日本医科大学第2外科) : 99mTc-MIBI シンチグラム陰性原発性副甲状腺機能亢進症に対して術中 intact-PTH 値測定により内視鏡補助手術をしえた1例. 日本内視鏡外科学会 2011 ; 16 (3) : 317-322.
  - 6) 落 雅美 : 虚血性心疾患に対するバイパスグラフトと手術術式の選択ガイドライン. 日本臨牀 2011 ; 69 (増刊号 9) : 583-588.
  - 7) 落 雅美 : 冠動脈バイパス術 (CABG). 小児科診療 2011 ; 74 (8) : 1214-1220.
  - 8) 落 雅美 : 糖尿病例, 高齢者, 低佐新機能例の冠血行再建術. 呼吸と循環 2011 ; 59 (5) : 443-450.
  - 9) 大野忠明<sup>1)</sup>, 新田 隆, 水野杏一<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)) : 重症心不全症例に対する心臓再同期療法と僧帽弁形成術の併用治療の可能性. 循環器専門医 16 : 61-65.
  - 10) Nitta T : Devices for Resident Physicians : Transvenous Lead Removal. J Arrhythmia 2011 ; 27 : 350-352.
  - 11) Nitta T<sup>1)</sup>, Ishii Y<sup>2)</sup>, Sakamoto S<sup>1)</sup> (1) Division of Cardiovascular, Department of Surgery Nippon Medical School, 2) Division of Thoracic Cardiovascular, Department of Surgery, Nippon Medical School Chiba Hokusou Hospital) : Surgery for atrial fibrillation : recent progress and future perspective. General Thoracic and Car-

diovascular Surgery 2012 ; 60 : 13-20.

(3) 症例報告 :

- 1) Sakamoto S, Nitta T, Murata H, Yoshio T, Ochi M, Shimizu K : Electroanatomical mapping-assisted surgical treatment of incessant ventricular tachycardia associated with an intramyocardial giant lipoma. J Interv Card Electrophysiol 2012 ; 33 (1) : 109-112.

著 書

- 1) Yamashita K, Haga S, Shimizu K : [共著] 3D-CT Mammary Lymphography Facilitate the Endoscopic Sentinel Node Biopsy. Computed Tomography : Clinical Applications (Luca Saba), 2012 ; pp29-40, InTech.
- 2) 原口秀司 : [分担] 胸腔鏡下手術は、標準的アプローチと考えますか。その長所短所はどのようなものですか。肺癌診療 Q&A. 一つ上を行く診療の実践。(弦間昭彦), 2011 ; pp195-198, 中外医学社.
- 3) 石井庸介 : [分担] 人工血管 心臓血管外科医の立場から。医療材料【外科製品・生体材料】の臨床ニーズ集, 2011 ; pp64-86, 技術情報協会.
- 4) 石井庸介, 新田 隆 : [分担] 不整脈の外科治療 心房細動 : テイラーメイド治療について。不整脈診療レジデントマニュアル (小林義典, 新田 隆), 2012 ; pp224-233, 医学書院.
- 5) 清水一雄, その他 122 名 : [共著] 第 105 回医師国家試験問題集解説書, 2011 ; 医学評論社.
- 6) 清水一雄 : [広報あしや] なくそう !! 放射能汚染と風評被害。広報あしや (兵庫県芦屋市役所), 2011 ; pp3-3, 芦屋市役所.
- 7) 清水一雄, その他 50 名 : [分担] 第 9 章 クッシング症候群。経静脈治療オーダーマニュアル (小川龍, 和田孝雄, 小川龍, 林田憲明編), 2011 ; pp323-327, 大塚製薬 ; メディカルレビュー社.
- 8) 落 雅美, その他 100 名 : [分担] CABG の適応。循環器疾患 最新の治療 2012-2013 (堀正二, 永井良三 編), 2012 ; pp6-11, 南江堂.
- 9) 新田 隆, その他 20 名 : [分担] 心房細動。今日の心臓手術の適応と至適時期 (吉川純一 監修), 2011 ; pp397-400, 文光堂.
- 10) 奥村 謙<sup>1)</sup>, 相澤義房<sup>2)</sup>, 青沼和隆<sup>3)</sup>, 磯部文隆<sup>4)</sup>, 大西 哲<sup>5)</sup>, 加藤貴雄<sup>6)</sup>, 清水昭彦<sup>7)</sup>, 新田 隆, 萩原誠久<sup>8)</sup>, 松本万夫<sup>9)</sup>, その他 2 名 ( <sup>1)</sup> 弘前大学循環器内科, <sup>2)</sup> 立川総合病院, <sup>3)</sup> 筑波大学循環器内科学, <sup>4)</sup> 愛知医科大学心臓外科, <sup>5)</sup> NTT 東日本関東病院循環器内科, <sup>6)</sup> 日本医科大学内科学, <sup>7)</sup> 山口大学保健学領域, <sup>8)</sup> 東京女子医科大学循環器内科, <sup>9)</sup> 埼玉医科大学国際医療センター) : [共著] 不整脈の非薬物治療ガイドライン (2011 年改訂版), 2012.
- 11) Aizawa Y<sup>1)</sup>, Horie M<sup>2)</sup>, Inoue H<sup>3)</sup>, Kamakura S<sup>4)</sup>, Nitta T<sup>5)</sup>, et al. ( <sup>1)</sup> Department of Research and Development, Tachikawa Medical Center, <sup>2)</sup> Department of Cardiovascular and Respiratory Medicine, Shiga University of Medical Science, <sup>3)</sup> Second Department of Internal Medicine, University of Toyama, <sup>4)</sup> Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, National Cerebral and Cardiovascular Center Hospital, <sup>5)</sup> Division of Cardiovascular Surgery, Nippon Medical School) : [分担] Guidelines for Risks and Prevention of Sudden Cardiac Death (JCS 2010), 2012 ; pp489-507.
- 12) 新田 隆 : [分担] 非薬物療法の実際 : 外科治療。もう迷わない 心房細動マネージメント (奥村 謙), 2012 ; pp118-123, メジカルビュー社.
- 13) 新田 隆 : [編集] 不整脈治療 レジデントマニュアル (小林義典, 新田隆 編), 2012 ; 医学書院.
- 14) 新田 隆 : [分担] 不整脈の外科治療 : 心室頻拍。不整脈診療 レジデントマニュアル (小林義典, 新田隆 編), 2012 ; pp234-240, 医学書院.
- 15) 坂本俊一郎 : [分担] 心房細動はどこまで治るのか? : 手術至的適時期と術式について。今日の心臓手術の適応と至適時期 (吉川純一), 2011 ; pp130-131, 文光堂.

- 16) 大森裕也：〔分担〕第4章，④ ICDの適応と植え込みの実際，不整脈診療レジデントマニュアル（小林義典，新田 隆），2012；pp162-167，医学書院。
- 17) 大森裕也：〔分担〕第1章 心臓植込みデバイスのトラブルシューティング術中・術後編：起こりうる合併症・トラブルと対策1，トラブルを回避するための植込みテクニック：ICD植込み術，ペースメーカ・ICD・CRT/CRT-D（奥村 謙），2012；pp53-66，メジカルビュー社。
- 18) 大森裕也：エキシマレーザの循環器領域への応用，光アライアンス，2011；日本工業出版。

## 学会発表

### 〔追加分〕

#### 追加分一般講演：

- 1) Akasu H, Hames K, Okamura R, Igarashi T, Yamashita K, Shimizu K : A case report of familial thyroid carcinoma. Asia-Pacific Endocrine Conference (22th) (Honolulu, HAWAII, USA), 2011. 2.
- 2) 藤井正大<sup>1,2)</sup>, 神戸 将<sup>1,2)</sup>, 矢島俊巳<sup>1,2)</sup> (1) 日本医科大学 心臓血管外科, 2) 浦添総合病院 心臓血管外科) : 術後に血漿交換を必要とした腹部大動脈瘤破裂による腹部大動脈：下大静脈瘻の1治験例. 日本血管外科学会学術総会 (第39回) (沖縄), 2012. 4.
- 3) 坂本俊一郎：心臓神経叢 (GP : Ganglionated Plexi) アプレーション. 不整脈外科研究会 (第25回) (千葉), 2011. 2.
- 4) 栗田二郎, 吉尾敬秀, 大嶽康介, 廣本敦之, 白川 真, 丸山雄二, 坂本俊一郎, 大森裕也, 井村 肇, 新田 隆, 落 雅美, 清水一雄：末梢動脈病変に対する集学的治療戦略：外科的血行再建と血管新生療法のHybrid Therapy. 日本血管外科学会学術総会 (第39回) (沖縄), 2012. 4.
- 5) 栗田二郎, 吉尾敬秀, 大嶽康介, 廣本敦之, 白川 真, 丸山雄二, 坂本俊一郎, 大森裕也, 井村 肇, 新田 隆, 落 雅美, 清水一雄, 村田 智<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学放射線科) : Hybrid TEVAR : 胸腹部大動脈瘤破裂に対して緊急腹部分枝バイパスによる再建後にTEVARを施行した1例. 日本血管外科学会学術総会 (第39回) (沖縄), 2012. 4.
- 6) 大森裕也, 新田 隆, 坂本俊一郎, 栗田二郎, 藤井正大, 田上素子, 高橋賢一郎, 上田仁美, 芝田匡史, 落 雅美, 原口秀司, 三上 巖, 小泉 潔, 清水一雄：胸腔鏡補助下にエキシマレーザーシースによるリード抜去を施行した1例. 植込みデバイス関連冬季大会 (第4回) (小倉), 2011. 2.

#### 追加分特別講演：

- 1) 新田 隆：心房細動手術の落とし穴：難治例・無効例・限界例について. 阪神不整脈外科セミナー (関西地方), 2011. 3.

#### (1) 特別講演：

- 1) 清水一雄：原発事故と風評被害：風評と偏見を防ぐために. 平成23年度千葉県人権啓発指導者養成講座 (千葉県), 2011. 10.
- 2) 清水一雄：甲状腺疾患に対する内視鏡補助下手術：VANS法550例の経験. 釧路市招待講演会 (第58回) (北海道釧路市), 2011. 11.
- 3) 清水一雄：内分泌疾患の外科的アプローチ. 下谷・浅草医師会合同学術講演会 (上野), 2011. 12.
- 4) 清水一雄：放射能と甲状腺癌. e-レジフェアPREMIUM-2011 in 東北 (仙台), 2011. 11.
- 5) 清水一雄：チェルノブイリ原発事故後の甲状腺がん検診における穿刺吸引細胞診の教育と成果. 日本臨床細胞学会東京都支部学術集会 (東京都文京区 日本医科大学), 2011. 7.
- 6) 清水一雄：甲状腺疾患の診断と治療に対する最近の動向：チェルノブイリ原発事故後大量発生した小児甲状腺癌の現状と治療報告を含めて. 吉川松伏医師会学術講演会 (埼玉県吉川市), 2011. 6.

- 7) 清水一雄：放射能と甲状腺疾患・チェルノブイリ原発事故に対する甲状腺癌検診および治療経験. 足立区医師会 区民講演会（第13回）（東京都足立区），2011. 11.
  - 8) 落 雅美：わが国のCABGは世界標準を超えているか？. 新潟冠動脈治療研究会（新潟大学），2012. 3.
  - 9) 落 雅美：ガイドラインに学ぶ4 2010年度活動ガイドライン改訂版作成班報告虚血性心疾患に対するバイパスグラフトと手術術式の選択ガイドライン. 日本循環器学会（第76回）（福岡），2012. 3.
  - 10) 新田 隆：心房細動の外科治療：術後心房性不整脈の予防と対策. 千葉Cardiovascular Surgery Research Meeting（第2回）（千葉県），2011. 6.
  - 11) 新田 隆：心房細動の外科治療. 周術期不整脈セミナー（札幌），2011. 9.
- (2) 招待講演：
- 1) 織田良夫<sup>1)</sup>，清水一雄<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>織田消化器クリニック，<sup>2)</sup>日本医科大学 外科学講座 主任教授・内分泌外科部長）：内分泌疾患の外科的アプローチ. 下谷・浅草医師会合同学術講演会（上野精養軒 地下1階「银杏」東京都台東区上野公園4-58），2011. 12.
  - 2) 清水一雄<sup>1)</sup>：福島原発の放射能汚染が与える食物への影響と甲状腺疾患：チェルノブイリ原発事故検診12年の経験から言えること. 静岡栄養・代謝の集い（第29回）（静岡県コンベンションアーツセンター・グランシップ10回），2012. 3.
  - 3) 清水一雄：放射能汚染と甲状腺癌. 寿大学秋川校講座（東京都秋川），2011. 11.
  - 4) Nitta T, Sakamoto S, Ishii Y, Fujii M, Orii K, Ochi M, Shimizu K：Intraoperative Verification of Conduction Block in AF Surgery. ASCVTS（Asian Society for Cardiovascular and Thoracic Surgery）（第19回）（Phuket, Thailand），2011. 5.
  - 5) 新田 隆：先天性心疾患に合併する心房細動の外科治療. 東日本先天性心臓外科手術手技研究会（第6回），2011. 11.
  - 6) 新田 隆：心房細動の外科治療. 三山循環器カンファレンス（第20回）（高崎），2011. 9.
- (3) 教育講演：
- 1) 五十嵐健人：内分泌性高血圧の診断と外科的治療. 日本医師会生涯教育講座サマリー（新宿明治安田生命ホール），2011. 9.
  - 2) 落 雅美：循環器医療・研究の魅力について語ろう：若い人たちへのメッセージ. 日本冠疾患学会学術集会（第25回）（大阪），2011. 12.
  - 3) 落 雅美：Surgical Management of Adult Patients With Kawasaki Coronary Artery Disease. 日本循環器学会（第76回）（福岡），2012. 3.
- (4) シンポジウム：
- 1) 山下浩二，赤須東樹，五十嵐健人，岡村律子，ヘイムス（山田）規予美，軸蘭智雄，柳原恵子，飯田信也，芳賀駿介，清水一雄：3-Tesla MRIと3D-CT乳腺リンパ管造影によるセンチネルリンパ節生検と腋窩リンパ節転移評価. 日本内分泌外科学会総会（第23回）（東京），2011. 7.
  - 2) 原口秀司，平田知己，平井恭二，三上 巖，窪倉浩俊，吉野直之，榎本 豊，飯島慶仁，小泉 潔，清水一雄：肺癌における高齢者手術の現状と問題点. 第36回外科系連合学会学術集会（千葉），2011. 6.
  - 3) 原口秀司，平田知己，平井恭二，三上 巖，窪倉浩俊，吉野直之，岡本淳一，揖斐孝之，飯島慶仁，小泉 潔，清水一雄：経験とエビデンスから学ぶ肺癌における低侵襲手術の妥当性. 第73回日本臨床外科学会総会（東京），2011. 11.
  - 4) Shimizu K：Video-assisted endoscopic thyroid surgery using lifting method. 2012 International Oncoplastic Thyroid Surgery Sympojuin（Seoul, Korea Clinical Research Institute Auditorium Seoul National University Hospital），2012. 1.
  - 5) 岡村律子，清水一雄，赤須東樹，五十嵐健人，ヘイムス規予美，軸蘭智雄，竹間由佳，Youssif-Khachaba A：

パセドウ病に対する内視鏡手術（VANS法）工夫と経験から得られた我々の術式. 小切開・鏡視外科学会（第3回）（東京都），2011. 11.

- 6) 清水一雄：放射線障害と甲状腺癌：チェルノブイリ原発事故後の甲状腺癌検診の経験. 分子状水素医学シンポジウム（第2回）（北里大学白金キャンパス），2012. 2.
- 7) Shimizu K, Akasu H, Igarashi T, Okamura R, Hames K, Takema Y : Video-assisted endoscopic thyroid surgery using lifting method. 2012 International Oncoplastic Thyroid Surgery Symposium (Soul University,KOREA), 2012. 1.
- 8) Nitta T, Sakamoto S, Takahashi K, Tanoue M, Fujii M, Ochi M, Shimizu K, Kurita J : Surgery for Non-ischemic VT. Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session（第4回）（Pacifico Yokohama, Japan), 2011. 9.
- 9) Shimizu K : Endoscopic Thyroid Surgery. ベラルーシ医学再教育アカデミー 医学シンポジウム（ベラルーシ），2011. 9.
- 10) Soejima K, Nitta T, Miyauchi Y, Murata H : Hybrid ablation for VT patients in Japan. Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session（第4回）（Pacifico Yokohama, Japan), 2011. 9.
- 11) Nitta T, Sakamoto S, Takahashi K, Tanoue M, Kurita J, Ohmori M, Fujii M, Ochi M, Shimizu K : Surgical Ablation of VT. Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session（第4回）（Pacifico Yokohama, Japan), 2011. 9.
- 12) 清水一雄：福島原発事故：社会的差別を抑え込むために. 人権文化を育てる会シンポジウム（第12回）（東京），2011. 12.
- 13) Nitta T, Sakamoto S, Takahashi K, Tanoue M, Kurita J, Ohmori M, Fujii M, Ochi M, Shimizu K : Surgical Mapping and Ablation of Non-ischemic VT. World Society of Arrhythmias（第14回）（Athens, Greece), 2011. 12.
- 14) Nitta T : When and Why an ICD : Brugada. World Society of Arrhythmias（第14回）（Athens, Greece), 2011. 12.
- 15) 新田 隆, 坂本俊一郎, 高橋賢一郎, 田上素子, 栗田二郎, 大森裕也, 藤井正大, 織井恒安, 石井庸介, 井村肇, 落 雅美, 清水一雄：「成人先天性心疾患における不整脈管理の最前線」：先天性心疾患に合併する心房細動の外科治療. 成人先天性心疾患セミナー（第4回）（聖路加看護大学講堂 東京都中央区），2011. 5.
- 16) 新田 隆：VT Surgery after Failed Catheter Ablation. カテーテルアブレーション関連秋季大会（第23回）（はまぎんホール 横浜市西区），2011. 10.
- 17) Kazuo S : Video-assisted Endoscopic thyroid Surgery Using Gasless Lifting Method-an Experience of 569 Cases. 13th Asian Association of Endocrine Surgeons Congress 2012（シンガポール），2012. 3.

(5) パネルディスカッション：

- 1) 山下浩二, 赤須東樹, 五十嵐健人, 岡村律子, 軸蘭智雄, 竹間由佳, 栗田智子, 柳原恵子, 飯田信也, 芳賀駿介, 清水一雄：センチネルリンパ節転移陽性者の腋窩郭清省略へ向けて, 3D-CT リンパ管造影ガイド下第2・第3リンパ節生検の有用性の検討. 日本臨床外科学会総会（第73回）（東京），2011. 11.
- 2) 山下浩二, 赤須東樹, 五十嵐健人, 岡村律子, 軸蘭智雄, 竹間由佳, 栗田智子, 柳原恵子, 飯田信也, 芳賀駿介, 清水一雄：腋窩単孔：乳腺内視鏡手術における手術手技・器具の工夫. 日本内視鏡外科学会総会（第24回）（大阪），2011. 12.

(6) 一般講演：

- 1) 岡田大輔<sup>1)</sup>, 秋山博彦<sup>1)</sup>, 吉野直之<sup>1)</sup>, 氏家秀樹<sup>1)</sup>, 小泉 潔, 清水一雄（<sup>1)</sup> 埼玉県立がんセンター胸部外科）：Gefitinib 投与後, Salvage 手術を施行した非小細胞肺癌4症例. 日本呼吸器外科学会総会（第28回）（別府），2011. 5.

- 2) Yamashita K, Haga S, Shimizu K : 3D-MRI and 3D-CT Mammary Lymphography Can Predict the Sentinel Node Metastasis. 12th Annual Meeting of the American Society of Breast Surgeons (第12回) (Washington DC, USA), 2011. 4.
- 3) 山下浩二, 赤須東樹, 五十嵐健人, 岡村律子, ヘイムス (山田) 規予美, 軸菌智雄, 柳原恵子, 飯田信也, 芳賀駿介, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 清水一雄 (1) 日本医科大学放射線科) : 3D-CT リンパ管造影ガイドによる経腋窩単孔ポート乳腺内視鏡手術の有用性 Trans-axillary retro-mammary approached video-assisted breast surgery can be guided by 3D-CT mammary lymphography. 日本外科学会学術総会 (第111回) (東京), 2011. 5.
- 4) Yamashita K : 3D-CT mammary lymphography with the arm lymph flow enhancement navigates sentinel node biopsy and selective axillary dissection. 47th annual meeting of the American Society of Clinical Oncology (Chicago, IL, USA), 2011. 6.
- 5) 山下浩二, 赤須東樹, 五十嵐健人, ヘイムス (山田) 規予美, 軸菌智雄, 柳原恵子, 飯田信也, 芳賀駿介, 清水一雄 : 3T-MRI による 3D-CT 乳腺リンパ管造影のセンチネルリンパ節生検と腋窩リンパ節転移評価. 日本乳癌学会学術集会 (第19回) (仙台, 宮城県), 2011. 9.
- 6) 山下浩二, 赤須東樹, 五十嵐健人, ヘイムス (山田) 規予美, 軸菌智雄, 柳原恵子, 飯田信也, 芳賀駿介, 清水一雄 : 3D-CT mammary lymphography with the arm lymph flow enhancement navigates sentinel node biopsy and selective axillary dissection. 3D-CT 乳腺リンパ管造影と上腕リンパ流造影によるセンチネルリンパ節生検と選択的腋窩郭清の誘導. 日本臨床腫瘍学会学術集会 (第9回) (横浜), 2011. 7.
- 7) Yamashita K, Haga S, Kazuo S : Trans-Axillary Retro-Mammary (TARM) approached Video-assisted Breast Surgery (VABS) is suitable for Asian patients with breast diseases. 10th Asia Pacific Congress of Endoscopic Surgery (第10回) (Singapore), 2011. 8.
- 8) Yamashita K, Shimizu K, Haga S : 3D-CT mammary lymphography with the arm lymph flow enhancement navigates sentinel node biopsy and selective axillary dissection. Breast Cancer Symposium 2011 of ASCO (San Francisco, USA), 2011. 9.
- 9) Yamashita K, Haga S, Shimizu K : Long Term Results of Video-assisted Breast Surgery (VABS). The European Multidisciplinary Cancer Congress (ECCO 16) - ESMO 36 - ESTRO 30 (Stockholm, Sweden), 2011. 9.
- 10) 山下浩二, 赤須東樹, 五十嵐健人, 岡村律子, 軸菌智雄, 竹間由佳, 柳原恵子, 飯田信也, 芳賀駿介, 清水一雄 : 3D-CT リンパ管造影ナビゲーションによる経腋窩単孔ポート乳腺内視鏡手術の有用性. 日本癌治療学会学術集会 (第49回) (名古屋), 2011. 10.
- 11) Yamashita K, Haga S, Shimizu K : Axillary node preservation on sentinel node-metastasized patients can be justified by second nodes biopsy guided by 3D-CT lymphograph. 8th European Breast Cancer Conference (第8回) (Vienna, Austria), 2012. 3.
- 12) 原口秀司, 平田知己, 平井恭二, 三上 巖, 窪倉浩俊, 吉野直之, 岡本淳一, 揖斐孝之, 飯島慶仁, 小泉 潔, 清水一雄 : 重症併存症を有する患者に対する呼吸器外科手術. 第64回日本胸部外科学会定期学術集会 (名古屋), 2011. 10.
- 13) 原口秀司, 平田知己, 平井恭二, 三上 巖, 窪倉浩俊, 吉野直之, 岡本淳一, 飯島慶仁, 揖斐孝之, 小泉 潔, 清水一雄 : 肺癌に対する胸腔鏡補助下手術の功罪. 第52回日本肺癌学会総会 (大阪), 2011. 11.
- 14) 原口秀司, 秋山博彦, 平田知己, 平井恭二, 三上 巖, 窪倉浩俊, 岡田大輔, 川島徹生, 吉野直之, 木下裕康, 山岸茂樹, 榎本 豊, 岡本淳一, 中島由貴, 竹内真吾, その他5名 : 新 TNM 分類の妥当性の検討, T2a と T2b の統一によるシミュレーション. 第28回日本呼吸器外科学会総会 (大分), 2011. 5.
- 15) 原口秀司, 三上 巖, 岡本淳一, 飯島慶仁, 小泉 潔, 清水一雄 : 自然気胸に対する胸腔鏡下手術の治療成績. 第24回日本内視鏡外科学会総会 (大阪), 2011. 12.

- 16) 田上素子, 新田 隆, 大森裕也, 坂本俊一郎, 藤井正大, 栗田二郎, 高橋賢一朗, 落 雅美: Comparison of different types of myocardial lead for LV pacing. 日本不整脈学会学術大会 (第 26 回) (ヒルトン福岡シーホーク), 2011. 9.
- 17) 赤須東樹, 竹間由佳, 岡村律子, 五十嵐健人, 清水一雄: 切除後嚥下障害をきたした正中頸嚢胞. 日本甲状腺外科学会 (44 回) (米子), 2011. 10.
- 18) 丸山雄二, 落 雅美, 大嶽康介, 廣本敦之, 栗田二郎, 白川 真, 坂本俊一郎, 大森裕也, 井村 肇, 新田 隆, 清水一雄: 破裂性深大体動脈瘤に対して瘤切除術+血行再建術を施行した 1 例. 日本血管外科学会学術総会 (第 39 回) (沖縄), 2011. 4.
- 19) 丸山雄二, 落 雅美, 大嶽康介, 廣本敦之, 栗田二郎, 白川 真, 坂本俊一郎, 大森裕也, 井村 肇, 新田 隆, 清水一雄: ハイリスク胸腹部大動脈瘤に対する hybrid TEVAR の有用性. 日本血管外科学会学術総会 (第 39 回) (沖縄), 2011. 4.
- 20) 丸山雄二, 落 雅美, 廣本敦之, 栗田二郎, 白川 真, 神戸 将, 坂本俊一郎, 大森裕也, 藤井正大, 井村 肇, 新田 隆, 清水一雄: 川崎病若年成人例に対する冠動脈バイパス術. 日本冠動脈外科学会学術大会 (第 16 回) (松本), 2011. 7.
- 21) 丸山雄二, 落 雅美, 廣本敦之, 栗田二郎, 白川 真, 坂本俊一郎, 大森裕也, 藤井正大, 井村 肇, 新田 隆, 清水一雄: 川崎病若年成人例に対する冠動脈バイパス術. 日本胸部外科学会定期学術集会 (第 64 回) (名古屋), 2011. 10.
- 22) 丸山雄二, 落 雅美, 高橋賢一郎, 田上素子, 栗田二郎, 坂本俊一郎, 大森裕也, 藤井正大, 新田 隆, 清水一雄: 川崎病若年成人例に対する冠動脈バイパス術. 日本冠疾患学会学術集会 (第 25 回) (大阪), 2011. 12.
- 23) 岡村律子, 竹間由佳, ヘイムス規予美, 軸菌智雄, 五十嵐健人, 赤須東樹, 山下浩二, Youssif-Khachaba A, 清水一雄: 初心者の VANS 技術習得. 日本甲状腺外科学会 (第 44 回) (米子市), 2011. 10.
- 24) 五十嵐健人, 竹間由佳, 岡村律子, ヘイムス規予美, 軸菌智雄, 赤須東樹, 清水一雄: 兄弟間で表現型の相違がある MEN2A の 1 家系に関する報告. 日本甲状腺外科学会 (第 44 回) (米子コンベンションセンター), 2011. 10.
- 25) 長峯朋子<sup>1)</sup>, 岡島史宜, 武市奈緒美, 高谷磨紀代, 佐藤友紀, 首藤真理子, 長尾元嗣, 若栗稔子, 石崎 晃, 原田太郎, 中島 泰, 五十嵐健人, 清水一雄, 杉原 仁, 及川眞一<sup>(1)</sup> 日本医科大学附属病院内分泌代謝内科): CVD 療法が無効であった下大静脈内浸潤を伴う褐色細胞腫の 1 例. 日本内分泌学会, 2011. 12.
- 26) 長峯朋子<sup>0, 1)</sup>, 岡島史宜, 武市奈緒美, 高谷磨紀代, 佐藤友紀, 首藤真理子, 長尾元嗣, 若栗稔子, 石崎 晃, 原田太郎, 中島 泰, 五十嵐健人, 清水一雄, 杉原 仁, 及川眞一<sup>(1)</sup> 日本医科大学附属病院内分泌代謝内科): CVD 療法が無効であった下大静脈内浸潤を伴う褐色細胞腫の 1 例. 日本内分泌学会, 2011. 12.
- 27) 武市奈緒美<sup>1)</sup>, 田村秀樹, 若栗稔子, 石崎 晃, 杉原 仁, 渡辺 淳, 五十嵐健人, 赤須東樹, 島田 隆, 清水一雄, 磯部和正, 新里寿美子, 竹越一博, 及川眞一<sup>(1)</sup> 日本医科大学内分泌代謝内科): TMEM127 遺伝子に生殖細胞変異を認め LOH を確認した両側褐色細胞腫. 日本内分泌学会, 2011. 12.
- 28) 軸菌智雄<sup>1)</sup>, 石橋 宰<sup>1)</sup>, 竹間由佳, ヘイムス規予美, 岡村律子, 五十嵐健人, 赤須東樹, 山下浩二<sup>2)</sup>, 廣川満良<sup>4)</sup>, 宮内 昭<sup>4)</sup>, 川本雅司<sup>3)</sup>, 土屋眞一<sup>3)</sup>, 瀧澤俊広<sup>1)</sup>, 清水一雄<sup>(1)</sup> 日本医科大学分子解剖学, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院, <sup>4)</sup> 神甲会限病院): 世界に発信する内分泌外科の臨床と基礎研究 甲状腺微小浸潤型濾胞癌の術後遠隔転移を予測するためのバイオマーカーの開発 初回手術の病理標本を用いた micro RNA 解析. 日本内分泌外科学会 (第 23 回) (東京), 2011. 7.
- 29) 五十嵐健人: 当科における内分泌疾患低侵襲手術の現況. 日本医科大学医学会 公開「シンポジウム」(第 21 回) (日本医科大学 橋桜会館橋桜ホール (2 階)), 2011. 6.
- 30) 軸菌智雄<sup>1)</sup>, 石橋 宰<sup>1)</sup>, 川本雅司<sup>3)</sup>, 天神敏博<sup>2)</sup>, 土屋眞一<sup>3)</sup>, 清水一雄, 瀧澤俊宏<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 日本医科大学・分子解剖学, <sup>2)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院・乳腺外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院・病理部): ホルマリン固定パラ

- フィン標本からの micro RNA 抽出条件の検討. 日本サイトメトリー学会 (第 21 回) (京都), 2011. 6.
- 31) 軸藪智雄<sup>1)</sup>, 村瀬幸宏<sup>2)</sup>, 渡会泰彦<sup>2)</sup>, 石橋 宰<sup>1)</sup>, 川本雅司<sup>2)</sup>, 土屋真一<sup>2)</sup>, 清水一雄, 瀧澤俊広<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学分子解剖学, 2) 日本医科大学付属病院病理部): LMD によるパラフィン標本を用いた甲状腺腫瘍 microRNA 解析のための条件検討. 日本臨床細胞学会秋期大会 (第 50 回) (東京), 2011. 10.
  - 32) 藤井正大<sup>1,2)</sup>, 神戸 将<sup>1,2)</sup>, 檜山和弘<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学心臓血管外科, 2) 浦添総合病院心臓血管外科, 3) 熊本市市民病院小児心臓外科): 高位 SVC 還流型 PAPVC を伴う成人 ASD 症例に対する modified Double Decker 法を用いた根治術. 日本外科学会定期学術集会 (第 111 回) (紙上開催), 2011. 5.
  - 33) 藤井正大<sup>1)</sup>, 落 雅美<sup>1)</sup>, 高橋賢一朗<sup>1)</sup>, 田上素子<sup>1)</sup>, 栗田二郎<sup>1)</sup>, 坂本俊一郎<sup>1)</sup>, 大森裕也<sup>1)</sup>, 新田 隆<sup>1)</sup>, 清水一雄<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学 外科・心臓血管外科, 2) 日本医科大学 外科学講座): 術後 10 年の遠隔期成績からグラフィトデザインを検証する: 両側内胸動脈による composite-T グラフトの評価. 日本冠疾患学会学術集会 (第 25 回) (大阪), 2011. 12.
  - 34) 片山昭公<sup>1)</sup>, 長門利純<sup>1)</sup>, 小林祐希<sup>1)</sup>, 清水一雄, 原測保明<sup>1)</sup> (1) 旭川医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室): 内視鏡補助下甲状腺手術の実際と臨床的検討. 北海道甲状腺談話会 (第 29 回) (北海道), 2011. 7.
  - 35) Wakita M, Nitta T, Watanabe Y, Sakamoto S, Ohmori H, Ishii Y, Ochi M, Shimizu K: Double Potential Mapping: A Novel Technique for Locating the Site of Incomplete Ablation. ISMICS (International Society for Minimally Invasive Cardiothoracic Surgery) (Washington DC), 2011. 6.
  - 36) Nitta T, Sakamoto S, Takashashi K, Tanoue M, Kurita J, Ohmori H, Fuji M, Orii K, Ochi M, Shimizu K: Surgery for Non-ischemic Ventricular Tachycardia: Role of Intraoperative Electro-anatomical Mapping. AHA (第 84 回) (Orlando, FL), 2011. 11.
  - 37) 宮内靖史, 林 明聡, 堀江 格, 植竹俊介, 坪井一平, 林 洋史, 高橋健太, 加藤貴雄, 水野杏一, 新田 隆, 大森裕也, 新 博次, 井川 修, 岡崎怜子: 心房細動外科手術後遠隔期に僧帽弁輪ならびに三尖弁輪を旋回する 2 種類の心房頻拍が発生した 1 例. 臨床心臓電気生理研究会 (第 41 回) (大阪国際会議場), 2011. 5.
  - 38) 山本哲平, 林 明聡, 堀江 格, 植竹俊介, 坪井一平, 林 洋史, 高橋健太, 加藤貴雄, 水野杏一, 新田 隆, 大森裕也, 新 博次, 井川 修, 岡崎怜子: 心房細動外科手術後遠隔期に僧帽弁輪ならびに三尖弁輪を旋回する 2 種類の心房頻拍が発生した 1 例. 臨床心臓電気生理研究会 (第 41 回) (大阪国際会議場), 2011. 5.
  - 39) 脇田真希, 新田 隆, 坂本俊一郎: Double Potential Mapping: A Novel Technique for Locating the Site of Incomplete Ablation. 日本医科大学医学会総会: 臨床配属研究報告 (日本医科大学), 2011. 9.
  - 40) 新田 隆, 大野忠明: 高度左心機能不全と慢性腎不全を合併した AS. Heart Valve Conference (第 1 回) (コクヨホール (東京)), 2011. 9.
  - 41) 新田 隆, 脇田真希, 坂本俊一郎, 渡邊嘉之, 高橋賢一朗, 田上素子, 栗田二郎, 大森裕也, 藤井正大, 織井恒安, 落 雅美, 清水一雄: ダブルポテンシャルマッピング: 心房自由壁の不完全焼灼部位検出の新しい方法. 日本胸部外科学会総会 (第 64 回) (名古屋国際会議場), 2011. 10.
  - 42) 大和田真玄, 金城貴彦, 石田祐司, 伊藤太平, 佐々木憲一, 堀内大輔, 木村正臣, 佐々木真吾, 奥村 謙, 坂本俊一郎, 新田 隆: 3 次元マッピングと irrigation を用いたアブレーションが無効で, 右心耳憩室切除により根治された心房頻拍の 1 例. カテーテルアブレーション関連秋季大会 (第 23 回) (はまぎんホール・ランドマークホール・日石横浜ホール (横浜市)), 2011. 10.
  - 43) 谷田篤史, 細川雄亮, 加藤麻衣子, 富山 毅, 青景聡之, 鈴木浩臣, 村田広茂, 宮地秀樹, 渋井俊之, 根井貴仁, 坪 宏一, 山本 剛, 田中啓治, 新田 隆, 水野杏一, その他 1 名: 僧帽弁狭窄症に伴う巨大左房により広範な無気肺を合併する僧帽弁形成術と左房形成術により軽快した 1 例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第 222 回) (東京ステーションコンファレンス), 2011. 12.
  - 44) 堀江 格, 宮内靖史, 淀川顕司, 林 明聡, 加藤貴雄, 水野杏一, 坂本俊一郎, 大森裕也, 新田 隆, 森嶋俊介, 鈴木健一: 当院における Home Monitoring の実際. 植込み型デバイス関連冬期大会 (第 4 回) (北九州国際

- 会議場), 2012. 2.
- 45) 新田 隆, 坂本俊一郎, 芝田匡史, 栗田二郎, 大森裕也, 藤井正大, 落 雅美: Video Workshop “Residual MR in valve repair valve operation” How to do it: Residual MR after Butterfly Repair. Heart Valve Conference (第2回) (聖路加看護大学 講堂), 2012. 3.
  - 46) 新田 隆, 芝田匡史, 栗田二郎, 大森裕也, 坂本俊一郎, 藤井正大, 落 雅美: Butterfly Repair 後のMR. Heart Valve Conference (第2回) (聖路加看護大学 講堂), 2012. 3.
  - 47) Kurita T<sup>1)</sup>, Noda T<sup>2)</sup>, Nitta T<sup>3)</sup>, Fukushima H<sup>4)</sup>, Shimizu A<sup>5)</sup>, Ohe T<sup>6)</sup>, Aizawa Y<sup>7)</sup>, NIPPON storm study investigators (1) Department of Medicine, Faculty of Medicine, Kinki University, Osaka-Sayama, 2) Cardiovascular Medicine, National Cerebral and Cardiovascular Center, Suita, 3) Department of Cardiovascular Surgery, Tokyo, 4) The First Department of Internal Medicine, Niigata, 5) Faculty of Health Sciences, Yamaguchi University Graduate School of Medicine, Ube, 6) Cardiology, The Sakakibara Heart Institute of Okayama, Okayama, 7) Tachikawa Medical Center, Nagaoka): The present status and the future of Nippon Storm Study. 日本循環器学会学術集会 (第76回) (・福岡国際会議場・福岡サンパレス・マリノメッセ福岡・福岡国際センター), 2012. 3.
  - 48) Shimizu A, Mitsuhashi T, Furushima H, Sekiguchi Y, Manaka T, Nishii N, Ueyama T, Yokoshiki S, Nitta T, Okumura K: Transition of Electrophysiologic Test Performed for Determining the Indication of Primary Prevention for Sudden Cardiac Death in Japan. 日本循環器学会学術集会 (第76回) (・福岡国際会議場・福岡サンパレス・マリノメッセ福岡・福岡国際センター), 2012. 3.
  - 49) Takahashi K, Miyauchi Y, Hayashi M, Uetake S, Tsuboi I, Murata H, Yamamoto T, Horie T, Yodogawa K, Katoh K, Nitta T, Mizuno K: Mechanisms and Ablation of Mitral-annular AT Occurring in Patients Post Full-Maze Surgery for Atrial Fibrillation. 日本循環器学会学術集会 (第76回) (・福岡国際会議場・福岡サンパレス・マリノメッセ福岡・福岡国際センター), 2012. 3.
  - 50) 三上 巖, 小泉 潔, 原口秀司, 岡本淳一, 中島由貴, 竹内真吾, 藤井祥貴, 竹内千枝, 川本雅司<sup>1)</sup>, 清水一雄 (1) 日本医科大学付属病院病理部): 間質性肺炎合併肺癌手術症例の検討: 術後急性増悪症例との比較. 日本呼吸器外科学会 (第28回) (別府国際コンベンションセンター), 2011. 5.
  - 51) 三上 巖<sup>1)</sup>, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 原口秀司<sup>1)</sup>, 平田知己<sup>1)</sup>, 秋山博彦<sup>2)</sup>, 平井恭二<sup>1)</sup>, 窪倉浩俊<sup>1)</sup>, 山岸茂樹<sup>3)</sup>, 木下裕康<sup>1)</sup>, 吉野直之<sup>1)</sup>, 岡田大輔<sup>2)</sup>, 岡本淳一<sup>1)</sup>, 中島由貴<sup>2)</sup>, 飯島慶仁<sup>1)</sup>, 揖斐孝之<sup>1)</sup>, その他1名 (1) 日本医科大学付属病院外科・呼吸器外科, 2) 埼玉県立がんセンター 胸部外科, 3) 会津中央病院 呼吸器科): 不全分葉肺癌症例に対する完全モニター下肺葉切除術. 日本肺癌学会総会 (第52回) (大阪国際会議場), 2011. 11.
  - 52) Ochi M: Long-term outcome of pediatric coronary artery bypass grafting for Kawasaki coronary disease. The 10th International Kawasaki Disease Symposium (京都), 2012. 2.
  - 53) 新田 隆: 心房細動手術のコツと落とし穴. 不整脈講演会 (大崎), 2011. 10.
  - 54) 新田 隆: 心房細動の外科治療. 最新の不整脈外科治療 (郡山), 2012. 2.
  - 55) 新田 隆: 心房細動手術: 伝導ブロック作製における高周波と凍結凝固の比較. Meet the Expert in Kyusyu (福岡), 2012. 3.
  - 56) Katayama A<sup>1)</sup>, Harabuchi Y<sup>1)</sup>, Shimizu K<sup>2)</sup> (1) Department of Head and Neck Surgery, Asahikawa Medical University, 2) Division of Endocrine Surgery, Department of Surgery, Nippon Medical School): Evolution of Video-Assisted Thyroidectomy (VANS Method) for Just One-Inch Skin Incision and Clearer Endoscopic surgical View. 13th Asian Association of Endocrine Surgeons Congress 2012 (シンガポール), 2012. 3.
  - 57) 新田 隆: 心房細動の外科治療. 弘前不整脈治療セミナー (第6回) (青森県弘前市), 2011. 10.
  - 58) 坂本俊一郎, 新田 隆, 大森裕也, 高橋賢一郎, 田上素子, 栗田二郎, 藤井正大, 落 雅美, 清水一雄: Ablation of the Ganglionated Plexi (GP) combined with the Radial Procedure using Sequential Pacing and Ablation

Technique : Clinical Experience and Outcomes at Short-and Mid-term Follow-up. 日本胸部外科学会総会 (第 64 回) (名古屋), 2011. 10.

- 59) 高橋賢一朗, 落 雅美, 田上素子, 栗田二郎, 坂本俊一郎, 大森裕也, 藤井正大, 織井恒安, 井村 肇, 新田 隆, 清水一雄: 巨大腹部大動脈瘤を有する重症 3 枝病変に対して緊急人工血管置換を先行させた CABG 例. 胸部外科学会関東甲信越地方会 (第 156 回) (東京), 2011. 6.
- 60) Sakamoto S, Nitta T, Ohmori H, Takahashi K, Tanoue M, Kurita J, Fujii M, Ochi M, Shimizu K :
- 61) 栗田二郎<sup>1)</sup>, 高橋賢一朗<sup>1)</sup>, 田上素子<sup>1)</sup>, 坂本俊一郎<sup>1)</sup>, 大森裕也<sup>1)</sup>, 藤井正大<sup>1)</sup>, 新田 隆<sup>1)</sup>, 落 雅美<sup>1)</sup>, 嶺貴彦<sup>2)</sup>, 中澤 賢<sup>2)</sup>, 村田 智<sup>2)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学心臓血管外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学放射線科): 胸部大動脈瘤に対する Hybrid 治療: debranching EVAR の有用性. 千駄木血管研究会 (第 7 回) (東京), 2011. 6.
- 62) 栗田二郎<sup>1)</sup>, 宮本正章<sup>2)</sup>, 石井庸介<sup>1)</sup>, 高木 元<sup>2)</sup>, 太良修平<sup>2)</sup>, 田畑泰彦<sup>3)</sup>, 落 雅美<sup>1)</sup>, 清水一雄<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学心臓血管外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学再生医療科, <sup>3)</sup> 京都大学再生医科学研究所): 重症虚血肢に対する徐放化多血小板血漿 (Platelet-Rich Plasma : PRP) による血管新生. 循環器再生医療研究会 (第 15 回) (東京), 2011. 11.
- 63) 栗田二郎, 宮本正章<sup>1)</sup>, 石井庸介, 高木 元<sup>1)</sup>, 太良修平<sup>1)</sup>, 田畑泰彦<sup>2)</sup>, 落 雅美, 清水一雄 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学再生医療科, <sup>2)</sup> 京都大学再生医科学研究所): 重症虚血肢に対する DDS 徐放化 Platelet-Rich Plasma (PRP) による血管新生療法. DDS 徐放化再生医療研究会 (第 1 回) (東京), 2011. 12.
- 1) 新田 隆: 術後心房頻拍を起さない心房細動手術. ATCVS 研究会 (第 8 回) (東京, ベルサール九段 4F), 2011. 11.

## [武蔵小杉病院心臓血管外科・呼吸器外科・乳腺外科, 内分泌外科]

### 研究概要

1) 心臓血管外科領域: ①近年, 心臓血管外科領域において高齢者や他臓器疾患を有するハイリスク症例が増加しており, また複合手術が必要な症例も多く, 高度な手術手技が要求される. 高カリウムを中心とした心筋保護法は確立された方法であるが, 最もすぐれた心筋保護法とは言い難い. 当施設における持続逆行性心筋保護法の有用性について研究している. ②冠動脈バイパス術において, 高度脳血管疾患を有する患者が多く, 周術期の脳血管合併症は依然大きな問題であるといえる. 術前の脳血管の評価から, 術中術後管理における脳合併症の予防に関して研究している. ③冠動脈バイパス手術において, 三次元 CT 検査を用いた静脈グラフトの術前評価を行い, その有用性を検討している. ④大動脈外科におけるステントとグラフトの進歩は著しく, 当施設においても血管内・低侵襲治療センターと連携してハイブリッドステントグラフト手術を行い, その有用性を検討している. 2) 呼吸器外科領域: 原発性肺癌に関して, CD40 を用いた術後補助免疫療法の有用性に対して基礎実験を行っている. また同じく CD40 の特殊免疫染色法を確立し, これが肺癌における新たな転移マーカーとなりうるかをレトロスペクティブに検証している. 画像上診断困難な GGO を含めた末梢小型肺腫瘍に対して, 胸腔鏡下超音波断層診断の有用性について新たに臨床研究として開始した. 自然気胸においては, 胸腔鏡下ブラ切除術後の再発予防手段として PGA シート被覆法の有用性について引き続き立証している段階である. 3) 乳腺外科領域: 抗癌剤と染色体の関係を観察するために, 乳癌培養細胞を用いた FISH 法と免疫蛍光染色を行い, 蛍光顕微鏡にて細胞個々の染色体を測定し, 細胞遺伝学的な基礎的実験を行っている. また間期細胞と凝集期細胞における染色体を観察し, 核分裂と染色体座の関係も研究する予定である. 4) 内分泌外科領域: 甲状腺・副甲状腺手術後前頸部創傷治癒の経時的評価, 甲状腺切除量と術後補充療法の必要性の評価. 甲状腺濾胞癌の切除標本を用いた分子生物学的特徴の検索.

## 研究業績

### 論文

#### [追加分]

追加分症例報告：

- 1) Okamoto J, Hirata T, Chen Z<sup>1</sup>, Zhou H<sup>1</sup>, Mikami I, Li H<sup>1</sup>, Yagui-Beltran A<sup>1</sup>, Johansson M<sup>1</sup>, Coussens L<sup>1</sup>, Clement G<sup>1</sup>, Shi Y<sup>1</sup>, Zhang F<sup>1</sup>, Koizumi K, Shimizu K, Jpblons D<sup>1</sup>, et al.<sup>(1)</sup> Department of Surgery, University of Carlifornia, San Francisco, CA 94115, USA) : EMX2 is epigenetically silenced and suppresses growth in human lung cancer. *Oncogene* 2010 ; 4 (29 (44)) : 5969-5975.

(1) 総説：

- 1) 田島廣之<sup>1</sup>, 金城忠志<sup>1</sup>, 竹ノ下尚子<sup>1</sup>, 市川太郎<sup>1</sup>, 織井恒安, 保科淑子, 井村 肇, 村田 智<sup>2</sup>, 中澤 賢<sup>2</sup>, 小野澤志郎<sup>2</sup>, 嶺 貴彦<sup>2</sup>, 川俣博志<sup>3</sup> ( <sup>1</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院放射線科, <sup>2</sup> 日本医科大学付属病院放射線科, <sup>3</sup> 日本医科大学千葉北総病院放射線科) : 救急大動脈疾患に対するステントグラフト (破裂・解離・外傷も含めて). *臨床画像* 2011 ; 27 (11) : 1398-1405.

(2) 症例報告：

- 1) Okamoto J<sup>2</sup>, Kratz J<sup>1</sup>, Hirata T<sup>2</sup>, Mikami I<sup>2</sup>, Raz D<sup>1</sup>, Segai M<sup>1</sup>, Chen Z<sup>1</sup>, Zhou H<sup>1</sup>, Pham P<sup>1</sup>, Li H<sup>1</sup>, Beltran R<sup>1</sup>, Ray M<sup>1</sup>, Koizumi K<sup>2</sup>, Shimizu K<sup>2</sup>, Jablons D<sup>1</sup>, et al.<sup>(1)</sup> Thoracic Oncology prigram, Deparntment of Surgery, University of California, San Francisco, <sup>2</sup> Deparntment of Surgery, Division of Thoracic Surgery, Nippon Medical School, Tokyo) : Downregulation of EMX2 is associated with clinical outcomes is lung adenocarcinoma patients. *Clin Lung Cancer* 2011 ; 12 (4) : 237-244.

### 学会発表

#### [追加分]

追加分一般講演：

- 1) 岡本淳一<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 日本医科大学外科学呼吸器外科) : 肺癌において EMX2 は抑制的に働く. 日本医科大学医学会総会留学学者記念講演 (第 78 回), 2010. 9.

(1) シンポジウム：

- 1) 田島廣之<sup>1</sup>, 金城忠志<sup>1</sup>, 竹ノ下尚子<sup>1</sup>, 橘和聡文<sup>1</sup>, 市川太郎<sup>1</sup>, 織井恒安, 保科淑子, 白川 真, 丸山雄二, 井村 肇 ( <sup>1</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院放射線科) : Pin hole, peri-graft leak, and intra-graft thromabosis. ゼニス症例検討. 日本 IVR 学会総会 (第 40 回) (青森), 2011. 5.

(2) 一般講演：

- 1) 丸山雄二<sup>1</sup>, 落 雅美<sup>1</sup>, 廣本敦之<sup>1</sup>, 栗田次郎<sup>1</sup>, 白川 真<sup>1</sup>, 坂本俊一郎<sup>1</sup>, 大森裕也<sup>1</sup>, 藤井正大<sup>1</sup>, 井村肇<sup>1</sup>, 新田 隆<sup>1</sup>, 清水一雄<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 日本医科大学外科学心臓血管外科) : 川崎病若年成人例に対する冠動脈バイパス術. 日本胸部外科学会定期学術集会 (第 64 回), 2011. 10.
- 2) 榎本 豊, 窪倉浩俊, 日置正文, 小泉 潔<sup>1</sup>, 清水一雄<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 日本医科大学外科学講座 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門) ) : 腹膜透析を契機に発見された横隔膜交通症の 1 例. 日本呼吸器外科学会 (第 28 回), 2011. 5.
- 3) 岡本淳一<sup>1</sup>, 飯島慶仁<sup>1</sup>, 三上 巖<sup>1</sup>, 原口秀司<sup>1</sup>, 小泉 潔<sup>1</sup>, 清水一雄<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 日本医科大学外科学呼吸器外科) : 肺葉内肺分画症に対する胸腔鏡下肺切除術の経験. 日本内視鏡外科学会総会 (第 24 回), 2011. 12.
- 4) 岡本淳一<sup>1</sup>, 竹内千枝<sup>1</sup>, 中島由貴<sup>1</sup>, 三上 巖<sup>1</sup>, 原口秀司<sup>1</sup>, 川本雅司<sup>2</sup>, 小泉 潔<sup>1</sup>, 清水一雄<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 日本医科大学外科学呼吸器外科部門, <sup>2</sup> 日本医科大学付属病院病理部) : 胸水貯留で発見された縦隔発生毛細血管腫の 1 症例 (会議録/症例報告). 日本胸部外科学会関東甲信越地方会 (第 154 回), 2011. 11.

- 5) 鈴木大悟, 白川 真, 丸山雄二, 井村 肇, 落 雅美<sup>1)</sup>, 清水一雄<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院外科学講座 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門) : 左室内脂肪腫に対する一手術例. 外科集談会 (第 823 回), 2011. 12.
- 6) 田島廣之<sup>1)</sup>, 金城忠志<sup>1)</sup>, 竹ノ下尚子<sup>1)</sup>, 橘和聡文<sup>1)</sup>, 市川太郎<sup>1)</sup>, 織井恒安, 保科淑子, 井村 肇, 尾藤博保<sup>2)</sup>, 村田 智<sup>3)</sup>, 市川和雄<sup>3)</sup>, 中澤 賢<sup>3)</sup>, 小野澤志郎<sup>3)</sup>, 嶺 貴彦<sup>3)</sup>, 上田達夫<sup>3)</sup>, その他 4 名 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院放射線科, <sup>2)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院麻酔科, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院放射線科) : 腹部大動脈瘤に対するステントグラフト治療 : Zenith AAA エンドバスキュラーグラフトの中期成績. 日本 IVR 学会総会 (第 40 回) (青森), 2011. 5.
- 7) 金城忠志<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 橘和聡文<sup>1)</sup>, 一色彩子<sup>1)</sup>, 山口香織<sup>1)</sup>, 清水康弘<sup>1)</sup>, 安藤 順<sup>1)</sup>, 市川太郎<sup>1)</sup>, 上田達夫<sup>2)</sup>, 織井恒安, 土佐真美子<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院放射線科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院放射線科, <sup>3)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院形成外科) : 血管内治療が奏功した耳下腺領域 AVM の 1 例. 日本血管内治療学会総会 (第 17 回) (沖縄), 2011. 6.
- 8) 保科淑子, 田島廣之<sup>1)</sup>, 金城忠志<sup>1)</sup>, 竹ノ下尚子<sup>1)</sup>, 鈴木大悟, 白川 真, 丸山雄二, 井村 肇 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院放射線科) : 1% ポリドカノールを用いて硬化療法を行った右第 5 指先天性動静脈奇形. 東京血管外科画像診断治療研究会 (第 21 回) (東京), 2012. 2.

## [多摩永山病院呼吸器外科]

### 研究概要

臨床研究肺癌に対する PORT 手術の研究 (CO<sub>2</sub> ガス使用した肺葉切除術およびリンパ郭清) 間質性肺炎合併肺癌の予後と微小血管浸潤の関系の研究新規術後補助療法の開発・研究基礎研究肺癌と免疫の研究 (CD1 と肺癌免疫システム) 悪性胸膜中皮腫における胸水免疫細胞診と遺伝子異常の研究胸部悪性腫瘍における発生関連遺伝子のゲノムの研究

### 研究業績

#### 論文

[追加分]

追加分原著 :

- 1) Okamoto J<sup>1, 2)</sup>, Hirata T<sup>1, 2)</sup>, Chen Z<sup>1, 3)</sup>, Zhou H<sup>3)</sup>, Mikami I<sup>1, 2)</sup>, Li H<sup>1)</sup>, Yagui B<sup>1)</sup>, Johannsson M<sup>4, 5)</sup>, Coussens L<sup>4, 5)</sup>, Clement G<sup>1)</sup>, Shi Y<sup>1, 6)</sup>, Koizumi K<sup>2)</sup>, Shimizu K<sup>2)</sup>, Jablons D<sup>1, 6)</sup>, He B<sup>1, 6)</sup>, et al. ( <sup>1)</sup> Thoracic Oncology Program, Department of Surgery, University of California, San Francisco, CA, USA, <sup>2)</sup> Department of Surgery, Division of Thoracic Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, <sup>3)</sup> Department of Biological Sciences and Biotechnology, Tsinghua University, Beijing, China, <sup>4)</sup> Department of Pathology, University of California, San Francisco, CA, USA, <sup>5)</sup> Helen Diller Family Comprehensive Cancer Center, University of California, San Francisco, CA, USA, <sup>6)</sup> Biosciences Division, SRI International, Menlo Park, CA, USA, <sup>7)</sup> These authors contributed equally to this work) : EMX2 is epigenetically silenced and suppresses growth in human lung cancer. *Oncogene* 2010 ; 29 (44) : 5969-5975.
- 2) Mikami I<sup>1, 3)</sup>, Zhang F<sup>1)</sup>, Hirata T<sup>1, 3)</sup>, Okamoto J<sup>1, 3)</sup>, Koizumi K<sup>3)</sup>, Shimizu K<sup>3)</sup>, Jablons D<sup>1, 2)</sup>, Biao H<sup>1, 2)</sup> ( <sup>1)</sup> Thoracic Oncology Program, Department of Surgery, University of California, San Francisco, CA, USA, <sup>2)</sup> Helen Diller Family Comprehensive Cancer Center, University of California, San Francisco, CA, USA, <sup>3)</sup> Department of Surgery, Division of Thoracic Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Inhibition of activated phosphatidylinositol 3-kinase/AKT pathway in malignant pleural mesothelioma leads to G1 cell cycle arrest. *ONCOLOGY REPORTS* 2010 ; 24 : 1677-1681.

(1) 原著：

- 1) Okamoto J<sup>1, 2)</sup>, Kratz J<sup>1)</sup>, Hirata T<sup>1, 2)</sup>, Mikami I<sup>1, 2)</sup>, Raz D<sup>1)</sup>, Segal M<sup>3)</sup>, Chen Z<sup>1, 4)</sup>, Zhou H<sup>4)</sup>, Pham P<sup>1)</sup>, Li H<sup>1)</sup>, Yagui-Beltran A<sup>1)</sup>, Biao H<sup>1, 5)</sup>, Koizumi K<sup>2)</sup>, Shimizu K<sup>2)</sup>, Jablons D<sup>1, 5)</sup>, et al.<sup>(1)</sup> Thoracic Oncology Program, Department of Surgery, University of California, San Francisco, California, <sup>2)</sup> Department of Surgery, Division of Thoracic Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, <sup>3)</sup> Division of Biostatistics, Center of Bioinformatics & Molecular Biostatistics, University of California, San Francisco, California, <sup>4)</sup> Department of Biological Sciences and Biotechnology, Tsinghua University, Beijing, China, <sup>5)</sup> Helen Diller Family Comprehensive Cancer Center, University of California, San Francisco, California) : Downregulation of EMX2 is associated with clinical outcomes in lung adenocarcinoma patients. Clin Lung Cancer 2011 ; 12(4) : 237-244.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 平田知己<sup>1)</sup>, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 原口秀司<sup>1)</sup>, 三上 巖<sup>1)</sup>, 吉野直之, 飯島慶仁<sup>1)</sup>, 岡本淳一<sup>1)</sup>, 清水一雄<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 日本医科大学外科学講座呼吸器外科) : 間質性肺炎合併肺癌の腫瘍学的評価と予後の検討. 第64回胸部外科学会総会(名古屋), 2011. 10.

(2) 一般講演：

- 1) 平田知己<sup>1)</sup>, 吉野直之<sup>1)</sup>, 川島徹生<sup>1)</sup>, 宮 &<sup>1)</sup>, 小久保豊<sup>1)</sup>, 本橋典久<sup>1)</sup>, 葛 伸一<sup>1)</sup>, 丹野正隆<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 片山博徳<sup>2)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup> <sup>(1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院呼吸器センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学多摩永山病院病理部) : 胸水細胞診で診断し得た早期悪性胸膜中皮腫の1例. 第2回JMIG研究会 (Japan Mesothelioma Interest Group) (大阪), 2012. 1.
- 2) 平田知己, 吉野直之, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 清水一雄<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 日本医科大学外科学) : 胸腔鏡下に切除したメタボリックシンドローム合併 縦隔神経鞘腫の1例. 第823回外科集談会(東京), 2011. 12.
- 3) 平田知己, 吉野直之, 原口秀司<sup>1)</sup>, 小泉 潔<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 日本医科大学外科学) : 炭酸ガスによる胸腔内陽圧下環境における完全鏡視下手術の有用性. 第52回肺癌学会総会(大阪), 2011. 11.
- 4) 平田知己, 吉野直之, 川島徹生, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 原口秀司<sup>1)</sup>, 清水一雄<sup>1)</sup>, 能勢隆之<sup>2)</sup>, 宮 路<sup>3)</sup>, 小久保豊<sup>3)</sup>, 丹野正隆<sup>4)</sup>, 細根 勝<sup>4)</sup> <sup>(1)</sup> 日本医科大学外科学講座呼吸器外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学多摩永山病院放射線治療部, <sup>3)</sup> 日本医科大学多摩永山病院呼吸器腫瘍内科, <sup>4)</sup> 日本医科大学多摩永山病院病理部) : リンパ行性特異的な進展を示す長期生存, 進行肺癌の2例. 第52回肺癌学会総会(大阪), 2011. 11.
- 5) 平田知己, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 原口秀司<sup>1)</sup>, 三上 巖<sup>1)</sup>, 川島徹生, 吉野直之<sup>1)</sup>, 木下裕康<sup>1)</sup>, 岡本淳一<sup>1)</sup>, 中島由貴<sup>1)</sup>, 清水一雄<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 日本医科大学外科学講座呼吸器外科) : IP合併肺癌の予後の検討. 第28回呼吸器外科学会(大分), 2011. 5.
- 6) 久吉隆郎<sup>1)</sup>, 平田知己<sup>2)</sup> <sup>(1)</sup> 三鷹中央病院呼吸器外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学多摩永山病院呼吸器外科) : 術中に気管支内視鏡観察を併用した頸部良性気管狭窄の1手術例. 第28回 日本呼吸器外科学会総会(大分), 2011. 5.
- 7) Maeda S<sup>1, 2)</sup>, Katayama H<sup>2)</sup>, Hosone M<sup>2)</sup>, Tanno M<sup>2)</sup>, Hirata T, Naito Z<sup>3)</sup> <sup>(1)</sup> Mitsubishi Chemical Medicine, Pathology and Cytology Center, <sup>2)</sup> Department of Pathology, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Department of Pathology, Nippon Medical School) : The importance of body fluid cytology in the diagnosis of malignant mesothelioma. The 19th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (Thailand), 2012. 1.

# 11. 脳神経外科学講座

## [付属病院脳神経外科]

### 研究概要

平成23年度付属病院脳神経外科における論文業績は英文20編、和文21編の計41編であった。これに分担著書として9編、編集4編が加わる。学会発表は155回あり内国際学会は8回であった。一方、研究補助金に関しては、文部科学省科学研究費を4件、厚生労働省科学研究費を4件取得している。また、3年前から戦略的研究基盤形成支援事業の研究代表者の教室として活動している。当教室の基礎的な研究グループは、下垂体、悪性脳腫瘍、血管障害、脊椎脊髄、機能外科の5つに分かれている。また、治療を主体とした横断的なグループとしては、血管内治療、神経内視鏡、バイパス手術のグループが活動している。下垂体腫瘍は教室最大のテーマであるため、研究者も多く基礎の教室や老人病研究所、さらには他大学との関連が深く、従って業績も最も多い。経蝶形骨下垂体手術件数は2,500例を越え、さらに内視鏡単独手術も1,000例を越えた。この分野は引き続き、本邦をリードする基礎的および臨床的研究業績を重ねていきたい。他の脳腫瘍については、教室で永年取り組んできた悪性脳腫瘍の化学療法の基礎的、臨床的研究に加えて、症例報告がいくつかみられた。脳血管障害は血管内治療の領域も含め、最近活動が活発になってきているが、千駄木地区の再開発のため十分な診療機器が備わっていないことが難点である。最近脊髄グループや機能外科への取り組みに関する活躍が目立っている。脳神経外科という極めて多忙な診療活動をかかえながらも教室員には年1編以上の論文投稿（審査有のもの）と助教以上には科研費応募を義務としている。現在、脳神経外科医療は地方から崩壊しつつあり、東京近郊にもその影響は現れ始めている。それでも、当教室は本邦では屈指の診療・研究レベルを保持しているが、マンパワーが回復されない限り、大きな飛躍は期待できない状況である。

### 研究業績

#### 論文

#### [追加分]

追加分総説：

- 1) 鈴木雅規<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 白銀一貴<sup>1)</sup>, 國保倫子<sup>1)</sup>, 大村朋子<sup>1)</sup>, 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 金景成<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 寺本明<sup>(1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科) : ゴルフカートから転落して受傷した頭部外傷の2症例。神経外傷 2010 ; 33 (1) : 69-72.

追加分症例報告：

- 1) Mizunari T<sup>1)</sup>, Murai Y, Kim K<sup>1)</sup>, Kobayashi S<sup>1)</sup>, Kamiyama H<sup>2)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital, <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Asahikawa Red Cross Hospital) : Posttraumatic carotid-cavernous fistulae treated by internal carotid artery trapping and high-flow bypass using a radial artery graft : two case reports. Neurol Med Chir 2011 ; 51 (2) : 113-116.

(1) 原著：

- 1) Tamaki T<sup>1)</sup>, Node Y<sup>1)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Tamanagayama Hospital) : Evacuation of spontaneous thalamic and intraventricular hemorrhage under the operating microscope improves mortality compared with external ventricular drainage : mini-craniotomy for thalamic and ventricular hemorrhage. Journal of Modern Neurosurgery 2011 ; 1 (1) : 1-4.
- 2) Naito S<sup>1)</sup>, Tsukamoto T<sup>2)</sup>, Murai M<sup>3)</sup>, Fukino K<sup>4)</sup>, Akaza H<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Urology, Graduate School of Medical Sciences, Kyushu University, <sup>2)</sup> Department of Urology, Sapporo Medical University School of

- Medicine, <sup>3)</sup> International Goodwill Hospital, <sup>4)</sup> Bayer Yakuhin, Ltd., <sup>5)</sup> Department of Urology and Andrology, Graduate School of Comprehensive Human Science, University of Tsukuba) : Overall survival and good tolerability of long-term use of sorafenib after cytokine treatment : final results of a phase II trial of sorafenib in Japanese patients with metastatic renal cell carcinoma. *BJU Int.* 2011 ; 108 (11) : 1813-1819.
- 3) Nakae R<sup>1)</sup>, Yokota D<sup>1)</sup>, Yoshida D, Teramoto A (<sup>1)</sup> Department of Emergency and Critical Care Medicine) : Transcranial doppler ultrasonography for diagnosis of cerebral vasospasm after aneurysmal subarachnoid hemorrhage : mean blood flow velocity ratio of the ipsilateral and contralateral middle cerebral arteries. *Neurosurgery* 2011 ; 69 (4) : 876-883.
  - 4) Ishii Y, Tahara S, Oyama K<sup>1)</sup>, Kitamura T, Teramoto A (<sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Musashi Kosugi Hospital) : Easy slip-knot : a new simple tying technique for deep sutures. *Acta Neurochir* 2011 ; 153 (7) : 1543-1545.
  - 5) 太組一朗<sup>1)</sup>, 浦 裕之<sup>2)</sup>, 寺本 明 (<sup>1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 東邦大学薬学部臨床病態学研究室) : 新しい抗てんかん薬の使い方 脳神経外科医の立場から. *神経内科* 2011 ; 75 (6) : 558-564.
  - 6) 浦 裕之<sup>1)</sup>, 太組一朗<sup>2)</sup>, 藤野 修<sup>3)</sup>, 福田恵子<sup>4)</sup>, 寺本 明, 定本清美<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 東邦大学薬学部臨床病態学研究室, <sup>2)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科, <sup>3)</sup> 千葉北総病院小児科, <sup>4)</sup> 千葉北総病院薬剤科) : 外来てんかん診療における抗てんかん薬の忍容性比較. *社会薬学* 2011 ; 30 (1) : 37-47.
  - 7) 山王直子<sup>1)</sup>, 寺本 明 (<sup>1)</sup> 山王クリニック) : 成人GH分泌不全症治療における診療科間連携. *内分泌・糖尿病・代謝内科* 2011 ; 33 (3) : 271-277.
  - 8) Egashira N<sup>1)</sup>, Takekoshi S<sup>2)</sup>, Takei M, Teramoto A, Osamura YR<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> Parhology and Genetic Testing Section, Hamura Laboratory, SRL, <sup>2)</sup> Department of Pathology, Tokai University School of Medicine, <sup>3)</sup> Center for Diagnostic Pathology International University of Health and Welfare Mita Hospital) : Expression of FOXL2 in human normal pituitaries and pituitary adenomas. *Mod Pathol* 2011 ; 24 (6) : 765-773.
  - 9) Murai Y, Adachi K<sup>1)</sup>, Takagi R<sup>2)</sup>, Koketsu K<sup>3)</sup>, Matano F, Teramoto A (<sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Musashi Kosugi Hospital, <sup>2)</sup> Department of Radiology, <sup>3)</sup> Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital) : Intraoperative matas test using microscope-integrated intraoperative indocyanine green videoangiography with temporary unilateral occlusion of the A1 segment of the anterior cerebral artery. *World Neurosurg* 2011 ; 76 (5) : 477.e7-477.e10.
  - 10) Murai Y, Mizunari T<sup>1)</sup>, Umeoka K<sup>1)</sup>, Tateyama K, Kobayashi S<sup>1)</sup>, Teramoto A (<sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital) : Radial artery grafts for symptomatic cavernous carotid aneurysms in elderly patients. *Neurol India* 2011 ; 59 (4) : 537-541.
  - 11) Murai Y, Mizunari T<sup>1)</sup>, Umeoka K<sup>1)</sup>, Tateyama K, Kobayashi S<sup>1)</sup>, Teramoto A (<sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital) : A simple technique to prevent and correct graft vessel kinking in the subcutaneous tunnel : technical note. *Clin Neurol Neurosurg* 2011 ; 113 (10) : 835-838.
  - 12) Umeoka K, Kominami S<sup>1)</sup>, Mizunari T<sup>1)</sup>, Murai Y, Kobayashi S<sup>1)</sup>, Teramoto A (<sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital) : Cerebral artery restenosis following transluminal balloon angioplasty for vasospasm after subarachnoid hemorrhage. *Surg Neurol Int* 2011 ; 2 (1) : 43.
  - 13) Mizunari T<sup>1)</sup>, Murai Y, Kobayashi S<sup>1)</sup>, Hoshino S<sup>2)</sup>, Teramoto A (<sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital, <sup>2)</sup> Hoshino Neurosurgery Clinic) : Utility of the orbitocranial approach for clipping of anterior communicating artery aneurysms : significance of dissection of the interhemispheric fissure and the Sylvian fissure. *J Nippon Med Sch* 2011 ; 78 (2) : 77-83.
  - 14) Murai Y, Adachi K<sup>1)</sup>, Matano F, Tateyama K, Teramoto A (<sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Musashi Kosugi Hospital) : Indocyanin green videoangiography study of hemangioblastomas. *Can J Neurol Sci* 2011 ;

38 (1) : 41-47.

- 15) 村井保夫, 足立好司<sup>1)</sup>, 寺本 明, 水成隆之<sup>2)</sup>, 梅岡克哉<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科) : 脳外科からの未病への介入 : 未破裂症候性内頸動脈瘤に対する橈骨動脈バイパス術を用いたアプローチ. 未病と抗老化 2011 ; 20 : 102-107.
- 16) 山王直子<sup>1)</sup>, 石井 肇 ( <sup>1)</sup> 山王クリニック) : 津波で崩壊した町に「雄勝まごのて診療所」を開設. 日医大医学会誌 2011 ; 7 (Suppl.1) : 76-79.
- 17) 國保倫子, 金 景成<sup>1)</sup>, 菅原 淳<sup>2)</sup>, 野村竜太郎<sup>3)</sup>, 森本大二郎<sup>4)</sup>, 井須豊彦<sup>4)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup> 岩手医科大学脳神経外科, <sup>3)</sup> 日本赤十字社医療センター, <sup>4)</sup> 釧路労災病院脳神経外科) : 特発性脊髄硬膜外血腫の治療経験. 脳神経外科 2011 ; 39 (10) : 947-952.
- 18) 松野 彰<sup>1)</sup>, 山田 創<sup>1)</sup>, 山田昌興<sup>1)</sup>, 恩田泰光<sup>1)</sup>, 中口 博<sup>1)</sup>, 村上峰子<sup>1)</sup>, 保谷克巳<sup>1)</sup>, 石井雄道, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 帝京大学ちば総合医療センター脳神経外科) : 第20回臨床内分泌代謝 Update Proceeding 下垂体腺腫に対する放射線治療後に発生したトルコ鞍底部の骨肉腫. 日本内分泌学会雑誌 2011 ; 87 (suppl) : 5-6.
- 19) Shimatsu A<sup>1)</sup>, Tai S<sup>2)</sup>, Tanaka T<sup>3)</sup>, Fujieda K<sup>4)</sup>, Teramoto A, Chihara K<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup> Clinical Research Center, National Hospital Organization Kyoto Medical Center, <sup>2)</sup> Department of Pathology, Jonsson Comprehensive Cancer Center and Broad Center for Regenerative Medicine and Stem Cell Biology, <sup>3)</sup> Departments of Obstetrics and Gynecology, National Hospital Organization Osaka Minami Medical Center, <sup>4)</sup> Department of Pediatrics, Asahikawa Medical College, <sup>5)</sup> Division of Microbiology, Department of Pathological Sciences, University of Fukui) : Clinical characteristics of Japanese adults with growth hormone deficiency : a HypoCCS database study. Endocr J 2011 ; 58 (5) : 325-333.
- 20) Yoshida D, Teramoto A : Digital imaging for statistical analysis of tissue microarrays. J Nippon Med Sch 2011 ; 78 (6) : 338-339.
- 21) Umeoka K<sup>1)</sup>, Shirokane K<sup>1)</sup>, Mizunari T<sup>1)</sup>, Kobayashi S<sup>1)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital) : Dissecting aneurysm of the anterior temporal artery. Neurol Med Chir 2011 ; 51 (11) : 777-780.
- 22) 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 玉置智規<sup>2)</sup>, 村井保夫, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup> 多摩永山病院脳神経外科) : PICA を含んだ破裂椎骨動脈解離性動脈瘤に対し血行再建術を行った10例の長期検討. Video Journal of Japan Neurosurgery 2011 ; 17 (4).
- 23) 高野幸路<sup>1)</sup>, 置村康彦<sup>2)</sup>, 田原重志 ( <sup>1)</sup> 東京大学医学部腎臓内分泌内科, <sup>2)</sup> 神戸女子大学家政学部管理栄養士養成課程) : 重症成人成長ホルモン分泌不全症患者の治療成績に関する研究. 成長科学協会研究年報 2011 ; (34) : 43-51.
- 24) 石井雄道, 田原重志, 大山健一<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科) : TSH 産生下垂体腺腫に対する手術と治療成績. 日本内分泌学会雑誌 2011 ; 87 (1) : 333.
- 25) 田原重志, 石井雄道, 大山健一<sup>1)</sup>, 山王直子<sup>2)</sup>, 横田裕行<sup>3)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 山王クリニック, <sup>3)</sup> 高度救命救急センター) : 成人GHD (成長ホルモン分泌不全症) の治療 : その適応と成績 頭部外傷, くも膜下出血後の成人GHDの実態. 日本内分泌学会雑誌 2011 ; 87 (1) : 162.
- 26) 田原重志, 大山健一<sup>1)</sup>, 石井雄道, 竹井麻生<sup>2)</sup>, 山王直子<sup>3)</sup>, 喜多村孝幸, 中久木卓也<sup>4)</sup>, 長村義之<sup>5)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 林脳神経外科内科クリニック, <sup>3)</sup> 山王クリニック, <sup>4)</sup> 京都医療センター脳神経外科, <sup>5)</sup> 国際医療福祉大学三田病院病理部) : 内視鏡単独経鼻の手術による Acromegaly に対する集学的治療. 日本内分泌学会雑誌 2011 ; 87 (1) : 333.
- 27) 喜多村孝幸, 戸田茂樹, 寺本 明 : 低髄液圧症候群の診断と治療. Modern Physician 2011 ; 31 (8) : 987-991.
- 28) 喜多村孝幸 : ジェネリック医薬品情報の共有化 : ジェネリック医薬品情報の課題 医師の立場から. ジェネリック研究 2011 ; 5 (増刊号) : 42.

- 29) Kim K<sup>1)</sup>, Morimoto D<sup>2)</sup>, Sugawara A<sup>3)</sup>, Kobayashi S<sup>1)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Chibahokusou Hospital, <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Kushirorousai Hospital, <sup>3)</sup> Department of Neurosurgery, Iwate Medical Hospital) : Cervical anterior fusion with the williams-isu method : clinical review. J Nippon Med Sch 2012 ; 79 (1) : 37-45.
- 30) 村井保夫, 水成隆之<sup>1)</sup>, 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 立山幸次郎, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経外科) : High flow bypass と proximal ligation による海綿静脈洞部内頸動脈瘤の治療. Video Journal of Japan Neurosurgery 2012 ; 18 (4).
- 31) 水成隆之<sup>1)</sup>, 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 玉置智規<sup>2)</sup>, 村井保夫, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 多摩永山病院脳神経外科) : 内頸動脈 blister like aneurysm に対する治療戦略. Video Journal of Japan Neurosurgery 2012 ; 18 (4).
- (2) 座談会 :
- 1) 小川 郁<sup>1)</sup>, 北川泰久<sup>2)</sup>, 寺本 明, 武田憲昭<sup>3)</sup>, 木村健二郎<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 慶応義塾大学耳鼻咽喉科, <sup>2)</sup> 東海大学神経内科, <sup>3)</sup> 徳島大学耳鼻咽喉科, <sup>4)</sup> 聖マリアンナ医科大学腎臓高血圧内科) : 境界領域としてのめまい診療. 日本医師会雑誌 2012 ; 140 (10) : 2049-2061.
- (3) 総説 :
- 1) 金 景成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科) : 頸椎前方除圧固定術の低侵襲手術に関する研究. 千葉県医師会雑誌 2011 ; 63 (8) : 428-429.
- (4) 症例報告 :
- 1) Murai Y, Adachi K<sup>1)</sup>, Koketsu K<sup>2)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Musashi Kosugi Hospital, <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital) : Indocyanine green videoangiography of optic cavernous angioma : case report. Neurol Med Chir 2011 ; 51 (4) : 296-298.
- 2) 大山健一<sup>1)</sup>, 南 史朗<sup>2)</sup>, 北山康彦<sup>3)</sup>, 石井雄道, 田原重志, 山王直子<sup>4)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 武蔵小杉病院内科, <sup>3)</sup> 武蔵小杉病院病理部, <sup>4)</sup> 山王クリニック) : 下垂体卒中にて発症した頭蓋咽頭腫の1例. 日本内分泌学会雑誌 2011 ; 87 (2) : 828-829.

## 著 書

- 1) 寺本 明 : [自著] 創刊の辞. BRAIN9月号, 2011 ; p3, (株) 医学出版.
- 2) 寺本 明 : [自著] 疲れやすく, インポテンツになりました. 名医の相談室, 2011 ; 週刊現代.
- 3) 大畑建治<sup>1)</sup>, 寺本 明, 新井 一<sup>2)</sup>, 塩川芳明<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 大阪市立大学大学院医学研究科脳神経外科, <sup>2)</sup> 順天堂大学医学部脳神経外科, <sup>3)</sup> 杏林大学医学部脳神経外科) : [編集] 脊髄外科. NS now 14, 2011 ; Medical View.
- 4) 塩川芳明<sup>1)</sup>, 寺本 明, 新井 一<sup>2)</sup>, 大畑建治<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 杏林大学医学部脳神経外科, <sup>2)</sup> 順天堂大学医学部脳神経外科, <sup>3)</sup> 大阪市立大学大学院医学研究科脳神経外科) : [編集] 傍鞍部病変の手術 この病変こそ, 解剖が手術の生命線. NS now 15, 2011 ; Medical View.
- 5) 新井 一<sup>1)</sup>, 寺本 明, 塩川芳明<sup>2)</sup>, 大畑建治<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 順天堂大学医学部の神経外科, <sup>2)</sup> 杏林大学医学部脳神経外科, <sup>3)</sup> 大阪市立大学大学院医学研究科脳神経外科) : [編集] 機能的脳神経外科手術の基本 コツと注意点. NS now 16, 2011 ; Medical View.
- 6) 山王直子<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 山王クリニック) : [自著] 第 III 部. 治療における最近の新薬の位置づけ ホルモン剤 (先端巨大症治療薬). 新薬展望 2011, 2011 ; pp255-260, 医薬ジャーナル.
- 7) 寺本 明 : [自著] 脳神経外科学 守備範囲がきわめて多岐にわたる我が国の脳神経外科医. 臨床医学の展望 2012, 2012 ; pp40-41, 日本医事新報.
- 8) 足立好司<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科) : [自著] 脳神経外科学 Topic1. 悪性脳腫瘍の化学療法の現況. 臨床医学の展望 2012, 2012 ; p42, 日本医事新報.

- 9) 石井雄道, 寺本 明:〔自著〕脳神経外科学 Topic2.内視鏡下経蝶形骨頭蓋底手術. 臨床医学の展望 2012, 2012: pp42-43, 日本医事新報.
- 10) 玉置智規<sup>1)</sup>, 寺本 明 (1) 多摩永山病院脳神経外科):〔自著〕脳神経外科学 Topic3.頸動脈狭窄症の治療. 臨床医学の展望 2012, 2012: pp43-44, 日本医事新報.
- 11) 金 景成<sup>1)</sup>, 寺本 明 (1) 千葉北総病院脳神経外科):〔自著〕脳神経外科学 Topic4.脊椎脊髄外科の進歩. 臨床医学の展望 2012, 2012: pp44-45, 日本医事新報.
- 12) 太組一朗<sup>1)</sup>, 寺本 明 (1) 武蔵小杉病院脳神経外科):〔自著〕脳神経外科学 Topic5.てんかん外科の現況. 臨床医学の展望 2012, 2012: p45, 日本医事新報.
- 13) 新井 一<sup>1)</sup>, 寺本 明, 塩川芳明<sup>2)</sup>, 大畑建治<sup>3)</sup> (1) 順天堂大学医学部の神経外科, <sup>2)</sup> 杏林大学医学部脳神経外科, <sup>3)</sup> 大阪市立大学大学院医学研究科脳神経外科):〔編集〕神経外傷. NS now 17, 2012: Medical View.

## 学会発表

### (1) 特別講演:

- 1) 喜多村孝幸:最近の頭痛治療戦略. 城南頭痛研究会(東京, 品川), 2011. 5.
- 2) 大山健一<sup>1)</sup>, 石井雄道, 田原重志, 寺本 明 (1) 武蔵小杉病院脳神経外科):ラトケ嚢胞手術例における内分泌機能の検討. 第28回千駄木内分泌懇話会(東京), 2011. 6.
- 3) 寺本 明:間脳下垂体研究の最前線:下垂体腫瘍診療の現状. 日本医科大学大学院公開特別講義(東京), 2011. 6.
- 4) 喜多村孝幸:低髄液圧症候群(脳脊髄液減少症)の診断と治療. 第4回茨城県頭痛研究会(茨城), 2011. 7.
- 5) 田原重志:機能性下垂体腺腫の外科的治療. 第44回間脳下垂体疾患研究会(京都), 2011. 8.
- 6) 喜多村孝幸:片頭痛・群発頭痛の効果的な治療法:各薬剤・剤型の特性を活かして. 臨床医のための頭痛診療(東京), 2011. 11.
- 7) 寺本 明:下垂体外科の歴史と展望. 第20回脳神経外科手術と機器学会(徳島), 2011. 4.
- 8) 寺本 明:成人GHDをきたす脳外科疾患. ヒューマトローム成人GHD適応追加5周年記念講演会(札幌), 2011. 11.
- 9) 寺本 明:下垂体外科の歴史と展望. 第116回山口県脳神経外科懇話会(山口), 2011. 11.
- 10) 寺本 明:わが国の脳神経外科医のすがた. 千葉大学脳神経外科学講座開講40周年記念講演会(幕張), 2011. 12.
- 11) Teramoto A: Transition from microscopy to endoscopy in pituitary surgery. 13th Asian-Australasian Congress of Neurological Surgery (Taipei, Taiwan), 2011. 12.
- 12) Teramoto A: Endoscopic transsphenoidal pituitary surgery. 13th Asian-Australasian Congress of Neurological Surgery (Taipei, Taiwan), 2011. 12.
- 13) 寺本 明:佐野圭司先生と我国の脳神経外科. (社)日本脳神経外科学会第70回学術総会(横浜), 2011. 10.
- 14) 喜多村孝幸:低髄液圧症候群:脳脊髄液減少症の診断と治療. 栃木県医師会平成23年度学校医研修会(栃木), 2011. 7.
- 15) Teramoto A: Recent advancement of endoscopic pituitary Surgery. 2th Tokyo Shanghai Friendship Neurosurgical Forum (Tokyo, Japan), 2012. 3.

### (2) 教育講演:

- 1) 田原重志:下垂体腺腫に対する内視鏡単独経鼻の下垂体腫瘍摘出術の現状. 脳卒中急性期治療を考える会(岡山), 2011. 11.
- 2) 喜多村孝幸:「脳脊髄液減少症」から「脳脊髄液漏出症」へ. 第39回日本頭痛学会総会(大宮), 2011. 11.
- 3) 喜多村孝幸:脳室内腫瘍に対する神経内視鏡手術. 第18回日本神経内視鏡学会(岡山), 2011. 11.

(3) シンポジウム：

- 1) Tamaki T<sup>1)</sup>, Saegusa H<sup>2)</sup>, Saito N<sup>3)</sup>, Umeoka K<sup>4)</sup>, Tateyama K, Mizunari T<sup>4)</sup>, Teramoto A (1) Department of Neurosurgery, Tamanagayama Hospital, 2) Department of otorhinolaryngology, 3) Department of Neurosurgery, Asahikawa Red Cross Hospital, 4) Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital) : Hoarseness after carotid endarterectomy. The joint European association of neurosurgical society annual meeting 4th ICH Conference 2011 (Newcastle Gateshead, UK), 2011. 5.
- 2) 玉置智規<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 齋藤寛浩<sup>2)</sup>, 三枝英人<sup>3)</sup>, 梅岡克也<sup>4)</sup>, 立山幸次郎, 水成隆之<sup>4)</sup>, 寺本 明 (1) 多摩永山病院脳神経外科, 2) 耳鼻咽喉科, 3) 旭川赤十字病院脳神経外科, 4) 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科) : 頸動脈内膜剥離術後における嗄声について. (社) 日本脳神経外科学会第70回学術総会 (横浜), 2011. 10.
- 3) 金 景成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 森本大二郎<sup>2)</sup>, 菅原 淳<sup>3)</sup>, 松本亮司<sup>2)</sup>, 磯辺正則<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 (1) 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, 2) 釧路労災病院脳神経外科, 3) 岩手医科大学脳神経外科) : Williams-Isu 法術後10年以上の長期成績に関する検討. 第26回日本脊髄外科学会 (静岡), 2011. 6.
- 4) 金 景成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 森本大二郎<sup>2)</sup>, 菅原 淳<sup>3)</sup>, 松本亮司<sup>2)</sup>, 磯辺正則<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 (1) 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, 2) 釧路労災病院脳神経外科, 3) 岩手医科大学脳神経外科) : Williams-Isu 法を用いた頸椎前方除圧固定術およびその応用. 第18回日本脊椎脊髄神経手術手技学会 (千葉), 2011. 9.
- 5) 石井雄道, 田原重志, 大山健一<sup>1)</sup>, 喜多村孝幸, 寺本 明 (1) 武蔵小杉病院脳神経外科) : 安全で確実な下垂体腫瘍摘出の方法と手順: 1000例の内視鏡下経鼻蝶形骨洞手術の経験から. (社) 日本脳神経外科学会第70回学術総会 (横浜), 2011. 10.
- 6) 石井雄道, 田原重志, 大山健一<sup>1)</sup>, 喜多村孝幸, 寺本 明 (1) 武蔵小杉病院脳神経外科) : 当院における内視鏡下経鼻蝶形骨手術: 標準アプローチと症例に応じた variation. 第18回日本神経内視鏡学会 (岡山), 2011. 11.
- 7) 村井保夫, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 立山幸次郎, 岩本直高<sup>1)</sup>, 瀬戸健太<sup>1)</sup>, 寺本 明, 高木 亮<sup>2)</sup>, 関根鉄朗<sup>2)</sup> (1) 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, 2) 放射線医学) : Radial artery graft の基本手技と周術期管理: 合併症を経験したから言える80例を超える症例からの知見. (社) 日本脳神経外科学会第70回学術総会 (横浜), 2011. 10.
- 8) 寺本 明: 厚生労働省間脳下垂体機能障害班報告: 下垂体外科の現状. 第84回日本内分泌学会学術総会 (神戸), 2011. 4.
- 9) 田原重志, 石井雄道, 山王直子<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup>, 寺本 明 (1) 山王クリニック, 2) 高度救命救急センター) : 頭部外傷, くも膜下出血後の成人GHDの実態. 第84回日本内分泌学会学術総会 (神戸), 2011. 4.
- 10) 大山健一<sup>1)</sup>, 石井雄道, 田原重志, 足立好司<sup>1)</sup>, 喜多村孝幸, 寺本 明 (1) 武蔵小杉病院脳神経外科) : 腹側部頭蓋底病変に対する内視鏡単独拡大経蝶形骨洞手術の適応とセットアップ. 第23回日本頭蓋底外科学会 (大阪), 2011. 6.
- 11) 喜多村孝幸: 脳神経外科における神経内視鏡手術の発展. 第21回日本医科大学医学会公開シンポジウム (東京), 2011. 6.
- 12) 廣畑倫生<sup>1)</sup>, 松野 彰<sup>2)</sup>, 山田正三<sup>3)</sup>, 有田和徳<sup>4)</sup>, 高野幸路<sup>5)</sup>, 富永 篤<sup>6)</sup>, 肥塚直美<sup>7)</sup>, 池田秀敏<sup>8)</sup>, 佐野壽昭<sup>9)</sup>, 長村義之<sup>10)</sup>, 田原重志, 川俣貴一, 石井雄道, 寺本 明 (1) 東京大学大学院脳神経外科, 2) 帝京大学ちば総合医療センター脳神経外科, 3) 虎の門病院間脳下垂体外科, 4) 鹿児島大学医学部脳神経外科, 5) 東京大学医学部腎臓内分泌内科, 6) 広島大学医学部脳神経外科, 7) 東京女子医科大学内分泌内科, 8) 総合南東北病院下垂体疾患研究所, 9) 江戸川病院病理検査科, 10) その他) : 日本間脳下垂体腫瘍学会全国調査における下垂体癌・異型性下垂体腺腫の病理学的解析. 第22回間脳・下垂体・副腎系研究会 (東京), 2011. 9.
- 13) 竹井麻生<sup>1)</sup>, 田原重志, 長村義之<sup>2)</sup>, 寺本 明 (1) 林脳神経外科内科クリニック, 2) 国際医療福祉大学三田病院病理部) : Crooke cell adenoma の臨床病理学的検討. 第22回間脳・下垂体・副腎系研究会 (東京), 2011. 9.

- 14) 大山健一<sup>1)</sup>, 石井雄道, 田原重志, 足立好司<sup>1)</sup>, 喜多村孝幸, 寺本 明 ( <sup>1</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科 ): 腹側部頭蓋底病変に対する内視鏡単独拡大経蝶形骨洞手術の適応とセットアップ. (社) 日本脳神経外科学会第70回学術総会 (横浜), 2011. 10.
  - 15) 田原重志, 喜多村孝幸, 石井雄道, 大山健一<sup>1)</sup>, 竹井麻生<sup>2)</sup>, 中久木卓也<sup>3)</sup>, 杉山 誠<sup>4)</sup>, 山王直子<sup>5)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科, <sup>2</sup> 林脳神経外科内科クリニック, <sup>3</sup> 京都医療センター脳神経外科, <sup>4</sup> 関東労災病院脳神経外科, <sup>5</sup> 山王クリニック ): 内視鏡単独経鼻的手術を中心としたGH産生下垂体腺腫の集学的治療. (社) 日本脳神経外科学会第70回学術総会 (横浜), 2011. 10.
  - 16) 喜多村孝幸, 田原重志, 石井雄道, 寺本 明: 脳室内腫瘍に対する神経内視鏡手術の変遷と未来. (社) 日本脳神経外科学会第70回学術総会 (横浜), 2011. 10.
  - 17) 田原重志, 喜多村孝幸, 石井雄道, 大山健一<sup>1)</sup>, 中久木卓也<sup>2)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科, <sup>2</sup> 京都医療センター脳神経外科 ): 内視鏡下経鼻経蝶形骨手術のセッティングと手術機器の工夫. 第18回日本神経内視鏡学会 (岡山), 2011. 11.
  - 18) 大山健一<sup>1)</sup>, 石井雄道, 田原重志, 足立好司<sup>1)</sup>, 喜多村孝幸, 寺本 明 ( <sup>1</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科 ): 腹側部頭蓋底病変に対する内視鏡単独拡大経蝶形骨洞手術のセッティング. 第18回日本神経内視鏡学会 (岡山), 2011. 11.
  - 19) 喜多村孝幸, 田原重志, 石井雄道, 寺本 明: 脳室内腫瘍性病変に対する神経内視鏡手術の進歩. 第18回日本神経内視鏡学会 (岡山), 2011. 11.
  - 20) 小南修史<sup>1)</sup>, 鈴木雅規<sup>1)</sup>, 渡邊 玲<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 玲 ( <sup>1</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2</sup> 東京共済病院脳神経外科 ): 脳・脊髄動静脈奇形に対するNBCAを用いた塞栓術. 第40回日本IVR学会総会 (青森), 2011. 5.
  - 21) 喜多村孝幸: ジェネリック医薬品情報の課題: 医師の立場から. 日本ジェネリック医薬品学会第5回学術大会 (東京), 2011. 6.
  - 22) 田原重志, 石井雄道, 大山健一<sup>1)</sup>, 喜多村孝幸, 竹井麻生<sup>2)</sup>, 山王直子<sup>3)</sup>, 長村義之<sup>4)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科, <sup>2</sup> 林脳神経外科内科クリニック, <sup>3</sup> 山王クリニック, <sup>4</sup> 国際医療福祉大学三田病院病理診断センター ): 内視鏡下経鼻の下垂体腺腫摘出術の周術期内分泌管理の実際. 第22回日本間脳下垂体腫瘍学会 (東京), 2012. 2.
  - 23) 石井雄道, 田原重志, 大山健一<sup>1)</sup>, 喜多村孝幸, 寺本 明 ( <sup>1</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科 ): 当施設における下垂体癌の治療経験. 第22回日本間脳下垂体腫瘍学会 (東京), 2012. 2.
  - 24) 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 纈額健太<sup>1)</sup>, 玉置智規<sup>2)</sup>, 村井保夫, 立山幸次郎, 岩本直高, 白銀一貴, 寺本 明 ( <sup>1</sup> 千葉北総病院脳神経外科, <sup>2</sup> 多摩永山病院脳神経外科 ): 内頸動脈病変に対するRAグラフト術における合併症回避. 第21回脳神経外科手術と機器学会 (大阪), 2012. 3.
- (4) セミナー:
- 1) 石井雄道: 内視鏡下経鼻の経蝶形骨洞手術. 第5回千葉神経内視鏡ハンズオンセミナー (千葉), 2011. 12.
  - 2) 村井保夫: バイパス術を用いた巨大脳動脈瘤の手術. ラジオ NIKKEI (東京), 2011. 8.
  - 3) 吉田陽一: 椎骨脳底動脈系の発生と解剖学的変異: 縦走動脈と節動脈. Pierre Lasjaunias 記念神経血管セミナー (東京), 2011. 7.
  - 4) 喜多村孝幸: ジェネリック医薬品情報の課題: 医師の立場から. あすかアクタビス製薬社内勉強会 (東京), 2011. 8.
  - 5) 喜多村孝幸: 最新の頭痛診断と治療. 第一三共頭痛セミナー (東京), 2011. 10.
  - 6) 喜多村孝幸: あなたの頭痛はどのタイプ? 今すぐ知りたい頭痛ケア. 頭痛フォーラム (東京), 2012. 1.
  - 7) 喜多村孝幸: 頭痛と上手に付き合うために~治療の最前線~. 輝く女子のための頭痛ケア (大阪), 2012. 2.
  - 8) 喜多村孝幸: 2次性頭痛の診断と治療. みやぎ頭痛予防治療フォーラム (宮城), 2012. 3.

(5) 一般講演：

- 1) 玉置智規<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科)：脳幹部海綿状血管腫の5症例. 第116回社団法人日本脳神経外科学会関東支部会(東京), 2011. 12.
- 2) 玉置智規<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 齋藤寛浩<sup>2)</sup>, 三枝英人<sup>3)</sup>, 梅岡克也<sup>4)</sup>, 立山幸次郎, 水成隆之<sup>4)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科, <sup>4)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：頸動脈内膜剥離術後における嘔声について. 第40回日本脳卒中の外科学会(京都), 2011. 7.
- 3) 玉置智規<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科)：延髄海綿状血管腫5例の直達手術. 第40回日本脳卒中の外科学会(京都), 2011. 7.
- 4) 高橋 弘, 日高可奈子<sup>1)</sup>, 高山幸芳<sup>1)</sup>, 足立好司<sup>2)</sup>, 山口文雄, 寺本 明<sup>(1)</sup> 武蔵小杉病院言語療法室, <sup>2)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科)：特発性正常圧水頭症に特異的な認知機能障害. (社)日本脳神経外科第70回学術総会(神奈川), 2011. 10.
- 5) 山口文雄, 大村智子<sup>1)</sup>, 展 広智, 石井雄道, 小島豊之<sup>2)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明<sup>(1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup> 四谷メディカルキューブ)：機能温存を目的とした術中錐体路マッピング：電気生理学的留置マーカーによる3次元的錐体路把握. (社)日本脳神経外科第70回学術総会(神奈川), 2011. 10.
- 6) 展 広智, 山口文雄, 大村朋子<sup>1)</sup>, 小島豊之<sup>2)</sup>, 石井雄道, 高橋 弘, 寺本 明<sup>(1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup> 四谷メディカルキューブ)：術中ナビゲーションシステム統合トラクトグラフィーのピットフォール：NY tract finderによる錐体路直接電気刺激による検証. (社)日本脳神経外科第70回学術総会(神奈川), 2011. 10.
- 7) 杉山 誠<sup>1)</sup>, 立澤孝幸<sup>1)</sup>, 小泉友幸<sup>1)</sup>, 福島雄大<sup>1)</sup>, 熊井潤一郎<sup>1)</sup>, 茂野 卓<sup>1)</sup>, 田原重志<sup>(1)</sup> 関東労災病院脳神経外科)：巨大下垂体腺腫に対する内視鏡下経鼻的下垂体腫瘍摘出術. 第26回川崎脳神経外科懇話会(神奈川), 2011. 7.
- 8) 杉山 誠<sup>1)</sup>, 立澤孝幸<sup>1)</sup>, 小泉友幸<sup>1)</sup>, 福島雄大<sup>1)</sup>, 熊井潤一郎<sup>1)</sup>, 茂野 卓<sup>1)</sup>, 田原重志<sup>(1)</sup> 関東労災病院脳神経外科)：比較的短期間で巨大になった下垂体腺腫に対し, 内視鏡下経鼻の下垂体腫瘍摘出術を行った1例. 第62回関東脳神経外科懇話会(東京), 2011. 7.
- 9) 杉山 誠<sup>1)</sup>, 吉田信介<sup>1)</sup>, 福島雄大<sup>1)</sup>, 立澤孝幸<sup>1)</sup>, 熊井潤一郎<sup>1)</sup>, 茂野 卓<sup>1)</sup>, 石井雄道, 大山健一<sup>2)</sup>, 田原重志, 寺本 明<sup>(1)</sup> 関東労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科)：内視鏡下経鼻の下垂体腫瘍摘出術の基本手技の検討とその応用. 第15回神奈川脳神経外科手術手技研究会(神奈川), 2011. 9.
- 10) 杉山 誠<sup>1)</sup>, 吉田信介<sup>1)</sup>, 福島雄大<sup>1)</sup>, 立澤孝幸<sup>1)</sup>, 熊井潤一郎<sup>1)</sup>, 茂野 卓<sup>1)</sup>, 石井雄道, 田原重志, 寺本 明<sup>(1)</sup> 関東労災病院脳神経外科)：巨大下垂体腺腫に対する内視鏡下経蝶形骨(経鼻的)下垂体手術の手術戦略が成功した1例. (社)日本脳神経外科学会第70回学術総会(神奈川), 2011. 10.
- 11) 杉山 誠<sup>1)</sup>, 吉田信介<sup>1)</sup>, 福島雄大<sup>1)</sup>, 立澤孝幸<sup>1)</sup>, 熊井潤一郎<sup>1)</sup>, 茂野 卓<sup>1)</sup>, 石井雄道, 田原重志, 寺本 明<sup>(1)</sup> 関東労災病院脳神経外科)：内視鏡下経鼻的下垂体腫瘍摘出術の基本手技の確認とその応用. 第18回日本神経内視鏡学会(岡山), 2011. 11.
- 12) 金 景成<sup>1)</sup>, 江本直也<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院内科)：糖尿病患者のしびれに関する前向き研究. 第35回東北海道脊髄疾患研究会(北海道), 2011. 5.
- 13) 金 景成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 森本大二郎<sup>2)</sup>, 菅原 淳<sup>3)</sup>, 松本亮司<sup>2)</sup>, 磯辺正則<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科, <sup>3)</sup> 岩手医科大学脳神経外科)：腰椎変性側弯症に対する後方除圧術の検討. 第26回日本脊髄外科学会(静岡), 2011. 6.
- 14) Kim K<sup>1)</sup>, Isu T<sup>2)</sup>, Morimoto D<sup>2)</sup>, Sugawara A<sup>3)</sup>, Kobayashi S<sup>1)</sup>, Teramoto A<sup>(1)</sup> Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital, <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, <sup>3)</sup> Department of Neurosurgery, Iwate Medical Hospital)：Our strategy and microsurgical treatment of entrapment neuropathy. 2nd Annual meeting of Asian Spine (Fukuoka, Japan), 2011. 9.

- 15) Kim K<sup>1)</sup>, Isu T<sup>2)</sup>, Morimoto D<sup>2)</sup>, Sugawara A<sup>3)</sup>, Kobayashi S<sup>1)</sup>, Teramoto A ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Chiba Hokuso Hospital, <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Kushirosai Hospital, <sup>3)</sup> Department of Neurosurgery, Iwate Medical Hospital) : Our strategy and microsurgical treatment of entrapment neuropathy. 13th Asian Australasian Congress of Neurological Surgeons (Taipei, Taiwan), 2011. 12.
- 16) 廣中浩平<sup>1)</sup>, 太組一朗<sup>1)</sup>, 山田 明<sup>1)</sup>, 足立好司<sup>1)</sup>, 寺尾 健<sup>2)</sup>, 秋元正宇<sup>3)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 谷津保健病院脳神経外科, <sup>3)</sup> 千葉北総病院脳神経外科) : 外後頭隆起の突出による頭痛に対し切除手術が著効した2例. 第116回社団法人日本脳神経外科学会関東支部会 (東京), 2011. 12.
- 17) 中江竜太<sup>1)</sup>, 恩田秀賢<sup>1)</sup>, 高山泰広<sup>1)</sup>, 荒木 尚<sup>1)</sup>, 直江康孝<sup>1)</sup>, 布施 明<sup>1)</sup>, 佐藤秀貴<sup>1)</sup>, 横田 裕<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 高度救命救急センター) : TCDによる脳血管攣縮の診断. 第25回日本神経救急学会 (東京), 2011. 6.
- 18) 中江竜太<sup>1)</sup>, 恩田秀賢<sup>1)</sup>, 高山泰広<sup>1)</sup>, 荒木 尚<sup>1)</sup>, 直江康孝<sup>1)</sup>, 布施 明<sup>1)</sup>, 佐藤秀貴<sup>1)</sup>, 吉田大蔵, 横田裕行<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 高度救命救急センター) : CDによる脳血管攣縮の診断. (社) 日本脳神経外科学会第70回学術総会 (神奈川), 2011. 10.
- 19) 石井雄道, 田原重志, 大山健一<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科) : TSH産生下垂体腺腫に対する手術と治療成績. 第84回日本内分泌学会学術総会 (神戸), 2011. 4.
- 20) 石井雄道, 田原重志, 大山健一<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科) : 鞍上伸展する下垂体腺腫に対する手術の工夫. 第6回東日本下垂体手術ビデオデモンストラーション, 2011. 8.
- 21) 石井雄道, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科) : 再発性ラトケ嚢胞に対する手術. 第9回千葉下垂体研究会 (千葉), 2011. 10.
- 22) 石井雄道, 田原重志, 大山健一<sup>1)</sup>, 喜多村孝幸, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科) : 下垂体腺腫鞍上伸展例に対する経鼻内視鏡手術: 内視鏡の特性を生かした摘出戦略. 第63回関東脳神経外科懇話会 (東京), 2011. 11.
- 23) 太組一朗<sup>1)</sup>, 饒波正博<sup>2)</sup>, 嘉手川淳<sup>3)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 沖縄赤十字病院脳神経外科, <sup>3)</sup> 沖縄赤十字病院神経内科) : 成人てんかん: 最近の治療トレンド. Epilepsy Managenet Conference 2011 (沖縄), 2011. 6.
- 24) 太組一朗<sup>1)</sup>, 秋元正宇<sup>2)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院形成外科) : 脳神経外科手術後チタンプレートトラブル症例の検討. (社) 日本脳神経外科学会第70回学術総会 (神奈川), 2011. 10.
- 25) 太組一朗<sup>1)</sup>, 饒波正博<sup>2)</sup>, 嘉手川淳<sup>3)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 沖縄赤十字病院脳神経外科, <sup>3)</sup> 沖縄赤十字病院神経内科) : LTGとLEV以降の成人てんかん一般診療. 第45回日本てんかん学会総会 (新潟), 2011. 10.
- 26) 太組一朗<sup>1)</sup>, 廣中浩平<sup>1)</sup>, 大山健一<sup>1)</sup>, 山田 明<sup>1)</sup>, 足立好司<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科) : 13年間てんかん診断がなされなかった内側側頭葉てんかんの1手術例. 第2回 Inetrcity Neuro-Conference (東京), 2011. 7.
- 27) 太組一朗<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科) : てんかん外科医療における現状と展望. 新しいてんかん医療を考える会 (東京), 2011. 5.
- 28) 亦野文宏, 村井保夫, 立山幸次郎, 水成隆之<sup>1)</sup>, 額額健太<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科) : 脳血行再建術を併用して治療した中大脳脈瘤の検討. (社) 日本脳神経外科学会第70回学術総会 (神奈川), 2011. 10.
- 29) 水成隆之<sup>1)</sup>, 岩本直高<sup>1)</sup>, 額額健太<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 玉置智規<sup>2)</sup>, 白銀一貴<sup>2)</sup>, 村井保夫, 立山幸次郎, 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup> 多摩永山病院脳神経外科) : 内頸動脈の巨大, 大型, 血栓化もしくはblister like動脈瘤に対する治療戦略. (社) 日本脳神経外科学会第70回学術総会 (神奈川), 2011. 10.
- 30) 村井保夫, 水成隆之<sup>1)</sup>, 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 立山幸次郎, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神

- 経外科) : High flow bypass を用いて治療した海綿静脈洞部未破裂内頸動脈瘤の長期予後. 第 40 回日本脳卒中の外科学会 (京都), 2011. 7.
- 31) 亦野文宏, 村井保夫, 足立好司<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科) : 頭蓋内内頸動脈狭窄と甲状腺機能亢進症, 脳内出血例, 2 次性甲状腺機能亢進症例を含む 3 症例の検討. 第 40 回日本脳卒中の外科学会 (京都), 2011. 7.
- 32) 水成隆之<sup>1)</sup>, 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 岩本直高<sup>1)</sup>, 白銀一貴<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 玉置智規<sup>2)</sup>, 村井保夫, 瀧瀬健太<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup> 多摩永山病院脳神経外科) : 内頸動脈大型, 血栓化もしくは前壁動脈瘤に対する治療戦略. 第 40 回日本脳卒中の外科学会 (京都), 2011. 7.
- 33) 立山幸次郎, 瀧瀬健太<sup>1)</sup>, 酒井直之<sup>2)</sup>, 廣中浩平<sup>3)</sup>, 岩本直高<sup>1)</sup>, 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 村井保夫, 玉置智規<sup>4)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup> 谷津保健病院脳神経外科, <sup>3)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科, <sup>4)</sup> 多摩永山病院脳神経外科) : 頸部内頸動脈剥離術における工夫. 第 40 回日本脳卒中の外科学会 (京都), 2011. 7.
- 34) 村井保夫, 足立好司<sup>1)</sup>, 山口文雄, 水成隆之<sup>2)</sup>, 梅岡克哉<sup>2)</sup>, 瀧瀬健太<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科) : Indocyanine green による術中蛍光血管撮影の経験. 第 7 回日本脳神経外科光線力学学会 (東京), 2011. 7.
- 35) 佐藤 慎<sup>1)</sup>, 松本 学<sup>1)</sup>, 有馬大輔<sup>1)</sup>, 橘 五月<sup>1)</sup>, 河野陽介<sup>1)</sup>, 小野雄一<sup>1)</sup>, 鈴木 剛<sup>1)</sup>, 布施 明<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>, 村井保夫, 寺本 明<sup>(1)</sup> 高度救命救急センター) : 治療戦略の選択に難渋する内頸動脈前壁動脈瘤-2 つの動脈瘤を有した症例から. 第 39 回日本救急医学会総会 (東京), 2011. 10.
- 36) 瀧瀬健太<sup>1)</sup>, 村井保夫, 足立好司<sup>2)</sup>, 亦野文宏, 水成隆之<sup>1)</sup>, 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科) : インドシアニングリーンビデオ血管撮影を用いた術中前交通動脈血流評価. (社) 日本脳神経外科学会第 70 回学術総会 (神奈川), 2011. 10.
- 37) 野手洋治<sup>1)</sup>, 玉置智規<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科) : 血小板マイクロパーティクルは脳血栓症マーカーとしてきわめて有用である. (社) 日本脳神経外科学会第 70 回学術総会 (神奈川), 2011. 10.
- 38) Yamaguchi F : Real intraoperative motor tract mapping under Brain shift conditions in glioma surgery. 8th annual meeting of International Brain Mapping & Intraoperative Surgical Planning Society (IBMISPS) (San Francisco, California), 2011. 6.
- 39) Yamaguchi F : Protection of motor pathway adjacent to intraaxial tumors by the guidance of intraoperatively placed markers. 16th Annual Scientific Meeting for Neuro-Oncology (Garden Grove, California), 2011. 11.
- 40) 田原重志, 大山健一<sup>1)</sup>, 竹井麻生<sup>2)</sup>, 山王直子<sup>3)</sup>, 石井雄道, 喜多村孝幸, 中久木卓也<sup>4)</sup>, 長村義之<sup>5)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 林脳神経外科内科クリニック, <sup>3)</sup> 山王クリニック, <sup>4)</sup> 京都医療センター脳神経外科, <sup>5)</sup> 国際医療福祉大学三田病院病理部) : 内視鏡単独経鼻の手術による Acromegaly に対する集学的治療. 第 84 回日本内分泌学会学術総会 (神戸), 2011. 4.
- 41) 大山健一<sup>1)</sup>, 石井雄道, 田原重志, 山王直子<sup>2)</sup>, 南 史朗<sup>3)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 山王クリニック, <sup>3)</sup> 武蔵小杉病院内科) : 下垂体卒中にて発症した頭蓋咽頭腫の 1 例. 第 84 回日本内分泌学会学術総会 (神戸), 2011. 4.
- 42) 戸田茂樹, 横田裕行<sup>1)</sup>, 森谷 愛, 寺本 明<sup>(1)</sup> 高度救命救急センター) : 65 歳以上の高齢者頸髄損傷患者における当施設での特徴と予後について. 第 26 回日本脊髄外科学会 (静岡), 2011. 6.
- 43) 木暮一成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科) : 頸椎外側椎間板障害の手術適応に関する考察. 第 26 回日本脊髄外科学会 (静岡), 2011. 6.
- 44) 國保倫子<sup>1)</sup>, 金 景成<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>(1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科) : くも膜下出血で発症した頸椎硬膜動静脈瘻. 第 26 回日本脊髄外科学会 (静岡), 2011. 6.

- 45) 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 玉置智規<sup>2)</sup>, 村井保夫, 立山幸次郎, 岩本直高<sup>1)</sup>, 瀨瀬健太<sup>1)</sup>, 白銀一貴<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup> 多摩永山病院脳神経外科 ): PICA を含んだ破裂椎骨動脈解離性動脈瘤の治療方針. 第40回日本脳卒中の外科学会 (京都), 2011. 7.
- 46) 寺尾 健<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 谷津保健病院脳神経外科 ): 当院での脳卒中急性期における誤嚥性肺炎予防の取り組み. 第40回日本脳卒中の外科学会 (京都), 2011. 7.
- 47) 戸田茂樹, 渥美生弘<sup>1)</sup>, 池田幸穂<sup>2)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 高度救命救急センター, <sup>2)</sup> 東京医科大学八王子医療センター ): ラット脳虚血再還流障害に関する edaravone 及び cimetidine の効果. 第40回日本脳卒中の外科学会 (京都), 2011. 7.
- 48) 岩本直高<sup>1)</sup>, 白銀一貴<sup>1)</sup>, 鈴木雅規<sup>1)</sup>, 大村朋子<sup>1)</sup>, 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 金 景成<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院病理学 ): 診断に苦慮したくも膜下出血の1例. 第40回日本脳卒中の外科学会 (京都), 2011. 7.
- 49) 鈴木雅規<sup>1)</sup>, 白銀一貴<sup>1)</sup>, 岩本直高<sup>1)</sup>, 大村朋子<sup>1)</sup>, 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 金 景成<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科 ): 脳底動脈本幹部動脈瘤に対する脳血管内治療. 第40回日本脳卒中の外科学会 (京都), 2011. 7.
- 50) 白銀一貴<sup>1)</sup>, 鈴木雅規<sup>1)</sup>, 岩本直高<sup>1)</sup>, 大村朋子<sup>1)</sup>, 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 金 景成<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科 ): 解離性前側頭動脈瘤の1例. 第40回日本脳卒中の外科学会 (京都), 2011. 7.
- 51) 山田昌興<sup>1)</sup>, 山田 創<sup>1)</sup>, 中口 博<sup>1)</sup>, 村上峰子<sup>1)</sup>, 保谷克巳<sup>1)</sup>, 石井雄道, 松野 彰<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 帝京大学ちば総合医療センター脳神経外科 ): 下垂体腺種に対する放射線治療後に発生したトルコ鞍底部の骨肉腫. 第41回ニューロオンコロジーの会 (東京), 2011. 8.
- 52) 石坂栄太郎, 田原重志, 石井雄道, 戸田茂樹, 喜多村孝幸, 寺本 明: 内視鏡下経蝶形骨アプローチによる開放術を施行した錐体骨先端部コレステリン肉芽腫の1例. 第115回日本脳神経外科学会関東支部会 (東京), 2011. 9.
- 53) 瀨瀬健太<sup>1)</sup>, 水成隆之, 岩本直高, 小林士郎, 立山幸次郎, 村井保夫, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科 ): 内頸動脈前壁 (C2 portion) 動脈瘤破裂に対し RA graft bypass 術が有効であった1例. 第115回日本脳神経外科学会関東支部会 (東京), 2011. 9.
- 54) 白銀一貴<sup>1)</sup>, 玉置智規<sup>2)</sup>, 木暮一成<sup>3)</sup>, 野手洋治<sup>4)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科 ): 円蓋部硬膜動静脈瘻の1例. 第115回日本脳神経外科学会関東支部会 (東京), 2011. 9.
- 55) 戸田茂樹, 高山泰宏<sup>1)</sup>, 中江竜太<sup>1)</sup>, 石坂栄太郎, 展 広智, 亦野文宏, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 高度救命救急センター ): 当施設における頸椎変性疾患固定術の変遷. (社) 日本脳神経外科学会第70回学術総会 (神奈川), 2011. 10.
- 56) 足立好司<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科 ): 抗炎症性サイトカインが示す抗グリオーマ効果の解析. (社) 日本脳神経外科学会第70回学術総会 (神奈川), 2011. 10.
- 57) 妹尾麻代<sup>1)</sup>, 瀨瀬健太<sup>1)</sup>, 岩本直高<sup>1)</sup>, 大村朋子<sup>1)</sup>, 鈴木雅規<sup>1)</sup>, 金 景成<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科 ): 不安定性下位胸椎骨折の発見が困難であった上位胸髄損傷後遺症の1例. (社) 日本脳神経外科学会第70回学術総会 (神奈川), 2011. 10.
- 58) 中久木卓也<sup>1)</sup>, 塚原徹也<sup>1)</sup>, 青木友和<sup>1)</sup>, 福田俊一<sup>1)</sup>, 後藤正憲<sup>1)</sup>, 新井大輔<sup>1)</sup>, 田原重志 ( <sup>1)</sup> 京都医療センター脳神経外科 ): ハイビジョン内視鏡による経蝶形骨洞手術の経験. (社) 日本脳神経外科学会第70回学術総会 (神奈川), 2011. 10.
- 59) 金 景成<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 森本大二郎<sup>2)</sup>, 菅原 淳<sup>3)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科, <sup>3)</sup> 岩手医科大学脳神経外科 ): 当科における頸椎後方除圧術. (社) 日本脳神経外科学会第70回学術総会 (神奈川), 2011. 10.
- 60) 小南修史<sup>1)</sup>, 鈴木雅規<sup>1)</sup>, 渡邊 玲<sup>2)</sup>, 吉田陽一<sup>3)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経

- センター脳神経外科, <sup>2)</sup> 東京共済病院脳神経外科, <sup>3)</sup> 荏原病院脳神経外科) : High grade AVM に対する NBCA を用いた塞栓術. (社) 日本脳神経外科学会第 70 回学術総会 (神奈川), 2011. 10.
- 61) 鈴木雅規<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 妹尾麻代<sup>1)</sup>, 額綱健太<sup>1)</sup>, 岩本直高<sup>1)</sup>, 大村朋子<sup>1)</sup>, 金 景成<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 (<sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科) : 当施設における急性期脳梗塞への MERCI Retriever 使用症例の検討. (社) 日本脳神経外科学会第 70 回学術総会 (神奈川), 2011. 10.
- 62) 岩本直高<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 妹尾麻代<sup>1)</sup>, 額綱健太<sup>1)</sup>, 鈴木雅規<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 (<sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科) : 困難な脳底動脈本幹部動脈瘤に対する当施設での治療成績. (社) 日本脳神経外科学会第 70 回学術総会 (神奈川), 2011. 10.
- 63) 佐藤 俊<sup>1)</sup>, 山崎道生<sup>1)</sup>, 金澤隆三郎<sup>2)</sup>, 寺本 明 (<sup>1)</sup> 多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 埼玉医科大学国際医療センター脳血管内治療科) : L-P シヤント バルブ背側埋設の工夫 アンチサイフォンデバイスの必要性有無. (社) 日本脳神経外科学会第 70 回学術総会 (神奈川), 2011. 10.
- 64) 大村朋子<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 足立好司<sup>2)</sup>, 寺本 明 (<sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科) : 中間型松果体実質腫瘍 PPTID の診断と治療方法の検討. (社) 日本脳神経外科学会第 70 回学術総会 (神奈川), 2011. 10.
- 65) 立山幸次郎, 寺本 明 : 高位頸部内頸動脈狭窄症に対する術式の工夫 耳下腺の剥離と脳べらの使用. (社) 日本脳神経外科学会第 70 回学術総会 (神奈川), 2011. 10.
- 66) 國保倫子<sup>1)</sup>, 金 景成<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明 (<sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2)</sup> 釧路労災病院脳神経外科) : くも膜下出血で発症した頸椎硬膜動静脈瘤. (社) 日本脳神経外科学会第 70 回学術総会 (神奈川), 2011. 10.
- 67) 吉田大蔵, 額綱健太<sup>1)</sup>, 寺本 明 (<sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科) : 下垂体腫瘍細胞 GH3 における成長ホルモン分泌を制御する miRNA を介した細胞内シグナルカスケードに関する分子生物学的研究. (社) 日本脳神経外科学会第 70 回学術総会 (神奈川), 2011. 10.
- 68) 田原重志, 喜多村孝幸, 石井雄道, 大山健一<sup>1)</sup>, 竹井麻生<sup>2)</sup>, 山王直子<sup>3)</sup>, 長村義之<sup>4)</sup>, 寺本 明 (<sup>1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 林脳神経外科内科クリニック, <sup>3)</sup> 山王クリニック, <sup>4)</sup> 国際医療福祉大学三田病院病理診断センター) : 突然の頭痛で発症し当初 subclinical acromegaly が疑われたラトケ嚢胞の 1 例. 第 7 回アクロメガリーフォーラム (東京), 2011. 11.
- 69) 大山健一<sup>1)</sup>, 石井雄道, 田原重志, 山王直子<sup>2)</sup>, 北山康彦<sup>3)</sup>, 南 史朗<sup>4)</sup>, 寺本 明 (<sup>1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 山王クリニック, <sup>3)</sup> 武蔵小杉病院病理部, <sup>4)</sup> 武蔵小杉病院内科) : 下垂体卒中にて発症した頭蓋咽頭腫の 1 例. 第 15 回日本内分泌病理学会学術総会 (東京), 2011. 11.
- 70) 石坂栄太郎, 田原重志, 石井雄道, 大山健一<sup>1)</sup>, 喜多村孝幸, 寺本 明 (<sup>1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科) : 内視鏡下経蝶形骨アプローチによる開放術を施行した錐体骨先端部コレステリン肉芽腫の 1 例. 第 18 回日本神経内視鏡学会 (岡山), 2011. 11.
- 71) 中久木卓也<sup>1)</sup>, 塚原徹也<sup>1)</sup>, 青木友和<sup>1)</sup>, 福田俊一<sup>1)</sup>, 後藤正憲<sup>1)</sup>, 新井大輔<sup>1)</sup>, 田原重志 (<sup>1)</sup> 京都医療センター脳神経外科) : ハイビジョン内視鏡システムの使用経験. 第 18 回日本神経内視鏡学会 (岡山), 2011. 11.
- 72) 山田昌興<sup>1)</sup>, 石井雄道, 山田 創<sup>1)</sup>, 後藤芳明<sup>1)</sup>, 中口 博<sup>1)</sup>, 村上峰子<sup>1)</sup>, 保谷克巳<sup>1)</sup>, 松野 彰<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 帝京大学ちば総合医療センター) : 放射線治療により誘発されたトルコ鞍部骨肉腫に対する神経内視鏡下手術の有効性. 第 18 回日本神経内視鏡学会 (岡山), 2011. 11.
- 73) 足立好司<sup>1)</sup>, 高橋 弘, 山口文雄, 大村朋子<sup>2)</sup>, 玉置智規<sup>3)</sup>, 寺本 明 (<sup>1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>3)</sup> 多摩永山病院脳神経外科) : B 細胞型中枢神経系悪性リンパ腫に対する HD-MTX+ 全脳照射後の (R-) CHOP 療法の治療成績. 第 29 回日本脳腫瘍学会学術集会 (岐阜), 2011. 11.
- 74) 吉田大蔵, 額綱健太<sup>1)</sup>, 寺本 明 (<sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科) : 下垂体腺腫細胞での GH 産生に關与する miRNA の制御するシグナルの研究. 第 52 回日本神経病理学会総会学術研究会 (京都), 2011. 6.

- 75) Yoshida D, Koketsu K<sup>1</sup>, Teramoto A (<sup>1</sup> Department of Neurosurgery, Chiba Hokusō Hospital) : Alternative pathway by miRNA relating growth hormone synthesis in GH3, rat pituitary adenoma cells. 2011 Congress of Neurological Surgeons Annual Meeting ((Washington, DC)), 2011. 11.
- 76) 梅岡克哉<sup>1</sup>, 水成隆之<sup>1</sup>, 白銀一貴<sup>1</sup>, 小南修史<sup>1</sup>, 金 景成<sup>1</sup>, 鈴木雅規<sup>1</sup>, 大村朋子<sup>1</sup>, 岩本直高<sup>1</sup>, 小林士郎<sup>1</sup>, 寺本 明 (<sup>1</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科) : CEA 中の頸動脈損傷により RA graft を必要とした 1 例. 第 20 回脳神経外科手術と機器学会 (徳島), 2011. 4.
- 77) 大山健一<sup>1</sup>, 廣中浩平<sup>1</sup>, 石井雄道, 山田 明<sup>1</sup>, 田原重志, 太組一朗<sup>1</sup>, 足立好司<sup>1</sup>, 喜多村孝幸, 寺本 明 (<sup>1</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科) : 腹側部頭蓋底病変に対する内視鏡下経蝶形骨洞手術の適応とセットアップ. 第 15 回神奈川脳神経外科手術手技研究会 (神奈川), 2011. 9.
- 78) 岩本直高<sup>1</sup>, 白銀一貴<sup>1</sup>, 鈴木雅規<sup>1</sup>, 梅岡克哉<sup>1</sup>, 小南修史<sup>1</sup>, 水成隆之<sup>1</sup>, 小林士郎<sup>1</sup>, 大秋美治<sup>2</sup>, 寺本 明 (<sup>1</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2</sup> 千葉北総病院病理学) : 診断に苦慮したクモ膜下出血の 1 例. 第 25 回日本神経救急学会学術集会 (東京), 2011. 6.
- 79) 戸田茂樹, 中江竜太<sup>1</sup>, 亦野文宏, 横田裕行<sup>1</sup>, 木暮一成<sup>2</sup>, 金 景成<sup>3</sup>, 寺本 明 (<sup>1</sup> 高度救命救急センター, <sup>2</sup> 多摩永山病院脳神経外科, <sup>3</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科) : 頸椎損傷に対する固定術を行う時期についての検討. 第 34 回日本脳神経外傷学会 (京都), 2011. 4.
- 80) 木暮一成<sup>1</sup>, 井須豊彦<sup>2</sup>, 野手洋治<sup>1</sup>, 寺本 明 (<sup>1</sup> 多摩永山病院脳神経外科, <sup>2</sup> 釧路労災病院脳神経外科) : 頸椎外側椎間板障害の自然経過と手術適応. (社) 日本脳神経外科学会第 70 回学術総会 (神奈川), 2011. 10.
- 81) 佐藤 俊<sup>1</sup>, 山崎道生, 寺本 明 (<sup>1</sup> 多摩永山病院脳神経外科) : 異所性右鎖骨下動脈とバリエーション : 脳血管撮影を安全に行うための大動脈弓撮影と 3D-CTA. 第 116 回社団法人日本脳神経外科学会関東支部会 (東京), 2011. 12.
- 82) 小南修史<sup>1</sup>, 鈴木雅規<sup>1</sup>, 芹澤 徹<sup>2</sup>, 小林士郎<sup>1</sup>, 寺本 明 (<sup>1</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, <sup>2</sup> 築地神経科クリニック東京ガンマユニットセンター) : 脳動静脈奇形に対するガンマナイフを先行した塞栓術. 第 27 回日本脳神経血管内治療学会学術総会 (幕張), 2011. 11.
- 83) 鈴木雅規<sup>1</sup>, 小南修史<sup>1</sup>, 妹尾麻代<sup>1</sup>, 額額健太<sup>1</sup>, 岩本直高<sup>1</sup>, 大村朋子<sup>1</sup>, 金 景成<sup>1</sup>, 水成隆之<sup>1</sup>, 小林士郎<sup>1</sup>, 寺本 明 (<sup>1</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科) : 静脈洞血栓症に関係すると考えられる硬膜動静脈瘻と脳動静脈瘻を合併した 1 例. 第 8 回日本脳神経血管内治療学会関東地方会 (東京), 2011. 6.
- 84) 鈴木雅規<sup>1</sup>, 小南修史<sup>1</sup>, 白銀一貴<sup>1</sup>, 岩本直高<sup>1</sup>, 大村朋子<sup>1</sup>, 梅岡克哉<sup>1</sup>, 金 景成<sup>1</sup>, 水成隆之<sup>1</sup>, 小林士郎<sup>1</sup>, 寺本 明 (<sup>1</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科) : 当施設における頸動脈狭窄症患者に対する治療 : CEA 第一選択方針の施設における CAS の適応. 第 10 回日本頸部脳血管治療学会 (大阪), 2011. 6.
- 85) 鈴木雅規<sup>1</sup>, 小南修史<sup>1</sup>, 額額健太<sup>1</sup>, 岩本直高<sup>1</sup>, 大村朋子<sup>1</sup>, 水成隆之<sup>1</sup>, 小林士郎<sup>1</sup>, 寺本 明 (<sup>1</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科) : wake-up stroke に対する MERCI retriever の有用性. 第 27 回日本脳神経血管内治療学会学術総会 (幕張), 2011. 11.
- 86) 額額健太<sup>1</sup>, 吉田大蔵, 石井雄道, 田原重志, 寺本 明 (<sup>1</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科) : 下垂体腺腫における Gremlin (DRM/CKTSF1B1) 発現の意義. 第 52 回日本神経病理学会総会学術研究会 (京都), 2011. 6.
- 87) 妹尾麻代<sup>1</sup>, 金 景成<sup>1</sup>, 額額健太<sup>1</sup>, 岩本直高<sup>1</sup>, 大村朋子<sup>1</sup>, 鈴木雅規<sup>1</sup>, 小南修史<sup>1</sup>, 水成隆之<sup>1</sup>, 小林士郎<sup>1</sup>, 寺本 明 (<sup>1</sup> 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科) : 不安定性下位胸椎骨折の発見が遅れた上位胸椎損傷後遺症の 1 例. 第 116 回社団法人日本脳神経外科学会関東支部会 (東京), 2011. 12.
- 88) 田原重志, 石井雄道, 大山健一<sup>1</sup>, 長村義之<sup>2</sup>, 寺本 明 (<sup>1</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科, <sup>2</sup> 国際医療福祉大学三田病院病理部) : 下垂体腺腫に対する内視鏡下経鼻の手術 (eTSS) 後の低ナトリウム血症についての検討. 厚生労働省難治性疾患克服研究事業 間脳下垂体機能障害に関する調査研究班 平成 23 年度班会議 (東京), 2012. 1.
- 89) 竹腰 進<sup>1</sup>, 井野元智恵<sup>1</sup>, 平安山英世<sup>1</sup>, 中村直哉<sup>1</sup>, 寺本 明, 長村義之<sup>2</sup> (<sup>1</sup> 東海大学医学部基盤診療学系

- 病理診断学, <sup>2)</sup> 国際医療福祉大学三田病院病理部) : ギナドトロピン産生腺腫におけるホルモン産生の DNA メチル化制御機構. 厚生労働省難治性疾患克服研究事業 間脳下垂体機能障害に関する調査研究班 平成 23 年度班会議 (東京), 2012. 1.
- 90) 高野幸路<sup>1)</sup>, 寺本 明, 有田和徳<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 東京大学医学部腎臓内分泌内科, <sup>2)</sup> 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科脳神経外科学) : 機能的下垂体腺腫の腫瘍発生原因腫瘍増殖に関与する因子の研究. 厚生労働省難治性疾患克服研究事業 間脳下垂体機能障害に関する調査研究班 平成 23 年度班会議 (東京), 2012. 1.
- 91) 石井雄道 : 髄腔内播種により進展した下垂体癌の 1 例. 第 21 回臨床内分泌代謝 Update (静岡), 2012. 1.
- 92) 吉田大蔵, 白銀一貴, 田原重志, 寺本 明 : 下垂体腺腫の腫瘍浸潤と増殖におけるインターフェロン誘導性膜貫通蛋白質 1 (IFITM1) の分子制御機構. 第 22 回日本間脳下垂体腫瘍学会 (東京), 2012. 2.
- 93) 田原重志, 石井雄道, 大山健一<sup>1)</sup>, 喜多村孝幸, 竹井麻生<sup>2)</sup>, 山王直子<sup>3)</sup>, 長村義之<sup>4)</sup>, 寺本 明 (<sup>1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 林脳神経外科内科クリニック, <sup>3)</sup> 山王クリニック, <sup>4)</sup> 国際医療福祉大学三田病院病理診断センター) : 下垂体腺腫を合併した IgG4 関連下垂体炎の検討. 第 22 回日本間脳下垂体腫瘍学会 (東京), 2012. 2.
- 94) 戸田茂樹 : 脳脊髄液減少症診断における RI cisternography と CT との fusion 画像の有用性について. 第 35 回日本脳神経 CI 学会総会 (横浜), 2012. 3.
- 95) 村井保夫 : 外科的手術を要した外傷性血管損傷の長期予後. 第 35 回日本脳神経外傷学会 (東京), 2012. 3.
- 96) 村井保夫, 足立好司<sup>1)</sup>, 額額健太<sup>2)</sup>, 水成隆之<sup>2)</sup>, 亦野文宏, 梅岡克哉<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 寺本 明 (<sup>1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院脳神経外科) : ICG videoangiography を用いた前交通動脈瘤クリッピング後の評価. 第 21 回脳神経外科手術と機器学会 (大阪), 2012. 3.
- 97) 石井雄道, 田原重志, 大山健一<sup>1)</sup>, 喜多村孝幸, 寺本 明 (<sup>1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科) : トルコ鞍底形成の方法と工夫. 第 21 回脳神経外科手術と機器学会 (大阪), 2012. 3.
- 98) 戸田茂樹, 喜多村孝幸, 寺本 明 : 慢性硬膜下血腫を伴う低髄液圧症候に対する治療戦略. 第 21 回脳神経外科手術と機器学会 (大阪), 2012. 3.
- 99) 山口文雄, 展 広智, 大村朋子<sup>1)</sup>, 小島豊之<sup>2)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明 (<sup>1)</sup> 千葉北総病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 四谷メディカルキューブ) : Pile draving technique による Real moter tract mapping. 第 21 回脳神経外科手術と機器学会 (大阪), 2012. 3.
- 100) 田原重志, 喜多村孝幸, 石井雄道, 杉山 誠<sup>1)</sup>, 寺本 明 (<sup>1)</sup> 関東労災病院脳神経外科) : 内視鏡下経鼻的下垂体腺腫摘出術 (eTSS) の鞍底形成における吸収性体内固定用メッシュの使用経験. 第 21 回脳神経外科手術と機器学会 (大阪), 2012. 3.
- 101) 石井雄道, 田原重志, 大山健一<sup>1)</sup>, 喜多村孝幸, 寺本 明 (<sup>1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科) : 内視鏡下経鼻経蝶形骨手術の基本とコツ. 第 21 回脳神経外科手術と機器学会 (大阪), 2012. 3.
- 102) 戸田茂樹 : SIH の診断時の脳槽シンチと CT との fusion 画像の有用性. 第 10 回脳脊髄液減少症研究会 (神戸), 2012. 3.
- 103) 太組一朗<sup>1)</sup>, 秋元正宇<sup>2)</sup>, 寺本 明 (<sup>1)</sup> 武蔵小杉病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 形成外科) : 脳神経外科手術後にみられるチタントラブル症例の検討. 第 5 回日本整容脳神経外科研究会 (大阪), 2012. 3.
- 104) 戸田茂樹, 寺本 明 : 転移性脊髄腫瘍が強く疑われた形質細胞腫の 1 例. Authentic Spinal Surgeon Summit2012 (東京), 2012. 2.
- (6) 市民公開講座 :
- 1) 田原重志 : 下垂体機能低下を来たす脳神経外科疾患とその手術. 下垂体機能低下症って何? (東京), 2011. 10.

## [武蔵小杉病院脳神経外科]

### 研究概要

武蔵小杉病院脳神経外科は、附属病院・多摩永山病院・千葉北総病院と密接な連携を保ちながら、脳腫瘍・脳血管障害・神経外傷・中枢神経系奇形・機能的脳疾患（顔面痙攣、三叉神経痛、パーキンソン病、てんかんなど）・神経感染症・整容的脳神経疾患とあらゆる脳神経系の外科的手技に主軸を置いた治療を行っている。特に悪性脳腫瘍に関しては、ニューロナビゲーターや蛍光色素を用いたケミカルモニタリング、術中誘発電位測定などで摘出を安全かつ最大に行い、この後の補助療法としてQOLを重視した適切な化学療法を含む集学的治療を施行し、良好な結果を取めている。また、虚血性脳卒中の急性期治療（tPA療法）を施行する神奈川県内の拠点病院となっていることから、血管障害を主体とした救急疾患の治療にも力を注いでいる。小児疾患に関しても、脳腫瘍の治療を主体に行っているが、水頭症や中枢神経系奇形に対する治療にも積極的に取り組んでいる。てんかん・パーキンソン病などの機能的脳疾患では、神奈川県有数の活動的施設である。基礎的領域では、分子生物学的手法を用いた脳腫瘍のサイトカインによる治療機構の解析、免疫療法の神経疾患に対する臨床応用研究、ビデオ脳波モニタリングを用いたてんかん発症様式の解析、などのテーマで研究を進めている。また、医学教育にも積極的に取り組み、学生の技能・知識の到達度評価、新しい教育手法の研究、実践を行っている。そして、毎年国内外に発表を行っており、今年度は和文論文7編、分担著書3編の発表がなされた。

### 研究業績

#### 論文

##### [追加分]

追加分原著：

- 1) 太組一朗, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 附属病院脳神経外科)：整容脳神経外科なる概念（特集）臨床医学の展望 2011 脳神経外科学. 日本医事新報 2011；(4529)：67-68.

(1) 原著：

- 1) 太組一朗, 浦 裕之<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup> (1) 東邦大学薬学部臨床病態学研究室, <sup>2)</sup> 附属病院脳神経外科)：新しい抗てんかん薬の使い方 脳神経外科医の立場から. 神経内科 2011；75 (16)：558-564.
- 2) 浦 裕之<sup>1, 4)</sup>, 太組一朗, 藤野 修<sup>2)</sup>, 福田恵子<sup>3)</sup>, 寺本 明<sup>4)</sup>, 定本清美<sup>1)</sup> (1) 東邦大学薬学部臨床病態学研究室, <sup>2)</sup> 千葉北総病院小児科, <sup>3)</sup> 千葉北総病院薬剤部, <sup>4)</sup> 附属病院脳神経外科)：外来てんかん診療における抗てんかん薬の忍容性比較. 社会薬学 2011；30 (1)：37-47.
- 3) 太組一朗, 秋元正宇<sup>1)</sup> (1) 千葉北総病院形成外科)：ハイドロキシアパタイト（特集）最新の治療デバイス 体内留置デバイス. クリニカルニューロサイエンス 2011；29 (4)：450-451.
- 4) 太組一朗, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 附属病院脳神経外科)：てんかん外科の現況（特集）臨床医学の展望 2012 脳神経外科学. 日本医事新報 2012；(4580)：44-45.
- 5) 太組一朗：各科臨床のトピックス 難治性てんかんに対する迷走神経刺激療法. 日医雑誌 2012；140 (12)：2574-2576.

(2) 総説：

- 1) 高橋 弘：Central Nervous System Tumor 脳腫瘍：グリオーマ. 癌と化学療法 2011；38 (6)：922-922.

## 著 書

### [追加分]

#### 追加分：

- 1) 秋元正宇<sup>1)</sup>, 太組一朗<sup>(1)</sup> 千葉北総病院形成外科)：〔共著〕局所皮弁のテクニック 寄らない創をなんとかして閉創する. NS Now Vol13 整容脳神経外科 Update, 2011；pp180-186, Medical View 社.
- 2) 太組一朗, 秋元正宇<sup>1)</sup> (1) 千葉北総病院形成外科)：〔共著〕術後感染に対する治療 自家骨移植. NS Now Vol13 整容脳神経外科 Update, 2011；pp175-179, Medical View 社.
- 1) ジェームスフィックス, 寺本 明<sup>1)</sup>, 山下俊一, 秋野公造, 太組一朗<sup>(1)</sup> 付属病院脳神経外科)：〔翻訳〕神経解剖集中講義 (第2版), 2012；医学書院.

## 学会発表

### [追加分]

#### 追加分特別講演：

- 1) Takahashi H, Hidaka K<sup>1)</sup> (1) 武蔵小杉病院言語療法室)：Higher brain function disorders of right frontal and temporal lobe tumor patients：A comparative study between before and after total removal operations of tumor. 日本ニューロリハビリテーション学会学術集会 (第2回) (名古屋市), 2011. 2.

#### (1) 特別講演：

- 1) 大山健一, 石井雄道<sup>1)</sup>, 田原重志<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 付属病院脳神経外科)：ラトケ嚢胞手術例における内分泌機能の検討. 千駄木内分泌懇話会 (第28回) (東京都文京区), 2011. 6.
- 2) 太組一朗：てんかん 最近の治療トレンド. 武蔵小杉 Epilepsy Conference (精神科領域地域医療連携企画) (川崎市), 2011. 6.
- 3) 太組一朗：てんかん治療の最前線：外科系てんかん専門医からみた一般てんかん診療と手術. 品川区医師会 MLM (major league medicine) 研究会 (東京), 2011. 6.
- 4) 太組一朗：てんかんと脳腫瘍：最近の治療トレンドから考える. 千駄木脳腫瘍研究会 (第1回) (東京), 2011. 6.

#### (2) シンポジウム：

- 1) 大山健一, 石井雄道<sup>1)</sup>, 田原重志<sup>1)</sup>, 足立好司, 喜多村孝幸<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 付属病院脳神経外科)：腹側部頭蓋底病変に対する内視鏡下経蝶形骨洞手術の適応とセットアップ. 日本頭蓋底外科学会総会 (第23回) (大阪市), 2011. 6.
- 2) 大山健一, 石井雄道<sup>1)</sup>, 田原重志<sup>1)</sup>, 足立好司, 喜多村孝幸<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 付属病院脳神経外科)：腹側部頭蓋底病変に対する内視鏡下経蝶形骨洞手術の適応とセットアップ. 日本脳神経外科学会学術総会 (第70回) (神奈川県横浜市), 2011. 10.
- 3) 大山健一, 石井雄道<sup>1)</sup>, 田原重志<sup>1)</sup>, 足立好司, 喜多村孝幸<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 付属病院脳神経外科)：腹側部頭蓋底病変に対する内視鏡単独拡大経蝶形骨洞手術のセッティング. 日本神経内視鏡学会 (第18回) (神奈川県横浜市), 2011. 10.

#### (3) セミナー：

- 1) 太組一朗：Parkinson 病における STN-DBS 手術：電極設置と術後調整. セミナー 東邦大学大橋病院神経内科 (東京), 2011. 6.
- 2) 太組一朗：知っておくと便利なてんかん診療：発作・妊娠・新規抗てんかん薬・手術適応. 日本脳神経外科学会学術総会 (第70回) (横浜市), 2011. 10.
- 3) 太組一朗：てんかんに関する最近の話題：抗てんかん薬の使い方. 八千代エリアてんかん講演会 (第1回) (千

葉県八千代市), 2012. 3.

- 4) 太組一朗: てんかんの診断と発作兆候. 脳神経外科医のためのてんかん治療フォーラム～薬物治療から外科治療まで～(第2回)(大阪府大阪市), 2012. 3.
- 5) 太組一朗: 脳波がなくてもわかるてんかんの話 発作症候, 治療そして問診のコツ. Kawasaki Epilepsy Network (第4回)(神奈川県川崎市), 2012. 3.
- 6) 太組一朗, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 付属病院脳神経外科): Parkinson 病における STN-DBS 療法: 脳神経外科医の立場から. 東神奈川ニューロモデュレーション研究会 (第2回)(神奈川県川崎市), 2012. 3.
- 7) 太組一朗: 脳神経外科領域におけるてんかん治療: ケーススタディからみる日常診療と抗てんかん薬の使い方. 東三河脳神経外科てんかん治療ミーティング2012 (愛知県豊橋市), 2012. 2.
- 8) 太組一朗: 迷走神経刺激療法: てんかん医療における位置づけとその導入. 難治性てんかん治療研究会 (神奈川県横浜市), 2012. 2.

(4) 一般講演:

- 1) 足立好司, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 付属病院脳神経外科): 炎症性サイトカインが示す抗グリオーマ効果の解析. 日本脳神経外科学会総会 (第70回)(福岡県福岡市), 2011. 10.
- 2) 足立好司: 治せる認知症. 川崎市中川区市民公開講座 (第10回)(神奈川県川崎市), 2011. 11.
- 3) 足立好司, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 山口文雄<sup>2)</sup>, 大村朋子<sup>3)</sup>, 玉置智規<sup>4)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup> (1) 春日居リハビリテーション病院脳神経外科, 2) 付属病院脳神経外科, 3) 千葉北総病院脳神経外科, 4) 多摩永山病院脳神経外科): B 細胞型中枢神経系悪性リンパ腫に対する HD-MIX + 全脳照射後の (R-) CHOP 療法の治療成績. 日本脳腫瘍学会 (第29回)(岐阜県下呂市), 2011. 11.
- 4) 廣中浩平, 太組一朗, 山田 明, 足立好司, 寺尾 健<sup>1)</sup>, 秋元正宇<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>3)</sup> (1) 谷津保健病院脳神経外科, 2) 千葉北総病院脳神経外科, 3) 付属病院脳神経外科): 外後頭隆起の突出による頭痛に対し切除手術が著効した2例. 日本脳神経外科学会 関東支部会 (第116回)(東京), 2011. 12.
- 5) 大山健一, 廣中浩平, 石井雄道<sup>1)</sup>, 山田 明, 田原重志<sup>1)</sup>, 太組一朗, 足立好司, 喜多村孝幸<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 付属病院脳神経外科): 腹側部頭蓋底病変に対する内視鏡下経蝶形骨洞手術の適応とセットアップ. 神奈川脳神経外科手術手技研究会 (第15回)(神奈川県横浜市), 2011. 9.
- 6) 大山健一, 石井雄道<sup>1)</sup>, 田原重志<sup>1)</sup>, 山王なほ子<sup>1)</sup>, 北山康彦<sup>2)</sup>, 南 史朗<sup>3)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 付属病院脳神経外科, 2) 武蔵小杉病院病理部, 3) 老人病研究所): 下垂体卒中にて発症した頭蓋咽頭腫の1例. 日本内分泌病理学会 (第15回)(東京), 2011. 11.
- 7) 大山健一, 石井雄道<sup>1)</sup>, 田原重志<sup>1)</sup>, 山王なほ子<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 付属病院脳神経外科): 下垂体卒中にて発症した頭蓋咽頭腫の1例. 日本内分泌学会学術総会 (第84回)(神戸市), 2011. 4.
- 8) 日高可奈子<sup>1)</sup>, 高山幸芳<sup>1)</sup>, 足立好司, 高橋 弘 (1) 武蔵小杉病院言語療法室): 特発性正常圧水頭症 (iNPH) における認知機能障害の特徴. 日本意識障害学会 (第20回)(弘前市), 2011. 9.
- 9) 高橋 弘, 日高可奈子<sup>1)</sup>, 高山幸芳<sup>1)</sup>, 足立好司, 山口文雄<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup> (1) 武蔵小杉病院言語療法室, 2) 付属病院脳神経外科): 特発性正常圧水頭症に特異的な認知機能障害. 日本脳神経外科学会総会 (第70回)(福岡市), 2011. 10.
- 10) 山口文雄<sup>1)</sup>, 大村朋子<sup>1)</sup>, 展 広智<sup>1)</sup>, 石井雄道<sup>1)</sup>, 小島豊之<sup>1)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 付属病院脳神経外科): 機能温存を目的とした術中錐体路マッピング: 電気生理学的留置マーカーによる3次元錐体路把握. 日本脳神経外科学会総会 (第70回)(福岡市), 2011. 10.
- 11) 展 広智<sup>1)</sup>, 山口文雄<sup>1)</sup>, 大村朋子<sup>1)</sup>, 小島豊之<sup>1)</sup>, 石井雄道<sup>1)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 付属病院脳神経外科): 術中ナビゲーションシステム統合トラクトグラフィのピットフォール: NY Tract Finder による錐体路直接電気刺激による検証. 日本脳神経外科学会総会 (第70回)(福岡市), 2011. 10.
- 12) Takahashi H, Hidaka K<sup>1)</sup> (1) 武蔵小杉病院言語療法室): Higher brain function disorders of right frontal-lobe

tumor patients : A comparative study between before and after total removal operations of right frontal-lobe tumor. Annual Meeting of the American Association of Neurological Surgeons (The 61th) (Denver, USA), 2011. 4.

- 13) 太組一朗, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 付属病院脳神経外科) : てんかん外科医療における現状と展望. 新しいてんかん医療を考える (東京), 2011. 5.
- 14) 饒波正博<sup>1)</sup>, 太組一朗, 嘉手川淳<sup>1)</sup>, 與那覇博克<sup>1)</sup>, 笠井直人<sup>1)</sup>, 高良英一<sup>1)</sup> (1) 沖縄赤十字病院脳神経外科) : 当院における迷走神経刺激治療例の報告. 日本脳神経外科学会九州地方会 (第108回) (那覇市), 2011. 6.
- 15) 太組一朗 : 包括てんかん診療とてんかん外科 : 最近の話題. New AED Summit in Sagami-hara (相模原市), 2011. 7.
- 16) 太組一朗, 廣中浩平, 大山健一, 山田 明, 足立好司, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 付属病院脳神経外科) : 13年間でてんかん診断がなされなかった内側側頭葉てんかんの1手術例. Intercity Neuro-Conference (第2回) (東京), 2011. 7.
- 17) 饒波正博<sup>1)</sup>, 高良英一<sup>1)</sup>, 嘉手川淳<sup>1)</sup>, 太組一朗 (1) 沖縄赤十字病院脳神経外科) : 沖縄県におけるてんかん専門診療の試み. 日本てんかん学会総会 (第45回) (新潟市), 2011. 10.
- 18) 太組一朗, 饒波正博<sup>1)</sup>, 嘉手川淳<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup> (1) 沖縄赤十字病院脳神経外科, 2) 付属病院脳神経外科) : LTGとLEV以降の成人てんかん一般診療. 日本てんかん学会総会 (第45回) (新潟市), 2011. 10.
- 19) 太組一朗, 秋元正宇<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup> (1) 千葉北総会病院形成外科, 2) 付属病院脳神経外科) : 脳神経外科手術後タンプレートトラブル症例の検討. 第70回日本脳神経外科学会学術総会 (第70回) (横浜市), 2011. 10.
- 20) 太組一朗, 饒波正博<sup>1)</sup>, 嘉手川淳<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup> (1) 沖縄赤十字病院脳神経外科, 2) 付属病院脳神経外科) : 成人てんかん : 最近の治療トレンド. Epilepsy Management Conference 2011 (那覇市), 2011. 6.
- 21) 太組一朗 : てんかんの治療 : 外科系てんかん専門医からみた薬物治療. てんかん治療の未来に貢献する会 (第1回) (通称 あさっての会) (文京区), 2011. 7.
- 22) 太組一朗 : てんかんの薬物治療の実際と今後期待する薬剤プロファイル : 外科系てんかん専門医から見た最新の事情. 技術情報協会セミナー (東京), 2011. 8.
- 23) 太組一朗 : 発作症候から考えるてんかん分類と脳波判読 : 専門的てんかん治療に向けての第一歩. 脳神経外科医のためのてんかん治療フォーラム (第1回) (札幌市), 2011. 9.
- 24) 太組一朗 : てんかんとパーキンソン病の外科治療. 医療講演会・昭和大学藤が丘病院神経内科セミナー (横浜市), 2011. 11.
- 25) 太組一朗 : てんかん治療におけるトレンド 新規抗てんかん薬へのパラダイムシフトと迷走神経刺激療法『指定発言』. 2011年ライブセミナー (第3回) (全国Webセミナー) (目黒区), 2011. 12.
- 26) 太組一朗 : 成人難治性てんかん治療と迷走神経刺激療法. 神奈川県難治性てんかん治療研究会講演会 (第1回) (横浜市), 2011. 12.
- 27) 古川美由紀<sup>1)</sup>, 木下瑠璃子<sup>1)</sup>, 伊藤めぐみ<sup>1)</sup>, 駒形由未加<sup>1)</sup>, 太組一朗, 廣中浩平, 山田 明, 足立好司 (1) 武蔵小杉病院看護部) : 武蔵小杉病院脳神経外科病棟における長時間ビデオ脳波モニタリング検査の取り組み. 神奈川県脳神経外科手術手技研究会 (第16回) (神奈川県横浜市), 2012. 1.
- 28) 太組一朗, 饒波正博<sup>1)</sup>, 嘉手川淳<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup> (1) 沖縄赤十字病院脳神経外科, 2) 付属病院脳神経外科) : 脳神経外科外来診療における新規抗てんかん薬 : 処方動機とAdverse Effectの検討. 日本てんかん外科学会 (第35回) (東京), 2012. 1.
- 29) 太組一朗, 廣中浩平, 山田 明, 足立好司, 伊藤滋朗<sup>1)</sup>, 岸 泰宏<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup> (1) 武蔵小杉病院精神科, 2) 付属病院脳神経外科) : MR患者における迷走神経刺激療法の1例. 神奈川てんかん懇話会 (第69回) (神奈川県横浜市), 2012. 1.
- 30) 太組一朗, 廣中浩平, 大山健一, 山田 明, 足立好司, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 付属病院脳神経外科) : 腹痛発作のみを

呈していたため診断困難であった内側側頭葉てんかんの1手術症例. 新規 AED を考える会 (東京都目黒区), 2012. 2.

- 31) 太組一朗, 廣中浩平, 山田 明, 足立好司, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 付属病院脳神経外科): 迷走神経刺激療法を施行した1例. Inetracity Neuro-Conference (第3回) (東京都渋谷区), 2012. 3.
- 32) 太組一朗: 脳神経外科手術後にみられるチタントラブル症例の検討. 日本整容脳神経外科研究会 (第5回) (大阪府大阪市), 2012. 3.
- 33) 足立好司, 大山健一, 寺本 明<sup>1)</sup>, 勝俣範之<sup>2)</sup> (1) 付属病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 武蔵小杉病院腫瘍内科): 視力障害で発症した蝶形骨洞原発 sarcoma の1手術例. 文京脳腫瘍研究会 (第19回) (東京), 2012. 3.

## [多摩永山病院脳神経外科]

### 研究概要

日本医科大学多摩永山病院脳神経外科は日本脳神経外科学会専門医訓練施設および日本脳卒中学会総会専門医訓練施設として, 教育・研究・診療を付属病院脳神経外科学教室と共同で行っている. また, 神経生理学・分子神経病理学などの幅広いニューロサイエンスの手法を用いて研究を行っている. 1. 脳腫瘍 (特に良性腫瘍) の手術, とりわけ脳深部の腫瘍 (頭蓋底手術) に対し, 最小限の侵襲 (minimally invasive surgery) にて, 合併症を最小限に止めるべく手術法の開発, モニタリングの改良を行なっている. 2. 虚血性脳血管障害に対し, 頸動脈内膜剥離術, 頭蓋内外バイパス術の更なる技術向上にて, 当該疾患に対する良好な成績を治めている. 3. 脊髄および脊髄疾患に対し, 低侵襲手術にて患者様の予後向上に努めている. 4. 脳血栓症に対する抗血小板剤の有効な使用方法 (薬剤モニタリング) について, 血小板活性化に関する基礎的研究を行なっている. 5. 悪性脳腫瘍に対して, 手術・放射線療法に加えて独自の化学療法・免疫療法・遺伝子治療等, 集学的治療を行っている. SPECT による核医学的研究および臨床神経病理学的研究を行っている. 6. 脳下垂体腫瘍に対して手術のみならず臨床内分泌学的研究を行っている. 頭部外傷症例とくに高齢者頭部外傷において脳血流評価を上記各種手法にて行い, 高次機能障害・長期予後予測因子の解明を行っている. 7. 脳下垂体腫瘍の臨床内分泌学的研究を行っている. 頭部外傷症例とくに高齢者頭部外傷において脳血流評価を上記各種手法にて行い, 高次機能障害・長期予後予測因子の解明を行っている. 8. 頭痛・三叉神経痛・顔面痙攣に対しても内服治療および手術治療にて, 良好な成績を取っている.

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著:

- 1) Tamaki T, Node Y, Teramoto A<sup>1)</sup> (1) Neurosurgery, Nippon Medical School): Evacuation of Spontaneous Thalamic and Intraventricular Hemorrhage under the Operating Microscope Improves Mortality Compared with External Ventricular Drainage. Mini-Craniotomy for Thalamic and Ventricular Hemorrhage Open Journal of Modern Neurosurgery 2011; 1 (1): 1-4.

#### 学会発表

(1) シンポジウム:

- 1) Tamaki T, Node Y, Teramoto A<sup>1)</sup>, Saegusa H<sup>2)</sup> (1) Neurosurgery, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Otorhynolaryngology, Nippon Medical School): Hoarseness after carotid endarterectomy. 4th ICH Conference (Newcastle, UK), 2011. 5.
- 2) 玉置智規, 斎藤寛浩<sup>1)</sup>, 鈴木紀成<sup>2)</sup>, 梅岡克也<sup>2)</sup>, 立山幸次郎<sup>2)</sup>, 山崎道生<sup>2)</sup>, 水成隆之<sup>2)</sup>, 野手洋治, 寺本 明<sup>2)</sup> (1) 旭川赤十字病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 付属病院脳神経外科): 頸動脈内膜剥離術後における嗄声について. 日本脳

卒中学会総会（第36回）（京都），2011. 7.

- 3) 玉置智規, 斎藤寛浩<sup>1)</sup>, 梅岡克也<sup>2)</sup>, 立山幸次郎<sup>2)</sup>, 山崎道生<sup>2)</sup>, 水成隆之<sup>2)</sup>, 野手洋治, 寺本 明<sup>2)</sup> (1) 旭川赤十字病院脳神経外科, 2) 付属病院脳神経外科) : 頸動脈内膜剥離術後における嗄声について. 日本脳神経外科学会学術総会（第70回）（横浜），2011. 10.

(2) 一般講演 :

- 1) Tamaki T, Node Y, Teramoto A<sup>1)</sup> (1) Neurosurgery, Nippon Medical School) : Frontal Mini-Craniotomy for Evacuation of Spontaneous Thalamic and Intraventricular Haemorrhage. 4th ICH Conference (Newcastle, UK), 2011. 5.
- 2) 木暮一成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 野手洋治, 寺本 明<sup>2)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科, 2) 付属病院脳神経外科) : 頸椎外側椎間板障害の手術適応に関する考察. 日本脊髄外科学会（第26回）（沼津），2011. 6.
- 3) 玉置智規, 野手洋治, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 付属病院脳神経外科) : 橋, 延髄海綿状血管腫5例の直達手術. 日本脳卒中学会総会（第36回）（京都），2011. 7.
- 4) 玉置智規, 澤田恵子, 野手洋治 : 脳血栓患者の頸動脈狭窄と血流依存性血管拡張反応. 日本脳卒中の外科学会（第40回）（京都），2011. 7.
- 5) 白銀一貴, 玉置智規, 木暮一成, 野手洋治, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 付属病院脳神経外科) : 円蓋部硬膜動静脈瘻の1例. 日本脳神経外科学会関東支部学術集会（第115回）（東京），2011. 9.
- 6) 野手洋治, 玉置智規, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 付属病院脳神経外科) : 血小板マイクロパーティクルは脳血栓症マーカーとしてきわめて有用である. 日本脳神経外科学会学術総会（第70回）（横浜），2011. 10.
- 7) 木暮一成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 野手洋治, 寺本 明<sup>2)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科, 2) 付属病院脳神経外科) : 頸椎外側椎間板障害の自然経過と手術適応. 日本脳神経外科学会学術総会（第70回）（横浜），2011. 10.
- 8) 佐藤 俊, 山崎道生<sup>1)</sup>, 金澤隆三郎<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 付属病院脳神経外科, 2) 埼玉医科大学国際医療センター脳血管内治療科) : L-P シェント バルブ背側埋設の工夫アンチサイフォンデバイスの必要性の有無. 日本脳神経外科学会学術総会（第70回）（横浜），2011. 10.
- 9) 玉置智規, 白銀一貴, 木暮一成, 野手洋治 : 橋, 延髄海綿状血管腫の直達手術. 多摩脳神経外科懇話会（第44回）（東京），2011. 10.
- 10) 玉置智規, 木暮一成, 野手洋治, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 付属病院脳神経外科) : 橋, 延髄海綿状血管腫の5症例. (社) 日本脳神経外科学会関東支部学術集会（第116回）（東京），2011. 12.
- 11) 佐藤 俊, 寺本 明<sup>1)</sup>, 山崎道生<sup>1)</sup> (1) 付属病院脳神経外科) : 異所性右鎖骨下動脈とバリエーション 脳血管撮影を安全に行うための大動脈弓撮影と3D-CTA. (社) 日本脳神経外科学会関東支部学術集会（第116回）（東京），2011. 12.

## [千葉北総病院脳神経外科]

### 研究概要

開設17年が経過した千葉北総病院脳神経外科は、付属病院脳神経外科と綿密な関係を保ちながら、脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍、脳代謝、脳血管内手術、脊髄脊椎外科、機能的脳神経外科を中心とした臨床および基礎的研究を行った。①脳血管障害：内頸動脈 blister like aneurysm に対する治療戦略を発表した。また椎骨動脈解離性動脈瘤の外科的治療法を報告した。千葉県における脳卒中地域連携パスの現状を述べた。鈴木病棟医長が日本脳卒中学会の専門医に認定された。また当院が日本脳卒中学会認定研修病院に指定された。②神経外傷：ゴルフカートに関する頭部外傷例の検討を行った。③脳腫瘍：glioma 手術時の皮質電極刺激によるトラクトグラフィーの精度評価を行った。大村医員が日本がん治療認定機構のがん治療認定医に認定された。また当院が千葉県がん診療連携協力病院に指定された。④脳代謝：ヒト被殻におけるアデノシン A1 リセプターの加齢変化を検討した。⑤脳血管内治療：wake-up stroke に

対する MERCI retriever の有用性を報告した。脳動静脈奇形に対するガンマナイフ治療成績における塞栓術の与える影響を検討した。⑥脊椎脊椎外科：腰椎変性疾患に対するスタンダード手術の概説を行った。また腰椎固定術後 failed back surgery の治療法を検討した。Williams-Isu 法による脊椎前方固定術後の長期成績を報告した。金講師が日本脊椎外科学会の指導医に認定され、同会の荣誉ある「都留賞」を受賞した。⑦機能的脳神経外科：MVD の手術手技の習得目的にて、梅岡講師が三井記念病院脳神経外科に国内留学した。SCU も順調に稼動しており、千葉県北部における基幹施設としての責務を果たした。昨年、当科が中心となって完成させた千葉県統一脳卒中地域連携パスを県下に広く浸透させ、脳卒中急性期の stroke bypass を確立する目的にて千葉県脳卒中急性期医療協議会を設立した。また当医局に設置されている（社）日本脳卒中協会千葉県支部では、各地で脳卒中市民公開講座を開催した。

## 研究業績

### 論文

#### 〔追加分〕

追加分総説：

- 1) 鈴木雅規, 小林士郎, 白銀一貴, 國保倫子, 大村朋子, 梅岡克哉, 金 景成, 小南修史, 水成隆之, 寺本 明<sup>1)</sup>  
(<sup>1)</sup> 日本医科大学脳神経外科)：ゴルフカートから転落して受傷した頭部外傷の2症例. 神経外傷 2010；33 (1)：69-72.
- 2) 小南修史, 寺本 明 (<sup>1)</sup> 日本医科大学脳神経外科)：脳血管内治療の進歩. 日本医事新報別刷 臨床医学の展望 脳神経外科学 2011；(4529)：66-67.

追加分原著：

- 1) Shimoda Y<sup>1)</sup>, Morimoto D<sup>1)</sup>, Isu T<sup>1)</sup>, Hamauchi S<sup>1)</sup>, Atsumoto R<sup>1)</sup>, Isobe M<sup>1)</sup>, Kim K, Yusa T<sup>2)</sup>, Takahashi T<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, <sup>2)</sup> Department of Central Laboratory, Kushiro Rosai Hospital, <sup>3)</sup> Department of Pathology, Kushiro Rosai Hospital)：Schwannoma developing in the psoas major muscle：a case report. No Shinkei Geka 2011；39 (1)：51-57.
- 2) Kim K, Isu T<sup>1)</sup>, Sugawara A<sup>2)</sup>, Morimoto D<sup>1)</sup>, Shimoda Y<sup>1)</sup>, Matsumoto R<sup>1)</sup>, Isobe M<sup>1)</sup>, Mishina M, Kobayashi S<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, Iwate Medical University, <sup>3)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School)：Combination of the Williams-Isu method and the transvertebral approach to treat cervical disease. J Clin Neurosci 2011；18 (3)：396-400.

追加分：

- 1) 目々澤肇<sup>1)</sup>, 鈴木雅規, 小南修史, 小林士郎 (<sup>1)</sup> 目々澤醫院・日本医科大学千葉北総病院神経内科)：耳鳴を主訴とした硬膜動静脈瘻の1症例. 江戸川医学会一般演題 別刷 2011；(28)：28-30.

(1) 原著：

- 1) 金 景成：脊椎・脊髄疾患. 脳神経疾患看護のポイント Q&A 200 2011；206-215.
- 2) 水成隆之：内頸動脈動脈瘤（海綿静脈洞）. NS now 15 傍鞍部病変の手術（塩川芳昭編）2011；94-106.
- 3) 金 景成, 井須豊彦<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 釧路労災病院脳神経外科)：脳動脈瘤破裂. 整形外科 治療と手術の合併症 2011；49-54.
- 4) 金 景成, 井須豊彦<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 釧路労災病院脳神経外科)：脊髄の手術解剖. NS now 14 脊髄外科 2011；27-34.
- 5) 小林士郎：頭部外傷. チャート脳神経外科 改訂第4版（三木 保 編）2011；227-269.
- 6) Mishina M<sup>1, 2)</sup>, Ishii K<sup>2)</sup>, Suzuki M<sup>2, 4)</sup>, Kitamura S<sup>5)</sup>, Ishibashi K<sup>2, 6)</sup>, Sakata M<sup>2)</sup>, Oda K<sup>2)</sup>, Hamamoto M<sup>1, 3)</sup>, Kominami S, Kobayashi S, Katayama Y<sup>3)</sup>, Ishiwata K<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, <sup>3)</sup> Second Depart-

ment of Internal Medicine, Nippon Medical School, <sup>4</sup>Department of Neurosurgery, The Jikei University School of Medicine, <sup>5</sup> Department of Internal Medicine, Department of Internal Medicine Musashi Kosugi Hospital, <sup>6</sup> Department of Neurosurgery and Neurological Science Graduate School, Tokyo Medical and Dental University) : Striatal Distribution of Dopamine Transporters and Dopamine D2 Receptors at Different Stages of Parkinson's Disease-A CFT and RAC PET Study. The Neuroradiology Journal 2011 ; 24 (2) : 235-241.

- 7) Kim K, Isu T<sup>1</sup>, Sugawara A<sup>2</sup>, Matsumoto R<sup>1</sup>, Isobe M<sup>1</sup>, Mishina M, Kobayashi S, Yoshida D<sup>3</sup>, Teramoto A<sup>3</sup> (<sup>1</sup> Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, <sup>2</sup> Department of Neurosurgery, Iwate Medical University, <sup>3</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Selective Posterior Decompression of the Cervical Spine. Neurol Med Chir 2011 ; 51 (2) : 108-112.
- 8) Kim K, Isu T<sup>1</sup>, Sugawara A<sup>2</sup>, Matsumoto R<sup>1</sup>, Isobe M<sup>1</sup>, Mishina M, Kobayashi S, Teramoto A<sup>3</sup> (<sup>1</sup> Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, <sup>2</sup> Department of Neurosurgery, Iwate Medical University, <sup>3</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School) : Detailed study of graft sinking and worsening of the fused segment angle in patients with cervical disease treated with the Williams-Isu method. Neurol Med Chir 2011 ; 51 (3) : 208-213.
- 9) Mizunari T, Murai Y, Kobayashi S, Teramoto A : Utility of the orbitocranial approach for clipping of anterior communicating artery aneurysms : Significance of dissection of the interhemispheric fissure and the Sylvian fissure. Journal of Nippon Medical School 2011 2011 ; 78 (2) : 77-83.
- 10) Mizunari T, Murai Y, Kobayashi S, Teramoto A : Long-lasting narrowing of the parent artery after bilateral clipping of mirror-image aneurysms of distal anterior cerebral arteries : A case report. J Nippon Med Sch 2011 ; 78 (3) : 178-183.
- 11) Mizunari T, Murai Y, Kobayashi S, Kamiyama H<sup>1</sup>, Teramoto A (<sup>1</sup> Department Of Neurosurgery Asahikawa Red Cross Hospital) : Posttraumatic Carotid-Cavernous Fistulae Treated by Internal Carotid Artery Trapping and High-Flow Bypass Using a Radial Artery Graft : Two Case Reports. Neurol Medico Chir 2011 ; 51 (3) : 113-116.

(2) 総説 :

- 1) 金 景成 : 脳神経外科医でありながら脊椎外科医であるということ. 印旛市郡医師会報 2011 ; (54) : 54-55.
- 2) 金 景成, 井須豊彦<sup>1</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>2</sup> (<sup>1</sup> 釧路労災病院脳神経外科, <sup>2</sup> 日本医科大学脳神経外科) : 頰椎前方除圧固定術の低侵襲手術に関する研究. 千葉県医師会雑誌 2011 ; (63) : 428-429.
- 3) 國保倫子, 金 景成, 菅原 淳<sup>1</sup>, 野村竜太郎<sup>2</sup>, 森本大二郎<sup>2</sup>, 井須豊彦<sup>3</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>4</sup> (<sup>1</sup> 岩手医科大学脳神経外科, <sup>2</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科, <sup>3</sup> 釧路労災病院脳神経外科, <sup>4</sup> 日本医科大学脳神経外科) : 特発性脊髄硬膜外血腫の治療経験. NEUROLOGICAL SURGERY 脳神経外科 2011 ; 39 (10) : 947-952.
- 4) 金 景成 : 頰椎前方除圧固定術の低侵襲手術に関する研究. 日医大医会誌 2011 ; 7 (4) : 193-193.
- 5) 金 景成 : スイスバーゼル大学脊椎手術外科への留学報告. 日医大医会誌 2011 ; 7 (4) : 203-204.
- 6) 小南修史 (<sup>1</sup> 日本医科大学脳神経外科) : 脊髄血管の発生. Clinical Neuroscience 2011 ; 29 (10) : 1188-1189.

学会発表

[追加分]

追加分特別講演 :

- 1) 金 景成 : 頰椎疾患に対する低侵襲手術に関する研究. 日本医科大学医学会総会 (第79回) (東京), 2011. 9.

(1) 特別講演：

- 1) 小林士郎：脳卒中ゼロをめざして．千葉県八千代警察署管内高齢者安全・安心に関する協定書調印記念健康セミナー（千葉），2011．7．
- 2) 金 景成：腰部脊柱管狭窄症及びその周辺疾患 外来治療のポイントと初期対応．東葉臨床医学セミナー（第113回）（千葉），2011．11．

(2) 教育講演：

- 1) 小林士郎：脳卒中ゼロをめざして．千葉県印西市立印旛中学校教育講演会（千葉），2011．7．

(3) シンポジウム：

- 1) 小南修史，鈴木雅規，渡辺 玲<sup>1)</sup>，小林士郎，寺本 明<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup> 東京共済病院脳神経外科，<sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科）：脳・脊髄動脈奇形に対するNBCAを用いた塞栓術．日本IVR学会総会（第40回）（青森），2011．5．
- 2) 森本大二郎<sup>1)</sup>，井須豊彦<sup>1)</sup>，山崎和義<sup>1)</sup>，今井哲秋<sup>1)</sup>，菅原 淳<sup>2)</sup>，金 景成，松本亮司<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 釧路労災病院脳神経外科，<sup>2)</sup> 岩手医科大学脳神経外科）：lumbar foraminal stenosis の診断・治療．日本脊髄外科学会（第26回）（神奈川），2011．6．
- 3) 水成隆之：内頸動脈病変に対するRA グラフト術における合併症回避．脳神経外科手術と機器学会（第21回）（大阪），2012．3．

(4) セミナー：

- 1) 水成隆之：RA グラフトの基本主義と臨床適応（ECA-RA-MCA バイパス）．日本脳神経外科コンGRESS総会（第31回）（神奈川），2011．5．
- 2) 水成隆之：脳血管障害の基礎と臨床．脳神経看護セミナー（第4回）（埼玉），2011．7．
- 3) 小南修史：AVM 塞栓術の極意．日本脳神経血管内治療学会学術総会（第27回）（千葉），2011．11．

(5) ポスターセッション：

- 1) 國保倫子，金 景成，小南修史，井須豊彦<sup>1)</sup>，小林士郎，寺本 明<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup> 釧路労災病院脳神経外科，<sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科）：くも膜下出血で発症した頸椎硬膜動脈瘻．日本脊髄外科学会（第26回）（静岡），2011．6．
- 2) 鈴木雅規，小南修史，瀧瀬健太，岩本直高，大村朋子，水成隆之，小林士郎，寺本 明<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院脳神経外科）：wake-up stroke に対するMERCIRETRIEVER の有用性．日本脳神経血管内治療学会学術総会（第27回）（千葉），2011．11．
- 3) 阿部雅志<sup>1)</sup>，池亀 敏<sup>1)</sup>，富田尚樹<sup>1)</sup>，加藤丈司<sup>1)</sup>，河原崎昇<sup>1)</sup>，小南修史，小林士郎（<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院放射線センター）：血栓化動脈瘤に対するfusion の有用性．日本脳神経血管内治療学会学術総会（第27回）（千葉），2011．11．

(6) ポスター：

- 1) 三品雅洋<sup>1)</sup>，小林士郎，水成隆之，金 景成，梅岡克哉，鈴木雅規，大村朋子，岩本直高，白銀一貴，片山泰朗<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学 内科 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門）：脳梗塞3病型における発症直後のイコサペンタエン酸と予後の関係．日本脳卒中の外科学会（第40回）（京都），2011．7．
- 2) 岩本直高，白銀一貴，鈴木雅規，大村朋子，梅岡克哉，金 景成，小南修史，水成隆之，小林士郎，寺本 明<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学脳神経外科）：診断に苦慮したくも膜下出血の1例．日本脳卒中の外科学会（第40回）（京都），2011．7．
- 3) 鈴木雅規，小南修史，白銀一貴，岩本直高，大村朋子，梅岡克哉，金 景成，水成隆之，小林士郎，寺本 明<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学脳神経外科）：脳底動脈本幹部動脈瘤に対する脳血管内治療．日本脳卒中の外科学会（第40回）（京都），2011．7．
- 4) 白銀一貴，梅岡克哉，岩本直高，大村朋子，鈴木雅規，金 景成，小南修史，水成隆之，小林士郎，寺本 明<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学脳神経外科）：解離性前側頭動脈瘤の1例．日本脳卒中の外科学会（第40回）（京都），2011．7．

- 5) 金 景成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 森本大二郎<sup>1)</sup>, 菅原 淳<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>3)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科, 2) 岩手医科大学脳神経外科, 3) 日本医科大学脳神経外科): 当科における頸椎前方除圧固定術. 日本脳神経外科学会学術総会 (第70回) (神奈川), 2011. 10.
- 6) 鈴木雅規, 小南修史, 妹尾麻代, 額額健太, 岩本直高, 大村朋子, 金 景成, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科): 当施設における急性期脳梗塞へのMERCIRetriever使用症例の検討: Wake-upstrokeへの有用性. 日本脳神経外科学会学術総会 (第70回) (神奈川), 2011. 10.
- 7) 大村朋子, 水成隆之, 小林士郎, 足立好司<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科, 2) 日本医科大学脳神経外科): 中間型松果体実質腫瘍PPTIDの診断と治療方針の検討. 日本脳神経外科学会学術総会 (第70回) (神奈川), 2011. 10.
- 8) 岩本直高, 水成隆之, 妹尾麻代, 額額健太, 大村朋子, 鈴木雅規, 金 景成, 小南修史, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科): 困難な脳底動脈本幹部動脈瘤に対する当施設での治療成績. 日本脳神経外科学会学術総会 (第70回) (神奈川), 2011. 10.
- 9) 額額健太, 村井保夫<sup>1)</sup>, 足立好司<sup>2)</sup>, 亦野文宏<sup>3)</sup>, 水成隆之, 梅岡克哉<sup>4)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>5)</sup> (1) 日本医科大学付属病院, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院, 3) 博慈会記念総合病院脳神経外科, 4) 三井記念病院脳神経外科, 5) 日本医科大学脳神経外科): インドシアニングリーンビデオ血管撮影を用いた術中前交通動脈血流評価. 日本脳神経外科学会学術総会 (第70回) (神奈川), 2011. 10.
- 10) 妹尾麻代, 額額健太, 岩本直高, 大村朋子, 鈴木雅規, 金 景成, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科): 不安定性下位胸椎骨折の発見が困難であった上位胸髄損傷後遺症の1例. 日本脳神経外科学会学術総会 (第70回) (神奈川), 2011. 10.
- 11) 國保倫子<sup>1)</sup>, 金 景成, 小南修史, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科, 2) 釧路労災病院脳神経外科): くも膜下出血で発症した頸椎硬膜動静脈瘻. 日本脳神経外科学会学術総会 (第70回) (神奈川), 2011. 10.
- 12) 森本大二郎<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 山崎和義<sup>1)</sup>, 今井哲秋<sup>1)</sup>, 金 景成, 松本亮司<sup>1)</sup>, 磯部正則<sup>1)</sup>, 菅原 淳<sup>2)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科, 2) 岩手医科大学脳神経外科): 腰椎変性疾患術後にみられる腰痛の原因とその対策. 日本脳神経外科学会学術総会 (第70回) (神奈川), 2011. 10.
- (7) 海外留学者講演:
- 1) 金 景成: スイスバーゼル大学脊椎手術外科への留学報告. 日本医科大学医学会総会 (第79回) (東京), 2011. 9.
- (8) 一般講演:
- 1) 金 景成, 江本直也<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院 内科, 2) 日本医科大学脳神経外科): 糖尿病患者のしびれに関する前向き研究. 東北北海道脊髄疾患研究会 (第35回) (北海道), 2011. 5.
- 2) 鈴木雅規, 小南修史, 妹尾麻代, 額額健太, 岩本直高, 大村朋子, 金 景成, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科): 静脈洞血栓症に関係すると考えられる硬膜動静脈瘻と脳動静脈瘻を合併した1例. 日本脳神経血管内治療学会関東地方会 (第8回) (東京), 2011. 6.
- 3) 額額健太<sup>1)</sup>, 吉田大蔵<sup>1)</sup>, 石井雄道<sup>1)</sup>, 田原重志<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科): 下垂体腺腫におけるGremlin (DRM/CKTSP1B1) 発現の意義. 日本神経病理学会総会学術研究会 (第52回) (京都), 2011. 6.
- 4) 菅原 淳<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>2)</sup>, 森本大二郎<sup>2)</sup>, 金 景成, 磯部正則<sup>2)</sup>, 松本亮司<sup>2)</sup>, 小川 彰<sup>1)</sup>, 小笠原邦昭<sup>1)</sup> (1) 岩手医科大学医学部脳神経外科, 2) 釧路労災病院脳神経外科): 腰椎変性すべり症に対する後方除圧術の成績: 術後成績不良例の検討. 日本脊髄外科学会 (第26回) (静岡), 2011. 6.
- 5) 金 景成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 森本大二郎<sup>1)</sup>, 菅原 淳<sup>2)</sup>, 松本亮司<sup>1)</sup>, 磯部正則<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>3)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科, 2) 岩手医科大学脳神経外科, 3) 日本医科大学脳神経外科): 腰椎変性側弯症に対する後方除圧術の検討. 日本脊髄外科学会 (第26回) (静岡), 2011. 6.

- 6) 今井哲秋<sup>1)</sup>, 森本大二郎<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 金 景成, 山崎和義<sup>1)</sup>, 松本亮司<sup>1)</sup>, 磯部正則<sup>1)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科: 他の腰痛性疾患の治療を要した仙腸関節障害の治療経験. 日本脊椎外科学会 (第 26 回) (静岡), 2011. 6.
- 7) 今井哲秋<sup>1)</sup>, 森本大二郎<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 金 景成, 山崎和義<sup>1)</sup>, 松本亮司<sup>1)</sup>, 磯部正則<sup>1)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科: 腰椎固定術後の仙腸関節障害. 日本脊椎外科学会 (第 26 回) (静岡), 2011. 6.
- 8) 森本大二郎<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 笹森 徹<sup>2)</sup>, 山崎和義<sup>1)</sup>, 今井哲秋<sup>1)</sup>, 茂木洋晃<sup>2)</sup>, 菅原 淳<sup>3)</sup>, 金 景成, 松本亮司<sup>1)</sup>, 磯部正則<sup>1)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科, 2) 北海道大学脳神経外科, 3) 岩手医科大学脳神経外科: 足根管症候群の外科的治療成績. 日本脊椎外科学会 (第 26 回) (静岡), 2011. 6.
- 9) 井須豊彦<sup>1)</sup>, 森本大二郎<sup>1)</sup>, 山崎和義<sup>1)</sup>, 今井哲秋<sup>1)</sup>, 金 景成, 松本亮司<sup>1)</sup>, 磯部 淳<sup>1)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科: 腰椎術後に治療を行った上殿皮神経障害の治療経験. 日本脊椎外科学会 (第 26 回) (静岡), 2011. 6.
- 10) 井須豊彦<sup>1)</sup>, 森本大二郎<sup>1)</sup>, 今井哲秋<sup>1)</sup>, 山崎和義<sup>1)</sup>, 金 景成, 松本亮司<sup>1)</sup>, 磯部 淳<sup>1)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科: 総腓骨神経の絞扼性障害の診断および治療成績. 日本脊椎外科学会 (第 26 回) (静岡), 2011. 6.
- 11) 金 景成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 森本大二郎<sup>1)</sup>, 菅原 淳<sup>2)</sup>, 松本亮司<sup>1)</sup>, 磯部正則<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>3)</sup> (1) 釧路労災病院脳神経外科, 2) 岩手医科大学脳神経外科, 3) 日本医科大学脳神経外科: Williams-Isu 法術後 10 年以上の長期成績に関する検討. 日本脊椎外科学会 (第 26 回) (静岡), 2011. 6.
- 12) 鈴木雅規, 小南修史, 白銀一貴, 岩本直高, 大村朋子, 梅岡克哉, 金 景成, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科: 当施設における頸動脈狭窄症患者に対する治療: CEA 第一選択方針の施設における CAS の適応. 日本頸部脳血管治療学会 (第 10 回) (大阪), 2011. 6.
- 13) 岩本直高, 白銀一貴, 鈴木雅規, 梅岡克哉, 金 景成, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎, 大秋美治<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院 病理部, 2) 日本医科大学脳神経外科: 診断に苦慮したくも膜下出血の 1 例. 日本神経救急学会・学術総会 (第 25 回) (東京), 2011. 6.
- 14) 玉置智規<sup>1)</sup>, 斎藤寛浩<sup>2)</sup>, 鈴木紀成<sup>3)</sup>, 梅岡克哉, 立山幸次郎<sup>3)</sup>, 山崎道生<sup>2)</sup>, 水成隆之, 野手洋治<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院 脳神経外科, 2) 旭川赤十字病院脳神経外科, 3) 日本医科大学脳神経外科: 頸動脈内膜剥離術後における嘔声について. 日本脳卒中の外科学会 (第 40 回) (京都), 2011. 7.
- 15) 村井保夫<sup>1)</sup>, 水成隆之, 梅岡克哉, 立山幸次郎<sup>1)</sup>, 小林士郎, 山崎 明<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科: High flow bypass を用いて治療した海綿静脈洞部未破裂内頸動脈瘤の長期予後. 日本脳卒中の外科学会 (第 40 回) (京都), 2011. 7.
- 16) 水成隆之, 梅岡克哉, 岩本直高, 白銀一貴, 小林士郎, 村井保夫<sup>1)</sup>, 額額健太<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科: 内頸動脈大型, 血栓化もしくは前壁 (blister like) 動脈瘤に対する治療戦略. 日本脳卒中の外科学会 (第 40 回) (京都), 2011. 7.
- 17) 立山幸次郎<sup>1)</sup>, 額額健太<sup>1)</sup>, 酒井直之<sup>4)</sup>, 廣中浩平<sup>4)</sup>, 岩本直高, 梅岡克哉, 村井保夫<sup>2)</sup>, 玉置智規<sup>3)</sup>, 水成隆之, 寺本 明<sup>2)</sup> (1) 博慈会記念総合病院, 2) 日本医科大学付属病院 脳神経外科, 3) 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科, 4) 目白第二病院脳神経外科: 頸部内頸動脈剥離術における工夫 (高位病変に対する工夫と下位脳神経麻痺の予防). 日本脳卒中の外科学会 (第 40 回) (京都), 2011. 7.
- 18) 梅岡克哉, 水成隆之, 玉置智規<sup>2)</sup>, 村井保夫<sup>1)</sup>, 立山幸次郎<sup>1)</sup>, 岩本直高, 額額健太<sup>1)</sup>, 白銀一貴, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科, 2) 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科: PICA を含んだ破裂椎骨動脈解離性動脈瘤の治療方針. 日本脳卒中の外科学会 (第 40 回) (京都), 2011. 7.
- 19) 三品雅洋<sup>1)</sup>, 大久保誠二<sup>1)</sup>, 上田雅之<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>1)</sup>, 小林士郎, 水成隆之, 小南修史, 金 景成, 梅岡克哉, 鈴木雅規, 大村朋子, 岩本直高, 額額健太, 白銀一貴, 妹尾麻代 (1) 日本医科大学内科学講座 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門: 日本医科大学付属病院と千葉北総病院における入院患者の虚血性脳卒中病型の違い. 日本医科大学医学会総会 (第 79 回) (東京), 2011. 9.
- 20) 額額健太, 水成隆之, 岩本直高, 小林士郎, 立山幸次郎<sup>1)</sup>, 村井保夫<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup> (1) 博慈会記念総合病院 脳

- 神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科): 内径動脈前壁 (C2 portion) 動脈瘤破裂に対し RA graft bypass 術が有効であった 1 例. 日本脳神経外科学会関東支部学術集会 (第 115 回) (東京), 2011. 9.
- 21) 若林ひとみ<sup>1)</sup>, 内田恵美<sup>1)</sup>, 堀谷麻衣<sup>1)</sup>, 鶴田牧子<sup>1)</sup>, 佐藤香織<sup>1)</sup>, 橋口彩花<sup>1)</sup>, 大谷理実<sup>1)</sup>, 佐々木優子<sup>1)</sup>, 矢萩英子<sup>1)</sup>, 水成隆之 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター): 経鼻, 経口挿管における合併症の比較検討. 日本意識障害学会 (第 20 回) (青森), 2011. 9.
- 22) 岩本直高, 水成隆之, 下吹越航, 妹尾麻代, 瀬瀬健太, 大村朋子, 鈴木雅規, 金 景成, 小南修史, 小林士郎: 診断, 治療に難渋した多発脳動脈瘤の 1 例. 東葛脳神経外科手術手技研究会「千葉あすなろの会」(第 4 回) (千葉), 2011. 9.
- 23) 金 景成, 大村朋子, 妹尾麻代, 岩本直高, 鈴木雅規, 瀬瀬健太, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎: 脊髄損傷後に下腹部痛をおこした 1 例. 東葛脳神経外科カンファレンス (第 77 回) (千葉), 2011. 9.
- 24) 金 景成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 森本大二郎<sup>1)</sup>, 菅原 淳<sup>2)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 釧路労災病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 岩手医科大学脳神経外科, <sup>3)</sup> 日本医科大学脳神経外科): Williams-Isu 法を用いた頸椎前方除圧固定術およびその応用. 日本頸椎・脊髄神経手術手技学会 (第 18 回) (千葉), 2011. 9.
- 25) 水成隆之, 岩本直高, 瀬瀬健太, 小林士郎, 玉置智規<sup>1)</sup>, 白銀一貴<sup>1)</sup>, 村井保夫<sup>2)</sup>, 立山幸次郎<sup>2)</sup>, 梅岡克哉<sup>3)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学脳神経外科, <sup>3)</sup> 三井記念病院脳神経外科): 内頸動脈の巨大, 大型, 血栓化もしくは blister like 動脈瘤に対する治療戦略. 日本脳神経外科学会学術総会 (第 70 回) (神奈川), 2011. 10.
- 26) 小南修史, 鈴木雅規, 渡辺 玲<sup>2)</sup>, 吉田陽一<sup>3)</sup>, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学脳神経外科, <sup>2)</sup> 東京共済病院脳神経外科, <sup>3)</sup> 東京都保健医療公社荏原病院脳神経外科): High grade AVM に対する NBCA を用いた塞栓術. 日本脳神経外科学会学術総会 (第 70 回) (神奈川), 2011. 10.
- 27) 内田恵美<sup>1)</sup>, 鶴田牧子<sup>1)</sup>, 佐藤香織<sup>1)</sup>, 橋口彩花<sup>1)</sup>, 若林ひとみ<sup>1)</sup>, 堀谷麻衣<sup>1)</sup>, 大谷理実<sup>1)</sup>, 佐々木優子<sup>1)</sup>, 矢萩英子<sup>1)</sup>, 水成隆之 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター): 経鼻, 経口挿管患者管理における肺炎合併の比較検討. 日本脳神経外科学会学術総会 (第 70 回) (神奈川), 2011. 10.
- 28) 有泉楽子<sup>1)</sup>, 水成隆之, 矢萩英子<sup>1)</sup>, 佐々木優子<sup>1)</sup>, 土肥いずみ<sup>1)</sup>, 篠田朋美<sup>1)</sup>, 佐藤 智<sup>1)</sup>, 伴 美幸<sup>1)</sup>, 堤 悦子<sup>1)</sup>, 廣瀬七恵<sup>1)</sup>, 浮須由比 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター): 当脳神経センターにおける脳卒中後うつ状態患者に対する脳卒中リハビリ認定看護師の取り組み. 日本脳神経外科学会学術総会 (第 70 回) (神奈川), 2011. 10.
- 29) 阿部雅志<sup>1)</sup>, 池亀 敏<sup>1)</sup>, 加藤丈司<sup>1)</sup>, 河原崎昇<sup>1)</sup>, 菊池陽子<sup>2)</sup>, 鈴木千夏<sup>2)</sup>, 菅澤真純<sup>2)</sup>, 富田尚樹<sup>1)</sup>, 横山雪乃<sup>1)</sup>, 岡田 進<sup>3)</sup>, 小林士郎 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院放射線センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院看護部, <sup>3)</sup> 日本医科大学放射線科): MRI 検査に対する当院教育プログラムと認定制度. 日本脳神経外科学会学術総会 (第 70 回) (神奈川), 2011. 10.
- 30) 山口文雄<sup>1)</sup>, 大村朋子, 展 広智<sup>1)</sup>, 石井雄道<sup>1)</sup>, 小島豊之<sup>2)</sup>, 高橋 弘<sup>3)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学脳神経外科, <sup>2)</sup> 四谷メディカルキューブ脳神経外科, <sup>3)</sup> 景雲会春日居リハビリテーション病院脳神経外科): 機能温存を目的とした術中錐体路マッピング: 電気生理学的留置マーカーによる 3 次元的錐体路把握. 日本脳神経外科学会学術総会 (第 70 回) (神奈川), 2011. 10.
- 31) 展 広智<sup>1)</sup>, 山口文雄<sup>1)</sup>, 大村朋子, 小島豊之<sup>2)</sup>, 石井雄道<sup>1)</sup>, 高橋 弘<sup>3)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学脳神経外科, <sup>2)</sup> 四谷メディカルキューブ脳神経外科, <sup>3)</sup> 景雲会春日居リハビリテーション病院脳神経外科): 術中ナビゲーションシステム統合トラクトグラフィのピットフォール: NY Tract Finder による錐体路直接電気刺激による検証. 日本脳神経外科学会学術総会 (第 70 回) (神奈川), 2011. 10.
- 32) 亦野文宏<sup>1)</sup>, 村井保夫<sup>2)</sup>, 立山幸次郎<sup>1)</sup>, 水成隆之, 瀬瀬健太, 小林士郎, 寺本 明<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 博慈会記念総合病院脳神経外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院脳神経外科): 脳血行再建術を併用して治療した中大脳動脈瘤の検討. 日本脳神経外科学会学術総会 (第 70 回) (神奈川), 2011. 10.

- 33) 小南修史, 鈴木雅規, 芹澤 徹<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>2)</sup> (1) 築地神経科クリニック東京ガンマユニットセンター, 2) 日本医科大学付属病院脳神経外科): 脳動脈奇形に対するガンマナイフを先行した塞栓術. 日本脳神経血管内治療学会学術総会 (第 27 回) (千葉), 2011. 11.
- 34) 永野 修<sup>1)</sup>, 芹澤 徹<sup>2)</sup>, 小南修史, 樋口佳則<sup>3)</sup>, 青柳京子<sup>1)</sup>, 町田利夫<sup>1)</sup>, 小林士郎, 小野純一<sup>1)</sup>, 佐伯直勝<sup>3)</sup> (1) 千葉県循環器病センター脳神経外科, 2) 築地神経科クリニック東京ガンマユニットセンター, 3) 千葉大学大学院医学研究院脳神経外科学): Radiosurgically high grade AVM に対するガンマナイフ治療: 塞栓術の併用による安全な治療を目指して. 日本脳神経血管内治療学会学術総会 (第 27 回) (千葉), 2011. 11.
- 35) 金 景成, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 森本大二郎<sup>1)</sup>, 菅原 淳<sup>2)</sup>, 小林士郎 (1) 釧路労災病院脳神経外科, 2) 岩手医科大学脳神経外科): Williams-Isu 法による頸椎前方固定術後の長期成績. 日本脊髄障害医学会 (第 46 回) (大阪), 2011. 11.
- 36) 森本大二郎<sup>1)</sup>, 井須豊彦<sup>1)</sup>, 金 景成 (1) 釧路労災病院脳神経外科): 腰椎固定術後の仙腸関節障害. 日本脊髄障害医学会 (第 46 回) (大阪), 2011. 11.
- 37) 妹尾麻代, 金 景成, 瀬藤健太, 岩本直高, 大村朋子, 鈴木雅規, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科): 不安定性下位胸椎骨折の発見が遅れた上位胸髄損傷後遺症の 1 例. 日本脳神経外科学会関東支部学術集会 (第 116 回) (東京), 2011. 12.
- 38) Kominami S : Spinal AVM embolisation and outcomes. 11th congress of the world Federation of International Neuroradiology (Cape Town, Republic of South Africa), 2011. 8.
- 39) Kim S, Isu T<sup>1)</sup>, Morimoto D<sup>1)</sup>, Sugawara A<sup>2)</sup>, Teramoto A<sup>3)</sup> (1) Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, 2) Department of Neurosurgery, Iwate Medical University, 3) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School): Our strategy and microsurgical treatment of entrapment neuropathy. 2nd Annual Meeting of Asia Spine (Fukuoka, Japan), 2011. 9.
- 40) Kim K : Cervical anterior fusion with the Williams-Isu method. 13th Asian-Australasian Congress of Neurological Surgeons (Taipei), 2011. 12.
- (9) ビデオシンポジウム :
- 1) 村井保夫<sup>1)</sup>, 水成隆之, 小林士郎, 立山幸次郎<sup>1)</sup>, 岩本直高, 瀬藤健太<sup>1)</sup>, 寺本 明, 高木 亮<sup>2)</sup>, 関根鉄朗<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学脳神経外科, 2) 日本医科大学付属病院放射線科): Radical artery graft の基本手技と周術期管理: 合併症を経験したから言える 80 例を超える症例からの知見. 日本脳神経外科学会学術総会 (第 70 回) (神奈川), 2011. 10.
- (10) 特別シンポジウム :
- 1) 芹澤 徹<sup>1)</sup>, 小南修史, 樋口佳則<sup>2)</sup>, 永野 修<sup>3)</sup>, 平井達夫<sup>1)</sup>, 小林士郎, 小野純一<sup>3)</sup>, 佐伯直勝<sup>2)</sup> (1) 築地神経科クリニック 東京ガンマユニットセンター, 2) 千葉大学医学部脳神経外科, 3) 千葉県循環器病センター脳神経外科): Radiosurgically high grade AVM に対するわれわれの治療戦略 塞栓術の併用による完全なガンマナイフ治療を目指して. 日本脳神経外科学会学術総会 (第 70 回) (神奈川), 2011. 10.

## 12. 整形外科学講座

### [付属病院整形外科・武蔵小杉病院整形外科・多摩永山病院整形外科・千葉北総病院整形外科]

#### 研究概要

整形外科学教室の平成 23 年度の研究は、臨床研究において脊椎部、肩、肘、股、膝関節部、手の外科、足の外科、骨軟部腫瘍などを対象にした疾患ならびに外傷に対する系統的臨床研究報告を行った。部位別にみると、脊椎では頸、腰椎部疾患の診断、治療、手術手技、手の外科では手関節周辺骨折、末梢神経、腱の障害に対する治療および手術法の開発、肩関節障害に対する手術的治療の新知見などを発表した。人工膝関節に関しては日常生活機能向上を目指した新しい手術手技を報告した。基礎研究においては自己免疫性関節炎に対する治療薬の開発に関する基礎研究成果を報告した、軟骨変性に関する基礎研究成果を報告した。学会発表は量、質ともに向上し、国際学会の発表も増え、教育研修講演、シンポジウム、招待講演、一般講演などが積極的に行われた。

#### 研究業績

##### 論文

##### [追加分]

追加分総説：

- 1) 青木孝文, 伊藤博元：関節造影によるリスフラン関節損傷の診断. 整形・災害外科 2010；53 (6)：697-703.

追加分原著：

- 1) Kitagawa Y, Sawaizumi T, Ito H：Myositis ossificans of the supinator muscle causing posterior interosseous nerve palsy：a case report. Hand Surg 2010；15 (2)：115-117.
- 2) 橋口 宏, 岩下 哲, 伊藤博元：1次修復不能腱板広範囲断裂に対する鏡視下大腿筋膜移植術の治療成績. JOSKAS 2011；36 (1)：2-3.

(1) 原著：

- 1) 南野光彦, 澤泉卓哉, 伊藤博元：高齢者上腕骨遠位端骨折に対する ONI transcondylar plate による治療経験. 骨折 2011；33 (3)：589-592.
- 2) Uematsu T, Sakai A<sup>1)</sup>, Ito H, Suzuki H<sup>1)</sup> (1) Departments of Pharmacology, Nippon Medical School)：Intra-articular administration of tachykinin NK<sub>1</sub> receptor antagonists reduces hyperalgesia and cartilage destruction in the inflammatory joint in rats with adjuvant-induced arthritis. European Journal of Pharmacology 2011；668 (1-2)：163-168.
- 3) Hanaoka T<sup>1,2)</sup>, Kamimura N<sup>1)</sup>, Yokota T<sup>1)</sup>, Takai S<sup>2)</sup>, Ohta S<sup>1)</sup> (1) Department of Biochemistry and Cell Biology, Institute of Development and Aging Sciences, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, 1-396 Ko, 2) Department of Orthopedic Surgery, Nippon Medical School, 1-1-5 Sendagi, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8602, Japan)：Molecular hydrogen protects chondrocytes from oxidative stress and indirectly alters gene expressions through reducing peroxynitrite derived from nitric oxide. Medical Gas Research 2011；1 (1)：18-18.
- 4) 望月祐輔, 澤泉卓哉, 角田 隆, 堀口 元, 福田慶一, 松井秀平, 伊藤博元, 高井信朗：方形回内筋の走行異常が原因と考えられた前腕回旋障害の1例. 関東整形災害外科学会雑誌 2011；42 (5)：292-295.
- 5) Mochizuki Y, Miyamoto M, Gembun Y, Konno S, Tsunoda R, Sudo K, Takai S：Ligamentum flavum

hematoma in the Lumbar Spine : a report of three cases and review of the literature. Journal of Orthopaedics 2011 ; 8 (4).

- 6) 林 幹彦, 玉井健介, 北川泰之, 金 竜, 石原陽子, 河路秀巳, 伊藤博元 : 大腿骨近位部骨折患者における術期リスクの検討 心的リスクを中心に. hip joint 2011 ; 37 : 774-777.
  - 7) Niki H<sup>1)</sup>, Tatsunami S<sup>2)</sup>, Haraguchi N<sup>3)</sup>, Aoki T, Okuda R<sup>4)</sup>, Suda Y<sup>5)</sup>, Takao M<sup>6)</sup>, Tanaka Y<sup>7)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Orthopaedic Surgery, St. Marianna University School of Medicine, <sup>2)</sup> Unit of Medical Statistics, Faculty of Medical Education and Culture, St Marianna University School of Medicine, <sup>3)</sup> Department of Orthopaedic Surgery, Tokyo Metropolitan Police Hospital, <sup>4)</sup> Department of Orthopedic Surgery, Osaka Medical College, <sup>5)</sup> Department of Orthopaedic Surgery, School of Medicine, Keio University, <sup>6)</sup> Department of Orthopaedic Surgery, Teikyo University School of Medicine, <sup>7)</sup> Department of Orthopaedic Surgery, Nara Medical University) : Development of the patient-based outcome instrument for the foot and ankle. Part 1 : project description and evaluation of the Outcome Instrument version 1. J Orthop Sci 2011 ; 16 (5) : 536-555.
  - 8) Niki H<sup>1)</sup>, Tatsunami S<sup>2)</sup>, Haraguchi N<sup>3)</sup>, Aoki T, Okuda R<sup>4)</sup>, Suda Y<sup>5)</sup>, Takao M<sup>6)</sup>, Tanaka Y<sup>7)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Orthopaedic Surgery, St. Marianna University School of Medicine, <sup>2)</sup> Unit of Medical Statistics, Faculty of Medical Education and Culture, St Marianna University School of Medicine, <sup>3)</sup> Department of Orthopaedic Surgery, Tokyo Metropolitan Police Hospital, <sup>4)</sup> Department of Orthopedic Surgery, Osaka Medical College, <sup>5)</sup> Department of Orthopaedic Surgery, School of Medicine, Keio University, <sup>6)</sup> Department of Orthopaedic Surgery, Teikyo University School of Medicine, <sup>7)</sup> Department of Orthopaedic Surgery, Nara Medical University) : Development of the patient-based outcome instrument for foot and ankle : part 2 : results from the second field survey : validity of the Outcome Instrument for the foot and ankle version 2. J Orthop Sci 2011 ; 16 (5) : 556-564555.
  - 9) 青木孝文, 須藤賢太郎, 伊藤博元 : 変形性足関節症の発生要因に対する一考察. 日本足外会誌 2011 ; 32 (2) : 110-113.
  - 10) Kodera N, Aoki T, Ito H : Electrophysiological and histological investigation on the gradual elongation of rabbit sciatic nerve. J Nippon Med Sch 2011 ; 78 (3) : 166-173.
  - 11) 橋口 宏, 岩下 哲, 伊藤博元 : 変形性肩関節症に対する人工肩関節置換術の治療成績. 肩関節 2011 ; 35 (2) : 583-586.
  - 12) 橋口 宏, 岩下 哲, 南 和文, 伊藤博元 : 肩鎖関節脱臼に対する積極的保存療法による早期スポーツ復帰. 東日本震災会誌 2011 ; 23 (2) : 277-280.
- (2) 総説 :
- 1) 元文芳和 : 寝たきりを防ぐ腰痛対策. 総合臨牀 2011 ; 60 (9) : 1955-1956.
  - 2) 高井信朗 : 婦人疾患と腰痛. 整形外科領域学術雑誌 サルバス 2012 ; 6 (1).
  - 3) 高井信朗 : インフォームド・コンセントと患者の期待度・満足度. 整形・災害外科 2011 ; 54 (11) : 1323.
  - 4) 高井信朗 : インフォームド・チョイス. 整形外科 2011 ; 62 (13) : 1354.
  - 5) 高井信朗 : 「ムンテラ」と「インフォームド・コンセント」に思うこと. 臨床整形外科 2012 ; 47 (2) : 109-110.
  - 6) 高井信朗 : スポーツと人工膝関節. 臨床スポーツ医学 2011 ; 28 (11) : 1261-1264.
  - 7) 高井信朗 : TKA における PF 関節のバイオメカニクス. 関節外科 2011 ; 30 (10) : 67-71.
  - 8) 高井信朗 : 近位脛腓関節障害の病態と治療. 関節外科 2011 ; 30 (6) : 735-740.
- (3) 研究報告書 :
- 1) 岩下 哲, 橋口 宏, 高井信朗 : Cuff tear arthropathy を伴った腱板広範囲断裂に対する人工骨頭置換術の治療成績. 肩関節 2011 ; 135 (3) : 991-993.

#### (4) 症例報告：

- 1) Nanno M, Sawaizumi T, Takai S : A case of fibrolipomatous hamartoma of the digital nerve without macrodactyly. J Nippon Med Sch 2011 ; 78 (6) : 388-392.
- 2) Nanno M, Sawaizumi T, Takai S : A case of bilateral Galeazzi fractures associated with dislocation of right elbow joint. J Nippon Med Sch 2011 ; 78 (6) : 384-387.
- 3) 南野光彦, 澤泉卓哉, 伊藤博元 : 手指末節骨内軟骨腫を伴った深指屈筋腱停止部裂離骨折の1例. 雑誌 整形外科 2011 ; 62 (12) : 1275-1277.
- 4) 南野光彦, 澤泉卓哉, 伊藤博元 : 巨指症を伴わない母指尺側指神経の線維脂肪性肥大の1例. 雑誌 整形外科 2011 ; 62 (6) : 534-536.

## 著 書

### 〔追加分〕

#### 追加分：

- 1) 青木孝文：〔分担〕 過剰骨障害. 絵で見る最新足診療エッセンシャルガイド, 2010 ; pp159-163, 全日本病院出版会.
- 1) 南野光彦, 澤泉卓哉 : 〔分担〕 PIP 関節脱臼骨折に対する pins and rubbers traction system を用いた創外固定法. 特集主題 手指・手関節に対する創外固定の応用 : 整形外科最小侵襲手術ジャーナル 61, 2011 ; pp23-33, 全日本病院出版.
- 2) 宮本雅史 : 〔分担〕 腰椎椎間板ヘルニア診療ガイドライン改訂第2版 (日本整形外科学会・日本脊椎脊髄病学会編), 2011 ; 南江堂.
- 3) 青木孝文 : 〔分担〕 足部の腱障害. 足の痛みクリニカルプラクティス, 2011 ; pp292-297, 中山書店.
- 4) 小寺訓江 : 〔自著〕 手根管症候群に対する手根管開放術. オペナーシング 2012 年春季増刊, 2012 ; pp134-140, メディカ出版.
- 5) 高井信朗 : 〔分担〕 変形性膝関節症. こまど, 2011 ; pp4-8, こまど社.
- 6) 橋口 宏 : 〔分担〕 II 部位別外傷・障害 : C. 肩甲部 4. 肩鎖関節脱臼. 新版 スポーツ整形外科学 (福林 徹・史野根生), 2011 ; pp154-157, 南江堂.
- 7) 澤泉卓哉 : 〔分担〕 手指・手関節に対する創外固定の応用. 整形外科最小侵襲手術ジャーナル 61, 2011 ; 全日本病院出版会.
- 8) 澤泉卓哉 : 〔分担〕 肘関節外傷に対する低侵襲診断・治療 : 小児上腕骨顆上骨折に対する経皮ピンニング. 整形外科最小侵襲手術ジャーナル 62, 2011 ; pp37-44, 全日本病院出版会.
- 9) 澤泉卓哉 : 〔共著〕 橈骨遠位端骨折診療ガイドライン, 2012 ; 南江堂.

## 学会発表

### 〔追加分〕

#### 追加分シンポジウム：

- 1) 宮本雅史 : 日本脊椎脊髄病学会診断評価等基準委員会 : 腰部脊柱管狭窄症に対する治療成績評価法としての JOABPEQ の有用性について. 日本脊椎脊髄病学会 (第40回) (インターネット開催), 2011. 3.

#### 追加分パネルディスカッション：

- 1) 橋口 宏, 岩下 哲, 南 和文, 高井信朗 : 上腕骨近位端骨折に対する人工骨頭置換術. 関東整形災害外科学会 (第52回) (横浜), 2011. 3.

#### 追加分ポスター：

- 1) Kitagawa Y, Ishihara Y, Yoshizawa T, Hayashi M, Kim Y, Fujii N, Ito H, Hosone M<sup>1)</sup>, Maeda S<sup>1)</sup> (1)

Dept of Pathology,Nippon Medical School) : Diagnostic delay in bone metastasis from occult malignancy. SICOT (Sweden), 2010. 8.

追加分教育講演：

- 1) 青木孝文：上肢の絞扼性神経障害に対する日常診療での工夫. 横浜市整形外科医会講演会（第61回）（神奈川），2010. 10.

(1) 教育講演：

- 1) 青木孝文：スポーツにおける足関節周囲の障害について. 川崎市医師会・神奈川県医師会日医認定健康スポーツ医再研修会（神奈川），2011. 7.
- 2) 青木孝文：骨置換性骨接合材を用いた骨折治療術の新展開. 東日本整形災害外科学会・関東整形災害外科学会ハンズオンセッション（茨城），2011. 9.
- 3) 青木孝文：外反母趾とその周辺疾患の治療. 川崎整形外科医会学術研修会（神奈川），2011. 9.
- 4) 青木孝文：臨床現場における腰痛対策と運動療法の考え方. 神奈川日医大整形外科病診連携集会（神奈川），2012. 3.
- 5) 青木孝文：足関節捻挫の診断治療における注意点. 足を知る会（東京），2012. 3.
- 6) 高井信朗：人工膝関節置換術の基礎と臨床. 周南整形外科医会（周南市），2011. 4.
- 7) 高井信朗：TKA患者のQOL スポーツとTKA. TKA Forum（千代田区），2011. 12.
- 8) 高井信朗：膝蓋大腿関節障害の基礎と臨床. 千葉県整形外科医会 第31回整形外科夏期卒後研修会（幕張），2011. 8.
- 9) 高井信朗：人工膝関節の現状と展望. 第22回荒川整形外科フォーラム21（台東区），2011. 11.
- 10) 高井信朗：TKA合併症. 第3回TKA合併症懇話会（千代田区），2012. 1.
- 11) 高井信朗：膝関節痛の診断と落とし穴. 第5回東京都臨床整形外科医会統合研修会（中央区），2012. 2.
- 12) 高井信朗：膝蓋大腿関節障害の基礎と臨床. 第4回リバーサイドセミナー（台東区），2012. 2.
- 13) 高井信朗：人工膝関節の現状と展望. 整形外科疾患Up-to-date（神戸），2012. 3.
- 14) Takai S: Current Concepts and Considerations in Cruciate Retaining Total Knee Arthroplasty. Exactech CR-TKA Seminar (Tokyo), 2012. 3.
- 15) 澤泉卓哉：創外固定を用いた手指の骨延長と骨接合：故黒川高秀先生からの mission. 日本創外固定・骨延長学会（第25回）（東京），2012. 1.

(2) シンポジウム：

- 1) 高井信朗：人工膝関節「痛みなく歩ける喜び：さらにスポーツも. 外科系学会社会保険委員会連合（外保連）（千代田区），2012. 3.
- 2) 橋口 宏，岩下 哲，中嶋隆夫，南 和文，高井信朗：肩関節夜間痛に対する芍薬甘草湯の有効性. サイエンス漢方処方研究会（第1回）（名古屋），2012. 3.
- 3) 澤泉卓哉：難治性舟状骨偽関節に対する血管柄付き中手骨基部骨移植術. 手関節ワークショップ（第5回）（宇都宮），2012. 3.

(3) パネルディスカッション：

- 1) 橋口 宏，岩下 哲，南 和文，高井信朗：スポーツ選手の肩鎖関節脱臼に対する診断と治療：積極的保存療法. JOSKAS（第3回）（札幌），2011. 7.
- 2) 橋口 宏，岩下 哲，星川直哉，高井信朗：腱板大断裂・広範囲断裂修復術後 protect rehabilitation の有用性. 日本肩関節学会（第38回）（福岡），2011. 10.

(4) ポスター：

- 1) 林 幹彦，玉井健介，北川泰之，金 竜，石原陽子，伊藤博元：当科における両側大腿骨近位部骨折の検討.

日本骨折治療学会（第37回）（横浜），2011. 7.

- 2) Kitagawa Y, Ishihara Y, Hayashi M, Kim Y, Fujii N, Ito H : Intravascular papillary endothelial hyperplasia of the hand : MRI features with histological correlation. SICOT (Czech), 2011. 9.
- 3) Kim Y, Ishihara Y, Hayashi M, Kitagawa Y, Tamai K, Ito H : The learning curve of microscopic flavectomy for lumbar stenosis using a detachable spinal retractor. Triennial world congress-SICOT (25th) (Czech), 2011. 9.

(5) 一般講演 :

- 1) 南野光彦 : 橈骨遠位端骨折ガイドライン策定委員会報告 : 診断. 日本手外科学会（第55回）（横浜），2011. 4.
- 2) 南野光彦, 澤泉卓哉, 小寺訓江, 堀口 元, 高井信朗 : 超音波短軸像における正中神経の手根管内での移動について : 健常者での手関節肢位変化および手指運動による検討. 日本手外科学会（第55回）（横浜），2011. 4.
- 3) 南野光彦, 澤泉卓哉, 堀口 元, 高井信朗 : 橈骨遠位端部における長母指屈筋腱の滑動性について : 超音波短軸像による検討. 日本手外科学会（第55回）（横浜），2011. 4.
- 4) 南野光彦, 澤泉卓哉, 堀口 元, 高井信朗 : 有鉤骨鉤部偽関節に伴った小指屈筋腱断裂の2例. 関東整形災害外科学会（第52回）（横浜），2012. 3.
- 5) 南野光彦, 澤泉卓哉, 小寺訓江, 堀口 元, 高井信朗 : 超音波短軸像における正中神経の手根管内での移動について : 手関節肢位変化および手指運動による検討. 東日本手外科研究会（第26回）（盛岡），2012. 3.
- 6) 南野光彦, 澤泉卓哉, 小寺訓江, 堀口 元, 高井信朗 : 橈骨遠位端部における長母指屈筋腱の滑動性について : プレート固定例に対する超音波短軸像による検討. 東日本手外科研究会（第26回）（盛岡），2012. 3.
- 7) 南野光彦, 澤泉卓哉, 高井信朗 : 超音波カラー Doppler を用いた第2背側中手動脈皮弁穿通枝の検索. 日本マイクロサージャリー学会（第38回）（新潟），2011. 11.
- 8) 南野光彦, 澤泉卓哉, 青木孝文, 堀口 元, 高井信朗 : 肩甲骨頸部および烏口突起骨折を合併した鎖骨重複骨折の1例. 神奈川上肢外科研究会（第17回）（横浜），2011. 10.
- 9) 南野光彦, 澤泉卓哉, 堀口 元, 花岡央泰, 伊藤博元, 高井信朗 : 橈骨遠位端部における長母指屈筋腱の滑動性について（第2報）. 日本整形外科学会基礎学術集会（第26回）（前橋），2011. 10.
- 10) 南野光彦, 澤泉卓哉, 堀口 元, 伊藤博元, 高井信朗 : 外傷性肘関節拘縮に対する肘関節授動術の治療経験. 東日本整形災害外科学会（第60回）関東整形災害外科学会（第51回）（筑波），2011. 9.
- 11) 南野光彦, 澤泉卓哉, 堀口 元, 花岡央泰, 伊藤博元, 高井信朗 : 橈骨遠位端部における長母指屈筋腱の滑動性について（第1報）. 東日本整形災害外科学会（第60回）関東整形災害外科学会（第51回）（筑波），2011. 9.
- 12) 南野光彦, 澤泉卓哉, 堀口 元, 伊藤博元, 高井信朗 : Pin and rubbers traction system による PIP 関節背側脱臼骨折の治療成績. 復興支援日本手外科学会サテライトシンポジウム（第54回）（青森），2011. 8.
- 13) 南野光彦, 澤泉卓哉, 伊藤博元, 高井信朗 : 手関節肢位変化による正中神経の手根管内における移動について（第1報）. 日本運動器科学会（第23回）（新潟），2011. 7.
- 14) 南野光彦, 澤泉卓哉, 堀口 元, 高井信朗 : 上腕骨遠位端 coronal shear fracture の2例. 日本骨折治療学会（第37回）（横浜），2011. 7.
- 15) 南野光彦, 澤泉卓哉, 堀口 元, 伊藤博元, 高井信朗 : Pin and rubbers traction system による PIP 関節背側脱臼骨折の治療成績. Web 日本手外科学会（第54回）（青森），2011. 4.
- 16) 望月祐輔, 角田 隆, 北川泰之, 伊藤博元, 高井信朗 : t (1 ; 11) の相互転座が見られた褐色脂肪腫の1例. 日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会（第44回）（京都），2011. 7.
- 17) 望月祐輔, 角田 隆, 北川泰之, 松原美幸<sup>1)</sup>, 土屋眞一<sup>1)</sup>, 伊藤博元, 高井信朗 (<sup>1)</sup> 日本医科大学病理部) : 細胞診で推定し得た褐色脂肪腫の1例. 日本臨床細胞学会秋期大会（第50回）（東京），2011. 10.
- 18) 望月祐輔 : 日本と海外における車いすテニス選手の練習状況や医療環境に関する検討. 日本障害者スポーツ学会（第21回）（広島），2011. 12.

- 19) 元文芳和, 宮本雅史, 今野俊介, 須藤賢太郎, 伊藤博元: 骨粗鬆性椎体骨折初期診断時の単純エックス線像. 日本脊椎脊髄病学会 (第 40 回) (東京), 2011. 4.
- 20) 元文芳和, 宮本雅史, 今野俊介, 須藤賢太郎, 岡崎愛未, 高井信朗: 椎体骨折初期診断時における単純エックス線像の読影ポイント. 日本腰痛学会 (第 19 回) (札幌), 2011. 9.
- 21) 今野俊介, 宮本雅史, 元文芳和, 須藤賢太郎, 福田慶一, 高井信朗: 腰部脊柱管狭窄症患者の臨床症状と脛骨神経体性感覚誘発電位との関連. 日本脊椎脊髄病学会 (第 40 回) (東京), 2011. 4.
- 22) Konno K, Miyamoto N, Gembun Y, Aoki T, Ito H, Takai S: TIBIAL SOMATOSENSORY EVOKED POTENTIALS IS USEFUL AS A FUNCTIONAL EXAMINATION FOR THE DISGNOSIS OF LUMBAR SPINAL CANAL STENOSIS. American Association of Neuromuscular and Electrodiagnostic Medicine Annual meeting (58th) (San Francisco), 2011. 9.
- 23) 林 幹彦, 玉井健介, 北川泰之, 金 竜, 牧野 晃, 高井信朗: 原因不明の股関節痛・周辺痛患者の MRI 所見について: Greater trochanteric syndrome を中心として. 日本股関節学会 (第 38 回) (鹿児島), 2011. 10.
- 24) 丸山 剛: ミニフィクセーションユニットを用いたイリザロフミニ創外固定の使用経験. 日本創外固定・骨延長学会 (第 25 回) (東京), 2012. 1.
- 25) 北川泰之, 石原陽子, 林 幹彦, 金 竜, 玉井健介, 伊藤博元, 細根 勝<sup>1)</sup>, 丹野正隆<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院病理部: 血管内乳頭状内皮過形成の MRI 像. 日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会 (第 45 回) (京都), 2011. 7.
- 26) 北川泰之, 石原陽子, 林 幹彦, 金 竜, 玉井健介, 伊藤博元: 軟骨化性を伴った類上皮肉腫の 1 例. 日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会 (第 45 回) (京都), 2011. 7.
- 27) 中島久弥<sup>1)</sup>, 北川泰之, 高木正之<sup>2)</sup>, 藤野 節<sup>2)</sup>, 橘川 薫<sup>3)</sup>, 別府諸兄<sup>4)</sup> (1) 中島整形外科, 2) 聖マリアンナ医大病理部, 3) 聖マリアンナ医大放射線科, 4) 聖マリアンナ医大整形外科: 画像学的に良性骨病変と鑑別を要した大腿骨幹部骨肉腫の 1 例. 日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会 (第 45 回) (京都), 2011. 7.
- 28) Ota N: COMPARISON OF SERUM HOMOCYSTEINE AND FRAX FOR ASSESSMENT OF FRACTURE RISK IN JAPANESE POSTMENOPAUSAL OSTEOPOROSIS WOMEN. Joint Meeting of the European Calcified Tissue Society & the International Bone and Mineral Society (3rd) (Greece), 2011. 5.
- 29) 大場良輔, 河路秀巳, 岡崎愛未, 宮本 暖, 松井秀平, 植松卓哉, 須藤賢太郎, 高井信朗: 化膿性骨髄炎との鑑別に難渋した長期透析患者における大腿骨頸基部骨折の 1 例. 日本股関節学会 (第 38 回) (鹿児島), 2011. 10.
- 30) 大場良輔, 河路秀巳, 望月祐輔, 松井秀平, 福田慶一, 堀口 元, 高井信朗: ビスホスホネート製剤との関連が疑われた両側大腿骨転子下骨折の 1 例. 関東整形災害外科学会 (第 52 回) (横浜), 2012. 3.
- 31) Ozaki D, Mori A, Iizawa N, Ito H: Clinical evaluation of conservative treatment for spontaneous osteonecrosis of the knee. ISAKOS (Brazil), 2011. 5.
- 32) 尾崎大也, 森 淳, 飯澤典茂, 星川精豪<sup>1)</sup>, 成田哲也<sup>2)</sup>, 三木英之<sup>2)</sup>, 内山英司<sup>2)</sup>, 森石丈二<sup>2)</sup>, 金 勝乾<sup>2)</sup>, 中山修一<sup>2)</sup> (1) 早稲田大学大学院 スポーツ科学研究科, 2) 日本バスケットボール協会 医科学研究部: バスケットボール選手の高地での酸素飽和度の変化と高地順応. JOSKAS (第 3 回) (札幌), 2011. 6.
- 33) 尾崎大也: バスケットボール選手の高地での酸素飽和度の変化と高地順応. お茶の水 膝・スポーツ懇話会 (第 17 回) (東京), 2011. 12.
- 34) 宮本雅史: 脊椎リハビリテーション. 平成 23 年秋季セラピスト研修会 (幕張), 2011. 12.
- 35) 宮本雅史: 慢性腰痛の保存的治療. 東京都城北整形外科医会 (第 88 回) (東京), 2011. 12.
- 36) 宮本雅史: 頸椎症咳脊髄症の MRI と臨床. 富山脊椎脊髄画像診断研究会 (第 7 回) (富山), 2012. 3.
- 37) 宮本雅史, 元文芳和, 今野俊介, 須藤賢太郎, 高井信朗, 福井 充<sup>1)</sup>, 小野寺剛, 岩下 哲 (1) 大阪市立大学大学院医学研究科推計学研究室: 健常者における JOABPEQ の年代別標準値を作成するための調査研究. 日本腰痛学会 (第 19 回) (札幌), 2011. 9.

- 38) 河路秀巳, 小林俊之, 植松卓哉, 松井秀平, 宮本 暖, 大場良輔, 岡崎愛未, 高井信朗: 大腿骨頭壊死に対する Bipolar 人工骨頭置換術の術後成績. 日本股関節学会 (第 38 回) (鹿児島), 2011. 10.
- 39) Aoki T: Clinical Use of Bioabsorbable Osteosynthetic Implants for Fractures of Foot and Ankle. Club Italiano Osteosynthesis of Traumatology (Italy), 2012. 3.
- 40) 青木孝文, 南野光彦, 堀口 元, 澤泉卓哉: 手根管症候群の横手根靭帯に付着する筋の電気生理学的特性. 日本手外科学会学術集会 (第 53 回) (青森), 2011. 4.
- 41) 青木孝文, 堀口 元, 南野光彦, 高井信朗: 手根管症候群に対する母指球筋・小指球筋のストレッチ効果. 東日本整形災害外科学会 (第 60 回) 関東整形災害外科学会 (第 51 回) (茨城), 2011. 9.
- 42) 青木孝文, 須藤賢太郎, 高井信朗: 足関節不安定症としての脛腓間結合損傷の関節造影による診断. 日本足の外科学会学術集会 (第 36 回) (奈良), 2011. 9.
- 43) Nakajima T, Minami K, Kim Y, Ieda T, Miyamoto M, Takai S: What are safer procedures of posterior instrumentation for cervical fusion?. Euro Spine 2011, Annual Meeting of the Spine Society of Europe (Milan, Italy), 2011. 10.
- 44) 中嶋隆夫, 金 竜, 家田俊也, 南 和文, 宮本雅史, 高井信朗: より安全な頸椎後方インストゥルメンテーションとは?. 日本脊椎インストゥルメンテーション学会 (第 20 回) (久留米), 2011. 10.
- 45) 中嶋隆夫, 南 和文: 私の頸椎後方固定戦略. お茶の水脊椎セミナー (第 7 回) (東京), 2012. 2.
- 46) 小寺訓江, 飯澤典茂, 尾崎大也, 高井信朗: All-in-one nail を用いた上腕骨近位端骨折の治療成績. 日本骨折治療学会 (第 37 回) (横浜), 2011. 7.
- 47) 小寺訓江, 飯澤典茂, 澤泉卓哉, 高井信朗: All-in-one nail を用いた上腕骨近位端骨折の治療成績. 日本最小侵襲整形外科学会 (第 17 回) (前橋), 2011. 11.
- 48) Takai S: Macroscopic & Histological Assessments of the Cruciate Ligaments Arthrosis of the Knee. ADVANCES IN ORTHOPAEDICS INTERNATIONAL CONFERENCE (MANILA), 2011. 6.
- 49) Hashiguchi H, Iwashita S, Minami K, Ito H: Outcomes with combined arthroscopic rotator cuff repair and capsular release for partial-thickness rotator cuff tears with shoulder stiffness. SICOT/SIROT 2011 XXV World Congress (Czech Republic), 2011. 9.
- 50) 橋口 宏, 岩下 哲, 南 和文, 伊藤博元: 上腕骨近位部骨折に対する人工骨頭置換術の治療成績に影響する X 線学的因子の検討. 日本整形外科学会学術総会 (第 84 回) (横浜), 2011. 5.
- 51) 橋口 宏, 岩下 哲, 南 和文, 伊藤博元: 肩関節 SLAP 損傷の保存的治療に影響を及ぼす因子の検討. 日本整形外科学会学術総会 (第 84 回) (横浜), 2011. 5.
- 52) 橋口 宏, 岩下 哲, 南 和文, 伊藤博元: 関節拘縮を伴った腱板不全断裂に対する鏡視下腱板修復: 関節包離離同時手術の治療成績. 日本整形外科学会学術総会 (第 84 回) (横浜), 2011. 5.
- 53) 橋口 宏, 岩下 哲, 南 和文, 伊藤博元: 肩インピンジメント徴候発生に関する X 線学的検討. 日本整形外科学会学術総会 (第 84 回) (横浜), 2011. 5.
- 54) 橋口 宏, 岩下 哲, 南 和文, 伊藤博元: 腱板断裂に対する VersaLok アンカーを用いた suture bridging 法の短期治療成績. JOSKAS (第 3 回) (札幌), 2011. 7.
- 55) 橋口 宏: 関節拘縮を合併した腱板断裂の治療. 肩関節鏡手術研究会 (第 17 回) (東京), 2011. 8.
- 56) Iwashita S, Hashiguchi H, Takai S: Extended head arthroplasty for cuff tear arthropathy. ACASA (Okinawa), 2011. 7.
- 57) 岩下 哲, 橋口 宏, 星川直哉, 高井信朗: 鏡視下腱板修復術における斜角筋ブロックの除痛効果に関する検討. 日本肩関節学会 (第 38 回) (福岡), 2011. 10.
- 58) Iwashita S, Hashiguchi H, Takai S: Prognostic factors in recurrent tear of arthroscopic-repaired large or massive rotator cuff tears. SICOT (Czech), 2011. 9.

- 59) 岩下 哲, 橋口 宏, 南 和文, 星川直哉, 高井信朗: 肩峰下滑液包内骨軟骨腫を併発した棘上筋腱滑液包面不全断裂の1例. JOSKAS (第3回) (札幌), 2011. 6.
- 60) 飯澤典茂, 森 淳, 尾崎大也, 松井秀平, 大場良輔, 星川直哉, 丸山 剛, 高井信朗, 大場俊二<sup>1)</sup> (1) 大場整形外科): 一時修復を試みた14歳膝複合靭帯損傷の1例. JOSKAS (第3回) (札幌), 2011. 6.
- 61) 飯澤典茂, 尾崎大也, 小寺訓江, 望月祐輔, 澤泉卓哉, 高井信朗: 鎖骨フックプレートの適合性と臨床成績. 日本骨折治療学会 (第37回) (横浜), 2011. 7.
- 62) 高井信朗: 人工膝関節置換術における Patient Specific Instrument の現状と展望. 第51回臨床応用を目指した三次元臓器造形研究会 (東京), 2012. 3.
- 63) 澤泉卓哉, 南野光彦, 小寺訓江, 堀口 元, 萩原祐介, 望月祐輔, 高井信朗: 小児上腕骨顆上骨折に対する梃子を利用した経皮的ピンニング法. 関東整形災害外科学会 (第51回) (つくば), 2011. 9.
- (6) 研修講演:
- 1) 宮本雅史: 脊椎リハビリテーション. 平成23年夏季セラピスト研修会 (幕張), 2011. 6.

## [付属病院リウマチ科]

### 研究概要

リウマチ科では、リウマチ性疾患に関する臨床研究、基礎的研究を行っている。主要研究課題は1) 関節リウマチの治療、2) 変形性関節症の病態解明、3) 運動器の抗老化、ならびに4) サプリメントである。関節リウマチの治療については、当科における薬物治療データベースを作成し、治療効果の調査を行った。本年は生物学的製剤、MTX、タクロリムスについての観察研究を行った。変形性関節症については、MRIを用いた画像診断と病態解明、高周波を用いた治療の基礎研究を行っている。また、軟骨のみならず骨部の病変にも注目し、骨細胞の変化をプロテオミクスの手法を用いて、研究中である。抗老化については、酸化ストレスをマーカーとして、関節炎の病態や治療との関連を調査している。主に関節疾患に対するサプリメントの研究を継続している。特にグルコサミンについては細胞内ストレスとの関連を研究中である。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Takahashi K, Kurosaki H<sup>1)</sup>, Hashimoto S<sup>2)</sup>, Takenouchi K, Kamada T<sup>3)</sup>, Nakamura H (1) Cancro Clinic, 2) Hashimoto Clinic, 3) Hara Orthopaedic Hospital): The effects of radiofrequency hyperthermia on pain and function in patients with knee osteoarthritis: a preliminary report. Journal of Orthopaedic Science 2011; 16 (4): 376-381.
- 2) Koiwa M<sup>1)</sup>, Goto S<sup>1)</sup>, Takenouchi K, Takahashi K, Kamada T<sup>2)</sup>, Nakamura H (1) Department of Orthopaedic Surgery, Shuwa General Hospital, 2) Hara Orthopaedic Hospital): Elevation of serum KL-6 levels in 3 patients with rheumatoid arthritis treated with adalimumab. Mod Rheumatol 2012; 22 (1): 147-151.
- 3) Katano M<sup>1)</sup>, Okamoto K<sup>1)</sup>, Suematsu N<sup>1)</sup>, Kurokawa M<sup>1)</sup>, Nakamura H, Masuko K<sup>1)</sup>, Yudoh K<sup>2)</sup>, Kato T<sup>1)</sup> (1) Clinical Proteomics and Molecular Medicine, St Marianna University Graduate School of Medicine, Kawasaki, Kanagawa, Japan, 2) Institute of Medical Science, St Marianna University School of Medicine, Kawasaki, Kanagawa, Japan): Increased expression of S100 calcium binding protein A8 in GM-CSF-stimulated neutrophils leads to the increased expressions of IL-8 and IL-16. Clin Exp Rheumatol 2011; 29 (5): 768-775.
- 4) Matsuo K<sup>1,2)</sup>, Arito M<sup>1)</sup>, Noyori K<sup>2)</sup>, Nakamura H, Korokawa M<sup>1)</sup>, Masuko K<sup>1)</sup>, Okamoto K<sup>1)</sup>, Nagai K<sup>1)</sup>, Suematsu N<sup>1)</sup>, Yudoh K<sup>3)</sup>, Beppu M<sup>4)</sup>, Saito T<sup>2)</sup>, Kato T<sup>1)</sup> (1) Clinical Proteomics and Molecular Medicine,

St Marianna University Graduate School of Medicine, Kawasaki, Kanagawa, Japan, <sup>2)</sup> Department of Orthopedic Surgery, Yokohama City University, Yokohama, Kanagawa, Japan, <sup>3)</sup> Institute of Medical Science, St Marianna University School of Medicine, Kawasaki, Kanagawa, Japan, <sup>4)</sup> Department of Orthopaedic Surgery, St Marianna University School of Medicine, Kawasaki, Kanagawa, Japan) : Arthritogenicity of annexin VII revealed by phosphoproteomics of rheumatoid synoviocytes. *Ann Rheum Dis* 2011 ; 70 (8) : 1489-1495.

(2) 総説 :

- 1) 高橋謙治 : 関節軟骨細胞の老化とストレス応答を利用した変形性関節症治療. *日医大医会誌* 2011 ; 7 (4) : 150-155.
- 2) Momohara S<sup>1)</sup>, Tanaka S<sup>2)</sup>, Nakamura H, Mibe J<sup>3)</sup>, Iwamoto T<sup>1)</sup>, Ikari K<sup>1)</sup>, Nishino J<sup>4)</sup>, Kadono Y<sup>2)</sup>, Yasui T<sup>2)</sup>, Takahashi K, Takenouchi K, Hashizume K<sup>5)</sup>, Nakahara R<sup>5)</sup>, Kubota A<sup>6)</sup>, Nakamura T<sup>6)</sup>, et al. (<sup>1)</sup> Department of Orthopaedic Surgery, Institute of Rheumatology, Tokyo Women's Medical University, <sup>2)</sup> Department of Orthopaedic Surgery, Faculty of Medicine, The University of Tokyo, <sup>3)</sup> Department of Orthopaedic Surgery, Tokyo Metropolitan Ohtsuka Hospital, <sup>4)</sup> Nishino Clinic Orthopedics and Rheumatology, <sup>5)</sup> Department of Orthopaedic Surgery, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences, <sup>6)</sup> Department of Orthopaedic Surgery, Toho University School of Medicine) : Recent trends in orthopedic surgery performed in Japan for rheumatoid arthritis. *Mod Rheumatol* 2011 ; 21 (4) : 337-342.
- 3) 中村 洋 : 【疼痛性疾患に対する治療の新展開】変形性関節症に対してグルコサミン・コンドロイチンは有効か. *リウマチ科* 2011 ; 45 (6) : 578-582.

**学会発表**

(1) 特別講演 :

- 1) 中村 洋 : リウマチ科における生物学的製剤の治療成績. 千駄木感染免疫アレルギー研究会 (第22回) (東京), 2012. 3.

(2) 教育講演 :

- 1) 中村 洋 : 関節の老化と変形性関節症. 運動器抗加齢医学研究会 (第1回) (東京), 2011. 11.

(3) シンポジウム :

- 1) 黒崎弘正<sup>1)</sup>, 高橋謙治, 橋本三四郎<sup>2)</sup>, 竹之内研二, 鎌田利一<sup>3)</sup>, 中村 洋 (<sup>1)</sup> カンククロクリニック, <sup>2)</sup> ハシモトクリニック, <sup>3)</sup> 原整形外科病院) : 電磁波温熱療法が変形性膝関節症の疼痛および機能に与える効果. 日本ハイパーサーミア学会 (第28回) (名古屋), 2011. 9.
- 2) 中村 洋 : NSAIDs の抗 OA 効果. 日本軟骨代謝学会 (第25回) (名古屋), 2012. 3.

(4) ワークショップ :

- 1) 橋本三四郎<sup>1)</sup>, 高橋謙治, 中村 洋 (<sup>1)</sup> ハシモトクリニック) : 変形性膝関節症滑液中における酸化ストレス, 抗酸化力の検討. 日本リウマチ学会総会・学術集会 (第55回) (神戸), 2011. 7.
- 2) 有戸光美<sup>1)</sup>, 松尾光祐<sup>2)</sup>, 野寄浩司<sup>2)</sup>, 中村 洋, 黒川真奈絵<sup>1)</sup>, 増子佳世<sup>1)</sup>, 永井宏平<sup>1)</sup>, 岡本一起<sup>1)</sup>, 遊道雄<sup>3)</sup>, 別府諸兄<sup>4)</sup>, 齋藤知行<sup>2)</sup>, 加藤智啓<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 聖マリアンナ医科大学大学院 疾患プロテオーム・分子病態治療学, <sup>2)</sup> 横浜市立大学 整形外科, <sup>3)</sup> 聖マリアンナ医科大学 難治性疾患病態制御学専攻分野, <sup>4)</sup> 聖マリアンナ医科大学 整形外科) : 関節リウマチ関連因子 Anx7 の解析. 日本リウマチ学会総会・学術集会 (神戸), 2011. 7.

(5) 一般講演 :

- 1) 吉川玲欧<sup>1)</sup>, 亀井 哲<sup>1)</sup>, 森山純江<sup>1)</sup>, 増井良則<sup>1)</sup>, 國松淳和<sup>1)</sup>, 竹之内研二, 高橋裕子<sup>2)</sup>, 山下裕之<sup>2)</sup>, 高橋謙治, 中村 洋, 三森明夫<sup>2)</sup>, 金子礼志<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> 国立国際医療研究センター国府台病院内科, <sup>2)</sup> 国立国際医療研究セ

- ンター病院膠原病科, <sup>3)</sup> 国立国際医療研究センター国府台病院リウマチ科): 統合失調症を合併した関節リウマチの事例検討. 日本リウマチ学会総会・学術集会 (第 55 回) (神戸), 2011. 7.
- 2) 高橋謙治, 竹之内研二, 鎌田利一<sup>1)</sup>, 金子礼志<sup>2)</sup>, 小岩政仁<sup>3)</sup>, 橋本三四郎<sup>4)</sup>, 中村 洋 ( <sup>1)</sup> 原整形外科病院, <sup>2)</sup> 国立国際医療センター国府台病院リウマチ科, <sup>3)</sup> 秀和総合病院整形外科・リウマチ科, <sup>4)</sup> ハシモトクリニック): トシリズマブの治療効果: DAS-28 および CDAI によるインフリキシマブとの比較. 日本リウマチ学会総会・学術集会 (第 55 回) (神戸), 2011. 7.
- 3) 高橋謙治, 竹之内研二, 鎌田利一<sup>1)</sup>, 金子礼志<sup>2)</sup>, 小岩政仁<sup>3)</sup>, 橋本三四郎<sup>4)</sup>, 中村 洋 ( <sup>1)</sup> 原整形外科病院, <sup>2)</sup> 国立国際医療センター国府台病院リウマチ科, <sup>3)</sup> 秀和総合病院整形外科・リウマチ科, <sup>4)</sup> ハシモトクリニック): 経口ステロイド併用有無によるインフリキシマブの治療成績. 日本リウマチ学会総会・学術集会 (第 55 回) (神戸), 2011. 7.
- 4) 竹之内研二, 高橋謙治, 鎌田利一<sup>1)</sup>, 小岩政仁<sup>2)</sup>, 中村 洋 ( <sup>1)</sup> 原整形外科病院整形外科, <sup>2)</sup> 秀和総合病院整形外科・リウマチ科): 関節リウマチに対する Tacrolimus の臨床成績 - 2 年以上経過例について. 日本リウマチ学会総会・学術集会 (神戸), 2011. 7.
- 5) Takahashi K: Efficacy of radiofrequency hyperthermia in symptoms of knee osteoarthritis. Osteoarthritis Research Society International (OARSI) (14th World Congress) (San Diego, USA), 2011. 9.
- 6) Kamada T<sup>1)</sup>, Kurokawa M<sup>2)</sup>, Kato T<sup>2)</sup>, Takenouchi K, Takahashi K, Okamoto K<sup>2)</sup>, Yudoh K<sup>3)</sup>, Nakamura H ( <sup>1)</sup> Hara Orthopaedic Hospital, <sup>2)</sup> Clinical Proteomics and Molecular Medicine, St. Marianna University Graduate School of medicine, Kawasaki Japan, <sup>3)</sup> Department of Frontier Medicine, Institute of Medical Science, St. Marianna University Graduate School of Medicine, Kawasaki, Japan): Proteomic analysis of bone marrow-derived adherent cells in RA and OA. 日本リウマチ学会総会・学術集会 (第 55 回) (神戸), 2011. 7.
- 7) 高橋謙治, 黒崎弘正<sup>1)</sup>, 橋本三四郎<sup>2)</sup>, 竹之内研二, 鎌田利一<sup>3)</sup>, 中村 洋 ( <sup>1)</sup> カンクロクリニック, <sup>2)</sup> ハシモトクリニック, <sup>3)</sup> 原整形外科病院): 電磁波温熱療法が変形性膝関節症に与える効果. 中部日本整形外科災害外科学会・学術集会 (第 117 回) (宇部), 2011. 10.
- 8) 高橋謙治, 黒崎弘正<sup>1)</sup>, 橋本三四郎<sup>2)</sup>, 竹之内研二, 鎌田利一<sup>3)</sup>, 中村 洋 ( <sup>1)</sup> カンクロクリニック, <sup>2)</sup> ハシモトクリニック, <sup>3)</sup> 原整形外科病院): 変形性膝関節症に対する電磁波ハイパーサーミアの効果. 日本関節病学会 (第 39 回) (横浜), 2011. 11.
- 9) 中村 洋, 高橋謙治, 竹之内研二, 鎌田利一<sup>1)</sup>, 小岩政仁<sup>2)</sup>, 金子礼志<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 原整形外科病院, <sup>2)</sup> 秀和総合病院整形外科, <sup>3)</sup> 国立国際医療研究センター国府台病院): MTX8mg/週から 10mg/週への増量の有効率と安全性について. 日本臨床リウマチ学会 (横浜), 2011. 12.
- 10) 竹之内研二, 高橋謙治, 鎌田利一<sup>1)</sup>, 金子礼志<sup>2)</sup>, 小岩政仁<sup>3)</sup>, 橋本三四郎<sup>4)</sup>, 中村 洋 ( <sup>1)</sup> 原整形外科病院, <sup>2)</sup> 国立国際医療研究センター国府台病院リウマチ科, <sup>3)</sup> 秀和総合病院整形外科・リウマチ科, <sup>4)</sup> ハシモトクリニック): 当科での TNF 製剤使用における発癌症例. 日本臨床リウマチ学会 (第 26 回) (横浜), 2011. 12.
- 11) 竹内 悠<sup>1)</sup>, 亀井 哲<sup>1)</sup>, 森山純江<sup>1)</sup>, 吉川玲欧<sup>1)</sup>, 増井良則<sup>1)</sup>, 竹之内研二, 高橋謙治, 金子 綾<sup>2)</sup>, 李 民<sup>2)</sup>, 藤本和久<sup>2)</sup>, 安齋真一<sup>2)</sup>, 川名誠司<sup>2)</sup>, 三森明夫<sup>3)</sup>, 中村 洋, 金子礼志<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立国際医療研究センター国府台病院リウマチ科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院皮膚科, <sup>3)</sup> 国立国際医療研究センター病院膠原病科): 関節リウマチに対するインフリキシマブ投与後に発症した皮膚筋炎の 1 例. 日本リウマチ学会関東支部学術集会 (第 22 回) (さいたま), 2011. 12.
- 12) 高橋謙治, 竹之内研二, 小岩政仁<sup>1)</sup>, 鎌田利一<sup>2)</sup>, 金子礼志<sup>3)</sup>, 中村 洋 ( <sup>1)</sup> 秀和総合病院整形外科・リウマチ科, <sup>2)</sup> 原整形外科病院, <sup>3)</sup> 国立国際医療研究センター国府台病院リウマチ科): 生物学的製剤治療中に KL-6 が異常値を示した関節リウマチ症例の検討. 日本リウマチ学会関東支部学術集会 (第 22 回) (さいたま), 2011. 12.

- 13) 高橋謙治：関節病に対する薬物療法の進歩と課題. 周南リウマチ研究会（第10回）（周南），2011. 11.
- 14) Masuko K<sup>1)</sup>, Murata M<sup>2)</sup>, Nakamura H, Kato T<sup>2)</sup>, Yudoh K<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> Graduate School of Nutritional Science, Sagami Women's Univ, Japan., <sup>2)</sup> Clinical Proteomics and Molecular Medicine, St Marianna University Graduate School of Medicine, Kawasaki, Kanagawa, Japan, <sup>3)</sup> Institute of Medical Science, St Marianna University School of Medicine, Kawasaki, Kanagawa, Japan) : Sphingosine-1-phosphate modulates expression of vascular endothelial growth factor (VEGF) in human articular chondrocytes. 10th World Congress of Inflammation (Paris, France), 2011. 11.

## 13. 産婦人科学講座

### [付属病院女性診療科・産科]

#### 研究概要

周産期医学, 婦人科腫瘍学, 生殖内分泌医学, 手術学の各部門でそれぞれ精力的に研究が行われた。周産期医学領域では, 胎児動脈管血流動態を超音波ドップラー法により解析し, アスピリン療法の影響について検討を行った。また, 胎盤に特異的なマイクロRNAの局在・機能につき分子解剖学講座との共同研究を継続した。婦人科腫瘍学では, 神奈川県立がんセンターとの臨床データベースをもとにした共同研究を継続するとともに, 希少症例の臨床病理学的報告を行った。生殖医学分野では, マウス過排卵モデルを用いた基礎研究を継続し, 周排卵期特異的ケモカインシグナリングについての新知見を報告した。血清学的陰性抗リン脂質抗体症候群の責任分子について, 患者血清を用いたプロテオミクスアプローチによる探索を進めている。また, 不育症における子宮形態異常症例の取り扱いの臨床指針を提示した。手術学では, 内視鏡手術や, 骨盤臓器脱に対するメッシュ手術などを専門に担当する低侵襲手術部門を立ち上げ, 深部子宮内膜症に対する独自の手術アプローチや, 子宮内膜症術後再発に対する検討を行った。また, 頸管妊娠例に対する子宮体部温存術式(部分頸部摘出術)を考案した。さらに, 子宮頸癌にたいする広汎性子宮全摘術において, 排尿障害の予防のため, 膀胱を支配する自律神経温存術式について検討した。以上の成果について, 本邦および海外の学術集会および論文にて報告を行った。

#### 研究業績

##### 論文

##### [追加分]

追加分原著:

- 1) Negishi Y, Wakabayashi A, Shimizu M, Ichikawa T, Kumagai Y, Takeshita T, Takahashi H: Disruption of maternal immune balance maintained by innate DC subsets results in spontaneous pregnancy loss in mice. *Immunobiology*. 2012; 217 (10): 951-961.
- 2) Miyake H, Igarashi M, Inde Y, Nakai A, Suzuki S, Takeshita T: Is a red umbilical cord a sign of umbilical venous congestion? : a case report. *Nihon Med Sch*. 2011; 78 (1): 42-5.
- 3) 竹下俊行: 不育症とアスピリン・ヘパリン療法. 熊本産科婦人科学会雑誌 2011; 60 (13): 47-54.
- 4) 洪井庸子, 峯 克也, 阿部 崇, 五十嵐美和, 小野修一, 尾崎恵子, 桑原慶充, 磯崎太一, 澤倫太郎, 竹下俊行: 妊娠中に診断された筋強直性ジストロフィー合併妊娠の1例. 日本産科婦人科学会東京地方部会誌 2011; 60 (1): 23-26.
- 5) 中西一步, 大内 望, 阿部 崇, 中尾仁彦, 市川智子, 峯 克也, 澤倫太郎, 磯崎太一, 明楽重夫, 竹下俊行: 【重篤な妊娠・産褥合併症】抗凝固療法を行っていたにもかかわらず脳梗塞を合併した抗リン脂質抗体陽性妊婦の1例. 日本産科婦人科学会関東連合地方部会誌 2011; 48 (1): 69-73.
- 6) Suzuki K, Sawa R, Muto K, Kusuda S, Banno K, Yamagata Z: Risk perception of Pregnancy Promotes Disapproval of Gestational Surrogacy: Analysis of a Nationally Representative Opinion Survey in Japan. *International Journal of Fertility & Sterility* 2011; 5 (2): 78-85.

(1) 原著:

- 1) 竹下俊行, 峯 克也: 【不妊原因診断とARTの前の対処法】子宮奇形. 臨床婦人科産科 2011; 65 (9): 1138-1142.

- 2) Hayashi M, Nakai A, Sekiuchi A, Takeshita T : Fetal heart rate classification proposed by the perinatology committee of the Japan society of obstetrics and gynecology : reproducibility and clinical usefulness. J Nihon Med Sch. 2012 ; 79 (1) : 60-68.
- 3) Sugiura-Ogasawara M, Suzuki S, Kitazawa M, Kuwae C, Sawa R, Shimizu Y, Takeshita T, Yoshimura Y : Career satisfaction level, mental distress, and gender differences in working conditions among Japanese obstetricians and gynecologists. J Obstet Gynaecol Res. 2012 ; 38 (3) : 550-558.
- 4) Ichikawa M, Akira S, Mine K, Ohuchi N, Iwasaki N, Kurose K, Takeshita T : Novel hybrid mesh surgery combines sacrocolpopexy with transvaginal mesh placement for pelvic organ prolapse. J Nihon Med Sch. 2011 ; 78 (6) : 379-383.
- 5) Ishibashi O, Ali-M M, Luo-S S, Ohba T, Katabuchi H, Takeshita T, Takizawa T : Short RNA duplexes elicit RIG-I-mediated apoptosis in a cell type- and length-dependent manner. Sci Signal. 2011 ; 4 (198) : ra74.
- 6) Abe T, Ono S, Igarashi M, Akira S, Watanabe A, Takeshita T : Conservative management of hyperreactio luteinalis : a case report. J Nihon Med Sch. 2011 ; 78 (4) : 241-245.
- 7) Ichikawa M, Akira S, Mine K, Ohuchi N, Iwasaki N, Kurose K, Takeshita T : Evaluation of laparoendoscopic single-site gynecologic surgery with a multitrocar access system. J Nihon Med Sch. 2011 ; 78 (4) : 235-240.
- 8) Ichikawa G, Satomi M, Inagawa-Ichikawa T, Abe T, Akira S, Takeshita T : A case report of complete chorioamniotic membrane separation. J Nihon Med Sch. 2011 ; 78 (2) : 120-125.
- 9) Kamoi S, Ohaki Y, Mori O, Yamada T, Fukunaga M, Takeshita T : Determining best potential predictor during high-dose progestin therapy for early staged and well-differentiated endometrial adenocarcinoma using semiquantitative analysis based on image processing and immunohistochemistry. J Nihon Med Sch. 2011 ; 78 (2) : 84-95.
- 10) Hiraizumi Y, Kamoi S, Inde Y, Kurose K, Ohaki Y, Takeshita T : A case of tumor lysis syndrome following chemotherapy for a uterine epithelioid leiomyosarcoma with focal rhabdomyosarcomatous differentiation. J Obstet Gynaecol Res. 2011 ; 37 (7) : 947-952.
- 11) 阿部 崇, 小野修一, 市川智子, 峯 克也, 桑原慶充, 明楽重夫, 竹下俊行 : 低侵襲を目指した中隔子宮手術の検討. 産婦人科の実際 2011 ; 60 (13) : 2135-2140.
- 12) 浜野愛理, 黒瀬圭輔, 岩崎奈央, 山本晃人, 鴨井青龍, 明楽重夫, 竹下俊行 : 卵巣腫瘍との鑑別に苦慮した虫垂粘液腺腫の1例. 日本医大医学会雑誌 2011 ; 7 (4) : 219-220.
- 13) 竹下俊行 : 【産婦人科の薬剤使用プラクティス : 病態別処方～産科編～】 合併症妊娠 習慣流産. 産婦人科の実際 2011 ; 60 (11) : 1715-1721.
- 14) 山下恵理子, 三浦 敦, 島田 学, 尾崎景子, 山本晃人, 黒瀬圭輔, 鴨井青龍, 明楽重夫, 竹下俊行 : 多系統萎縮症に合併した卵巣腫瘍の1例. 東京産科婦人科学会誌 2011 ; 60 (3) : 414-417.
- 15) 尾崎景子, 山本晃人, 峯 克也, 米山剛一, 明楽重夫, 川本雅司<sup>1)</sup>, 竹下俊行 <sup>1)</sup> 日本医大病院病理部) : 後腹膜に発生した子宮内膜症性嚢胞の1症例. 日本エンドメトリオーシス学会 2011 ; 32 : 180-184.
- 16) 木村 正, 竹下俊行 : シンポジウムレビュー 「流産の原因と対策」. 日本産科婦人科学会誌 2011 ; 63 (12) : 2139-2142.
- 17) 竹下俊行 : 特集「不育症」子宮形態異常. HORMON FRONTIER IN GYNECOLOGY 2012 ; 19 (1) : 43-47.
- 18) 竹下俊行 : 不育症の診療指針 「夫リンパ球免疫療法」. 臨床婦人科産科 2012 ; 66 (3) : 262-267.
- 19) 齋藤 滋<sup>1)</sup>, 杉浦真弓, 丸山哲夫, 田中忠夫, 竹下俊行, 山田秀人, 小澤伸晃, 中塚幹也, 木村 正, 藤井知行, 下屋浩一郎, 山本樹生, 佐田文宏, 康 東天, 早川 智, その他8名 : 【不育症 最前線】不育症 over view. 産婦人科の実際 2011 ; 60 (10) : 1401-1408.

- 20) 竹下俊行, 峯 克也:【不妊診療の ABC-ART の前にできること】【不妊原因診断と ART の前の対処法】子宮奇形. 臨床婦人科産科 2011; 65 (9): 1138-1142.
- 21) 竹下俊行:【不育症 最前線】子宮形態異常と不育症. 産婦人科の実際 2011; 60 (10): 1437-1443.
- 22) 峯 克也, 明楽重夫, 大内 望, 市川雅男, 黒瀬圭輔, 竹下俊行: 深部子宮内膜症に対する腹腔鏡下ダグラス窩開放の工夫. 日本エンドメトリオーシス学会誌 2011; 32: 169-172.
- 23) 大内 望, 明楽重夫, 渋井庸子, 阿部 崇, 峯 克也, 市川雅男, 富山僚子, 黒瀬圭輔, 竹下俊行: 子宮内膜症の薬物治療 当科における卵巣チョコレート嚢胞の術後プロトコール 薬物の投与基準を含めて. 日本エンドメトリオーシス学会誌 2011; 32: 94-100.
- 24) 尾崎景子, 五十嵐美和, 高屋 茜, 松橋智彦, 小野修一, 阿部 崇, 桑原慶充, 澤倫太郎, 明楽重夫, 竹下俊行: 妊娠 17 週で急性壊疽性虫垂炎を発症し流産に至った 1 例. 東京産科婦人科学会誌 2011; 60 (2): 279-283.
- 25) 阿部 崇, 竹下俊行:【プロラクチンの生理・病理の新展開】産褥心筋症とプロラクチン. HORMONE FRONTIER IN GYNECOLOGY 2011; 18 (3): 301-306.
- 26) 明楽重夫, 市川雅男, 小野修一, 大内 望, 峯 克也, 竹下俊行:【産婦人科領域での妊孕能向上を目指した形成術】腹腔鏡下手術における術後癒着防止. 産婦人科の実際 2011; 60 (7): 963-969.
- 27) 齋藤 滋, 丸山哲夫, 田中忠夫, 竹下俊行, 山田秀人, 小澤伸晃, 中塚幹也, 木村 正, 福井淳史, 杉 俊隆: 血栓性素因のある不育症に対するヘパリンカルシウム自己皮下注射の安全性についての検討. 日本産婦人科・新生児血液学会誌 2011; 21 (1): 9-13.
- 28) 中川道子, 野口 唯, 島田博美, 坊 裕美, 深見武彦, 土居大祐, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行: 分娩予知のため, 陣痛までの子宮頸管腺領域 (CGA) のエコーパターン変化の研究. 産婦人科の実際 2011; 60 (4): 637-641.
- 29) 石川 源, 相馬廣明<sup>1)</sup>, 瀧澤俊広<sup>1)</sup>, 竹下俊行:【胎児死亡と胎盤病理】正常胎盤, 卵膜, 臍帯の組織所見. 産科と婦人科 2011; 78 (6): 655-663.
- 30) 竹下俊行:【不妊症に治療法】夫リンパ球免疫療法. 臨床婦人科産科 2012; 66 (3): 262-267.
- 31) 磯崎太一, 代田治彦<sup>1)</sup> (1) シロタクリニック):【経膈分娩を成功させるコツ】吸引・鉗子分娩の上手な方法. 周産期医学 2011; 41 (7): 907-913.
- 32) 島田 学, 五十嵐美和, 浜野愛理, 小野修一, 山下恵理子, 桑原慶充, 里見操緒, 澤倫太郎, 明楽重夫, 竹下俊行: 非機能正下垂体腺腫合併妊娠の 1 例. 東京産婦会誌 2011; 60 (4): 641-645.
- (2) 総説:
- 1) 明楽重夫, 市川雅男, 小野修一, 大内 望, 峯 克也, 竹下俊行: 腹腔鏡下手術における術後癒着防止. 産婦人科の実際 2011; 60 (7): 963-969.
  - 2) 澤倫太郎: 東日本大震災から学ぶ災害時の母子の保健と福祉: 日本産科婦人科学会による人的支援について. 母子保険情報 2011; 64 (11): 1-12.
  - 3) 齋藤英和<sup>1)</sup>, 石原 理<sup>2)</sup>, 久具宏司<sup>3)</sup>, 澤倫太郎, 津田尚武<sup>4)</sup>, 阪埜浩司<sup>5)</sup>, 平原史樹<sup>6)</sup>, 渡部 洋<sup>7)</sup> (1) 国立成育医療センター, 2) 埼玉医科大学, 3) 東邦大学, 4) 久留米大学, 5) 慶應義塾大学, 6) 横浜市立大学, 7) 近畿大学): 平成 22 年度倫理委員会 登録・調査委員会報告 (2009 年度分の体外受精・胚移植等の臨床実施成績および 2011 年 7 月における登録施設名). 日産婦誌 2011; 63 (9): 1881-1911.
  - 4) 遠藤俊子, 福島裕子, 前田一枝, 齋藤益子, 石川紀子, 石渡 勇, 井本寛子, 神崎光子, 澤倫太郎, 中込さと子, 長坂桂子, 中林正雄: 平成 22 年度厚生労働科学研究「地域における周産期医療システムの充実と医療資源の適正配置に関する研究」分担研究 院内助産システムの認識と助産実践能力強化研修の評価. 看護 2011; 63 (8): 96-101.

## 著書

- 1) 明楽重夫：〔分担〕後陰壁・会陰形成術．骨盤臓器脱の手術．Obstetric and Gynecologic Surgery 8：正しい診断と適切な術式の選択（平松祐司，小西郁生，櫻木範明，竹田 省編集），2011；pp86-95，メジカルビュー社．
- 2) 竹下俊行：〔共著〕【女性性器の疾患】子宮体部①炎症性疾患．標準産科婦人科学（岡井崇，綾部琢哉），2011；pp119-120，医学書院．
- 3) 竹下俊行：〔共著〕【女性性器の疾患】子宮体部②類腫瘍・腫瘍病変．標準産科婦人科学（岡井崇，綾部琢哉），2011；pp120-123，医学書院．
- 4) 竹下俊行：〔共著〕【妊娠の異常】妊娠初期の異常⑨不育症．標準産科婦人科学（岡井崇，綾部琢哉），2011；pp336-338，医学書院．
- 5) 澤倫太郎：〔共著〕更なる医療の信頼に向けて：無罪事件から学ぶ．日医総研シンポジウム，2011；pp85-97，東京法規出版．
- 6) 澤倫太郎：〔共著〕国民皆保険制度 50 周年を迎えて：医療刑事裁判について．日本医師会年次報告書，2011；pp235-261，東京法規出版．

## 学会発表

### 〔追加分〕

#### 追加分一般講演：

- 1) 峯 克也，明楽重夫，大内 望，市川雅男，黒瀬圭輔，竹下俊行：深部子宮内膜症に対する腹腔鏡下アプローチの工夫．日本エンドメトリオーシス学会（第 32 回）（東京），2011. 1.

#### (1) 特別講演：

- 1) 竹下俊行：不育症のトピックス：ヘパリン療法の保険適応．城東産婦人科病病連携研究会（東京），2012. 2.

#### (2) 教育講演：

- 1) 明楽重夫：腹腔鏡手術は諸刃の剣，安全・確実にやろう．日本産婦人科医会（第 38 回）（静岡），2011. 10.

#### (3) シンポジウム：

- 1) 峯 克也，阿部 崇，小野修一，神戸沙織，山下恵理子，富山僚子，市川智子，桑原慶充，明楽重夫，竹下俊行：不育症診療における子宮形態異常の取り扱い．第 29 回日本受精着床学会（東京），2011. 9.

#### (4) パネルディスカッション：

- 1) 市川雅男，明楽重夫，大内 望，峯 克也，竹下俊行：症例提示（ラパロチーム）．日本女性骨盤底医学会（第 13 回）（横浜），2011. 7.

#### (5) 一般講演：

- 1) 山下恵理子，三浦 敦，島田 学，尾崎景子，山本晃人，黒瀬圭輔，鴨井青龍，明楽重夫，竹下俊行：多系統萎縮症に合併した卵巣腫瘍の 1 例．東京産科婦人科学会例会（第 358 回）（東京），2011. 5.
- 2) 小西真理世，平泉良枝<sup>1)</sup>，里見操緒，中井晶子，菊池美美，白銀 恵，田村俊之，布施由紀子<sup>1)</sup>，鈴木俊治<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>葛飾赤十字産院）：緊急帝王切開の分娩時刻は周産期予後に影響するのか？．東京産科婦人科学会例会（第 358 回）（東京），2011. 5.
- 3) 五十嵐美和，尾崎景子，小野修一，阿部 崇，桑原慶充，磯崎太一，澤倫太郎，竹下俊行，山岸絵美，印出佑介，中井章人：重症妊娠高血圧症候群を呈した骨髄異形成症候群合併妊娠の 1 例．日本周産期・新生児医学会（第 47 回）（札幌），2011. 7.
- 4) 林 昌子，中井章人，中西一步，山岸絵美，桑原知仁，阿部裕子，印出佑介，奥田直貴，川端伊久乃，三宅秀彦，大屋敦子，竹下俊行：日本産科婦人科学会周産期委員会が提唱する分娩中の胎児心拍数陣痛図の波形分類の再現性と有用性の検討．日本産科婦人科学会（第 63 回）（大阪），2011. 8.

- 5) 黒瀬圭輔, 大内 望, 峯 克也, 三浦 敦, 市川雅男, 明楽重夫, 竹下俊行: 当科における単孔式腹腔鏡下手術の導入. 日本産科婦人科学会 (第 63 回) (大阪), 2011. 8.
- 6) 澤倫太郎, 峯 克也, 阿部 崇, 大内 望, 五十嵐美和, 富山僚子, 桑原慶充, 三浦 敦, 竹下俊行: 胎児血管特性を応用したアデノシン誘導型 DES の開発-胎児血管におけるアデノシン A2a 受容体を介した in-stent-thrombosis の抑制について. 日本産科婦人科学会 (第 63 回) (大阪), 2011. 8.
- 7) 川端伊久乃, 大屋敦子, 林 昌子, 奥田直貴, 印出佑介, 阿部裕子, 桑原知仁, 山岸絵美, 中西一步, 三宅秀彦, 中井章人, 竹下俊行: 切迫早産におけるプロゲステロン投与の有効性. 日本産科婦人科学会 (第 63 回) (大阪), 2011. 8.
- 8) 大屋敦子, 三宅秀彦, 川端伊久乃, 奥田直貴, 林 昌子, 印出佑介, 阿部裕子, 山岸絵美, 桑原知仁, 中西一步, 中井章人, 竹下俊行: 妊娠 12 週以後の絨毛膜下血腫において周産期予後に影響する因子の検討. 日本産科婦人科学会 (第 63 回) (大阪), 2011. 8.
- 9) 印出佑介, 山口 暁<sup>1)</sup>, 都甲明子<sup>1)</sup>, 竹内久美<sup>1)</sup>, 横田明重<sup>1)</sup>, 山口 稔<sup>1)</sup>, 中井章人, 竹下俊行 (<sup>1)</sup> 山口病院): 妊娠の性器クラミジア感染は初産と若年で高率に認められる. 日本産科婦人科学会 (第 63 回) (大阪), 2011. 8.
- 10) 松村好克, 森 瑛子, 小西真理世, 中川道子, 立山尚子, 西田直子, 深見武彦, 松島 隆, 土居大祐, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行: 超音波観察による子宮頸管領域腺像 (CGA) のパターンと頸管粘液中ヒアルロン酸濃度との関連性. 日本産科婦人科学会 (第 63 回) (大阪), 2011. 8.
- 11) 渋井庸子, 明楽重夫, 大内 望, 峯 克也, 市川雅男, 阿部 崇, 富山僚子, 竹下俊行: 腹腔鏡下卵巣チョコレート嚢胞摘出術後における妊娠例の検討. 日本産科婦人科学会 (第 63 回) (大阪), 2011. 8.
- 12) 神戸沙織, 市川智子, 小野修一, 阿部 崇, 峯 克也, 桑原慶充, 明楽重夫, 竹下俊行: 抗リン脂質抗体陽性不育症患者では血清グラニューライシン濃度が高値を示す. 日本産科婦人科学会 (第 63 回) (大阪), 2011. 8.
- 13) 三浦 敦, 高屋 茜, 小野修一, 阿部 崇, 五十嵐美和, 市川智子, 明楽重夫, 竹下俊行: 細菌性膣症は不育症のリスク因子か?. 日本産科婦人科学会 (第 63 回) (大阪), 2011. 8.
- 14) 富山僚子, 阿部 崇, 峯 克也, 市川智子, 渋井庸子, 小野修一, 神戸沙織, 桑原慶充, 明楽重夫, 竹下俊行: 卵胞液の抗酸化力に関する検討. 日本産科婦人科学会 (第 63 回) (大阪), 2011. 8.
- 15) 桑原慶充, 富山僚子, 神戸沙織, 小野修一, 渋井庸子, 阿部 崇, 市川智子, 峯 克也, 西 弥生, 明楽重夫, 竹下俊行: 周排卵期卵巣における, ケモカイン CCL11 (Eotaxin-I) の発現調節および機能に関する解析. 日本産科婦人科学会 (第 63 回) (大阪), 2011. 8.
- 16) 間瀬有里, 石橋 宰<sup>1)</sup>, 石川 源, 富山僚子, 木口一成<sup>2)</sup>, 片瀧秀隆<sup>3)</sup>, 大場 隆<sup>3)</sup>, 竹下俊行, 瀧澤俊広<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医大分子解剖学, <sup>2)</sup> 聖マリアンナ医大, <sup>3)</sup> 熊本大産科婦人科): ヒト卵巣顆粒膜細胞に発現している microRNA の標的としている遺伝子の解析. 日本産科婦人科学会 (第 63 回) (大阪), 2011. 8.
- 17) 峯 克也, 富山僚子, 神戸沙織, 小野修一, 渋井庸子, 阿部 崇, 市川智子, 桑原慶充, 西 弥生, 明楽重夫, 竹下俊行: 凍結融解胚移植において移植日の E2・P4 迅速評価は有用であるか?. 日本産科婦人科学会 (第 63 回) (大阪), 2011. 8.
- 18) 米山剛一, 山田 隆, 土居大祐, 黒瀬圭輔, 鴨井青龍, 中井章人, 朝倉啓文, 三浦 敦, 加藤久盛<sup>1)</sup>, 中山裕樹<sup>1)</sup>, 河合尚基<sup>2)</sup>, 竹下俊行 (<sup>1)</sup> 神奈川県立がんセンター, <sup>2)</sup> 東京臨海病院): 子宮体癌予後因子に関する再検討. 日本産科婦人科学会 (第 63 回) (大阪), 2011. 8.
- 19) 山田 隆, 米山剛一, 黒瀬圭輔, 土居大祐, 鴨井青龍, 中井章人, 朝倉啓文, 河合尚基<sup>1)</sup>, 加藤久盛<sup>2)</sup>, 中山裕樹<sup>2)</sup>, 竹下俊行 (<sup>1)</sup> 東京臨海病院, <sup>2)</sup> 神奈川県立がんセンター): 若年子宮体癌に関する検討. 日本産科婦人科学会 (第 63 回) (大阪), 2011. 8.
- 20) 渡辺建一郎, 米山剛一, 神戸沙織, 中尾仁彦, 柿栖陸実, 山田 隆, 五十嵐健治, 渡辺美千明, 大秋美治<sup>1)</sup>, 竹下俊行 (<sup>1)</sup> 日本医大千葉北総病院病理): 子宮癌肉腫, 腺肉腫 13 例の治療成績. 日本産科婦人科学会 (第 63 回)

(大阪), 2011. 8.

- 21) 中尾仁彦, 米山剛一, 神戸沙織, 渡邊建一郎, 柿栖睦実, 山田 隆, 五十嵐健治, 渡辺美千明, 竹下俊行: 腸上皮化生を示した子宮頸部腺癌の1症例. 日本産科婦人科学会 (第63回) (大阪), 2011. 8.
- 22) 柿栖睦実, 米山剛一, 中尾仁彦, 神戸沙織, 渡邊建一郎, 山田 隆, 五十嵐健治, 渡辺美千明, 鴨井青龍, 大秋美治<sup>1)</sup>, 竹下俊行 (<sup>1)</sup> 日本医大千葉北総病院病理): 当科における原発性腹膜癌9症例の臨床病理学的検討: 病巣5cm以下の卵巣癌との比較. 日本産科婦人科学会 (第63回) (大阪), 2011. 8.
- 23) 市川雅男, 大内 望, 岩崎奈央, 峯 克也, 黒瀬圭輔, 明楽重夫, 竹下俊行: 新しい臍部アクセスシステムを用いた単孔式 Total Laparoscopic Hysterectomy (TLH). 日本産科婦人科学会 (第63回) (大阪), 2011. 8.
- 24) 大内 望, 明楽重夫, 峯 克也, 市川雅男, 黒瀬圭輔, 竹下俊行: 内膜症の再発予防におけるジェノゲストの効果: 低用量ピルと比較して. 日本産科婦人科学会 (第63回) (大阪), 2011. 8.
- 25) 山下恵理子, 三浦 敦, 島田 学, 尾崎景子, 山本晃人, 黒瀬圭輔, 鴨井青龍, 明楽重夫, 竹下俊行: 多系統萎縮症に合併した卵巣腫瘍の1例. 東京産科婦人科学会例会 (第358回) (東京), 2011. 5.
- 26) 小西真理世<sup>1)</sup>, 平泉良枝<sup>1)</sup>, 里見操緒, 中井晶子, 菊池美美, 白銀 恵, 田村俊之, 布施由紀子<sup>1)</sup>, 鈴木俊治<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 葛飾赤十字産院): 緊急帝王切開の分娩時刻は周産期予後に影響するの? . 東京産科婦人科学会例会 (第358回) (東京), 2011. 5.
- 27) 市川雅男, 明楽重夫, 大内 望, 竹下俊行: 腹腔鏡下仙骨固定術の適応と今後の展望. 日本女性骨盤底医学会 (第13回) (横浜), 2011. 7.
- 28) 大内 望, 明楽重夫, 峯 克也, 市川雅男, 竹下俊行: 当院における TVM 手術の合併症, 予後の検討. 日本女性骨盤底医学会 (第13回) (横浜), 2011. 7.
- 29) 市川雅男, 明楽重夫, 大内 望, 峯 克也, 竹下俊行: 骨盤臓器脱治療における腹腔鏡下仙骨固定術の適応と今後の展望. 日本産科婦人科内視鏡学会 (第51回) (大阪), 2011. 8.
- 30) 渡辺美千明, 渡邊建一郎, 山田 隆, 石川温子, 峯 克也, 市川雅男, 黒瀬圭輔, 米山剛一, 明楽重夫, 竹下俊行: 子宮腺筋症に対する腹腔鏡補助下子宮腺筋症切除術: 標準手術になりうるか? . 日本産科婦人科内視鏡学会 (第51回) (大阪), 2011. 8.
- 31) 島田 学, 五十嵐美和, 浜野愛理, 小野修一, 山下恵理子, 桑原慶充, 里見操緒, 澤倫太郎, 明楽重夫, 竹下俊行: 非機能性下垂体腺腫合併妊娠の1例. 東京産科婦人科学会 (第359回) (東京), 2011. 9.
- 32) 桑原慶充, 片山 映<sup>1)</sup>, 富山僚子, 朴 華, 山下恵理子, 小野修一, 市川智子, 峯 克也, 明楽重夫, 竹下俊行 (<sup>1)</sup> 日本医大生化学・分子生物学): 周排卵期において, 炎症性・向血管新生サイトカインにより発現誘導される卵巣局所分子群の固定および解析. 日本生殖免疫学会 (第26回) (名古屋), 2011. 12.
- 33) 石川朋子<sup>1)</sup>, 本多 新<sup>2)</sup>, 廣瀬美智子<sup>2)</sup>, 瀧澤敬美<sup>1)</sup>, 小倉敦郎<sup>2)</sup>, 竹下俊行, 瀧澤俊広<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医大分子解剖学, <sup>2)</sup> 理化学研究所筑波研究所 遺伝子工学基盤技術室): マウス卵巣莖膜幹細胞のマクロ RNA 解析 (第1報): プロファイル解析. 日本生殖免疫学会 (第26回) (名古屋), 2011. 12.
- 34) 間瀬 - 吉田有里, 石橋 宰<sup>1)</sup>, 石川 源, 木口一成<sup>2)</sup>, 片瀨秀隆<sup>3)</sup>, 大場 隆<sup>4)</sup>, 竹下俊行, 瀧澤俊広<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医大分子解剖学, <sup>2)</sup> 聖マリアンナ医科大学産婦人科学, <sup>3)</sup> 熊本大学医学部産科婦人科学): ヒト卵巣顆粒膜細胞株に発現する microRNA の標的遺伝子の同定. 日本生殖免疫学会 (第26回) (名古屋), 2011. 12.
- 35) 市川雅男, 明楽重夫, 大内 望, 峯 克也, 竹下俊行: 安全・簡単なマルチトロカーシステムを用いた婦人科単孔式手術の適応と限界. 日本内視鏡外科学会 (第24回) (大阪), 2011. 12.
- 36) 桑原慶充, 富山僚子, 小野修一, 山下恵理子, 市川智子, 峯 克也, 明楽重夫, 竹下俊行: IL-1 beta により誘導される周排卵期特異的マウス卵巣ケモカインの同定および解析. 日本生殖医学会 (第56回) (横浜), 2011. 12.
- 37) 小野修一, 神戸沙織, 山下恵理子, 市川智子, 阿部 崇, 峯 克也, 桑原慶充, 里見操緒, 明楽重夫, 竹下俊行: 抗フォスファチジルエタノラミン抗体陽性不育症症例における免疫能について. 日本生殖医学会 (第56回)

- (横浜), 2011. 12.
- 38) 浜野愛理, 明楽重夫, 大内 望, 峯 克也, 市川雅男, 竹下俊行: GnRH アゴニスト反復投与後に, レボノルゲストレル徐放型子宮内避妊システムが有効であった子宮腺筋症の1例. 東京産婦人科学会 (第360回) (東京), 2011. 12.
  - 39) 峯 克也, 明楽重夫, 浜野愛理, 小野修一, 大内 望, 市川雅男, 黒瀬圭輔, 竹下俊行: 子宮内膜症および子宮腺筋症におけるジェノゲスト投与中止例の検討. 日本エンドメトリオーシス学会 (第33回) (長崎), 2012. 1.
  - 40) 小野修一, 明楽重夫, 浜野愛理, 大内 望, 峯 克也, 竹下俊行: 腹腔鏡下にて診断・治療し得た無症候性小腸内膜症の1例. 日本エンドメトリオーシス学会 (第33回) (長崎), 2012. 1.
  - 41) 渡邊建一郎, 明楽重夫, 根本崇宏<sup>1)</sup>, 芝崎 保<sup>1)</sup>, 竹下俊行 (<sup>1)</sup> 日本医大生体統御学): 子宮内膜症における Wnt4mRNA の発現の解析. 日本エンドメトリオーシス学会 (第33回) (長崎), 2012. 1.
  - 42) 浜野愛理, 明楽重夫, 小野修一, 大内 望, 峯 克也, 市川雅男, 竹下俊行: レボノルゲストレル徐放型子宮内避妊システムの難治性子宮腺筋症に対する有用性の検討. 日本エンドメトリオーシス学会 (第33回) (長崎), 2012. 1.
  - 43) 黒瀬圭輔, 大内 望, 山本晃人, 峯 克也, 市川雅男, 三浦 敦, 米山剛一, 明楽重夫, 鴨井青龍, 竹下俊行: 良性卵巣腫瘍の診断にて腹腔鏡した手術を行い病理検査にて悪性と判明した症例の解析. 日本婦人科腫瘍学会 (第50回) (札幌), 2011. 7.
  - 44) 安井麻利江, 鴨井青龍, 高橋恵理佳, 岩崎奈央, 山本晃人, 山田 隆, 三浦 敦, 石川温子, 黒瀬圭輔, 土居大祐, 米山剛一, 竹下俊行: 子宮温存療法後に癌肉腫として多発転移をきたした早期子宮体部類内膜癌の1例. 日本婦人科腫瘍学会 (第50回) (札幌), 2011. 7.
  - 45) 島田 学, 鴨井青龍, 高屋 茜, 山下恵理子, 山本晃人, 山田 隆, 三浦 敦, 黒瀬圭輔, 渡辺美千明, 米山剛一, 竹下俊行: 3度目の術後に後腹膜から回腸を穿通して再発した子宮内膜間質肉腫の1例. 日本婦人科腫瘍学会 (第50回) (札幌), 2011. 7.
  - 46) 松橋智彦, 高橋秀実<sup>1)</sup>, 竹下俊行, 清水真澄<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医大微生物免疫学): 低容量化学療法における樹状細胞を介した卵巣癌細胞増殖抑制とそのメカニズム. 日本婦人科腫瘍学会 (第50回) (札幌), 2011. 7.
  - 47) 山本晃人, 鴨井青龍, 三浦 敦, 黒瀬圭輔, 米山剛一, 竹下俊行: Low-dose FP 療法が著効した乳房外 Paget 病の1例. 日本婦人科腫瘍学会 (第50回) (札幌), 2011. 7.
  - 48) 峯 克也, 小野修一, 洪井庸子, 阿部 崇, 市川智子, 富山僚子, 桑原慶充, 明楽重夫, 竹下俊行: 不妊外来で遭遇しうる子宮内膜増殖症・子宮体癌-細胞診は有用か? -. 関東連合地方部会 (第121回) (東京), 2011. 6.
  - 49) Mine K, Ichikawa M, Ono S, Kurose K, Akira S, Takeshita T: Minimally invasive laparoscopic ovarian cystectomy with an endoscopic bag inserted through a 12-mm vaginal trocar. APAGE 12th (Osaka), 2011. 12.
  - 50) 田村俊之, 三浦 敦, 三浦直美<sup>1)</sup>, 布施由紀子<sup>1)</sup>, 小西真理世, 平泉良枝<sup>1)</sup>, 村田知昭<sup>1)</sup>, 木下和哉<sup>1)</sup>, 三宅秀彦<sup>1)</sup>, 横川智之<sup>2)</sup>, 鈴木俊治<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 葛飾赤十字産院, <sup>2)</sup> 横川レディースクリニック): 先天性多発性関節拘縮症の胎児超音波所見の検討. 日産婦関東連合地方部会 (第122回) (横浜), 2011. 10.
  - 51) 浜野愛理, 島田 学, 岩崎奈央, 山本晃人, 黒瀬圭輔, 鴨井青龍, 竹下俊行: 卵巣腫瘍との鑑別が困難だった虫垂粘液腺腫の1例. 日産婦関東連合地方部会 (第122回) (横浜), 2011. 10.
  - 52) 安井麻利江, 五十嵐美和, 小野修一, 山下恵理子, 桑原慶充, 里見操緒, 澤倫太郎, 明楽重夫, 竹下俊行: 帝王切開癒痕部内に胎嚢を認めた進行流産の1例. 日産婦関東連合地方部会 (第122回) (横浜), 2011. 10.
  - 53) 島田 学, 尾崎景子, 山本晃人, 黒瀬圭輔, 鴨井青龍, 安齋眞一<sup>3)</sup>, 彭 為霞<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 川本雅司<sup>2)</sup>, 土屋眞一<sup>2)</sup>, 竹下俊行 (<sup>1)</sup> 日本医大病理, <sup>2)</sup> 日本医大病院病理部, <sup>3)</sup> 日本医大皮膚科): 円柱腫 (cylindroma) 様構造を認めた成熟嚢胞性奇形腫の1例. 日産婦関東連合地方部会 (第122回) (横浜), 2011. 10.
  - 54) 大内 望, 峯 克也, 市川雅男, 浜野愛理, 小野修一, 阿部 崇, 黒瀬圭輔, 明楽重夫, 竹下俊行: 経膈回収

- バックを使用した3mm細径鉗子による低侵襲腹腔鏡下卵巣嚢腫摘出術. 東京産科婦人科学会(第361回)(東京), 2012. 2.
- 55) 浜野愛理, 黒瀬圭輔, 岩崎奈央, 山本晃人, 鴨井青龍, 明楽重夫, 竹下俊行: 卵巣腫瘍との鑑別に苦慮した虫垂粘液腺腫の1例. 日本医大医学会(第79回)(東京), 2011. 9.
- 56) 明楽重夫, 市川雅男, 大内 望, 峯 克也, 可世木久幸, 竹下俊行: 骨盤臓器脱に対してメッシュを用いた手術は有効か TVM法と腹腔鏡下仙骨陰固定術の当科における成績. 日本女性医学会(第26回)(神戸), 2011. 11.
- 57) 神戸沙織, 渡辺美千明, 渡邊建一郎, 山田 隆, 米山剛一, 明楽重夫, 竹下俊行: 妊娠17週, 吊り上げ法で腹腔鏡下手術を施行した卵巣皮様嚢腫の1症例. 日本産科婦人科内視鏡学会(第51回)(大阪), 2011. 8.
- 58) 市川雅男, 明楽重夫, 大内 望, 岩崎奈央, 峯 克也, 黒瀬圭輔, 竹下俊行: 単孔式腹腔鏡下手術の現状と展開安全・簡単なマルチトロカーシステムを用いた婦人科単孔式手術. 日本産科婦人科内視鏡学会(第51回)(大阪), 2011. 8.
- 59) 瀧澤俊広<sup>1)</sup>, 倉品隆平, 石橋 宰<sup>1)</sup>, 軸園智雄<sup>1)</sup>, 石川 源, 竹下俊行<sup>(1)</sup> 日本医大分子解剖学): レーザーマイクロダイセクション法によるヒト胎盤絨毛組織におけるmicroRNA発現解析. 日本解剖学会(第116回)(横浜), 2011. 12.
- 60) 印出佑介, 山口 暁<sup>1)</sup>, 都甲明子<sup>1)</sup>, 横田明重<sup>1)</sup>, 山口 稔<sup>1)</sup>, 中井章人, 竹下俊行<sup>(1)</sup> 山口病院): 帝王切開分娩中のB群レンサ球菌(GBS)の新生児移行は予定手術より緊急手術で高率に生じる. 日本周産期・新生児医学会(第47回)(札幌), 2011. 7.
- 61) 高橋恵理佳, 山口 暁<sup>1)</sup>, 印出佑介, 山口 稔<sup>1)</sup>, 横田明重<sup>1)</sup>, 都甲明子<sup>1)</sup>, 花岡正智, 竹下俊行<sup>(1)</sup> 山口病院): 妊婦の抗サイトメガロウイルス抗体スクリーニングの実施成績. 日本周産期・新生児医学会(第47回)(札幌), 2011. 7.
- 62) 川端伊久乃, 関口敦子, 印出佑介, 林 昌子, 奥田直貴, 阿部裕子, 三宅秀彦, 中井章人, 竹下俊行<sup>(1)</sup> 山口病院): 切迫早産症例におけるプロゲステロン投与の有効性. 日本周産期・新生児医学会(第47回)(札幌), 2011. 7.
- 63) 渡辺 淳<sup>1)</sup>, 鈴木由美<sup>1)</sup>, 菅野華子<sup>1)</sup>, 峯 克也, 阿部 隆, Naing-Than B<sup>1)</sup>, 竹下俊行, 折茂英生<sup>2)</sup>, 澤井英明, 島田 学 隆<sup>3)</sup> <sup>(1)</sup> 遺伝診療科, <sup>2)</sup> 日本医大構造生物学・代謝学, <sup>3)</sup> 日本医大分子遺伝学・栄養学): 周産期型低フォスファターゼ症の遺伝診療 周産期からのfollow-upの必要性. 日本家族性腫瘍学会(第17回)(京都), 2011. 6.
- 64) 小野修一, 桑原慶充, 渋井庸子, 五十嵐美和, 阿部 崇, 峯 克也, 竹下俊行: 不育症を呈した非定型中隔子宮の3症例. 日産婦関東連合地方部会(121回)(東京), 2011. 6.
- 65) 瀧澤俊広<sup>1)</sup>, 石橋 宰<sup>1)</sup>, 大口昭英<sup>1)</sup>, 倉品隆平, 石川 源, 平嶋周子<sup>1)</sup>, 高橋佳代, 泉 章夫<sup>1)</sup>, 米山剛一, 朝倉啓文, 松原茂樹<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>(1)</sup> 日本医大分子解剖学): 妊娠高血圧症候群に関連するmicroRNAとその標的遺伝子HSD17B1の同定 新たな予知マーカーの開発. 日本産科婦人科学会(第63回)(大阪), 2011. 8.
- 66) 佐藤杏月, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 山本哲志<sup>1)</sup>, 河本陽子<sup>1)</sup>, 彭 為霞<sup>1)</sup>, 松田陽子<sup>1)</sup>, 恩田宗彦<sup>1)</sup>, 朝倉啓文, 竹下俊行, 内藤善哉<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 日本医大統御機構・腫瘍学): 子宮頸部異形成および子宮頸癌におけるNestinの発現. 日本病理学会(第100回)(横浜), 2011. 4.
- 67) 島田博美, 倉品隆平, 佐藤杏月, 立山尚子, 深見武彦, 松島 隆, 土居大祐, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行: Clostridium perfringensによる子宮筋層のガス壊痕から敗血症性ショックを来たした子宮体癌症例. 日本産婦人科感染症研究会(第29回)(岡山), 2011. 6.

## [武蔵小杉病院女性診療科・産科]

### 研究概要

1. 超音波画像診断 1) 子宮頸管画像と早産に関する研究 2) 子宮頸管画像と生化学的マーカーの関連及び妊娠後に関する研究 2. 産婦人科内視鏡学 新しい内視鏡治療器具の開発や内視鏡手術による卵管通水と子宮内膜症と不妊症の関連研究などが行われている 3. 婦人科腫瘍 1) 子宮頸癌検診における日母分類の改定 HPV との関連についての研究 2) 卵巣癌における抗がん剤の効果および副作用の研究 3) 妊娠合併腫瘍の発達

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) 小西真理世, 森 瑛子, 野口 唯, 山口道子, 坊 裕美, 立山尚子, 西田直子, 深見武彦, 松島 隆, 土居大祐, 可世木久幸, 朝倉啓文：子宮内膜細胞診にて発見しえた微小卵管癌の1例. 日本産科婦人科学会神奈川地方部会誌 2011；48 (1)：26-29.
- 2) 森 瑛子, 佐藤杏月, 深見武彦, 朝倉啓文, 竹下俊行：HELLP 症候群に合併した RPLS の3症例. 日本妊娠高血圧学会雑誌 2011；19 (12)：192-193.
- 3) 松島 隆, 朝倉啓文：骨盤位. 周産期医学必修知識 2011；41 (増刊号)：298-300.
- 4) 松島 隆, 朝倉啓文：児頭骨盤不均衡. 周産期医学必修知識 2011；41 (増刊号)：295-297.
- 5) 中川道子, 野口 唯, 島田博美, 坊 裕美, 深見武彦, 松島 隆, 土居大祐, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行：分娩予知のため, 陣痛までの子宮頸管腺領域 (CGA) のエコーパターン変化の研究. 産婦の実際 2011；60 (4)：637-647.
- 6) 野口 唯, 立山尚子, 深見武彦, 松島 隆, 土居大祐, 可世木久幸, 朝倉啓文：産褥期に発症した卵巣静脈血栓の1例. 日本産科婦人科神奈川地方部会誌 2012；48 (2)：89-91.
- 7) 朝倉啓文：卵管結紮術. 産婦人科ポケット手術マニュアル 2011；25-28.
- 8) 深見武彦, 朝倉啓文：急性妊娠脂肪肝. 産婦の実際 2011；60 (4)：1764-1769.
- 9) 朝倉啓文：早産のリスク因子. 臨床産婦 2011；65 (12)：1422-1427.

(2) 総説：

- 1) 可世木久幸：婦人科内分泌療法：病態の理解と正しい診断に基づく対処・治療のポイント「月経異常」4. 機能的出血. 臨床婦人科産科 2011；65 (4)：390-397.

#### 著書

- 1) 朝倉啓文：〔分担〕過期産. 今日の治療指針 (山口徹, 北原光夫, 福井次矢), 2012；p1100, 医学書院.
- 2) 朝倉啓文：〔分担〕自律神経系の変化. 妊娠, 分娩, 産褥の生理 (金山尚裕), 2012；pp102-108, メディカ出版.

#### 学会発表

##### [追加分]

追加分一般講演：

- 1) 加藤雅彦, 松村好克, 森 瑛子, 糸井博美, 柿栖睦実, 間瀬有里, 立山尚子, 西田直子, 深見武彦, 松島 隆, 土居大祐, 可世木久幸, 朝倉啓文：慎重な経過観察で正常分娩に至った TRAP sequence の1例. 神奈川産科婦人科学会学術講演会 (第397回) (横浜), 2011. 3.

(1) 特別講演：

- 1) 土居大祐：子宮頸癌予防（検診とワクチン）. 宮前区学術講演会（川崎），2011. 5.
- 2) 朝倉啓文：早産リスクと子宮頸管の超音波所見. 湘南産婦人科研修会（神奈川県藤沢），2011. 6.
- 3) 可世木久幸：子宮脱を中心に. 湘南産婦人科医会研修会（22回）（茅ヶ崎），2012. 3.

(2) パネルディスカッション：

- 1) Kaseki H：Introducing recent paper and NBI system on the hysteroscope. Sixth AAGL International Congress on minimally Invasive Gynecology in conjunction with 12th APAGE Annual Congress（Osaka），2011. 12.

(3) セミナー：

- 1) 可世木久幸：再確認！産科・婦人科Ns.の必須知識. ナイチンゲール連名 医療スタッフのための「スキルアップ」セミナー（名古屋），2011. 11.
- 2) 可世木久幸：再確認！産科・婦人科Ns.の必須知識. 思春期～老年期のトータルヘルスケア：女性の更年期の悩みを過去の事例から，看護の原点に立ち返る. 一般社団法人ナイチンゲール連名医療スタッフのための「スキルアップ」セミナー（横浜），2011. 11.
- 3) 可世木久幸：超最新産婦人科外来看護の必須知識. 一般社団法人 ナイチンゲール連盟 医療スタッフのための「スキルアップ」セミナー（大阪），2011. 12.

(4) 一般講演：

- 1) 西田直子，土居大祐，齋藤良明<sup>2)</sup>，大塚俊司<sup>2)</sup>，佐藤杏月<sup>1)</sup>，朝倉啓文，内藤善哉<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院病理部，<sup>2)</sup>日本医科大学武蔵小杉病院病理部）：細胞診にて偽ロゼット様配列が認められた子宮頸部神経内分泌癌の1例. 第52回日本臨床細胞学会総会（福岡），2011. 5.
- 2) 小西真理世，土居大祐，立山尚子，前本直子<sup>1)</sup>，齋藤良明<sup>1)</sup>，森 瑛子，野口 唯，西田直子，松島 隆，朝倉啓文（<sup>1)</sup>日本医科大学武蔵小杉病院病理部）：子宮内膜細胞診にて発見できた微小卵管癌の1例. 第52回日本臨床細胞学会総会（福岡），2011. 5.
- 3) 森 瑛子，深見武彦，野口 唯，柿栖睦実，山口道子，坊 裕美，松村好克，立山尚子，西田直子，松島 隆，土居大祐，可世木久幸，朝倉啓文：頸管妊娠流産後の1例. 神奈川産科婦人科学会学術講演会（第393回）（川崎），2011. 5.
- 4) 森 瑛子，深見武彦，野口 唯，柿栖睦実，山口道子，坊 裕美，立山尚子，西田直子，松島 隆，土居大祐，可世木久幸，朝倉啓文：帝王切開癒痕部妊娠の3例. 関東連合産科婦人科学会総会・学術集会（第121回）（東京），2011. 6.
- 5) 柿栖睦実，森 瑛子，野口 唯，山口道子，坊 裕美，立山尚子，西田直子，深見武彦，松島 隆，土居大祐，可世木久幸，朝倉啓文：妊娠16週でAmniotic fluid sludgeを認め流産した頸管無力症の1例. 関東連合産科婦人科学会総会・学術集会（第121回）（東京），2011. 6.
- 6) 杉浦 賢<sup>1)</sup>，林 康子<sup>1)</sup>，土居大祐<sup>1)</sup>，加藤久盛<sup>1)</sup>，東條龍太郎<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>神奈川県産科婦人科悪性腫瘍対策部）：平成22年度神奈川県産科婦人科医会 婦人科悪性腫瘍登録集計報告. 神奈川産科婦人科学会学術講演会（第394回）（横浜），2011. 7.
- 7) 茂田博行<sup>1)</sup>，大野 勉<sup>1)</sup>，近藤朱音<sup>1)</sup>，齋藤剛一<sup>1)</sup>，助川明子<sup>1)</sup>，杉浦 賢<sup>1)</sup>，松島 隆<sup>1)</sup>，金井雄二<sup>1)</sup>，秋葉靖雄<sup>1)</sup>，東條龍太郎<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>神奈川産科婦人科医会勤務医委員会）：神奈川県内の産科婦人科診療所における診療内容について—神奈川県産科婦人科医会アンケート調査結果より—. 神奈川産科婦人科学会学術講演会（第394回）（横浜），2011. 7.
- 8) 森 瑛子，糸井博美，柿栖睦実，西田直子，深見武彦，松島 隆，土居大祐，可世木久幸，朝倉啓文：HELLP症候群に合併した可逆性後部白室脳症 reversible posterior leukoencephalopathy syndrome（RPLS）の3例. 日本医科大学医学会総会（第79回）（東京），2011. 9.

- 9) 加藤雅彦, 立山尚子, 間瀬有里, 山口道子, 松島 隆, 土居大祐, 可世木久幸, 朝倉啓文: 卵管双胎妊娠の1例. 日本医科大学医学会総会(第79回)(東京), 2011. 9.
- 10) 西田直子, 土居大祐, 許田典男, 加藤雅彦, 糸井博美, 柿栖陸実, 佐藤杏月, 間瀬有里, 山口道子, 立山尚子, 深見武彦, 松島 隆, 土居大祐, 可世木久幸, 朝倉啓文: 当院で経験した子宮頸部神経内分泌大細胞癌の2例. 関東連合産科婦人科学会総会・学術集会(第122回)(横浜), 2011. 10.
- 11) 立山尚子, 土居大祐, 森 瑛子, 加藤雅彦, 柿栖陸実, 山口道子, 西田直子, 深見武彦, 松島 隆, 可世木久幸, 朝倉啓文: 周術期管理が困難であった巨大卵巣腫瘍(48kg)の1例. 関東連合産科婦人科学会総会・学術集会(122回)(横浜), 2011. 10.
- 12) 森 瑛子, 深見武彦, 加藤雅彦, 糸井博美, 柿栖陸実, 山口道子, 間瀬有里, 松村好克, 立山尚子, 西田直子, 松島 隆, 土居大祐, 可世木久幸, 朝倉啓文: HELLP症候群にPRESS (posterior reversible leukoencephalopathy syndrome)を合併した3症例. 神奈川産科婦人科学会学術講演会(第395回)(川崎), 2011. 9.
- 13) 加藤雅彦, 森 瑛子, 糸井博美, 柿栖陸実, 山口道子, 間瀬有里, 松村好克, 立山尚子, 西田直子, 深見武彦, 松島 隆, 土居大祐, 可世木久幸, 朝倉啓文: 同側に発生した卵管多胎妊娠の1例. 神奈川産科婦人科学会学術講演会(横浜), 2011. 11.
- 14) Kakisu M, Tateyama N, Asakura H: CORRELATIONSHIP BETWEEN ABSENT CERVICAL GLAND AREA (CGA) OBSERVED BY TRANSVAGINAL SONOGRAPHY AND HYALURONIC ACID IN CERVICAL MUCUS AMONG WOMEN SUFFERING FROM THREATENED PRETERM DELIVERY. world congress of perinatal medicine (10th) (Uruguay), 2011. 11.
- 15) 松村好克, 森 瑛子, 小西真理世, 中川道子, 立山尚子, 西田直子, 深見武彦, 松島 隆, 土居大祐, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行: 超音波観察による子宮頸管領域腺像(CGA)のパターンと頸管粘液中ヒアルロン酸濃度との関連性. 日本産科婦人科学会学術講演会(第63回)(神戸), 2011. 8.
- 16) 瀧澤俊広<sup>1)</sup>, 石橋 宰<sup>1)</sup>, 大口昭英<sup>3)</sup>, 倉品隆平<sup>2)</sup>, 石川 源<sup>2)</sup>, 平嶋周子<sup>3)</sup>, 高橋佳代<sup>3)</sup>, 泉 章夫<sup>3)</sup>, 米山剛一<sup>2)</sup>, 朝倉啓文<sup>2)</sup>, 松原茂樹<sup>3)</sup>, 竹下俊行<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学分子解剖, (2) 日本医科大学女性診療科・産科, (3) 自治医科大学分子解剖): 妊娠高血圧症候群に関連するmicroRNAとその標的遺伝子HSD17B1の同定: 新たな予知マーカーの開発. 日本産科婦人科学会学術講演会(第63回)(神戸), 2011. 8.
- 17) 米山剛一<sup>1)</sup>, 山田 隆<sup>1)</sup>, 土居大祐<sup>1)</sup>, 黒瀬圭輔<sup>1)</sup>, 鴨井青龍<sup>1)</sup>, 中井章人<sup>1)</sup>, 朝倉啓文<sup>1)</sup>, 三浦 敦<sup>1)</sup>, 加藤久盛<sup>2)</sup>, 中山裕樹<sup>2)</sup>, 河合尚基<sup>3)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学女性診療科・産科, (2) 神奈川県立がんセンター, (3) 東京臨海病院): 子宮体癌予後因子に関する再検討. 日本産科婦人科学会学術講演会(第63回)(神戸), 2011. 8.
- 18) 山田 隆<sup>1)</sup>, 米山剛一<sup>1)</sup>, 黒瀬圭輔<sup>1)</sup>, 土居大祐<sup>1)</sup>, 鴨井青龍<sup>1)</sup>, 中井章人<sup>1)</sup>, 朝倉啓文<sup>1)</sup>, 河合尚基<sup>2)</sup>, 加藤久盛<sup>3)</sup>, 中山裕樹<sup>3)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学女性診療科・産科, (2) 東京臨海病院, (3) 神奈川県立がんセンター): 若年子宮体癌に関する検討. 日本産科婦人科学会学術講演会(第63回)(神戸), 2011. 8.
- 19) 柿栖陸実, 米山剛一, 中尾仁彦, 神戸沙織, 渡邊健一郎, 山田 隆, 五十嵐健治, 渡辺美千明, 鴨井青龍, 大秋美治, 竹下俊行: 当科における原発性腹膜癌9症例の臨床病理学的検討—病巣5cm以下の卵巣癌との比較—. 日本産科婦人科学会学術講演会(第63回)(神戸), 2011. 8.
- 20) 間瀬有里<sup>1)</sup>, 石橋 宰<sup>2)</sup>, 石川 源<sup>1)</sup>, 富山僚子<sup>1)</sup>, 木口一成<sup>3)</sup>, 片渕秀隆<sup>4)</sup>, 大場 隆<sup>4)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup>, 瀧澤俊広<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学女性診療科・産科, (2) 日本医科大学分子解剖, (3) 聖マリアンナ医科大学, (4) 熊本大学産科婦人科): ヒト卵巣顆粒膜細胞に発現しているmicroRNAの標的としての遺伝子の解析. 日本産科婦人科学会学術講演会(第63回)(神戸), 2011. 8.
- 21) 佐藤杏月<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 山本哲志<sup>1)</sup>, 河本陽子<sup>1)</sup>, 彭 為霞<sup>1)</sup>, 松田陽子<sup>1)</sup>, 恩田宗彦<sup>1)</sup>, 朝倉啓文<sup>2)</sup>, 竹下俊行<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学病理学講座(統御機構・腫瘍学), (2) 日本医科大学女性診療科・産科): 子宮頸部異形成および子宮頸癌におけるNestinの発現. 日本病理学会総会(第100回)(横浜), 2011. 4.

- 22) 山口道子, 柿栖睦実, 西田直子, 立山尚子, 松島 隆, 朝倉啓文: 分娩予知のための陣痛までの子宮頸管腺領域像 (CGA) のエコーパターンの変化の研究. 日本周産期・新生児医学会 (第 47 回) (札幌), 2011. 7.
- 23) 森 瑛子, 加藤雅彦, 糸井博美, 柿栖睦実, 山口道子, 間瀬有里, 立山尚子, 西田直子, 深見武彦, 松島 隆, 土居大祐, 可世木久幸, 朝倉啓文: 妊娠 19 週で Amniotic fluid sludge を認めた流産の 1 症例. 平成 23 年度日本医科大学産婦人科学教室同窓会臨床研究会 (東京), 2011. 11.
- 24) 森 瑛子, 加藤雅彦, 佐藤杏月, 深見武彦, 松島 隆, 土居大祐, 朝倉啓文, 竹下俊行: HELLP 症候群に合併した可逆性後部白室脳症 (reversible posterior leucoencephalopathy syndrome: RPLS) の 3 症例. 日本妊娠高血圧学会 (第 32 回) (金沢), 2011. 10.
- 25) 山口道子, 土居大祐, 森 瑛子, 野口 唯, 立山尚子, 西田直子, 深見武彦, 松島 隆, 可世木久幸, 朝倉啓文, 上野 孝<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院皮膚科: 診断に苦慮した外陰部悪性黒色腫の 1 例. 日本婦人科腫瘍学会 (第 50 回) (札幌), 2011. 7.
- 26) 立山尚子, 土居大祐, 森 瑛子, 野口 唯, 柿栖睦実, 山口道子, 西田直子, 深見武彦, 松島 隆, 可世木久幸, 朝倉啓文: 術後管理に苦慮した巨大卵巣腫瘍 (48kg) の 1 例. 神奈川産婦人科腫瘍研究会 (第 13 回) (横浜), 2011. 5.
- 27) Sato A<sup>1, 2)</sup>, Ishiwata T<sup>1)</sup>, Kawahara K<sup>1)</sup>, Yamamoto T<sup>1)</sup>, Mathuda Y<sup>1)</sup>, Asakura H<sup>2)</sup>, Takeshita T<sup>2)</sup>, Naito Z<sup>1)</sup> (1) Departments of Pathology and Integrative Oncological Pathology Nippon Medical School, Tokyo, 2) Division of Reproductive Medicine, Perinatology and Gynecologic Oncology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan): Expression and roles of nestin in human uterine cervical intraepithelial neoplasia and cervical cancer. The 16th World Congress on Advances in Oncology (Rhodes Island Greece), 2011. 10.
- 28) Maruyama S<sup>1)</sup>, Morita I<sup>2)</sup>, Nakagaki H<sup>2)</sup>, Kaseki H (1) Department of Food and Nutritional Environment, Kinjo Gakuin University, Japan, 2) Department of Preventive Dentistry and Dental Public Health, School of Dentistry, Aichi-Gakuin University, Japan): Relationship between dietary intake and the clinical parameter of periodontitis in perimenopausal Japanese female patients. European Nutrition Conference (11th) (Madrid), 2011. 10.
- 29) 間瀬有里<sup>1)</sup>, 石橋 宰<sup>2)</sup>, 石川 源<sup>1)</sup>, 木口一成<sup>3)</sup>, 片瀨秀隆<sup>4)</sup>, 大場 隆<sup>4)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup>, 瀧澤俊広<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学産婦人科学, 2) 日本医科大学分子解剖学, 3) 聖マリアンナ医科大学産婦人科学, 4) 熊本大学医学部産婦人科学): ヒト卵巣顆粒膜細胞株に発現する microRNA の標的遺伝子の同定. 第 26 回日本生殖免疫学会学術集会 (愛知), 2011. 12.

## [多摩永山病院女性診療科・産科]

### 研究概要

本年度の当教室の研究内容は以下の如くである。(1) 妊婦とスポーツ: 妊婦スポーツの安全性や効果について, 身体的および精神的側面から幅広く研究を行っている。身体面では, 活性酸素や抗酸化物質の測定によるトレーニング効果の評価や超音波パルスドプラ, 脈波伝導速度を用いた運動中の母児の血行動態変化, 心機能評価をはじめ, スポーツが妊娠, 分娩に与える影響・予後を広範囲に調査している。産褥期の子宮復古, 母乳栄養確立, 母体の睡眠障害や妊娠中のマイナートラブルに与える影響などについて, 興味深い成績をあげている。(2) 周産期領域: 臨床面では, 妊娠高血圧症候群・子宮内胎児発育不全に対し, 超音波断層法・生化学検査などを用いその病態生理の解明を行っている。超音波断層法による母胎腎・肝臓の観察では新たな視点から, 妊娠高血圧症候群, 胎児心拍数図の解析に対し有益なデータが集積しつつある。切迫早産に腔内洗浄治療・黄体ホルモン投与などの治療を行い早産の予防効果を上げている。また胎児・新生児低酸素脳症に関する動物実験を行い, 脳内のエネルギー代謝やミトコンドリア機能と虚

血灌流傷害の関係を検討している。

## 研究業績

### 論文

#### 〔追加分〕

追加分原著：

- 1) 山岸絵美, 三宅秀彦, 川端伊久乃, 印出佑介, 中西一步, 桑原知仁, 阿部裕子, 林 昌子, 奥田直貴, 大屋敦子, 中井章人：複数回の痙攣発作を起し, 産褥子癇との鑑別を要した静脈洞血栓症の1例. 日産婦東京会誌 2011; 60 (1) : 115-120.

追加分研究報告書：

- 1) 中井章人：助産師による会陰裂傷縫合に関する研究. 厚生労働省科学研究補助金地域医療基盤開発推進事業：チーム医療の推進における看護師等の役割拡大・専門性向上に関する研究 平成22年度総括・分担研究報告書 その3 2011; 33-42.

(1) 原著：

- 1) 中西一步, 奥田直貴, 桑原知仁, 山岸絵美, 印出佑介, 林 昌子, 川端伊久乃, 三宅秀彦, 関口敦子, 中井章人, 丹野正隆<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院病理部)：大網原発成熟奇形腫の1例. 東京産婦会誌 2011; 60 (2) : 305-308.
- 2) 中井章人：周産期におけるインフルエンザ感染 Up-to-date. 周産期新生児誌 2011; 47 (4) : 745-749.
- 3) 尾崎景子, 阿部裕子, 滝本佳世子, 中尾仁彦, 桑原知仁, 山岸絵美, 印出佑介, 林 昌子, 奥田直貴, 川端伊久乃, 関口敦子, 中井章人：双胎隔壁に副胎盤附着を認めた2絨毛膜2羊膜双胎の1例. 東京産婦会誌 2011; 60 (4) : 585-588.
- 4) Hayashi M<sup>1)</sup>, Nakai A<sup>1)</sup>, Sekiguchi A<sup>1)</sup>, Takeshita T<sup>1)</sup> (1) Division of Reproductive Medicine, Perinatology and Gynecologic Oncology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School)：Fetal heart rate classification proposed by the perinatology committee of the Japan society of obstetrics and gynecology : Reproducibility and clinical usefulness. J Nippon Med Sch 2012; 79 (1) : 60-68.
- 5) 中井章人：助産師と産科医師の連携について. 長野県母子衛生学会誌 2012; 14 (3) : 1-10.

(2) 総説：

- 1) 川端伊久乃, 中井章人：特集：「できる！」を増やそう！：新人助産師のための助産技術：必修テキスト前編(妊娠・分娩)：いますぐ知りたい最新情報はこれだ！：産科危機的出血への対応 up-to-date：産科出血の原因. ペリネイタルケア 2011; 30 (4) : 334-338.
- 2) 三宅秀彦, 川端伊久乃, 関口敦子, 中井章人, 竹下俊行：特集：今, 改めて妊娠高血圧症候群を考える：わが教室における妊娠高血圧症候群の管理. 産婦人科治療 2011; 102 (5) : 895-901.
- 3) 川端伊久乃, 中井章人：特集：母体と胎児の栄養学：妊娠中の栄養管理4；妊娠中の運動と栄養. 臨婦産 2011; 65 (5) : 662-666.
- 4) 山岸絵美, 中井章人：特集：周産期のアレルギー：アレルギー疾患に伴う母児のリスク：ラテックスアレルギーと妊娠・分娩のリスク. 周産期医学 2011; 41 (5) : 577-582.
- 5) 中井章人：特集：周産期の血液をめぐる話題：母体・胎児編：母胎の血液異常：産科危機的出血：その要因と対策. 周産期医学 2011; 41 (8) : 1031-1035.
- 6) 中井章人：特集：産婦人科の薬剤使用ブラクティス：病態別処方：産科編：I. 妊娠中の偶発症状・疾患：6. インフルエンザ, かぜ. 産婦人科の実際 2011; 60 (臨時増刊) : 1587-1595.
- 7) 関口敦子：特集：産婦人科の薬剤使用ブラクティス：病態別処方：産科編：IV. 分娩・産褥：8. マタニティーブ

ルーズ・産後うつ病. 産婦人科の実際 2011; 60 (臨時増刊): 1846-1852.

- 8) 中井章人: 特集: 大災害と母子保健: I. 東日本大震災から学ぶ災害時の母子の保健と福祉: 7. 災害時の母性保健: 物質支援. 母子保健情報 2011; 11 (64): 42-46.
- 9) 中井章人: 特集: 早産: ワンランク上の予防と管理: 早産の管理: 抗菌薬の選択. 産婦人科 2011; 65 (12): 1458-1463.
- 10) 中井章人: 特集: 緊急有事における産婦人科体制づくり: 被災地の妊産婦のための緊急情報システム. 産婦人科の実際 2012; 61 (1): 65-70.
- 11) 関口敦子: 特集: いわゆる“ローリスク妊娠”の理想のケアをめざして: “ローリスク妊婦”の管理システム: オープン・セミオープンシステムによるローリスク妊婦の管理. 周産期医学 2012; 42 (1): 105-110.
- 12) 中井章人: 特集: 東日本大震災と周産期: 復興に向けて: 学会からのアプローチ. 周産期医学 2012; 42 (3): 355-363.

## 著書

- 1) 中井章人: [分担] 産科編: 第24章分娩の管理: A 産婦診察と分娩監視. 標準産科婦人科学第4版 (岡井崇・綾部琢哉編集), 2011; pp506-511, 医学書院.
- 2) 中井章人: [分担] 産科編: 第24章分娩の管理: B 分娩の介助. 標準産科婦人科学第4版 (岡井崇・綾部琢哉編集), 2011; pp511-513, 医学書院.
- 3) 中井章人: [分担] 産科編: 第24章分娩の管理: C ハイリスク分娩の管理. 標準産科婦人科学第4版 (岡井崇・綾部琢哉編集), 2011; pp513-516, 医学書院.
- 4) 三宅秀彦, 中井章人: [分担] 産科編: II. 妊娠中: 感染: 49. クラミジア. 周産期医学必修知識第7版 (周産期医学編集委員会編), 2011; pp154-155, 東京医学社.
- 5) 川端伊久乃, 中井章人: [分担] 産科編: II. 妊娠中: 合併症妊娠: 63. 脳神経疾患合併妊娠. 周産期医学必修知識第7版 (周産期医学編集委員会編), 2011; pp194-195, 東京医学社.
- 6) 阿部裕子, 中井章人: [分担] 産科編: IV. 胎児: 臨床: 135. 胎児発育不全. 周産期医学必修知識第7版 (周産期医学編集委員会編), 2011; pp394-396, 東京医学社.

## 学会発表

### (1) 特別講演:

- 1) 中井章人: 母体搬送: セミオープンシステム. 東京医療保険大学平成23年度助産師研修会 (東京都), 2011. 4.
- 2) 中井章人: 院内助産システムと産科危機的出血への対応. 国際母子カンファレンス (第92回) (東京都), 2011. 5.
- 3) 中井章人: 婦人科領域の超音波診断: OFFICE GYNECOLOGYにおける超音波徹底活用. 宇都宮産婦人科医会および各郡支部合同研修会 (宇都宮市), 2011. 5.
- 4) 中井章人: 超音波内診法!?. 練馬区産婦人科医会総会・研修会 (東京都), 2011. 5.
- 5) 中井章人: 婦人科領域における超音波診断: OFFICE GYNECOLOGYにおける超音波徹底活用. 千葉産科婦人科学会・日産婦医会千葉県支部合同研修会 (千葉市), 2011. 6.
- 6) 中井章人: 婦人科領域における超音波診断: OFFICE GYNECOLOGYに役立つ超音波ハイブリッド法. 産婦人科MEセミナー (第18回) (大阪市), 2011. 7.
- 7) 中井章人: 昔の常識, 今の非常識? 切迫早産の管理は変わる. 厚木市産婦人科医会講演会 (厚木市), 2011. 7.
- 8) 中井章人: 東日本大震災: 昔の常識, 今の非常識: 切迫早産の管理は変わる. 平成23年度奇松会 (浜松市産婦人科医会) 講演会 (浜松市), 2011. 7.
- 9) 川端伊久乃: 切迫早産の管理: 今どうしていますか?. 平成23年度南多摩産婦人科医会講演会 (東京都), 2011.

8.

- 10) 中井章人：産科危機的出血への対応ガイドラインを読み解く。葛飾区産婦人科医会集談会（東京都），2011. 9.
- 11) 中井章人：新しくなった産婦人科診療ガイドライン；産科編 2011：助産師が知っておくべき変更点. 主催；社団法人日本助産師会 平成 23 年度助産師のためのリスクマネジメント（東京都），2011. 9.
- 12) 中井章人：安全・安心な出産を守るため，限られた人材での協働システム. 平成 23 年度院内助産システム推進フォーラム in しまね（出雲市），2011. 11.
- 13) 中井章人：「ガイドライン産科編 2011」：外来診療のポイント（医師と助産師のために）. 第 24 回産科中小施設研究会（東京都），2012. 3.
- 14) 中井章人：「産婦人科勤務医増加のための提言」. 平成 23 年度後期東北地区日産婦学会・医会連絡会並びに日本産婦人科医会東北ブロック協議会（仙台市），2012. 3.
- 15) 奥田直貴：健康シリーズ：“わかりやすい医学講座”：尿失禁. 第 36 回日本医科大学多摩永山病院市民公開講座（東京都），2012. 3.
- 16) 中井章人：母子健康手帳改正「推定胎児体重と胎児発育曲線」. 第 283 回東京産婦人科医会臨床研究会（東京都），2012. 3.

(2) 教育講演：

- 1) 中井章人：周産期におけるインフルエンザ感染 Up-to-date. 日本周産期・新生児医学会総会および学術集会（第 47 回）（札幌市），2011. 7.
- 2) 川端伊久乃：女性競技者のためのコンディショニングについて考える：性差と女性の身体的特性. 日本女子体育大学スポーツ栄養フォーラム（東京都），2011. 7.
- 3) 関口敦子：妊娠と薬. 平成 23 年度第 8 回ミニレクチャー（東京都），2011. 10.

(3) シンポジウム：

- 1) 中井章人：日本産婦人科医会の対応（東日本大震災に負けない：全国産婦人科医の連携）. 日本産科婦人科学会学術講演会（第 63 回）（大阪市），2011. 8.
- 2) 中井章人：危機的出血への対応：産科危機的出血への対応. 第 35 回日本血液事業学会総会（東京都），2011. 10.

(4) セミナー：

- 1) 中井章人：DIC（播腫性血管内凝固症候群）の発症機構・病態をふまえた基礎疾患ごとにみる診断・治療・医療ニーズと新薬開発ポイント：産科 DIC の特徴と対応およびメディカルニーズ：「産科危機的出血への対応ガイドライン」を読み解く. 技術情報協会セミナー（東京都），2011. 11.

(5) 一般講演：

- 1) 阿部裕子，林 昌子，三宅秀彦，山岸絵美，桑原知仁，印出佑介，奥田直貴，川端伊久乃，関口敦子，中井章人：卵管摘出術後の同側卵巣に異所性妊娠をきたした 1 例. 東京産科婦人科学会例会（第 358 回）（東京都），2011. 5.
- 2) 林 昌子，大屋敦子，中西一步，桑原知仁，山岸絵美，阿部裕子，印出佑介，奥田直貴，川端伊久乃，三宅秀彦，中井章人：19,000mL の大量出血をきたし産褥早期に Sheehan 症候群および両側下肢末梢神経障害を発症した 1 例. 関東連合産科婦人科学会総会・学術集会（第 121 回）（東京都），2011. 6.
- 3) 林 昌子，山岸絵美，桑原知仁，阿部裕子，印出佑介，奥田直貴，川端伊久乃，関口敦子，中井章人：日本産科婦人科学会周産期委員会が推奨する分娩中の胎児心拍数波形分類の再現性. 日本分娩監視研究会（第 37 回）（東京都），2011. 6.
- 4) 川端伊久乃，関口敦子，印出佑介，林 昌子，奥田直貴，阿部裕子，三宅秀彦<sup>1)</sup>，中井章人，竹下俊行<sup>(1)</sup> 葛飾赤十字産院産科）：切迫早産症例におけるプロゲステロン投与の有効性. 日本周産期・新生児医学会総会および学術集会（第 47 回）（札幌市），2011. 7.

- 5) 高橋恵理佳, 山口 暁<sup>1)</sup>, 印出佑介, 山口 稔<sup>1)</sup>, 横田明重<sup>1)</sup>, 都甲明子<sup>1)</sup>, 花岡正智<sup>1)</sup>, 竹下俊行 ( <sup>1)</sup> 山口病院) : 妊婦の抗サイトメガロウイルス抗体スクリーニングの実施成績. 日本周産期・新生児医学会総会および学術集会 (第 47 回) (札幌市), 2011. 7.
- 6) 印出佑介, 山口 暁<sup>1)</sup>, 都甲明子<sup>1)</sup>, 横田明重<sup>1)</sup>, 山口 稔<sup>1)</sup>, 中井章人, 竹下俊行 ( <sup>1)</sup> 山口病院) : 帝王切開分娩中の B 群レンサ球菌 (GBS) の新生児移行は予定手術より緊急手術で高率に生じる. 日本周産期・新生児医学会総会および学術集会 (第 47 回) (札幌市), 2011. 7.
- 7) 林 昌子, 中井章人, 中西一步, 山岸絵美, 桑原知仁, 阿部裕子, 印出佑介, 奥田直貴, 川端伊久乃, 三宅秀彦, 大屋敦子, 竹下俊行 : 日本産科婦人科学会周産期委員会が提唱する分娩中の胎児心拍数陣痛図の波形分類の再現性と有用性の検討. 日本産科婦人科学会学術講演会 (第 63 回) (大阪市), 2011. 8.
- 8) 大屋敦子, 三宅秀彦, 川端伊久乃, 奥田直貴, 林 昌子, 印出佑介, 阿部裕子, 山岸絵美, 桑原知仁, 中西一步, 中井章人, 竹下俊行 : 妊娠 12 週以後の絨毛膜下血腫において周産期予後に影響する因子の検討. 日本産科婦人科学会学術講演会 (第 63 回) (大阪市), 2011. 8.
- 9) 中井章人<sup>1)</sup>, 水上尚典<sup>2)</sup>, 齋藤 滋<sup>3)</sup>, 海野信也<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医大, <sup>2)</sup> 北海道大, <sup>3)</sup> 富山大, <sup>4)</sup> 北里大) : わが国の妊産婦のインフルエンザ H1N1 2009 感染状況とその対策に関する調査. 日本産科婦人科学会学術講演会 (第 63 回) (大阪市), 2011. 8.
- 10) 印出佑介<sup>1)</sup>, 山口 暁<sup>2)</sup>, 都甲明子<sup>2)</sup>, 竹内久美<sup>2)</sup>, 横田明重<sup>2)</sup>, 山口 稔<sup>2)</sup>, 中井章人<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医大, <sup>2)</sup> 山口病院) : 妊婦の性器クラミジア感染は初産と若年で高率に認められる. 日本産科婦人科学会学術講演会 (第 63 回) (大阪市), 2011. 8.
- 11) 米山剛一<sup>1)</sup>, 山田 隆<sup>1)</sup>, 土居大祐<sup>1)</sup>, 黒瀬圭輔<sup>1)</sup>, 鴨井青龍<sup>1)</sup>, 中井章人<sup>1)</sup>, 朝倉啓文<sup>1)</sup>, 三浦 敦<sup>1)</sup>, 加藤久盛<sup>2)</sup>, 中山裕樹<sup>2)</sup>, 河合尚基<sup>3)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医大, <sup>2)</sup> 神奈川県立がんセンター, <sup>3)</sup> 東京臨海病院) : 子宮体癌予後因子に関する再検討. 日本産科婦人科学会学術講演会 (第 63 回) (大阪市), 2011. 8.
- 12) 山田 隆<sup>1)</sup>, 米山剛一<sup>1)</sup>, 黒瀬圭輔<sup>1)</sup>, 土居大祐<sup>1)</sup>, 鴨井青龍<sup>1)</sup>, 中井章人<sup>1)</sup>, 朝倉啓文<sup>1)</sup>, 河合尚基<sup>2)</sup>, 加藤久盛<sup>3)</sup>, 中山裕樹<sup>3)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医大, <sup>2)</sup> 東京臨海病院, <sup>3)</sup> 神奈川県立がんセンター) : 若年子宮体癌に関する検討. 日本産科婦人科学会学術講演会 (第 63 回) (大阪市), 2011. 8.
- 13) 滝本佳世子, 川端伊久乃, 尾崎景子, 中尾仁彦, 桑原知仁, 山岸絵美, 阿部裕子, 印出佑介, 林 昌子, 奥田直貴, 関口敦子, 中井章人 : 双角単頸子宮に合併した胎盤遺残に対する保存的治療に抵抗する子宮内感染のため子宮全摘出術を施行した 1 例. 第 79 回日本医科大学医学会総会 (東京都), 2011. 9.
- 14) 尾崎景子, 阿部裕子, 滝本佳世子, 中尾仁彦, 桑原知仁, 山岸絵美, 印出佑介, 林 昌子, 奥田直貴, 川端伊久乃, 関口敦子, 中井章人 : 双胎隔壁に副胎盤付着を認めた 2 絨毛膜 2 羊膜双胎の 1 例. 第 359 回東京産婦人科学会例会 (東京都), 2011. 9.
- 15) 滝本佳世子, 川端伊久乃, 尾崎景子, 中尾仁彦, 桑原知仁, 山岸絵美, 阿部裕子, 印出佑介, 林 昌子, 奥田直貴, 関口敦子, 中井章人 : 感染により子宮全摘出を余儀なくされた胎盤残留の 1 例. 第 122 回関東連合産科婦人科学会総会・学術集会 (横浜市), 2011. 10.
- 16) 滝本佳世子, 阿部裕子, 尾崎景子, 中尾仁彦, 桑原知仁, 山岸絵美, 印出佑介, 林 昌子, 奥田直貴, 川端伊久乃, 関口敦子, 中井章人 : 双胎隔壁に副胎盤付着を認めた 2 絨毛膜 2 羊膜双胎の 1 例. 平成 23 年度第 12 回日本医科大学産婦人科学教室同窓会臨床研究会 (東京都), 2011. 11.
- 17) 山岸絵美, 奥田直貴, 滝本佳世子, 尾崎景子, 中尾仁彦, 印出佑介, 林 昌子, 川端伊久乃, 関口敦子, 中井章人 : Adenomyomectomy 後の全前置癒着胎盤に小腸子宮内膜症を合併し cesarean hysterectomy を施行した 1 例. 第 360 回東京産婦人科学会例会 (東京都), 2011. 12.
- 18) 滝本佳世子, 川端伊久乃, 関口敦子, 朝倉啓文, 越野立夫, 中井章人 : 長期安静入院が妊婦の身体組成に及ぼす影響. 第 25 回女性スポーツ医学研究会学術集会 (東京都), 2011. 12.
- 19) 中尾仁彦, 印出佑介, 林 昌子, 滝本佳世子, 尾崎景子, 桑原知仁, 高橋恵理佳, 山岸絵美, 奥田直貴, 川端伊

久乃, 関口敦子, 中井章人: 妊娠中に尿崩症と診断とされた1例. 第25回東京産婦人科医会・東京産科婦人科学会合同研修会並びに第361回東京産科婦人科学会例会(東京都), 2012. 2.

## [千葉北総病院女性診療科・産科]

### 研究概要

当教室では婦人科腫瘍学部門, 手術学部門, 周産期学部門のそれぞれにおいて基礎研究ならびに臨床研究を行っている. 婦人科腫瘍学部門では子宮頸癌, 子宮体癌, 卵巣癌の発がんに関する基礎研究を行っている. そのなかでも特に子宮体癌におけるマイクロRNAの関与に関する研究を精力的に継続している. また, 卵巣癌化学療法に関する臨床研究としてこれまで多施設共同研究として遂行してきたパクリタキセル, カルボプラチンの隔週投与法の結果がまとまりつつある. また, 子宮体癌に関する臨床研究として病理組織学的因子のどれが実際の独立した予後因子かを検討するために多施設の大規模研究を展開中である. 手術学部門では, 婦人科内視鏡手術を中心として臨床研究を行っている. さらに, 婦人科内視鏡手術の指導法, 手術時に使用する電気メスの原理および指導法の研究を行っている周産期学部門においては妊産婦死亡の減少を目的として, 羊水塞栓症の発症機序を解明するために臨床病理学的研究を施行中である.

### 研究業績

#### 論文

##### [追加分]

追加分症例報告:

- 1) 高屋 茜, 三浦 敦<sup>1</sup>, 新村裕樹<sup>1</sup>, 米山剛一, 鴨井青龍<sup>1</sup>, 竹下俊行<sup>1</sup>, 彭 為霞<sup>2</sup>, 川本雅司<sup>2</sup> (1) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科, (2) 日本医科大学付属病院病理部): 嚢胞状の外観を呈し卵巣原発悪性腫瘍との鑑別が困難であった子宮平滑筋肉腫の1例. 日本産科婦人科学会東京地方部会誌 2010; 59 (4): 527-532.

(1) 原著:

- 1) 尾崎景子<sup>1</sup>, 山本章人<sup>1</sup>, 峯 克也<sup>1</sup>, 米山剛一, 明楽重夫<sup>1</sup>, 川本雅司<sup>2</sup>, 竹下俊行<sup>1</sup> (1) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科, (2) 日本医科大学付属病院病理部): 後腹膜に発生した子宮内膜症性嚢胞の1症例. 日本エンドメトリオーシス 2011; 32: 180-184.
- 2) Ishibashi O<sup>1</sup>, Ohkuchi A<sup>2</sup>, Ali M<sup>1</sup>, Kurashina R<sup>3</sup>, Luo S<sup>4</sup>, Ishikawa T<sup>1</sup>, Takizawa T<sup>1</sup>, Hirashima C<sup>2</sup>, Takahashi K<sup>2</sup>, Migita M<sup>5</sup>, Ishikawa G<sup>3</sup>, Yoneyama K, Asakura H<sup>6</sup>, Takeshita T<sup>3</sup>, Takizawa T<sup>1</sup>, et al. (1) Department of Molecular Medicine and Anatomy, Nippon Medical School, (2) Department of Obstetrics and Gynecology, Jichi Medical University, (3) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School Hospital, (4) First Clinical College of Harbin Medical University, (5) Department of Pediatrics, Nippon Medical School Hospital, (6) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital): Hydroxysteroid (17- $\beta$ ) Dehydrogenase 1 Is Dysregulated by Mir-210 and Mir-518c That Are Aberrantly Expressed in Preeclamptic Placentas: A Novel Marker for Predicting Preeclampsia. Hypertension 2012; 59 (2): 265-273.

#### 著書

- 1) 阿部裕子, 中井章人<sup>1</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院女性診療科・産科): [共著] 胎児発育不全. 周産期医学必修知識(「周産期医学」編集委員会), 2011; pp394-396, 東京医学社.

## 学会発表

### 〔追加分〕

#### 追加分一般講演：

- 1) 尾崎景子<sup>1)</sup>, 山本晃人<sup>1)</sup>, 峯 克也<sup>1)</sup>, 米山剛一, 明楽重夫<sup>1)</sup>, 川本雅司<sup>2)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 女性診療科・産科, 2) 日本医科大学付属病院 病理部)：後腹膜に発生した子宮内膜症性嚢胞の1症例. 日本エンドメトリオーシス学会 (第32回) (東京都), 2011. 1.
- 2) 中尾仁彦<sup>1)</sup>, 高橋恵理佳<sup>1)</sup>, 神戸沙織<sup>2)</sup>, 渡邊建一郎<sup>2)</sup>, 柿栖陸実<sup>3)</sup>, 山田 隆, 五十嵐健治, 渡辺美千明, 井内亜美<sup>4)</sup>, 大秋美治<sup>4)</sup>, 米山剛一 (1) 日本医科大学多摩永山病院女性診療科・産科, 2) 日本医科大学大学院, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科, 4) 日本医科大学千葉北総病院病理部)：卵巣原発腺肉腫の1例. ちば産科婦人科学会平成23年度冬季学術講演会 (千葉県), 2011. 1.
- 3) 中西一步, 市川雅男<sup>1)</sup>, 明楽重夫<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科)：当科におけるTVM (Tension-free vaginal mesh) 法の現状と合併症に関する検討. 日本女性骨盤底医学会学術集会 (第12回) (埼玉県), 2010. 5.
- 4) 中西一步, 阿部 崇<sup>2)</sup>, 中尾仁彦<sup>1)</sup>, 大内 望<sup>2)</sup>, 市川智子<sup>2)</sup>, 峯 克也<sup>2)</sup>, 澤倫太郎<sup>2)</sup>, 磯崎太一<sup>2)</sup>, 明楽重夫<sup>2)</sup>, 竹下俊行<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院女性診療科・産科, 2) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科)：抗凝固療法を行ったにもかかわらず脳梗塞を合併した抗リン脂質抗体陽性妊娠の1例. 日本産科婦人科学会関東連合地方部会 (第119回) (東京都), 2010. 6.
- 5) 中西一步, 奥田直貴<sup>1)</sup>, 桑原知仁<sup>1)</sup>, 山岸絵美<sup>1)</sup>, 印出佑介<sup>1)</sup>, 林 昌子<sup>1)</sup>, 川端伊久乃<sup>1)</sup>, 三宅秀彦<sup>1)</sup>, 関口敦子<sup>1)</sup>, 中井章人<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院女性診療科・産科)：大網原発成熟奇形腫の1例. 日本産科婦人科学会東京地方部会 (第357回) (東京都), 2011. 2.

#### (1) シンポジウム：

- 1) 渡辺美千明, 渡邊建一郎<sup>1)</sup>, 神戸沙織<sup>1)</sup>, 阿部裕子, 山田 隆, 峯 克也<sup>2)</sup>, 市川雅男<sup>2)</sup>, 黒瀬圭輔<sup>2)</sup>, 米山剛一, 明楽重夫<sup>2)</sup>, 竹下俊行<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学大学院, 2) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科)：当科で施行する小切開・吊り上げ法による腹腔鏡下手術：Reduced Port Surgeryの観点から. 小切開・鏡視外科学会 (第3回) (東京都), 2011. 11.
- 2) 永野玲子, 星野裕子<sup>1)</sup>, 船倉 翠<sup>1)</sup>, 品川寿弥<sup>1)</sup>, 深田幸仁<sup>1)</sup>, 林 瑞成<sup>1)</sup>, 渡辺とよ子<sup>2)</sup> (1) 東京都立墨東病院周産期センター産科, 2) 東京都立墨東病院周産期センター新生児科)：当院における妊娠22-23週の分娩の検討 (分娩様式と新生児予後について). 日本周産期・新生児医学会 (第47回) (北海道), 2011. 7.
- 3) 永野玲子, 星野裕子<sup>1)</sup>, 船倉 翠<sup>1)</sup>, 品川寿弥<sup>1)</sup>, 深田幸仁<sup>1)</sup>, 林 瑞成<sup>1)</sup>, 渡辺とよ子<sup>2)</sup> (1) 東京都立墨東病院周産期センター産科, 2) 東京都立墨東病院周産期センター新生児科)：当院における出産後虐待予想ケースの介入について. 日本周産期・新生児医学会 (第47回) (北海道), 2011. 7.
- 4) 渡辺美千明：最新の産婦人科手術は低侵襲・機能温存・整容性の頂点をめざす. 日本医科大学医学会 (第21回) (東京都), 2011. 6.
- 5) 渡辺美千明, 渡邊建一郎<sup>1)</sup>, 神戸沙織<sup>1)</sup>, 阿部裕子, 山田 隆, 峯 克也<sup>2)</sup>, 市川雅男<sup>2)</sup>, 黒瀬圭輔<sup>2)</sup>, 米山剛一, 明楽重夫<sup>2)</sup>, 竹下俊行<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学大学院, 2) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科)：当科で施行する小切開・吊り上げ法による腹腔鏡下手術：Reduced Port Surgeryの観点から. 小切開・鏡視外科学会 (第3回) (東京), 2011. 9.

#### (2) ワークショップ：

- 1) 渡邊建一郎<sup>1)</sup>, 米山剛一, 神戸沙織<sup>1)</sup>, 中尾仁彦<sup>2)</sup>, 米澤美令, 柿栖陸実<sup>3)</sup>, 山田 隆, 五十嵐健治, 渡辺美千明, 新井 悟<sup>4)</sup>, 大秋美治<sup>4)</sup> (1) 日本医科大学大学院, 2) 日本医科大学多摩永山病院女性診療科・産科, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科, 4) 日本医科大学千葉北総病院病理部)：癌肉腫, 腺肉腫18例の治療

成績. 日本婦人科腫瘍学会 (第 50 回) (北海道), 2011. 7.

(3) 一般講演:

- 1) 神戸沙織, 五十嵐健治, 中尾仁彦, 米澤美令, 高屋 茜, 山田 隆, 渡辺美千明, 竹間友紀<sup>1)</sup>, 海津聖彦<sup>1)</sup>, 榑崎秀彦<sup>1)</sup>, 藤野 修<sup>1)</sup>, 米山剛一 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院小児科): 15 歳に発症した巨大卵巣粘液性境界悪性腫瘍の 1 例. 関東連合産科婦人科学会総会・学術集会 (第 121 回) (東京都), 2011. 6.
- 2) 林 昌子<sup>1)</sup>, 大屋敦子<sup>1)</sup>, 中西一步, 桑原知仁<sup>1)</sup>, 山岸絵美<sup>1)</sup>, 阿部裕子, 印出佑介<sup>1)</sup>, 奥田直貴<sup>1)</sup>, 川端伊久乃<sup>1)</sup>, 三宅秀彦<sup>1)</sup>, 中井章人<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院女性診療科・産科): 19,000mL の大量出血をきたし産褥早期に Sheehan 症候群および両側下肢末梢神経障害を発症した 1 例. 関東連合産科婦人科学会総会・学術集会 (第 121 回) (東京都), 2011. 6.
- 3) 米山剛一, 米澤美令, 神戸沙織<sup>1)</sup>, 高屋 茜 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学大学院): 原発性肺高血圧症に起因した妊産婦死亡 1 剖検例の臨床病理学的検討. 日本周産期・新生児医学会総会および学術集会 (第 47 回) (北海道), 2011. 7.
- 4) 米山剛一, 中尾仁彦, 渡邊建一郎<sup>1)</sup>, 神戸沙織<sup>1)</sup>, 米澤美令, 高屋 茜, 山田 隆, 五十嵐健治, 渡辺美千明, 新井 悟<sup>2)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学大学院, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院病理部): Goblet cell metaplasia が特徴的であった子宮頸部腺癌の 1 例. 日本婦人科腫瘍学会学術講演会 (第 50 回) (北海道), 2011. 7.
- 5) 渡邊建一郎<sup>1)</sup>, 米山剛一, 神戸沙織<sup>1)</sup>, 中尾仁彦<sup>2)</sup>, 米澤美令, 柿栖睦実<sup>3)</sup>, 山田 隆, 五十嵐健治, 渡辺美千明, 新井 悟<sup>4)</sup>, 大秋美治<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学大学院, <sup>2)</sup> 日本医科大学多摩永山病院女性診療科・産科, <sup>3)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科, <sup>4)</sup> 日本医科大学千葉北総病院病理部): 癌肉腫, 腺肉腫 18 例の治療成績. 日本婦人科腫瘍学会学術講演会 (第 50 回) (北海道), 2011. 7.
- 6) 神戸沙織<sup>1)</sup>, 渡辺美千明, 渡邊建一郎<sup>1)</sup>, 山田 隆, 米山剛一, 明楽重夫<sup>2)</sup>, 竹下俊行<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学大学院, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院女性診療科・産科): 妊娠 17 週, 吊り上げ法で腹腔鏡下手術を施行した卵巣皮様嚢腫の 1 症例. 日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会 (第 51 回) (大阪府), 2011. 8.
- 7) 里見操緒<sup>1)</sup>, 平泉良枝<sup>1)</sup>, 白銀 恵, 米澤美令, 菊池美美<sup>1)</sup>, 中井晶子<sup>1)</sup>, 三浦直美<sup>1)</sup>, 鈴木俊治<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 葛西赤十字産院): 低出生体重児における胎盤・臍帯要因の検討. 日本産科婦人科学会学術講演会 (第 63 回) (大阪府), 2011. 8.
- 8) 神戸沙織, 市川智子<sup>1)</sup>, 小野修一<sup>1)</sup>, 阿部 崇<sup>1)</sup>, 峯 克也<sup>1)</sup>, 桑原慶充<sup>1)</sup>, 明楽重夫<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院女性診療科・産科): 抗リン脂質抗体陽性不妊症患者では血清グラニューライシン濃度が高値を示す. 日本産科婦人科学会学術講演会 (第 63 回) (大阪府), 2011. 8.
- 9) 瀧澤俊広<sup>1)</sup>, 石橋 宰<sup>1)</sup>, 大口昭英<sup>3)</sup>, 倉品隆平<sup>2)</sup>, 石川 源<sup>2)</sup>, 平嶋周子<sup>3)</sup>, 高橋佳代<sup>3)</sup>, 泉 章夫<sup>3)</sup>, 米山剛一, 朝倉啓文<sup>2)</sup>, 松原茂樹<sup>3)</sup>, 竹下俊行<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学分子解剖学, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院, <sup>3)</sup> 自治医科大学): 妊娠高血圧症候群に関連する microRNA とその標的遺伝子 HSD17B1 の同定: 新たな予知マーカーの開発. 日本産科婦人科学会学術講演会 (第 63 回) (大阪府), 2011. 8.
- 10) 阿部裕子, 林 昌子<sup>1)</sup>, 三宅秀彦<sup>1)</sup>, 山岸絵美<sup>1)</sup>, 桑原知仁<sup>1)</sup>, 印出佑介<sup>1)</sup>, 奥田直貴<sup>1)</sup>, 川端伊久乃<sup>1)</sup>, 関口敦子<sup>1)</sup>, 中井章人<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院女性診療科・産科): 卵管摘出術後の同側卵巣に異所性妊娠をきたした 1 例. 東京都産科婦人科学会例会 (第 358 回) (東京都), 2011. 5.
- 11) 竹間友紀<sup>1)</sup>, 徐 東博<sup>1)</sup>, 藤井秀一<sup>1)</sup>, 海津聖彦<sup>1)</sup>, 榑崎秀彦<sup>1)</sup>, 宮武千晴<sup>1)</sup>, 小泉慎也<sup>1)</sup>, 浅野 健<sup>1)</sup>, 藤野 修<sup>1)</sup>, 神戸沙織<sup>2)</sup>, 米山剛一 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院 小児科, <sup>2)</sup> 日本医科大学大学院): 腹満を主訴に見えられ深部静脈血栓症を伴った粘液性嚢胞腺癌の 14 歳女児例. 日本小児科学会千葉地方会 (第 189 回) (千葉県), 2011. 6.
- 12) 桑原広輔<sup>1)</sup>, 高屋 茜, 山田 隆, 米澤美令, 白銀 恵, 神戸沙織, 中西一步, 五十嵐健治, 渡辺美千明, 米山剛一 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院研修医): 術前に扁平上皮癌への悪性転化と診断した成熟嚢胞性奇形腫の 1 例. 関東連合産科婦人科学会 (第 122 回) (神奈川県), 2011. 10.

- 13) 中尾仁彦<sup>1)</sup>, 山田 隆, 神戸沙織<sup>2)</sup>, 高橋恵理佳<sup>1)</sup>, 渡辺美千明, 米山剛一, 大秋美治<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院 女性診療科・産科, 2) 日本医科大学大学院, 3) 日本医科大学千葉北総病院 病理部): 稀な卵巣腺肉腫の1例. 日本婦人科腫瘍学会 (第50回) (北海道), 2011. 7.
- 14) 山本晃人<sup>1)</sup>, 鴨井青龍<sup>1)</sup>, 三浦 敦<sup>1)</sup>, 黒瀬圭輔<sup>1)</sup>, 米山剛一, 竹下俊行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 女性診療科・産科): Low-dose FP療法が著効した乳房外Paget病の1例. 日本婦人科腫瘍学会 (第50回) (北海道), 2011. 7.
- 15) 島田 学<sup>1)</sup>, 鴨井青龍<sup>1)</sup>, 高屋 茜, 山下恵理子<sup>1)</sup>, 山本晃人<sup>1)</sup>, 山田 隆, 三浦 敦<sup>1)</sup>, 黒瀬圭輔<sup>1)</sup>, 渡辺美千明, 米山剛一, 竹下俊行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 女性診療科・産科): 3度目の術後に後腹膜から回腸を穿通して再発した子宮内膜間質肉腫の1例. 日本婦人科腫瘍学会 (第50回) (北海道), 2011. 7.
- 16) 安井麻利江, 鴨井青龍<sup>1)</sup>, 高橋恵理佳<sup>2)</sup>, 岩崎奈央<sup>1)</sup>, 山本晃人<sup>1)</sup>, 山田 隆, 三浦 敦<sup>1)</sup>, 石川温子, 黒瀬圭輔<sup>1)</sup>, 土居大祐<sup>3)</sup>, 米山剛一, 竹下俊行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 女性診療科・産科, 2) 日本医科大学多摩永山病院女性診療科・産科, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院 女性診療科・産科): 子宮温存療法後に癌肉腫として多発転移をきたした早期子宮体部類内膜癌の1例. 日本婦人科腫瘍学会 (第50回) (北海道), 2011. 7.
- 17) 黒瀬圭輔<sup>1)</sup>, 大内 望<sup>1)</sup>, 山本晃人<sup>1)</sup>, 峯 克也<sup>1)</sup>, 市川雅男<sup>1)</sup>, 三浦 敦<sup>1)</sup>, 米山剛一, 明楽重夫<sup>1)</sup>, 鴨井青龍<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 女性診療科・産科): 良性卵巣腫瘍の診断にて腹腔鏡下手術を行い病理検査にて悪性と判明した症例の解析. 日本婦人科腫瘍学会 (第50回) (北海道), 2011. 7.
- 18) 柿栖睦実<sup>1)</sup>, 米山剛一, 中尾仁彦<sup>2)</sup>, 神戸沙織<sup>3)</sup>, 渡邊建一郎<sup>3)</sup>, 山田 隆, 五十嵐健治, 渡辺美千明, 鴨井青龍<sup>4)</sup>, 大秋美治<sup>5)</sup>, 竹下俊行<sup>4)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科, 2) 日本医科大学多摩永山病院女性診療科・産科, 3) 日本医科大学大学院, 4) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科, 5) 日本医科大学千葉北総病院病理部): 当科における原発性腹膜癌9症例の臨床病理学的検討: 病巣5cm以下の卵巣癌との比較. 日本産科婦人科学会 (第63回) (大阪府), 2011. 8.
- 19) 中尾仁彦<sup>1)</sup>, 米山剛一, 神戸沙織<sup>2)</sup>, 渡邊建一郎<sup>2)</sup>, 柿栖睦実<sup>3)</sup>, 山田 隆, 五十嵐健治, 渡辺美千明, 竹下俊行<sup>4)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院 女性診療科・産科, 2) 日本医科大学大学院, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科, 4) 日本医科大学付属病院 女性診療科・産科): 腸上皮化生を示した子宮頸部腺癌の1症例. 日本産科婦人科学会 (第63回) (大阪府), 2011. 8.
- 20) 渡邊建一郎<sup>1)</sup>, 米山剛一, 神戸沙織<sup>1)</sup>, 中尾仁彦<sup>2)</sup>, 柿栖睦実<sup>3)</sup>, 山田 隆, 五十嵐健治, 渡辺美千明, 大秋美治<sup>4)</sup>, 竹下俊行<sup>5)</sup> (1) 日本医科大学大学院, 2) 日本医科大学多摩永山病院 女性診療科・産科, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院 女性診療科・産科, 4) 日本医科大学千葉北総病院 病理部, 5) 日本医科大学付属病院 女性診療科・産科): 子宮癌肉腫, 腺肉腫13例の治療成績. 日本産科婦人科学会 (第63回) (大阪府), 2011. 8.
- 21) 山田 隆, 米山剛一, 黒瀬圭輔<sup>1)</sup>, 土居大祐<sup>1)</sup>, 鴨井青龍<sup>1)</sup>, 中井章人<sup>2)</sup>, 朝倉啓文<sup>3)</sup>, 河合尚基<sup>4)</sup>, 加藤久盛<sup>5)</sup>, 中山裕樹<sup>5)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 女性診療科・産科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 女性診療科・産科, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院 女性診療科・産科, 4) 東京臨海病院 産婦人科, 5) 神奈川県がんセンター 婦人科): 若年子宮体癌に関する検討. 日本産科婦人科学会 (第63回) (大阪府), 2011. 8.
- 22) 米山剛一, 山田 隆, 土居大祐<sup>1)</sup>, 黒瀬圭輔<sup>1)</sup>, 鴨井青龍<sup>1)</sup>, 中井章人<sup>2)</sup>, 朝倉啓文<sup>3)</sup>, 三浦 敦<sup>1)</sup>, 加藤久盛<sup>4)</sup>, 中山裕樹<sup>4)</sup>, 河合尚基<sup>5)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 女性診療科・産科, 2) 日本医科大学多摩永山病院 女性診療科・産科, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院 女性診療科・産科, 4) 神奈川県がんセンター 婦人科, 5) 東京臨海病院 産婦人科): 子宮体癌予後因子に関する再検討. 日本産科婦人科学会 (第63回) (大阪府), 2011. 8.
- 23) 瀧澤俊広<sup>1)</sup>, 石橋 宰<sup>1)</sup>, 大口昭英<sup>2)</sup>, 倉品隆平<sup>3)</sup>, 石川 源<sup>3)</sup>, 平嶋周子<sup>2)</sup>, 高橋佳代<sup>2)</sup>, 泉 章夫<sup>2)</sup>, 米山剛一, 朝倉啓文<sup>4)</sup>, 松原茂樹<sup>2)</sup>, 竹下俊行<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学分子解剖講座, 2) 自治医科大学産婦人科, 3) 日本医科大学付属病院女性診療科・産科, 4) 日本医科大学武蔵小杉病院女性診療科・産科): 妊娠高血圧症候群に関連するmicroRNAとその標的遺伝子HSD17B1の同定 新たな予知マーカーの開発. 日本産科婦人科学会 (第63

- 回) (大阪府), 2011. 8.
- 24) 高屋 茜, 三浦 敦<sup>1)</sup>, 新村裕樹<sup>1)</sup>, 米山剛一, 明楽重夫<sup>1)</sup>, 鴨井青龍<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup>, 彭 為霞<sup>2)</sup>, 川本雅司<sup>2)</sup>  
(<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院女性診療科・産科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院病理部): 嚢胞状の外観を呈し卵巣原発悪性腫瘍との鑑別が困難であった子宮平滑筋肉腫の1例. 日本産科婦人科学会東京地方部会 (第358回) (東京都), 2011. 5.
- 25) 渡辺美千明, 渡邊建一郎<sup>1)</sup>, 山田 隆, 石川温子, 峯 克也<sup>2)</sup>, 市川雅男<sup>2)</sup>, 黒瀬圭輔<sup>2)</sup>, 米山剛一, 明楽重夫<sup>2)</sup>, 竹下俊行<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学大学院, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院女性診療科・産科): 子宮腺筋症に対する腹腔鏡補助下子宮腺筋症切除術の標準化にむけて: 17症例について手術成績の検討. 日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会 (第51回) (大阪府), 2011. 8.
- 26) 阿部裕子, 渡辺美千明, 中西一步, 白銀 恵, 米澤美令, 高屋 茜, 山田 隆, 米山剛一: 医育機関でおこなう小切開・吊り上げ法による腹腔鏡下手術: Reduced Port Surgery の観点から. 千葉県産婦人科内視鏡手術研究会 (第1回) (千葉県), 2012. 3.
- 27) 渡辺美千明, 中西一步, 白銀 恵, 米澤美令, 高屋 茜, 阿部裕子, 山田 隆, 米山剛一: 腹腔鏡補助下子宮腺筋症切除術は月経困難と妊孕性を改善する. 千葉県産婦人科内視鏡手術研究会 (第1回) (千葉県), 2012. 3.
- 28) 渡辺美千明, 中西一步, 白銀 恵, 米澤美令, 高屋 茜, 阿部裕子, 山田 隆, 米山剛一: <復習>全腹腔鏡下子宮全摘術: TLH を安全におこなうために. 千葉県産婦人科内視鏡手術研究会 (第1回) (千葉県), 2012. 3.
- 29) 安井麻利江, 五十嵐美和<sup>1)</sup>, 小野修一<sup>1)</sup>, 山下恵理子<sup>1)</sup>, 桑原慶充<sup>1)</sup>, 里見操緒<sup>1)</sup>, 澤倫太郎<sup>1)</sup>, 明楽重夫<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院女性診療科・産科): 帝王切開癒痕部内に胎嚢を認めた進行流産の1例. 関東連合産科婦人科学会 (第122回) (神奈川県), 2011. 10.
- 30) 中西一步, 白銀 恵, 米澤美令, 阿部裕子, 高屋 茜, 山田 隆, 渡辺美千明, 米山剛一: Incredible tumors arising from bilateral ovaries. 平成23年度日本医科大学産婦人科学教室同窓会臨床研究会 (東京), 2011. 11.
- 31) 米澤美令, 山口 暁<sup>1)</sup>, 横田明重<sup>1)</sup>, 山口 稔<sup>1)</sup>, 米山剛一 (<sup>1)</sup> 成和会山口病院): 産褥早期における子宮頸部細胞診とHPV感染状況の検討. 千葉産科婦人科学会平成23年度冬期学術講演会 (千葉県), 2012. 1.
- 32) 高屋 茜, 桑原広輔, 白銀 恵, 中西一步, 米澤美令, 阿部裕子, 山田 隆, 米山剛一, 竹下俊行<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院女性診療科・産科): 術前に扁平上皮癌への悪性転化と診断した成熟嚢胞性奇形腫の1例. 千葉産科婦人科学会平成23年度冬期学術講演会 (千葉県), 2012. 1.
- 33) 白銀 恵, 渡辺美千明, 神戸沙織<sup>1)</sup>, 中西一步, 米澤美令, 高屋 茜, 阿部裕子, 山田 隆, 米山剛一 (<sup>1)</sup> 日本医科大学大学院): 卵巣腫瘍が疑われた虫垂粘液性嚢胞腺腫の1例. 千葉産科婦人科学会平成23年度冬期学術講演会 (千葉県), 2012. 1.
- 34) 中西一步, 白銀 恵, 米澤美令, 阿部裕子, 高屋 茜, 山田 隆, 渡辺美千明, 米山剛一: 子宮内膜細胞診を契機に発症したと考えられる骨盤内炎症性疾患 (PID) の2症例. 千葉産科婦人科学会平成23年度冬期学術講演会 (千葉県), 2012. 1.
- 35) 神戸沙織<sup>1)</sup>, 中尾仁彦<sup>2)</sup>, 渡邊建一郎<sup>1)</sup>, 米澤美令, 高屋 茜, 山田 隆, 五十嵐健治, 渡辺美千明, 米山剛一 (<sup>1)</sup> 日本医科大学大学院, <sup>2)</sup> 日本医科大学多摩永山病院女性診療科・産科): 15歳に発症した巨大卵巣粘液性境界悪性腫瘍の1例. 日医・東邦・印旛市郡産婦人科臨床研究会 (第10回) (千葉県), 2011. 4.
- 36) 中西一步, 白銀 恵, 米澤美令, 高屋 茜, 阿部裕子, 山田 隆, 渡辺美千明, 米山剛一: 特異な経過をたどった卵巣腫瘍の1例. 日医・東邦・印旛市郡産婦人科臨床研究会 (第11回) (千葉県), 2011. 10.

## 14. 耳鼻咽喉科学講座

[付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科]

### 研究概要

継続する教室の主たる研究領域は、鼻科学、免疫・アレルギー学、耳科学、めまい平衡医学、頭頸部外科学、音声言語医学ならびに嚥下機能に関するものである。研究手法としては、生理学的、形態学的、免疫学的、分子生物的方法を十分に取り入れた質の高い基礎的また臨床的研究を目指している。この入力された業績の英文・和文論文、学会発表で示されている通り、基礎的あるいは臨床的研究、症例検討等に関する業績の結果の提示が積極的に国内・国外に示されている。2011年度に発表された英文原著は昨年度より減少しているが、どれも質の高いものである。また頭頸部腫瘍というエビデンスの構築しにくい分野でも英文論文を発表していることは非常に価値のあるものである。講座主任の執筆した日本のアレルギー性鼻炎ガイドラインの英文版はアジア諸国をはじめ欧米でも注目されている。これらの活動を援助するための、外部からの競争的研究補助金獲得も積極的に行われ、若手研究者の文部科学省研究費補助金やスタッフの厚生労働省科学研究費をはじめとした研究補助金を多く獲得している。主任みずから厚生労働省科学研究費補助金事業の分担研究を行い、花粉症治療の新しい方向性を目指している。他の分野においても積極的に講座の全員で国際学会や国内学会への参加・発表も行い、成果を上げている。次年度も同じように講座全体で質の高い、患者のためになる基礎的・臨床的研究を行っていききたい。

### 研究業績

#### 論文

[追加分]

追加分総説：

- 1) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎の現在と未来。日本医事新報 2011；4530：74-77.

(1) 原著：

- 1) Yonekura S<sup>1</sup>), Okamoto Y<sup>1</sup>), Yamasaki K<sup>1</sup>), Horiguchi S<sup>1</sup>), Hanazawa T<sup>1</sup>), Matsune S<sup>2</sup>), Kurono Y<sup>2</sup>), Yamada T<sup>3</sup>), Fujieda S<sup>3</sup>), Okano M<sup>4</sup>), Okubo K<sup>5</sup>) (1) Department of Otolaryngology, Head and Neck Surgery, Graduate School of Medicine, Chiba University, 2) Department of Otorhinolaryngology, University of Fukui, 3) Department of Otolaryngology, Head and Neck Surgery, Field of Sensory Organology, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University, 4) Department of Otolaryngology, Head and Neck Surgery, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences, 5) Department of Otorhinolaryngology, Nippon Medical School) : A randomized, double-blind, placebo-controlled study of Ten-Cha (*Rubus suavissimus*) on house dust mite allergic rhinitis. *Auris Nasus Larynx* 2011 ; 38 (5) : 600-607.
- 2) Wakabayashi K<sup>1</sup>), Hashiguchi K<sup>2</sup>), Kanzaki S<sup>3</sup>), Fujioka M, Tanaka N, Kawashima K, Suematsu K, Yamamoto H, Iwasaki M, Gotoh M<sup>4</sup>), Horibe S<sup>5</sup>), Naito K<sup>5</sup>), Okubo K<sup>4</sup>) (1) Kitasato Research Ins., 2) Futaba Clinic, 3) Keio University, 4) Nippon Medical School, 5) Fujita Health University) : Pranlukast dry syrup inhibits symptoms of Japanese cedar pollinosis in children using OHIO Chamber. *Allergy Asthma Proc* 2011 ; 33 (1) : 102-109.
- 3) Gotoh M<sup>1</sup>), Suzuki H<sup>1</sup>), Okubo K<sup>1</sup>) (1) Nippon Medical School) : Delay of onset of symptoms of Japanese cedar

pollinosis by treatment with a leukotriene receptor antagonist. *Allergol Int.* 2011; 60 (4) : 483-489.

- 4) 後藤 穰 : アレルゲンと免疫療法の再考 : 鼻炎・喘息における舌下免疫療法の展望. *喘息* 2011; 24 (1) : 53-57.
- 5) 後藤 穰 : 花粉症の疑問に答える : 花粉症はどの程度 QOL を低下させるか? . *JOHNS* 2012; 28 (1) : 93-96.
- 6) 神崎 晶<sup>1)</sup>, 橋口一弘<sup>2)</sup>, 若林健一郎<sup>1)</sup>, 藤岡正人<sup>3)</sup>, 末松潔親<sup>4)</sup>, 大久保公裕 ( <sup>1)</sup> 慶応大, <sup>2)</sup> 双葉クリニック, <sup>3)</sup> 北里研究所病院, <sup>4)</sup> 左門町クリニック ) : OHIO Chamber におけるスギ・ヒノキ科花粉連続曝露に対するベボタスチンベシル酸塩 OD 錠の効果. *新薬と臨床* 2011; 60 (11) : 2216-2229.
- 7) 大久保公裕, 奥田 稔 : インターネットを用いたアレルギー性鼻炎患者に対するアンケート調査. *アレルギー・免疫* 2012; 19 (1) : 113-124.
- 8) 太田伸男<sup>1)</sup>, 後藤 穰, 岡野光博<sup>2)</sup>, 湯田厚司<sup>3)</sup>, 松原 篤<sup>4)</sup>, 大久保公裕 ( <sup>1)</sup> 山形大学耳鼻咽喉科, <sup>2)</sup> 岡山大学耳鼻咽喉科, <sup>3)</sup> ゆたクリニック, <sup>4)</sup> 弘前大学耳鼻咽喉科 ) : スギ花粉症に対する薬物療法の実態 インターネットによる医師調査. *Progress in Medicine* 2012; 32 (1) : 125-133.
- 9) Saigusa H : Comparative anatomy of the larynx and related structures. *JMAJ* 2011; 54 (4) : 241-247.
- 10) 山口 智, 三枝英人, 門園 修<sup>1)</sup>, 中村 毅<sup>1)</sup>, 小町太郎<sup>1)</sup>, 伊藤裕之, 大久保公裕 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院 ) : 長期間, 経口摂取を制限されていた 1 症例. *嚥下医学* 2012; 1 (1) : 191-196.

## (2) 総説 :

- 1) 松根彰志 : 慢性炎症の概念と病態 Th1/Th2 バランス. *JOHNS* 2011; 27 (11) : 1761-1764.
- 2) 松根彰志 : アレルギー性鼻炎に伴う慢性副鼻腔炎. *アレルギー・免疫* 2011; 18 (11) : 57-62.
- 3) 松根彰志 : 生活習慣病とアレルギー性鼻炎. *ENTONI* 2011; 135 : 23-27.
- 4) 松根彰志, 大久保公裕, 黒野祐一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 ) : VEGF をターゲットとした花粉症治療の可能性. *臨床免疫・アレルギー科* 2012; 57 (1) : 52-55.
- 5) 後藤 穰 : アレルギーに関する画像とその解説 アレルギー性鼻炎の内視鏡画像. *アレルギー・免疫* 2011; 18 (11) : 1700-1705.
- 6) 後藤 穰 : 花粉症治療に用いられる薬物療法のトピックス. *アレルギー・免疫* 2012; 19 (3) : 36-43.
- 7) Okubo K, Kurono Y<sup>1)</sup>, Fijieda S<sup>2)</sup>, Ogino S<sup>3)</sup>, Uchio E<sup>4)</sup>, Odajima H<sup>5)</sup>, Takenaka H<sup>6)</sup>, Baba K<sup>7)</sup> ( <sup>1)</sup> Kagoshima U, <sup>2)</sup> Fukui U, <sup>3)</sup> Osaka U, <sup>4)</sup> Fukuoka U, <sup>5)</sup> Fukuoka National Hospital, <sup>6)</sup> Osaka Medical C, <sup>7)</sup> Dokyo Medical U ) : Japanese guideline for allergic rhinitis. *Allergol Int.* 2011; 60 (2) : 171-189.
- 8) 大久保公裕 : アレルゲン免疫療法の論理と展望. *呼吸* 2011; 30 (9) : 759-760.
- 9) 大久保公裕 : アレルギー疾患に対する免疫療法の展望. *アレルギー・免疫* 2011; 18 (7) : 783-787.
- 10) 大久保公裕 : 慢性副鼻腔炎の多様性. *アレルギー・免疫* 2011; 18 (12) : 1611-1613.
- 11) 大久保公裕 : スギ花粉症の舌下免疫療法. *Medical Practice* 2011; 28 (10) : 742-743.
- 12) 大久保公裕 : アレルギー性鼻炎と気管支喘息の関連 : one airway one disease. *東京都医師会雑誌* 2012; 64 (1) : 13-18.
- 13) 藤倉輝道 : アレルギー性鼻炎手術療法の術後性変化. *耳鼻咽喉科臨床* 2012; 105 (2) : 178-179.
- 14) 横島一彦, 中溝宗永 : 頭頸部癌治療における緩和ケア. *JOHNS* 2011; 27 (4) : 634-636.
- 15) 三枝英人 : 嚥下検査時のトラブル. *耳喉頭頸* 2012; 84 (1) : 25-28.
- 16) 三枝英人 : 嚥下障害に悩む患者をいかに診察し, 理解するべきか? . *嚥下医学* 2012; 1 (1) : 31-35.

## (3) 解説 :

- 1) 増野 聡<sup>1)</sup>, 後藤 穰 ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院 ) : アレルギー検査法 (16) I 検査の実際 in vivo<sup>3)</sup>. 上気道検査①鼻汁スメア. *アレルギー・免疫* 2011; 18 (5) : 728-732.

## (4) 症例報告 :

- 1) Yokoshima K, Nakamizo M, Kokawa T, Inai S, Sakanushi A, Saito Y, Okubo K : Three cases of carci-

noma of the hypopharynx developing as metachronous second primary cancers after total laryngectomy with radiotherapy for carcinoma of the larynx. J Nippon Med Sch 2011; 78 (4) : 261-266.

- 2) 中溝宗永, 横島一彦, 羽田達正<sup>1)</sup>, 佐久間文子<sup>1)</sup>, 神尾友信<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>2)</sup> (1) 神尾記念病院, 2) 日本医科大学病理学教室東京警察病院病理診断科): 被膜内摘出術を行った耳下腺内顔面神経鞘種例. 耳鼻臨床 2011; 104 (5) : 341-346.
  - 3) 三枝英人, 門園 修, 山口 智, 伊藤裕之, 栗屋俊輔<sup>1)</sup>, 藤井さくら<sup>2)</sup>, 小川香野<sup>2)</sup>, 安部節美<sup>2)</sup>, 杉本泰彦<sup>3)</sup>, 阿部利雄<sup>3)</sup> (1) 付属病院 ME 部, 2) 付属病院看護部, 3) 付属病院ドクターズカー): 飛行機を利用した人工呼吸機管理下の重症高齢患者の遠隔地への搬送経験. 日本医科大学雑誌 2011; 7 (4) : 146-147.
  - 4) 牧野浩司<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 萩原信敏<sup>1)</sup>, 中溝宗永, 横島一彦, 三枝英人, 高橋 健<sup>2)</sup>, 勝田美和子<sup>2)</sup>, 堀場光二<sup>2)</sup>, 横室公良<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学消化器外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院外科): 食道癌術後の縫合不全に続発した難治性縦隔瘻の治療. 日本気管食道科学会報 2011; 62 (2) : 183-189.
- (5) 追加解説:
- 1) 富山俊一, 渡邊健一, 斉藤明彦, 増野 聡, 斉藤亜希子: ステロイド反応性内耳自己免疫病に対する小用量免疫抑制剤治療効果. Otol Jpn 2011; 21 (5) : 777-783.

## 著 書

- 1) 松根彰志, 清水俊明<sup>1)</sup>, 板橋家頭夫<sup>2)</sup>, 永井敏郎<sup>3)</sup>, 山口清次<sup>4)</sup>, 堀川玲子<sup>5)</sup>, 玉井 浩<sup>6)</sup>, 大矢幸弘<sup>5)</sup>, 森内浩幸<sup>7)</sup>, 尾内一信<sup>8)</sup>, 濱岡健城<sup>9)</sup>, 駒田美弘<sup>10)</sup>, その他 700 名 (1) 順天堂大学, 2) 昭和大学, 3) 獨協医科大学, 4) 島根大学, 5) 国立成育医療研究センター, 6) 大阪医科大学, 7) 長崎大学大学院, 8) 川崎医科大学, 9) 京都府立医科大学大学院, 10) その他): [分担] アレルギー性鼻炎. 今日の小児治療指針 第 15 版 (大関武彦 古川 漸 横田俊一郎 水口 雅), 2012; pp827-829, 医学書院.
- 2) 大久保公裕: [分担] 名医が教える薬の使い方 市販の花粉症薬は古いタイプのものばかり. プレジデント MOOK あなたの体調不良にはワケがある, 2011; pp29-29, プレジデント社.
- 3) 池田勝久<sup>1)</sup>, 大久保公裕 (1) 順天堂大): [分担] 花粉症. 週刊朝日 MOOK 新「名医」の最新治療 完全読本, 2011; pp548-551, 朝日新聞社.
- 4) 大久保公裕: [分担] 治療は複数ある 副作用を考え選択を. 週刊朝日 MOOK 新「名医」の最新治療 2012, 2011; pp206-207, 朝日新聞社.
- 5) 大久保公裕: [分担] 花粉症の減感作療法. 週刊朝日 MOOK 新「名医」の最新治療 2012, 2011; pp308-309, 朝日新聞社.
- 6) 村上亮介, 大久保公裕: [分担] スギ花粉症は海外の花粉症と比べてどう違うのか?. JOHNS 第 28 巻第 1 号 花粉症の疑問に答える (JOHNS 編集委員会), 2012; pp23-26, 東京医学社.
- 7) 馬場俊吉 (1) 千葉北総病院): [共著] 感音難聴. 耳鼻咽喉科処方 ポケットブック (岡本美孝), 2012; pp46-51, 中外医学社.
- 8) 馬場俊吉<sup>1)</sup> (1) 千葉北総病院): [編集] Success'13 Minor Level I+II GREEN (馬場俊吉), 2012; 医学評論社.
- 9) 馬場俊吉 (1) 千葉北総病院): [編集] Success'13 Minor Level III RED (馬場俊吉), 2012; 医学評論社.
- 10) 馬場俊吉 (1) 千葉北総病院): [分担] 耳鼻・咽喉・口腔系. CBT こあかり 5 リ・コ最新問題篇 (『CBT こあかり リ・コ』編集委員会), 2011; pp215-223, 医学評論社.
- 11) 馬場俊吉 (1) 千葉北総病院): [分担] 国試 105 第 105 回医師国家試験問題解説書, 2011; 医学評論社.
- 12) Saigusa H<sup>1)</sup>: [分担] Motor speech disorders in patients with motor neuron disease: How to estimate and manage their disturbed speech sounds clinically. Motor Neuron Disease: cause, classification and treatments (Tuener BJ and Atkin JD), 2012; pp223-229, NOVA science.

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) 松根彰志：鼻副鼻腔炎の病態と臨床に関する最近の話題. 日本耳鼻咽喉科学会神奈川県地方部会学術講演会（横浜市），2011. 7.
- 2) 松根彰志：鼻副鼻腔炎病態と血管内皮細胞増殖因子（VEGF）. 日本医科大学医学会総会（第79回）（東京都），2011. 9.
- 3) 藤倉輝道：花粉症・アレルギー性鼻炎治療の将来展望. 石川県地方部会鼻アレルギー研究会（第17回）（金沢市），2012. 2.
- 4) 藤倉輝道：アレルギー性鼻炎の免疫療法，現在，過去，未来. 川崎南部呼吸器アレルギー研究会（第5回）（川崎市），2011. 11.
- 5) 藤倉輝道：花粉症，アレルギー性鼻炎治療の将来展望. 城南耳鼻咽喉科臨床懇話会（第30回）（東京都），2011. 10.
- 6) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎の病態と最新治療. 北海道アレルギー研究会（第15回）（札幌），2011. 6.
- 7) 大久保公裕：花粉症の薬物療法と免疫療法. 札幌耳鼻咽喉科・頭頸部外科について考える会（第9回）（札幌），2011. 4.
- 8) 大久保公裕：花粉症の薬物療法と免疫療法. 長野県耳鼻咽喉科研究会（第2回）（長野），2011. 5.
- 9) 大久保公裕：花粉症に対する抗ヒスタミン薬のエビデンス. 東京都耳鼻咽喉科医学会学術講演会（東京），2011. 12.
- 10) 大久保公裕：小児アレルギー性鼻炎のエビデンス. 佐賀小児アレルギー研究会（第22回）（佐賀），2011. 12.
- 11) Matsune S：Allergic Rhinosinusitis and Vascular Endothelial Growth Factor. The 43rd Congress of Korean Rhinologic Society (Jeonju, Korea), 2012. 3.
- 12) 三枝英人：ヒトの舌はどこから来たのか？. 第40回 Sleep Apneaカンファレンス（東京都），2011. 5.
- 13) 三枝英人：喉頭のマクロ解剖からみたヒト独自の発声機構とその障害. 第22回中央ブロック ENTカンファレンス東京（東京都），2011. 10.

### (2) 招待講演：

- 1) Okubo K：Treatment strategy for pollinosis in Japan. 大韓耳鼻咽喉科医師会学術大会（第3回）（Seoul），2012. 1.
- 2) Okubo K：Unmet needs for the treatment of allergic rhinitis. The 7th research symposium on human nasal natural defense system.(Jeju, Korea), 2011. 10.

### (3) 教育講演：

- 1) 横島一彦：頸部腫瘍の臨床. 文京区耳鼻咽喉科医学会学術講演会（東京），2012. 2.
- 2) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎と気管支喘息の関連：one airway one disease. 日本医師会生涯教育講座（東京），2011. 4.
- 3) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎・花粉症. 日本アレルギー学会専門医教育セミナー（第40回）（東京），2011. 8.
- 4) 中溝宗永：頸部郭清術の基本（ビデオ）. 日本頭頸部癌学会（第35回）（名古屋），2011. 6.
- 5) 中溝宗永：下咽頭・頸部食道癌 診断と治療のポイント. 日本気管食道科学会認定気管食道科専門医大会（第22回）（東京），2012. 2.
- 6) 馬場俊吉<sup>(1)</sup> 千葉北総病院：最新の補聴器の機能と価格. 日本耳鼻咽喉科学会千葉県地方部会（千葉），2011. 11.
- 7) 三枝英人：摂食・嚥下機能評価の症例検討. 東京都摂食・嚥下機能支援推進事業 評価医養成研修 ステップII④（東京都），2012. 3.

(4) シンポジウム：

- 1) Matsune S : Vascular endothelial growth factor in pathophysiology of allergic rhinitis. The 7th Research Symposium on Human Natural Defense System (Jeju, Korea), 2011. 10.
- 2) 後藤 稔, 大森 栄<sup>1)</sup> (1) 信州大学医学部付属病院薬剤部) : 薬物療法の最適化. 第23回日本アレルギー学会春季臨床大会 (千葉), 2011. 5.
- 3) 藤倉輝道 : アレルギー性鼻炎における薬物治療のトピックス (アレルギー疾患に用いられる薬物療法のトピックス). 日本アレルギー学会春季臨床大会 (第23回) (千葉), 2011. 5.
- 4) 大久保公裕 : 花粉症がひどくなる前に : 花粉症治療について (セミナー2). 全国保健管理協会関東甲信越地方部会研究集会 (第49回) (東京), 2011. 8.
- 5) 大久保公裕 : アレルギー性鼻炎におけるガイドラインとは : 鼻アレルギー診療ガイドラインとARIA. 日本小児科学会学術集会 (第114回) (東京), 2011. 8.
- 6) 大久保公裕 : アレルゲン免疫療法の展望. 日本抗加齢医学会総会 (第11回) (京都), 2011. 5.
- 7) 大久保公裕 : アレルギー性鼻炎・花粉症の最新治療. 日本医学会総会 (第28回) (東京), 2011. 4.
- 8) Okubo K : Rash immunotherapy for allergic rhinitis. XIV IRS and XXX ISIAN (Tokyo), 2011. 9.
- 9) 大久保公裕 : アレルギー性鼻炎に対する免疫療法. 日本小児アレルギー学会 (第48回) (福岡), 2011. 10.
- 10) 大久保公裕 : 小児アレルギー性鼻炎ガイドライン最新版. 日本小児アレルギー学会 (第48回) (博多), 2011. 10.
- 11) 大久保公裕, 後藤 稔 : アレルギー性鼻炎のQOLと重症度評価. 日本アレルギー学会春季臨床大会 (第23回) (幕張), 2011. 5.
- 12) 大久保公裕, 後藤 稔 : 病態から見た薬物療法のあり方 : ガイドラインを眺めて. 日本アレルギー学会春季臨床大会 (第23回) (幕張), 2011. 5.
- 13) 大久保公裕 : アレルギー性鼻炎治療のマネージメント. 日本アレルギー学会総会 (第61回) (東京), 2011. 11.
- 14) Gotoh M : Current Status of Sublingual Immunotherapy for Japanese Cedar Pollinosis. The 7th Research Symposium on Human Natural Defense System (Jeju, Korea), 2011. 10.

(5) セミナー：

- 1) 松根彰志 : 上気道炎症におけるステロイド薬の位置づけ : アレルギー性鼻炎, 好酸球性副鼻腔炎におけるステロイド療法を中心に. 日本鼻科学会総会・学術講演会モーニングセミナー2 (第50回) (岡山市), 2011. 12.
- 2) 後藤 稔 : アレルギー性鼻炎におけるQOLマネージメント : 花粉症と睡眠障害. 第23回日本アレルギー学会春季臨床大会 (千葉幕張), 2011. 5.
- 3) 後藤 稔 : エビデンスにもとづく花粉症治療 : ロイコトリエン受容体拮抗薬の可能性. 第61回日本アレルギー学会秋期学術集会 (東京), 2011. 11.
- 4) 大久保公裕 : アレルギー性鼻炎に対する免疫療法. 日本免疫学会 (第40回) (幕張), 2011. 11.
- 5) 大久保公裕, 後藤 稔 : 花粉症の治療戦略. 日本アレルギー学会総会 (第61回) (東京), 2011. 11.

(6) ポスター：

- 1) Masuno S, Okubo K, Nakasao Y<sup>1)</sup>, Igarashi T<sup>1)</sup>, Takahashi H<sup>1)</sup> (1) Department of ophthalmology in Nippon Medical School) : Effect of Mometasone furoate hydrate nasal spray on ocular symptoms in patients with Japanese Cedar pollinosis. International Symposium on Infection and Allergy of Nose (30th) (Tokyo), 2011. 9.

(7) 一般講演：

- 1) 石田麻里子, 関根久遠, 藤倉輝道, 松根彰治 : 上甲介から発生した solitary fibrous tumor の1症例. 日本耳鼻咽喉科学会神奈川県地方部会 耳鼻咽喉科・頭頸部外科・学術講演会 (第156回) (横浜市), 2011. 9.
- 2) 中村 毅, 小町太郎, 井手路子, 細矢 慶, 門園 修, 馬場俊吉 : 当科におけるクリニカルパスの現状. 耳鼻咽

- 喉科情報処理研究会（第27回）（東京都 中央区），2011. 7.
- 3) Takeuchi H, Sacks R, Matsune S : Endoscopic Orbital Surgery. IRS 14th International Rhinologic Society (XIV) ISIAN 30th International Symposium on Infection and Allergy of the Nose (Tokyo), 2011. 9.
  - 4) 松根彰志：アレルギー性鼻炎・花粉症の病態・治療とロイコトリエン受容体拮抗薬. 日本耳鼻咽喉科学会神奈川県地方部会川崎医科学術集会（神奈川県川崎市），2011. 10.
  - 5) 石田麻里子，関根久遠，木村まき，藤倉輝道，松根彰志：頸部腫脹を主訴に受診した感染性頸動脈瘤の1例. 日本耳鼻咽喉科学会神奈川県地方部会 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学術講演会（第157回）（横浜市），2011. 12.
  - 6) 後藤 稔：持続性鼻炎・間欠性鼻炎を考える：我が国における実態は？. 第16回那須ティーチン学術集会（東京），2011. 7.
  - 7) Gotoh M : Current status of sublingual immunotherapy for Japanese cedar pollinosis. AR forum 2011 (Tokyo, Japan), 2011. 8.
  - 8) Fujikura T : Adrenomedullin level in the nasal discharge from allergic rhinitic cohort. The 7th Research Symposium on Human Natural Defense System (Jeju Korea), 2011. 10.
  - 9) 藤倉輝道，松根彰志，大久保公裕：2歳で発見され4歳で摘出された小児鼻ポリープ症例. 日本鼻科学会（第50回）（岡山），2011. 12.
  - 10) 横島一彦，中溝宗永，稲井俊太，酒主敦子，大久保公裕：扁桃癌におけるHPV感染の有無と視触診所見の相関. 日本頭頸部外科学会（第22回）（福島），2012. 1.
  - 11) 横島一彦，中溝宗永，稲井俊太，酒主敦子，粉川隆行，宮下次廣<sup>1)</sup>，栗林茂彦<sup>1)</sup>，大久保公裕（<sup>1)</sup> 附属病院放射線治療科）：T1-2中咽頭側壁癌の原発巣治療の選択. 日本頭頸部癌学会（第35回）（名古屋），2011. 6.
  - 12) 横島一彦，中溝宗永，稲井俊太，酒主敦子，粉川隆行，大久保公裕：セカンドオピニオン目的に他院を紹介した頭頸部癌57症例の経過. 日本耳鼻咽喉科学会（第112回）（京都），2011. 5.
  - 13) 橋口一弘<sup>1)</sup>，若林健一郎<sup>2)</sup>，神崎 晶<sup>3)</sup>，末松潔親<sup>4)</sup>，後藤 稔，大久保公裕（<sup>1)</sup> 双葉クリニック，<sup>2)</sup> 北里研究所，<sup>3)</sup> 慶応大，<sup>4)</sup> 左門町クリニック）：OHIO chamberにおける小児スギ花粉症患者の評価可能性の検討. 日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会（第30回）（大津），2012. 2.
  - 14) 鈴木祐輔<sup>1)</sup>，太田伸男<sup>1)</sup>，高橋裕一<sup>1)</sup>，欠畑誠治<sup>1)</sup>，大久保公裕（<sup>1)</sup> 山形大）：スギ花粉大量飛散年のスギ花粉症患者におけるオロパタジン塩酸塩とプラナルカスト水和物の治療効果と睡眠・日常生活への影響. 日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会（第30回）（大津），2012. 2.
  - 15) 太田伸男<sup>1)</sup>，鈴木祐輔<sup>1)</sup>，高橋裕一<sup>1)</sup>，欠畑誠治<sup>1)</sup>，大久保公裕（<sup>1)</sup> 山形大）：スギ花粉症患者の眼鼻以外の症状に関する検討. 日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会（第30回）（大津），2012. 2.
  - 16) 仲里ゆり<sup>1)</sup>，五十嵐勉<sup>1)</sup>，藤田美穂<sup>1)</sup>，山田佑美<sup>1)</sup>，藤本千明<sup>1)</sup>，大久保公裕，高橋 浩<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日医大眼科）：季節性アレルギー性鼻結膜炎患者に対するMometazone Furoateの眼症状改善効果の検討. 日本アレルギー学会春季臨床大会（第23回）（幕張），2011. 5.
  - 17) 鈴木祐輔<sup>1)</sup>，太田伸男<sup>1)</sup>，高橋裕一<sup>1)</sup>，青柳 優<sup>1)</sup>，大久保公裕（<sup>1)</sup> 山形大）：季節性アレルギー性鼻炎患者における夜間睡眠障害と日常生活への影響. 日本アレルギー学会総会（第61回）（東京），2011. 11.
  - 18) 神崎 晶<sup>1)</sup>，橋口一弘<sup>2)</sup>，若林健一郎<sup>3)</sup>，藤岡正人<sup>4)</sup>，末松潔親<sup>5)</sup>，大久保公裕（<sup>1)</sup> 慶応大，<sup>2)</sup> 双葉クリニック，<sup>3)</sup> 北里研究所，<sup>4)</sup> 防衛大，<sup>5)</sup> 左門町クリニック）：OHIO chamberにおけるスギ・ヒノキ科花粉連続曝露に対するベボタスチンベシル酸塩の効果. 日本鼻科学会（第50回）（岡山），2011. 12.
  - 19) 稲井俊太，中溝宗永，横島一彦，酒主敦子，粉川隆行，大久保公裕：下咽頭癌咽頭後リンパ節転移例の治療成績. 日本頭頸部癌学会（第36回）（名古屋），2011. 6.
  - 20) 村上亮介，横島一彦，中溝宗永，酒主敦子，山口 智，戸根裕子，稲井俊太，大久保公裕：妊娠中に発症した舌癌の3症例. 日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会（第112回）（京都市左京区岩倉大鷲町422番地国立京都国際会館），2011. 5.

- 21) 中溝宗永, 横島一彦, 稲井俊太, 酒主敦子, 粉川隆行, 大久保公裕, 栗林茂彦<sup>1)</sup>, 宮下次廣<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学放射線科): 放射線抵抗性早期声門癌の検討. 日本頭頸部癌学会 (第 35 回) (名古屋), 2011. 6.
- 22) 富山俊一<sup>1)</sup>, 渡邊健一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 多摩永山病院): ステロイド抵抗性内耳自己免疫病 162 例に対する免疫抑制剤治療成績. 第 21 回日本耳科学会 (沖縄), 2011. 11.
- 23) 富山俊一, 齊藤明彦, 増野 聡, 草間 薫, 國友万由美<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 大宮中央総合病院耳鼻咽喉科): ステロイド抵抗性内耳自己免疫病 95 症例 2 年後治療成績. 第 30 回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会 (大津), 2012. 2.
- 24) 小町太郎, 三枝英人, 中村 毅, 山口 智, 門園 修, 粉川隆行, 大久保公裕, 愛野威一郎<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> あいの耳鼻咽喉科医院): 鼻咽腔の開放ならびに閉鎖調節機構についての考察. 日本音声言語医学会 (第 56 回) (東京 (市ヶ谷)), 2011. 10.
- 25) 小町太郎, 中村 毅, 後藤 穰, 馬場俊吉, 大久保公裕: 眼窩先端症候群をきたした蝶形骨洞アスペルギルス症の 1 例. 日本鼻科学会 (第 50 回) (岡山), 2011. 12.
- 26) 若山 望, 後藤 穰, 村上亮介, 大橋隆治, 大久保公裕: 鼻腔内に発生した神経鞘腫の 1 例. 日本耳鼻咽喉科学東京地方部会例会第 194 回学術講演会 (東京), 2012. 3.
- 27) 石田麻里子, 藤倉輝道, 関根久遠, 青木秀治, 大久保公裕: 鼻茸との鑑別を要した鼻腔腫瘍症例の検討. 日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会 (第 112 回) (京都), 2011. 5.
- 28) 増野 聡, 後藤 穰, 村上亮介, 大久保公裕: 季節性アレルギー性鼻結膜炎患者に対する Mometasone Furoate の眼症状改善効果の検討. 日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会 (第 30 回) (滋賀), 2012. 2.
- 29) 細矢 慶, 馬場俊吉, 小町太郎, 井手路子, 中村 毅: 当科における先天性真珠腫 23 例の統計. 日本耳科学会 (第 21 回) (沖縄), 2011. 11.
- 30) 三枝英人: 口腔・咽頭・喉頭の漢方療法. 北区耳鼻咽喉科医会研究会 (東京都), 2012. 3.
- 31) 山口 智, 三枝英人, 中村 毅<sup>1)</sup>, 小町太郎<sup>1)</sup>, 門園 修<sup>1)</sup>, 伊藤裕之, 大久保公裕 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院耳鼻咽喉科): 終末期癌患者に発症した嚥下障害に対する嚥下機能改善手術. 第 23 回日本喉頭科学会総会・学術講演会 (北海道), 2011. 4.
- 32) 三枝英人, 中村 毅<sup>2)</sup>, 山口 智, 小町太郎<sup>2)</sup>, 門園 修<sup>2)</sup>, 伊藤裕之, 大久保公裕 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院): 喉頭乳頭腫の患者の経過観察について. 第 23 回日本喉頭科学会総会・学術講演会 (北海道), 2011. 4.
- 33) 三枝英人, 中村 毅<sup>1)</sup>, 小町太郎<sup>1)</sup>, 山口 智, 門園 修<sup>1)</sup>, 伊藤裕之 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院): 全ての舌ジスキネジアは神経学的異常に起因するものなのか?. 第 3 回小此木進六郎記念耳鼻咽喉科研究会 (東京都), 2011. 9.
- 34) 三枝英人, 中村 毅<sup>1)</sup>, 小町太郎<sup>1)</sup>, 山口 智, 門園 修, 愛野威一郎, 松岡智治 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院): 鼻咽腔閉鎖不全を伴う運動障害性構音障害に対する口蓋咽頭側面縫縮術の有用性. 第 56 回日本音声言語医学会総会・学術講演会 (東京都), 2011. 10.
- 35) 山口 智, 三枝英人, 中村 毅<sup>1)</sup>, 小町太郎<sup>1)</sup>, 門園 修<sup>1)</sup>, 伊藤裕之, 大久保公裕, 竹田和章<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院, <sup>2)</sup> 仙川耳鼻咽喉科医院): 反回神経麻痺に輪状披裂関節固着を合併していた症例の所見と音声外科治療. 第 32 回東日本音声外科研究会 (東京都), 2011. 4.
- 36) 若山 望, 三枝英人, 中村 毅<sup>1)</sup>, 小町太郎<sup>1)</sup>, 山口 智, 門園 修<sup>1)</sup>, 森美穂子, 吉野綾穂, 伊藤裕之, 大久保公裕 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院): 大脳基底核の機能異常によると考えられる喉頭の異常運動に対する芍薬甘草湯の効果. 第 27 回日本耳鼻咽喉科漢方研究会学術集会 (東京都), 2011. 10.
- 37) 伊藤裕之, 加藤邦孝<sup>1)</sup>, 鈴木康司<sup>2)</sup>, 三枝英人 ( <sup>1)</sup> 東京慈恵会医科大学耳鼻咽喉科, <sup>2)</sup> 国立リハビリテーションセンター耳鼻咽喉科): 転帰不良であった嚥下障害症例の検討. 第 63 回日本気管食道科学会総会・学術講演会 (愛知県), 2011. 11.
- 38) 三枝英人, 中村 毅<sup>1)</sup>, 小町太郎<sup>1)</sup>, 山口 智, 門園 修<sup>1)</sup>, 吉野綾穂, 伊藤裕之, 大久保公裕 ( <sup>1)</sup> 千葉北総病院): 二度の手術を行った嚥下ジストニアの 1 例. 第 63 回日本気管食道科学会総会・学術講演会 (愛知県), 2011. 11.

- 39) 山口 智, 三枝英人, 中村 毅<sup>1)</sup>, 小町太郎<sup>1)</sup>, 門園 修<sup>1)</sup>, 吉野綾穂, 森美穂子, 伊藤裕之, 大久保公裕 (1) 千葉北総病院) : 輪状披裂関節固着に対する音声改善手術. 第 63 回日本気管食道科学会総会・学術講演会 (愛知県), 2011. 11.
- 40) 吉野綾穂, 三枝英人, 山口 智, 森美穂子, 中村 毅<sup>1)</sup>, 小町太郎<sup>1)</sup>, 門園 修<sup>1)</sup>, 伊藤裕之, 大久保公裕 (1) 千葉北総病院) : 難治性の後天性気管軟化症の 1 例. 第 63 回日本気管食道科学会総会・学術講演会 (愛知県), 2011. 11.
- 41) 三枝英人, 山下和雄<sup>1)</sup> (1) 第 I 解剖学) : ヒト咽頭筋群の神経支配についての研究. 第 35 回日本嚥下医学会総会・学術講演会 (高知県), 2012. 2.
- 42) 森美穂子, 若山 望, 三枝英人, 山口 智, 吉野綾穂, 中村 毅, 小町太郎, 門園 修, 大久保公裕, 大西正樹<sup>1)</sup> (1) 大西耳鼻咽喉科医院) : 診断に苦慮した破傷風による嚥下障害の 1 例. 第 35 回日本嚥下医学会総会学術講演会 (高知県), 2012. 2.
- 43) 山口 智, 三枝英人, 中村 毅, 小町太郎, 門園 修, 森美穂子, 吉野綾穂, 若山 望, 伊藤裕之 : 胃切除後に発症した高度な嚥下障害の 1 例. 第 35 回日本嚥下医学会総会学術講演会 (高知県), 2012. 2.
- 44) 吉野綾穂, 三枝英人, 山口 智, 門園 修, 中村 毅, 小町太郎, 伊藤裕之, 大橋隆二<sup>1)</sup> (1) 付属病院病理部) : 不明な急速進行性筋障害が原因と考えられた肝細胞癌末期の嚥下障害の 1 例. 第 35 回日本嚥下医学会総会学術講演会 (高知県), 2012. 2.
- 45) 三枝英人, 山口 智, 中村 毅, 小町太郎, 門園 修, 若山 望, 伊藤裕之, 大久保公裕 : 胃食道逆流症に対する治療により軽快した成人吃逆症例. 第 24 回日本喉頭科学会総会学術講演会 (石川県), 2012. 2.
- 46) 山口 智, 三枝英人, 中村 毅, 小町太郎, 門園 修, 若山 望, 伊藤裕之, 大久保公裕 : 嚥下障害, 誤嚥の自覚が欠如した嚥下障害例の対応 : 上咽頭癌放射線治療後晩期合併症による嚥下障害の 2 例から. 第 24 回日本喉頭科学会総会学術講演会 (石川県), 2012. 3.
- 47) 若山 望, 三枝英人, 山口 智, 中村 毅, 小町太郎, 門園 修, 伊藤裕之, 大久保公裕 : 原因が特定出来ない混合性喉頭麻痺とその経過について : 第二報. 第 24 回日本喉頭科学会総会学術講演会 (石川県), 2012. 3.
- (8) 公開講座 :
- 1) 大久保公裕 : アレルギー性鼻炎と花粉症の対策. 第 114 回日本小児科学会学術集会「市民公開講座」(東京), 2011. 7.
- (9) 市民研修会 :
- 1) 大久保公裕 : アレルギー性鼻炎・花粉症. 日本アレルギー協会主催アレルギー研修会 2011 (東京), 2011. 4.
- (10) 市民講座 :
- 1) 大久保公裕 : 花粉症の予防と治療について. 平成 23 年度アレルギー教室 東京都西多摩保健所 保健対策課 (東京), 2012. 1.
- (11) 保健指導 :
- 1) 大久保公裕 : アレルギー性鼻炎・花粉症. 厚生労働省リウマチ・アレルギー相談員養成研修会 (東京), 2011. 12.

## 15. 泌尿器科学講座

### [付属病院泌尿器科]

#### 研究概要

1. 従来開腹で行ってきた手術の多くを腹腔鏡下で行っている。とくに腹腔鏡下前立腺全摘術は本邦で技術的および症例数でも先端を行く。開腹術との比較検討や術後の尿失禁を予防するために術式の改良の検討を行っている。2. 女性泌尿器科として骨盤臓器脱や尿失禁の手術を施行し、臨床研究している。3. 男性尿失禁に関してのメッシュによる sling 手術を行い、先進医療への道を歩みつつある。4. 前立腺癌診断における超音波パワードップラー法、超音波 Fusion3D 法、新規超音波造影剤であるソナゾイドを用いた臨床研究を行っている。5. 前立腺全摘標本より癌の占拠部位にとどまらず、癌幹細胞の研究を行っている。6. 限局性前立腺癌に関して、底侵襲治療である密封小線源療法を 2006 年 4 月より開始し、臨床研究を行っている。7. 侵潤性膀胱癌に関しては抗癌剤の動注療法や放射線医学講座の汲田教授と共同実験として「閉鎖循環下抗癌剤灌流療法システム」により膀胱温存を試みている。温存の困難なものに関しては、小腸を用いた新膀胱を作成し QOL 温存に心がけている。8. 腎癌に関しては、PerfusinCT を用いて術前に組織診断を行い、小系腎癌に関しては腹腔鏡下腎部分切除を施行し、底侵襲手術を実践している。基礎研究モードマウスを用いた泌尿生殖器腫瘍に対する基礎的臨床的研究を 20 余年行って来たが、それに加え、最近の研究を以下に示した。1. 癌の「底酸素応答」について、泌尿生殖器腫瘍領域での先駆者的研究。2. 生体内微量金属メタロチオネインと抗癌剤耐性および腎機能保護の研究。3. 癌の血管新生因子の予後に与える影響。

#### 研究業績

##### 論文

##### [追加分]

追加分原著：

- 1) Ryoji K<sup>1)</sup>, Yukihiro K<sup>1)</sup>, Kaoru N<sup>1)</sup>, Satoru M<sup>2)</sup>, Tatsuo K<sup>1)</sup> (1) Nippon Medical School Department of Urology, 2) Nippon Medical School Department of Radiology) : The negative-balance isolated Pelvic perfusion method using ultrahigh-dose cisplatin invasive bladder cancer with poor risk. Japan Society of Clinical Oncology 2010 ; 2010 (15) : 433-439.

(1) 総説：

- 1) 木村 剛：腎がんの新しい分子標的治療薬：mTOR 阻害薬。泌尿器ケア 2011 ; 16 (9) : 14-15.
- 2) 木村 剛：II. 臨床 4) 画像診断 b. 経直腸的超音波断層法。日本臨床増刊号 2011 ; 69 (5) : 268-274.
- 3) 柳 雅人<sup>1)</sup>, 西村泰司<sup>1)</sup>, 木村 剛, 近藤幸尋, 山崎恵一<sup>2)</sup>, 古城 憲<sup>3)</sup>, 五十嵐高広<sup>3)</sup>, 細田 桂<sup>3)</sup>, 山本陽一郎<sup>4)</sup> (1) 大田原赤十字病院泌尿器科, 2) 国立病院機構栃木病院泌尿器科, 3) 大田原赤十字病院外科, 4) 日本医科大学付属病院病理) : 膀胱癌に対する膀胱全摘除術・回腸導管増設術後 13 年目の回腸導管内再発の 1 例。泌尿器科紀要 2012 ; 58 (2) : 109-112.

(2) 研究報告書：

- 1) 赤塚 純<sup>1,3)</sup>, 根本 勺<sup>1)</sup>, 塩路 豪<sup>1)</sup>, 三浦剛史<sup>1)</sup>, 坪井成美<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 大澤秀一<sup>3)</sup>, 近藤幸尋 (1) 日本医科大学千葉北総病院泌尿器科, 2) 日本医科大学千葉北総病院病理部, 3) 平成立石病院泌尿器科) : 日本医科大学千葉北総病院における精巣腫瘍の臨床的検討。泌尿器外科 2012 ; 25 (1) : 115-118.

(3) 症例報告：

- 1) 柳 雅人<sup>1)</sup>, 西村泰司<sup>1)</sup>, 近藤幸尋, 山崎恵一<sup>2)</sup>, 酒井成貴<sup>3)</sup>, 石井直弘<sup>3)</sup>, 古城 憲<sup>4)</sup>, 細田 桂<sup>4)</sup> (1) 大田原赤十字病院泌尿器科, 2) 国立病院機構栃木病院泌尿器科, 3) 大田原赤十字病院形成外科, 4) 大田原赤十字病院外

科)：会陰部の膀胱直腸皮膚瘻を腹直筋皮弁で再建したフルニエ壊疽の1例. 日本泌尿器科学会雑誌 2011；102 (4)：649-654.

- 2) 柳 雅人<sup>1)</sup>, 西村泰司<sup>1)</sup>, 栗田 晋<sup>2)</sup>, 李 哲沫<sup>2)</sup>, 近藤幸尋, 山崎恵一<sup>3)</sup> (1) 大田原赤十字病院泌尿器科, 2) 立川相互病院泌尿器科, 3) 国立病院機構栃木病院泌尿器科)：放射線性出血性膀胱炎にプレドニゾロンが有効であった1例. 日本泌尿器科学会雑誌 2011；102 (3)：600-602.

## 著 書

- 1) 木村 剛：〔分担〕第9章 前立腺. 46. 前立腺癌. 泌尿器科診療ガイド (勝岡洋治), 2011；pp192-202, 金芳堂.
- 2) 木村 剛：〔分担〕第1章 腎がん. 診断・管理・治療. 5. 分子標的治療 (1) 血管新生阻害薬 (ソラフェニブ, スニチニブなど). 新しい診断と治療のABC 腎がん・膀胱がん 改訂第2版 (木原和徳), 2011；pp94-106, 最新医学社.
- 3) 鈴木康友, 近藤幸尋：〔分担〕術後合併症とその対策 周術期合併症とその対策. (前立腺癌 (第2版) -- 基礎・臨床研究のアップデート) - (臨床 前立腺癌の治療), 2011；pp369-373, 日本臨床社.
- 4) 鈴木康友：〔共著〕経尿道的手術. 泌尿器ケア, 2011；pp368-369, メディカ出版.

## 学会発表

### 〔追加分〕

#### 追加分一般講演：

- 1) 田邊邦明, 根本 勺, 塩路 剛, 三浦剛史, 坪井成美, 近藤幸尋：肺転移巣に対しインターフェロン $\alpha$ 療法が奏功した透析腎癌の2症例. 日本泌尿器科学会 (第605回東京地方会) (東京都), 2011. 2.

#### (1) 特別講演：

- 1) 木村 剛：前立腺癌の細領域別頻度と臨床病理学的特徴, そして, 見逃しの少ない生検法への応用. 埼玉地方会 (第58回) (大宮市), 2011. 6.
- 2) 木村 剛：Zonal anatomy からみた前立腺癌の臨床病理学的特性. 泌尿器画像診断研究会 (第34回) (東京), 2011. 9.
- 3) 木村 剛：進行性腎癌に対する外科的治療の位置づけ. 第13回秋田県尿路腫瘍研究会, 第77回秋田県泌尿器科集団会 (秋田市), 2011. 1.

#### (2) シンポジウム：

- 1) 木村 剛：進行性腎癌に対する日本医科大学での治療アルゴリズム. 日本泌尿器科学会東部総会 (第76回) (東京), 2011. 10.
- 2) Matuzawa I：Tips and tricks of minimal invasive surgery for prostate cancer surgery to new-comer of urology (Laparoscopic radical prostatectomy). Korea-Japan Urological Congress (28th) (Suwon, Korea), 2011. 9.
- 3) 濱崎 務<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学泌尿器科学)：泌尿器科領域における腹腔鏡下手術の現状. 日本医科大学医学会 (第21回) (東京), 2011. 6.

#### (3) パネルディスカッション：

- 1) 赤塚 純<sup>1)</sup>, 木村 剛, 鈴木健太, 林 達郎, 齋藤友香, 河原崎由里子, 飯ヶ谷重来, 田邊邦明, 近藤幸尋, 大澤秀一<sup>1)</sup> (1) 平成立石病院泌尿器科)：超音波造影剤ソナゾイドの前立腺癌診断に対する有用性についての前向き臨床試験の結果. 日本泌尿器科学会総会 (第99回) (名古屋), 2011. 4.
- 2) 尾形吉彦<sup>1)</sup>, 中川 徹<sup>1)</sup>, 河原貴史<sup>1)</sup>, 原 智彦<sup>1)</sup>, 堀 淳一<sup>1)</sup>, 中西弘之<sup>1)</sup>, 込山元晴<sup>1)</sup>, 藤元博行<sup>1)</sup> (1) 国立が

ん研究センター泌尿器・後腹膜腫瘍科)：pT1a 腎細胞癌に対する根治的腎摘出術／腎部分切除後の腎機能. 日本泌尿器科学会総会 (第 99 回) (名古屋), 2011. 4.

(4) セミナー：

- 1) 佐々木崇<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科)：「スニチニブが著効した転移性透析腎癌の 1 例」. Tokyo Metropolitan Kidney Cancer Meeting (第 2 回) (東京), 2011. 9.
- 2) 箕輪忠明<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学泌尿器科)：保存的治療が奏効した気腫性腎盂腎炎の 1 例. 谷根千泌尿器科懇話会 (第 2 回) (東京), 2011. 7.
- 3) 野村俊一郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学泌尿器科)：膀胱 Plasmacytoid Carcinoma の 1 例. 谷根千泌尿器科懇話会 (第 2 回) (東京), 2011. 7.
- 4) 新藤貴雄<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学泌尿器科)：画像診断：あなたの診断は？. 谷根千泌尿器科懇話会 (第 2 回) (東京), 2011. 7.
- 5) 箕輪忠明<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学泌尿器科)：経皮的ドレナージが奏効した左気腫腎盂腎炎の 1 例. Young Urologists Conference (第 10 回) (東京), 2011. 7.

(5) ランチョンセミナー：

- 1) 木村 剛)：去勢抵抗性前立腺癌に対する治療戦略：現状と今後. 日本内分泌外科学会 (第 23 回) (東京), 2011. 7.

(6) 一般講演：

- 1) 木村 剛<sup>1)</sup>, 斎藤友香<sup>1)</sup>, 松沢一郎<sup>1)</sup>, 鈴木康友<sup>1)</sup>, 濱崎 務<sup>1)</sup>, 近藤幸尋<sup>1)</sup>, 栗林茂彦<sup>2)</sup>, 宮下次廣<sup>2)</sup>, 汲田伸一郎<sup>2)</sup>, 山本陽一郎<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学附属病院泌尿器科, 2) 日本医科大学附属病院放射線科, 3) 日本医科大学附属病院病理部)：前立腺全摘除術後の PSA 再発 (PSAF) に対する救済放射線療法 (SRT)：予後因子の検討. 日本泌尿器科学会総会 (第 99 回) (名古屋市), 2011. 4.
- 2) 赤倉功一郎<sup>1)</sup>, 鶴田耕二<sup>2)</sup>, 榎本 裕<sup>3)</sup>, 木村 剛, 深貝隆志<sup>4)</sup>, 高橋 悟<sup>5)</sup>, 田中良典<sup>6)</sup>, 鈴木康之<sup>7)</sup>, 細部高英<sup>8)</sup>, 岡崎正巳<sup>9)</sup> (1) 東京厚生年金病院泌尿器科, 2) 都立駒込病院, 3) 東京大学医学部泌尿器科, 4) 昭和大学医学部泌尿器科, 5) 日本大学医学部泌尿器科, 6) 武蔵野赤十字病院泌尿器科, 7) 東京慈恵会医科大学泌尿器科, 8) 細部医院, 9) 岡崎病院)：前立腺がんに関する東京都共通地域連携パスの作成. 日本泌尿器科学会総会 (第 99 回) (名古屋市), 2011. 4.
- 3) 近藤恒徳<sup>1)</sup>, 大野芳正<sup>2)</sup>, 桶川隆嗣<sup>3)</sup>, 森田 将<sup>4)</sup>, 久米春喜<sup>5)</sup>, 高橋俊二<sup>6)</sup>, 中島耕一<sup>7)</sup>, 波多野孝史<sup>8)</sup>, 藤井靖久<sup>9)</sup>, 和久本芳彰<sup>10)</sup>, 木村 剛, 大家基嗣, 堀江重郎 (1) 東京女子医科大学泌尿器科, 2) 東京医科大学泌尿器科, 3) 杏林大学医学部泌尿器科, 4) 昭和大学医学部泌尿器科, 5) 東京大学医学部泌尿器科, 6) 癌研究会有明病院化学療法科, 7) 東邦大学医学部泌尿器科, 8) 東京慈恵会医科大学泌尿器科, 9) 東京医科歯科大学医学部泌尿器科, 10) その他)：進行性腎癌に対するソラフェニブの臨床使用実態下の治療成績に関する多施設共同調査. 日本泌尿器科学会総会 (第 99 回) (名古屋市), 2011. 4.
- 4) 鈴木健太, 木村 剛, 武田隼人, 富田祐司, 斎藤友香, 松沢一郎, 鈴木康友, 濱崎 務, 近藤幸尋)：乳頭状腎細胞癌 type 1 と type 2 の臨床病理学的特性の比較. 日本泌尿器科学会総会 (第 99 回) (名古屋市), 2011. 4.
- 5) 河原崎由里子, 木村 剛, 武田隼人, 木全亮二, 松沢一郎, 鈴木康友, 濱崎 務, 近藤幸尋, 塩路 豪<sup>1)</sup>, 根本 勺<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院泌尿器科)：嫌色素性腎細胞癌の臨床病理学的特性. 日本泌尿器科学会総会 (第 99 回) (名古屋市), 2011. 4.
- 6) 武田隼人, 木村 剛, 林 達郎, 藤原博通, 近藤幸尋, 栗林茂彦<sup>1)</sup>, 宮下次廣<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 山本陽一郎<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学附属病院放射線科, 2) 日本医科大学附属病院病理部)：前立腺癌に対する密封小線源療法：PSA 低下率の悪い症例の臨床病理学的検討. 日本泌尿器科学会総会 (第 99 回) (名古屋市), 2011. 4.
- 7) Shinohara N<sup>1)</sup>, Nonomura N<sup>2)</sup>, Kimura G, Eto M<sup>3)</sup>, Minami H<sup>4)</sup>, Yamazaki N<sup>5)</sup>, Naito S<sup>6)</sup> (1) Department of Urology, Hokkaido University Graduate School of Medicine, 2) Department of Urology, Osaka University,

- Graduate School of Medicine, <sup>3)</sup> Department of Urology, Faculty of Life Science, Kumamoto University, <sup>4)</sup> Division of Medical Oncology/Hematology, Kobe University Hospital, <sup>5)</sup> Dermatology Division, National Cancer Center Hospital, <sup>6)</sup> Department of Urology, Kyusyu University) : A randomized multicenter phase II trial on efficacy of high-slip skin care pad for hand-foot skin reaction caused by sorafenib in patients with renal cell carcinoma. American Society of Clinical Oncology (Chicago), 2011. 6.
- 8) 木村 剛, 赤塚 純, 河原崎由里子, 野村俊一郎, 箕輪忠明, 新藤貴雄, 田邊邦明, 飯ヶ谷重来, 小串聡子, 齋藤友香, 近藤幸尋 : 前立腺生検 : 何故そこを穿刺するのか? . 日本泌尿器科学会東部総会 (第76回) (東京), 2011. 10.
  - 9) 木村 剛, 木全亮二, 齋藤友香, 松沢一郎, 鈴木康友, 濱崎 務, 近藤幸尋, 栗林茂彦<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学附属病院放射線科) : 前立腺全摘除術後の PSA 再発 (PSAF) に対する救済放射線療法 (SRT) : どのような症例が救済可能? . 日本癌治療学会 (第49回) (名古屋市), 2011. 10.
  - 10) 田邊邦明, 木村 剛, 飯ヶ谷重来, 遠藤勇氣, 富田祐司, 小串聡子, 齋藤友香, 鈴木康友, 濱崎 務, 近藤幸尋 : Plasmacytoid variant を有する膀胱癌の3例. 癌治療学会 (第49回) (愛知県), 2011. 10.
  - 11) 鈴木康友, 齋藤友香, 木全亮二, 松沢一郎, 濱崎 務, 木村 剛, 近藤幸尋 : 前立腺全摘術後の尿失禁に対する bone anchored sling の検討. 第99回日本泌尿器科学会総会 (名古屋), 2011. 4.
  - 12) 鈴木康友, 齋藤友香, 小串聡子, 松沢一郎, 濱崎 務, 木村 剛, 近藤幸尋 : 前立腺全摘術後尿失禁に対するミニクイックアンカーとプルーリンメッシュを用いた bone anchored sling の経験. 日本排尿機能学会 (第18回) (福井), 2011. 9.
  - 13) 鈴木康友, 齋藤友香, 箕輪忠明, 新藤貴雄, 田邊邦明, 河原崎由里子, 飯ヶ谷重来, 柳 雅人, 赤塚 純, 武田隼人, 佐々木崇, 小串聡子, 青木綾子, 富田祐司, 木全亮二 : 膀胱 Plasmacytoid carcinoma を認めた1例. 第606回日本泌尿器科学会東京地方会 (東京), 2011. 6.
  - 14) 木全亮二, 松沢一郎, 武田隼人, 飯ヶ谷重来, 鈴木康友, 濱崎 務, 木村 剛, 近藤幸尋 : 経皮的ドレナージが奏効した左腎腫性腎盂腎炎の1例. 日本泌尿器科学会東京地方会 (第607回) (東京), 2011. 12.
  - 15) 木村 剛, 濱崎 務, 田邊邦明, 柳 雅人, 武田隼人, 木全亮二, 松沢一郎, 鈴木康友, 近藤幸尋, 鈴木健太<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院泌尿器科) : 膀胱尿路上皮癌 micropapillary variant の1例. 日本泌尿器科学会東京地方会 (第608回) (東京), 2012. 2.
  - 16) 西村泰司<sup>1)</sup>, 高橋有未子<sup>2)</sup>, 小林尚史<sup>3)</sup>, 石井直弘, 近藤幸尋 (<sup>1)</sup> 大田原赤十字病院泌尿器科, <sup>2)</sup> 大田原赤十字病院研修医, <sup>3)</sup> 大田原赤十字病院形成外科) : 外傷を契機に発症した巨大肛門周囲膿瘍の1例. 日本泌尿器科学会東京地方会 (第608回) (東京), 2012. 2.
  - 17) 西村泰司<sup>1)</sup>, 高橋有未子<sup>2)</sup>, 小林尚史<sup>3)</sup>, 石井直弘, 近藤幸尋 (<sup>1)</sup> 大田原赤十字病院泌尿器科, <sup>2)</sup> 大田原赤十字病院研修医, <sup>3)</sup> 大田原赤十字病院形成外科) : 外傷を契機に発症した巨大肛門周囲膿瘍の1例. 日本泌尿器科学会東京地方会 (第608回) (東京), 2012. 2.
  - 18) Akatsuka J<sup>1)</sup>, Kimra G<sup>1)</sup>, Suzumura K<sup>1)</sup>, Saito Y<sup>1)</sup>, Hayashi T<sup>1)</sup>, Iigaya S<sup>1)</sup>, Tanabe K<sup>1)</sup>, Kawarasaki Y<sup>1)</sup>, Osawa S<sup>1)</sup>, Kondo Y<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Nippon Medical School Department of Urology) : Clinical usefulness of the ultrasound contrast agent sonazoid in the diagnosis of prostatic cancer : a prospective clinical trial. Connecting the world of ultrasound (2011) (Vienna, Austria), 2011. 8.
  - 19) 松澤一郎, 浜崎 務, 鈴木康友, 木村 剛, 近藤幸尋 : 腹腔鏡下前立腺全摘術における PSA 再発の検討. 日本泌尿器科学会総会 (第99回) (名古屋), 2011. 4.
  - 20) 松澤一郎, 浜崎 務, 尾形吉彦<sup>1)</sup>, 鈴木康友, 木村 剛, 近藤幸広 (<sup>1)</sup> 国立がん研究センター中央病院泌尿器科) : 腹腔鏡下前立腺全摘術 : 10年の病理学的検討. 日本癌治療学会 (第49回) (名古屋), 2011. 10.
  - 21) 松澤一郎 : 腹腔鏡手術 : 明日を開く匠たちの創意工夫 (腹腔鏡下前立腺全摘 : 分かった事, これからの事). 日本泌尿器科学会東部総会 (第76回) (横浜), 2011. 10.

- 22) 野村俊一郎, 鈴木康友, 齋藤友香, 簗輪忠明, 新藤貴雄, 田邊邦明, 河原崎由里子, 飯ヶ谷重来, 柳 雅人, 赤塚 純, 武田隼人, 佐々木崇, 小串聡子, 青木綾子, 富田祐司, その他5名:膀胱 Plasmacytoid carcinoma を認めた1例. 日本泌尿器科学会東京地方会(第606回)(東京), 2011. 6.
- 23) 簗輪忠明, 木全亮二, 松沢一郎, 武田隼人, 飯ヶ谷重来, 鈴木康友, 濱崎 務, 木村 剛, 近藤幸尋:経皮的ドレナージが奏効した左気腫性腎盂腎炎の1例. 日本泌尿器科学会東京地方会(第607回)(東京), 2011. 6.
- 24) 飯ヶ谷重来, 木村 剛, 濱崎 務, 田邊邦明, 柳 雅人, 武田隼人, 木全亮二, 松沢一郎, 鈴木康友, 近藤幸尋, 鈴木健太<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院泌尿器科):膀胱尿路上皮癌 micropapillary variant の1例. 日本泌尿器科学会東京地方会(第608回)(東京), 2012. 2.
- 25) 遠藤勇氣<sup>1)</sup>, 西村泰司<sup>1)</sup>, 高橋有未子<sup>2)</sup>, 小林尚史<sup>3)</sup>, 石井直弘<sup>3)</sup>, 近藤幸尋 (1) 大田原赤十字病院泌尿器科, <sup>2)</sup> 大田原赤十字病院研修医, <sup>3)</sup> 大田原赤十字病院形成外科):外傷を契機として巨大肛門周囲膿瘍の1例. 日本泌尿器科学会東京地方会(第608回)(東京), 2012. 2.
- 26) 赤塚 純<sup>1)</sup>, 木村 剛, 鈴木健太, 齋藤友香, 林 達郎, 柳 雅人, 河原崎由里子, 飯ヶ谷重来, 田邊邦明, 大澤秀一<sup>1)</sup>, 近藤幸尋 (1) 平成立石病院泌尿器科):新規超音波造影剤ソナゾイドの前立腺癌診断に関する有用性の前向き臨床試験. 日本癌治療学会学術集会(第49回)(名古屋), 2011. 10.
- 27) 柳 雅人, 木村 剛, 鈴木健太, 武田隼人, 木全亮二, 松沢一郎, 近藤幸尋, 椎葉真人<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院放射線科):乳頭状腎細胞癌:Type1 と type2 の臨床病理学的特徴. 日本癌治療学会学術集会(第49回)(名古屋), 2011. 10.
- 28) 木全亮二, 根本 勺<sup>1)</sup>, 松沢一郎, 鈴木康友, 濱崎 務, 木村 剛, 近藤幸尋, 村田 智<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院泌尿器科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院放射線科):Poor Risk の浸潤性膀胱癌に対するNIPP法を用いた動注化学療法膀胱温存療法の検討. 日本癌治療学会学術集会(第49回)(名古屋), 2011. 10.
- 29) 河原崎由里子, 木村 剛, 武田隼人, 木全亮二, 松沢一郎, 鈴木康友, 濱崎 務, 近藤幸尋, 椎葉真人<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院放射線科):嫌色素性腎細胞癌の臨床病理学的特徴とその予後. 日本癌治療学会学術集会(第49回)(名古屋), 2011. 10.
- 30) 木全亮二, 松沢一郎, 武田隼人, 飯ヶ谷重来, 鈴木康友, 濱崎 務, 木村 剛, 近藤幸尋, 清水宏之<sup>1)</sup>, 沖守<sup>1)</sup>, 長谷川潤<sup>1)</sup>, 大澤秀一<sup>2)</sup> (1) はせがわ病院, <sup>2)</sup> 平成立石病院泌尿器科):ESWL 単独では治療しきれない症例に対する Holmium Laser を用いた TUL の治療成績に関する検討. 日本泌尿器科学会総会(第99回)(名古屋), 2011. 4.
- 31) 大澤秀一<sup>1)</sup>, 赤塚 純, 林 達郎, 木全亮二, 近藤幸尋 (1) 平成立石病院泌尿器科):夜間頻尿に対するロキソプロフェンナトリウムの有効性:抗コリン薬, BZ 系睡眠薬との併用療法を含めて. 日本泌尿器科学会総会(第99回)(名古屋), 2011. 4.
- 32) 齋藤友香, 鈴木康友, 小串聡子, 高橋 亮, 田邊邦明, 武田隼人, 遠藤勇氣, 青木綾子, 鈴木健太, 松澤一郎, 濱崎 務, 木村 剛, 近藤幸尋:当院における骨盤臓器脱に対する TVM (Ten-sion-free Vaginal Mesh) 手術の検討. 日本泌尿器科学会総会(第99回)(名古屋), 2011. 4.
- 33) 濱崎 務, 松澤一郎, 鈴木康友, 佐々木崇, 富田祐司, 木村 剛, 近藤幸尋:下腹部手術既往例に対する体腔鏡下前立腺全摘術の検討. 日本泌尿器科学会総会(第99回)(名古屋), 2011. 4.
- 34) 濱崎 務, 清水宏之<sup>1)</sup>, 木全亮二, 鈴木康友, 松澤一郎, 木村 剛, 近藤幸尋 (1) はせがわ病院):HALS 腎摘術後出血性ショックとなった2例. 日本泌尿器内視鏡学会総会(第25回)(京都), 2011. 11.
- 35) 木全亮二, 武田隼人, 河原崎由里子, 松澤一郎, 鈴木康友, 濱崎 務, 木村 剛, 古谷雄三<sup>1)</sup>, 近藤幸尋 (1) 塩田病院):完全珊瑚状結石に対して TUL 単独で治療可能であった症例の初期治療成績. 日本泌尿器内視鏡学会総会(第25回)(京都), 2011. 11.
- 36) 飯ヶ谷重来<sup>1)</sup>, 根本 勺<sup>1)</sup>, 塩路 豪<sup>1)</sup>, 三浦剛史<sup>1)</sup>, 坪井成美<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 近藤幸尋 (1) 日本医科大学千葉北総病院泌尿器科, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院病理部):当院における T1 Grade3 膀胱がんの治療成績. 日本

泌尿器科学会東部総会（第76回）（横浜），2011. 10.

- 37) 木全亮二, 濱崎 務, 鈴木康友, 木村 剛, 根本 勺<sup>1)</sup>, 高橋亮二<sup>2)</sup>, 富田祐司<sup>2)</sup>, 近藤幸尋<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院泌尿器科, <sup>2)</sup> 日本医科大学多摩永山病院泌尿器科) : 外来尿道バルーンカテーテル管理患者に対する Memokath の短期有効性の検討. 日本泌尿器科学会東部総会（第76回）（横浜），2011. 10.
- 38) 濱崎 務 : 腹腔鏡から学んだ開腹前立腺全摘術の手術手技. あすか前立腺フォーラム（東京），2011. 6.
- 39) 木全亮二<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学泌尿器科学教室) : 高齢・合併証症例に対する BPH の治療選択. The New Approach to BPH Management by EBM（東京），2011. 9.
- 40) 近藤幸尋 : 腹腔鏡下前立腺全摘除術 : 伝えられること, 経験で身につくこと. 日本泌尿器科学会総会（第99回）（名古屋），2011. 4.
- 41) Kondo Y (<sup>1)</sup> Nippon Medical School Department of Urology) : Joint Session of the European Association of Urology (EAU) and the Japanese Urological Association (JUA) : Laparoscopic partial nephrectomy. European Association of Urology (EAU) (Vienna), 2011. 4.
- (7) Luncheon Seminar :
- 1) Kimura G : Neoadjuvant chemohormonal therapy before radical prostatectomy in patients with locally advanced prostate cancer : Curable or not?. 12th Congress of Asian Association of Endocrine Surgeons (Tokyo), 2012. 3.

## [武蔵小杉病院泌尿器科]

### 研究概要

当科では現在, 尿路生殖器腫瘍疾患をはじめ尿路結石, 尿路感染症, 前立腺肥大症などの排尿障害を中心に診療および臨床的研究を行っている. 特筆すべきものを以下に示す. 1) 前立腺癌に対しては生検正診率を向上させるために, 経直腸の多コア生検を導入し, 従来の6ヶ所生検との比較を行っている. 2) 経尿道的手術には電解質溶液下 TUR システムを導入し, 膀胱腫瘍や前立腺肥大症で安全な手術成績を収めている. 3) 尿管結石の保存的治療については  $\alpha$ 1-ブロッカーを併用した治療を行い, 自然排石向上の可能性を調査している. 4) 下部尿路症状 (LUTS) や過活動膀胱 (OAB) に対して, 国際前立腺症状スコア (IPSS) や過活動膀胱症状スコア (OABSS) および尿流動態検査を実施して各種内服における治療効果を判定するとともに, メタボリックシンドロームとの関連の有無も検討している. 5) その他, 稀な症例については適宜症例報告をすることに努めている.

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著 :

- 1) Ohgaki K, Hikima N<sup>1)</sup>, Horiuchi K, Kondo Y<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Urology, Oookurayama Memorial Hospital, <sup>2)</sup> Department of Urologic Surgery, Nippon Medical School Graduate School of Medicine) : Association Between Metabolic Syndrome and Male Lower Urinary Tract Symptoms in Japanese Subjects Using Three sets of Criteria for Metabolic Syndrome and International Prostate Symptom Score. Urology 2011 ; 77 (6) : 1432-1438.
- 2) 長岡 明<sup>1)</sup>, 櫻井俊彦<sup>2)</sup>, 内藤 整<sup>1)</sup>, 西田隼人<sup>1)</sup>, 川添 久<sup>1)</sup>, 槻木真明<sup>1)</sup>, ウラジミルビリーム<sup>1)</sup>, 一柳 統<sup>1)</sup>, 加藤智幸<sup>1)</sup>, 柴崎智宏<sup>2)</sup>, 金子尚嗣<sup>2)</sup>, 川村裕子<sup>2)</sup>, 柿崎 弘<sup>2)</sup>, 尾形吉彦<sup>3)</sup>, 藤原博通, その他6名 (<sup>1)</sup> 山形大学医学部腎泌尿器外科学, <sup>2)</sup> 独立行政法人山形県・酒田市病院機構日本海総合病院泌尿器科, <sup>3)</sup> 北村山公立病院泌尿器科) : 夜間頻尿を有する OAB 患者に対するイミダフェナシンの有用性の検討 : F'Y'USION STUDY. 泌尿器外科 2011 ; 24 (10) : 1649-1656.

## 学会発表

### (1) 一般講演：

- 1) 齋藤友香<sup>1</sup>, 鈴木康友<sup>1</sup>, 小串聡子<sup>1</sup>, 高橋 亮<sup>1</sup>, 田邊邦明<sup>1</sup>, 武田隼人<sup>1</sup>, 遠藤勇気<sup>1</sup>, 青木綾子<sup>1</sup>, 鈴木健太<sup>1</sup>, 松澤一郎<sup>1</sup>, 濱崎 務<sup>1</sup>, 木村 剛<sup>1</sup>, 近藤幸尋<sup>1</sup> (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科)：当院における骨盤臓器脱に対する TVM (Ten-sion-free Vaginal Mesh) 手術の検討. 日本泌尿器科学会総会 (第 99 回) (名古屋), 2011. 4.
- 2) 富田祐司<sup>1</sup>, 齋藤友香<sup>1</sup>, 木全亮二<sup>1</sup>, 松澤一郎<sup>1</sup>, 鈴木康友<sup>1</sup>, 濱崎 務<sup>1</sup>, 木村 剛<sup>1</sup>, 遠藤勇気<sup>2</sup>, 清水宏之<sup>2</sup>, 秋元成太<sup>2</sup>, 長谷川潤<sup>2</sup>, 沖 守<sup>3</sup>, 近藤幸尋<sup>1</sup> (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科, 2) はせがわ病院, 3) 成守会クリニック)：淋菌性尿道炎の臨床的検討. 日本泌尿器科学会総会 (第 99 回) (名古屋), 2011. 4.
- 3) 鈴木康友<sup>1</sup>, 齋藤友香<sup>1</sup>, 木全亮二<sup>1</sup>, 松澤一郎<sup>1</sup>, 濱崎 務<sup>1</sup>, 木村 剛<sup>1</sup>, 近藤幸尋<sup>1</sup> (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科)：前立腺全摘術後の尿失禁に対する bone anchored sling の検討. 日本泌尿器科学会総会 (第 99 回) (名古屋), 2011. 4.
- 4) 赤塚 純<sup>1</sup>, 木村 剛<sup>1</sup>, 鈴木健太<sup>1</sup>, 林 達郎<sup>1</sup>, 齋藤友香<sup>1</sup>, 河原崎由里子<sup>1</sup>, 飯ヶ谷重来<sup>1</sup>, 田邊邦明<sup>1</sup>, 近藤幸尋<sup>1</sup>, 大澤秀一<sup>2</sup> (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科, 2) 平成立石病院)：超音波造影剤ソナゾイドの前立腺癌診断に対する有用性についての前向き臨床試験の結果. 日本泌尿器科学会総会 (第 99 回) (名古屋), 2011. 4.
- 5) 鈴木健太<sup>1</sup>, 木村 剛<sup>1</sup>, 武田隼人<sup>1</sup>, 富田祐司<sup>1</sup>, 齋藤友香<sup>1</sup>, 松澤一郎<sup>1</sup>, 鈴木康友<sup>1</sup>, 濱崎 務<sup>1</sup>, 近藤幸尋<sup>1</sup> (1) 日本医科大学委付属病院泌尿器科)：乳頭状腎細胞癌 type1 と type2 の臨床病理学的特性の比較. 日本泌尿器科学会総会 (第 99 回) (名古屋), 2011. 4.
- 6) 木村 剛<sup>1</sup>, 栗林茂彦<sup>2</sup>, 齋藤友香<sup>1</sup>, 木全亮二<sup>1</sup>, 松澤一郎<sup>1</sup>, 鈴木康友<sup>1</sup>, 濱崎 務<sup>1</sup>, 近藤幸尋<sup>1</sup>, 宮下次廣<sup>2</sup>, 汲田伸一郎<sup>2</sup>, 山本陽一郎<sup>3</sup> (1) 日本医科大学付属病院泌尿器科, 2) 日本医科大学放射線科, 3) 日本医科大学付属病院病理部)：前立腺全摘除術後の PSA 再発に対する救済放射線療法：予後因子の検討. 日本泌尿器科学会総会 (第 99 回) (名古屋), 2011. 4.

## [多摩永山病院泌尿器科]

### 研究概要

当科では感染症、結石から神経疾患、腫瘍を中心に診療・研究を行っているが、特筆すべき点を列記する。1) 尿路感染症：扱う感染症は急性単純性膀胱炎から閉塞性腎盂腎炎まで重症度は多岐に亘る一方、起炎菌側の問題として抗生剤に対する耐性化がある。耐性化傾向の検討も含め最適な治療法を研究している。2) 尿路結石：内視鏡下手術の他、体外衝撃波結石粉碎術も行い臨床的検討を行っている。3) 排尿障害：施設入所中の全介助を要する排尿障害を伴った症例への対応として尿道ステントを積極的に用い、その有用性を検討している。4) 前立腺癌：手術・放射線による治療も行っているが、内分泌療法の適応となった症例に対してはその副作用、特に糖・脂質代謝異常、骨密度の減少について検討を行い合併症の予防に役立てている。5) 膀胱癌：浸潤性膀胱癌に対しては化学療法と放射線照射の併用療法にて膀胱温存を図っている。6) 女性尿失禁・骨盤臓器脱：保存的治療無効の場合は外科的治療を施行し、手術の有効性を検討している。また腹圧性失禁のみならず、切迫性尿失禁と臓器脱の関連を研究している。

### 研究業績

#### 学会発表

##### (1) 一般講演：

- 1) 富田祐司<sup>1</sup>, 齋藤友香<sup>1</sup>, 木全亮二<sup>1</sup>, 松澤一郎<sup>1</sup>, 鈴木康友<sup>1</sup>, 濱崎 務<sup>1</sup>, 木村 剛<sup>1</sup>, 遠藤勇気<sup>2, 4</sup>, 清水宏之<sup>2</sup>, 秋元成太<sup>2</sup>, 長谷川潤<sup>2</sup>, 沖 守<sup>3</sup>, 近藤幸尋<sup>1</sup> (1) 日本医科大学泌尿器科, 2) はせがわ病院, 3) 成守会クリニック, 4) 千葉県済生会習志野病院泌尿器科)：淋菌性尿道炎の臨床的検討. 日本泌尿器科学会総会 (第 99

- 回) (名古屋), 2011. 4.
- 2) 鈴木健太<sup>1)</sup>, 木村 剛<sup>1)</sup>, 武田隼人<sup>1)</sup>, 富田祐司<sup>1)</sup>, 齋藤友香<sup>1)</sup>, 松澤一郎<sup>1)</sup>, 鈴木康友<sup>1)</sup>, 浜崎 務<sup>1)</sup>, 近藤幸尋<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学泌尿器科) : 乳頭状腎細胞癌 type1 と type2 の臨床病理学的特性の比較. 日本泌尿器科学会総会 (第 99 回) (名古屋), 2011. 4.
  - 3) 佐々木崇, 木村 剛<sup>1)</sup>, 河原崎由里子<sup>1)</sup>, 鈴木健太, 小串聡子<sup>1)</sup>, 濱崎 務<sup>1)</sup>, 近藤幸尋<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学泌尿器科) : スニチニブが著効した転移性透析腎癌の 1 例. 日本癌治療学会 (第 49 回) (名古屋), 2011. 10.
  - 4) 鈴木健太, 佐藤三洋, 富田祐司, 佐々木崇 : 再発性増殖性膀胱炎の 1 例. 多摩泌尿器科医会 (第 113 回) (東京), 2012. 3.

## 論文

- (1) 原著 :

### [千葉北総病院泌尿器科]

## 研究業績

- 2) 赤塚 純<sup>1)</sup>, 根本 勺, 塩路 豪, 三浦剛史, 坪井成美, 大秋美治<sup>2)</sup>, 大澤秀一<sup>1)</sup>, 近藤幸尋<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 平成立石病院泌尿器科, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院病理部, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院泌尿器科) : 日本医科大学千葉北総病院における精巣腫瘍の臨床的検討. 泌尿器外科 2012 ; 25 (1) : 115-118.
- (2) 症例報告 :
- 1) Nemoto K, Miura T, Shioji G, Tsuboi N : Complete remission of renal cell carcinoma with lung metastases in two hemodialysis patients after low-dose interferon therapy. Hemodialysis International 2011 ; 15 (2) : 288-292.

## 学会発表

- (1) 一般講演 :

- 1) 塩路 豪, 坪井成美, 木全亮二<sup>1)</sup>, 三浦剛史, 根本 勺, 川俣博志<sup>2)</sup>, 大秋美治<sup>3)</sup>, 近藤幸尋<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院泌尿器科, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院放射線科, <sup>3)</sup> 日本医科大学千葉北総病院病理部) : 急速な進行を呈した類上皮型後腹膜血管筋脂肪腫の 1 例. 日本泌尿器科学会総会 (第 99 回) (名古屋), 2011. 4.
- 2) 飯ヶ谷重来, 根本 勺, 塩路 豪, 三浦剛史, 坪井成美, 木村 剛<sup>1)</sup>, 近藤幸尋<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院) : 15 年におよぶ長期生存が得られている病期 D2 前立腺癌の 1 例. 千葉泌尿器科集談会 (第 95 回) (千葉), 2011. 6.
- 3) 飯ヶ谷重来, 根本 勺, 塩路 豪, 三浦剛史, 坪井成美, 大秋美治<sup>1)</sup>, 近藤幸尋<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院病理部, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院泌尿器科) : T1 Grade3 膀胱がんの治療成績. 日本泌尿器科学会東部総会 (第 76 回) (横浜), 2011. 10.
- 4) 根本 勺, 木全亮二<sup>1)</sup>, 三浦剛史, 塩路 豪, 阿部裕行<sup>2)</sup>, 近藤幸尋<sup>1)</sup>, 坪井成美 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院泌尿器科, <sup>2)</sup> 神栖済生会病院泌尿器科) : 再燃性悪性褐色細胞腫に対するスニチニブの使用経験. 日本癌治療学会学術集会 (第 49 回) (名古屋), 2011. 10.

## 16. 眼科学講座

### [付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科]

#### 研究概要

前眼部分野では、角膜関連として、角膜酸化ストレスに関する研究が継続された。アレルギー関連では耳鼻咽喉科との共同研究により鼻噴霧ステロイドのアレルギー性結膜炎症状軽減効果の検討を行い、涙液中の Substance P への影響が確認された。ドライアイ関連では引き続き機能的近赤外線分光法を用いた前頭葉の賦活化の研究を行った。また、白内障手術中の内眼圧がどのように変動するかを測定し、手術における眼球への侵襲を減らすための検討を行った。ぶどう膜分野では、臨床研究として「サルコイドーシス疾患感受性遺伝子の網羅的探索（多施設共同）」、「強膜炎の臨床統計」を行った。基礎研究として「眼炎症制御と恒常性を維持する新規分子群の解析」、「強膜炎モデルの確立と病態解析」、「羊膜間葉細胞を用いた網膜再生」を継続し、それぞれ成果を発表した。網膜分野では、アデノ随伴ウイルス（AAV）タイプ8の有用性について眼科的投与方法の違いによる遺伝子導入効率と発現期間の検討を行った。また血管新生抑制に関する検討としてケモカイン CCL11（Eotaxin-I）が血管新生に関与するという観点から、産婦人科学教室との共同研究にて周排卵期卵巣におけるケモカイン CCL11（Eotaxin-I）の発現調節および機能に関する解析を行った。また、新しく遺伝子異常が確定したオカルト黄斑ジストロフィー（OMD）症例で RP1L1 遺伝子の新規疾患関連異常を発見した。黄斑局所 ERG による解析により OMD の症例では脱分極型の波形を呈することを認めた。さらに常染色体優性視神経萎縮（ADOA）の弧発例において OPA1 遺伝子異常を発見した。また、ラット培養網膜に対する SNAP による酸化ストレスに対しての水素分子の酸化ストレス抑制効果を検討し、水素分子は有意に SNAP による培養ラット網膜の神経保護効果があることを確認した。

#### 研究業績

##### 論文

##### [追加分]

追加分総説：

- 1) 鈴木久晴：臨床セミナー：PEA 装置を理解する（前編）。IOL&RS 2011；25（3）：416-418.

(1) 原著：

- 1) 佐藤景子, 堀 純子, 五十嵐勉, 今 高之<sup>1)</sup> (1) 順天堂大学膠原病・内科学講座)：強皮症に随伴した両眼性汎ぶどう膜炎の1例。臨床眼科 2012；66（2）：179-183.

(2) 総説：

- 1) Kunishige T, Omori A, Tateno A, Yahata N, Hori J：Cortical blindness caused by hypoxemia following an asthma attack. Jpn J Ophthalmol 2011；55（5）：588-590.
- 2) 堀 純子：特集・目が赤い「強膜炎」。あたらしい眼科 2011；28（11）：1551-1554.
- 3) 堀 純子：強膜炎の診断と治療。臨床眼科：眼科診療・5年前の常識は、現在の非常識 2011；65（11）：354-357.
- 4) 小野真史：眼科領域への応用：眼不快の定量的評価。NIRS-基礎と臨床-第II章臨床編 2012；242-245.
- 5) 鈴木久晴, 志和利彦, 小原澤英彰, 高橋 浩：半円式 CCC マーカー：眼内レンズセミナー。あたらしい眼科 2011；28（7）：993-994.

(3) 研究報告書：

- 1) 井出和彦<sup>1)</sup>, 小野真史, 白木善尚<sup>1)</sup> (1) 東邦大)：テレコーチングにおける音声活性化度分析。信学技報 2011；111

(225) : 37-42.

## 著書

- 1) 國重智之, 志和利彦 : [分担] 眼科疾患の病態と診断・治療 (I) 白内障. 医学と薬学, 2012 ; pp46-50, 自然科学社.
- 2) 堀 純子 : [分担] サルコイドーシス. 専門医のための眼科診療クオリファイ No.8 網膜血管障害 (大鹿哲郎 大橋裕一), 2011 ; pp141-145, 中山書店.

## 学会発表

### (1) 特別講演 :

- 1) 高橋 浩 : 第 13 回難儀な手術シリーズ. 千駄木眼科フォーラム (第 14 回) (東京), 2011. 6.
- 2) 高橋 浩 : ドライアイ・疾患概念と治療方針, 日米の違いを考える. 東京オキュラーサーフェスフォーラム (第 16 回) (東京), 2011. 7.
- 3) 高橋 浩 : 角膜アップデート・ドライアイと角膜内皮. 和歌山眼科フォーラム (和歌山), 2011. 10.
- 4) 高橋 浩 : 角膜アップデート・ドライアイと角膜内皮. 高知眼科フォーラム (第 7 回) (高知), 2011. 11.
- 5) 高橋 浩 : 角膜アップデート・ドライアイ. 平成 23 年度仙台市眼科医会講演会 (仙台), 2011. 12.
- 6) 高橋 浩 : 第 14 回難儀な手術シリーズ. 千駄木眼科フォーラム (第 15 回) (東京), 2011. 12.
- 7) 高橋 浩 : 強膜炎の外科的治療. 東京眼科アカデミー (第 5 回) (東京), 2012. 2.
- 8) 高橋 浩 : 角膜アップデート・ドライアイと角膜内皮. 高津区・中原区ドライアイ講習会 (川崎), 2012. 2.
- 9) 高橋 浩 : 眼科からの花粉症予防と対策. 花粉症予防・治療シンポジウム (第 6 回) (東京), 2012. 2.
- 10) 高橋 浩 : 角膜アップデート・ドライアイと角膜内皮. 秋田県眼科学術講演会 (第 17 回) (秋田), 2012. 3.
- 11) 高橋 浩 : 角膜アップデート・ドライアイと角膜内皮. 大分オキュラーサーフェスセミナー (大分), 2012. 3.
- 12) 高橋 浩 : 角膜アップデート・ドライアイと角膜内皮. エンハンスメントセミナー (第 2 回) (青森), 2012. 3.
- 13) 堀 純子 : 眼の恒常性の不思議” Immune privilege ” の謎を解く. 学問のすすめ (第 3 回) (新潟), 2011. 4.
- 14) 堀 純子 : 眼炎症の自動制御機構 “免疫特権” の謎を解く. レディースアイフォーラム in 横浜 (神奈川), 2011. 8.
- 15) 堀 純子 : 女性医師のキャリア支援「眼科医として」. 日本医師会 (東京), 2011. 12.
- 16) 鈴木久晴 : 角膜にやさしい白内障手術の追及. 神奈川県眼科臨床談話会 (第 44 回) (神奈川県), 2012. 1.

### (2) 教育講演 :

- 1) 小野真史 : ドライアイとは. ドライマウス研究会 (第 19 回) (東京), 2011. 11.
- 2) 小野真史 : コーチングの構造と理論 - コーチングはチーム医療に役立つか. 医療の質・安全学会学術集会 (第 6 回) (東京), 2011. 11.
- 3) 小野真史 : 傾聴・承認. 2012 メディカル・コーチング研修会 (東京), 2012. 1.
- 4) 鈴木久晴 : 白内障手術の基礎と臨床～目に優しい手術を目指して～. 京浜地区眼科研究会 (神奈川県), 2011. 12.

### (3) シンポジウム :

- 1) 鈴木久晴 : 異なるフェイコ発振のメカニズムと効果 (眼内レンズとフェイコマシンのアップデート). 日本眼科手術学会総会 (第 35 回) (愛知県 (名古屋)), 2012. 1.
- 2) 堀 純子 : Ocular cell-mediated regulation and immune privilege. 日本眼科学会総会 (第 115 回) (東京), 2011. 5.
- 3) Hori J : Ocular cell-mediated regulation and immune privilege. (ARVO/JOS シンポジウム 1 Immune pathogenesis and regulation in the eye). 日本眼科学会総会 (第 115 回) (東京), 2011. 5.

(4) セミナー：

- 1) 國重智之：行列のできる角膜難治症例相談所 2012「紅斑と角膜びらんを繰り返した1例」. 角膜カンファレンス 2012 (東京), 2012. 2.
- 2) 榛村真智子, 堀 純子, 王 明聡, 谷口ヒロ子, 秋葉久弥, 八木田秀雄：角膜移植の免疫特権における Tim-3/Gal-9 経路の役割. Tokyo Ocular Immunology Meeting (第 16 回) (東京), 2011. 9.
- 3) 鈴木久晴：白内障手術オープンソース Ver2011：対象症例プログラムをインストール：硬い核 (G4-5 白内障). 日本白内障屈折矯正手術学会 (第 26 回) (福岡), 2011. 6.
- 4) 鈴木久晴：小さな切開大きな満足 3, 半円式 CCC マーカーの開発と使い方のコツ. 日本眼科手術学会 (第 35 回) (愛知 (名古屋)), 2011. 6.
- 5) 鈴木久晴：緊急性のある前眼部疾患. Bay Ocular Club (第 10 回) (神奈川), 2011. 7.
- 6) 鈴木久晴：小瞳孔・前嚢下線維性混濁・成熟白内障を合併した PEA の 1 例. Bay Ophthalmic Surgical Seminar (第 10 回) (神奈川県 (横浜)), 2011. 10.

(5) 一般講演：

- 1) 寺田 節<sup>1)</sup>, 堀 純子, 谷口ヒロ子, 丸山和一<sup>2)</sup>, 安部 良<sup>3)</sup> (1) 日本医大・動物, (2) 京都府医大, (3) 東京理大・生科研免疫)：角膜血管リンパ管新生における 2 次リンパ器官の関与と ICOS の抑制的役割. 日本眼科学会総会 (第 115 回) (東京), 2011. 5.
- 2) 谷口ヒロ子, 堀 純子, 長谷英徳<sup>1)</sup>, 秋葉久弥<sup>2)</sup>, 八木田秀夫<sup>2)</sup>, 東みゆき<sup>1)</sup> (1) 東京医歯大・分子免疫, (2) 順天大・免疫)：角膜移植後の眼局所における TLT-2 の発現と機能. 日本眼科学会総会 (第 115 回) (東京), 2011. 5.
- 3) 五十嵐勉, 三宅弘一<sup>1)</sup>, 浅川なぎさ<sup>1)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup> (1) 生化学・分子生物学)：AAVtype8 ベクターの投与方法の違いによる遺伝子導入効率と発現期間の検討. 日本眼科学会総会 (第 115 回) (東京), 2011. 5.
- 4) 仲里ゆり, 鈴木久晴, 志和利彦, 國重智之, 高橋和久, 高橋 浩：オゾン水消毒による角膜上皮障害の評価. 日本白内障屈折矯正手術学会総会 (第 26 回) (福岡), 2011. 6.
- 5) 谷口ヒロ子, 堀 純子, 秋葉久弥<sup>1)</sup>, 八木田秀雄<sup>2)</sup> (1) 順天大・免疫, (2) 東京医歯大・分子免疫)：角膜アログラフトの生着における脾臓内 Foxp3+CD8+ 制御性 T 細胞の関与. 日本眼炎症学会 (第 45 回) (京都), 2011. 7.
- 6) 片上千加子<sup>1)</sup>, 高村悦子<sup>2)</sup>, 佐々木香る<sup>3)</sup>, 北川和子<sup>4)</sup>, 外園千恵<sup>5)</sup>, 堀 純子, 篠崎和美<sup>2)</sup> (1) ツカザキ病院, (2) 女子医大, (3) 出田眼科病院, (4) 金沢医大, (5) 京都府医大)：やさしい角結膜炎感染症クリニック：正確な初期診断と適切な治療 第 3 弾：実践編 2. 日本臨床眼科学会 (第 65 回) (東京), 2011. 10.
- 7) 五十嵐勉, 藤本千明, 浅川なぎさ<sup>1)</sup>, 飯島 修<sup>1)</sup>, 高橋 浩 (1) 分子生物学)：高浸透圧に伴う角膜上皮細胞の IL-17 産生への影響. 日本臨床眼科学会 (第 65 回) (東京), 2011. 10.
- 8) 鈴木久晴, 志和利彦, 高橋和久, 小原澤英彰, 高橋 浩：経度結膜弛緩症を合併した翼状片に対しての遊離弁移植. 日本臨床眼科学会 (第 65 回) (東京), 2011. 10.
- 9) 小野真史, 高橋 浩：前頭葉賦活化計測のよる健常者における羞名 (グレア) の他覚的測定. 日本臨床眼科学会 (第 65 回) (東京), 2011. 10.
- 10) 芹澤元子, 國重智之, 高橋 浩：白内障術後の Nocardia 感染による結膜下膿瘍の 1 例. 日本臨床眼科学会 (第 65 回) (東京), 2011. 10.
- 11) 高橋和久, 堀 純子, 若山久仁子, 高橋 浩：ステロイド全身投与中に結膜結節による瞼球結膜癒着を生じたサルコイドーシスの 1 例. 日本臨床眼科学会 (第 65 回) (東京), 2011. 10.
- 12) 若山久仁子, 堀 純子, 仲里ゆり, 塚田玲子<sup>1)</sup>, 高橋 浩, 幸野敬子<sup>2)</sup> (1) 同愛記念病院, (2) 幸野メディカルクリニック)：下腿血管炎を併発したリウマチ性壊死性強膜炎の 1 例. 日本臨床眼科学会 (第 65 回) (東京), 2011. 10.
- 13) 鈴木久晴, 坂西京子<sup>1)</sup>, 稲毛道憲, 小原澤英彰, 志和利彦, 高橋 浩 (1) 満尾医院)：Ellips FX™ (AMO) に

- よる虹彩色素脱の頻度と原因の検討. 日本眼科手術学会総会 (第 35 回) (愛知 (名古屋)), 2012. 1.
- 14) 稲毛道憲, 鈴木久晴, 小原澤英彰, 志和利彦, 高橋 浩: LED 光源の細隙灯顕微鏡によるイエロー眼内レンズの観察. 日本眼科手術学会総会 (第 35 回) (愛知 (名古屋)), 2012. 1.
  - 15) 内山昌明, 益田幸成, 清水 章, 永坂真也, 高橋 浩, 福田 悠: ラット角膜アルカリ熱傷の創傷治癒過程における血管及びリンパ管新生. 日本病理学会総会 (第 100 回) (横浜), 2011. 4.
  - 16) 内山昌明, 益田幸成, 清水 章, 永坂真也, 福田 悠, 高橋 浩: ラット角膜アルカリ熱傷後の不完全創傷治癒による角膜混濁. 日本医科大学総会 (第 79 回) (東京), 2011. 9.
  - 17) 高橋和久, 鈴木久晴, 志和利彦, 小原澤英彰, 高橋 浩: 半円式 CCC マーカーのサイズによる検討. 日本白内障屈折矯正手術学会総会 (第 26 回) (福岡), 2011. 6.
  - 18) 高橋和久, 鈴木久晴, 志和利彦, 高橋 浩: 結膜弛緩症と翼状片の同時手術. 千駄木フォーラム (第 14 回) (東京), 2011. 6.
  - 19) 鈴木久晴: 手術手技による前房内圧の変動, Ophthalmic Surgery Film Award. 日本眼科手術学会 (第 35 回) (名古屋), 2012. 1.
  - 20) 小野真史, 稲毛道憲, 高橋 浩: 眼不快による開瞼努力時の眼周囲筋活動の検出. 角膜カンファランス 2012 (東京), 2012. 2.
  - 21) 仲里ゆり, 五十嵐勉, 國重智之, 藤田美穂, 山田佑美, 藤本千明, 大久保公祐, 高橋 浩: 季節性アレルギー性鼻結膜炎患者に対する Mometasone Furoate の眼症状改善効果の検討. アレルギー学会 春期臨床大会 (第 23 回) (千葉五十嵐勉, 國重智之, 藤田美穂, 山田佑美, 藤本千明, 大久保公祐, 高橋浩), 2011. 5.
  - 22) Taniguchi H, Sase H, Akiba H, Yagita H, Azuma M, Hori J: Expression of TLT-2 in corneal tissue and macrophages after corneal transplantation and association with immune privilege of corneal allografts. ARVO (Fort Lauderdale, Florida, USA), 2011. 5.
  - 23) Wakayama K, Taniguchi H, Akiba H, Yagita H, Azuma M, Hori J: Correlation between proportion of splenic Foxp3+CD8+T regulatory cells and corneal allograft survival. ARVO (Fort Lauderdale, Florida, USA), 2011. 5.
  - 24) Terada M, Taniguchi H, Maruyama K, Abe R, Hori J: Inhibitory role of ICOS on corneal lymphangiogenesis and involvement of Foxp3+CD4+T regulatory cells in secondary lymphoid organs. ARVO (Fort Lauderdale, Florida, USA), 2011. 5.
  - 25) 片上千加子, 高村悦子, 外園知恵, 佐々木香る, 北川和子, 堀 純子, 篠崎和美: やさしい角結膜感染症. 日本臨床眼科学会総会 (第 65 回) (東京), 2011. 10.
  - 26) Takeuchi C, Kikuchi Y, Ito K, Salcedo D, Onodera M, Ono M: COMPARISON OF RESPONSES TO ABRUPT CHANGES IN PATIENTS' CONDITIONS BETWEEN NEWLY GRADUATED AND EXPERIENCED NURSES. International Council of Nurses (マルタ), 2011. 5.
  - 27) 小野真史, 井出和彦<sup>1)</sup>, 白木善尚<sup>1)</sup> (1) 東邦大): テレコーチングにおける音声活性度分析. 音声研究会 (SP) 福祉情報工学研究会 (東京), 2011. 10.
  - 28) Igarashi T, Miyake K, Asakawa N, Shimada T, Takahashi H: Direct Comparison of Administration Routes for AAV 8 Mediated Ocular Gene Therapy. American society of gene therapy (アメリカ), 2011. 5.
  - 29) Asakawa N, Igarashi T, Miyake N, Miyake K, Shimada T, Takahashi H: Direct comparison of administration routes for AAV 8 mediated ocular gene therapy. Japan society of gene therapy (福岡), 2011. 7.
- (6) モーニングクルズス 8:
- 1) 高橋 浩: アレルギー性結膜疾患・診断のいろは. 日本臨床眼科学会 (第 65 回) (東京), 2011. 10.

## [千葉北総病院眼科]

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Takahashi H, Kanasaki H, Igarashi T, Kameya S, Yamaki K, Mizota A, Kudo A, Suzuki Y, Takeda S, Takahashi H : Reactive gliosis of astrocytes and Müller glial cells in retina of POMGnT1-deficient mice. *Molecular and Cellular Neuroscience* 2011 ; 47 (2) : 119-130.
- 2) T K, H T, Y G, T I, M A, S K, T I, A M, K Y, Y M, H T : A new mutation in RP1L1 gene in occult macular dystrophy patient associated with a depolarizing-pattern of focal macular ERG. *Molecular Vision* 2012.

##### (2) 総説：

- 1) 江本直也, 岩橋美奈子, 鈴木千賀子, 亀谷修平, 金井良幸, 福田恵子, 鈴木光子, 金城邦彦, 真鍋知史 : 当院糖尿病地域連携における基幹病院から診療所への紹介システムの有用性に関する検討. *日本医科大学千葉北総病院糖尿病診療対策小委員会糖尿病* 2011 ; 54 (8) : 675-680.

#### 学会発表

##### (1) 一般講演：

- 1) 加部東武徳 : 常染色体優性視神経萎縮のSD-OCTと黄斑局所ERG. 千駄木フォーラム (第15回) (東京), 2011. 12.
- 2) Kameya S, Takahashi H, Kanasaki H, Igarashi T, Yamaki K, Mizota A, Kudo A, Miyagoe-Suzuki Y, Takeda S, Takahashi H : Reactive gliosis of astrocytes and Müller glial cells in retina of POMGnT1-deficient mice. *The 2nd Japan-Korea Joint Symposium of Clinical Electrophysiology of Vision 2011 (KOREA)*, 2011. 11.

## 17. 麻酔科学講座

### [付属病院麻酔科]

#### 研究概要

本講座研究のメインテーマとして、主に全身麻酔の機序解明と新たな麻酔薬・麻酔法の開発、重症患者管理と重症化阻止、神経障害性疼痛解明と慢性痛の一掃対策につき種々の臨床および基礎的研究が行われた。大学院生による研究の一部は、薬理学講座および解剖学講座の指導下で行われ、神経障害性疼痛における下行性抑制経路の関与や、麻酔による日内変動遺伝子変化の研究等多くの成果が報告された。また、手術侵襲制御、周術期体液・代謝管理、人工呼吸管理、術後疼痛管理、緩和ケア、ペインクリニック等従来の臨床研究テーマについても幅広く研究が行われた。さらに、本年度は、日本臨床モニター学会を主催し、臨床モニタリングにおける多くの研究も行われた。以下に主な内容を示す。基礎研究：マイクロアレイ、realtime RT-PCR、細胞培養装置、パッチクランプ、心血管灌流装置等を用いて、1) 麻酔による体内遺伝子発現への影響、2) 麻酔とプロテオミクス、3) 麻酔とメタボロミクス、4) 呼吸中枢と痙攣閾値の関連、5) 頸動脈小体活動機序、6) ショックにおける人工酸素運搬体の効果、7) 神経障害性疼痛に及ぼす治療効果等。臨床研究：臨床麻酔、外科系集中治療、ペインクリニック、緩和医療領域において、1) 周術期 $\beta$ 遮断薬の効果、2) 周術期心イベントの発生要因、3) 新たな輸液製剤の臨床的效果、4) 外科侵襲による生体反応、5) 非侵襲的人工呼吸管理、6) 新たな疼痛管理法等。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Kamagata C, Tsuboko Y, Okabe T, Sato C, Sakamoto A : Proteomic analysis of rat brains in a model of neuropathic pain following exposure to electroconvulsive stimulation. *Biomedical Research* 2011 ; 32 (2) : 91-102.
- 2) Itou K<sup>1)</sup>, Fukuyama T<sup>2)</sup>, Sasabuchi Y<sup>3)</sup>, Yasuda H<sup>4)</sup>, Suzuki N, Hineoya H<sup>5)</sup>, Kim C<sup>6)</sup>, Sanui M<sup>7)</sup>, Taniguchi H<sup>8)</sup>, Miyao H<sup>2)</sup>, Seo N<sup>9)</sup>, Takeuchi M<sup>10)</sup>, Iwao Y<sup>4)</sup>, Sakamoto A, Fujita Y<sup>5)</sup>, et al.<sup>(1)</sup> Tokai University School of Medicine, <sup>2)</sup> Saitama Medical University, <sup>3)</sup> Saitama Medical Center, Jichi Medical University, <sup>4)</sup> Kyorin University School of Medicine, <sup>5)</sup> Kawasaki Medical School, <sup>6)</sup> Nippon Medical School Chiba Hokusou Hospital, <sup>7)</sup> Jikei University School of Medicine, <sup>8)</sup> Kanagawa University of Human Services, <sup>9)</sup> Showa University School of Medicine, <sup>10)</sup> and others) : Safety and efficacy of oral rehydration therapy until 2h before surgery : a multicenter randomized controlled trial. *Journal of Anesthesia* 2012 : 26 (1) : 20-27.
- 3) Mase H, Sakai A<sup>1)</sup>, Sakamoto A, Suzuki H<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> Department of Pharmacology, Nippon Medical School) : A subset of  $\mu$ -opioid receptor-expressing cells in the rostral ventromedial medulla contribute to thermal hyperalgesia in experimental neuropathic pain. *Neuroscience Research* 2011 : 70 (1) : 35-43.
- 4) Kawahara H, Drew G<sup>1)</sup>, Christie M<sup>1)</sup>, Vaughan C<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> Pain Management Research Institute, University of Sydney at Royal North Shore Hospital) : Inhibition of fatty acid amide hydrolase unmasks CB1 receptor and TRPV1 channel-mediated modulation of glutamatergic synaptic transmission in midbrain periaqueductal grey. *British Journal of Pharmacology* 2011 ; 163 (6) : 1214-1222.

##### (2) 総説：

- 1) 坂本篤裕：術後心房細動治療における短時間作用型 $\beta$ 1選択的遮断薬. *日本集中治療医学会雑誌* 2011 ; 18 (2) : 171-172.

- 2) 岡部 格, 坂本篤裕: 脊椎麻酔 (特集: 形成外科手術麻酔パーフェクトガイド). PEPARS 2011; 54: 18-22.
  - 3) 間瀬大司, 竹田晋浩: Neurally Adjusted Ventilatory Assist (NAVA) の概念と実際 (特集: 呼吸管理に関する最近の話題). ICU と CCU 2011; 35 (7): 521-527.
  - 4) 幸田修典, 鎌形千尋, 間瀬大司, 杖下隆哉, 鈴木規仁, 小野寺英貴, 坂本篤裕: モニターとしての経食道心エコーとその基礎知識. Cardiovascular Anesthesia 2011; 15 (1): 103-112.
  - 5) 川村隆枝<sup>1)</sup>, 幸田修典 (1) 独立行政法人仙台医療センター麻酔科: 東日本大震災: そのとき麻酔科医たちは. 臨床麻酔 2011; 35 (6): 977-988.
  - 6) 小野寺英貴, 坂本篤裕: 心臓手術の実際 第13回 心房細動手術 (Maze 手術, Radial 手術) と体外循環法: 心房細動手術における麻酔. Clinical Engineering 2011; 22 (5): 464-467.
  - 7) 青景聡之<sup>1)</sup>, 竹田晋浩 (1) 付属病院集中治療室: ECMO. 救急医学 2012; 36 (2): 233-238.
  - 8) 青景聡之<sup>1)</sup>, 竹田晋浩 (1) 付属病院集中治療室: 院内急変対応. ECMO. 救急医学 2011; 35 (9): 1012-1017.
- (3) 症例報告:
- 1) 鎌形千尋, 中里桂子<sup>1)</sup>, 岡部 格, 幸田修典, 小泉有美馨<sup>1)</sup>, 杖下隆哉, 本郷 卓, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 坂本篤裕 (1) 日本医科大学付属病院集中治療室: 術中経食道心エコーにより食道穿孔を来した1例. Cardiovascular Anesthesia 2011; 15 (1): 241-244.
  - 2) 岡部 格, 佐藤千代, 荒井雅江, 幸田修典, 河原裕泰, 鈴木規仁, 中西一浩, 村田 智<sup>1)</sup>, 坂本篤裕 (1) 日本医科大学放射線医学講座: 横行結腸癌の仙骨浸潤による痛みによる閉鎖循環下骨盤内抗がん薬灌流療法が有効であった1症例. 日本ペインクリニック学会誌 2012; 19 (1): 52-55.
- (4) ユーザーレポート:
- 1) 中里桂子, 竹田晋浩: V60 ベンチレータ. 人工呼吸 2011; 28 (1): 90.

## 著 書

- 1) 金 徹, 坂本篤裕: [分担] 第10章・麻酔による循環動態の変化. 周術期循環管理 (澄川耕二編集), 2011; pp285-306, 克誠堂出版.
- 2) 坂本篤裕: [分担] 第4章 心・血管作動薬. 麻酔科学レビュー 2011 (天羽敬祐監修), 2011; pp19-25, 総合医学社.
- 3) 金 徹<sup>1)</sup>, 坂本篤裕 (1) 日本医科大学千葉北総病院麻酔科: [分担] 低流量麻酔, LMA でのデスフルレン麻酔. デスフルレンの使い方 (武田純三編集), 2011; pp155-166, 真興交易 (株) 医書出版部.
- 4) 坂本篤裕, 河原裕泰: [監修] MANAGE YOUR PAIN - Practical and Positive Ways of Adapting to Chronic Pain (訳本) 自分で「痛み」を管理しよう: 慢性痛に順応する積極的取り組み (坂本篤裕, 河原裕泰), 2011; pp1-277, 真興交易医書出版部.
- 5) 中西一浩: [分担] オピオイドを始めましたが, 疼痛コントロールが不十分でした. 具体的にどのような方法を考えますか. 治療各論: 対症療法の実際. 肺癌診療 Q & A (弦間昭彦), 2011; pp312-316, 中外医学社.
- 6) 中西一浩: [分担] オピオイドを始めましたが, 吐気のコントロールが出来ません. どのような薬剤を用いていますか. 治療各論: 対症療法の実際. 肺癌診療 Q & A (弦間昭彦), 2011; pp317-320, 中外医学社.
- 7) 本郷 卓, 坂本篤裕: [分担] 麻酔による水電解質異常. 腎と透析 vol71No4, 2011; pp603-605, 東京医学社.
- 8) 本郷 卓: [翻訳] 序章, 1章: 慢性痛とは?, 2章: あなたが抱く疑問, 3章: 痛みがあるとき, 体の中で何が起きているのか?. 自分で「痛み」を管理しよう (坂本篤裕 河原裕泰), 2011; pp17-51, 真興交易医書出版部.
- 9) 河原裕泰: [翻訳] 10章: ストレッチと運動, 11章: 痛みに対して前向きに考える, 12章: リラックスしてみる. 自分で「痛み」を管理しよう (坂本篤裕 河原裕泰), 2011; pp117-187, 真興交易医書出版部.
- 10) 小野寺英貴: [翻訳] 4章: X線, CT スキャン, MRI スキャンで分かること, 5章: 主治医との協力, 6章: 慢

性痛の治療. 自分で「痛み」を管理しよう (坂本篤裕 河原裕泰), 2011; pp52-86, 真興交易医書出版部.

- 11) 鈴木規仁:〔翻訳〕7章:慢性痛による活動制限を克服するためにペーシングを使う, 8章:ゴールの設定, 9章:変化への障害を認識し克服する. 自分で「痛み」を管理しよう (坂本篤裕 河原裕泰), 2011; pp87-116, 真興交易医書出版部.
- 12) 杖下隆哉:〔翻訳〕13章:注意力テクニック, 14章:睡眠の改善, 15章:ストレスと問題解決. 自分で「痛み」を管理しよう (坂本篤裕 河原裕泰), 2011; pp188-214, 真興交易医書出版部.
- 13) 幸田修典:〔翻訳〕16章:周囲の人々との関係, 17章:急性増悪とぶり返しへの対処, 18章:痛みと仕事. 自分で「痛み」を管理しよう (坂本篤裕 河原裕泰), 2011; pp215-259, 真興交易医書出版部.
- 14) 岡部 格:〔翻訳〕19章:変化を維持する, 用語解説, 付録1, 付録2. 自分で「痛み」を管理しよう (坂本篤裕 河原裕泰), 2011; pp260-277, 真興交易医書出版部.
- 15) 竹田晋浩:〔分担〕第38章・麻酔科医と救急医療. 麻酔科学レビュー 2011 (天羽啓介), 2011; pp215-217, 総合医学社.
- 16) 竹田晋浩:〔分担〕ALI/ARDSの診断基準はなぜ変わらないのか?. 呼吸療法における不思議50 (安本和正, 小谷透), 2011; pp16-20, アトムス.
- 17) 坂本篤裕:〔分担〕第4章 心・血管作動薬. 麻酔科学レビュー 2012 (天羽敬祐), 2012; pp20-27, 総合医学社.
- 18) 竹田晋浩:〔分担〕第38章 麻酔科医と救急医療. 麻酔科学レビュー 2012 (天羽敬祐), 2012; pp220-222, 総合医学社.

## 学会発表

### 〔追加分〕

#### 追加分一般講演:

- 1) 佐藤千代<sup>1)</sup>, 岡部 格<sup>1)</sup>, 河原裕泰<sup>1)</sup>, 金 徹<sup>1)</sup>, 中西一浩<sup>1)</sup>, 坂本篤裕<sup>1)</sup>:閉鎖循環下骨盤内抗癌剤還流療法における疼痛管理. 日本麻酔科学会学術集会 (第57回) (福岡), 2010. 6.

#### (1) 特別講演:

- 1) 竹田晋浩:新興ウイルス肺感染症の呼吸療法. 日本呼吸療法医学会学術総会 (第33回) (横浜), 2011. 6.
- 2) 竹田晋浩:新型インフルエンザ調査委員会報告 2010年度インフルエンザ重症症例の解析結果 (成人). 日本集中治療医学会学術集会 (第39回) (千葉), 2012. 2.

#### (2) 招待講演:

- 1) 坂本篤裕:全身麻酔が体内遺伝子発現に及ぼす影響. 日本麻酔科学会学術集会 (第58回) (神戸), 2011. 5.
- 2) 竹田晋浩:集中治療最新情報 (呼吸管理を中心として). 日本麻酔科学会学術集会 (第58回) (神戸), 2011. 5.

#### (3) 教育講演:

- 1) 幸田修典: $\beta$ 遮断薬 up to date:欧米のガイドラインから. 日本心臓血管麻酔学会学術大会 (第16回) (旭川), 2011. 10.

#### (4) シンポジウム:

- 1) 竹田晋浩:ECMO. 日本呼吸器学会学術講演会 (第51回) (東京), 2011. 4.
- 2) Takeda S:ECMO. 日本呼吸療法医学会学術総会 (第33回) (横浜), 2011. 6.

#### (5) パネルディスカッション:

- 1) 杖下隆哉:当院における中心静脈カテーテル留置環境とその教育体制 (エコーガイド CV 穿刺の Evidence を考える). 日本臨床麻酔学会大会 (第31回) (宜野湾市), 2011. 11.

#### (6) セミナー:

- 1) 坂本篤裕:パルスオキシメータの可能性:経皮的連続ヘモグロビン測定. 日本麻酔科学会学術集会 (第58回)

(神戸), 2011. 5.

- 2) 鈴木規仁: 術前経口補水療法の安全性と有用性に関する検討 (テーマ「術前絶食時間の再考」). 日本麻酔科学会学術集会 (第 58 回) (神戸), 2011. 5.
- 3) 竹田晋浩: 我々は患者さんから何を学んだか. 循環管理・治療の面から. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 39 回) (東京), 2011. 10.

(7) 一般講演:

- 1) 杖下隆哉, 原田理音, 八木 馨, 鈴木規仁, 坂本篤裕: PVI: 輸液指標としての検討. 日本臨床モニター学会総会 (第 22 回) (東京), 2011. 4.
- 2) 小泉有美馨<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 坂本篤裕, 中里桂子<sup>1)</sup>, 間瀬大司, 源田雄紀, 橋爪良枝 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院集中治療室): けいれん発作の治療に BIS (bispectral index) モニターの脳波が有効だった 1 症例. 日本臨床モニター学会総会 (第 22 回) (東京), 2011. 4.
- 3) 辻本芳孝<sup>1)</sup>, 神谷一郎<sup>1)</sup>, 中島祐史<sup>1)</sup>, 金 徹<sup>1)</sup>, 井上哲夫<sup>1)</sup>, 坂本篤裕 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院麻酔科): ロクロニウムの脳波モニターに与える影響の検討. 日本臨床モニター学会総会 (第 22 回) (東京), 2011. 4.
- 4) 中里桂子<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 渡邊 悠, 田島朋幸, 中谷英彦, 三井誠司, 坂本篤裕 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院集中治療室): 急性リンパ性白血病に合併した ARDS の管理に PiCCO が有用であった 1 症例. 日本臨床モニター学会総会 (第 22 回) (東京), 2011. 4.
- 5) 幸田修典, 田島朋幸, 田中俊輔, 福岡俊宗, 戸田 繁<sup>1)</sup>, 中里桂子<sup>1)</sup>, 小泉有美馨<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 坂本篤裕 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院集中治療室): Rotation Thrombelastometry (ROTEM) を用いて心臓血管外科手術の血液凝固管理を施行した 1 症例. 日本臨床モニター学会総会 (第 22 回) (東京), 2011. 4.
- 6) 岡部 格, 鈴木規仁, 幸田修典, 河原裕泰, 中西一浩, 坂本篤裕: フェンタニルの持続静注からフェンタニルパッチへの変更の際, 知覚・痛覚定量分析装置「Pain Vision」による疼痛の評価を行った 1 例. 日本臨床モニター学会総会 (第 22 回) (東京), 2011. 4.
- 7) 小野寺英貴, 幸田修典, 清水 淳<sup>1)</sup>, 坂本篤裕 ( <sup>1)</sup> 榊原記念病院麻酔科): 心臓外科における経食道エコー留置後の被裂軟骨脱臼の発生について. 日本臨床モニター学会総会 (第 22 回) (東京), 2011. 4.
- 8) 本郷 卓, 小泉有美馨<sup>1)</sup>, 中里桂子<sup>1)</sup>, 戸田 繁<sup>1)</sup>, 田中俊輔<sup>1)</sup>, 福岡俊宗<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 坂本篤裕 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院集中治療室): 術後人工呼吸期間の長さと言語ミオグロビン値の評価. 日本臨床モニター学会総会 (第 22 回) (東京), 2011. 4.
- 9) 源田雄紀, 石川真士, 廣本敦之<sup>1, 2)</sup>, 間瀬大司<sup>1)</sup>, 小泉有美馨<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 坂本篤裕 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 集中治療室, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院 心臓・血管外科): 開心術中に発症した下行大動脈解離により周術期心不全管理に難渋した 1 例. 日本循環制御医学総会 (第 32 回) (富山), 2011. 6.
- 10) 間瀬大司<sup>1)</sup>, 中里桂子, 小泉有美馨<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 坂本篤裕 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 集中治療室): 当院での透析患者の心臓手術における周術期管理に関する検討. 日本循環制御医学総会 (第 32 回) (富山), 2011. 6.
- 11) 武藤友美, 坂井 敦<sup>1)</sup>, 鈴木秀典<sup>1)</sup>, 坂本篤裕 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学薬理学講座): 神経障害性疼痛モデルラットにおける青斑核へのサブスタンス P 投与による鎮痛効果. 日本麻酔科学会学術集会 (第 58 回) (神戸), 2011. 5.
- 12) 古市結富子<sup>1)</sup>, 三井誠司<sup>1)</sup>, 清水 淳<sup>1)</sup>, 片山雄三<sup>2)</sup>, 福井寿啓<sup>2)</sup>, 高梨秀一郎<sup>2)</sup>, 坂本篤裕 ( <sup>1)</sup> 榊原記念病院麻酔科, <sup>2)</sup> 榊原記念病院心臓血管外科): 麻酔導入時におこった誤嚥性肺炎に対し, 集学的治療が奏した 1 症例. 日本呼吸療法医学会学術総会 (第 33 回) (横浜), 2011. 6.
- 13) 石川真士, 中里桂子<sup>1)</sup>, 源田雄紀<sup>1)</sup>, 橋爪良枝<sup>1)</sup>, 間瀬大司<sup>1)</sup>, 廣本敦之<sup>2)</sup>, 小泉有美馨<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 坂本篤裕 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院集中治療室, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院心臓血管外科): 成人開心術後の肺高血圧症に対し NO 吸入が奏功した 1 例. 日本呼吸療法医学会学術総会 (第 33 回) (横浜), 2011. 6.
- 14) 中里桂子<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 坂本篤裕 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院集中治療室): 悪性リンパ腫同種移植後 GVHD と

なりステロイド内服中, H1N1 型インフルエンザ肺炎を発症した 1 例. 日本呼吸療法医学会学術総会 (第 33 回) (横浜), 2011. 6.

- 15) 岡部 格, 幸田修典, 鈴木規仁, 河原裕泰, 中西一浩, 坂本篤裕: バージャー病による慢性痛に対しフェンタニル貼付剤を使用した 2 症例. 日本ペインクリニック学会大会 (第 45 回) (松山), 2011. 7.
- 16) 伊藤裕子, 岡部 格, 幸田修典, 河原裕泰, 鈴木規仁, 中西一浩, 坂本篤裕: うっ滞性皮膚炎に伴う皮膚潰瘍の痛みにフェンタニル貼付剤が有効であった 1 例. 日本ペインクリニック学会大会 (第 45 回) (松山), 2011. 7.
- 17) 水野幸一<sup>1)</sup>, 清水祐一郎<sup>1)</sup>, 幸田真理子<sup>1)</sup>, 小林徳行<sup>1)</sup>, 内木亮介<sup>1)</sup>, 山田光輝<sup>1)</sup>, 坂本篤裕 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩摩永山病院麻酔科): 脊髄刺激電極リード留置にガイドワイヤーとイントロデューサーを用いた穿刺法が有効であった 3 症例. 日本ペインクリニック学会大会 (第 45 回) (松山), 2011. 7.
- 18) 中里桂子, 竹田晋浩, 小泉有美馨, 坂本篤裕: 心臓手術後の抜管において, NPPV への移行の有効性. 日本麻酔科学会学術集会 (第 58 回) (神戸), 2011. 5.
- 19) 中島祐史<sup>1)</sup>, 後藤真弓<sup>1)</sup>, 金 徹<sup>1)</sup>, 井上哲夫<sup>1)</sup>, 坂本篤裕 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院麻酔科): 修正型電気痙攣療法 mECT におけるレミフェンタニル使用の痙攣時間, 病態回復に対する影響. 日本麻酔科学会学術集会 (第 58 回) (神戸), 2011. 5.
- 20) 古市結富子<sup>1)</sup>, 清水 淳<sup>1)</sup>, 高尾あや子<sup>1)</sup>, 坂本篤裕 ( <sup>1)</sup> 榊原記念病院麻酔科): 当院における腹部大動脈瘤緊急手術症例についての検討. 日本麻酔科学会学術集会 (第 58 回) (神戸), 2011. 5.
- 21) 三井誠司<sup>1)</sup>, 古市結富子<sup>1)</sup>, 清水 淳<sup>1)</sup>, 松下明仁<sup>2)</sup>, 新本春夫<sup>2)</sup>, 野口 玲<sup>3)</sup>, 高見澤格<sup>3)</sup>, 坂本篤裕 ( <sup>1)</sup> 榊原記念病院麻酔科, <sup>2)</sup> 榊原記念病院内科, <sup>3)</sup> 榊原記念病院外科): 心筋梗塞後に酵素結合性免疫グロブリンによるマクロ CK 血症を呈した 1 例. 日本集中治療医学会関東甲信越地方会 (第 20 回) (東京), 2011. 7.
- 22) 庭山ゆう子<sup>1)</sup>, 白石千草<sup>1)</sup>, 橋本美紀<sup>1)</sup>, 豊富達智<sup>1)</sup>, 八重田知見<sup>1)</sup>, 美野輪恵子<sup>1)</sup>, 島崎弥生<sup>1)</sup>, 大石沙織<sup>1)</sup>, 小前貴康<sup>1)</sup>, 粟屋俊輔<sup>1)</sup>, 森嶋俊介<sup>1)</sup>, 上田真弓<sup>1)</sup>, 松田範子<sup>1)</sup>, 鈴木健一<sup>1)</sup>, 坂本篤裕, その他 4 名 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 ME 部): ECMO により救命し得た新型インフルエンザ肺炎の 1 症例. 日本集中治療医学会関東甲信越地方会 (第 20 回) (東京), 2011. 7.
- 23) 白石千草<sup>1)</sup>, 庭山ゆう子<sup>1)</sup>, 八重田知見<sup>1)</sup>, 豊富達智<sup>1)</sup>, 橋本美紀<sup>1)</sup>, 美野輪恵子<sup>1)</sup>, 島崎弥生<sup>1)</sup>, 大石沙織<sup>1)</sup>, 粟屋俊輔<sup>1)</sup>, 小前貴康<sup>1)</sup>, 森嶋俊介<sup>1)</sup>, 上田真弓<sup>1)</sup>, 松田範子<sup>1)</sup>, 鈴木健一<sup>1)</sup>, 坂本篤裕, その他 3 名 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 ME 部): 腹部大動脈瘤破裂後の AKI に対し, 完結的な CRRT を施行した 1 症例. 日本集中治療医学会関東甲信越地方会 (第 20 回) (東京), 2011. 7.
- 24) 森 哲, 幸田修典, 松尾いづみ, 保利陽子, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 坂本篤裕 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院集中治療室): 大動脈弁形成術中に経食道心エコーを用いて弁機能評価を行った 1 例. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 51 回) (幕張), 2011. 9.
- 25) 原田里音, 鎌形千尋, 小泉有美馨, 中西一浩, 竹田晋浩, 坂本篤裕 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院集中治療室): 閉塞性肥大型心筋症合併患者の非心臓手術において周術期の抗不整脈薬投与が重要と考えられた 1 症例. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 51 回) (幕張), 2011. 9.
- 26) 古市結富子<sup>1)</sup>, 三井誠司<sup>1)</sup>, 清水 淳<sup>1)</sup>, 山本晃太<sup>2)</sup>, 新本春夫<sup>2)</sup>, 坂本篤裕 ( <sup>1)</sup> 榊原記念病院麻酔科, <sup>2)</sup> 榊原記念病院心臓血管外科): 発症から 24 時間以上経過した急性下肢動脈閉塞症に対して, 下肢バイパス術の麻酔をおこなった経験. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 51 回) (幕張), 2011. 9.
- 27) 中島祐史<sup>1)</sup>, 神谷一郎<sup>1)</sup>, 設楽敏朗<sup>2)</sup>, 金 徹<sup>1)</sup>, 井上哲夫<sup>1)</sup>, 坂本篤裕 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院麻酔科, <sup>2)</sup> 聖隷佐倉市民病院麻酔科): 術後鎮痛に伴うドロペリドールの経静脈的投与による急性ジストニアと考えられた 3 症例. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 51 回) (幕張), 2011. 9.
- 28) 森 啓介, 幸田修典, 田島朋幸, 小泉有美馨<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 坂本篤裕 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院集中治療室): Rotation Thrombelastometry (ROTEM) を用いて心拍動下冠動脈バイパス術の血液凝固管理を施行した 1 症例. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 51 回) (幕張), 2011. 9.

- 29) 宮内哲平, 小泉有美馨<sup>1)</sup>, 門田佳奈<sup>1)</sup>, 間瀬大司<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 坂本篤裕 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院集中治療室) : 心臓手術後の痙攣発作治療に BIS (bispectral index) モニタの使用が役立った 1 症例. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 51 回) (幕張), 2011. 9.
- 30) 梅花 満<sup>1)</sup>, 中島祐史<sup>2)</sup>, 金 徹<sup>2)</sup>, 井上哲夫<sup>2)</sup>, 坂本篤裕 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院麻酔科) : 急性覚醒剤中毒を併発した患者に対する緊急開腹異物摘出術の麻酔経験. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 51 回) (幕張), 2011. 9.
- 31) 辻 奈央, 杖下隆哉, 坂本篤裕 : 両耳側半盲より海綿状血管腫と診断された妊婦の帝王切開の麻酔経験. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 51 回) (幕張), 2011. 9.
- 32) 木村茉莉子, 渡邊 悠, 中里桂子<sup>1)</sup>, 三井誠司<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>2)</sup>, 坂本篤裕 ( <sup>1)</sup> 榊原記念病院麻酔科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院集中治療室) : 急性リンパ性白血病に併発した ARDS の管理に PiCCO が奏した 1 例. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部合同学術集会 (第 51 回) (幕張), 2011. 9.
- 33) 荒井雅江, 小野寺英貴, 鎌形千尋, 幸田修典, 坂本篤裕 : 心房間に交通のあった 2 症例 : 血行動態とシャントの方向についての考察. 日本心臓血管麻酔学会学術大会 (第 16 回) (旭川), 2011. 10.
- 34) 小野寺英貴, 古市結富子, 幸田修典, 清水 淳<sup>1)</sup>, 坂本篤裕 ( <sup>1)</sup> 榊原記念病院麻酔科) : 心臓外科における経食道エコー留置後の被裂軟骨脱臼の発生について. 日本心臓血管麻酔学会学術大会 (第 16 回) (旭川), 2011. 10.
- 35) 田中俊輔, 小野寺英貴, 荒井雅江, 鎌形千尋, 幸田修典, 坂本篤裕 : 術前の IABP 留置が術中管理に及ぼす影響. 日本心臓血管麻酔学会学術大会 (第 16 回) (旭川), 2011. 10.
- 36) 幸田修典, 森 哲, 保利陽子<sup>1)</sup>, 松尾いづみ<sup>1)</sup>, 門田佳奈<sup>1)</sup>, 間瀬大司<sup>1)</sup>, 小泉有美馨<sup>1)</sup>, 鎌形千尋, 岡部 格, 杖下隆哉, 小野寺英貴, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 坂本篤裕 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院集中治療室) : 経食道心エコーを用いて術中弁機能評価を行い, 良好に管理し得た大動脈弁形成術の麻酔経験. 日本心臓血管麻酔学会学術大会 (第 16 回) (旭川), 2011. 10.
- 37) Mase H, Sakai A<sup>1)</sup>, Suzuki H<sup>1)</sup>, Sakamoto A ( <sup>1)</sup> Department of Pharmacology, Nippon Medical School) : A subset of mu-opioid receptor-expressing cells in the rostral ventromedial madulla contribute to thermal hyperalgesia in neuropathic pain. Annual meeting of American Society of Anesthesiologists (2011) (Chicago), 2011. 10.
- 38) Kamagata C, Tsuboko Y, Okabe T, Sato C, Sakamoto A : Proteomic analysis of neuropathic pain rats brain after electroconvulsive stimulation. Annual meeting of American Society of Anesthesiologists (2011) (Chicago), 2011. 10.
- 39) Okabe T, Sato C, Sakamoto A : Changes in neuropeptide Y gene expression in the spinal cord of neuropathic pain model rats after electroconvulsive stimulation. Annual meeting of American Society of Anesthesiologists (2011) (Chicago), 2011. 10.
- 40) Ishikawa M, Tanaka S, Arai M, Genda Y, Sakamoto A : The influence of sevoflurane anesthesia on microRNA expression in healthy rat liver. Annual meeting of American Society of Anesthesiologists (2011) (Chicago), 2011. 10.
- 41) Tanaka S, Ishikawa M, Arai M, Genda Y, Sakamoto A : The changes of microRNA expressions with sevoflurane anesthesia in rat lungs : TaqMan low density array study. Annual meeting of American Society of Anesthesiologists (2011) (Chicago), 2011. 10.
- 42) Tajima T, Kawaguchi H, Sakamoto A : Pattern recognition analysis of 1H-NMR spectra on liver extracts from rats anesthetized with Sevoflurane, Isoflurane, Propofol or Dexmedetomidine. Annual meeting of American Society of Anesthesiologists (2011) (Chicago), 2011. 10.
- 43) Arai M, Okabe T, Genda Y, Sakamoto A : The miRNA changes in CCI rat hippocampus by TLDA. Annual meeting of American Society of Anesthesiologists (2011) (Chicago), 2011. 10.

- 44) Kadota K, Iijima N<sup>1</sup>, Ohe Y, Ozawa H<sup>1</sup>, Sakamoto A ( <sup>1</sup> Department of Anatomy and Neurobiology, Nippon Medical School) : Effect of the general anesthetic sevoflurane on mPer2 Expression and behavioral rhythm is dependent on the time in a day. Annual meeting of American Society of Anesthesiologists (2011) (Chicago), 2011. 10.
- 45) Watanabe H, Sakamoto A : Inhalation anesthetics and intra venous anesthetics influence rat liver proteomics. Annual meeting of American Society of Anesthesiologists (2011) (Chicago), 2011. 10.
- 46) Kawaguchi H, Kawahara K<sup>1</sup>, Sakamoto A ( <sup>1</sup>Legal Medicine and NMR Laboratory, Nippon Medical School.) : Proton NMR based metabolomics evaluation of rats brain anesthetized with Propofol or Isoflurane. Annual meeting of American Society of Anesthesiologists (2011) (Chicago), 2011. 10.
- 47) Tsuboko Y, Sakamoto A : Propofol anesthesia alters the cerebral proteome differently from Sevoflurane anesthesia. Annual meeting of American Society of Anesthesiologists (2011) (Chicago), 2011. 10.
- 48) Sugita S, Okabe T, Sakamoto A : Continuous infusion of Dexmedetomidine improves renal ischemia reperfusion injury. Annual meeting of American Society of Anesthesiologists (2011) (Chicago), 2011. 10.
- 49) 古市結富子<sup>1</sup>, 横塚 基<sup>1</sup>, 三井誠司<sup>1</sup>, 古市昌之<sup>1</sup>, 守 真輝, 小野寺英貴, 清水 淳<sup>1</sup>, 坂本篤裕 ( <sup>1</sup> 榊原記念病院麻酔科) : 当院における腹部大動脈瘤手術症例の検討 : 予定症例と緊急症例の比較. 日本臨床麻酔学会大会 (第 31 回) (宜野湾市), 2011. 11.
- 50) 大江裕美子, 河原裕泰, 岡部 格, 幸田修典, 鈴木規仁, 中西一浩, 坂本篤裕 : 経静脈的に大量オピオイドを投与されていた難治性癌性疼痛患者へのトラマドール追加静注の有効性. 日本臨床麻酔学会大会 (第 31 回) (宜野湾市), 2011. 11.
- 51) 原田里音, 鎌形千尋, 森 哲, 源田雄紀, 中里桂子<sup>1</sup>, 小泉有美馨<sup>1</sup>, 坂本篤裕 ( <sup>1</sup> 日本医科大学付属病院集中治療室) : 腹部大動脈瘤を合併した急性心筋梗塞患者に冠動脈バイパス術に先行し人工血管置換術を施行した 1 例. 日本臨床麻酔学会大会 (第 31 回) (宜野湾市), 2011. 11.
- 52) 田島朋幸, 平川慶子<sup>1</sup>, 坂本篤裕 ( <sup>1</sup> 日本医科大学法医学教室 NMR 研究室) : 1H-NMR スペクトル解析による麻酔後ラットの肝臓抽出物の比較 : メタボロミクス解析. 日本臨床麻酔学会大会 (第 31 回) (宜野湾市), 2011. 11.
- 53) 清水祐一郎<sup>1</sup>, 水野幸一<sup>1</sup>, 幸田真理子<sup>1</sup>, 飯野 治<sup>2</sup>, 内木亮介<sup>1</sup>, 石原之法<sup>1</sup>, 山田光輝<sup>1</sup>, 坂本篤裕 ( <sup>1</sup> 日本医科大学多摩永山病院麻酔科, <sup>2</sup> 麻生総合病院麻酔科) : 多椎間腰椎間板ヘルニアに対して Dekompressor を用いた経皮的髄核摘出術が有効であった 1 症例. 日本臨床麻酔学会大会 (第 31 回) (宜野湾市), 2011. 11.
- 54) 松尾いづみ, 間瀬大司, 大江裕美子, 小泉有美馨<sup>1</sup>, 幸田修典, 小野寺英貴, 竹田晋浩<sup>1</sup>, 坂本篤裕 ( <sup>1</sup> 日本医科大学付属病院集中治療室) : 胸腹部大動脈瘤ステントグラフト内挿術中に急性腸間膜虚血をきたし再灌流後心停止に至った 1 例. 日本臨床麻酔学会大会 (第 31 回) (宜野湾市), 2011. 11.
- 55) 水野幸一<sup>1</sup>, 飯野 治<sup>1</sup>, 幸田真理子<sup>1</sup>, 西川晃司<sup>1</sup>, 内木亮介<sup>1</sup>, 石原之法<sup>1</sup>, 山田光輝<sup>1</sup>, 坂本篤裕 ( <sup>1</sup> 日本医科大学多摩永山病院麻酔科) : 新しいランドマークによる仙骨神経叢ブロックを用いた高齢者人工骨頭置換術の麻酔. 日本臨床麻酔学会大会 (第 31 回) (宜野湾市), 2011. 11.
- 56) 鎌形千尋, 岡部 格, 坪光祥昇, 佐藤千代, 坂本篤裕 : 神経障害性疼痛モデルラットに対する電気痙攣療法刺激後の脳内蛋白発現変化. 日本臨床麻酔学会大会 (第 31 回) (宜野湾市), 2011. 11.
- 57) 後藤玄太郎, 河原裕泰, 大江裕美子, 岡部 格, 幸田修典, 鈴木規仁, 中西一浩, 坂本篤裕 : 結節性多発動脈炎に伴う両下肢痛のコントロールに高用量のフェンタニルパッチが必要であった 1 例. 日本臨床麻酔学会大会 (第 31 回) (宜野湾市), 2011. 11.
- 58) 幸田修典, 森 啓介, 田島朋幸, 杖下隆哉, 中里桂子<sup>1</sup>, 小泉有美馨<sup>1</sup>, 坂本篤裕 ( <sup>1</sup> 日本医科大学付属病院集中治療室) : Rotation Thromboelastometry (ROTEM) を用いて心臓血管外科手術の血液病管理を施行した 2 症例. 日本臨床麻酔学会大会 (第 31 回) (宜野湾市), 2011. 11.

- 59) 金 徹<sup>1)</sup>, 中島祐史<sup>1)</sup>, 井上哲夫<sup>1)</sup>, 坂本篤裕 (1) 日本医科大学千葉北総病院) : 腹部大動脈置換術と大動脈弁置換術における SVV の変動比較. 日本臨床麻酔学会大会 (第 31 回) (宜野湾市), 2011. 11.
- 60) 鎌崎 剛<sup>1)</sup>, 寺嶋克幸<sup>1)</sup>, 寺田てる美<sup>1)</sup>, 坂本篤裕 (1) 三井記念病院麻酔科) : 人工心肺スタンバイでの下行大動脈を取り囲んだ胸部滑膜肉腫摘出術の臨床経験. 日本臨床麻酔学会大会 (第 31 回) (宜野湾市), 2011. 11.
- 61) 岡部 格, 鎌形千尋, 幸田修典, 小野寺英貴, 坂本篤裕 : スガマデクス発売後の当院でのロクロニウムの使用量の変化. 日本臨床麻酔学会大会 (第 31 回) (宜野湾市), 2011. 11.
- 62) 大越有一, 鎌形千尋, 幸田修典, 杖下隆哉, 鈴木規仁, 坂本篤裕 : 麻酔導入直後に Torsade de Pointes (TdP) を来した先天性 QT 延長症候群の 1 例. 日本臨床麻酔学会大会 (第 31 回) (宜野湾市), 2011. 11.
- 63) 保利陽子, 大江裕美子, 岡部 格, 幸田修典, 杖下隆哉, 坂本篤裕 : 封入体筋炎患者の麻酔経験. 日本臨床麻酔学会大会 (第 31 回) (宜野湾市), 2011. 11.
- 64) 渡邊 悠, 鈴木規仁, 坂本篤裕 : 修正大血管転位症, 内臓逆位合併妊娠における緊急帝王切開術の麻酔経験. 日本臨床麻酔学会大会 (第 31 回) (宜野湾市), 2011. 11.
- 65) 八木 馨, 岡部 格, 福岡俊宗<sup>1)</sup>, 大江裕美子, 幸田修典, 鈴木規仁, 河原裕泰, 中西一浩, 坂本篤裕 (1) 三井記念病院麻酔科) : 壊死性筋膜炎による会陰部の痛みの急性管理に持続くも膜下鎮痛法が有効であった 1 例. 日本臨床麻酔学会大会 (第 31 回) (宜野湾市), 2011. 11.
- 66) Nakatani H, Kim C, Sakamoto A : Low dose dexmedetomidine facilitates the carotid body response to low oxygen tension via alfa2-adrenergic receptor in rabbits. Annual meeting of American Society of Anesthesiologists (2011) (Chicago), 2011. 10.
- 67) Genda Y, Okabe T, Arai M, Sakamoto A : The miRNA changes in dorsal spinal horn of CCI rats : TaqMan low density array study. Annual meeting of American Society of Anesthesiologists (2011) (Chicago), 2011. 10.
- 68) 中里桂子<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 坂本篤裕 (1) 日本医科大学付属病院集中治療室) : 両側副腎摘出後ステロイド内服中, 生焼けの肉を摂取し病原性大腸菌 O6 に感染, 敗血症性ショックを来した 1 例. 日本集中治療医学会学術集会 (第 39 回) (幕張), 2012. 2.
- 69) 岡部 格, 鈴木規仁, 河原裕泰, 中西一浩, 坂本篤裕 : オピオイド投与中の癌患者に対する手術後の疼痛管理を行った 3 症例の検討. 日本緩和医療学会学術集会 (第 16 回) (札幌), 2011. 7.

## [武蔵小杉病院麻酔科]

### 研究概要

慢性的なマンパワー不足の中, 武蔵小杉病院麻酔科では主に臨床に即した研究をおこなっている. 医局員が日常の麻酔, ペイン業務で遭遇する種々の問題, 疑問より発生起案したテーマをもとにチームを編成し研究を進めている. 従って臨床にすぐ反映され, 有益となる研究テーマであるという特徴を有している. 食道がん, 肺がん等の開胸手術における侵襲防御, 産科領域の麻酔管理法, 気道管理法は当科の長年のテーマであり継続的な研究を行っている. 特に産科麻酔領域は帝王切開だけでも年間 250 症例以上と付属 4 病院の中でも有数の症例数である. この領域は非常に緊急性を伴う手術であるにもかかわらず, 国により国内でも施設により差があり, 本邦におけるスタンダードといえる麻酔管理も確立していない. 日本麻酔学会でも今後の重要課題として提起されあており今後も当科研究活動の柱として位置付けられているものである.

## 研究業績

### 学会発表

#### [追加分]

追加分一般講演：

- 1) 藤原住美<sup>1)</sup>, 若城由美子<sup>2)</sup>, 赤羽日出男<sup>3)</sup>, 岸 泰宏<sup>4)</sup>, 山口朋禎<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup> 看護部, <sup>2)</sup> 薬剤部, <sup>3)</sup> 麻酔科, <sup>4)</sup> 精神科, <sup>5)</sup> 内科) : 緩和ケア啓発活動の試み : 「知ってください緩和ケアを」を開催して, 日本緩和医療学会学術大会 (第15回) (東京), 2010. 6.

(1) 一般講演：

- 1) 赤羽日出男, 大角 真, 鳥海博司, 鈴木新平, 和田美紀 : IVPCA 内の制吐薬と化学療法によって惹起されたアカシジアの1例. 第16回日本緩和医療学会学術大会 (札幌), 2011. 7.
- 2) 坂本光太郎, 大角 真, 鳥海博司, 赤羽日出男, 尾藤博保 : Failed back surgery syndrome に対する脊髄硬膜外電気刺激療法の効果. 公益社団法人日本麻酔科学会 関東甲信越 東京支部第51回合同学術集会 (千葉 (幕張メッセ)), 2011. 9.
- 3) Manzo S : Short-term and long-term outcome after colonic and rectal surgery for cancer : Influence of the type of general anesthesia. American Society of Anesthesiologists (Chicago, Illinois), 2011. 10.
- 4) 菊谷健彦<sup>1)</sup>, 稲木敏一郎, 赤羽日出男, 尾藤博保 ( <sup>1)</sup> 東戸塚記念病院麻酔科) : エアウエイスコップが気管挿管に有効であった頸部熱傷後癱瘓拘縮の1症例. 日本臨床麻酔学会 (第31回) (沖縄), 2011. 11.
- 5) 宮澤英彦, 尾藤博保, 和田美紀 : 術中パーカー挿管チューブが屈曲し換気困難となった1症例. 日本臨床麻酔学会 (第31回) (沖縄), 2011. 11.
- 6) 田島廣之<sup>1)</sup>, 金城忠志<sup>1)</sup>, 竹之下尚子<sup>1)</sup>, 橘和総文<sup>1)</sup>, 市川太郎<sup>1)</sup>, 織井恒安<sup>2)</sup>, 保科淑子<sup>2)</sup>, 井村 肇<sup>2)</sup>, 尾藤博保, 村田 智<sup>3)</sup>, 市川和雄<sup>3)</sup>, 中澤 賢<sup>3)</sup>, 小野澤志郎<sup>3)</sup>, 嶺 貴彦<sup>3)</sup>, 上田達夫<sup>3)</sup>, その他4名 ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院放射線科, <sup>2)</sup> 武蔵小杉病院心臓血管外科, <sup>3)</sup> 付属病院放射線科) : 腹部大動脈瘤に対するステントグラフト治療 : Zenith AAA エンドバスキュラーグラフトの中期成績. 日本IVR学会総会 (第40回) (青森), 2011. 5.

## [多摩永山病院麻酔科]

### 研究概要

平成23年度も、継続的な研究活動を行ってきた。ペインクリニック領域では、筋膜痛症候群、顎関節症を対象とした、新しい神経ブロック法を考案し診療に応用し、症例を重ねてきている。さらに、複合性局所疼痛症候群などの難治性神経原性疼痛に対しては、エビドラスコピー、透視化神経ブロック、高周波熱凝固、硬膜外脊髄刺激電極埋め込み術、癌性疼痛患者に対して脊髄くも膜下カテーテル挿入および薬液注入ポート埋め込み術などを積極的に施行し、成果を発表している。こうした手技の向上に相まって外来患者数は増加の一途である。そして新たな手技として、スプリングガイドカテーテルによる硬膜外神経形成術を来年度より導入予定である。手術麻酔においては、気管挿管時の喉頭等の位置や形状の変化の解析による新たな成果を得て、症例を積み重ね、その解析と同時に開発された喉頭鏡は本学TLOセンターを通して特許出願し、市販され高い評価を受けている。また、当院においても緩和ケアチームに麻酔科が参加することとなり、緩和ケア研修会をがん認定病院として主催し、多摩地域の緩和ケアの研究会として、多摩緩和ケアカンファレンスを立ち上げた。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) 内木亮介, 水野幸一, 幸田真理子：IV 脊髄神経ブロック：10 脊髄神経末梢枝ブロック：4) 腕神経叢ブロック。ペインクリニック 2011：32 (別冊秋号)：s313-s320.

### 学会発表

#### (1) 一般講演：

- 1) 杼窪 寛, 米内大輔, 清水祐一郎, 西川晃司, 石原之法, 山田光輝：内視鏡下腹臥位食道切除術における麻酔管理方法について。日本麻酔科学会学術集会 (第 58 回) (神戸市), 2011. 5.
- 2) Tochikubo H, Yonai D, Shimizu Y, Mizuno K, Kobayashi N, Naiki R, Ishihara Y, Nishikawa K, Yamada K, Sakamoto A<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Nippon Medical School Hospital) : Special Issues in the Anesthetic Management of the Patient for Thoracoscopic and Laparoscopic Esophagectomy in the Prone Position. 2011 NWAC World Anesthesia Convention (Rome Italy), 2011. 4.
- 3) 水野幸一, 清水祐一郎, 幸田真理子, 小林徳行, 内木亮介, 山田光輝, 坂本篤裕<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院麻酔科) : 脊髄刺激電極リード留置にガイドワイヤーとイントロデューサーを用いた穿刺法が有効であった 3 症例。日本ペインクリニック学会 (第 45 回) (松山市), 2011. 7.
- 4) 米内大輔, 西川晃司, 幸田真理子, 飯野 治, 内木亮介, 石原之法：舌扁桃肥大症による予期しない挿管困難に新しい曲型喉頭鏡ダシナブレードが有効であった 2 症例。日本麻酔科学会関東甲信越東京支部合同学術集会 (第 51 回) (千葉幕張), 2011. 9.
- 5) 清水祐一郎, 水野幸一, 幸田真理子, 飯野 治, 内木亮介, 石原之法, 山田光輝, 坂本篤裕<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院) : 多椎間腰椎椎間板ヘルニアに対して Dekompressor を用いた経皮的髄核摘出術が有効であった 1 症例。日本臨床麻酔学会 (第 31 回) (沖縄), 2011. 11.
- 6) 水野幸一, 飯野 治, 幸田真理子, 西川晃司, 内木亮介, 石原之法, 山田光輝, 坂本篤裕<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院) : 新しいランドマークによる仙骨神経叢ブロックを用いた高齢者人工骨頭置換術の麻酔。日本臨床麻酔学会 (第 31 回) (沖縄), 2011. 11.
- 7) Kobayashi N, Yamamoto Y<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Institute of Applied Biochemistry) : Documentation of change in entropy at the time of rocuronium-bromide administration. NWAC 2011 Rome World Anesthesia Congress (2) (Rome, Italy), 2011. 4.

## [千葉北総病院麻酔科]

### 研究概要

昨年度とメンバー不変の 1 年となったが、依然手術件数の増加が続いており、多忙な診療、教育業務の合間をぬっての臨床研究活動となった。大学院生 2 名 (伊藤, 中谷) は、引き続きそれぞれ研究のとりまとめに終始した一方、井上, 後藤らは継続して気道管理 (困難気道に対するソフト, ハード面の対策) について、中島は修飾型電気痙攣療法 (電気痙攣療法) の麻酔法や臨床効果に関し次々と新たな知見に挑戦しており、麻酔科のみならず精神神経科領域でも注目をされてきている。辻本は、主に機器類の精度・有用性に関する研究課題に取り組み、神谷は金講師の指導の下、麻酔法による肺気量変化の研究を継続した。昨年度末退職した益田, 輪島は他施設異動後も当方で行った研究結果について多くの報告を行っている。

## 研究業績

### 論文

#### 〔追加分〕

追加分研究報告書：

- 1) Tsuboko Y, Sakamoto A : Propofol anaesthesia alters the cerebral proteome differently from sevoflurane anaesthesia. Biomedical Research 2011 ; 32 (1) : 55-65.

(1) 原著：

- 1) Wajima Z<sup>1)</sup>, Tsuchida H<sup>2)</sup>, Shiga T<sup>3)</sup>, Imanaga K<sup>4)</sup>, Inoue T ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesiology, Shioya Hospital, International University of Health and Welfare, <sup>2)</sup> Department of Anesthesiology, Kanazawa Medical University, <sup>3)</sup> Department of Anesthesiology, Toho University Ohashi Medical Center, <sup>4)</sup> Department of Anesthesia, Showa University, Northern Yokohama Hospital) : Intravenous landiolol, a novel  $\beta$ 1-adrenergic blocker, reduces minimum alveolar concentration of sevoflurane in women. Journal of Clinical Anesthesia 2011 ; 23 (4) : 292-296.

(2) 総説：

- 1) 金 徹：麻酔科領域での利尿薬の使い方. 成人病と生活習慣病 2012 ; 42 (3) : 369-374.

### 著書

- 1) 金 徹, 坂本篤裕 : [分担] 麻酔による循環動態の変化. 周術期循環管理 (澄川 耕二), 2011 ; pp285-306, 克誠堂出版.
- 2) 金 徹, 坂本篤裕 : [分担] 動脈カテーテル, 術式別部位の選択と合併症 : 循環動態と危険・合併症のモニタリング. Lisa コレクション (中馬理一郎・鈴木利保), 2011 ; pp120-126, メディカル・サイエンス・インターナショナル.

### 学会発表

(1) セミナー：

- 1) 金 徹 : MRI を用いた胃内容物排出状態に関する検討. 日本麻酔科学会第 58 回学術集会 (兵庫県神戸市), 2011. 5.
- 2) 金 徹 : 心臓大血管麻酔における低侵襲モニタリング. 千葉県低侵襲モニタリングセミナー (東京都千代田区), 2011. 7.

(2) 一般講演：

- 1) 金 徹, 中島祐史, 井上哲夫, 坂本篤裕<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院) : 腹部大動脈置換術と大動脈弁置換術における SVV の変動. 日本臨床麻酔学会第 31 回大会 (沖縄県宜野湾市), 2011. 11.
- 2) 辻本芳孝, 神谷一郎, 中島祐史, 金 徹, 井上哲夫, 坂本篤裕<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院) : ロクロニウムの脳波モニターに与える影響の検討. 第 22 回日本臨床モニター学会総会 (東京都), 2011. 4.
- 3) 中島祐史, 後藤眞弓, 金 徹, 井上哲夫, 坂本篤裕<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院) : 修正型電気痙攣療法 mECT におけるレミフェンタニル使用の痙攣時間, 病態回復に対する影響. 日本麻酔科学会 第 58 回学術集会 (神戸), 2011. 5.
- 4) 中島祐史, 神谷一郎, 金 徹, 設楽敏朗<sup>1)</sup>, 井上哲夫, 坂本篤裕<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 聖隷佐倉市民病院, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院) : 術後鎮痛に伴うドロペリドールの経静脈的投与による急性ジストニアと考えられた 3 症例. 関東甲信越・東京支部第 51 回合同学術集会 (千葉県), 2011. 9.
- 5) 梅香 満, 中島祐史, 金 徹, 井上哲夫, 坂本篤裕<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院) : 急性覚醒剤中毒を併発し

た患者に対する緊急開腹異物摘出術の麻酔経験. 公益社団法人日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部第51回合同学術集会(千葉県), 2011. 9.

- 6) Kawaguchi H, Hirakawa K, Sakamoto A : Proton NMR Based Metabolomics Evaluation of Rats Brain Anesthetized with Propofol or Isoflurane. ASA 2011 Annual Meeting (Chicago), 2011. 10.
- 7) 益田律子<sup>1)</sup>, 吉澤一巳<sup>2)</sup>, 井上哲夫, 坂本篤裕<sup>3)</sup>, 鈴木 勉<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 東海大学医学部附属東京病院麻酔科, <sup>2)</sup> 星薬科大学薬品毒性学教室, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院) : オピオイド鎮痛下非がん性慢性痛患者におけるイフェンプロジルの鎮痛補助作用. 日本麻酔科学会第58回学術集会(兵庫県神戸市), 2011. 5.
- 8) 輪島善一郎<sup>1)</sup>, 志賀俊哉<sup>3)</sup>, 今永和幸<sup>4)</sup>, 蔵谷紀文<sup>2)</sup>, 相田純久<sup>2)</sup>, 井上哲夫 ( <sup>1)</sup> 国際医療福祉大学塩谷病院 麻酔科, <sup>2)</sup> 国際医療福祉大学病院 麻酔科, <sup>3)</sup> 化学療法研究所付属病院, <sup>4)</sup> 新東京病院 麻酔科) : 人為的高血圧 (pressor test) ・低血圧 (depressor test) は一回拍出量変動 (SVV) 値に影響を及ぼすか?. 日本麻酔科学会第58回学術集会(兵庫県神戸市), 2011. 5.
- 9) Wajima Z<sup>1)</sup>, Shiga T<sup>2)</sup>, Imanaga K<sup>3)</sup>, Inoue T ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesiology, Shioya Hospital, International University, <sup>2)</sup> Department of Anesthesiology, Kaken Hospital, Chiba, Japan, <sup>3)</sup> Department of Anesthesia, New Tokyo Hospital, Chiba, Japan) : Does induced hypertension affect stroke volume variation in man?. American Society of Anesthesiologists 2011 Annual Meeting (Chicago, IL,USA), 2011. 10.
- 10) Wajima Z<sup>1)</sup>, Shiga T<sup>2)</sup>, Imanaga K<sup>3)</sup>, Inoue T ( <sup>1)</sup> Department of Anesthesiology, Shioya Hospital, International University, <sup>2)</sup> Department of Anesthesiology, Kaken Hospital, Chiba, Japan, <sup>3)</sup> Department of Anesthesia, New Tokyo Hospital, Chiba, Japan) : Induced hypotensive anesthesia decreases stroke volume variation in man. American Society of Anesthesiologists 2011 Annual Meeting (Chicago, IL,USA), 2011. 10.
- 11) 輪島善一郎<sup>1)</sup>, 志賀俊哉<sup>2)</sup>, 今永和幸<sup>3)</sup>, 井上哲夫 ( <sup>1)</sup> 国際医療福祉大学塩谷病院, <sup>2)</sup> 化学療法研究所附属病院, <sup>3)</sup> 新東京病院) : 低血圧麻酔は一回拍出量変動 (SVV) 値に影響を及ぼすか?. 日本臨床麻酔学会第31回大会(沖縄県宜野湾市), 2011. 11.
- 12) Tsuboko Y, Sakamoto A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Chiba-Hokusoh Hospital, Nippon Medical School) : Propofol anesthesia alters the cerebral proteome differently from sevoflurane anesthesia. American society of Anesthesiologists 2011 Annual Meeting (Chicago), 2011. 10.

## 18. 救急医学講座

### [付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター]

#### 研究概要

「ショックに続発する臓器障害発生の機序解明」を当教室の研究テーマとして設定し、外科、脳外科、整形外科、熱傷、集中治療、災害医学をサブスペシャリティとする各グループが各々の分野で同じテーマに向け研究を行っている。

##### ・外科外傷領域

当教室で開発した腸管虚血再灌流、出血性ショックモデルを用い、虚血腸管 viability に関する研究および出血性ショック後臓器障害の研究を、文部科学省科学研究費を得て継続している。臨床では重症外傷治療ならびに新たな学問分野である acute care surgery の有用性に関する研究発表を行った。

##### ・整形外科領域

文部科学省科学研究費を獲得し、当教室で開発した骨軟部組織損傷動物実験モデルを用いて、骨軟部組織損傷が全身炎症に及ぼす影響、特に腸管運動に及ぼす影響に関する研究を行った。

##### ・脳神経外科領域

重症脳血管障害、頭部外傷、および蘇生後脳症に関しての治療、頭蓋内循環代謝動態に関しての数多くの臨床研究を行うとともに、脳虚血再灌流障害の病態メカニズム解明に向け、各種競争的研究資金を獲得し基礎研究を推進している。

##### ・集中治療領域

外傷、敗血症、ARDS、熱中症患者のレジストリーを構築し、重症患者の集中治療管理に関する臨床的研究を行い、新たな知見を国内外で発表した。特に心肺蘇生後および重症脳血管障害後の循環動態の変化、肺透過性亢進病態の評価法に関する研究は高く評価された。

##### ・災害医学領域

本学独自の Doctor Ambulance (DA) システムは、運用開始から 10 年が経過し、その積極的な活動による効果を評価研究した。また、発災直後より各方面で積極的に展開した東日本大震災および福島第一原子力発電所事故に対する災害救援活動を総括し、報告書を作成するとともに学術雑誌に論文として報告した。

#### 研究業績

##### 論文

##### [追加分]

追加分総説：

- 1) 横田裕行, 久志本成樹, 増野智彦: 出血性ショック治療の最前線. Shock 2008; 23 (2): 59-64.
- 2) 横田裕行: 改正臓器移植法のポイント. Emergency Care 2010; 23 (12): 74-79.

追加分原著：

- 1) 田上 隆<sup>1,2)</sup> (1) 会津中央病院, (2) 日本医科大学救急医学教室): 経肺熱希釈測定法で測定される肺血管外水分量と肺血管透過性係数. 日本臨床麻酔学会誌 2011; 31 (2): 353-358.
- 2) 横堀将司, 渡邊頭弘, 中江竜太, 松本 学, 恩田秀賢, 佐藤格夫, 増野智彦, 布施 明, 久志本成樹, 横田裕行: 重症頭部外傷急性期管理における局所脳循環代謝測定の有用性: マイクロダイアリスは minimum essential monitor となりうるか?. 神経外傷 2010; 33 (2): 201-209.

(1) 原著：

- 1) 高山泰広, 桑本健太郎, 佐藤秀貴, 横田裕行, 直江康孝<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 川口市立医療センター救命救急センター) : 脳蘇生と頭蓋内圧モニタリングの現状について. 日本臨牀 2011 ; 69 (4) : 708-715.
- 2) Yokobori S, Watanabe A, Matsumoto G, Onda H, Masuno T, Fuse A, Kushimoto S, Yokota H : Lower Extracellular Glucose Level Prolonged in Elderly Patients With Severe Traumatic Brain Injury : A Microdialysis Study. Neurologia Medico-chirurgica 2011 ; 51 (4) : 265-271.
- 3) Tagami T<sup>1)</sup>, Kushimoto S<sup>2)</sup>, Tosa R<sup>1)</sup>, Omura M<sup>1)</sup>, Yonezawa K<sup>2)</sup>, Akiyama G<sup>2)</sup>, Hirama H<sup>1)</sup>, Yokota H ( <sup>1)</sup> Department of Emergency and Critical Care Medicine, Aizu Chuo Hospital, Fukushima, <sup>2)</sup> Division of Emergency Medicine, Tohoku University Graduate School of Medicine, Sendai ) : Plasma neutrophil elastase correlates with pulmonary vascular permeability : A prospective observational study in patients with pneumonia. Respirology 2011 ; 16 (6) : 953-958.
- 4) 阪本雄一郎<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>2)</sup>, 小幡 徹<sup>3)</sup>, 宮庄 拓<sup>4)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 佐賀大学医学部救急医学講座, <sup>2)</sup> 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, <sup>3)</sup> 微生物化学研究会, <sup>4)</sup> 酪農学園大学獣医学部) : 急性期 DIC 診断基準による敗血症性 DIC と臓器不全および各種敗血症関連因子との関連性. バイオメディカル 2011 ; 21 : 14-18.
- 5) 白石振一郎, 久志本成樹<sup>1)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 東北大学病院高度救命救急センター) : 熱中症患者の重症度評価における重症度スコアおよび凝固系マーカーの有用性. バイオメディカル 2011 ; 21 : 24-30.
- 6) 五十嵐豊, 萩原 純, 福田令雄, 横堀将司, 田邊晴山, 増野智彦, 宮内雅人, 布施 明, 川井 真, 横田裕行 : 窒息による院外心停止に対するドクター・アンビュランスの有用性と検討. 日本救急医学会関東地方会雑誌 2011 ; 32 : 2-3.
- 7) 本村友一<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 横田裕行, 富永 茂<sup>2)</sup>, 西本哲也<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, <sup>2)</sup> 日本大学理工学部機械工学科, <sup>3)</sup> 日本大学工学部機械工学科バイオメカニクス研究室) : 四輪車交通事故における乗車位置と外傷傷害の関係. 日本救急医学会関東地方会雑誌 2011 ; 32 : 54-55.
- 8) 関厚二郎, 百瀬洗太, 松居亮平, 和田剛志, 小野寺修一, 塚本剛志, 金 史英, 新井正徳, 白石振一郎, 横田裕行 : 当院救命救急センターに搬送された重症熱中症の検討. 日本救急医学会関東地方会雑誌 2011 ; 32 : 76-77.
- 9) Fuse A, Shuto Y, Ando F, Shibata M, Watanabe A, Onda H, Masuno T, Yokota H : Medical relief activities conducted by Nippon Medical School in the acute phase of the Great East Japan Earthquake 2011. J Nippon Med Sch 2011 ; 78 (6) : 397-400.
- 10) Fuse A, Igarashi Y, Tanaka T, Kim S, Tsujii A, Kawai M, Yokota H : Onsite medical rounds and fact-finding activities conducted by Nippon Medical School in Miyagi prefecture after the Great East Japan Earthquake. J Nippon Med Sch 2011 ; 78 (6) : 401-404.
- 11) 木村利美<sup>1)</sup>, 砂川慶介<sup>2)</sup>, 戸塚恭一<sup>3)</sup>, 松本哲哉<sup>4)</sup>, 花木秀明<sup>5)</sup>, 相馬一亥<sup>6)</sup>, 鈴木幸男<sup>7)</sup>, 吉田 稔<sup>8)</sup>, 大塚喜人<sup>9)</sup>, 根本 学<sup>10)</sup>, 横田裕行, 東原正明<sup>10)</sup>, 織田成人<sup>10)</sup>, 秋山 暢<sup>10)</sup>, 宮尾直樹<sup>10)</sup>, その他6名 ( <sup>1)</sup> 東京女子医科大学病院薬剤部, <sup>2)</sup> 北里生命科学研究所大学院感染制御科学府, <sup>3)</sup> 東京女子医科大学感染対策部感染症内科, <sup>4)</sup> 東京医科大学微生物学講座, <sup>5)</sup> 北里大学抗感染症薬研究センター, <sup>6)</sup> 北里大学病院救命救急センター, <sup>7)</sup> 北里大学北里研究所病院呼吸器内科, <sup>8)</sup> 帝京大学医学部附属溝口病院第四内科, <sup>9)</sup> 亀田メディカルセンター臨床検査部, <sup>10)</sup> その他) : 硫酸アルベカシンの至適血中ピーク濃度を達成するための用量設定試験. 日本化学療法学会雑誌 2011 ; 59 (6) : 597-604.
- 12) Nakae R, Yokota H, Yoshida D<sup>1)</sup>, Teramoto A<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, Nippon Medical School ) : Transcranial Doppler Ultrasonography for Diagnosis of Cerebral Vasospasm After Aneurysmal Subarachnoid Hemorrhage : Mean Blood Flow Velocity Ratio of the Ipsilateral and Contralateral Middle Cerebral Arteries. Neurosurgery 2011 ; 69 (4) : 876-883.
- 13) Yokobori S, Watanabe A, Matsumoto G, Onda H, Masuno T, Fuse A, Kushimoto S, Yokota H : Time

course of recovery from cerebral vulnerability after severe traumatic brain injury : a microdialysis study. *Journal of Trauma* 2011 ; 71 (5) : 1235-1240.

- 14) Tagami T, Kushimoto S<sup>1)</sup>, Tosa R<sup>2)</sup>, Omura M<sup>2)</sup>, Hagiwara J, Hiram H<sup>3)</sup>, Yokota H ( <sup>1)</sup> Division of Emergency Medicine, Tohoku University Graduate School of Medicine, <sup>2)</sup> Department of Emergency and Critical Care Medicine, Aizu Chuo Hospital, <sup>3)</sup> Department of Internal Medicine, Matsuyama Rehabilitation Hospital) : The precision of PiCCO measurements in hypothermic post-cardiac arrest patients. *Anaesthesia* 2012 ; 67 (3) : 236-243.
- 15) 増野智彦, 渡邊顕弘, 五十嵐豊, 萩原 純, 恩田秀賢, 新井正徳, 辻井厚子, 宮内雅人, 布施 明, 川井 真, 横田裕行 : 【東日本大震災 日本医科大学の対応】 東日本大震災に対する日本医科大学救急医学教室の取り組みわれわれはどう行動したのか. *日本医科大学医学会雑誌* 2011 ; 7 (Sppl) : 43-52.
- 16) Fuse A, Okumura T<sup>1)</sup>, Tokuno S<sup>2)</sup>, Saitoh D<sup>3)</sup>, Yokota H ( <sup>1)</sup> Emergency Medicine, Kawasaki Medical School, <sup>2)</sup> Department of Defense Medicine, National Defense Medical College, <sup>3)</sup> Division of Traumatology, Research Institute, National Defense Medical College) : Current Status of Preparedness for Blast Injuries in Japan. *JMAJ* 2011 ; 54 (5) : 310-317.
- 17) Koyama A, Fuse A, Hasegawa J, Matsumoto G, Shiraiishi S, Masuno T, Miyauchi M, Kawai M, Yokota H : Medical relief activities, medical resourcing, and inpatient evacuation conducted by Nippon Medical School due to the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident following the Great East Japan Earthquake 2011. *J Nippon Med Sch* 2011 ; 78 (6) : 393-396.
- 18) 田上 隆<sup>1,2)</sup> ( <sup>1)</sup> 会津中央病院, <sup>2)</sup> 日本医科大学救急医学教室) : 集中治療の新たな治療パラメータ : 肺血管外水分量と肺血管透過性係数. *Surgical Trauma & Immunological Responses* 2011 ; 20 (3) : 90-98.
- 19) 田上 隆 : 東日本大震災と「会津地域透析連携協力ネットワーク」: 官・民・病院・職種を超えたネットワークの構築. *日本透析医学会雑誌* 2011 ; 26 (3) : 470-478.
- 20) Michard F<sup>1)</sup>, Fernandez-Mondejar E<sup>2)</sup>, Kirov M<sup>3)</sup>, Malbrain M<sup>4)</sup>, Tagami T ( <sup>1)</sup> Critical Care, Edwards Lifesciences, Irvine, CA, USA, <sup>2)</sup> Intensive Care Unit University Hospital Virgen de las Nieves Granada, Spain, <sup>3)</sup> Department of Anesthesiology and Intensive Care Medicine Northern State Medical University Arkhangelsk, Russian Federation, <sup>4)</sup> Intensive Care Unit ZNA Stuivenberg Antwerp, Belgium) : A new and simple definition for acute lung injury. *Critical Care Medicine* 2012 ; 40 (3) : 1004-1006.
- 21) 宮内雅人, 横田裕行 : 頭部外傷と感染. *日本外科感染症学会雑誌* 2011 ; 8 (4) : 327-330.

(2) 総説 :

- 1) 和田剛志, 横田裕行 : 心外閉塞性ショックの病態と治療. *救急医学* 2011 ; 35 (4) : 434-437.
- 2) 久志本成樹<sup>1)</sup>, 横田裕行, 川井 真, 宮内雅人 ( <sup>1)</sup> 東北大学大学院医学系研究科外科病態学講座救急医学分野) : 法的脳死下臓器提供に関わる提供施設における問題点. *脳死・脳蘇生* 2011 ; 23 (2) : 60-65.
- 3) 横田裕行, 井林雪郎<sup>1)</sup>, 岡野明浩<sup>2)</sup>, 西上和宏<sup>3)</sup>, 八田耕太郎<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 誠愛リハビリテーション病院, <sup>2)</sup> 天理よろづ相談所病院消化器内科, <sup>3)</sup> 済生会熊本病院集中治療室, <sup>4)</sup> 順天堂大学医学部附属練馬病院メンタルクリニック科) : 座談会 : 他科からみた脳卒中 : その診断治療の pitfall. *脳と循環* 2011 ; 16 (2) : 11 (99) -19 (107).
- 4) 新井正徳, 横田裕行 : SIRS 患者への導入基準と方法, 離脱 -The timing, method and weaning of the blood purification for the patients of SIRS. *腎と透析* 2011 増刊号 2011 ; 2011 (増刊号) : 147-150.
- 5) 布施 明<sup>1,5)</sup>, 奥村 徹<sup>2,5)</sup>, 徳野慎一<sup>3,5)</sup>, 齋藤大蔵<sup>4,5)</sup>, 横田裕行<sup>1,5)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学高度救命救急センター, <sup>2)</sup> 川崎医科大学救急医学, <sup>3)</sup> 防衛医科大学校防衛医学, <sup>4)</sup> 防衛医科大学校防衛医学研究センター外傷研究部門, <sup>5)</sup> 日本爆傷研究会) : 爆発損傷 (爆傷) に対する医療対応 : 本邦での備えは万全か ? . *日本外傷学会雑誌* 2011 ; 25 (3) : 333-347.
- 6) Akiyama K<sup>1)</sup>, Fujita M<sup>3)</sup>, Taniguchi K<sup>1)</sup>, Fujitani K<sup>1)</sup>, Nakamura F<sup>1)</sup>, Suzuki S<sup>1)</sup>, Shimura T<sup>2)</sup>, Fuse A,

Yokota H, Hasegawa T<sup>1)</sup> (1) Department of Health Service Administration, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Academic Quality and Development Office, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Safety Management Division in Healthcare, Infection Control Office, Nippon Medical School) : An introduction of simulation-based influenza education drill for medical students in Japan - Effective “learn-by-doing” method for team-based medicine-. 医学教育 2011 ; 42 (4) : 217-224.

- 7) 金子純也, 横田裕行 : 頭蓋内圧生理学と頭蓋内亢進および脳浮腫. 救急・集中治療「神経保護 Q&A- 神経救急・集中治療的アプローチの実際 -」 2011 ; 23 (7.8) : 1032-1036.
  - 8) 関厚二郎, 横田裕行 : 急性虚血性脳卒中(線溶療法を中心に). 救急医学 : 救急薬剤プラクティカルガイド 2011 ; 35 (10) : 1216-1220.
  - 9) 横田裕行 : 画像診断に求めること : 特に救急放射線領域. 日獨医報 2011 ; 56 (1) : 78-79.
  - 10) 布施 明, 横田裕行 : 意識障害. 日本医師会雑誌 2011 ; 140 (特別号 (2)) : S172-S176.
  - 11) 松本 学, 横田裕行 : 頭痛患者に対する頭部 CT. 救急医学 2011 ; 35 (11) : 1499-1502.
  - 12) 横田裕行 : 小児脳死下臓器提供の課題と問題点. 脳神経外科ジャーナル 2011 ; 20 (11) : 818-821.
  - 13) 石井浩統, 横田裕行 : ショックは何か. Emergency Care 2011 ; 24 (12) : 12-16.
  - 14) 横堀将司<sup>1, 2)</sup>, Bullock M<sup>1)</sup>, Dietrich W<sup>1)</sup>, 中江竜太<sup>1)</sup>, 松本 学<sup>1)</sup>, 恩田秀賢<sup>1)</sup>, 増野智彦<sup>1)</sup>, 布施 明<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>3)</sup> (1) Department of Neurosurgery, University of Miami Miller School of Medicine, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院脳神経外科 : 頭部外傷における Neuromonitoring : 治療ガイドラインの観点から. 脳神経外科ジャーナル 2011 ; 20 (12) : 864-872.
  - 15) Yokobori S<sup>1, 2)</sup>, Frantzen J<sup>2)</sup>, Bullock R<sup>2)</sup>, Gajavelli S<sup>2)</sup>, Burks S<sup>2)</sup>, Bramlett H<sup>2)</sup>, Dietrich D<sup>2)</sup> (1) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, The Miami Project to Cure Paralysis, University of Miami Miller School of Medicine, Miami, Florida.) : The Use of Hypothermia Therapy in Traumatic Ischemic/Reperfusional Brain Injury : Review of the Literatures. Therapeutic Hypothermia and Temperature Management 2012 ; 1 (4) : 185-192.
  - 16) 布施 明 : 化学災害 1. 製油所などを含む工場(爆発)事故. 最新医学 2012 ; 67 (3月増刊号) : 116-123.
  - 17) 横田裕行 : 急性期脳卒中の医療連携(平成23年度救急災害医療特別講演会). 水戸市医師会会報 2012 ; (170) : 29-50.
  - 18) 大泉 旭, 川井 真, 横田裕行 : 多発外傷に対する初期治療 : DCO (Damage Control Orthopaedics) と創外固定法. Orthopaedics 2012 ; 25 (3) : 1-11.
  - 19) 増野智彦 : 侵襲時の貧血のメカニズムと輸血. 救急医学 2011 ; 35 (7) : 839-842.
- (3) 報告書 :
- 1) 横田裕行 : 救急医療の地域連携のあり方について. 東京都医師会雑誌 2011 ; 64 (8) : 1198-1208.
- (4) 症例報告 :
- 1) Miyauchi M, Kushimoto S, Kawai M, Yokota H : Postoperative Course after Simple Ligation for Superior Mesenteric Vein Injury Caused by Blunt Abdominal Trauma. Journal of Nippon Medical School 2011 ; 78 (2) : 116-119.
  - 2) 和田剛志, 石川若菜, 渡邊顕弘, 鈴木 剛, 松本 学, 関厚二郎, 恩田秀賢, 布施 明, 川井 真, 横田裕行 : 長期間の低体温療法を行い救命しえた重症頭部外傷とクモ膜下出血の2例. 日本救急医学会関東地方会雑誌 2011 ; 32 : 34-35.
  - 3) 門馬亮介, 戸田 翠, 林 励治, 小原良規, 松本剛志, 田中俊尚, 大泉 旭, 川井 真, 横田裕行 : 高齢者寛骨臼骨折に対して一期的に観血的整復固定術と人工股間接全置換術を行った1例. 日本救急医学会関東地方会雑誌 2011 ; 32 : 52-53.
  - 4) 城戸教裕, 増野智彦, 白石振一郎, 福田令雄, 辻井厚子, 宮内雅人, 川井 真, 久志本成樹, 横田裕行, 大塚洋

平<sup>1)</sup>, 岡崎 静<sup>1)</sup>, 渡邊宏美<sup>1)</sup>, 安齋眞一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学皮膚科) : 壞疽性膿皮症により診断および創傷治療に難渋した1例. 日本救急医学会関東地方会雑誌 2011 ; 32 : 152-153.

- 5) Kushimoto S<sup>1)</sup>, Shiraiishi S, Miyauchi M, Tanabe S, Fukuda R, Tsujii A, Masuno T, Kim S, Kawai M, Yokota H, Tajima H<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Division of Emergency Medicine, Tohoku University School of Medicine, <sup>2)</sup> Radiology, Nippon Medical School) : Traumatic Renal Artery Occlusion Treated with an Endovascular Stent : The Limitations of Surgical Revascularization : Report of a Case. Surgery Today 2011 ; 41 ( 7 ) : 1020-1023.

(5) トピックス :

- 1) 横田裕行 : 日本医科大学における臨床実習とシミュレーション医学教育. 日医大医学会誌 2011 ; 7 ( 2 ) : 88-91.

(6) 書評 :

- 1) 横田裕行 : 交通の百科事典. 學鏡 ( 秋号 ) 2011 ; 108 ( 2 ) : 52-53.

(7) 特集 :

- 1) 佐藤格夫<sup>1)</sup>, 久志本成樹<sup>2)</sup>, 松本 尚, 尾本健一郎, 稲垣栄次, 金 史英, 小林辰輔, 増野智彦, 岡田一郎, 諸江雄太, 牧 真彦, 雨森俊介, 小井土雄一, 益子邦洋, 横田裕行, その他3名 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学救急医学教室 ( 現・京都大学初期診療救急科 ), <sup>2)</sup> 日本医科大学救急医学教室 ( 現・東北大学救急医学教室 ) ) : 生体アニマルを用いた外傷手術修練の取り組み. Japanese Journal of Acute Care Surgery ( JJACS ) 2011 ; 1 : 41-46.

- 2) 横田裕行 : 最前線で担う救急医療. 脳神経外科速報 2011 ; 21 ( 12 ) : 1306-1316.

## 著 書

### [追加分]

#### 追加分 :

- 1) 田上 隆 : [ 分担 ] 救急・集中治療 ( PiCCO カテーテル ). 救急・集中治療 ( 3・4 ), 2011 ; pp642-647, 総合医学社.
- 2) 横田裕行 : [ 分担 ] 頭部外傷. 外傷初期看護ガイドライン ( [ 監修 ] 一般社団法人日本救急看護学会 [ 編集協力 ] 一般社団法人日本臨床救急医学会 ), 2010 ; pp153-159, へるす出版.
- 1) 平田清貴, 横田裕行 : [ 分担 ] 薬物作用・動態, 投与法. 救急診療指針 ( 改訂第4版 ) ( 監修/一般社団法人日本救急医学会・編集/一般社団法人日本救急医学会専門医認定委員会 ), 2011 ; pp115-119, へるす出版.
- 2) 塚本剛志, 川井 真, 大泉 旭 : [ 分担 ] 骨折に対する処置. 新プレホスピタル外傷学 ( [ 監修 ] 石原晋・[ 編集 ] 松本尚 ), 2011 ; pp199-205, 永井書店.
- 3) 横田裕行 : [ 分担 ] 頭部外傷. 新プレホスピタル外傷学 ( [ 監修 ] 石原晋・[ 編集 ] 松本尚 ), 2011 ; pp223-238, 永井書店.
- 4) 田中俊尚, 川井 真, 大泉 旭 : [ 分担 ] 骨盤外傷. 新プレホスピタル外傷学 ( [ 監修 ] 石原晋・[ 編集 ] 松本尚 ), 2011 ; pp292-303, 永井書店.
- 5) 大泉 旭 : [ 分担 ] MEMO14 骨盤骨折治療の難しさ. 新プレホスピタル外傷学 ( [ 監修 ] 石原晋・[ 編集 ] 松本尚 ), 2011 ; pp304-304, 永井書店.
- 6) 横田裕行 : [ 監訳 ] 頭部外傷の初期診療 ( Initial Management of Head Injury-A Comprehensive Guide. 頭部外傷の初期診療 ( Initial Management of Head Injury-A Comprehensive Guide ( [ 監訳 ] 横田裕行, 荒木尚 ), 2011 ; メディカル・サイエンス・インターナショナル.
- 7) 横田裕行 : [ 分担 ] 臓器提供としての要件. 臓器提供時の家族対応のあり方 ( [ 編集 ] 日本臨床救急医学会移植医療における救急医療のあり方に関する検討委員会 ), 2011 ; pp6-10, へるす出版.
- 8) 横田裕行 : [ 分担 ] 法的脳死判定から臓器提供への標準的手順. 臓器提供時の家族対応のあり方 ( [ 編集 ] 日本臨床救急医学会移植医療における救急医療のあり方に関する検討委員会 ), 2011 ; pp11-14, へるす出版.
- 9) 横田裕行 : [ 分担 ] 脳死下臓器提供の支援体制. 臓器提供時の家族対応のあり方 ( [ 編集 ] 日本臨床救急医学会移

植医療における救急医療のあり方に関する検討委員会), 2011; pp30-34, へるす出版.

- 10) 布施 明, 横田裕行: [分担] 意識障害. 症状からアプローチするプライマリケア ([編集] 日本医師会学術企画委員会), 2011; pp172-176, 医歯薬出版株式会社.
- 11) 横田裕行: [分担] 法律に基づいた脳死判定. 今日の救急治療指針第2版 ([監修] 前川和彦, 相川直樹, 【編集】 杉本壽, 堀進悟, 行岡哲男, 山田至康, 坂本哲也), 2011; pp912-917, 医学書院.
- 12) 荒木 尚<sup>1)</sup>, 横田裕行 (<sup>1)</sup> 足利赤十字病院救命救急センター): [分担] 臓器移植のシステム. 今日の救急治療指針 (第2版) ([監修] 前川和彦, 相川直樹, 【編集】 杉本壽, 堀進悟, 行岡哲男, 山田至康, 坂本哲也), 2012; pp917-920, 医学書院.
- 13) 横田裕行: [分担] 心損傷 (心タンポナーデを含む). 今日の治療指針 2012年版 [ポケット判] ([総編集] 山口徹, 北原光夫, 福井次矢), 2012; pp49-49, 医学書院.
- 14) 横田裕行: [分担] 心損傷 (心タンポナーデを含む). 今日の治療指針 2012年版 ([総編集] 山口徹, 北原光夫, 福井次矢), 2012; pp49-49, 医学書院.
- 15) 松本 学, 横田裕行: [分担] 重症頭部外傷の管理の実際. 神経外傷, 2012; pp41-54, 株式会社メディカルレビュー社.
- 16) 横堀将司: [翻訳] 第17章 高齢者の頭部外傷. 頭部外傷の初期診療 ([監訳] 横田裕行・荒木 尚), 2011; pp261-268, メディカル・サイエンス・インターナショナル.
- 17) 横堀将司: [翻訳] 第12章 重症頭部外傷患者の集中治療管理. 頭部外傷の初期診療 ([監訳] 横田裕行・荒木 尚), 2011; pp167-201, メディカルサイエンスインターナショナル.
- 18) 恩田秀賢, 横田裕行: [分担] 熱中症の危険因子. 熱中症 ~日本を襲う熱波の恐怖~ ([編集] 日本救急医学会), 2011; pp24-32, へるす出版.
- 19) 横田裕行: [翻訳主幹] アトラス応急処置マニュアル. アトラス応急処置マニュアル原書第9版第2刷 ([監訳者] 山本保博, 黒川頭 [翻訳主幹] 横田裕行, 大友康裕), 2012; 南江堂.
- 20) 横田裕行: [分担] 頭部外傷. 救急・集中治療医学レビュー 2012・13 ([監修] 島崎修次, 前川剛志 [編集] 岡元和文, 横田裕行), 2012; pp187-194, 総合医学社.
- 21) 布施 明: [分担] A31~65. 第34回救急救命士国家試験問題 解答・解説集 (山本保博), 2011; pp21-34, へるす出版.
- 22) 宮内雅人, 横田裕行: [分担] 多発外傷と腹部外傷. 救急集中治療: 腹部救急 Q & A (平出敦), 2011; pp1543-1548, 総合医学社.

## 学会発表

### [追加分]

追加分一般講演:

- 1) 坂本雄一郎<sup>1)</sup>, 朽方規喜<sup>1)</sup>, 伊藤栄近<sup>1)</sup>, 岩村高志<sup>1)</sup>, 中島厚士<sup>1)</sup>, 八幡真由子<sup>1)</sup>, 宮庄 拓<sup>2)</sup>, 小幡 徹<sup>3)</sup>, 益子邦洋<sup>4)</sup>, 横田裕行 (<sup>1)</sup> 佐賀大学医学部救急医学講座, <sup>2)</sup> 酪農学園大学獣医学部, <sup>3)</sup> 微生物化学研究会微生物化学研究センター, <sup>4)</sup> 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター): Multiplex suspension array system による多種サイトカイン値からみた敗血症症例における PMMA-CHDF の効果に関する検討. エンドトキシン血症救命治療研究会 (第15回), 2011. 1.

(1) 特別講演:

- 1) 横田裕行: 東日本大震災の発災直後から現在までの医療支援について: 東京 DMAT の活動から今後について. 文京区救急業務連絡協議会 (東京), 2011. 4.
- 2) 横田裕行: 東日本大震災における医療支援: 急性期医療から心のケア. さいたま市与野医師会在宅医療研究会

- (第11回) 医師・ケアマネ研修会 (さいたま市), 2011. 7.
- 3) 横田裕行: 移植医療の現状と小児の脳死判定について. 聖マリアンナ医科大学脳死判定セミナー・第9回臓器提供・移植を考える神奈川の会 (川崎市), 2011. 7.
  - 4) 横田裕行: 法改正後の臓器提供施設の現状と課題. 京都府院内臓器移植コーディネーター研修会 (京都市), 2011. 8.
  - 5) 横田裕行: 急性期脳卒中の医療連携. 水戸市医師会救急講演会 (水戸市), 2011. 9.
  - 6) 横田裕行: 東日本大震災医療支援の初期対応と課題. 会津若松地方広域市町村圏整備組合平成23年度救命救急講演会 (会津若松市), 2011. 9.
  - 7) 横田裕行: PCAS後の脳保護療法. お茶の水カンファレンス (東京), 2011. 9.
  - 8) 横田裕行: 東京都における地域救急医療の問題点. 第19回OZAK会学術集会 (東京), 2011. 10.
  - 9) 横田裕行: 病院前からER, ICUへの救急・集中治療. 日本集中治療医学会第20回北海道地方会 (札幌市), 2011. 10.
  - 10) 横田裕行: 救急医療の終末期と対応. 平成23年度群馬県外科医会講演会 (前橋市), 2011. 10.
  - 11) 横田裕行: 改正臓器移植法への対応. 平成23年度滋賀県臓器提供連絡会 (大津市), 2011. 11.
  - 12) 横田裕行: 救急・集中治療の脳蘇生. 東北救急医学会総会・学術集会 (第25回) (山形市), 2011. 11.
  - 13) 横田裕行: 終末期に医療をどの様に考えるか?. 聖マリア医学会 (久留米市), 2012. 1.
  - 14) 横田裕行: 救急医療施設からみた移植医療の課題. 七隈移植医療カンファレンス (第8回) (福岡市), 2012. 2.
  - 15) 横田裕行: 法的脳死判定マニュアルについて. 社団法人日本臓器移植ネットワーク東日本支部第10回「臓器の提供に関する懇話会」(東京), 2012. 2.
  - 16) Yokobori S<sup>1,2)</sup> <sup>1)</sup>Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, The Miami Project to Cure Paralysis, University of Miami Miller School of Medicine, Miami, Florida.) : Effect of Early-induced Hypothermia Treatment in Severe Acute Subdural Hematoma Rat Model. Neurosurgical Ground Round in University of Miami (Miami, FL, USA), 2011. 7.
  - 17) 布施 明: 自然災害における急性期(～亜急性期)災害医療活動の課題: 東日本大震災からみえてきたもの. 全日本病院学会 (第53回) (沖縄), 2011. 10.
  - 18) 横田裕行: 疾患からみた東日本大震災医療支援の特徴: 日本医科大学の対応実績から. 橘桜会 (第8回) (東京), 2012. 3.
  - 19) 増野智彦: PMXを用いた最近の臨床および基礎研究. 仙台Sepsis Forum (第1回) (仙台), 2012. 3.
  - 20) 増野智彦: 意識障害の病態と対応. 東京消防庁第5方面救急研究会 (東京), 2011. 11.
- (2) 招待講演:
- 1) 松本 学: 救急領域におけるてんかん重積治療. 新しいてんかん治療を考える会 (東京), 2011. 5.
- (3) 教育講演:
- 1) Yokobori S<sup>1,2)</sup>, Bullock R<sup>2)</sup>, Gajavelli S<sup>2)</sup>, Mondello S<sup>2)</sup>, Wang K<sup>2)</sup>, Hayes R<sup>2)</sup>, Sakurai A<sup>2)</sup>, Tomura S<sup>2)</sup>, Bramlett H<sup>2)</sup>, Dietrich D<sup>2)</sup> <sup>1)</sup> Department of Emergency and Clitical Care Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, <sup>2)</sup> Department of Neurosurgery, The Miami Project to Cure Paralysis, University of Miami Miller School of Medicine, Miami, Florida.) : Preoperative-induced mild hypothermia attenuates brain biomarkers in a rat subdural hematoma model. National Neurotrauma Symposium 2011 (FORT LAUDERDALE, FLORIDA), 2011. 7.
  - 2) 増野智彦: 危機的出血患者を救命するには?. 日本蘇生学会総会 (第30回) (福島), 2011. 11.
- (4) シンポジウム:
- 1) 高山泰広, 横田裕行, 佐藤秀貴, 桑本健太郎<sup>1)</sup>, 直江康孝, 小関一英<sup>2)</sup>, 岸本晃男<sup>3)</sup> <sup>1)</sup> 川口市立医療センター救命救急センター, <sup>2)</sup> 平成帝京大学健康メディカル学部, <sup>3)</sup> 松江病院外科): 重症外傷に伴う凝固線溶系障害の臨

- 床の特徴：頭部外傷と多発外傷の比較より．日本外傷学会（第25回）（堺市），2011．5．
- 2) 横田裕行，増野智彦：出血性ショックの診断と治療．日本Shock学会総会（第26回）（浜松市），2011．5．
  - 3) 三橋正典<sup>1)</sup>，若菜 繁<sup>1)</sup>，白井 忠<sup>1)</sup>，岡田知己<sup>1)</sup>，松本 学，恩田秀賢，田邊晴山，増野智彦，宮内雅人，横田裕行（<sup>1</sup> 東京消防庁）：救急搬送資器材種別が病院前心拍再開に与える影響．日本臨床救急医学会総会・学術集会（第14回）（札幌市），2011．6．
  - 4) 渥美生弘<sup>1)</sup>，坂本哲也<sup>2)</sup>，浅井康文<sup>2)</sup>，長尾 建<sup>2)</sup>，森村尚登<sup>2)</sup>，田原良雄<sup>2)</sup>，横田裕行<sup>2)</sup>，奈良 理<sup>2)</sup>，長谷 守<sup>2)</sup>，佐藤慎一<sup>1)</sup>，有吉孝一<sup>1)</sup>（<sup>1</sup> 神戸市立医療センター中央市民病院救命救急センター，<sup>2</sup> SAVE-J 研究班）：ECPRの費用効果分析：SAVE-J 多施設共同研究の結果から．日本臨床救急医学会総会・学術集会（第14回）（札幌市），2011．6．
  - 5) 横田裕行：小児の法的脳死下臓器提供の展望．日本小児救急医学会（第25回）（東京），2011．6．
  - 6) 松本 学，石川若菜，渡邊顕弘，和田剛志，鈴木 剛，橋詰哲広，関厚二郎，恩田秀賢，布施 明，横田裕行：救命救急センターにおける急性期重症脳梗塞に対する脳血管内治療．日本脳神経血管内治療学会関東地方会（第8回）（東京），2011．6．
  - 7) 横田裕行：AED設置情報の把握と公開，管理について．非医療従事者に対するAED普及啓発シンポジウム（東京），2011．8．
  - 8) 渡邊顕弘，五十嵐豊，和田剛志，鈴木 剛，関厚二郎，松本 学，恩田秀賢，横堀将司，布施 明，磯谷栄二<sup>1)</sup>，横田裕行（<sup>1</sup> 東京医科歯科大学附属病院）：連続心拍出量測定装置PiCCO plusを用いたTriple-H療法の検証：Triple-Hの肺水腫に対するPiCCOの役割．日本脳卒中学会総会（第36回）Stroke2011（京都市），2011．7．
  - 9) 尾本健一郎，有馬大輔，石井浩統，河野陽介，萩原 純，新井正徳，金 史英，横田裕行：当院における10年間の十二指腸損傷手術症例の検討．Acute Care Surgery 研究会学術集会（第3回）（東京），2011．11．
  - 10) 増野智彦，五十嵐豊，渡邊顕弘，石井浩統，田中俊尚，布施 明，川井 真，横田裕行：日本医科大学 Doctor Ambulance 運用10年の経験および今後の課題．病院前救急診療研究会学術集会（第6回）（東京），2011．12．
  - 11) 久志本成樹<sup>1)</sup>，横田裕行（<sup>1</sup> 東北大学救急医学）：脳死臓器提供の現状と改正法施行に伴う展望．日本医学会総会2011（第28回）（東京），2011．4．
  - 12) 木下順弘<sup>1)</sup>，横田裕行，有賀 徹<sup>2)</sup>（<sup>1</sup> 熊本大学大学院侵襲制御医学分野，<sup>2</sup> 昭和大学医学部救急医学）：救急医療における終末期医療への対応．日本医学会総会2011（第28回）（東京），2011．4．
  - 13) 大桃丈知<sup>1)</sup>，石原 哲<sup>1)</sup>，宮崎舜賢<sup>1)</sup>，木村昭夫<sup>1)</sup>，築山 節<sup>1)</sup>，大高弘稔<sup>1)</sup>，竹内俊二<sup>1)</sup>，横山隆捷<sup>1)</sup>，安藤高夫<sup>1)</sup>，横田裕行<sup>1)</sup>，坂本哲也<sup>1)</sup>，石川秀樹<sup>1)</sup>，佐々木勝<sup>1)</sup>，猪口正孝<sup>1)</sup>（<sup>1</sup> 東京都医師会救急委員会委員）：選定困難事業に対する対策：特に精神科的背景を有する事案について．日本救急医学会関東地方会（第62回）（東京），2012．2．
  - 14) 田中俊尚，志賀直子<sup>1)</sup>，林 励治<sup>1)</sup>，須崎 真<sup>1)</sup>，横田裕行，石原 哲<sup>2)</sup>，大高弘稔<sup>2)</sup>，小山英樹<sup>2)</sup>，築山 節<sup>2)</sup>，内藤誠二<sup>2)</sup>，横山隆捷<sup>2)</sup>（<sup>1</sup> 日本医科大学総合診療部，<sup>2</sup> 東京都医師会救急委員会）：平成22年度東京都医師会救急委員会「救急医療の地域連携のあり方，とくに東京ルールに関するアンケート調査」より．日本救急医学会関東地方会（第62回）（東京），2012．2．
  - 15) Matsumoto G, Suzuki G, Onda H, Takayama Y, Yokobori S, Fuse A, Yokota H : Brain hypothermia for severe traumatic brain injury may induce prolonged risk factors of the surgical infection. International Hypothermia Symposium 2011 (Tokyo), 2011. 9.
  - 16) 松本 学，佐藤 慎，池田 司，五十嵐豊，渡邊顕弘，和田剛志，鈴木 剛，橋詰哲広，関厚二郎，恩田秀賢，高山泰広，横堀将司，布施 明，横田裕行：重症頭部外傷と神経集中治療における遷延する感染危険因子．日本脳神経外科学会学術集会（第70回）（横浜市），2011．10．
  - 17) 布施 明：爆傷外傷概論．日本火薬学会（2011年度春季研究発表会）（横浜），2011．5．
  - 18) 田上 隆<sup>1, 2)</sup>，久志本茂樹<sup>3)</sup>，大村真理子<sup>2)</sup>，土佐亮一<sup>2)</sup>，横田裕行<sup>1)</sup>（<sup>1</sup> 日本医科大学救急医学教室，<sup>2</sup> 会津中

中央病院救命救急センター, <sup>3)</sup> 東北大学救急医学) : 経肺熱希釈法による「肺血管外水分量」妥当性・正常値, 臨床応用, 病態解明手段. 日本救急医学総会・学術集会 (第 39 回) (東京), 2011. 10.

- 19) 荒木 尚, 横田裕行, 佐藤秀貴, 布施 明, 横堀将司, 高山泰広, 恩田秀貴 : 小児重症頭部外傷治療における重症頭部外傷ガイドラインの意義について : びまん性脳腫脹に対する治療法選択. 日本脳神経外傷学会 (第 35 回) (東京), 2012. 3.
- 20) 畝本恭子<sup>1)</sup>, 中江竜太, 鈴木 剛, 北蘭雅敏, 渡邊顕弘, 黒川 顕<sup>1)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター) : 頭部外傷における頭蓋内圧モニタリングの積極利用の再考. 日本脳神経外傷学会 (第 35 回) (東京), 2012. 3.
- 21) 直江康孝<sup>1)</sup>, 中江竜太<sup>1)</sup>, 北蘭雅敏<sup>1)</sup>, 高山泰広<sup>2)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 川口市立医療センター救命救急センター, <sup>2)</sup> 総合会津中央病院救命救急センター) : 頭部外傷後の高次脳機能障害の発生に関して. 日本脳神経外傷学会 (第 35 回) (東京), 2012. 3.
- 22) 金 史英, 河野陽介, 石井浩統, 田上 隆, 白石振一郎, 尾本健一郎, 増野智彦, 新井正徳, 辻井厚子, 横田裕行 : Damage control surgery の適応決定には迅速な決断が重要である. 日本腹部救急医学会総会 (第 48 回) (金沢市), 2012. 2.
- 23) 宮内雅人, 増野智彦, 金 史英, 横田裕行 : 消化管出血における IVR を利用した治療戦略の重要性について. 日本腹部救急医学会総会 (第 48 回) (金沢市), 2012. 2.
- 24) 横田裕行 : AED 設置情報の把握と公開, 管理について. 非医療従事者に対する AED 普及啓発シンポジウム (第 2 回) (大阪市), 2012. 3.
- 25) 高山泰広 : 頭部外傷の死亡予測と年齢因子の検討. 日本脳神経外科学会学術集会 (第 70 回) (横浜市), 2011. 10.

(5) パネルディスカッション :

- 1) 高山泰広, 横田裕行, 佐藤秀貴, 桑本健太郎, 直江康孝<sup>1)</sup>, 小関一英<sup>2)</sup>, 岸本晃男<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 川口市立医療センター救命救急センター, <sup>2)</sup> 平成帝京大学健康メディカル学部, <sup>3)</sup> 松江病院外科) : 高齢者頭部外傷に伴う凝固線溶系障害の臨床的特徴. 日本外傷学会 (第 25 回) (堺市), 2011. 5.
- 2) 上西蔵人<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>1)</sup>, 原 義明<sup>1)</sup>, 飯田浩章<sup>1)</sup>, 平林篤志<sup>1)</sup>, 川井 真, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター) : 新たな DCO 適応基準の効果. 日本外傷学会 (第 25 回) (堺市), 2011. 5.
- 3) 大泉 旭, 川井 真, 田中俊尚, 塚本剛志, 林 励治, 横田裕行 : 大腿骨骨折を伴う多発外傷症例の急性期治療 : ETC, DCO, または直達牽引? . 日本外傷学会 (第 25 回) (堺市), 2011. 5.
- 4) 直江康孝<sup>1)</sup>, 小川太志<sup>1)</sup>, 田上正茂<sup>1)</sup>, 中江竜太<sup>1)</sup>, 桑本健太郎<sup>2)</sup>, 高山泰広<sup>3)</sup>, 高島伸之介<sup>4)</sup>, 米沢光平<sup>1)</sup>, 小野寺修一<sup>1)</sup>, 飯島広和<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup> 川口市立医療センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター, <sup>3)</sup> 松江病院, <sup>4)</sup> 埼玉脳神経外科病院) : 頭部外傷後の高次脳機能障害の発生に関して. 日本外傷学会 (第 25 回) (堺市), 2011. 5.
- 5) 田中俊尚, 塚本剛志, 林 励治, 辻井厚子, 大泉 旭, 川井 真, 横田裕行 : 整形外傷患者を急性期からシームレスに診療するための試み. 日本外傷学会 (第 25 回) (堺市), 2011. 5.
- 6) 林田和之<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>1)</sup>, 原 義明<sup>1)</sup>, 八木貴典<sup>1)</sup>, 益子一樹<sup>1)</sup>, 飯田浩章<sup>1)</sup>, 上西蔵人<sup>1)</sup>, 本村友人<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター) : フライトドクターが行う advanced field triage について. 病院前救急診療研究会学術集会 (第 6 回) (東京), 2011. 12.
- 7) 金 史英, 萩原 純, 白石振一郎, 雨森俊介, 尾本健一郎, 佐藤格夫<sup>1)</sup>, 増野智彦, 新井正徳, 辻井厚子, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 京都大学医学研究科初期診療・救急医学分野) : 当院での Acute Care Surgery の現状と今後の課題. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 39 回) (東京), 2011. 10.
- 8) 上西蔵人<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>1)</sup>, 原 義明<sup>1)</sup>, 飯田浩章<sup>1)</sup>, 平林篤志<sup>1)</sup>, 小柳正雄<sup>2)</sup>, 大泉 旭, 川井 真,

- 横田裕行<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター,<sup>2)</sup> 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター) : 急性期外科医のあり方 整形外科医の立場から. 日本救急医学会総会・学術集会(第39回)(東京), 2011. 10.
- 9) 田邊晴山<sup>1)</sup>, 丹野克俊<sup>2)</sup>, 近藤久禎<sup>3)</sup>, 山本保博<sup>4)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup> 救急振興財団救急救命東京研修所,<sup>2)</sup> 札幌医科大学附属病院救急集中治療部,<sup>3)</sup> 災害医療センター臨床研修部,<sup>4)</sup> 東京臨海病院) : 救急医療の質の保証を目的とした救命救急センターの評価について. 日本救急医学会総会・学術集会(第39回)(東京), 2011. 10.
- 10) 増野智彦, 重村朋子, 吉野美緒, 稲本絵里, 萩原 純, 五十嵐豊, 宮内雅人, 辻井厚子, 布施 明, 川井 真, 横田裕行 : いま救急医に求められるアウトリーチ活動 : 社会のため, そして救急医のために. 日本救急医学会総会・学術集会(第39回)(東京), 2011. 10.
- 11) 林田和之<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>1)</sup>, 原 義明<sup>1)</sup>, 八木貴典<sup>1)</sup>, 益子一樹<sup>1)</sup>, 飯田浩章<sup>1)</sup>, 上西蔵人<sup>1)</sup>, 三木隆久<sup>1)</sup>, 本村友一<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター) : 多数傷病者対応時において当科フライトドクターが行う advanced field triage について. 日本救急医学会総会・学術集会(第39回)(東京), 2011. 10.
- 12) 高山泰広, 横田裕行, 佐藤秀貴, 桑本健太郎, 直江康孝<sup>1)</sup>, 中江竜太<sup>1)</sup>, 小関一英<sup>2)</sup>, 岸本晃男<sup>3)</sup> (1) 川口市立医療センター救命救急センター,<sup>2)</sup> 平成帝京大学健康メディカル学部,<sup>3)</sup> 松江病院) : 高齢者外傷の臨床的特徴と転帰からみた治療限界について. 日本救急医学会総会・学術集会(第39回)(東京), 2011. 10.
- 13) 桑本健太郎<sup>1)</sup>, 石之神小織<sup>1)</sup>, 諸江雄太<sup>1)</sup>, 久野将宗<sup>1)</sup>, 小柳正雄<sup>1)</sup>, 北橋章子<sup>1)</sup>, 苛原隆之<sup>1)</sup>, 金子潤也<sup>1)</sup>, 福田令雄<sup>1)</sup>, 二宮宣文<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター) : 高齢化団地を抱えた多摩地区における救命救急センターの現状. 日本救急医学会総会・学術集会(第39回)(東京), 2011. 10.
- 14) 恩田秀賢, 鈴木 剛, 松本 学, 田中俊尚, 新井正徳, 宮内雅人, 金 史英, 布施 明, 辻井厚子, 川井 真, 横田裕行 : 当院高度救命救急センターにおける高齢者に対する取り組み. 日本救急医学会総会・学術集会(第39回), 2011. 10.
- 15) 五十嵐豊<sup>1, 2)</sup>, 城戸教裕<sup>2)</sup>, 渡邊顕弘<sup>1)</sup>, 萩原 純<sup>2)</sup>, 大村真理子<sup>2)</sup>, 田上 隆<sup>2)</sup>, 増野智彦<sup>1)</sup>, 布施 明<sup>1)</sup>, 土佐亮一<sup>2)</sup>, 平間久雄<sup>2)</sup>, 川井 真<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 高度救命救急センター,<sup>2)</sup> 会津中央病院 救命救急センター) : 東日本大震災における被災した病院からの高齢者の受け入れ. 日本集団災害医学会総会・学術集会(第17回)(金沢市), 2012. 2.
- 16) 佐藤格夫<sup>1)</sup>, 尾本健一郎, 白石振一郎, 金 史英, 萩原 純, 苛原隆之, 盤井佑輔, 諸江雄太, 新井正徳, 横田裕行<sup>1)</sup> 京都大学医学部初期診療救急科) : Abdominal compartment syndrome を起こし得る病態における経腸栄養管理の Strategy. 日本腹部救急医学会総会(第48回)(金沢市), 2012. 2.
- 17) 本村友一<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター) : 東日本大震災における複数ドクターヘリ統制について : 報告と今後の問題. 日本集団災害医学会総会・学術集会(第17回)(金沢市), 2012. 2.
- (6) セミナー :
- 1) 横田裕行 : 改正臓器移植法に対する脳神経外科施設の対応. 社団法人日本脳神経外科学会中国四国支部学術集会(第71回)脳死判定に関するセミナー(出雲市), 2011. 4.
- 2) 横田裕行 : 小児脳死の病態. 日本小児救急医学会(第25回)・脳死判定セミナー(東京), 2011. 6.
- 3) 横田裕行 : 脳低温療法の意義 : 現在の位置づけと将来. 日本脳低温療法学会(第14回)教育セミナー(鹿児島市), 2011. 7.
- 4) 横田裕行 : 頭部外傷. 日本外科学会第80回卒後教育セミナー(東京), 2011. 11.
- 5) 横田裕行 : 脳死 : 脳死の概念, 法的脳死判定. 平成23年度厚生労働科学研究費補助金免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業「移植医療の社会的基盤に関する研究」臓器提供施設におけるクオリティーマネジメントセミナー(東京), 2012. 1.
- 6) 横田裕行 : 改正臓器移植法ガイドラインに基づく脳死判定. 日本救急医学会専門医セミナー(第17回)(東京),

2012. 3.

(7) ワークショップ：

- 1) 志村知子：重症熱傷患者に対する局所的創傷ケア：mist 洗顔法を用いた顔面の熱傷創ケア。日本熱傷学会総会・学術集会（第 37 回）（東京），2011. 6.
- 2) 布施 明，五十嵐豊，小野雄一，福田令雄，横堀将司，増野智彦，荒木 尚，横田裕行：多数傷病者対応事案における警察（官）との連携。日本臨床救急医学会総会・学術集会（第 14 回）（札幌市），2011. 6.
- 3) 平田清貴<sup>1)</sup>，宮内雅人，片山志郎<sup>1)</sup>，横田裕行（<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院薬剤部）：一般用医薬品と医療用医薬品の適正使用。日本中毒学会総会・学術集会（第 33 回）（大垣市），2011. 7.
- 4) 白石振一郎，池田 司，太田好紀，和田剛志，石井浩統，関厚二郎，鈴木 剛，松本 学，新井正徳，増野智彦，横田裕行：入院時所見にて重症熱中症の予後予測は可能か：重症度スコアと凝固系分子マーカーについての検討。日本救急医学会総会・学術集会（第 39 回）（東京），2011. 10.
- 5) 横田裕行：3 次救急医療施設の視点から見た救急医療の問題と課題。東京都病院学会，2012. 2.

(8) プレナリーセッション：

- 1) 横田裕行：小児脳死下臓器提供の課題と問題点。日本脳神経外科コンgres総会（第 31 回）（横浜市），2011. 5.
- 2) 横堀将司<sup>1)</sup>，Bullock M<sup>1)</sup>，Diretrich W<sup>1)</sup>，横田裕行，寺本 明<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup> マイアミ大学医学部脳神経外科，<sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院脳神経外科）：頭部外傷における neuromonitoring：治療ガイドラインの観点から。日本脳神経外科コンgres総会（第 31 回）（横浜市），2011. 5.

(9) ポスター：

- 1) 大木更一郎<sup>1)</sup>，村上正洋<sup>1)</sup>，百束比古<sup>1)</sup>，川井 真，横田裕行（<sup>1)</sup> 日本医科大学形成外科）：救命と形成のコラボレーションの追求救急部へのの長期出向を経験して。日本熱傷学会総会・学術集会（第 37 回）（東京），2011. 6.
- 2) 松本 学，五十嵐豊，渡邊顕弘，和田剛志，関厚二郎，恩田秀賢，布施 明，横田裕行，阿部 新<sup>1)</sup>，片山泰朗<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院内科，神経・腎臓・膠原病リウマチ部門）：3 次救急における脳梗塞の治療戦略：rt-PA 体制からその先へ。日本脳卒中学会総会（第 36 回）Stroke2011（京都市），2011. 7.
- 3) 辻井厚子，増野智彦，新井正徳，金 史英，布施 明，松本 学，渡邊顕弘，萩原 純，石井浩統，柴田泰史<sup>1)</sup>，横田裕行（<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院臨床検査部）：阻害法による CK-MB 測定値の応用；脳，腸管虚血の補助診断として。日本救急医学会総会・学術集会（第 39 回）（東京），2011. 10.
- 4) 兵働英也<sup>1)</sup>，小原俊彦<sup>1)</sup>，小野寺直子<sup>1)</sup>，志賀尚子<sup>1)</sup>，川井 真<sup>1)</sup>，横田裕行，加藤貴雄<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院総合診療センター）：当診療科初診の 1 次，2 次救急患者における担癌患者の状況について。日本救急医学会総会・学術集会（第 39 回）（東京），2011. 10.
- 5) 林 励治<sup>1)</sup>，須崎 真<sup>1)</sup>，関厚二郎<sup>1)</sup>，小野寺直子<sup>1)</sup>，志賀尚子<sup>1)</sup>，兵働英也<sup>1)</sup>，小原俊彦<sup>1)</sup>，川井 真<sup>1)</sup>，横田裕行，加藤貴雄<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院総合診療センター）：総合診療センター外来における外傷症例治療の自己完結状況についての検討。日本救急医学会総会・学術集会（第 39 回）（東京），2011. 10.
- 6) 佐藤 慎，松本 学，有馬大輔，橘 五月，河野陽介，小野雄一，鈴木 剛，布施 明，横田裕行，村井保夫<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院脳神経外科）：治療戦略の選択に難渋する内頸動脈前壁動脈瘤：2 つの動脈瘤を有した症例から。日本救急医学会総会・学術集会（第 39 回）（東京），2011. 10.
- 7) 増野智彦，小山 敦<sup>1)</sup>，村尾亮子<sup>1)</sup>，松居亮平<sup>1)</sup>，松本 学，白石振一郎，田邊晴山，尾本健一郎，新井正徳，布施 明，横田裕行（<sup>1)</sup> いわき市立総合磐城共立病院）：福島原発 30km 以遠に生じた医療機能低下地域よりの重症患者後方搬送。日本救急医学会総会・学術集会（第 39 回）（東京），2011. 10.
- 8) 石川若菜<sup>1)</sup>，桑本健太郎<sup>1)</sup>，金子純也<sup>1)</sup>，北橋章子<sup>1)</sup>，石之神小織<sup>1)</sup>，諸江雄太<sup>1)</sup>，久野将宗<sup>1)</sup>，二宮宣文<sup>1)</sup>，横田裕行（<sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター）：ラクナ梗塞で入院中に椎骨動脈解離によるくも膜下出

- 血を発症した1例. 日本救急医学会総会・学術集会(第39回)(東京), 2011. 10.
- 9) 上野 孝<sup>1)</sup>, 横田裕行, 川名誠司<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学皮膚科学講座): 中毒性表皮壊死(TEN)症例の検討. 日本救急医学会総会・学術集会(第39回)(東京), 2011. 10.
  - 10) 石井浩統, 新井正徳, 池田 司, 戸田 翠, 太田好紀, 橋 五月, 和田剛志, 白石振一郎, 恩田秀賢, 塚本剛志, 横田裕行: 陰圧閉鎖療法が奏功したフルニエ壊疽の1例. 日本救急医学会総会・学術集会(第39回)(東京), 2011. 10.
  - 11) 新井正徳, 金 史英, 関厚二郎, 和田剛志, 塚本剛志, 石井浩統, 太田好紀, 池田 司, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 横田裕行 (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院集中治療室): ECMOにより救命し得た新型インフルエンザ肺炎の1例. 日本救急医学会総会・学術集会(第39回)(東京), 2011. 10.
  - 12) 松田淳也<sup>1)</sup>, 細川雄亮<sup>1)</sup>, 林 耕次<sup>1)</sup>, 宮地秀樹<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 佐藤直樹<sup>1)</sup>, 白石振一郎, 金 史英, 横田裕行, 田中啓治<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院集中治療室): 急性心筋梗塞による心停止後の胸骨圧迫により肝損傷を来した腹部コンパートメント症候群に陥った1例. 日本救急医学会総会・学術集会(第39回)(東京), 2011. 10.
  - 13) 松本 学, 太田好紀, 小野雄一, 白石振一郎, 増野智彦, 宮内雅人, 辻井厚子, 布施 明, 川井 真<sup>1)</sup>, 横田裕行 (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院総合診療科): 集中治療におけるNon-Convulsive Status Epileptics. 日本集中治療医学会学術集会(第39回)(千葉), 2012. 2.
  - 14) 五十嵐豊, 渡邊顕弘, 和田剛志, 橋詰哲広, 鈴木 剛, 松本 学, 関厚二郎, 恩田秀賢, 布施 明, 横田裕行: 箸による頭部杖創の1例. 日本脳神経外傷学会(第35回)(東京), 2012. 3.
  - 15) 橋詰哲広, 五十嵐豊, 渡邊顕弘, 和田剛志, 鈴木 剛, 松本 学, 関厚二郎, 恩田秀賢, 布施 明, 横田裕行: 外傷性椎骨動脈損傷を来した2症例. 日本脳神経外傷学会(第35回)(東京), 2012. 3.
  - 16) 石井浩統, 新井正徳, 河野陽介, 萩原 純, 白石振一郎, 増野智彦, 尾本健一郎, 金 史英, 辻井厚子, 川井 真, 横田裕行: 長期に及ぶopen abdomen managementに対する新たな閉腹法の試み 非吸収性メッシュを併用した陰圧閉鎖法. 日本臨床外科学会総会(第73回)(東京), 2011. 10.
  - 17) 池田 司, 後藤由也, 太田好紀, 尾本健一郎, 川井 真, 横田裕行: Fournier症候群に対してVAC療法が奏効した1例. 日本医科大学医学会総会(第79回), 2011. 9.
  - 18) 有馬大輔, 鈴木 剛, 佐藤 慎, 渡邊顕弘, 橋 五月, 河野陽介, 小野雄一, 田中俊尚, 尾本健一郎, 横田裕行: 肺癌術前CTガイド下マーキング施行時に生じた脳空気塞栓に対して高圧酸素療法が著効した1例. 日本医科大学医学会総会(第79回), 2011. 9.
  - 19) 石井浩統, 朝山敏夫, 和田剛志, 新井正徳, 川井 真, 横田裕行: 慢性膀胱炎に起因する膀胱自然破裂が原因と考えられた汎発性腹膜炎の1例. 日本医科大学医学会総会(第79回)(東京), 2011. 9.
- (10) 一般講演:
- 1) 白石振一郎, 増野智彦, 佐藤格夫<sup>1)</sup>, 朱 然, 朝倉隆之, 横田裕行 (<sup>1)</sup> 京都大学初期診療救急医学): ラット虚血モデルにおけるマイクロダイアリスを用いた腸管 Viability の評価. 日本 Shock 学会(第26回)(浜松市), 2011. 5.
  - 2) 本村友一<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 横田裕行, Dietmar O<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター, <sup>2)</sup> Hannover Medical School Accident Research Unit): 乗用車乗員の頭部外傷についての国際比較 JTDBとGIDAS. 日本外傷学会(第25回)(堺市), 2011. 5.
  - 3) 宮内雅人, 増野智彦, 新井正徳, 鈴木 剛, 川井 真, 横田裕行: 当院における外傷症例に対する急性期診療報酬についての検討. 日本外傷学会(第25回)(堺市), 2011. 5.
  - 4) 布施 明, 五十嵐豊, 小野雄一, 福田令雄, 増野智彦, 横田裕行: 国民保護訓練からみた本邦での爆傷災害医療の課題. 日本外傷学会(第25回)(堺市), 2011. 5.
  - 5) 塚本剛志, 大泉 旭, 増野智彦, 横田裕行: 骨・軟部組織損傷後のMOF発展メカニズムの解明: 新しい動物骨・軟部組織損傷モデル. 日本外傷学会(第25回)(堺市), 2011. 5.

- 6) 小川理郎<sup>1)</sup>, 新井正徳, 金 史英, 増野智彦 ( <sup>1)</sup> 足利赤十字病院救命救急センター) : 間欠性跛行から確定診断に至った外傷性腹部大動脈解離の1例. 日本外傷学会 (第25回) (堺市), 2011. 5.
- 7) 恩田秀賢, 布施 明, 渡邊顕弘, 鈴木 剛, 松本 学, 関厚二郎, 横田裕行 : 頭部外傷と外傷性脳血管障害 : その評価基準と方法. 日本外傷学会 (第25回) (堺市), 2011. 5.
- 8) 鈴木 剛, 石川若菜, 渡邊顕弘, 和田剛志, 松本 学, 関厚二郎, 恩田秀賢, 布施 明, 横田裕行 : 頭部外傷患者における外減圧術施行症例の検討. 日本外傷学会 (第25回) (堺市), 2011. 5.
- 9) 高山泰広, 横田裕行, 佐藤秀貴, 桑本健太郎, 直江康孝<sup>1)</sup>, 中江竜太<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 川口市立医療センター救命救急センター) : ダメージコントロールとしての追加減圧減張開頭術. 日本外傷学会 (第25回) (堺市), 2011. 5.
- 10) 布施 明, 鈴木 剛, 恩田秀賢, 渡邊顕弘, 松本 学, 横田裕行 : Microwave 照射による実験頭部外傷モデルの開発. 日本外傷学会 (第25回) (堺市), 2011. 5.
- 11) 宮内雅人, 大木更一郎<sup>1)</sup>, 川井 真, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学形成外科) : 当院における広範囲熱傷についての検討. 日本熱傷学会総会・学術集会 (第37回) (東京), 2011. 6.
- 12) 布施 明, 五十嵐豊, 小野雄一, 福田令雄, 増野智彦, 横田裕行 : Tactical Medical Team (戦術的医療チーム) の創設に向けて. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第14回) (札幌市), 2011. 6.
- 13) 岡田知己<sup>1)</sup>, 白井 忠<sup>1)</sup>, 三橋正典<sup>1)</sup>, 若菜 繁<sup>1)</sup>, 増野智彦, 金 史英, 新井正徳, 辻井厚子, 布施 明, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 東京消防庁) : 静脈路確保の客観的難易度評価を目的とした静脈路評価分類の作成. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第14回) (札幌市), 2011. 6.
- 14) 直江康孝<sup>1)</sup>, 小川太志<sup>1)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 川口市立医療センター) : 当院, 当地区の救急医の現状. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第14回) (札幌市), 2011. 6.
- 15) 増野智彦, 重村朋子<sup>1)</sup>, 吉野美緒<sup>1)</sup>, 稲本絵里<sup>2)</sup>, 市村美帆<sup>3)</sup>, 松井 豊<sup>4)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学, <sup>2)</sup> 白梅学園大学, <sup>3)</sup> 東洋大学, <sup>4)</sup> 筑波大学) : ドクターカー・ドクターヘリ活動が出場医師に及ぼす心的ストレス : 全国調査の結果より. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第14回) (札幌市), 2011. 6.
- 16) 田中俊尚, 川井 真, 横田裕行, 石原 哲<sup>1)</sup>, 大高弘稔<sup>1)</sup>, 小山英樹<sup>1)</sup>, 築山 節<sup>1)</sup>, 内藤誠二<sup>1)</sup>, 横山隆捷<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京都医師会救急委員会) : 東京都における救急医療の地域連携のあり方 : いわゆる救急医療の東京ルールについての問題点と課題. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第14回) (札幌市), 2011. 6.
- 17) 関厚二郎, 野崎圭夏, 和田剛志, 塚本剛志, 金 史英, 新井正徳, 増野智彦, 川井 真<sup>1)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院総合診療科) : 突発性大網出血の1例. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第14回) (札幌市), 2011. 6.
- 18) 直江康孝<sup>1)</sup>, 小川太志<sup>1)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 川口市立医療センター救命救急センター) : 救急搬送受け入れ統計の見直しを！. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第14回) (札幌市), 2011. 6.
- 19) 白井 忠<sup>1)</sup>, 岡田知己<sup>1)</sup>, 三橋正典<sup>1)</sup>, 若菜 繁<sup>1)</sup>, 渡邊顕弘, 増野智彦, 金 史英, 新井正徳, 川井 真, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 東京消防庁) : ドクターカー出場医師による血糖測定と血糖補正の効果. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第14回) (札幌市), 2011. 6.
- 20) 若菜 繁<sup>1)</sup>, 三橋正典<sup>1)</sup>, 白井 忠<sup>1)</sup>, 岡田知己<sup>1)</sup>, 鈴木 剛, 松本 学, 増野智彦, 布施 明, 川井 真, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 東京消防庁) : シンシナティ病院前脳卒中スケール (CPSS) を用いた脳卒中判断の精度と限界. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第14回) (札幌市), 2011. 6.
- 21) 上西蔵人<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>1)</sup>, 原 義明<sup>1)</sup>, 川井 真, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター) : 多発外傷に伴う大腿骨複合骨折の治療経験2例報告. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第14回) (札幌市), 2011. 6.
- 22) 和田剛志, 関厚二郎, 渡邊顕弘, 小野雄一, 鈴木 剛, 松本 学, 恩田秀賢, 増野智彦, 布施 明, 川井 真<sup>1)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院総合診療科) : 「意識なし」, 「意識障害」の指令内容で出勤したドクターカー症例の検討. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第14回) (札幌市), 2011. 6.

- 23) 関厚二郎, 野崎圭夏, 和田剛志, 塚本剛志, 金 史英, 新井正徳, 白井振一郎, 増野智彦, 川井 真<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院総合診療科): 当院高度救命救急センターに搬送された重度熱中症3年間の検討. 日本臨床救急医学会総会・学術集会(第14回)(札幌市), 2011. 6.
- 24) 五十嵐豊, 松本 学, 渡邊顕弘, 和田剛志, 鈴木 剛, 橋詰哲広, 関厚二郎, 恩田秀賢, 布施 明, 川井 真, 横田裕行: 頭部外傷後の多発脳血管攣縮に対し経皮的血管形成術を施行して良好な予後を得た1例. 日本神経救急学会・学術集会(第25回)(東京), 2011. 6.
- 25) 藤木 悠, 松本 学, 五十嵐豊, 渡邊顕弘, 和田剛志, 鈴木 剛, 橋詰哲弘, 恩田秀賢, 布施 明, 横田裕行: 前大脳動脈紡錘状動脈瘤破裂によりくも膜下出血を発症した1例. 日本神経救急学会・学術集会(第25回), 2011. 6.
- 26) 金子純也<sup>1)</sup>, 石之神小織<sup>1)</sup>, 桑本健太郎<sup>1)</sup>, 武原章子<sup>1)</sup>, 植松若菜<sup>1)</sup>, 二宮宣文<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター): くも膜下出血で発症した上小脳動脈解離の一手術例. 日本神経救急学会・学術集会(第25回), 2011. 6.
- 27) 中江竜太<sup>1)</sup>, 恩田秀賢, 高山泰広, 荒木 尚, 直江康孝<sup>1)</sup>, 布施 明, 佐藤秀貴, 横田裕行, 寺本 明<sup>2)</sup> <sup>1)</sup> 川口市立医療センター救命救急センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院脳神経外科): TCDによる脳血管攣縮の診断: mBFVの左右比を用いた検討. 日本神経救急学会・学術集会(第25回), 2011. 6.
- 28) 池田 司, 和田剛志, 五十嵐豊, 渡邊顕弘, 鈴木 剛, 松本 学, 関厚二郎, 恩田秀賢, 布施 明, 川井 真, 横田裕行: 脳圧管理目的に長期間の脳低体温療法を行い救命しえた重症頭部外傷とクモ膜下出血の3例. 日本神経救急学会・学術集会(第25回)(東京), 2011. 6.
- 29) 高山泰広, 横田裕行, 佐藤秀貴, 桑本健太郎, 直江康孝<sup>1)</sup> <sup>1)</sup> 川口市立医療センター救命救急センター): 頭部外傷の死亡予測からみた年齢因子と凝血学的因子の検討. 日本神経救急学会・学術集会(第25回)(東京), 2011. 6.
- 30) 目原久美<sup>1)</sup>, 桑原広輔<sup>1)</sup>, 下吹越航<sup>1)</sup>, 遠藤広史<sup>1)</sup>, 牧 真彦<sup>1)</sup>, 上笹 宙<sup>1)</sup>, 望月 徹<sup>1)</sup>, 畝本恭子<sup>1)</sup>, 黒川 顕<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター): 重症頭部外傷を来した血友病A患者の1例: 急性期・周術期の管理. 日本神経救急学会・学術集会(第25回)(東京), 2011. 6.
- 31) 佐藤 慎, 松本 学, 和田剛志, 鈴木 剛, 関厚二郎, 恩田秀賢, 布施 明, 横田裕行, 村井保夫<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup> <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院脳神経外科): 診断と治療が困難であった内頸動脈前壁動脈瘤の1例. 日本神経救急学会・学術集会(第25回)(東京), 2011. 6.
- 32) 橋詰哲広, 松本 学, 五十嵐豊, 渡邊顕弘, 和田剛志, 鈴木 剛, 関厚二郎, 恩田秀賢, 布施 明, 横田裕行: 矢状静脈洞壁硬膜動静脈洞瘻を根治後に横静脈洞にIsolated Sinusとして再発した1例. 日本神経救急学会・学術集会(第25回)(東京), 2011. 6.
- 33) 恩田秀賢, 五十嵐豊, 渡邊顕弘, 和田剛志, 鈴木 剛, 松本 学, 布施 明, 横田裕行, 渥美生弘<sup>1)</sup> <sup>1)</sup> 神戸中央市民病院救命救急センター): マイクロダイアリス(MD)を用いた蘇生後脳症の病態把握. 日本脳死・脳蘇生学会総会・学術集会(第24回)(奈良市), 2011. 6.
- 34) 松本 学, 佐藤 慎, 五十嵐豊, 渡邊顕弘, 和田剛志, 鈴木 剛, 橋詰哲広, 恩田秀賢, 布施 明, 横田裕行: 出血性ショックを合併した口腔内出血に対し選択的外頸動脈塞栓術を施行した1例. 日本脳神経血管内治療学会関東地方会(第8回)(東京), 2011. 6.
- 35) 高木 誠<sup>1, 4)</sup>, 横田裕行<sup>2, 4)</sup>, 有賀 徹<sup>3, 4)</sup> <sup>1)</sup> 東京都済生会中央病院神経内科, <sup>2)</sup> 日本医科大学大学院侵襲生体管理学, <sup>3)</sup> 昭和大学救急医学, <sup>4)</sup> 東京都脳卒中医療連携協議会): 東京都脳卒中救急搬送例におけるrt-PA静注療法: 東京都脳卒中救急搬送体制実態調査の結果から. 日本脳卒中学会総会(第36回)Stroke2011(京都市), 2011. 7.
- 36) 横田裕行<sup>1)</sup>, 高木 誠<sup>2)</sup>, 有賀 徹<sup>3)</sup> <sup>1)</sup> 東京都脳卒中医療連携協議会, 日本医科大学大学院侵襲生体管理学(救急医学), <sup>2)</sup> 東京都脳卒中医療連携協議会, 済生会中央病院, <sup>3)</sup> 東京都脳卒中医療連携協議会, 昭和大学医学部

救急医学)：脳卒中急性期診療は救急現場の適切な評価から。日本脳卒中学会総会(第36回)Stroke2011(京都市), 2011. 7.

- 37) 新井正徳, 百瀬洸太, 松居亮平, 和田剛志, 小野寺修一, 塚本剛志, 関厚二郎, 増野智彦, 金 史英, 尾本健一郎, 久志本成樹, 横田裕行：腹部大動脈瘤破裂に対して, vacuum assisted closure および腹直筋前鞘翻転法が早期閉腹に有用であった1例。日本腹部救急医学会総会(第47回)(福岡市), 2011. 8.
- 38) 林田和之<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>1)</sup>, 益子一樹<sup>1)</sup>, 三木隆久<sup>1)</sup>, 本村友一<sup>1)</sup>, 安松比呂志<sup>1)</sup>, 龜山大介<sup>1)</sup>, 龜山麻子<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>(1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター)：Acute Care Surgery 育成プログラムとしてのEmergency Surgery Course。Acute Care Surgery 研究会学術集会(第3回)(東京), 2011. 11.
- 39) 有馬大輔, 萩原 純, 河野陽介, 石井浩統, 尾本健一郎, 新井正徳, 増野智彦, 金 史英, 横田裕行：菜箸によるS状結腸穿孔の1例。Acute Care Surgery 研究会学術集会(第3回)(東京), 2011. 11.
- 40) 増野智彦, 重村朋子, 吉野美緒, 稲本絵里, 市村美帆<sup>1)</sup>, 松井 豊<sup>2)</sup>, 横田裕行<sup>(1)</sup> 東洋大学,<sup>2)</sup> 筑波大学)：ドクターヘリ活動が出場医師・看護師に及ぼす心的ストレス。日本航空医療学会総会(第18回)(長崎市), 2011. 11.
- 41) 須崎 真<sup>1)</sup>, 小原俊彦<sup>1)</sup>, 北村和広<sup>1)</sup>, 関厚二郎<sup>1,2)</sup>, 林 励治<sup>1,2)</sup>, 小野寺直子<sup>1)</sup>, 兵働英也<sup>1)</sup>, 志賀尚子<sup>1,2)</sup>, 川井 真<sup>1,2)</sup>, 加藤貴雄<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学付属病院総合診療センター, 2) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター)：大学病院初期臨床研修における救急初診来必須化の試み：研修医による評価と今後の展望一。日本救急医学会総会・学術集会(第39回)(東京), 2011. 10.
- 42) 高山泰広, 横田裕行, 佐藤秀貴, 桑本健太郎, 直江康孝<sup>1)</sup>, 中江竜太<sup>1)</sup>, 小関一英<sup>2)</sup>, 岸本晃男<sup>3)</sup> (1) 川口市立医療センター救命救急センター, 2) 平成帝京大学健康メディカル学部, 3) 松江病院)：重症外傷に伴う凝固線溶系障害の臨床的特徴：頭部外傷と多発外傷の比較より。日本救急医学会総会・学術集会(第39回)(東京), 2011. 10.
- 43) 和田剛志, ジェスミンサプリナ<sup>1)</sup>, 横田裕行, 丸藤 哲<sup>2)</sup> (1) 国立国際医療研究センター遺伝子診断治療開発研究部, 2) 北海道大学大学院医学研究科侵襲制御医学講座救急医学分野)：外傷患者における血管新生関連因子と凝固線容反応。日本救急医学会総会・学術集会(第39回)(東京), 2011. 10.
- 44) 宮内雅人, 川井 真, 横田裕行：医局員一人一人の意見が職場環境をデザインする。日本救急医学会総会・学術集会(第39回)(東京), 2011. 10.
- 45) 橋詰哲広, 松本 学, 佐藤 慎, 有馬大輔, 橋 五月, 河野陽介, 鈴木 剛, 小野雄一, 田中俊尚, 尾本健一郎, 横田裕行：当院3次救命センターに搬送される脳梗塞患者における特徴。日本救急医学会総会・学術集会(第39回)(東京), 2011. 10.
- 46) 五十嵐豊, 松本 学, 瀧口 徹, 戸田 翠, 萩原 純, 橋詰哲広, 金 史英, 宮内雅人, 川井 真, 横田裕行：救命救急センターにおける急性期重症脳梗塞に対する脳血管内治療。日本救急医学会総会・学術集会(第39回)(東京), 2011. 10.
- 47) 渡邊顕弘, 佐藤 慎, 五十嵐豊, 和田剛志, 鈴木 剛, 松本 学, 田上 隆<sup>1)</sup>, 布施 明, 川井 真, 磯谷栄二<sup>2)</sup>, 横田裕行 (1) 会津中央病院救命救急センター, 2) 東京医科歯科大学附属病院救命救急センター/PiCCO SAH study group)：重症クモ膜下出血後 Triple-H 療法の評価。日本救急医学会総会・学術集会(第39回)(東京), 2011. 10.
- 48) 瀧口 徹, 松本 学, 池田 司, 太田好紀, 和田剛志, 白石振一郎, 恩田秀賢, 横田裕行, 利根 修<sup>1)</sup>, 富田博樹<sup>1)</sup> (1) 武蔵野赤十字病院)：重症脳卒中・頭部外傷における感染の危険因子と起因菌。日本救急医学会総会・学術集会(第39回)(東京), 2011. 10.
- 49) 小原俊彦<sup>1)</sup>, 須崎 真<sup>1)</sup>, 川井 真<sup>1,2)</sup>, 北村和弘<sup>1)</sup>, 関厚二郎<sup>1,2)</sup>, 林 励治<sup>1,2)</sup>, 小野寺直子<sup>1)</sup>, 兵働英也<sup>1)</sup>, 志賀尚子<sup>1,2)</sup>, 加藤貴雄<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, 2) 日本医科大学付属病院総合診療センター)：いかに多彩な後期研修医をER型救急にリクルートするか：大学病院総合診療センターの

- 取り組み. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 39 回) (東京), 2011. 10.
- 50) 原 義明<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>1)</sup>, 齋藤伸行<sup>1)</sup>, 八木貴典<sup>1)</sup>, 林田和之<sup>1)</sup>, 飯田浩章<sup>1)</sup>, 上西蔵人<sup>1)</sup>, 本村友一<sup>1)</sup>, 川井 真, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1</sup> 日本医科大学付属病院千葉北総病院救命救急センター): プレホスピタルにおけるシーツラッピングの普及のために. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 39 回) (東京), 2011. 10.
- 51) 松本 学, 池田 司, 瀧口 徹, 五十嵐豊, 渡邊顕弘, 太田好紀, 石井浩統, 萩原 純, 恩田秀賢, 布施 明, 横田裕行: 脳卒中急性期治療は病院前から可能か?. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 39 回) (東京), 2011. 10.
- 52) 稲本絵里<sup>1)</sup>, 増野智彦, 吉野美緒<sup>2)</sup>, 重村朋子<sup>3)</sup>, 松井 豊<sup>4)</sup>, 市村美帆<sup>5)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1</sup> 日本医科大学多摩永山病院, <sup>2</sup> 日本医科大学付属病院小児科, <sup>3</sup> 日本医科大学侵襲生体管理学, <sup>4</sup> 筑波大学, <sup>5</sup> 東洋大学): 病院前診療活動に従事する医師の活動と感情体験. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 39 回) (東京), 2011. 10.
- 53) 市村美帆<sup>1)</sup>, 増野智彦, 吉野美緒<sup>2)</sup>, 稲本絵里<sup>3)</sup>, 重村朋子<sup>4)</sup>, 松井 豊<sup>5)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1</sup> 東洋大学, <sup>2</sup> 日本医科大学付属病院小児科, <sup>3</sup> 日本医科大学多摩永山病院, <sup>4</sup> 日本医科大学侵襲生体管理学教室, <sup>5</sup> 筑波大学): 病院前診療活動に伴う医師の心的外傷に関する研究: 出場形態および役職別の心的外傷. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 39 回) (東京), 2011. 10.
- 54) 吉野美緒<sup>1)</sup>, 増野智彦, 稲本絵里<sup>2)</sup>, 重村朋子<sup>3)</sup>, 松井 豊<sup>4)</sup>, 市村美帆<sup>5)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1</sup> 日本医科大学付属病院小児科, <sup>2</sup> 日本医科大学多摩永山病院, <sup>3</sup> 日本医科大学侵襲生体管理学教室, <sup>4</sup> 筑波大学, <sup>5</sup> 東洋大学): 病院前診療活動に伴う医師の心的外傷に関する研究: 活動中の体験・周囲の状況と心的外傷との関連. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 39 回) (東京), 2011. 10.
- 55) 松本 学, 瀧口 徹, 五十嵐豊, 戸田 翠, 萩原 純, 橋詰哲弘, 金 史英, 川井 真, 横田裕行, 戸根 修<sup>1)</sup>, 富田博樹<sup>1)</sup> ( <sup>1</sup> 武蔵野赤十字病院脳神経外科): Neuro-intensive Care における感染危険因子: 脳低温療法の影響. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 39 回) (東京), 2011. 10.
- 56) 高山泰広, 横田裕行, 佐藤秀貴, 桑本健太郎, 直江康孝<sup>1)</sup>, 中江竜太<sup>1)</sup>, 小関一英<sup>2)</sup> ( <sup>1</sup> 川口市立医療センター救命救急センター, <sup>2</sup> 平成帝京大学健康メディカル学部): 頭部外傷の死亡予測から見た年齢因子と凝血学的因子の検討. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 39 回) (東京), 2011. 10.
- 57) 鈴木健介<sup>1)</sup>, 根本香代<sup>1)</sup>, 二宮宣文<sup>1)</sup>, 久野将宗<sup>1)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1</sup> 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター): Rho-kinase 阻害剤 fasudil は LPS 誘発皮膚血管透過性亢進を抑制する. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 39 回) (東京), 2011. 10.
- 58) 塚本剛志, 増野智彦, 大泉 旭, 川井 真, 横田裕行: 外傷後 MODS 発展メカニズム解明のための新しい骨・軟部組織損傷モデルの開発とその有用性の検討. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 39 回) (東京), 2011. 10.
- 59) 布施 明, 鈴木 剛, 恩田秀賢, 渡邊顕弘, 和田剛志, 松本 学, 増野智彦, 横田裕行: 新しい実験頭部外傷 (Microwave-induced Brain Injury) モデルの開発. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 39 回) (東京), 2011. 10.
- 60) 鈴木 剛, 布施 明, 松本 学, 金 史英, 辻井厚子, 横田裕行, 村松智裕<sup>1)</sup>, 草野輝男<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 松田陽子<sup>2)</sup>, 西野武士<sup>3)</sup> ( <sup>1</sup> 日本医科大学付属病院生化学・分子生物学講座, <sup>2</sup> 日本医科大学付属病院病理学講座, <sup>3</sup> カリフォルニア大学リバーサイド校生化学講座): キサンチン酸化還元酵素変異トランスジェニックマウスの作成と 3-vessel occlusion model を用いたマウスの脳虚血性再灌流障害の解析. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 39 回) (東京), 2011. 10.
- 61) 畝本恭子<sup>1)</sup>, 遠藤広史<sup>1)</sup>, 目原久美<sup>1)</sup>, 菊池広子<sup>1)</sup>, 稲垣栄次<sup>1)</sup>, 石川秀一<sup>1)</sup>, 笹森裕子<sup>1)</sup>, 黒川 顕<sup>1)</sup>, 横田裕行 ( <sup>1</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター): ICU 発症の脳梗塞症例に関する教育体制. 日本脳神経外科救急学会 (第 17 回) (東京), 2012. 1.
- 62) 高山泰広, 横田裕行, 佐藤秀貴, 桑本健太郎, 直江康孝<sup>1)</sup>, 中江竜太<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>, 喜多村孝幸<sup>2)</sup> ( <sup>1</sup> 川口市立医療センター救命救急センター, <sup>2</sup> 日本医科大学脳神経外科): 頭部外傷の線溶亢進のメカニズムとトラムネキ

- サム酸大量療法について. 日本脳神経外科救急学会 (第17回) (東京), 2012. 1.
- 63) 五十嵐豊, 渡邊顕弘, 石井浩統, 田上 隆, 増野智彦, 布施 明, 川井 真, 横田裕行: 気道異物による院外心停止に対する Doctor Ambulance の有用性. 日本救急医学会関東地方会 (第62回) (東京), 2012. 2.
- 64) 中江竜太<sup>1)</sup>, 恩田秀賢, 高山泰広, 荒木 尚, 直江康孝<sup>1)</sup>, 布施 明, 佐藤秀貴, 吉田大蔵<sup>2)</sup>, 横田裕行, 寺本明<sup>2)</sup> (1) 川口市立医療センター救命救急センター, (2) 日本医科大学付属病院脳神経外科): TCDによる脳血管攣縮の診断: mBFVの左右比を用いた検討. 日本脳神経外科学会学術総会 (第70回) (横浜市), 2011. 10.
- 65) Yokobori S<sup>1,2)</sup>, Bullock R<sup>2)</sup>, Gajavelli S<sup>2)</sup>, Mondello S<sup>2)</sup>, Wang K<sup>2)</sup>, Hayes R<sup>2)</sup>, Sakurai A<sup>2)</sup>, Tomura S<sup>2)</sup>, Bramlett H<sup>2)</sup>, Dietrich D<sup>2)</sup> (1) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, (2) Department of Neurosurgery, The Miami Project to Cure Paralysis, University of Miami Miller School of Medicine, Miami, Florida): Preoperative-induced mild hypothermia attenuates brain damage in a rat subdural hematoma model. Brain Edema 2011 (Tokyo), 2011. 10.
- 66) 恩田秀賢, 布施 明, 渡邊顕弘, 五十嵐豊, 和田剛志, 関厚二郎, 松本 学, 横田裕行: 重症頭部外傷に伴う外傷性脳血管障害の治療戦略. 日本脳神経外科学会総会 (第70回) (横浜市), 2011. 10.
- 67) 海老名麻里<sup>1)</sup>, 荒木 尚<sup>1)</sup>, 小川理郎<sup>1)</sup>, 増野智彦, 横田裕行, 潮田隆一<sup>2)</sup>, 岸田憲弘<sup>3)</sup>, 平田 玲<sup>3)</sup>, 瀧川 攘<sup>3)</sup>, 藤崎真人<sup>3)</sup> (1) 足利赤十字病院救命救急センター, (2) 足利赤十字病院放射線診断科, (3) 足利赤十字病院外科): 意識障害と顔面打撲で来院し, 全身造影CTが有用であった肝損傷の1例. 日本救急医学会関東地方会 (第62回) (東京), 2012. 2.
- 68) 安松比呂志<sup>1)</sup>, 林田和之<sup>1)</sup>, 益子一樹<sup>1)</sup>, 三木隆久<sup>1)</sup>, 本村友一<sup>1)</sup>, 亀山大介<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 横田裕行 (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター): 両側舌下神経麻痺を呈した頸部刺創の1例. 日本救急医学会関東地方会 (第62回) (東京), 2012. 2.
- 69) 戸田 翠, 林 励治, 小原良規, 田中俊尚, 塚本剛志, 杉本和隆<sup>1)</sup>, 大泉 旭, 川井 真, 横田裕行 (1) 苑田会人工関節センター病院): 膝関節周囲骨折に膝関節内軟部組織損傷を伴った外傷に対し関節鏡を用いて急性期に診断・治療し得た3例. 日本救急医学会関東地方会 (第62回) (東京), 2012. 2.
- 70) 有馬大輔, 尾本健一郎, 河野陽介, 石井浩統, 萩原 純<sup>1)</sup>, 白石振一郎, 増野智彦, 辻井厚子, 新井正徳, 金史英, 横田裕行 (1) 東京医療センター外科): 吐血で救急搬送された十二指腸球部の嵌頓による食道裂孔ヘルニアの1例. 日本救急医学会関東地方会 (第62回) (東京), 2012. 2.
- 71) 五十嵐豊, 渡邊顕弘, 萩原 純, 石井浩統, 田上 隆, 増野智彦, 布施 明, 川井 真, 横田裕行: 気道異物による院外心停止に対するドクターカーの有用性. 日本救急医学会関東地方会 (第62回) (東京), 2012. 2.
- 72) 五十嵐豊, 渡邊顕弘, 和田剛志, 橋詰哲広, 鈴木 剛, 松本 学, 関厚二郎, 恩田秀賢, 布施 明, 横田裕行: 箸による頭部刺創の1例. 日本脳神経外傷学会 (第35回) (東京都千代田区), 2012. 3.
- 73) 五十嵐豊, 松本 学, 佐藤 慎, 渡邊顕弘, 和田剛志, 鈴木 剛, 橋詰哲広, 関厚二郎, 恩田秀賢, 布施 明, 川井 真, 横田裕行: 頭部外傷後の多発脳血管攣縮に対し経皮的血管形成術を施行して良好な予後を得た1例. 日本神経救急学会・学術集会 (第25回) (東京都文京区), 2011. 6.
- 74) 五十嵐豊, 池田 司, 瀧口 徹, 渡邊顕弘, 太田好紀, 石井浩統, 萩原 純, 松本 学, 白石振一郎, 林 励治, 恩田秀賢, 田中俊尚, 尾本健一郎, 金 史英, 横田裕行, その他7名: 東日本大震災における気仙沼での日本医科大学付属病院の医療支援活動報告. 日本集団災害医学会総会・学術集会 (第17回) (金沢市), 2012. 2.
- 75) 五十嵐豊, 池田 司, 佐藤 慎, 渡邊顕弘, 和田剛志, 橋詰哲広, 鈴木 剛, 松本 学, 関厚二郎, 恩田秀賢, 布施 明, 川井 真, 横田裕行: 脳出血で発症した感染性心内膜炎に対して開頭術と開心術を施行した1例. 日本脳神経外科学会関東支部会 (第116回) (東京), 2011. 12.
- 76) 松本 学, 五十嵐豊, 渡邊顕弘, 和田剛志, 橋詰哲広, 鈴木 剛, 関厚二郎, 恩田秀賢, 布施 明, 横田裕行: 痙攣発作後に発見された頸部内頸動脈解離の1例. 日本脳神経血管内治療学会学術集会 (第27回) (千葉市), 2011. 11.

- 77) 松本 学, 五十嵐豊, 渡邊顕弘, 和田剛志, 鈴木 剛, 橋詰哲広, 関厚二郎, 恩田秀賢, 布施 明, 横田裕行: 脳卒中患者の病院前悪化. 日本脳神経外科学会関東支部会 (第 116 回) (東京), 2011. 12.
- 78) 松本 学, 藤木 悠, 山口昌紘, 五十嵐豊, 渡邊顕弘, 和田剛志, 橋詰哲広, 鈴木 剛, 関厚二郎, 恩田秀賢, 布施 明, 横田裕行: 頭頸部外傷における経カテーテル動脈塞栓の役割. 日本脳神経外傷学会 (第 35 回) (東京), 2012. 3.
- 79) 松本 学, 藤木 悠, 山口昌紘, 五十嵐豊, 渡邊顕弘, 和田剛志, 橋詰哲広, 鈴木 剛, 関厚二郎, 恩田秀賢, 布施 明, 横田裕行: 急性硬膜下血腫除去: 2 burr holes method の有効性. 日本脳神経外傷学会 (第 35 回) (東京), 2012. 3.
- 80) 布施 明, 鈴木 剛, 恩田秀賢, 五十嵐豊, 渡邊顕弘, 和田剛志, 松本 学, 増野智彦, 横田裕行: Microwave-induced Brain Injury モデルの開発. 日本脳神経外科学会総会 (第 70 回) (横浜市), 2011. 10.
- 81) 田上 隆<sup>1, 2)</sup>, 久志本茂樹<sup>3)</sup>, 大村真理子<sup>2)</sup>, 土佐亮一<sup>2)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学救急医学教室, 2) 会津中央病院救命救急センター): The Precision of Transpulmonary Thermolulution Measurements in Post-Cardiac Arrest Syndrome. The 17th Asia Pacific Association of Critical Care Medicine (Chiba), 2012. 2.
- 82) 田上 隆<sup>1, 2)</sup>, 平間久雄<sup>1)</sup>, 大村真理子<sup>2)</sup>, 土佐亮一<sup>2)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学救急医学教室, 2) 会津中央病院救命救急センター): Implementation of the Fifth Link of the "Chain of Survival" Concept for Out-of-Hospital Cardiac Arrest. International Symposium on Intensive Care and Emergency Medicine (32nd) (Brussels, Belgium), 2012. 3.
- 83) 田上 隆<sup>1, 2)</sup>, 平間久雄<sup>1)</sup>, 大村真理子<sup>2)</sup>, 土佐亮一<sup>2)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学救急医学教室, 2) 会津中央病院救命救急センター): 心肺停止患者予後改善のための新しい医療連携システムに関する多施設共同研究 Aizu Chain of Survival Concept Campaign. 東北救急医学会総会・学術集会 (第 25 回) (山形市), 2011. 11.
- 84) 田上 隆<sup>1, 2)</sup>, 土佐亮一<sup>2)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学救急医学教室, 2) 会津中央病院救命救急センター): 東日本大震災と「会津地域透折連携協力ネットワーク」官・民・病院・職種の枠を超えた協力ネットワーク体制. 東北救急医学会総会・学術集会 (第 25 回) (山形市), 2011. 11.
- 85) 白石振一郎, 太田好紀, 小野雄一, 和田剛志, 新井正徳, 増野智彦, 細川雄亮<sup>1)</sup>, 横田裕行 (1) 日本医科大学付属病院集中治療室): BIS 値を指標とした筋弛緩薬非使用鎮静下での低体温療法の検討. 日本集中治療医学会学術集会 (第 39 回) (千葉市), 2012. 2.
- 86) 林 励治<sup>1)</sup>, 須崎 真<sup>1)</sup>, 関厚二郎<sup>1)</sup>, 小野寺直子<sup>1)</sup>, 志賀尚子<sup>1)</sup>, 兵働英也<sup>1)</sup>, 小原俊彦<sup>1)</sup>, 川井 真<sup>1)</sup>, 加藤貴雄<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 総合診療センター): 救急搬送された軽症患者における帰宅困難例の検討. 日本救急医学会関東地方会 (第 62 回), 2012. 2.
- 87) 高山泰広<sup>1)</sup>, 土佐亮一<sup>1)</sup>, 横田裕行, 佐藤秀貴, 直江康孝, 荒木 尚, 桑本健太郎, 中江竜太, 寺本 明<sup>2)</sup>, 喜多村孝幸<sup>2)</sup> (1) 会津中央病院救命救急センター, 2) 日本医科大学脳神経外科): 頭部外傷急性期の線溶活性に対するトラネキサム酸大量療法について. 日本脳神経外傷学会 (第 35 回) (東京), 2012. 3.
- 88) 高山泰広, 土佐亮一, 横田裕行, 佐藤秀貴, 直江康孝, 荒木 尚, 桑本健太郎, 寺本 明, 喜多村孝幸: 頭部外傷後の炎症と凝固・線溶反応の推移とメカニズムについて. 日本脳神経外傷学会 (第 35 回) (東京), 2012. 3.
- 89) 辻井厚子, 新井正徳, 増野智彦, 金 史英, 尾本健一郎, 白石振一郎, 田上 隆, 石井浩統, 有馬大輔, 横田裕行: 抗 CK-M 活性阻害による腸管虚血の補助診断. 日本腹部救急医学会総会 (第 48 回) (金沢市), 2012. 2.
- 90) 本村友一<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 横田裕行 (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター): 交通外傷傷病者への START (simple triage and rapid treatment) 法の制度の検証. 日本集団災害医学会総会・学術集会 (第 17 回) (金沢市), 2012. 2.
- 91) 渡邊顕弘, 周東佑樹, 五十嵐豊, 萩原 純, 小野寺修一<sup>1)</sup>, 増野智彦, 布施 明, 横田裕行 (1) 川口市立医療センター救命救急センター): 大規模災害時の高齢者に対する START 法の問題点と対応策. 日本集団災害医学会総会・学術集会 (第 17 回) (金沢市), 2012. 2.

- 92) 石川秀樹<sup>1, 2)</sup>, 猪口正孝<sup>1)</sup>, 石原 哲<sup>1)</sup>, 宮崎舜賢<sup>1)</sup>, 山口芳裕<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1, 2)</sup> (1) 東京都医師会救急委員会, 2) 帝京大学医学部附属病院救命救急センター): 災害初期における通信手段の見直し: 東日本大震災における東京都医師会の経験から. 日本集団災害医学会総会・学術集会 (第 17 回) (金沢市), 2012. 2.
- 93) 布施 明, 五十嵐豊, 渡邊顕弘, 萩原 純, 田中俊彦, 増野智彦, 横田裕行: Tactical Emergency Medical System (TEMS) の本邦導入での課題. 日本集団災害医学会総会・学術集会 (第 17 回) (金沢市), 2012. 2.
- 94) 布施 明, 五十嵐豊, 渡邊顕弘, 萩原 純, 増野智彦, 横田裕行: 海難事故での多数傷病者発生事象に対する医療対応の検討. 日本集団災害医学会総会・学術集会 (第 17 回) (金沢市), 2012. 2.
- 95) 増野智彦, 渡邊顕弘, 五十嵐豊, 萩原 純, 新井正徳, 宮内雅人, 布施 明, 川井 真, 横田裕行: いち早く被災状況を把握するための情報収集能力・機動力を備えた前哨医療チーム作りと早期前線投入の必要性. 日本集団災害医学会総会・学術集会 (第 17 回) (金沢市), 2012. 2.
- 96) Hu N, 増野智彦, 布施 明, 横田裕行: 日本における災害教育システム. 学校法人日本医科大学外国人留学生研究会 (第 22 回) (東京), 2012. 2.
- 97) Miyauchi M, Yokota H: Postoperative Course after Simple Ligation for Mesenteric Vein Injury Caused by Blunt Trauma. EPS Montreal Biomedicine Forum (Montreal), 2011. 11.
- (11) Poster :
- 1) Sato N<sup>1)</sup>, Nakata K, Hirakawa K, Asakura T, Zhu R, Suzuki T, Ohno Y, Yokota H, Koike K<sup>1)</sup> (1) Kyoto University): The Contributive Metabolites of IEC-6 Cell Following Oxidant Stress by Pattern Recognition Using 1H-NMR. Thirty-Fourth Annual Conference on Shock, Shock Society (Norfolk, Virginia, USA), 2011. 6.
- 2) Shiraishi S, Masuno T, Sato N<sup>1)</sup>, Asakura T, Zhu R, Yokota H (1) Kyoto University): The Evaluation of Intestinal Viability Following Ischemia Using Microdialysis Technique. Thirty-Fourth Annual Conference on Shock, Shock Society (Norfolk, Virginia, USA), 2011. 6.
- 3) Shiraishi S, Ohta Y, Ono Y, Masuno T, Yokota H: Usefulness of BIS index oriented sedative method without neuromuscular blocker for therapeutic hypothermia after cardiac arrest. International Symposium on Intensive Care and Emergency Medicine (32nd) (Brussels Belgium), 2012. 3.
- 4) Ohta Y, Shiraishi S, Ono Y, Tagami T, Masuno T, Yokota H: Predictive factors of neurologic outcome in therapeutic hypothermia after prehospital return of spontaneous circulation. International Symposium on Intensive Care and Emergency Medicine (32nd) (Brussels, Belgium), 2012. 3.
- (12) 委員会企画 :
- 1) 白石振一郎, 池田 司, 太田好紀, 和田剛志, 石井浩統, 関厚二郎, 鈴木 剛, 松本 学, 新井正徳, 増野智彦, 横田裕行: 入院時所見にて重症熱中症の予後予測は可能か: 重症度スコアと凝固系分子マーカーについての検討. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 39 回) (東京), 2011. 10.
- (13) 委員会報告 :
- 1) 青木則明<sup>2)</sup>, 織田 順<sup>2)</sup>, 阪本雄一郎<sup>2)</sup>, 木村昭夫<sup>2)</sup>, 齋藤大蔵<sup>2)</sup>, 東平日出夫<sup>2)</sup>, 中原慎二<sup>2)</sup>, 林 宗貴<sup>2)</sup>, 福田充宏<sup>2)</sup>, 藤田 尚<sup>2)</sup>, 増野智彦<sup>1, 2)</sup>, 三宅康史<sup>2)</sup>, 森村尚登<sup>2)</sup>, 山口芳裕<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学高度救命救急センター, 2) 日本外傷学会トラウマレジストリー検討委員会): 日本外傷データバンク報告 2011. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 39 回) (東京), 2011. 10.
- (14) 一般示説 :
- 1) 金 史英, 松居亮平, 小野寺修一, 新井正徳, 増野智彦, 横田裕行: 腸管虚血を繰り返した血栓性血小板減少性紫斑病の 1 例. 日本腹部救急医学会総会 (第 47 回) (福岡市), 2011. 8.
- 2) 安松比呂志<sup>1)</sup>, 林田和一<sup>1)</sup>, 益子一樹<sup>1)</sup>, 三木隆久<sup>1)</sup>, 本村友一<sup>1)</sup>, 亀山大介<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 横田裕行 (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター): 緊急開腹手術となった body packer の 1 例. 日本腹部救

急医学会総会（第 48 回）（金沢市），2012. 2.

- 3) 石井浩統，金 史英，有馬大輔，田上 隆，白石振一郎，増野智彦，尾本健一郎，新井正徳，辻井厚子，横田裕行：横行結腸嵌頓白線ヘルニアの 1 例．日本腹部救急医学会総会（第 48 回）（浜松市），2012. 2.

(15) 会長賞選考講演：

- 1) 田上 隆<sup>1,2)</sup>，土佐亮一<sup>1,2)</sup>，大村真理子<sup>1,2)</sup>，横田裕行<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup> 会津中央病院救命救急センター，<sup>2)</sup> 日本医科大学救急医学教室）：Post cardiac arrest syndrome と血管透過性．日本 Shock 学会総会（第 26 回）（浜松市），2011. 5.

(16) 主要演題セッション：

- 1) 横堀将司<sup>1,3)</sup>，Bullock R<sup>1)</sup>，Gajavelli S<sup>1)</sup>，櫻井 淳<sup>1)</sup>，戸村 哲<sup>1)</sup>，Bramlett H<sup>1)</sup>，Dietrich D<sup>1)</sup>，Wang K<sup>2)</sup>，Hayes R<sup>2)</sup>，増野智彦<sup>3)</sup>，横田裕行<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup> Department of Neurosurgery, University of Miami Miller School of Medicine, <sup>2)</sup> Banyan Biomarkers, Inc., <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院高度救命救急センター）：脳低温療法における新しい細胞外バイオマーカー測定：臨床からの基礎へ，基礎から臨床へ．日本救急医学会総会・学術集会（第 39 回）（東京），2011. 10.
- 2) 谷口雄亮<sup>1)</sup>，渥美生弘<sup>1)</sup>，有吉孝一<sup>1)</sup>，佐藤慎一<sup>1)</sup>，横田裕行（<sup>1)</sup> 神戸市立医療センター中央市民病院救命救急センター）：心肺停止症例における PAD 事業の検証：神戸市「まちかど救急ステーション」の有用性について．日本救急医学会総会・学術集会（第 39 回）（東京），2011. 10.
- 3) 齋藤伸行<sup>1)</sup>，八木貴典<sup>1)</sup>，本村友一<sup>1)</sup>，飯田浩章<sup>1)</sup>，上西蔵人<sup>1)</sup>，原 義明<sup>1)</sup>，松本 尚<sup>1)</sup>，益子邦洋<sup>1)</sup>，横田裕行（<sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター）：外傷患者における早期気管切開のための長期人工呼吸予測スコア開発．日本救急医学会総会・学術集会（第 39 回）（東京），2011. 10.

(17) 特別企画：

- 1) 森野一真<sup>1)</sup>，近藤久禎<sup>2)</sup>，山本保博（<sup>1)</sup> 山形県立救命救急センター，<sup>2)</sup> 国立病院機構災害医療センター）：傷病者の搬送及び受入れに関する実態調査．日本臨床救急医学会総会・学術集会（第 14 回）（札幌市），2011. 6.
- 2) 浅利 靖<sup>1)</sup>，矢口慎也<sup>1)</sup>，花田裕之<sup>1)</sup>，高山隼人<sup>2)</sup>，森野一真<sup>3)</sup>，近藤久禎<sup>4)</sup>，田邊晴山<sup>5)</sup>，山本保博（<sup>1)</sup> 弘前大学大学院医学研究科救急・災害医学講座，<sup>2)</sup> 長崎医療センター救命救急センター，<sup>3)</sup> 山形県立中央病院救命救急センター，<sup>4)</sup> 国立病院機構災害医療センター，<sup>5)</sup> 救急救命東京研修所）：消防法改正への地方における対応と浮かび上がった課題：青森からの報告．日本臨床救急医学会総会・学術集会（第 14 回）（札幌市），2011. 6.
- 3) 横田裕行，明石優美<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 一般社団法人日本スキンバンクネットワーク）：臓器移植ガイドラインの変更と最近の問題．日本組織移植学会・学術集会（第 10 回）（東京），2011. 8.
- 4) 畝本恭子<sup>1)</sup>，横田裕行，竹ノ下尚子<sup>1)</sup>，遠藤広史<sup>1)</sup>，目原久美<sup>1)</sup>，菊池弘子<sup>1)</sup>，稲垣栄次<sup>1)</sup>，上笹 宙<sup>1)</sup>，辻井厚子<sup>1)</sup>，望月 徹<sup>1)</sup>，黒川 顕<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター）：結婚・出産・育児を経，27 年間，3 次救急医を続けた振り返りと，次代へ向けた環境作り．日本救急医学会総会・学術集会（第 39 回）（東京），2011. 10.
- 5) 大槻穰治<sup>1)</sup>，松田兼一<sup>1)</sup>，織田 順<sup>1)</sup>，欽方安行<sup>1)</sup>，今 明秀<sup>1)</sup>，竹内昭憲<sup>1)</sup>，船曳知弘<sup>1)</sup>，本間正人<sup>1)</sup>，中川儀英<sup>1)</sup>，増野智彦<sup>2, 1)</sup>，太田祥一<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本救急医学会広報委員会，<sup>2)</sup> 日本医科大学救急医学教室）：東日本大震災における日本救急医学会専門医指定施設の活動状況と実態．日本救急医学会総会・学術集会（第 39 回）（東京），2011. 10.

(18) 特別発言：

- 1) 横田裕行：「知られざる広域搬送調整」セッション．日本集団災害医学会総会・学術集会（第 17 回）（金沢市），2012. 2.

(19) 忘れられない症例：

- 1) 金 史英，有馬大輔，河野陽介，石井浩統，田上 隆，尾本健一郎，増野智彦，新井正徳，宮内雅人，横田裕行：Damage control surgery にて救命しえた胃静脈瘤破裂の 1 例．日本腹部救急医学会総会（第 48 回）（金沢

市), 2012. 2.

(20) 要望演題:

- 1) 宮内雅人, 増野智彦, 新井正徳, 横田裕行: 当院高度救命救急センターにおける消化管出血に対する治療法の選択について. 日本腹部救急医学会総会 (第 47 回) (福岡市), 2011. 8.
- 2) 金 史英, 有馬大輔, 河野陽介, 石井浩統, 田上 隆, 尾本健一郎, 増野智彦, 新井正徳, 辻井厚子, 横田裕行: 腹部救急診療のピットフォール - 消化器症状を認めない 3 次搬送患者の搬送. 日本腹部救急医学会総会 (第 48 回) (金沢市), 2012. 2.

## [武蔵小杉病院救命救急センター]

### 研究概要

当救命救急センターは, ICU 病床数 10 床の新型救命救急センターとして, 小規模ながらも救命救急センターとして対応すべき重症例を多数受け入れている. その中で, 重症患者に合併しがちな耐性菌感染症の発生が少数に抑えられているのは, 感染制御部との協力と, 患者ケアの工夫に依るところが大きい. 今年度も引き続き, 望月講師によるカテキンの研究が成果を上, 耐性菌対策が充実しつつある. 一方, 搬送される患者の高齢化はさらに顕著となり, 高度な侵襲を承知で行われる積極的治療が, 患者にとって, 必ずしも幸福な結果をもたらさないことも, 救急の現場では議論になる. どこでとどまるか, ご家族にどのように理解を求めると, 満足, 安心していただけるか, 現場を知る救急医ならではのデータに裏打ちされた社会への発信も, これからは重要になってくる. 今年度も引き続き, 遠藤助教を中心として, 延命治療後の転帰と家族の満足度などについて, 日常生活能力 (介護度など) により, 異なることを発表した. また, 米国心臓協会の 2010 年のガイドライン改訂によりさらに重要度が増している, 停止後症候群に対する脳低温療法についてもまとめており, 国際学会で発表している.

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著:

- 1) 望月 徹: 感染性疾患: カテーテル関連血流感染・菌血症. 救急医学 2011; 35 (10): 1431-1435.
- 2) 畝本恭子, 黒川 顕, 望月 徹, 上笹 宙, 牧 真彦, 稲垣栄次, 菊池広子, 目原久美, 遠藤広史: 日本医科大学武蔵小杉病院における震災支援活動報告: 何ができたか, 何ができるはずか. 日本医科大学医学会雑誌 2011; 7 (suppl 1): 53-56.

(2) 総説:

- 1) 畝本恭子: 頭蓋内圧亢進症. 救急医学 2011; 35 (10): 1401-1405.
- 2) 畝本恭子: くも膜下出血. 救急医学 2011; 35 (11): 1601-1606.

#### 著書

- 1) 畝本恭子: [分担] 脳低温療法・脳保護療法. 救急医療・集中治療医学レビュー 2012-13 (監修: 島崎修次, 前川剛志, 編集: 岡元和文, 横田裕行), 2012; pp110-115, 総合医学社.

#### 学会発表

(1) シンポジウム:

- 1) 畝本恭子, 中江竜太<sup>1)</sup>, 鈴木 剛<sup>1)</sup>, 北蘭雅敏<sup>1)</sup>, 渡邊顕弘<sup>1)</sup>, 黒川 顕, 横田裕行<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院 高度救命救急センター): 頭部外傷における頭蓋内圧モニタリングの積極的利用の再考. 日本脳神経外傷学会 (第 35 回) (東京), 2012. 3.

(2) ワークショップ：

- 1) 畝本恭子, 横田裕行<sup>1)</sup>, 竹ノ下尚子, 遠藤広史, 目原久美, 菊池広子, 稲垣栄次, 上笹 宙, 辻井厚子<sup>1)</sup>, 望月 徹, 黒川 顕 (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター)：結婚・出産・育児を経, 27年間, 3次救急医を続けた振り返りと次代へ向けた環境作り. 日本救急医学会総会・学術集会 (第39回) (東京), 2011. 10.

(3) 一般講演：

- 1) 目原久美, 桑原広輔, 下吹越航, 遠藤広史, 牧 真彦, 上笹 宙, 望月 徹, 畝本恭子, 黒川 顕, 横田裕行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター)：重症頭部外傷を来した血友病 A 患者の1例：急性期・周術期の管理. 日本神経救急学会 (第25回) (東京), 2011. 6.
- 2) 橘和聡文<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>, 一色彩子<sup>1)</sup>, 山口香織<sup>1)</sup>, 清水康弘<sup>1)</sup>, 安藤 順<sup>1)</sup>, 市川太郎<sup>1)</sup>, 金城忠志<sup>2)</sup>, 村澤恒夫<sup>3)</sup>, 畝本恭子 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院放射線科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院内科)：出血血管の解剖学的認識について (腎出血). 日本医学放射線学会総会 (第70回) (Web開催), 2011. 5.
- 3) 橘和聡文<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>, 金城忠志<sup>2)</sup>, 竹ノ下尚子<sup>2)</sup>, 一色彩子<sup>1)</sup>, 山口香織<sup>1)</sup>, 清水康弘<sup>1)</sup>, 安藤 順<sup>1)</sup>, 市川太郎<sup>1)</sup>, 村澤恒夫<sup>3)</sup>, 牧 真彦, 畝本恭子 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院放射線科, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院内科)：腎出血：CT・血管造影による出血血管の固定とIVR. 日本IVR学会総会 (第40回) (青森), 2011. 5.
- 4) 竹ノ下尚子<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 金城忠志<sup>1)</sup>, 橘和聡文<sup>2)</sup>, 市川太郎<sup>2)</sup>, 安藤 順<sup>2)</sup>, 清水康弘<sup>2)</sup>, 一色彩子<sup>2)</sup>, 畝本恭子, 牧 真彦, 目原久美, 上笹 宙, 遠藤広史 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院放射線科)：NBCAによる塞栓術が有効であった上顎癌術後仮性動脈瘤破裂の1例. 日本IVR学会関東地方会 (第6回) (東京), 2011. 7.
- 5) 竹ノ下尚子<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 金城忠志<sup>1)</sup>, 市川太郎<sup>2)</sup>, 安藤 順<sup>2)</sup>, 清水康弘<sup>2)</sup>, 一色彩子<sup>2)</sup>, 橘和聡文<sup>2)</sup>, 目原久美, 牧 真彦, 畝本恭子 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院放射線科)：Von Recklinghausen病に合併した下脛十二指腸動脈瘤破裂の1例. 日本医学放射線学会秋季臨床大会 (第47回) (山口), 2011. 10.
- 6) 竹ノ下尚子<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 金城忠志<sup>1)</sup>, 市川太郎<sup>2)</sup>, 安藤 順<sup>2)</sup>, 清水康弘<sup>2)</sup>, 一色彩子<sup>2)</sup>, 橘和聡文<sup>2)</sup>, 目原久美, 牧 真彦, 畝本恭子 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院放射線科)：Von Recklinghausen病に合併した下脛十二指腸動脈瘤破裂の1例. 救急放射線研究会 (第21回) (山口), 2011. 10.
- 7) 竹ノ下尚子<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 金城忠志<sup>1)</sup>, 市川太郎<sup>2)</sup>, 一色彩子<sup>2)</sup>, 橘和聡文<sup>2)</sup>, 中塚雄久<sup>3)</sup>, 松下洋子<sup>3)</sup>, 柁 卓史<sup>3)</sup>, 鈴木英之<sup>4)</sup>, 畝本恭子 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院放射線科, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器内科, 4) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター)：脾炎と腹腔動脈解離に伴う下脛十二指腸仮性動脈瘤破裂に対しNBCAを用いて止血に成功した1例. 腹部救急医学会総会 (第48回) (金沢), 2012. 3.
- 8) 遠藤広史, 黒川 顕, 畝本恭子, 望月 徹, 上笹 宙, 目原久美, 稲垣栄次, 菊池広子：ADL障害を有する心肺停止患者と救命救急センター. 日本救急医学会総会学術集会 (第39回) (東京), 2011. 10.
- 9) 遠藤広史, 望月 徹, 目原久美, 菊池広子, 稲垣栄次, 上笹 宙, 畝本恭子, 黒川 顕：急性腎不全とARDSを合併したレジオネラ肺炎に対して人工心肺補助法を用い, 救命し社会復帰した1例. 日本救急医学会関東地方会 (第62回) (東京), 2012. 2.
- 10) 望月 徹, 野口周作<sup>1)</sup>, 山口朋禎<sup>2)</sup>, 八木 孝<sup>2)</sup>, 中摩健二<sup>2)</sup>, 上野ひろむ<sup>3)</sup>, 渡辺昌則<sup>4)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院薬剤部, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院内科, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院看護部, 4) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター)：MRSAと緑膿菌に対するカテキンの抗菌効力の数値化による比較. 日本感染症学会 (第85回) (東京), 2011. 4.

- 11) 野口周作<sup>1)</sup>, 望月 徹, 吉田奈央<sup>1)</sup>, 八木 孝<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院薬剤部, <sup>2)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院内科) : ICT 抗菌薬ラウンドによる抗菌薬適正使用の取り組み. 日本化学療法学会総会 (第 59 回) (札幌), 2011. 6.
- 12) 望月 徹, 目原久美, 遠藤広史, 上笹 宙, 菊池広子, 稲垣栄次, 畝本恭子, 黒川 顕 : アシネトバクター・パウマニに対するエピガロカテキンガレートの静菌・殺菌効力の評価. 日本救急医学会総会 (第 39 回) (東京), 2011. 10.
- 13) 野口周作<sup>1)</sup>, 望月 徹, 上野ひろむ<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院薬剤部, <sup>2)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院看護部) : 段階的な抗菌薬適正使用強化策とその効果. 日本環境感染学会総会 (第 27 回) (福岡), 2012. 2.
- 14) 目原久美, 桑原広輔, 下吹越航, 遠藤広史, 牧 真彦, 上笹 宙, 望月 徹, 畝本恭子, 黒川 顕, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院高度救命救急センター) : 血友病 A 患者の重症頭部外傷の 1 例～急性期・周術期管理について. 日本脳神経外傷学会 (第 34 回) (京都), 2011. 4.
- 15) Unemoto K, Yokota H<sup>1)</sup>, Mehara K, Kikuchi H, Inagaki E, Kamisasa H, Mochizuki T, Kurokawa A ( <sup>1)</sup> Department of Emergency and Clitical Care Medicine, Nippon Medical School) : Comparison of the Cooling Methods for Post-cardiac Arrest Patient : Efficacy and Spending Effort of ICU Staff. The International Hypothermia Symposium (4) (Tokyo), 2011. 9.
- 16) 畝本恭子, 遠藤広史, 目原久美, 菊池広子, 稲垣栄次, 石川秀一, 笹森裕子, 黒川 顕, 横田裕行 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院高度救命救急センター) : ICU 発症の脳梗塞症例に関する教育体制. 日本脳神経外科救急学会 (第 17 回) (東京), 2012. 1.

## [多摩永山病院救命救急センター]

### 研究概要

当施設は多摩地区の 3 次救急医療施設として多発外傷, 頭部外傷, 整形外科外傷, 熱傷, 虚血性心疾患, 脳血管障害, 薬物中毒, 災害医療と多岐に渡る患者に対して, それぞれの分野での専門医を中心に自己完結的に集中治療に当たるとともに, 併せて各分野での臨床研究をおこなっている. 重症患者における循環動態モニタリング, 頭部外傷に対する低体温療法, 脳梗塞急性期に対する t-PA の投与, 血栓溶解法, 多発性外傷に対するダメージコントロール, 心肺停止後の低体温療法などに取り組んでいる. また, 病院前から継続して行われる救急医療システムの改善についても救急救命士とともに検討している. 臨床研究のほかエンドトキシン血症モデルモルモットを用いた基礎研究も継続して行っており, 結果を学会発表, 誌上发表している. また, 災害医療に関しても国内, 海外への派遣に積極的に参加している. その他東京消防庁等からの要請によりドクターアンビュランスによる救急現場出勤や地域救急医療センターとして東京ルールに積極的に参加している.

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著 :

- 1) Ishinokami S, Nemoto K, Ninomiya N, Suzuki K, Kubota M<sup>1)</sup>, Kuno M, Yokota H ( <sup>1)</sup> Department of Clinical Laboratory) : Effects of simultaneous treatment with PMX-DHP and sivelestat on endotoxaemia in conscious guinea pigs. 日本救急医学会雑誌 2012 ; 23 (1) : 12-20.

(2) 総説 :

- 1) 二宮宣文, 久野将宗 : 日本医科大学多摩永山病院 DMAT および震災支援活動. 日医大医会誌 2011 ; 7 (1) : 57-61.
- 2) 二宮宣文, 新 博次 : 東日本大震災における多摩永山病院の対応. 日医大医会誌 2011 ; 7 (1) : 18-22.

(3) 症例報告：

- 1) 苛原隆之, 岸 真示<sup>1)</sup>, 川口信哉<sup>1)</sup>, 新谷史明<sup>1)</sup> (1) いわき市立総合磐城共立病院外科) : S 状結腸憩室炎穿通による尿管膿瘍の 1 例. 手術 2011 ; 65 (9) : 1351-1353.

著 書

- 1) 石之神小織 : [翻訳] 救急室での管理. 頭部外傷の初期診療 (横田裕行 荒木尚), 2011 ; pp101-124, メディカル・サイエンス・インターナショナル.
- 2) 北橋章子 : [翻訳] 神経学的評価. 頭部外傷の初期診療 (横田裕行 荒木尚), 2011 ; pp49-60, メディカル・サイエンス・インターナショナル.
- 3) 桑本健太郎 : [翻訳] 救急室での管理. 頭部外傷の初期診療 (横田裕行 荒木尚), 2011 ; pp101-124, メディカル・サイエンス・インターナショナル.
- 4) 金子純也 : [翻訳] 頭皮および頭蓋骨の損傷. 頭部外傷の初期診療 (横田裕行 荒木尚), 2011 ; pp135-148, メディカル・サイエンス・インターナショナル.
- 5) 二宮宣文 : [翻訳] 遺物, 中毒, 咬傷と刺創. アトラス応急処置マニュアル 原書第 9 版 (山本保博 黒川顕), 2012 ; pp198-215, 南江堂.
- 6) 二宮宣文 : [分担] 戦争と紛争. 災害医療 (山本保博), 2012 ; pp226-235, 最新医学社.

学会発表

(1) 招待講演：

- 1) Ninomiya N : The Great East Japan Earthquake. The Founding Conference of Chinese Society of Disaster Medicine & The First International Summit on Disaster Medicine 2011 (第 1 回) (China, Shanghai), 2011. 12.

(2) シンポジウム：

- 1) 久野将宗, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 関根 愛<sup>1)</sup>, 木戸竜一<sup>1)</sup>, 杉原秀人<sup>2)</sup>, 二宮宣文, 稲垣栄次, 石之神小織, 小柳正雄, 桑本健太郎, 諸江雄太 (1) 日本医科大学多摩永山病院感染対策委員, 2) 日本医科大学多摩永山病院中央検査室) : 当救命救急センターの院内感染に対する取り組みとその効果. 日本臨床救急医学会総会 (第 14 回) (札幌), 2011. 6.

(3) パネルディスカッション：

- 1) 上西蔵人<sup>1)</sup>, 益子邦弘<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>1)</sup>, 原 義明<sup>1)</sup>, 飯田浩章<sup>1)</sup>, 平林篤志<sup>1)</sup>, 小柳正雄, 大泉 旭<sup>2)</sup>, 川井 真<sup>2)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院, 2) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター) : 急性期外科医のあり方 整形外科医の立場から. 日本救急医学会総会・学術総会 (第 39 回) (東京), 2011. 10.
- 2) 高山泰広<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>, 佐藤秀貴<sup>1)</sup>, 桑本健太郎, 直江康孝<sup>2)</sup>, 中江竜太<sup>2)</sup>, 小関一英<sup>3)</sup>, 岸本晃男<sup>4)</sup> (1) 日本医科大学救急医学教室, 2) 川口市立医療センター救命救急センター, 3) 平成帝京大学健康メディカル学部, 4) 松江病院) : 高齢者外傷の臨床的特徴と転帰からみた治療限界について. 日本救急医学会総会・学術総会 (第 39 回) (東京), 2011. 10.
- 3) 桑本健太郎, 石之神小織, 諸江雄太, 久野将宗, 小柳正雄, 苛原隆之, 金子純也, 福田令雄, 二宮宣文, 横田裕行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学附属病院高度救命急 1 急センター) : 高齢化団地を抱えた多摩地区における救命救急センター. 日本救急医学会総会・学術総会 (第 39 回) (東京), 2011. 10.
- 4) 二宮宣文, 久野将宗, 鈴木健介 : 東日本大震災後のドクターカーを使用しての地域救急災害システム構築 被災地仮設診療所でのドクターカーの有効性. 病院前救急診療研究会 学術集会 (第 6 回) (東京), 2011. 12.
- 5) 鈴木健介, 二宮宣文, 久野将宗, 石之神小織, 諸江雄太, 小柳正雄, 桑本健太郎, 苛原隆之, 金子純也, 石川若菜 : 急性期から亜急性期へかけての医薬品ニーズ変化への対応. 日本集団災害医学会総会・学術集会 (第 17 回)

(金沢), 2012. 2.

(4) ワークショップ:

- 1) 久野将宗, 鈴木健介, 二宮宣文, 石之神小織, 諸江雄太, 榎本健太郎, 小柳正雄, 北橋章子, 福田令雄, 苜原隆之, 金子純也: 当院におけるドクターアンビュランス・ドクターカーの現状と課題. 病院前救急診療研究会 学術集会 (第6回) (東京), 2011. 12.

(5) ポスター:

- 1) 久野将宗, 二宮宣文, 鈴木健介, 金子純也, 苜原隆之, 小柳正雄, 榎本健太郎, 石川若菜, 諸江雄太, 石之神小織, 北橋章子: 東日本大震災後の当院からの医療援助とその活動から見えた多数医療機関が参加する避難所診療のあり方について. 日本救急医学会総会・学術総会 (第39回) (東京), 2011. 10.
- 2) 久野将宗, 二宮宣文, 鈴木健介, 林 春実, 山口孝治: パキスタン洪水災害へのNPOとしての災害医療支援活動報告. 日本国際保健医療学会 (第26回) (東京), 2011. 7.
- 3) 久野将宗, 金子純也, 苜原隆之, 福田令雄, 北橋章子, 小柳正雄, 榎本健太郎, 諸江雄太, 石之神小織, 二宮宣文, 久保田稔<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院中央検査室): 低温療法時代の院外心肺停止症例に対する当施設での治療成績. 集中治療医学会 (第39回) (千葉 幕張), 2012. 3.
- 4) 久野将宗, 二宮宣文, 鈴木健介, 林 晴美<sup>1)</sup>, 小倉健一郎<sup>1)</sup>, 前川聡一<sup>1)</sup>, 菅村洋治<sup>1)</sup> (1) 特定非営利活動法人災害人道医療支援会): NPOとして行ったパキスタン洪水災害への災害医療支援. 日本熱帯医学会大会 (第52回)・日本国際保健医療学会学術大会 (第26回) (東京), 2011. 11.

(6) 一般講演:

- 1) 諸江雄太, 榎本健太郎, 久野将宗, 稲垣栄次, 小柳正雄, 苜原隆之, 石之神小織, 二宮宣文: 「高エネルギー外傷」として3時選定された短期入院患者の現行での包括算定は適切か. 日本外傷学会 (第25回) (大阪), 2011. 5.
- 2) 苜原隆之, 佐藤格夫, 諸江雄太, 稲垣栄次, 榎本健太郎, 二宮宣文: 緊急開腹手術を要する腹部外傷に対し大動脈遮断バルーン (IABO) を併用し有効であった2例. 日本外傷学会 (第25回) (大阪), 2011. 5.
- 3) 直江康孝<sup>1)</sup>, 小川太志<sup>1)</sup>, 田上正茂<sup>1)</sup>, 中江竜太<sup>1)</sup>, 榎本健太郎<sup>3)</sup>, 高山泰広<sup>4)</sup>, 高島伸之介<sup>5)</sup>, 米沢光平<sup>1)</sup>, 小野寺修一<sup>1)</sup>, 飯島広和<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup> (1) 川口市立医療センター, 2) 日本医科大学救急医学講座, 3) 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター, 4) 松江病院, 5) 埼玉脳神経外科病院): 頭部外傷後の高次脳機能障害の発生に関して. 日本外傷学会 (第25回) (大阪), 2011. 5.
- 4) 高山泰広<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>, 佐藤秀貴<sup>1)</sup>, 榎本健太郎<sup>1)</sup>, 直江康孝<sup>2)</sup>, 中江竜太<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学救急医学講座, 2) 川口市立医療センター救命救急センター): ダメージコントロールとしての追加減圧減張開頭術. 日本外傷学会 (第25回) (大阪), 2011. 5.
- 5) 喜熨斗智也<sup>1)</sup>, 二宮宣文, 田中秀治<sup>1)</sup>, 久野将宗, 鈴木健介, 島崎修次<sup>1)</sup> (1) 国士館大学大学院救急システム研究科): ドクターカー出場症例における低血糖患者への血統測定とブドウ糖投与の効果. 日本臨床救急医学会総会 (第14回) (札幌), 2011. 6.
- 6) 諸江雄太, 松村佳世子<sup>1)</sup>, 稲垣栄次, 原 俊輔, 小柳正雄, 石之神小織, 榎本健太郎, 久野将宗, 佐藤格夫, 二宮宣文 (1) 日本医科大学多摩永山病院看護部): 16年前に置換した腹部人工血管の感染による敗血症をVAC療法で保存的に治療した1例. 日本臨床救急医学会総会 (第14回) (札幌), 2011. 6.
- 7) 二宮宣文, 根本香代, 久野将宗, 鈴木健介: Emergency&Pharmacology for translation reserch. 日本救急医学会総会・学術総会 (第39回) (東京), 2011. 10.
- 8) 二宮宣文, 久野将宗, 鈴木健介: 小型ドクターカーの開発. 日本救急医学会総会・学術総会 (第39回) (東京), 2011. 10.
- 9) 高山泰広<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>, 佐藤秀貴<sup>1)</sup>, 榎本健太郎<sup>1)</sup>, 直江康孝<sup>2)</sup>, 中江竜太<sup>2)</sup>, 小関一英<sup>3)</sup>, 岸本晃男<sup>4)</sup> (1) 日本医科大学救急医学教室, 2) 川口市立医療センター 救命救急センター, 3) 平成帝京大学健康メディカル学部, 4)

- 松江病院)：重症外傷に伴う凝固線溶系障害の臨床的特徴：頭部外傷と多発外傷の比較より．日本救急医学会総会・学術総会（第39回）（東京），2011．10．
- 10) 高山泰広<sup>1)</sup>，横田裕行<sup>1)</sup>，佐藤秀貴<sup>1)</sup>，栗本健太郎<sup>1)</sup>，直江康孝<sup>2)</sup>，中江竜太<sup>2)</sup>，小関一英<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学救急医学教室，<sup>2)</sup>川口市立医療センター救命救急センター，<sup>3)</sup>平成帝京大学健康メディカル学部）：頭部外傷の死亡予測から見た年齢因子と凝結学的因子の検討．日本救急医学会総会・学術総会（第39回）（東京），2011．10．
  - 11) 鈴木健介<sup>1)</sup>，根本香代<sup>1)</sup>，二宮宣文<sup>1)</sup>，久野将宗<sup>1)</sup>，横田裕行<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学大学院侵襲生体管理学）：Phosphokinase 阻害剤 fasudil は LPS 誘発皮膚血管透過性亢進を抑制する．日本救急医学会総会・学術総会（第39回）（東京），2011．10．
  - 12) 苜原隆之，鈴木健介，高山祐輔<sup>1)</sup>，久野将宗，石川若菜，金子純也，諸江雄太，栗本健太郎，小柳正雄，石之神小織，二宮宣文（<sup>1)</sup>国士舘大学）：災害時現場医療活動における小型ドクターカーの有用性：東日本大震災における Doctor Car NINO の活動．日本救急医学会総会・学術総会（第39回）（東京），2011．10．
  - 13) 鈴木健介，二宮宣文，久野将宗，石之神小織，諸江雄太，栗本健太郎，小柳正雄，苜原隆之，金子純也，北橋章子，石川若菜：東日本大震災における医療チーム派遣 ロジスティックの観点からの振り返り．日本救急医学会総会・学術総会（第39回）（東京），2011．10．
  - 14) 諸江雄太，二宮宣文，小柳正雄，石之神小織，鈴木健介，久野将宗，栗本健太郎，金子純也，苜原隆之，稲垣栄次：東北地方太平洋沖地震で被災したスーパー駐車場スロープ崩落現場でのCSM実践活動：余震の中でDMATとして活動し続けた生存救出までの24時間．日本救急医学会総会・学術総会（第39回）（東京），2011．10．
  - 15) 二宮宣文，久野将宗，鈴木健介：大災害で救急医は何を行うべきか：東日本大震災での瓦礫の下の医療から亜急性期医療まで．日本救急医学会総会・学術総会（第39回）（東京），2011．10．
  - 16) 石川若菜，栗本健太郎，金子純也，北橋章子，石之神小織，諸江雄太，久野将宗，二宮宣文，横田裕行<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院高度救命救急センター）：ラクナ梗塞で入院中に椎骨動脈かい離によるくも膜下出血を発症した1例．日本救急医学会総会・学術総会（第39回）（東京），2011．10．
  - 17) 苜原隆之，諸江雄太，稲垣栄次，金子純也，栗本健太郎，小柳正雄，石之神小織，久野将宗，二宮宣文：保存的治療に抵抗性の腎盂腎炎・腎膿瘍・敗血症に対し，腎摘出を行い救命した1例．日本救急医学会総会・学術総会（第39回）（東京），2011．10．
  - 18) 諸江雄太，二宮宣文，久野将宗，鈴木健介，苜原隆之，小柳正雄，栗本健太郎，石之神小織，福田令雄：瓦礫の下の医療における安全とは？：崩壊したスーパーマーケット駐車場崩落現場での活動を経験して学んだこと．日本集団災害医学会総会・学術集会（第17回）（金沢），2012．2．
  - 19) 橋とも子<sup>1)</sup>，高桑大介<sup>2)</sup>，坂野昌司<sup>3)</sup>，二宮宣文，山口孝治<sup>4)</sup>，渡部裕之<sup>3)</sup>，曾根智史<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>国立保健医療科学院健康危機管理研究部，<sup>2)</sup>武蔵野赤十字病院，<sup>3)</sup>杉並保健所 荻久保保健センター，<sup>4)</sup>フジ虎ノ門整形外科病院外傷・救急センター）：災害医療との連携強化による災害健康危機管理をめざした保健所職員向け教材開発に関する研究．日本集団災害医学会総会・学術集会（第17回）（金沢），2012．2．
  - 20) 鈴木健介，二宮宣文，久野将宗，諸江雄太，喜熨斗智也<sup>1)</sup>，稲村嘉昭<sup>1)</sup>，高山祐輔<sup>1)</sup>，田中芳枝<sup>2)</sup>，曾根悦子<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>国士舘大学院，<sup>2)</sup>武蔵野赤十字病院 救命救急センター）：局地災害・広域災害におけるロジスティックの役割-CSM (Confined Space Medicine)：被災地医療支援を通して経験したこと．日本集団災害医学会総会・学術集会（第17回）（金沢），2012．2．
  - 21) 久野将宗，久保田稔<sup>1)</sup>，苜原隆之，金子純也，石之神小織，栗本健太郎，諸江雄太，二宮宣文（<sup>1)</sup>日本医科大学大学多摩永山病院中央検査室）：平坦脳波から意識回復した蘇生後脳症の2症例．集中治療医学会関東甲信越地方会（第20回）（東京），2011．7．
  - 22) Ninomiya N, Lin H, Ogura K, Suzuki K, Maekawa S, Kuno M, Suganuma Y, Ukai T : HuMA Disaster Relief Medical Mission for flood-affected Victims in the Islamic Republic of Pakistan. World Congress on Disaster and Emergency Medicine (17th) (China, Beijing), 2011. 5.

- 23) 苛原隆之, 諸江雄太, 二宮宣文: 当院救命救急センターにおける上部消化管出血症例の検討. 日本消化器内視鏡学会総会 (第 82 回) (福岡), 2011. 10.

## [千葉北総病院救命救急センター]

### 研究概要

当施設は千葉県北総地域の基幹救急医療施設として平成 6 年 1 月に開設した. その後, 平成 8 年 11 月に千葉県の基幹災害医療センターに, また平成 9 年 1 月に千葉県で最初の日本救急医学会指導医指定施設に認可された. 平成 11 年 4 月には県内 8 施設目の救命救急センターに認定され, 各種学会・研究会において活発な活動を行っている. 平成 13 年 10 月からは, 厚生労働省事業である千葉県ドクターヘリ事業の基地病院として, 千葉県及び茨城県南部で発生した広範囲熱傷, 薬物中毒, 重症外傷, 脳卒中, 急性冠症候群, 急性大動脈疾患など様々な重症患者に最適の初期治療を提供している. また更に平成 22 年 6 月からはラピッドカーも運行を開始し徐々に成果をあげている. 教育活動としては, ACLS, BLS, ICLS, PALS, JATEC, JPTEC, DMAT などの標準医療教育システムの指導者を擁し, 医師, 看護師, 救急救命士, 医学生, 専門学校生などへのベーシックおよびアドバンスの質の高い救急医療教育を提供するとともに, フライトクルーを目指す医療者のドクターヘリ搭乗教育にも力を入れている. 研究テーマは, 救急医療システム特に外傷診療のあり方に関する研究, ヘリコプターを活用した救命救急医療のもたらす医学的効果についての研究, 災害医療システムの研究, 新たな小児重症救急医療システムの構築に関する研究, 多発外傷や重症骨盤骨折の病態生理の解明に関する研究, ショックに対する病態生理の解明ならびに新たな診断・治療手法の開発, 外傷患者に対する Damage Control の効果に関する研究, 敗血症, 多臓器不全の病態解明と血液浄化の療効果に関する研究, シミュレーションモデルを用いた救急医学教育の開発に関する研究, メディカルコントロールに関する研究等, 多岐に渡っている. また, 日本大学理工学部, 工学部と連携し, 交通事故調査を中心とした外傷予防システムの研究として, 交通事故事例, 事故車両, 傷病者医療情報の調査も行っている. これらの研究成果を国内学会, 専門誌ばかりでなく国際学会や英文雑誌で発表し, 広く内外に情報発信している.

### 研究業績

#### 論文

##### [追加分]

追加分総説:

- 1) 松本 尚: II. 損傷臓器別にみた診断と治療 腸間損傷の診断と治療. 救急医学 2011; 35 (3): 343-348.
- 2) 松本 尚, 林田和之, 益子一樹, 三木隆久, 本村友一, 安松比呂志, 益子邦洋: 重症肝損傷の外科的治療成績と課題. Journal of Acute Care Surgery (JJACS) 2011; 1: 67-72.

追加分原著:

- 1) 上西藏人, 益子邦洋, 原 義明, 飯田浩章, 川井 真<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学高度救命救急センター): Floating knee 症例の治療経験. 骨折 2011; 33 (1): 199-203.

追加分研究報告書:

- 1) 益子邦洋, 石川博敏<sup>1)</sup>, 西川 渉<sup>2)</sup>, 山野 豊<sup>2)</sup>, 篠田伸夫<sup>2)</sup>, 松田徹之<sup>2)</sup>, 松本 尚, 斎藤有紀子<sup>3)</sup> (1) 自動車安全運転センター, 2) 認定 NPO 法人救急ヘリ病院ネットワーク, 3) 北里大学医学部附属医学教育研究センター 医学原論研究部門): 事故自動通報システム (ACN) が起動するドクターヘリシステムによる交通事故死亡削減効果の研究—I. 平成 22 年度タカタ財団助成研究実施報告書 2011; 1-77.
- 2) 野口 宏<sup>1)</sup>, 浦島充佳<sup>2)</sup>, 横田裕行<sup>3)</sup>, 松本 尚, 郡山一明<sup>4)</sup>, 荒井信幸<sup>5)</sup>, 有賀 徹<sup>6)</sup>, 磯淵久徳<sup>7)</sup>, 岡本征仁<sup>8)</sup>, 尾形昌克<sup>9)</sup>, 金丸勝弘, 田邊晴山<sup>10)</sup>, 堂面俊彦, 永井秀明, 益子邦洋, その他 5 名 (1) 藤田保健衛生大学医学部救急科, 2) 東京慈恵医科大学分子疫学研究室, 3) 日本医科大学大学院医学部研究科侵襲生体管理学, 4) 救急振

興財団救急救命九州研修所, <sup>5)</sup> 東京消防庁救急部, <sup>6)</sup> 昭和大学医学部救急医学講座, <sup>7)</sup> 大阪市消防局救急施策担当課, <sup>8)</sup> 札幌市消防局警防部救急科, <sup>9)</sup> 広島市消防局警防部救急科, <sup>10)</sup> その他) : 救急救命士の処置範囲の係る実証研究のための基盤的研究総括・分担研究報告書. 平成 22 年度厚生労働科学研究費補助金厚生労働労働科学研究事業 2011 ; 1-233.

(1) 原著 :

- 1) 松本 尚, 小倉真治<sup>1)</sup>, 勝見 敦<sup>1)</sup>, 高山隼人<sup>1)</sup>, 谷川攻一<sup>1)</sup>, 中野 実<sup>1)</sup>, 奈良 理<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本救急医学会航空機による救急搬送検討委員会) : 消防防災ヘリコプターの“救急ヘリ”としての能力評価に関する検討. 日本救急医学会雑誌 2011 ; 22 (9) : 758-764.
- 2) 本村友一, 松本 尚, 益子邦洋 : 東日本大震災における福島県立医大での複数ヘリ統制ミッション. 日医大医学会誌 2011 ; 7 (suppl.1) : 62-65.
- 3) 本村友一, 益子邦洋, 横田裕行<sup>1)</sup>, 富永 茂<sup>2)</sup>, 西本哲也<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 救急医学講座, <sup>2)</sup> 日本大学 理工学部 機械工学科, <sup>3)</sup> 日本大学 工学部 機械工学科 バイオメカニクス研究室) : 四輪車交通事故における乗車位置と外傷傷害の関係. 日本救急医学会関東地方会雑誌 2011 ; 32 (49) : 54-55.
- 4) 阪本雄一郎<sup>1)</sup>, 益子邦洋, 小幡 徹<sup>2)</sup>, 宮庄 拓<sup>3)</sup>, 横田裕行<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 佐賀大学医学部救急医学講座, <sup>2)</sup> 微生物科学研究会, <sup>3)</sup> 酪農学園大学獣医学部, <sup>4)</sup> 日本医科大学救急医学) : 急性期 DIC 診断基準による敗血症性 DIC と臓器不全および各種敗血症関連因子との関連性. バイオメディカル 2011 ; 21 : 14-18.
- 5) 益子邦洋 : 東日本大震災におけるドクターヘリ DMAT の活動と今後の課題. 第 40 回交通安全夏期大学セミナー 2011 ; 27-67.
- 6) 阪本雄一郎<sup>1)</sup>, 石垣 司<sup>2)</sup>, 本村陽一<sup>2)</sup>, 益子邦洋 ( <sup>1)</sup> 佐賀大学救命救急センター, <sup>2)</sup> 産業医学総合研究所) : 肝損傷の治療戦略 : 施設間格差の問題点をふまえて. 日本腹部救急医学会雑誌 2011 ; 31 (4) : 643-646.
- 7) 村越秀光<sup>1)</sup>, 浅野悦洋<sup>1)</sup>, 赤沼雅彦<sup>1)</sup>, 松本 尚, 益子邦洋 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学成田空港クリニック) : 空港クリニック放射線科の救急患者対応. 日本航空医療学会雑誌 2012 ; 12 (3) : 20-25.
- 8) 益子邦洋, 石川博敏<sup>1)</sup>, 西川 渉<sup>1)</sup>, 山野 豊<sup>1)</sup>, 篠田伸夫<sup>1)</sup>, 松田徹之<sup>1)</sup>, 斎藤有紀子<sup>2)</sup>, 松本 尚 ( <sup>1)</sup> 認定 NPO 法人救急ヘリ病院ネットワーク, <sup>2)</sup> 北里大学医学部附属医学教育研究センター医学原論研究部門) : 先進事故自動通報システム (eACN) が起動するドクターヘリ. 交通工学 2012 ; 47 (1) : 15-19.
- 9) Hata N<sup>1)</sup>, Shinoda T<sup>1)</sup>, Kobayashi N<sup>1)</sup>, Tomita K<sup>1)</sup>, Kitamura M<sup>1)</sup>, Nozaki A<sup>1)</sup>, Kurihara O<sup>1)</sup>, Tokuyama H<sup>1)</sup>, Shirakabe A<sup>1)</sup>, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Hara Y, Matsumoto H, Mashiko K ( <sup>1)</sup> Intensive Care Unit ,Chiba Hokusoh Hospital, Medical School) : Severity of Cardiovascular Disease Patients Transported by Air Ambulance. Air Medical Journal 2011 ; 30 (6) : 328-331.
- 10) 富永 茂<sup>1)</sup>, 西本哲也<sup>2)</sup>, 本村友一, 益子邦洋, 阪本雄一郎<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本大学 理工学部 機械工学科, <sup>2)</sup> 日本大学 工学部 機械工学科 バイオメカニクス研究室, <sup>3)</sup> 日本医科大学 千葉北総病院 救命救急センター, <sup>4)</sup> 佐賀大学 医学部 附属病院 救命救急センター) : 外傷データとマイクロ事故調査による重傷胸腹部外傷の実態解析. 自動車技術会論文集 2012 ; 43 (2) : 269-274.

(2) 総説 :

- 1) 八木貴典 : III. 外傷各論 1. 部位別外傷への初期対応 7) 四肢外傷. 小児科臨床 2011 ; 64 (4) : 683-700.
- 2) 八木貴典 : II. 外傷総論 4. 小児外傷トリアージと重症度評価. 小児科臨床 2011 ; 64 (4) : 623-633.
- 3) 松本 尚 : II. 外傷総論 6. 小児外傷とドクターヘリ : 救命救急センターと小児専門施設の連携. 小児科臨床 2011 ; 64 (4) : 643-647.
- 4) 飯田浩章, 益子邦洋 : 止血法. 救急医学 2011 ; 35 (8) : 886-892.
- 5) 益子邦洋, 林田和之 : II 心, 縦隔, 肺, 胸郭 Q31 肺・胸郭損傷. 救急・集中診療 最新 救急画像診断 - 読み方・考え方・活かし方 - 2011 ; 23 (5・6) : 911-918.

- 6) 益子邦洋, 松本 尚, 林田和之: Damage control surgery の概念・適応・手技. 消化器外科 2011; 34 (5): 605-612.
- 7) 益子邦洋: 東日本大震災におけるドクターヘリ DMAT の活動. アスカ 21 2011; (78): 10-11.
- 8) 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明: ドクターヘリの現在とこれから: 日本版 15 分ルールを目指して. エマージェンシー・ケア 2011; 24 (4): 88-89.
- 9) 益子邦洋, 八木貴典, 松本 尚: わが国の小児外傷の現状と展望. 小児科臨床 2011; 64 (4): 595-603.
- 10) 益子邦洋: 先進事故自動通報システムによるドクターヘリ出動の有用性を実証. アスカ 21 2012; 10-11.
- 11) 益子邦洋: 韓国とタイの医師・看護師が, 日本でドクターヘリの OJT 研修. アスカ 21 2011; 10-11.
- 12) 益子邦洋: 事故自動通報システムとドクターヘリを活用した交通事故死者数削減の取組み. アスカ 21 2011; (80): 10-11.
- 13) 齋藤伸行: 呼吸器疾患 (5) 院内肺炎. 救急医学 救急薬剤プラクティカルガイド 2011; 35 (10): 1316-1320.
- 14) 三木隆久: I. 外科総論 2.Beck の三徴 (心タンポナーデ). 外科 2011; 73 (12): 1262-1267.
- 15) 齋藤伸行, 伊藤友弥<sup>1)</sup>, 松本 尚<sup>(1)</sup> 国立成育医療研究センター救急診療科): 院内急変対応から他院への搬送 (ドクターカー・ドクターヘリ). 救急医学 2011; 35 (9): 1047-1051.
- 16) 松本 尚: わが国の航空内航空機事故災害対策. 最新医学 2012; 67 (3月増刊): 190-197.
- 17) 松本 尚: ドクターヘリによる救急医療の取組み. セフィーロ 2011; (秋号): 27-30.
- 18) 林田和之, 松本 尚: 肺・胸郭外傷. 救急医学 2012; 36 (1): 71-74.

#### (3) 研究報告書:

- 1) 長江啓泰<sup>1)</sup>, 入谷 誠<sup>1)</sup>, 尾崎 徹<sup>1)</sup>, 加藤恒太郎<sup>1)</sup>, 金子正洋<sup>1)</sup>, 桜井 実<sup>1)</sup>, 佐々木滋<sup>1)</sup>, 田久保宣晃<sup>1)</sup>, 棚橋方明<sup>1)</sup>, 中野公介<sup>1)</sup>, 本田克也<sup>1)</sup>, 益子邦洋, 秋元照仁<sup>1)</sup>, 米澤英樹<sup>1)</sup>, 和辻健二<sup>1)</sup> (1) 医工連携による交通事故の詳細調査分析検討会委員): 平成 22 年度 車両安全に資するための医工連携による交通事故の詳細調査分析結果報告書. 国土交通省自動車交通局受託研究報告書 2011; 1-164.
- 2) 益子邦洋, 有賀 徹<sup>1)</sup>, 石渡 誠<sup>1)</sup>, 坂本哲也<sup>1)</sup>, 多田辰雄<sup>1)</sup>, 千葉政一<sup>1)</sup>, 外村潤二<sup>1)</sup>, 福島 真<sup>1)</sup>, 是則武志<sup>1)</sup>, 平川清彦<sup>1)</sup> (1) 医工連携による交通事故の詳細調査分析検討会 (人体傷害データベース) 委員): 平成 22 年度人体障害データベース分析報告書. 国土交通省自動車交通局受託研究報告書 2011; 1-233.
- 3) 益子邦洋, 中川儀英<sup>1)</sup>, 坂田久美子<sup>2)</sup>, 高尾昭夫<sup>3)</sup>, 横田秀己<sup>4)</sup>, 田勢長一郎<sup>5)</sup>, 今 明秀<sup>6)</sup>, 小濱啓次<sup>7)</sup>, 杉山貢<sup>7)</sup>, 西川 涉<sup>7)</sup>, 篠田伸夫<sup>7)</sup>, 田邊晴山<sup>8)</sup> (1) 東海大学医学部附属病院高度救命救急センター, 2) 愛知医科大学高度救命救急センター, 3) 全国航空消防防災協議会, 4) 全航連ドクターヘリ分科会事務局, 5) 福島県立医科大学救命救急センター, 6) 八戸市立市民病院救命救急センター, 7) 日本航空医療学会, 8) 救急救命東京研修所): 東日本大震災におけるドクターヘリの調査検討委員会報告. 日本航空医療学会雑誌 2011; 12 (3): 61-68.
- 4) 益子邦洋, 織田成人, 嶋村文彦, 渋谷正徳, 中西加寿也, 北村伸哉, 金 弘, 岡本 健, 葛西 猛, 糟谷美有紀, 紫竹英介, 山口幸治, 本村あゆみ, 本村友一, 岩木博之, その他 1 名 (1) 千葉県交通事故調査委員会): 平成 21 年度交通事故死亡事例調査報告. 平成 21 年度交通事故死亡事例調査報告書 2011; 1-41.

#### (4) エディトリアル:

- 1) 益子邦洋: 編集にあたって. 救急医学 救急薬剤プラクティカルガイド 2011; 35 (10): 1113-1113.

#### 著 書

- 1) 本村友一: [分担] 超小型超音波装置での検査が救命救急医療に果たす役割. 新医療, 2011; pp92-95, エム・イー振興協会.
- 2) 松本 尚: [分担] VI 章 救急手技・処置 2. 専門手技・処置 D. 心嚢穿刺・心嚢開窓術. 救急診療指針 (監修/一般社団法人 日本救急医学会 編集/一般社団法人 日本救急医学会専門医認定委員会), 2011; pp215-218, 株式会社へるす出版.

- 3) 松本 尚：〔編集〕新 プレホスピタル外傷学（監修/石原晋 編集/松本尚），2011；pp1-405，株式会社永井書店。
- 4) 松本 尚：〔分担〕第1部 外傷システムと現場診療・研究 1. 外傷システム. 新 プレホスピタル外傷学（監修/石原晋 編集/松本尚），2011；pp3-11，株式会社永井書店。
- 5) 松本 尚：〔分担〕第1部 外傷システムと現場診療・研究 2. 病院前救急診療. 新 プレホスピタル外傷学（監修/石原晋 編集/松本尚），2011；pp14-22，株式会社永井書店。
- 6) 本村友一：〔分担〕第1部 外傷システムと現場診療・研究 3. 外傷を取り巻く研究. 新 プレホスピタル外傷学（監修/石原晋 編集/松本尚），2011；pp23-35，株式会社永井書店。
- 7) 飯田浩章：〔分担〕第3部 手技 8. 開放創に対する処置. 新 プレホスピタル外傷学（監修/石原晋 編集/松本尚），2011；pp206-212，株式会社永井書店。
- 8) 金丸勝弘：〔分担〕第3部 手技 9. 心停止前の輸液. 新 プレホスピタル外傷学（監修/石原晋 編集/松本尚），2011；pp213-219，株式会社永井書店。
- 9) 飯田浩章：〔分担〕第4部 各論 7. 四肢外傷. 新 プレホスピタル外傷学（監修/石原晋 編集/松本尚），2011；pp305-320，株式会社永井書店。
- 10) 金丸勝弘：〔分担〕第5部 多数傷病者事故 1. 多数傷病者事故対応のポイントと事例検討. 新 プレホスピタル外傷学（監修/石原晋 編集/松本尚），2011；pp379-384，株式会社永井書店。
- 11) 本村友一：〔分担〕第5部 多数傷病者事故 2. DMAT による活動とエマルゴトレーニング. 新 プレホスピタル外傷学（監修/石原晋 編集/松本尚），2011；pp385-394，株式会社永井書店。
- 12) 齋藤伸行，益子邦洋：〔分担〕IV 外傷・熱傷の診断・治療 30. 肺挫傷の治療指針. 救急・集中治療最新ガイドライン 2012-13（岡本和文），2012；pp92-94，総合医学社。
- 13) 益子邦洋：〔分担〕全体所見の観察. 救急救命士標準テキスト（救急救命士標準テキスト編集委員会），2012；pp50-65，へるす出版。
- 14) 益子邦洋：〔分担〕局所所見の観察. 救急救命士標準テキスト（救急救命士標準テキスト編集委員会），2012；pp66-77，へるす出版。
- 15) 益子邦洋：〔分担〕ショック：緊急検査と応急処置. 今日の治療指針 2012 年版（山口 徹・北原光夫・福井次矢），2012；pp9-10，医学書院。
- 16) 益子邦洋：〔分担〕V 外傷 2 各論 銃創. 今日の救急治療指針 第2版（前川和彦・相川直樹），2012；pp641-644，医学書院。
- 17) 益子邦洋：〔分担〕II 章 病院前救急医療 1. 病院前救護体制. 救急診療指針 改訂第4版（一般社団法人 日本救急医学会），2011；pp22-24，へるす出版。
- 18) 横田裕行<sup>1)</sup>，大友康裕<sup>2)</sup>，布施 明<sup>3)</sup>，木村昭夫<sup>4)</sup>，稲垣剛志<sup>4)</sup>，竹川良介<sup>4)</sup>，和田智貴<sup>4)</sup>，久志本成樹<sup>5)</sup>，大泉旭<sup>3)</sup>，畝本恭子<sup>6)</sup>，小井土雄<sup>7)</sup>，二宮宣文<sup>8)</sup>，田邊晴山<sup>9)</sup>，相星淳一<sup>10)</sup>，益子邦洋，その他1名（<sup>1)</sup> 日本医科大学大学院侵襲生体管理学，<sup>2)</sup> 東京医科歯科大学大学院救急災害医学分野，<sup>3)</sup> 日本医科大学附属病院高度救命救急センター，<sup>4)</sup> 国立国際医療研究センター病院救急科，<sup>5)</sup> 東北大学大学院医学系研究科外科病態学講座救急医学分野，<sup>6)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター，<sup>7)</sup> 国立病院機構災害医療センター臨床研究部，<sup>8)</sup> 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター，<sup>9)</sup> 救急救命東京研修所，<sup>10)</sup> その他）：〔翻訳〕アトラス応急処置マニュアル（監訳者 山本保博，黒川顕），2012；pp1-286，南江堂。
- 19) 益子邦洋：〔編集〕第105回 医師国家試験問題解説（国試対策問題編集委員会），2011；p1，メディックメディア。
- 20) 三木隆久，松本 尚：〔分担〕胸部外傷総論. できる救急IVR（中島康雄），2012；pp10-11，メジカルビュー社。
- 21) 益子邦洋：〔分担〕V. 救命救急 1. 多発外傷. 経静脈治療 オーダーマニュアル（小川 龍，島崎修次，飯野靖彦，五十嵐 隆，福島 亮治），2012；pp83-86，メディカルビュー。

## 学会発表

### [追加分]

#### 追加分一般講演：

- 1) 吉田 傑<sup>1)</sup>, 西本哲也<sup>2)</sup>, 益子邦洋, 富永 茂<sup>3)</sup>, 本村友一 ( <sup>1)</sup> 本田技術研究所, <sup>2)</sup> 日本大学 工学部 機械工学科, <sup>3)</sup> 日本大学 理工学部 機械工学科)：車載データのための救急活動の実態調査解析. 自動車技術会学術講演会 (2011 春季) (横浜), 2011. 2.

#### (1) 特別講演：

- 1) 益子邦洋：災害外傷診療の要：ドクターヘリ. SAGA Trauma And Resuscitation (STAR) conference (佐賀市), 2011. 9.
- 2) 益子邦洋：救命救急センターと緊急輸血. 福島県輸血懇話会 (第 24 回) (福島市), 2011. 9.
- 3) 益子邦洋：救命救急と輸血. 神奈川県輸血研究会 (第 14 回) (横浜市), 2012. 2.
- 4) 益子邦洋：重症外傷例の救命と社会復帰を目指して：千葉県交通事故調査委員会の活動報告. 東葛地区救急カンファレンス (第 12 回) (柏市), 2012. 3.

#### (2) 招待講演：

- 1) Mashiko K：Promotion of Japanese HEMS. Hospital based HEMS Seminar (仁川, 韓国), 2011. 11.

#### (3) 基調講演：

- 1) 益子邦洋：「攻めの救急医療・ドクターヘリ」. 石川県ドクターヘリ研究会 ドクターヘリセミナー (輪島市), 2012. 3.

#### (4) シンポジウム：

- 1) 本村友一, 松本 尚, 益子邦洋, 横田裕行<sup>1)</sup>, Otte D<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 救急医学, <sup>2)</sup> Medical University Hannover Germany)：ドイツ交通事故調査 (GIDAS：Germany In-Depth Data Analysis Study) と当センターにおける医工学連携交通事故マイクロ調査と今後展望. 自動車技術会 (2011 年春季大会) (横浜, 東京), 2011. 5.
- 2) 齋藤伸行, 鉄慎一郎, 八木貴典, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋：出血性ショックと呈した外傷患者に対する初期循環管理プロトコル. 日本外傷学会 (第 25 回) (堺市), 2011. 5.
- 3) 益子一樹, 林田和之, 松本 尚, 亀山大介, 安松比呂志, 三木隆久, 本村友一, 益子邦洋：多臓器合併損傷を伴った十二指腸損傷に対する手術戦略. Acute Care Surgery 研究会学術集会 (第 3 回) (東京都), 2011. 11.
- 4) 益子一樹, 林田和之, 松本 尚, 亀山大介, 安松比呂志, 本村友一, 三木隆久, 益子邦洋, 横田裕行<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学救急医学)：当科基準にて施行した腹部 Damage Control Surgery の成績と評価. 日本腹部救急医学会総会 (第 48 回) (金沢市), 2012. 3.
- 5) 八木貴典, 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明, 金丸勝弘, 齋藤伸行, 鉄慎一郎, 佐々木隆司, 武井健吉<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 長谷川病院)：ドクターヘリ：Helicopter Emergency Medical Service による重症小児外傷の集約. 日本小児科学会学術集会 (第 114 回) (東京都), 2011. 8.
- 6) 齋藤伸行, 八木貴典, 本村友一, 林田和之, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋：重症敗血症患者における ICU acquired muscle weakness の転帰に与える影響 (ICU 患者の神経筋障害と生活機能). 日本集中治療医学会学術集会 (第 39 回) (千葉市), 2012. 2.
- 7) 齋藤伸行, 八木貴典, 本村友一, 林田和之, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋：外傷患者において早期気管切開は VAP 予防策となりえるか？ -Propensity score matching analysis- (VAP をなくすための総合戦略). 日本集中治療医学会学術集会 (第 39 回) (千葉市), 2012. 2.

#### (5) パネルディスカッション：

- 1) 上西蔵人, 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明, 飯田浩章, 平林篤志, 川井 真<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学救

急医学)：新たなる DCO 適応基準の効果. 日本外傷学会 (第 25 回) (堺市), 2011. 5.

- 2) Mashiko K : Governance in aero-medical systems. AIRMED2011 (UK Brighton), 2011. 5.
- 3) Mashiko K : Regional planning of air rescue systems. AIRMED2011 (UK Brighton), 2011. 5.
- 4) 上西蔵人, 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明, 飯田浩章, 平林篤志, 小柳正雄<sup>1)</sup>, 大泉 旭<sup>2)</sup>, 川井 真<sup>2)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学高度救命救急センター) : 急性期外科医のあり方 整形外科医の立場から. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 39 回) (東京都), 2011. 10.
- 5) 松本 尚, 林田和之, 益子一樹, 三木隆久, 本村友一, 安松比呂志, 原 義明, 八木貴典, 齋藤伸行, 益子邦洋 : 外傷治療成績と Acute Care Surgery のあり方. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 39 回) (東京都), 2011. 10.
- 6) 林田和之, 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明, 八木貴典, 益子一樹, 飯田浩章, 上西蔵人, 三木隆久, 本村友一, 横田裕行<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学救急医学講座) : 多数傷病者対応時において当科フライトドクターが行う advanced field triage について. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 39 回) (東京都), 2011. 10.
- 7) 本村友一, 亀山大介, 松本 尚 : 東日本大震災における複数ドクターヘリ統制について : 報告と今後の問題. 日本集団災害医学会 (第 17 回) (石川県, 金沢市), 2012. 2.
- 8) 林田和之, 松本 尚, 原 義明, 八木貴典, 益子一樹, 飯田浩章, 上西蔵人, 本村友一, 益子邦洋, 横田裕行<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学救急医学講座) : フライトドクターが行う advanced field triage についての検討. 病院前救急診療研究会学術集会 (第 6 回) (東京都), 2011. 12.
- 9) 松本 尚, 林田和之, 益子一樹, 三木隆久, 本村友一, 安松比呂志, 亀山大介, 益子邦洋 : 膝損傷に対する腓体尾部切除の「罪」. Acute Care Surgery 研究会学術集会 (第 3 回) (東京都), 2011. 11.
- 10) 林田和之, 松本 尚, 益子一樹, 三木隆久, 本村友一, 安松比呂志, 益子邦洋, 横田裕行<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学救急医学) : 簡便な DSC (Damage Control Surgery) スコアに基づき治療した緊急手術症例の検討. 日本外科学系連合学会学術集会 (第 36 回) (浦安市), 2011. 6.

(6) セミナー :

- 1) 本村友一 : 交通事故死傷者削減への新たな挑戦 : 外傷予防・攻めの救急医療と検証・死因究明. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 39 回), 2011. 10.
- 2) Mashiko K : The Role of HEMS in the Management of Severe Trauma Patients. International Symposium of HEMS (Inchon, Korea), 2011. 11.

(7) ワークショップ :

- 1) 亀山大介, 松本 尚, 上西蔵人, 飯田浩章, 林田和之, 本村友一, 齋藤伸行, 八木貴典, 原 義明, 益子邦洋 : 千葉県ラピッドカー運用の現状とこれから. 病院前救急診療研究会学術集会 (第 6 回) (東京都), 2011. 12.

(8) 一般講演 :

- 1) 本村友一, 松本 尚, 益子邦洋, 横田裕行<sup>1)</sup>, Otte D<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学救急医学, <sup>2)</sup> Medical University Hannover Germany) : 乗用車乗員の頭部外傷受傷率 乗車位置間比較と国際比較 (JTDB 対 GIDAS). 日本外傷学会 (第 25 回) (大阪), 2011. 5.
- 2) 平林篤志, 林田和之, 増田幸子, 八木貴典, 齋藤伸行, 金丸勝弘, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋 : 治療に難渋した肝損傷 (3a) 後の遅発性胆管狭窄の 1 例. 日本外傷学会 (第 25 回) (大阪), 2011. 5.
- 3) 増田幸子, 松本 尚, 原 義明, 林田和之, 金丸勝弘, 齋藤伸行, 八木貴典, 鉄慎一郎, 飯田浩章, 上西蔵人, 本村友一, 瀬尾卓生, 平林篤志, 益子邦洋 : ドクターヘリ出動時の初期輸液療法の検討. 日本外傷学会 (第 25 回) (大阪), 2011. 5.
- 4) 上西蔵人, 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明, 川井 真<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学高度救命救急センター) : 多発外傷に伴う大腿骨複合骨折の治療経験 2 例報告. 日本臨床救急医学会 (第 14 回) (札幌市), 2011. 6.
- 5) Matsumoto H : Educational Program for Helicopter Emergency Medical Service in Japan. AIRMED2011 (UK

- Brighton), 2011. 5.
- 6) Matsumoto H : The Japanese Disaster Medical Assistance Team (DMAT). AIRMED2011 (UK Brighton), 2011. 5.
  - 7) 本村友一, 松本 尚, 益子邦洋 : 東日本大震災に於ける複数ヘリ統制について : 報告と今後の課題. 日本航空医療学会 (第 18 回) (長崎市), 2011. 11.
  - 8) 松本 尚, 原 義明, 本村友一, 益子邦洋, 小井土雄一<sup>(1)</sup> 国立病院機構災害医療センター臨床研究部) : DMAT とドクターヘリ運用の課題と将来像. 日本航空医療学会 (第 18 回) (長崎市), 2011. 11.
  - 9) 本村友一, 益子邦洋, 織田成人<sup>1)</sup>, 嶋村文彦<sup>2)</sup>, 森本文雄<sup>3)</sup>, 中西加寿也<sup>4)</sup>, 北村伸哉<sup>5)</sup>, 金 弘<sup>6)</sup>, 岡本 健<sup>7)</sup>, 葛西 猛<sup>8)</sup>, 糟谷美有紀<sup>9)</sup> (1) 千葉大学医学部附属病院救急・集中治療部, 2) 千葉県救急医療センター外傷治療科, 3) 国保松戸市立病院救命救急センター, 4) 成田赤十字病院救命救急センター, 5) 君津中央病院救急・集中治療科, 6) 船橋市立医療センター救命救急センター, 7) 順天堂大学浦安病院救命救急センター, 8) 亀田総合病院救命救急センター, 9) 旭中央病院救命救急センター) : 平成 21 年千葉県交通事故死亡事例検証会と交通事故死撲滅に向けた展望. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 39 回) (東京都), 2011. 10.
  - 10) 八木貴典, 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明, 林田和之, 齋藤伸行, 武井健吉<sup>1)</sup>, 飯田浩章, 上西蔵人, 本村友一 (1) 長谷川病院) : 重症小児患者の集約の必要性～千葉県内救命救急センターの調査. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 39 回) (東京都), 2011. 10.
  - 11) 原 義明, 松本 尚, 齋藤伸行, 八木貴典, 林田和之, 飯田浩章, 上西蔵人, 本村友一, 川井 真<sup>1)</sup>, 益子邦洋, 横田裕行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学高度救命救急センター) : プレホスピタルにおけるシーツラッピングの普及のために. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 39 回) (東京都), 2011. 10.
  - 12) 平林篤志, 上西蔵人, 飯田浩章, 大西惟貴, 高松広周, 本村友一, 齋藤伸行, 八木貴典, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋 : 持続陰圧療法 (NPWT) を応用した広範囲外傷性軟部組織欠損の治療経験. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 39 回) (東京都), 2011. 10.
  - 13) 清水直樹<sup>1)</sup>, 志馬伸朗<sup>2)</sup>, 太田邦雄<sup>3)</sup>, 新田雅彦<sup>4)</sup>, 植田育也<sup>5)</sup>, 六車 崇<sup>6)</sup>, 伊藤友弥<sup>6)</sup>, 野々木宏<sup>7)</sup>, 長尾 健<sup>8)</sup>, 益子邦洋, 丸川征四郎<sup>9)</sup> (1) 東京都立小児総合医療センター救命・集中治療部, 2) 京都府立医科大学, 3) 金沢大学医学部, 4) 大阪医科大学, 5) 静岡県立こども病院, 6) 国立成育医療センター, 7) 国立循環器病研究センター, 8) 駿河台日本大学病院, 9) 医誠会病院) : わが国の小児救命集中治療における多施設共同研究の現況. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 39 回) (東京都), 2011. 10.
  - 14) 伊藤友弥<sup>1)</sup>, 六車 崇<sup>2)</sup>, 西村奈緒<sup>3)</sup>, 阪本雄一郎<sup>4)</sup>, 益子邦洋 (1) 国立成育医療センター総合診療部救急診療科, 2) 国立成育医療センター集中治療科, 3) 大阪府立泉州救命救急センター, 4) 佐賀大学医学部救急医学講座) : 小児外傷例の病院前救護処置 : JTDB2004-2009 登録症例の検討. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 39 回) (東京都), 2011. 10.
  - 15) 富岡譲二<sup>1)</sup>, 田原憲一<sup>2)</sup>, 町田浩志<sup>3)</sup>, 小林修一<sup>4)</sup>, 松本 尚, 山内 聡<sup>5)</sup>, 山田康雄<sup>6)</sup>, 大庭正敏<sup>7)</sup>, 井上潤一<sup>8)</sup>, 矢野賢一<sup>8)</sup> (1) 社会医療法人財団池友会福岡和白病院救急センター, 2) 大阪大学医学部附属病院高度救命救急センター, 3) 前橋赤十字病院高度救命救急センター集中治療科・救急科, 4) 豊田厚生病院救命救急センター, 5) 東北大学病院高度救命救急センター, 6) 国立病院機構仙台医療センター救命救急センター, 7) 大崎市民病院, 8) 独立行政法人国立病院機構災害医療センター) : 東日本大震災で孤立した石巻市民病院からの患者救出活動の解析. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 39 回) (東京都), 2011. 10.
  - 16) 鉄慎一郎<sup>1)</sup>, 松本 尚, 原 義明, 益子邦洋, 三浦政直<sup>1)</sup>, 中村不二雄<sup>1)</sup> (1) 刈谷豊田総合病院救急集中治療部) : 外傷患者に対する新鮮凍結血漿早期投与の有効性と今後の課題. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 39 回) (東京都), 2011. 10.
  - 17) 亀山麻子, 亀山大介, 齋藤伸行, 八木貴典, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋 : ムコイド型緑膿菌感染による重症肺炎の 1 例. 千葉重症感染症研究会 (第 7 回) (千葉市), 2011. 7.

- 18) 高松広周, 齋藤伸行, 八木貴典, 林田和之, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋: APRV が奏功した出血性ショックを呈した重症胸部外傷の1例. 千葉県重症患者管理研究会 (第25回) (千葉市), 2011. 9.
- 19) Saito N, Yagi T, Hara Y, Matsumoto H, Mashiko K: Damage Control Resuscitation Strategy Increased Unexpected Survivorship in Cases with a Probability Survival Rate Less Than 50%. meeting of the American Association for the surgery of Trauma (USA, Chicago), 2011. 9.
- 20) Saito N, Yagi T, Hara Y, Matsumoto H, Mashiko K: Systemic Blood Flow Status in the Early Stage of Septic Acute Kidney Injury (AKI). Annual congress European society of intensive care medicine (Berlin, Germany), 2011. 10.
- 21) 本村友一, 亀山大介, 松本 尚: 交通外傷傷病者への START (simple triage and rapid treatment) 法の精度の検証. 日本集団災害医学会 (第17回) (石川県金沢市), 2012. 2.
- 22) 大西惟貴, 齋藤伸行, 八木貴典, 飯田浩章, 上西蔵人, 平林篤志, 高松広周, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋, 横田裕行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター: 安定型骨盤骨折における造影CT delay phase 撮影の意義. 日本救急医学会関東地方会 (第62回) (日本青年館ホテル/東京都), 2012. 2.
- 23) 三木隆久, 松本 尚, 林田和之, 本村友一, 益子一樹, 安松比呂志, 亀山大介, 齋藤伸行, 益子邦洋: 外傷性大動脈損傷に対する治療方法の検討. 日本救急医学会関東地方会 (第62回) (日本青年館ホテル/東京都), 2012. 2.
- 24) 吉富有哉, 齋藤伸行, 八木貴典, 林田和之, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋: 転落外傷で搬送され診断に苦しめた Guillain-Barre 症候群1例. 日本救急医学会関東地方会 (第62回) (日本青年館ホテル/東京都), 2012. 2.
- 25) 高松広周, 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明, 八木貴典, 林田和之, 齋藤伸行, 飯田浩章, 上西蔵人, 本村友一, 金 景成<sup>1)</sup>, 小林志郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科: 特発性脊髄硬膜外血腫の3例. 日本救急医学会関東地方会 (第62回) (日本青年館ホテル/東京都), 2012. 2.
- 26) 山崎真吾<sup>1)</sup>, 鈴木 等<sup>1)</sup>, 松本 尚, 原 義明, 益子邦洋 (1) 印西地区消防組合: 北総地区に導入されたラピッドカーの活用と展望: 病院前救急診療と消防の関わり. 全国救急隊員シンポジウム (第20回) (アクトシティ浜松/静岡県浜松市), 2012. 2.
- 27) 益子邦洋: 救命救急センターにおける緊急輸血. TMC (第26回) (IPC生産性国際交流センター/神奈川県葉山町), 2012. 1.
- 28) 齋藤 修<sup>1)</sup>, 六車 崇<sup>2)</sup>, 中川 聡<sup>2)</sup>, 北村伸哉<sup>3)</sup>, 松本 尚, 益子邦洋, 清水直樹<sup>1)</sup> (1) 東京都立小児総合医療センター救命・集中治療部集中治療科, 2) 国立成育医療研究センター手術・集中治療集中治療科, 3) 国保君津中央病院救急・集中治療科: 千葉県から都内へ緊急搬送された重篤小児症例の総括 (第1報). 千葉県小児救命集中治療研究会 (第4回) (三井ガーデンホテル千葉/千葉市), 2011. 12.
- 29) 村越秀光<sup>1)</sup>, 浅野悦洋<sup>1)</sup>, 赤沼雅彦<sup>1)</sup>, 松本 尚, 益子邦洋 (1) 日本医科大学成田国際空港クリニック: 空港クリニックにおける外国人患者受診状況. 日本航空医療学会 (第18回) (長崎市), 2011. 11.
- 30) 浅野悦洋<sup>1)</sup>, 大野嘉隆<sup>1)</sup>, 村越秀光<sup>1)</sup>, 赤沼雅彦<sup>1)</sup>, 松本 尚, 益子邦洋 (1) 日本医科大学 成田国際空港クリニック: 成田空港クリニックの旅行者医療. 日本航空医療学会 (第18回) (長崎市), 2011. 11.
- 31) 赤沼雅彦<sup>1)</sup>, 浅野悦洋<sup>1)</sup>, 村越秀光<sup>1)</sup>, 松本 尚, 益子邦洋 (1) 日本医科大学 成田国際空港クリニック: 平成22年度成田空港総合訓練等における傷病者広域ヘリ搬送の試み. 日本航空医療学会 (第18回) (長崎市), 2011. 11.
- 32) 金丸勝弘<sup>1)</sup>, 白尾英仁<sup>1)</sup>, 今井光一<sup>1)</sup>, 伊達晴彦<sup>1)</sup>, 長田直人<sup>2)</sup>, 松本 尚, 益子邦洋 (1) 宮崎大学医学部附属病院救急部, 2) 宮崎大学医学部地域医療学講座: 宮崎ドクターヘリ始動に向けた消防職員研修の成果. 日本航空医療学会 (第18回) (長崎市), 2011. 11.
- 33) 林田和之, 松本 尚, 益子一樹, 三木隆久, 本村友一, 安松比呂志, 亀山大介, 亀山麻子, 益子邦洋, 横田裕行<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学救急医学: Acute Care Surgeon 育成プログラムとしての Emergency Surgery Course.

- Acute Care Surgery 研究会学術集会 (第3回) (東京都), 2011. 11.
- 34) Mashiko K : Advanced Field triage,Rapid Treatment and Transportation for the Critically Injured Patient : Japanese Dr-Heli System. Asian Conference for Emergency Medicine 2011 (Bangkok,Thailand), 2011. 7.
- 35) Mashiko K : Future perspectives for improving response time in Japan. AIRMED2011 (UK Brighton), 2011. 5.
- 36) 伊藤友弥<sup>1)</sup>, 阪本雄一郎<sup>2)</sup>, 六車 崇<sup>3)</sup>, 益子邦洋 ( <sup>1)</sup> 国立成育医療研究センター総合診療部救急診療科, <sup>2)</sup> 佐賀大学医学部救急医学講座, <sup>3)</sup> 国立成育医療研究センター集中治療科) : 小児外傷における予測外死亡症例の検討. 日本外傷学会 (第25回) (大阪, 堺市), 2011. 5.
- 37) 梅香 満, 中島祐史<sup>1)</sup>, 金 徹<sup>1)</sup>, 井上哲夫<sup>1)</sup>, 坂本篤裕<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院麻酔科) : 急性覚醒剤中毒を併発した患者に対する緊急開腹異物摘出術の麻酔経験. 日本麻酔科学会 関東甲信越・東京支部第51回合同学術集会 (千葉市), 2011. 9.
- 38) 松本 尚, 小井土雄一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 国立病院機構災害医療センター臨床研究部) : 災害時のドクターヘリ運用と課題. 日本集団災害医学会 (第17回) (石川県金沢市), 2012. 2.
- 39) 尾崎健介, 齋藤伸行, 八木貴典, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋 : 貯水池への墜落を契機に Aeromonas 感染症を発症した多発外傷の1例. 日本救急医学会関東地方会 (第62回) (東京都), 2012. 2.
- 40) 飯田浩章, 原 義明, 上西藏人, 平林篤志, 高松広周, 大西惟貴, 益子邦洋, 大泉 旭<sup>1)</sup>, 川井 真<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学救急医学講座) : 治療に難渋した両大腿骨頸部解放骨折 (AO分類33-C2,C3) の2例. 救急整形外傷シンポジウム (第18回) (グアム), 2012. 3.
- 41) 安松比呂志, 林田和之, 益子一樹, 三木隆久, 本村友一, 亀山大介, 松本 尚, 益子邦洋, 横田裕行<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学救急医学) : 緊急開腹手術となった body packer の1例. 日本腹部救急医学会総会 (第48回) (金沢市), 2012. 3.
- 42) 安松比呂志, 林田和之, 益子一樹, 三木隆久, 本村友一, 亀山大介, 松本 尚, 益子邦洋, 横田裕行<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学救急医学) : 両側舌下神経麻痺を呈した頸部刺創の1例. 日本救急医学会関東地方会 (第62回) (東京都), 2012. 2.
- 43) Jonishi K, Hara Y, Iida H, Mashiko K, Kawai M<sup>1)</sup>, Yokota H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Critical care medicine, Nippon medical school) : Clinical outcomes of pediatric femoralneck fractures in multiple traumas. Asian Conference for Emergency Medicine 2011 (Bangkok,Thailand), 2011. 7.
- 44) Jonishi K, Hara Y, Matsumoto H, Mashiko K, Kawai M<sup>1)</sup>, Yokota H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Critical care medicine, Nippon medical school) : Retroperitoneal packing as a resuscitation technique for hemodynamically unstable patients with pelvic fractures. International society of orthopaedic surgery and traumatology (Prague), 2011. 9.
- 45) 富永 茂<sup>1)</sup>, 菊池厚躬<sup>2)</sup>, 西本哲也<sup>2)</sup>, 本村友一, 益子邦洋 ( <sup>1)</sup> 日本大学 理工学部 機械工学科, <sup>2)</sup> 日本大学工学部 機械工学科 バイオメカニクス研究室) : 事故実態調査による胸腹部傷害の受傷機序の解析. 日本機械学会, バイオエンジニアリング講演会 (第24回) (豊中市), 2012. 1.
- 46) 松本 尚 : 救命救急センターのあるべき姿を考える. 東葛地区救急カンファレンス (第12回) (柏市), 2012. 3.
- 47) Saito N, Hara Y, Matsumoto H, Mashiko K : Implementation of an optimal fluid management protocol using the PICCO system delays development of ARDS secondary to severe sepsis. International Symposium on Intensive Care and Emergency Medicine (32nd) (Brussels,Belgium), 2012. 3.
- 48) 富永 茂<sup>1)</sup>, 西本哲也<sup>2)</sup>, 本村友一, 益子邦洋, 阪本雄一郎<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本大学理工学部機械工学科, <sup>2)</sup> 日本大学工学部機械工学科バイオメカニクス研究室, <sup>3)</sup> 佐賀大学医学部附属病院救命救急センター) : 外傷データとミクロ事故調査による重症胸腹部外傷の実態解析. 自動車技術会 2011年秋季学術集会 (横浜), 2011. 9.
- 49) 川村幸成<sup>1)</sup>, 西本哲也<sup>1)</sup>, 富永 茂<sup>2)</sup>, 本村友一 ( <sup>1)</sup> 日本大学 工学部 機械工学科 バイオメカニクス研究室,

2) 日本大学 理工学部 機械工学科) : 自動車交通事故における受傷患者の重症度評価. 日本機械学会スポーツ・アンド・ヒューマンダイナミクス 2011 (京都市), 2011. 11.

(9) ビデオセッション :

- 1) 安松比呂志, 松本 尚, 林田和之, 益子一樹, 三木隆久, 本村友一, 亀山大介, 益子邦洋 : 大量腹腔内出血における緊急開腹術のポイント. Acute Care Surgery 研究会学術集会 (第 3 回) (東京都), 2011. 11.

(10) 主要演題セッション :

- 1) 齋藤伸行, 八木貴典, 本村友一, 飯田浩章, 上西蔵人, 原 義明, 松本 尚, 益子邦洋, 横田裕行<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学高度救命救急センター) : 外傷患者における早期気管切開のための長期人工呼吸予測スコア開発. 日本救急医学会総会・学術集会 (第 39 回) (東京都), 2011. 10.

## 19. 形成外科学講座

### [付属病院形成外科・美容外科]

#### 研究業績

#### 論文

#### [追加分]

追加分原著：

- 1) Ono S, Chung K<sup>1</sup>, Hayashi H<sup>2</sup>, Ogawa R, Takami Y, Hyakusoku H ( <sup>1</sup> Section of Plastic Surgery, Department of Surgery, The University of Michigan Health System, <sup>2</sup> Department of Radiology ) : Application of Multidetector-Row Computed Tomography in Propeller Flap Planning. *Plast Reconstr Surg* 2011 ; 127 ( 2 ) : 712-715.
- 2) Pignatti M<sup>1</sup>, Ogawa R, Hallock G<sup>2</sup>, Mateev M, Georgescu A<sup>3</sup>, Balakrishnan G<sup>4</sup>, Ono S, Cubison T, D'arpa S, Koshima I, Hyakusoku H ( <sup>1</sup> Department of Plastic Surgery, Queen Victoria Hospital NHS Foundation Trust, West Sussex, <sup>2</sup> Division of Plastic Surgery, Sacred Heart Hospital and The Lehigh Valley Hospitals, <sup>3</sup> University of Medicine Iuliu Hatieganu, Clinical Recovery Hospital, Clinic of Plastic Surgery and Reconstructive Microsurgery, Cluj-Napoca, Romania ) : The "Tokyo" Consensus on Propeller Flaps. *Plast Reconstr Surg* 2011 ; 127 ( 2 ) : 716-722.
- 3) 小野真平, 小川 令, 百束比古 : 3次元ワイヤーフレーム外固定法による手指植皮術の経験. *創傷* 2011 ; 2 ( 1 ) : 43-47.
- 4) 小野真平, 小川 令, 百束比古 : シリコンバッグプロステシスと未分化大細胞型リンパ腫 (ALCL) の関連性における文献的考察 : 第1報. *日本美容外科学会会報* 2011 ; 33 ( 1 ) : 36-41.
- 5) 飯村剛史, 水野博司, 小野真平, 梅澤裕巳, Hakan O, 百束比古 : II度熱傷創に対する植皮術後の感染制御に銀含有ハイドロファイバー創傷被覆材の併用が奏功した1例. *熱傷* 2011 ; 37 ( 1 ) : 65-70.
- 6) Ogawa R : Recent Patents on Stem Cell-Mediated Cartilage Regeneration and Repair. *Recent Patents on Regenerative Medicine* 1 2011 ; 1 ( 1 ) : 118-122.
- 7) Erba P<sup>1</sup>, Ogawa R, Ackermann M<sup>1</sup>, Adini A<sup>1</sup>, Miele L<sup>1</sup>, Dastouri P<sup>1</sup>, Helm D<sup>1</sup>, Mentzer S<sup>1</sup>, D'amato R<sup>1</sup>, Murphy G<sup>1</sup>, Konerding M<sup>1</sup>, Orgill D<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> Division of Plastic Surgery, Brigham and Women's Hospital, Boston, USA ) : Angiogenesis in Wounds Treated by Microdeformational Wound Therapy. *Annals of Surgery* 2011 ; 253 ( 2 ) : 402-409.
- 8) Lu F<sup>1</sup>, Ogawa R, Nguyen D<sup>1</sup>, Chen B<sup>1</sup>, Gao D<sup>1</sup>, Helm D<sup>1</sup>, Zhan Q<sup>2</sup>, Murphy G<sup>2</sup>, Orgill D<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> Division of Plastic Surgery, Brigham and Women's Hospital, Boston, USA, <sup>2</sup> Department of Pathology, Brigham and Women's Hospital, Boston, USA ) : Microdeformation of Three-Dimensional Cultured Fibroblasts Induces Gene Expression and Morphological Changes. *Ann Plast Surg* 2011 ; 66 ( 3 ) : 296-300.
- 9) Erba P<sup>1</sup>, Ogawa R, Vyas R<sup>1</sup>, Orgill D<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> Division of Plastic Surgery, Brigham and Women's Hospital, Boston, USA ) : Reply : The Reconstructive Ladder in Light of Evidence-Based Medicine. *Plast Reconstr Surg* 2011 ; 127 ( 2 ) : 1018-1019.
- 10) 小川 令 : エビデンスに基づいたケロイド・肥厚性瘢痕における治療指針. *創傷* 2010 ; 1 ( 1 ) : 20-27.
- 11) 小川 令, 百束比古 : 頸部瘢痕拘縮再建の課題と治療指針. *創傷* 2010 ; 1 ( 2 ) : 51-58.
- 12) 赤石論史, 小川 令, 百束比古 : 瘢痕治療におけるシリコーンジェルシートの適応と作用機序. *創傷* 2010 ; 1

(3) : 112-118.

- 13) 小野真平, 林 宏光<sup>1)</sup>, 小川 令, 百東比古<sup>(1)</sup> 放射線科) : “プロペラ皮弁法” の術前穿通枝評価における Multidetector-row CT (MDCT) の有用性. 創傷 2010 ; 1 (3) : 125-132.
- 14) 小川 令 : 理想的な皮膚, 軟部組織, 胸骨の縫合法. 胸部外科 2012 ; 65 (4) : 324-330.

(1) 原著 :

- 1) Kuribayashi S<sup>1)</sup>, Miyashita T<sup>1)</sup>, Ozawa Y<sup>1)</sup>, Iwano M<sup>1)</sup>, Ogawa R, Akaishi S, Dohi T, Hyakusoku H, Kumita S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Radiology) : Post-keloidectomy Irradiation Using High-dose-rate Superficial Brachytherapy. J Radiat Res (Tokyo) 2011 ; 52 (3) : 365-368.
- 2) Ono S, Sebastin S<sup>1)</sup>, Yazaki N<sup>2)</sup>, Hyakusoku H, Chung K<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Hand and Reconstructive Microsurgery, National University Health System, Singapore, <sup>2)</sup> Department of Hand Surgery, Nagoya University Graduate School of Medicine, <sup>3)</sup> Section of Plastic Surgery, Department of Surgery, The University of Michigan Health System) : Clinical Applications of Perforator-Based Propeller Flaps in Upper Limb Soft Tissue Reconstruction. J Hand Surg Am 2011 ; 36 (5) : 853-863.
- 3) Orbay H, Ogawa R, Ono S, Aoki S, Hyakusoku H : Distally based superficial sural artery flap excluding the sural nerve. Plast Reconstr Surg 2011 ; 127 (4) : 1749-1750.
- 4) Ono S, Ogawa R, Hyakusoku H : Reply : Finding a favorable treatment of polyacrylamide hydrogel injection complication. Plast Reconstr Surg 2011 ; 127 (6) : 2510-2511.
- 5) Orbay H, Ono S, Ogawa R, Hyakusoku H : A 5-year assessment of safety and aesthetic results after facial soft-tissue augmentation with polyacrylamide hydrogel (aquamid) : a prospective multicenter study of 251 patients. Plast Reconstr Surg 2011 ; 128 (1) : 325-326.
- 6) Nguyen D<sup>1)</sup>, Oki K, Hyakusoku H, Ogawa R ( <sup>1)</sup> Brigham and Women’s Hospital, Harvard Medical School) : Upper Lip Basal Cell Carcinoma Reconstruction Based on Anatomical Characteristics Using Skin-Mucosa Double Opposing V-Y Advancement Flap. ePlasty 2011 ; 11 (e26) : e26.
- 7) Nomoto S<sup>1)</sup>, Ogawa R, Eura S, Hashimoto S, Kimura H, Hyakusoku H, Mizuno H<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School Musashi-kosugi Hospital, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Juntendo University School of Medicine) : A Late Complication of Breast Augmentation With 2 Different Types of Injectable Materials. ePlasty 2011 ; 11 (1) : e19.
- 8) 土佐真美子<sup>1)</sup>, ガジザデモハマッド<sup>2)</sup>, 村上正洋<sup>1)</sup>, 百東比古 ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院形成外科, <sup>2)</sup> 老人病研究所病理部門) : ケロイドにおける IL-6 シグナルの機能解析. 癬痕・ケロイド治療研究ジャーナル 2011 ; 5 (1) : 29-31.
- 9) 小川 令 : ケロイド・肥厚性癬痕に対する治療方針とわれわれの新しい取り組み. 癬痕・ケロイド治療研究ジャーナル 2011 ; 5 (1) : 32-36.
- 10) 赤石論史<sup>1)</sup>, 宮國知世<sup>2)</sup>, 小川 令 ( <sup>1)</sup> スタンフォード大学形成外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学医学部) : ケロイド・肥厚性癬痕の分類. 癬痕・ケロイド治療研究ジャーナル 2011 ; 5 (1) : 45-47.
- 11) 伊吾田慎一<sup>1,2)</sup>, 土佐真美子<sup>2,3)</sup>, 村上正洋<sup>3)</sup>, 清水 一<sup>2)</sup>, 枝川聖子<sup>2)</sup>, 百東比古, ガジザデモハマッド<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 東戸塚記念病院形成外科, <sup>2)</sup> 老人病研究所病理部門, <sup>3)</sup> 武蔵小杉病院形成外科) : ケロイドにおける Wnt シグナルの役割. 癬痕・ケロイド治療研究ジャーナル 2011 ; 5 (1) : 61-62.
- 12) 渡邊真泉, 赤石論史<sup>1)</sup>, 秋元正宇<sup>2)</sup>, 百東比古, 小川 令 ( <sup>1)</sup> スタンフォード大学形成外科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院形成外科) : 有限要素法によるケロイド増殖パターンと張力との関係の解析. 癬痕・ケロイド治療研究ジャーナル 2011 ; 5 (1) : 66-68.
- 13) 黄 晨昱<sup>1)</sup>, 赤石論史, 土肥輝之, 栗林茂彦<sup>2)</sup>, 宮下次廣<sup>2)</sup>, 百東比古, 小川 令 ( <sup>1)</sup> 中国煤炭総合病院形成外

- 科, <sup>2)</sup> 放射線治療科) : 耳ケロイドの治療戦略. 癬痕・ケロイド治療研究ジャーナル 2011 ; 5 (1) : 69-71.
- 14) 小川 令, 百東比古 : 熱傷癬痕拘縮再建における薄い皮弁の有用性. 癬痕・ケロイド治療研究ジャーナル 2011 ; 5 (1) : 75-77.
- 15) 飯村剛史<sup>1)</sup>, かづきれいこ<sup>2)</sup>, 百東比古, 小川 令 (<sup>1)</sup> 佐賀大学形成外科, <sup>2)</sup> REIKO KAZKI) : 熱傷後癬痕患者におけるリハビリメイク®による外観および精神面の変化. 癬痕・ケロイド治療研究ジャーナル 2011 ; 5 (1) : 78-80.
- 16) 土肥輝之, 赤石論史, 小野真平, 奈良慎平, 飯村剛史, 百東比古, 小川 令 : 重症ケロイドに対する皮弁手術の有用性 : 特にプロペラ皮弁の有用性について. 癬痕・ケロイド治療研究ジャーナル 2011 ; 5 (1) : 81-83.
- 17) 赤石論史<sup>1)</sup>, 小池幸子, 土肥輝之, 河邊京子, 百東比古, 小川 令 (<sup>2)</sup> スタンフォード大学形成外科) : ケロイド・肥厚性癬痕に対するロングパルス Nd : YAG レーザーの有用性. 癬痕・ケロイド治療研究ジャーナル 2011 ; 5 (1) : 88-90.
- 18) 小川 令, Julian J<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> ハーバード大学ブリガムウィメンズ病院形成外科) : 癬痕拘縮の評価・分類と治療指針. 癬痕・ケロイド治療研究ジャーナル 2011 ; 5 (1) : 91-95.
- 19) 桑原大彰<sup>1)</sup>, 土佐真美子<sup>1)</sup>, 岩切 致<sup>1)</sup>, 田嶋蘭子<sup>1)</sup>, 百東比古, 村上正洋<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 武蔵小杉病院形成外科) : ケロイド類似疾患の検討. 癬痕・ケロイド治療研究ジャーナル 2011 ; 5 (1) : 96-98.
- 20) 大森康高, 赤石論史<sup>1)</sup>, 百東比古, 小川 令 (<sup>1)</sup> スタンフォード大学形成外科) : ケロイド好発部位の視覚的解析. 癬痕・ケロイド治療研究ジャーナル 2011 ; 5 (1) : 99-101.
- 21) 百東比古, 小川 令, 水野博司<sup>1)</sup>, 青木 律<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> 順天堂大学形成外科, <sup>2)</sup> グリーンウッドスキンクリニック立川) : 下肢広範囲組織欠損の薄い皮弁による整容的再建. PEPARS 2011 ; 57 (1) : 24-28.
- 22) 村上正洋<sup>1)</sup>, 小川 令, 岩切 致<sup>1)</sup>, 百東比古 (<sup>1)</sup> 武蔵小杉病院形成外科) : 下肢の癬痕・癬痕拘縮に対する修復. PEPARS 2011 ; 57 (1) : 53-60.
- 23) Ayestaray B, Ogawa R, Ono S, Hyakusoku H : Propeller flaps : Classification and clinical applications. Ann Chir Plast Esthet 2011 ; 56 (2) : 90-98.
- 24) Ono S, Sebastin S<sup>1)</sup>, Ogawa R, Hyakusoku H (<sup>1)</sup> Department of Hand and Reconstructive Microsurgery, National University Health System, Singapore) : S-Plasty Method for Secondary Scar Revision After Flap Surgery. ePlasty 2011 ; 11 (1) : e31.
- 25) Sebastin S<sup>1)</sup>, Mendoza R, Chong A, Peng Y, Ono S, Chung K<sup>2)</sup>, Lim A (<sup>1)</sup> Department of Hand and Reconstructive Microsurgery, National University Health System, Singapore, <sup>2)</sup> Section of Plastic Surgery, Department of Surgery, The University of Michigan Health System) : Application of the dorsal metacarpal artery perforator flap for resurfacing soft-tissue defects proximal to the fingertip. Plast Reconstr Surg 2011 ; 128 (3) : 166e-178e.
- 26) Lin P<sup>1)</sup>, Sebastian S<sup>2)</sup>, Ono S<sup>3)</sup>, Bellfi L<sup>3)</sup>, Chang K<sup>3)</sup>, Chung K<sup>4)</sup> (<sup>1)</sup> Chung Gung Memorial Hospital and Kaohsiung Medical Center, <sup>2)</sup> National University Health System, <sup>3)</sup> The University of Michigan Health System, <sup>4)</sup> University of Michigan Medical Center) : A Systematic Review of Outcomes of Toe-to-Thumb Transfers for Isolated Traumatic Thumb Amputation. HAND 2011 ; 6 (3) : 235-243.
- 27) Orbay H, Takami Y, Hyakusoku H, Mizuno H : Acellular dermal matrix seeded with adipose-derived stem cells as a subcutaneous implant. Aesthetic Plast Surg 2011 ; 35 (5) : 756-763.
- 28) Ogawa R, Akaishi S, Huang C, Dohi T, Aoki M, Omori Y, Koike S, Kobe K, Akimoto M, Hyakusoku H : Clinical Applications of Basic Research that Shows Reducing Skin Tension Could Prevent and Treat Abnormal Scarring : The Importance of Fascial/Subcutaneous Tensile Reduction Sutures and Flap Surgery for Keloid and Hypertrophic Scar Reconstruction. J Nippon Med Sch 2011 ; 78 (2) : 68-76.
- 29) Nguyen D<sup>1)</sup>, Aoki M, Hyakusoku H, Ogawa R (<sup>1)</sup> Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School) :

- Chest wall reconstruction of severe mediastinitis with intercostal artery-based pedicled vertical rectus abdominis muscle flap with oblique-designed skin pedicle. *Ann Plast Surg* 2011 ; 67 (3) : 269-271.
- 30) Okuda T<sup>1)</sup>, Hirakawa K<sup>1)</sup>, Orbay H, Ohno Y<sup>1)</sup>, Hyakusoku H ( <sup>1</sup> Department of Legal Medicine and NMR Laboratory ) : Nuclear Magnetic Resonance Spectroscopy as a Useful Tool for Ingredient Analysis of Synthetic Materials. *Plast Reconstr Surg* 2012 ; 129 (1) : 197e-198e.
- 31) Ono S, Hayashi H<sup>2)</sup>, Nakao J, Iimura T, Ogawa R, Takami Y, Hyakusoku H ( <sup>1</sup> Departments of Radiology ) : Usefulness of the Portable DICOM Viewer System for Facial Bone Fractures. *ePlasty* 2011 ; 11 (1) : e50.
- 32) 百束比古, 青木 律<sup>1)</sup>, 村上正洋<sup>2)</sup> ( <sup>1</sup> グリーンウッドスキンクリニック立川, <sup>2)</sup> 武蔵小杉病院形成外科 ) : 皮下茎弁/island flap (いわゆる propeller flap を含む). *PEPARS* 2011 ; 58 (1) : 18-24.
- 33) Sairyō K<sup>1)</sup>, Ogawa R<sup>2)</sup>, Dezawa A<sup>1)</sup> ( <sup>1</sup> Dept of Orthopedic Surgery, Teikyo University Mizonokuchi Hospital, <sup>2)</sup> Dept of Plast Reconstr Surg ) : The Pathomechanism of The Ligamentum Flavum Hypertrophy is Similar to That of The Hypertrophic Scar Formation during Wound Healing. *Journal of Wound Technology* 2012 ; 15 (1) : 16-17.
- 34) Ogawa R, Akaishi S, Dohi T, Iimura T, Hyakusoku H : Current keloid and hypertrophic scar treatment algorithms and our recent trials. *Journal of Wound Technology* 2012 ; 15 (1) : 28-29.
- 35) Orgill D<sup>1)</sup>, Ogawa R ( <sup>1</sup> Division of Plastic Surgery, Brigham and Women's Hospital, Boston, USA ) : Forces and matrices in wound healing. *Journal of Wound Technology* 2012 ; 15 (1) : 30-31.
- 36) Akaishi S, Koike S, Dohi T, Kobe K, Hyakusoku H, Ogawa R : Non-contact mode long pulse nd : YAG laser therapy for keloids and hypertrophic scars. *Journal of Wound Technology* 2012 ; 15 (1) : 34.
- 37) Huang C<sup>1)</sup>, Akaishi S<sup>2)</sup>, Dohi T, Hyakusoku H, Ogawa R ( <sup>1</sup> Dept of Plast Surg, Meitan General Hospital, <sup>2)</sup> Division of Plastic and Reconstructive Surg, Dept of Surg, Stanford University ) : Strategy for treating ear keloids. *Journal of Wound Technology* 2012 ; 15 (1) : 35-36.
- 38) Iimura T<sup>1, 2)</sup>, Kazki R<sup>1)</sup>, Hyakusoku H<sup>1)</sup>, Ogawa R<sup>1)</sup> ( <sup>1</sup> Dept of Plast Reconstr Surg, <sup>2)</sup> Dept of Plast Reconst Surg, Saga University ) : Cosmetic and psychological effectiveness of rehabilitation Make-up® for post-burn scar patients. *Journal of Wound Technology* 2012 ; 15 (1) : 51-52.
- 39) Takami Y, Guo J, Ono S, Orbay H, Ogawa R, Hyakusoku H : Influence of negative atmospheric pressure on cultured human dermal fibroblasts. *Journal of Wound Technology* 2012 ; 15 (1) : 62.
- 40) Al-Azrak M<sup>1)</sup>, Ogawa R ( <sup>1</sup> General & Plastic Surgery Depart, Al helal Hospital ) : Treatment of chronic ulcers by autologous blood injections. *Journal of Wound Technology* 2012 ; 15 (1) : 63.
- 41) Al-Azrak M<sup>1)</sup>, Ogawa R ( <sup>1</sup> General & Plastic Surgery Depart, Al helal Hospital ) : Wound closure using human hair. *Journal of Wound Technology* 2012 ; 15 (1) : 64.
- 42) Ogawa R, Ono S, Hyakusoku H : Effectiveness of super-thin flaps in burn reconstructive surgery. *Journal of Wound Technology* 2012 ; 15 (1) : 67-68.
- 43) Wang C<sup>1)</sup>, Zhang J<sup>2)</sup>, Yang S<sup>1)</sup>, Hyakusoku H ( <sup>1</sup> Dongguan Kanghua Hospital, <sup>2)</sup> Beijing Tongren Hospital ) : Expansion-prefabricated crossing area supply super-thins flap : an experimental study and clinical application. *Journal of Wound Technology* 2012 ; 15 (1) : 69-70.
- 44) Aoki M<sup>1)</sup>, Nakao J<sup>1)</sup>, Dohi T<sup>1)</sup>, Akaishi S<sup>1)</sup>, Miyashita T<sup>2)</sup>, Hyakusoku H<sup>1)</sup>, Ogawa R<sup>1)</sup> ( <sup>1</sup> Dept of Plast Reconstr Surg, <sup>2)</sup> Dept of Radiation Oncology ) : Measurement of keloids color. *Journal of Wound Technology* 2012 ; 15 (1) : 90-91.
- 45) Dohi T, Akaishi S, Ono S, Nara S, Iimura T, Hyakusoku H, Ogawa R : Flap surgery for severe keloids : trials of flap surgery performed to reduce tension. *Journal of Wound Technology* 2012 ; 15 (1) : 92.

- 46) Omori Y, Akaishi S, Hyakusoku H, Ogawa R : Visual analysis of the regions of the body where keloids tend to occur. *Journal of Wound Technology* 2012 ; 15 (1) : 94.
- 47) Watanabe M, Akaishi S, Akimoto M, Hyakusoku H, Ogawa R : Visual analysis of the stretching tension associated with keloids treatments. *Journal of Wound Technology* 2012 ; 15 (1) : 95-96.
- 48) Ogawa R, Pribaz J<sup>1)</sup> (1) Division of Plastic Surgery, Brigham and Women's hospital, Boston, USA) : Diagnosis, assessment and classification of scar contractures. *Journal of Wound Technology* 2012 ; 15 (1) : 99-101.
- 49) Huang C<sup>1)</sup>, Ono S<sup>2)</sup>, Hyakusoku H, Ogawa R (1) Dept of Plast Surg, Meitan General Hospital, 2) Section of Plastic Surgery, the University of Michigan Health System) : Small-wave incision method for hypertrophic scar reconstruction. *Journal of Wound Technology* 2012 ; 15 (1) : 102-103.
- 50) Ogawa R<sup>1)</sup>, Okai K<sup>2)</sup>, Tokumura F<sup>3)</sup>, Mori K<sup>2)</sup>, Ohmori Y<sup>1)</sup>, Huang C<sup>1)</sup>, Hyakusoku H<sup>1)</sup>, Akaishi S<sup>1)</sup> (1) Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, 2) Research and Development Department, Nichiban Co., Ltd, Tokyo, 3) Medicinal Safety Information Group, Nichiban Co., Ltd, Hidaka) : The relationship between skin stretching/contraction and pathologic scarring : The important role of mechanical forces in keloid generation. *Wound Repair and Regeneration* 2012 ; 20 (2) : 149-157.
- 51) 石井暢明, 小川 令, 百東比古 : ポケットを有する仙骨部褥瘡に対するポケット被蓋回転皮弁. *日本褥瘡学会誌* 2012 ; 14 (1) : 74-77.
- 52) Orbay H, Tobita M<sup>1)</sup>, Hyakusoku H, Mizuno H<sup>2)</sup> (1) Department of Dental and Oral Surgery, Japan Self-Defense Force Hospital Yokosuka, 2) Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Juntendo University School of Medicine) : Effets of Adipose-Derived Stem Cells on Improving the Viability of Diced Cartilage Grafts. *Plastic and Reconstructive Surgery* 2012 ; 129 (2) : 369-377.
- 53) Mizuno S<sup>1)</sup>, Ogawa R (1) Department of Orthopedic Surgery, Brigham and Women's Hospital, Boston, USA) : Using changes in hydrostatic and osmotic pressure to manipulate metabolic function in chondrocytes. *American Journal of Physiology Cell Physiology* 2011 ; 300 (6) : 1234-1245.
- 54) Yagmur C<sup>1)</sup>, Guneren E<sup>1)</sup>, Kefeli M<sup>1)</sup>, Ogawa R (1) Department of Plastic Reconstructive And Aesthetic Surgery, Ondokuz Mayıs University Hospital, Turkey) : The effect of surgical denervation on prevention of excessive dermal scarring : a study on rabbit ear hypertrophic scar model. *J Plast Reconstr Aesthet Surg* 2011 ; 64 (10) : 1359-1365.
- 55) Ogawa R : Mechanobiology of scarring. *Wound Repair and Regeneration* 2011 ; 19 (1) : 2-9.
- 56) Qureshi A<sup>1)</sup>, Ross K<sup>1)</sup>, Ogawa R, Orgill D<sup>1)</sup> (1) Division of Plastic Surgery, Brigham and Women's Hospital, Boston, USA) : Shock wave therapy in wound healing. *Plast Reconstr Surg* 2011 ; 128 (6) : 721e-727e.
- 57) Agha R<sup>1)</sup>, Ogawa R, Pietramaggiore G<sup>1)</sup>, Orgill D<sup>1)</sup> (1) Division of Plastic Surgery, Brigham and Women's Hospital, Boston, USA) : A review of the role of mechanical forces in cutaneous wound healing. *J Surg Res* 2011 ; 171 (2) : 700-708.
- 58) 小川 令 : ケロイドと肥厚性瘢痕の最新治療. 別冊 : 医学のあゆみ 創傷治癒の最前線 2011 ; 237 (1) : 123-128.
- 59) 小川 令 : 植皮術における血腫予防と固定法の工夫. *PEPARS* 2012 ; 63 (1) : 68-76.
- 60) 陳 貴史<sup>1, 2)</sup>, 河邊京子<sup>1, 2)</sup>, 百東比古<sup>2)</sup> (1) 伏見駅前陳皮フ科・形成外科クリニック, 2) 日本医科大学形成外科) : 多血小板治療における早期皮下硬結の実験的検討. *日美外報* 2012 ; 34 (1) : 1-8.
- 61) 小川 令, 黄 晨昱, 佐野仁美<sup>1)</sup>, 赤石論史, 宮崎邦夫<sup>2)</sup>, 百東比古, Orgill D<sup>3)</sup>, 水野秀一<sup>4)</sup> (1) 東京大学大学院, 2) 自治医科大学形成外科, 3) Division of Plastic Surgery, Brigham and Women's Hospital, 4) Department of Orthopedic Surgery, Brigham and Women's Hospital) : 形成外科学とメカノバイオロジー (機械生物学) : 物理的的刺激が創傷治癒や組織再生に与える役割. *日形会誌* 2012 ; 32 (3) : 137-143.

- 62) 小川 令：胸部外科領域における創傷治癒の基本. 胸部外科 2012；65 (2)：149-154.
- 63) 小川 令：手術部位感染 (SSI) や肥厚性瘢痕 (HSs) の原因と予防. 胸部外科 2012；65 (3)：237-243.
- 64) Orbay H, Tobita M, Hyakusoku H, Mizuno H: Effects of Adipose-Derived Stem Cells on Improving the Viability of Diced Cartilage Grafts. Plast Reconstr Surg 2012；129 (2)：378-379.
- 65) Mateev M<sup>1)</sup>, Huang C<sup>2)</sup>, Imanaliev A<sup>1)</sup>, Hyakusoku H, Ogawa R ( <sup>1)</sup> Department of Plastic and Reconstructive Microsurgery and Hand Surgery, National Hospital of Kyrgyzstan, Bishkek, Kyrgyzstan, <sup>2)</sup> Department of Plastic Surgery, Meitan General Hospital, Beijing, China) : Combining the external fixation and microsurgical osteoseptocutaneous flap transplantation methods for limb salvage. Eplasty 2012；12 (1)：e16.
- 66) Akaishi S, Koike S, Dohi T, Kobe K, Hyakusoku H, Ogawa R : Nd : YAG Laser Treatment of Keloids and Hypertrophic Scars. Eplasty 2012；12 (1)：e1.
- 67) 桑原大彰<sup>1)</sup>, 岩切 致<sup>1)</sup>, 百束比古, 村上正洋<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院形成外科) : 深在性エリテマトーデスによる顔面陥凹変形に対し深下腹壁動脈真皮脂肪弁を施行した1症例. 日本マイクロサージャリー学会誌 2012；25 (1)：48-52.
- (2) 総説：  
 1) 百束比古, 村上正洋<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院形成外科) : 治療後の諸問題, 4. 小児のやけど (熱傷). 小児科 2012；53 (2)：161-166.
- (3) 症例報告：  
 1) 飯村剛史, 小野真平, 林 宏光<sup>1)</sup>, 百束比古 ( <sup>1)</sup> 放射線科) : 動脈静脈吻合 (arterio-venous anastomosis) のみにより再接着し得た指尖部完全切断の1例: Multidetector-row CT (MDCT) による血行動態の評価. 創傷 2011；2 (2)：78-81.

## 著 書

### 〔追加分〕

#### 追加分：

- 1) Sato K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept. of Plast. Reconstr. Surg) : [分担] 2. Single Suture Technique, Section I. Asian Blepharoplasty. Asian Facial Cosmetic Surgery, 2006；pp7-21, SAUNDERS.
- 1) 百束比古：[編集] アトラス形成外科手術手技 (編集・百束比古), 2011；pp1-217, 中外医学社.
- 2) 水野博司<sup>1, 2)</sup> ( <sup>1)</sup> 順天堂大学形成外科, <sup>2)</sup> 形成外科) : [分担] 1. 皮膚の構造の変化からみた外傷創の分類と治療概念, 第1章 基本的な形成外科手術手技. アトラス形成外科手術手技 (編集・百束比古), 2011；pp2-8, 中外医学社.
- 3) 小川 令：[分担] 4. 創に対する外用剤・被覆材・治療機器の選択法, 第1章 基本的な形成外科手術手技. アトラス形成外科手術手技 (編集・百束比古), 2011；pp22-26, 中外医学社.
- 4) 小川 令：[分担] コラム3 いわゆる閉鎖療法の功罪, 第1章 基本的な形成外科手術手技. アトラス形成外科手術手技 (編集・百束比古), 2011；p27, 中外医学社.
- 5) 小川 令：[分担] 5. 目立たない傷跡にするための管理法, 第1章 基本的な形成外科手術手技. アトラス形成外科手術手技 (編集・百束比古), 2011；pp31-36, 中外医学社.
- 6) 小野真平：[分担] b) 局所皮弁法, 6. 皮膚欠損の修復法, 第1章 基本的な形成外科手術手技. アトラス形成外科手術手技 (編集・百束比古), 2011；pp46-56, 中外医学社.
- 7) 百束比古：[分担] コラム4 皮弁の種類と移植法について, 6. 皮膚欠損の修復法, 第1章 基本的な形成外科手術手技. アトラス形成外科手術手技 (編集・百束比古), 2011；pp57-60, 中外医学社.
- 8) 大木更一郎, 江浦重義：[分担] 7. 顔面外傷について：骨折の有無, 縫うべきか開放か?, 第1章 基本的な形成外科手術手技. アトラス形成外科手術手技 (編集・百束比古), 2011；pp61-70, 中外医学社.

- 9) 佐野和史<sup>1,2)</sup> (1) 形成外科, <sup>2)</sup> 獨協医科大学越谷病院整形外科): [分担] 8. 手の外傷の診断と対応, 第1章 基本的な形成外科手術手技. アトラス形成外科手術手技 (編集・百束比古), 2011; pp71-79, 中外医学社.
- 10) 高見佳宏: [分担] 9. 熱傷の治療, 第1章 基本的な形成外科手術手技. アトラス形成外科手術手技 (編集・百束比古), 2011; pp80-87, 中外医学社.
- 11) 天海恵子, 石井暢明: [分担] 10. 巻き爪・陥入爪の治療, 第1章 基本的な形成外科手術手技. アトラス形成外科手術手技 (編集・百束比古), 2011; pp88-93, 中外医学社.
- 12) 百束比古: [分担] 1. 口唇裂, 口蓋裂, 小耳症などの先天異常の子どもが生まれた時, 第2章 臨床の実際: こんな相談をされた時形成外科医ならこう説明する. アトラス形成外科手術手技 (編集・百束比古), 2011; pp98-100, 中外医学社.
- 13) 青木 律<sup>1,2)</sup> (1) 形成外科, <sup>2)</sup> グリーンウッドスキンクリニック立川): [分担] 2. 傷跡を目立たなくしたい, 第2章 臨床の実際: こんな相談をされた時形成外科医ならこう説明する. アトラス形成外科手術手技 (編集・百束比古), 2011; pp101-105, 中外医学社.
- 14) 小池幸子: [分担] コラム5 リストカットスカーを治したい, 2. 傷跡を目立たなくしたい, 第2章 臨床の実際: こんな相談をされた時形成外科医ならこう説明する. アトラス形成外科手術手技 (編集・百束比古), 2011; pp106-108, 中外医学社.
- 15) 青木 律<sup>1,2)</sup> (1) 形成外科, <sup>2)</sup> グリーンウッドスキンクリニック立川): [分担] 3. ほくろを取りたい, 第2章 臨床の実際: こんな相談をされた時形成外科医ならこう説明する. アトラス形成外科手術手技 (編集・百束比古), 2011; pp109-112, 中外医学社.
- 16) 青木見佳子<sup>1,2)</sup> (1) 形成外科, <sup>2)</sup> 明神下青木皮膚科): [分担] コラム6 良性か悪性か, 3. ほくろを取りたい, 第2章 臨床の実際: こんな相談をされた時形成外科医ならこう説明する. アトラス形成外科手術手技 (編集・百束比古), 2011; pp113-115, 中外医学社.
- 17) 青木 律<sup>1,2)</sup> (1) 形成外科, <sup>2)</sup> グリーンウッドスキンクリニック立川): [分担] 4. レーザーで生まれつきのあざを治したい, 第2章 臨床の実際: こんな相談をされた時形成外科医ならこう説明する. アトラス形成外科手術手技 (編集・百束比古), 2011; pp116-120, 中外医学社.
- 18) 小池幸子: [分担] 6. わきがと多汗症, 第2章 臨床の実際: こんな相談をされた時形成外科医ならこう説明する. アトラス形成外科手術手技 (編集・百束比古), 2011; pp127-128, 中外医学社.
- 19) 陳 貴史<sup>1,2)</sup> (1) 形成外科, <sup>2)</sup> 宇治武田病院形成外科): [分担] 7. 指尖部損傷・切断指, 第2章 臨床の実際: こんな相談をされた時形成外科医ならこう説明する. アトラス形成外科手術手技 (編集・百束比古), 2011; pp129-133, 中外医学社.
- 20) 梅澤裕巳, 村上正洋<sup>1)</sup> (1) 武蔵小杉病院形成外科): [分担] 8. 褥瘡の治療について, 第2章 臨床の実際: こんな相談をされた時形成外科医ならこう説明する. アトラス形成外科手術手技 (編集・百束比古), 2011; pp134-139, 中外医学社.
- 21) 水野博司<sup>1,2)</sup> (1) 順天堂大学形成外科, <sup>2)</sup> 形成外科): [分担] 9. 足の壊疽/慢性下腿潰瘍の治療, 第2章 臨床の実際: こんな相談をされた時形成外科医ならこう説明する. アトラス形成外科手術手技 (編集・百束比古), 2011; pp140-143, 中外医学社.
- 22) 饗場恵美子<sup>1)</sup>, 水野博司<sup>1,2)</sup> (1) 順天堂大学形成外科, <sup>2)</sup> 形成外科): [分担] 10. 乳癌手術後の乳房再建について, 第2章 臨床の実際: こんな相談をされた時形成外科医ならこう説明する. アトラス形成外科手術手技 (編集・百束比古), 2011; pp144-146, 中外医学社.
- 23) 水野博司<sup>1,2)</sup> (1) 順天堂大学形成外科, <sup>2)</sup> 形成外科): [分担] コラム7 安全な方法で胸を大きくしたい, 10. 乳癌手術後の乳房再建について, 第2章 臨床の実際: こんな相談をされた時形成外科医ならこう説明する. アトラス形成外科手術手技 (編集・百束比古), 2011; pp147-149, 中外医学社.
- 24) 百束比古<sup>1)</sup>, 陳 貴史<sup>1,2)</sup> (1) 形成外科, <sup>2)</sup> 宇治武田病院形成外科): [分担] 11. 陥没乳頭を治したい, 第2章 臨

- 床の実際：こんな相談をされた時形成外科医ならこう説明する。アトラス形成外科手術手技（編集・百東比古），2011；pp150-153，中外医学社。
- 25) 小川 令<sup>1)</sup>，三橋 清<sup>1,2)</sup>（<sup>1)</sup> 形成外科，<sup>2)</sup> 清美会マリニック）：〔分担〕 13. ケロイドや肥厚性瘢痕の保存的治療と手術治療，第2章 臨床の実際：こんな相談をされた時形成外科医ならこう説明する。アトラス形成外科手術手技（編集・百東比古），2011；pp163-167，中外医学社。
- 26) 赤石論史：〔分担〕 コラム9 ケロイド治療の最前線，13. ケロイドや肥厚性瘢痕の保存的治療と手術治療，第2章 臨床の実際：こんな相談をされた時形成外科医ならこう説明する。アトラス形成外科手術手技（編集・百東比古），2011；pp168-171，中外医学社。
- 27) 百東比古，小川 令：〔分担〕 ピアスを開けたい：施術後のトラブルを含めて，第2章 臨床の実際：こんな相談をされた時形成外科医ならこう説明する。アトラス形成外科手術手技（編集・百東比古），2011；pp172-175，中外医学社。
- 28) 小池幸子：〔分担〕 15. 非手術的に若返りたい（しみ，しわ，たるみ），第2章 臨床の実際：こんな相談をされた時形成外科医ならこう説明する。アトラス形成外科手術手技（編集・百東比古），2011；pp176-177，中外医学社。
- 29) 水野博司<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 順天堂大学形成外科）：〔分担〕 コラム10 再生医療とは何か，15. 非手術的に若返りたい（しみ，しわ，たるみ），第2章 臨床の実際：こんな相談をされた時形成外科医ならこう説明する。アトラス形成外科手術手技（編集・百東比古），2011；pp178-179，中外医学社。
- 30) 村上正洋<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 武蔵小杉病院形成外科）：〔分担〕 16. 年々まぶたが重くなる，第2章 臨床の実際：こんな相談をされた時形成外科医ならこう説明する。アトラス形成外科手術手技（編集・百東比古），2011；pp180-184，中外医学社。
- 31) 百東比古，小池幸子：〔分担〕 17. 下眼瞼のたるみを取りたい，第2章 臨床の実際：こんな相談をされた時形成外科医ならこう説明する。アトラス形成外科手術手技（編集・百東比古），2011；pp185-186，中外医学社。
- 32) 百東比古：〔分担〕 18. 刺青を取りたい，第2章 臨床の実際：こんな相談をされた時形成外科医ならこう説明する。アトラス形成外科手術手技（編集・百東比古），2011；pp187-189，中外医学社。
- 33) 青木 律<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> グリーンウッドスキンクリニック立川）：〔分担〕 19. 毛髪治療について，第2章 臨床の実際：こんな相談をされた時形成外科医ならこう説明する。アトラス形成外科手術手技（編集・百東比古），2011；pp190-193，中外医学社。
- 34) 久保一人<sup>1)</sup>，百東比古（<sup>1)</sup> 会津中央病院形成外科）：〔分担〕 20. 包茎を治したい，第2章 臨床の実際：こんな相談をされた時形成外科医ならこう説明する。アトラス形成外科手術手技（編集・百東比古），2011；pp194-196，中外医学社。
- 35) 百東比古：〔分担〕 21. フィラーやインプラントを埋入されたが心配がある，第2章 臨床の実際：こんな相談をされた時形成外科医ならこう説明する。アトラス形成外科手術手技（編集・百東比古），2011；pp197-203，中外医学社。
- 36) 百東比古：〔分担〕 コラム11 美容外科手術を受けたいがどこが安全か，21. フィラーやインプラントを埋入されたが心配がある，第2章 臨床の実際：こんな相談をされた時形成外科医ならこう説明する。アトラス形成外科手術手技（編集・百東比古），2011；pp204-206，中外医学社。
- 37) かづきれいこ<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> REIKO KAZKI）：〔分担〕 22. メイクアップ療法（リハビリメイク®）に興味がある，第2章 臨床の実際：こんな相談をされた時形成外科医ならこう説明する。アトラス形成外科手術手技（編集・百東比古），2011；pp207-212，中外医学社。
- 38) 青木 律<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> グリーンウッドスキンクリニック立川）：〔分担〕 コラム12 美の主観性と客観性，22. メイクアップ療法（リハビリメイク®）に興味がある，第2章 臨床の実際：こんな相談をされた時形成外科医ならこう説明する。アトラス形成外科手術手技（編集・百東比古），2011；pp213-215，中外医学社。

- 39) 百束比古：〔分担〕1 概論, A 皮膚移植術, 組織移植術, 第2章 形成手術手技, 第I編 総論. 標準形成外科学第6版, 2011；pp34-37, 医学書院.
- 40) Ogawa R, Hyakusoku H：〔分担〕External Wire Frame Fixation for Skin Grafts. Skin Grafts - Indications, Applications and Current Research (Marcia Spear), 2011；pp299-306, InTech.
- 41) 小川 令, 百束比古：〔分担〕創傷被覆剤：形成外科医の立場から. 医療材料〔外科製品・生体材料〕の臨床ニーズ集, 2011；pp142-147, 株式会社技術情報協会.
- 42) 小川 令, Bayer L<sup>1</sup>, Orgill D<sup>1</sup> (<sup>1</sup>)Division of Plastic Surgery, Brigham and Women's Hospital, Boston, USA)：〔分担〕胸部難治性潰瘍. 局所陰圧閉鎖療法, V.A.C.ATS (R) 治療システム実践マニュアル (波利井清紀監修, 市岡滋, 大浦紀彦編集), 2011；pp73-76, 克誠堂出版.

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) Sato K：The Intradermal Injection in Skin Rejuvenation-Botulinum Neurotoxin Type A：Intradermal Lift-Oil Controlling. 日本美容外科学会総会 (第34回) (福岡), 2011. 9.

### (2) 招待講演：

- 1) Ogawa R：Surgical Strategies for Scar Management. The World Congress of the International Confederation for Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery (16th) (Vancouver, Canada), 2011. 5.
- 2) Ogawa R：Management of Keloid Scars. The World Congress of the International Confederation for Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery (16th) (Vancouver, Canada), 2011. 5.
- 3) Hyakusoku H：Clinical anatomy using MDCT for perforators in whole body. 中国寧波顕微皮弁フォーラム 2011 (中国寧波), 2011. 9.
- 4) Hyakusoku H：Clinical use of perforators-free flap, propeller flap and perforator supercharging superthin flaps. 中国寧波顕微皮弁フォーラム 2011 (中国寧波), 2011. 9.
- 5) Ono S, Hyakusoku H：What is next in burn reconstructive surgery?. The national conference on burn wound healing and reconstructive surgery (10th) (Hanoi, Vietnam), 2011. 4.
- 6) Ogawa R：Mechanobiology of Cutaneous Wound Healing and Scarring：Relationship between Mechanical Forces and Scarring. Wound Healing Society Annual Meeting 2011 (Dallas, USA), 2011. 4.
- 7) Ogawa R：Clinical Applications of Basic Research that Shows Reducing Skin Tension Could Prevent and Treat Abnormal Scarring. Wound Healing Society Annual Meeting 2011 (Dallas, USA), 2011. 4.
- 8) Ogawa R：Importance of Mechanosignaling Pathways in Cutaneous Wound Healing and Scarring. St. Louis University Cancer Center Seminar (St. Louis, USA), 2011. 4.
- 9) Ogawa R：Burn Reconstruction and Total Scar Management. Plastic Surgery Grand Rounds (St. Louis University), 2011. 4.
- 10) Ogawa R：Clinical Problems of Scarring and Personal Approach to Scar Modulation. Technology Innovation in Plastic Surgery (San Francisco), 2011. 6.
- 11) Ogawa R：Japanese Experiences. Achieving Excellence in Keloid Tumor Management (London, UK), 2011. 7.
- 12) Ogawa R：Recent Advances in Keloid and Hypertrophic Scar Treatment. Aesthetic Asia 2011 (Singapore), 2011. 9.
- 13) Ogawa R：Utilizing Adipose Stem Cells for Cartilage Regeneration in Plastic and Aesthetic Surgery. Aesthetic Asia 2011 (Singapore), 2011. 9.
- 14) Ogawa R：Useful Tips for Burn Scar Reconstruction. European Burns Association Congress (14th) (Hague),

2011. 9.
- 15) Ogawa R, Ono S, Hyakusoku H : Perforator Pedicled Propeller (PPP) Flaps in Upper Limb Reconstruction. MEGA HAND International Symposium (4th) (Paris), 2011. 9.
  - 16) Ogawa R : Useful Tips for Upper Limb Scar Reconstruction. MEGA HAND International Symposium (4th) (Paris), 2011. 9.
  - 17) Ogawa R : Propeller Flap / Pedicled Perforator Flap. International Course on Perforator Flaps(14th) (Seoul), 2011. 10.
  - 18) Ogawa R : Cartilage Regeneration Using Adipose-Derived Stem Cells. International Conference on Adipose Tissue (1st) (Venice), 2011. 12.
  - 19) Ogawa R : Total Scar Management and Mechanobiology of Scarring. International Symposium of The Specialization Research Center (3rd) (Hallym University Hangang Sacred Heart Hospital, Seoul), 2011. 12.
  - 20) 小川 令 : ケロイド・肥厚性瘢痕の常識を打ち破れ! : 最新知見と世界的趨勢. 名古屋皮膚科懇談会 (第 171 回) (名古屋), 2011. 4.
  - 21) 小川 令 : 術部位感染と肥厚性瘢痕を予防するための縫合法 : 減張縫合の重要性. 日本外科学会定期学術集会 (第 111 回) (幕張), 2011. 5.
  - 22) 小川 令 : 術後創感染や肥厚性瘢痕を予防するための創閉鎖の最新知見. 東海創傷治療フォーラム (第 4 回) (名古屋), 2012. 1.
  - 23) 小川 令 : ケロイド研究の現状と課題. 分子遺伝学・形成外科学教室合同研究会 (第 1 回) (東京), 2012. 2.
  - 24) Ogawa R : Classification and Evaluation of Keloids and Hypertrophic Scars : A Trial of Japan Scar Workshop. SCAR Meeting (4th) (Montpellier), 2012. 3.
  - 25) Ogawa R : Mechanobiology of Scarring. SCAR Meeting (4th) (Montpellier), 2012. 3.
  - 26) Ogawa R : Medically Necessary for Scar Revision. SCAR Meeting (4th) (Montpellier), 2012. 3.
  - 27) Ogawa R : Management of Hypertrophic Scars. SCAR Meeting (4th) (Montpellier), 2012. 3.
- (3) 教育講演 :
- 1) Ogawa R : Propeller Flap/ Pedicled Perforator Flap. International Course on Perforator Flaps (14th) (Seoul, Korea), 2011. 10.
- (4) 基調講演 :
- 1) Hyakusoku H, Vu Q<sup>1)</sup>, Gao J<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Viet-Nam National Burn Institute, <sup>2)</sup> Nan-fan Medical University) : Development of othe supercharging superthin flap. Japan-China Joint Congress on Plastic Surgery (21st) (Fukuoka), 2011. 11.
- (5) シンポジウム :
- 1) Ogawa R, Hyakusoku H : Usefulness of “Super-Thin Flaps” in Burn Reconstructive Surgery. 日本熱傷学会総会・学術集会 (第 37 回) (東京), 2011. 6.
  - 2) Vu Q<sup>1)</sup>, Tran V<sup>1)</sup>, Ogawa R, Hyakusoku H ( <sup>1)</sup> Vietnam Institute of Burns) : Perforator Supercharged Super-Thin Flap and Supraclavicular Supercharged Flap : Choosing in Neck Contracture Scar Reconstruction. 日本熱傷学会総会・学術集会 (第 37 回) (東京), 2011. 6.
  - 3) 百束比古, 小野真平<sup>1)</sup>, 林 宏光<sup>2)</sup>, 飯村剛史, 小川 令 ( <sup>1)</sup> ミシガン大学形成外科, <sup>2)</sup> 放射線科) : 全身における MDCT を用いた皮膚穿通枝の解析と臨床応用. 臨床解剖研究会 (第 15 回) (東京), 2011. 9.
  - 4) 飯村剛史, 小野真平, 中尾淳一, 渡邊真泉, 小川 令, 高見佳宏, 百束比古 : Supercharged Occipito-Cervico-Pectoral (OCP) Flap の血管解剖学的検討. 臨床解剖研究会 (第 15 回) (東京), 2011. 9.
  - 5) 中尾淳一<sup>1, 2)</sup>, 小野真平<sup>2, 3)</sup>, 飯村剛史<sup>2)</sup>, 林 宏光<sup>4)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 会津中央病院形成外科, <sup>2)</sup> 形成外科, <sup>3)</sup> ミシガン大学形成外科, <sup>4)</sup> 放射線科) : MDCT を用いた筋横隔動脈穿通枝 (Musculophrenic artery perforator :

MPAP)の血管解剖学的検討. 臨床解剖研究会(第15回)(東京), 2011. 9.

- 6) 土佐真美子<sup>1)</sup>, ガジザデモハマッド<sup>2)</sup>, 村上正洋<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup> (武蔵小杉病院形成外科, <sup>2)</sup> 武蔵小杉病院老人病研究所 病理部門): 炎症的側面と腫瘍的側面を持つケロイドに対する基礎的アプローチ. 日本形成外科学会基礎学術集会(第20回)(東京), 2011. 10.
- 7) 秋元正宇<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup> (千葉北総病院形成外科): 有限要素解析による菱形皮弁のシミュレーション. 日本シミュレーション外科学会(第21回)(大阪), 2011. 11.

(6) パネルディスカッション:

- 1) 水野博司<sup>1)</sup>, 林 礼人<sup>1)</sup>, 宮本英子<sup>1)</sup>, 古元将和<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup>, 宮本正章<sup>3)</sup> (1) 順天堂大学形成外科, 2) 形成外科, 3) 再生医療科): 治療難渋例から教訓を得た慢性創傷の評価と治療法の選択. 日本創傷外科学会総会・学術集会(第3回)(札幌), 2011. 7.
- 2) 村上正洋<sup>1)</sup>, 秋元正宇<sup>2)</sup>, 野本俊一<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>3)</sup> (1) 武蔵小杉病院形成外科, 2) 千葉北総病院形成外科): シミュレーションから見た Less dog ear を目指した皮膚良性腫瘍・母斑の治療法. 日本創傷外科学会総会・学術集会(第3回)(札幌), 2011. 7.
- 3) 石井暢明, 百束比古, 小野真平<sup>1)</sup>, 王 春梅<sup>2)</sup> (1) ミシガン大学形成外科, 2) 東莞康華病院形成外科): 瘢痕・瘢痕拘縮形成におけるエクスパンダーの利用: とくに薄い皮弁の作成. 日本創傷外科学会総会・学術集会(第3回)(札幌), 2011. 7.
- 4) 小川 令, 赤石論史, 土肥輝之, 小池幸子, 百束比古: 物理的刺激と炎症の軽減に焦点を絞ったケロイド治療. 日本創傷外科学会総会・学術集会(第3回)(札幌), 2011. 7.
- 5) 土佐真美子<sup>1)</sup>, 村上正洋<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup> (武蔵小杉病院形成外科): ケロイド発生部位別の治療戦略の検討. 日本創傷外科学会総会・学術集会(第3回)(札幌), 2011. 7.
- 6) 小川 令: ケロイド・肥厚性瘢痕の分類・評価. 瘢痕・ケロイド治療研究会(第6回)(東京), 2011. 8.
- 7) 若林奈緒, 石井暢明, 渋谷偉織, 百束比古: ハイドロジェル注入による豊胸術後年余を経て無菌性膿瘍を来した2例. 日本美容外科学会総会(第34回)(福岡), 2011. 9.

(7) セミナー:

- 1) 小川 令: 創傷治癒・組織再生の方向性を転換する!: 20年後を考えた今, 形成外科医にできる基礎研究とは. 日本形成外科学会基礎学術集会(第20回)(東京), 2011. 10.
- 2) 小川 令: 陽圧と陰圧が創傷治癒に及ぼす影響: 陰圧閉鎖療法から学ぶ高圧酸素療法の将来展望. 日本高気圧環境・潜水医学会学術集会(第46回)(東京), 2011. 10.

(8) ワークショップ:

- 1) 小川香野<sup>1)</sup>, 大谷和子<sup>1)</sup>, 小川 令, 高見佳宏, 百束比古<sup>1)</sup> (看護部): 熱傷看護: 一般病棟における標準的なケア・チーム医療. 日本熱傷学会総会・学術集会(第37回)(東京), 2011. 6.
- 2) 青木 律<sup>1,2)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 村上正洋<sup>3)</sup> (1) 形成外科, 2) グリーンウッドスキンクリニック立川, 3) 武蔵小杉病院形成外科): 社会復帰に向けた患者のリハビリテーション. 日本熱傷学会総会・学術集会(第37回)(東京), 2011. 6.
- 3) 小池幸子<sup>1,2)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup> (1) 形成外科, 2) 銀座エルクリニック): 熱傷瘢痕に対するレーザー治療の効果と限界: とりまく現状. 日本熱傷学会総会・学術集会(第37回)(東京), 2011. 6.
- 4) かづきれいこ<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup> (REIKO KAZKI): 熱傷患者の社会復帰に向けたリハビリメイク®. 日本熱傷学会総会・学術集会(第37回)(東京), 2011. 6.

(9) ポスター:

- 1) 橋 五月<sup>1)</sup>, 秋元正宇<sup>1)</sup>, 橋田絵里香<sup>1)</sup>, 宮田美穂<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup> (千葉北総病院形成外科): 新たな吸収糸 V-LOCTM の使用経験. 日本形成外科学会総会・学術集会(第54回)(徳島), 2011. 4.
- 2) 秋元正宇<sup>1)</sup>, 太組一朗<sup>2)</sup>, 宮田美穂<sup>1)</sup>, 橋田絵里香<sup>1)</sup>, 橋 五月<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup> (千葉北総病院形成外科, <sup>2)</sup> 武蔵

- 小杉病院脳神経外科)：頭皮下異物のトラブルとその対策. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 54 回) (徳島), 2011. 4.
- 3) 石井暢明, 久保一人<sup>1)</sup>, 河邊京子<sup>1)</sup>, 百束比古 ( <sup>1)</sup> 会津中央病院形成外科)：刺青の治療戦略. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 54 回) (徳島), 2011. 4.
  - 4) 土佐眞美子<sup>1)</sup>, 村上正洋<sup>1)</sup>, 百束比古 ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院形成外科)：ピアス孔再作成を希望した耳垂ピアスケロイド患者の検討：症例数の変化と電子線治療後のケロイド再発率. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 54 回) (徳島), 2011. 4.
  - 5) Ishii N, Dohi T, Ogawa R, Akaishi S, Aoki M, Ono S, Hyakusoku H : Internal Mammary Artery Perforator (IMAP) Pedicled Propeller Flaps for Anterior Keloid Reconstruction. The World Congress of the International Confederation for Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery (16th) (Vancouver, Canada), 2011. 5.
  - 6) 飯村剛史<sup>1)</sup>, 小野真平<sup>1)</sup>, 梅澤裕己<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 水野博司<sup>1,2)</sup> ( <sup>1)</sup> 形成外科, <sup>2)</sup> 順天堂大学形成外科)：熱傷に対する植皮術後の感染制御に銀含有ハイドロファイバー創傷被覆材が奏功した 1 例. 日本熱傷学会総会・学術集会 (第 37 回) (東京), 2011. 6.
  - 7) 大木更一郎, 村上正洋, 百束比古, 川井 真<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 高度救命救急センター)：救命と形成のコラボレーションの追求：救急部への長期出向を経験して… . 日本熱傷学会総会・学術集会 (第 37 回) (東京), 2011. 6.
  - 8) 伊吾田慎一<sup>1)</sup>, ガジザデモハマッド<sup>2)</sup>, 土佐眞美子<sup>2,3)</sup>, 清水 一<sup>2)</sup>, 枝川聖子<sup>2)</sup>, 岩切 致<sup>3)</sup>, 村上正洋<sup>3)</sup>, 小川令<sup>4)</sup>, 百束比古<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 東戸塚記念病院形成外科, <sup>2)</sup> 老人病研究所分子病理部門, <sup>3)</sup> 武蔵小杉病院形成外科, <sup>4)</sup> 形成外科)：顔面の組織欠損に対する再建方法の検討. 日本創傷外科学会総会・学術集会 (第 3 回) (札幌), 2011. 7.
  - 9) 江浦重義, 大木更一郎, 渡邊真泉, 百束比古：膝窩動脈完全閉塞した下腿開放骨折を遊離広背筋皮弁にて再建した 1 例. 日本創傷外科学会総会・学術集会 (第 3 回) (札幌), 2011. 7.
  - 10) 野本俊一<sup>1)</sup>, 村上正洋<sup>1)</sup>, 百束比古, 秋元正宇<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院形成外科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院形成外科)：粉粒摘出の新しい作図法：有限要素法によるドッグイヤー解析から. 日本創傷外科学会総会・学術集会 (第 3 回) (札幌), 2011. 7.
  - 11) 江浦重義, 渡邊真泉, 大木更一郎, 百束比古：下肢の遊離皮弁術後に用いる下肢挙上用枕の材質による体圧の検討. 日本褥瘡学会学術集会 (第 13 回) (福岡), 2011. 8.
  - 12) 大木更一郎, 渡邊真泉, 江浦重義, 百束比古：足底板および装具をつかった足底荷重部潰瘍に対する保存的治療の工夫. 日本褥瘡学会学術集会 (第 13 回) (福岡), 2011. 8.
  - 13) 黄 晨昱<sup>1)</sup>, 宮崎邦夫<sup>1)</sup>, 赤石論史, 百束比古, 小川 令 ( <sup>1)</sup> 自治医科大学形成外科)：伸展刺激を加えたヒト由来線維芽細胞の解析. 癩痕・ケロイド治療研究会 (第 6 回) (東京), 2011. 8.
  - 14) 黄 晨昱, 赤石論史, 百束比古, 小川 令：ケロイドと肥厚性癩痕の判別を目的とした病理組織学的検討. 癩痕・ケロイド治療研究会 (第 6 回) (東京), 2011. 8.
  - 15) 渡邊真泉, 土肥輝之, 赤石論史, 百束比古, 小川 令：ケロイド・肥厚性癩痕術後の癩痕ケアにおけるメピタック®の有用性. 癩痕・ケロイド治療研究会 (第 6 回) (東京), 2011. 8.
  - 16) 杉本貴子, 天海恵子, 桑原大彰, 江浦重義, 百束比古：鼠径部脂肪肉腫の 1 例. 日本医科大学医学会総会 (第 79 回) (東京), 2011. 9.
  - 17) 渡邊真泉, 百束比古：クリッペルウェーバー症候群の 1 例. 日本医科大学医学会総会 (第 79 回) (東京), 2011. 9.
  - 18) 若林奈緒, 百束比古：注入による豊胸術後遺症：無菌性膿瘍をきたした 1 例. 日本医科大学医学会総会 (第 79 回) (東京), 2011. 9.

- 19) 朝日林太郎, 大木更一郎, 渡邊真泉, 百束比古: 3次元CT像および立体モデルを用いて良好な機能的および整容性の回復がみられた頬骨骨折変形治癒の1例. 日本医科大学医学会総会(第79回)(東京), 2011. 9.
- 20) 渋谷偉織, 高見佳宏, 百束比古, 野呂佐知子<sup>1)</sup>, 岡崎 静<sup>1)</sup>, 高山良子<sup>1)</sup>, 二神綾子<sup>1)</sup>, 福田 悠<sup>2)</sup>, 石渡俊行<sup>3)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup> (1) 皮膚科, 2) 病理学(解析人体病理学), 3) 病理学(統御機構・腫瘍学)): Bowen病との鑑別を要した背部悪性黒色腫の1例. 日本医科大学医学会総会(第79回)(東京), 2011. 9.
- 21) 有馬樹里, 小川 令, 飯村剛史, 東 秀子, 百束比古: 大量服薬による偶発性多発褥瘡の1例. 日本医科大学医学会総会(第79回)(東京), 2011. 9.
- 22) 東 秀子, 百束比古: キシリトールによる難治性潰瘍の治療. 日本医科大学医学会総会(第79回)(東京), 2011. 9.
- 23) 飯村剛史, 小野真平, 中尾淳一, 土肥輝之, 小川 令, 百束比古, 林 宏光<sup>1)</sup> (1) 放射線科): MDCTによる前胸部・上腹部穿通枝の血管解剖学的検討: 傍胸骨穿通枝皮弁の有用性. 日本医科大学医学会総会(第79回)(東京), 2011. 9.
- 24) 長嶋有紀, 秋山 豪, 土肥輝之, 高見佳宏, 百束比古: 皮膚難治性潰瘍に対する人工真皮を用いた開放療法を試み. 日本医科大学医学会総会(第79回)(東京), 2011. 9.
- 25) 村上正洋<sup>1)</sup>, 奈良慎平<sup>1)</sup>, 桑原大彰, 田嶋繭子<sup>1)</sup>, 百束比古 (1) 武蔵小杉病院形成外科): 牽引筋腱膜縫着術と眼輪筋短縮術を併用した退行性下眼瞼内反症手術. 日本医科大学医学会総会(第79回)(東京), 2011. 9.
- 26) 小川 令, 赤石論史, 土肥輝之, 飯村剛史, 小池幸子, 黄 晨昱, 百束比古, 栗林茂彦<sup>1)</sup>, 宮下次廣<sup>1)</sup> (1) 放射線科): ケロイド・肥厚性瘢痕の集学的治療. 日本医科大学医学会総会(第79回)(東京), 2011. 9.
- 27) 桑原大彰, 百束比古: ケロイドにおける上皮間葉転換関連遺伝子の発現解析. 日本医科大学医学会総会(第79回)(東京), 2011. 9.
- 28) 野本俊一<sup>1)</sup>, 村上正洋<sup>1)</sup>, 百束比古 (1) 武蔵小杉病院形成外科): 他院美容外科での後遺症患者における社会的問題点に関する検討. 日本医科大学医学会総会(第79回)(東京), 2011. 9.
- 29) 秋山 豪, 高見佳宏, 長嶋有紀, 土肥輝之, 百束比古, 宮本正章<sup>1)</sup> (1) 再生医療科): 重度感染性足趾壊疽に対する治療戦略と形成外科の役割. 日本医科大学医学会総会(第79回)(東京), 2011. 9.
- 30) 土肥輝之, 高見佳宏, 奈良慎平, 百束比古, 野呂佐知子<sup>1)</sup>, 安齋眞一<sup>1)</sup> (1) 皮膚科): 悪性黒色腫との鑑別を要したSpitz母斑の幼児例. 日本医科大学医学会総会(第79回)(東京), 2011. 9.
- 31) 高見佳宏, Orbay H, 秋山 豪, 長嶋有紀, 土肥輝之, 小野真平, 山口 亮<sup>1)</sup>, 百束比古 (1) 株式会社BCS): 幹細胞と無細胞真皮マトリックスによる腱再生: ラットモデルでの基礎的検討. 日本形成外科学会基礎学術集会(第20回)(東京), 2011. 10.
- 32) 中尾淳一<sup>1)</sup>, 小野真平, 林 宏光<sup>2)</sup>, 飯村剛史, 渡邊真泉, 久保一人<sup>1)</sup>, 小川 令, 百束比古 (1) 会津中央病院形成外科, 2) 放射線科): MDCTを用いた筋横隔動脈穿通枝(Musculoperforator artery perforator: MPAP)の解剖学的検討. 日本形成外科学会基礎学術集会(第20回)(東京), 2011. 10.
- 33) 渡邊真泉, 小野真平<sup>1)</sup>, 小川 令, 高見佳宏, 百束比古 (1) ミシガン大学形成外科): Supercharged Occipito-Cervico-Pectoral (OCP) Flapの血管解剖学的考察. 日本形成外科学会基礎学術集会(第20回)(東京), 2011. 10.
- 34) 村上正洋<sup>1)</sup>, 秋元正宇<sup>2)</sup>, 野本俊一<sup>1)</sup>, 百束比古 (1) 武蔵小杉病院形成外科, 2) 千葉北総病院形成外科): ドッグイヤーからみたV-Y前進皮弁の適切な作図方法: 有限要素法による解析から. 日本形成外科学会基礎学術集会(第20回)(東京), 2011. 10.
- 35) Ishii N, Shibuya I, Wakabayashi N, Hyakusoku H: Advancement Muscle Pedicled Propeller (MPP) Flap. International Course on Perforator Flaps (14th) (Seoul, Korea), 2011. 10.
- 36) Eura S, Ono S, Amagai K, Oki K, Ogawa R, Hyakusoku H: Use of Superficial Cervical Artery Perforator (SCAP) in Flaps. International Course on Perforator Flaps (14th) (Seoul, Korea), 2011. 10.

- 37) 江浦重義, 大木更一郎, 渡邊真泉, 百束比古: 眼窩下壁深部の形状に沿った再建. 日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会 (第 29 回) (東京), 2011. 11.
- 38) 野本俊一<sup>1)</sup>, 村上正洋<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup> (1) 武蔵小杉病院形成外科, 2) 形成外科): 顔面フィラー注入後の更遺症患者における社会的問題点に関する検討. 日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会 (第 29 回) (東京), 2011. 11.
- (10) 一般講演:
- 1) 江浦重義, 大木更一郎, 渡邊真泉, 百束比古: 粉碎型顔面骨骨折に対する蝶頬骨縫合固定法. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 54 回) (徳島), 2011. 4.
  - 2) 野本俊一, 小川 令, 百束比古, 小野真平<sup>1)</sup>, 水野博司<sup>2)</sup> (1) ミシガン大学形成外科, 2) 順天堂大学形成外科): 他医により行われた顔面異物注入後遺症の検討と提言. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 54 回) (徳島), 2011. 4.
  - 3) 中尾淳一, 小野真平, 林 宏光<sup>1)</sup>, 飯村剛史, 渡邊真泉, 百束比古 (1) 放射線科): われわれの穿通枝造影検査の経験. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 54 回) (徳島), 2011. 4.
  - 4) 中尾淳一, 小野真平, 林 宏光<sup>1)</sup>, 百束比古 (1) 放射線科): MDCT を用いた筋横隔動脈穿通枝 (Musculophrenic artery perforator: MPAP) の解剖学的検討. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 54 回) (徳島), 2011. 4.
  - 5) 土肥輝之, 小川 令, 小野真平, 赤石論史, 中尾淳一, 青木雅代, 飯村剛史, 百束比古: 内胸動脈穿通枝皮弁 (IMAP flap): 臨床例と MDCT による穿通枝解剖解析. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 54 回) (徳島), 2011. 4.
  - 6) 渋谷偉織, 奥田貴久<sup>1)</sup>, 百束比古, 平川慶子<sup>2)</sup> (1) 北村山公立病院形成外科, 2) NMR 研究施設): 豊胸目的に注入されたシリコンジェル, シリコンオイルの画像診断による識別. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 54 回) (徳島), 2011. 4.
  - 7) 小川 令, Huang C, 小野真平, 飯村剛史, 香西達一, 石井暢明: 手指の植皮術におけるワイヤーフレーム外固定の有用性. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 54 回) (徳島), 2011. 4.
  - 8) かづきれいこ<sup>1)</sup>, 百束比古 (1) REIKO KAZKI): かづき・デザインテープを用いた手首の自傷痕に対するリハビリメイク®の応用. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 54 回) (徳島), 2011. 4.
  - 9) 渡邊真泉, 小川 令, 土肥輝之, 赤石論史<sup>1)</sup>, 百束比古 (1) スタンフォード大学形成外科): ケロイド・肥厚性瘢痕術後の瘢痕ケアにおけるソフトシリコン固定テープ (メピタック®) の有用性. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 54 回) (徳島), 2011. 4.
  - 10) 飯村剛史, 小野真平<sup>1)</sup>, 林 宏光<sup>2)</sup>, 中尾淳一, 小川 令, 高見佳宏, 百束比古 (1) ミシガン大学形成外科, 2) 放射線科): 深筋膜上穿通枝方向 (SPD) の規則性と穿通枝皮弁デザインへの応用. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 54 回) (徳島), 2011. 4.
  - 11) 渡邊真泉, 小野真平<sup>1)</sup>, 小川 令, 大木更一郎, 高見佳宏, 百束比古 (1) ミシガン大学形成外科): プロペラ皮弁による上肢再建の治療戦略. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 54 回) (徳島), 2011. 4.
  - 12) 桑原大彰<sup>1, 2)</sup>, 村上正洋<sup>1)</sup>, 黒田周一<sup>3)</sup>, 石井暢明<sup>2)</sup>, 小野真平<sup>4)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup> (1) 武蔵小杉病院形成外科, 2) 形成外科, 3) 大浜第一病院形成外科, 4) ミシガン大学形成外科): 深筋膜レベルの穿通枝を茎としたプロペラ皮弁による 2 例の上腕難治性潰瘍再建. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 54 回) (徳島), 2011. 4.
  - 13) 小川 令, Vu Q<sup>1)</sup>, Tran A<sup>1)</sup>, 石井暢明, 小野真平, 百束比古 (1) ベトナム国立熱傷センター): 頸部瘢痕拘縮再建における Super-thin Flap の有用性: ベトナムでの経験から. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 54 回) (徳島), 2011. 4.
  - 14) 大木更一郎, 飯村剛史, 江浦重義, 小川 令, 高見佳宏, 百束比古: 眼窩内壁～下壁合併骨折に対する移植骨計上シミュレーションの試み. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 54 回) (徳島), 2011. 4.
  - 15) 小川香野<sup>1)</sup>, 小川 令, 高見佳宏, 百束比古 (1) 看護部): 広範囲熱傷後肥厚性瘢痕の搔痒に対するヨモギロー

- ションの効果. 日本熱傷学会総会・学術集会 (第 37 回) (東京), 2011. 6.
- 16) 小川 令, Huang C, 小野真平, 飯村剛史, 百束比古: 手指の植皮術におけるワイヤーフレーム外固定の有用性. 日本熱傷学会総会・学術集会 (第 37 回) (東京), 2011. 6.
  - 17) 小川 令, Huang C, 百束比古: 腋窩や指間癒痕拘縮に対する正方弁方 (Square Flap Method) の有用性. 日本熱傷学会総会・学術集会 (第 37 回) (東京), 2011. 6.
  - 18) 宮内雅人<sup>1)</sup>, 大木更一郎, 川井 真<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 高度救命救急センター): 当院における広範囲熱傷についての検討. 日本熱傷学会総会・学術集会 (第 37 回) (東京), 2011. 6.
  - 19) 飯村剛史, 小川 令, かづきれいこ<sup>1)</sup>, 百束比古 (<sup>1)</sup> REIKO KAZKI): 熱傷後癒痕拘縮におけるリハビリメイク®による外観および精神面の変化の検討. 日本熱傷学会総会・学術集会 (第 37 回) (東京), 2011. 6.
  - 20) 杉本貴子, 天海恵子, 桑原大彰, 江浦重義, 百束比古, 安齋真一<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学皮膚科): 鼠径部皮下に発生した高分子型脂肪肉腫の 1 例. 日本形成外科学会東京地方会 (第 266 回) (東京), 2011. 7.
  - 21) 飯村剛史, 小川 令, 江浦重義, 百束比古: 神経線維腫症 I 型に合併した側頭部動脈奇形が疑われた 1 例. 日本形成外科学会東京地方会 (第 266 回) (東京), 2011. 7.
  - 22) 天海恵子<sup>1)</sup>, 大木更一郎, 小野真平, 小川 令, 百束比古 (<sup>1)</sup> 北村山公立病院形成外科): 浅頸動脈穿通枝皮弁 (SCAP flap) による創傷再建の検討. 日本創傷外科学会総会・学術集会 (第 3 回) (札幌), 2011. 7.
  - 23) 石井暢明, 大木更一郎, 飯村剛史, 渡邊真泉, 百束比古, 中尾淳一<sup>1)</sup>, 小野真平<sup>2)</sup>, 渋谷偉織, 若林奈緒 (<sup>1)</sup> 会津中央病院形成外科, <sup>2)</sup> ミシガン大学形成外科): 創傷再建における穿通枝の利用について. 日本創傷外科学会総会・学術集会 (第 3 回) (札幌), 2011. 7.
  - 24) 若林奈緒, 渋谷偉織, 石井暢明, 百束比古: 注入による豊胸術後に無菌性膿瘍を来した 2 例. 日本美容外科学会学術集会 (第 111 回) (東京), 2011. 7.
  - 25) 野本俊一<sup>1)</sup>, 村上正洋<sup>1)</sup>, 百束比古 (<sup>1)</sup> 武蔵小杉病院形成外科): 顔面異物注入後遺症に関する検討と提言. 日本美容外科学会学術集会 (第 111 回) (東京), 2011. 7.
  - 26) 石井暢明, 百束比古: ラップ療法後感染を来し, 治癒に至らなかった仙骨部褥瘡の 1 例. 日本褥瘡学会学術集会 (第 13 回) (福岡), 2011. 8.
  - 27) 小川 令, 黄 晨昱, 赤石諭史, 百束比古: ケロイドの網羅的遺伝子発現解析およびシグナル伝達経路のバイオインフォマティクス解析. 癒痕・ケロイド治療研究会 (第 6 回) (東京), 2011. 8.
  - 28) 飯村剛史, 小野真平, 林 宏光<sup>1)</sup>, 中尾淳一, 土肥輝之, 赤石諭史, 百束比古 (<sup>1)</sup> 放射線科): MDCT による胸部ケロイドの生理学的血行動態の解析. 癒痕・ケロイド治療研究会 (第 6 回) (東京), 2011. 8.
  - 29) 栗林茂彦<sup>1)</sup>, 宮下次廣<sup>1)</sup>, 小澤由季子<sup>1)</sup>, 岩野茉莉絵<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 小川 令, 赤石諭史, 土肥輝之, 百束比古 (<sup>1)</sup> 放射線科): 高線量率小線源治療装置によるケロイドの術後照射. 癒痕・ケロイド治療研究会 (第 6 回) (東京), 2011. 8.
  - 30) 土佐真美子<sup>1)</sup>, 村上正洋<sup>1)</sup>, 百束比古 (<sup>1)</sup> 武蔵小杉病院形成外科): ケロイド発症年齢の検討. 癒痕・ケロイド治療研究会 (第 6 回) (東京), 2011. 8.
  - 31) 朝日林太郎, 大木更一郎, 渡邊真泉, 小川 令, 高見佳宏, 百束比古: 局所皮弁法が有用であった高齢の小陰唇癒着症の 1 例. 日本形成外科学会東京地方会 (第 267 回) (東京), 2011. 9.
  - 32) かづきれいこ<sup>1)</sup>, 百束比古 (<sup>1)</sup> REIKO KAZKI): 非手術療法としてのリハビリメイク®による顔の抗加齢美容. 日本美容外科学会総会 (第 34 回) (福岡), 2011. 9.
  - 33) 渋谷偉織, 奥田貴久, 百束比古, 平川慶子<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> NMR 研究施設): 極めて稀なシリコンオイルの注入による豊胸術後遺症の画像所見の検討. 日本美容外科学会総会 (第 34 回) (福岡), 2011. 9.
  - 34) Huang C, 宮崎邦夫<sup>1)</sup>, 赤石諭史, 百束比古, 小川 令 (<sup>1)</sup> 自治医科大学形成外科): ヒト由来線維芽細胞における伸展刺激の影響. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第 20 回) (東京), 2011. 10.
  - 35) 飯村剛史, George Y<sup>1)</sup>, 百束比古, Dennis O<sup>1)</sup>, 小川 令 (<sup>1)</sup> ハーバード大学プリガムウィメンズ病院形成外

- 科)：糖尿病性マウスにおける陰圧閉鎖療法の神経系に対する影響の解析. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第20回) (東京), 2011. 10.
- 36) 佐野仁美<sup>1,2)</sup>, Orbay H<sup>1)</sup>, 寺師浩人<sup>3)</sup>, 百東比古<sup>1)</sup>, 小川 令<sup>1)</sup> (1) 形成外科, 2) 東京大学大学院医学系研究科, 3) 神戸大学形成外科)：脂肪組織再生を目的としたヒト脂肪組織無細胞化技術の検討. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第20回) (東京), 2011. 10.
- 37) 小川 令, 渡邊 淳<sup>1)</sup>, 藤田京志<sup>1)</sup>, Huang C, 赤石論史, 百東比古, 島田 隆<sup>1)</sup> (1) ゲノム先端医療部)：ケロイドの局所的・全身的因子の多角的分析：一塩基多型・遺伝子発現解析とコンピューターシミュレーション. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第20回) (東京), 2011. 10.
- 38) 東 秀子, 岡井和久<sup>1)</sup>, 徳村文男<sup>2)</sup>, 森 和之<sup>1)</sup>, Huang C, 赤石論史, 百東比古, 小川 令 (1) ニチバン株式会社研究開発部, 2) ニチバン株式会社品質保証部)：皮膚の伸展・収縮とケロイド発生の関係. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第20回) (東京), 2011. 10.
- 39) 飯村剛史, 小野真平, 林 宏光<sup>1)</sup>, 中尾淳一, 土肥輝之, 赤石論史, 百東比古, 小川 令 (1) 放射線科)：MDCTおよびTcPO2による胸部ケロイドの生理学的血行動態の解析. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第20回) (東京), 2011. 10.
- 40) Huang C, 赤石論史, 百東比古, 小川 令)：組織学的にケロイドと肥厚性瘢痕は判別しうるか?. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第20回) (東京), 2011. 10.
- 41) 伊吾田慎一<sup>1)</sup>, 土佐眞美子<sup>2)</sup>, 枝川聖子<sup>3)</sup>, 清水 一<sup>3)</sup>, 村上正洋<sup>2)</sup>, 百東比古, ガジザデモハマッド<sup>3)</sup> (1) 東戸塚記念病院形成外科, 2) 武蔵小杉病院形成外科, 3) 武蔵小杉病院老人病研究所病理学部門)：Involvement Wnt signaling pathway in keloid pathogenesis. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第20回) (東京), 2011. 10.
- 42) Nakao J<sup>1,2)</sup>, Ono S<sup>2)</sup>, Hayashi H<sup>3)</sup>, Iimura T<sup>2)</sup>, Hyakusoku H<sup>2)</sup> (1) Aidu Central Hospital, 2) Dept. of Plast. Reconstr. Surg., 3) Dept. of Radiology)：MDCT Analysis of the Musculophrenic Artery Perforator (MPAP). International Course on Perforator Flaps (14th) (Seoul, Korea), 2011. 10.
- 43) Watanabe M, Ono S<sup>1)</sup>, Ogawa R, Takami Y, Hyakusoku H (1) University of Michigan Health System)：Study of Vascular Anatomy of Supercharged Occipito-cervico-pectoral Flap. International Course on Perforator Flaps (14th) (Seoul, Korea), 2011. 10.
- 44) Vu Q<sup>1)</sup>, Tran V<sup>1)</sup>, Nguyen G<sup>1)</sup>, Hyakusoku H, Ogawa R (1) Vietnam National Institute of Burn)：Bipedicled Free Thin Perforator Flaps Harvested From Dorsal Area for Face and Neck Reconstruction. International Course on Perforator Flaps (14th) (Seoul, Korea), 2011. 10.
- 45) Vu Q<sup>1)</sup>, Tran V<sup>1)</sup>, Nguyen G<sup>1)</sup>, Hyakusoku H<sup>2)</sup>, Ogawa R<sup>2)</sup> (1) Vietnam National Institute of Burn, 2) Dept. of Plast Reconstr Surg)：Perforator Supercharged Supreclavicular Flap for Neck Scar Contracture Reconstruction. International Course on Perforator Flaps (14th) (Seoul, Korea), 2011. 10.
- 46) Vu Q<sup>1)</sup>, Tran V<sup>1)</sup>, Nguyen G<sup>1)</sup>, Hyakusoku H, Ogawa R (1) Vietnam National Institute of Burn)：Versatility of Supercharged Occipito-Cervico-Dorsal “Super-thin Flap” in Burn Reconstructive Surgery. International Course on Perforator Flaps (14th) (Seoul, Korea), 2011. 10.
- 47) Dohi T, Akaishi S<sup>1)</sup>, Ogawa R, Ono S<sup>2)</sup>, Hyakusoku H (1) Stanford University, 2) The University of Michigan Health System)：Our Trials of Perforator Flap Surgery Performed for the Purpose of Tension Reduction. International Course on Perforator Flaps (14th) (Seoul, Korea), 2011. 10.
- 48) Kuwahara H, Ono S, Hyakusoku H)：Perforator Based Propeller Flaps in Upper Limb Soft Tissue Reconstruction. International Course on Perforator Flaps (14th) (Seoul, Korea), 2011. 10.
- 49) Nakao J<sup>1)</sup>, Ono S<sup>1)</sup>, Hayashi H<sup>2)</sup>, Iimura T<sup>1)</sup>, Hyakusoku H<sup>1)</sup> (1) Dept. of Plast. Reconstr. Surg., 2) Dept. of Radiology)：MDCT Analysis of the Musculophrenic artery perforator (MPAP). Japan-China Joint Congress on Plastic Surgery (21st) (Fukuoka), 2011. 11.

- 50) Wakabayashi N, Ishii N, Shibuya I, Ono S, Hyakusoku H : Complication of the polyacrylamide hydrogel injection for augmentation mammaplasty-aseptic abscess. Japan-China Joint Congress on Plastic Surgery (21st) (Fukuoka), 2011. 11.
- 51) Nagashima Y, Dohi T, Ogawa R, Akaishi S, Takami Y, Hyakusoku H : Reconstruction of othe severe chest keloids using the IMAP pedicled propeller flaps. Japan-China Joint Congress on Plastic Surgery (21st) (Fukuoka), 2011. 11.
- 52) Arima J, Huang C<sup>1)</sup>, Akaishi S, Dohi T, Kuribayashi S<sup>2)</sup>, Miyashita T<sup>2)</sup>, Hyakusoku H ( <sup>1)</sup> Meitan General Hospital, Beijing, China, <sup>2)</sup> Dept of Radiation Oncology) : Strategy for Treating Ear Keloids. Japan-China Joint Congress on Plastic Surgery (21st) (Fukuoka), 2011. 11.
- 53) Hyakusoku H<sup>1)</sup>, Asahi R<sup>1)</sup>, Ono S<sup>1, 2)</sup>, Ogawa R<sup>1)</sup>, Ishii N<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Dept of Plast Reconstr Surg, <sup>2)</sup> University of Michigan) : Clinical application of the perforator pedicled propeller flaps in the extremities. Japan-China Joint Congress on Plastic Surgery (21st) (Fukuoka), 2011. 11.
- 54) 野本俊一<sup>1)</sup>, 村上正洋<sup>1)</sup>, 百東比古, 秋元正宇<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院形成外科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院形成外科) : 粉瘤摘出の新しい作図法 - 有限要素法によるドッグイヤー解析から -. 日本シミュレーション外科学会 (第21回) (大阪), 2011. 11.
- 55) 江浦重義, 渡邊真泉, 香西達一<sup>1)</sup>, 大木更一郎, 百東比古 ( <sup>1)</sup> 高度救命救急センター) : 膝窩動脈損傷を伴う下腿開放骨折を遊離広背筋皮弁にて再建した1例. 日本マイクロサージャリー学会学術集会 (第38回) (新潟), 2011. 11.
- 56) 渡邊真泉, 小野真平<sup>1)</sup>, 中尾淳一, 飯村剛史, 小川 令, 高見佳宏, 百東比古 ( <sup>1)</sup> ミシガン大学形成外科) : Supercharged Occipito-Cervico-Pectoral (OCP) Flap の血管解剖学的検討 - Perforator supercharged flap の有用性と可能性 -. 日本マイクロサージャリー学会学術集会 (第38回) (新潟), 2011. 11.
- 57) 飯村剛史, 小野真平<sup>1)</sup>, 林 宏光<sup>2)</sup>, 中尾淳一, 土肥輝之, 小川 令, 百東比古 ( <sup>1)</sup> ミシガン大学形成外科, <sup>2)</sup> 放射線科) : MDCT による前胸部・上腹部穿通枝の血管解剖学的検討. 日本マイクロサージャリー学会学術集会 (第38回) (新潟), 2011. 11.
- 58) 土肥輝之, 小川 令, 赤石諭史<sup>1)</sup>, 高見佳宏, 小野真平<sup>2)</sup>, 百東比古 ( <sup>1)</sup> スタンフォード大学形成外科, <sup>2)</sup> ミシガン大学形成外科) : 穿通枝茎プロペラ皮弁によるケロイドの治療. 日本マイクロサージャリー学会学術集会 (第38回) (新潟), 2011. 11.
- 59) 石井暢明, 渋谷偉織, 若林奈緒, 百東比古, 天海恵子<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 北村山公立病院形成外科) : Advancement Muscle Pedicled Propeller (MPP) Flap による上腹部再建の1例 : MPP についての考察. 日本マイクロサージャリー学会学術集会 (第38回) (新潟), 2011. 11.
- 60) 江浦重義, 大木更一郎, 渡邊真泉, 小川 令, 小野真平<sup>1)</sup>, 百東比古 ( <sup>1)</sup> ミシガン大学形成外科) : Supercharging Propeller Flap Method の3例. 日本マイクロサージャリー学会学術集会 (第38回) (新潟), 2011. 11.
- 61) 小川 令, 百東比古, 小野真平<sup>1)</sup>, 水野博司<sup>2)</sup>, Vu Q<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> ミシガン大学形成外科, <sup>2)</sup> 順天堂大学形成外科, <sup>3)</sup> ベトナム国立熱傷研究所) : Supercharging Superthin Flap による顔面・頸部再建の海外における発展. 日本マイクロサージャリー学会学術集会 (第38回) (新潟), 2011. 11.
- 62) 百東比古, 小川 令, Vu Q<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> ベトナム国立熱傷研究所) : 双茎完全遊離超薄皮弁による顔面再建. 日本マイクロサージャリー学会学術集会 (第38回) (新潟), 2011. 11.
- 63) 朝日林太郎, 大木更一郎, 江浦重義, 渡邊真泉, 小川 令, 高見佳宏, 百東比古 : 陳旧性顔面骨骨折眼窩陥凹に対する腸骨移植による眼窩深部形態の再建. 日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会 (第29回) (東京), 2011. 11.
- 64) 久保一人<sup>1)</sup>, 秋元正宇<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 会津中央病院形成外科, <sup>2)</sup> 千葉北総病院形成外科) : 顔面外科における Square flap principle の意義. 日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会 (第29回) (東京), 2011. 11.
- 65) 江浦重義, 小川 令, 天海恵子, 百東比古 : 血管吻合を要さない SCAP 付加 OCD 皮弁による顔面状癩痕の re-

- surfacing. 日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会 (第 29 回) (東京), 2011. 11.
- 66) 中馬隆広<sup>1)</sup>, 増本和之<sup>1)</sup>, 原田慶美<sup>1)</sup>, 信太 薫<sup>1)</sup>, 飯村剛史<sup>2)</sup>, 上村哲司<sup>1)</sup> (1) 佐賀大学医学部形成外科, 2) 形成外科): 顔面正中部の局所皮弁を組み合わせた鼻部再建の 1 例. 日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会 (第 29 回) (東京), 2011. 11.
- 67) 香西達一<sup>1)</sup>, 秋元正宇<sup>1)</sup>, 橋田絵里香<sup>1)</sup>, 細矢 慶<sup>2)</sup>, 百束比古 (1) 千葉北総病院形成外科, 2) 千葉北総病院耳鼻咽喉科): 鼻中隔強制術後, 鼻孔部に生じたケロイド様腫瘍の著明な肥厚により鼻孔閉鎖を生じた 1 例. 日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会 (第 29 回) (東京), 2011. 11.
- 68) 大木更一郎, 朝日林太郎, 渡邊真泉, 江浦重義, 小川 令, 高見佳宏, 百束比古: 眼窩下壁形態に関する DICOM データを用いた解析: 第 1 報; 眼窩軸位断面の形態および下直筋走行との関連. 日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会 (第 29 回) (東京), 2011. 11.
- 69) 大木更一郎, 朝日林太郎, 渡邊真泉, 江浦重義, 小川 令, 高見佳宏, 百束比古: 眼窩下壁形態に関する DICOM データを用いた解析: 第 2 報; 副鼻腔重填 3D 実体モデルおよび眼窩下壁傾斜断面の解析. 日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会 (第 29 回) (東京), 2011. 11.
- 70) 小川 令, 渡邊 淳<sup>1)</sup>, 藤田京志<sup>1)</sup>, 赤石論史, 百束比古, 島田 隆<sup>1)</sup> (1) ゲノム先端医療部): ケロイドの一塩基多型 (SNPs) 解析: ケロイドのオーダーメイド医療・体質診断法の確立へ向けて. 日本創傷治癒学会 (第 41 回) (愛知), 2011. 12.
- 71) 秋山 豪, 高見佳宏, 長嶋有紀, 土肥輝之, 百束比古, 宮本正章<sup>2)</sup> (1) 再生医療科): 感染症重症足趾壊疽に対する当院での治療戦略と形成外科の役割. 日本創傷治癒学会 (第 41 回) (愛知), 2011. 12.
- 72) 石井暢明, 百束比古: 創傷治癒におけるラップ療法の弊害: 合併症の 1 例から. 日本創傷治癒学会 (第 41 回) (愛知), 2011. 12.
- 73) Ono S<sup>1,2)</sup>, Lin P<sup>3)</sup>, Sebastin S<sup>4)</sup>, Bellfi L<sup>2)</sup>, Chang K<sup>2)</sup>, Chung K<sup>5)</sup> (1) Dept. of Plast Reconstr Surg, 2) University of Michigan Health System, 3) Chung Gung Memorial Hospital and Kaohsiung Medical Center, 4) National University Health System, 5) University of Michigan Medical Center): A Systematic Review of Outcomes of Toe-to-Thumb Transfers for Isolated Traumatic Thumb Amputation. Annual Meeting of the American Society for Surgery of the Hand (66th) (Las Vegas, USA), 2011. 9.
- 74) Ono S<sup>1,2)</sup>, Sebastin S<sup>3)</sup>, Yazaki N, Hyakusoku H<sup>1)</sup>, Chung K<sup>4)</sup> (1) Dept. of Plast Reconstr Surg, 2) University of Michigan Health System, 3) National University Health System, 4) University of Michigan Medical Center): Perforator-based propeller flaps in upper limb soft tissue reconstruction. Annual Meeting of the American Society for Surgery of the Hand (66th) (Las Vegas, USA), 2011. 9.
- 75) 長嶋有紀, 秋山 豪, 土肥輝之, 高見佳宏, 百束比古: 膚難治性潰瘍に対する人工真皮を用いた保存的治療. 日本形成外科学会東京地方会 (第 268 回) (東京), 2011. 12.
- 76) 江浦重義, 大木更一郎, 小川 令, 小野真平<sup>1)</sup>, 百束比古 (1) ミシガン大学形成外科): プロペラ皮弁の長翼を延長拡大する方法. 日本形成外科手術手技学会 (第 17 回) (東京), 2012. 2.
- 77) 佐藤和夫: IncobotulinumtoxinA (XEOMIN®) についての検証: Botulinum neurotoxin type A-free of complexing proteins. 日本美容外科学会学術集会 (第 113 回) (東京), 2012. 1.
- 78) 若林奈緒, 石井暢明, 渋谷偉織, 高見佳宏, 百束比古: メーカー皮弁などで再建した幼少時に眼周囲にマフラー熱傷を受けた 1 成人例. 日本熱傷学会関東地方会 (第 20 回) (東京), 2012. 1.
- 79) 杉本貴子, 江浦重義, 桑原大彰, 飛田護邦, 百束比古: 指壊死を伴った上肢 Buerger 病の 1 例. 日本形成外科学会東京地方会 (第 268 回) (東京), 2012. 3.
- 80) 秋山 豪, 杉本貴子, 小川 令, 百束比古: 外陰部脂肪腫の 2 症例. 日本形成外科学会東京地方会 (第 268 回) (東京), 2012. 3.
- 81) 有馬樹里, 石井暢明, 渋谷偉織, 若林奈緒, 百束比古: ハイドロシキアパタイトを含む生体内埋入材後遺症の 2

- 例. 日本形成外科学会東京地方会 (第 268 回) (東京), 2012. 3.
- 82) Watanabe M, Akaishi S, Dohi T, Hyakusoku H, Ogawa R : The Effect of Radiation on Prevention and Treatment of Abnormal Scarring : Analysis of 400 Keloid Cases. Wound Healing Society Annual Meeting 2011 (Dallas), 2011. 4.
  - 83) Huang C, Miyazaki K, Akaishi S, Hyakusoku H, Ogawa R : Biological Effects of Cellular Stretch on Human Dermal Fibroblasts. Wound Healing Society Annual Meeting 2011 (Dallas), 2011. 4.
  - 84) Huang C, Akaishi S, Hyakusoku H, Ogawa R : Can The Clinically Separated Hypertrophic Scar and Keloid Be Successive Under The Microscope? : Fibroproliferative Skin Disorder Hypothesis. Wound Healing Society Annual Meeting 2011 (Dallas), 2011. 4.
  - 85) Ogawa R, Vu Q, Tran V, Ono S, Hyakusoku H : Face and Neck Reconstruction using Perforator Supercharged Thin Flaps. Congress of the World Society for Reconstructive Microsurgery (6th) (Helsinki), 2011. 6.
  - 86) Watanabe M, Ogawa R, Ono S, Vinh Q, Tran V, Oki K, Eura S, Hyakusoku H : Usefulness of Perforator Supercharged Flaps. Congress of the World Society for Reconstructive Microsurgery (6th) (Helsinki), 2011. 6.
  - 87) Sano H<sup>1)</sup>, Orbay H, Terashi H, Hyakusoku H, Ogawa R (<sup>1)</sup> Department of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery, Kobe University) : The acellular adipose matrix as a natural scaffold for tissue. International Conference on Adipose Tissue (1st) (Venice), 2011. 12.
  - 88) Huang C, Akaishi S, Dohi T, Hyakusoku H, Ogawa R : Mechanobiology-Guided pathological Scar Managements. International Symposium on Mechanobiology (1st) (Shanghai), 2011. 11.
  - 89) Huang C, Miyazaki K, Akaishi S, Hyakusoku H, Ogawa R : Biological Effects of Cellular Stretch on Human Dermal Fibroblasts. International Symposium on Mechanobiology (1st) (Shanghai), 2011. 11.
  - 90) Mizuno S<sup>1)</sup>, Ogawa R, Minas T<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Orthopedic Surgery, Brigham and Women's Hospital, Boston, USA) : Distortional Stress Inhibits Upregulation of ECMs and TGF-beta Genes by Hydrostatic Pressure in Human Articular Chondrocytes. Annual Meeting of the Orthopaedic Research Society (58th) (San Francisco, CA), 2012. 1.
  - 91) Nagashima Y, Okai K<sup>1)</sup>, Tokumura F<sup>1)</sup>, Mori K<sup>1)</sup>, Ohmori Y, Huang C, Akaishi S, Hyakusoku H, Ogawa R (<sup>1)</sup> Nichiban Co., Ltd., Tokyo, Japan) : The Relationship between Skin Stretching / Contraction and pathological Scarring. SCAR Meeting (4th) (Montpellier), 2012. 3.
  - 92) Watanabe M, Akaishi S, Dohi T, Hyakusoku H, Ogawa R : Strategy for Treating Ear Keloids. SCAR Meeting (4th) (Montpellier), 2012. 3.
  - 93) Hyakusoku H, Vinh Q<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Vietnam National Institute of Burns) : Completely free bipediced superthin flaps. Plastic and Reconstructive SurgeryCongress of Dong-Gang, China (Dong-Gang, China), 2012. 3.
  - 94) Kuwahara H, Ishii N, Eura S, Hyakusoku H : New development of the propeller flapmethod : Supercharging, muscle pedicled and modified propeller flap. Plastic and Reconstructive SurgeryCongress of Dong-Gang, China (Dong-Gang, China), 2012. 3.
  - 95) Dohi T, Ogawa R, Hyakusoku H : Reconstruction of the keloid excision tissue defects using perforator pedicled propeller flaps. Plastic and Reconstructive SurgeryCongress of Dong-Gang, China (Dong-Gang, China), 2012. 3.
  - 96) Wakabayashi N, Shibuya I, Hyakusoku H : Complications of the injection mammoplasty : Hydrocarbon, Silicone, Fat, Hydrogel. Plastic and Reconstructive SurgeryCongress of Dong-Gang, China (Dong-Gang, China), 2012. 3.

97) Yang S<sup>1)</sup>, Ono S<sup>2)</sup>, Hyakusoku H ( <sup>1)</sup> Dept of Plast Surg Don-gang Kanhua Hospital, <sup>2)</sup> Section of Plastic Surgery, Department of Surgery, The University of Michigan Health System) : Application of MDCT in Perforator Flap Planning. Plastic and Reconstructive Surgery Congress of Dong-Gang, China (China), 2012. 3.

(11) 主題演題 :

- 1) 高見佳宏<sup>1)</sup>, Orbay H<sup>1)</sup>, 秋山 豪<sup>1)</sup>, 長嶋有紀<sup>1)</sup>, 土肥輝之<sup>1)</sup>, 小野真平<sup>1)</sup>, 山口 亮<sup>2)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 形成外科, <sup>2)</sup> (株) BCS<sup>2)</sup> ) : 脂肪組織由来幹細胞と無細胞真皮マトリックスによる腱組織再生. 日本創傷治療学会 (第41回) (愛知), 2011. 12.

## [武蔵小杉病院形成外科]

### 研究概要

臨床: 1) ケロイド・肥厚性瘢痕: 6年目に入った手術後ケロイドおよび肥厚性瘢痕の予防を目的とした scar control 外来は, 受診者数が2500を超えた. 今年度は現在までの成果をもとに, 術後早期からのトラニラスト内服治療やシリコンジェルシート治療などの効果についての新たな検討を開始した. また, ステロイド局所注射の際の強い疼痛を和らげるための前処置の工夫を行った. さらに, 難治性のアクネケロイドに対してはLEDを用いた光線力学療法を併用することで, 治療効果をあげた. 2) 褥瘡・下腿潰瘍などの難治性潰瘍: 一般の局所治療に加え前述の光線力学療法や近年になり保険収載可能となった局所陰圧閉鎖療法を積極的にを行い上皮化促進効果を得ている. 3) 重症下肢虚血: 血管内・低侵襲治療センターおよび内科と協力体制を構築し救肢に務めている. 4) 眼形成外科: 近隣の眼科からの紹介が増え, 手術数も年々増加している. 今後はさらに眼科とコラボレーションし, より質の高い治療を行いたいと考えている. 基礎: ケロイドの発生機序の解明と特効薬の開発を目的とした基礎研究を継続している. われわれは, ケロイド発生にIL-6シグナルが関与していることを明らかにしてきたが, その研究を進展させ, IL-6シグナルに持続的な刺激を与えている可能性があるTh17(helper T cell)の働きについて新たな研究を行っている. さらに, ケロイドにおけるWntシグナルやEMTなどの解析やケロイドモデルの作成を試み, ケロイド発生原因の解明および新治療の開発を目指している.

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著 :

- 1) 村上正洋, 小川 令<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科) : 下肢の瘢痕・瘢痕拘縮に対する修復. PEPARS 2011 ; 57 : 53-60.
- 2) 村上正洋, 岩切 致, 百束比古<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科) : 腋窩・頸部における local flap method. PEPARS 2011 ; 58 : 73-82.
- 3) 土佐真美子, 村上正洋, 朝倉啓文<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院 女性診療科) : 産婦人科手術後瘢痕の予測とその対応. 産婦人科治療 2011 ; 103 (6) : 659-664.
- 4) 桑原大彰, 土佐真美子, 岩切 致, 田嶋繭子, 百束比古<sup>1)</sup>, 村上正洋 ( <sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科) : ケロイド類似疾患の検討. 瘢痕・ケロイド治療研究ジャーナル 2011 ; 5 : 96-98.
- 5) 土佐真美子, ガジザデモハマッド<sup>1)</sup>, 村上正洋, 百束比古<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 老人病研究所病理部門, <sup>2)</sup> 付属病院 形成外科・美容外科) : ケロイドにおける IL-6シグナルの機能解析. 瘢痕・ケロイド治療研究ジャーナル 2011 ; 5 : 29-31.
- 6) 伊吾田慎一<sup>1)</sup>, 土佐真美子, 村上正洋, 清水 一<sup>2)</sup>, 枝川聖子<sup>2)</sup>, 百束比古<sup>3)</sup>, ガジザデモハマッド<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 東戸塚記念病院形成外科, <sup>2)</sup> 老人病研究所病理部門, <sup>3)</sup> 付属病院形成外科) : ケロイドにおける Wntシグナルの役割. 瘢痕・ケロイド治療研究ジャーナル 2011 ; 5 : 61-62.
- 7) Ghazizadeh R<sup>1)</sup>, Tosa M, Ghazizadeh M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Academic Dermatology and Skin Cancer in Institute, East

Washington Street, Chicago, Illinois, USA, <sup>2)</sup>Department of Molecular Pathology Institute of Development and Aging Science, Nippon Medical School) : Clinical improvement in psoriasis with treatment of associated hyperlipidemia. Am J Med Sci 2011 ; 341 (5) : 394-398.

- 8) Nomoto S, Ogawa R<sup>1)</sup>, Eura S<sup>1)</sup>, Hashimoto S<sup>1)</sup>, Kimura H<sup>1)</sup>, Hyakusoku H<sup>1)</sup>, Mizuno H<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Plastic Reconstructive and Aesthetic Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan, <sup>2)</sup> 順天堂大学 形成外科) : A Late Complication of Breast Augmentation With 2 Different Types of Injectable Materials. ePlasty 2011 ; 11 (e19) : 167-170.
- 9) 百束比古<sup>1)</sup>, 村上正洋 ( <sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科) : 4. 小児のやけど (熱傷) : 治療後の諸問題. 小児科 2012 ; 53 (2) : 161-166.
- 10) 桑原大彰<sup>1)</sup>, 岩切 致, 百束比古<sup>1)</sup>, 村上正洋 ( <sup>1)</sup> 付属病院形成外科・美容外科) : 深在性エリテマトーデスによる顔面陥凹変形に対し深下腹壁動脈真皮脂肪弁を施行した1症例. 日本マイクロ会議 (J.Jpn.S.R.M.) 2012 ; 25 (1) : 48-52.

## 著 書

- 1) 岩切 致, 村上正洋 : [分担] 形成外科で使用する手術器械・手術材料と使い方. アトラス形成外科手術手技 患者の疑問に答える Q&A 付き (百束比古 水野博司 青木律), 2011 ; pp8-11, 中外医学社.
- 2) 野本俊一 : [分担] 開放と巾着縫合. アトラス形成外科手術手技 患者の疑問に答える Q&A 付き (百束比古 水野博司 青木律), 2011 ; pp17-18, 中外医学社.
- 3) 土佐真美子 : [分担] スカーコントロール外来からの提言. アトラス形成外科手術手技 患者の疑問に答える Q&A 付き (百束比古 水野博司 青木律), 2011 ; pp19-21, 中外医学社.
- 4) 村上正洋 : [分担] 皮膚欠損の修復法 a) 遊離植皮. アトラス形成外科手術手技 患者の疑問に答える Q & A 付き (百束比古 水野博司 青木律), 2011 ; pp37-45, 中外医学社.
- 5) 岩切 致, 村上正洋 : [分担] 耳の外傷と軟骨炎. アトラス形成外科手術手技 患者の疑問に答える Q&A 付き (百束比古 水野博司 青木律), 2011 ; pp94-96, 中外医学社.
- 6) 梅澤裕己<sup>1)</sup>, 村上正洋 ( <sup>1)</sup> 付属病院形成外科) : [分担] 褥瘡の治療について. アトラス形成外科手術手技 患者の疑問に答える Q&A 付き (百束比古 水野博司 青木律), 2011 ; pp134-139, 中外医学社.
- 7) 村上正洋 : [分担] 年々まぶたが重くなる. アトラス形成外科手術手技 患者の疑問に答える Q&A 付き (百束比古 水野博司 青木律), 2011 ; pp180-184, 中外医学社.
- 8) 村上正洋 : [分担] 眉毛下皮膚切除. 新 ES NOW No.9 続・外来小手術 ココが知りたい! Q&A (山本哲也 江口秀一郎 ビッセン宮島弘子 門之園一明), 2012 ; pp59-63, メジカルビュー社.

## 学会発表

### (1) 教育講演 :

- 1) 村上正洋 : 上眼瞼の退行性疾患に対する眼形成外科手術 : 眼科と形成外科の接点を求めて. 日本臨床眼科学会 (第 65 回) (東京), 2011. 10.
- 2) 土佐真美子 : 手術の傷跡ビフォー・アフター. 日本女性医学学会 (第 17 回) (神奈川), 2012. 2.

### (2) シンポジウム :

- 1) 村上正洋 : 下顎骨骨折の治療法の選択 (下顎骨骨折の診断と治療). 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 54 回) (徳島), 2011. 4.
- 2) 土佐真美子, ガジザデモハマッド<sup>1)</sup>, 村上正洋, 百束比古<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 老人病研究所病理部門, <sup>2)</sup> 付属病院 形成外科・美容外科) : 炎症的側面と腫瘍的側面を持つケロイドに対する基礎的アプローチ (炎症的側面と腫瘍的側面を持つケロイド・肥厚性瘢痕研究の総合的アプローチ). 日本形成外科学会基礎学術集会 (第 20 回) (東京), 2011.

10.

(3) パネルディスカッション：

- 1) 村上正洋, 秋元正宇<sup>1)</sup>, 野本俊一, 百束比古<sup>2)</sup> (1) 千葉北総病院 形成外科, 2) 附属病院 形成外科・美容外科)：シミュレーションから見た Less dog ear を目指した皮膚良性腫瘍・母斑の治療法. 日本創傷外科学会総会・学術集会 (第3回) (北海道), 2011. 7.
- 2) 土佐眞美子, 村上正洋, 百束比古<sup>1)</sup> (1) 附属病院 形成外科・美容外科)：ケロイド発生部位別の治療戦略の検討. 日本創傷外科学会総会・学術集会 (第3回) (北海道), 2011. 7.

(4) ワークショップ：

- 1) 青木 律<sup>1, 3)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup>, 村上正洋 (1) グリーンウッドスキンクリニック立川, 2) 附属病院 形成外科・美容外科, 3) 日医大 形成外科非常勤講師)：社会復帰に向けた患者のリハビリテーション. 日本熱傷学会総会・学術集会 (第37回) (東京), 2011. 6.

(5) ポスター：

- 1) ガジザデモハマッド<sup>1)</sup>, 清水 一<sup>1)</sup>, 伊吾田慎一<sup>1, 2)</sup>, 枝川聖子<sup>1)</sup>, 土佐眞美子 (1) 老人病研究所分子病理部門, 2) 東戸塚病院 形成外科)：Involvement of Wnt signaling pathway in abnormal wound healing. 日本創傷外科学会総会・学術集会 (第3回) (北海道), 2011. 7.
- 2) 伊吾田慎一<sup>1, 2)</sup>, ガジザデモハマッド<sup>2)</sup>, 土佐眞美子, 清水 一<sup>2)</sup>, 枝川聖子<sup>2)</sup>, 岩切 致, 村上正洋, 小川 令<sup>3)</sup>, 百束比古<sup>3)</sup> (1) 東戸塚記念病院 形成外科, 2) 老人病研究所分子病理部門, 3) 附属病院 形成外科)：顔面の組織欠損に対する再建方法の検討. 日本創傷外科学会総会・学術集会 (第3回) (北海道), 2011. 7.
- 3) 野本俊一, 村上正洋, 百束比古<sup>1)</sup>, 秋元正宇<sup>2)</sup> (1) 附属病院形成外科・美容外科, 2) 千葉北総病院形成外科)：粉瘤摘出の新しい作図法：有限要素法によるドッグイヤー解析から. 日本創傷外科学会総会・学術集会 (第3回) (北海道), 2011. 7.
- 4) 土佐眞美子, 村上正洋, 百束比古<sup>1)</sup> (1) 附属病院 形成外科・美容外科)：ピアス孔再作成を希望した耳垂ピアスケロイド患者の検討：症例数の変化と電子線治療後のケロイド再発率. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第54回) (徳島), 2011. 4.
- 5) 大木更一郎<sup>1)</sup>, 村上正洋, 百束比古<sup>1)</sup>, 川井 真<sup>2)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup> (1) 附属病院形成外科, 2) 附属病院高度救急救命センター)：救命と形成のコラボレーションの追求救急部への長期出向を体験して… . 日本熱傷学会総会・学術集会 (第37回) (東京), 2011. 6.
- 6) 村上正洋, 秋元正宇<sup>1)</sup>, 野本俊一, 百束比古<sup>2)</sup> (1) 千葉北総病院形成外科, 2) 附属病院形成外科・美容外科)：ドッグイヤーからみた V-Y 前進皮弁の適切な作図方法：有限要素法による解析から. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第20回) (東京), 2011. 10.
- 7) 藪野雄大, 田嶋繭子, 桑原大彰, 岩切 致, 土佐眞美子, 村上正洋：植皮をせずに行った合趾症手術. 日本医科大学医学会 (第79回) (東京), 2011. 9.
- 8) 村上正洋, 奈良慎平, 桑原大彰, 田嶋繭子, 百束比古<sup>1)</sup> (1) 附属病院 形成外科・美容外科)：牽引筋腱膜縫着術と眼輪筋短縮術を併用した退行性下眼瞼内反症手術. 日本医科大学医学会 (第79回) (東京), 2011. 9.
- 9) 野本俊一, 村上正洋, 百束比古<sup>1)</sup> (1) 附属病院 形成外科・美容外科)：他院美容外科での後遺症患者における社会的問題点に関する検討. 日本医科大学医学会 (第79回) (東京), 2011. 9.
- 10) 野本俊一, 村上正洋, 百束比古<sup>1)</sup> (1) 附属病院 形成外科・美容外科)：顔面ファイラー注入後の後遺症患者における社会的問題点に関する検討. 日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会 (第29回) (東京), 2011. 11.

(6) 一般講演：

- 1) 田嶋繭子, 村上正洋, 岩切 致, 土佐眞美子, 桑原大彰：V.A.C.ATS® 治療システム使用後に全身状態の悪化をきたした症例の検討：装着の適応と治療中止時期について. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第54回) (徳島), 2011. 4.

- 2) 野本俊一, 小川 令<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 小野真平<sup>2)</sup>, 水野博司<sup>3)</sup> (1) 附属病院 形成外科, 2) ミシガン大学 形成外科, 3) 順天堂大学 形成外科) : 他医により行われた顔面異物注入後遺症の検討と提言. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 54 回) (徳島), 2011. 4.
- 3) 桑原大彰, 村上正洋, 黒田周一<sup>2)</sup>, 石井暢明<sup>1)</sup>, 小野真平<sup>3)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup> (1) 附属病院形成外科・美容外科, 2) 大浜第一病院形成外科, 3) ミシガン大学形成外科) : 深筋膜レベルの穿通枝を茎としたプロペラ皮弁による 2 例の上腕難治性潰瘍再建. 日本形成外科学会総会・学術集会 (第 54 回) (徳島), 2011. 4.
- 4) 土佐真美子, 松下幸夫<sup>1)</sup>, 松下伸広<sup>2)</sup>, 渡辺友亮<sup>3)</sup>, 村上正洋, 平井紀光<sup>4)</sup> (1) (株) 日本システム研究所, 2) 東京工業大学セラミック研究所, 3) 明治大学理工学部, 4) 横浜桐蔭大学医工学部臨床工学科) : ケロイド治療効果についての新しい評価システム開発の試み: 治療経過における分光特性の変化について. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第 20 回) (東京), 2011. 10.
- 5) 伊吾田慎一<sup>1)</sup>, 土佐真美子, 枝川聖子<sup>2)</sup>, 清水 一<sup>2)</sup>, 村上正洋, 百束比古<sup>3)</sup>, モハマッドガジザデ<sup>2)</sup> (1) 東戸塚記念病院 形成外科, 2) 老人病研究所病理学部門, 3) 附属病院 形成外科) : Involvement Wnt signaling pathway in keloid pathogenesis. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第 20 回) (東京), 2011. 10.
- 6) 土佐真美子, 村上正洋, 百束比古<sup>1)</sup> (1) 附属病院 形成外科・美容外科) : ケロイド発症年齢の検討. 癬痕・ケロイド治療研究会 (第 6 回) (東京), 2011. 8.
- 7) 野本俊一, 村上正洋, 百束比古<sup>1)</sup>, 秋元正宇<sup>2)</sup> (1) 附属病院形成外科・美容外科, 2) 千葉北総病院形成外科) : 粉瘤摘出の新しい作図法: 有限要素法によるドッグイヤー解析から. 日本シュミレーション外科学会 (第 21 回) (大阪), 2011. 11.
- 8) 野本俊一, 村上正洋, 百束比古<sup>1)</sup> (1) 附属病院 形成外科・美容外科) : 顔面異物注入後遺症に関する検討と提言. 日本美容外科学会学術集会 (第 111 回) (東京), 2011. 7.
- 9) 金城忠志<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 橘和聡文<sup>2)</sup>, 一色彩子<sup>2)</sup>, 山口香織<sup>2)</sup>, 清水康弘<sup>2)</sup>, 安藤 順<sup>2)</sup>, 市川太郎<sup>2)</sup>, 上田達夫<sup>3)</sup>, 織井恒安<sup>4)</sup>, 土佐真美子 (1) 武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, 2) 武蔵小杉病院放射線科, 3) 武蔵小杉病院心臓血管外科, 4) 附属病院放射線科) : 血管内治療が奏功した耳下腺領域 AVM の 1 例. 日本血管内治療学会総会 (第 17 回) (沖縄), 2011. 6.

## [千葉北総病院形成外科]

### 研究概要

ケロイドの進展機序に関するコンピューターシミュレーションの研究, 頭蓋顔面外科領域とくに脳神経外科との境界領域における頭蓋再建術の研究に成果があった. 皮膚手術シミュレーションの研究は, 様々な皮膚形成術をモデル化し, 手術シミュレーションを行うものである. 皮膚形成術により発生する皮膚の進展, 圧縮変形, 応力, ひずみなどを解析しその構造力学的挙動を解明した. 皮弁形成術のデザインは熟練医の経験と勘によることが多かった. これを客観的に示し誰にでもできるようにするために皮膚形成術の従来法を構造力学的に評価した. 褥瘡発生機序の研究は褥瘡モデルを作成し様々な力学的条件からその発生機序を解明するものである. これらの結果から褥瘡発生予防効果の高いシートの形状を考察した. 今後褥瘡発生予防のための新しい器具の開発, 褥瘡再発防止効果の高い新しい手術法の開発等が期待できる. ケロイドの進展機序に関する研究はケロイドをモデル化し応力集中の状況からその進展機序を解明しようとするものである. 従来のモデルでは説明のできなかつた様々ケロイドの特性について構造力学的に解析した. さらにケロイドの進展予防のためのシリコンシートの作用機序について解明を試みた. 頭蓋顔面外科領域の再建の研究では自家組織による再建を中心として整容的にも考慮した術式を考案した. とくに肋骨によるフレームを用いることによって効果的に小児の頭蓋を再建することに成功した. また頭蓋骨外板を分節上に切離しさらにこれを皮弁として用いることで形態再建に優れた術式を開発した.

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Kominami S<sup>1)</sup>, Watanabe A<sup>1)</sup>, Akimoto M, Kobayasi S<sup>1)</sup>, Teramoto A<sup>2)</sup> (1) 千葉北総病院脳神経外科, 2) 付属病院脳神経外科) : Superficial temporal arteriovenous fistula as a complication of rhytidectomy. J Craniofac Surg 2012 ; 23 (2) : 603-605.
- 2) 太組一朗<sup>1)</sup>, 秋元正宇 (1) 武蔵小杉病院脳神経外科) : ハイドロキシアパタイト (特集) 最新の治療デバイス 体内留置デバイス. クリニカルニューロサイエンス 2011 ; 29 (4) : 450-451.

#### (2) 総説：

- 1) 秋元正宇 : Z 形成術とそのバリエーション. PEPARS 2011 ; 58 (10) : 1-9.

### 著書

- 1) 秋元正宇 : [編集] Local flap method. Local flap method (PEPARS No.58) (秋元正宇), 2011 ; 全日本病院出版会.
- 2) 秋元正宇 : [分担] 形成外科の縫合法. アトラス形成外科手術手技 (百東比古 水野博司 青木律), 2011 ; pp12-16, 中外医学社.

### 学会発表

#### (1) 教育講演：

- 1) 秋元正宇 : 統計の基本と統計ソフトウェア. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第 20 回) (東京), 2011. 10.

#### (2) シンポジウム：

- 1) 秋元正宇, 百東比古<sup>1)</sup> (1) 付属病院形成外科) : 有限要素解析による菱形皮弁のシミュレーション. 日本シミュレーション外科学会 (第 21 回) (大阪), 2011. 11.

#### (3) パネルディスカッション：

- 1) 秋元正宇 : 単純縫合か局所皮弁か, コンピュータシミュレーションから最適解を求める. 日本創傷外科学会 (第 3 回) (札幌), 2011. 7.

#### (4) 一般講演：

- 1) 香西達一, 秋元正宇, 橋田絵里香, 小町太郎<sup>1)</sup>, 百東比古<sup>2)</sup> (1) 千葉北総病院耳鼻咽喉科, 2) 付属病院形成外科・美容外科) : 鼻中隔矯正術後, 鼻孔部に生じたケロイド様腫瘍の著明な肥厚により鼻孔閉鎖を生じた 1 例. 日本頭蓋顎顔面外科学会 (第 29 回) (東京), 2011. 11.
- 2) 野本俊一<sup>1)</sup>, 村上正洋<sup>1)</sup>, 秋元正宇, 百東比古<sup>2)</sup> (1) 武蔵小杉病院形成外科, 2) 付属病院形成外科・美容外科) : 粉瘤摘出の新しい作図法—有限要素法によるドッグイヤー解析から—. 日本シミュレーション外科学会 (第 21 回) (大阪), 2011. 11.
- 3) 久保一人<sup>1)</sup>, 秋元正宇, 百東比古<sup>2)</sup> (1) 会津中央病院形成外科, 2) 付属病院形成外科・美容外科) : 顔面外科における Square flap principle の意義. 日本頭蓋顎顔面外科学会 (第 29 回) (東京), 2011. 11.
- 4) 太組一朗<sup>1)</sup>, 秋元正宇, 寺本 明<sup>2)</sup> (1) 武蔵小杉病院脳神経外科, 2) 付属病院脳神経外科) : 脳神経外科手術後チタンプレートトラブル症例の検討. 日本脳神経外科学会学術総会 (第 70 回) (横浜), 2011. 10.
- 5) 太組一朗<sup>1)</sup>, 秋元正宇, 寺本 明<sup>2)</sup> (1) 武蔵小杉病院脳神経外科, 2) 付属病院脳神経外科) : 脳神経外科手術後にみられるチタントラブル症例の検討. 日本整容脳神経外科研究会 (第 5 回) (大阪), 2012. 3.
- 6) 村上正洋<sup>1)</sup>, 秋元正宇, 野本俊一<sup>1)</sup>, 百東比古<sup>2)</sup> (1) 武蔵小杉病院形成外科, 2) 付属病院形成外科・美容外科) : シミュレーションから見た Less dog ear を目指した皮膚良性腫瘍・母斑の治療法. 日本創傷外科学会 (第 3 回) (札幌), 2011. 7.

- 7) 野本俊一<sup>1)</sup>, 村上正洋<sup>1)</sup>, 秋元正宇, 百東比古<sup>2)</sup> (1) 武蔵小杉病院形成外科, 2) 付属病院形成外科・美容外科): 粉瘤摘出の新しい作図法: 有限要素法によるドッグイヤー解析から. 日本創傷外科学会総会・学術集会 (第3回) (札幌), 2011. 7.
- 8) 村上正洋<sup>1)</sup>, 秋元正宇, 野本俊一<sup>1)</sup>, 百東比古<sup>2)</sup> (1) 武蔵小杉病院形成外科, 2) 付属病院形成外科・美容外科): ドッグイヤーからみた V-Y 前進皮弁の適切な作図方法: 有限要素法による解析から. 日本形成外科学会基礎学術集会 (第20回) (東京), 2011. 7.

## 20. 付属病院付置施設等

### [付属病院遺伝診療科]

#### 研究概要

新しい時代の遺伝子医学に対応するため、遺伝子医療部門が大学病院を中心に全国的に設置され、日本医科大学付属病院では平成15年5月から独立した遺伝診療科として遺伝診療（遺伝カウンセリング）外来診療を行っている。対象疾患は先天性代謝異常症、家族性腫瘍、染色体異常症など多彩な分野にわたり、年々来談者数は増加し新患者数は平成24年3月に計500件となった。遺伝診療外来は臨床遺伝専門医、看護師、認定遺伝カウンセラーによるチームで担当している。本学では基礎医学研究者、臨床医、看護師、認定遺伝カウンセラー、臨床心理士など各職種が密接に連携して、遺伝と遺伝病に対する様々な問題を解決できる独自の遺伝診療体制を確立している。さらに、個々の症例の診療方針や倫理的問題点は、外来担当者以外の各職種も参加する月1回定例の遺伝診療カンファレンスで検討している。遺伝子検査では、ハイテクリサーチセンターと共同で低ホスファターゼ症、血管型エーラスダンロス症候群などの遺伝子診断法を独自に確立し、他施設からの依頼にも応じている。特に、高度の倫理的な検討が必要な出生前遺伝子診断、発症前診断は倫理委員会との連携をとり施行した。さらに、臨床遺伝教育に関しては、卒前（臨床遺伝コース）、卒後（臨床遺伝専門医制度認定施設）に力を入れ、学外からも高い評価を受けている。昨年度に本診療科が中心となり構築した、厚生労働省難治性疾患克服事業の「過剰運動<hypermobility>症候群類縁疾患における診断基準の確立ならびに病態解明」研究班を継続し担当した。本年度は、エーラスダンロス症候群・マルファン症候群・ロイスディーツ症候群研究班と共同で「結合織病市民セミナー」を開催した。平成24年10月には、第10回全国遺伝子医療部門連絡会議を主催する。今後も我が国の遺伝医療の一角を担うと共に、日本医科大学を代表する診療科として発展させていきたい。

#### 研究業績

##### 論文

##### [追加分]

追加分セミナー報告：

- 1) 三宅秀彦<sup>1,4)</sup>、宇佐美明美<sup>2,4)</sup>、峯 克也<sup>1,4)</sup>、鈴木由美<sup>4)</sup>、有森直子<sup>3,4)</sup>、渡邊 淳<sup>4)</sup> (1) 日本医科大学産婦人科学講座、2) 至誠会第二病院染色体研究室、3) 聖路加看護大学母性看護・助産学研究室、4) 第1回遺伝カウンセリングアドバンストセミナー世話人会)：第1回遺伝カウンセリングアドバンストセミナー 習慣流産：均衡型転座を中心として。日本遺伝カウンセリング学会誌 2011；32 (1)：57-62.

(1) 総説：

- 1) 渡邊 淳<sup>1)</sup>、島田 隆<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学生化学・分子生物学)：Ehlers-Danlos 症候群の基礎。日本胸部臨床 2011；70 (4)：319-328.

(2) 症例報告：

- 1) Abe T<sup>1)</sup>、Ono S<sup>1)</sup>、Igarashi M<sup>1)</sup>、Akira S<sup>1)</sup>、Watanabe A<sup>2)</sup>、Takeshita T<sup>1)</sup> (1) 1Division of Reproductive Medicine, Perinatology and Gynecologic Oncology, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School、2) 2Division of Clinical Genetics, Nippon Medical School)：Conservative management of hyperreactio luteinalis：a case report. J Nihon Med Sch 2011；78 (4)：241-245.

## 著 書

- 1) 大森意策<sup>1)</sup>, 渡邊 淳<sup>1)</sup> (東京都立墨東病院 新生児科): [自著] 周産期型低フォスファターゼ症. 骨系統疾患: 出生前診断と周産期管理 (西村 玄 (編集), 澤井 英明 (編集), 室月 淳 (編集)), 2011; pp201-204, メジカルビュー社.

## 学会発表

### (1) シンポジウム:

- 1) 渡邊 淳<sup>1)</sup> (日本医科大学生化学・分子生物学): 単一遺伝子病における出生前診断の課題. 日本人類遺伝学会大会 (第 56 回) (幕張), 2011. 11.

### (2) セミナー:

- 1) 渡邊 淳<sup>1, 2)</sup> (日本医科大学 生化学・分子生物学, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院 ゲノム先端医療部, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院 遺伝診療科): 遺伝子診療の現場では - 遺伝情報を医療現場で適切に扱うには: 今, 臨床の現場で起こりつつあること. 遺伝医学夏期集中セミナー (第 3 回) (東京), 2011. 7.

### (3) ポスター:

- 1) 三宅秀彦<sup>1)</sup>, 平泉良枝<sup>1)</sup>, 三浦 淳<sup>1)</sup>, 渡邊 淳, 島田 隆, 鈴木俊治<sup>1)</sup> (葛飾赤十字産院 産婦人科): 当院における羊水穿刺の合併症に関する検討. 日本人類遺伝学会大会 (第 56 回) (幕張), 2011. 11.

### (4) 一般講演:

- 1) 古庄知己<sup>1)</sup>, 鳴海洋子<sup>1)</sup>, 関島良樹<sup>1)</sup>, 水内麻子<sup>1)</sup>, 山下浩美<sup>1)</sup>, 玉井真理子<sup>1)</sup>, 渡邊 淳<sup>2)</sup>, 福嶋義光<sup>1)</sup> (信州大学 医学部 附属病院 遺伝子診療部, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院 遺伝診療科 ゲノム先端医療部): 下肢の瘻性で発症, 広汎性発達障害を伴い急速進行性の経過をたどる重症関節型エーラスダンロス症候群. 遺伝医学合同学術集会 2011 日本遺伝子診療学会大会 (第 18 回) 日本遺伝カウンセリング学会学術集会 (第 35 回) 日本家族性腫瘍学会学術集会第 (第 17 回) (京都), 2011. 6.
- 2) 三宅秀彦<sup>1)</sup>, 中西一步<sup>1)</sup>, 阿部裕子<sup>1)</sup>, 林 昌子<sup>1)</sup>, 奥田直貴<sup>1)</sup>, 川端伊久乃<sup>1)</sup>, 関口敦子<sup>1)</sup>, 中井章人<sup>1)</sup>, 渡邊 淳, 大木由加志, 島田 隆 (日本医科大学多摩永山病院女性診療科・産科): 羊水穿刺後に complete chorio-amniotic membrane separation をきたした 2 症例. 遺伝医学合同学術集会 2011 日本遺伝子診療学会大会 (第 18 回) 日本遺伝カウンセリング学会学術集会 (第 35 回) 日本家族性腫瘍学会学術集会第 (第 17 回) (京都), 2011. 6.
- 3) 菅野華子<sup>1, 2)</sup>, 渡邊 淳<sup>1)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup> (日本医科大学生化学・分子生物学, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院小児科): 胎児期遺伝子治療: 重症型低フォスファターゼ症マウス胎児への遺伝子導入. 遺伝医学合同学術集会 2011 日本遺伝子診療学会大会 (第 18 回) 日本遺伝カウンセリング学会学術集会 (第 35 回) 日本家族性腫瘍学会学術集会第 (第 17 回) (京都), 2011. 6.
- 4) 竹越一博<sup>1)</sup>, 児玉ひとみ<sup>2)</sup>, 緑川早苗<sup>3)</sup>, 新里寿美子<sup>1)</sup>, 磯部和正<sup>1)</sup>, 星野雅也<sup>1)</sup>, 川上 康<sup>1)</sup>, 田村秀樹<sup>4)</sup>, 山田正信<sup>5)</sup>, 渡邊 淳, 櫻井晃洋<sup>6)</sup> (筑波大学大学院臨床医学系分子検査医学, <sup>2)</sup> 東京女子医科大学内分分泌科, <sup>3)</sup> 福島県立医大第 3 内科, <sup>4)</sup> 日本医科大学内分分泌代謝内科, <sup>5)</sup> 群馬大学医学部病態制御内科学, <sup>6)</sup> 信州大学遺伝子診療部): SDHB 変異による悪性褐色細胞腫の本邦症例について. 遺伝医学合同学術集会 2011 日本遺伝子診療学会大会 (第 18 回) 日本遺伝カウンセリング学会学術集会 (第 35 回) 日本家族性腫瘍学会学術集会第 (第 17 回) (京都), 2011. 6.
- 5) 島山未来<sup>1)</sup>, 渡邊 淳, 古庄知己<sup>2)</sup>, 川目 裕<sup>1)</sup>, 島田 隆 (お茶の水女子大学大学院ライフサイエンス専攻 遺伝カウンセリング領域, <sup>2)</sup> 信州大学医学部付属病院遺伝子診療部): Hypermobility Syndrome (EDS 関節過可動型) 【過剰運動症候群】の全国調査. 遺伝医学合同学術集会 2011 日本遺伝子診療学会大会 (第 18 回) 日本遺伝カウンセリング学会学術集会 (第 35 回) 日本家族性腫瘍学会学術集会第 (第 17 回) (京都), 2011. 6.
- 6) 渡邊 淳<sup>1)</sup>, 鈴木由美, 菅野華子<sup>1)</sup>, 峯 克也<sup>2)</sup>, 阿部 崇<sup>2)</sup>, Banyar T<sup>1)</sup>, 竹下俊行<sup>2)</sup>, 折茂英生<sup>1)</sup>, 澤井英明<sup>3)</sup>,

- 島田 隆<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 生化学・分子生物学, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院女性診療科・産科, <sup>3)</sup> 兵庫医科大学産婦人科) : 周産期型低フォスファターゼ症の遺伝診療 : 周産期からの follow-up の必要性. 遺伝医学合同学術集会 2011 日本遺伝子診療学会大会 (第 18 回) 日本遺伝カウンセリング学会学術集会 (第 35 回) 日本家族性腫瘍学会学術集会第 (第 17 回) (京都), 2011. 6.
- 7) Watanabe A<sup>1)</sup>, Hatakeyama M<sup>1,2)</sup>, Kosho T<sup>3)</sup>, Kawame Y<sup>2)</sup>, Shimada T<sup>1)</sup> (1) Nippon Medical School, Tokyo, Japan, <sup>2)</sup> Ochanomizu University, Tokyo, Japan, <sup>3)</sup> Shinshu University, Matsumoto, Japan) : Hypermobility syndrome in Japan. European Human Genetics Conference 2011 (Amsterdam RAI, The Netherlands), 2011. 5.
- 8) Watanabe A<sup>1,2)</sup>, Satoh S<sup>3)</sup>, Fujita A<sup>4)</sup>, Orimo H<sup>2)</sup>, Shimada T<sup>1,2)</sup> (1) Division of Clinical Genetics, Nippon Medical School Hospital, <sup>2)</sup> Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Aomori Prefectural Central Hospital, <sup>4)</sup> Division of Personalized Genetic Medicine, Nippon Medical School Hospital) : Perinatal (lethal) type of Hypophosphatasia Resulting From Paternal Isodisomy of Chromosome 1. 2012 ACMG Annual Clinical Genetics Meeting (Charlotte, North Carolina), 2012. 3.
- 9) 古庄知己<sup>1,2)</sup>, 鳴海洋子<sup>1,2)</sup>, 関根良樹<sup>1)</sup>, 坂本明之<sup>3)</sup>, 成田信代<sup>4)</sup>, 高橋 淳<sup>4)</sup>, 加藤博之<sup>4)</sup>, 渡邊 淳<sup>6,7)</sup>, 三宅紀子<sup>8)</sup>, 松本直通<sup>8)</sup>, 福嶋義光<sup>1,2)</sup> (1) 信州大学医学部附属病院 遺伝子診療部, <sup>2)</sup> 信州大学医学部 遺伝医学・予防医学講座, <sup>3)</sup> 信州大学医学部 麻酔蘇生学講座, <sup>4)</sup> 信州大学医学部 運動機能学講座, <sup>5)</sup> 日本医科大学付属病院 遺伝診療科, <sup>6)</sup> 日本医科大学付属病院 ゲノム先端医療部, <sup>7)</sup> 日本医科大学 生化学・分子生物学, <sup>8)</sup> 横浜市立大学大学院 医学研究科 遺伝学) : 下肢の痙攣, 発達障害を伴い急速進行性の経過をたどる重症関節型エーラスダンロス症候群. 日本人類遺伝学会大会 (第 56 回) (幕張), 2011. 11.
- 10) Naing B<sup>1)</sup>, 渡邊 淳<sup>1)</sup>, 佐々木元子<sup>2)</sup>, 坏 宏一<sup>3)</sup>, 小齊平聖治<sup>4)</sup>, 弦間昭彦<sup>4)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学生化学・分子生物学, <sup>2)</sup> お茶の水女子大学大学院研究院, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院集中治療室, <sup>4)</sup> 日本医科大学付属病院呼吸器内科) : イントロンの塩基置換から新規スプライシングを来した血管型 Ehlers-Danlos 症候群の 1 例. 日本人類遺伝学会大会 (第 56 回) (幕張), 2011. 11.
- 11) 藤田京志<sup>1)</sup>, 佐藤秀平<sup>2)</sup>, Naing B<sup>3)</sup>, 折茂英生<sup>4)</sup>, 島田 隆<sup>1,3)</sup>, 渡邊 淳<sup>1,3)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 ゲノム先端医療部, <sup>2)</sup> 青森県立中央病院 総合周産期母子医療センター, <sup>3)</sup> 日本医科大学 生化学・分子生物学 (分子遺伝学), <sup>4)</sup> 日本医科大学 生化学・分子生物学 (代謝・栄養学)) : 父性片親性ダイソミーにより発症した周産期型低ホスファターゼ症の 1 例. 日本人類遺伝学会大会 (第 56 回) (幕張), 2011. 11.
- 12) 渡邊 淳<sup>1)</sup>, 菅野華子<sup>1)</sup>, 飯島 修<sup>1)</sup>, 折茂英生<sup>2)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学医学部生化学・分子生物学 (分子遺伝学), <sup>2)</sup> 日本医科大学医学部生化学・分子生物学 (代謝・栄養学)) : 日本における周産期型低フォスファターゼ症 高頻度変異部位 1559delT と周産期時期からの follow up の重要性. 日本骨代謝学会学 (第 29 回) (大阪), 2011. 7.
- 13) 菅野華子<sup>2)</sup>, 飯島 修<sup>1)</sup>, 渡邊 淳<sup>1)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学医学部生化学・分子生物学 (分子遺伝学), <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院小児科) : 低フォスファターゼ症モデルマウスの胎児期遺伝子治療. 日本骨代謝学会学 (第 29 回) (大阪), 2011. 7.
- 14) 飯島 修<sup>1)</sup>, 菅野華子<sup>2,3)</sup>, 渡邊 淳<sup>1,3)</sup>, 島田 隆<sup>1,3)</sup> (1) 日本医科大学 医学部 生化学・分子生物学 (分子遺伝学), <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院 小児科, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院 遺伝診療科) : 骨髄細胞移植による低フォスファターゼ症の遺伝子治療. 日本骨代謝学会学 (第 29 回) (大阪), 2011. 7.

## [付属病院集中治療室]

### 研究概要

本年は日本循環器学会の『心筋梗塞の二次予防に関するガイドライン』ならびに『ST 上昇型心筋梗塞のガイドラ

イン (改訂版)』作成に委員として参加し、これを完成させた。また『新たな CCU ガイドライン (仮題: 田中啓治, 山本剛編: 文光堂)』の執筆がほぼ終わり、出版間近である。Fever and Antipyretic in Critically ill patients Evaluation (FACE) Study (多施設共同)に参加し、その成果が論文化された (Association of body temperature and antipyretic treatments with mortality of critically ill patients with and without sepsis: multi-centered prospective observational study)。また、学会活動、論文作成は活発であり、この一年における原著論文 (in press 含む) は 5 本、症例報告は 8 本と成果があがっている。

大きな出来事として、本年 5 月には、多剤耐性アシネトバクターの蔓延により一時集中治療室を閉鎖しなければならない緊急事態が生じた。これによって、研究活動の停滞を招いたが、逆に感染防御、危機管理、安全対策教育に多くの時間が割かれ、院外の見識者によって提供された講演会、これに関する研究会も病院主催で開催された。また研修医教育にもこの問題を取り上げ、啓蒙にあたった。感染制御部の指導により、医師・看護師・臨床工学技士・薬剤師などが全病院をあげてこの問題に取り組み、その後の集中治療室での環境培養はすべて陰性である。

## 研究業績

### 論文

#### [追加分]

追加分総説:

- 1) 坪 宏一: 超急性期の診断と治療戦略: 急性大動脈解離, 特集: 大動脈疾患の緊急対応 ICU と CCU 35 (3), 187-190, 2011. ICU と CCU 2011; 35 (3): 187-190.
- 2) 竹田晋浩: ALI/ARDS に対するステロイド治療. ARDS/ALI 治療の新展開. 呼吸と循環 (医学書院) 2010; 58 (6): 571-576.
- 3) 竹田晋浩: NPPV 療法: ラウンドテーブルディスカッション: massimo Antonelli 先生を囲んで. メディカルレビュー社 2010; 3-4.
- 4) 三井誠司, 竹田晋浩: 体外式陽陰圧式人工呼吸: 急性呼吸不全. 人工呼吸 2010 2010; 27: 16-22.
- 5) 竹田晋浩: 呼吸不全の診療. V 章: 治療. 26. ECMO: 体外式膜型人工肺. Medicina 2010 年 8 月号 (医学書院) 2010; 47 (8): 1458-1460.
- 6) 竹田晋浩: 特集: 新型インフルエンザ 2009 年パンデミックから何を学ぶか. 劇症肺炎への対応: 人工呼吸管理から脱出した国内症例と海外における ECMO 症例. 日本医師会雑誌 2010; 139 (7): 1481-1486.
- 7) 竹田晋浩: 非侵襲的人工呼吸法のメカニズムと臨床適応. 呼吸管理プラクティカルガイド. 救急医学 2010 年 9 月臨時増刊号 (へるす出版) 2010; 34 (10): 1175-1180.
- 8) 竹田晋浩: 特集: 急性心不全. 急性心不全における補助換気: 常に非侵襲的換気 (NIV) を第一選択とする時代に入ったのか?. Intensivist 2010 2010; 2 (4): 824-835.
- 9) 川下美由樹, 佐藤愛子, 竹田晋浩: 覚えておくべき NPPV のモード設定: 種類・特徴・看護の視点. 呼吸器 & 循環器ケア 2010; 10 (3): 16-21.
- 10) 竹田晋浩: 肺水腫患者の人工呼吸法のケアを教える?. 人工呼吸器とケア Q&A. ナーシングケア Q&A35 (総合医学社) 2010; (35): 244-245.

追加分原著:

- 1) 時田祐吉, 田中啓治, 山本 剛, 福嶋善光, 汲田伸一郎 (1) 日本医科大学付属病院 集中治療室, (2) 日本医科大学付属病院 放射線科): ニコランジル単回静注を用いた難治性虚血性心不全の評価: ニコランジル負荷 MIBI 心筋シンチグラムによる検討. Therapeutic Research 2011; 32 (3): 326-332.

(1) 原著:

- 1) Furuichi M, Takeda S, Akada S, Onodera H, Yoshida Y, Nakazato K, Sakamoto A: Noninvasive positive

- pressure ventilation in patients with perioperative negative pressure pulmonary edema. *J Anesth* 2010 ; 24 (3) : 464-468.
- 2) 西村匡司, 多治見公高, 竹田晋浩, 小谷 透, 鶴田良介, 長谷川隆一, 福岡敏雄, 武澤 純, 今中雄一, 林田賢史, 村上玄樹, 松田晋哉 (1) ICU 機能評価委員会) : わが国集中治療室の現状調査 : 松田班調査結果報告. *日集中医誌* 2010 ; (17) : 227-232.
  - 3) Takeda S, Munakata R, Abe S, Mii S, Suzuki M, Kashiwada T, Azuma A, Yamamoto T, Genma A, Tanaka K : Hypercytokinemia with 2009 pandemic H1N1 (pH1N1) influenza successfully treated with polymyxin B-immobilized fiber column hemoperfusion. *Intensive Care Med.* 2010 ; 36 (5) : 906-907.
  - 4) 古市結富子, 中里桂子, 守 真輝, 赤田信二, 岸川洋昭, 本郷 卓, 竹田晋浩, 坂本篤裕 : 僧帽弁置換術後左室破裂をきたし救命し得た 2 症例. *Journal of the Japanese society of cardiovascular anesthesiologists* 2010 ; (14) : 13-17.
  - 5) Takigawa M, Yoshimuta T, Akutsu K, Takeshita S, Yokoyama N (1) National Cardiovascular Center) : Prevalence and Predictors of Coexistent Silent Atherosclerotic Cardiovascular Disease in Patients With Abdominal Aortic Aneurysm Without Previous Symptomatic Cardiovascular Diseases. *Angiology* 2012 ; 63 (5) : 380-385.
  - 6) Narita, K, Akutsu K, Yamamoto T, Sato N (1) Intensive and Cardiovascular Unit, Nippon Medical School) : Simultaneous Fenestration with Stent Implantation for Acute Limb Ischemia due to Type B Acute Aortic Dissection Complicated with Both Static and Dynamic Obstructions. *Ann Thorac Cardiovasc Surg* 2012 ; 18 (2) : 158-161.
  - 7) Hosokawa Y, Yamamoto T, Yabuno Y, Hara K, Aokage T, Nakazato K, Suzuki H, Suzuki M, Ueno A, Munakata R, Tokita Y, Yamamoto E, Akutsu K, Takano H, Sato N, et al.(1) Intensive and Cardiovascular Unit, Nippon Medical School) : Inhaled nitric oxide therapy for secondary pulmonary hypertension with hypertrophic obstructive cardiomyopathy and severe kyphoscoliosis. *Int J Cardiol.* 2012 ; 158 (1) : e20-e21.
  - 8) Nei T, Akutsu K, Shima A, Tsuboi I, Suzuki H, Yamamoto T, Tanaka K, Shinoyama A, Kojima Y, Washio Y, Okawa S, Sonobe K, Norose Y, Saito R (1) Intensive and Cardiovascular Unit, Nippon Medical School) : A Case of Streptococcal Toxic Shock Syndrome Due to Group G Streptococci Identified as *Streptococcus dysgalactiae* subsp. *equisimilis*. *J Infect Chemother* 2012 ; Epub ahead of print.
  - 9) Akutsu K, Kawamoto M, Sato N, Yamamoto T, Tamura K, Mizuno K, Tanaka K (1) Intensive and Cardiovascular Unit, Nippon Medical School) : Acute aortic dissection with cystic medial necrosis of unknown etiology. *J Nippon Med Sch* 2012 ; 79 (2) : 159-162.
  - 10) Hosokawa Y, Tanaka K, Mizuno K (1) Intensive and Cardiac Care Unit, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Successful treatment for refractory coronary thrombus with scoring balloon angioplasty. *Catheterization and cardiovascular interventions* 2012 ; 79 (2) : 282-287.
  - 11) Hosokawa Y, Kodani E, Kusama Y, Kamiya M, Yoshikawa M, Hirasawa Y, Nakagomi A, Atarashi H, Maeda S, Mizuno K (1) Department of International Medicine and Cardiology, Nippon Medical School Tamagayama Hospital, Tokyo, Japan) : Cardiac angiosarcoma diagnosed by transvenous endomyocardial biopsy with the aid of transesophageal echocardiography and intra-prosedural consultation. *International Heart Journal* 2010 ; 51 (5) : 367-369.
- (2) 総説 :
- 1) 井門浩美, 坪 宏一, 久保田義則, 中本富士子, 水田理香, 増田喜一, 横山直之, 松尾 汎, 竹下 聡 (1) 国立循環器病研究センター) : 国立循環器病センターにおける血管検査の現況とバスキュラーラボ再構築への問題点. *脈管学* 2011 ; 51 (3) : 183-189.

- 2) 坏 宏一：臨床兆候：大動脈解離の診断，特集：大動脈疾患の最新知識．最新医学 2011；66（7）：33-37.
- 3) 竹田晋浩：新型インフルエンザ 2009 influenza A（H1N1）による重症呼吸不全．Anet2010 2010；14：34-39.
- 4) 竹田晋浩：ICUで行われている急性期 NPPV 呼吸ケア．日本在宅医学会雑誌 2011；12（2）：126-129.

## 著 書

### 〔追加分〕

追加分：

- 1) 竹田晋浩：〔分担〕麻酔科医と救急医療．麻酔科学レビュー 2010：最新主要文献集（天羽啓介），2010；pp213-215，総合医学社.
- 2) 中里桂子，竹田晋浩：〔分担〕非侵襲的陽圧換気．人工呼吸器関連肺炎のすべて（志馬伸朗），2010；pp90-95，南江堂.
- 3) Takeda S, Akada S, Nakazato K：〔分担〕Use of dexmedetomidine in patients with noninvasive ventilation. Esquinas. Noninvasive mechanical ventilation.(Antonio M.), 2010；pp237-239, Spiringer..
- 1) 青景聡之<sup>(1)</sup> 日本医科大学集中治療室）：〔自著〕院内急変時における ECMO/PCPS の適応．救急医学，2011；pp1012-1017，へるす出版.
- 2) 青景聡之<sup>(1)</sup> 日本医科大学集中治療室）：〔自著〕ECMO．救急医学，2012；pp233-238，へるす出版.
- 3) 山本 剛，田中啓治：〔分担〕急性冠症候群の治療指針．救急・集中治療最新ガイドライン 2012-13（岡元和文），2012；pp238-240，総合医学社.
- 4) 山本 剛：〔分担〕術後血栓症・塞栓症．ICU ナースのための循環&呼吸管理と術前・術後ケア（小谷 透），2012；pp146-149，MC メディカ出版.
- 5) 山本 剛：〔分担〕肺塞栓症．ガイドライン外来治療 2012（泉 孝英），2012；pp414-416，日経メディカル開発.
- 6) 竹田晋浩：〔分担〕ALI/ARDS の診断基準はなぜ変わらないのか？．呼吸療法における不思議 50（安本和正，小谷透），2011；pp16-20，株式会社アトムス.

## 学会発表

### 〔追加分〕

追加分パネルディスカッション：

- 1) 宗像 亮，山本 剛，村井綱児，上野 亮，時田祐吉，加藤浩司，佐藤直樹，田中啓治，田島廣之<sup>(1)</sup> 日本医科大学付属病院放射線科）：“PCPS 装着例は内科的治療のみで対処できるか～pros and cons～経皮的体外装置を使用した急性肺血栓塞栓症における内科的治療例の検討”．肺塞栓症研究会 学術集会（第 17 回）（東京），2010. 11.

追加分一般講演：

- 1) 宗像 亮，加藤浩司，坏 宏一，山本 剛，佐藤直樹，田中啓治，三井誠司，本郷 卓，竹田晋浩，落 雅美<sup>(1)</sup> 日本医科大学付属病院心臓血管外科）：大腸癌術後に肺血栓塞栓症を発症，同時に Stanford A 型の急性大動脈解離が認められた 1 例．日本集中治療医学会学術集会（第 37 回）（広島），2010. 3.
- 2) 藤田 彩，時田祐吉，青景聡之，坏 宏一，山本 剛，佐藤直樹，新田 隆，落 雅美，水野杏一，田中啓治<sup>(1)</sup> 日本医科大学付属病院集中治療室，<sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院心臓血管外科，<sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院循環器内科）：CRT 中断に伴い急激に肺水腫およびショックに陥った拡張型心筋症の 1 例．第 38 回日本集中治療医学会学術集会（横浜），2011. 2.
- 3) Hosokawa Y, Yamamoto T, Aokage T, Suzuki H, Suzuki M, Ueno A, Munaka R, Tokita Y, Akutsu K, Sato N, Takeda S, Tanaka K<sup>(1)</sup> Nippon Medical School Hospital, Cardiac and Intensive Care Unit）：Isovolemic Continuous Hemodiafiltration in Refractory Oliguric Patients with Acute Decompensated Heart Failure.

(1) 特別講演 :

- 1) 山本 剛 : 急性冠症候群における循環管理の考え方と実際. 日本クリティカルケア看護学会 教育セミナー (東京), 2012. 1.

(2) 教育講演 :

- 1) 山本 剛 : ICU ベッドサイドでの心エコー検査と見方. 第8回日本集中治療医学会主催リフレッシュセミナー, 2011. 8.
- 2) 山本 剛 : ICU ベッドサイドでの心エコー. 第39回日本集中治療医学会学術集会, 2012. 2.

(3) シンポジウム :

- 1) Yamamoto T <sup>(1)</sup> Intensive and Critical Care Unit) : Massive Pulmonary Embolism- Diagnosis and Medical Treatment. The Critical Care Conference in Thailand (Hua-Hin, Thailand), 2011. 6.

(4) セミナー :

- 1) 山本 剛 : 循環器救急における POCT (Point Of Care Testing) の有用性. 第39回日本救急医学会総会・学術集会, 2011. 10.

(5) 一般講演 :

- 1) Akutsu K, Tanaka K, Koyama N, Tobaru T, Yoshino H, Nagao K, Sato N, Takayama M <sup>(1)</sup> Tokyo CCU network Scientific Committee, Nippon Medical School) : Tokyo CCU network Scientific Committee. The Outcome of Aortic Disease was Associated with Time between Arrival Time to Patients and Arrival Time to Hospital. 日本循環器学会総会 (第75回) (横浜), 2011. 8.
- 2) Akutsu K, Tanaka K, Koyama N, Tobaru T, Yoshino H, Nagao K, Sato N, Takayama M <sup>(1)</sup> Tokyo CCU network Scientific Committee, Nippon Medical School) : Tokyo CCU network Scientific Committee. The Outcome of Aortic Disease was Associated with Time between Arrival Time to Patients and Arrival Time to Hospital. 第31回東京CCU研究会 (東京), 2011. 12.
- 3) Aokage T<sup>1)</sup>, Sato N<sup>2)</sup>, Kajimoto K<sup>3)</sup>, Murai K<sup>4)</sup>, Munakata R<sup>4)</sup>, Minami Y<sup>5)</sup>, Mizuno M<sup>5)</sup>, Yumino D<sup>5)</sup>, Asai K<sup>4)</sup>, Sakata Y<sup>6)</sup>, Keida T<sup>7)</sup>, Tanaka K<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>4)</sup>, Kasanuki H<sup>8)</sup>, Takano T<sup>4)</sup> <sup>(1)</sup> Intensive & Cardiac Care Unit, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, <sup>3)</sup> Department of Cardiology, Sensoji Hospital, <sup>4)</sup> Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine, Nippon Medical School, <sup>5)</sup> Department of Cardiology, Tokyo Women's Medical University, <sup>6)</sup> Department of Cardiovascular Medicine Osaka University, <sup>7)</sup> Department of Cardiology, Edogawa Hospital, <sup>8)</sup> Faculty of Science and Engineering, Waseda University) : Baseline blood urea nitrogen as a marker for predicting cardiac events in patients hospitalized for acute heart failure syndrome - beyond other renal variables -. ESC Congress 2011 (Paris), 2011.
- 4) 青景聡之 <sup>(1)</sup> 日本医科大学集中治療室) : “ASD 閉鎖術を施行したにもかかわらず遠隔期に PH が進行し死亡した成人 ASD/PH の1例”. 第14回日本先天性心疾患学会, 2012. 1.
- 5) Tokita Y, Sato N, Hosokawa Y, Munakata R, Akutsu K, Yamamoto T, Tanaka K, Mizuno K <sup>(1)</sup> Nippon Medical School Hospital, Cardiac and Intensive Care Unit, Tokyo, Japan, <sup>2)</sup> Nippon Medical School, Department of Cardiology, Tokyo, Japan) : N-terminal proBNP as a good predictor for successful weaning from intra-aortic balloon pumping in acute heart failure. ESC (European Society of Cardiology) Congress 2011 (France), 2011. 8.
- 6) 山本 剛, 黒岩政之, 中村真潮, 田中啓治 <sup>(1)</sup> 北里大学麻酔科, <sup>2)</sup> 三重大学大学院循環器・腎臓内科学) : ICU における静脈血栓塞栓症予防の現況 : 専門医研修施設への調査結果. 第39回日本集中治療医学会学術集会,

2012. 2.

- 7) 藤田 彩, 時田祐吉, 安井美沙, 青景聡之, 鈴木浩臣, 村田広茂, 細川雄亮, 宗像 亮, 坪 宏一, 山本 剛, 佐藤直樹, 田中啓治, 落 雅美, 水野杏一<sup>(1)</sup> 日本医科大学付属病院集中治療室, <sup>(2)</sup> 日本医科大学付属病院心臓血管外科, <sup>(3)</sup> 日本医科大学付属病院循環器内科): 急性大動脈解離の加療中に右房内浮遊血栓, 肺血栓塞栓症を合併した1例. 第218回日本循環器学会関東甲信越地方会(東京), 2011. 12.
- 8) 富山 毅, 細川雄亮, 高橋賢一郎, 村田広茂, 鈴木浩臣, 坪 宏一, 山本 剛, 佐藤直樹: 溶血性貧血を契機に診断された上行大動脈解離術後再解離に伴う人工血管内狭窄の1例. 第38回 日本集中治療医学会学術集会, 2012. 3.

## [付属病院病理部]

### 研究概要

現在付属病院病理部は病理専門医である専任病理医5名, コメディカルスタッフとして細胞検査士9名含む技師11名事務員1名により日常診断業務病理組織診断(細胞診断 剖検診断)を遂行しています. 今年度も臨床との共同開催である, 乳腺, 内分泌, 呼吸器, 婦人科および消化器カンファレンス・耳鼻科カンファレンス等も定例で開催され, 他施設も含む多くの医師と技師が参加し内容も充実してきております. 特筆すべき成果としては部長土屋眞一が会長を務めた「第50回日本臨床細胞学会秋期大会」が10月22日~23日にかけて京王プラザにて開催され, 年2回春と秋の開催を通じて最高の5300名の参加を記録し成功裡に終わったことです. 4000人前後の参加は予想しておりましたが嬉しい誤算となりました. これも誠心誠意数年に渡り準備を進めてきたスタッフ一同の努力が実を結んだものと考えます. 今後もこのチームワークを活かし病理学・細胞診断学の発展に寄与すべく今後も努力を続けていきたいと考えております.

### 研究業績

#### 論文

##### [追加分]

追加分原著:

- 1) 高山文吉<sup>1)</sup>, 土屋眞一, 伊藤研一<sup>1)</sup>, 藤森 実<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 青樹会一之瀬画像センター): 当院で経験した60歳以上の高齢者の線維腺腫の画像. 乳癌の臨床 2011; 25 (6): 724-725.

(1) 原著:

- 1) 原田 大, 土屋眞一, 秋山 太<sup>1)</sup>, 森谷卓也<sup>1)</sup>, 増田しのぶ<sup>1)</sup>, 津田 均<sup>1)</sup>, 堀井理絵<sup>1)</sup>, 前田一郎<sup>1)</sup>, 山口 倫<sup>1)</sup>, 小塚祐司<sup>1)</sup>, 鹿股直樹<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 乳腺病理診断研究会): 【乳腺の細胞診と針生検の現状と問題点(2)】- 乳腺針生検における病理診断の現状と問題点: 乳腺針生検診断講習会の結果から. 乳癌の臨床 2011; 26 (2): 161-174.
- 2) Murakami R<sup>1)</sup>, Tsuchiya S, Kimita S<sup>1)</sup>, Yoshida T<sup>1)</sup>, Ishihara K<sup>1)</sup>, Kiriyama T<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> Department of Radiology, Nippon Medical School): FDG-PET/CT in the diagnosis of recurrent breast cancer. Acta Radiologica 2012; 53 (1): 12-16.
- 3) Yamaguchi R<sup>1)</sup>, Tsuchiya S, Tanaka M<sup>1)</sup>, Terasaki H<sup>1)</sup>, Yokoyama T<sup>1)</sup>, Nakamura O<sup>1)</sup>, Yano H<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> Department of Pathology, Kurume university School of Medicine): Immunohistochemical study of metaplastic carcinoma and invasive acellular carcinoma of the breast: invasive acellular carcinoma is related to metaplastic carcinoma. Med Mol Morphol 2012; 45 (1): 14-21.
- 4) Rin Y<sup>1)</sup>, Tsuchiya S <sup>(1)</sup> Department of Pathology, Kurume university School of Medicine): "High-grade" central acellular carcinoma and matrix-producing carcinoma of the breast: correlation between ultrasono-

graphic findings and pathological features. *Med Mol Morphol* 2012 ; 44 (3) : 151-157.

- 5) Kurita T<sup>1)</sup>, Tsuchiya S, Watarai Y, Yamamoto Y, Harada O, Yanagihara K<sup>1)</sup>, Iida S<sup>1)</sup>, Yamashita K<sup>1)</sup>, Haga S<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup> (1) Surgery for Organ Function and Biology Regulation, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School) : Roles of fine-needle aspiration and core needle biopsy in the diagnosis of breast cancer. *Breast cancer* 2012 ; 19 (1) : 23-29.
- 6) Harada O, Hoe R, Lin J, Thike A, Jara-Lazaro A, Petersson F, Tan P : Intranuclear inclusions in epithelial cells of benign proliferative breast lesions. *J Clin Pathol* 2011 ; 64 (9) : 776-780.
- 7) Tan P, Harada O, Thike A, Tse G : Histiocytoid breast carcinoma : an enigmatic lobular entity. *J Clin Pathol* 2011 ; 64 (8) : 654-659.
- 8) 土屋恭子<sup>1)</sup>, 山本陽一朗, 津川浩一郎<sup>2)</sup>, 芳賀駿介<sup>3)</sup>, 柳原恵子<sup>3)</sup>, 飯田信也<sup>3)</sup>, 内藤善哉<sup>4)</sup> (1) 聖マリアンナ医科大学乳腺内分泌外科, 2) 聖マリアンナ医科大学病理, 3) 日本医科大学付属病院乳腺科, 4) 日本医科大学病理講座) : 痛みを伴い急速増大した原発性乳腺血管肉腫の1例. *日本臨床細胞学会誌* 2011 ; 50 (5) : 295-300.
- 9) 柳 雅人<sup>1)</sup>, 西村泰司<sup>1)</sup>, 木村 剛<sup>1)</sup>, 近藤幸尋<sup>1)</sup>, 山崎恵一<sup>1)</sup>, 古城 憲<sup>1)</sup>, 五十嵐高広<sup>1)</sup>, 細田 桂<sup>1)</sup>, 山本陽一朗 (1) 日本医科大学付属病院 泌尿器) : 膀胱癌に対する膀胱全摘術後・回腸導管造設術後13年目の回腸導管内再発の1例. *泌尿紀要* 2012 ; 58 (2) : 109-112.

(2) 総説 :

- 1) 川本雅司 : 肺腺癌の病巣収縮, spicula の形成機序. *日本医事新報* 2011 ; (4550) : 60-61.
- 2) 永井祥子, 土屋眞一 : 診療放射線技師のための乳腺病理の基礎 (2). *日本放射線技師会誌* 2011 ; 58 (4) : 290-296.
- 3) 永井祥子, 土屋眞一 : 診療放射線技師のための乳腺病理の基礎 (3). *日本放射線技師会誌* 2011 ; 58 (5) : 371-376.
- 4) 永井祥子, 土屋眞一 : 診療放射線技師のための乳腺病理の基礎 (4). *日本放射線技師会誌* 2011 ; 58 (7) : 562-569.
- 5) 大橋隆治 : 尿細管間質障害・中毒性尿細管間質障害. *腎と透析* 2011 ; 71 (1) : 46-50.
- 6) 永井祥子, 北山康彦 : 診療放射線技師のための乳腺病理の基礎 (5). *日本放射線技師会誌* 2011 ; 58 (8) : 671-676.
- 7) 永井祥子, 北山康彦 : 診療放射線技師のための乳腺病理の基礎 (6). *日本放射線技師会誌* 2011 ; 58 (10) : 946-951.
- 8) Fukumoto M, Yamamoto Y (1) Institute of Development Aging and Cancer, Tohoku University) : Long incubation period of cancer induced by internal exposure is attributed to the uneven distribution of deposited radionuclides at the microscopic level. *New Challenge of Radiation Health Risk Management*. Nagasaki Newspaper Publish. 2012 ; 161-167.

(3) 症例報告 :

- 1) Ono H<sup>1)</sup>, Taniguchi Y<sup>1)</sup>, Komai Y<sup>2)</sup>, Kawamoto M, Hayashi H<sup>3)</sup>, Gemma A<sup>3)</sup> (1) Department of Internal Medicine, Jiseikai-Tojun Hospital, 2) Department of Urology, Jiseikai-Tojun Hospital, 3) Division of Pulmonary Medicine, Infectious Diseases, and Oncology, Department of Internal Medicine) : A case of prostate carcinoma discovered with pulmonary lymphangitis carcinomatosa. *J Med Cases* 2011 ; 2 (2) : 81-86.
- 2) Ono H<sup>1)</sup>, Taniguchi Y<sup>1)</sup>, Komai Y<sup>2)</sup>, Kawamoto M, Hayashi H<sup>3)</sup>, Gemma A<sup>3)</sup> (1) Department of internal medicine, Jiseikai-Tojun Hospital, 2) Department of urology, Jiseikai-Tojun Hospital, 3) Division of pulmonary medicine, infectious disease, and oncology, department of internal medicine, Niigata Medical School) : A case of prostate carcinoma discovered with pulmonary lymphangitis carcinomatosa. *J Med Cases* 2011 ; 2 (2) : 81-86.

- 3) 杉本孝章<sup>1)</sup>, 土屋眞一, 山田理恵子<sup>2)</sup>, 芳賀駿介<sup>3)</sup> (1) 谷津保健病院外科, 2) 東京女子医科大学東医療センター検査科, 3) 日本医科大学付属病院乳腺外科): 乳管癌と小葉癌が混在する組織像を呈した興味ある乳癌の1例. 乳癌の臨床 2011; 26 (1): 83-87.
- 4) 唐木芳昭<sup>1)</sup>, 土屋眞一 (1) 相澤病院外科): 超高齢者乳癌の1例. 乳癌の臨床 2011; 26 (3): 383-387.

## 著 書

- 1) 川本雅司: [分担] 非定型カルチノイドとは, どのような腫瘍ですか? 治療法はどのようにすればよいですか? : 肺癌の病理と分類. 肺癌診療 Q & A : 一つ上を行く診療の実践 (弦間昭彦 編著), 2011: pp28-30, 中外医学社.

## 学会発表

### [追加分]

#### 追加分一般講演:

- 1) 岡田大輔<sup>1)</sup>, 原口秀司<sup>1)</sup>, 木下裕康<sup>1)</sup>, 竹内真吾<sup>1)</sup>, 中島由貴<sup>1)</sup>, 川本雅司, 秋山博彦<sup>2)</sup>, 三上 巖<sup>2)</sup>, 吉野直之<sup>2)</sup>, 飯島慶仁<sup>2)</sup>, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 清水一雄<sup>1)</sup> (1) 外科学講座 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門), 2) 埼玉県立がんセンター胸部外科): 当科で経験した Pleomorphic carcinoma の5症例. 日本呼吸器外科学会総会 (第26回) (北九州), 2009. 5.
- 2) 福本 基<sup>1)</sup>, 山本陽一郎 (1) 東北大学加齢医学研究所 病態臓器機構研究分野): 兄弟骨髄移植後に肝細胞癌を発症した1例 ドナー由来かレシピエント由来か. 日本病理学会 (第100回) (東京), 2011. 4.
- 3) Ohashi R, Surya S: Significance of p53 expression and tubulo-interstitial inflammation in renal transplant with BK virus nephropathy. 100th Annual meeting of United States and Canadian Academy of Pathology ((San Antonio, Texas, USA), 2011/3/2), 2011. 3.

#### 追加分招待講演:

- 1) 大橋隆治: 小児腎疾患における血管内皮細胞障害. 第12回 四国小児腎疾患研究会 (高松), 2011. 2.

#### 追加分特別講演:

- 1) 土屋眞一: 乳腺病変における病理と画像のコラボレーション. 日本乳癌画像研究会 (第20回) (東京), 2011. 2.

#### (1) 特別講演:

- 1) 土屋眞一: 乳腺病理診断に求められているもの. 日本臨床細胞学会秋期大会 (第50回) (東京), 2011. 10.

#### (2) 教育講演:

- 1) 土屋眞一: 乳腺の異型病変をどのように捉えるか?: 病理の立場から. 日本病理学会総会 (第100回) (横浜), 2011. 4.
- 2) 土屋眞一: Closing Remarks. 川崎乳腺術前診断セミナー (川崎), 2011. 11.
- 3) 土屋眞一: 乳腺病変における針生検診断の現状. 日本臨床細胞学会総会 (第52回) (福岡), 2011. 5.

#### (3) セミナー:

- 1) 川本雅司, 越川 卓<sup>1)</sup>, 麻生利勝<sup>2)</sup> (1) 愛知県立大学看護学部, 2) 麻生総合法律事務所): 乳腺細胞診偽陽性例に関する初期状態での細胞診判定調査について. 日本臨床細胞学会春期大会 (第52回) (福岡), 2011. 5.
- 2) 川本雅司: Liebow's "Pulmonary Angiitis and Granulomatosis", revisit. 肺病理講習会 (第14回) (埼玉), 2011. 7.
- 3) 原田 大: 症例解説講師. 乳腺病理診断研究会セミナー (第3回) (神奈川), 2011. 7.

(4) 一般講演：

- 1) 飯島慶仁<sup>1)</sup>, 三上 巖<sup>1)</sup>, 原口秀司<sup>1)</sup>, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 清水一雄<sup>1)</sup>, 川本雅司 ( <sup>1)</sup> 呼吸器外科部門)：間葉系由来が疑われる肺腫瘍の1切除例. 日本胸部外科学会関東甲信越地方会 (第156回) (東京), 2011. 6.
- 2) 高橋 聡<sup>1)</sup>, 北村和広<sup>1)</sup>, 恩田直美<sup>1)</sup>, 菅野哲平<sup>1)</sup>, 西島伸彦<sup>1)</sup>, 武内 進<sup>1)</sup>, 小齊平聖治<sup>1)</sup>, 野呂林太郎<sup>1)</sup>, 峯岸裕司<sup>1)</sup>, 清家正博<sup>1)</sup>, 吉村明修<sup>1)</sup>, 弦間昭彦<sup>1)</sup>, 高橋美紀子, 川本雅司, 土屋眞一, その他1名 ( <sup>1)</sup> 内科学講座呼吸器・感染・腫瘍部門)：Clear cell differentiationを示した原発不明癌にBevacizumabが著効した1例. 日本肺癌学会関東支部会 (第161回) (東京), 2011. 6.
- 3) 都築早美<sup>1)</sup>, 楠 裕司<sup>1)</sup>, 坂本 徹<sup>1)</sup>, 小齊平聖治<sup>1)</sup>, 根井貴仁<sup>1)</sup>, 齊藤好信<sup>1)</sup>, 清家正博<sup>1)</sup>, 吾妻安良太<sup>1)</sup>, 弦間昭彦<sup>1)</sup>, 小林研一<sup>2)</sup>, 阿部信二<sup>1)</sup>, 中澤 賢<sup>3)</sup>, 村田 智<sup>3)</sup>, 土屋眞一, 川本雅司, その他3名 ( <sup>1)</sup> 内科学講座(呼吸器・感染・腫瘍部門), <sup>2)</sup> 東京臨海病院呼吸器内科, <sup>3)</sup> 放射線医学)：緊急IVRにて救命かつ診断しえた胚細胞腫瘍による腫瘍性肺塞栓症の1例. 日本呼吸器学会関東地方会 合同学会 (第196回), 2011. 9.
- 4) 星野和男<sup>1)</sup>, 土屋眞一 ( <sup>1)</sup> 杏林会今井病院外科)：LH-Rha+UFTで10年健存の得られた進行妊娠授乳期乳癌(Stage3a,ER-) 2症例の検討. 日本乳癌学会学術総会 (第19回) (仙台), 2011. 9.
- 5) 谷 瞳<sup>1)</sup>, 土屋眞一, 岩野梨菜絵<sup>1)</sup>, 村上隆介<sup>1)</sup>, 松原美幸, 原田 大, 飯田信也<sup>2)</sup>, 芳賀駿介<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 放射線科, <sup>2)</sup> 日本医科大学 乳腺外科)：画像上良性を疑わせた粗大石灰化を有する乳癌の1例. 日本乳癌学会学術総会 (第19回) (仙台), 2011. 9.
- 6) 柳原恵子<sup>1)</sup>, 土屋眞一, 芳賀駿介<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 乳腺外科)：カペシタビンとシクロフォスファミドの併用療法(XC療法)が著効した1例. 日本乳癌学会学術総会 (第19回) (仙台市), 2011. 9.
- 7) 高山文吉<sup>1)</sup>, 土屋眞一, 草間 律<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 青樹会一之瀬画像センター, <sup>2)</sup> 瀬原田クリニック)：当院における吸引細胞診の成績. 日本乳癌学会学術総会 (第19回) (仙台市), 2011. 9.
- 8) 飯田信也<sup>1)</sup>, 土屋眞一, 芳賀駿介<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 乳腺外科)：当科におけるセンチネルリンパ節生検の評価と問題点の検討. 日本乳癌学会学術総会 (第19回) (仙台市), 2011. 9.
- 9) 山田理恵子<sup>1)</sup>, 土屋眞一, 芳賀駿介<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 東京女子医大病院東医療センター検査科, <sup>2)</sup> 日本医科大学乳腺外科)：乳癌術後クエン酸トレミフェン長期投与例の脂質代謝に関する検討. 日本乳癌学会学術総会 (第19回) (仙台市), 2011. 9.
- 10) 村上隆介<sup>1)</sup>, 土屋眞一, 岩野 菜<sup>1)</sup>, 柳原 恵<sup>2)</sup>, 飯田信也<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学 放射線科, <sup>2)</sup> 日本医科大学 乳腺外科)：マンモグラフィ検査遠隔読影システムの構築と運用. 日本乳癌学会学術総会 (第19回) (仙台市), 2011. 9.
- 11) 原田 大<sup>1)</sup>, 土屋眞一, 秋山 太<sup>1)</sup>, 梅村しのぶ<sup>1)</sup>, 堀井理恵<sup>1)</sup>, 山口 倫<sup>1)</sup>, 森谷卓也<sup>1)</sup>, 津田 均<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 乳腺診断病理研究会)：針生検・マンモトーム生検における病理診断の現状と問題点：乳腺針生検診断講習会の結果から. 日本乳癌学会学術総会 (第19回) (仙台市), 2011. 9.
- 12) 土屋恭子<sup>1)</sup>, 土屋眞一 ( <sup>1)</sup> 聖マリアンナ医科大学乳腺外科)：針生検で良悪性の鑑別が困難であり、切除生検で非浸潤癌(DCIS)の診断を得たFlat epithelial atypia (FEA)の1例. 日本臨床外科学会 (第73回) (東京), 2011. 11.
- 13) 内藤善哉<sup>1)</sup>, 土屋眞一, 片山博徳<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学統御機構・腫瘍学, <sup>2)</sup> 日本医科大学多摩永山病院)：稀な腭疾患の細胞診と組織像. 日本臨床細胞学会総会 (第52回) (福岡), 2011. 5.
- 14) 軸園智雄<sup>1)</sup>, 土屋眞一, 川本雅司, 清水一雄<sup>1)</sup>, 渡會泰彦, 村瀬幸宏 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学内分泌外科)：LMDによるパラフィン標本を用いた甲状腺腫瘍microRNA解析の為の条件検討. 日本臨床細胞学会秋期大会 (第50回) (東京), 2011. 10.
- 15) 松澤こずえ<sup>1)</sup>, 土屋眞一, 杉山健一<sup>1)</sup>, 田中穂積<sup>1)</sup>, 松原美幸, 原田 大 ( <sup>1)</sup> 飯田病院)：乳腺 pagetoid 癌の1例. 日本臨床細胞学会秋期大会 (第50回) (東京), 2011. 10.
- 16) 土屋眞一：乳腺病理診断に求められるもの. 乳腺の細胞診と超音波研修会 (第9回) (高知), 2011. 12.

- 17) 木村 剛<sup>1)</sup>, 近藤幸尋<sup>1)</sup>, 山本陽一郎 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学泌尿器科) : 前立腺全摘出後の PSA 再発に対する救済放射線療法予後因子の検討. 日本泌尿器科学会 (名古屋), 2011. 4.
- 18) 近藤大介<sup>1)</sup>, 大橋隆治 ( <sup>1)</sup> 新潟市民病院 腎臓・リウマチ科) : 病理組織診断に苦慮した糸球体 C3 沈着症の 1 例. 日本腎臓学会 (神奈川), 2011. 5.
- 19) Ohashi R : Dense deposit disease with benign clinical course : a new disease entity?. 12nd Japan and Korea slide conference (Korea, Daejeon), 2011. 10.
- 20) 大橋隆治 : 腎内の中小動脈に高度の fibrinoid necrosis を認め, 急速進行性腎炎の臨床経過をとった PR3-ANCA 陽性 granulomatosis with polyangiitis (GPA) の 1 例. 第 68 回 東京腎生検カンファレンス (東京), 2011. 12.
- 21) 大橋隆治 : 若手病理医のためのミニレクチャー : C3 腎症とその鑑別診断. . 第 10 回 日本腎病理協会総会 (東京), 2012. 1.
- 22) 大橋隆治 : 溶連菌感染後糸球体腎炎の 3 ヶ月後に急速進行性糸球体腎炎様症状を呈し診断に苦慮した 6 歳女児例, 2. ネフローゼ状態を呈し, 診断及び治療に難渋した溶連菌感染後急性糸球体腎炎 (PSAGN) の 1 例. 第 54 回 関東小児腎研究会 (東京), 2012. 1.
- 23) 吉野綾穂, 三枝英人, 山口 智, 大橋隆治 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学頭頸部外科) : 不明の急速進行性筋障害が原因と考えられた肝細胞癌末期の嚥下障害の 1 例. 第 35 回日本嚥下医学会 (高知), 2012. 2.
- 24) Manabu F<sup>1)</sup>, Yoichiro Y ( <sup>1)</sup> Institute of Development Aging and Cancer, Tohoku University) : Long incubation period of cancer induced by internal exposure is attributed to the uneven distribution of deposited radionuclides at the microscopic level. The 6th Intnatl Symp Nagasaki Univ Global COE Program "Global Strategic Center for Radiation Health Risk Control, 2011.
- 25) 山本陽一郎, 土屋眞一, 桑原義和, 福本 学 ( <sup>1)</sup> 東北大学病院) : 体内被ばくによって生じる腫瘍の多様性 : 放射性物質代謝経路の差異がトロトラスト誘発癌の組織型に及ぼす影響. 日本癌学会学術総会 (第 70 回) (名古屋), 2011. 10.
- 26) 武田隼人, 近藤幸尋<sup>1)</sup>, 藤原博通, 栗林茂彦<sup>2)</sup>, 宮下次廣<sup>2)</sup>, 汲田伸一<sup>2)</sup>, 木村 剛<sup>1)</sup>, 林 達郎, 山本陽一郎 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学泌尿器科, <sup>2)</sup> 日本医科大学放射線科) : 前立腺癌に対する密封小線源療法 : PSA 低下率の悪い症例の臨床病理学的検討. 日本泌尿器科学会総会 (第 99 回) (名古屋), 2011. 4.
- 27) 山本陽一郎 : 内部被曝による発癌 : トロトラスト症 168 剖検例による検討. 東京都医学検査学会 (第 8 回) (東京), 2012. 2.
- 28) 渡會泰彦 : チェルノブイリ原発事故後の甲状腺癌検診について. 東京都医学検査学会 (第 8 回) (東京都), 2012. 2.

## [付属病院中央検査部]

### 研究概要

近年, 多様化した価値観をもつ患者に対して質の高い安全な医療を提供することが求められている。臨床検査においても柔軟な対応が求められ, 良質な医療の遂行に必要な正確な情報, 管理, 提供のみならず, リアルタイム検査の充実, 自動測定機器の集約化や効果的検査手法の確立, 測定機器およびデータの管理などの検査関連の品質向上や新たな技術革新に対して, 中央検査部の担うべき役割は増大している。学術面においては, 診断に必要な新しい検査項目の導入検討, 業務効率を改善するための検査項目, 測定試薬, 分析装置の検討や改良, 日常業務で得られる異常データや異常反応の解析, さらには大規模災害発生時の対応など学会等に広く発信している。中央検査部の機能や運営が年々大きく変貌する中で, 高度で進歩が速い臨床検査の知識や技術などを絶えず学び, 常にブラッシュアップする姿勢に努めている。

## 研究業績

### 学会発表

#### (1) パネルディスカッション：

- 1) 小川早恵子, 植田貴子, 亀山澄子, 福田高久, 橋本政子, 飯野幸永, 田近賢二<sup>1)</sup>, 緒方清行<sup>2)</sup> (1) 国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院血液内科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院輸血部)：当院における未交差緊急輸血の現状. 日本輸血細胞治療学会総会 (第 59 回) (東京), 2011. 4.
- 2) 亀山澄子, 小川早恵子, 植田貴子, 福田高久, 橋本政子, 飯野幸永, 田近賢二<sup>1)</sup>, 緒方清行<sup>2)</sup> (1) 国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院血液内科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院輸血部)：当院における即時型輸血副作用の報告状況について. 日本輸血細胞治療学会総会 (第 59 回) (東京), 2011. 4.
- 3) 寺田 紀, 園部晴代, 小川早恵子, 植田貴子, 亀山澄子, 福田高久, 橋本政子, 飯野幸永, 本間 博, 緒方清行<sup>1)</sup> (1) 付属病院輸血部)：当院における不規則抗体の検出状況. 日本医科大学医学会総会 (第 79 回) (東京), 2011. 9.
- 4) 植田貴子, 寺田 紀, 園部晴代, 小川早恵子, 亀山澄子, 福田高久, 橋本政子, 飯野幸永, 本間 博, 緒方清行<sup>1)</sup> (1) 付属病院輸血部)：当院における夜間の輸血依頼状況. 日本医科大学医学会総会 (第 79 回) (東京), 2011. 9.
- 5) 渡部明子, 篠山明宏, 園部一成, 中村祐三, 飯野幸永, 本間 博：Candida dubliniensis の鑑別におけるタバコ培地の有用性. 日本医科大学医学会総会 (第 79 回) (東京), 2011. 9.
- 6) 鷺尾洋平, 大川咲奈, 渡部明子, 篠山明宏, 園部一成, 中村祐三, 飯野幸永, 本間 博：血液培養陽性のグラム染色での推定同定と培養同定の一致率～第 2 報～. 日本医科大学医学会総会 (第 79 回) (東京), 2011. 9.
- 7) 藤田昌久<sup>1)</sup>, 中川仁美<sup>1)</sup>, 三浦義彦<sup>1)</sup>, 野呂瀬嘉彦<sup>1)</sup>, 前田美穂<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 篠山明宏, 園部一成 (1) 付属病院医療安全管理部感染制御室)：Clostridium difficile 院内感染時における遺伝子解析の基礎的検討. 日本医科大学医学会総会 (第 79 回) (東京), 2011. 9.
- 8) 園部一成, 篠山明宏, 野呂瀬嘉彦<sup>1)</sup>, 三浦義彦<sup>1)</sup>, 藤田昌久<sup>1)</sup>, 前原茂子<sup>1)</sup>, 中川仁美<sup>1)</sup>, 新城靖子<sup>1)</sup>, 前田美穂<sup>1)</sup>, 石井良和<sup>2)</sup>, 館田一博<sup>2)</sup> (1) 付属病院医療安全管理部感染制御室, <sup>2)</sup> 東邦大学医学部微生物感染症学講座)：バンコマイシン耐性腸球菌保菌者におけるパルスフィールド電気泳動パターンの多様性. 日本環境感染学会総会 (第 27 回) (福岡), 2012. 2.
- 9) 園部一成, 大川咲奈, 鷺尾洋平, 小島佳子, 篠山明宏, 武井玲子, 中村祐三, 野呂瀬嘉彦<sup>1)</sup>, 斉藤良一<sup>2)</sup> (1) 付属病院医療安全管理部感染制御室, <sup>2)</sup> 東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科生体防御検査学分野)：Bordetella holmessi による感染性心外膜炎の 1 例. 日本臨床微生物学会総会 (第 23 回) (横浜), 2012. 1.

#### (2) 一般講演：

- 1) 柴田泰史, 高木 豊, 鳴海武長, 飯野幸永, 本間 博, 横田裕行<sup>1)</sup> (1) 救急医学講座)：消化管穿孔患者におけるプロカルシトニンの有用性. 日本医学検査学会 (第 60 回) (東京), 2011. 6.
- 2) 佐藤美里, 鳴海武長, 山下純一, 玉手ひさ子, 日ノ澤進一郎, 飯野幸永, 本間 博：CK-MB 活性測定試薬「アキュラスオート CK-MBMtO」と Dimension RXL による CK-MB Mass 法との比較. 日本医学検査学会 (第 60 回) (東京), 2011. 6.
- 3) 鳴海武長, 佐藤美里, 山下純一, 三橋 太, 柴田泰史, 高木 豊, 飯野幸永, 本間 博：当院における POC 機器導入後の課題と今後の展望. 日本臨床検査自動化学会 第 43 回大会 (横浜), 2011. 10.
- 4) 日ノ澤進一郎, 三橋 太, 飯野幸永, 本間 博：24 時間 Ccr 実測値と予測式値から決定される薬剤投与量の一致性. 日本臨床検査自動化学会 第 43 回大会 (横浜), 2011. 10.
- 5) 山下純一, 佐藤美里, 鳴海武長, 柴田泰史, 三橋 太, 高木 豊, 飯野幸永, 本間 博：東北地方太平洋沖地震における当検査部の被害状況とその対策. 日本臨床検査自動化学会 第 43 回大会 (横浜), 2011. 10.
- 6) 佐藤美里, 鳴海武長, 山下純一, 柴田泰史, 飯野幸永, 本間 博, 坪井一平<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>, 小串聡子<sup>2)</sup>, 鈴木

- 康友<sup>2)</sup>, 近藤幸尋<sup>2)</sup> (1) 内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門), <sup>2)</sup> 泌尿器科学講座) : 当院においてミオグロビン偽高値を認めた2例の検討. 日本臨床検査医学会学術集会 (第58回) (岡山), 2011. 11.
- 7) 柴田泰史, 高木 豊, 山下純一, 影山憲貴, 鳴海武長, 佐藤美里, 飯野幸永, 本間 博, 横田裕行 (1) 救急医学講座) : 敗血症患者における予後予測の早期指標としてのプロカルシトニン値の有用性. 日本臨床検査医学会学術集会 (第58回) (岡山), 2011. 6.
- 8) 高木 豊, 影山憲貴, 柴田泰史, 若松秀俊<sup>1)</sup>, 飯野幸永, 本間 博 (1) 東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科) : 血液凝固検査における散乱光強度を用いた項目間チェック手法. 日本臨床検査医学会学術集会 (第58回) (岡山), 2011. 11.
- 9) 田代彩香, 村山智美, 小林紘士, 三橋 太, 日ノ澤進一郎, 飯野幸永, 本間 博 : 全自動尿中有形成分分析装置 UF-1000i の導入における再検ロジックの検討. 関東甲信地区医学検査学会 (第48回) (群馬), 2011. 10.
- 10) 杉本諒司, 佐藤美里, 鳴海武長, 山下純一, 高木 豊, 福田節子, 飯野幸永, 本間 博 : 汎用自動分析装置 BM6070 における D タイマー, FDP, AT-III の基礎的検討. 関東甲信地区医学検査学会 (第48回) (群馬), 2011. 10.
- 11) 柴田泰史, 青砥泰二, 高木 豊, 三橋 太, 山下純一, 影山憲貴, 鳴海武長, 佐藤美里, 飯野幸永, 本間 博, 横田裕之<sup>1)</sup> (1) 救急医学講座) : 敗血症における予後予測および重症度判定の指標としてのプロカルシトニン値. 私立医科大学臨床検査技師会学術研修会 (第29回) (東京), 2011. 11.

## [付属病院薬剤部]

### 研究概要

平成23年度, 薬剤部は組織の大幅な変更に取り組み, そのあり方をセクション制からユニット制に変更した. また, 指定休は土曜日に集中させ, 平日の薬剤師数を確保し病棟業務を推進することとした. これらの取り組みにより, 病棟における医師の負担軽減を推し進め, 臨床での薬剤師の役割をさらに確固たるものにせんとした. このため, 研究業績は, 例年に比較し論文, 著書, 総説, 学会発表など前年を下回る結果となったが, 平成24年度に向け大きな弾みとなるものと考えている. また, これらの取り組みは平成24年度診療報酬改定の先取りをするものであり, 日本の大学病院薬剤部の範らんとしこれまで取り組んできた研究と業務が, 結実したものと考える. また, 一般著書においても「今日の治療指針」「今日の治療薬」「治療薬ハンドブック」「治療薬マニュアル」「病気と薬パーフェクトブック」など, 臨床医が利用する書籍, 「エキスパートナーズ」など, 看護師が利用する書籍に対しても薬剤師の視点で執筆することができた. また, その他, 副作用や相互作用の分野を担当するなど, 直接臨床にかかわる書籍の執筆に広く関わることは, 付属病院薬剤部の業績を反映してのことと考える. さらに, 褥瘡治療, 小児医療, 薬剤管理指導など幅広い分野での研究も継続しており, 付属病院における薬物療法の一環を担う部門としての位置を確立しつつある. 現在, 遺伝診療やPET, 循環器などさらに新たな分野に取り組んでいるが, これまで以上に深くかわり, 病院への安全と安心の医療環境の提供と, 研究による医療そのものへの貢献を期したい.

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著 :

- 1) Aoyama T<sup>1)</sup>, Hirata K<sup>1, 2)</sup>, Hirata R<sup>3)</sup>, Yamazaki H<sup>3)</sup>, Yamamoto Y<sup>4)</sup>, Hayashi H<sup>1)</sup>, Matsumoto Y<sup>1)</sup> (1) Laboratory of Clinical Pharmacokinetics, School of Pharmacy, Nihon University, <sup>2)</sup> Department of Pharmacy, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Laboratory of Drug Metabolism and Pharmacokinetics, Showa Pharmaceutical University, <sup>4)</sup> Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School Hospital) : Population pharmacokinetics of fluconazole after administration of fosfluconazole and fluconazole in critically

ill patients. *Journal of Clinical Pharmacy and Therapeutics* 2011 ; 36 (4) : 1-10.

- 2) 伊勢雄也, 田近賢二<sup>1)</sup>, 久志本成樹<sup>2)</sup>, 緒方清行<sup>3)</sup>, 片山志郎 ( <sup>1)</sup> 横浜南共済病院血液内科, <sup>2)</sup> 東北大学病院高度救急救命センター, <sup>3)</sup> 日本医科大学付属病院輸血部) : アルブミン適正使用評価委員会設置によるアルブミン製剤の適正使用に向けた積極的な介入がアルブミン製剤使用量ならびに患者アウトカムに及ぼす影響. *日本輸血・細胞治療学会学会誌* 2012 ; 58 (1) : 33-41.
  - 3) 加藤あゆみ, 片山志郎 : 災害医療再考・薬剤師の立場から. *日本医科大学医学会雑誌* 2011 ; 7 (suppl) : 39-41.
  - 4) Takehira R<sup>1)</sup>, Murakami K<sup>2)</sup>, Katayama S<sup>2)</sup>, Nishizawa K<sup>3)</sup>, Yamamura S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Faculty of Pharmaceutical Sciences, Josai International University, <sup>2)</sup> Department of Pharmacy, Nippon Medical University Hospital, <sup>3)</sup> Department of Pharmacy, Omori Medical Center, Toho University) : Artificial Neural Network Modeling of Quality of Life of Cancer Patients : Relationships between Quality of Life Assessments, as Evaluated by Patients, Pharmacists and Nurses. *INTERNATIONAL JOURNAL of BIOMEDICAL SCIENCE* 2011 ; 7 (4) : 255-262.
  - 5) Takehira R<sup>1)</sup>, Murakami K<sup>2)</sup>, Katayama S<sup>2)</sup>, Nishizawa K<sup>3)</sup>, Yamamura S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Faculty of Pharmaceutical Sciences, Josai International University, <sup>2)</sup> Department of Pharmacy, Nippon Medical University Hospital, <sup>3)</sup> Department of Pharmacy, Omori Medical Center, Toho University) : A Structural Equation Model (SEM) for Pharmacist Competencies in Improving Quality of Life of Cancer Patients : Effect of Missing Values on the SEM. *Pharmacology & Pharmacy* 2011 ; 2 (2) : 226-232.
- (2) 総説 :
- 1) 平田清貴, 横田裕行<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院救急救命センター) : 急性中毒患者への対応と手順. *月刊薬事* 2011 ; 53 (6) : 785-788.
  - 2) 伊勢雄也, 片山志郎 : がん治療と緩和ケア : 在宅緩和医療の推進に障壁となっていることは? 薬剤師の視点から. *日本医科大学医学会誌* 2011 ; 7 (4) : 156-161.
  - 3) 片山志郎 : 専門・認定薬剤師を知る (第6回) : 緩和薬物療法認定薬剤師の責務とこれから. *ファルマシア* 2011 ; 47 (6) : 527-529.
  - 4) 片山志郎 : ガイドラインの特徴とがん疼痛治療の基本 : がん疼痛治療の基本とオピオイドの使い方. *Expert Nurse* 2011 ; 27 (10) : 80-85.
  - 5) 片山志郎 : 医療看護のフロントライン : 「アカシジア」を見逃さない. *Expert Nurse* 2012 ; 28 (1) : 24-28.

## 著 書

- 1) 畝本賜男, 菅谷和也, 宋 静香, 古宮理絵, 片山志郎 : [分担] 手術部における薬剤師業務 : 手術室における麻薬の徹底管理と潤滑油としての薬剤師の役割. *薬事新報*, 2012 ; pp298-303, 薬事新報社.
- 2) 渡邊暁洋<sup>1)</sup>, 平田清貴 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学千葉北総病院薬剤部) : [分担] 救急薬剤の特徴. *救急医学* (益子 邦洋), 2011 ; pp1487-1494, へるす出版.
- 3) 平田清貴 : [分担] 20 呼吸障害治療薬, 48 止血薬, 69 解毒薬. *治療薬ハンドブック 2012* (高久史磨), 2012 ; pp1346-1359, じほう.
- 4) 岸田悦子 : [分担] 緩和医療薬学と薬剤師 : 痛みからの解放 : No.6 吐気について : メカニズムについて・薬物療法. *薬事日報*, 2011 ; p8, 薬事日報社.
- 5) 岸田悦子 : [分担] 新薬解説「プラザキサカプセル」薬の個性がみえる 2011 年新薬リスト (上). *Pharmatribune*, 2011 ; p 別冊付録, メディカルトリビューン社.
- 6) 岸田悦子 : [分担] 新薬解説「ハラヴェン」薬の個性がみえる 2011 年新薬リスト (下). *Pharmatribune*, 2012 ; p 別冊付録, メディカルトリビューン社.

- 7) 殿塚早百合, 村上桂子, 片山志郎:〔分担〕薬の服薬指導, 坐薬の使用法. 小児科 (福永慶隆, 河野 陽一, 中西敏雄, 岡部 信彦, 高橋 孝雄), 2011; pp733-737, 金原出版.
- 8) 伊勢雄也, 輪湖哲也, 片山志郎:〔分担〕抗がん剤による悪心・嘔吐患者. 月刊薬事, 2012; pp29-33, じほう.
- 9) 片山志郎:〔分担〕服薬指導・薬剤情報. 今日の治療指針 (総編集 山口徹 北原光夫 福井次矢), 2012; pp334,684,715,933-934,1321, 医学書院.
- 10) 片山志郎, 伊勢雄也:〔分担〕薬剤リスト編. 治療薬ハンドブック 2012 (高久 史磨), 2012; pp5-1368, じほう.
- 11) 片山志郎, 伊勢雄也:〔分担〕解説と便覧. 今日の治療薬 2012 (浦部 晶夫, 島田 和幸, 川合 眞一), 2012; pp33-1057, 南江堂.
- 12) 宮田広樹, 片山志郎:〔分担〕腎癌. 病気と薬パーフェクトブック 2012, 2012; pp1394-1398, 南山堂.
- 13) 宮田広樹, 片山志郎:〔分担〕膀胱癌. 病気と薬パーフェクトブック 2012, 2012; p1403, 南山堂.
- 14) 宮田広樹, 片山志郎:〔分担〕臓器別がん薬物療法の管理③ 呼吸器領域. 薬局 2月臨時増刊号, 2012; pp178-186, 南山堂.

## 学会発表

### (1) ワークショップ:

- 1) 平田清貴, 宮内雅人<sup>1)</sup>, 片山志郎, 横田裕行<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院高度救命救急センター): 一般用医薬品と医療用医薬品の適正使用. 日本中毒学会 (第 33 回) (岐阜), 2011. 7.

### (2) 一般講演:

- 1) 矢島 領, 輪湖哲也, 三浦義彦, 伊勢雄也, 木津純子<sup>1)</sup>, 片山志郎 (<sup>1)</sup> 慶應義塾大学 薬学部 実務薬学講座): がん患者における感染症発症の実態及び緩和目的に使用される薬剤による感染症への影響の検討: 緩和ケアチーム介入患者を対象として. 日本緩和医療薬学会 (第 5 回) (幕張), 2011. 9.
- 2) 萩原 研, 須賀理絵, 中嶋基広, 片山志郎: 付属病院における薬品情報室業務の検討. 日本医科大学医学会 (第 79 回) (東京), 2011. 9.
- 3) 萩原 研, 吉田羽奈, 中嶋基広, 片山志郎: 褥瘡治療チーム医療における薬剤師の介入. 日本医療薬学会 (第 20 回) (千葉), 2011. 11.
- 4) 輪湖哲也, 宮田広樹, 岸田悦子, 片山志郎: 日本医科大学付属病院の「薬薬連携」への取り組みとその課題. 日本医科大学医学会 (第 79 回) (東京), 2011. 9.
- 5) 畝本賜男, 川久保孝<sup>1)</sup>, 菊池憲和<sup>2)</sup>, 宮田広樹, 小杉隆祥<sup>3)</sup>, 山本郁生<sup>4)</sup>, 島崎博士<sup>1)</sup>, 宮澤祐輝<sup>5)</sup>, 中島康雄<sup>6)</sup>, 山口雅也<sup>7)</sup>, 矢作栄男<sup>8)</sup>, 片山志郎, 篠原高雄<sup>8)</sup> (<sup>1)</sup> 東京慈恵会医科大学付属病院, <sup>2)</sup> 日本大学医学部附属板橋病院, <sup>3)</sup> 東邦大学医療センター大森病院, <sup>4)</sup> 東京女子医科大学病院, <sup>5)</sup> 東京医科大学病院, <sup>6)</sup> 帝京大学医学部附属病院, <sup>7)</sup> 慶應義塾大学病院, <sup>8)</sup> 杏林大学医学部付属病院): 関東私立医科大学病院の手術室における薬剤師業務に対するアンケート調査. 日本薬学会 (第 132 回) (札幌), 2012. 3.
- 6) 宋 静香, 古宮理絵, 畝本賜男, 片山志郎: 手術室における Patient-controlled epidural analgesia (PCEA) の処方変更による波及効果. 日本薬学会 (第 132 回) (札幌), 2012. 3.
- 7) 平田清貴, 奈良弘恵, 大下順子, 片山志郎, 横田裕行<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院高度救命救急センター): 救命救急センターにおける医薬品関連救急疾患の解析. 日本臨床薬理学会 (第 32 回) (浜松), 2011. 12.
- 8) 宮内雅人<sup>1)</sup>, 平田清貴, 横田裕行<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学付属病院高度救命救急センター): 毒薬物大量内服における細径内視鏡使用の経験. 日本中毒学会東日本地方会 (第 26 回) (盛岡), 2012. 1.
- 9) Takahiko A<sup>1)</sup>, Kiyotaka H, Hiroyuki H<sup>1)</sup>, Yoshiaki M<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Nihon University): Fluconazole dosing regimen in critically ill patients: population pharmacokinetic analysis and Monte Carlo simulation. International Symposium on PPF Molecular Pharmacokinetics (Tokyo), 2011. 12.

- 10) 三浦義彦<sup>1)</sup>, 藤田昌久<sup>1)</sup>, 中川仁美<sup>1)</sup>, 野呂瀬嘉彦<sup>1)</sup>, 園部一成<sup>2)</sup>, 篠山明宏<sup>2)</sup>, 前原茂子<sup>3)</sup>, 前田美穂<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 感染制御部, 2) 日本医科大学付属病院 中央検査部, 3) 日本医科大学付属病院 看護部): 抗MRSA薬 (VCM, TEIC, ABK) の適正使用推進のための管理方法の構築と運用. 日本環境感染学会総会 (第27回) (福岡), 2012. 2.
- 11) 園部一成<sup>1)</sup>, 篠山明宏<sup>1)</sup>, 野呂瀬嘉彦<sup>1)</sup>, 三浦義彦<sup>1)</sup>, 藤田昌久<sup>1)</sup>, 前原茂子<sup>1)</sup>, 中川仁美<sup>1)</sup>, 前田美穂<sup>1)</sup>, 石井良和<sup>2)</sup>, 館田一博<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 感染制御部, 2) 東邦大学医学部 微生物・感染症学講座): バンコマイシン耐性腸球菌保菌者におけるパルスフィールド電気泳動パターンの多様性. 日本環境感染学会 (第27回) (福岡), 2012. 1.
- 12) 加藤あゆみ, 伊勢雄也, 片山志郎, 高橋晴美<sup>1)</sup> (1) 明治薬科大学 薬剤学教室): 医療用麻薬による嘔気・嘔吐への対応: 第1選択薬, 第2選択薬としてのヒスタミン受容体拮抗薬の有用性. 日本緩和医療学会 (第16回) (札幌), 2011. 7.
- 13) 岸田悦子<sup>9)</sup>, 伊勢雄也<sup>9)</sup>, 伊東俊雅<sup>1,9)</sup>, 上島健太郎<sup>2,9)</sup>, 柏原由佳<sup>3,9)</sup>, 塩川 満<sup>4,9)</sup>, 松本高広<sup>5,9)</sup>, 松本幸恵<sup>1,9)</sup>, 山内由美子<sup>6,9)</sup>, 鈴木 勉<sup>7,9)</sup>, 片山志郎<sup>9)</sup>, 明石貴雄<sup>8)</sup> (1) 東京女子医科大学病院 薬剤部, 2) 日本大学板橋病院 薬剤部, 3) 昭和大学病院 薬剤部, 4) 聖隷浜松病院 薬剤部, 5) 東邦大学医療センター大森病院 薬剤部, 6) 帝京大学附属病院 薬剤部, 7) 星薬科大学薬品毒性学教室, 8) 東京都病院薬剤師会, 9) 東京都病院薬剤師会緩和医療領域薬剤師養成特別委員会): 緩和医療領域における薬剤師の専門性向上に対する東京都病院薬剤師会の取り組み: 第2報. 日本緩和医療薬学会 (第5回) (幕張), 2011. 9.
- 14) 片山志郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院薬剤部): 緩和薬物療法における副作用管理と相互作用管理. 日本医療マネジメント学会奈良支部学術集会 (第7回) (奈良), 2012. 2.
- 15) 片山志郎: 緩和薬物療法への薬剤師の視点による関与. 東京都病院薬剤師会臨床薬学研究会 (東京), 2011. 11.
- 16) 片山志郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院薬剤部): 医療用麻薬の適正使用・管理について. 厚生労働省医療用麻薬等指導監督業務研修 (第7回) (東京), 2011. 12.
- 17) 片山志郎: 緩和医療における安全管理と副作用管理. 豊明緩和医療研究会 (愛知), 2011. 6.
- 18) 片山志郎: 緩和医療とがん治療. 日本病院薬剤師会近畿学術大会 (第33回) (大阪), 2012. 1.
- 19) 片山志郎: 安全管理 (服薬指導) と副作用管理. 東京都病院薬剤師会臨床薬学研究会 (東京), 2011. 5.
- 20) 片山志郎: 緩和医療における副作用と相互作用の管理. 明治薬科大学病院薬学コース特別講演会 (東京), 2011. 6.
- 21) 杉山未緒<sup>1)</sup>, 和田紀子<sup>2)</sup>, 樋口比登実<sup>3)</sup>, 鶴野美紀<sup>1)</sup>, 柏原由佳<sup>2)</sup>, 半田智子<sup>1)</sup>, 村山純一郎<sup>2)</sup>, 片山志郎, 加藤裕久<sup>1)</sup> (1) 昭和大学薬学部 医薬品情報学, 2) 昭和大病院 薬剤部, 3) 昭和大病院 緩和医療科): 終末期がん患者における輸液治療の質的評価に関する研究. 日本緩和医療薬学会年会 (第五回) (千葉県幕張メッセ), 2011. 9.

## [付属病院生理機能センター]

### 研究概要

今年度の当センターの研究は心臓リハビリテーションを中心に行われた。学会発表は例年のように多岐にわたり、心疾患に合併した睡眠時無呼吸に伴う炭酸ガス分圧と夜間不整脈との関係や心筋梗塞後の抑うつに関連する因子の検討などを行った。また多職種に関わる減塩プログラムをシンポジウムで発表、包括的心臓リハビリテーションとしての今後の方向性について提示した。新領域への挑戦として耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域において、市販の検査機器や解析ソフト、音響機器などを組み合わせた発声機能検査装置の開発を試みた。今後症例数を増やし、更に改良を重ねているところである。このような研究を通して各専門分野における知識・技術を研鑽するのみならず、広く社会に貢献できる専門医療技術者の育成を目指している。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Hashimoto M<sup>1)</sup>, Ouchi M<sup>1)</sup>, Norose J<sup>1)</sup>, Futami-Suda S<sup>1)</sup>, Suzuki K<sup>1)</sup>, Matsumura N<sup>1)</sup>, Igari Y<sup>1)</sup>, Suzuki T<sup>1)</sup>, Nakano H, Mizuse M<sup>2)</sup>, Honma H<sup>1)</sup>, Oba K (1) Division of Geriatric Medicine, 2) Division of Cardiology) : Bile duct hamartomas (von Meyenburg complexes) associated with a bacterial infection : Case report of elderly diabetic patient. Geriatr Gerontol Int 2011 ; 11 (4) : 534-536.

### 学会発表

#### 〔追加分〕

#### 追加分一般講演：

- 1) 原田潤一郎<sup>1)</sup>, 川野陽一<sup>1)</sup>, 峯田 章<sup>1)</sup>, 神田知洋<sup>1)</sup>, 上田純志<sup>1)</sup>, 谷 杏<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 吉田寛<sup>1)</sup>, 水瀬 学, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 外科学) : 腹痛を伴う急速な増大傾向を認めた悪性肝血管内皮腫の一切除例. 日本肝胆膵外科学会 (第22回) (宮城県仙台市), 2010. 5.
- 2) Harada J<sup>1)</sup>, Taniat N<sup>1)</sup>, Ueda J<sup>1)</sup>, Yoshida H<sup>1)</sup>, Mineta S<sup>1)</sup>, Yoshida M<sup>1)</sup>, Kawano Y<sup>1)</sup>, Mizuse M, Uchida E<sup>1)</sup> (1) Surgery) : Malignant Hepatic Epithelioid Hemangioendothelioma with Abdominal Pain due to Rapid Progression. Abstracts of the 21st Conference of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver (Bangkok,Thailand), 2011. 3.

#### (1) シンポジウム：

- 1) 福間長知<sup>1)</sup>, 菅谷寿理, 林 寛子<sup>1)</sup>, 加藤和代<sup>1)</sup>, 加藤祐子<sup>1)</sup>, 高橋 啓<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup> (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)) : 心筋梗塞後の抑うつと介入に関する検討. 日本心臓病学会 (第59回) (神戸市), 2011. 9.
- 2) 福間長知<sup>1)</sup>, 林 寛子<sup>1)</sup>, 菅谷寿理, 加藤和代<sup>1)</sup>, 加藤祐子<sup>1)</sup>, 高橋 啓<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup> (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)) : 心筋梗塞後の心血管リスクとしての睡眠時無呼吸. 日本心臓病学会 (第59回) (神戸市), 2011. 9.
- 3) 菅谷寿理, 福間長知<sup>1)</sup>, 會田智弘, 加藤政利, 齋藤公一, 加藤和代<sup>1)</sup>, 高橋 啓<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup> (1) 内科 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)) : 多職種による食塩摂取量および関連する因子の管理. 日本循環器学会 (第76回) (福岡市), 2012. 3.

#### (2) 一般講演：

- 1) 黄 俊憲<sup>1)</sup>, 大野忠明<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup>, 田中貴久<sup>1)</sup>, 時田祐吉<sup>1)</sup>, 佐藤丞子<sup>1)</sup>, 横島友子<sup>1)</sup>, 伊藤恵子<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>, 松崎つや子 (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)) : 脳梗塞症例における大動脈弁上に観察された索状構造物. 日本超音波医学会 (第84回) (東京都港区), 2011. 5.
- 2) 大野忠明<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup>, 時田祐吉<sup>1)</sup>, 藤本啓志<sup>1)</sup>, 佐藤丞子<sup>1)</sup>, 横島友子<sup>1)</sup>, 伊藤恵子<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>, 松崎つや子 (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)) : 経胸壁心エコーによる上行大動脈壁硬度の評価 : 心機能と腎機能との関わり. 日本超音波医学会 (第84回) (東京都港区), 2011. 5.
- 3) 菅谷寿理, 福間長知<sup>1)</sup>, 會田智弘, 加藤政利, 吉田由紀子, 竹田裕子, 林 寛子<sup>1)</sup>, 加藤和代<sup>1)</sup>, 高橋 啓<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup> (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)) : 心筋梗塞後の抑うつに関連する因子の検討. 日本心臓リハビリテーション学会 (第17回) (大阪市), 2011. 7.
- 4) 會田智弘, 福間長知<sup>1)</sup>, 菅谷寿理, 加藤政利, 平野美子, 齋藤公一, 林 寛子<sup>1)</sup>, 加藤和代<sup>1)</sup>, 加藤祐子<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup> (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)) : 心疾患患者に合併した睡眠時無呼吸に伴う炭酸ガス分圧異常と夜間不整脈との関係. 日本心臓リハビリテーション学会 (第17回) (大阪市), 2011. 7.

- 5) 加藤政利, 福岡長知<sup>1)</sup>, 菅谷寿理, 會田智弘, 佐藤淳子, 齋藤公一, 加藤祐子<sup>1)</sup>, 愛須紀子<sup>1)</sup>, 高橋 啓<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup> (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門) : 心疾患に合併した睡眠時無呼吸は運動負荷中の炭酸ガス分圧変化に影響する. 日本心臓リハビリテーション学会 (第 17 回) (大阪市), 2011. 7.
- 6) 野原秀明, 緒方たつ子, 齋藤公一, 本間 博, 永積 渉<sup>1)</sup>, 三枝英人<sup>1)</sup>, 大久保公裕<sup>1)</sup> (1) 耳鼻咽喉科・頭頸部外科) : 市販の検査装置を組み合わせて作成した総合発声機能検査装置の開発とその有用性. 日本医科大学医学会総会 (第 79 回) (東京都文京区), 2011. 9.
- 7) 宗方祐美子, 青木 亘, 佐藤淳子, 菅谷寿理, 齋藤公一, 本間 博, 今野俊介<sup>1)</sup>, 宮本雅史<sup>1)</sup>, 高井信朗<sup>1)</sup> (1) 整形外科) : 経頭蓋高電圧刺激による運動誘発電位の術中変動とその問題点. 日本医科大学医学会総会 (第 79 回) (東京都文京区), 2011. 9.
- 8) 會田智弘, 福岡長知<sup>1)</sup>, 菅谷寿理, 林 寛子<sup>1)</sup>, 加藤和代<sup>1)</sup>, 高橋 啓<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup> (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門) : 心筋梗塞後心臓リハビリテーション導入症例とAHAの抑うつ指針. 日本循環器心身学会 (第 68 回) (東京都文京区), 2011. 11.
- 9) 菅谷寿理, 福岡長知<sup>1)</sup>, 會田智弘, 加藤政利, 林 寛子<sup>1)</sup>, 加藤和代<sup>1)</sup>, 高橋 啓<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup> (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門) : 心筋梗塞後症例におけるSDSとPHQ9の比較. 日本循環器心身学会 (第 68 回) (東京都文京区), 2011. 11.
- 10) 菅谷寿理, 福岡長知<sup>1)</sup>, 會田智弘, 加藤政利, 加藤和代<sup>1)</sup>, 加藤祐子<sup>1)</sup>, 高橋 啓<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup> (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門) : 包括的心臓リハビリテーション実施中の心筋梗塞患者に見られる抑うつに関連する因子の検討. 日本心臓病学会 (第 59 回) (神戸市), 2011. 9.
- 11) 會田智弘, 福岡長知<sup>1)</sup>, 菅谷寿理, 加藤政利, 齋藤公一, 林 寛子<sup>1)</sup>, 加藤和代<sup>1)</sup>, 愛須紀子<sup>1)</sup>, 高橋 啓<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup> (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門) : 急性心筋梗塞患者に対する尿中アルブミン検査の意義. 日本循環器学会 (第 76 回) (福岡市), 2012. 3.
- 12) Aida T, Fukuma N<sup>1)</sup>, Sugaya J, Hayashi H<sup>1)</sup>, Kato K<sup>1)</sup>, Aisu N<sup>1)</sup>, Takahashi H<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>1)</sup> (1) Department of Cardiology, Internal Medicine) : Sleep Apnea Relates to Nighttime Arrhythmia through Abnormality of Arterial Pressure of Carbon Dioxide in Patients with Heart Disease. 76th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (福岡市), 2012. 3.
- 13) 加藤政利, 福岡長知<sup>1)</sup>, 菅谷寿理, 會田智弘, 齋藤公一, 林 寛子<sup>1)</sup>, 加藤和代<sup>1)</sup>, 加藤祐子<sup>1)</sup>, 愛須紀子<sup>1)</sup>, 高橋 啓<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup> (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門) : 心疾患患者における中枢性睡眠時無呼吸は運動負荷中の炭酸ガス分圧と関連する. 日本心臓病学会 (第 59 回) (神戸市), 2011. 9.
- 14) 加藤政利, 福岡長知<sup>1)</sup>, 菅谷寿理, 會田智弘, 齋藤公一, 林 寛子<sup>1)</sup>, 加藤祐子<sup>1)</sup>, 愛須紀子<sup>1)</sup>, 高橋 啓<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup> (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門) : 運動負荷時における炭酸ガス分圧モニタリングの有用性の検討. 日本心臓病学会 (第 59 回) (神戸市), 2011. 9.
- 15) Kato M, Fukuma N<sup>1)</sup>, Sugaya J, Hayashi H<sup>1)</sup>, Katoh K<sup>1)</sup>, Aisu N<sup>1)</sup>, Takahashi H<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>1)</sup> (1) Department of Cardiology) : Nighttime Decrease in Arterial Carbon Dioxide Pressure through Sleep Apnea Relates to Abnormality of CPX Parameters. 76th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (福岡市), 2012. 3.
- 16) 加藤政利, 福岡長知<sup>1)</sup>, 菅谷寿理, 林 寛子<sup>1)</sup>, 加藤和代<sup>1)</sup>, 愛須紀子<sup>1)</sup>, 高橋 啓<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup> (1) 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門) : 運動負荷時における経皮的炭酸ガス分圧モニタリングの有用性. 日本循環器学会 (第 76 回) (福岡市), 2012. 3.

## [付属病院看護部]

### 研究概要

看護部では、各専門領域において様々な看護研究や看護実践に取り組み看護部内外に発表した。とくに4病院で実施している「臨床における看護研究の取り組み」では、以下の7演題が発表され、今後は関連領域の学会の発表や論文の作成予定である。1) A 大学病院看護師の看護サービスに対する意識調査、2) 脳神経疾患患者の食事状況を調整し、誤嚥性肺炎の予防に至った8事例、3) 当院におけるオストメイトのQOLに影響を与える要因～社会背景とストーマ外来受診状況に焦点をあてて～、4) 外来化学療法を受ける壮年期のがん患者の家族における困難、5) VAC療法中の患者に出現する症状の実態調査、6) 急変時のノンテクニカルスキル向上を目指して～チーム・ダイナミクスに着目したシミュレーショントレーニングの実践～、7) 救命救急センターから一般病棟への急な転室の宣告を受けた患者の心理状態

### 研究業績

#### 論文

##### [追加分]

追加分解説：

- 1) 原田恭子：心臓血管手術周術期管理におけるコメディカルの役割：心臓血管手術の術前術後の集中管理. *Cardio-vascular Anesthesia* 2011；15（1）：39-41.

(1) 解説：

- 1) 桑島みく，原田恭子：刺激伝導系（心電図）のメカニズムと異常心電図の特徴（循環器ナースのための！フジカルアセスメントに必要な知識と技術 part1〈基礎編〉）. *HEART* 2011；1（2）：193-204.
- 2) 渡部由香里，原田恭子：レベルアップ！患者サポートで成功させる急性期NPPVマスク装着にかかわるサポート. *呼吸器ケア* 2011；9（8）：842-846.
- 3) 柿沼香里：摂食・嚥下障害看護“口から食べるを支えるケア”直接訓練としての食事における看護1) 食前のケア. *看護技術* 2011；57（9）：27-33.
- 4) 柿沼香里：摂食・嚥下障害看護“口から食べるを支えるケア”摂食・嚥下障害におけるリスク管理. *看護技術* 2011；57（9）：39-43.
- 5) 背戸陽子：災害発生時の救護出動に必要な知識と技術固定法「骨盤骨折・四肢外傷」. *Emergency care* 2012；25（3）：254-255.
- 6) 佐々木健太郎：災害発生時の救護出動に必要な知識と技術クラッシュシンドローム. *Emergency care* 2012；25（3）：256-257.
- 7) 山崎直人，榊 由里，金濱英介：災害地の病院や避難所での救護活動に必要な知識と技術気管支喘息の重積発作. *Emergency Care* 2012；25（3）：262-263.
- 8) 榊 由里：原発事故による医療ニーズと看護実践警戒区域への一時立ち入りに対する医療支援. *看護技術* 2011；57（12）：153-157.
- 9) 斎藤徳子：頸椎損傷患者の妻の心理状態に対する看護. *重症集中ケア* 2011；22-26.
- 10) 杉山理恵：摂食・嚥下障害看護“口から食べる”を支えるケア. *看護技術* 2011；57（9）：775-777.

(2) 研究報告書：

- 1) 横田美穂：不育症患者の心理・社会的状況. *日医大医会誌* 2012；8（1）：31-37.

(3) 学術集会紹介：

- 1) 三上 恵：学会見聞録：第38回日本集中治療医学会学術集会. *ハートナーシング* 2011；24（8）：70-73.

(4) 活動報告：

- 1) 周藤和美, 早津絹子, 早坂百合子：東日本大震災に対する対応 看護師の立場から. 日医大医会誌 2011；7 (Suppl1)：35-38.

(5) 事例検討：

- 1) 小栗智美：事例集 患者の症状に応じた, 患者・家族への支援・習得内容の実際 認知症の患者の場合. 臨床看護 2012；38 (2)：206-209.

## 著書

- 1) 内藤明子：〔分担〕第7章 看護ケアのマネージメント. 基礎看護学：看護学概論ナーシング・グラフィカ 16 (川村佐和子, 松尾ミヨ子, 志自岐康子), 2012；pp257-275, メディカ出版.
- 2) 佐々木友子：〔分担〕第3章心不全の治療とケア ナースが解説する心不全のケア. ハートナーシングはじめてのICU・CCU看護：循環器領域の必須ケア・疾患がオールインワン! (関口敦), 2011；pp215-229, メディカ出版.
- 3) 佐藤愛子, 原田恭子, 竹田晋浩<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学麻酔科学教室)：〔分担〕NPPV. スマートナースブックスII たとえとイラストで簡単マスター人工呼吸器換気モード超入門 (磨田 裕), 2012；pp96-104, メディカ出版.
- 4) 中西吉人：〔監修〕看護師・看護学生のためのなぜ? どうして?. 看護師・看護学生のためのなぜ? どうして? (會田信子, 岩田裕子, 小田嶋晋, 加藤明子, 滝口景子, 中西吉人, 渡邊亮一), 2011；pp1-241, メディックメディア.
- 5) 稲田浩美：〔分担〕創傷ケア Q37 褥創周囲の皮膚はどのようにケアすべき?. Nursing Mook69 看護技術・ケアの疑問解決 Q & A (中川ひろみ), 2012；pp80-81, 学研.
- 6) 稲田浩美：〔分担〕創傷ケア Q33 手術後のシャワー浴や入浴は, いつから開始できますか?. Nursing Mook 69 看護技術・ケアの疑問解決 Q & A (中川ひろみ), 2012；pp70-72, 学研.
- 7) 佐藤憲明：〔編集〕急変対応のすべてがわかる Q&A. 急変対応のすべてがわかる Q&A (佐藤憲明), 2011；pp1-289, 照林社.

## 学会発表

### 〔追加分〕

#### 追加分示説：

- 1) 亀山真理, 山口博樹<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学血液内科)：再発した造血器腫瘍患者における造血幹細胞移植の精神的な意味づけ. 日本造血細胞移植学会総会 (第34回) (大阪), 2011. 2.

#### (1) パネルディスカッション：

- 1) 榊 由里：中堅・既卒看護師教育における当施設の取り組みと課題. 第7回日本クリティカルケア看護学会学術集会 (横浜国際会議場), 2011. 7.

#### (2) ワークショップ：

- 1) 小川香野, 大谷和子, 小川 令<sup>1)</sup>, 高見佳宏<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科)：熱傷看護 一般病棟における標準的なケア・チーム医療. 日本熱傷学会総会・学術集会 (第37回) (東京), 2011. 6.
- 2) 志村知子：重症熱傷患者に対する局所的創傷ケア：発表 mist 洗顔法を用いた顔面の熱傷創ケア. 第37日本熱傷学会総会・学術集会 (東京ドームホテル), 2011. 6.

#### (3) 一般講演：

- 1) 石原ゆきえ<sup>4.1)</sup>, 大倉美紀<sup>4.2)</sup>, 山内真恵<sup>4.3)</sup>, 安部節美<sup>4)</sup> (1) 昭和大学病院総合相談センター, <sup>2)</sup> 慶應義塾大学病

- 院医療連携室,<sup>3)</sup> 武蔵野赤十字病院医療連携センター,<sup>4)</sup> 東京と退院調整看護師の会) : 東京と退院調整看護師の会の活動報告と展望. 日本医療マネジメント学会学術集会 (第 13 回) (京都), 2011. 6.
- 2) 小川香野, 小川 令<sup>1)</sup>, 高見佳宏<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科) : 広範囲熱傷後肥厚性瘢痕の掻痒に対するヨモギローションの効果. 日本熱傷学会総会・学術集会 (第 37 回) (東京), 2011. 6.
- 3) 玉城綾乃, 長嶺由紀乃, 高木千佳, 關根智子, 小松ひろみ : 甲状腺・副甲状腺で手術を受ける患者に対するオリエンテーション実施の評価 : 患者さんへのよりよい看護の提供をめざして. お江戸内分手術手技懇話会 (第 6 回) (東京), 2011. 10.
- 4) 小松ひろみ, 鈴木由美, 中西吉人 : 職場異動経験の有無とキャリア意欲との関連性. 日本看護学会 (看護管理) (第 42 回) (京都), 2011. 10.
- 5) 穂山真理, 荒井奈保子<sup>1)</sup>, 井上玲子<sup>2)</sup>, 下平唯子<sup>3)</sup> (1) 河北総合病院, 2) 青梅市立総合病院, 3) 東京女子医科大学大学院看護学研究科) : 再発した 30 歳代女性白血病患者にとっての治療継続の意味. 日本看護科学学会学術集会 (第 31 回) (高知), 2011. 12.
- 6) 穂山真理, 下平唯子<sup>1)</sup> (1) 東京女子医科大学大学院看護学研究科) : 壮年期にある再発した悪性リンパ腫患者にとっての治療継続の意味. 東京女子医科大学看護学会学術集会 (第 7 回) (東京), 2011. 10.
- 7) 井上玲子<sup>1)</sup>, 荒井奈保子<sup>2)</sup>, 穂山真理, 下平唯子<sup>3)</sup> (1) 青梅市立総合病院, 2) 河北総合病院, 3) 東京女子医科大学大学院看護学研究科) : 終末期がん患者の看護師の痛みのコントロールを困難にする要因. 日本看護科学学会学術集会 (第 31 回) (高知), 2011. 12.
- 8) 荒井奈保子<sup>1)</sup>, 穂山真理, 井上玲子<sup>2)</sup>, 下平唯子<sup>3)</sup> (1) 河北総合病院, 2) 青梅市立総合病院, 3) 東京女子医科大学大学院看護学研究科) : 高齢男性肺がん患者のとらえる治療体験. 日本看護科学学会学術集会 (第 31 回) (高知), 2011. 12.
- 9) 勝又美雪, 志村知子, 佐藤憲明, 牛島麻衣, 成田清香, 高澤直央, 藤井裕士, 橋本恵美, 西畑 毅 : 顔面熱傷に対しミスと洗顔法を用いた 1 例. 第 63 回日本救急医学会関東地方会 (日本青年会館), 2012. 2.
- 10) 杉山理恵, 佐藤憲明 : 救急・集中治療領域での摂食・嚥下障害患者の現状分析. 第 13 回日本救急看護学会学術集会 (神戸国際会議場), 2011. 10.
- 11) 橋本恵美, 榎 由里, 白川睦美, 牛島麻衣, 内海清乃, 佐藤憲明 : 救急救命センターに配属となったキャリアをもつ看護師の職業アイデンティティに関する影響要因. 第 13 回日本救急看護学会学術集会 (神戸国際会議場), 2011. 10.
- 12) 多田 覚, 島内淳二, 嶋田一光, 林田康宏, 金濱英介, 斎藤徳子, 立野礼子, 下山真紀, 伊藤博希, 佐藤憲明 : 当施設における VAP サーベランスから見た現状と今後の展望. 第 13 回日本救急看護学会 (神戸国際会議場), 2011. 10.
- 13) 渡邊勇輝, 増山竜太, 田川 陽, 吉田朋代, 海老沢拓也, 山下耕輔, 志村知子, 佐藤憲明 : ガイドライン変更に伴う適切な胸骨圧迫の検討. 第 14 回日本臨床救急医学会総会・学術集会 (札幌国際会議場), 2011. 6.
- 14) 渡邊 淳<sup>2, 1)</sup>, 鈴木由美<sup>1)</sup>, 菅野華子<sup>2, 1)</sup>, 峯 克也<sup>3)</sup>, 安部 崇<sup>3)</sup>, Banyar T<sup>2)</sup>, 竹下俊行<sup>3)</sup>, 折茂英生<sup>2)</sup>, 澤井英明<sup>4)</sup>, 島田 隆<sup>2, 1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院遺伝診療科, 2) 日本医科大学生化学・分子生物学, 3) 日本医科大学付属病院産科・女性診療科, 4) 兵庫医科大学産婦人科) : 周産期型低フォスファターゼ症の遺伝診療 : 周産期からの follow-up の必要性. 日本遺伝カウンセリング学会 (第 35 回) (京都), 2011. 5.
- (4) 示説 :
- 1) 桑島みく, 吉田若菜, 渡部由香里 : 急変事のノンテクニカルスキル獲得を目指して CRM 行動指標を用いた評価. 日本集中治療医学会 (第 39 回) (千葉幕張), 2012. 2.
- 2) 久留木亜美, 松田明子, 関根典子, 白畑恭子 : 化学療法を受ける血液疾患患者に対するより良い指導への取り組み 追跡調査. 日本がん看護学会 (第 25 回) (神戸), 2012. 2.

- 3) 稲村悠佳, 腹子あきこ, 穂山真理: 化学療法を受ける悪性リンパ腫患者のセルフケア向上支援: 患者指導表・パンフレットを使用して. 日本がん看護学会 (第 25 回) (神戸), 2012. 2.

## [付属病院放射線科技師室]

### 研究概要

放射線科技術部門 (放射線科技師室) は, 診療用画像検査全般および放射線治療を扱う部門である. 一般撮影部門 (X 線撮影部門, X 線透視撮影部門), CT 部門, 核医学 (RI) 部門, MRI 部門, 血管撮影部門および放射線治療部門で構成され, それぞれの部門で研究を進めている. 一般撮影部門では, フラットパネル (FPD) の撮影条件に関する研究から, 医療被曝軽減および画質向上について検討を続けている. MRI 部門では, 高磁場装置である 3T (テスラ) を用いた研究を進めている. 特に, 下垂体の微小な腫瘍を描出することを可能にした, 高速 SE 法を利用した 3D (三次元) 撮影法に関して取りまとめを行った. また, 他施設と合同で MRI の安全性に関する調査を実施した. CT 部門は, 3D-CT の信頼性の向上について継続的に検討を進めている. また, 寝台位置移動による空間分解能評価の基礎的な検討を行い, 基礎データの収集を行った. 放射線科技術部門では, 診療用画像検査全般を扱う部門であり, それぞれの部門ごとに毎年研究テーマを決め, 「正確な画像診断」を行うことが可能となる「よりよい画像」を各診療科に提供できるように研究に取り組んでいる.

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) 小川匡史, 松村善雄, 土橋俊男: 心筋遅延造影 MRI における TI scout 像 (look-locker) の特徴と IR-T1T2FE 法との null point の整合性について. 日本放射線技術学会雑誌 2011; 67 (6): 666-672.
- 2) 土井 司<sup>1)</sup>, 山谷裕哉<sup>2)</sup>, 上山 毅<sup>3)</sup>, 錦 成朗<sup>4)</sup>, 小倉明夫<sup>5)</sup>, 川光秀昭<sup>6)</sup>, 土橋俊男<sup>7)</sup>, 奥秋知幸<sup>8)</sup>, 松田 豪<sup>9)</sup>, 熊代正行<sup>10)</sup> (1) 大阪大学医学部附属病院, 2) 奈良県立医科大学, 3) 彩都友絃病院, 4) 天理よろず相談所病院, 5) 京都市立病院, 6) 神戸大学医学部附属病院, 7) 日本医科大学付属病院, 8) 八重洲クリニック, 9) GEヘルスケアジャパン株式会社, 10) その他): MRI 装置の安全管理に関する実態調査の報告: 思った以上に事故は起きている. 日本放射線技術学会誌 2011; 67 (8): 895-904.
- 3) 小川匡史, 松村善雄, 松本 剛, 土橋俊男, 椿山信吾: 3T MRI における 3D Turbo SE 法を使用した下垂体ダイナミック撮像法の検討. 日本放射線技術学会雑誌 2012; 68 (3): 231-239.

##### (2) 総説:

- 1) 土橋俊男: 機器の買い替えとメンテナンス: 医療法・薬事法改正で体系化した医療機器の安全対策を踏まえ, 買い替え・メンテナンスにつなげていく. 月刊新医療 2011; 38 (7): 173-177.
- 2) 土橋俊男: MR 検査の安全管理 (静磁場の影響とクエンチ). 日本放射線技術学会誌 2011; 67 (9): 1223-1226.

#### 著書

- 1) 土橋俊男: [分担] MRI 室の設備と撮影時の注意点・III 章 各種安全管理技術. 救急撮影ガイドライン (日本救急撮影技師認定機構), 2011; pp166-172. へるす出版.

#### 学会発表

##### (1) 教育講演:

- 1) 土橋俊男: 歯科用金属による MR 画像への影響とその対策 (金属 artifact の低減, 除去を中心に). 日本磁気歯科学会 (第 21 回) (東京), 2011. 11.

- 2) 土橋俊男：MRI 検査の安全管理（強磁性体の吸引事故防止について：事故例から原因と対策を考える）. 日本磁気共鳴医学会（第 39 回）（福岡），2011. 9.
- (2) セミナー：
- 1) 土橋俊男：こんなときあなたならどうする：臨床で遭遇する事例への対応を考える（第 3 回 MR 医療安全セミナー）. 日本磁気共鳴専門技術者認定機構（九州），2011. 12.
- (3) 一般講演：
- 1) 菅谷正範, 小川 孝, 稲餅正見, 小林宏之, 大湾朝仁, 土橋俊男, 岩木 健<sup>1)</sup> (1) 富士フイルム株式会社 メディカルシステム事業部)：FPD 長尺撮影における体動の影響と長尺体動検出技術の有用性評価. 日本放射線技術学会総会学術大会（第 67 回）（バシフィコ横浜），2011. 4.
- 2) 古崎治子, 小林宏之, 村上隆介, 土橋俊男, 前里美和子, 佐藤久弥, 中村瑞穂, 川又郁夫 (1) 日本医科大学付属病院 放射線科, 2) 日本医科大学付属病院 放射線科, 3) 日本医科大学付属病院 放射線科, 4) 日本医科大学付属病院 放射線科, 5) 聖マリアンナ医科大学付属研究所, 6) 昭和大学病院, 7) 東海大学医学部付属八王子病院)：CD-MAM 解析を用いた FFDM の画像評価. 日本放射線技術学会（第 67 回総会学術大会）（横浜），2011. 4.
- 3) 小林宏之<sup>1)</sup>, 古崎治子<sup>1)</sup>, 村上隆介<sup>1)</sup>, 前里美和子<sup>2)</sup>, 小山智美<sup>3)</sup>, 川久保衣里子<sup>3)</sup>, 尾川松義<sup>4)</sup>, 佐藤香菜<sup>4)</sup>, 佐藤久弥<sup>5)</sup>, 長島千恵子<sup>6)</sup>, 内山菜智子<sup>6)</sup>, 小林由紀枝<sup>7)</sup>, 中村瑞穂<sup>8)</sup>, 川又郁夫<sup>8)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 放射線科, 2) 聖マリアンナ医科大学付属研究所, 3) 聖路加国際病院, 4) 横浜市立大学付属病院, 5) 昭和大学病院, 6) 国立がん検診研究センター, 7) 国立がんセンター中央病院, 8) 東海大学医学部付属八王子病院)：国内で臨床使用されている FFDM の画像評価（第 2 報）. 日本乳癌検診学会（第 21 回学術総会）（岡山），2011. 10.
- 4) 古崎治子<sup>1)</sup>, 小林宏之<sup>1)</sup>, 村上隆介<sup>1)</sup>, 前里美和子<sup>2)</sup>, 小山智美<sup>3)</sup>, 川久保衣里子<sup>3)</sup>, 尾川松義<sup>4)</sup>, 佐藤香菜<sup>4)</sup>, 佐藤久弥<sup>5)</sup>, 長島千恵子<sup>6)</sup>, 内山菜智子<sup>6)</sup>, 小林由紀枝<sup>7)</sup>, 中村瑞穂<sup>8)</sup>, 川又郁夫<sup>8)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 放射線科, 2) 聖マリアンナ医科大学付属研究所, 3) 聖路加国際病院, 4) 横浜市立大学付属病院, 5) 昭和大学病院, 6) 国立がん検診研究センター, 7) 国立がんセンター中央病院, 8) 東海大学医学部付属八王子病院)：国内で臨床使用されている FFDM の画像評価（第 1 報）. 日本乳癌検診学会（第 21 回学術総会）（岡山），2011. 10.
- 5) 工藤正寿<sup>1)</sup>, 秀永慎<sup>1)</sup>, 村木巖太郎<sup>1)</sup>, 高橋克幸<sup>1)</sup>, 菅谷正範<sup>1)</sup>, 中島宗一郎<sup>1)</sup>, 土橋俊男<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 放射線科)：寝台位置移動による空間分解能評価の基礎的検討. 日本放射線技術学会秋季学術大会（第 39 回）（神戸（神戸国際会議場）），2011. 10.
- 6) 村中博幸<sup>1)</sup>, 土橋俊男<sup>2)</sup>, 山口さち子<sup>3)</sup>, 山田直明<sup>4)</sup>, 中井敏晴 (1) 広島市総合リハビリテーションセンター, 2) 独立行政法人 労働安全衛生総合研究所, 3) 国立循環器病センター, 4) 国立長寿医療研究センター)：MR 検査におけるインプラントに起因する問題とその対応. 日本磁気共鳴医学会（福岡），2011. 10.
- 7) 山口さち子<sup>1)</sup>, 佐々木毅<sup>1)</sup>, 村中博幸<sup>2)</sup>, 土橋俊男, 山田直明<sup>3)</sup>, 中井敏晴<sup>4)</sup> (1) 独立行政法人 労働安全衛生総合研究所, 2) 広島市総合リハビリテーションセンター, 3) 国立循環器病研究センター, 4) 独立行政法人 国立長寿医療研究センター)：MR 検査業務従事者が有するインプラントの認識動向に関する検討. 日本磁気共鳴医学会（福岡），2011. 10.
- 8) 山口さち子<sup>1)</sup>, 村中博幸<sup>2)</sup>, 土橋俊男, 山田直明<sup>3)</sup>, 中井敏晴<sup>4)</sup> (1) 独立行政法人 労働安全衛生総合研究所, 2) 広島市立総合リハビリテーションセンター, 3) 国立循環器病研究センター, 4) 独立行政法人 国立長寿医療研究センター)：MR 検査の安全性についてのアンケート実施報告. 日本磁気共鳴医学会（福岡），2011. 10.
- 9) 吉澤賢史<sup>1, 2)</sup>, 宮地利明<sup>2)</sup>, 土橋俊男<sup>1)</sup>, 原科悟史<sup>1)</sup>, 秀永慎<sup>1)</sup>, 村木巖太郎<sup>1)</sup>, 松村善雄<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 放射線科, 2) 金沢大学大学院 医学系研究科)：心筋遅延造影 MRI 脂肪抑制 3D Phase Sensitive Inversion Recovery の検討：Linear order の有用性について. 日本放射線技術学会総会学術大会（第 67 回）（横浜），2011. 4.
- 10) 吉澤賢史<sup>1, 2)</sup>, 宮地利明<sup>2)</sup>, 土橋俊男<sup>1)</sup>, 原科悟史<sup>1)</sup>, 松村善雄<sup>1)</sup>, 大湾朝仁<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学付属病院放射線

科, 2) 金沢大学大学院医学系研究科): 高磁場 MRI 装置を用いた脂肪抑制 3D Phase Sensitive Inversion Recovery-T1 turbo field echo 法による心筋遅延造影の検討. 日本磁気共鳴医学大会 (第 39 回) (北九州 小倉), 2011. 9.

## [付属病院 ME 部]

### 研究概要

付属病院 ME 部は, 手術室や集中治療における生命維持管理装置の操作および保守点検を主に, 各診療にて使用する医療機器 (ME 機器) や周辺関連機器の管理を行っている。

また, 医療機器を扱う上での医療安全を考慮し, いかに安全に医療機器を使用できるかを研究テーマにしている。

#### 1) 手術室部門

手術室部門では, 新しく関わり始めた眼科業務に対し, 業務内容を見直すことで, 新たな問題点と対策を行うことができた。我々, 臨床工学技士が業務範囲を広げることで手術件数増加に貢献することができ, また, 手術室運営における効率化を含めた他職種との連携や今後の在り方を研究した。

また, <心臓手術チームに必要な条件-必要とされる麻酔科医とは>という演題で, 心臓手術における麻酔科医と臨床工学技士との関わりを研究し, チーム医療の重要性を発表することができた。

#### 2) ペースメーカ部門

ペースメーカ部門では, 1年目の技士として臨床現場での関わりを研究し, 座学では知ることのできない現場の厳しさを発表した。また, 立会い規制から販売業者を排除し臨床業務を行ってきた振りかえりとして今後の課題を研究した。デバイス業務を当院における機器チェックの現状を見直し, より安全に行うための工夫を研究し発表した。

#### 3) 高気圧酸素療法部門

高気圧酸素療法部門では, 難治性潰瘍・壊疽症例の治療に際し, 血管再生医療との併用により 9 割以上の有効率がみとめられ, その結果入院期間が短縮し“自立歩行で帰宅”が可能となり高い治癒効果が得られた。各症例の基礎疾患・感染の有無などの背景と治癒過程における高気圧酸素療法の役割について検討し発表した。

#### 4) 集中治療領域部門

集中治療領域部門では, インフルエンザ肺炎に対し ECMO を使用して救命できた症例を研究しその成果を発表した。また, 重症患者に対する血液浄化法を研究し, 通常とは違う治療法で行った症例を発表した。

### 研究業績

#### 学会発表

##### [追加分]

追加分一般講演:

- 1) 庭山ゆう子, 黄川田信允, 野口裕幸, 坂本篤裕: 急性肝障害症例に対する血液浄化療法を経験して. 日本集中治療医学会学術集会 (第 38 回) (パシフィコ横浜), 2011. 2.

(1) シンポジウム:

- 1) 鈴木健一, 坂本篤裕: 心臓手術チームに必要な条件: 必要とされる心臓麻酔科医とは. 日本心臓血管麻酔学会 (第 16 回) (旭川), 2011. 10.

(2) 一般講演:

- 1) 鈴木健一, 坂本篤裕, 松田範子, 庭山ゆう子, 粟屋俊輔, 大石沙織, 島崎弥生, 白石千草, 美野輪恵子, 橋本美

- 紀, 森嶋俊介, 豊富達智, 八重田知見, 少前貴康: 当院のデバイス関連業務の現状. 日本不整脈学会 植込みデバイス関連冬季大会 (第4回) (福岡県小倉), 2012. 2.
- 2) 鈴木健一, 坂本篤裕, 松田範子, 庭山ゆう子, 粟屋俊輔, 大石沙織, 島崎弥生, 白石千草, 美野輪恵子, 橋本美紀, 森嶋俊介, 豊富達智, 八重田知見, 少前貴康: 出血性脳梗塞を合併した感染性心内膜炎に対して, 体外循環を使用し手術を施行した1例. 心臓血管外科ウィンターセミナー (第26回) (山形県蔵王), 2012. 2.
- 3) 美野輪恵子, 坂本篤裕, 鈴木健一: 眼科業務に関わり始めて見えてきた問題点と改善策. 日本手術医学会総会 (第33回) (鹿児島県鹿児島市照院町 41-1 城山観光ホテル), 2011. 10.
- 4) 八重田知見, 坂本篤裕, 鈴木健一, 松田範子, 庭山ゆう子, 森嶋俊介, 少前貴康, 粟屋俊輔, 長島聡志, 粟屋俊輔, 島崎弥生, 大石沙織, 美野輪恵子, 白石千草, 橋本美紀, その他5名: ペースメーカー植込みを経験して学んだこと 臨床工学技士1年目として. 一般社団法人 東京都臨床工学技士会 (第19回) (東京), 2011. 6.
- 5) 松田範子<sup>1)</sup>, 豊富達智<sup>1)</sup>, 中山拓也<sup>1)</sup>, 鈴木健一<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>2)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup>, 桐木園子<sup>3)</sup>, 太良修平<sup>3)</sup>, 高木 元<sup>3)</sup>, 宮本正章<sup>3)</sup>, 坂本篤裕<sup>4,1)</sup>, 徳永 昭<sup>5)</sup> (1) 日本医科大学付属病院 ME 部, 2) 日本医科大学外科, 3) 日本医科大学内科・再生医療科, 4) 日本医科大学麻酔科, 5) 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター): 抹消動脈疾患による難治性潰瘍・壊死治療の進歩: 高気圧酸素療法と再生医療の併用による創傷治癒促進効果. 日本高気圧環境・潜水医学会 (第46回) (東京), 2011. 10.
- 6) 庭山ゆう子, 白石千草, 橋本美紀, 豊富達智, 八重田知見, 美野輪恵子, 島崎弥生, 大石沙織, 少前貴康, 粟屋俊輔, 森嶋俊介, 上田真弓, 松田範子, 鈴木健一, 坂本篤裕, その他3名 (1) 集中治療室, 2) 高度救命救急センター): ECMOにより救命し得た新型インフルエンザ肺炎の1症例. 日本集中治療医学会 関東甲信越地方会 (第20回) (日本大学会館・アルカディア市ヶ谷), 2011. 7.
- 7) 白石千草, 坂本篤裕, 鈴木健一, 松田範子, 庭山ゆう子, 上田真弓, 森嶋俊介, 粟屋俊輔, 少前貴康, 大石沙織, 島崎弥生, 橋本美紀, 美野輪恵子, 豊富達智, 八重田知見, その他4名 (1) 高度救命救急センター): 腹部大動脈瘤破裂後の AKI に対し, 間欠的な CRRT を施行した1症例. 日本集中治療医学会 関東甲信越地方会 (第20回) (東京都市ヶ谷), 2011. 7.

## [ワクチン療法研究施設]

### 研究概要

当研究施設は, 1972年(昭和47)に開設され, 故丸山千里名誉教授が開発した人型結核菌体抽出物質(SSM:いわゆる丸山ワクチン)による悪性腫瘍の免疫療法を中心に研究を行っている。SSMの治験登録数は, 2012年3月31日現在, 例に至り依然として多数の新規患者の紹介を受けている。これらの患者の殆どが学外からの紹介患者であることと, その大半が進行期癌・終末期癌であることは, SSMが治験薬として供給されているにも拘らず, 使用実態は治療薬であることの反映といえる。これらの点を考慮し, SSMの投与方法は画一に限定せず, 主治医からの経過報告を基に各患者ごとに個別に検討する体制をとっている。これらの研究の結果, 基本投与方法のSSM-A・SSM-B交互隔日投与からA単独隔日・B単独隔日・AB交互連日・A単独連日等に変更することで, 化学療法・放射線療法等の副作用, 特に白血球数減少の軽減・回復に加え, 一般状態(QOL: Quality of Life)が改善される症例が増えつつある。SSM使用患者は大半が進行期・終末期癌であるにも拘らず, 良好な一般状態を維持しつつ当初の予想を超えた長期延命の報告がみられることは, SSMが癌治療において全身療法として重責を果たしている結果といえる。現在, SSMの使用状況・成績についての検討とともに, SSMの本来の使用目的といえるBRM(Biological Response Modifiers)としての作用および癌免疫療法としての作用について, 特に進行期癌におけるQOL向上と延命効果の立場からの検討, SSMと既存の治療法との併用時における効果的な投与方法の検討, 長期生存者については背景要因の解析, 延命効果におよぼす要因の影響の検討を行っている。また, SSMの癌予防への応用ならびに癌以外の疾患への応用についても基礎的検討を重ねている。

## 研究業績

### 論文

(1) 原著：

- 1) Iida K, Tsuyoshi Mitsuishi T<sup>1)</sup>, Kabashima K<sup>2)</sup>, Tanizaki H<sup>2)</sup>, Ohsawa I<sup>3)</sup>, Oda F<sup>1)</sup>, Yamada Y<sup>1)</sup>, Halifu Y<sup>1)</sup>, Kawana S<sup>1)</sup>, Kato T<sup>1)</sup> (1) Department of Dermatology, Nippon Medical School, 2) Department of Dermatology, Faculty of Medicine, Kyoto University, 3) Department of Environmental Gerontology Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology) : Specific substance of Maruyama (SSM) suppresses immune responses in atopic dermatitis-like skin lesions in DS-Nh mice by modulating dendritic cell functions. *Journal of Dermatological Science* 2011 ; 63 (3) : 184-190.

### 学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 飯田和美：丸山ワクチン <その作用のメカニズム>. NPO 丸山ワクチンとがんを考える会講演会（第3回公開），2011. 11.

## [付属病院東洋医学科]

### 研究概要

東洋医学のバイブルである「黄帝内経」に記された体表面に局在する「衛気（えき）」こそが内在する「自然免疫」を指すものとの視点から、その活性化が「自己治癒力」あるいは「自然治癒力」を高め様々な病態を改善する東洋医学の規範であるとの考えに至った。そして、「自然免疫」の中樞を担う「樹状細胞（dendritic cell：DC）」に注目し、研究を展開してきた。昨年度は、この樹状細胞が DEC-205 分子を有した DC1 型と 33D1 分子を発現した DC2 型に大別され、前者 DEC-205 陽性群を選択的に活性化させることによって体内に発生した癌細胞が制御される可能性を報告した（*Cancer Immunol. Immunother.*, 59 : 1083-1095, 2010）。本年度は、まず「Co-operation of innate and acquired immunity for controlling tumor cells.」, 「樹状細胞を主体とした自然免疫と獲得免疫との相互作用」を論じた英文総説を発表した。また、DEC-205 分子を有した DC1 型と 33D1 分子を発現した DC2 型の双方が、エストロゲンやプロゲステロンといった性ホルモンの調節を受け、妊娠出産にも大きく関与することを見いだす（*Immunobiology*, 217 (10) : 951-961, 2012）とともに、この樹状細胞が母乳を介した HTLV-I の感染伝播に関わることを明らかにした（*Viral Immunol.*, 25 (2) : 106-116, 2011）。一方、生薬の主成分はこれら自然免疫系の刺激剤であり、毎日の継続的な刺激を経口的に与えることが漢方治療の方策であると考えられる。こうした持続的な刺激が、病原体由来の物質群による場合には、逆に生体にとって不都合なことが誘発される可能性を想定し検討した結果、ピロリ菌ウレアーゼによる自然免疫担当細胞の持続的刺​​激が、TLR2 を介して B 細胞内に伝達された場合、様々な自己抗体が誘発されることを確認した（*Infect. Immun.*, 79 : 4791-4801, 2011）。

## 研究業績

### 論文

[追加分]

追加分総説：

- 1) 平馬直樹：基礎理論と方剤を結ぶ入門講座①気の病証と治療. *日本中医学会雑誌* 2011 ; 1 (1) : 54 -64.
- 2) 平馬直樹, 秋葉哲生<sup>1)</sup> (1) あきば伝統医学クリニック) : 江戸の医案を読む 第 14 回 山田業広・業精『井見集附録』よりその 4. *漢方と診療* 2011 ; 2 (1) : 64-72.

追加分原著：

- 1) Negishi Y<sup>1)</sup>, Wakabayashi A<sup>1)</sup>, Shimizu M<sup>1)</sup>, Ichikawa T<sup>2)</sup>, Kumagai Y<sup>1)</sup>, Takeshita T<sup>2)</sup>, Takahashi H ( <sup>1)</sup> Department of Microbiology and Immunology,Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Obstetrics and Gynecology,Nippon Medical School) : Disruption of maternal immune balance maintained b innate DC subsets results in spontaneous pregnancy loss in mice. *Immunobiology* 2012 ; 217 (10) : 951-961.

(1) 原著：

- 1) Nakagawa Y<sup>1)</sup>, Watari E<sup>1)</sup>, Shimizu M<sup>1)</sup>, Takahashi H<sup>1)</sup>Department of Microbiology and Immunology,Nippon Medical School) : One-step simple assay to determine antigen-specific cyptoxic activities by single-color flow cytometry. *Biomedical Res* 2011 ; 32 (2) : 159-166.
- 2) Takahashi M<sup>1)</sup>, Matsumura J<sup>1)</sup>, Inagaki S<sup>1)</sup>, Takahashi H ( <sup>1)</sup> Department of Microbiology and Immunology,Nippon Medical School) : Induction of CD56<sup>+</sup> T cells after prolonged activation of T cells in vitro : a possible mechanism for CD4<sup>+</sup> T-cell depletion in acquired immune deficiency syndrome patients. *Human Immunol* 2011 ; 72 : 783-790.
- 3) Kobayashi F<sup>1)</sup>, Watanabe E<sup>1)</sup>, Nakagawa Y<sup>1)</sup>, Yamanishi S<sup>2)</sup>, Norose Y<sup>1)</sup>, Fukunaga Y<sup>2)</sup>, Takahashi H ( <sup>1)</sup> Department of Microbiology and Immunology,Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Pediatrics,Nippon Medical School) : Production of Auto-antibodies by Murine B-1a Cells Stimulated with *Helicobacter pylori* Urease through TLR2 Signaling. *Infect Immun* 2011 ; 79 : 4791-4801.
- 4) Ohkuni H<sup>1)</sup>, Nagamune H<sup>2)</sup>, Ozaki N<sup>2)</sup>, Tabata A<sup>2)</sup>, Todome Y<sup>3)</sup>, Watanabe Y<sup>3)</sup>, Takahashi H, Ohkura K<sup>4)</sup>, Kourai H<sup>2)</sup>, Ohtsuka H<sup>1)</sup>, Fischetti V<sup>5)</sup>, Zabriskie J<sup>6)</sup> ( <sup>1)</sup> Health Science Research Institute East Japan Co.Ltd, <sup>2)</sup> Department of Biological Science and Technology,Institute of Technology and Science,The University of Tokushima Graduate School, <sup>3)</sup> Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, <sup>4)</sup> Faculty of Pharmacy,Chiba Institute of Science, <sup>5)</sup> Laboratory of Bcterial Pathogenesis and Immunology, <sup>6)</sup> Laboratory of Clinical Microbiology and Immunology,Rockefeller University) : Characterization of recombinant *Streptococcus mitis*-derived human platelet aggregation factor. *APMIS* 2011 ; 120 (1) : 56-71.
- 5) Atsukawa M<sup>1)</sup>, Nakatsuka K<sup>1)</sup>, Kobayashi T<sup>1)</sup>, Shimizu M<sup>2)</sup>, Harimoto H<sup>2)</sup>, Takahashi H, Sakamoto C<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine,Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Microbiology and Immunology,Nippon Medical School) : Ribavirin down-modulates ICOS on CD4 (+) T-cells and their interleukin-10 secretion to assist clearance of hepatitis C virus. *J Gastroenterol Hepatol* 2012 ; 27 (4) : 823-831.
- 6) Inagaki S<sup>1)</sup>, Takahashi M<sup>1)</sup>, Fukunaga Y<sup>2)</sup>, Takahashi H ( <sup>1)</sup> Department of Microbiology and Immunology,Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Pediatrics,Nippon Medical School) : HTLV-I-infected breast milk macrophages inhibit monocyte differentiation to dendritic cells. *Viral Immunol* 2012 ; 25 (2) : 106-116.

(2) 総説：

- 1) 高橋秀実：免疫と漢方。からだの科学 [増刊] これからの漢方医学 2011；増刊 (7)：56-61.
- 2) 平馬直樹：基礎理論と方剤を結ぶ入門講座②血の病証と治療。日本中医学会雑誌 2011；1 (2)：29-42.
- 3) 平馬直樹，秋葉哲生<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> あきば伝統医学クリニック)：江戸の医案を読む 第15回 山田業広・業精『井見集附録』よりその5。漢方と診療 2011；2 (2)：126-133.
- 4) 平馬直樹：基礎理論と方剤を結ぶ入門講座③湿・痰飲の病証と治療。日本中医学会雑誌 2011；1 (3)：32-49.
- 5) 平馬直樹，秋葉哲生<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> あきば伝統医学クリニック)：江戸の医案を読む 第16回 山田業広・業精『井見集附録』よりその6。漢方と診療 2011；2 (3)：212-219.
- 6) 平馬直樹：中医学の継承。日本中医学会雑誌 2011；1 (4)：2-10.

- 7) 平馬直樹, 秋葉哲生<sup>1)</sup> (1) あきば伝統医学クリニック) : 江戸の医案を読む 第17回 下津春抱『本邦名医類案』よりその1. 漢方と診療 2011; 2 (4) : 292-299.
- 8) 村上 努<sup>1)</sup>, 高橋秀実 (1) 国立感染症研究所) : HIV と闘う宿主防御因子. 日本エイズ学会誌 2012; 14 (1) : 1-2.
- 9) 新谷英滋<sup>1)</sup>, 高橋秀実 (1) 微生物学免疫学教室) : ヒト免疫不全ウイルス HIV-1 の Nef による樹状細胞 CD1 脂質抗原提示機能の低下. 臨床免疫・アレルギー科 2012; 57 (3) : 269-274.

## 著 書

- 1) Takahashi H : [分担] Co-operation of innate and acquired immunity for controlling tumor cells. Chapter 7. Melanoma in The Clinic (Ed. Murph. M.), 2011; pp107-114, INTEC.
- 2) 平馬直樹, 浅川 要<sup>1)</sup>, 辰巳 洋<sup>2)</sup> (1) 東京中医鍼灸センター, 2) 本草薬膳学院) : [監修] 東洋医学のすべてがわかる本 (平馬直樹), 2011; pp1-256, ナツメ社.
- 3) 平馬直樹, 加藤逸夫<sup>1)</sup>, ほか (1) 真泉会今治第一病院) : [分担] 第2章第3節 リンパ浮腫の薬物療法. リンパ浮腫診療実践ガイド, 2011; pp33-35, 医学書院.
- 4) 高橋秀実 : [分担] 第17章「免疫応答不全」. 微生物学 (神谷 茂 河野 茂), 2012; pp387-410, メディカル・サイエンス・インターナショナル社.

## 学会発表

### [追加分]

#### 追加分シンポジウム :

- 1) 高橋秀実 : 日本医科大学における東洋医学教育の現状と展望. KAMPO MEDICAL SYMPOSIUM 2011 (東京), 2011. 2.

#### 追加分教育講演 :

- 1) 平馬直樹 : 中医基本処方解説その5. 仙台中医学研究会 (宮城), 2011. 1.
- 2) 菅沼 栄 : 臟腑弁証・総論・心・肺. 新東京中医学入門講座 (東京), 2011. 1.
- 3) 菅沼 栄 : 五臓の風・寒・積・聚病の脈・証・治. 東京中医学研究会 (東京), 2011. 1.
- 4) 平馬直樹 : 中医基本処方解説その11. 神奈川実践漢方勉強会 (横浜), 2011. 2.
- 5) 菅沼 栄 : 黄疸病1の脈・証・治. 東京中医学研究会 (東京), 2011. 2.

#### 追加分特別講演 :

- 1) 平馬直樹 : 日本における中医学の現状. 国際中医薬学術フォーラム (台北), 2011. 3.
- 2) 高橋秀実 : ビロリ菌と自己免疫. 第21回千駄木感染・免疫・アレルギー研究会 (東京), 2011. 3.
- 3) 高橋秀実 : 東洋医学入門. 日本大学医学部 (東京), 2011. 2.

#### (1) 特別講演 :

- 1) 平馬直樹 : 日本江戸時代方証相対学派的形成. 国際経方学術会議 (北京), 2011. 5.
- 2) 高橋秀実 : 東洋医学入門 : 免疫と漢方. 平成23年度山形大学講演 (山形), 2011. 7.
- 3) 高橋秀実 : 丸山ワクチンの作用機序に対する新たな視点. ガンプロフェッショナル養成プランセミナー (東京), 2011. 10.
- 4) 高橋秀実 : 漢方医学と最新の免疫学. 東京女子医科大学東洋医学研究所 (東京), 2011. 10.
- 5) 平馬直樹 : 中医学の継承. 第2回日本中医学会 (東京), 2011. 9.
- 6) Takahashi H : Control of HIV infection and dissemination at the mucosal compartments. 第25回日本エイズ学会学術集会 (東京), 2011. 11.

- 7) 高橋秀実：癌免疫の新たな潮流：丸山ワクチンの再評価を含めて。平成 23 年度北区夏期学術セミナー（東京），2011. 8.
  - 8) 高橋秀実：免疫学の進歩が解き明かす丸山ワクチンの作用機序。平成 23 年度日本医科大学同窓会（東京），2012. 1.
  - 9) 高橋秀実：日常診療における東洋医学の有用性。漢方学術講演会（足利），2012. 2.
  - 10) 平馬直樹：日本在経方臨床応用。中医薬国際フォーラム（台北），2012. 3.
  - 11) 高橋秀実：感染症と漢方。第 12 回愛宕漢方医学研究会（東京），2012. 3.
- (2) 教育講演：
- 1) 菅沼 栄：黄疸病 2 の脈・証・治。東京中医学研究会（東京），2011. 4.
  - 2) 菅沼 栄：驚悸・吐衄・下血・胸満・瘀血病 1。東京中医学研究会（東京），2011. 5.
  - 3) 平馬直樹：中医基本処方解説その 12。神奈川実践漢方勉強会（横浜），2011. 6.
  - 4) 菅沼 栄：驚悸・吐衄・下血・胸満・瘀血病 2。東京中医学研究会（東京），2011. 6.
  - 5) 菅沼 栄：嘔吐・噎・下痢病の脈・証・治 1。東京中医学研究会（東京），2011. 7.
  - 6) 菅沼 栄：臟腑弁証・脾・肝・腎。新東京中医学入門講座（東京），2011. 7.
  - 7) 平馬直樹：中医基本処方解説その 6。仙台中医学研究会（宮城），2011. 10.
  - 8) 菅沼 栄：風邪・流感の予防と中医薬治療。東京中医学研究会（東京），2011. 10.
  - 9) 菅沼 栄：嘔吐・噎・下痢病の脈・証・治 2。東京中医学研究会（東京），2011. 11.
  - 10) 平馬直樹：中医基本処方解説その 13。神奈川実践漢方勉強会（横浜），2011. 12.
- (3) セミナー：
- 1) 高橋秀実：母乳を介した HIV 感染伝播に関する免疫学。第 25 回日本エイズ学会学術集会（東京），2011. 11.
  - 2) 高橋秀実：感染症と東洋医学。第 25 回日本エイズ学会学術集会（東京），2011. 11.
- (4) ワークショップ：
- 1) Takahashi H：Uptake and Dissemination of HIV by Mucosal Innate Cells. Japan-US Cooperative Medical Science Program. The 25th Joint Scientific Meeting of AIDS Panels.(Atlanta), 2011. 9.
  - 2) 新谷英滋<sup>1)</sup>，清水真澄<sup>1)</sup>，大脇敦子<sup>1)</sup>，渡邊恵理<sup>1)</sup>，松村次郎<sup>1)</sup>，高久千鶴乃，高橋秀実（<sup>1)</sup> 微生物学免疫学教室）：Interaction of HIV-1 Nef and p21-Activated Kinase 2 (PAK2)：Nef down-regulates CD1a lipid Ag presentation via PAK2. 第 25 回日本エイズ学会学術集会（東京），2011. 11.
- (5) 一般講演：
- 1) 高橋秀実，廣田 薫，高久 俊，高久千鶴乃，近江恭子，福山耕治，小野顕人，吉永恵美，平馬直樹：自己免疫性肝炎に合併した血小板減少性紫斑病に奏功した東洋医学的治療。第 62 回日本東洋医学会学術総会（札幌），2011. 6.
  - 2) 高久 俊，大藪英一<sup>1)</sup>，栗林秀樹<sup>1)</sup>，高久千鶴乃，廣田 薫，吉永恵実，近江恭子，福山耕治，小野顕人，平馬直樹，高橋秀実（<sup>1)</sup> 越谷大袋クリニック）：偏頭痛に対して三黄瀉心湯が著効した 1 例。第 62 回日本東洋医学会学術総会（札幌），2011. 6.
  - 3) 高久千鶴乃，廣田 薫，高久 俊，吉永恵美，近江恭子，福山耕治，小野顕人，平馬直樹，高橋秀実：随伴症状を治療することで改善した慢性蕁麻疹の 3 症例。第 62 回日本東洋医学会学術総会（札幌），2011. 6.
  - 4) 廣田 薫，近江恭子，小野顕人，吉永恵実，福山耕治，高久千鶴乃，高久 俊，平馬直樹，高橋秀実：難治性逆流性食道炎を伴い心因的ストレスにより増悪を繰り返した唾液分泌過多症の 1 例。第 62 回日本東洋医学会学術総会（札幌），2011. 6.
  - 5) 近江恭子，小野顕人，福山耕治，吉永恵実，高久 俊，高久千鶴乃，廣田 薫，平馬直樹，高橋秀実：月経時に必発する頭痛に対して漢方治療が奏功した 1 例。第 62 回日本東洋医学会学術総会（札幌），2011. 6.
  - 6) 小野顕人，福山耕治，近江恭子，廣田 薫，高久千鶴乃，高久 俊，平馬直樹，高橋秀実：漢方治療にて呼吸状

態が改善した COPD の 1 例. 第 62 回日本東洋医学会学術総会 (札幌), 2011. 6.

- 7) Wakabayashi A<sup>1)</sup>, Nakagawa Y<sup>1)</sup>, Shimizu M<sup>1)</sup>, Takahashi H (1) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School) : Enhancement of co-stimulatory molecule-expression and cross-presentation of antigens in mucosal DCs after oral administration of antigenic molecules plus cholera toxin. 第 40 回日本免疫学会学術集会 (千葉), 2011. 11.
- 8) Shinya E<sup>1)</sup>, Shimizu M<sup>1)</sup>, Owaki A<sup>1)</sup>, Watanabe E<sup>1)</sup>, Matsumura J<sup>1)</sup>, Takaku C, Takahashi H (1) Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School) : HIV-1 Nef interferes with CD1a lipid antigen presentation via PAK2. 第 40 回日本免疫学会学術集会 (千葉), 2011. 11.
- 9) 高久千鶴乃, 清水真澄<sup>1)</sup>, 大脇敦子<sup>1)</sup>, 渡邊恵理<sup>1)</sup>, 松村次郎<sup>1)</sup>, 近江恭子, 渡理英二<sup>1)</sup>, 新谷英滋<sup>1)</sup>, 高橋秀実 (1) 微生物学免疫学教室) : 樹状細胞上の CD1d 発現の低下は HIV 感染標的である CD4 陽性 NKT 細胞の誘導率を上昇させる. 第 25 回日本エイズ学会学術集会 (東京), 2011. 11.
- 10) 松村次郎<sup>1)</sup>, 大脇敦子<sup>1)</sup>, 清水真澄<sup>1)</sup>, 秋山純一<sup>2)</sup>, 新谷英滋<sup>1)</sup>, 岡 慎一<sup>3)</sup>, 高橋秀実 (1) 微生物学免疫学, 2) 国立国際医療センター, 3) 国立国際医療センターエイズ治療・研究開発センター) : HIV 患者の腸管粘膜感染細胞内におけるウイルス核酸の実態. 第 25 回日本エイズ学会学術集会 (東京), 2011. 11.
- 11) 高橋めぐみ<sup>1)</sup>, 松村次郎<sup>1)</sup>, 稲垣真一郎<sup>1)</sup>, 高橋秀実 (1) 微生物学免疫学) : 長期培養の結果誘導された HIV-1 感染者由来 CD56+T 細胞の CD4+T 細胞に対する細胞傷害活性. 第 25 回日本エイズ学会学術集会 (東京), 2011. 11.

## [ゲノム先端医療部]

### 研究概要

ヒト遺伝子研究の成果により, 遺伝子検査の対象が, 従来の単一遺伝子病から薬物感受性や疾患易罹性へと広がっている. 遺伝情報を個の医療に活用する「オーダーメイド医療 (個別化医療)」が, 実現しつつある. 今後, 日常診療の場で遺伝子情報を用いる機会が増えることが予想され, 病院内の体制作りが急がれる. 日本医科大学付属病院では, 平成 20 年 4 月に法人の全面的支援を受け, 全国に先駆け, オーダーメイド遺伝子医療を実現するための「ゲノム先端医療部」を開設した. 本部門では, 近年著しく増加してきた臨床の有用性が実証されつつある遺伝子情報を, 倫理的課題にも配慮し医療現場に還元することを目的としている. イリノテカンの副作用関連 *UGT1A1* 遺伝子をはじめとして, 2009 年に同定されたインターフェロンの感受性に関わる *IL28B* 遺伝子多型解析を, 先進医療に向けて肝臓内科・消化器内科とともに開始した. さらに「個人の遺伝情報に応じた医療の実現プロジェクト」の成果であるカルバマゼピン, ワルファリン関連の遺伝子多型検査を, 多施設前向き研究として武蔵小杉病院から開始した. 現在, さらなる検査項目の増加を目指し検討を進めている. また, オーダーメイド医療が臨床の場で実現されるには, 倫理的・法的・社会的問題 (Ethical, Legal and Social Issues) への対応を同時に検討することが求められる. 文部科学省 ELSI 研究班に, 日本医科大学が医学部としては唯一参画し, 引き続き研究を進めている. 昨年度から開始した, オーダーメイド医療に関連する産学連携体制も, 継続して進めている. さらに, 個別化医療である遺伝子多型検査を, 臨床検査の一部とする取り組みも進めている. ゲノム先端医療部は, これらの進歩に迅速に対応し, 日本における先端医療の臨床応用への橋渡しを推進していく部署として発展していきたい.

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 総説:

- 1) 渡邊 淳<sup>1)</sup> (1) 大学院医学研究科分子遺伝医学) : ファーマコゲノミクス (PGx) とオーダーメイド医療. 日医大医会誌 2012; 8 (1) : 9-17.

## 学会発表

### (1) シンポジウム：

- 1) 渡邊 淳：診療においてファーマコゲノミクス情報を活用するための課題。日本がん分子標的治療学会 (JAM-TTC)・日本遺伝子診療学会 (JSGDT) 合同シンポジウム (東京), 2011. 12.

### (2) セミナー：

- 1) 渡邊 淳<sup>1,2)</sup> (1) 生化学・分子生物学, 2) 付属病院 遺伝診療科)：遺伝子診療の現場では - 遺伝情報を医療現場で適切に扱うには：今, 臨床の現場で起こりつつあること。遺伝医学夏期集中セミナー (第3回) (東京), 2011. 7.

### (3) 一般講演：

- 1) 藤田京志, 小笠原彩子, 蒔田泰誠<sup>1)</sup>, 渡邊 淳, 島田 隆 (1) 理化学研究所 ゲノム医科学研究センター 遺伝情報解析チーム)：Invader Plus 法を用いた装置 SNP Analyzer によるワルファリン関連遺伝子多型の解析。遺伝医学合同学術集会 2011 日本遺伝子診療学会大会 (第 18 回) 日本遺伝カウンセリング学会学術集会 (第 35 回) 日本家族性腫瘍学会学術集会第 (第 17 回) (京都), 2011. 6.
- 2) 武藤香織<sup>1)</sup>, 渡部麻衣子<sup>1)</sup>, 洪 賢秀<sup>1)</sup>, 荒内貴子<sup>2)</sup>, 舞原佳子<sup>3)</sup>, 大森あゆみ<sup>3)</sup>, 畠山未来<sup>3)</sup>, 渡邊 淳<sup>4)</sup>, 島田隆<sup>4)</sup>, 南 史朗<sup>5)</sup> (1) 東京大学 医科学研究所 公共政策研究分野, 2) 東京大学大学院 新領域創成科学研究科, 3) 付属病院, 4) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学) 講座, 5) 老人病研究所)：認識, 期待, 誤解：「バイオバンク・ジャパン」登録患者への意識調査から。遺伝医学合同学術集会 2011 日本遺伝子診療学会大会 (第 18 回) 日本遺伝カウンセリング学会学術集会 (第 35 回) 日本家族性腫瘍学会学術集会第 (第 17 回) (京都), 2011. 6.
- 3) Watanabe A<sup>1,2)</sup>, Satoh S<sup>3)</sup>, Fujita A, Orimo H<sup>2)</sup>, Shimada T<sup>1,2)</sup> (1) Division of Clinical Genetics, Nippon Medical School Hospital, 2) Department of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School, 3) Aomori Prefectural Central Hospital)：Perinatal (lethal) type of Hypophosphatasia Resulting From Paternal Isodisomy of Chromosome 1. 2012 ACMG Annual Clinical Genetics Meeting (Charlotte, North Carolina), 2012. 3.
- 4) 渡邊 淳<sup>1)</sup>, 畠山 (畠山未来) 未来<sup>2)</sup>, 堤 正好<sup>3)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup> (1) 生化学・分子生物学, 2) お茶の水女子大学大学院 ライフサイエンス専攻 遺伝カウンセリング領域, 3) SRL)：ファーマコゲノミクス検査の現状と課題：調査研究を踏まえて。日本臨床検査自動化学会大会 (第 43 回) (横浜), 2011. 10.
- 5) 渡邊 淳<sup>1)</sup>, 中谷 中<sup>2)</sup>, 中條聖子<sup>3)</sup>, 山口敏和<sup>4)</sup>, 横山士郎<sup>5)</sup>, 黒澤英俊<sup>6)</sup>, 藤本英也<sup>6)</sup>, 中山光二<sup>6)</sup>, 畠山未来, 山城祐子, 島田 隆<sup>1)</sup>, 堤 正好<sup>3)</sup> (1) 生化学・分子生物学, 2) 三重大学付属病院 オーダーメイド医療部, 3) エスアールエル, 4) ビー・エム・エル, 5) ファルコバイオシステムズ, 6) 三菱化学メディエンス)：診療においてファーマコゲノミクス情報を活用するための課題。日本人類遺伝学会大会 (第 56 回) (幕張), 2011. 11.
- 6) 舞原佳子<sup>1)</sup>, 大森あゆみ<sup>1)</sup>, 渡部麻衣子<sup>2)</sup>, 洪 賢秀<sup>3)</sup>, 荒内貴子<sup>4)</sup>, 畠山未来, 島田 隆, 南 史朗<sup>5)</sup>, 渡邊淳, 武藤香織<sup>3)</sup> (1) 付属病院オーダーメイド医療室, 2) 東京大学学際情報学府, 3) 東京大学医科学研究所公共政策研究分野, 4) 東京大学大学院新領域創成科学研究科, 5) 老人病研究所)：遺伝子研究からオーダーメイド医療に向けて：「オーダーメイド医療実現化プロジェクト」登録者への意識調査から。日本人類遺伝学会大会 (第 56 回) (幕張), 2011. 11.
- 7) 藤田京志<sup>1)</sup>, 佐藤秀平<sup>2)</sup>, Naing B<sup>3)</sup>, 折茂英生<sup>4)</sup>, 島田 隆<sup>3,5)</sup>, 渡邊 淳<sup>3,5)</sup> (1) 青森県立中央病院 総合周産期母子医療センター, 2) 生化学・分子生物学 (分子遺伝学), 3) 生化学・分子生物学 (代謝・栄養学), 4) 付属病院 遺伝診療科)：父性片親性ダイソミーにより発症した周産期型低ホスファターゼ症の 1 例。日本人類遺伝学会大会 (第 56 回) (幕張), 2011. 11.

## 21. 武蔵小杉病院付置施設等

### [武蔵小杉病院消化器病センター]

#### 研究概要

当科は消化器外科医、内科医により構成され、消化器疾患全般の診断から治療まで一貫した幅広い診療および研究を行っており、消化器疾患関連領域に関する以下のテーマについて臨床的、基礎的研究を進めている。【悪性疾患】1. 食道癌放射線感受性に関する基礎研究（老人病研究所との共同研究）。2. 胃癌、大腸癌における化学療法・分子標的治療に関する基礎的・臨床病理学的研究。3. 肝細胞癌、膵癌の発癌に関連した遺伝子解析による基礎的研究（老人病研究所との共同研究）。4. 消化器癌の集学的治療、抗癌剤感受性試験による個別化を含めた胃癌、大腸癌化学療法の確立。5. 進行膵・胆道癌に対する血管合併切除を伴う拡大手術および術後化学療法による予後改善の追求。6. 肝臓癌に対する集学的治療（手術、TACE、PEIT、RFAなど）。7. 消化器癌に対する腹腔鏡下手術（LAG、LAC、VATS-E）。8. 早期癌に対する内視鏡治療（EMR・ESD）。9. IVRを応用した消化管、胆道、血管内ステント治療。10. 閉塞性黄疸に対する減黄術（PTCD、内視鏡的ステント）。11. 進行再発大腸癌に対する分子標的治療とバイオマーカーの研究。【緊急疾患】1. イレウスの保存的・外科的治療、病態解析、新しい診断と治療の開発。2. 上部消化管出血に対する内視鏡治療、臨床的研究。3. 上部消化管穿孔に対する大網充填術の臨床的・基礎的研究。4. 重症急性膵炎に対する集学的治療による予後改善の追求。【良性疾患】1. 胃十二指腸潰瘍における *Helicobacter pylori* の臨床的・基礎的研究。2. 胆道結石に対する内視鏡的治療（EST、EPBD）・腹腔鏡手術（Lap-C、Lap-CBD）の技術改良と標準化。3. 鼠径ヘルニアに対する腹腔鏡手術（TAPP）の導入。4. 単孔式腹腔鏡下手術の導入。5. 小腸鏡・カプセル内視鏡を利用した小腸疾患の診断・治療。6. 創傷治癒、外科侵襲に関する基礎研究。7. 炎症性腸疾患に対する分子生物学的治療の研究。

#### 研究業績

##### 論文

(1) 症例報告：

- 1) Mizutani S<sup>1)</sup>, Suzuki H<sup>1)</sup>, Aimoto T<sup>2)</sup>, Nomura S<sup>1)</sup>, Chihara N<sup>1)</sup>, Komine O<sup>1)</sup>, Yoshino M<sup>1)</sup>, Ogata M<sup>1)</sup>, Watanabe M<sup>1)</sup>, Tajima H<sup>3)</sup>, Uchida E<sup>2)</sup> (1) Institute of Gastroenterology, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, (2) Invasive Therapy, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, (3) Department of Surgery, Nippon Medical School) : Time-dependent changes in endoscopic findings of the intestine in a patient with acute superior mesenteric arterial thrombosis after a pancreaticoduodenectomy. *Digestive endoscopy* 2011 ; suppl. : 289.
- 2) 埜 秀暁<sup>1)</sup>, 山本一仁<sup>1)</sup>, 寺西宣央<sup>1)</sup>, 柏原 元<sup>1)</sup>, 二見良平<sup>1)</sup>, 木内博之<sup>1)</sup>, 鈴木英之 (1) 北村山公立病院外科) : 胆嚢過形成ポリープ嵌頓による急性胆嚢炎の1例. *日本消化器外科学会雑誌* 2011 ; 44 (12) : 1550-1557.
- 3) 八木亜記, 水谷 聡, 鈴木英之, 千原直人, 野村 聡, 小峯 修, 吉野雅則, 星野有哉, 尾形昌男, 渡邊昌則<sup>1)</sup>, 内田英二 (1) 日本医科大学付属病院外科) : 膵頭十二指腸切除術・Child 再建後の輸入脚狭窄に対する内視鏡的治療. *progress of digestive endoscopy* 2011 ; 79 (2) : 118-119.
- 4) 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 豊田哲鎬<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 渡邊善正<sup>1)</sup>, 南部弘太郎<sup>1)</sup>, 内間久隆<sup>2)</sup> (1) さいたま市民医療センター外科, (2) さいたま市民医療センター病理) : 腹壁膿瘍で発見された胆嚢炎の1例. *日本臨床外科学会雑誌* 2012 ; 73 (1) : 112-115.
- 5) 埜 秀暁<sup>1)</sup>, 小笠原康夫<sup>1)</sup>, 加納恒久<sup>1)</sup>, 名取穰治<sup>1)</sup>, 内山喜一郎<sup>1)</sup>, 鈴木英之 (1) 海老名総合病院外科) : 腸間膜乳び浮腫および乳び腹水を呈した成人原発性小腸軸捻転の1例. *日本臨床外科学会雑誌* 2012 ; 73 (3) : 603-

## 著書

- 1) 鈴木英之：〔分担〕腹膜内か腹膜外か。新版ストーマ手術アトラス（塚田邦夫，渡辺成），2012；pp35-35，へるす出版。

## 学会発表

## 〔追加分〕

## 追加分ワークショップ：

- 1) 松信哲朗，鈴木英之，尾形昌男，吉野雅則，三浦克洋，三島圭介，八木亜記，大山莉奈，内田英二<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学外科）：高齢者大腸癌 Oncologic Emergencies の検討。日本腹部救急医学会総会（第47回）（福岡），2012. 8.

## 追加分一般講演：

- 1) 八木亜記，鈴木英之，吉野雅則，渡邊昌則，尾形昌男，星野有哉，坊 英樹，小峯 修，水谷 聡，千原直人，松信哲朗，前島顕太郎，三浦克洋，内田英二<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学外科）：手術を必要とした消化管異物症例の検討。JDDW 2011（博多），2012. 10.
- 2) 八木亜記，鈴木英之，松信哲朗，水谷 聡，渡邊昌則，尾形昌男，小峯 修，吉野雅則，野村 聡，内田英二<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学外科）：腸重積症にて発症した多発性空腸脂肪肉腫の1例。外科集談会（第820回）（東京），2011. 3.
- 3) 三島圭介，鈴木英之，坊 英樹，千原直人，八木亜記，黒田誠司，和田由大，内田英二<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学外科）：腹腔鏡下切除を行った腸回転異常を伴った成人急性虫垂炎の1例。日本腹部救急医学会総会（第47回）（福岡），2012. 8.
- 4) 加納恒久<sup>1)</sup>，萩原英之<sup>1)</sup>，名取穰治<sup>1)</sup>，鈴木洋一<sup>1)</sup>，塙 秀暁<sup>1)</sup>，小笠原康夫<sup>1)</sup>，廣田 淳<sup>1)</sup>，阿部 豊<sup>1)</sup>，内山喜一郎<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>海老名総合病院 外科）：EMR 後3ヵ月で多発肝転移を来したS状結腸SM癌の1例。第65回日本消化器外科学会総会（山口），2010. 7.
- 5) 萩原英之<sup>1)</sup>，加納恒久<sup>1)</sup>，名取穰治<sup>1)</sup>，阿部 豊<sup>1)</sup>，小笠原康夫<sup>1)</sup>，塙 秀暁<sup>1)</sup>，鈴木洋一<sup>1)</sup>，廣田 淳<sup>1)</sup>，内山喜一郎<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>海老名総合病院 外科）：成人の原発性小腸軸捻転症の1例。第65回日本消化器外科学会総会（山口），2010. 7.
- 6) 塙 秀暁<sup>1)</sup>，小笠原康夫<sup>1)</sup>，鈴木洋一<sup>1)</sup>，加納恒久<sup>1)</sup>，阿部 豊<sup>1)</sup>，廣田 淳<sup>1)</sup>，名取穰治<sup>1)</sup>，内山喜一郎<sup>1)</sup>，鈴木英之<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>海老名総合病院外科）：成人Nuck管水腫の1例。第179回神奈川県臨床外科医学会集談会（神奈川），2010. 12.

## (1) パネルディスカッション：

- 1) 吉野雅則，鈴木英之，尾形昌男，渡辺昌則，千原直人，松信哲朗，三浦克洋，三島圭介，野村 聡，内田英二<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学外科）：大腸癌イレウスにおける治療戦略。日本腹部救急医学会総会（第47回）（福岡），2011. 8.
- 2) 渡辺昌則，小峯 修，水谷 聡，吉野雅則，前島顕太郎，松信哲朗，坊 英樹，尾形昌男，鈴木英之，内田英二<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学外科）：大腸手術のSSI対策。日本外科感染症学会総会（第24回）（三重），2011. 12.
- 3) 渡辺昌則，小峯 修，前島顕太郎，松信哲朗，水谷 聡，吉野雅則，坊 英樹，尾形昌男，鈴木英之，内田英二<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学外科）：危険因子からみた大腸手術におけるSSIの個別化対策。日本消化器外科学会総会（第66回）（名古屋），2011. 7.
- 4) 鈴木英之，尾形昌男，吉野雅則，松信哲朗，三浦克洋，菅 隼人<sup>1)</sup>，松本智司<sup>1)</sup>，小泉岐博<sup>1)</sup>，渡辺昌則，内田

英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科)：大腸癌腹腔鏡下手術における肥満症例対策. 日本内視鏡外科学会総会 (第 24 回) (大阪), 2011. 12.

5) 千原直人, 鈴木英之, 渡辺昌則, 星野有哉, 小峯 修, 吉野雅則, 水谷 聡, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科)：標準術式としての TAPP の有用性と今後 (腹腔鏡下ヘルニア修復術はよみがえったのか). 日本内視鏡外科学会総会 (第 24 回) (大阪), 2011. 12.

6) 村木 輝, 鈴木英之, 松信哲朗, 渡辺昌則, 星野有哉, 小峯 修, 千原直人, 前島顕太郎, 中田亮輔, 松本智司<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科)：当院における虫垂炎に対する単孔式腹腔鏡下虫垂切除術の導入. 日本腹部救急医学会総会 (第 48 回) (石川県 (金沢)), 2012. 3.

(2) ワークショップ：

1) 渡辺昌則, 小峯 修, 前島顕太郎, 松信哲朗, 千原直人, 水谷 聡, 吉野雅則, 坊 英樹, 鈴木英之, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科)：大腸緊急手術の SSI 対策. 日本腹部救急医学会総会 (第 48 回) (金沢), 2012. 3.

2) 中田亮輔, 鈴木英之, 渡辺昌則, 千原直人, 星野有哉, 坊 英樹, 吉野雅則, 小峯 修, 水谷 聡, 松信哲朗, 前島顕太郎, 三浦克洋, 村木 輝, 八木重記, 内田英二<sup>1)</sup>, その他 2 名 (1) 日本医科大学外科)：鼠径ヘルニア嵌頓に対する腹腔鏡を用いた治療戦略の構築. 日本腹部救急医学会総会 (第 48 回) (金沢), 2012. 3.

(3) 一般講演：

1) 前島顕太郎, 坊 英樹, 小峯 修, 松信哲朗, 千原直人, 水谷 聡, 吉野雅則, 星野有哉, 尾形昌男, 渡辺昌則, 鈴木英之, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 外科)：80 歳以上高齢者胃癌手術症例における E-PASS スコアと術後合併症の検討. 日本外科学会定期学術集会 (第 111 回) (紙上開催), 2011. 5.

2) 前島顕太郎, 坊 英樹, 鈴木英之, 渡辺昌則, 尾形昌男, 吉野雅則, 小峯 修, 水谷 聡, 千原直人, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 外科)：腹腔鏡補助下幽門側胃切除術における肥満が与える影響. 日本消化器外科学会総会 (第 66 回) (名古屋), 2011. 7.

3) 前島顕太郎, 鈴木英之, 渡辺昌則, 尾形昌男, 坊 英樹, 吉野雅則, 小峯 修, 水谷 聡, 松信哲朗, 森末 遼, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 外科)：脱落した胆道ステントに便塊を形成しイレウスを呈した 1 例. 日本腹部救急医学会総会 (第 47 回) (福岡), 2011. 8.

4) 前島顕太郎, 坊 英樹, 鈴木英之, 渡辺昌則, 尾形昌男, 吉野雅則, 小峯 修, 水谷 聡, 千原直人, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 外科)：腹腔鏡補助下幽門側胃切除術における肥満が与える影響. 胃外科・術後障害研究会 (第 41 回) (大阪), 2011. 10.

5) 前島顕太郎, 鈴木英之, 渡辺昌則, 坊 英樹, 小峯 修, 吉野雅則, 水谷 聡, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科)：当科における切除不能進行・再発胃癌に対する S-1+CDDP 療法と有害事象対策. 神奈川胃癌治療研究会 (第 41 回) (神奈川), 2011. 12.

6) 前島顕太郎, 坊 英樹, 鈴木英之, 渡辺昌則, 尾形昌男, 吉野雅則, 小峯 修, 水谷 聡, 千原直人, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 外科)：当科における胃 GIST 手術症例の検討. 日本胃癌学会総会 (第 84 回) (大阪), 2012. 2.

7) 吉野雅則, 鈴木英之, 尾形昌男, 渡辺昌則, 千原直人, 松信哲朗, 三浦克洋, 中田亮輔, 越智友洋, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科)：大腸癌イレウスにおける治療方針の検討. 日本消化器外科学会大会 (第 9 回) (福岡), 2011. 10.

8) 吉野雅則, 鈴木英之, 渡辺昌則, 尾形昌男, 水谷 聡, 松信哲朗, 前島顕太郎, 三浦克洋, 村木 輝, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科)：Panitumumab 投与症例における低 Mg 血症対策. 日本癌治療学会学術集会 (第 49 回) (名古屋), 2011. 10.

9) 吉野雅則, 鈴木英之, 渡辺昌則, 小峯 修, 水谷 聡, 松信哲朗, 中田亮輔, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科)：Bevacizumab の影響が考えられた術後縫合不全の 2 例. 日本腹部救急医学会総会 (第 48 回) (金沢), 2012. 3.

- 10) 松信哲朗, 鈴木英之, 尾形昌男, 吉野雅則, 三浦克洋, 中田亮輔, 八木亜記, 内田英二<sup>1)</sup> (日本医科大学外科): 診断に難渋した直腸異物肉芽腫の1例. 日本消化器内視鏡学会関東地方会(第93回)(東京), 2011. 12.
- 11) 大山莉奈, 鈴木英之, 尾形昌男, 吉野雅則, 松信哲朗, 三浦克洋, 三島圭介, 黒田誠司, 内田英二<sup>1)</sup> (日本医科大学外科): 腹腔鏡下切除を施行した遺残虫垂炎の1例. 日本腹部救急医学会総会(第47回)(福岡), 2011. 8.
- 12) 松信哲朗, 鈴木英之, 水谷 聡, 渡辺昌則, 吉野雅則, 三浦克洋, 村木 輝, 中田亮輔, 八木亜記, 大山莉奈, 相本隆幸, 内田英二<sup>1)</sup> (日本医科大学外科): 腸重積穿孔にて発症した脂肪肉腫の1例. 日本腹部救急医学会(第48回)(金沢), 2012. 3.
- 13) 大山莉奈, 鈴木英之, 松信哲朗, 吉野雅則, 水谷 聡, 千原直人, 三浦克洋, 中田亮輔, 八木亜記, 三島圭介, 内田英二<sup>1)</sup> (日本医科大学外科): 治療に難渋したS状結腸癌による閉塞性大腸炎穿孔の1例. 日本腹部救急医学会総会(第48回)(金沢), 2012. 3.
- 14) 渡辺昌則, 小峯 修, 前島顕太郎, 水谷 聡, 吉野雅則, 坊 英樹, 尾形昌男, 鈴木英之, 内田英二<sup>1)</sup> (日本医科大学外科): 食道癌術後 mortality とその原因 morbidity のリスク因子. 日本外科学会定期学術集会(第111回)(東京), 2011. 5.
- 15) 渡辺昌則, 小峯 修, 前島顕太郎, 水谷 聡, 吉野雅則, 坊 英樹, 尾形昌男, 鈴木英之, 内田英二<sup>1)</sup> (日本医科大学外科): 食道癌術後 mortality に関する危険因子の解析. 日本食道学会総会(第65回)(仙台), 2011. 6.
- 16) 渡辺昌則, 小峯 修, 前島顕太郎, 千原直人, 水谷 聡, 吉野雅則, 坊 英樹, 尾形昌男, 鈴木英之, 内田英二<sup>1)</sup> (日本医科大学外科): 大腸緊急手術のSSI危険因子. 日本腹部救急医学会総会(第47回)(博多), 2011. 8.
- 17) Suzuki H, Ogata M, Uchida E<sup>1)</sup> (Nippon Medical School Department of Surgery): Conversion factors of Laparoscopic Colectomy for Colorectal Cancer. International Surgical Week ISW 2011 (Yokohama), 2011. 8.
- 18) 鈴木英之, 尾形昌男, 吉野雅則, 松信哲朗, 三浦克洋, 菅 隼人<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 小泉岐博<sup>1)</sup>, 渡辺昌則, 内田英二<sup>1)</sup> (日本医科大学外科): 大腸癌に対する腹腔鏡下手術における開腹移行因子の検討. 日本大腸肛門病学会学術集会(第66回)(東京), 2011. 11.
- 19) 八木亜記, 鈴木英之, 松信哲朗, 吉野雅則, 三浦克洋, 千原直人, 渡邊昌則, 内田英二<sup>1)</sup> (日本医科大学外科): 化学療法にてClinicalCRを得た後, 原発巣切除を行った高度進行大腸癌の1例. 日本癌治療学会学術集会(第49回)(名古屋), 2011. 10.
- 20) 八木亜記<sup>1)</sup>, 鈴木英之<sup>1)</sup>, 坊 英樹<sup>1)</sup>, 渡邊昌則<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 星野有哉<sup>1)</sup>, 小峯 修<sup>1)</sup>, 前島顕太郎<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院外科): 当科における上部消化管穿孔症例に対する治療法の検討. 胃病態機能研究会(第43回)(大阪), 2011. 7.
- 21) 八木亜記, 鈴木英之, 尾形昌男, 吉野雅則, 松信哲朗, 三浦克洋, 中田亮輔, 内田英二<sup>1)</sup> (日本医科大学外科): 診断に難渋した大腸粘液癌の1例. 神奈川県消化器病医学会総会(第44回)(横浜), 2011. 10.
- 22) 八木亜記, 鈴木英之, 千原直人, 渡邊昌則, 尾形昌男, 吉野雅則, 内田英二<sup>1)</sup> (日本医科大学外科): 小腸出血を繰り返した平滑筋過誤腫の1例. 日本消化管学会総会学術集会(第8回)(仙台), 2012. 2.
- 23) 八木亜記, 鈴木英之, 松信哲朗, 星野有哉, 吉野雅則, 三浦克洋, 村木 輝, 中田亮輔, 内田英二<sup>1)</sup> (日本医科大学外科): 潰瘍穿通を来したCMV腸炎の1例. 日本腹部救急医学会(第48回)(金沢), 2012. 3.
- 24) 小峯 修, 渡邊昌則, 野村 聡, 前島顕太郎, 水谷 聡, 吉野雅則, 坊 英樹, 星野有哉, 尾形昌男, 鈴木英之, 内田英二<sup>1)</sup> (日本医科大学外科): 食道癌手術における術後早期経腸栄養法の検討. 日本外科学会定期学術集会(第111回)(東京), 2011. 5.
- 25) 小峯 修, 鈴木英之, 渡邊昌則, 水谷 聡, 吉野雅則, 千原直人, 村木 輝, 和田由大, 内田英二<sup>1)</sup> (日本医

- 科大学外科)：腹腔鏡下胆嚢摘出術における Reduced port surgery. 単孔式内視鏡手術研究会 (第4回) (東京), 2011. 8.
- 26) 小峯 修, 鈴木英之, 渡邊昌則, 水谷 聡, 吉野雅則, 千原直人, 村木 輝, 和田由大, 越智友洋, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科)：腹腔鏡下胆嚢摘出術における Reduced port surgery (RPS) の工夫. 小切開・鏡視外科学会 (第3回) (東京), 2011. 11.
- 27) 小峯 修, 渡邊昌則, 鈴木英之, 尾形昌男, 坊 英樹, 吉野雅則, 水谷 聡, 前島颯太郎, 和田由大, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科)：食道癌術後早期経腸栄養における免疫調整栄養剤の有用性. 日本外科感染症学会 (第24回) (三重), 2011. 11.
- 28) 小峯 修, 鈴木英之, 渡邊昌則, 千原直人, 水谷 聡, 吉野雅則, 村木 輝, 和田由大, 三島圭介, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科)：単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術 (TANKO) における針状把持鉗子の使用経験. Needle-scopic Surgery Meeting (第6回) (福岡), 2012. 1.
- 29) 豊田哲鎬<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 渡邊善正<sup>1)</sup>, 南部弘太郎<sup>1)</sup>, 山田太郎<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 鈴木英之, 内田英二<sup>2)</sup> (1) さいたま市民医療センター外科, 2) 日本医科大学外科)：当院における Oncologic emergency 手術症例の検討. JDDW2011 (福岡), 2011. 10.
- 30) 三島圭介, 尾形昌男, 鈴木英之, 渡邊昌則, 吉野雅則, 千原直人, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科)：Argon plasma coagulation (APC) を用いて内視鏡的に止血しえた直腸 Dieulafoy 潰瘍の1例. 日本消化器内視鏡学会 関東地方会 (第92回) (東京), 2011. 6.
- 31) 野村 聡<sup>1)</sup>, 酒井欣男<sup>1)</sup>, 有田 淳<sup>1)</sup>, 村野光和<sup>1)</sup>, 高橋和裕<sup>1)</sup>, 望月 功<sup>1)</sup>, 松野直徒<sup>2)</sup> (1) 東戸塚記念病院 外科, 2) 東戸塚記念病院 肝臓病センター)：当科で経験した食餌性イレウスの2例. 第132回神奈川臨床外科医学集談会 (神奈川県), 2011. 12.
- 32) 野村 聡<sup>1)</sup>, 有田 淳<sup>1)</sup>, 酒井欣男<sup>1)</sup>, 村野光和<sup>1)</sup>, 高橋和裕<sup>1)</sup>, 望月 功<sup>1)</sup>, 松野直徒<sup>2)</sup> (1) 東戸塚記念病院 外科, 2) 東戸塚記念病院 肝臓病センター)：肺癌に合併した穿孔性小腸 GIST の1例. 第823回 外科集談会 (東京都), 2011. 12.
- 33) Mizutani S, Suzuki H, Hoshino A, Nomura S, Kuroda S, Komine O, Yoshino M, Ogata M, Watanabe M, Aimoto T<sup>1)</sup>, Ohta S<sup>2)</sup>, Uchida E<sup>1)</sup> (1) Department of Surgery, Nippon Medical School, 2) Department of Biochemistry and Cell Biology, Institute of Development and Aging Sciences, Graduate of School of Medicine, Nippon Medical School)：In Vivo Resistance of Mutant Mitochondrial DNA Pancreatic Cancer Cybrids to Anticancer Drugs. 43rd European Pancreatic Club (Magdeburg), 2011. 6.
- 34) 水谷 聡, 相本隆幸<sup>1)</sup>, 鈴木英之, 星野有哉, 野村 聡, 前島颯太郎, 小峯 修, 吉野雅則, 尾形昌男, 渡邊昌則, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科)：全胃温存腹腔動脈幹合併脾体尾部切除 (DP-CAR) の手術経験. 66回日本消化器外科学会 (名古屋), 2011. 8.
- 35) 水谷 聡, 鈴木英之, 野村 聡, 星野有哉, 尾形昌男, 渡邊昌則, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科)：急性胆管炎に対する当院の臨床経験とガイドラインの実地評価. 47回日本腹部救急医学会 (福岡), 2011. 8.
- 36) 水谷 聡, 鈴木英之, 相本隆幸<sup>1)</sup>, 星野有哉, 尾形昌男, 渡邊昌則, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科)：睪頭十二指腸切除後に発症した上腸間膜動脈血栓症患者の経時的内視鏡像. 82回日本消化器内視鏡学会 (福岡), 2011. 10.
- 37) 水谷 聡, 鈴木英之, 相本隆幸<sup>1)</sup>, 星野有哉, 尾形昌男, 渡邊昌則, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科)：睪頭十二指腸切除後に発症した上腸間膜動脈血栓症の小腸内視鏡像. 49回小腸研究会 (東京), 2011. 11.
- 38) 星野有哉, 鈴木英之, 水谷 聡, 渡邊昌則, 尾形昌男, 坊 英樹, 吉野雅則, 小峯 修, 千原直人, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学附属病院 外科)：80歳以上高齢者と80歳未満の経皮経肝ドレーナージ症例の検討. 腹部救急医学会総会 (第47回) (福岡), 2011. 8.
- 39) 星野有哉, 鈴木英之, 中村慶春<sup>1)</sup>, 水谷 聡, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医大付属病院 外科)：腹腔鏡下睪切除術を施

行した7例の検討. 日本消化器外科学会大会 JDDW (第9回) (福岡), 2011. 10.

- 40) Hoshino A, Suzuki H, Aimoto T<sup>1)</sup>, Mizutani S, Nomura S, Utida E<sup>1)</sup> (1) Department of Surgery Nippon Medical School) : Single-institution experience of laparoscopic pancreatic surgery. 43rd Meeting of the European Pancreatic Club (EPC) (Magdeburg on Germany), 2011. 6.
- 41) 星野有哉, 鈴木英之, 中村慶春<sup>1)</sup>, 水谷 聡, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 外科) : 十二指腸乳頭部腫瘍に対する経十二指腸的乳頭部切除術の有用性. 日本消化器外科学会総会 (第66回) (名古屋), 2011. 7.
- 42) 千原直人, 鈴木英之, 渡辺昌則, 星野有哉, 小峯 修, 吉野雅則, 水谷 聡, 松信哲朗, 三浦克洋, 村木 輝, 中田亮輔, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科) : 当院における単孔式腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術の導入と評価. 小切開・鏡視外科学会 (第3回) (東京), 2011. 11.
- 43) 千原直人, 鈴木英之, 渡辺昌則, 星野有哉, 小峯 修, 吉野雅則, 中田亮輔, 山川達郎<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 京浜総合病院外科, 2) 日本医科大学外科) : 当科における単孔式腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術. 神奈川ヘルニア研究会 (第3回) (横浜), 2011. 12.
- 44) 千原直人, 鈴木英之, 渡辺昌則, 星野有哉, 小峯 修, 吉野雅則, 松信哲朗, 中田亮輔, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科) : 当院における単孔式腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術の導入と評価. 小切開・鏡視外科学会 (第3回) (東京), 2011. 11.
- 45) 千原直人, 鈴木英之, 渡辺昌則, 吉野雅則, 山川達郎<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 京浜総合病院外科, 2) 日本医科大学外科) : 当科における腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術 (TAPP) の手技と工夫. 日本消化器外科学会総会 (第66回) (名古屋), 2011. 7.
- 46) 千原直人, 鈴木英之, 渡辺昌則, 星野有哉, 吉野雅則, 山川達郎<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 京浜総合病院外科, 2) 日本医科大学外科) : 当科における腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術 (TAPP) の手技と工夫. 日本ヘルニア学会学術集会 (第9回) (福岡), 2011. 8.
- 47) 千原直人, 鈴木英之, 渡辺昌則, 星野有哉, 小峯 修, 吉野雅則, 水谷 聡, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科) : 単孔式を目指した TAPP の工夫. 単孔式内視鏡手術研究会 (第4回) (東京), 2011. 8.
- 48) 千原直人, 鈴木英之, 渡辺昌則, 尾形昌男, 吉野雅則, 松信哲郎, 和田由大, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科) : 大腸憩室出血症例に対する内視鏡的治療の検討. 日本腹部救急医学会総会 (第47回) (福岡), 2011. 8.
- 49) 塙 秀暁<sup>1)</sup>, 小笠原康夫<sup>1)</sup>, 鈴木洋一<sup>1)</sup>, 加納恒久<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 廣田 淳<sup>1)</sup>, 萩原英之<sup>1)</sup>, 名取穰治<sup>1)</sup>, 内山喜一郎<sup>1)</sup>, 鈴木英之 (1) 海老名総合病院外科) : Billroth II 法再建幽門輪温存胃切除術 40 年後に発生した幽門側残胃癌の1例. 第66回 日本消化器外科学会総会 (名古屋), 2011. 7.
- 50) 塙 秀暁<sup>1)</sup>, 小笠原康夫<sup>1)</sup>, 鈴木洋一<sup>1)</sup>, 加納恒久<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 廣田 淳<sup>1)</sup>, 萩原英之<sup>1)</sup>, 名取穰治<sup>1)</sup>, 内山喜一郎<sup>1)</sup>, 鈴木英之 (1) 海老名総合病院 外科) : 原発性小腸軸捻転により腸間膜乳び浮腫及び乳び腹水を呈した1例. JDDW2011 (第19回 日本消化器関連学会週間) (福岡), 2011. 10.
- 51) 中田亮輔, 鈴木英之, 千原直人, 渡辺昌則, 尾形昌男, 星野友哉, 坊 英樹, 吉野雅則, 小峯 修, 水谷 聡, 越智友洋, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科) : 鼠径ヘルニア嵌頓に対する腹腔鏡手術の有用性. 日本ヘルニア学会学術集会 (第9回) (福岡), 2011. 8.
- 52) 中田亮輔, 鈴木英之, 松信哲朗, 渡辺昌則, 尾形昌男, 星野有哉, 坊 英樹, 吉野雅則, 小峯 修, 水谷 聡, 千原直人, 前島顕太郎, 三浦克洋, 村木 輝, 内田英二<sup>1)</sup>, その他4名 (1) 日本医科大学外科) : 経肛門イレウス管挿入後早期に穿孔をきたした横行結腸癌の1例. 日本消化器内視鏡学会関東地方会 (第93回) (東京), 2011. 12.
- 53) 中田亮輔, 鈴木英之, 千原直人, 渡辺昌則, 尾形昌男, 星野有哉, 坊 英樹, 吉野雅則, 小峯 修, 水谷 聡, 松信哲朗, 前島顕太郎, 三浦克洋, 村木 輝, 内田英二<sup>1)</sup>, その他4名 (1) 日本医科大学外科) : 当科における若手医師への腹腔鏡手術教育システム: ヘルニア修復術 (TAPP) 篇. 神奈川ヘルニア研究会 (第3回) (神奈川), 2011. 12.

- 54) 中田亮輔, 鈴木英之, 松信哲朗, 渡辺昌則, 星野有哉, 坊 英樹, 吉野雅則, 小峯 修, 水谷 聡, 千原直人, 前島顕太郎, 三浦克洋, 村木 輝, 黒田誠司, 内田英二<sup>1)</sup>, その他3名<sup>(1)</sup> 日本医科大学外科): 経肛門イレウス管挿入4日目に穿孔を来した横行結腸癌の1例. 日本腹部救急医学会総会(第48回)(金沢), 2012. 3.
- 55) Nakata R<sup>1)</sup>, Suzuki H<sup>1)</sup>, Chihara N<sup>1)</sup>, Watanabe M<sup>1)</sup>, Hoshino A<sup>1)</sup>, Komine O<sup>1)</sup>, Yoshino M<sup>1)</sup>, Mizutani S<sup>1)</sup>, Matsunobu T<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>2)</sup> <sup>(1)</sup> Institute of Gastroenterology, Nippon Medical School, <sup>(2)</sup> Department of Surgery, Nippon Medical School): Evaluation of the Mesh prosthesis for Laparoscopic groin hernia repair (TAPP). International Hernia Congress (5th) (New York, NY), 2012. 3.
- 56) 和田由大, 小峯 修, 鈴木英之, 渡辺昌則, 坊 英樹, 前島顕太郎, 三浦克洋, 黒田誠司, 三島圭介, 八木重記, 北山康彦<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> <sup>(1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院病理部, <sup>(2)</sup> 日本医科大学外科): 多彩な組織成分から構成された gastric heterotopia の1例. 日本臨床外科学会総会(73)(東京), 2011. 11.
- 57) 和田由大, 鈴木英之, 尾形昌男, 吉野雅則, 千原直人, 松信哲朗, 三浦克洋, 黒田誠司, 三島圭介, 八木重記, 内田英二<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 日本医科大学 外科): adalimumAb を用いた Top-down 療法が奏功した初発クローン病の2例. 日本消化管学会総会(8)(仙台), 2012. 2.
- 58) 和田由大, 鈴木英之, 渡辺昌則, 坊 英樹, 小峯 修, 前島顕太郎, 黒田誠司, 田島廣之<sup>1)</sup>, 竹ノ下尚子<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> <sup>(1)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院血管内・低侵襲治療センター, <sup>(2)</sup> 日本医科大学外科): 胃癌に合併した右胃動脈仮性動脈瘤出血に対して IVR が奏功した1例. 腹部救急医学会総会(48)(金沢), 2012. 3.
- 59) 小笠原康夫<sup>1)</sup>, 萩原英之<sup>1)</sup>, 鈴木洋一<sup>1)</sup>, 豊田哲鎬<sup>1)</sup>, 埴 秀暁<sup>1)</sup>, 小泉正樹<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 加納恒久<sup>1)</sup>, 名取穰治<sup>1)</sup>, 内山喜一郎<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 海老名総合病院 外科): 腹部症状なく発見された肉芽腫性虫垂炎の1例. 第73回日本臨床外科学会総会(東京), 2011. 11.
- 60) 岡 大嗣<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup>, 福田 俊<sup>1)</sup>, 川島吉之<sup>1)</sup>, 山田達也<sup>1)</sup>, 横山康行<sup>1)</sup>, 菊地 功<sup>1)</sup>, 野田和雄<sup>1)</sup>, 岸 真也<sup>1)</sup>, 埴 秀暁<sup>1)</sup>, 小倉俊郎<sup>1)</sup>, 八岡利昌<sup>1)</sup>, 網倉克己<sup>1)</sup>, 西村洋治<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 埼玉県立がんセンター消化器外科): 胸壁前空腸挙上 Roux en Y 吻合法による食道再建症例の検討. 第73回日本臨床外科学会総会(東京), 2011. 11.
- 61) 福田 俊<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup>, 岡 大嗣<sup>1)</sup>, 川島吉之<sup>1)</sup>, 山田達也<sup>1)</sup>, 横山康行<sup>1)</sup>, 菊地 功<sup>1)</sup>, 野田和雅<sup>1)</sup>, 岸 真也<sup>1)</sup>, 埴 秀暁<sup>1)</sup>, 小倉俊郎<sup>1)</sup>, 八岡利昌<sup>1)</sup>, 網倉克己<sup>1)</sup>, 西村洋治<sup>1)</sup>, 坂本裕彦<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 埼玉県立がんセンター消化器外科): 左側臥位鏡視下食道癌手術における 106recL の郭清. 第73回日本臨床外科学会総会(東京), 2011. 11.
- 62) 加納恒久<sup>1)</sup>, 萩原英之<sup>1)</sup>, 埴 秀暁<sup>1)</sup>, 小笠原康夫<sup>1)</sup>, 鈴木洋一<sup>1)</sup>, 廣田 淳<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 名取穰治<sup>1)</sup>, 内山喜一郎<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 海老名総合病院 外科): 最近5年間における当科人工肛門手術症例の経験と考察. 第66回日本消化器外科学会総会(名古屋), 2011. 7.
- 63) 豊田哲鎬<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 渡邊善正<sup>1)</sup>, 南部弘太郎<sup>1)</sup>, 山田太郎<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 内間久隆<sup>2)</sup>, 鈴木英之<sup>3)</sup>, 内田英二<sup>4)</sup> <sup>(1)</sup> さいたま市民医療センター 外科, <sup>(2)</sup> さいたま市民医療センター 病理, <sup>(3)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, <sup>(4)</sup> 日本医科大学 外科): 虫垂炎を契機に発見された虫垂杯細胞カルチノイドの1例. 日本腹部救急医学会総会(47)(福岡), 2011. 8.
- 64) 南部弘太郎<sup>1)</sup>, 豊田哲鎬<sup>1)</sup>, 渡邊善正<sup>1)</sup>, 山田太郎<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 内間久隆<sup>2)</sup> <sup>(1)</sup> さいたま市民医療センター 外科, <sup>(2)</sup> さいたま市民医療センター 病理): 急性虫垂炎と術前診断が困難であった Meckel 憩室穿孔の1例. 日本腹部救急医学会総会(47)(福岡), 2011. 8.
- 65) 萩原英之<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 加納恒久<sup>1)</sup>, 小笠原康夫<sup>1)</sup>, 豊田哲鎬<sup>1)</sup>, 小泉正樹<sup>1)</sup>, 名取穰治<sup>1)</sup>, 内山喜一郎<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 海老名総合病院 外科): 術前化学療法の奏効しなかった乳腺扁平上皮癌の1例. 日本臨床外科学会総会(73)(東京), 2011. 11.
- 66) 加納恒久<sup>1)</sup>, 萩原英之<sup>1)</sup>, 名取穰治<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 小笠原康夫<sup>1)</sup>, 豊田哲鎬<sup>1)</sup>, 小泉正樹<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 海老名総合病院 外科): 術後2年目に頸椎転移を発症した胃 GIST の1例. 日本臨床外科学会総会(73)(東京), 2011. 11.

- 67) 加納恒久<sup>1)</sup>, 萩原英之<sup>1)</sup>, 小笠原康夫<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 廣田 淳<sup>1)</sup>, 豊田哲鎬<sup>1)</sup>, 小泉正樹<sup>1)</sup>, 名取穰治<sup>1)</sup>, 内山喜一郎<sup>1)</sup> (1) 海老名総合病院 外科) : 同時性4多発大腸癌に対してISRを施行した1例. 日本大腸肛門病学会学術集会 (66) (東京), 2011. 11.
- 68) 黒田誠司, 鈴木英之, 尾形昌男, 千原直人, 吉野雅則, 水谷 聡, 松信哲朗, 野村 聡, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科) : 膀胱バルーン閉塞に伴う膀胱破裂の1例. 日本腹部救急医学会総会 (第48回) (金沢), 2012. 3.
- 69) 黒田誠司, 鈴木英之, 吉野雅則, 渡辺昌則, 尾形昌男, 坊 英樹, 千原直人, 松信哲朗, 三浦克洋, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科) : 異食 (歯ブラシ) による下部消化管穿孔の1例. 日本腹部救急医学会総会 (第47回) (福岡), 2011. 8.
- 70) 尾形昌男, 鈴木英之, 渡邊昌則, 星野有哉, 坊 英樹, 吉野雅則, 小峯 修, 水谷 聡, 前島顕太郎, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科) : 当科における消化器外科専門医育成プログラムの現状. 日本消化器外科学会総会 (第66回) (名古屋), 2011. 7.
- 71) 坊 英樹, 前島顕太郎, 小峯 修, 吉野雅則, 尾形昌男, 渡辺昌則, 鈴木英之, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科) : 消化器癌手術における手術部位感染防止に対する真皮縫合. 日本外科学会定期学術集会 (第111回) (紙上開催), 2011. 5.
- 72) 坊 英樹, 小峯 修, 吉野雅則, 尾形昌男, 渡辺昌則, 鈴木英之, 徳永 昭, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 外科) : 消化器癌手術における手術部位感染防止に対する真皮縫合. 日本消化器外科学会総会 (第66回) (名古屋), 2011. 7.
- 73) 坊 英樹, 渡辺昌則, 尾形昌男, 鈴木英之, 徳永 昭, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 外科) : 消化器癌手術における閉創の工夫. 日本創傷治癒学会 (第41回) (名古屋), 2011. 12.
- 74) 清水貴夫, 水谷 聡, 鈴木英之, 越智友洋, 黒田誠司, 渡辺昌則, 田島廣之<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院血管内低侵襲治療センター, 2) 日本医科大学外科) : 潰瘍底の動脈瘤破裂に対してNBCAを用いた血管塞栓術が有効であった出血性胃潰瘍の1例. 日本腹部救急医学会 (第48回) (金沢), 2012. 3.
- 75) 水谷 聡, 鈴木英之, 星野有哉, 黒田誠司, 村木 輝, 前島顕太郎, 吉野雅則, 小峯 修, 渡辺昌則, 内田英二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科) : 成人における総肝管腹腔内穿孔の1例. 日本腹部救急医学会 (第48回) (金沢), 2012. 3.
- 76) 山岸征嗣<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 渡邊善正<sup>1)</sup>, 南部弘太郎<sup>1)</sup>, 山田太郎<sup>1)</sup>, 島田祐司<sup>2)</sup>, 大石卓爾<sup>2)</sup>, 内間久隆<sup>3)</sup> (1) さいたま市民医療センター外科, 2) さいたま市民医療センター放射線科, 3) さいたま市民医療センター病理診断科) : 大腿ヘルニア内虫垂嵌頓の1例. 埼玉県外科医会 (第14回) (埼玉), 2011. 7.
- 77) 山岸征嗣<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 渡邊善正<sup>1)</sup>, 南部弘太郎<sup>1)</sup>, 山田太郎<sup>1)</sup>, 内間久隆<sup>2)</sup> (1) さいたま市民医療センター外科, 2) さいたま市民医療センター病理診断科) : 術前に確定診断しえた小腸癌の1例. 日本臨床外科学会総会 (第73回) (東京都), 2011. 11.
- 78) 山岸征嗣<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 渡邊善正<sup>1)</sup>, 南部弘太郎<sup>1)</sup>, 山田太郎<sup>1)</sup>, 内間久隆<sup>2)</sup> (1) さいたま市民医療センター外科, 2) さいたま市民医療センター病理診断科) : カルチノイド再発と鑑別が困難であった縫合糸膿瘍の1例. 埼玉県外科集談会 (第29回) (埼玉県), 2011. 11.
- 79) 山岸征嗣<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 渡邊善正<sup>1)</sup>, 南部弘太郎<sup>1)</sup>, 山田太郎<sup>1)</sup>, 内間久隆<sup>2)</sup> (1) さいたま市民医療センター外科, 2) さいたま市民医療センター病理診断科) : 巨大腫瘤を形成したPagetoid spreadを伴う肛門管粘液癌の1例. 日本消化器病学会関東支部例会 (第317回) (埼玉県), 2011. 12.
- 80) 山岸征嗣<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 渡邊善正<sup>1)</sup>, 南部弘太郎<sup>1)</sup>, 山田太郎<sup>1)</sup>, 内間久隆<sup>2)</sup> (1) さいたま市民医療センター外科, 2) さいたま市民医療センター病理診断科) : 緊急手術を行った小腸アニサキス症の2例. 大宮医学会総会 (第46回) (埼玉県), 2012. 3.
- 81) 山岸征嗣<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 渡邊善正<sup>1)</sup>, 南部弘太郎<sup>1)</sup>, 山田太郎<sup>1)</sup>, 内間久隆<sup>2)</sup> (1) さいたま市民医療センター外科, 2) さいたま市民医療センター病理診断科) : 手術治療を行った回腸アニサキスの1例. 腹部救急

医学会総会（第48回）（石川県），2012. 3.

- 82) 山岸征嗣<sup>1)</sup>，塩谷 猛<sup>1)</sup>，渋谷哲男<sup>1)</sup>，渡邊善正<sup>1)</sup>，南部弘太郎<sup>1)</sup>，山田太郎<sup>1)</sup>，内間久隆<sup>2)</sup> <sup>(1)</sup> さいたま市民医療センター外科，<sup>2)</sup> さいたま市民医療センター病理診断科：虫垂切除術後に多発結腸皮膚瘻を形成した1例. 外科集談会（第823回）（埼玉県），2011. 12.
- 83) 坪井 謙<sup>1)</sup>，石田岳史<sup>1)</sup>，山岸征嗣<sup>2)</sup>，塩谷 猛<sup>2)</sup>，渋谷哲男<sup>2)</sup>，藤原俊文<sup>3)</sup> <sup>(1)</sup> さいたま市民医療センター内科，<sup>2)</sup> さいたま市民医療センター外科，<sup>3)</sup> 自治医科大学付属さいたま医療センター救急部：腹痛発症約36時間で来院した小腸アニサキス症を伴うイレウスの1例. 日本救急医学会関東地方会（東京），2012. 2.
- 84) 坪井 謙<sup>1)</sup>，石田岳史<sup>1)</sup>，山岸征嗣<sup>2)</sup>，塩谷 猛<sup>2)</sup>，渋谷哲男<sup>2)</sup> <sup>(1)</sup> さいたま市民医療センター内科，<sup>2)</sup> さいたま市民医療センター外科：腹痛発症約36時間で来院し開腹手術となったイレウスの1例. 埼玉県急性期フォーラム（埼玉），2011. 11.
- 85) 南部弘太郎<sup>1)</sup>，塩谷 猛<sup>1)</sup>，渋谷哲男<sup>1)</sup>，渡邊善正<sup>1)</sup>，豊田哲鎬<sup>1)</sup>，山岸征嗣<sup>1)</sup>，山田太郎<sup>1)</sup>，内間久隆<sup>2)</sup>，島田祐司<sup>3)</sup>，大石卓爾<sup>3)</sup> <sup>(1)</sup> さいたま市民医療センター外科，<sup>2)</sup> さいたま市民医療センター病理診断科，<sup>3)</sup> さいたま市民医療センター放射線科：急性虫垂炎と術前診断が困難であった Meckel 憩室穿孔の1例. 腹部救急医学会総会（第47回）（福岡），2011. 8.
- 86) 曾根教子，吉野雅則，鈴木英之，渡辺昌則，松信哲朗，三浦克洋，黒田誠司，八木亜記，内田英二<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 日本医科大学 外科：術前に診断し，腹腔鏡下虫垂切除術を施行した虫垂憩室炎の1例. 日本腹部救急医学会総会（第48回）（金沢），2012. 3.

(4) 要望演題：

- 1) 鈴木英之，渡辺昌則，吉野雅則，坊 英樹，松信哲朗，三浦克洋，小峯 修，菅 隼人<sup>1)</sup>，内田英二<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 日本医科大学外科：腹部救急疾患における人工肛門造設術. 日本腹部救急医学会総会（第48回）（金沢），2012. 3.
- 2) 鈴木英之，尾形昌男，吉野雅則，松信哲朗，三浦克洋，三島圭介，渡辺昌則，内田英二<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 日本医科大学外科：イレウス管挿入と管理のコツ. 日本腹部救急医学会総会（第47回）（福岡），2011. 8.

(5) 要望演題ビデオ：

- 1) 鈴木英之，尾形昌男，渡辺昌則，吉野雅則，松信哲朗，三浦克洋，中田亮輔，越智友洋，菅 隼人<sup>1)</sup>，内田英二<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> 日本医科大学外科：一時的回腸人工肛門造設・閉鎖法の工夫. 日本臨床外科学会総会（第73回）（東京），2011. 11.

## [武蔵小杉病院循環器内科，呼吸器内科，腎臓内科，神経内科，動脈硬化・糖尿病・内分泌内科，消化器内科，腫瘍内科]

### 研究概要

循環器内科では，主に心不全を中心とした臨床研究を行っている。1：核医学を用い特に心筋虚血と左室同期障害の研究を行っている。2：心不全患者の Copeptin を測定し，心不全と Copeptin との関連を研究している。3：日本全国規模のトリバプタに関する心不全研究を主導している。腎臓内科では慢性腎臓病患者に対する aliskiren 製剤の有用性の検討や，高リン血症を有する腹膜透析患者へのランタン製剤の有用性の検討を行った。また血液浄化療法関係ではRO装置の薬液消毒における水質浄化の評価や，各種透析器からの溶出物の検討を行った。いずれも今後継続して研究する。呼吸器では1：VF検査を利用した誤嚥予防策の有効性の検討。2：看護部と共同で長期間の非侵襲的持続陽圧呼吸使用時のマスク着用による褥瘡形成の予防策の検討。3：慢性呼吸不全疾患に対するリハビリテーション及び栄養療法による呼吸状態の研究。4：肺高血圧合併の呼吸不全患者の右心カテーテル所見による治療の有効性の検討。5：高齢者肺癌に対する適切な治療法の検討。今後継続的に研究を行う。神経内科では高齢者の common disease である認知症について社会連携の構築と実践を行っている（老人病研究所と共同研究）。認知症になっても安心して暮らせる街を作るために行政（川崎市中原区）地域統括支援センター，社会福祉協議会，介護スタッフ，町の老人会，ボラ

ンティアグループ、医師会、企業等とのネットワークを構築しこれが認知症を支える人々にとって有意義なものになるかを研究している。脳機能研究所と共同で Dimension による脳電位解析が認知症早期発見に有用な指標となるかを研究している。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) 北村 伸, 本間 昭<sup>1)</sup>, 中村 祐<sup>2)</sup>, 吉村 功<sup>3)</sup> (1) 認知症介護研究・研修東京センター, 2) 香川大学医学部世伸神経医学講座, 3) 東京理科大学工学部経営工学部)：新規 NMDA 受容体拮抗剤であるメマンチ塩酸塩の中等度から高度アルツハイマー型認知症に対する後期第 II 相試験：有効性・安全性および推奨用量の検討. 老年精神 2011；22 (4)：453-463.
- 2) 中村 祐<sup>1)</sup>, 本間 昭<sup>2)</sup>, 北村 伸, 吉村 功<sup>3)</sup> (1) 香川大学医学部世伸神経医学講座, 2) 認知症介護研究・研修東京センター, 3) 東京理科大学工学部経営工学科)：新規 NMDA 受容体拮抗剤であるメマンチ塩酸塩の中等度から高度アルツハイマー型認知症に対する後期第 3 相試験：有効性および安全性の検討. 老年精神 2011；22 (4)：464-473.
- 3) 北村 伸：メマンチン塩酸塩. 日本病院薬剤師会雑誌 2012；48 (2)：245-249.
- 4) 酒井行直, 酒井紗織, 大塚智之, 大野 大, 村澤恒男, 佐藤直樹, 宗像一雄：CAPD 患者の高リン血症における炭酸ランタンの有用性について. 腎と透析 2011；71 (3)：355-356.

#### (2) 総説：

- 1) 佐藤直樹：＜心不全診断と治療における新しい概念＞急性心不全の診断と治療. 内科 2011；108 (1)：29-32.
- 2) 佐藤直樹：循環器疾患に対する在宅酸素療法の効果. THE LUNG perspectives 2011；19 (3)：37-39.
- 3) 佐藤直樹：心不全治療における水利尿薬への期待. Fluid Management Renaissance 2011；1 (1)：47-50.
- 4) 弓野 大<sup>1)</sup>, 佐藤直樹, 梶本克也<sup>2)</sup>, 南雄一郎<sup>1)</sup>, 水野雅之<sup>1)</sup>, 浅井邦也<sup>3)</sup>, 村井綱児<sup>4)</sup>, 宗像 亮<sup>3)</sup>, 青景聡之<sup>5)</sup>, 坂田泰史<sup>6)</sup>, 慶田毅彦<sup>7)</sup>, 田中啓治<sup>8)</sup>, 水野杏一<sup>3)</sup>, 高野照夫<sup>3)</sup> (1) 東京女子医科大学循環器内科, 2) 湘南第一病院循環器内科, 3) 付属病院循環器内科, 4) 北総病院集中治療部, 5) 広島市立広島市民病院循環器科, 6) 大阪警察病院循環器科, 7) 江戸川病院, 8) 付属病院集中治療室)：急性心不全のすべての症例に NPPV は適応か？. 循環器専門医 2011；19 (2)：261-265.
- 5) 北村 伸：リバスタチグミン. 認知症の最新医療 2011；1 (2)：60-66.
- 6) 北村 伸：アセチルコリンエステラーゼ阻害薬と NMDA 受容体阻害薬の併用について考えて下さい. 治療 2011；93 (9)：1906-1907.
- 7) 北村 伸：抗アルツハイマー病薬の使い分けと併用療法, 抗アルツハイマー病薬の変更の判定基準, 変更時の注意. 最新医学 2011；66 (9)：2232-2239.
- 8) 北村 伸：メマンチンの基礎と臨床 b, 臨床. 精神科 2011；19 (3)：245-251.
- 9) 北村 伸：NMDA 受容体拮抗剤登場後のアルツハイマー型認知症の臨床. 臨床精神薬理 2012；15 (1)：59-64.
- 10) 北村 伸：Alzheimer 病とメマンチン. 神経内科 2012；76 (2)：141-146.
- 11) 佐藤直樹, 吉田伸子<sup>1)</sup>, 高山守正<sup>1)</sup> (1) 東京都 CCU 連絡協議会事務局)：東京都 CCU ネットワーク活動状況報告. ICU と CCU 2011；35 (10)：827-829.
- 12) 八木 孝, 北村 伸：認知症の終末期医療・ケア 認知症終末期の食事摂取と栄養. 老年精神医学雑誌 2011；22 (12)：1391-1397.
- 13) 佐藤直樹：パソプレッシン V2 アンタゴニストと心不全. Annual Review 糖尿病・代謝・内分泌 2012 2012；230-233.
- 14) 田中貴久, 佐藤直樹：心不全における低 Na 血症. Fluid Management Renaissance 2012；2 (1)：23-27.

- 15) 佐藤直樹：カルペリチド，ニコランジル，硝酸薬. *medicina* 2012；49（1）：78-81.
- 16) 小野澤志郎<sup>1)</sup>，田島廣之<sup>2)</sup>，嶺 貴彦<sup>1)</sup>，村田 智<sup>1)</sup>，杉原 仁<sup>3)</sup>，内田高浩（<sup>1)</sup> 付属病院放射線科，<sup>2)</sup> 武蔵小杉病院放射線科，<sup>3)</sup> 付属病院内分泌内科）：副腎静脈サンプリング. 2. 手技の実際. *臨床画像* 2011；27（6）：758-763.
- 17) 田島廣之<sup>1)</sup>，金城忠志<sup>1)</sup>，竹ノ下尚子<sup>1)</sup>，市川太郎<sup>1)</sup>，山本英世，村田 智<sup>2)</sup>，中沢 賢<sup>2)</sup>，小野澤志郎<sup>2)</sup>，嶺 貴彦<sup>2)</sup>，上田達夫<sup>2)</sup>，山本 剛<sup>3)</sup>，田中啓治<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup> 武蔵小杉病院放射線科，<sup>2)</sup> 付属病院放射線科，<sup>3)</sup> 付属病院集中治療室）：静脈のIVR. 急性肺血栓塞栓症のIVR. *臨床放射線* 2012；57（2）：245-252.
- 18) 佐藤直樹，原田和昌<sup>1)</sup>，木原康樹<sup>2)</sup>，竹石恭知<sup>3)</sup>，筒井裕之<sup>4)</sup>（<sup>1)</sup> 東京都健康長寿医療センター循環器内科，<sup>2)</sup> 広島大学大学院医歯薬学総合研究科病態情報医科学循環器内科学，<sup>3)</sup> 福島県立医科大学医学部循環器・血液内科学，<sup>4)</sup> 北海道大学大学院医学研究科循環病態内科学）：最近の慢性心不全治療の光と影：いかにして再入院を防ぐか？. *臨床医のための循環器診療* 2012；16：3-16.

(3) 研究報告書：

- 1) 若松直樹<sup>1)</sup>，根本留美<sup>1)</sup>，石井和香<sup>1)</sup>，野村俊明<sup>2)</sup>，川並汪一<sup>3)</sup>，北村 伸（<sup>1)</sup> 老人病研究所 街ぐるみ認知症相談センター，<sup>2)</sup> 日本医科大学基礎科学・心理学，<sup>3)</sup> 北海メディカルネットワーク）：地域での認知症相談において認知機能低下を鑑別する評価指標：地域在住健常高齢者を対象としたサンプル調査からの検討. *老年精神医学雑誌* 2011；22（12）：1423-1431.

(4) 症例報告：

- 1) 伊藤俊輔，山口朋禎，森末 遼，小川ゆかり，宗像一雄，福田 悠<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 日本医科大学解析人体病理学）：経気管支肺生検が診断に有用であったTS-1による薬剤性肺障害の1例. *日本呼吸器学会雑誌* 2011；49（12）：949-954.

著 書

- 1) 北村 伸：〔分担〕アルツハイマー病. *神経疾患最新の治療 2012-2014*（小林祥泰，水澤英洋），2012；pp201-204，南江堂.
- 2) 佐藤直樹：〔分担〕急性心不全の薬物治療. *心不全ケア教本*（眞茅みゆき，池亀俊美，加藤尚子），2012；pp107-113，メディカル・サイエンス・インターナショナル.
- 3) 佐藤直樹：〔分担〕急性心不全の超急性期治療：クリニカルシナリオを活かす. *循環器疾患最新の治療*（堀 正二 永井良三），2012；pp29-31，南江堂.

学会発表

〔追加分〕

追加分一般講演：

- 1) Ishiwata A<sup>1)</sup>，Mizumura S<sup>2)</sup>，Yamazaki M<sup>1)</sup>，Hanyu H<sup>3)</sup>，Kitamura S，Katayama Y<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> Department of Neurology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Radiology, Toho University, <sup>3)</sup> Department of Neurology, Tokyo Medical University）：EFFICACY OF THE PREVENTION OF HIPPOCAMPAL ATROPHY BY TREATMENT WITH DONEPEZIL IN ALZHEIMER'S DISEASE. *Alzheimer's Conference/Parkinson's Conference：ADPD 2011*（Barcelona），2011. 3.

(1) 特別講演：

- 1) Takahashi N：Assessment of Relationships between Coronary Artery Calcium and Left Ventricular Synchronicity in Patients with Normal Perfusion SPECT. 第79回日本医科大学医学会総会（東京），2011. 9.
- 2) 北村 伸：かかりつけ医のためのアルツハイマー病診療：新しい治療薬と認知症ネットワーク. *川崎市内科医会*

学術講演会（川崎），2011. 7.

- 3) 北村 伸：認知症診療の実際. 第53回日本老年医学会総会（東京），2011. 6.
- 4) 北村 伸：認知症の早期発見. 第17回日本女性医学会（横浜），2012. 2.
- 5) 北村 伸：最新の認知症診断と治療. 日本認知症予防学会学術講演会（東京），2012. 2.

(2) 教育講演：

- 1) 佐藤直樹：心不全における体液貯留を考える. 第105回日本循環器学会北海道地方会（北海道），2011. 6.

(3) シンポジウム：

- 1) 佐藤直樹：日本の急性心不全ガイドラインの検証. 第15回日本心不全学会学術集会（鹿児島），2011. 10.
- 2) Sato N：Ideal Approaches to Improve the Managements of Cardiovascular Diseases in Japan：Consideration from Our Experiences. The 76th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society（福岡），2012. 3.
- 3) 北村 伸：アルツハイマー病治療薬の新たな展開 アセチルコリンエステラーゼ阻害薬. 第33回日本生物学的精神医学会（東京），2011. 5.
- 4) 北村 伸：NMDA 受容体拮抗剤を日常でどう生かすか. パーキンソン病シンポジウム in 高松（高松），2012. 1.

(4) セミナー：

- 1) 佐藤直樹：急性心不全治療におけるホスホジエステラーゼ阻害薬・強心薬：今だからこそ，その在り方を再考すべき. 第59回日本心臓病学会学術集会（神戸），2011. 9.
- 2) 佐藤直樹：急性心不全の急性期治療が再入院・予後に影響するのか？. 第59回日本心臓病学会学術集会（神戸），2011. 9.
- 3) 佐藤直樹：虚血性急性心不全を考える：その背景と治療戦略. 第15回日本心不全学会学術集会（鹿児島），2011. 10.
- 4) 佐藤直樹：急性心不全治療における利尿の新たな展開を探る. 第39回日本救急医学会総会・学術集会（東京），2011. 10.
- 5) 北村 伸：認知症の画像診断と治療：アルツハイマー病（AD）とレビー小体型認知症を（DLB）中心に. 第1回日本認知症予防学会学術集会（米子），2011. 9.
- 6) 北村 伸：アルツハイマー型認知症の新しい治療戦略. 第29回日本神経治療学会総会（福井），2011. 11.

(5) 一般講演：

- 1) 酒井行直，酒井紗織，大塚智之，大野 大，村澤恒男，宗像一雄：高血圧合併CKD患者に対するアリスキレンの使用経験. 第54回日本腎臓学会学術総会（横浜），2011. 6.
- 2) 高木 基<sup>1)</sup>，赤沼可菜子<sup>1)</sup>，窪田麻美<sup>1)</sup>，尾崎 傑<sup>1)</sup>，伊東健介<sup>1)</sup>，加藤和久<sup>1)</sup>，磯野友昭<sup>1)</sup>，門松 豊<sup>1)</sup>，大塚智之，大野 大，酒井行直，村澤恒男，宗像一雄（<sup>1)</sup> 武蔵小杉病院 ME 部）：RO 装置薬液消毒における水質浄化の評価. 第56回（社）日本透析医学会学術集会・総会（横浜），2011. 6.
- 3) 尾崎 傑<sup>1)</sup>，赤沼可菜子<sup>1)</sup>，窪田麻美<sup>1)</sup>，高木 基<sup>1)</sup>，伊東健介<sup>1)</sup>，加藤和久<sup>1)</sup>，磯野友昭<sup>1)</sup>，門松 豊<sup>1)</sup>，大塚智之，大野 大，酒井行直，村澤恒男，宗像一雄（<sup>1)</sup> 武蔵小杉病院 ME 部）：各社ダイアライザ内からの溶出物の検討. 第56回（社）日本透析医学会学術集会・総会（横浜），2011. 6.
- 4) 本郷公英，山口朋禎，伊藤俊輔，木下賀央里，春原沙織，板倉潮人，宗像一雄，橘和聡文<sup>1)</sup>，田島廣之<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup> 武蔵小杉病院放射線科）：大量咯血によるショックから気管支動脈塞栓術により救命し得た2症例. 日本内科学会第580回関東地方会（東京），2011. 10.
- 5) 板倉潮人，春原沙織，木下賀央里，本郷公英，山口朋禎，白杵二郎：CBDCA + TS-1 の化学療法に伴い Stevens-Johnson 症候群を発症し，ステロイド剤大量投与により寛解した1例. 第197回日本呼吸器学会関東地方会（東京），2011. 11.

- 6) 八木 孝, 小林和陽<sup>1)</sup>, 興水 学<sup>1)</sup>, 酒井良子<sup>1)</sup>, 森本千秋<sup>1)</sup>, 南 史郎, 村澤恒男, 佐藤直樹 (1) 武蔵小杉病院 栄養科): 糖尿病性ケトアシドーシス・急性動脈閉塞症に対し積極的な栄養介入にて全身状態の改善を得た1例. 第15回日本病態栄養学会年次学術集会(京都), 2012. 1.
- 7) 八木 孝, 曾根教子, 福永ヒトミ<sup>1)</sup>, 南 史郎 (1) 武蔵小杉病院看護部): 下肢急性動脈閉塞症を合併した糖尿病性ケトアシドーシスの1例. 第49回日本糖尿病学会関東甲信越地方会(東京), 2012. 1.
- 8) 曾根教子, 八木 孝, 春原沙織, 石井 聡<sup>1)</sup>, 南 史郎 (1) 老人病研究所): 統合失調症と診断されていたCushing症候群の1例. 第21回臨床内分泌代謝Update(浜松), 2012. 1.
- 9) 八木 孝, 岡本芳久<sup>1)</sup>, 石井 聡<sup>1)</sup>, 南 史郎, 佐藤直樹 (1) 老人病研究所): ASVSおよびMRIが局在診断有用であったインスリノーマの1例. 第21回臨床内分泌代謝Update(浜松), 2012. 1.
- 10) 北村 伸: 認知症の人を支えるネットワーク. 川崎市内科医会学術講演会(川崎), 2011. 11.
- 11) 北村 伸: 認知症の診断と治療の実際: 治療選択肢が増えたこれからの日常診療. 横須賀市医師会学術講演会(横須賀), 2011. 9.
- 12) Takahashi N, Ishikawa M, Tokuyama H, Nakama K, Tanaka T, Kikuchi A, Yamamoto E, Amitani K, Hanaoka D<sup>1)</sup>, Uchida T, Sato N, Munakata K, Mizuno K<sup>1)</sup> (1) Kamisu Saiseikai Hospital, (2) Dep. of internal Medicine Division of Cardiology Nippon Medical School): Transient Myocardial Ischemia Induced Left Ventricular Mechanical Dyssynchrony in Patients with Coronary Artery Disease. The 76th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society(福岡), 2012. 3.
- 13) 本郷公英, 山口朋禎, 板倉潮人, 春原沙織, 木下賀央里, 伊藤俊輔, 宗像一雄: 当院における過去10年の縦隔気腫に関する検討. 第51回日本呼吸器学会学術講演会(東京), 2011. 4.
- 14) 春原沙織, 山口朋禎, 板倉潮人, 春原沙織, 木下賀央里, 伊藤俊輔, 石川昌弘, 宗像一雄: 嚥下造影検査のスコア化による誤嚥性肺炎発症とACE-I投与との検討. 第51回日本呼吸器学会学術講演会(東京), 2011. 4.
- 15) Takahashi N, Ishikawa M, Kikuchi A, Yamamoto Y, Amitani K, Uchida T, Sato N, Munakata K, Mizuno K<sup>1)</sup> (1) Dep. of internal Medicine Division of Cardiology Nippon Medical School): Transient Myocardial Ischemia Induced Left Ventricular Mechanical Dyssynchrony in Patients with Coronary Artery Disease. American College of Cardiology(Chicago), 2012. 3.
- 16) 八木 孝, 福永ヒトミ<sup>1)</sup>, 金子佳世<sup>1)</sup>, 吉永美保<sup>1)</sup>, 吉田真貴子<sup>1)</sup>, 望月瑠美<sup>1)</sup>, 石橋なつみ<sup>1)</sup>, 須藤成美<sup>1)</sup>, 曾根教子, 高木宏治, 山本英世, 南 史郎, 宗像一雄 (1) 武蔵小杉病院看護部): CGM検査入院のクリニカルパスの作成とアンケート結果に基づく考察. 第54回日本糖尿病学会年次学術集会(札幌), 2011. 5.
- 17) Takahashi N, Ishikawa M, Kikuchi A, Yamamoto Y, Amitani K, Uchida T, Sato N, Munakata K, Mizuno K<sup>1)</sup> (1) Dep. of internal Medicine Division of Cardiology Nippon Medical School): Potential Ability of Hemodialysis Therapy for improvement of Left Ventricular Mechanical Dyssynchrony in Patients with End-stage Renal Disease. American College of Cardiology(Chicago), 2012. 3.
- 18) 中摩健二, 山本英世, 徳山榮男, 田中貴久, 菊池有史, 石川昌弘, 網谷賢一, 高橋直人, 内田高浩, 佐藤直樹, 田島廣之<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>2)</sup> (1) 武蔵小杉病院血管内治療センター, (2) 付属病院循環器内科): StanfordB型偽腔開存型急性大動脈解離に合併した腸管・下肢虚血に対して経皮的開窓術を施行した1例. 第223回日本循環器学会関東甲信越地方会(東京), 2012. 2.
- 19) 石渡明子<sup>1)</sup>, 北村 伸, 野村俊明<sup>2)</sup>, 若松直樹<sup>3)</sup>, 根本留美<sup>3)</sup>, 石井和香<sup>3)</sup>, 片山泰朗<sup>1)</sup>, 川並汪一<sup>4)</sup> (1) 付属病院神経内科, (2) 日本医科大学心理学, (3) 老人病研究所街ぐるみ認知症相談センター, (4) 北海メディカルネットワーク): 街ぐるみ認知症相談センターにおける活動報告. 第52回日本神経学会総会(名古屋), 2011. 5.
- 20) 高木 聡<sup>1)</sup>, 阿部夕貴<sup>1)</sup>, 小平理恵<sup>1)</sup>, 野村好美<sup>1)</sup>, 板倉潮人 (1) 武蔵小杉病院看護部): 褥瘡予防に有効なNPPVマスク装着方法の検討. 第21回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会(長野), 2011. 10.
- 21) 望月 徹<sup>1)</sup>, 野口周作<sup>2)</sup>, 山口朋禎, 八木 孝, 中摩健二, 上野ひろむ<sup>3)</sup>, 渡辺昌則<sup>4)</sup> (1) 武蔵小杉病院救命救急

- センター, <sup>2)</sup> 武蔵小杉病院薬剤部, <sup>3)</sup> 武蔵小杉病院看護部, <sup>4)</sup> 武蔵小杉消化器病センター): MRSA と緑膿菌に対するカテキンの抗菌効力の数値化による比較. 第 85 回日本感染症学会学術講演会 (東京), 2011. 4.
- 22) 野口周作<sup>1)</sup>, 望月 徹<sup>2)</sup>, 吉田奈央<sup>3)</sup>, 八木 孝 ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院薬剤部, <sup>2)</sup> 武蔵小杉病院救命救急センター, <sup>3)</sup> 武蔵小杉病院看護部 ): ICT 抗菌薬ラウンドによる抗菌薬適正使用の取り組み. 第 59 回日本化学療法学会総会 (札幌), 2011. 6.
- 23) 橘和聡文<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 一色彩子<sup>1)</sup>, 山口香織<sup>1)</sup>, 清水康弘<sup>1)</sup>, 安藤 順<sup>1)</sup>, 市川太郎<sup>1)</sup>, 金城忠志<sup>1)</sup>, 村澤恒男, 畝本恭子<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院放射線科, <sup>2)</sup> 武蔵小杉病院救命救急センター ): 腎出血: 出血血管の解剖学的認識について. 第 70 回日本医学放射線学会総会 (横浜), 2011. 5.
- 24) 橘和聡文<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 一色彩子<sup>1)</sup>, 山口香織<sup>1)</sup>, 清水康弘<sup>1)</sup>, 安藤 順<sup>1)</sup>, 市川太郎<sup>1)</sup>, 金城忠志<sup>1)</sup>, 竹ノ下尚子<sup>1)</sup>, 畝本恭子<sup>2)</sup>, 牧 真彦<sup>2)</sup>, 村澤恒男 ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院放射線科, <sup>2)</sup> 武蔵小杉病院救命救急センター ): 腎出血: CT・血管造影による出血血管の同定と IVR. 第 40 回日本 IVR 学会総会 (青森), 2011. 5.
- 25) 竹ノ下尚子<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 一色彩子<sup>1)</sup>, 金城忠志<sup>1)</sup>, 市川太郎<sup>1)</sup>, 橘和聡文<sup>1)</sup>, 中塚雄久, 松下洋子, 枡 卓史, 畝本恭子<sup>2)</sup>, 鈴木英之<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> 武蔵小杉病院放射線科, <sup>2)</sup> 武蔵小杉病院救命救急センター, <sup>3)</sup> 武蔵小杉病院消化器病センター ): 脾炎と腹腔動脈解離に伴う下脛十二指腸仮性動脈瘤破裂に対し NBCA を用いて止血に成功した 1 例. 第 48 回腹部救急医学会総会 (金沢), 2012. 3.

## [武蔵小杉病院中央検査室]

### 研究概要

近年臨床各科からの新規検査採用要請はそのほとんどが生理機能検査に集中しており, 限られた人員に苦慮しつつも, 昨年度の終夜脳波の開始に引き続き, 平成 23 年度においては下肢静脈超音波検査, 視覚誘発電位検査 (VEP), 新生児 AABR を日常検査として開始した. さらに, 次年度の本格実施に向け PSG の技術修得にも取り組んでいる. 開始迄に至る測定機器性能評価から指導医による実地指導, 日常検査実践の過程の中で様々な知見を得たが, 学術活動に昇華させるまでには至っておらず今後更なる知見を加えて発展させて行くことが課題となっている. 検体検査においてはプロカルシトニンの院内測定を開始し, 現在は NTproBNP, トロポニン T について測定法の再評価に取り組んでいる. また, 細菌検査においては検査法の見直しを図り, 効果的な選択分離培地の採用を目指し各種培地の比較検討等を実施すると共に, 更なる改革に取り組んでいる. この過程の中で実施した *Campylobacter* 選択培地の性能評価については, 学術発表を行うと共に追加検討を加え現在投稿中である.

### 研究業績

#### 学会発表

(1) 一般講演:

- 1) 末廣勇氣, 吉岡美香, 成定昌昭, 菅原 通, 森本 進, 勝部康弘: *Campylobacter* 選択分離培地の性能評価. 神奈川県医学検査学会 (第 60 回) (神奈川県横浜市), 2011. 11.

## [武蔵小杉病院薬剤部]

### 研究概要

平成 23 年度の薬剤部の研究及び学会発表は, 「当院における外来糖尿病患者に対する DPP-4 阻害薬投与に関する調査・研究」, 「ICT 抗菌薬ラウンドによる抗菌薬適正使用の取り組み」, 「段階的な抗菌薬適正使用強化策とその効果」であった. 近年, メタボリック・シンドロームを含む代謝系内科疾患患者の増加は目を見張るものがある. 特に糖尿病患者数の増加は著しく, その治療薬の選択や Dose 設定は非常に難しくなって来ているのが現状である. このよう

な背景の中で、DPP-4 阻害薬の処方状況調査は意義深いものであった。また、抗菌薬の適正使用については、現在どの施設においても大変大きな関心事である。その中でも、薬剤師を含む ICT ラウンドの取り組みは注目するところである。しかし、如何に薬物の適正使用を主治医に実施して貰うかという問題は依然として残っている。このような諸問題に関して、薬剤部としてどのように解決していくかを研究していったのは有意義であったと思われる。さらに、薬剤業務の実務面においては特に臨床部門に力を注いでおり、入院および外来患者に対する癌化学療法チームと疼痛緩和ケアチームの業務で担当薬剤師の活躍が実践され、大いに薬剤師の職能が発揮されたことで、確実にチーム医療の一員としての存在感が上がっていると確信している。

## 研究業績

### 学会発表

#### (1) パネルディスカッション：

- 1) 望月 徹<sup>1,2)</sup>、野口周作<sup>1)</sup>、山口朋禎<sup>1,3)</sup>、八木 孝<sup>1,3)</sup>、中摩健二<sup>1,3)</sup>、上野ひろむ<sup>1,4)</sup>、渡辺昌則<sup>1,5)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 感染制御部、2) 同病院 救命救急センター、3) 同病院 内科、4) 同病院 看護部、5) 同病院 消化器病センター)：MRSA と緑膿菌に対するカテキンの抗菌効力の数量化による比較。日本感染症学会総会 (第 85 回) (東京)、2011. 4.
- 2) 野口周作<sup>1)</sup>、望月 徹<sup>1,2)</sup>、吉田奈央、八木 孝<sup>1,3)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 感染制御部、2) 同病院 救命救急センター、3) 同病院 内科)：ICT 抗菌薬ラウンドによる抗菌薬適正使用の取り組み。日本化学療法学会総会 (第 59 回) (札幌)、2011. 6.
- 3) 東さやか、伊藤淳雄、野口周作、島田慰彦、片岡博邦：当院における DPP-4 阻害薬投与患者に関する調査・研究。日本医療薬学会 (第 21 回) (神戸)、2011. 10.

#### (2) 一般講演：

- 1) 野口周作<sup>1)</sup>、望月 徹<sup>1,2)</sup>、上野ひろむ<sup>1,3)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 感染制御部、2) 同病院 感染制御部、3) 同病院 看護部)：段階的な抗菌薬適正使用強化策とその効果。日本環境感染学会総会 (第 27 回) (福岡)、2012. 2.

## [武蔵小杉病院看護部]

### 研究概要

1) NPPV 管理下のマスクによる褥瘡予防には看護師へのマスクフィッティング指導が有効 2) 終末期看護でのデスカンファを実施した効果と今後の課題について検討 3) 看護師の持つ不合理な信念がどのように影響しているかを明らかにすることを目的とした 4) 妊娠中より将来について考えられる支援が必要である 5) CGMS 導入のクリニカルパス作成、実施した方法と結果の傾向で解ってきた患者個人に適した CGM 検査のあり方を考察 6) 妊娠糖尿病患者の看護外来を実施する目的方法それによる結果と考察の発表 7) 終末期患者の退院支援における家族との関わりから看護師の役割と今後の課題を考察 8) 新人育成に麻酔科一日研修を導入した効果について発表 9) ベビーズマットレス改良型を用いた手術体位において術中の皮膚障害防止に得られた効果についての発表 10) マスクフィットにおいて問題になる鼻根部のスキントラブルに対し実際に圧を測定し、より効果的な装着方法を検討 11) 武蔵小杉病院脳神経外科病棟における長時間ビデオ脳波モニタリング検査の取り組み 12) M. ニューマン理論を用いてケアを行い自己のケアパターンに気付き今後のケアへの可能性を明らかにする 13) プレパレーション第 5 段階を実施し子どもの反応観察から年齢発達段階に応じた具体的な看護介入、家族指導を明らかにした 14) 当院で出産した褥婦の抑うつ傾向と不安を退院時と一ヶ月時で調査し保健指導や支援の必要性を見出した 15) 特定抗菌薬使用時の届出制導入と ICT 抗菌薬ラウンド導入までの段階的強化策についての報告 16) 新人看護師オリエンテーション期間中に行う多重課題シュミレーションは実際の部署に出る為の心構えとなり責任者が把握できることから意義がある 17) 若者

の間で人気が出た携帯小説を対象に性的表現を抽出し内容を明らかにしていくと共に若者への影響や適切な対応を考察する。

## 研究業績

### 著書

- 1) 門馬 治：〔自著〕重症患者を見逃さない：腹痛。救急看護&トリアージ創刊号第1巻第2号，2011；pp56-64，日総研究出版。
- 2) 小見山かおり：〔自著〕日本医科大学武蔵小杉病院における KYT 活動のあゆみ。第70回全国産業安全衛生大会研究発表集号，2011；pp287-289，中央労働災害防止協会。
- 3) 金子佳世：〔分担〕外来でとり組むインスリン導入。糖尿病ケア第9巻第2号，2012；pp74-75，メディカ出版。

### 学会発表

#### (1) 一般講演：

- 1) 野村好美，高木 聡，伊藤桃子，西山絵美，若城由美子<sup>1)</sup>，村上正洋<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 薬剤部，2) 日本医科大学武蔵小杉病院 形成外科)：当院における非侵襲的陽圧換気療法管理下のマスクフィッティングによる褥瘡予防の取り組み。日本褥瘡学会関東甲信越地方会 (第8回) (神奈川県)，2011. 6。
- 2) 藤原佳美：デスカンファレンスが看護師にもたらす効果と課題。日本緩和医療学会 (第16回) (北海道)，2011. 7。
- 3) 二宮美香：看護師の抱く「不合理な信念」の実態についての考察。日本カウンセリング学会 (第44回) (新潟県)，2011. 9。
- 4) 佐々木佳枝，森加苗愛<sup>1)</sup> (1) 日本看護協会看護研修学校)：妊娠糖尿病患者が抱く不安への援助を振り返って：将来の自分と家族の健康について考えるきっかけ。日本糖尿病教育・看護学会 (第16回) (東京都)，2011. 9。
- 5) 吉永美保，福永ヒトミ，金子佳世，望月瑠美，吉田真貴子：持続血糖モニタリング検査のクリニカルパスを作成・実施し解ったこと。日本糖尿病教育・看護学会 (第16回) (東京都)，2011. 9。
- 6) 福永ヒトミ，金子佳世，吉永美保，望月瑠美，吉田真貴子：新しい診断基準による妊娠糖尿病患者を対象とした看護外来を実施して。日本糖尿病教育・看護学会 (第16回) (東京都)，2011. 9。
- 7) 藤原佳美：終末期がん患者と家族への意思決定支援。日本死の臨床研究会 (第35回) (千葉県)，2011. 10。
- 8) 佐々木久美子：新人看護師育成プログラムに麻酔科一日研修を導入して。日本手術医学会 (第33回) (鹿児島県)，2011. 10。
- 9) 佐々木久美子：手術体位固定におけるベビーズマットレスの効果。日本手術看護学会 (第25回) (愛知県)，2011. 11。
- 10) 高木 聡，野村好美，阿部夕貴，小平理恵，板倉潮人<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 呼吸器内科)：鼻根部の褥瘡予防に有効な NPPV マスク装着方法の検討。日本呼吸ケアリハビリテーション学会 (第21回) (長野県)，2011. 11。
- 11) 古川美由紀，太組一朗<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 脳神経外科)：武蔵小杉病院脳神経外科病棟における長時間ビデオ脳波モニタリング検査の取り組み。神奈川脳神経外科手術手技研究会 (第16回) (神奈川県)，2012. 1。
- 12) 藤原佳美<sup>1)</sup>，飯尾友華子<sup>1)</sup>，池谷理恵<sup>1)</sup>，田代千香<sup>1)</sup>，宮原知子<sup>2)</sup>，高木真理<sup>3)</sup>，今泉郷子<sup>3)</sup>，種村健次郎<sup>3)</sup>，遠藤恵美子<sup>3)</sup> (1) 武蔵野大学大学院研究科がん看護学専攻，2) 神奈川県立がんセンター，3) 武蔵野大学看護学部)：修士課程学生のがん看護に関する自己のケアパターンへの気づき：M・ニューマン理論に導かれたケアに踏みだした体験から。日本がん看護学会 (第26回) (島根県)，2012. 2。
- 13) 伊藤あゆみ，筒井菜美子：子どもの対処行動から処置台のケア介入の重要性を明らかにする：プレパレーション

第5段階に焦点をあてて、川崎市看護協会 平成23年度看護研究発表活動報告会（神奈川県）、2012. 2.

- 14) 滝澤 薫, 澤谷智美: 大学病院を出産場所を選んだ褥婦の抑うつ傾向の現状と産後支援の一考察. 神奈川県母性衛生学会（第25回）（神奈川県）、2012. 2.
- 15) 野口周作<sup>1)</sup>, 上野ひろむ, 望月 徹<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 薬剤部, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院 感染制御部): 段階的な抗菌薬適正使用強化策とその効果. 日本環境感染学会（第27回）（福岡県）、2012. 2.
- 16) 泊瀬川紀子: 入職時オリエンテーションで行う多重課題シュミレーション研修の実際. 神奈川県看護教育フォーラム2012（神奈川県）、2012. 3.
- 17) 福留 藍, 末吉容子<sup>1)</sup>, 三浦陽子<sup>2)</sup>, 下敷領須美子<sup>3)</sup> (1) 医療法人清泉会伊集院病院, 2) 元鹿児島大学医学部保健学科, 3) 鹿児島大学医学部保健学科): ケータイ小説に記述された性的表現. 日本思春期学会（第30回）（福岡県）、2011. 8.

(2) 交流集会:

- 1) 金子佳世, 米田明子<sup>1)</sup>, 桐生史江<sup>2)</sup>, 杉宮信子<sup>3)</sup>, 菅原和美<sup>4)</sup> (1) 平塚共済病院, 2) 藤沢市民病院, 3) 東邦大森医療センター, 4) 川崎社会保険病院): 神奈川糖尿病看護研究会公開事例検討会に参加してみませんか?. 日本糖尿病教育看護学会学術集会（第16回）（東京都）、2011. 9.
- 2) 小野美喜<sup>1)</sup>, 福永ヒトミ, 石川綾子<sup>2)</sup>, 塚本容子<sup>3)</sup>, 荒井孝子<sup>4)</sup>, 中山法子<sup>4)</sup>, 塩月成則<sup>5)</sup>, 光根美保<sup>6)</sup> (1) 大分県立看護科学大学, 2) 東京医療保健大学, 3) 北海道医療大学, 4) 国際医療福祉大学, 5) 佐伯中央病院, 6) 大分県厚生連鶴見病院): 大学院修士課程を修了した特定看護師（仮称）の活動の現状. 日本看護科学学会（第31回）（高知県）、2011. 12.

## 22. 多摩永山病院付置施設等

### [多摩永山病院病理部]

#### 研究概要

組織培養, 免疫組織化学, 電子顕微鏡部門が充実し, 臨床医の病理部での研究も行なわれるようになり, 研究部門もさらに充実してきた. 現在の主な研究テーマは以下の通りである. (1) 臨床に呼応した迅速細胞・組織診断 (外来・病棟・術中・剖検時) の確立. (2) 免疫細胞・組織化学 (サイトケラチン 7/20/34 $\beta$ E12/35 $\beta$ H11, MIB-1, Napsin A, Villin) を用いた客観的原発巣推定診断・予後診断法の確立. (3) 乳腺腫瘍 1) 穿刺吸引細胞診材料を用いた予後診断の確立; 細胞転写法を用いて ER, PgR, HER2 蛋白質, MIB-1 指数の他, HER2 に関しては蛋白質の過剰発現と遺伝子増幅 (CISH) の両方を検討する. 2) 乳癌における, ホルモンレセプターと細胞骨格, 接着因子の関係および転移性乳癌の臨床病理学的研究; HER2 タンパク質と基底膜分解酵素について. (4) 骨軟部腫瘍 1) 穿刺吸引細胞診による迅速診断法の確立 (免疫組織化学, 電顕的検索の併用) (5) 子宮癌 1) 子宮内膜癌の細胞診による診断の確立 (免疫組織化学, 電顕的検索の併用); とくにセルブロック法. (6) リンパ節病変 1) リンパ節病変の迅速診断法の検索, 免疫細胞学的アプローチ. 2) リンパ節病変の分子生物学的検索. 3) 悪性リンパ腫の細胞診断学.

#### 研究業績

##### 論文

##### [追加分]

追加分原著:

- 1) 荻田あづさ<sup>1)</sup>, 東 直行<sup>1)</sup>, 細根 勝, 川名誠司<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院皮膚科, <sup>2)</sup> 日本医科大学皮膚科学教室): nodular type lichen myxedematosus. 皮膚病診療 2010; 32 (5): 527-530.
- 2) Tsukune Y<sup>1)</sup>, Isobe Y<sup>1)</sup>, Yasuda H<sup>1)</sup>, Shimizu S<sup>2)</sup>, Katsuoka Y<sup>2, 3)</sup>, Hosone M<sup>4)</sup>, Oshimi K<sup>1)</sup>, Komatsu N<sup>1)</sup>, Sugimoto K<sup>1)</sup> (1) Department of Hematology, Jyuntendo University School of Medicine, Tokyo, <sup>2)</sup> Department of Hematology, Tsuchiura kyodo General Hospital, Tsuchiura, <sup>3)</sup> Department of Hematology, Sendai Medical Center, Sendai, <sup>4)</sup> Department of Pathology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan): Activity and safety of combination chemotherapy with methotrexate, ifosfamide, L-asparaginase and dexamethasone (MILD) for refractory lymphoid malignancies: a pilot study. European Journal of Haematology 2010; 84 (4): 310-315.
- 3) 三田俊二<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 磯部宏昭, 岩瀬裕美, 日吾美栄子, 鈴木美紀 (1) 日本医科大学多摩永山病院女性診療科・産科): 体腔液細胞診による腺癌症例の原発巣の同定: 細胞転写法を用いた免疫細胞化学染色. 日本臨床細胞学会雑誌 2011; 50 (2): 89-94.

追加分症例報告:

- 1) 若林秀幸<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>2)</sup>, 松谷 毅<sup>1)</sup>, 鈴木成治<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 片山博徳, 細根 勝, 笹島耕二<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院外科, <sup>2)</sup> 日本医科大学外科): S1/CDDP 化学療法で CR 後 14 ヶ月に両側腸腰筋転移をきたした高度進行胃癌の 1 例. 癌の臨床 2010; 56 (7): 557-562.

(1) 原著:

- 1) 二宮里紗<sup>1)</sup>, 東 直行<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 川名誠司<sup>3)</sup>, 小澤雅邦<sup>4)</sup>, 森 鉄也<sup>5)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院皮膚科, <sup>2)</sup> 日本医科大学多摩永山病院病理学, <sup>3)</sup> 日本医科大学皮膚科学教室, <sup>4)</sup> 小沢皮膚科クリニック, <sup>5)</sup> 国立成育医療センター血液腫瘍科): 原発性皮膚型未分化大細胞性リンパ腫 (PCALCL). 皮膚病診断 2011; 33 (4): 391-394.

- 2) Taniyama K<sup>1)</sup>, Jhala D<sup>1)</sup>, Katayama H, Kuraoka K<sup>1)</sup>, Naito Z, Rangdaeng S<sup>1)</sup>, Gong G<sup>1)</sup>, Lai C<sup>1)</sup>, Chang A<sup>1)</sup>, Jhala N<sup>1)</sup> (1) Institute for Clinical Research, National Hospital Organization, Kure Medical Center and Chugoku Cancer Center) : Multinational comparison of diagnostic clues for uterine cervical lesions among cytopathologists in Asian countries. *Diagn Cytopathol* 2011 ; 39 (7) : 489-494.

(2) 症例報告 :

- 1) 内藤善哉<sup>1)</sup>, 片山博徳, 細根 勝 (1) 病理学 (統御機構・腫瘍学) : 限局性結節性過形成 (FNH). *検査と技術* 2011 ; 39 (12) : 1096-1096.

学会発表

[追加分]

追加分一般講演 :

- 1) 高 遼<sup>1)</sup>, 原田紀宏<sup>1)</sup>, 石渡俊次<sup>1)</sup>, 原 宗央<sup>1)</sup>, 長岡鉄太郎<sup>1)</sup>, 瀬山邦明<sup>1)</sup>, 高橋和久<sup>1)</sup>, 信川文誠<sup>2)</sup>, 細根勝 (1) 順天堂大学医学部呼吸器内科, 2) 順天堂大学医学部人体病理病態学) : 心臓へびまん性に浸潤した悪性リンパ腫の1例. *日本肺癌学会関東支部会 (第159回) (東京)*, 2010. 12.
- 2) 深井光一郎<sup>1)</sup>, 鈴木園子<sup>1)</sup>, 茂野雅子<sup>1)</sup>, 中澤和久<sup>1)</sup>, 木村雅巳<sup>1)</sup>, 丹野正隆, 早川欽哉<sup>3)</sup>, 岡本 真<sup>2)</sup>, 関 邦彦<sup>1)</sup> (1) JR 東京総合病院臨床検査科病理, 2) JR 東京総合病院消化器内科, 3) 大東文化大学スポーツ・健康科学部) : アメーバ赤痢の大腸内視鏡検査時迅速検鏡検査. *日本交通医学会総会 (第64回) (東京)*, 2010. 6.
- 3) 関 邦彦<sup>1)</sup>, 深井光一郎<sup>1)</sup>, 鈴木園子<sup>1)</sup>, 茂野雅子<sup>1)</sup>, 中澤和久<sup>1)</sup>, 木村雅巳<sup>1)</sup>, 丹野正隆, 早川欽哉<sup>3)</sup>, 岡村 隆<sup>2)</sup> (1) JR 東京総合病院臨床検査科病理, 2) JR 東京総合病院産婦人科, 3) 大東文化大学) : 高齢者に発生した Ser-toli-Leydig cell tumor の1例. *日本交通医学会総会 (第64回) (東京)*, 2010. 6.

追加分教育講演 :

- 1) 前田昭太郎 : 乳腺の病理と細胞診断. 平成22年度東京都多摩がん検診センター細胞検査士養成公開講座 (第3回) (東京), 2010. 7.
- 2) 片山博徳, 前田昭太郎 : 乳腺細胞診の実際. 平成22年度東京都多摩がん検診センター細胞検査士養成公開講座 (第3回) (東京), 2010. 7.

追加分特別講演 :

- 1) 細根 勝 : Blastic plasmacytoid dendritic cell tumor. 骨髓病理研究会 (第8回) (岡山県倉敷市), 2010. 9.

(1) 特別講演 :

- 1) Maeda S<sup>1)</sup>, Katayama H, Hosone M, Hirata T<sup>2)</sup>, Naito Z<sup>3)</sup> (1) Mitsubishi Chemical Medicine, Pathology and Cytology Center, 2) Department of Surgery, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School, 3) Department of Pathology, Nippon Medical School) : The importance of body fluid cytology in the diagnosis of malignant mesothelioma. *Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (19th) (Sukhothai, Thailand)*, 2012. 1.
- 2) Naito Z<sup>1)</sup>, Peng W<sup>1)</sup>, Isobe H, Katayama H, Hosone M, Masataka T, Shotaro M<sup>1)</sup> (1) Department of Pathology, Integrative Oncological Pathology, Nippon Medical School) : Availability of cytological diagnosis in pancreatic diseases and cytological slide seminar of pancreatic lesions. *Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (19th) (Sukhothai, Thailand)*, 2012. 1.
- 3) Katayama H, Tanno M, Hosone M, Maeda S<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>2)</sup> (1) Mitsubishi Chemical Medicine, Pathology and Cytology Center, 2) Department of Pathology, Integrative Oncological Pathology, Nippon Medical School) : Immunocytochemical study of Melanoma antigen-encoding gene-1 (MAGE-1) in mesothelioma cells and reactive mesothelial cells. *Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (19th) (Sukhothai, Thailand)*,

2012. 1.

(2) 教育講演：

- 1) 細根 勝：体腔液に原発する悪性リンパ腫：Primary effusion lymphoma (PEL) と本邦に多い PEL 類似リンパ腫について. 日本臨床細胞学会秋期大会 (第 50 回) (新宿), 2011. 10.
- 2) 前田昭太郎：乳腺の病理と細胞診断. 平成 23 年度東京都多摩がん検診センター細胞検査士養成公開講座 (第 3 回) (東京), 2011. 7.
- 3) 片山博徳, 前田昭太郎：乳腺細胞診の実際. 平成 23 年度東京都多摩がん検診センター細胞検査士養成公開講座 (第 3 回) (東京), 2011. 7.

(3) シンポジウム：

- 1) 片山博徳, 丹野正隆, 細根 勝, 磯部宏昭, 柳田裕美, 岩瀬裕美, 日吾美栄子, 鈴木美紀, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>三菱化学メディエンス病理・細胞診センター, <sup>2)</sup>日本医科大学病理部 (統御機構・腫瘍学)) : One-day cytology : 乳腺外来への細胞診の貢献. 日本臨床細胞学会 (第 50 回) (新宿), 2011. 10.

(4) ワークショップ：

- 1) 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 片山博徳 ( <sup>1)</sup>三菱化学メディエンス病理・細胞診センター) : 各種臓器の術中迅速細胞診の応用と実際：基調講演. 日本臨床細胞学会総会 (第 52 回) (福岡), 2011. 5.
- 2) 片山博徳, 前田昭太郎<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>三菱化学メディエンス病理・細胞診センター) : 各種臓器の術中迅速細胞診の応用と実際：迅速免疫細胞染色の応用. 日本臨床細胞学会総会 (第 52 回) (福岡), 2011. 5.
- 3) Hosone M, Tanno M, Katayama H, Naito Z<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Pathology, Integrative Oncological Pathology, Nippon Medical School) : Session5 : A case of blastic plasmacytoid dendritic cell neoplasms. Society Hematopathology and Eueopean Association for Haematopathology : SH/EAHP Workshop 2011 (Los Angeles, California, USA), 2011. 11.

(5) 一般講演：

- 1) 横山 正<sup>1)</sup>, 丹野正隆, 細根 勝, 片山博徳 ( <sup>1)</sup>日本医科大学多摩永山病院外科) : 細胞診材料が有用であった HER-2 陽性転移性乳癌の 1 例. 日本乳癌学会関東地方会 (第 8 回) (大宮), 2011. 12.
- 2) 細根 勝, 丹野正隆, 片山博徳, 内藤善哉<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>日本医科大学病理学講座) : 腹水中に多数の“印環細胞”が出現した濾胞性リンパ腫の 1 例. 日本リンパ網内系学会 (第 51 回) (福岡), 2011. 7.
- 3) 平田知己<sup>1)</sup>, 吉野直之<sup>1)</sup>, 川島徹生<sup>1)</sup>, 宮 敏路<sup>1)</sup>, 小久保豊<sup>1)</sup>, 本橋典久<sup>1)</sup>, 葛 伸一<sup>1)</sup>, 丹野正隆, 細根 勝, 片山博徳, 前田昭太郎 ( <sup>1)</sup>日本医科大学多摩永山病院 呼吸器センター) : 胸水細胞診により診断し得た早期悪性胸膜中皮腫の 1 例. JMIG 研究会 (第 2 回) (新大阪), 2012. 1.
- 4) 磯部宏昭, 丹野正隆, 細根 勝, 片山博徳, 柳田裕美, 岩瀬裕美, 日吾美栄子, 鈴木美紀, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>三菱化学メディエンス病理・細胞診センター, <sup>2)</sup>日本医科大学病理部 (統御機構・腫瘍学)) : 膣術中迅速細胞診 2 ポイント採取法. 日本臨床細胞学会秋期大会 (第 50 回) (新宿), 2011. 10.
- 5) 片山博徳, 丹野正隆, 細根 勝, 劉 愛民, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>三菱化学メディエンス病理・細胞診センター, <sup>2)</sup>病理学講座 (統御機構・腫瘍学)) : 中皮腫における MAGE-1 の発現と局在. 日本病理学会総会 (第 100 回) (横浜), 2011. 4.
- 6) 劉 愛民<sup>1)</sup>, 細根 勝, 東 敬子, 片山博徳, 丹野正隆, 前田昭太郎, 内藤善哉<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>形態解析共同研究施設) : 細胞診材料を用いた電顕検索の有用性. 日本病理学会総会 (第 100 回) (横浜), 2011. 4.
- 7) 関 邦彦<sup>1)</sup>, 中村はるみ<sup>2)</sup>, 蔦 幸治<sup>2)</sup>, 早川欽哉<sup>3)</sup>, 丹野正隆 ( <sup>1)</sup>JR 東京総合病院臨床検査科, <sup>2)</sup>国立がん研究センター中央病院病理科, <sup>3)</sup>大東文化大学スポーツ健康科学部) : 肺腺維症に合併した癌肉腫の 1 例. 日本病理学会総会 (第 100 回) (横浜), 2011. 4.
- 8) 片山博徳, 丹野正隆, 細根 勝, 東 敬子, 磯部宏昭, 柳田裕美, 川野記代子, 岩瀬裕美, 日吾美栄子, 鈴木美紀, 劉 愛民, 平田知己<sup>1)</sup>, 吉野直之<sup>1)</sup>, 川島徹生<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>多摩永山病院呼吸器外科, <sup>2)</sup>病理学 (統御

機構・腫瘍学)) : MAGE-1 の免疫染色に関する基礎的検討 : 中皮腫細胞と反応性中皮細胞における発現. 日本医科大学医学会 (第 79 回) (東京), 2011. 9.

- 9) 金丸良太<sup>1)</sup>, 関谷充晃<sup>1)</sup>, 鈴木洋平<sup>1)</sup>, 児玉裕三<sup>1)</sup>, 木村慶子<sup>1)</sup>, 竹川英徳<sup>1)</sup>, 長岡鉄太郎<sup>1)</sup>, 瀬山邦明<sup>1)</sup>, 稲垣直子<sup>2)</sup>, 佐藤恵理子<sup>2)</sup>, 小松則夫<sup>2)</sup>, 細根 勝, 高橋和久<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 順天堂大学医学部 呼吸器内科, <sup>2)</sup> 順天堂大学医学部 血液内科) : 気管支病変の自然軽快が確認され, リンパ腫様肉芽腫症 (LYG) が疑われた 1 例. 日本呼吸器内視鏡学会 関東支部会 (第 140 回) (東京), 2012. 3.
  - 10) Katayama H, Tanno M, Hosone M, Maeda S<sup>1)</sup>, Naito Z<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> Mitsubishi Chemical Medicine, Pathology and Cytology Center, <sup>2)</sup> Department of Pathology, Integrative Oncological Pathology, Nippon Medical School) : Immunocytochemical study of matrix metalloproteinase 9 (MMP-9) in mesothelioma cells and reactive mesothelial cells. Korea-Japan Joint Meeting for Diagnostic Cytopathology (10th) (Buyeo, Korea), 2011. 11.
  - 11) 関 邦彦<sup>1)</sup>, 田中さゆり<sup>2)</sup>, 丹野正隆, 早川欽哉<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> JR 東京総合病院 臨床検査科, <sup>2)</sup> 結核予防会十字病院 検査科, <sup>3)</sup> 大東文化大学スポーツ・健康科学部) : CNB にて葉状腫瘍と鑑別が困難な, 乳腺結節性筋膜炎の 1 例. 日本交通医学会総会 (第 65 回) (東京), 2011. 6.
  - 12) 中澤和久<sup>1, 2)</sup>, 鈴木園子<sup>1)</sup>, 茂野雅子<sup>1)</sup>, 中島利恵子<sup>2)</sup>, 木村雅巳<sup>1, 2)</sup>, 深井光一郎<sup>1)</sup>, 関 邦彦<sup>1)</sup>, 丹野正隆, 早川欽哉<sup>1, 3)</sup> ( <sup>1)</sup> JR 東京総合病院 臨床検査科病理, <sup>2)</sup> JR 東京総合病院 一般検査, <sup>3)</sup> 大東文化大学スポーツ・健康科学部) : 当院における NMP22 と細胞診の成績について. 日本交通医学会総会 (第 65 回) (東京), 2011. 6.
- (6) 症例報告 :
- 1) 関 邦彦<sup>1)</sup>, 丹野正隆, 早川欽哉<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> JR 東京総合病院 臨床検査科, <sup>2)</sup> 大東文化大学スポーツ・健康科学部) : CNB にて葉状腫瘍と鑑別が困難であった, 乳腺結節性筋膜炎の 1 例. 日本臨床検査医学会 (第 58 回) (岡山), 2011. 11.

## [多摩永山病院中央検査室]

### 研究概要

当検査室における主な研究目的は, 臨床検査学の進歩のなかで, 新しい検査法および検査技術を検討するとともに臨床への応用と意義を考察し, 新検査法の実現を追っている. また, 日常の臨床検査全体の精度管理, 検査方法および迅速測定を実施し, 各種の検査における臨床との関連を見つつ, 質の向上と検査測定法の確立を目指している.

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著 :

- 1) Ishinokami S<sup>1)</sup>, Nemoto K<sup>1)</sup>, Ninomiya N<sup>1)</sup>, Kuno M<sup>1)</sup>, Kubota M, Suzuki K<sup>1)</sup>, Yokota H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Emergency and Critical Care Medicine) : Effects of simultaneous treatment with PMX-DHP and sivelestat on endotoxaemia in conscious guinea pigs. 日本救急医学会雑誌 2012 ; 23 (1) : 12-20.

#### 学会発表

(1) パネルディスカッション :

- 1) 島崎麻衣, 井上 淳, 作間俊介, 佐藤知枝, 池野廣幸, 吉田 寛 : リブリア H-FABP の基礎的検討. 日本医学検査学会 (第 60 回) (東京), 2011. 6.
- 2) 島崎麻衣, 井上 淳, 作間俊介, 池野廣幸, 平田知己 : ラテックス凝集法を用いたヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白測定試薬の検討. 日本医科大学医学会総会 (第 79 回) (東京), 2011. 9.

- 3) 久野将宗<sup>1)</sup>, 金子純也<sup>1)</sup>, 苜原隆之<sup>1)</sup>, 小柳正雄<sup>1)</sup>, 桑本健太郎<sup>1)</sup>, 諸江雄太<sup>1)</sup>, 石之神小織<sup>1)</sup>, 二宮宣文<sup>1)</sup>, 久保田稔<sup>(1)</sup> 救急医学教室) : 低体温療法時代の院外心肺停止例に対する当施設での治療成績. 集中治療医学会 (第30回) (千葉), 2012. 3.
- (2) セミナー :
- 1) 久保田稔 : ABR・EEG (小児救急における脳死患者の対応セミナー). 日本小児救急医学会学術集会 (第25回), 2011. 6.
  - 2) 久保田稔 : 法的脳死判定時の脳波測定. 香川県臓器移植ワーキンググループ会議 (第32回), 2011. 8.
  - 3) 久保田稔 : 脳波・ABRについて (第1回JOTCo・都道府県Co・院内Co・組織移植Co・アイバンクCo合同セミナー). 日本組織移植学会 (東京), 2011. 11.
  - 4) 久保田稔 : ABR・EEG (2011年救急医療における脳死患者対応セミナー). 日本臓器移植ネットワーク本部 (神奈川), 2011. 11.
  - 5) 久保田稔 : 法的脳死判定の脳波測定の知識 (第1回明日から役立つ脳死下臓器提供勉強会). 日本臓器移植ネットワーク中日本支部 (愛知), 2011. 7.
  - 6) 久保田稔 : 小児の法的脳死判定の実際 (第1回明日から役立つ脳死下臓器提供勉強会). 日本臓器移植ネットワーク中日本支部 (愛知), 2011. 7.
  - 7) 久保田稔 : 脳死下臓器提供における職種別の役割 (2011年救急医療における脳死患者対応セミナー). 日本臓器移植ネットワーク本部 (神奈川), 2011. 11.
- (3) 一般講演 :
- 1) 久野将宗<sup>1)</sup>, 久保田稔, 苜原隆之<sup>1)</sup>, 桑本健太郎<sup>1)</sup>, 諸江雄太<sup>1)</sup>, 二宮宣文<sup>1)</sup> (1) 救急医学教室) : 平坦脳波から意識回復した蘇生後脳症の2症例. 集中治療医学会関東甲信越地方会 (第20回) (東京), 2011. 7.

## [多摩永山病院薬剤部]

### 研究概要

現在、薬剤師のチーム医療への参加さらにその充実が求められている。今回の診療報酬改正においても、薬剤師がチーム医療の一員として施設基準等もりこまれており、ますますその有用性が認められ、チーム医療の一員として責任が大きくなってきた。このような状況の中、当薬剤部は、感染における抗菌剤の適正使用などについて発表し、また感染チームの一員として研究発表も行った。また糖尿病に関して当薬剤部の取り組みなどチーム医療を目指し発表した。今後、薬剤師がチーム医療への積極的な参加し医薬品の適正使用などを通して患者さまの安全性の確保、QOLの向上に、薬物治療の専門家として薬剤師職能を充分発揮できるよう努力したいと考えている。

### 研究業績

#### 著書

- 1) 亀山明美<sup>1)</sup> (1) 薬剤部) : GLP1 受容体作動薬の特徴は？. 東京都病院薬剤師会雑誌, 2011 ; pp186-186. 東京都病院薬剤師会.

#### 学会発表

##### [追加分]

##### 追加分シンポジウム :

- 1) 亀山明美<sup>1)</sup>, 杉原加寿子<sup>1)</sup>, 加藤浩子<sup>1)</sup>, 菅谷量俊<sup>1)</sup>, 村田和也<sup>1)</sup> (1) 薬剤部) : 糖尿病患者に対する薬剤部の取り組み. 関東私立医科大学薬剤部研究会 (第104回) (東京), 2011. 2.

(1) シンポジウム：

- 1) 亀山明美<sup>1)</sup> (1) 薬剤部)：血糖変動の激しい1型糖尿病の1例：薬剤師の立場から．第7回南多摩糖尿病教育研究会(東京)，2011. 5.

(2) 一般講演：

- 1) 菅谷量俊<sup>1)</sup>，田杭直哉<sup>1)</sup>，近藤匡慶<sup>1)</sup>，村田和也<sup>1)</sup> (1) 薬剤部)：救命救急センターにおけるMRSAアクティブサーベイランスの有用性．医療薬学フォーラムクリニカルファーマシーシンポジウム(第19回)(北海道)，2011. 7.
- 2) 菅谷量俊<sup>1,2)</sup>，成定朋美<sup>1,3)</sup>，丸山 弘<sup>1,4)</sup> (1) 多摩永山病院 ICT，2) 薬剤部，3) 中央検査部，4) 外科)：救命救急センターにおけるアクティブサーベイランスによるMRSA感染制御への有用性．日本医科大学医学会総会(第79回)(東京)，2011. 9.
- 3) 丸山 弘<sup>1)</sup>，菅谷量俊<sup>2)</sup>，城戸竜一<sup>3)</sup>，関根 愛<sup>3)</sup> (1) 外科，2) 薬剤部，3) 看護部)：カルバペネム系抗菌薬適正使用の効果．日本環境感染学会総会(第27回)(福岡)，2012. 2.
- 4) 杉原加寿子<sup>1)</sup>，亀山明美<sup>1)</sup>，菅谷量俊<sup>1)</sup>，村田和也<sup>1)</sup> (1) 薬剤部)：高齢者糖尿病患者に対する療養指導：シダグリプチンと持効型インスリン併用療法の1例．日本薬学会第132年会(北海道)，2012. 3.
- 5) 近藤匡慶<sup>1)</sup>，田杭直哉<sup>1)</sup>，菅谷量俊<sup>1)</sup>，大野恵子<sup>2)</sup>，岸野史志<sup>2)</sup>，村田和也<sup>1)</sup> (1) 薬剤部，2) 明治薬科大学)：適正使用に向けた抗菌薬使用量と主要臨床分離菌の薬剤感受性に関する検討．日本医療薬学会年会(第21回)(兵庫)，2011. 10.

## [多摩永山病院看護部]

### 研究概要

今年度は、9演題で日本救急看護学会学術集会，日本脳神経外科救急学会，日本救急医学会関東地方会，日本緩和医療学会学術大会，日本感染看護学会学術集会，日本看護学会の成人看護Ⅰ・Ⅱ(合同)，老年看護，東京都看護協会で発表が行われた。1. 東日本大震災で建物の駐車場スロープが倒壊し車に閉じ込められた要救助者へ，瓦礫の下の医療を実施した事例を通し他職種との連携の重要性が明らかになった。2. 初療での緊急穿頭術に携わる看護師が抱く不安についてアンケート調査を行った。3. 救命救急センターにおける挿管チューブの自己抜去要因を，過去2年間の自己抜去症例41名より統計学的に分析を行った。4. 全看護職員317名に緩和ケアに関する意識調査を実施。75%が緩和ケアとは診断の時から行うものと認識，53%ががん患者との対応に苦痛を感じていた。5. ノロウイルス感染者の状況と実施した検査・対策・排菌期間を後ろ向きに調査。その結果，環境管理と初期対応の重要性が再認識された。6. がん看護・緩和ケアの研修評価の調査を行い，96%の研修生が研修内容を実践に活用しており，内容上位は医療用麻薬の使用法，疼痛コントロールにおける看護師の役割，心のケアであった。7. 高齢者へ両下肢の清拭に蜂蜜を使用した群と温タオル清拭のみの群に分けて実施し，水分値・油分値を調査した結果，蜂蜜塗布後の温タオル清拭直後～1時間で保湿効果があった。8. リハビリテーションカンファレンスを患者・看護師・理学療法士間で実施。その際「元気になるシート」を用いADL評価を行うことで，ADL段階とリハビリ目標の共有を図るのに有効であった。9. 意識障害患者のストレスを，病室と勤務室の異なる環境下において唾液アミラーゼ活性値の変動で調査したが有意差はなかった。

### 研究業績

#### 論文

(1) 解説：

- 1) 石ヶ森重之，上川智彦<sup>1)</sup> (1) 山梨県立中央病院救命救急センター)：動ける！防げる！想定外の急変への対応：排泄中の急変(排尿時)：排尿中に意識消失．ナーシング 2011；31(11)：28-37.

- 2) 石ヶ森重之：重症患者を見逃さない！緊急度の高い病態を想定できる知識を身につける：外傷初療：2 外傷初療の基礎知識：環境調整や精神的援助が不可欠。救急看護&トリアージ 2011；1 (2)：2-7.
- 3) 山本裕之：実践に活かす急変対応トレーニング：窒息。看護技術 2012；58 (1)：57-63.
- 4) 前田省悟，山本裕之：東日本大震災の経験を共有する：8 避難所巡回での実践：③医療ニーズの把握と精神的援助。看護技術 2011；57 (12)：97-102.
- 5) 前田省悟：中毒患者への対応と適切な処置：(第2部) 精神疾患との関係を考慮する中毒：薬理作用から理解する：非麻薬性鎮痛薬中毒症 (依存症)。救急看護&トリアージ 2011；1 (5)：49-53.
- 6) 兼重久美子：事例に学ぶ患者教育：乳がん患者の場合：若年化する乳がん患者のフォローは複雑で微妙に。看護ジャーナル 2011；1 (1)：50-55.
- 7) 甲斐明美：不安解消！エキスパートナースに聞く食事援助の根拠とコツ：2 こんなときどうしたらいいの？食事援助で困った場面：7 摂食ペースが速い場合。リハビリナース 2011；4 (5)：476-477.
- 8) 高仲雅子：レスキュー・ドーズから読み解く疼痛マネジメント～患者の体験に焦点をあてて～：セルフコントロールと自己効力感。がん看護 2011；16 (7)：737-741.
- 9) 山本裕之：実践に活かす急変対応トレーニング：2 心筋梗塞による心停止。看護技術 2012；58 (2)：153-158.
- 10) 前田省悟：実践に活かす急変対応トレーニング：3 心原性ショック。看護技術 2012；58 (3)：235-240.
- 11) 松村佳世子，渡邊 成<sup>1)</sup> (1) 川口市立医療センター内科)：研究成果を100%伝えるためのプレゼンテーションスキルアップ講座：Vol.3 演題名のつけ方と抄録の書き方，ふさわしい共同演者とは。看護展望 2012；37 (4)：60-64.

## 学会発表

### (1) シンポジウム：

- 1) 久野将宗<sup>1)</sup>，杉原秀人<sup>2)</sup>，丸山 弘<sup>3)</sup>，関根 愛，城戸竜一<sup>4)</sup>，二宮宣文<sup>1)</sup>，石之神小織<sup>1)</sup>，小柳正雄<sup>1)</sup>，桑本健太郎<sup>1)</sup>，諸江雄太<sup>1)</sup>，稲垣栄次<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター，2) 日本医科大学多摩永山病院中央検査室，3) 日本医科大学多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科，4) 日本医科大学多摩永山病院医療安全管理部)：当救命救急センターの院内感染対策に対する取り組みとその効果。日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第14回) (北海道)，2011. 6.

### (2) ポスター：

- 1) 高仲雅子，布施谷綾子，小谷英太郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院内科，循環器内科)：大学病院に勤務する看護師の緩和ケアの意識と今後の課題。日本緩和医療学会学術大会 (第16回) (北海道)，2011. 7.
- 2) 天野麻古，上妻麻美，渡辺めぐみ，金沢麻希：患者・看護師・理学療法士間におけるADL・リハビリ目標シート共有活用の有効性：「元気になろうシート」を活用して。平成23年度東京都看護協会看護研究学会 (東京都)，2011. 11.

### (3) 一般講演：

- 1) 今井圭司，武見和基，鈴木健介<sup>1)</sup>，前田省悟，山本裕之，石ヶ森重之 (1) 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター)：CSMにおける看護師の役割：互際外部で活動した事例を検討。日本救急看護学会 (第13回) (兵庫県)，2011. 10.
- 2) 安達勝哉，武見和基，今井圭司，前田省悟，山本裕之，石ヶ森重之：ERにおける緊急穿頭術の円滑な準備・介助に向けた活動：初療看護師に対するDVDを用いた教育の導入。日本脳神経外科救急学会 (第17回) (東京都)，2012. 1.
- 3) 石ヶ森重之，小菅亜沙子，濱田靖子：救命救急センターにおける挿管チューブ自己抜去の要因分析。日本救急医学会関東地方会 (第62回) (東京都)，2012. 2.
- 4) 関根 愛，緋田雅美：ノロウイルスアウトブレイクの発生とその対応。日本感染看護学会学術集会 (第11回)

(東京都), 2011. 8.

- 5) 高仲雅子, 小谷英太郎<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院内科, 循環器内科): A 病院の院内がん看護・緩和ケア研修の評価: 看護師への院内意識調査より. 日本看護学会学術集会成人看護 I・II (合同) (第 42 回) (大阪府), 2011. 9.
- 6) 永見祐二, 柴田直秀, 高木由希子, 冨澤ゆかり: 高齢者の皮膚乾燥に対する蜂蜜を使った清潔ケアの検証. 日本看護学会学術集会老年看護 (第 42 回) (埼玉県), 2011. 7.
- 7) 三浦幸胤, 渡部愛弓, 小金澤幸子: 意識障害患者を対象とした環境変化における唾液アミラーゼ活性値の変動. 平成 23 年度東京都看護協会多摩南地区支部看護研究発表会 (東京都), 2012. 2.
- 8) 諸江雄太<sup>1)</sup>, 松村佳世子, 稲垣栄次<sup>1)</sup>, 原 俊輔<sup>1)</sup>, 小柳正雄<sup>1)</sup>, 石之神小織<sup>1)</sup>, 桑本健太郎<sup>1)</sup>, 久野将宗<sup>1)</sup>, 佐藤格夫<sup>1)</sup>, 二宮宣文<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学多摩永山病院救命救急センター): 16 年前に置換した腹部人工血管の感染による敗血症を, VAC 療法で保存的に治療した 1 例. 日本臨床救急医学会総会・学術集会 (第 14 回) (北海道), 2011. 6.
- 9) 松澤亜有美<sup>1)</sup>, 笹沼和智<sup>1)</sup>, 山本拓也<sup>1)</sup>, 野崎志津<sup>1)</sup>, 濱口雄慈<sup>1)</sup>, 上森真理子<sup>1)</sup>, 奥山ふみ (1) 日本医科大学多摩永山病院放射線科技師室): 一般病院における小児プレパレーションへの取り組み. 日本放射線技術学会東京部会春季学術大会 (第 65 回) (東京都), 2011. 5.

## 論文

- (1) 原著:

## [多摩永山病院消化器科]

## 研究業績

- (2) Review:

- 1) Takeshi M, Hafeza A<sup>1)</sup> (1) Department of Gastroenterology, Dhaka Medical College, Dhaka, Bangladesh): Observation of upper gastrointestinal diseases and gastric mucosa in Bangladeshi population: comparison with Japanese. Bangladesh Journal of Medicine 2012; 23: 26-34.
- 2) Matsuhisa T, Aftab H: Observation of upper gastrointestinal diseases and gastric mucosa in Bangladeshi population- comparison with Japanese. Bangladesh Journal of Medicine 2012; 23: 26-34.

- (3) レビュー:

- 1) 松久威史: *Helicobacter* 研究の年間レビュー 非胃・十二指腸疾患との関わりはここまで解明された: *Helicobacter* Year Book 2010~2011: *Helicobacter* はここまで解明された. Helicobacter Research 2011; 15 (4): 337-345.

## 学会発表

### [追加分]

追加分一般講演:

- 1) 川上浩平<sup>1, 2)</sup>, 河合 隆<sup>1, 2)</sup>, 鈴木秀和<sup>1, 3)</sup>, 西澤俊宏<sup>1, 4)</sup>, 永原章仁<sup>1, 5)</sup>, 大草敏史<sup>1, 6)</sup>, 伊藤慎芳<sup>1, 7)</sup>, 徳永健吾<sup>1, 8)</sup>, 松久威史<sup>1)</sup>, 水野滋章<sup>1, 9)</sup>, 鈴木雅之<sup>1, 4)</sup>, 加藤俊二<sup>1, 10)</sup>, 峯 徹哉<sup>1, 10)</sup>, 上村直実<sup>1, 10)</sup>, 高橋信一<sup>1, 8)</sup>, その他 1 名 (1) 東京 Hp 研究会, 2) 東京医科大学内視鏡センター, 3) 慶應義塾大学医学部消化器内科, 4) 国立病院機構東京医療センター, 5) 順天堂大学消化器内科, 6) 東京慈恵会医科大学柏病院消化器肝臓内科, 7) 四谷メディカルキューブ, 8) 杏林大学第三内科, 9) 日本大学医学部消化器肝臓内科, 10) その他): 3 剤療法による *Helicobacter pylori* 除菌率の経年変化. 日本ヘリコバクター学会 (第 16 回) (京都), 2010. 6.

- 2) 西澤俊宏<sup>1, 2)</sup>, 鈴木雅之<sup>1, 2)</sup>, 松久威史<sup>1)</sup>, 伊藤慎芳<sup>1, 3)</sup>, 徳永健吾<sup>1, 4)</sup>, 水野滋章<sup>5)</sup>, 鈴木秀和<sup>1, 6)</sup>, 栗原直人<sup>7)</sup>, 永原章仁<sup>1, 8)</sup>, 加藤俊二<sup>1, 9)</sup>, 大草敏史<sup>1, 10)</sup>, 川上浩平<sup>1, 10)</sup>, 河合 隆<sup>1, 10)</sup>, 峯 徹哉<sup>1, 10)</sup>, 榊 信廣<sup>1, 10)</sup>, その他 1名 (1) 東京 Hp 研究会, 2) 国立病院機構東京医療センター, 3) 四谷メディカルキューブ, 4) 杏林大学第三内科, 5) 日本大学医学部消化器肝臓内科, 6) 慶應義塾大学医学部消化器内科, 7) 練馬総合病院外科, 8) 順天堂大学消化器内科, 9) 日本医科大学外科, 10) その他) : *Helicobacter pylori* 除菌治療の自費診療の現状 : 東京都多施設における協同調査の結果から. 日本ヘリコバクター学会 (第 16 回) (京都), 2010. 6.
- 3) 浅岡大介<sup>1, 2)</sup>, 永原章仁<sup>1, 2)</sup>, 伊藤慎芳<sup>1, 3)</sup>, 水野滋章<sup>1, 4)</sup>, 河合 隆<sup>1, 5)</sup>, 川上浩平<sup>1, 5)</sup>, 徳永健吾<sup>1, 6)</sup>, 高橋信一<sup>1, 6)</sup>, 西澤俊宏<sup>1, 7)</sup>, 鈴木雅之<sup>1, 7)</sup>, 榊 信廣<sup>1, 8)</sup>, 峯 徹哉<sup>1, 9)</sup>, 齊藤義正<sup>1, 10)</sup>, 鈴木秀和<sup>1, 10)</sup>, 栗原直人<sup>1, 10)</sup> (1) 東京 Hp 研究会, 2) 順天堂大学消化器内科, 3) 四谷メディカルキューブ, 4) 日本大学医学部消化器肝臓内科, 5) 東京医科大学内視鏡センター, 6) 杏林大学第三内科, 7) 国立病院機構東京医療センター, 8) 東京都保険医療公社荏原病院内科, 9) 東海大学消化器内科, 10) その他) : 東京都内多施設協同調査による *Helicobacter pylori* 二次除菌成績の検討. 日本ヘリコバクター学会 (第 16 回) (京都), 2010. 6.

(1) 特別講演 :

- 1) Matsuhisa T : Endoscopic diagnosis of early gastric cancer. Endoscopic conference in Nay Pyi Daw (Nay Piy Daw, Myanmar), 2012. 1.
- 2) 松久威史 : アジアにおける *H. pylori* 感染. 鹿児島消化管治療研究会 (第 23 回) (鹿児島), 2011. 10.

(2) 教育講演 :

- 1) 松久威史 : なんでも答えます ! 東京 *Helicobacter* 学校. 東京 *Helicobacter* カンファレンス (第 13 回) (東京), 2012. 2.

(3) シンポジウム :

- 1) 徳永健吾<sup>1, 2)</sup>, 伊藤慎芳<sup>1, 3)</sup>, 松久威史<sup>1)</sup>, 水野滋章<sup>4)</sup>, 浅岡大介<sup>1, 5)</sup>, 永原章仁<sup>1, 5)</sup>, 鈴木秀和<sup>1, 6)</sup>, 竹内義明<sup>1, 7)</sup>, 加藤俊二<sup>1, 8)</sup>, 栗原直人<sup>1, 9)</sup>, 鈴木雅之<sup>1, 10)</sup>, 西澤俊宏<sup>1, 10)</sup>, 鳥居 明<sup>1, 10)</sup>, 川上浩平<sup>1, 10)</sup>, 河合 隆<sup>1, 10)</sup>, その他 4名 (1) 東京 Hp 研究会, 2) 杏林大学第三内科, 3) 四谷メディカルキューブ, 4) 日本大学医学部消化器肝臓内科, 5) 順天堂大学消化器内科, 6) 慶應義塾大学医学部消化器内科, 7) 昭和大学第二内科, 8) 日本医科大学外科, 9) 練馬総合病院外科, 10) その他) : キノロンを用いた 3 次除菌療法 : 東京都内多施設検討 (3 次除菌の現状と展望). 日本ヘリコバクター学会 (第 17 回) (富山), 2011. 6.

(4) 一般講演 :

- 1) Matsuhisa T, Tsukui T : Study of the relationship between refluxed bile acid into the stomach and gastric mucosal atrophy. Digestive Disease Week 2011 (Chicago, USA), 2011. 5.
- 2) Matsuhisa T, Yamada N<sup>1)</sup>, Hafeza A<sup>2)</sup> (1) Department of pathology, 2) Department of Gastroenterology, Dhaka Medical College, Bangladesh) : Comparative study of gastric mucosa between high frequent and low frequent country of gastric cancer : Japan and Bangladesh. Digestive Disease Week 2011 (Chicago, USA), 2011. 5.
- 3) Matsuhisa T : Comparison of Burmese and Bangladeshi gastric mucosa with Japanese gastric mucosa. The 3rd Meeting of Asian *Helicobacter* Study Group-Molecular Epidemiological Studies of *Helicobacter pylori* in Asian Countries (Fukuoka, Japan), 2012. 2.
- 4) 松久威史, 津久井拓 : 胃内逆流胆汁酸と萎縮, 腸上皮化生の関連性について. 日本消化器病学会総会 (第 97 回) (東京), 2011. 5.
- 5) 松久威史, 重田明子<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>2)</sup> (1) 重田胃腸科クリニック, 2) 日本医科大学病理学) : ミャンマーの二都市 (ヤンゴン, ネーピードー) における *Helicobacter pylori* 感染, 背景胃粘膜の観察. 日本ヘリコバクター学会 (第 17 回) (富山), 2011. 6.

- 6) 松久威史, 松倉則夫<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学外科) : 胃潰瘍と性差 : タイ人と日本人における背景胃粘膜の比較. 日本ヘリコバクター学会 (第17回) (富山), 2011. 6.
- 7) 浅岡大介<sup>1,2)</sup>, 永原章仁<sup>1,2)</sup>, 伊藤慎芳<sup>1,3)</sup>, 水野滋章<sup>4)</sup>, 川上浩平<sup>1,5)</sup>, 河合 隆<sup>1,5)</sup>, 徳永健吾<sup>1,6)</sup>, 高橋信一<sup>1,6)</sup>, 西澤俊宏<sup>1,7)</sup>, 鈴木雅之<sup>1,7)</sup>, 鈴木秀和<sup>1,8)</sup>, 榊 信廣<sup>1,9)</sup>, 大草敏史<sup>1,10)</sup>, 栗原直人<sup>1,10)</sup>, 松久威史<sup>1)</sup>, その他1名 (1) 東京 Hp 研究会, 2) 順天堂大学消化器内科, 3) 四谷メディカルキューブ, 4) 日本大学医学部消化器肝臓内科, 5) 東京医科大学内視鏡センター, 6) 杏林大学第三内科, 7) 国立病院機構東京医療センター, 8) 慶應義塾大学医学部消化器内科, 9) 東京都立府中療育センター, 10) その他) : 東京都内多施設共同調査による *Helicobacter pylori* 2次除菌成績の検討. 日本ヘリコバクター学会 (第17回) (富山), 2011. 6.
- 8) 川上浩平<sup>1,2)</sup>, 河合 隆<sup>1,2)</sup>, 鈴木秀和<sup>1,3)</sup>, 伊藤慎芳<sup>1,4)</sup>, 徳永健吾<sup>1,5)</sup>, 大草敏史<sup>1,6)</sup>, 鈴木雅之<sup>1,7)</sup>, 西澤俊宏<sup>1,7)</sup>, 松久威史<sup>1)</sup>, 栗原直人<sup>1,8)</sup>, 永原章仁<sup>1,9)</sup>, 浅岡大介<sup>1,9)</sup>, 水野滋章<sup>10)</sup>, 加藤俊二<sup>1,10)</sup>, 峯 徹哉<sup>1,10)</sup>, その他3名 (1) 東京 Hp 研究会, 2) 東京医科大学内視鏡センター, 3) 慶應義塾大学医学部消化器内科, 4) 四谷メディカルキューブ, 5) 杏林大学第三内科, 6) 東京慈恵会医科大学柏病院消化器肝臓内科, 7) 国立病院機構東京医療センター, 8) 練馬総合病院外科, 9) 順天堂大学消化器内科, 10) その他) : 3剤療法による *Helicobacter pylori* 除菌率の経年的推移 : 東京都多施設における共同調査結果から. 日本ヘリコバクター学会 (第17回) (富山), 2011. 6.
- 9) 永原章仁<sup>1,2)</sup>, 水野滋章<sup>3)</sup>, 松久威史<sup>1)</sup>, 徳永健吾<sup>1,4)</sup>, 伊藤慎芳<sup>1,5)</sup>, 鈴木雅之<sup>1,6)</sup>, 浅岡大介<sup>1,7)</sup>, 鈴木秀和<sup>1,8)</sup>, 西澤俊宏<sup>1,6)</sup>, 栗原直人<sup>1,9)</sup>, 加藤俊二<sup>1,10)</sup>, 竹内義明<sup>10)</sup>, 鳥居 明<sup>10)</sup>, 大草敏史<sup>1,10)</sup>, 峯 徹哉<sup>1,10)</sup>, その他3名 (1) 東京 Hp 研究会, 2) 順天堂大学消化器内科, 3) 日本大学医学部消化器肝臓内科, 4) 杏林大学第三内科, 5) 四谷メディカルキューブ, 6) 国立病院機構東京医療センター, 7) 順天堂大学消化器内科, 8) 慶應義塾大学医学部消化器内科, 9) 練馬総合病院外科, 10) その他) : 除菌後10年以上経過後に診断された胃癌例の検討—東京都内多施設共同調査—. 日本ヘリコバクター学会 (第17回) (富山), 2011. 6.
- 10) 内田智久<sup>1)</sup>, Nguyen-Tung L<sup>1)</sup>, 塚本善之<sup>1)</sup>, Trinh-Dung T<sup>2)</sup>, Ta L<sup>2)</sup>, Ho-Quy DD<sup>3)</sup>, Hoang-Hai H<sup>3)</sup>, 松久威史, 沖本忠義<sup>4)</sup>, 児玉雅明<sup>4)</sup>, 村上和成<sup>4)</sup>, 藤岡利生<sup>4)</sup>, 山岡吉生<sup>5)</sup>, 守山正胤<sup>1)</sup> (1) 大分大学医学部分子病理学, 2) 108 Hospital, Hanoi, Vietnam, 3) Cho Ray Hospital, Ho Chi Minh, Vietnam, 4) 大分大学医学部消化器内科, 5) 大分大学医学部環境予防医学) : ベトナムにおける *Helicobacter pylori* 感染と胃十二指腸疾患の解明. 日本ヘリコバクター学会 (第17回) (富山), 2011. 6.
- 11) 松久威史, 重田明子<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>2)</sup> (1) 重田胃腸科外科クリニック, 2) 日本医科大学病理学) : ミャンマーの二都市 (ヤンゴン, ネーピードー) における *Helicobacter pylori* 感染, 背景胃粘膜の比較. 日本消化器病学会大会 (第53回) (福岡), 2011. 10.
- 12) 松久威史, 津久井拓 : 胃内逆流トリプシンと萎縮の関連性について. 日本消化器内視鏡学会総会 (第82回) (福岡), 2011. 10.
- 13) 松久威史, 津久井拓 : 胃内逆流トリプシンの胃粘膜への影響. 日本消化管学会学術集会 (第8回) (仙台), 2012. 2.
- 14) Hafeza A<sup>1)</sup>, Matsuhisa T, Faruque A<sup>1)</sup>, Mian-Ahmed M<sup>1)</sup>, Mahmud H<sup>2)</sup>, Akazad K<sup>3)</sup> (1) Department of Gastroenterology, Dhaka Medical College, Dhaka, Bangladesh, 2) Bagabandhu Shiekh Mujib Medical University, Dhaka, Bangladesh, 3) BIRDEM Hospital, Dhaka, Bangladesh) : Topography of chronic active gastritis among *Helicobacter pylori* positive patients in Bangladesh. 2011 Gastrointestinal Oncology Conference (Virginia, USA), 2011. 9.
- 15) Hafeza A<sup>1)</sup>, Matsuhisa T, Faruque A<sup>1)</sup>, Mian-Ahmed M<sup>1)</sup>, Mahmud H<sup>2)</sup>, Akazad K<sup>3)</sup> (1) Department of Gastroenterology, Dhaka Medical College, Dhaka, Bangladesh, 2) Bagabandhu Shiekh Mujib Medical University, Dhaka, Bangladesh, 3) BIRDEM Hospital, Dhaka, Bangladesh) : Topography of chronic active gastritis among *Helicobacter pylori* positive patients in Bangladesh. Annual Convention and Scientific Seminar (19th) (Dhaka, Bangladesh), 2012. 2.

## 23. 千葉北総病院付置施設等

### [千葉北総病院集中治療室]

#### 研究概要

開設以来、重症循環器疾患を主体に集中管理を要する内科疾患についての病態、診断、治療に係る研究を継続している。急性冠症候群については、診断ならびに予後推定に係る検査マーカーの評価についての研究を継続している。2009年度からは産学共同研究として心筋梗塞の早期診断に寄与すると期待される冠動脈粥腫破綻に関与する因子(sLOX-1)についての研究、加えてMMP-9の有用性についても研究している。日本循環器学会誌(Circulation Journal)においては、平成23年度最優秀論文賞を受賞した。また急性冠症候群の早期診断マーカーである高感度トロポニンTについての多施設共同研究では、中核施設として解析をすすめている。薬物治験活動として、急性期カテーテル治療における抗血小板薬の治験に参加し、多症例をエントリーした。急性大動脈瘤解離については、大動脈解離にともなう呼吸障害についての研究に加え、大動脈解離に伴う急性腎障害についての研究を始め現在投稿中である。うっ血性心不全に関する多施設共同研究(ATTEND registry)では、全国屈指の症例登録数であった。また心不全患者の急性腎障害が予後に及ぼす影響については、短期予後に加え長期予後との関係についての研究成果を国内外で発表している。さらに、心不全急性期の血液ガス(酸塩基平衡)について臨床像との関係を比較検討し興味ある所見を得た。急性肺血栓塞栓症については、旅行者血栓症を含めた研究を続けている。心停止後に入院した症例に対する低体温療法については、最新の体表冷却装置を用いた治療成績についての研究により、心停止後の神経学的予後改善に係る因子について報告予定である。その他、急性膀胱炎、敗血症、全身性炎症反応症候群、急性肺障害、急性腎不全などについて、薬物療法ならびに急性血液浄化療法を中心に研究を継続している。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Yamamoto M<sup>1)</sup>, Takano M<sup>1)</sup>, Murakami D<sup>1)</sup>, Inami T<sup>1)</sup>, Kobayashi N, Inami S<sup>2)</sup>, Okamatsu K<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Ibuki C<sup>1)</sup>, Hata N, Seino Y<sup>1)</sup>, Jang KI<sup>3)</sup>, Mizuno K<sup>2)</sup> (1) Cardiovascular Center, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, 2) Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine), Nippon Medical School, 3) Cardiology Division, Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School) : The possibility of delayed arterial healing 5 years after implantation of sirolimus-eluting stents : Serial observations by coronary angiography. *Am Heart J* 2011 ; 161 (6) : 1200-1206.
- 2) Kobayashi N, Hata N, Kume N<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>2)</sup>, Inami T<sup>2)</sup>, Yokoyama S, Shinada T, Tomita K, Kaneshige T<sup>3)</sup>, Mizuno K<sup>4)</sup> (1) Department of Cardiovascular Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto University, 2) Cardiovascular Center, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, 3) Diagnostics Division, Shionogi & Co. Ltd., 4) Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine), Nippon Medical School) : Soluble Lectin-Like Oxidized Low-Density Lipoprotein Receptor-1 as an Early Biomarker for ST Elevation Myocardial Infarction : Time-Dependent Comparison With Other Biomarkers. *Circulation J* 2011 ; 75 (6) : 1433-1439.
- 3) Hata N, Shinada T, Kobayashi N, Tomita K, Kitamura M, Nozaki A, Kurihara O, Tokuyama H, Shirakabe A, Yokoyama S, Hara Y<sup>1)</sup>, Matsumoto H<sup>1)</sup>, Mashiko K<sup>1)</sup> (1) Critical Care Medicine, Chiba Hokusoh Hospital) : Severity of cardiovascular disease patients transported by air ambulance. *Air Medical J* 2011 ; 30 (6) : 328-332.

- 4) Kobayashi N, Hata N, Kume N<sup>1)</sup>, Yokoyama S, Shinada T, Tomita K, Kitamura M, Shirakabe A, Inami T<sup>2)</sup>, Yamamoto M<sup>2)</sup>, Seino Y<sup>2)</sup>, Mizuno K<sup>3)</sup> (1) Department of Cardiovascular Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto University, (2) Cardiovascular Center, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, (3) Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine), Nippon Medical School) : Matrix Metalloproteinase-9 for the Earliest Stage Acute Coronary Syndrome : Comparison With High-Sensitivity Troponin T. *Circulation J* 2011 ; 75 (12) : 2853-2861.
- 5) Kobayashi N, Hata N, Kume N<sup>1)</sup>, Shinada T, Tomita K, Shirakabe A, Kitamura M, Nozaki A, Inami T<sup>2)</sup>, Seino Y<sup>2)</sup>, Mizuno K<sup>3)</sup> (1) Department of Cardiovascular Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto University, (2) Cardiovascular Center, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, (3) Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine), Nippon Medical School) : Soluble Lectin-Like Oxidized LDL Receptor-1 and High Sensitivity Troponin T as Diagnostic Biomarkers for Acute Coronary Syndrome. *Circulation J* 2011 ; 75 (12) : 2862-2871.
- 6) Kobayashi N, Hata N, Kume N<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>2)</sup> (1) Department of Cardiovascular Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto University, (2) Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine), Nippon Medical School) : Methodological Considerations for Utilizing Plasma Matrix Metalloproteinase-9 as a Biomarker in Acute Coronary Syndromes : Reply. *Circulation J* 2012 ; 76 (4) : 1045.
- 7) Murakami D<sup>1)</sup>, Negishi K<sup>1)</sup>, Tokuyama H, Kobayashi N, Takano M<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>3)</sup> (1) Cardiovascular Center, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, (2) Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine), Nippon Medical School) : Refractory coronary spastic angina may induce sudden cardiac death even in a young patient under appropriate medication. *Int J Cardiol* 2011 ; 153 (16) : e19-e21.

## 学会発表

### (1) 一般講演 :

- 1) Shirakabe A, Hata N, Yokoyama S, Shinada T, Kobayashi N, Tomita K, Kitamura M, Nozaki A, Asai K<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>1)</sup> (1) Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine)) : Acid-base balance in the emergency setting can predict the prognosis of patients with acute heart failure. *ESC Heart Failure* 2011 (Gothenburg), 2011. 5.
- 2) Kobayashi N<sup>1)</sup>, Shirakabe A<sup>1)</sup>, Kawamata H<sup>2)</sup>, Tokuyama H<sup>1)</sup>, Nozaki A<sup>1)</sup>, Kitamura M<sup>1)</sup>, Tomita K<sup>1)</sup>, Shinada T<sup>1)</sup>, Yokoyama S<sup>1)</sup>, Okada S<sup>2)</sup>, Hata N<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>3)</sup> (1) Intensive Care Unit, Chiba Hokusoh Hospital, (2) Department of Radiology, Chiba Hokusoh Hospital, (3) Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine)) : Percutaneous celiac artery stenting under intravascular ultrasound (IVUS) guidance in patients with acute type B aortic dissection with hepatic malperfusion. *Annual Meeting of the Cardiovascular Intervention and therapeutics (20th)* (Osaka), 2011. 7.
- 3) Kitamura M, Kobayashi N, Tokuyama H, Nozaki A, Tomita K, Shirakabe A, Shinada T, Hata N, Mizuno K<sup>1)</sup> (1) Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine)) : Repeating optical coherence tomography studies in acute thrombosis after primary stenting for ST-segment elevation myocardial infarction. *Annual Meeting of the Cardiovascular Intervention and therapeutics (20th)* (Osaka), 2011. 7.
- 4) Kitamura M, Takayama M<sup>1)</sup>, Amono Y<sup>2)</sup>, Nakamura S<sup>3)</sup>, Takano H<sup>3)</sup>, Asai K<sup>3)</sup>, Hirayama Y<sup>3)</sup>, Hata N, Mizuno K<sup>3)</sup> (1) Department of Cardiology, Sakakibara Heart Institute, (2) Department of Radiology, Nippon

- Medical School, <sup>3)</sup> Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine), Nippon Medical School) : Cardiac Magnetic Resonance Analysis Demonstrates Effectiveness of Cibenzoline for Modest Hypertrophy of the Left Ventricle in Symptomatic Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy. Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (75th) (Yokohama), 2011. 8.
- 5) Inami T<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>1)</sup>, Kurihara O<sup>1)</sup>, Yamamoto M<sup>1)</sup>, Kimata N<sup>1)</sup>, Murai K<sup>1)</sup>, Murakami D<sup>1)</sup>, Takano M<sup>1)</sup>, Ohba T<sup>1)</sup>, Ibuki C<sup>1)</sup>, Hata N, Mizuno K<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> Cardiovascular Center, Chiba Hokusoh Hospital, <sup>2)</sup> Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine)) : Links between Sleep Apnea Syndrome and Aortic Dissection : Differences in Patent False Lumen Type versus Thrombosed Type. Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (75th) (Yokohama), 2011. 8.
- 6) Kobayashi N, Hata N, Kume N<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>2)</sup>, Yokoyama S, Shinada T, Tomita K, Kitamura M, Shirakabe A, Nozaki A, Tokuyama H, Inami T<sup>2)</sup>, Mizuno K<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Cardiovascular Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto University, <sup>2)</sup> Cardiovascular Center, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine), Nippon Medical School) : Matrix Metalloprotease-9 is a Sensitive and Specific Biomarker for Acute Coronary Syndrome at the Earliest Stage : Comparison with Troponin T. Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society (75th) (Yokohama), 2011. 8.
- 7) Kobayashi N<sup>1)</sup>, Hata N<sup>1)</sup>, Seino Y<sup>2)</sup>, Kume N<sup>3)</sup>, Shinada T<sup>1)</sup>, Tomita K<sup>1)</sup>, Kitamura M<sup>1)</sup>, Shirakabe A<sup>4)</sup>, Mizuno K (<sup>1)</sup> Cardiovascular Center, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Cardiovascular Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto University, <sup>3)</sup> Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine), Nippon Medical School) : Matrix Metalloproteinase-9 is a Sensitive and Specific Biomarker for Acute Coronary Syndrome at the Earliest Stage : Comparison with High sensitivity Troponin T. ESC2011 (Paris), 2011. 8.
- 8) 志村徹郎, 小林宣明, 松下誠人, 白壁章宏, 北村光信, 富田和憲, 品田卓郎, 横山真也, 畑 典武 : 冠動脈攣縮 (冠攣縮狭心症) による院外心停止症例の検討. 千葉県重症患者管理研究会 (第10回) (千葉), 2011. 9.
- 9) 泉 佑輔, 白壁章宏, 松下誠人, 北村光信, 富田和憲, 小林宣明, 品田卓郎, 横山真也, 畑 典武 : 運転中に心停止となり交通事故を起こすも適切な Chain of Survival で社会復帰しえた急性心不全の1例. 千葉県重症患者管理研究会 (第10回) (千葉), 2011. 9.
- 10) 白壁章宏, 畑 典武, 品田卓郎, 小林宣明, 富田和憲, 北村光信, 松下誠人, 水野杏一<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> 内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)) : 急性心不全における急性腎障害と長期予後の関係. 日本心臓病学会学術集会 (第59回) (神戸), 2011. 9.
- 11) 北村光信, 畑 典武, 高山忠輝<sup>1)</sup>, 平山篤志<sup>1)</sup>, 小川雅史<sup>2)</sup>, 山科 章<sup>2)</sup>, 米良尚晃<sup>3)</sup>, 吉野秀朗<sup>3)</sup>, 中村文隆<sup>4)</sup>, 清野精彦<sup>5)</sup> (<sup>1)</sup> 日本大学医学部内科学系循環器内科学分野, <sup>2)</sup> 東京医科大学内科学第二講座, <sup>3)</sup> 杏林大学医学部第二内科, <sup>4)</sup> 帝京大学ちば総合医療センター第三内科, <sup>5)</sup> 日本医科大学千葉北総病院循環器病センター) : 初診時トロポニン T 陰性例における高感度トロポニン T 遊出動態と急性心筋梗塞診断 : HsTnT-iNET study. 日本心臓病学会学術集会 (第59回) (神戸), 2011. 9.
- 12) Shirakabe A, Hata N, Shinada T, Kobayashi N, Tomita K, Kitamura M, Matsushita M, Asai K<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine)) : Prognostic Impact of Clinical Scenarios (CS) and Acid-Base Balance in Patients with Acute Heart Failure. 日本心不全学会 (第15回) (鹿児島), 2011. 10.
- 13) Matsushita M, Shirakabe A, Izumi Y, Kitamura M, Tomita K, Kobayashi N, Shinada T, Yokoyama S,

- Hata N, Mizuno K<sup>1)</sup> (1) Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine)) : Relationship between Clinical Findings on Admission and Visiting Time in Patients with Acute Heart Failure. 日本心不全学会 (第15回) (鹿児島), 2011. 10.
- 14) Shirakabe A, Hata N, Shinada T, Kobayashi N, Tomita K, Kitamura M, Matsushita M, Asai K<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>1)</sup> (1) Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine)) : Prognostic Impact After Acute Kidney Injury in Patients with Acute Heart Failure : An evaluation of the RIFLE Criteria. AHA Scientific Session 2011 (Orlando), 2011. 11.
- 15) Kobayashi N, Hata N, Kume N<sup>1)</sup>, Shinada T, Shirakabe A, Kitamura M, Seino Y<sup>2)</sup>, Mizuno K<sup>3)</sup> (1) Department of Cardiovascular Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto University, 2) Cardiovascular Center, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, 3) Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine), Nippon Medical School) : Soluble Lectin-like Oxidized LDL Receptor-1 and High Sensitivity Troponin T as Diagnostic Biomarkers for Acute Coronary Syndrome : Improved Values by Combination Usage in Emergency Rooms. AHA Scientific Session 2011 (Orlando), 2011. 11.
- 16) 畑 典武 : 急性心不全における急性腎障害 (AKI) の臨床的意義. Japan AKI Summit (第3回) (東京), 2011. 11.
- 17) Kobayashi N, Hata N, Takano M<sup>1)</sup>, Kume N<sup>2)</sup>, Yamamoto M<sup>1)</sup>, Shinada T, Seino Y<sup>1)</sup>, Mizuno K<sup>3)</sup> (1) Cardiovascular Center, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, 2) Department of Cardiovascular Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto University, 3) Department of Internal Medicine (Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics, and Integrated Medicine), Nippon Medical School) : Can Biomarker Predict Coronary Plaque Rupture? An Optical Coherence Tomography Study. ESC2011 (Paris), 2011. 8.
- 18) 加納誠士<sup>1)</sup>, 山本真功<sup>1)</sup>, 栗原 理<sup>1)</sup>, 木俣伸恒<sup>1)</sup>, 白壁章宏, 稲見 徹<sup>1)</sup>, 村井綱児<sup>1)</sup>, 村上大介<sup>1)</sup>, 淀川顕司<sup>1)</sup>, 雪吹周生<sup>1)</sup>, 清野精彦<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>2)</sup> (1) 千葉北総病院循環器センター, 2) 内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)) : 治療方針決定に難渋し肺血栓塞栓症を反復発症した外国人旅行男性の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会 (第221回) (東京), 2011. 9.

## [千葉北総病院リハビリテーション科]

### 研究概要

筋電信号記録と電気刺激の2つの機能を同一の表面電極で兼用できる2チャンネルポータブル電気刺激装置を使用し、麻痺筋から記録された筋電積分値に比例して増幅された電気刺激を与えることによって、さらに筋収縮を促すパワーアシスタイプの機能的電気刺激効果を検討している。脳卒中片麻痺患者の麻痺側手根伸筋と総指伸筋において、手関節伸展、手指伸展促通と物品把持移動からなる訓練を施行し、訓練前後での手関節、手指関節の可動域、被験筋のRMS、巧緻性の変化を計測パラメーターとしている。手指関節可動域、手根伸筋のRMS、巧緻動作の改善が認められた。筋電比例式電気刺激は、きめ細かな筋収縮を促通し巧緻動作訓練も可能な利点があり、筋収縮の筋固有感覚が入力刺激となって感覚運動統合の再構築を促す可能性が推察される。また、光トポグラフィーを用いて機能的電気刺激が脳循環に与える影響を検討する。さらに、経頭蓋直流電流刺激による脳機能賦活との併用を新たに検討し、脳機能イメージングを用いて脳への賦活効果を検討する。脳の可塑性を検討する基礎的検討として、124チャンネルの脳磁図を用いて手指、手関節運動時の脳神経活動の局在、運動準備電位との関連を検討する。回復期から慢性期の脳卒中片麻痺患者の麻痺側下肢のうっ血および深部下肢静脈血栓症について調査し、脳梗塞患者のDVT合併頻度、それらの危険因子および血栓予防薬との関係について検討する。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) 原 行弘：神経疾患に対するリハビリテーションの理論と実践. 臨床神経 2011；51 (11)：1063-1065.
- 2) Oh-Nishi A, Obayashi S, Minamimoto T, Nagai Y, Hori Y, Suhara T <sup>(1)</sup> Molecular Imaging center, National Institute of Radiological Sciences)：Preparation of acute living hippocampal slice from common marmoset (*Callithrix jacchus*) for synaptic function analysis. Neuroscience Research 2012；72 (3)：275-278.
- 3) Nagai Y, Minamimoto T, Ando K, Obayashi S, Ito H, Ito N, Suhara T <sup>(1)</sup> Molecular Imaging center, National Institute of Radiological Sciences)：Correlation between decreased motor activity and dopaminergic degeneration in the ventrolateral putamen in monkeys receiving repeated MPTP administrations：A positron emission tomography study. Neuroscience Research 2012；73 (1)：61-67.

#### (2) 総説：

- 1) 原 行弘：多発骨折のリハビリテーション：オーバービュー. 臨床リハ 2012；21 (3)：232-238.
- 2) 原 行弘：物理療法のエビデンスと実践. 電気療法 (神経筋電気刺激・末梢神経). 臨床リハ 2012；21 (2)：167-172.
- 3) 原 行弘：脳梗塞の光トポグラフィー血流検査と電気刺激療法. 日本医事新報 2011；4548：54-55.
- 4) 原 行弘：筋電誘発型機能的電気刺激. 総合リハ 2011；39 (4)：325-331.

#### (3) 症例報告：

- 1) 我妻朋美, 原 行弘, 宗村麻紀子：中心性頸髄損傷に対するパワーアシスト機能的電気刺激療法を用いたリハビリテーション. OT ジャーナル 2011；45 (9)：1080-1086.

### 著書

- 1) 原 行弘：〔分担〕基礎学・運動生理学. 標準リハビリテーション医学 (上田 敏・他), 2012；pp36-42. 医学書院.

### 学会発表

#### (1) 教育講演：

- 1) 原 行弘：NIRS とリハビリテーション. 第 41 回日本臨床神経生理学会学術集会 (静岡), 2011. 11.

#### (2) シンポジウム：

- 1) 原 行弘：神経変性疾患と脳卒中のリハビリ；理論と実践 神経疾患に対するリハビリテーションの理論と実践. 第 52 回日本神経学会学術大会 (名古屋), 2011. 5.

#### (3) 一般講演：

- 1) 小川真司<sup>1)</sup>, 原 行弘, 大林 茂, 辻内和人<sup>2)</sup>, 新井 健<sup>1)</sup>, 川勝真喜<sup>3)</sup> <sup>(1)</sup> 東京歯科大学市川総合病院リハビリテーション科, <sup>(2)</sup> 小林病院リハビリテーション科, <sup>(3)</sup> 東京電機大学情報環境学部情報環境学科)：パワーアシスト機能的電気刺激前後の運動関連磁場の変化. 日本リハビリテーション医学会 (第 48 回) (千葉県千葉市幕張メッセ), 2011. 11.
- 2) Ogawa S, Hara Y, Obayashi S, Tsujiuchi K, Kawakatsu M<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> School of Information Environment, Tokyo Denki University)：The Effect of Therapeutic Electrical Stimulation on Movement Evoked Fields of Magnetoencephalogram. KOREA-JAPAN NeuroRehabilitation Conference (The 1st) (Asan Medical Center, Seoul, Korea), 2012. 3.
- 3) 新井 健<sup>1)</sup>, 小川真司<sup>1)</sup>, 町田正文<sup>3)</sup> <sup>(1)</sup> 東京歯科大学市川総合病院リハビリテーション科, <sup>(2)</sup> 独立行政法人国立病院機構村山医療センター整形外科)：多指伸筋腱皮下断裂例に対する断裂腱中枢部を利用した手術法と早期

- 自動運動. 日本リハビリテーション医学会 (第 48 回) (千葉県千葉市幕張メッセ), 2011. 11.
- 4) Hara Y, Obayashi S, Ogawa S, Muraoka Y<sup>1)</sup> (Waseda University, human science department) : Power-assisted functional electrical stimulation effects on the brain cortical perfusion among strokes. 1st Korea-Japan NeuroRehabilitation Conference (Seoul), 2012. 3.
  - 5) 原 行弘, 大林 茂, 小川真司, 辻内和人, 村岡慶裕<sup>1)</sup> (早稲田大学, 人間科学部) : 機能的電気刺激 (FES) による障害側運動野賦活効果. 第 48 回日本リハビリテーション医学会学術集会 (舞浜), 2011. 11.
  - 6) 大林 茂, 原 行弘 : SPECT と NIRS を併用した脳卒中視床病変に伴う高次脳機能障害回復の評価法の確立. 第 48 回日本リハビリテーション医学会学術集会 (幕張, 千葉), 2011. 11.

## [千葉北総病院病理部]

### 研究概要

地域の中核病院の病理部門として, 病理診断業務に従事するなかで, 現場で培われた技術や着想を原点に研究を行っている. 肉眼から超微細構造までの形態学的観察や, 分子病理学的手法による症例の解析などの研究を, 臨床各科と共同で継続中である. 1: 消化管腫瘍の病因病態解析 (Epstein Barr virus 関連性胃癌, GIST, 大腸癌). 2: 乳腺腫瘍, 特に乳癌の治療関連分子病理学的表現型 (ER, PgR, Her-2) と微小形態学的, 超微形態学的解析. これらの悪性度と臨床的予後との相関について. 3: 泌尿器科領域腫瘍, 特に前立腺癌の微小形態と蛋白発現. 4: 婦人科領域腫瘍, 特に子宮体癌, 卵巣癌の微小形態学的, 免疫組織化学的検討とホルモン療法の効果についての検索. 5: 肺腫瘍. 縦隔腫瘍の原発. 転移ならびに分化に関する迅速免疫組織化学を応用した検討. 6: 脳腫瘍の組織型, 悪性度に関する迅速細胞診. 組織診断学的検討. 7: 病理検査技術におけるホルマリン, 有機溶剤の取り扱いについての基礎衛生学的研究, など. 本年度 3 月からは, 病理医 2 名が加わり, 病理医 3 名, 検査技師 6 名, その他スタッフ 1 名となった. 今後もこれまでの研究の成果を踏まえ, 引き続き部門の特性と個性を生かした研究の推進を目指していく.

### 研究業績

#### 学会発表

##### [追加分]

追加分ワークショップ:

- 1) 清水秀樹, 前田昭太郎<sup>1,2)</sup>, 森 修<sup>3)</sup>, 大秋美治, 内藤善哉<sup>4)</sup> (1) 三菱化学メディエンス病理細胞診センター, 2) 日本医科大学多摩永山病院病理部, 3) 初石病院, 4) 日本医科大学病理学講座) : 脳腫瘍稀少症例の見方と鑑別診断. 日本細胞学会秋期大会 (第 49 回) (兵庫県), 2010. 11.

(1) ワークショップ:

- 1) 清水秀樹, 小黑辰夫, 新井 悟, 森 修<sup>1)</sup>, 澁谷 誠<sup>2)</sup>, 前田昭太郎<sup>3)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup> (1) 初石病院, 2) 日本医科大学病理学講座 (統御機構・腫瘍学), 3) 三菱化学メディエンス病理細胞診センター) : 脳腫瘍, MRI 画像を用いた Targeted sampling における細胞像. 日本臨床細胞学会秋期大会 (第 50 回) (東京都), 2011. 10.
- 2) 清水秀樹 : 細胞診鏡検実習 脳腫瘍の細胞診. 日本臨床細胞学会千葉県支部 (第 2 回研修会) (千葉県), 2012. 1.

(2) 一般講演:

- 1) 島津絢美, 大秋美治, 小黑辰夫, 清水秀樹, 赤坂久美, 三枝順子, 京本晃典, 笹谷昌司 : 子宮頸部粘膜性腺癌 (陽型) の 1 例. 日本臨床細胞学会総会春期大会 (第 52 回) (福岡), 2011. 5.
- 2) 清水秀樹, 大秋美治, 澁谷 誠, 新井 悟, 井内亜美, 小黑辰夫, 森 修<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup> (1) 初石病院, 2) 三菱化学メディエンス病理細胞診センター, 3) 日本医科大学病理学講座) : 脳腫瘍稀少症例における

鑑別診断を目的とした細胞観察. 日本臨床細胞学会総会春期大会 (第 52 回) (福岡), 2011. 5.

## [千葉北総病院中央検査室]

### 研究概要

本年度は院内での電子カルテ導入稼働の年であり, 日常業務の変遷に追われ多岐に渡る膨大な検査対応は職員の結束した意識と各々の責任ある活動により, 心配されたトラブルにも大きな支障は無く今日を迎えている. 本年度の主な成果は 1) 微生物検査分野では MRSA : MDRP 等の耐性菌の動向, 医療器具や医療材料における細菌の発育度および洗浄効果の検討, 2) 輸血検査室では血液製剤使用動向のチェック, 廃血の防止と削減への慎重な対応を厳守, 3) 生理検査分野では睡眠時無呼吸症候群への継続対応および的確な波形を捉える呼吸機能検査のテクニックについて, めまい患者によるうつへの自己評価尺度の有用性を検討, 4) 安全管理を目的とした臨床検査の危機管理ガイドラインの見直しや, 常に安全性の維持と追及の心得を徹底, 5) 管理部門では収支改善と検査における質的向上意識の把握について, 東京都医師会における精度管理委員会活動, 臨床検査技師養成への尽力, 新旧の検査項目に対する日常的な見直し, 6) その他では ICT や院内清浄度チェックへの協力, NST や褥瘡対策活動, 更には成田国際空港クリニックへの支援体制等, 様々な継続課題を含めて慌ただしい活動を行った. また今後も DVT 検査の導入を継続課題として関連分野への協力を重要視して行く予定である. なお当業績記録は例年通り, 筆頭者が中央検査室所属である者のみを掲載した.

### 研究業績

#### 学会発表

##### (1) 一般講演:

- 1) 岡本直人, 野本剛史: 歯科用器具洗浄機 MU-20prototypu の除菌能力についての検討と将来展望. 日本臨床検査自動化学会 (第 43 回大会) (パシフィコ横浜), 2011. 10.
- 2) 町田幸雄: 臨床検査の危機管理: 危機管理ガイドラインについて. 医療安全管理講習会 (第 20 回) (日本医科大学千葉看護専門学校), 2011. 11.
- 3) 亀山雅弥: 呼吸機能検査: 綺麗な波形を得るためのテクニック. 成田呼吸器疾患セミナー (ヒルトン成田ホテル), 2011. 12.
- 4) 岡本直人: 当院における中心静脈カテーテル先端培養結果の考察. 日本静脈経腸栄養学会 (第 27 回) (神戸国際会議場), 2012. 2.
- 5) 岡本直人: MRSA の検出頻度について. 佐倉・北総地区感染症セミナー (第 5 回) (ウインシュトンホテルユウカリ), 2011. 9.
- 6) 海老沢有介, 永井敬子, 岡本直人, 野本剛史, 清野精彦: 当院における緑膿菌の耐性率について. 日本医科大学医学会総会 (第 79 回) (日本医科大学教育棟), 2011. 9.
- 7) 千葉ゆうき, 野本剛史: 睡眠時無呼吸症候群における昼夜血圧変動の検討. 日本医科大学医学会総会 (第 79 回) (日本医科大学教育棟), 2011. 9.
- 8) 吉岡友子, 野本剛史: めまいを主訴として来院した患者と SDS (うつの自己評価尺度) の有用性. 日本医科大学医学会総会 (第 79 回) (i-y 医科大学教育棟), 2011. 9.
- 9) 町田幸雄: 臨床検査室の危機管理. 医療安全教育セミナー (2011 夏季) (東京大学鉄門記念講堂), 2011. 8.
- 10) 野本剛史, 岡本直人: 臨床検査室における収支改善と検査の質的向上意識について. 日本臨床検査自動化学会 (第 43 回大会) (パシフィコ横浜), 2011. 10.

## [千葉北総病院薬剤部]

### 研究概要

前年度末に起った東日本大震災の影響で中止延期になった学会が相次いだ。しかし、ここ数年取り組んでいる感染領域や昨年より開始した薬学実務実習のまとめを発表する機会を得た。また、災害直後でもあり様々な場所で“災害時の薬剤師の任務”等論ずるシンポジウムに数多く招聘される年であった。がん薬物認定薬剤師、抗菌化学療法薬剤師、NST 認定療法士に続き、23年度は救急認定薬剤師も制度化され1名の認定薬剤師が誕生した。

### 研究業績

#### 論文

(1) 総説：

- 1) 浜田康次：糖尿病治療のパラダイムシフト。レシビ 2011；10 (2)：78-80.
- 2) 浜田康次：注射薬・輸液の安全ガイド。月刊ナーシング 2011；31 (4)：1-33.
- 3) 浜田康次：バイオシミラー医薬品。日本病院薬剤師会雑誌 2011；47 (5)：595-595.
- 4) 浜田康次：痛風・高尿酸血症治療薬。レシビ 2011；10 (3)：61-66.
- 5) 浜田康次：ブラウンバッグ運動。日本病院薬剤師会雑誌 2011；47 (8)：959-959.
- 6) 浜田康次：抗菌薬の臓器移行。調剤と情報 2011；17 (12)：37-42.
- 7) 浜田康次：注意すべき薬物相互作用と併用禁忌。救急医学 2011；35 (10)：1148-1151.

#### 著書

[追加分]

追加分：

- 1) 浜田康次<sup>1)</sup> (1) 千葉北総病院薬剤部)：[分担] わかりやすい薬剤情報提供のための：写真付／服薬指導 CD-ROM：2010年9月版第27版，2010；じほう。

#### 学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 星 憲司<sup>1)</sup>，青木空真<sup>1)</sup>，川上準子<sup>1)</sup>，佐藤憲一<sup>1)</sup>，浜田康次<sup>2)</sup> (1) 東北薬科大学，2) 千葉北総病院)：在宅での服薬状況を記録する服薬管理ネットワークシステム。日本医薬品情報学会 (第14回) (東京)，2011. 7.
- 2) 井場一美<sup>1)</sup>，飯田有莉<sup>1)</sup>，星 憲司<sup>1)</sup>，青木空真<sup>1)</sup>，川上準子<sup>1)</sup>，佐藤憲一<sup>1)</sup>，浜田康次<sup>2)</sup> (1) 東北薬科大，2) 千葉北総病院)：多剤処方における副作用重複評価ツールの開発と臨床応用：添付文書・副作用発現頻度情報の不足を補うための受容体結合占有率評価。日本薬学会東北支部大会 (第50回) (仙台)，2011. 10.
- 3) 片山皓希，實川東洋，福田恵子，日野光紀<sup>1)</sup> (1) 千葉北総病院 感染対策委員会)：抗菌薬届出制度導入前後における抗菌薬使用量の変化。日本医療薬学会 (第21回) (神戸)，2011. 10.
- 4) 實川東洋，福田恵子，柳下照子<sup>1)</sup>，若松孝嘉<sup>1)</sup>，日野光紀<sup>2)</sup>，青山隆彦<sup>3)</sup>，松本宣明<sup>3)</sup> (1) 中央検査室，2) 感染対策委員会，3) 日大薬学部臨床薬物動態学)：抗緑膿菌活性を持つβ-ラクタム系抗菌薬の time above MIC に基づく臨床効果の解析。日本医療薬学会 (第21回) (神戸)，2011. 10.
- 5) 渡邊暁洋，福田恵子：超急性期からの医療支援における医薬品管理に必要なものは：東日本大震災からの医療支援薬剤師の立場から。日本集団災害医学会 (第17回) (金沢市)，2012. 2.
- 6) 渡邊暁洋：災害医療への参画と教育。医療薬学フォーラム (第19回) (旭川市)，2011. 7.
- 7) 小山俊平，福田恵子，伊藤義樹，原田香里，大野雅美，渡邊暁洋，實川東洋：6年制教育の実習生を対象とした実務実習の評価。医療薬学フォーラム (第19回) (旭川市)，2011. 7.

## [千葉北総病院放射線センター]

### 研究概要

当部門では診療用画像検査全般を取り扱うことから、それぞれの画像検査についての研究を進めている。一般撮影部門ではCRの画像処理パラメータの条件に関する研究から医療被曝の軽減および画質の向上について各診療科との連携において行っている。MRI検査部門ではRaysumを用いた椎骨脳底動脈における血流および血管外観の3D Fusion Imaging また頸動脈狭窄症に対するdiffusionとVHIVUS, OCTの検討、またSPGRを用いたAVMAVFに対する撮像法の検討を進めている。Angio検査部門ではOCT画像における残存血液が与える影響について検討。RI検査部門ではSPECTにおける心筋に関する検討や循環器系の研究は継続的に進めていて、脳神経系についても行っている。放射線治療部門では放射線治療計画におけるウェッジ使用時の線量分布と放射線治療計画装置による治療計画の精度について検討を行っている。CT検査部門では3次元CTの信頼性の向上についての検討を継続して進めている。

### 研究業績

#### 論文

##### [追加分]

追加分研究報告書：

- 1) 水野正之, 仲田佳広, 高野雅充<sup>1)</sup>, 河原崎昇, 清野精彦<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院循環器内科, <sup>2)</sup> 日本医科大学付属病院循環器内科)：光干渉断層法(OCT)におけるキャリブレーション時のイメージングワイヤー屈曲がもたらす計測誤差の検討. 日本心血管インターベンション治療学会誌 2011; 3 (2) : 120-123.

#### 学会発表

##### (1) 教育講演：

- 1) 加藤丈司：実践！頭部MRI：検査の考え方と進め方. Medical Imaging Forum (第19回) (千葉), 2011. 6.
- 2) 阿部雅志：下肢のMRI画像の解説. 放射線技術学会 東京部会セミナー (第75回) (東京), 2011. 6.
- 3) 阿部雅志：一般撮影とCT, MRIとのfusion. 放射線技術学会 東京部会フォーラム (第166回) (東京), 2011. 10.

##### (2) 一般講演：

- 1) 加藤丈司, 阿部雅志, 永井淳史, 池亀 敏, 宮坂純基, 岡田 進<sup>1)</sup> (放射線科)：転移性脳腫瘍の頭部MRI：通常量投与における撮像条件について. 日本放射線技術学会総会学術大会 (第67回) (東京), 2011. 4.
- 2) 上田 司, 加藤丈司, 池亀 敏, 永井淳史, 阿部雅志, 河原崎昇：腰椎領域における拡散強調画像の至適b-valueの検討. フレッシュマンズフォーラム (東京), 2011. 5.
- 3) 阿部雅志, 池亀 敏, 富田尚樹, 加藤丈司, 河原崎昇, 小南修史<sup>1)</sup>, 小林士朗<sup>1)</sup> (千葉北総病院 脳神経外科)：血栓化動脈瘤に対するfusionの有用性. 日本脳神経血管内治療学会 学術総会 (第27回) (千葉), 2011. 11.
- 4) 阿部雅志, 池亀 敏, 富田尚樹, 加藤丈司, 河原崎昇, 小南修史<sup>1)</sup>, 小林士朗<sup>1)</sup> (千葉北総病院脳神経外科)：MRI検査に対する当院教育プログラムと認定制度. 日本脳神経外科学会学術総会 (第70回) (神奈川), 2011. 10.

## [千葉北総病院看護部]

### 研究概要

本年度の院内の研究発表は、10演題であった。発表内容は臨床における患者への看護を探究したものであり、看護実践の場でより安全・安楽を目指す研究内容であった。また、脳神経センターでの看護研究は毎年定期的に実践され

ており、学会発表も積極的になされている。9)～10)は、四病院看護継続教育において一年間受講し、その成果として四病院と院内で看護研究発表を行った。これらの研究は、来年度の学会発表や論文提出などへの準備を勧めている。

<テーマ>

- 1) うつ病患者の記録から不安・睡眠に関する調査～効果的な看護を行うために観察内容の整理と見直しをする～
- 2) 終末中期にある呼吸器疾患患者の家族に対する看護師の思いを知る
- 3) 混合病棟における白血病患者の看護ケアの検討～感染予防の視点から～
- 4) 集中治療室における気管挿管患者の口腔内状況の実態調査
- 5) 救命救急センターに就職した卒後2年目看護師の自信に繋がるまでの気持ちの変化～新人教育終了した4月から2月までの2年目を卒業する時期までを追う～
- 6) 参加型母親学級導入後の評価と課題
- 7) 経鼻・経口挿管における合併症の比較検討
- 8) 2交代夜勤の効果的な仮眠のとり方～入眠を促すいくつかの方法を実践してみて～
- 9) 緊急内視鏡検査介助におけるDVD学習方法の検討～自己学習と集合学習との学習効果の比較～
- 10) 千葉県共用脳卒中地域医療連携バスが適用となった家族への看護の取り組み

院外研究は21演題が行われた。毎年多くの看護研究が学会発表されており、今年度も認定看護師が他の看護師を支援しながら、看護研究に取り組んでいた。これらの看護研究発表は継続的に行っており、各学会に共同研究者として積極的な参加をしていた。

## 研究業績

### 著書

- 1) 渡辺光子：〔分担〕特集いま被災地で起こっている医療問題 褥瘡予防とスキンケア上の問題。エキスパートナース Vol.27 NO.9 (森紀子)，2011；pp66-69, 照林社。
- 2) 渡辺光子：〔分担〕気仙沼巡回療養支援隊での活動報告。ルポ・そのとき看護は ナース発東日本大震災レポート (日本看護協会出版会編集部)，2011；pp591-595, 日本看護協会出版会。
- 3) 青山晋作，太田充美：〔分担〕記録時間短縮と安全管理を考えた記録の充実。実践安全手術看護 (日総研)，2012；pp51-56, 日総研。
- 4) 白石恵美：〔分担〕救急外来の看護師が困難と感じるメンタルヘルス科患者への対応。日本救急医学会関東地方会雑誌，2011；pp24-25, 日本救急医学会関東地方会。

### 学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 大森章代：看護の魅力再発見。日本看護学会 (第42回)，2011. 9。

(2) 一般講演：

- 1) 大木文子，増渕美恵子，石井龍子，水野雅子：新たな新人職員指導体制の試み (第二報)：グループ指導制において新人指導を担当する実地指導者の負担感。日本看護学会 (第42回) 看護管理，2011. 10。
- 2) 神武彩子，水野雅子：混合病棟における白血病患者の看護ケアの検討—感染予防への視点から—。日本小児がん看護学会 (第9回)，2011. 11。
- 3) 高野晃子，藤岡久恵，菊地真由美，山下直子：CAG・PCIクリニカルパス改訂に向けた検討 第1報—患者教育の機会とするための患者背景調査—。千葉県看護研究学会 (第30回)，2012. 2。
- 4) 栗田亜実，阿部聡子，小泉はるか：外科系混合病棟の看護師が考える転倒要因と実際の要因の比較。千葉県看護研究学会 (第30回)，2012. 2。
- 5) 高山寛子：ストーマ告知を受けた患者が手術を受けるために心の準備として必要な看護介入の検討：ストーマ造

- 設を外来で説明された患者と入院中に説明された患者との比較. 千葉県看護研究学会 (第 30 回), 2012. 2.
- 6) 上村友紀: 乳がん看護の基本: 術後のケア. BCN 研究会 (第 15 回), 2011. 10.
  - 7) 若林ひとみ: 経鼻, 経口挿管における合併症の比較検討. 日本意識障害学会 (第 20 回), 2011. 9.
  - 8) 内田恵美: 経鼻, 経口挿管患者管理における肺炎合併症の比較検討. 日本脳神経外科学会学術総会 (第 70 回), 2011. 10.
  - 9) 有泉楽子: 当脳神経センターにおける脳卒中後うつ状態患者に対する脳卒中リハビリ認定看護師の取り組み. 日本脳神経外科学会学術総会 (第 70 回), 2011. 10.
  - 10) 横山千鶴, 倉本雅男, 渡辺光子: 便失禁管理システムによる肛門粘膜損傷に対する失禁用専用綿の有用性. 日本創傷・オストミー・失禁管理学会 (第 20 回), 2011. 5.
  - 11) 始関千加子: 集中治療室における終末期看護実践から明らかになった看護師の認識. 東京女子医科大学看護学会 (第 7 回), 2011. 10.
  - 12) 岡崎智子, 林あづさ, 鈴木千賀子, 坂田真純, 岩橋美奈子, 小川和泉<sup>1)</sup>, 江本直也<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院 栄養科, (2) 日本医科大学千葉北総病院 内分泌内科): 地域医療連携基幹病院の糖尿病外来における医療資源配分の定量的分析. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第 54 回), 2011. 5.
  - 13) 鈴木千賀子, 岩橋美奈子, 亀谷修平<sup>1)</sup>, 鈴木光子<sup>2)</sup>, 金城邦彦<sup>3)</sup>, 眞鍋智史<sup>4)</sup>, 江本直也<sup>5)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院眼科, (2) すずき小倉台医院, (3) もとの金城クリニック, (4) 千葉県薬剤師会, (5) 日本医科大学千葉北総病院内分泌内科): 一方向型糖尿病地域医療連携を支える登録医療機関の糖尿病医療状況の分析. 日本糖尿病学会年次学術集会 (第 54 回), 2011. 5.
  - 14) 古山めぐみ: 千葉北総病院活動報告～緩和ケア外来開設後一年を振り返ってみえたもの～. 橘桜緩和医療研究会 (第 4 回), 2011. 6.
  - 15) 二俣美鶴, 本庄貴志, 星島洋子, 関 隆, 本庄明美, 大森章代, 増渕美恵子: フライトナースの判断能力の向上に向けた事例検討会の取り組み. 日本航空医療学会総会 (第 18 回), 2011. 11.
  - 16) 倉本雅男, 横山千鶴, 渡辺光子: 当院集中治療室における医療器具による圧迫性皮膚損傷の発症状況. 日本褥瘡学会関東甲信越地方会学術集会 (第 8 回), 2011. 6.
  - 17) 渡辺光子, 小出麻記子, 柏村めぐみ, 倉本雅男, 横山千鶴: 当院における医療器具による褥瘡発生の現状と課題. 日本褥瘡学会 (第 13 回), 2011. 8.
  - 18) 倉本雅男, 横山千鶴, 渡辺光子: 当院 ICU における頸椎固定装具による皮膚障害の発症率と発症状況. 日本褥瘡学会学術集会 (第 13 回), 2011. 8.
  - 19) 北瀬寛恵, 田中良和, 飯村紫陽花: ICU における気管挿管患者の口腔内状況の実態調査. 日本集中治療医学会学術集会 (第 39 回), 2012. 2.
  - 20) 飯村紫陽花: 重症救急患者家族の ICU における初回面会時の看護のあり方: 搬送時同乗家族と非同乗家族の心理比. 日本集中治療医学会学術集会 (第 39 回), 2012. 2.
  - 21) 大森章代: 千葉県ドクターヘリの現状—フライトナース教育の 1 例と今後の課題—. 日本集中治療医学会学術集会 (第 39 回), 2012. 2.

## 〔4〕付置研究施設



# 1. 老人病研究所

## [病理部門]

### 研究概要

#### 研究室の特色

部門の研究には1) ケロイド発生機序の研究 2) 血管形成メカニズムの解析 3) 社会連携研究—認知症まちぐるみ支援ネットワーク事業がある。1) ケロイド発生機序の研究 武蔵小杉病院形成外科と無瘢痕創傷を目的に肥厚性瘢痕とケロイド発生の解析を行っている。これまでケロイド発生に関与する遺伝子解析でIL-6及びc-Abl遺伝子の発現上昇を見だしケロイド発生への関与を明らかにした。ケロイドではTGF-betaやPDGFが過剰発現を示すことからこれらのシグナル伝達を同時に抑制する小分子標的治療薬STI571のケロイド線維芽細胞への投与によるプロコラーゲン産生とタイプIコラーゲンmRNAの発現の低下を目的にケロイド新薬としての可能性の解析を進めている。さらに、TGF-betaとPDGFシグナル伝達の抑制に関与するmicroRNA遺伝子を解析しケロイド線維化調節に関わる研究にも着手している。

2) 血管形成メカニズムの解析 血管には大動脈から毛細血管まで様々な大きさのものが存在する。我々はこの構造の違いがどのように生じるのか、血管の大きさを規定する機構についての研究を行っている。これまでに、ダウン症原因遺伝子RCAN1が血管の分岐を抑制し、血管の大きさを太くすることをアフリカツメガエルの過剰発現実験で明らかにしている。現在は他の候補遺伝子の血管形態への作用機序を検討しており、将来は様々な大きさの血管を薬剤によって誘導できる新規治療法の開発を目指している。血管の大きさは対象となる疾患によって大きく異なることから、汎用性の高い治療法として期待される。

3) 社会連携研究 認知症相談センターを起点に認知症になっても安心して暮らせるように、一般市民、医療機関、介護機関、行政、企業などとネットワークを作る社会連携事業を行い、都市型コホート共同研究を行っている。市民が認知症について理解を深めるような試み、認知症介護に携わる専門家と医療との連携を促進するための試みなどを行う社会連携研究を行っている。

### 研究業績

#### 論文

#### [追加分]

追加分原著：

- 1) Fujiwara M, Hasebe T<sup>1)</sup>, Kajita M<sup>2)</sup>, Ishizuya-Oka A<sup>1)</sup>, Ghazizadeh M ( <sup>1)</sup> Department of Biology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Molecular Biology, Institute of Development and Aging Sciences, Nippon Medical School) : RCAN1 regulates vascular branching during *Xenopus laevis* angiogenesis. J Vasc Res 2011 ; 48 (2) : 104-118.

(1) 総説：

- 1) Ghazizadeh R<sup>1)</sup>, Tosa M<sup>2,3)</sup>, Ghazizadeh M ( <sup>1)</sup> Academic Dermatology and Skin Cancer Institute, East Washington Street, Chicago, Illinois, USA, <sup>2)</sup> Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Musashi-kosugi Hospital Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Department of Molecular Pathology, Institute of Gerontology, Nippon Medical School) : Clinical improvement in psoriasis with treatment of associated hyperlipidemia. Am J Med Sci 2011 ; 341 (5) : 394-398.

(2) 調査報告：

- 1) 若松直樹<sup>1)</sup>, 根本留美<sup>1)</sup>, 石井知香<sup>1)</sup>, 野村俊明<sup>2)</sup>, 川並汪一<sup>3)</sup>, 北村 伸<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 日本医科大学老人病研究所街ぐりみ認知症相談センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学心理学, <sup>3)</sup> 北海メディカルネットワーク, <sup>4)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院内科) : 地域での認知症相談において認知機能低下を鑑別する評価指標 : 地域在住高齢者を対象としたサンプル調査からの検討. 老年精神医学雑誌 2011 ; 22 (12) : 1423-1431.

学会発表

〔追加分〕

追加分一般講演：

- 1) 藤原正和, 長谷部孝<sup>1)</sup>, 岡 敦子<sup>1)</sup>, ガジザデモハマッド ( <sup>1)</sup> 日本医科大学基礎科学生物学教室) : Vascular Endothelial Growth Factor によって発現制御される遺伝子とその役割. 第18回日本血管生物医学学会 (大阪), 2010. 12.

(1) 一般講演：

- 1) ガジザデモハマッド, 清水 一, 伊吾田慎一<sup>1,2)</sup>, 枝川聖子, 土佐眞美子<sup>1,3)</sup> ( <sup>1)</sup> 老人病研究所 分子病理部門, <sup>2)</sup> 東戸塚記念 形成外科, <sup>3)</sup> 武蔵小杉病院 形成外科) : Involvement of Wnt signaling pathway in abnormal wound healing. 日本創傷外科学会 (第3回) (札幌), 2011. 7.
- 2) 伊吾田慎一<sup>1,2)</sup>, ガジザデモハマッド, 土佐眞美子<sup>1,3)</sup>, 清水 一, 枝川聖子, 岩切 到<sup>3)</sup>, 村上正洋<sup>3)</sup>, 小川令<sup>4)</sup>, 百束比古<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 老人病研究所 分子病理部門, <sup>2)</sup> 東戸塚記念 形成外科, <sup>3)</sup> 武蔵小杉病院 形成外科, <sup>4)</sup> 付属病院 形成外科) : 顔面の組織欠損に対する再建方法の検討. 日本創傷外科学会 (第3回) (札幌), 2011. 7.
- 3) 清水 一, 土佐眞美子<sup>1,2)</sup>, 伊吾田慎一<sup>1,3)</sup>, 枝川聖子, モハマッドガジザデ ( <sup>1)</sup> 老人病研究所 分子病理部門, <sup>2)</sup> 武蔵小杉病院 形成外科, <sup>3)</sup> 東戸塚記念病院 形成外科) : ケロイド発症の病因に關与する microRNA 遺伝子について. 日本皮膚外科学会総会 (第26回) (富山), 2011. 8.
- 4) 伊吾田慎一<sup>1,2)</sup>, 宮内千賀子<sup>2)</sup>, 川満直美<sup>2)</sup>, 細川暁代<sup>2)</sup>, 枝川聖子, 清水 一, モハマッドガジザデ, 土佐眞美子<sup>3)</sup>, 岩切 到<sup>3)</sup>, 村上正洋<sup>3)</sup>, 百束比古<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 老人病研究所 分子病理部門, <sup>2)</sup> 東戸塚記念 形成外科, <sup>3)</sup> 武蔵小杉病院 形成外科, <sup>4)</sup> 付属病院 形成外科) : 「穴明け半透過性フィルム」を用いた褥瘡の保存的治療. 日本褥瘡学会総会 (第13回) (福岡), 2011. 8.
- 5) 伊吾田慎一<sup>1,2)</sup>, 土佐眞美子<sup>3)</sup>, 枝川聖子, 清水 一, 村上正洋<sup>3)</sup>, 百束比古<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup> 老人病研究所分子病理部門, <sup>2)</sup> 東戸塚記念形成外科, <sup>3)</sup> 武蔵小杉病院形成外科, <sup>4)</sup> 付属病院形成外科) : Involvement of Wnt signaling pathway in keloid pathogenesis. 日本形成外科学会基礎学術集會 (第20回) (東京), 2011. 10.
- 6) Ueno T<sup>1)</sup>, Igota S<sup>2,3)</sup>, Tosa M<sup>4)</sup>, Egawa S, Shimizu H, Ghazizadeh M ( <sup>1)</sup> 医学部 学生 3学年, <sup>2)</sup> 東戸塚記念 形成外科, <sup>3)</sup> 老人病研究所分子病理部門, <sup>4)</sup> 武蔵小杉病院形成外科) : Characterization of Wnt signaling pathway in keloid pathogenesis. 日本医科大学医学会総会 (第79回) (東京), 2011. 9.
- 7) Fujiwara M, Hasebe T<sup>1)</sup>, Ishizuya-Oka A<sup>1)</sup>, Ghazizadeh M ( <sup>1)</sup> Department of Biology, Nippon Medical School) : Characterization of vascular morphology in the hindlimb, tentacle, and tail during *Xenopus laevis* development. The 19th Annual Meeting of the Japanese Vascular Biology and Medicine Organization (Tokyo), 2011. 12.
- 8) Ghazizadeh M, Igota S<sup>1,2)</sup>, Shimizu H, Egawa S, Tosa M<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Department of Plastic Reconstructive Surgery, Higashi-totsuka Memorial Hospital, <sup>2)</sup> Department of Molecular Pathology, Institute of Gerontology, Nippon Medical School, <sup>3)</sup> Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon medical School, Musashi-kosugi Hospital) : Targeting the Wnt signaling pathway in keloid. 日本皮膚外科学会総会 (第26回) (富山), 2011.

8.

- 9) 石井知香<sup>1)</sup>, 根本留美<sup>1)</sup>, 若松直樹<sup>1)</sup>, 北村 伸<sup>2)</sup>, 野村俊明<sup>3)</sup>, 宗像一雄<sup>2)</sup>, 川並汪一<sup>4)</sup> (1) 日本医科大学 老人病研究所街ぐるみ認知症相談センター, 2) 日本医科大学 武蔵小杉病院 内科, 3) 日本医科大学 心理学, 4) 北海メディカルネットワーク): 街ぐるみ認知症相談センター医療連携および社会連携活動 2007年開設から2011年4月までの報告. 日本認知症ケア学会 (第12回) (横浜), 2011. 9.
- 10) 北村 伸<sup>1)</sup>, 田中美枝子<sup>2)</sup>, 鈴木将生<sup>2)</sup>, 松崎靖晴<sup>2)</sup>, 佐藤詔司<sup>2)</sup>, 武者利光 (1) 日本医科大学武蔵小杉病院 神経内科, 街ぐるみ認知症相談センター, 2) (株) 脳機能研究所): 「街ぐるみ認知症相談センター」における脳機能活性度の測定. 臨床脳電位研究会 (第3回) (東京), 2011. 9.
- 11) 杉浦京子<sup>1, 2)</sup>, 佐野明子<sup>3)</sup>, 武者利光<sup>3)</sup>, 北村 伸<sup>4)</sup>, 高田ゆり子<sup>2)</sup> (1) アーツセラピー研究所, 2) 筑波大学人間総合科学研究科, 3) 脳機能研究所, 4) 日本医科大学武蔵小杉病院内科): 脳波測定から見た軽度認知症 (アルツハイマー病) のコラージュ療法の有効性. 臨床脳電位研究会 (第3回) (東京), 2011. 9.
- 12) 根本留美<sup>1)</sup>, 石井知香<sup>1)</sup>, 若松直樹<sup>1)</sup>, 野村俊明<sup>1, 2)</sup>, 北村 伸<sup>1, 3)</sup>, 宗像一雄<sup>3)</sup>, 川並汪一<sup>4)</sup> (1) 日本医科大学老人病研究所 街ぐるみ認知症相談センター, 2) 日本医科大学心理学教室, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院, 4) 北海メディカルネットワーク): 地域での相談活動における認知症早期発見のための評価指標: 簡便に脳機能低下を検出する神経心理学的検査の検討. 日本認知症予防学会 (第1回) (鳥取), 2011. 9.
- 13) 若松直樹<sup>1)</sup>, 武藤三千代<sup>2)</sup>, 石井知香<sup>1)</sup>, 根本留美<sup>1)</sup>, 野村俊明<sup>3)</sup>, 北村 伸<sup>4)</sup>, 川並汪一<sup>5)</sup> (1) 日本医科大学老人病研究所街ぐるみ認知症相談センター, 2) 日本医科大学基礎科学スポーツ科学, 3) 日本医科大学基礎科学心理学, 4) 日本医科大学武蔵小杉病院内科, 5) 北海メディカルネットワーク): 地域における健康づくり活動が認知機能・身体機能に与える影響. 日本認知症予防学会 (第1回) (鳥取), 2011. 9.
- 14) 石井知香<sup>1)</sup>, 杉浦京子<sup>2, 4)</sup>, 北村 伸<sup>3)</sup>, 高田ゆり子<sup>4)</sup> (1) 日本医科大学老人病研究所 街ぐるみ認知症相談センター, 2) アーツセラピー研究所, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院内科, 4) 筑波大学人間総合科学研究所): 軽度認知症 (アルツハイマー病) のコラージュ療法の有効性: 認知機能とコミュニケーションの向上を中心として. 日本認知症予防学会 (第1回) (鳥取), 2011. 9.
- 15) 野村俊明<sup>1, 2)</sup>, 奥村雄介<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学心理学教室, 2) 日本医科大学老人病研究所街ぐるみ認知症相談センター, 3) 府中刑務所): 刑事施設における高齢者問題. 日本認知症予防学会 (第1回) (鳥取), 2011. 9.
- 16) 並木香奈子<sup>1)</sup>, 井上志津子<sup>1)</sup>, 長久美江子<sup>1)</sup>, 野村俊明<sup>1, 2)</sup>, 北村 伸<sup>1, 3)</sup>, 川並汪一<sup>4)</sup> (1) 日本医科大学老人病研究所街ぐるみ認知症相談センター, 2) 日本医科大学心理学教室, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院内科, 4) 北海メディカルネットワーク赤坂クリニック): 専門職向け公開講座実施による地域ネットワーク作りの試み. 日本認知症予防学会 (第1回) (鳥取), 2011. 9.
- 17) 若松直樹<sup>1)</sup>, 野村俊明<sup>1, 2)</sup>, 石井知香<sup>1)</sup>, 根本留美<sup>1)</sup>, 北村 伸<sup>1, 3)</sup>, 川並汪一<sup>4)</sup> (1) 日本医科大学老人病研究所街ぐるみ認知症相談センター, 2) 日本医科大学基礎科学・心理学, 3) 日本医科大学武蔵小杉病院内科, 4) 北海メディカルネットワーク): 認知症高齢者が施設入所や医療機関入院を選択する背景要因: 在宅生活の継続を困難にさせる要因についてのアンケートによる検討. 日本老年精神医学会 (第26回) (新宿), 2011. 6.
- 18) 石渡明子<sup>1)</sup>, 北村 伸<sup>2)</sup>, 野村俊明<sup>3)</sup>, 若松直樹<sup>4)</sup>, 根本留美<sup>4)</sup>, 石井知香<sup>4)</sup>, 片山泰朗<sup>1)</sup>, 川並汪一<sup>4, 5)</sup> (1) 日本医科大学 内科 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門, 2) 日本医科大学武蔵小杉病院 内科, 3) 日本医科大学心理学, 4) 日本医科大学老人病研究所街ぐるみ認知症相談センター, 5) 北海メディカルネットワーク): 街ぐるみ認知症相談センターにおける活動状況. 日本神経学会学術大会 (第52回) (名古屋), 2011. 5.

## [生化学部門]

### 研究概要

老人病研究所生化学部門 (大学院医学研究科加齢科学系専攻細胞生物学分野) では老化や病気の原因を細胞の中か

ら探っている。細胞内小器官のミトコンドリアはエネルギー産生だけでなく多くの病気や老化現象に関わっており、その機能を重視しながら様々な疾患への関与を探り、その予防・治療に寄与しようとする点が特色である。「科学は実用されて光り輝く」を基本とし、研究が社会に寄与するための基盤となる基礎研究を進めている。ミトコンドリアから発せられる電子と酸素が結びつくことで生まれる活性酸素が、ほとんどの生活習慣病や老化の原因となることは今や広く知られている。水素分子が効果的な抗酸化作用を示すことを明らかにし、2007年にNature Medicineに論文を発表した後は、他の研究室からの報告が相次ぎ、原著論文は170報以上の報告にいたっている。昨年、設立となった国際誌Medical Gas Researchの副編集長を今年度も教授は務めている。更に、酸化ストレス状態を的確にモニターできる遺伝子改変マウスを作製して実験を進めている。学会活動では、教授は、日本ミトコンドリア学会の理事長を勤め、前述のMedical Gas Researchの副編集長に加え、ミトコンドリア学会機関誌である国際誌Mitochondrionの副編集長も務めている。また、ミトコンドリア病患者家族の会の顧問としても活動している。更に2009年に発足した日本Cell Death学会の理事長もしている。「NHKサイエンスZERO—ミトコンドリアの新常識」(NHK出版)を編著書として出版した。また、NHK「サイエンスZERO」(8月)、TBS「教科書に載せたい」(5月)、BSジャパン「地球アステク」(9月)などに出演し、NHKラジオの「ラジオ深夜便」にも出演した。

## 研究業績

### 論文

#### 〔追加分〕

追加分原著：

- 1) Chihara N, Amo T, Tokunaga A<sup>1)</sup>, Yuzuriha R, Wolf AM, Asoh S, Suzuki H<sup>1)</sup>, Uchida E<sup>2)</sup>, Ohta S<sup>(1)</sup> Inst. Gastroenterol., Musashikosugi Hosp., <sup>2)</sup> Dept. Surgery for Organ Function and Biological Regulation) : Mitochondrial DNA alterations in colorectal cancer cell lines. J Nippon Med Sch 2011 ; 78 (1) : 13-21.

(1) 原著：

- 1) Kamimura N, Nishimaki K, Ohsawa I<sup>1)</sup>, Ohta S<sup>(1)</sup> Dept. Environmental Gerontol., Tokyo Metropolitan Inst. Gerontol.) : Molecular hydrogen improves obesity and diabetes by inducing hepatic FGF21 and stimulating energy metabolism in db/db mice. Obesity 2011 ; 19 (7) : 1396-1403.
- 2) Kashio A<sup>1)</sup>, Sakamoto T<sup>1)</sup>, Kakigi A<sup>1)</sup>, Suzuki M<sup>2)</sup>, Suzukawa K<sup>1)</sup>, Kondo K<sup>1)</sup>, Sato Y, Asoh S, Ohta S, Yamasoba T<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> Faculty of Med., Dept. Otolaryngol. Head and Neck Surgery, The Univ. Tokyo, <sup>2)</sup> Dept. Otolaryngol. Head and Neck Surgery, Sakura Med. Cent., Toho Univ.) : Topical application of the antiapoptotic TAT-FNK protein prevents aminoglycoside-induced ototoxicity. Gene Ther 2011.
- 3) Terasaki Y<sup>1)</sup>, Ohsawa I<sup>2)</sup>, Terasaki M<sup>1)</sup>, Kunugi S<sup>1)</sup>, Dedong K<sup>1)</sup>, Urushiyama H<sup>1)</sup>, Amenomori S<sup>1)</sup>, Kaneko-Togashi M<sup>1)</sup>, Kuwahara N<sup>1)</sup>, Ishikawa A<sup>1)</sup>, Kamimura N, Ohta S, Fukuda Y<sup>1)</sup> <sup>(1)</sup> Dept. Analytic Human Pathol., <sup>2)</sup> Dept. Environmental Gerontol., Tokyo Metropolitan Inst. Gerontol.) : Hydrogen Therapy Attenuates Irradiation-induced Lung Damage by Reducing Oxidative Stress. Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol 2011 ; 301 (4) : L415-L426.
- 4) Nagare T<sup>1, 2)</sup>, Sakaue H<sup>3, 4)</sup>, Matsumoto M<sup>1, 2)</sup>, Cao Y<sup>1, 2)</sup>, Inagaki K<sup>1, 2)</sup>, Sakai M<sup>1, 2)</sup>, Takashima Y<sup>3)</sup>, Nakamura K<sup>3)</sup>, Mori T<sup>3)</sup>, Okada Y<sup>3)</sup>, Matsuki Y<sup>5)</sup>, Watanabe E<sup>5)</sup>, Ikeda K<sup>6, 7)</sup>, Taguchi R<sup>8, 9)</sup>, Kamimura N, et al.<sup>(1)</sup> Dept. Mol. Metabolic Regulation, Res. Inst., Natl. Center Global Health and Med., <sup>2)</sup> Diabetes Res. Ctr., Res. Inst, Natl. Ctr. Global Health and Med., <sup>3)</sup> Div. Diabetes, Metabolism, and Endocrinol., Dept. Internal Med., Kobe Univ. Grad. Sch. Med., <sup>4)</sup> Dept. Nutrition and Metabolism, Inst. Health Biosci., Univ. Tokushima Grad. Sch., <sup>5)</sup> Pharmacol. Res. Laboratories, Dainippon Sumitomo Pharma Co. Ltd., <sup>6)</sup> Inst. Advanced Biosci., Keio Univ., <sup>7)</sup> Dept. Metabolome, Grad. Sch. Med., Univ. Tokyo, <sup>8)</sup> Core Res. Evolutional Sci. Technol. Program,

Japan Sci. Technol. Agency, <sup>9)</sup> Dept. Biomed. Sci., Coll. Life and Health Sci., Chubu Univ.) : Overexpression of KLF15 transcription factor in adipocytes of mice results in down-regulation of SCD1 protein expression in adipocytes and consequent enhancement of glucose-induced insulin secretion. *J Biol Chem* 2011 ; 286 (43) : 37458-37469.

- 5) Shinmura K<sup>1)</sup>, Tamaki K<sup>1)</sup>, Sano M<sup>2)</sup>, Nakashima-Kamimura N, Wolf AM, Amo T<sup>3)</sup>, Ohta S, Katsumata Y<sup>4)</sup>, Fukuda K<sup>4)</sup>, Ishiwata K<sup>2)</sup>, Suematsu M<sup>4)</sup>, Adachi T<sup>2, 5)</sup> (<sup>1)</sup> Div. Geriatric Med., Dept. Internal Med., Keio Univ. Sch. Med., <sup>2)</sup> Dept. Biochem. Integrative Med. Biol., Keio Univ. Sch. Med., <sup>3)</sup> Dept. Applied Chemistry, Natl. Defense Academy, <sup>4)</sup> Div. Cardiol., Dept. Internal Med., Keio Univ. Sch. Med., <sup>5)</sup> 1st Dept. Internal Med., Natl. Defense Med. Coll) : Caloric restriction primes mitochondria for ischemic stress by deacetylating specific mitochondrial proteins of the electron transport chain. *Circ Res* 2011 ; 109 (4) : 396-406.
- 6) Hanaoka T, Kamimura N, Yokota T, Takai S<sup>1)</sup>, Ohta S (<sup>1)</sup> Dept. Orthopedic Surgery) : Molecular hydrogen protects chondrocytes from oxidative stress and indirectly alters gene expressions through reducing peroxynitrite derived from nitric oxide. *Med Gas Res* 2011 ; 1 (1) : 1-8.

(2) 総説 :

- 1) Ohta S, Nakao A<sup>1)</sup>, Ohno K<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> Dept. Surgery and Cardiothoracic Surgery, Univ. Pittsburgh Med. Ctr., <sup>2)</sup> Div. Neurogenetics, Center for Neurological Diseases and Cancer, Nagoya Univ. Grad. Sch. Med.) : The 2011 Medical Molecular Hydrogen Symposium : An Inaugural Symposium of the Journal Medical Gas Research. *Med Gas Res* 2011 ; 1 (1) : 1-10.
- 2) Ohta S : Molecular hydrogen is a novel antioxidant to efficiently reduce oxidative stress with potential for the improvement of mitochondrial diseases. *Biochim Biophys Acta* 2011 ; 1820 (5) : 586-594.
- 3) Ohta S : Recent Progress Toward Hydrogen Medicine : Potential of Molecular Hydrogen for Preventive and Therapeutic Applications. *Curr Pharm Des* 2011 ; 17 (22) : 2241-2252.

## 著 書

### 〔追加分〕

#### 追加分 :

- 1) 太田成男 : [編集] ここまでわかったミトコンドリア研究の新展開. 別冊 : 医学のあゆみ (太田成男), 2011 ; pp1-134, 医歯薬出版.
- 1) 太田成男, NHK サイエンス ZERO 取材班<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup> NHK) : [共著] NHK サイエンス ZERO : ミトコンドリアの新常識. NHK サイエンス ZERO : ミトコンドリアの新常識, 2011 ; pp1-107, NHK 出版.

## 学会発表

### (1) 特別講演 :

- 1) Ohta S : Recent development toward the hydrogen medicine : potential for preventive and therapeutic applications and possible mechanism to exhibit its benefits. 5th SFRR-Asia, 8th ASMRM, 11th J-mit, 2011 Symposium (Kagoshima), 2011. 9.
- 2) 太田成男 : ミトコンドリアに起因する酸化ストレス. 第 39 回日本肝臓学会西部会 (岡山), 2011. 12.
- 3) 太田成男 : 水素医学の進展 : 酸化ストレス軽減によるアポトーシス抑制のメカニズム. 日本 Cell Death 学会シンポジウム (第 20 回) (東京), 2011. 7.

### (2) 招待講演 :

- 1) Ohta S : Recent progress toward hydrogen medicine : Potential of molecular hydrogen for preventive and therapeutic application and the improvement of mitochondrial disorders. The 5th symposium of Korean Soci-

ety for mitochondrial Research and Medicine (KSMRM) (Korea), 2011. 6.

(3) 教育講演：

- 1) 太田成男：基礎データに基づくミトコンドリアとアンチエイジング医学. 日本抗加齢医学会講習会（東京），2011. 11.
- 2) 上村尚美：水素分子の抗酸化作用と臨床応用への展望. かわさきサイエンス&テクノロジーフォーラム 2011（川崎），2011. 11.
- 3) 太田成男：ミトコンドリアと老化. 日本抗加齢医学会エデュケーショナルセミナー（東京），2011. 10.

(4) シンポジウム：

- 1) 太田成男：ミトコンドリアと酸化ストレス. 分子糖尿病シンポジウム（第23回）（熊本），2011. 11.

(5) 一般講演：

- 1) Kamimura N：Molecular hydrogen upregulates hepatic mitochondrial lipid metabolism-related genes, reduces oxidative stress, improves obesity in type2 deabetes model mice. 5th SFRR-Asia, 8th ASMRM, 11th J-mit, 2011 Symposium (Kagoshima), 2011. 9.
- 2) Wolf A：In vivo measurements of skin oxidative stress using mice expressing redox-sensitive GFP. 5th SFRR-Asia, 8th ASMRM, 11th J-mit, 2011 Symposium (Kagoshima), 2011. 9.
- 3) Nishimaki K：Transgenic mice expressing the redox-sensitive green fluorescent protein. 5th SFRR-Asia, 8th ASMRM, 11th J-mit, 2011 Symposium (Kagoshima), 2011. 9.
- 4) Ohta S：Molecular hydrogen is a novel antioxidant to efficiently reduce oxidative stress for the therapeutic and preventive potential in lifestyle-related and mitochondrial diseases. The eighth European Meeting on Mitochondrial Pathology (Euromit8) (Spain), 2011. 6.
- 5) Kamimura N：Molecular hydrogen enhances the expression of a wide variety of lipid metabolism-related genes in liver and reduces oxidative stress, improves obesity in db/db mice. The eighth European Meeting on Mitochondrial Pathology (Euromit8) (Spain), 2011. 6.
- 6) Nishimaki K：Preventive effect of hydrogen-dissolved water on age-dependent decline of learning and memory in Alzheimer model mice. The eighth European Meeting on Mitochondrial Pathology (Euromit8) (Spain), 2011. 6.
- 7) Kamimura N：The effect of molecular hydrogen on various gene expression in liver in db/db mice. The 34th Annual Meeting of the Molecular Biology Society of Japan (Yokohama), 2011. 12.
- 8) Wolf A：In vivo measurements of skin oxidative stress using mice expressing redox-sensitive GFP. The 34th Annual Meeting of the Molecular Biology Society of Japan (Yokohama), 2011. 12.
- 9) Nishimaki K：Transgenic mice expressing roGFP have potential to estimate oxidative stress in vivo. The 34th Annual Meeting of the Molecular Biology Society of Japan (Yokohama), 2011. 12.

## [疫学部門]

### 研究概要

生体の個体としての機能とその制御機構の解明をめざし、ホルモン・生理活性物質を対象として生理学的研究を行っている。ホルモンの分泌調整機構の解明、ホルモンの作用機序の研究、ホルモンの細胞内シグナル伝達機構を解明する。

(1) 動物の栄養状態に対応するインスリン・IGF-I シグナリングの変動と意義について検討した。低タンパク質栄養状態の動物では、タンパク質代謝が低下するためにエネルギー消費量も低下するが、余剰となった糖を主に肝臓が取り込み、脂質として蓄積する仕組みが稼動していることが明らかとなった。IGF-I による甲状腺細胞の増殖誘導は

甲状腺刺激ホルモンの共存下で増強される。これに必須なタンパク質 PI3KAP/XB130 を同定し、この分子を介したシグナル系を解析した。

(2) 成長ホルモンの分泌調節機構と生理作用の解明をめざし研究している。成長ホルモンが転写因子 X-box binding protein 1 (XBP1) の活性化を介して小胞体ストレスの解除に関与している可能性を提唱した。

(3) 内臓脂肪蓄積や糖尿病に対する成長ホルモンの予防効果を検討し、機序として脂肪組織局所における酸化ストレスや慢性炎症の軽減による脂肪細胞の機能改善が関与していることを明らかにした。急性冠症候群における動脈硬化性プラーク破裂後の血栓形成の防御機序の一つとして、炎症性マクロファージが産生する凝固カスケードのトリガーである組織因子の発現をアディポネクチンが抑制する事を明らかにした。受容体チロシンキナーゼ阻害剤であるスニチニブの血管平滑筋の遊走・増殖の抑制効果とラット内皮傷害後の内膜肥厚の抑制効果を明らかにした。

## 研究業績

### 学会発表

(1) ワークショップ：

- 1) Okamoto Y, Ishii S, Croce K<sup>1</sup>, Katsumata H, Fukushima M, Kihara S<sup>2</sup>, Libby P<sup>1</sup>, Minami S ( <sup>1</sup> Division of Cardiovascular Medicine, Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School, <sup>2</sup> Department of Biomedical Informatics, Osaka University) : Adiponectin inhibits macrophage tissue factor, a key trigger of thrombosis in disrupted atherosclerotic plaques. XVI International Symposium on Atherosclerosis (Sydney, Australia), 2012. 3.

(2) 一般講演：

- 1) 福島 誠, 岡本芳久, 岡本真明, 石井 聡, 勝又晴美, 南 史朗：成長ホルモン投与による肥満マウスの脂肪組織の減量及び機能改善効果。日本内分泌学会学術総会（第 84 回）（神戸市），2011. 4.
- 2) 岡本芳久, 福島 誠, 石井 聡, 勝又晴美, 南 史朗：成長ホルモンによる肥満過程での脂肪細胞機能調節および糖代謝改善作用。日本肥満学会（第 32 回）（兵庫県淡路市），2011. 9.
- 3) Okamoto Y, Ishii S, Croce K<sup>1</sup>, Kihara S<sup>2</sup>, Libby P<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> Division of Cardiovascular Medicine, Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School, <sup>2</sup> Department of Biomedical Informatics, Osaka University) : Adiponectin suppresses tissue factor in macrophages, a key trigger of thrombosis in ruptured atherosclerotic plaques. 日本循環器学会学術集会（第 76 回）（福岡市），2012. 3.
- 4) 豊島由香<sup>1</sup>, 時田玲子<sup>1</sup>, 竹中麻子<sup>2</sup>, 伯野史彦<sup>3</sup>, 加藤久典<sup>4</sup>, 南 史朗<sup>1</sup>, 高橋伸一郎<sup>3</sup> ( <sup>1</sup> 日本医科大学老人病研究所生体機能制御学分野, <sup>2</sup> 明治大学農学部農芸化学科, <sup>3</sup> 東京大学大学院農学生命科学研究科応用動物科学専攻, <sup>4</sup> 東京大学総括プロジェクト機構総括寄附講座「食と生命」) : 低タンパク質食を給餌したラット肝臓に中性脂肪蓄積を引き起こす内分泌系およびインスリンシグナルの変動。日本栄養・食糧学会（第 65 回）（東京），2011. 5.
- 5) 赤西成美<sup>1</sup>, 伯野史彦<sup>1</sup>, 千田和広<sup>1</sup>, 加藤久典<sup>2</sup>, 豊島由香<sup>3</sup>, 竹中麻子<sup>4</sup>, 高橋伸一郎<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 東京大学大学院農学生命科学研究科応用動物科学専攻, <sup>2</sup> 東京大学総括プロジェクト機構総括寄附講座「食と生命」, <sup>3</sup> 明治大学農学部農芸化学科, <sup>4</sup> 日本医科大学老人病研究所生体機能制御学分野) : アミノ酸欠乏やインスリン欠乏が培養肝細胞のインスリン様成長因子システムおよびインスリン応答性に及ぼす影響の解析。日本農芸化学会（2012 年度大会）（京都），2012. 3.
- 6) 尾崎 依<sup>1</sup>, 武田知也<sup>1</sup>, 豊島由香<sup>2</sup>, 時田玲子<sup>2</sup>, 南 史朗<sup>2</sup>, 伯野史彦<sup>3</sup>, 高橋伸一郎<sup>3</sup>, 竹中麻子<sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 明治大学農学部農芸化学科, <sup>2</sup> 日本医科大学老人病研究所生体機能制御学分野, <sup>3</sup> 東京大学大学院農学生命科学研究科応用動物科学専攻) : 低タンパク質食摂取ラットにおけるインスリン分泌の低下が肝臓の IGF-I 合成抑制および中性脂質量増加に及ぼす影響。日本農芸化学会（2012 年度大会）（京都），2012. 3.

## [生体応答学部門]

### 研究概要

認知症相談センターを起点に認知症になっても安心して暮らせるように、一般市民、医療機関、介護機関、行政、企業などとネットワークを作る社会連携事業を行い、都市型コホート研究を行っている。認知症早期発見のために街ぐるみ認知症相談センターでは検査を行い、認知症疑いの人を発見し、診断に進むことを促進させ、かかりつけ医が主体となる認知症診療システムを作ることを実践し、かかりつけ医との共同研究を行っている。認知症早期発見に関して脳機能活性度計測法 DIMENSION の有用性について脳機能研究所と共同研究を行っている。市民が認知症について理解を深めるような試み、認知症介護に携わる専門家と医療との連携を促進するための試みなどを行う社会連携研究を行っている。

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) Mishina M<sup>1,2)</sup>, Ishiwata K<sup>1)</sup>, Naganawa M<sup>1,4)</sup>, Kimura Y<sup>1,5)</sup>, Kitamura S<sup>2,6)</sup>, Suzuki M<sup>1,7)</sup>, Hashimoto M<sup>1,7)</sup>, Ishibashi K<sup>1,8)</sup>, Oda K<sup>1)</sup>, Sakata M<sup>1)</sup>, Hamamoto M<sup>2,3)</sup>, Kobayashi S<sup>9)</sup>, Katayama Y<sup>2)</sup>, Shii K<sup>1)</sup> (1) Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, Itabashi-ku, Tokyo, Japan, 2) The Second Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, Bunkyo-ku, Tokyo, Japan, 3) Department of Neurology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Inzai-shi, Chiba, Japan, 4) Department of Diagnostic Radiology, PET Center, Yale University, New Haven, Connecticut, United States of America, 5) Biophysics Group, Molecular Imaging Center, National Institute of Radiological Sciences, Chiba, Japan, 6) Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital, Kawasaki, Kanagawa, Japan, 7) Department of Neurology, The Jikei University School of Medicine, Minato-ku, Tokyo, Japan, 8) Department of Neurology and Neurological Science Graduate School, Tokyo Medical and Dental University, Tokyo, Japan, 9) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, Inzai-shi, Chiba, Japan) : Adenosine A2A Receptors Measured with [11C]TMSX PET in the Striata of Parkinson's Disease Patients. PLoS ONE 2011 ; 6 (2).
- 2) 北村 伸, 本間 昭, 中村 祐, 吉村 功 : 新規 NMDA 受容体拮抗剤であるメマンチン塩酸塩の中等度から高度アルツハイマー型認知症に対する後期第 II 相試験 : 有効性・安全性および推奨用量の検討. 老年精神 2011 ; 22 (4) : 453-463.
- 3) 中村 祐, 本間 昭, 北村 伸, 吉村 功 : 新規 NMDA 受容体拮抗剤であるメマンチン塩酸塩の中等度から高度アルツハイマー型認知症に対する第 3 相試験 : 有効性および安全性の検討. 老年精神 2011 ; 22 (4) : 464-473.

(2) 総説：

- 1) 北村 伸<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院内科) : リバスタグミン. 認知症の最新医療 2011 ; 1 (2) : 60-66.
- 2) 北村 伸<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院内科) : アセチルコリンエステラーゼ阻害薬と NMDA 受容体阻害薬の併用について教えて下さい. 治療 2011 ; 93 (9) : 1906-1907.
- 3) 北村 伸<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院内科) : 抗アルツハイマー病薬の使い分けと併用療法, 抗アルツハイマー病薬の変更の判定基準, 変更時の注意. 最新医学 2011 ; 66 (9) : 2232-2239.
- 4) 北村 伸<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院内科) : メマンチンの基礎と臨床 b. 臨床. 精神科 2011 ; 19 (3) : 245-251.
- 5) 八木 孝<sup>1)</sup>, 北村 伸<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院内科) : 認知症終末期の食事摂取と栄養. 老年精神 2011 ;

22 (12) : 1423-1431.

- 6) 北村 伸<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院内科) : NMDA 受容体拮抗剤登場後のアルツハイマー型認知症の臨床. 臨床精神薬理 2012 ; 15 (1) : 59-64.
  - 7) 北村 伸<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院内科) : メマンチン塩酸塩. 日病薬誌 2012 ; 48 (2) : 245-249.
  - 8) 北村 伸<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院内科) : Alzheimer 病とメマンチン. 神経内科 2012 ; 76 (2) : 141-146.
  - 9) 北村 伸<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院内科) : 川崎市における認知症ネットワーク. 老年認知症研究会誌 2011 ; 19 (1).
  - 10) 北村 伸<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院内科) : 都市部における地域支援ネットワークの現状とこれから. Clinician 2011 ; 11 (598) : 108-112.
  - 11) 北村 伸<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院内科) : 認知症とは. おはよう 21 2011 ; (4) : 11-16.
  - 12) 野村浩一<sup>1)</sup>, 北村 伸<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学付属病院神経内科, <sup>2)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院内科) : CT-スクリーニング (除外診断を中心に). Innervision 2011 ; 26 (1) : 10-12.
  - 13) 北村 伸<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院内科) : 代表的な認知症 (2) : 血管性認知症. 診断と治療 2011 ; 99 (3) : 453-458.
- (3) 研究報告書 :
- 1) 若松直樹<sup>1)</sup>, 根本留美<sup>1)</sup>, 石井知香<sup>1)</sup>, 野村俊明<sup>2)</sup>, 川並汪一<sup>3)</sup>, 北村 伸<sup>4)</sup> (1) 日本医科大学老人病研究所街ぐるみ認知症相談センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学基礎科学・心理学, <sup>3)</sup> 北海メディカルネットワーク, <sup>4)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院内科) : 地域での認知症相談において認知機能低下を鑑別する評価指標 : 地域在住高齢者を対象としたサンプル調査からの検討. 老年精神医学雑誌 2011 ; 22 (12) : 1423-1431.

## 著 書

- 1) 北村 伸 : [共著] アルツハイマー病. 神経疾患最新の治療 (水澤英洋編), 2012 ; pp201-204, 南江堂.

## 学会発表

### (1) 教育講演 :

- 1) 北村 伸<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院内科) : 認知症の早期発見. 日本女性医学会ワークショップ (第 17 回) (横浜), 2012. 2.
- 2) 北村 伸<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院内科) : 最新の認知症診断と治療. 日本認知症学会学術講演会 (東京), 2012. 2.
- 3) 北村 伸<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院内科) : 認知症診療の実際. 日本老年医学会総会 (第 53 回) (東京), 2011. 6.

### (2) シンポジウム :

- 1) 北村 伸<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院内科) : NMDA 受容体拮抗剤を日常診療でどう生かすか. パーキンソン病シンポジウム in 高松 (高松), 2012. 1.
- 2) 北村 伸<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学武蔵小杉病院内科) : アルツハイマー病治療薬の新たな展開 アセチルコリンエステラーゼ阻害薬. 日本生物学的精神医学会 (第 33 回) (東京), 2011. 5.

### (3) 一般講演 :

- 1) 石井知香, 根本留美, 若松直樹, 北村 伸, 野村俊明, 宗像一雄, 川並汪一 : 街ぐるみ認知症相談センター医療連携および社会連携活動 2007 年開設から 2011 年 4 月までの報告. 日本認知症ケア学会 (第 12 回) (横浜), 2011. 9.
- 2) 北村 伸<sup>1)</sup>, 田中美枝子<sup>2)</sup>, 佐野明子<sup>2)</sup>, 鈴木将生<sup>2)</sup>, 松崎晴康<sup>2)</sup>, 佐藤詔司<sup>2)</sup>, 武者利光<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学武蔵

- 小杉病院 神経内科, 街ぐるみ認知症相談センター, <sup>2)</sup> (株)脳機能研究所): 「街ぐるみ認知症相談センター」における脳機能活性度の測定. 臨床脳電位研究会 (第3回) (東京), 2011. 9.
- 3) 杉浦京子<sup>1, 2)</sup>, 佐野明子<sup>3)</sup>, 武者利光<sup>3)</sup>, 北村 伸<sup>4)</sup>, 高田ゆり子<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup> アーツセラピー研究所, <sup>2)</sup> 筑波大学人間総合科学研究科, <sup>3)</sup> 脳機能研究所, <sup>4)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院内科): 脳波測定から見た軽度認知症 (アルツハイマー病) のコラージュ療法の有効性. 臨床脳電位研究会 (第3回) (東京), 2011. 9.
- 4) 根本留美<sup>1)</sup>, 石井知香<sup>1)</sup>, 若松直樹<sup>1)</sup>, 野村俊明<sup>1, 2)</sup>, 北村 伸<sup>1, 3)</sup>, 宗像一雄<sup>3)</sup>, 川並汪一<sup>4)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学老人病研究所 街ぐるみ認知症相談センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学心理学教室, <sup>3)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院, <sup>4)</sup> 北海メディカルサービス): 地域での相談活動における認知症早期発見のための評価指標: 簡便に認知機能低下を検出する神経心理学的検査の検討. 日本認知症予防学会 (第1回) (鳥取), 2011. 9.
- 5) 若松直樹<sup>1)</sup>, 武藤三千代<sup>2)</sup>, 石井知香<sup>1)</sup>, 根本留美<sup>1)</sup>, 野村俊明<sup>3)</sup>, 北村 伸<sup>4)</sup>, 川並汪一<sup>5)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学老人病研究所街ぐるみ認知症相談センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学基礎科学スポーツ科学, <sup>3)</sup> 日本医科大学基礎科学心理学, <sup>4)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院内科, <sup>5)</sup> 北海メディカルネットワーク): 地域における健康づくり活動が認知機能・身体機能に与える影響 神奈川県川崎市 小杉町一丁目町会「いきいき健康クラブ」の実践. 日本認知症予防学会 (第1回) (鳥取), 2011. 9.
- 6) 石井知香<sup>1)</sup>, 杉浦京子<sup>2, 4)</sup>, 北村 伸<sup>3)</sup>, 高田ゆり子<sup>4)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学老人病研究所街ぐるみ認知症相談センター, <sup>2)</sup> アーツセラピー研究所, <sup>3)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院内科, <sup>4)</sup> 筑波大学人間総合科学研究科): 軽度認知症 (アルツハイマー病) のコラージュ療法の有効性: 認知機能とコミュニケーションの向上を中心として. 日本認知症予防学会 (第1回) (鳥取), 2011. 9.
- 7) 野村俊明<sup>1, 2)</sup>, 奥村雄介<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学心理学教室, <sup>2)</sup> 日本医科大学老人病研究所街ぐるみ認知症相談センター, <sup>3)</sup> 府中刑務所): 刑事施設における高齢者問題. 日本認知症予防学会 (第1回) (鳥取), 2011. 9.
- 8) 並木香奈子<sup>1)</sup>, 井上志津子<sup>1)</sup>, 長久美江子<sup>1)</sup>, 野村俊明<sup>1, 2)</sup>, 北村 伸<sup>1, 3)</sup>, 川並汪一<sup>4)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学老人病研究所街ぐるみ認知症相談センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学心理学教室, <sup>3)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院内科, <sup>4)</sup> 北海メディカルネットワーク赤坂クリニック): 専門職向け公開講座実施による地域ネットワーク作りの試み. 日本認知症予防学会 (第1回) (鳥取), 2011. 9.
- 9) 若松直樹<sup>1)</sup>, 野村俊明<sup>1, 2)</sup>, 石井知香<sup>1)</sup>, 根本留美<sup>1)</sup>, 北村 伸<sup>1, 3)</sup>, 川並汪一<sup>4)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学老人病研究所街ぐるみ認知症相談センター, <sup>2)</sup> 日本医科大学基礎科学・心理学, <sup>3)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院内科, <sup>4)</sup> 北海メディカルネットワーク): 認知症高齢者が施設入所や医療機関入院を選択する背景要因: 在宅生活の継続を困難にさせる要因についてのアンケートによる検討. 日本老年精神医学会 (第26回) (新宿), 2011. 6.
- 10) 石渡明子<sup>1)</sup>, 北村 伸<sup>2)</sup>, 野村俊明<sup>3)</sup>, 若松直樹<sup>4)</sup>, 根本留美<sup>4)</sup>, 石井知香<sup>4)</sup>, 片山泰朗<sup>1)</sup>, 川並汪一<sup>4, 5)</sup> (<sup>1)</sup> 日本医科大学内科 神経・腎臓・膠原病リウマチ部門, <sup>2)</sup> 日本医科大学武蔵小杉病院内科, <sup>3)</sup> 日本医科大学心理学, <sup>4)</sup> 日本医科大学老人病研究所街ぐるみ認知症相談センター, <sup>5)</sup> 北海メディカルネットワーク): 街ぐるみ認知症相談センターにおける活動状況. 日本神経学会学術大会 (第52回) (名古屋), 2011. 5.

## 2.呼吸ケアクリニック

### 研究概要

呼吸ケアクリニックでは非腫瘍性の呼吸器疾患全般の診療を実施しているが特に閉塞性疾患（COPD、気管支喘息）と睡眠時無呼吸症候群、これらの重症例に対して実施される在宅医療（酸素療法、人工呼吸療法、CPAP治療）に重点を置いている。研究面ではCOPDおよび関連疾患に関する臨床研究、基礎研究を進めている。臨床研究では、1. 医療連携とチーム医療のあり方、2. clinical phenotype の特定と治療の効率化、3. 関連する疾病の研究を進めてきた。今年度は八丈島でのCOPDの集団検診（木村ら）、COPDとメタボリック症候群との関連（古舘ら）、過敏性肺臓炎の病態（森井ら）、在宅ケアのあり方（若林ら）につき英文原著論文を発表した。基礎研究ではCOPDの遺伝子多型およびCOPDの新規治療薬の開発について研究を進めている。後者は理化学研究所糖鎖センターとの共同研究であり5年計画の2年目である。遺伝子多型では、SP-Dに関する研究（石井ら）、FUT8と肺気腫について（山田ら）が英文原著論文を発表した。現在、医師3人が文科省の科研費を得て研究に従事しており理化学研究所との共同研究は基盤研究として厚労科研費に拠っている。

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) Yamada M<sup>1</sup>), Ishii T, Ikeda S<sup>1</sup>), Naka-Mieno M<sup>2</sup>), Tanaka N<sup>3</sup>), Arai T<sup>4</sup>), Kumasaka T<sup>5</sup>), Gemma A<sup>6</sup>), Kida K, Muramatsu M<sup>1</sup>), Sawabe M<sup>4</sup>) (1) Department of Molecular Epidemiology, Medical Research Institute, Tokyo Medical and Dental University, 2) Department of Medical Informatics/Center for Information, Jichi Medical University, 4) Department of Pathology, Tokyo Metropolitan Geriatric Medical Center, 5) Department of Pathology, Japanese Red Cross Medical Center, 6) Department of Internal Medicine, Division of Pulmonary Medicine, Infectious Diseases and Oncology, Nippon Medical School) : Association of fucosyltransferase 8 (FUT8) polymorphism Thr267Lys with pulmonary emphysema. *J Hum Genet* 2011 ; 56 (12) : 857-860.
- 2) Wakabayashi R, Motegi T, Yamada K, Ishii T, Jones-Cm R<sup>1</sup>), Hyland-E M<sup>2</sup>), Gemma A<sup>3</sup>), Kida K (1) Respiratory Research Unit, Peninsula Medical School, 2) Psychology Department, University of Plymouth, 3) Department of Internal Medicine, Division of Pulmonary Medicine, Infectious Diseases and Oncology, Nippon Medical School) : Efficient integrated education for older patients with chronic obstructive pulmonary disease using the Lung Information Needs Questionnaire. *Geriatr Gerontol Int* 2011 ; 11 (4) : 422-430.
- 3) Furutate R, Ishii T, Wakabayashi R, Motegi T, Yamada K, Gemma A<sup>1</sup>), Kida K (1) Department of Internal Medicine, Division of Pulmonary Medicine, Infectious Diseases and Oncology, Nippon Medical School) : Excessive visceral fat accumulation in advanced chronic obstructive pulmonary disease. *Int J Chron Obstruct Pulmon Dis* 2011 ; 6 : 423-430.
- 4) Ishii T, Hagiwara K<sup>1</sup>), Kamio K<sup>2</sup>), Ikeda S<sup>3</sup>), Arai T<sup>4</sup>), Mieno-Naka M<sup>5</sup>), Kumasaka T<sup>6</sup>), Muramatsu M<sup>3</sup>), Sawabe M<sup>4</sup>), Gemma A<sup>2</sup>), Kida K (1) Department of Respiratory Medicine, Saitama Medical University, 2) Department of Internal Medicine, Division of Pulmonary Medicine, Infectious Diseases and Oncology, Nippon Medical School, 3) Department of Molecular Epidemiology, Medical Research Institute, Tokyo Medical and Dental University, 4) Department of Pathology, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital, 5) Department of Medical Informatics/Center for Information, Jichi Medical University, 6) Department of Pathology, Japanese Red Cross Medical Center) : Involvement of surfactant protein D in emphysema revealed by genetic associa-

tion study. Eur J Hum Genet 2012 ; 20 (2) : 230-235.

- 5) Kimura K<sup>1)</sup>, Kurosaki H, Wakabayashi R, Motegi T, Ishii T, Yamada K, Gemma A<sup>1)</sup>, Kida K ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine, Division of Pulmonary Medicine, Infectious Diseases and Oncology, Nippon Medical School) : Concerns with the Health Check-up System for Chronic Obstructive Pulmonary Disease on two Japanese Islands. Intern Med 2011 ; 50 (19) : 2135-2141.
- 6) Morii K, Yoshimori K<sup>1)</sup>, Sudo M<sup>1)</sup>, Ogata H<sup>1)</sup>, Okumura M<sup>1)</sup>, Gemma A<sup>2)</sup>, Kudoh S<sup>1)</sup>, Kida K ( <sup>1)</sup> Department of Pulmonary Diseases, Fukujiji Hospital, <sup>2)</sup> Department of Internal Medicine, Division of Pulmonary Medicine, Infectious Diseases and Oncology, Nippon Medical School) : Interaction between Primary Care Physicians and Specialists for Diagnosis and Management of Hypersensitivity Pneumonitis. International Journal of Clinical Medicine 2011 ; 2 (4) : 444-451.

(2) 総説 :

- 1) 服部久弥子, 木田厚瑞 : 慢性低酸素血症における高次機能障害. The LUNG : perspectives 2011 ; 19 (3) : 297-302.
- 2) 木田厚瑞 : 教育講演 4. 肺の生活習慣病 COPD と肺年齢. 日内会誌 2011 ; 100 (9) : 2605-2611.
- 3) 木田厚瑞 : 医療連携による COPD の診断と治療の考え方. 日本臨床 2011 ; 69 (10) : 1879-1885.
- 4) 木田厚瑞 : 役割分担・医療連携 2. 医療連携. 日本胸部臨床 2011 ; 70 (増刊号) : S254-S261.
- 5) 木田厚瑞 : 呼吸リハビリテーションの現状と訪問リハビリテーション. 訪問リハビリテーション 2012 ; 1 (6) : 385-391.
- 6) 木田厚瑞 : COPD の包括的呼吸リハビリテーション : 併存する循環器疾患の考え方. 心臓リハビリテーション 2012 ; 17 (1) : 17-23.
- 7) 茂木 孝 : 【内科 疾患インストラクションガイド 何をどう説明するか】 呼吸器疾患 気管支拡張症. Medicina 2011 ; 48 (11) : 144-147.
- 8) 茂木 孝 : 【COPD の諸問題】 診断基準の妥当性. 呼吸器内科 2011 ; 20 (3) : 173-178.
- 9) 石井健男 : 遺伝子からみた効果判定予測 (LABA, SABA, ステロイド) とバイオマーカー. The LUNG : perspectives 2011 ; 19 (2) : 48-52.
- 10) 石井健男 : 【内科 疾患インストラクションガイド 何をどう説明するか】 呼吸器疾患 慢性閉塞性肺疾患. Medicina 2011 ; 48 (11) : 140-143.
- 11) 服部久弥子, 木田厚瑞 : 【内科 疾患インストラクションガイド 何をどう説明するか】 呼吸器疾患 気管支喘息. Medicina 2011 ; 48 (11) : 136-139.

著 書

- 1) 石井健男 : [分担] C. 慢性気道炎症を原因とする疾患. 2. 慢性閉塞性肺疾患. 第10章 各疾患の見方と対応. 呼吸器研修ノート (総監修 : 永井良三, 責任編集 : 萩原弘一, 編集 : 芦沢和人, 大泉聡史, 沖永壮治, 服部 登, 星川 康), 2011 ; pp463-469, 診断と治療社.
- 2) 石井健男 : [分担] II. 疾患の病因と病態 7. COPD とセロトニントランスポーター. Annual Review 呼吸器 2012 (編集 : 永井厚志, 巽 浩一郎, 桑野和善, 高橋和久), 2012 ; pp107-112, 中外医学社.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 木田厚瑞 : 基調講演「Activity promotion : A new focus for pulmonary rehabilitation」(座長). 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 (第21回) (松本市), 2011. 11.
- 2) 木田厚瑞 : 呼吸リハビリテーションの現状と訪問リハビリテーション. 呼吸ケアと誤嚥ケア学会学術集会 (第4

回) (津市), 2012. 2.

(2) シンポジウム :

1) 茂木 孝 : COPD の臨床的諸問題 診断基準の妥当性. 日本呼吸器学会学術講演会 (第 51 回) (東京), 2011. 4.

(3) ワークショップ :

1) 茂木 孝 : COPD の早期発見・早期治療を目指して 地域の医療機関との連携・啓発活動. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 (第 21 回) (松本市), 2011. 11.

(4) 一般講演 :

1) Motegi T, Ishii T, Hattori K, Kamio K<sup>1)</sup>, Yamada K, Kurahara M, Gemma A<sup>1)</sup>, Kida K ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine, Division of Pulmonary Medicine, Infectious Diseases and Oncology, Nippon Medical School) : Comparison of multidimensional assessment systems with regard to risk prediction for exacerbations of COPD. European Respiratory Society Annual Congress 2011 (Amsterdam), 2011. 9.

2) Hayashi H<sup>1)</sup>, Ishii T, Kokuho N<sup>1)</sup>, Kurahara M, Motegi T, Hattori K, Yamada K, Kamio K<sup>1)</sup>, Gemma A<sup>1)</sup>, Kida K ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine, Division of Pulmonary Medicine, Infectious Diseases and Oncology, Nippon Medical School) : Cluster analysis revealed differences on quality of life and susceptibility to exacerbation between subpopulations of smokers including COPD. European Respiratory Society Annual Congress 2011 (Amsterdam), 2011. 9.

3) Kurahara M, Kokuho N<sup>1)</sup>, Hayashi H<sup>1)</sup>, Ishii T, Motegi T, Hattori K, Yamada K, Kamio K<sup>1)</sup>, Gemma A<sup>1)</sup>, Kida K ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine, Division of Pulmonary Medicine, Infectious Diseases and Oncology, Nippon Medical School) : Clinical characteristics of COPD with mild bronchiectasis. European Respiratory Society Annual Congress 2011 (Amsterdam), 2011. 9.

4) Kokuho N<sup>1)</sup>, Ishii T, Hayashi H<sup>1)</sup>, Kurahara M, Motegi T, Hattori K, Yamada K, Kamio K<sup>1)</sup>, Gemma A<sup>1)</sup>, Kida K ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine, Division of Pulmonary Medicine, Infectious Diseases and Oncology, Nippon Medical School) : Fibrotic component in patients with emphysema reduces both exercise capacity and quality of life and increases exacerbations. European Respiratory Society Annual Congress 2011 (Amsterdam), 2011. 9.

5) Hattori K, Ishii T, Sato N<sup>1)</sup>, Motegi T, Yamada K, Gemma A<sup>2)</sup>, Kida K ( <sup>1)</sup> Department of Medicine, Division of Cardiology, Hepatology, Geriatrics and Integrated Medicine, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Internal Medicine, Division of Pulmonary Medicine, Infectious Diseases and Oncology, Nippon Medical School) : Association Between Cardiothoracic Ratio On Plain Chest Roentgenogram And Cardiopulmonary Function In Patients With Chronic Obstructive Pulmonary Disease. American Thoracic Society International Conference 2011 (Denver), 2011. 5.

6) Kamio K<sup>1)</sup>, Ishii T, Gao C<sup>2)</sup>, Ota F<sup>2)</sup>, Motegi T, Abe S<sup>1)</sup>, Usuki J<sup>1)</sup>, Azuma A<sup>1)</sup>, Taniguchi N<sup>2)</sup>, Gemma A<sup>1)</sup>, Kida K ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine, Division of Pulmonary Medicine, Infectious Diseases and Oncology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup> Department of Disease Glycomics, Scientific and Industrial Research Institute, Osaka University) : Correlation Between Fut8 Activity And Airflow Limitation In Patients With Chronic Obstructive Pulmonary Disease (COPD) Accompanied By The Emphysematous Phenotype. American Thoracic Society International Conference 2011 (Denver), 2011. 5.

7) Ishii T, Gemma A<sup>1)</sup>, Kida K ( <sup>1)</sup> Department of Internal Medicine, Division of Pulmonary Medicine, Infectious Diseases and Oncology, Nippon Medical School) : Association Between Emphysema And Genetic Variations Of Chrna3. American Thoracic Society International Conference 2011 (Denver, Colorado), 2011. 5.

8) 石井健男, 弦間昭彦<sup>1)</sup>, 木田厚瑞 ( <sup>1)</sup> 日本医科大学内科学講座呼吸器・感染・腫瘍部門) : COPD におけるニコチン受容体の遺伝子多型. 日本呼吸器学会学術講演会 (第 51 回) (東京), 2011. 4.

- 9) 服部久弥子, 石井健男, 茂木 孝, 蔵原美鈴, 神尾孝一郎<sup>1)</sup>, 山田浩一, 弦間昭彦<sup>1)</sup>, 木田厚瑞<sup>1)</sup> 日本医科大学内科学講座呼吸器・感染・腫瘍部門): COPDにおける心胸郭比(CTR)と心肺機能との関連性に関する検討. 日本呼吸器学会学術講演会(第51回)(東京), 2011. 4.
- 10) 神尾孝一郎<sup>1)</sup>, 石井健男, 高 叢笑<sup>2)</sup>, 是金宏昭<sup>2)</sup>, 茂木 孝, 阿部信二<sup>1)</sup>, 白杵二郎<sup>1)</sup>, 吾妻安良太<sup>1)</sup>, 谷口直之<sup>2)</sup>, 弦間昭彦<sup>1)</sup>, 木田厚瑞<sup>1)</sup> 日本医科大学内科学講座呼吸器・感染・腫瘍部門, <sup>2)</sup> 大阪大学産業科学研究所疾患糖鎖学寄附研究部門): COPDと糖転移酵素 Fut8 活性の関係に関する研究: 第2報. 日本呼吸器学会学術講演会(第51回)(東京), 2011. 4.
- 11) 茂木 孝, 石井健男, 服部久弥子, 神尾孝一郎<sup>1)</sup>, 蔵原美鈴, 若林律子, 山田浩一, 弦間昭彦<sup>1)</sup>, 木田厚瑞<sup>1)</sup> 日本医科大学内科学講座呼吸器・感染・腫瘍部門): COPD増悪における ADO indexの有用性の検討. 日本呼吸器学会学術講演会(第51回)(東京), 2011. 4.
- 12) 古館隆子, 石井健男, 茂木 孝, 山田浩一, 弦間昭彦, 木田厚瑞<sup>1)</sup> 日本医科大学内科学講座呼吸器・感染・腫瘍部門): 安定期の慢性閉塞性肺疾患における食思不振の要因に関する研究. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会(第21回)(松本市), 2011. 11.
- 13) 國保成暁<sup>1)</sup>, 石井健男, 林 宏紀<sup>1)</sup>, 蔵原美鈴, 茂木 孝, 服部久弥子, 山田浩一, 神尾孝一郎<sup>1)</sup>, 弦間昭彦<sup>1)</sup>, 木田厚瑞<sup>1)</sup> 日本医科大学内科学講座呼吸器・感染・腫瘍部門): 気腫合併肺線維症(CPFE)における息苦しさ及び運動耐容能の研究. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会(第21回)(松本市), 2011. 11.
- 14) 田鎖幸江, 瀬川佳余, 伊藤亜紀, 山口敬子, 服部久弥子, 石井健男, 茂木 孝, 木田厚瑞: COPD増悪におけるアクションプランの効果に関する研究. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会(第21回)(松本市), 2011. 11.
- 15) 中村利枝, 茂木 孝, 楠 祐司, 服部久弥子, 石井健男, 山田浩一, 弦間昭彦<sup>1)</sup>, 木田厚瑞<sup>1)</sup> 日本医科大学内科学講座呼吸器・感染・腫瘍部門): 肺機能検査実施患者のアンケートによる実態調査. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会(第21回)(松本市), 2011. 11.
- 16) 國保成暁<sup>1)</sup>, 石井健男, 林 宏紀<sup>1)</sup>, 蔵原美鈴, 茂木 孝, 服部久弥子, 山田浩一, 神尾孝一郎<sup>1)</sup>, 弦間昭彦<sup>1)</sup>, 木田厚瑞<sup>1)</sup> 日本医科大学内科学講座呼吸器・感染・腫瘍部門): 線維化病変を伴う肺気腫の臨床的研究: 高齢者の特徴. 日本老年医学会関東甲信越地方会(第54回)(東京), 2011. 9.
- 17) 茂木 孝, 浦西郁哉<sup>1)</sup>, 加藤省吾<sup>1)</sup>, 堀江健夫<sup>2)</sup>, 桂 秀樹<sup>3)</sup>, 水流聡子<sup>1)</sup>, 飯塚悦功<sup>1)</sup>, 木田厚瑞<sup>1)</sup> 東京大学大学院工学系研究科, <sup>2)</sup> 前橋赤十字病院呼吸器科, <sup>3)</sup> 東京女子医大八千代医療センター): COPD増悪の治療パス作成に向けた多施設間の治療比較調査. 医療の質・安全学会学術集会(第6回)(東京), 2011. 11.
- 18) 若林律子<sup>1)</sup>, 茂木 孝, 山口敬子, 瀬川佳余, 伊藤亜紀, 田鎖幸江, 木田厚瑞<sup>1)</sup> 東海大学 健康科学部看護学科): LINQを用いた慢性閉塞性肺疾患(COPD)患者の情報量の変化に関する研究. 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会(第21回)(松本市), 2011. 11.
- 19) Yamada M<sup>1)</sup>, Ishii T, Ikeda S<sup>1)</sup>, Sawabe M<sup>2)</sup>, Muramatsu M<sup>1)</sup> <sup>1)</sup> Department of Molecular Epidemiology, Moedical Research Institute, Tokyo Medical and Dental University, <sup>2)</sup> Department of Pathology, Tokyo Metropolitan Geriatric Medical Center): Fucosyltransferase 8 (FUT 8) polymorphism, Thr267Lys, is associated with pulmonary emphysema. Chest 2011 (Honolulu), 2011. 10.
- 20) Yamada M<sup>1)</sup>, Ishii T, Ikeda S<sup>1)</sup>, Sawabe M<sup>2)</sup>, Muramatsu M<sup>1)</sup> <sup>1)</sup> Department of Molecular Epidemiology, Moedical Research Institute, Tokyo Medical and Dental University, <sup>2)</sup> Department of Pathology, Tokyo Metropolitan Geriatric Medical Center): Fucosyltransferase 8 (FUT 8) polymorphism, Thr267Lys, is associated with pulmonary emphysema. 日本人類遺伝学会大会(第56回)(幕張), 2011. 11.
- 21) 石井健男, 萩原弘一<sup>1)</sup>, 池田仁子<sup>2)</sup>, 新井富生<sup>3)</sup>, 三重野牧子<sup>4)</sup>, 熊坂利夫<sup>5)</sup>, 村松正明<sup>2)</sup>, 沢辺元司<sup>3)</sup>, 弦間昭彦<sup>6)</sup>, 木田厚瑞<sup>1)</sup> 埼玉医科大学呼吸器内科, <sup>2)</sup> 東京医科歯科大学難治疾患研究所分子疫学講座, <sup>3)</sup> 東京都健康長寿医療センター病理部, <sup>4)</sup> 自治医科大学情報センター・医学情報学, <sup>5)</sup> 日本赤十字医療センター病理部):

サーファクタント蛋白SFTPDの遺伝子多型とCT評価の肺気腫重症度との関連. 呼吸機能イメージング研究会  
学術集会(第4回)(大津市), 2012. 2.

### 3. 健診医療センター

#### 研究概要

健診医療センターでは、認知症の治療に有用な薬剤の効果を調べるための画像診断として利用されるアミロイドイメージングの治験準備を精神神経科と共に進めた。アミロイドイメージングの診断能と再現性を向上するための方法を検討している。新しいPET装置が導入され、多くの経験を積んでいることもあり、Time-of-flightという新技術を利用した臨床診断への応用について様々検討した。特に、高い分解能を得るための画像再構成方法の検討や呼吸停止像の収集方法の検討などで、従来よりも受診者の負担を減らしながら情報量の多い画像の提供に結び付けた。技術系の研究では、体格の大きい患者を想定した画質の劣化したPET像を改善する目的で、収集方法と画質劣化の要因についての検討を行った。新しいPET装置は国内でも徐々に増加しており、当施設での検討が国内の検査へ大きく寄与できると思われる。

#### 研究業績

##### 学会発表

##### (1) 特別講演：

- 1) 櫻井 実<sup>1)</sup>，石原圭一<sup>1)</sup>，汲田伸一郎<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学健診医療センター，<sup>2)</sup> 日本医科大学放射線医学教室)：TOF-PETの臨床応用。関東核医学画像研究会(第54回)(東京)，2012. 3.

##### (2) シンポジウム：

- 1) 櫻井 実<sup>1)</sup>，石原圭一<sup>1)</sup>，汲田伸一郎<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学健診医療センター，<sup>2)</sup> 日本医科大学放射線医学教室)：Time-of-flight PETの臨床応用。日本放射線技術学会総会学術大会(第67回)(横浜)，2012. 3.

##### (3) 一般講演：

- 1) 櫻井 実<sup>1)</sup>，須田匡也<sup>1)</sup>，武井めぐみ<sup>1)</sup>，長谷康二<sup>1)</sup>，金谷浩司<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学健診医療センター)：PET検査における特定 bed 可変収集法の有用性。日本放射線技術学会総会学術大会(第67回)(横浜)，2012. 3.
- 2) 須田匡也<sup>1)</sup>，松本圭一<sup>2)</sup>，櫻井 実<sup>1)</sup>，小野口昌久<sup>3)</sup>，土橋俊男<sup>4)</sup> (1) 日本医科大学 健診医療センター，<sup>2)</sup> 京都医療科学大学，<sup>3)</sup> 金沢大学大学院，<sup>4)</sup> 日本医科大学附属病院 放射線科)：Time of flightにおけるカウントリカバリーの検討。日本放射線技術学会総会学術大会(第67回)(横浜)，2011. 4.
- 3) 櫻井 実<sup>1)</sup>，須田匡也<sup>1)</sup>，長谷康二<sup>1)</sup>，金谷浩司<sup>1)</sup>，武井めぐみ<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学健診医療センター)：FDG-PETの3D連続収集における高分解能再構成画像の検討。日本核医技術学会総会学術大会(第31回)(つくば)，2011. 10.

## 4. 成田国際空港クリニック

### 研究概要

空港クリニックでは、国際空港の救急医療を担う診療機関としての診療実績をまとめ分析することを中心に研究を進めていきたい。H1N12009のインフルエンザ患者の昨年度、一昨年度の状況と以前の患者状況の比較を総括する。また、救急患者や外国人患者の特徴をまとめ明らかにするとともに、発病や傷病の予防につながるようにデータを検討してゆきたい。また、継続的に症例のデータ化を適切に進め、将来様々な角度から検討ができるようにしてゆくとともに、肺血栓塞栓症のような空港内診療所に特徴的な疾患についても継続的に調査検討してゆく。災害時の対処をさらに確実にするための訓練やマニュアルの見直しについても研究して行く予定です。さらに、様々な熱帯感染症の症例について必要に応じて経過について調査し、診断の確実性を高め、必要な検査についても検討して行きたいと考える。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) 村越秀光, 浅野悦洋, 赤沼雅彦, 松本 尚<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター)：空港クリニック放射線科の救急患者対応。日本航空医療学会雑誌 2012；第12巻(第3号)：20-25.

#### 学会発表

##### (1) 一般講演：

- 1) 村越秀光, 浅野悦洋, 赤沼雅彦, 松本 尚<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター)：空港クリニックにおける外国人患者受診状況。日本航空医療学会(第18回)(長崎), 2011. 11.
- 2) 浅野悦洋, 大野嘉隆, 村越秀光, 赤沼雅彦, 松本 尚<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター)：成田国際空港クリニックの旅行者医療。日本航空医療学会(第18回)(長崎), 2011. 11.
- 3) 赤沼雅彦, 浅野悦洋, 村越秀光, 松本 尚<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター)：平成22年成田国際空港総合訓練等における傷病者広域ヘリ搬送の試み。日本航空医療学会(第18回)(長崎), 2011. 11.
- 4) 村越秀光, 浅野悦洋, 岩瀬龍之, 赤沼雅彦：空港クリニックにおける最近5年間の外国人患者受診状況。日本宇宙航空環境医学会(第57回)(筑波), 2011. 11.
- 5) 浅野悦洋, 松浦直子, 赤沼雅彦：成田国際空港クリニックの診療概要。日本旅行医学会東京大会(第4回)(東京), 2011. 11.

##### (2) ポスター発表：

- 1) 赤沼雅彦, 村越秀光, 浅野悦洋, 松浦直子, 岩瀬龍之：日本医科大学成田国際空港クリニックにおける'09年度, '10年度のインフルエンザの検討。日本旅行医学会(第10回)(東京), 2011. 4.
- 2) 浅野悦洋, 大野嘉隆, 村越秀光, 松浦直子, 赤沼雅彦：空港クリニックの救急医療。日本旅行医学会(第10回)(東京), 2011. 4.



[5] そ の 他



# 1. 教育推進室

## 研究概要

教育推進室は、平成14年4月発足以来10年が経過し、本学における医学教育の改革、拡充、充実とともにその研究等、業務内容は拡大し多岐にわたっている。平成23年度は、Faculty Development (FD)の一環として、第8回新任・昇任教員のためのFDワークショップ、第19回医学教育のためのFDワークショップを開催した。教育推進室では、定例教育推進室会議、クリニカル・シミュレーション・ラボ (C. S. Lab.) 運営委員会、模擬患者養成委員会を主催し、また医学英語推進委員会、臨床配属運営委員会及び医史学教育研究会を補佐し幅広い教育及び学会活動を展開している。開設後8年目を迎えたC. S. Lab. では、新入生へのC. S. Lab. オリエンテーションまた4年生の基本臨床実習コースに「C. S. Lab. における臨床技能実習」を導入し、臨床実習に入る学生の臨床技能の習得及び評価に努めた。そして卒業前のAdvanced OSCEにも医療面接課題に加え診察・手技課題を取り入れた。また卒業教育にも力を入れ臨床研修医オリエンテーションC. S. Lab. 講習会を行なった。次に、本年も本学独自の模擬患者を養成し、基本臨床実習コースにおける「医療面接」、「症候から考える」、「総合病態を考える」、共用試験OSCE、卒業前Advanced OSCEに加えて、新入生の医療面接等にも導入し臨床医学教育への活用を実行した。その他医学英語推進委員会、臨床配属運営委員会を通じ、本学の医学英語教育の普及・整備、学生の臨床研究への参加に協力した。

## 研究業績

### 論文

#### 〔追加分〕

追加分原著：

- 1) Minegishi Y<sup>1)</sup>, Sudoh J<sup>1)</sup>, Kuribayashi H<sup>1)</sup>, Mizutani H<sup>1)</sup>, Seike M<sup>1)</sup>, Azuma A<sup>1)</sup>, Yoshimura A, Kudoh S<sup>1)</sup>, Gemma A<sup>1)</sup> (1) Dept Intern Med) : The safety and efficacy of weekly paclitaxel in combination with carboplatin for advanced non-small cell lung cancer with idiopathic interstitial pneumonias. Lung Cancer 2011 ; 71 (1) : 70-74.

(1) 原著：

- 1) 志村俊郎, 吉井文均<sup>1)</sup>, 吉村明修, 阿部恵子<sup>2)</sup>, 高橋優三<sup>3)</sup>, 佐伯晴子<sup>4)</sup>, 藤崎和彦<sup>3)</sup>, 阿曾亮子, 井上千鹿子 (1) 東海大学, 2) 名古屋大学, 3) 岐阜大学, 4) 東京 SP 研究会) : 模擬患者・標準模擬患者 (SP) 養成のカリキュラム 第16期日本医学教育学会教材開発・SP委員会. 医学教育 2012 ; 43 (1) : 33-36.
- 2) Minegishi Y<sup>1)</sup>, Kuribayashi H<sup>1)</sup>, Kitamura K<sup>1)</sup>, Mizutani H<sup>1)</sup>, Kosaihiro S<sup>1)</sup>, Okano T<sup>1)</sup>, Seike M<sup>1)</sup>, Azuma A<sup>1)</sup>, Yoshimura A, Kudoh S<sup>1)</sup>, Gemma A<sup>1)</sup> (1) Dept Intern Med) : The feasibility study of Carboplatin plus Etoposide for advanced small cell lung cancer with idiopathic interstitial pneumonias. J Thorac Oncol 2011 ; 6 (4) : 801-807.

(2) 総説：

- 1) 吉村明修：我が国の医学教育改革の流れとモデル・コア・カリキュラムの変遷. 日医大医会誌 2012 ; 8 (1) : 18-21.

## 著書

### 〔追加分〕

#### 追加分：

- 1) 志村俊郎：〔翻訳〕第29章 医療情報. 医学教育の理論と実践（鈴木康之／錦織 宏），2010；pp310-318，篠原出版新社.
- 1) 志村俊郎：〔分担〕明治期における私立医学校の教育. 日本医学教育史（坂井建雄），2012；pp115-148，東北大学出版会.

## 学会発表

### (1) 一般講演：

- 1) Aso R, Inoue C, Yoshimura A, Shimura T：Pitfalls in training of simulated patients (SPs)：Their response to family history taking. AMEE 2011 An International Association For Medical Education (Vienna), 2011. 8.
- 2) 阿曾亮子, 井上千鹿子, 吉村明修, 志村俊郎, 星野 聡, 日高廣人<sup>1)</sup>, 高柳和江, 吾妻安良太<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学 SP, <sup>2)</sup> 日本医科大学内科)：模擬患者参加の医療面接のシミュレーション：メイクアップによる逼真性. 第8回日本 M&S 医学教育研究会学術大会（大阪），2011. 5.
- 3) 吉村明修, 阿曾亮子, 志村俊郎, 横田裕行<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 石川和信<sup>3)</sup> (1) 日本医科大学救命医学, <sup>2)</sup> 日本医科大学病理学, <sup>3)</sup> 福島県立医科大学)：第5学年臨床実習終了時における臨床技能修得に関する調査. 第43回日本医学教育学会（広島），2011. 7.
- 4) 阿曾亮子, 井上千鹿子, 吉村明修, 志村俊郎, 星野 聡, 日高廣人<sup>1)</sup>, 高柳和江, 吾妻安良太<sup>2)</sup> (1) 日本医科大学 SP, <sup>2)</sup> 日本医科大学内科)：共用試験 OSCE のトレーニングにおける SP の演技の標準化方法の実施とその評価 2：家族歴聴取の質問への対応. 第43回日本医学教育学会（広島），2011. 7.
- 5) 井上千鹿子, 阿曾亮子, 吉村明修, 志村俊郎, 日高廣人<sup>1)</sup> (1) 日本医科大学 SP)：模擬患者（SP）養成におけるチーム基盤型学習（TBL）導入の試み. 第43回日本医学教育学会（広島），2011. 7.
- 6) 齊藤卓弥<sup>1)</sup>, Minton T<sup>2)</sup>, Gremillion D<sup>3)</sup>, 星野 聡, 阿曾亮子, 吉村明修, 志村俊郎 (1) 日本医科大学精神医学, <sup>2)</sup> 日本医科大学英語科, <sup>3)</sup> ノースキャロライナ大学)：ビデオカンファレンスシステムを用いた遠隔医学英語教育. 第43回日本医学教育学会（広島），2011. 7.

## 2. 図書館

### 研究概要

図書館で扱う冊子および電子資料の評価収集，利用者のニーズの分析，データベース，電子ジャーナル等をはじめとする情報提供サービス等の調査研究，インターネットリテラシー教育等に関する研究を主として行う。中でも日本における学術コミュニケーションにおける学術雑誌の役割，今後のあり方に関する問題点の調査分析を経年的に行って来ている。また，特に図書館で扱う本学の歴史に関係する資料の収集・評価およびそれらを用いた研究・調査も行い，明治期における本学の歴史的役割および同窓生の社会に与えた足跡等の調査分析を進めている。

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) 殿崎正明：Bibliometric analysis by Scopus of Hideyo Noguchi's articles cited to the articles published in the world during 1996 to 2010. *Online Kensaku* 2011；32 (1/2)：1-12.
- 2) 殿崎正明，唐沢信安，山本 鼎，幸野 健，志村俊郎：長谷川泰論：済生学舎廃校宣言前後を中心に。日本医史学雑誌 2011；57 (2)：141-141.
- 3) 唐沢信安，志村俊郎，殿崎正明，山本 鼎，幸野 健：長谷川泰の晩年の生活及び人生の苦悩と悟りについての手紙と詩文。日本医史学雑誌 2011；57 (2)：142-142.
- 4) 幸野 健，唐沢信安，山本 鼎，志村俊郎，殿崎正明：フーフエラントの「医戒」と済生学舎の建学の精神について。日本医史学雑誌 2011；57 (2)：183-183.

#### 著書

- 1) 殿崎正明：〔分担〕6. 学校法人日本医科大学設置学校の概要「日本医科大学の済生学舎創立から135年の歩み」。日本獣医生命科学大学創立百三十周年記念誌（日本獣医生命科学大学創立130周年記念誌編集委員会），2011；pp46-55，日本獣医生命科学大学.
- 2) 殿崎正明：〔自著〕情報検索演習 第9版，2011；pp1-133，恒星社.
- 3) 殿崎正明：〔自著〕医学図書館。図書館年鑑（日本図書館協会図書館年鑑編集委員会），2011；pp88-91，社団法人日本図書館協会.



# 付 表



# 1. 各種研究費補助金・研究助成金交付状況

## 1) 平成 23 年度科学研究費補助金交付決定一覧

※は前年度から継続

研究種目	研究代表者	所属・職	直接経費： 千円	研究課題名
新学術領域研究 (研究領域提案型)	小林 克典	薬理学・講師	4,500	モノアミン系機能亢進によるグルタミン酸シナプス表現型変化の解析
基盤研究 (B)	瀧澤 俊広	分子解剖学・大学院教授	2,500	※胎盤特異的マイクロ RNA の機能解析と異常妊娠早期診断への臨床応用のための基盤研究
〃	寺本 明	神経病態解析学・大学院教授	3,900	※下垂体腺腫における miRNA 発現と mRNA の制御に関する研究
〃	佐久間康夫	システム生理学・大学院教授	3,500	※性ホルモンによる脳内神経回路の再構成が思春期に固有の社会行動を発現する機序の解明
〃	田中 信之	遺伝子制御学・大学院教授	4,800	※グルコース代謝の制御を介した癌化の誘導と p53 による癌化抑制機構の解析
〃	島田 隆	分子遺伝医学・大学院教授	3,400	※重篤な遺伝病に対する周産期遺伝子治療 (胎児遺伝子治療に向けた包括的取り組み)
〃	太田 成男	細胞生物学・大学院教授	4,700	新規水素発生素材の経口投与による水素分子の老年病と生活習慣病の予防効果
〃	大久保善朗	精神・行動医学・大学院教授	4,300	アミロイド分子イメージングによる中高年うつ病のアルツハイマー病前駆病変の検出
〃	村田 智	放射線医学・准教授	6,800	難治性膵がんに対する革新的膵灌流療法の開発と臨床応用に関する研究
基盤研究 (C)	洲鎌 秀永	生理学 (生体統御学)・講師	500	※ストレスによるミクログリア活性化メカニズムの解明
〃	岡 敦子	生物学・教授	800	※トランスジェニックカエルを用いた消化管上皮幹細胞のニッチに関する研究
〃	川田 智之	環境医学・大学院教授	200	※交替制勤務者の睡眠習慣・インスリン抵抗性とメタボリック症候群に関する研究
〃	高木 元	内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)・助教	700	※難治性血管炎に対する新規治療法開発
〃	横田 裕行	侵襲生体管理学・大学院教授	400	※ポテンシャルドナーを増やすための補助検査を用いた脳死判定に関する研究
〃	井村 肇	武蔵小杉病院心臓血管・呼吸器・乳腺内分泌外科・准教授	100	※未熟心筋に対する常温下心筋保護の研究：ミトコンドリア保護の重要性とその臨床応用
〃	吉田 大蔵	脳神経外科学・准教授	700	※下垂体腺腫の増殖における SDF-1 の役割に関する分子形態学的研究
〃	齋藤 文仁	薬理学・准教授	700	※モノアミン・セクレチンで制御されるシナプス伝達とその異常
〃	三上 俊夫	スポーツ科学・准教授	1,100	※身体運動は脳での血管新生を促進して学習記憶能力の低下やうつ様行動を改善するか否か

〃	勝又 聖夫	衛生学・公衆衛生学・助教	900	※受動喫煙のストレス評価を唾液中カテコールアミン代謝物等で行う研究
〃	若林あや子	微生物学・免疫学・助教	900	※アルミニウム含有食品添加物の摂取による卵白アルブミン特異的なアレルギー反応の誘導
〃	西谷 里美	生物学・講師	500	※冬緑性草本ヒガンバナの、夏季における栄養塩吸収の意義
〃	長田 真一	皮膚科学・助教	1,000	※上皮間葉相互作用を制御するシグナル経路における Sox13 の役割
〃	李 英姫	衛生学・公衆衛生学・講師	600	※ディーゼル排気粒子による酸化ストレスのマウス肺線維症病態への寄与に関する研究
〃	稲垣 弘文	衛生学・公衆衛生学・講師	500	※ヒト血漿中グランザイム 3 は炎症反応のマーカーとなるか
〃	二神 生爾	内科学（血液・消化器・内分泌代謝部門）・助教	800	※MCP-1 を介した間葉系幹細胞による胃癌組織へのホーミング分子機構の解析
〃	弦間 昭彦	呼吸器感染腫瘍内科学・大学院教授	700	※シグナル情報解析を用いた肺癌分子標的治療感受性予測法の開発とイメージング
〃	清家 正博	内科学（呼吸器・感染・腫瘍部門）・講師	600	※肺癌に対するマイクロ RNA を用いた薬剤感受性予測と治療法の開発
〃	及川 眞一	内科学（血液・消化器・内分泌代謝部門）・教授	800	※酸化ストレス応答とリン脂質酸化変性の意義—単球/マクロファージ接着亢進機序の解明
〃	永野 昌俊	薬理学・講師	1,100	※発達障害に対する科学的根拠に基づいた薬物早期介入療法開発の基礎的研究
〃	伊藤 敬雄	精神医学・嘱託医	800	※自殺予防対策のための効果的な医学教育法の開発
〃	田島 廣之	武蔵小杉病院 放射線科・教授	900	※重症静脈血栓塞栓症に対するハイブリッド IVR 治療システムの新たな研究展開
〃	宮下 正夫	外科学（消化器・一般・乳腺・移植部門）・教授	1,000	※食道扁平上皮癌における SnoN と miRNA に関する分子生物学的解析
〃	石川 朋子	解剖学（分子解剖学）・助教	1,000	※肝内胆管癌におけるマイクロ RNA の役割解明とバイオマーカー開発のための分子基盤
〃	瀧澤 敬美	解剖学（分子解剖学）・助教	900	※莖膜細胞特異的マイクロ RNA の機能解析：卵胞の転写後調節と PCOS での役割解明
〃	Ruby Pawankar	耳鼻咽喉科学・准教授	600	※鼻アレルギー発症機序における上皮細胞の新たな役割—T 細胞、樹状細胞との相互作用
〃	小原澤英彰	武蔵小杉病院 眼科・准教授	800	※ラット網膜虚血—再還流モデルにおける水素点眼の網膜神経保護効果の研究
〃	M GHAZIZADEH	老人病研究所（病理部門）・准教授	1,000	※cAbl チロジンキナーゼ抑制によるケロイドの新しい分子治療の確立と発症機序の解明
〃	土佐眞美子	武蔵小杉病院 形成外科・助教	900	※ケロイド発生に関与する IL-23/IL-17 免疫経路の役割解明と新治療の確立

〃	恩田 秀賢	救急医学・助教	700	※脳代謝モニタリング・網羅的脳代謝解析に基づく心肺停止蘇生後の病態及び治療の研究
〃	濱田 知宏	生理学（システム生理学）・助教	700	※視索前野性的二型核形成過程の可視化による性分化機構の解明
〃	小林 克典	薬理学・講師	1,200	※抗うつ薬の作用基盤としての海馬神経幼若化の解析
〃	大林 茂	千葉北総病院リハビリテーション科・助教	900	※マルチモダル・イメージングを用いた経頭蓋直流電気刺激効果の生体分子メカニズム
〃	西楨貴代美	老人病研究所（生化学部門）・テクニカル・スタッフ	1,100	※酸化ストレス亢進マウスを用いた水素分子による認知症予防効果
〃	平田紀美子	衛生学・公衆衛生学・テクニカル・スタッフ	600	※女性、特に妊産婦に対する POCT を用いたインパクトのある継続的な禁煙支援法の構築
〃	藤崎 弘士	物理学・講師	700	※生体分子の量子ダイナミクス：その理論的解明と制御
〃	木山 裕子	生理学（システム生理学）・講師	700	※脳の性的二型形成におけるエストロゲン制御シグナル伝達経路の解明
〃	小澤 一史	生体制御形態科学・大学院教授	1,000	※思春期発動の性機能神経制御と摂食、ストレス神経制御の三次元機能形態相関の解析
〃	鈴木 秀典	神経情報科学・大学院教授	1,000	※前頭前野セロトニン神経系を標的とした精神疾患治療薬開発の基盤研究
〃	茂木 孝	呼吸ケアクリニック・助教	500	※慢性閉塞性肺疾患の診療における医療の質を保証するためのシステム構築に関する研究
〃	李 卿	衛生学・公衆衛生学・講師	900	※カーバメイト系農薬による免疫毒性及びその機序
〃	雪吹 周生	千葉北総病院 内科・講師	900	※心筋梗塞地域連携クリニカルパスにおける2次予防戦略は心血管イベント抑制に有効か？
〃	木田 厚瑞	呼吸ケアクリニック・教授	500	※喫煙関連呼吸器疾患へのニコチン受容体遺伝子多型の関与の検討
〃	寺崎 泰弘	病理学（解析人体病理学）・講師	1,000	※水素分子の抗酸化力を利用した肺疾患の新しい治療と予防
〃	永田(仁藤)智香子	内科学（神経・腎臓・膠原病リウマチ部門）・助教	800	※脳虚血後の神経細胞死と血管新生における CDK5 活性の役割とその制御機構
〃	猪口 孝一	千葉北総病院 内科・教授	1,000	※MLL-AF4 白血病の S100A6 分子病態と新規分子標的薬の開発
〃	浅田 穰	薬理学・講師	1,100	※Brp2 遺伝子は Ras-MAPK 症候群の原因遺伝子か？モデルマウスと遺伝子解析
〃	植田 高弘	小児科学・講師	1,100	※ヒト人工骨髄の作成と造血幹細胞・白血病幹細胞のニッチの解析研究
〃	船坂 陽子	皮膚科学・准教授	1,100	※悪性黒色腫形成・増殖に関わるシグナルの同定、特に紫外線誘発黒色腫形成機序の解明
〃	舘野 周	精神医学・講師	600	※神経メラニン MRI を用いた難治性うつ病のドーパミン、ノルアドレナリン機能評価研究

〃	山下 浩二	外科学（内分泌・心臓血管・呼吸器部門）・准教授	1,500	※SPECT 合成 3D-CT 乳腺リンパ管造影によるセンチネルリンパ節生検の検証
〃	平方 敦史	多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科・助教	1,200	※大動物モデルによる膵島移植の免疫学的特異性に基づいた非侵襲的免疫寛容誘導法の確立
〃	相本 隆幸	外科学（消化器・一般・乳腺・移植部門）・准教授	900	※膵癌に対する MDA/IL24 を用いた新規遺伝子治療の開発
〃	石渡 俊行	病理学（統御機構・腫瘍学）・准教授	1,100	※FGFR2IIIC アイソフォームの制御による膵臓癌の治療戦略
〃	渡邊 淳	生化学・分子生物学（分子遺伝学）・准教授	1,000	※遺伝子変異型により分類化した血管型エーラス・ダンロス症候群の治療手法の開発
〃	高橋 秀実	生体防御医学・大学院教授	800	※膀胱癌に対する BCG 注入療法作用機序の解明
〃	澤 倫太郎	産婦人科学・講師	1,200	※胎児血管特性を応用したアデノシン誘導型 DES の開発
〃	松根 彰志	武蔵小杉病院 耳鼻咽喉科・教授	900	※マクロライドによる「ステロイド減量効果」と難治性副鼻腔炎の新しい治療法の研究
〃	高橋 浩	感覚器視覚機能医学（眼科学）・大学院教授	1,000	※眼科手術用灌流液への水素ガス応用の研究
〃	清水 一	老人病研究所（病理部門）・マネジメントサポート・スタッフ	800	※ケロイドにおける COLIA2 プロモーターの転写に関わる microRNA の発現調節
〃	百束 比古	形態機能再生再建医学（形成外科学）・大学院教授	1,000	※顎骨における水平的骨増生を目指した組織工学的手法の検討
〃	増野 智彦	救急医学・講師	1,000	※ショック後腸管リンパ液生理活性および臓器障害に対する腸管由来アラキドン酸の関与
挑戦的萌芽研究	大久保善朗	精神・行動医学・大学院教授	800	※サブスタンス P 受容体を標的とした新規アルコール依存症治療薬の探索と脳機能画像評価
若手研究 (A)	松田 陽子	病理学（統御機構・腫瘍学）・講師	2,900	※幹細胞マーカー Nestin を標的とした膵癌新規治療の開発
若手研究 (B)	小川 真司	千葉北総病院リハビリテーション科・助教	600	※脳磁図—運動誘発磁場—を利用した、訓練による運動学習効果の研究
〃	鈴木 由香	老人病研究所（疫学部門）・助教	900	※タンパク質栄養状態の悪化による肝臓のインスリン活性増強機構の解明とその生理的意義
〃	大塚 俊昭	衛生学・公衆衛生学・講師	1,300	※職業性ストレスによる心血管疾患発症機序の解明：マルチバイオマーカーを用いた検討
〃	池田裕美子	薬理学・助教	900	※予後因子としての神経栄養因子動態に基づく難治性うつ病に対する電気痙攣療法の最適化
〃	松下 晃	多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科・助教	1,100	※膵癌に対する neuropilin-1 を標的とした新たな治療法の開発
〃	坂本俊一郎	外科学（内分泌・心臓血管・呼吸器部門）・助教	500	※心房細動治療における除神経術：心内膜下自律神経ネットワークの解明
〃	川島 徹生	多摩永山病院 呼吸器外科・特別研究生	800	※肺癌制御における CD1 脂質抗原提示系の役割

〃	金 景成	千葉北総病院 脳神経外科・助教	1,100	※腰椎黄色靭帯における血管新生及び血管増生に関する研究
〃	新藤 晋	耳鼻咽喉科学・助教	600	※新しい外リンパ瘦診断マーカー CTP の時空間的発現の検討
〃	江浦 重義	形成外科学・助教	800	※ビスフォスフォネート誘発顎骨壊死に対する幹細胞治療の開発
〃	石井 寛高	生理学 (システム生理学)・助教	800	※神経系における核外エストロゲン受容体を介したエストロゲン急性作用機構の解明
〃	山本 哲志	病理学 (統御機構・腫瘍学)・助教	1,300	※ルミカンの糖鎖制御による膵臓癌細胞増殖・転移機構制御法の開発と治療応用
〃	林 明聡	内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)・助教	200	※肺静脈隔離術後早期に出現する心房細動に対する抗不整脈薬の有用性の検討
〃	早川 潤	小児科学・講師	900	※ヘモグロビンクラススイッチの解明とヘモグロビン異常症の新しい治療戦略の基礎的研究
〃	眞野あすか	生理学 (生体統御学)・講師	1,000	※新しい薬物治療を目指した神経性食欲不振症の病態でのグレリンと CRF の役割の解明
〃	伊藤 滋朗	武蔵小杉病院 精神科・助教	900	※HIV 陽性者に関する神経機能画像研究
〃	水谷 聡	武蔵小杉病院消化器病センター・助教	500	※消化器癌のミトコンドリア DNA 変異と抗癌剤耐性との関連を分子生物学的に解明する
〃	坂井 敦	薬理学・助教	1,000	※GDNF による下行性ノルアドレナリン神経機能の強化を介した鎮痛の検討
〃	彭 為霞	病理学 (統御機構・腫瘍学)・助教	1,200	※FGFR2IIIc アイソフォームの発現制御による子宮頸癌の新たな治療戦略
〃	菊池 邦生	解剖学 (分子解剖学)・講師	1,000	※胎盤におけるマイクロ RNA 発現メカニズムと機能解析：IUGR の新たな分子基盤研究
〃	アリモハメド	解剖学 (分子解剖学)・助教	1,000	※胎盤特異的マイクロ RNA による新たな T 細胞制御の仕組み解明への挑戦
〃	関根 久遠	武蔵小杉病院 耳鼻咽喉科・助教	900	※内耳疾患における miRNA の機能解明と新たな診断マーカーの開発
〃	小川 令	形成外科学・准教授	1,200	※静水圧を負荷した脂肪組織由来幹細胞による生体内軟骨再生

2) 平成 23 年度科学研究費補助金研究分担の採択・交付状況

※は前年度から継続

研究分担者・所属	研究種目	研究代表者・所属	研究課題名
1 山崎 峰雄 内科学 (神経・腎臓・ 膠原病リウマチ部 門)	基盤研究 (B)	小柳 清光 信州大学 医学部	※筋委縮性側索硬化症の運動ニューロ ン死：リボゾーム RNA 遺伝子転写 と TDP-43
2 宮下 次廣 放射線医学	〃	宮川 成雄 早稲田大学 法学学術 院(大学院法務研究科)	臨床法学教育の課題と法科大学院教 育の再検討
3 野村 俊明 心理学	〃	青木紀久代 お茶の水女子大学 大 学院人間分化創成科学 研究科	学校における心の健康と発達支援～ 学校力と地域・分化資源の活用
4 岡 敦子 生物学	〃	井筒 ゆみ 新潟大学 自然科学系	自己抗原タンパク質を介して組織リ モデリングに働く獲得免疫システム
5 清水 章 病理学 (解析人体病 理学)	〃	山田 和彦 鹿児島大学 フロン ティアサイエンス研究 推進センター	GvHR によるドナーキメラ増強作用 に基づく大動物小腸移植での革新的 免疫寛容誘導法
6 瀧澤 俊広 分子解剖学	〃	齋藤 滋 富山大学 大学院医学 薬学研究部	免疫寛容という立場から正常妊娠、 異常妊娠を再考する
7 服部 幹彦 整形外科学	基盤研究 (C)	香川 隆英 森林総合研究所 森林 管理研究領域	※森林セラピー基地整備が中山間自治 体に与える効果の多角的モニタリ ング研究
8 吉本 正美 解剖学(生体構造学)	〃	山本 直之 名古屋大学 大学院生 命農学研究科	※魚類の味覚および内臓感覚神経路— 感覚系的全貌理解を目指して
9 鈴木 秀典 神経情報科学	〃	荻部 洋行 日本歯科大学 生命歯 学部	※歯科恐怖における脳神経メカニズム と精神科的アプローチの効果に関す る脳機能画像研究
10 大久保善朗 精神・行動医学	〃	荻部 洋行 日本歯科大学 生命歯 学部	※歯科恐怖における脳神経メカニズム と精神科的アプローチの効果に関す る脳機能画像研究
11 館野 周 精神医学	〃	荻部 洋行 日本歯科大学 生命歯 学部	※歯科恐怖における脳神経メカニズム と精神科的アプローチの効果に関す る脳機能画像研究
12 大久保善朗 精神・行動医学	〃	西條 朋行 東京芸術大学 大学院 映像研究科	※電気けいれん療法前後の脳内ドーパ ミン受容体についての研究
13 一宮 哲哉 精神医学	〃	西條 朋行 東京芸術大学 大学院 映像研究科	※電気けいれん療法前後の脳内ドーパ ミン受容体についての研究
14 平川 慶子 法医学	〃	佐藤 格夫 京都大学 医学研究科	※敗血症病態における画像を用いた生 体内熱エネルギー動態と生体内代謝 動態の可視化
15 増野 智彦 救急医学	〃	佐藤 格夫 京都大学 医学研究科	※敗血症病態における画像を用いた生 体内熱エネルギー動態と生体内代謝 動態の可視化
			補助金直接経費合計額 2,720,000 円

3) 平成 23 年度学術研究助成基金助成金交付決定一覧

※は前年度から継続

研究種目	研究代表者	所属・職	直接経費： 千円	研究課題名
基盤研究 (C)	上村 尚美	老人病研究所 (生化学部門)・講師	1,500	生体内酸化ストレスの定量的評価システムを用いた水素分子による糖尿病改善効果の解析
〃	中村 哲子	外国語・准教授	900	19 世紀アイルランド小説のアイリッシュネスの発展と拡散に関する研究
〃	菊地 浩人	物理学・准教授	2,300	キサンチン酸化還元酵素における阻害剤の作用の研究—「鍵と鍵穴」のドグマを超えて
〃	加藤 昌克	生理学 (システム生理学)・准教授	2,600	ラットゴナドトロピン放出ホルモンニューロンの興奮性を規定するイオンチャンネルの解明
〃	折笠千登世	生理学 (システム生理学)・講師	1,100	組み換えアデノウイルスベクターを用いた脳の性差形成機構の解明
〃	内藤 善哉	統御機構病理学・大学院教授	1,300	膵臓癌幹細胞の同定と新たな治療への試み
〃	高橋 謙治	付属病院 リウマチ科・准教授	1,400	ラジオ波温熱刺激を用いた変形性関節症の疼痛抑制効果に関する研究
〃	林田真喜子	法医学・准教授	2,400	QTOF 質量分析装置を用いたベンゾジアゼピン系薬物分析法の新展開
〃	中西 一浩	麻酔科学・准教授	1,100	難治性がん性疼痛患者におけるくも膜下モルヒネ鎮痛法の費用対効果
〃	坂本 長逸	内科学 (血液・消化器・内分泌代謝部門)・教授	1,700	慢性胃炎進展とシクロオキシゲナーゼ 2 遺伝子単塩基変異の役割
〃	吾妻安良太	内科学 (呼吸器・感染・腫瘍部門)・教授	1,700	線維化病態における骨髄前駆線維細胞の役割と新規治療薬の効果判定に関する研究
〃	功刀しのぶ	病理学 (解析人体病理学)・助教	2,500	間質性肺炎における血管新生関連因子の機能解析と臨床応用
〃	三品 雅洋	内科学 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)・講師	2,300	PET を用いたアデノシン受容体とパーキンソン病の不随意運動の関係についての研究
〃	三宅 弘一	生化学・分子生物学 (分子遺伝学)・准教授	1,500	ダイヤモンド・ブラックファン貧血の新規分子病態の解明と治療法の開発
〃	深澤 隆治	小児科学・准教授	2,400	川崎病発症機構の解明
〃	小川 俊一	小児科学・教授	1,500	血管炎の急性期における血管平滑筋細胞の形質転換に伴う細胞機能・応答機構の解明
〃	勝部 康弘	武蔵小杉病院 小児科・准教授	1,800	Na/Ca 交換輸送が胎児・新生児の動脈管と末梢肺動脈の血管緊張度にはたす役割
〃	村上 隆介	放射線医学・講師	1,600	デュアルエネルギーサブトラクション法によるマンモグラフィに関する研究
〃	松谷 毅	外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)・助教	1,400	外科的侵襲時の脂肪細胞の役割と塩酸ピオグリタゾン投与の有効性
〃	石井 永一	病理学 (解析人体病理学)・特別研究生	1,500	ラット肝臓移植モデルにおける免疫寛容獲得の機序と抗炎症作用を用いた治療応用

〃	内田 英二	臓器病態制御外科学・大学院教授	1,200	In vivo イメージングシステムを用いた膀胱治療実験
〃	五十嵐健人	外科学（内分泌・心臓血管・呼吸器部門）・講師	1,900	バセドウ病患者における個別化医療実現のための基礎的研究
〃	新田 隆	外科学（内分泌・心臓血管・呼吸器部門）・教授	2,200	ダブル・ポテンシャル・マッピング法：伝導ブロックの新しい検証法の開発
〃	石橋 宰	解剖学（分子解剖学）・講師	1,700	妊娠高血圧症候群に伴う蛋白尿発症に関わるマイクロRNAの同定と機能解析
〃	三枝 英人	耳鼻咽喉科学・講師	1,500	慢性期統合失調症患者に発症する嚥下障害の実態調査と病態解明のための研究
〃	亀谷 修平	千葉北総病院 眼科・講師	2,300	α1-Syntrophin 欠損マウスを用いた視神経脊髄炎の病態解析
〃	堀 純子	眼科学・准教授	1,800	眼内微小環境の恒常性維持の分子機構の解析と眼組織移植への応用
〃	高見 佳宏	形成外科学・准教授	1,700	幹細胞とコラーゲン架橋を導入した無細胞真皮マトリックスによる結合組織の再生
〃	大泉 旭	救急医学・助教	1,600	出血性ショック後臓器障害発生における軟部組織損傷の役割に関する研究
挑戦的萌芽研究	松田 陽子	病理学（統御機構・腫瘍学）・講師	900	3次元培養での癌幹細胞研究方法の確立
〃	江本 直也	千葉北総病院 内科・准教授	900	神経経済学的観点に基づく糖尿病患者の行動経済学的分析
〃	飯島 典生	解剖学（生体構造学）・准教授	900	光ファイバーを介した蛍光測光による脳深部遺伝子発現のリアルタイムモニタリング
〃	芝崎 保	生体統御科学・大学院教授	1,600	SGA 性低身長機序における GH-IGF-1 軸へのエピジェネティック変異関与の解明
〃	寺本 明	神経病態解析学・大学院教授	2,100	下垂体腫瘍における miRNA の機能解析
〃	米山 剛一	千葉北総病院女性診療科・産科・講師	600	剖検肺組織標本のマイクロRNA網羅的発現解析による羊水塞栓症発症機序解明への挑戦
〃	石井 暢明	形成外科学・助教	900	ケロイド由来線維芽細胞のカルシウムイオンチャネル解析
〃	布施 明	救急医学・講師	2,200	Microwave 照射による新しいびまん性脳損傷モデルの開発
若手研究 (B)	秋山 健一	医療管理学・助教	1,700	専門職間連携教育用シミュレーション型演習の開発に関する研究
〃	太良 修平	内科学（循環器・肝臓・老年・総合病態部門）・助教	1,000	重症虚血下肢に対する低侵襲型血管新生療法の確立
〃	根井 貴仁	付属病院 総合診療科・助教	1,900	間質性肺炎患の末梢血中線維細胞に関する研究
〃	永坂 真也	病理学（解析人体病理学）・助教	2,000	新規樹状細胞サブセットによる糸球体腎炎の発症・進展機構解明と治療応用
〃	三井亜希子	内科学（神経・腎臓・膠原病リウマチ部門）・助教	1,200	造血幹細胞移植後の血栓性微小血管症の発症機序の解明
〃	藤田恵美子	内科学（神経・腎臓・膠原病リウマチ部門）・助教	1,300	腎疾患における抗炎症性マクロファージの誘導と治療応用

〃	根本 崇宏	生理学 (生体統御学)・講師	1,400	出生時低体重児にみられるストレスに対する脆弱性への非翻訳 RNA 発現異常の関与
〃	山口 智	耳鼻咽喉科学・助教	900	咽頭蠕動波は咽頭期嚥下の絶対的な基準となり得るか?
〃	北原 由紀	多摩永山病院 眼科・助教	2,000	羊膜由来幹細胞の移植による網膜機能の再生
〃	五十嵐 勉	眼科学・講師	1,100	siRNA 技術を用いた遺伝子治療研究
〃	飛田 護邦	形成外科学・特別研究生	1,800	ヒト脂肪組織幹細胞の扁平上皮癌細胞に対する影響
〃	和田 剛志	救急医学・助教	1,400	Ang/Tie2 が関与する敗血症性臓器障害発症機序解明とその制御法の確立

---

## 4) 平成 23 年度学術研究助成基金助成金研究分担の採択・交付状況

研究分担者・所属	研究種目	研究代表者・所属	研究課題名
1 藤崎 弘士 物理学	基盤研究 (C)	高見 利也 九州大学 情報基盤研 究開発センター	身近な非線形現象に対するマルチス ケールの手法の確立と応用
2 片山 映 生化学・分子生物学 (代謝・栄養学)	〃	奥山 康司 横浜市立大学 医学部	異型性の分子基盤の追求 (がん遺伝子 KRAS 下流分子のプロテオーム解析か ら)
3 永原 則之 衛生学・公衆衛生学	〃	奥山 康司 横浜市立大学 医学部	異型性の分子基盤の追求 (がん遺伝子 KRAS 下流分子のプロテオーム解析か ら)
4 江本 直也 千葉北総病院 内科	〃	小谷野 肇 順天堂大学 医学部	糖尿病地域医療連携コーディネーター 養成プログラムの開発研究
5 岸 泰宏 武蔵小杉病院 精神 科	〃	八田耕太郎 順天堂大学 医学部	せん妄の治療, 予防, 医療安全に関す る実証研究
6 平川 慶子 法医学	〃	鈴木 崇生 京都大学 医学研究科	核磁気共鳴法を応用した敗血症重症化 早期診断の確立と新規治療ターゲット の開拓
7 鴨井 久博 千葉北総病院 歯科	〃	川村 浩樹 日本歯科大学 生命歯 学部	唾液メタボローム解析による歯周病検 出技術の確立
補助金直接経費合計額			1,470,000 円

5) 平成 23 年度補助・委託一覧

研究者	所属	代表 分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
菊地 浩人、 高見 利也	自然科学・物理学	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	生体分子の量子ダイナミクス；その 理論的解明と制御 (課題番号 22540421)	藤崎 弘士	日本医科大学 医学部
藤崎 弘士	自然科学・物理学	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	身近な非線形現象に対するマルチス ケール的手法の確立と応用 (課題番 号 23540454)	高見 利也	九州大学 情報基盤研 究開発センター
藤崎 弘士	自然科学・物理学	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	キサンチン酸化還元酵素における阻 害剤の作用の研究―「鍵と鍵穴」のド グマを超えて (課題番号 23570198)	菊地 浩人	日本医科大学 医学部
西谷 里美	自然科学・生物学	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	冬緑性草本ヒガンバナの、夏季にお ける栄養塩吸収の意義	西谷 里美	日本医科大学
高市 真一	自然科学・生物学	分担	科学研究費補助金 新学術領域研究	サンゴの白化耐性における長鎖多価 不飽和脂肪酸含有脂質の膜遮蔽効果	奥山英登志	北海道大学
岡 敦子	自然科学・生物学	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	トランスジエニツクカエルを用いた 消化管上皮幹細胞のニッチに関する 研究	岡 敦子	日本医科大学
岡 敦子	自然科学・生物学	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	自己抗原タンパク質を介して組織リ モアリンゲンに働く獲得免疫システ ム	井筒 ゆみ	新潟大学
中村 哲子	外国語・英語・ドイツ語	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	19世紀アイルランド小説のアイ リッシュエネオスの発展と拡散に関 する研究	中村 哲子	日本医科大学外国語教 室
武藤三千代	スポーツ科学	分担	(財)簡易保険加入者 協会	全国建設業・運輸業関連企業にお けるラジオ体操の普及状況調査	渡部 鎌二	神奈川県立保健福祉大 学
	スポーツ科学	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	身体運動は脳での血管新生を促進し て学習記憶能力の低下やうつ様行動 を改善するか否か	三上 俊夫	
	スポーツ科学	代表	タヒチアンノニ ン株式会社	モリンダシトリフォリアの生理活性 の探究	三上 俊夫	
	スポーツ科学	代表	すこやか食品株式 会社	還元型および酸化型コエンザイム Q10の投与がストレス由来のうつ様 行動の予防に効果があるか否かにつ いての検討	三上 俊夫	
	スポーツ科学	代表	東洋発酵株式 会社	イノシンの神経保護効果についての 研究	三上 俊夫	
菊池 邦生	解剖学講座 (分子解剖学)	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	胎盤におけるマイクロRNA発現メ カニズムと機能解析：IUGRの新た な分子基盤研究	菊池 邦生	
アリ メド	解剖学講座 (分子解剖学)	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	胎盤特異的マイクロRNAによる新 たなT細胞制御の仕組み解明への 挑戦	アリ メド	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
竹下 俊行、 松原 茂樹、 石橋 幸、 瀧澤 俊広、 竹下 俊行	解剖学講座 (分子解剖学)	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	胎盤特異的マイクログル RNA の機能解 析と異常妊娠早期診断への臨床応用 のための基盤研究	瀧澤 俊広	
石橋 俊広、 竹下 俊行	解剖学講座 (分子解剖学)	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	妊娠高血圧症候群に伴う蛋白尿発症 に関わるマイクログル RNA の同定と機 能解析	石橋 幸	
石橋 幸	解剖学講座 (分子解剖学)	代表 分担	日本妊娠高血圧学会 課題研究	妊娠高血圧症候群胎盤において発現 変動を認めるマイクログル RNA の診断 マーカーとしての可能性の検討, お よびその胎盤におけるマイカー RNA の役割解明とバイオマーカー開発の ための分子基盤	石川 源	日本医科大学産婦人科 学講座
吉田 寛、 菊池 邦生	解剖学講座 (分子解剖学)	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	肝内胆管癌におけるマイクログル RNA の役割解明とバイオマーカー開発の ための分子基盤	石川 朋子	
瀧澤 俊広	解剖学講座 (分子解剖学)	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	免疫寛容という立場から正常妊娠, 異常妊娠を再考する	齋藤 滋	富山大学医学部
石橋 幸、 瀧澤 俊広、 竹下 俊行	解剖学講座 (分子解剖学)	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	莢膜細胞特異的マイクログル RNA の機 能解析: 卵胞の転写後調節と PCOS での役割解明	瀧澤 敬美	
飯島 典生	解剖学講座 (生体構造学)	代表	科学研究費補助金 萌芽研究	光ファイバーを介した蛍光剛光によ る脳深部遺伝子発現のリアタイムモ ニタリング	飯島 典生	
飯島 典生、 春英	解剖学講座 (生体構造学)	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	思春期発動の性機能神経制御と摂 食、ストレス神経制御の3次元機能 形態相関の解析	小澤 一史	
加藤 昌克、 木山 裕子、 折笠千登世、 濱田 知宏、 石井 寛高	生理学講座 (システム生理学)	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	性ホルモモンによる脳内神経回路の再 構成が思春期に固有の社会行動を発 現する機序の解明	佐久間康夫	
加藤 昌克	生理学講座 (システム生理学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ラットゴナドトロピンの放出ホルモ ンニューロンの興奮性を規定するイ オンチャネルの解明	加藤 昌克	
木山 裕子	生理学講座 (システム生理学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	脳の性的二型形成におけるエストロ ゲン制御シグナル伝達経路の解明	木山 裕子	
佐久間康夫	生理学講座 (システム生理学)	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	組換えアデノウィルスベクターを用 いた脳の性差形成機構の解明	折笠千登世	
佐久間康夫	生理学講座 (システム生理学)	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	視索前野性的二型核形成過程の可視 化による性分化機構の解明	濱田 知宏	
石井 寛高	生理学講座 (システム生理学)	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	神経系における核外エストロゲン受 容体を介したエストロゲン急性作用 機構の解明	石井 寛高	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
佐久間康夫	生理学講座(システム生理学)	代表分担	私立大学戦略的研究基盤形成支援事業	中枢神経系疾患の診断・治療技術の創出を指向した基礎・臨床融合型研究の基盤形成	寺本 明	
根本 崇宏	生理学講座(生体統御学)	代表	公益財団法人 喫煙科学研究財団研究助成金	妊娠前の母ラットあるいは父ラットへのニコチン投与により生じる出生時低体重の解析	根本 崇宏	
根本 崇宏	生理学講座(生体統御学)	代表	科学研究費補助金(若手研究(B))	出生時低体重児にみられるストレス発現異常の関与	根本 崇宏	
眞野あすか	生理学講座(生体統御学)	代表	科学研究費補助金(若手研究(B))	新しい薬物治療を指した神経性食欲不振症の病態でのグレリンとCRFの役割の解明	眞野あすか	
芝崎 保 根本 崇宏 大島 久幸	生理学講座(生体統御学)	代表	科学研究費補助金(萌芽研究)	SGA 性低身長機序におけるGH-IGF-1軸へのエビデネティック変異関与の解明	芝崎 保	
芝崎 保	生理学講座(生体統御学)	分担	厚生労働省科研費補助金	中枢性摂食異常症に関する調査研究	小川 佳宏	東京医科歯科大学難治疾患研究所分子代謝医学分野
洲鎌 秀永	生理学講座(生体統御学)	代表	科学研究費補助金(基盤研究(C))	ストレスによるミミクログリア活性化メカニズムの解明	洲鎌 秀永	
折茂 英生	生化学・分子生物学講座(代謝・栄養学)	分担	厚生労働省科研費補助金	低フォスファターゼ症の個別最適治療に向けた基礎的・臨床的検討	大藪 恵一	大阪大学大学院医学系研究科小児科学
岩崎 俊雄	生化学・分子生物学講座(代謝・栄養学)	代表	日本学術振興会 ポトムアップ型国際共同研究事業「国際化学研究協力事業(ICCプログラム)」	好熱菌モデル酵素の金属クラスター電子構造に強く影響する周辺骨格領域の可視化	岩崎 俊雄	
岡本 研	生化学・分子生物学講座(代謝・栄養学)	代表	JAXA	宇宙環境を利用した高品質タンパク質結晶生成と精密立体構造の解析(第5回実験)	岡本 研	
岡本 研	生化学・分子生物学講座(代謝・栄養学)	分担	科学研究費補助金(基盤研究(C))	キサントニン酸化還元酵素における阻害剤の作用の研究:「鍵と鍵穴」のドグマを超えて	菊地 浩人	
島田 隆	生化学・分子生物学講座(分子遺伝学)	分担	厚生労働省科研費補助金	ライオンゾーム病(ファブリ病含む)に関する調査研究	衛藤 義勝	東京慈恵会医科大学
島田 隆	生化学・分子生物学講座(分子遺伝学)	分担	厚生労働省科研費補助金	低フォスファターゼ症の個別最適治療に向けた基礎的臨床的研究	大藪 恵一	大阪大学
島田 隆	生化学・分子生物学講座(分子遺伝学)	代表	科学研究費補助金(基盤研究(B))	重篤な遺伝病に対する周産期遺伝子治療(胎児遺伝子治療に向けた包括的取組み)	島田 隆	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
渡邊 淳	生化学・分子生物学講座 子遺伝学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	遺伝子変異型により分類化した血管型エーラス・ダンロス症候群の治療手法の開発	渡邊 淳	
三宅 弘一	生化学・分子生物学講座 子遺伝学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ダイヤモンド・ブラックファン血の新規分子病態の解明と治療法の開発	三宅 弘一	
渡邊 淳	生化学・分子生物学講座 子遺伝学)	主任	厚生労働省科研費補助金	過剰運動<hypermobility>症候群類縁疾患における病態解明	渡邊 淳	
渡邊 淳	生化学・分子生物学講座 子遺伝学)	分担	厚生労働省科研費補助金	エーラス・ダンロス症候群(主に血管型および新型)の実態把握および診療指針の確立	古庄 知己	信州大学
渡邊 淳	生化学・分子生物学講座 子遺伝学)	代表	個人の遺伝情報に応じた医療実現化プロジェクト (第2期)	先端医学研究に関する倫理的・法的・社会的課題についての調査研究(臨床応用を視野に入れたオーダーメイド遺伝子医療のELSIに関する調査研究)	渡邊 淳	
齋藤 文仁, 永野 昌俊, 小林 克典, 坂井 敦, 佐藤 寛栄, 永野 昌俊	薬理学講座	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	前頭前野セロトニン神経系を標的とした精神疾患治療薬開発の基盤研究	鈴木 秀典	
齋藤 文仁, 永野 昌俊	薬理学講座	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	モノアミン・セクレチンで制御されるシナプス伝達とその異常	齋藤 文仁	
鈴木 秀典, 坂井 敦, 羽田 栄輔, 水谷 修紀, 池田裕美子	薬理学講座	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	発達障害に対する科学的根拠に基づいた薬物早期介入療法の基礎的研究	永野 昌俊	
小林 克典	薬理学講座	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	Brap2 遺伝子は Ras-MAPK 症候群の原因遺伝子か? モデルマウスと遺伝子解析	浅田 穰	
小林 克典	薬理学講座	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	抗うつ薬の作用基盤としての海馬神経幼若化の解析	小林 克典	
池田裕美子	薬理学講座	代表	科学術領域補助研究 科学研究費補助金 若手研究 (B)	モノアミン系機能亢進によるグルタミン酸シナプス表現型変化の解析 予後因子としての神経栄養因子動態に基づく難治性うつ病に対する電気痙攣療法の最適化	池田裕美子	
坂井 敦	薬理学講座	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	GDNF による下行性ノルアドレナリン神経機能の強化を介した鎮痛の検討	坂井 敦	
鈴木 秀典	薬理学講座	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	歯科恐怖における脳神経メカニズムと精神科的アプローチの効果に関する脳機能画像研究	坂井 敦	日本歯科大学

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
鈴木 秀典	薬理学講座	分担	科学研究費補助金 萌芽研究	サブスタンスP受容体を標的とした新規アルコール依存症治療薬の探索と脳機能画像評価	大久保善朗	日本医科大学精神医学講座
鈴木 秀典	薬理学講座	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	アミロイド分子イメージングによる中高年うつ病のアルツハイマー病前駆病変の検出	大久保善朗	日本医科大学精神医学講座
鈴木 秀典	薬理学講座	分担	私立大学戦略的研究 基盤形成支援事業	中枢神経系疾患の診断・治療技術の創出を指向した基礎・臨床融合型研究の基盤形成	寺本 明	
小林 克典	薬理学講座	分担	科学技術振興機構 JST 戦略的創造研究 推進事業 CREST	精神疾患モデルマウスの神経活動の生理学的解析	宮川 剛	藤田保健衛生大学
鈴木 秀典	薬理学講座	分担	科学技術振興機構 JST 戦略的創造研究 推進事業 CREST	行動異常の薬理学的研究	内匠 透	広島大学
福田 悠	病理学講座(解析人体病理学)	分担	厚生労働省科研費補助金	難治性疾患克服研究事業 肺疾患に関する調査研究	杉山幸比古	自治医科大学呼吸器内科
寺崎 泰弘	病理学講座(解析人体病理学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	水素分子の抗酸化力を利用した肺疾患の新しい治療と予防	寺崎 泰弘	
功刀しのぶ	病理学講座(解析人体病理学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	間質性肺炎における血管新生関連因子の機能解析と臨床応用	功刀しのぶ	
永坂 真也	病理学講座(解析人体病理学)	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	新規樹状細胞サブセットによる糸球体腎炎の発症・進展機構解明と治療応用	永坂 真也	
永坂 真也	病理学講座(解析人体病理学)	代表	BioLegend/Tomy Digital Biology Research Award 2011	腎局在樹状細胞及びマクロファージを介した糸球体腎炎発症・進展メカニズムの解明	永坂 真也	
石井 永一	病理学講座(解析人体病理学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ラット肝臓移植モデルにおける免疫寛容獲得の機序と抗炎症作用を用いた治療応用	石井 永一	
清水 章	病理学講座(解析人体病理学)	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	GvHR によるドナーキメラ増強作用に基づく大動物小腸移植での革新的免疫寛容誘導法	山田 和彦	鹿児島大学フロンティアサイエンス研究推進センター
内藤 善哉	病理学講座(統御機構・腫瘍学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	脾臓癌幹細胞の同定と新たな治療への試み	内藤 善哉	
川瀬里衣子	病理学講座(統御機構・腫瘍学)	代表	第二回ロート女性健康科学研究会助成医学	子宮頸癌におけるFGFR2IIIcを標的とした新規分子標的治療法の基礎的検討	川瀬里衣子	
石渡 俊行	病理学講座(統御機構・腫瘍学)	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	FGFR2IIIc アイソフォームの制御による脾臓癌の治療戦略	石渡 俊行	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
松田 陽子	病理学講座 (統御機構・腫瘍学)	代表	科学研究費補助金若手研究 (A)	幹細胞マーカー Nestin を標的とした降癌新規治療の開発	松田 陽子	
山本 哲志	病理学講座 (統御機構・腫瘍学)	代表	科学研究費補助金若手研究 (B)	ルミカノンの糖鎖制御による腫瘍細胞増殖・転移機構制御法の開発と治療応用	山本 哲志	
彭 為霞	病理学講座 (統御機構・腫瘍学)	代表	科学研究費補助金若手研究 (B)	FGFR2IIIc アインフォームの発現制御による子宮頸癌の新たな治療戦略	彭 為霞	
松田 陽子	病理学講座 (統御機構・腫瘍学)	代表	日本降癌学会 第5回国際優秀演題賞	降癌幹細胞における nestin の発現と役割の検討	松田 陽子	
秋山美知子	病理学講座 (統御機構・腫瘍学)	代表	第6回リパネス研究費 トライアングル賞	幹細胞マーカー nestin を標的とした悪性黒色腫の新規治療法開発へ向けた研究	秋山美知子	
松田 陽子	病理学講座 (統御機構・腫瘍学)	代表	科学研究費補助金萌芽研究	3次元培養での癌幹細胞研究方法の確立	松田 陽子	
萩尾 真人	病理学講座 (統御機構・腫瘍学)	代表	科学研究費補助金萌芽研究	循環血中腫瘍細胞における細胞骨格タンパク質の LCMS 解析	萩尾 真人	
若林あや子	微生物学・免疫学講座	代表	科学研究費補助金基盤研究 (C)	アルミニウム含有食品添加物の摂取による卵白アルブミン特異的なアレルギー反応の誘導	若林あや子	
高橋 秀実	微生物学・免疫学講座	代表	科学研究費補助金基盤研究 (C)	膀胱癌に帯する BCG 注入療法作用機序の解明	高橋 秀実	
高橋 秀実	微生物学・免疫学講座	分担	科学研究費補助金特定領域研究	がんプロフェッショナル養成プログラム・癌治療高度専門家養成プログラム	大野喜久郎	東京医科歯科大学
高橋 秀実	微生物学・免疫学講座	分担	厚生労働省科研究費補助金	HIV 感染症における免疫応答の解析とその臨床応用に関する研究	岩本 愛吉	東京大学医科学研究所
高橋 秀実	微生物学・免疫学講座	分担	厚生労働省科研究費補助金	HIV 感染症の防止, AIDS 発症防止に関する免疫学的基礎研究	森 一泰	国立感染症研究所
稲垣 弘文, 山 葉子, 李 俊昭, 大塚 英姫, 勝又 聖夫	衛生学・公衆衛生学講座	代表分担	科学研究費補助金基盤研究 (C)	交替勤務者の睡眠習慣・インスリン抵抗性とメタボリック症候群に関する研究	川田 智之	
稲垣 弘文, 大塚 俊昭, 勝又 聖夫	衛生学・公衆衛生学講座	代表分担	喫煙科学研究財団	血管炎症指標, インスリン抵抗性, 抗動脈硬化指標と喫煙・勤務状況の相互関係	川田 智之	
川田 智之	衛生学・公衆衛生学講座	代表分担	科学研究費補助金基盤研究 (C)	カーバメイト系農薬による免疫毒性及びその機序	李 卿	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
李 卿	衛生学・公衆衛生学講座	分担	科学研究費補助金 特定領域研究	都市近郊におけるストレス緩和効果 (Stress-reducing qualities of urban green areas)	香川 隆英	森林総合研究所
平田 幸代, 川田 智之, 大塚 俊昭	衛生学・公衆衛生学講座	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	職業性ストレスによる心血管疾患発 症メカニズムの解明：マルチバイオマ ーカーを用いた検討	大塚 俊昭	
稲垣 弘文, 平田 幸代, 川田 智之, 平田 紀美子	衛生学・公衆衛生学講座	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ヒト血漿中グランザイム3は炎症反 応のマーカーとなるか	稲垣 弘文	
川田 智之, 稲垣 弘文, 平田 幸代, 平田 紀美子, 小林 麻衣子	衛生学・公衆衛生学講座	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	受動喫煙のストレス評価を唾液中カ テコロールアミン代謝物等で行う研究	勝又 聖夫	
勝又 聖夫, 稲垣 弘文, 平田 幸代, 平田 紀美子, 小林 麻衣子	衛生学・公衆衛生学講座	代表 分担	セテイ (株)	禁煙支援などの場でPOCTとして 用いられる唾液中コチニン測定の変 当性の検討	勝又 聖夫	
川田 智之, 五妻 良太, 稲垣 弘文, 平田 幸代	衛生学・公衆衛生学講座	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	女性・特に妊産婦に対するPOCTを 用いたインパクトのある継続的な禁 煙支援法の構築	平田 紀美子	
李 英姫	衛生学・公衆衛生学講座	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ディーゼル排気粒子による酸化スト レスのマウス肺線維症病態への寄与 に関する研究	李 英姫	
平川 慶子	法医学講座	分担	文部科学省私立大学 戦略的研究基盤形成 支援事業	環境と次世代健康科学：疾患原因解 明と予防に向けた先進的研究	武田 健	東京理科大学
平川 慶子	法医学講座	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	敗血症病態における画像を用いた生 体内熱エネルギー動態と生体内代謝 動態の可視化	佐藤 格夫	京都大学大学院医学研 究科初期診療・救急医 学分野
林田 真喜子	法医学講座	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	核磁気共鳴法を応用した敗血症重症 化早期診断の確立と新規治療ター ゲットの開拓	鈴木 崇生	京都大学大学院医学研 究科初期診療・救急医 学分野
			科学研究費補助金 基盤研究 (C)	QTOF質量分析装置を用いたベン ゾジアゼピン系薬物分析法の新展開	林田 真喜子	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
平川 慶子	法医学講座	代表	JST 研究成果展開 事業 研究成果展開 支援プロジェクト ファイブ (FS) ステ ータテ 探索タイプ	高磁場環境対応の高性能磁性薬液注入装置の開発	平川 慶子	
大野 曜吉, 平川 慶子	法医学講座	分担	JST 研究成果展開 事業 研究成果展開 支援プロジェクト ファイブ (FS) ステ ータテ 探索タイプ	脳脊髄液の核磁気共鳴 (NMR) 計測値を用いた「急性脳症および熱性痙攣の早期鑑別診断法」の開発	小池 薫	京都大学大学院医学研究科初期診療・救急医学分野
	医療管理学講座	主任	厚生労働省科研費補助金	病院内の連携構築に係る病院管理マネジメントに関する研究	長谷川敏彦	
	医療管理学講座	主任	厚生労働省科研費補助金	新たな概念に基づく超高齢社会の医療需給の研究	大島 伸一	独立行政法人国立長寿医療研究センター
	医療管理学講座	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	専門職間連携教育用シミュレーション型演習の開発に関する研究	秋山 健一	
	内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)・千葉北総病院循環器内科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	心筋梗塞地域連携クリニカルパスにおける2次予防戦略は心血管イベント抑制に有効か?	雪吹 周生	日本医科大学医学部
雪吹 周生, 清野 精彦, 大場 崇孝, 丸山 雅充, 高野 光紀, 阿部 純子, 村上 大介, 宗像 亮, 稲見 徹, 木股 伸恒	内科学講座 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門)・千葉北総病院循環器内科	分担	厚生労働省科研費補助金	遠隔モニタリングシステムによる慢性心不全在宅管理研究 HOMESH	雪吹 周生	日本医科大学医学部
三品 雅洋, 鈴木 正彦	内科学講座 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)・付属病院神経内科, 腎臓内科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	PETを用いたアデノシン受容体とパーキンソン病の不随意運動の関係についての研究	三品 雅洋	
山崎 峰雄, 水谷 俊雄	内科学講座 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)・付属病院神経内科, 腎臓内科	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	筋萎縮性側索硬化症の運動ニューロン死: リボソーム RNA 遺伝子転写と TDP-43	小柳 清光	信州大学医学部神経病学
須田 智	内科学講座 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)・付属病院神経内科, 腎臓内科	代表	私立大学等経常費補助金特別補助 平成24年度教員の海外派遣	脳虚血モデルに対する骨髄幹細胞治療	須田 智	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
藤森 俊二	内科学講座 (血液・消化器・内分泌代謝部門)・付属病院血液内科, 消化器内科, 内分泌代謝内科	主任分担	厚生労働省科研費補助金	原因不明消化管出血のリスク要因探索と治療指針作成のための疫学研究	坂本 長逸	
坂本 長逸, 岩切 勝彦	内科学講座 (血液・消化器・内分泌代謝部門)・付属病院血液内科, 消化器内科, 内分泌代謝内科	分担	厚生労働省科研費補助金	好酸球性食道炎/好酸球性胃腸炎の疾患概念確立と治療指針作成のための臨床研究	木下 芳一	鳥根大学医学部第二内科
坂本 長逸	内科学講座 (血液・消化器・内分泌代謝部門)・付属病院血液内科, 消化器内科, 内分泌代謝内科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	慢性胃炎進展とシクログロオキゲンナーゼ2遺伝子単塩基変異の役割	坂本 長逸	
坂本 長逸	内科学講座 (血液・消化器・内分泌代謝部門)・付属病院血液内科, 消化器内科, 内分泌代謝内科	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	MCP-1 を介した間葉系幹細胞による胃癌組織へのホーミング分子機構の解析	二神 生爾	
山口 博樹	内科学講座 (血液・消化器・内分泌代謝部門)・付属病院血液内科, 消化器内科, 内分泌代謝内科	分担	厚生労働省科研費補助金	細網異形成症の診断と治療に関する調査研究	野々山 恵章	防衛医科大学校 小児科学講座
山口 博樹	内科学講座 (血液・消化器・内分泌代謝部門)・付属病院血液内科, 消化器内科, 内分泌代謝内科	分担	厚生労働省科研費補助金	先天性角化不全症の效果的診断方法の確立と治療ガイドラインの作成に関する研究	小島 勢二	名古屋大学大学院医学研究科小児科
山口 博樹	内科学講座 (血液・消化器・内分泌代謝部門)・付属病院血液内科, 消化器内科, 内分泌代謝内科	分担	厚生労働省科研費補助金	稀少小児遺伝性血液疾患の迅速な原因究明及び診断・治療法の開発に関する研究	小島 勢二	名古屋大学大学院医学系小児科
山口 博樹	内科学講座 (血液・消化器・内分泌代謝部門)・付属病院血液内科, 消化器内科, 内分泌代謝内科	分担	厚生労働省科研費補助金	再発等の難治性造血器腫瘍に対する同種造血幹細胞移植を用いた効果的治療法確立に関する研究	山下 卓也	国立がん研究センター中央病院造血幹細胞移植科
山口 博樹	内科学講座 (血液・消化器・内分泌代謝部門)・付属病院血液内科, 消化器内科, 内分泌代謝内科	分担	がん研究機関費	成人難治性造血器腫瘍に対する同種造血幹細胞移植療法の治療成績向上につながる基盤整備のための多施設共同研究	福田 隆浩	国立がん研究センター中央病院造血幹細胞移植科
	内科学講座 (血液・消化器・内分泌代謝部門)・付属病院血液内科, 消化器内科, 内分泌代謝内科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	酸化ストレス応答とリン脂質酸化変性の意義—単球/マクロファージ接着亢進機序の解明	及川 真一	日本医科大学

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
檀 和夫、 山口 博樹	内科学講座 (血液・消化器・ 内分泌代謝部門)・付属病院 血液内科, 消化器内科, 内分 泌代謝内科	分担	厚生労働省科研費補助 助金	骨髄不全症のテロメア制御遺伝子お よびその他の遺伝子変異の検討	黒川 峰夫	東京大学大学院医学系 研究科 血液・腫瘍内 科学
及川 真一	内科学講座 (血液・消化器・ 内分泌代謝部門)・付属病院 血液内科, 消化器内科, 内分 泌代謝内科	分担	厚生労働省科研費補助 助金	日本人2型糖尿病患者における生活 習慣介入の長期予後効果並びに死亡 率とその危険因子に関する前向き研 究 (JDCS)	曾根 博仁	筑波大学
及川 真一	内科学講座 (血液・消化器・ 内分泌代謝部門)・付属病院 血液内科, 消化器内科, 内分 泌代謝内科	分担	厚生労働省科研費補助 助金	原発性高脂血症に関する調査研究	石橋 俊	自治医科大学
弦間 昭彦、 峯岸 裕司	内科学講座 (呼吸器・感染・ 腫瘍部門)・付属病院呼吸器 内科, 化学療法科	代表 分担	科学研究費補助助金 基盤研究 (C)	肺癌に対するマイクロRNAを用い た薬剤感受性予測と治療法の開発	清家 正博	
清家 正博	内科学講座 (呼吸器・感染・ 腫瘍部門)・付属病院呼吸器 内科, 化学療法科	代表 分担	科学研究費補助助金 基盤研究 (C)	シグナル情報解析を用いた肺癌分子 標的治療感受性予測法の開発とイ メージング	弦間 昭彦	
木田 厚瑞、 茂木 孝、 石井 健男、 服部久弥子	内科学講座 (呼吸器・感染・ 腫瘍部門)・付属病院呼吸器 内科, 化学療法科	分担	保険医療分野におけ る基盤研究推進事業	慢性閉塞性肺疾患 (COPD) の増悪 に対するグリコサミンogリカンを用 いた新規治療法の開発	谷口 直之	大阪大学産業科学研究 所疾患糖鎖学 (生化学 工業) 寄附研究部門
石井 健男	内科学講座 (呼吸器・感染・ 腫瘍部門)・付属病院呼吸器 内科, 化学療法科	代表 分担	科学研究費補助助金 基盤研究 (C)	喫煙関連呼吸器疾患へのニコチン受 容体遺伝子多型の関与の検討	木田 厚瑞	
弦間 昭彦	内科学講座 (呼吸器・感染・ 腫瘍部門)・付属病院呼吸器 内科, 化学療法科	代表	科学研究費補助助金 基盤研究 (C)	慢性閉塞性肺疾患の診療における医 療の質を保証するためのシステム構 築に関する研究	茂木 孝	
弦間 昭彦	内科学講座 (呼吸器・感染・ 腫瘍部門)・付属病院呼吸器 内科, 化学療法科	分担	厚生労働省科研費補助 助金	がん検診に有用な腫瘍マーカーの開 発	山田 哲司	国立がん研究センター
弦間 昭彦	内科学講座 (呼吸器・感染・ 腫瘍部門)・付属病院呼吸器 内科, 化学療法科	分担	厚生労働省科研費補助 助金	バイオマーカーに基づいた肺癌個別 化治療における分子標的治療薬の至 適治療法を検証するランダム化第 III相試験	井上 彰	東北大学
勝俣 範之	内科学講座 (呼吸器・感染・ 腫瘍部門)・付属病院呼吸器 内科, 化学療法科	分担	厚生労働省科研費補助 助金	進行卵巣・腹膜癌に対する腹腔内化 学療法確立のための研究	藤原 恵一	埼玉医科大学国際医療 センター 婦人科腫瘍 科
勝俣 範之	内科学講座 (呼吸器・感染・ 腫瘍部門)・付属病院呼吸器 内科, 化学療法科	分担	がん研究開発費	支持療法の開発と標準化のための研 究	久保 田馨	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
勝俣 範之	内科学講座(呼吸器・感染・腫瘍部門)・付属病院呼吸器内科, 化学療法科	分担	がん研究開発費	高感受性悪性腫瘍に対する標準治療確立のための多施設共同研究	飛内 賢正	国立がん研究センター中央病院
木下 平	内科学講座(呼吸器・感染・腫瘍部門)・付属病院呼吸器内科, 化学療法科	主任	厚生労働省科研費補助金	進行卵巣がんに対する分子標的薬の国際共同・医師主導治験	勝俣 範之	
清家 正博	内科学講座(呼吸器・感染・腫瘍部門)・付属病院呼吸器内科, 化学療法科	分担	独立行政法人国立がん研究センターが	拠点病院の日常診療データベースから新しい臨床仮説を創出するための研究	久保 田馨	
弦間 昭彦	内科学講座(呼吸器・感染・腫瘍部門)・付属病院呼吸器内科, 化学療法科	代表	独立行政法人国立がん研究センターが	支持療法の開発と標準化のための研究	久保 田馨	日本医科大学付属病院
笠野 周	精神医学講座(呼吸器・感染・腫瘍部門)・付属病院呼吸器内科, 化学療法科	分担	私立大学教育研究高度化推進特別補助	肺癌における特異的 microRNA の機能に関する研究	瀧澤 俊広	解剖学 (分子解剖学)
笠野 周	精神医学講座(呼吸器・感染・腫瘍部門)・付属病院呼吸器内科, 化学療法科	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	肺癌における siRNA を用いた新規治療法の開発	瀧澤 俊広	解剖学 (分子解剖学)
笠野 周	精神医学講座(呼吸器・感染・腫瘍部門)・付属病院呼吸器内科, 化学療法科	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	うつ病薬物療法の最適化の為に画像等検査バッテリーの確立とその有効性の前方視的研究	八幡 憲明	
笠野 周	精神医学講座(呼吸器・感染・腫瘍部門)・付属病院呼吸器内科, 化学療法科	分担	厚生労働省科研費補助金	課題名精神療法の有効性の確立と普及に関する研究	大野 裕	
笠野 周	精神医学講座(呼吸器・感染・腫瘍部門)・付属病院呼吸器内科, 化学療法科	分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	歯科恐怖における脳神経メカニズムと精神的アプローチの効果に関する脳機能画像研究	荻部 洋行	
伊藤 滋朗	精神医学講座(呼吸器・感染・腫瘍部門)・付属病院呼吸器内科, 化学療法科	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	神経メラニン MRI を用いた難治性うつ病のドパミン, ノルアドレナリン機能評価研究	笠野 周	
伊藤 滋朗	精神医学講座(呼吸器・感染・腫瘍部門)・付属病院呼吸器内科, 化学療法科	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	HIV 陽性者に関する神経機能画像研究	伊藤 滋朗	日本医科大学・医学部・助教
大久保善朗	精神医学講座(呼吸器・感染・腫瘍部門)・付属病院呼吸器内科, 化学療法科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	アミロイド分子イメージングによる中高年うつ病のアルツハイマー病前駆病変の検出	大久保善朗	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
大久保善朗	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	代表	科学研究費補助金 萌芽研究	サブスタンスP受容体を標的とした新規アルコール依存症治療薬の探索と脳機能画像による有効性評価	大久保善朗	
大久保善朗	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	主任	厚生労働省科研費補助金	精神疾患の病態診断と治療評価のためのイメージングバイオマーカーの開発と臨床応用	大久保善朗	
大久保善朗	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	分担	独立行政法人科学技術振興機構ライイフサイエンス統合推進事業	ヒト脳疾患画像データベース統合化研究	岩坪 威	
大久保善朗	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	分担	厚生労働省科研費補助金	自殺対策のための複合的介入法の開発研究	山田 光彦	
紺野 周、 肥田 道彦、 小川由美子	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	代表 分担	平成23年度スポーツ振興くじ助成事業	中枢神経作用薬の高次脳機能に対する効果および薬物動態を同定するための脳機能画像を用いた新しいトーピング検査技術の研究開発	大久保善朗	
伊藤 敬雄	精神医学講座・付属病院精神神経科・武蔵小杉病院精神科・千葉北総病院メンタルヘルス科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	自殺予防策のための効果的な医学教育法の開発	伊藤 敬雄	日本医科大学精神医学 教室
前田 美穂、 高弘 潤、 植田 早川	小児科学講座・付属病院小児科・武蔵小杉病院周産期・小児医療センター(小児科、小児医療センター(小児科)、小児外科、新生児科)・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	代表 分担	平成23年度財団法人がんの子供を守る会治療研究助成金	小児がん経験者の認知機能晚期合併症のアセスメントと支援に関する研究	吉野 美緒	
吉野 美緒	小児科学講座・付属病院小児科・武蔵小杉病院周産期・小児医療センター(小児科、小児外科、新生児科)・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	分担	厚生労働省科研費補助金	脳死下・心肺停止下臓器幹旋のコーディネートに関する研究	重村 朋子	学生相談室
	放射線医学講座・付属病院放射線科、放射線治療科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(B)	難治性癌がんに対する革新的陸灌流療法の開発と臨床応用に関する研究	村田 智	
	皮膚科学講座・付属病院皮膚科	主任	厚生労働省科研費補助金	悪性黒色腫形成・増殖に関わるシグナルの同定、特に紫外線誘発黒色腫形成機序の解明	船坂 陽子	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
秋山美知子	皮膚科学講座・付属病院皮膚科	代表分担	株式会社リハバネス	幹細胞マーカー <i>nestin</i> を標的とした悪性黒色腫の新規治療法開発に向けた研究	内藤 善哉	病理学講座 (統御機構・腫瘍学)
平方 敦史	外科学講座 (消化器・一般・乳腺・移植部門)・多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	大動物モデルによる脾島移植免疫学的特異性に基ついた非侵襲的免疫寛容誘導法の確立	平方 敦史	日本医科大学医学部
吉田 寛	外科学講座 (消化器・一般・乳腺・移植部門)・多摩永山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科	分担	厚生労働省省科研究費補助金	門脈血行異常症に関する調査研究	森安 史典	東京医科大学消化器内科
吉田 大蔵	脳神経外科科学講座・付属病院脳神経外科	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	下垂体腺腫における miRNA 発現と mRNA の制御に関する研究	寺本 明	
吉田 大蔵	脳神経外科科学講座・付属病院脳神経外科	代表分担	科学研究費補助金 萌芽研究	下垂体腺腫における miRNA の機能解析	寺本 明	
喜多村孝幸	脳神経外科科学講座・付属病院脳神経外科	代表分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	下垂体腺腫の増殖における SDF-1 の役割に関する分子形態学的研究	吉田 大蔵	
	脳神経外科科学講座・付属病院脳神経外科	代表分担	障害者対策総合研究事業	脳脊髄液減少の診断・治療法の確立に関する研究	嘉山 孝正	独立行政法人国立がん研究センター中央病院研究センター
田原 重志	脳神経外科科学講座・付属病院脳神経外科	代表分担	公益財団法人内視鏡医学研究振興財団	精密ヒト鼻腔モデルを用いた経鼻的内視鏡下頭蓋底手術法の技術開発	健一 大山	武蔵小杉病院脳神経外科
太組 一朗	脳神経外科科学講座・武蔵小杉病院脳神経外科	主任分担	厚生労働省科研究費補助金	プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究	水澤 英洋	東京医科歯科大学神経内科
太組 一朗	脳神経外科科学講座・武蔵小杉病院脳神経外科	主任分担	厚生労働省科研究費補助金	赤血球製剤を含めた血液製剤の病原不活性化法の開発と不活性化評価法の開発 (医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業)	岡田 義昭	国立感染症研究所第一室
福井 元文	整形外科科学講座・付属病院整形外科・武蔵小杉病院整形外科・多摩永山病院整形外科・千葉北総病院整形外科	代表分担	公益財団法人高橋産業経済研究財団	腰痛におけるリスクファクターの検討と予防対策に関する調査研究	宮本 雅史	
渡辺美千明	産婦人科科学講座・千葉北総病院女性診療科・産科	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ラジオ波温熱刺激を用いた変形性関節症の疼痛抑制効果に関する研究	高橋 謙治	
		代表	日本医科大学産婦人科教室同窓会	子宮筋腫に起因する諸症状に対する腹腔鏡補助下手術の有用性についての検討	渡辺美千明	



研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ポテンシャルドナーを増やすための補助検査を用いた脳死判定に関する研究	横田 裕行	
	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	主任	厚生労働省科研費補助金	円滑な脳死下臓器提供に資するための科学的分析に関する研究	横田 裕行	
横田 裕行	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	分担	厚生労働省科研費補助金	循環器疾患等の救命率向上に資する効果的な救急蘇生法の普及啓発に関する研究	丸川征四郎	医療法人医誠会医誠会病院
横田 裕行	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	分担	厚生労働省科研費補助金	心肺停止患者に対する心肺補助装置等を用いた高度救命処置の効果と費用に関するエビデンスを構築するための多施設共同研究	坂本 哲也	帝京大学医学部救急医学講座
横田 裕行	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	分担	厚生労働省科研費補助金	救急医療体制の推進に関する研究	山本 保博	東京臨海病院
横田 裕行	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	分担	厚生労働省科研費補助金	改正法後の脳死下臓器提供におけるコーティネットに関する研究	小中 節子	社団法人日本臓器移植ネットワーク
横田 裕行	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	分担	厚生労働省科研費補助金	救急救命士の処置範囲に係る研究	野口 宏	藤田保健衛生大学医学部救急科
	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	代表	科学研究費補助金 萌芽研究	Microwave 照射による新しいびまん性脳損傷モデルの開発	布施 明	
布施 明	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	代表	日本財団助成金	多数傷病者事案への医療対応に関する有識者会議の開催	横田 裕行	
新井 正徳, 増野 智彦	救急医学講座・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	出血性ショック後臓器障害発生における軟部組織損傷の役割に関する研究	大泉 旭	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
布施 明、 増野 智彦、 横田 裕行	救急医学講座・付属病院高度 救命救急センター・武蔵小杉 病院救急センター・多摩 永山病院救急センター	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	脳代謝モニタリング・網羅的脳代謝 解析に基づく心肺停止蘇生後の病態 および治療の研究	恩田 秀賢	
横田 裕行	救急医学講座・付属病院高度 救命救急センター・武蔵小杉 病院救急センター・多摩 永山病院救急センター	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	シヨック後腸管リンパ液生理活性お よび臓器障害に対する腸管由来ア ミノ酸の関与	増野 智彦	
増野 智彦	救急医学講座・付属病院高度 救命救急センター・武蔵小杉 病院救急センター・多摩 永山病院救急センター	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	敗血症病態における MRI を用いた 生体内熱エネルギー、生体内代謝動 態の非侵襲的可視化	佐藤 格夫	京都大学初期診療・救 急医学分野
横田 裕行、 辻 厚子、 田中 俊尚、 福田 令雄	救急医学講座・付属病院高度 救命救急センター・武蔵小杉 病院救急センター・多摩 永山病院救急センター	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	Ang/Tie2 が関与する敗血症性臓器 障害発生病序解明とその制御法の確 立	和田 剛志	
横田 裕行、 辻 厚子、 田中 俊尚、 福田 令雄	救急医学講座・付属病院高度 救命救急センター・武蔵小杉 病院救急センター・多摩 永山病院救急センター	代表	福田記念医療技術振 興財団	救急医療診療録の電子化における音 声認識自動入力システムおよび携帯 情報端末導入による業務の効率化に 関する研究	増野 智彦	
本村 友一、 富永 茂、 阪本雄一、 松井 靖浩	救急医学講座・千葉北総病院 救命救急センター	代表 分担	鉄道建設・運輸施設 整備支援機構	人体組織の衝撃耐性の解明と被害軽 減のための安全基準に関する研究； サステナブルモビリティの実現に向 けて	西本 哲也	日本大学工学部機械工 学科ハイオオメカニクス 研究室
渡邊 淳	付属病院付置施設等・付属病 院遺伝診療科	主任 分担	厚生労働省科研究費補 助金	エーラスダシ症候群（主に血管 型および新型）の実態把握および診 療指針の確立	古庄 知己	信州大学付属病院遺伝 子診療部
	付属病院付置施設等・付属病 院遺伝診療科	主任	厚生労働省科研究費補 助金	過剰運動＜hypermobility＞症候群 類縁疾患における病態解明	渡邊 淳	
	付属病院付置施設等・付属病 院病理部	代表	丸山記念研究助成金	薄層広視野脂包埋法による乳癌幹 細胞 Niche と乳腺正常幹細胞 Niche の微細構造比較	山本陽一朗	
	付属病院付置施設等・付属病 院病理部	代表	平成 23 年度若手研 究奨励賞	薄層広視野脂包埋法による乳癌幹 細胞の研究	山本陽一朗	
	付属病院付置施設等・ゲノム 先端医療部	代表	個人の遺伝情報に応 じた医療実用化プロ ジェクト (第 2 期)	先端医学研究に関する倫理的・法 的・社会的課題についての調査研究 (臨床応用を視野に入れたオプター メイド遺伝子医療の ELSI に関する 調査研究)	渡邊 淳	
	武蔵小杉病院付置施設等・武 蔵小杉病院消化器病センター	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	消化器癌のミトコンドリア DNA 変 異と抗癌剤耐性との関連を分子生物 学的に解明する	水谷 聡	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
千葉北総病院付施設等・千 葉北総病院リハビリテーショ ン科		代表	テルモ医学研究助成 一般	機能的電気刺激と経頭蓋直電流刺激併用のハイブリッドリハビリ	原 行弘	日本医科大学千葉北総 病院
上佐眞美子, 清水 正洋, 村上	老人病研究所・病理部門	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	cAbl チロシンキナーゼ抑制によるケロイドの新しい分子治療の確立と発症機序の解明	ガジガデモ ハマツド	
ガジガデモ ハマツド, 上佐眞美子	老人病研究所・病理部門	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	ケロイドにおける COL1A2 プロモーターの転写に関わる microRNA の発現調節	清水 一	
	老人病研究所・病理部門	代表	日本医科大学若手研 究奨励費	血管の口径サイズを決定する形態形成機構における LPP3 の役割と再生医療への応用	藤原 正和	
太田 成男, 上村 尚美, Wolf A, 西模貴代美, 一宮 治美, 横田 隆	老人病研究所・生化学部門	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (B)	新規水素発生素材の経口投与による水素分子の老年病と生活習慣病の予防効果	太田 成男	大学院医学研究科
上村 尚美, 太田 成男	老人病研究所・生化学部門	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	体内酸化ストレスの定量的評価システムを用いた水素分子による糖尿病改善効果の解析	上村 尚美	老人病研究所生化学部 門
西模貴代美	老人病研究所・生化学部門	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	酸化ストレス亢進マウスを用いた水素分子による認知症予防効果	西模貴代美	老人病研究所生化学部 門
太田 成男	老人病研究所・生化学部門	分担	厚生労働省科研費補 助金	ミトコンドリア病の診断と治療に関する調査研究	後藤 雄一	独立行政法人国立精 神・神経医療研究セン ター 神経研究所
上村 尚美, Wolf A, 西模貴代美, 一宮 治美, 鈴木 由香	老人病研究所・生化学部門	代表 分担	私立大学教育研究高 度化推進特別補助 金	臓器移植・虚血再還流障害モデルを用いた酸化ストレス検出法の開発とその応用	上村 尚美	老人病研究所生化学部 門
	老人病研究所・疫学部門	分担	農業・食品産業技術 総合研究機構生研七 センター	アミノ酸シグナルを利用した高品質食資源の開発技術の確立	高橋伸一郎	東京大学大学院農学生 命科学研究科応用動物 科学専攻
	老人病研究所・疫学部門	代表	科学研究費補助金 若手研究 (B)	タンパク質栄養状態の悪化による肝臓のインスリン活性増強機構の解明とその生理的意義	鈴木 由香	
木田 厚瑞, 茂木 健男, 石井 服部久弥子	呼吸ケアクリニック	分担	保険医療分野におけ る基盤研究推進事業 (独立行政法人 医薬 基盤研究所)	慢性閉塞性肺疾患 (COPD) の増悪に対するグリコサミノグリカンをを用いた新規治療法の開発	谷口 直之	大阪大学産業科学化学 所疾患糖鎖学 (生化学 工業) 寄附研究部門
石井 健男	呼吸ケアクリニック	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	喫煙関連呼吸器疾患へのニコチン受容体遺伝子多型の関与の検討	木田 厚瑞	

研究者	所属	代表 分担	補助・委託元	研究課題	代表研究者	代表研究者所属
茂木 孝	呼吸ケアクリニック	代表	科学研究費補助金 基盤研究 (C)	慢性閉塞性肺疾患の診療における医 療の質を保証するためのシステム構 築に関する研究	茂木 孝	

6) 平成23年度学術賞受賞一覧

受賞者	所属	受賞者区分	受賞学術賞名	受賞研究・論文	受賞団体	年	月
川口裕子	生化学・分子生物学講座 (代謝・栄養学)	個人	鈴木絃一メモリアル賞	種々のラット変異体XOR 酵素のNADH複合体X-線 構造と機能変化	日本生化学会	2011	9
藤田恵美子	病理学講座 (解肝人体 病理学)	個人	日本医科大学大学院研 究賞	Statin attenuates experi- mental anti-glomerular basement membrane glo- merulonephritis together with the augmentation of alternatively activated macrophages	日本医科大学大学院	2011	3
清水 章	病理学講座 (解肝人体 病理学)	個人	優秀演題賞	急性肝不全に伴う急性腎障 害 (AKI) の特徴	第54回日本腎臓学 会学術総会	2011	6
加藤活人	衛生学・公衆衛生学講 座	個人	第46回日本成人病(生 活習慣病)学会学術集 会一般演題優秀演題 会長賞	正常耐糖能者における5年 後の耐糖能悪化リスクの予 測: 75g糖負荷試験による 検討	日本成人病 (生活習 慣病) 学会	2012	3
真下啓子	法医学講座	個人	優秀論文賞	Ethanol Reduces Cellular Protein Content and Mito- chondrial Membrane Po- tential of Cultured Neona- tal Rat Cardiomyocytes: Microassays with Fluoro- metric and Spectrometric Plate Readers	日本アールコール・薬 物医学会	2011	10
Inami T	内科学講座 (循環器・ 肝臓・老年・総合病態 部門)・千葉北総病院 循環器内科	個人	研究発表表彰	Links between sleep ap- noea syndrome, coronary atherosclerotic burden and cardiac biomarkers in pa- tients with stable coronary artery disease	心不全陽圧治療研究 会	2012	2
玉井勇人	内科学講座 (血液・消 化器・内分泌代謝部 門)・付属病院血液内 科, 消化器内科, 内分泌 代謝内科	個人	平成23年度大学院最 優秀研究賞	IL24発現アデノウイルス 随伴ウイルス8型ベクター はMLL/AF4陽性急性リン パ性白血病モデルマウスに おいて腫瘍を特異的なメカ ニズムで効果的に抑制する		2011	3

受賞者	所属	受賞者区分	受賞学術賞名	受賞研究名・論文	受賞団体	年	月
玉井勇人	内科学講座（血液・消化器・内分泌代謝部門）、付属病院血液内科、消化器内科、内分泌代謝内科	個人	平成23年度日本医科大学賞「研究部門」	IL24発現アデノウイルス8型ベクターはMLL/AF4陽性急性リンパ性白血病モデルマウスにおいて腫瘍を特異的なメカニズムで効果的に抑制する		2011	3
玉井勇人	内科学講座（血液・消化器・内分泌代謝部門）、付属病院血液内科、消化器内科、内分泌代謝内科	個人	平成23年度日本医科大学同窓会賞	IL24発現アデノウイルス8型ベクターはMLL/AF4陽性急性リンパ性白血病モデルマウスにおいて腫瘍を特異的なメカニズムで効果的に抑制する		2011	5
玉井勇人	内科学講座（血液・消化器・内分泌代謝部門）、付属病院血液内科、消化器内科、内分泌代謝内科	個人	日本血液学会ヨーロッパ血液学賞	A single injection of AAV-8 vector expressing IL-24 efficiently suppresses tumor growth mediated by multiple anti-tumor mechanisms in MLL/AF4 positive ALL model mice		2011	10
船坂陽子	皮膚科学講座・付属病院皮膚科	個人	神戸大学医学部皮膚科同窓会学術賞	Metabotropic glutamate receptor subtype-1 is essential for in vivo growth of melanoma	神戸大学医学部皮膚科同窓会	2011	6
船坂陽子	皮膚科学講座・付属病院皮膚科	個人	抗加齢皮膚医学研究会ロート賞	紫外線による悪性黒色腫発症機序の解明	ロート製薬株式会社	2011	7
船坂陽子	皮膚科学講座・付属病院皮膚科	個人	平成24年度基礎部門奨励論文賞	メラノサイトの増殖および紫外線反応性に対する加齢の影響	財団法人博慈会老人病研究所	2012	2
高山良子	皮膚科学講座・付属病院皮膚科	個人	第3回「西日本皮膚科」雑誌賞	Porocarcinomaと病理学的に鑑別が問題となった皮膚原発上皮性悪性腫瘍の5症例	日本皮膚科学会西部支部	2011	11
牧野浩司、 萩原信敏、 吉田寛、 宮下正夫、 野村務、 勝田美和子、 横井公良、 内田英二	外科学講座（消化器・一般・乳腺・移植部門）、多摩水山病院消化器外科・乳腺外科・一般外科	個人	優秀演題	当科の食道鏡視下手術における術式の変遷と体位とデバイス使用の工夫	日本胸部外科学会定期学術集会（第64回）	2011	10
大山健一	脳神経外科学講座・武蔵小杉病院脳神経外科	個人	第15回神奈川脳神経外科手術研究会最優秀演題賞	腹側部頭蓋底病変に対する内視鏡下経蝶形骨洞手術の適応とセットアップ	神奈川脳神経外科手術手技研究会	2011	9

受賞者	所属	受賞者区分	受賞学術賞名	受賞研究名・論文	受賞団体	年	月
若下 哲, 橋口 宏, 南 和文, 高井信朗	整形外科講座・付属 病院整形外科・武蔵小 杉病院整形外科・多摩 永山病院整形外科・千 葉北総病院整形外科	グループ	第60回東日本整形災 害外科学会学術奨励賞	固有感覚訓練を行った腱板 断裂修復術後の運動正確性 に関する検討	第60回東日本整形 災害外科学会	2011	9
Taniguchi H, Kitahara Y, Oshima M, Akiba H, Yagita H, Azuma M, Hori J	眼科学講座・付属病院 眼科・武蔵小杉病院眼 科・多摩永山病院眼科	個人	ARVO International Travel Grant	Role of B7-H3/TLT-2 Pathway on Corneal Al- lograft Survival	ARVO	2010	5
Tomita M, Wang M, Taniguchi H, Takahashi H, Shimazaki J, Akiba H, Yagita H, Hori J	眼科学講座・付属病院 眼科・武蔵小杉病院眼 科・多摩永山病院眼科	個人	Cora Verhagen 2nd Prize	Tim-3/Galectin-9 Path- way-mediated Protection Of Corneal Endothelial Cells From Killing By Al- lo-reactive-T Cells	ARVO	2011	5
Terada M, Taniguchi H, Maruyama K, Abe R, Hori J	眼科学講座・付属病院 眼科・武蔵小杉病院眼 科・多摩永山病院眼科	個人	ARVO International Travel Grant	Inhibitory role of ICOS on corneal lymphangiogene- sis and involvement of Foxp3+CD4+T regulatory cells in secondary lym- phoid organs	ARVO	2011	5
田上 隆	救急医学講座・付属病 院高度救命救急セン ター・武蔵小杉病院救 急救命センター・多摩 永山病院救命救急セン ター	個人	2010年度日本集中治 療学会 最優秀論文賞 受賞	Validation of extravascular lung water measurement by single transpulmonary thermodilution: human au- topsy study	日本集中治療学会	2011	2
田上 隆	救急医学講座・付属病 院高度救命救急セン ター・武蔵小杉病院救 急救命センター・多摩 永山病院救命救急セン ター	個人	2011年度日本シヨッ ク学会会長賞	Post-cardiac arrest syn- dromeと血管透過性	日本シヨック学会	2011	5
千原直人	武蔵小杉病院付置施設 器病センター 等・武蔵小杉病院消化 器病センター	個人	優秀論文賞	Mitochondrial DNA Alter- ations in Colorectal Cancer Cell Lines	日本医科大学医学会	2011	9
Ogawa S, Hara Y, Obayashi S, Tsujiuchi K, Kawakatsu M	千葉北総病院付置施設 等・千葉北総病院リハ ビリテーショナル科	個人	Best Poster Award	The Effect of Therapeutic Electrical Stimulation on Movement Evoked Fields of Magnetoencephalogram	KOREA-JAPAN NeuroRehabilitation Conference	2012	3
Ueno O, Igota S, Tosa M, Egawa S, Shimizu H, Ghazizadeh M	老人病研究所・病理部 門	個人	第79回日本医科大学 医学会優秀演題表彰	Characterization of Wnt signaling pathway in ke- loid pathogenesis	日本医科大学医学会	2011	9

7) 平成 23 年度知的財産一覧 (特許権)

発明者	所属	発明の名称	出願番号 (出願日)	公開番号 (公開日)	特許番号 (登録日)	出願人
シヤムス・タブレス・ カーン, 原山重明, 高市 真一, 安形高志, 岡 律子, 川口しのぶ, 谷口直之, 木田厚瑞, 石井健男, 茂木 孝	自然科学・生物学 内科学講座 (呼吸器・ 感染・腫瘍部門)・付属 病院呼吸器内科, 化学 療法科	新規微生物, および新 規カロナイドの製造 方法 慢性閉塞性肺疾患増悪 感受性の検査法	2006-161867 (2006/06/12) 特願 2011-175356 (2011/08/10)	2007-330105 (2007/12/27)	4847799 (2011/10/21)	独立行政法人・製品評 価技術基盤機構, 学校 法人・日本医科大学 独立行政法人理化学研 究所, 学校法人日本医 科大学
Satoru Murata	放射線医学講座・付属 病院放射線科, 放射線 治療科	Intrapelvic perfusion therapy with cancer therapeutic agent and apparatus for intra- pelvic perfusion with cancer therapeutic agent	2005-071501 (2005/03/14)	WO2006/098422 (2006/09/21)	7914478	Tatsuo Kumazaki
太田成男・麻生定光・ 上村尚美	老人病研究所・生化学 部門	細胞死抑制活性化タ ンパク質 FNK を用い た脱毛の防止	2005-071501 (2005/03/14)	WO2006/098422 (2006/09/21)	4686780 (2011/2/25)	日本医科大学
安形高志, 岡 律子, 川口しのぶ, 谷口直之, 木田厚瑞, 石井健男, 茂木 孝	呼吸ケアクリニック	慢性閉塞性肺疾患増悪 感受性の検査法	特願 2011-175356 (2011/08/10)			独立行政法人理化学研 究所, 学校法人日本医 科大学

## 2. 動物実験実施状況

1) 平成23年度教室別動物実験実施予定者数および実験計画書(課題)数(平成23年4月～平成24年3月)

教室名	予定者数	受講者数	課題数	報告書	科名	予定者数	受講者数	課題数	報告書	科・部門・教室名	予定者数	受講者数	課題数	報告書
[基礎部門]														
分子解剖学	13	14	2	2	第一内科	5	8	2	1	[武蔵小杉病院]				
生体構造学	16	16	18	12	第二内科	13	11	10	9	形成外科				
システム生理学	13	10	7	4	第三内科	19	19	4	2	眼科	1	1	1	1
生体統御学	12	12	13	9	第四内科	12	12	7	2	耳鼻咽喉科				
構造生物学・代謝学	9	9	4	4	小児科	4	7	1	1	小児科	0	1	0	0
分子遺伝学・栄養学	21	20	3	3	皮膚科	7	8	2	2	小計	1	2	1	1
薬理学	24	19	8	8	麻酔科	30	22	7	2	[多摩永山病院]				
解析人体病理学	13	12	12	10	放射線科	5	7	1	0	小児科				
統御機構・腫瘍学	17	17	19	16	第一外科	3	4	1	1	高度救命救急センター	4	6	1	1
微生物学免疫学	22	18	14	11	第二外科	2	6	1	0	眼科	1	1	0	0
衛生学公衆衛生学	6	6	3	3	脳神経外科	3	3	0	0	小児科				
法医学	13	9	8	6	眼科	13	9	4	4	小計	5	7	1	1
形態解析共同研究施設	3	3	1	0	耳鼻咽喉科	2	2	1	0	[千葉北総病院]				
実験動物管理室	19	20	11	11	女性診療科産科	6	6	2	1	内科				
NMR研究施設	5	5	0	0	リウマチ科	2	2	1	0	眼科	4	0	0	0
小計	206	190	123	99	形成外科美容外科	28	17	7	7	形成外科				
実験予定者の合計	432				高度救命救急センター	8	8	4	4	小計	4	0	0	0
講習会受講者数の合計	402				ワクチン療法	1	0	0	0	[老人病研究所]				
課題数の合計	218				生命科学研究所	0	3	0	0	病理学	8	7	2	2
報告書数の合計	169				生命科学研究所	163	154	55	36	生化学	13	12	20	19
					生命科学研究所	0	0	0	0	免疫学	12	11	6	6
					小計	163	154	55	36	疫学	11	9	4	2
										動物舎	0	1	0	0
実験予定者の合計	432									小計	44	40	32	29
講習会受講者数の合計	402									[新丸子校舎]				
課題数の合計	218									生物学	4	4	3	3
報告書数の合計	169									スポーツ科学	5	5	3	0
										小計	9	9	6	3

### 使用動物数

動物種別	マウス	ラット	ウサギ	モルモット	シリアンハムスター	イス	ブタ	ウマ	サル	魚	カエル
使用数	8,865	5,207	22	22	40	0	0	20	3	0	753

2) 平成 23 年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別稼働率（稼働率を基に算出（％））

丸山記念研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
マウス・ ハムスター・ スナネズミ	SPF 動物飼育室	60.6	57.8	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.1
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	31.6	30.5	34.1	34.1	34.1	31.9	33.3	32.6	33.3	42.2	48.9	42.2	35.7
	P1A クリーン動物飼育室	23.0	23.0	26.2	28.1	28.7	29.1	26.6	26.6	30.3	26.4	25.0	29.7	26.9
ラット	SPF 動物飼育室	15.6	24.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3
	P1A クリーン動物飼育室	35.8	36.4	31.2	34.9	36.7	38.6	34.9	34.4	33.5	29.8	17.2	23.3	32.2
	クリーン動物飼育室	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	37.5	37.5	41.7	41.7	41.7	17.7
モルモット ウサギ イヌ・ブタ 魚	クリーン動物飼育室	13.3	13.3	13.3	13.3	13.3	13.3	13.3	13.3	6.7	3.3	0.0	0.0	9.7
	クリーン動物飼育室	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	魚	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

大学院研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
マウス・ ハムスター・ スナネズミ	SPF 動物飼育室	53.8	56.0	70.0	79.4	77.6	76.2	76.3	72.9	81.7	78.7	79.2	71.7	72.8
	P3A 感染動物飼育室	9.4	8.3	9.4	9.4	3.1	3.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	4.6
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	53.8	53.3	60.5	61.9	57.6	57.6	63.3	57.6	0.0	2.4	14.8	21.9	42.1
	P1A クリーン動物飼育室	70.5	76.7	61.0	57.1	55.2	57.6	62.9	58.1	0.0	8.1	18.6	40.5	47.2
ラット	SPF 動物飼育室	84.0	0.0	12.0	21.3	23.3	34.7	40.0	58.0	71.3	70.7	69.3	67.3	46.0
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	8.9	6.7	13.3	8.9	7.8	7.8	7.8	7.8	0.0	0.0	0.0	0.0	5.8
	P1A クリーン動物飼育室	16.4	51.9	53.3	45.6	53.1	60.3	55.3	47.5	0.0	11.1	25.0	29.2	37.4
ウサギ・モルモット	P1A クリーン動物飼育室	0.0	2.0	13.0	7.0	3.0	10.0	10.0	8.0	0.0	0.0	5.0	3.0	5.1

3) 平成 23 年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別搬入数

丸山記念研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
マウス	SPF 動物飼育室	339	171	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	510
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	2	16	2	0	5	6	15	0	19	20	9	11	105
	P1A クリーン動物飼育室	121	151	151	165	198	352	165	116	106	83	111	276	1,995
ハムスター	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	0	0	0	0	0	20	0	0	20	0	0	0	40
ラット	SPF 動物飼育室	16	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	26
	P1A クリーン動物飼育室	63	116	266	255	275	224	167	131	151	241	118	70	2,077
モルモット		0	0	0	0	0	11	0	0	0	7	0	0	18
ウサギ		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
イヌ	クリーン動物飼育室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アタ		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
魚		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

大学院研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
マウス	SPF 動物飼育室	187	697	518	355	471	714	393	519	455	576	402	468	5,755
	P3A 感染動物飼育室	0	8	9	17	0	0	0	0	0	0	0	0	34
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	33	89	67	43	63	92	33	49	0	64	52	52	637
	P1A クリーン動物飼育室	66	52	171	111	78	157	162	63	0	81	94	294	1,329
ラット	SPF 動物飼育室	6	47	28	99	21	50	75	149	58	112	78	120	843
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	7	6	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	16
	P1A クリーン動物飼育室	448	118	84	172	174	123	170	87	0	189	157	120	1,842
ウサギ	P1A クリーン動物飼育室	1	15	13	4	7	0	0	0	0	3	0	0	43
モルモット		2	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8

4) 平成 23 年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別搬出数

丸山記念研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
マウス	SPF 動物飼育室	356	701	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,061
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	1	11	5	1	19	4	17	4	13	11	13	27	126
	P1A クリーン動物飼育室	115	136	95	120	171	412	165	187	193	124	88	194	2,000
ハムスター	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	0	0	0	3	7	11	3	6	10	8	6	4	58
ラット	SPF 動物飼育室	0	39	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	39
	P1A クリーン動物飼育室	57	113	177	253	308	245	174	132	217	216	122	131	2,145
モルモット		0	0	0	0	0	5	1	6	0	0	0	0	12
ウサギ		0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	4
イヌ	クリーン動物飼育室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アタ		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
魚		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

大学院研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
マウス	SPF 動物飼育室	171	87	300	399	415	224	505	456	419	669	459	464	4,568
	P3A 感染動物飼育室	0	8	11	10	7	11	0	0	0	0	0	3	50
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	49	44	48	49	60	59	64	276	25	12	3	36	725
	P1A クリーン動物飼育室	130	99	131	101	133	72	172	251	194	13	52	150	1,498
ラット	SPF 動物飼育室	378	0	5	56	14	55	10	73	84	140	40	102	957
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	17	2	4	2	0	0	0	9	0	0	0	0	34
	P1A クリーン動物飼育室	87	86	86	218	133	183	142	516	33	58	101	108	1,751
ウサギ	P1A クリーン動物飼育室	1	9	13	2	3	1	0	5	0	0	0	2	36
モルモット		1	3	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	8

5) 平成 23 年度千駄木地区実験動物飼育施設動物種別飼育室別延べ飼育数

丸山記念研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
マウス	SPF 動物飼育室	10,249	16,105	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	26,378
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	3,419	3,591	3,552	3,599	3,491	3,213	3,407	3,303	2,755	5,106	4,186	4,176	43,798
	P1A クリーン動物飼育室	13,364	14,313	15,440	17,317	17,519	15,999	16,908	16,364	14,165	19,754	15,029	18,065	194,237
ハムスター	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	600	620	600	602	452	501	568	373	486	599	247	87	5,735
ラット	SPF 動物飼育室	694	961	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,655
	P1A クリーン動物飼育室	2,945	3,875	4,910	5,864	5,409	4,378	4,376	4,630	3,208	4,223	2,837	2,920	49,575
モルモット		0	0	0	0	0	116	282	181	75	265	290	310	1,519
ウサギ		120	124	120	124	124	120	120	120	62	23	0	0	1,057
イヌ	クリーン動物飼育室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アタ		0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	3	7
魚		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

大学院研究棟

動物種	飼育室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
マウス	SPF 動物飼育室	15,509	17,781	37,794	39,917	39,847	41,228	41,476	40,249	35,571	49,146	36,862	38,077	433,457
	P3A 感染動物飼育室	510	481	494	548	472	417	124	120	100	148	115	54	3,583
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	6,457	7,183	8,075	7,778	7,812	7,485	8,485	6,222	6,222	0	1,009	2,417	3,533
	P1A クリーン動物飼育室	11,189	10,555	9,923	10,432	9,900	10,831	12,462	10,014	0	1,601	2,322	6,300	95,529
ラット	SPF 動物飼育室	7,297	100	1,915	2,394	3,998	3,846	4,336	7,496	6,669	9,253	7,903	8,814	64,021
	P2A 遺伝子組み換え動物飼育室	190	270	314	270	279	270	279	195	0	0	0	0	2,067
	P1A クリーン動物飼育室	7,134	15,570	15,856	14,422	14,787	14,770	14,987	8,884	0	2,474	4,890	7,224	120,998
ウサギ	P1A クリーン動物飼育室	6	52	134	102	160	171	155	130	0	42	87	55	1,094
モルモット		7	28	38	0	0	0	0	0	0	0	0	0	73

## あ と が き

世界のバイオロジーの進歩は加速度を増している中、日本発の医学論文が減少していることは多く議論されているところであります。本業績年報（2011年度）においても、論文数が2005年度以降最低となっており、同様の傾向にあると言えます。全国的な流れには、医療崩壊といわれる医療現場の厳しい状況、研修医制度導入の影響もあるでしょう。これは、基礎医学教室入局者の減少、臨床教室における「研究する余力」の減退をもたらしました。しかし、本学は首都東京という恵まれた環境にあり、上記の影響は比較的少ない環境といえ、むしろ、わが国の医学研究を底支えする立場にあるとも言えます。確かに、研修病院で医療技術の習得をまず目指すため、研修医の医学研究への興味は衰退しております。これは、国外留学者の減少の一因ともなっています。この連鎖を断ち、若者に研究の醍醐味を感じてもらう環境作りの使命が本学教員にはあると思われまます。

幸いにも、科学研究費補助金の採択件数は2011年度の149件から、2012年度には176件に増加しました。研究委員会としても若手研究者を中心に様々な研究支援活動を検討し実施しており、その研究支援を受けた若手研究者の申請採択のニュースも多く聞かれました。今後も一層の支援をしなくてはならないと考えています。しかし、この獲得の原動力となるのはやはり発表論文であり、この獲得研究費を背景にして、この業績年報の内容が充実することを念じて止みません。是非、大学の研究活動を発展させていきたいものであります。

最後に、本年度もウェブ上のデータベース作成にあたりご協力いただいた情報科学センター各位、そして編集にご尽力いただいた大学院課担当各位に対し、感謝申し上げます。

平成 24 年 12 月

研究委員会委員長 弦間 昭彦

平成25年 3 月 19 日 印 刷

平成25年 3 月 27 日 発 行

発 行 日 本 医 科 大 学  
研 究 委 員 会

〒113-8602 東京都文京区千駄木1-1-5

TEL 03 (3822) 2 1 3 1

印 刷 株 式 会 社 杏 林 舎

〒114-0024 東京都北区西ヶ原3-46-10

TEL 03 (3910) 4 3 1 1-5

